

2025年度 学部シラバス

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例)

Ctrl

キーを押しながら

F

キーを押す

ナンバリング	FSS001N		
科目名	ソルフェージュⅠ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ソルフェージュは音楽家として自立するための基礎訓練である。音楽をさまざまな視点から捉え、正確に聴き、読み、生き活きと表現し、音楽的教養を高める。さらにそれらを統合することにより自らの演奏・創作・研究・教育などの場に生かすことが目標である。

◆授業内容・計画◆

内容についての概要は学生便覧別冊「共通科目 ソルフェージュⅠ～Ⅳ」を参照のこと。

第1セメスターでは基本の確認と習熟に重点が置かれる。
また能力別クラス編成により、学生のレベルに応じた授業が行われる。

- 1) ピアノによる旋律聴音(記憶／筆記)
- 2) ピアノによる多声聴音
- 3) ピアノによる和声聴音
- 4) ピアノ以外の楽器による旋律聴音
- 5) 各音部記号による読譜
- 6) 伴奏なし新曲視唱
- 7) 伴奏つき新曲視唱
- 8) 重唱
- 9) リズム読み
- 10) リズム打ち
- 11) リズム・アンサンブル
- 12) 実作品による総合課題
- 13) ソルフェージュ課題及び実作品に関する楽典的内容と音楽史的教養
- 14) 合同授業(リトミック)
- 15) クラス内試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

1. 授業で取り上げた実作品については、全曲自主学習を行う。
2. 定期演奏会や公開レッスン等に積極的に出席し、自分の専修以外の楽器や編成の楽曲にも広く興味を持つ。
3. テキストの課題を自習する。
4. 自分の専門分野における学修時間にもソルフェージュで学修した内容を応用するよう意識する。

◆成績評価の方法◆

クラス内試験＋平常点。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

- ・五線紙必携。
- ・クラス内試験の内容については授業内で示される。
- ・指定されたクラスからの移動は、やむを得ない事情がある場合のみ、担当教員とソルフェージュ担当常勤教員に相談の上行うことがある。学生からの申し出には原則対応しない。

ナンバリング	FSS002N		
科目名	ソルフェージュⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ソルフェージュは音楽家として自立するための基礎訓練である。音楽をさまざまな視点から捉え、正確に聴き、読み、生き活きと表現し、音楽的教養を高める。さらにそれらを統合することにより自らの演奏・創作・研究・教育などの場に生かすことが目標である。

◆授業内容・計画◆

内容についての概要は学生便覧別冊「共通科目 ソルフェージュⅠ～Ⅳ」を参考のこと。

第2セメスターでは原則クラス替えを行わないため、第1セメスターの継続としてより難易度の高い内容に進む。

- 1) ピアノによる旋律聴音(記憶／筆記)
- 2) ピアノによる多声聴音
- 3) ピアノによる和声聴音
- 4) ピアノ以外の楽器による旋律聴音
- 5) 誤奏指摘
- 6) 各音部記号による読譜
- 7) 伴奏なし新曲視唱
- 8) 伴奏つき新曲視唱
- 9) 重唱
- 10) リズム読み
- 11) リズム打ち
- 12) リズム・アンサンブル
- 13) 実作品による総合課題
- 14) ソルフェージュ課題及び実作品に関する楽典的内容と音楽史的教養
- 15) クラス内試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

1. 授業で取り上げた実作品については、全曲自主学習を行うこと。又、同じ作曲家の他の作品も聴いてみる。
2. 自分の専修以外の楽器や編成の楽曲にも広く興味を持ち、楽譜を読み、聴く。
3. テキストの課題を自習する。
4. 自分の専門分野における学修時間にもソルフェージュで学修した内容を応用するように意識する。

◆成績評価の方法◆

期末統一試験＋クラス内評価。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

統一試験では学年全員の中での到達度をはかり、クラス内評価では担当教員が重点的に取り組んだ内容について評価する。

統一試験内容については、試験日1ヶ月前を目処に発表する。

2024年度の統一試験内容(参考)

- ・ピアノによる旋律記憶聴音、和声聴音
- ・チェロとピアノの編成による聴音＋楽典
- ・リズム課題

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)

『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)

『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)

『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

- ・五線紙必携
- ・指定されたクラスからの移動は、やむをえない事情がある場合のみ、担当教員とソルフェージュ担当常勤教員に相談の上行うことがある。学生からの申し出には原則対応しない。
- ・クラス内試験の内容については授業内で示される。
- ・第2セメスター統一試験の結果により、ソルフェージュⅢ のクラス分けを行う。
- ・ソルフェージュⅢにはオーディション選抜の応用5クラスがある。目指す学生は掲示されているオーディション内容を確認し、準備すること。

ナンバリング	FSS003N		
科目名	ソルフェージュⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ソルフェージュは音楽家として自立するための基礎訓練である。音楽をさまざまな視点から捉え、正確に聴き、読み、生き活きと表現し、音楽的教養を高める。さらにそれらを統合することにより自らの演奏・創作・研究・教育などの場に生かすことが目標である。

◆授業内容・計画◆

内容についての概要は学生便覧別冊「共通科目 ソルフェージュⅠ～Ⅳ」を参照のこと。

第3セメスターからは、5グレードからなるクラス編制となる。
実作品を題材とする機会が増え、より日ごろの音楽活動に直結する内容となる。

- 1) ピアノによる旋律聴音(記憶／筆記)
- 2) ピアノによる多声聴音
- 3) ピアノによる和声聴音
- 4) ピアノ以外の楽器によるさまざまな聴音
- 5) 誤奏指摘と形式の聴音
- 6) 各音部記号によるの読譜
- 7) 伴奏なし新曲視唱
- 8) 伴奏つき新曲視唱
- 9) 重唱
- 10) リズム読み
- 11) リズム打ち
- 12) リズム・アンサンブル
- 13) 実作品による総合課題
- 14) ソルフェージュ課題及び実作品に関する楽典的内容と音楽史的教養
- 15) クラス内試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

1. 担当教員により指示された課題の予習、復習。
2. テキストの課題の自習。
3. 専修ごとに重点的に取り組む内容が異なるため、各学生が得手を伸ばし、不得手を克服しながら、ソルフェージュで培った能力を専門に生かす意識を持つよう努力すること。

◆成績評価の方法◆

クラス内試験と平常点。随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

- ・五線紙必携。
- ・クラス内試験の内容については授業内で示される。
- ・指定されたクラスからの移動は、やむを得ない事情がある場合のみ、担当教員とソルフェージュ担当常勤教員に相談の上行うことがある。学生からの申し出には原則対応しない。
- ・3年次からのコース選択に、ソルフェージュの在籍クラスまたは成績が条件となる可能性があるため、コース募集要項で確認すること。

ナンバリング	FSS004N		
科目名	ソルフェージュⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ソルフェージュは音楽家として自立するための基礎訓練である。音楽をさまざまな視点から捉え、正確に聴き、読み、活き活きと表現し、音楽的教養を高める。さらにそれらを統合することにより自らの演奏・創作・研究・教育などの場に生かすことが目標である。

◆授業内容・計画◆

内容についての概要は学生便覧別冊「共通科目 ソルフェージュⅠ～Ⅳ」を参照のこと。

第4セメスターでは、必修ソルフェージュのまとめとして、実作品を多角的に捉え、学生一人ひとりの能力をできる限り高いレベルまで引き上げることに重点をおく。
さらに様々な観点から学修したことを統合し、各自の専門に生かす。

- 1) ピアノによる旋律聴音（記憶／筆記）
- 2) ピアノによる多声聴音
- 3) ピアノによる和声聴音
- 4) ピアノ以外の楽器によるさまざまな聴音
- 5) 誤奏指摘と形式の聴音
- 6) 7つの音部記号による読譜（高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表、テノール譜表、ソプラノ譜表、メゾソプラノ譜表、バリトン譜表）
- 7) 伴奏なし新曲視唱
- 8) 伴奏つき新曲視唱
- 9) 重唱
- 10) リズム読み
- 11) リズム打ち
- 12) リズム・アンサンブル
- 13) 実作品による総合課題
- 14) ソルフェージュ課題及び実作品に関する楽典的内容と音楽史的教養
- 15) クラス内試験とまとめ

その他適宜各教員が必要と考える内容を付加する。

◆準備学習の内容◆

- 1.担当教員により指示された課題の予習、復習。
- 2.テキストの課題の自習。
- 3.専修ごとに重点的に取り組む内容が異なるため、各学生が得手を伸ばし、不得手を克服しながら、ソルフェージュで培った能力を専門に生かす意識を持つよう努力すること。

◆成績評価の方法◆

期末統一試験＋クラス内評価。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。
統一試験では学年全員の中での到達度をはかり、クラス内評価では担当教員が重点的に取り組んだ内容について評価する。
統一試験内容については、試験日1ヶ月前を目処に発表する。
2024年度の統一試験内容(参考)
・ピアノによる旋律記憶聴音、和声聴音
・木管三重奏の編成による聴音＋楽典
・リズム課題

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

- ・五線紙必携
- ・クラス内試験の内容については授業内で示される。
- ・指定されたクラスからの移動は、やむを得ない事情がある場合のみ、担当教員とソルフェージュ担当常勤教員に相談の上行うことがある。学生からの申し出には原則対応しない。
- ・3年次からのコース選択に、ソルフェージュの在籍クラスまたは成績が条件となる可能性があるため、コース募集要項で確認すること。
- ・3年次以降も選択ソルフェージュのクラスが複数開講されているので学修を継続してほしい。

ナンバリング			
科目名	ハーモニーⅠ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

- 1.和音に関する基礎用語と四声体書法の基本について理解する
- 2.和音進行の基礎概念を理解する(終止、カデンツなど)

- (以下の2群について理解する)
- 【和音分析の基礎知識】
- 3.様々な和音記号と非和声音
 - 4.転回形を伴う和音進行(四六の和音など)
 - 5.属七の和音と副七の和音
 - 6.保続音と偶成和音
 - 7.過去の名曲における様々な和音進行
- 【四声体書法】
- 8.三和音(1)基本形における上三声の配分
 - 9.三和音(2)上三声における共通音を伴った連結と伴わない連結
 - 10.限定進行音を含む連結
 - 11.慣習的な連結(V→Ⅵなど)
- 12.合同授業(レクチャーコンサート形式)
 - 13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として
 - 14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
 - 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員により、教科書が異なります。
各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。
売店販売での指定教科書一覧に指定が無い教員については、初回授業で確認してください。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。
ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)
ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳ)の履修者は免除されます。

ナンバリング	FSS005N		
科目名	ハーモニーⅠ（初級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4 セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

- 1.概論(1)ハーモニーの果たす「役割」を知る
- 2.概論(2)過去の名曲における様々な和音進行からハーモニーへの理解を深める

(以下の2群について理解する)

【楽典】

- 3.音程と調号
- 4.和音記号(1)各調における固有和音
- 5.和音記号(2)様々な和音
- 6.和音記号(3)転回形と高位
- 7.調の判定と移調
- 【和音分析の基礎知識】
- 8.和音進行の基礎概念(終止、カデンツなど)
- 9.各種の非和声音
- 10.非和声音を伴わない和音分析(三和音を中心に)
- 11.非和声音を伴う和音分析(三和音を中心に)
- 12.転回形を伴う和音進行(四六の和音など)
- 13.属七の和音

- 14.合同授業(レクチャーコンサート形式)
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員により、教科書が異なります。
各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。
売店販売での指定教科書一覧に指定が無い教員については、初回授業で確認してください。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。
ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)
ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳ)の履修者は免除されます。

ナンバリング	FSS007N		
科目名	ハーモニーⅠ（上級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4 セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

1.和音進行の基礎概念について確認／復習を行う。(終止、カデンツなど)

(以下の2群について理解する)

【和音分析】

2.様々な和音記号と非和声音

3.属七の和音、副属七の和音

4.属九の和音、副属九の和音と準固有和音

5.過去の名曲における転調

【四声体書法】

6.転回形を含む三和音、属七の和音によるバス課題

7.副属七の和音を含むバス課題

8.属九の和音、副属九の和音を含むバス課題

9.準固有和音を含むバス課題

10.転調を含むバス課題とソプラノ課題 その1

11.ソプラノ課題 その2

12.合同授業(レクチャーコンサート形式)

13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として

14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として

15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。その他、授業内で随時行う小テストや提出物で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用せず、プリントを配布します。

◆参考図書◆

図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)

●「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)

●「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。

ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性がある。(「コース募集要項」で確認のこと)

ハーモニーⅠ～Ⅳは音楽文化デザイン学科・音楽理論コア(和声Ⅰ)の履修者は免除される。

ナンバリング			
科目名	ハーモニーⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

1.前期の復習

- (以下の2群について理解する)
- 【和音分析】
- 転調／転旋の基本理論
 - 過去の名曲における典型的転調
 - 副属七の和音(1)挿入和音的用法
 - 副属七の和音(2)代理和音的用法
 - 過去の名曲における様々な和音進行
- 【四声体書法】
- 三和音(1)転回形を含む上三声の配分
 - 三和音(2)転回形を含む上三声の連結
 - 四和音の配分と連結(限定進行音)
 - 三和音、四和音混合の和音設定と連結
 - 慣習的な連結(不完全形を用いる連結、など)
- 合同授業(レクチャーコンサート形式)
 - 総合的な力を高める(1)転調を含む和音分析を中心として
 - 総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
 - まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物で評価する、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。
ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)
ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳの履修者)は免除されます。

ナンバリング	FSS008N		
科目名	ハーモニーⅡ（初級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学習することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用いられる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。

※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

- 1.前期の復習
- 2.四声体書法の基本的事項について理解する

- (以下の2群について理解する)
- 【和音分析の基礎知識】
- 3.属七の和音と副七の和音
 - 4.保続音と偶成和音
 - 5.転調と副属七の和音
- 【四声体書法】
- 6.三和音(1)基本形における上三声の配分
 - 7.三和音(2)上三声における共通音を伴った連結と伴わない連結
 - 8.三和音(3)転回形を含む上三声の配分と連結
 - 9.四和音の配分と連結(限定進行音)
 - 10.三和音、四和音混合の和音設定と連結
 - 11.慣習的な連結(V→Ⅵなど)
-
- 12.合同授業(レクチャーコンサート形式)
 - 13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として
 - 14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
 - 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。

また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。

ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)

ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳの履修者)は免除されます。

ナンバリング	FSS010N		
科目名	ハーモニーⅡ（上級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー（和音や和声）に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用いられる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。

※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧（別冊）の該当ページを必ず参照して下さい。

1.前期の復習

（以下の2群について理解する）

【和音分析】

- 2.過去の名曲における様々な借用和音（借用和音のまとめ）
- 3.過去の名曲における様々な転調
- 4.過去の名曲における様々な和音進行（バロック時代を中心に）
- 5.過去の名曲における様々な和音進行（古典派を中心に）
- 6.過去の名曲における様々な和音進行（ロマン派を中心に）

【四声体書法】

- 7.転調を含むソプラノ課題
- 8.非和声音ソプラノ課題 その1（前半）
- 9.非和声音ソプラノ課題 その2（後半）
- 10.転調を含む非和声音ソプラノ課題（前半）
- 11.転調を含む非和声音ソプラノ課題（後半）

12.合同授業（レクチャーコンサート形式）

- 13.総合的な力を高める（1）和音分析を中心として
- 14.総合的な力を高める（2）四声体書法を中心として
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。その他、授業内で随時行う小テストや提出物で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書（使用テキスト）◆

教科書は使用せず、プリントを配布します。

◆参考図書◆

図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。（クラスで指定されている場合は購入すること）
●「和声理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（3巻本）島岡譲他 音楽之友社（体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本）
●「総合和声」島岡譲他 音楽之友社（分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている）

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧（別冊）」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性がある。（「コース募集要項」で確認のこと）
ハーモニーⅠ～Ⅳは音楽文化デザイン学科・音楽理論コア（和声Ⅰ）の履修者は免除される。

ナンバリング			
科目名	ハーモニーⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

- 1.和音に関する基礎用語、和音進行の基礎概念(終止、カデンツなど)、転調等について、ハーモニーⅠⅡの復習とまとめ
- 2.副属七の和音、四声体書法の基本等について、ハーモニーⅠⅡの復習とまとめ

(以下の2群について理解する)

【和音分析】

- 3.属九の和音(根音省略形を含む)
- 4.準固有和音
- 5.準固有音を伴う属九、副属九の和音
- 6.過去の名曲における様々な和音進行

【四声体書法】

- 7.二度七の和音を含む和音設定と連結
- 8.ソプラノ課題における和音設定
- 9.ソプラノ課題における和音連結
- 10.副属七の和音を含む和音設定
- 11.副属七の和音を含む和音連結

- 12.合同授業(レクチャーコンサート形式)
- 13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として
- 14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物で評価する、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。
ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)
ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳの履修者)は免除されます。

ナンバリング	FSS011N		
科目名	ハーモニーⅢ（初級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー（和音や和声）に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～ⅣⅠには、履修についての特記事項があります。学生便覧（別冊）の該当ページを必ず参照して下さい。

- 1.和音に関する基礎用語、和音進行の基礎概念（終止、カデンツなど）、転調等について、ハーモニーⅠ,Ⅱの復習とまとめ
- 2.副属七の和音、四声体書法の基本等について、ハーモニーⅠ,Ⅱの復習とまとめ

（以下の2群について理解する）

【和音分析】

- 3.属九の和音 その1
- 4.属九の和音 その2(根音省略形を含む)
- 5.準固有音
- 6.過去の名曲における様々な和音進行

【四声体書法】

- 7.二度七の和音を含む和音設定と連結
- 8.ソプラノ課題における和音設定
- 9.ソプラノ課題における和音連結
- 10.副属七の和音を含む和音設定
- 11.副属七の和音を含む和音連結

- 12.合同授業（レクチャーコンサート形式）
- 13.総合的な力を高める（1）和音分析を中心として
- 14.総合的な力を高める（2）四声体書法を中心として
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

ハーモニーの実習においては、繰り返し丁寧に学習する事が大切です。従って、各自復習に時間をかけて臨んで下さい。復習する際は、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」や授業内に配られるプリント、および参考図書を参照して下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。その他、授業内で随時行う小テストや提出物で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書（使用テキスト）◆

各回の授業においてプリントを配布する。

◆参考図書◆

図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。（クラスで指定されている場合は購入すること）

- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（3巻本）島岡譲他 音楽之友社（体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本）
- 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社（分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている）

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ハーモニーⅠ～ⅣⅣ全体に関する説明が「学生便覧（別冊）」に掲載されています。必ず参照してください。

ハーモニーⅢ,Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。（「コース募集要項」で確認のこと）

ハーモニーⅠ～ⅣⅣは、演奏・創作学科 作曲専修（和声Ⅰ～ⅣⅣの履修者）は免除されます。

ナンバリング	FSS013N		
科目名	ハーモニーⅢ(上級)		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

和声学の学修を通じて音楽をより深く理解し、ソルフェージュとも関わりをもちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

ハーモニー全体の概要については、学生便覧別冊「ハーモニーⅠ～Ⅳ」を参照のこと。
特にハーモニーⅢ(上級)では、多様な和音がもたらす響きの豊かさに着目し、楽曲の中での効果について実習と分析を通して学修する。

- 1) 上級オーディション問題の解説・復習
- 2) V9の和音(基本形)
- 3) V9の和音(転回形)
- 4) V9の準固有和音
- 5) V9の和音の楽曲における用例
- 6) IとVの第5音上方変位
- 7) ドッペルドミナントの第5音下方変位
- 8) 上方変位和音、下方変位和音の楽曲における用例
- 9) ナポリのⅡ和音
- 10) ドリアのⅣの和音
- 11) 短調における変化和音の楽曲における用例
- 12) 総合課題の実習①規則と典型的な声部進行
- 13) 総合課題の実習②和音設定の選択肢
- 14) 第3セメスター学修内容を含む楽曲分析
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回指示された課題を学生が準備学習し、授業で添削、確認する。
添削された課題を必ず復習、解き直して身に付ける。

◆成績評価の方法◆

学期末試験と平常点。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

「総合和声」島岡譲他 音楽之友社

◆参考図書◆

以下の2冊は高度な内容まで詳述している。特に3年次より作曲理論コースを希望する学生は参考にするように。
「和声 理論と実習」Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 島岡譲他著(音楽之友社)
「新しい和声 理論と聴感覚の統合」林達也著(ARTES)

◆留意事項◆

五線紙必携。
3年次からのコース選択に、ハーモニーの成績が条件となる場合があるので専門課程コース試験要項で確認すること。

ナンバリング			
科目名	ハーモニーⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュ／キーボードハーモニーとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

1.前期の復習

(以下の2群について理解する)

【和音分析】

- 2.ナボリの二度の和音
- 3.ドリアの四度の和音
- 4.増六の和音
- 5.付加六の和音とピカルディの3度
- 6.過去の名曲における様々な和音進行
- 【四声体書法】
- 7.転調を含む課題における和音設定
- 8.転調点の和音連結
- 9.転調を含む課題における和音連結
- 10.準固有和音を含む和音設定
- 11.準固有和音を含む和音連結

12.合同授業(レクチャーコンサート形式)

- 13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として
- 14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習にあたっては、各授業担当教員の指示、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」および参考図書を参照して下さい。
また、各項目ごとに、基本的な理論を学びそしてその発展形を学ぶ、という「蓄積型」の科目です。各自復習に時間をかけて臨んで下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。授業内で随時行う小テストや提出物で評価する、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員により個別に指定される可能性があるので留意すること。

◆参考図書◆

図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)

- 「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
- 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。

ハーモニーⅢ、Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)

ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳの履修者)は免除されます。

ナンバリング	FSS014N		
科目名	ハーモニーⅣ（初級）		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

●ハーモニー(和音や和声)に関すること、その基礎を2年間・4セメスターかけて学ぶ。●和声学の学習を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュとも関わりを持ちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

セメスター毎に一度、各時限に履修している全ての学生を集めて行う「合同授業」が予定されています。これは、生演奏をふんだんに用い行われる授業であり、ハーモニーについての見識を深め多様な響きを体感する場として設定されています。
※ハーモニーⅠ～Ⅳには、履修についての特記事項があります。学生便覧(別冊)の該当ページを必ず参照して下さい。

- 前期の復習(前半)
- 前期の復習(後半)
- (以下の2群について理解する)
- 【和音分析】
- 3.ナボリの二度の和音
- 4.ドリアの四度の和音
- 5.増六の和音
- 6.付加六の和音
- 7.過去の名曲における様々な和音進行
- 【四声体書法】
- 8.転調を含む課題における和音設定
- 9.転調点の和音連結とその課題実施
- 10.準固有和音を含む和音設定
- 11.準固有和音を含む和音連結
- 12.合同授業(レクチャーコンサート形式)
- 13.総合的な力を高める(1)和音分析を中心として
- 14.総合的な力を高める(2)四声体書法を中心として
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

ハーモニーの実習においては、繰り返し丁寧に学習する事が大切です。従って、各自復習に時間をかけて臨んで下さい。復習する際は、履修者に配布される「ハーモニー・ハンドブック」や授業内に配られるプリント、および参考図書を参照して下さい。

◆成績評価の方法◆

学期末試験。その他、授業内で随時行う小テストや提出物で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業においてプリントを配布する。

◆参考図書◆

- 図書館に所蔵されていますので、詳細な規則など、参考資料として活用して下さい。(クラスで指定されている場合は購入すること)
- 「和声 理論と実習」Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(3巻本)島岡譲他 音楽之友社(体系的、詳細かつ高度な段階までを網羅した教本)
 - 「総合和声」島岡譲他 音楽之友社(分析も含めた総合的なテキスト。四声体の学習も要点を効率良く学べるようになっている)

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。
ハーモニーⅠ～Ⅳ全体に関する説明が「学生便覧(別冊)」に掲載されています。必ず参照してください。
ハーモニーⅢ,Ⅳでの成績が、3年次からの「コース」選択時の条件になる可能性があります。(「コース募集要項」で確認のこと)
ハーモニーⅠ～Ⅳは、演奏・創作学科 作曲専修(和声Ⅰ～Ⅳの履修者)は免除されます。

ナンバリング	FSS016N		
科目名	ハーモニーⅣ(上級)		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

和声学の学修を通じて音楽をより深く確実に理解し、ソルフェージュとも関わりをもちながら和声的な感性を磨くことにより、実際の演奏、創作、教育、研究の場においてより豊かな実りを獲得する。

◆授業内容・計画◆

ハーモニー全体の概要については、学生便覧別冊「ハーモニーⅠ～Ⅳ」を参照のこと。
特にハーモニーⅣ(上級)では、和声的感性を磨くとともに、和声学を自ら専門に応用する力をつけることに重点をおく。
明確に分析と実習を分けず、適宜実作品に触れながら授業を進めていく。

- 1) 第3セメスター試験の解説・復習
- 2) 第3セメスター内容の確認
- 3) 転位と修飾
- 4) 配置転換
- 5) 自由ソプラノ課題①転調を含まない課題
- 6) 自由ソプラノ課題①転調を含む課題
- 7) 反復進行①(さまざまな反復進行)
- 8) 反復進行③(D2度下行型の第7音装飾)
- 9) AB主題組み合わせによるバス課題
- 10) 偶成和音①(刺繍和音と経過和音)
- 11) 偶成和音②(倚和音と掛留和音)
- 12) 総合課題の実習
- 13) 和声課題の創作
- 14) 合同授業(レクチャー・コンサート形式)
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回指示された課題を学生が準備学習し、授業で添削、確認する。
添削された課題を必ず復習、解き直して身に付ける。

◆成績評価の方法◆

学期末試験と平常点。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

「総合和声」島岡譲他 音楽之友社

◆参考図書◆

以下の2冊は高度な内容まで詳述している。特に3年次より作曲理論コースを希望する学生は参考にするように。
「和声 理論と実習」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 島岡譲他著 音楽之友社
「新しい和声 理論と聴感覚の統合」林達也著 ARTES

◆留意事項◆

- ・五線紙必携。
- ・3年次からのコース選択に、ハーモニーの成績が条件になる場合があるので専門課程コース試験要項で確認すること。
- ・3年次以降も選択ハーモニーのクラスが複数開講されているので、学修を継続してほしい。
- ・作曲理論コースを志望する学生は、オフィス・アワーを利用して補修を行う。

ナンバリング	FSS040N		
科目名	基礎ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)教員によるレクチャーコンサートや体験談による感動体験を出発点に、卒業後の進路を見据えた高い目標を意識し、高いモチベーションをもって授業に臨むことができる。2)クラス授業における自己紹介やコンサート等に関する討議により、友達作りや言語コミュニケーションの重要性を自覚する。3)大学内の施設を実際に使用・体験することで、スムーズに学生生活で各施設を有効的に利用できる。4)レポートの書き方等の指導を通じ、大学生としての基礎的リテラシーを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

通例レクチャー・コンサート2回、教員による講演2回、クラス授業6回および施設見学を中心として、およそ以下のような内容を実施します。

- (1)クラス授業1(学習目標設定)
- (2)クラス授業2(ICTについて)
- (3)オーケストラ・オペラコンサート第1部
- (4)オーケストラ・オペラコンサート第2部
- (5)クラス授業3(オーケストラ・オペラコンサートについて)
- (6)お話1(教員A)
- (7)クラス授業4(お話1について)
- (8)室内楽コンサート第1部
- (9)室内楽コンサート第2部
- (10)クラス授業5(室内楽コンサートについて)
- (11)お話2(教員B)
- (12)クラス授業6(お話2について、総括とレポート作成)
- (13)施設見学(図書館)
- (14)施設見学(楽器学資料館)
- (15)施設見学(メディアセンター)

実際の日程、時間割、具体的な授業内容等の詳細については、入学式で配付するプリントや「基礎ゼミⅠ」ガイダンスで配付する資料を参照してください。

◆準備学習の内容◆

授業内容に関する「基礎ゼミⅠスタディガイド」を読み、関連事項について下調べしておくこと(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢と、最終レポートを授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS041N		
科目名	基礎ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基礎課程の学修成果を振り返るとともに、進路・キャリアに関する講義・レポート作成を通じて、専門課程での学修・卒業後の進路を見据えた高い目標を意識し、自らの課題の発見と解決に向けた考察を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

通例レクチャー・コンサート2回、教員による講演2回、クラス授業4回および進路に関する講演2回を中心として、およそ以下のような内容を実施します。

- (1)クラス授業1(ガイダンス)
- (2)受講者のためのお話
- (3)オーケストラ・オペラコンサート第1部
- (4)オーケストラ・オペラコンサート第2部
- (5)クラス授業2(受講者のためのお話、オーケストラ・オペラコンサートについて)
- (6)お話1(教員A)
- (7)進路に関する説明会
- (8)室内楽コンサート第1部
- (9)室内楽コンサート第2部
- (10)クラス授業3(お話①、室内楽コンサートについて)
- (11)お話2(教員B)
- (12)クラス授業4その1(レポート1の講評)
- (13)クラス授業4その2(お話②について)
- (14)クラス授業4その3(レポート2のテーマ設定)
- (15)クラス授業5(総括)

実際の日程、時間割、具体的な授業内容等の詳細については、「基礎ゼミⅡ」時間割やガイダンスで配付する資料を参照してください。

◆準備学習の内容◆

授業内容に関わる「基礎ゼミⅡスタディガイド」を読み、関連事項について下調べしておくこと(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢と、最終レポートを授業内でフィードバックし可否の判定をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSL018N		
科目名	音楽概論A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・エディションをめぐる問題を理解し、適切に判断できる。・さまざまな記譜法について歴史的背景をふまえて理解できる。・近代五線譜上の楽語や記号について演奏習慣をふまえて理解できる。・楽器の分類やさまざまな楽器の特徴が理解できる。

◆授業内容・計画◆

音楽概論ABは、西洋音楽の専門的学習に必要な用語や概念を、歴史的背景や事例に即しながら理解できるようにするための授業です。音楽概論Aでは主に「楽譜」と「楽器」を扱います。楽譜を読み、楽器や声で表現するという基本的な営みについて、そこで何が起きているのか、なぜそうなっているのか、それに対して自分はどうするのか、を考えるための基礎となるでしょう。授業は次のような内容で進められます。

(1) 楽譜

第1回 エディション研究1(楽譜と演奏、手稿譜と印刷譜)

第2回 エディション研究2(原典版と解釈版)

第3回 エディション研究3(全集、作品目録、作品番号)

第4回 記譜法の歴史1(ネウマから五線譜へ)

第5回 記譜法の歴史2(様々な楽語)

第6回 アーティキュレーション、装飾と演奏習慣

(2) 楽器

第7回 楽器とは

第8回 楽器分類

第9回 管楽器・打楽器

第10回 弦楽器

第11回 鍵盤楽器1(オルガン、チェンバロ、クラヴィコード)

第12回 鍵盤楽器2(ピアノ、電子オルガン、その他)

第13回 オーケストラと種々の合奏形態

第14回 声と声楽

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示された事柄について様々な楽譜や音源にあたって自分なりに考えておいてください。(週2時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業の中、また期末に課す課題の実施(Google Classroom 上で指示に基いて提出)の総合による。実施した課題については適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜教材を配付します(オンラインの場合は Google Classroom)。

◆参考図書◆

授業内で紹介します。

◆留意事項◆

「音大生なら聴いておきたい100曲」に関しては学生便覧(別冊)掲載の概要および100曲リストを参照してください。

ナンバリング	FSL019N		
科目名	音楽概論B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

・音の性質と音楽的な意味について理解できる。・音階や旋法について歴史的背景や実例に即して理解できる。・リズムや拍子について実例に即して理解できる。・さまざまな音楽形式について歴史的背景や実例に即して理解できる。・さまざまな音楽ジャンルや時代様式について実例に即して理解できる。

◆授業内容・計画◆

音楽概論ABは、西洋音楽の専門的学習に必要な用語や概念を、歴史的背景や実例に即しながら理解できるようにするための授業です。音楽概論Bでは、音楽の基礎となる「音の性質」から構成要素である「音階」や「リズム」の話、また構成法としての「テクスチャー」や「形式」、さらに「ジャンル」や「様式」の話へと進みます。音楽を分析し、そこから具体的な解釈と演奏を導き出すための基礎知識といえるでしょう。「西洋音楽史概説」の内容や「100曲」体験が授業理解の前提となります。授業は次のような内容で進められます。

(1) 音と音組織

第1回 音の性質(音の物理、聴覚)

第2回 音の性質(音律)

第3回 音階と旋法

第4回 リズムとテンポ

(2) 形式とジャンル

第5回 テクスチャー(ポリフォニー、ホモフォニー)

第6回 形式1(基礎楽式、主題、動機)

第7回 形式2(対位法的形式)

第8回 形式3(変奏曲)

第9回 形式4(近代の諸形式1 ロンド形式等並列的形式)

第10回 形式5(近代の諸形式2 ソナタ形式等発展的形式)

第11回 ジャンル1(声楽)

第12回 ジャンル2(器楽)

(3) 様式(スタイル)

第13回 様式とは

第14回 時代様式と演奏

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示された事柄について様々な楽譜や音源にあたって自分なりに考えておいてください。(週2時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業の中、また期末に課す課題の実施(Google Classroom 上で指示に基いて提出)の総合による。実施した課題については適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜教材を配付します(オンラインの場合は Google Classroom)。

◆参考図書◆

授業内で紹介します。

◆留意事項◆

「音大生なら聴いておきたい100曲」に関しては学生便覧(別冊)掲載の概要および100曲リストを参照してください。

ナンバリング	FSL020N		
科目名	西洋音楽史概説A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

西洋音楽概説ABでは、西洋音楽の歴史を古代から現代まで概観する。目標は次の2点: (1) 各時代の音楽様式(響きや構造の特徴)が把握できる。音楽を聴いて、それがいつ頃の音楽か判断し、その理由を音楽上の特徴として説明できる (2) 音楽を文化的・歴史的な背景から理解できる。ある時代が音楽に何を求め、どのような場で演奏され聴かれたのかを考えることができる。

◆授業内容・計画◆

西洋音楽史概説Aでは、古代からバロックまでを扱う。

以下の細目は目安であり、受講生の専修に応じて配分を変えることがある。具体的には初回の授業で通知する。

- 1 導入 音楽史学習の意義、時代区分の概要
- 2 古代 ギリシャ・ローマの音楽生活と理論
- 3 中世 概要、グレゴリオ聖歌
- 4 世俗歌曲、非典礼宗教曲、器楽
- 5 多声音楽のはじまりと展開 オルガヌム、ノートルダム楽派、アルス・ノヴァ、トレチェント
- 6 ルネサンス - 概要、イギリス音楽とブルゴーニュ楽派、フランドル楽派
- 7 宗教改革と対抗宗教改革
- 8 世俗声楽曲と器楽、大航海時代と西洋音楽文化圏の拡大
- 9 まとめ1
- 10 バロック - 概要、オペラの誕生
- 11 オペラの発展、各国のオペラ
- 12 オラトリオ、カンタータ

◆準備学習の内容◆

該当する時代・領域の音楽に触れるとともに関連文献等で授業の理解に必要な基礎知識を得ておく。(週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業ごとに提示される課題の総合による。実施した課題については適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

西洋音楽史概説AB譜例集
適宜教材を配付します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

音楽史の知識はたんなる言葉の暗記に終わるものではない。『100曲』をはじめとする多くの作品を積極的に聴き、知識の肉付けに取り組んでほしい。

ナンバリング	FSL021N		
科目名	西洋音楽史概説B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

西洋音楽概説ABでは、西洋音楽の歴史を古代から現代まで概観する。目標は次の2点：(1)各時代の音楽様式(響きや構造の特徴)が把握できる。音楽を聴いて、それがいつ頃の音楽か判断し、その理由を音楽上の特徴として説明できる；(2)音楽を文化的・歴史的な背景からの理解できる。ある時代が音楽に何を求め、どのような場で演奏され聴かれたのかを考えることができる。

◆授業内容・計画◆

西洋音楽史概説Bでは、古典派から現代までを扱う。
以下の細目は目安であり、受講生の専修に応じて配分を変えることがある。具体的には初回の授業で通知する。

- 1 古典派 概要、啓蒙主義、前古典派と近代的様式への転換
- 2 古典派 ソナタ形式と器楽曲
- 3 古典派 声楽曲
- 4 古典派 都市文化と音楽(公開演奏会、ウィーン、パリ、ロンドン)
- 5 まとめ 1
- 6 ロマン派(19世紀音楽) 概要、ロマン主義と市民的音楽文化
- 7 ロマン派(19世紀音楽) 歌曲
- 8 ロマン派(19世紀音楽) ピアノ音楽と室内楽
- 9 ロマン派(19世紀音楽) 管弦楽
- 10 ロマン派(19世紀音楽) オペラ
- 11 世紀転換期 ポストロマン主義、民族主義、印象主義、表現主義
- 12 20世紀以降 概要、両大戦間の音楽
- 13 20世紀以降 第2次大戦以降
- 14 20世紀以降 音楽史と21世紀の音楽
- 15 まとめ 2

◆準備学習の内容◆

該当する時代・領域の音楽に触れるとともに関連文献等で授業の理解に必要な基礎知識を得ておく。(週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業ごとに提示される課題の総合による。実施した課題については適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

西洋音楽史概説AB譜例集
適宜教材を配付します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

音楽史の知識はたんなる言葉の暗記に終わるものではない。「100曲」をはじめとする多くの作品を積極的に聴き、知識の肉付けに取り組んでほしい。

ナンバリング	FSL022N		
科目名	音楽文化論A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本を含む世界各地の伝統音楽からポピュラー音楽まで、様々な音楽に触れながら、現代の音楽文化の全体像を幅広い視野から理解することができる。またその中で音楽に携わるものとしての自分の位置を認識することができる。

◆授業内容・計画◆

[授業の趣旨]

私たちは今、人類の歴史始まって以来の複雑で多様化した音楽文化の中にいる。遠く離れた地球の裏側の音楽でさえ簡単に聴くことができるし、最新のヒット曲から何百年も昔の古典まで、ありとあらゆる時代とジャンルの音楽を楽しむことができる。これほどまでに多様化した音楽文化の中で音楽の専門家として生きていくためには、豊富な知識や経験が必須である。

一方、音楽大学の中で専門的に扱う音楽の範囲は、非常に限定的である。百数十年前、近代的な音楽学校が各地に生まれた頃の音楽文化を、今なお教育の基礎として守り続けている。その間に学校の外の音楽文化は著しく多様化し、結果として学校内外の音楽文化はどんどんかけ離れていった。

現実世界の幅広く多様な音楽文化と、音大の中の狭い音楽文化の間を橋渡しするために置かれるのが、「音楽文化論AB」である。

授業の具体的な内容と進め方は、各担当教員(クラス)によって異なる。教員はそれぞれ独自の観点からテーマを設定し、授業を進める。ここに挙げるのは概括的な一例である。

[授業内容]

- 第1回 音楽と文化
- 第2回 音楽と社会
- 第3回 音楽と地域性
- 第4回 音楽と歴史
- 第5回 音楽と情報
- 第6回 音楽と宗教
- 第7回 音楽と教育
- 第8回 音楽と観光
- 第9回 音楽と移民
- 第10回 音楽とジェンダー
- 第11回 音楽体系の多様性
- 第12回 音楽観の多様性
- 第13回 音楽と文化変容
- 第14回 音楽と近代化
- 第15回 音楽文化の総括

◆準備学習の内容◆

図書館に用意されている参考図書を中心として、単元に相当する文献資料にあらかじめ目を通しておく。授業後はよく復習し、授業内容の定着を図ること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

各担当教員(クラス)によって異なる。具体的には最初の授業で提示する。コメントシートやレポートには適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

授業内で指示する。

ナンバリング	FSL023N		
科目名	音楽文化論B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本を含む世界各地の伝統音楽からポピュラー音楽まで、様々な音楽に触れながら、現代の音楽文化の全体像を幅広い視野から理解することができる。またその中で音楽に携わるものとしての自分の位置を認識することができる。

◆授業内容・計画◆

[授業の趣旨]

私たちは今、人類の歴史始まって以来の複雑で多様化した音楽文化の中にいる。遠く離れた地球の裏側の音楽でさえ簡単に聴くことができるし、最新のヒット曲から何百年も昔の古典まで、ありとあらゆる時代とジャンルの音楽を楽しむことができる。これほどまでに多様化した音楽文化の中で音楽の専門家として生きていくためには、豊富な知識や経験が必須である。

一方、音楽大学の中で専門的に扱う音楽の範囲は、非常に限定的である。百数十年前、近代的な音楽学校が各地に生まれた頃の音楽文化を、今なお教育の基礎として守り続けている。その間に学校の外の音楽文化は著しく多様化し、結果として学校内外の音楽文化はどんどんかけ離れていった。

現実世界の幅広く多様な音楽文化と、音大の中の狭い音楽文化の間を橋渡しするために置かれるのが、「音楽文化論AB」である。

授業の具体的な内容と進め方は、各担当教員(クラス)によって異なる。教員はそれぞれ独自の観点からテーマを設定し、授業を進める。ここに挙げるのは概括的な一例である。

[内容]

- 第1回 音楽の機能
- 第2回 音楽と祭り
- 第3回 音楽と越境
- 第4回 音楽と舞踊
- 第5回 声の多様性
- 第6回 音楽と伝統
- 第7回 音楽の伝承
- 第8回 音楽と民俗文化
- 第9回 ポピュラー音楽と文化
- 第10回 音楽と舞台芸能
- 第11回 楽器の多様性
- 第12回 音楽と戦争
- 第13回 音楽とテクノロジー
- 第14回 音楽と人種差別
- 第15回 音楽文化の総括

◆準備学習の内容◆

図書館に用意されている参考図書を中心として、単元に相当する文献資料にあらかじめ目を通しておく。授業後はよく復習し、授業内容の定着を図る(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

各担当教員(クラス)によって異なる。具体的には最初の授業で提示する。コメントシートやレポートには適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

授業内で指示する。

ナンバリング	FSS018N		
科目名	教育メディア論		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	越川 徹郎		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代社会において様々なメディアを使いこなすことは社会生活の基本であり、音楽家にとっても演奏・創作・教育・研究などあらゆる活動の幅を広げることにつながる。本科目はICT(情報通信技術)や各種メディアを活用し、情報・メディアリテラシーの基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。授業では次の項目を学ぶ。(1)基本的なツール・サービスを使いこなす、文書表現やプレゼンテーションに活用する。(2)情報モラル・セキュリティについて理解を深め、円滑にコミュニケーションできる能力を身につける。(3)学んだ技術や技能を多様な音楽活動の現場で活かす方法を考える。

◆授業内容・計画◆

授業は以下の内容を基本に学生の学習状況に合わせて進める。
最終課題として、課題文書の提出とそれについてのプレゼンテーション発表を行う。

- 1) ガイダンス: 授業目標の理解、機器の準備、ICT教育の現状
- 2) コンピュータの基礎: OSの基本操作、入力方法
- 3) クラウドサービスとコミュニケーション: Eメールやクラウドサービスの利用
- 4) オンラインでの情報収集: 検索、各種オンラインサービスの活用
- 5) 文書作成1: Wordによるレポート・論文作成の基礎
- 6) 文書作成2: 効率よく文書の体裁を整えるテクニック
- 7) 表計算: Excelによる数値データの処理と視覚化
- 8) プレゼンテーション: PowerPointによるスライド資料の作成
- 9) 視覚デザイン: 図表の作成、レイアウトの改善
- 10) 仕組みのデザイン: Scratchによるプログラミング体験実習
- 11) 情報モラル: 情報倫理、著作権、ソーシャルネットワーク
- 12) 情報セキュリティ: 個人情報の管理、ネット社会における危機管理
- 13) 課題文書の改善、プレゼンテーション発表の練習、個人指導
- 14) プレゼンテーション発表と講評
- 15) 学習のまとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

最終課題を完成させるためには、日々の積み重ねが重要となる。
メディアリテラシー向上のために、復習や課題実施を週1時間以上行うことを推奨する。

◆成績評価の方法◆

授業内で提出する課題文書およびプレゼンテーションについて、情報・メディアリテラシーや表現力の観点などから多角的に評価し、学生へフィードバックする。
その他、提出物、小テスト、演習への取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ』富士通ラーニングメディア(FOM出版)

◆参考図書◆

『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』高橋 佑磨, 片山 なつ(技術評論社)

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS019N		
科目名	AI・データサイエンス		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

いわゆるAIと呼ばれる分野とデータサイエンスの基礎を理解する。現代社会において必須と言えるAIとデータサイエンスの基礎を理解し、現代社会における使い方や応用例を正しく理解できるようになる。

◆授業内容・計画◆

我が国における数理・データサイエンス教育の方針に基づき、本講義ではAI・データサイエンスに関する講義を行なう。オンラインで受講する形式とする。この科目で学ぶ内容は音大生にとって馴染みの薄い言葉や概念が多いため、1つ1つの表現を正しくしっかりと理解するように心がけること。全授業の内容を動画で配信されることを効果的に利用し、理解が難しい内容は何度も見直して、理解を深めるように心がけること。

- 1.データサイエンスとは
- 2.社会で起きている変化
- 3.社会で活用されているデータ
- 4.データ・AIの活用領域
- 5.データ・AI利活用のための技術
- 6.データ活用とは
- 7.データ・AI利活用の現場
- 8.データ・AI利活用の最新動向
- 9.データを読む(1)データの代表値、ばらつき、チェック
- 10.データを読む(2)相関と因果、母集団の抽出、統計情報の理解
- 11.データを説明する
- 12.データを扱う
- 13.データ・AIを扱う上での留意事項(1)ELSI、不正行為、個人情報
- 14.データ・AIを扱う上での留意事項(2)バイアス、AIの正しい活用
- 15.データを守る上での留意事項とまとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、インターネットなどを用いた予習を行ない、理解を深める(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

受講生が視聴した授業内で課された課題に対する実施結果と最終レポートによって評価する。最終レポートの内容を適宜学生全体にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業中に適宜指示する

◆留意事項◆

- ・この授業は対面授業を行わず、すべてオンラインで実施する。
- ・「すべての動画を視聴する」「課題をすべて実施する」「提出物をすべて提出する」ことが求められる。
- ・課題の実施からレポートの提出までを自らのデバイス(スマホ、タブレット、パソコンなど)で実施する。
- ・ログインを行わない限り課題が実施できないため、ログインに困った場合は教務課に相談すること。
- ・課題は定期的に配信されるため、配信された後に自ら実施する必要がある。
- ・質問は原則受付ないが、質問がある場合は担当教員のオフィスアワーを利用すること。
- ・理解できない用語については、何度も動画を見直し、必要に応じてインターネットで検索し、理解を自ら深める努力をすること。

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1aA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aA1～A4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

▼授業内容・計画▼

Week 1: Introduction and Warm-up

Week 2: Unit 1 Enjoy your presentations in English, 自己発信の英語を学ぶ, 文法: 第1章文型(1)

Week 3: Unit 1 Your presentation, 文法: 第2章 文型(2)

Week4: Unit 2 Talking about yourself, パワーポイントの利用, 文法: 第3章 時を表わす表現(1)

Week 5: Unit 2 Your presentation, 文法: 第4章 時を表わす表現(2)

Week 6: Unit 3 Express yourself, 50語で語ろう, 文法: 第5章 完了形(1)

Week 7: Unit 3 Your presentation, 文法: 第6章 完了形(2)

Week8: Unit 4 Talking about hobbies and interests, ダイナミックな話し方, 文法: 第7章助動詞(1)

Week9: Unit 4 Your presentation, 文法: 第8章 助動詞(2)

Week 10: Unit 5 Talking about your university, データの活用, 文法: 第9章 助動詞(3)

Week 11: Unit 5 Your presentation, 文法: 第10章 受動態(1)

Week 12: Unit 6 Your future plans, 聞き上手になる, 文法: 第11章 受動態(2)

Week 13: Your presentation, 文法: 第12章 不定詞(1)

Week 14: Unit 7 Expressing appreciation, 聞き上手になる, 文法: 第13章 不定詞(2)

Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(リーディング・リスニング・ライティング・単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著

桐原書店

978-4-342-55012-6

2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],

978-4-342-20731-0

桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1bA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bA1～A4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 1, Have you two met? Speaking & Interaction
Week 2: Unit 1, Reading & Writing: Personal Introduction
Week 3: Unit 1, Presentation & Pronunciation: Share your personal statement
Week 4: Unit 2, You must be excited Speaking & Interaction: Describe your feelings

Week 5: Unit 2, Reading & Writing: Handling negative emotions
Week 6: Unit 2, Presentation & Pronunciation: Describe something you know well
Week 7: Unit 3, Where should I go? Speaking & Interaction: A trip
Week 8: Unit 3, Reading & Writing: Vacation
Week 9: Unit 3, Presentation & Pronunciation: Exciting trip
Week 10: Unit 4, I love that, Speaking & Interaction: Agreement & Disagreement
Week 11: Unit 4, Reading & Writing: Rock festival
Week 12: Unit 4, Presentation & Pronunciation: Interesting event
Week 13: Unit 5, What's your excuse? Speaking & Interaction: Requests
Week 14: Unit 5, Reading & Writing: Excuses
Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 2 [5th Edition] Student book With my mobile world: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1aB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aB1～B2
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction and Warm-up

Week 2: Unit 1 Enjoy your presentations in English, 自己発信の英語を学ぶ, 文法: 第1章文型(1)

Week 3: Unit 1 Your presentation, 文法: 第2章 文型(2)

Week4: Unit 2 Talking about yourself, パワーポイントの利用, 文法: 第3章 時を表わす表現(1)

Week 5: Unit 2 Your presentation, 文法: 第4章 時を表わす表現(2)

Week 6: Unit 3 Express yourself, 50語で語ろう, 文法: 第5章 完了形(1)

Week 7: Unit 3 Your presentation, 文法: 第6章 完了形(2)

Week8: Unit 4 Talking about hobbies and interests, ダイナミックな話し方, 文法: 第7章助動詞(1)

Week9: Unit 4 Your presentation, 文法: 第8章 助動詞(2)

Week 10: Unit 5 Talking about your university, データの活用, 文法: 第9章 助動詞(3)

Week 11: Unit 5 Your presentation, 文法: 第10章 受動態(1)

Week 12: Unit 6 Your future plans, 聞き上手になる, 文法: 第11章 受動態(2)

Week 13: Your presentation, 文法: 第12章 不定詞(1)

Week 14: Unit 7 Expressing appreciation, 聞き上手になる, 文法: 第13章 不定詞(2)

Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著

桐原書店

978-4-342-55012-6

2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],

978-4-342-20731-0

桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1bB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bB1～B2
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 1, It's nice to meet you: Speaking & Interaction: Introduction
Week 2: Unit 1, Reading & Writing: Personal Introduction
Week 3: Unit 1, Presentation & Pronunciation: Talking personal interests
Week 4: Unit 2, Who are they talking about? Speaking & Interaction: Describe people

Week 5: Unit 2, Reading & Writing: Extended families
Week 6: Unit 2, Presentation & Pronunciation: Introduce member of your families
Week 7: Unit 3, When do you start? Speaking & Interaction: Make plans with someone
Week 8: Unit 3, Reading & Writing: Daily schedule
Week 9: Unit 3, Presentation & Pronunciation: Personal schedule
Week 10: Unit 4, Where does this go? Speaking & Interaction: Locations
Week 11: Unit 4, Reading & Writing: Read about someone's room
Week 12: Unit 4, Presentation & Pronunciation: Talk about items in your room
Week 13: Unit 5, How do I get there? Speaking & Interaction: Giving directions
Week 14: Unit 5, Reading & Writing: Describe a special place
Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 1(5th Edition), Student book With my mobile world: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1aB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aB3～B4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction and Warm-up

Week 2: Unit 1 Enjoy your presentations in English, 自己発信の英語を学ぶ, 文法: 第1章文型(1)

Week 3: Unit 1 Your presentation, 文法: 第2章 文型(2)

Week4: Unit 2 Talking about yourself, パワーポイントの利用, 文法: 第3章 時を表わす表現(1)

Week 5: Unit 2 Your presentation, 文法: 第4章 時を表わす表現(2)

Week 6: Unit 3 Express yourself, 50語で語ろう, 文法: 第5章 完了形(1)

Week 7: Unit 3 Your presentation, 文法: 第6章 完了形(2)

Week8: Unit 4 Talking about hobbies and interests, ダイナミックな話し方, 文法: 第7章助動詞(1)

Week9: Unit 4 Your presentation, 文法: 第8章 助動詞(2)

Week 10: Unit 5 Talking about your university, データの活用, 文法: 第9章 助動詞(3)

Week 11: Unit 5 Your presentation, 文法: 第10章 受動態(1)

Week 12: Unit 6 Your future plans, 聞き上手になる, 文法: 第11章 受動態(2)

Week 13: Your presentation, 文法: 第12章 不定詞(1)

Week 14: Unit 7 Expressing appreciation, 聞き上手になる, 文法: 第13章 不定詞(2)

Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(リーディング・リスニング・ライティング・単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著
桐原書店
978-4-342-55012-6

2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],
978-4-342-20731-0
桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS024N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語) I		
科目詳細	1bB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bB3～B4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Text: English Firsthand 1

Week 1: Unit 1, It's nice to meet you: Speaking & Interaction: Introduction
Week 2: Unit 1, Reading & Writing: Personal Introduction
Week 3: Unit 1, Presentation & Pronunciation: Talking personal interests
Week 4: Unit 2, Who are they talking about? Speaking & Interaction: Describe people

Week 5: Unit 2, Reading & Writing: Extended families
Week 6: Unit 2, Presentation & Pronunciation: Introduce member of your families
Week 7: Unit 3, When do you start? Speaking & Interaction: Make plans with someone
Week 8: Unit 3, Reading & Writing: Daily schedule
Week 9: Unit 3, Presentation & Pronunciation: Personal schedule
Week 10: Unit 4, Where does this go? Speaking & Interaction: Locations
Week 11: Unit 4, Reading & Writing: Read about someone's room
Week 12: Unit 4, Presentation & Pronunciation: Talk about items in your room
Week 13: Unit 5, How do I get there? Speaking & Interaction: Giving directions
Week 14: Unit 5, Reading & Writing: Describe a special place
Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 1(5th Edition), Student book With my mobile world
: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1aA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aA1～A4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Social Activities, リスナーや目的に応じた工夫, 文法:第15章 動名詞(1)
Week 2: Unit 8 Your presentation, 文法:第16章 動名詞(2)
Week 3: Unit 9 Expressing your opinion, 明瞭な発音 文法:第19章 比較(1)
Week 4: Unit 9 Your presentation, 文法:第20章 比較(2)
Week 5: Unit 10 Giving a presentation about Japan, 察しの文化を越えて 文法:第21章 関係詞(1)
Week 6: Unit 10 Your presentation, 文法:第22章 関係詞(2)
Week 7: Unit 11 Old Japanese sayings, スピーチの構造, 文法:第23章 関係詞(3)
Week 8: Unit 11 Your presentation, 文法:第24章 仮定法(1)
Week 9: Unit 12 Describing things Japanese, ハンドアウトの用意, 文法:第25章 仮定法(2)
Week 10: Unit 12 Your presentation, 文法:修飾
Week 11: Unit 13Current issues in Japanese society, 文法:まとめ(1)
Week 12: Unit 13Your presentation, 文法:まとめ(2)
Week 13: Unit 14Current issues in international relations, 国際言語としての英語
Week 14: Unit 15: Living in a Globalizing Society グローバル化社会に求められる英語の使い方
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著
桐原書店
978-4-342-55012-6
2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],
978-4-342-20731-0
桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1bA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bA1～A4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 6, Have you two met? Speaking & Interaction
Week 2: Unit 6, Reading & Writing: Cultural trend
Week 3: Unit 6, Presentation & Pronunciation: Share a trend
Week 4: Unit 7, Do you remember when? Speaking & Interaction: Past experiences

Week 5: Unit 7, Reading & Writing: Gratitude letter
Week 6: Unit 7, Presentation & Pronunciation: Someone helped
Week 7: Unit 8, Let's have a get-together! Speaking & Interaction: Getting together
Week 8: Unit 8, Reading & Writing: Planning events
Week 9: Unit 8, Presentation & Pronunciation: Events
Week 10: Unit 9, I love that, Speaking & Interaction: Agreement & Disagreement
Week 11: Unit 9, Reading & Writing: Rock festival
Week 12: Unit 9, Presentation & Pronunciation: Interesting event
Week 13: Unit 10, What's your excuse? Speaking & Interaction: Requests
Week 14: Unit 10, Reading & Writing: Excuses
Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 2 [5th Edition] Student book With my mobile world: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1aB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aB1～B2
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Social Activities, リスナーや目的に応じた工夫, 文法:第15章 動名詞(1)
Week 2: Unit 8 Your presentation, 文法:第16章 動名詞(2)
Week 3: Unit 9 Expressing your opinion, 明瞭な発音 文法:第19章 比較(1)
Week 4: Unit 9 Your presentation, 文法:第20章 比較(2)
Week 5: Unit 10 Giving a presentation about Japan, 察しの文化を越えて 文法:第21章 関係詞(1)
Week 6: Unit 10 Your presentation, 文法:第22章 関係詞(2)
Week 7: Unit 11 Old Japanese sayings, スピーチの構造, 文法:第23章 関係詞(3)
Week 8: Unit 11 Your presentation, 文法:第24章 仮定法(1)
Week 9: Unit 12 Describing things Japanese, ハンドアウトの用意, 文法:第25章 仮定法(2)
Week 10: Unit 12 Your presentation, 文法:修飾
Week 11: Unit 13Current issues in Japanese society, 文法:まとめ(1)
Week 12: Unit 13Your presentation, 文法:まとめ(2)
Week 13: Unit 14Current issues in international relations, 国際言語としての英語
Week 14: Unit 15: Living in a Globalizing Society グローバル化社会に求められる英語の使い方
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著
桐原書店
978-4-342-55012-6
2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],
978-4-342-20731-0
桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1bB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bB1～B2
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 6, Have you two met? Speaking & Interaction
Week 2: Unit 6, Reading & Writing: Cultural trend
Week 3: Unit 6, Presentation & Pronunciation: Share a trend
Week 4: Unit 7, Do you remember when? Speaking & Interaction: Past experiences

Week 5: Unit 7, Reading & Writing: Gratitude letter
Week 6: Unit 7, Presentation & Pronunciation: Someone helped
Week 7: Unit 8, Let's have a get-together! Speaking & Interaction: Getting together
Week 8: Unit 8, Reading & Writing: Planning events
Week 9: Unit 8, Presentation & Pronunciation: Events
Week 10: Unit 9, I love that, Speaking & Interaction: Agreement & Disagreement
Week 11: Unit 9, Reading & Writing: Rock festival
Week 12: Unit 9, Presentation & Pronunciation: Interesting event
Week 13: Unit 10, What's your excuse? Speaking & Interaction: Requests
Week 14: Unit 10, Reading & Writing: Excuses
Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 1(5th Edition), Student book With my mobile world: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1aB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1aB3～B4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎文法・語彙を使って表現できる ②論理的・批判的に思考できる ③内容豊かに、自己表現できる ④効果的に伝えるコミュニケーション・プレゼンテーション技術を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Social Activities, リスナーや目的に応じた工夫, 文法:第15章 動名詞(1)
Week 2: Unit 8 Your presentation, 文法:第16章 動名詞(2)
Week 3: Unit 9 Expressing your opinion, 明瞭な発音 文法:第19章 比較(1)
Week 4: Unit 9 Your presentation, 文法:第20章 比較(2)
Week 5: Unit 10 Giving a presentation about Japan, 察しの文化を越えて 文法:第21章 関係詞(1)
Week 6: Unit 10 Your presentation, 文法:第22章 関係詞(2)
Week 7: Unit 11 Old Japanese sayings, スピーチの構造, 文法:第23章 関係詞(3)
Week 8: Unit 11 Your presentation, 文法:第24章 仮定法(1)
Week 9: Unit 12 Describing things Japanese, ハンドアウトの用意, 文法:第25章 仮定法(2)
Week 10: Unit 12 Your presentation, 文法:修飾
Week 11: Unit 13Current issues in Japanese society, 文法:まとめ(1)
Week 12: Unit 13Your presentation, 文法:まとめ(2)
Week 13: Unit 14Current issues in international relations, 国際言語としての英語
Week 14: Unit 15: Living in a Globalizing Society グローバル化社会に求められる英語の使い方
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

1) This is my presentation! Nobuyuki Honna, Yuko Takeshita, Anthony Allan著
桐原書店
978-4-342-55012-6
2)総合英語Fact Book English Grammar: Core [New Edition],
978-4-342-20731-0
桐原書店編集部著, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS028N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅱ		
科目詳細	1bB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	1bB3～B4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①語彙力をつける ②「聞く・読む・書く・話す」練習を通して、生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 6, What happened? Speaking & Interaction: Past experiences
 Week 2: Unit 6, Reading & Writing: A trip
 Week 3: Unit 6, Presentation & Pronunciation: A special place
 Week 4: Unit 7, I'd love that job, Speaking & Interaction: Jobs

Week 5: Unit 7, Reading & Writing: Special hobby
 Week 6: Unit 7, Presentation & Pronunciation: Interests and hobbies
 Week 7: Unit 8, What's playing? Speaking & Interaction: Entertainment
 Week 8: Unit 8, Reading & Writing: Exciting places
 Week 9: Unit 8, Presentation & Pronunciation: Special place
 Week 10: Unit 9, What are you going to do? Speaking & Interaction: Future
 Week 11: Unit 9, Reading & Writing: Future
 Week 12: Unit 9, Presentation & Pronunciation: Future trip
 Week 13: Unit 10, How much is this? Speaking & Interaction: Shopping
 Week 14: Unit 10, Reading & Writing: Saving money
 Week 15: Wrap up

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

English Firsthand 1 [5th Edition] Student book With my mobile world: Marc Helgesen, John Wilshier, Steven Brown, 2018, Pearson

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2aA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aA1～A4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①内容豊かに、効果的に伝えるコミュニケーション力を身に付ける ②シンプルな英語で行うディスカッション技術とプレゼンテーション技術を身に付ける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction to Communication
Week 2: Unit 1 Dogs or Cats? (Step 1, 2)
Week 3: Unit 1 Dogs or Cats? (Step 3)
Week 4: Unit 2 Dubbing or Subtitling? (Step 1, 2)
Week 5: Unit 2 Dubbing or Subtitling? (Step 3)
Week 6: Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? (Step 1, 2)
Week 7: Unit 3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? (Step 3)
Week 8: Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? (Step 1, 2)
Week 9: Unit 4 Paper Bags or Plastic Bags? (Step 3)
Week 10: Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? (Step 1, 2)
Week 11: Unit 5 Do We Need TV Broadcasting or Not? (Step 3)
Week 12: Unit 6 Age-based or Performance-based? (Step 1, 2)
Week 13: Unit 6 Age-based or Performance-based? (Step 3)
Week 14: Unit 7 Buying Music Online or Buying CDs? (Step 1, 2)
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

In My Opinion(話して伸ばす発信型英語演習)飯野厚／佐藤ヘザー・ジョンソン他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2bA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2bA1～A4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- ①日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS:Basic Interpersonal Communicative Skills)をバランスよく身につける。
- ②語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 1 Introduction, Roommates 基本文型／動詞と文型
Week 2: Unit 1 Reading: Health is in your mind 第1章go / come
Week 3: Unit 2 Checking out 第2章 run / bring / carry / drive
Week 4: Unit 2 Reading: The Birth of Ebay 第3章 leave / rise / fall / turn
Week 5: Unit 3 Get in Shape 第4章 pass / stay / remain / quit / stop
Week 6: Unit 3 Reading: Myths about Health and Exercise 第5章 look / see / watch
Week 7: Wrap up & Midterm exam
Week 8: Unit 4 Money Management 第6章 hear / listen
Week 9: Unit 4 Reading: Trading up 第7章 speak / talk / say / tell
Week 10: Unit 5 Close Ties 第8章 ask / discuss / argue / chat
Week 11: Unit 5 Reading: Dating around the world 第9章 agree / persuade / beg etc.
Week 12: Unit 6 Time to celebrate 第10章 instruct / teach / show etc.
Week 13: Unit 6 Reading: Weird Festivals 第11章 make
Week 14: Unit 7 Animals in Danger 第12章 create / produce / build etc.
Week 15: Wrap up & Final exam.

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

New Connection Book 2, 4技能を高める英語演習 <Book 2> 角山 照彦 / Andrey Dubinsky他著
ISBN9784791934126
英語表現WORD SENSE: Word to Sentence 桐原書店編集部編

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2aB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aB1～B2
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

論理的に思考し、それを英語で筋道立てて書き、さらに聞き手によくわかってもらえるように発信する「プレゼンテーション力」を身につける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction to Communication

Week 2: Unit 1 Conversation 1 初対面の挨拶をしよう

Week 3: Unit 1 Reading (First lecture) & Speaking

Week 4: Unit 2 Conversation 2 出身地について話そう

Week 5: Unit 2 Reading (Introducing one's hometown) & Speaking

Week 6: Unit 3 Conversation 3 普段の習慣とその頻度について話そう

Week 7: Unit 3 Reading (My dream) & Speaking

Week 8: Unit 4 Conversation 4 過去の出来事について話そう

Week 9: Unit 4 Reading (My last Sunday) & Speaking

Week 10: Unit 5 Conversation 5 未来やこれからの予定について話そう

Week 11: Unit 5 Reading (My schedule) & Speaking

Week 12: Unit 6 Discussion 1 自分の意見を述べよう

Week 13: Unit 6 Reading (Explaining a picture) & Speaking

Week 14: Unit 7 Discussion 2 理由と度合いを示して同意・反論しよう

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Speak Easy From Basic Conversation to Simplified Debate(会話からディベートまで スピーキング基本演習)藤岡克則 / 山内信幸他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってくる。

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2bB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2bB1～B2
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける。②語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 1 Introduction, Greeting people 基本文型／動詞と文型
 Week 2: Unit 1 Reading: A strange college club, Writing: Personal profiles 第1章 go / come
 Week 3: Unit 2 Asking about a meal 第2章 run / bring / carry / drive
 Week 4: Unit 2 Reading: Eat more and lose weight, Writing: Festivals 第3章 leave / rise / fall / turn
 Week 5: Unit 3 Making suggestions 第4章 pass / stay / remain / quit / stop
 Week 6: Unit 3 Reading: It's a You Tube World, Writing: Internet Language 第5章 look / see / watch
 Week 7: Wrap up & Midterm exam
 Week 8: Unit 4 Receiving Customers 第6章 hear / listen
 Week 9: Unit 4 Reading: Teen fashion, Writing: Clothing reviews 第7章 speak / talk / say / tell
 Week 10: Unit 5 Complaining about machines 第8章 ask / discuss / argue / chat
 Week 11: Unit 5 Reading: Make your home green, Writing: Flyers 第9章 agree / persuade / beg etc.
 Week 12: Unit 6 Asking for directions 第10章 instruct / teach / show etc.
 Week 13: Unit 6 Reading: Getting around, Writing: Directions 第11章 make
 Week 14: Unit 7 Making an appointment 第12章 create / produce / build etc.
 Week 15: Wrap up & Final exam

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

New Connection: English for Listening, Speaking, Reading & Writing, 4技能を高める英語演習 Book 1, Kadoyama, T., Dubinsky, A., Keane, D. E., & Corsini, M. 2018, 成美堂
 英語表現WORD SENSE: Word to Sentence 桐原書店編集部編

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2bB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	1bB3～B4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

① 日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける。② 語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 1 Introduction, Greeting people 基本文型／動詞と文型
 Week 2: Unit 1 Reading: A strange college club, Writing: Personal profiles 第1章 go / come
 Week 3: Unit 2 Asking about a meal 第2章 run / bring / carry / drive
 Week 4: Unit 2 Reading: Eat more and lose weight, Writing: Festivals 第3章 leave / rise / fall / turn
 Week 5: Unit 3 Making suggestions 第4章 pass / stay / remain / quit / stop
 Week 6: Unit 3 Reading: It's a You Tube World, Writing: Internet Language 第5章 look / see / watch
 Week 7: Wrap up & Midterm exam
 Week 8: Unit 4 Receiving Customers 第6章 hear / listen
 Week 9: Unit 4 Reading: Teen fashion, Writing: Clothing reviews 第7章 speak / talk / say / tell
 Week 10: Unit 5 Complaining about machines 第8章 ask / discuss / argue / chat
 Week 11: Unit 5 Reading: Make your home green, Writing: Flyers 第9章 agree / persuade / beg etc.
 Week 12: Unit 6 Asking for directions 第10章 instruct / teach / show etc.
 Week 13: Unit 6 Reading: Getting around, Writing: Directions 第11章 make
 Week 14: Unit 7 Making an appointment 第12章 create / produce / build etc.
 Week 15: Wrap up & Final exam

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

- (1) New Connection: English for Listening, Speaking, Reading & Writing, 4技能を高める英語演習 Book 1, Kadoyama, T., Dubinsky, A., Keane, D. E., & Corsini, M. 2018, 成美堂
- (2) 英語表現 WORD SENSE, Word to Sentence, 桐原書店

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS032N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅲ		
科目詳細	2aB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aB3～B4
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

論理的に思考し、それを英語で筋道立てて書き、さらに聞き手によくわかってもらえるように発信する「プレゼンテーション力」を身につける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction to Communication

Week 2: Unit 1 Conversation 1 初対面の挨拶をしよう

Week 3: Unit 1 Reading (First lecture) & Speaking

Week 4: Unit 2 Conversation 2 出身地について話そう

Week 5: Unit 2 Reading (Introducing one's hometown) & Speaking

Week 6: Unit 3 Conversation 3 普段の習慣とその頻度について話そう

Week 7: Unit 3 Reading (My dream) & Speaking

Week 8: Unit 4 Conversation 4 過去の出来事について話そう

Week 9: Unit 4 Reading (My last Sunday) & Speaking

Week 10: Unit 5 Conversation 5 未来やこれからの予定について話そう

Week 11: Unit 5 Reading (My schedule) & Speaking

Week 12: Unit 6 Discussion 1 自分の意見を述べよう

Week 13: Unit 6 Reading (Explaining a picture) & Speaking

Week 14: Unit 7 Discussion 2 理由と度合いを示して同意・反論しよう

Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Speak Easy From Basic Conversation to Simplified Debate(会話からディベートまで スピーキング基本演習)藤岡克則 / 山内信幸他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2aA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aA1～A4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①基礎英文法・語彙・表現を身に付ける ②根拠を踏まえて述べる論理的な思考力を身に付ける ③シンプルな英語で行うディベート技術を身に付ける

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Living with Family or Living Alone? (Step 1, 2)
Week 2: Unit 8 Living with Family or Living Alone? (Step 3)
Week 3: Unit 9 Team Sports or Individual Sports? (Step 1, 2)
Week 4: Unit 9 Team Sports or Individual Sports? (Step 3)
Week 5: Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? (Step 1, 2)
Week 6: Unit 10 Online Shopping or In-store Shopping? (Step 3)
Week 7: Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? (Step 1, 2)
Week 8: Unit 11 Professional Training or Liberal Arts? (Step 3)
Week 9: Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? (Step 1, 2)
Week 10: Unit 12 Self-driving Cars or Human-driven Cars? (Step 3)
Week 11: Unit 13 Boxed Lunch or School Cafeteria? (Step 1, 2)
Week 12: Unit 13 Boxed Lunch or School Cafeteria? (Step 3)
Week 13: Unit 14 Manga or Novels? (Step 1, 2)
Week 14: Unit 14 Manga or Novels? (Step 3)
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

In My Opinion(話して伸ばす発信型英語演習)飯野厚／佐藤ヘザー・ジョンソン他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2bA1～A4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2bA1～A4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- ①日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)をバランスよく身につける。
- ②語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 A Fine Art 第13章 take
Week 2: Unit 8 Reading: The world's strangest museums 第14章 have / own / belong etc.
Week 3: Unit 9 Tune in 第15章 let / allow / permit
Week 4: Unit 9 Reading: The Many Effects of Television 第16章 get
Week 5: Unit 10 Music to our ears 第17章 obtain / acquire / gain etc.
Week 6: Unit 10 Reading: The Healing Power of Music 第18章 put / lay / place etc.
Week 7: Wrap up & Midterm exam
Week 8: Unit 11 Study Abroad 第19章 hold / keep
Week 9: Unit 11 Reading: Adventures abroad 第20章 change / develop / adapt etc.
Week 10: Unit 12 Making the Right Choice 第21章 improve / increase / decrease etc.
Week 11: Unit 12 Reading: Robots Today and Tomorrow 第22章 give / provide / supply etc.
Week 12: Unit 13 Right and Wrong 第23章 think / expect / suppose etc.
Week 13: Unit 13 Reading: Your Career Starts Now 第24章 consider / imagine / guess etc.
Week 14: Unit 14 The Job-Fair 第25章 want / wish / hope
Week 15: Wrap up & Final exam

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

New Connection Book 2, 4技能を高める英語演習 <Book 2> 角山 照彦 / Andrey Dubinsky他著
ISBN9784791934126
英語表現WORD SENSE: Word to Sentence 桐原書店編集部編

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってくる。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2aB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aB1～B2
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

論理的に思考し、それを英語で筋道立てて書き、さらに聞き手によくわかってもらえるように発信する「プレゼンテーション力」を身につける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Presentation 1 プレゼンテーションの基本構造
Week 2: Unit 8 Presentation A & B (写真に関するプレゼンテーション)
Week 3: Unit 9 Presentation 2 プレゼンテーションの具体的な内容
Week 4: Unit 9 Presentation A & B (表に関するプレゼンテーション)
Week 5: Unit 10 Presentation 3 グラフを使ったプレゼンテーション、Presentation A (グラフに関するプレゼンテーション)
Week 6 Unit 10 Presentation B (円グラフに関するプレゼンテーション)、ディベートについて
Week 7: Unit 11 Simplified Debate 1 主張の理由や具体例を示す、Simplified Debate A (センテンスの並べ替え)
Week 8: Unit 11 Simplified Debate B & C (ファストフードを食べること)
Week 9: Unit 12 Simplified Debate 2 理由や具体例を示して立論する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 10: Unit 12 Simplified Debate B & C (田舎より都会に住む方が良い)
Week 11: Unit 13 Simplified Debate 3 相手の立論に反対する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 12: Unit 13 Simplified Debate B & C (ファストフードを食べること: 肯定・否定)
Week 13: Unit 14 Simplified Debate 3 立場や見方を変えて反論を発想する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 14: Unit 14 Simplified Debate B & C (田舎より都会に住む方が良い: 肯定・否定)
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Speak Easy From Basic Conversation to Simplified Debate(会話からディベートまで スピーキング基本演習)藤岡克則 / 山内信幸他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2bB1～B2		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2bB1～B2
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける。②語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Apologizing 第13章 take
Week 2: Unit 8 Reading: The wildest job in movies, Writing: Movie reviews 第14章 have / own / belong etc.
Week 3: Unit 9 Asking about someone's feelings 第15章 let / allow / permit
Week 4: Unit 9 Reading: Do animals have feelings?, Writing: Life stories 第16章 get
Week 5: Unit 10 Talking about likes and dislikes 第17章 obtain / acquire / gain etc.
Week 6: Unit 10 Reading: Make your life more extreme, Writing: Pastimes 第18章 put / lay / place etc.
Week 7: Wrap up & Midterm exam
Week 8: Unit 11 Talking about injuries 第19章 hold / keep
Week 9: Unit 11 Reading: Sports Hero, Writing: Favorite sports 第20章 change / develop / adapt etc.
Week 10: Unit 12 Describing weather conditions 第21章 improve / increase / decrease etc.
Week 11: Unit 12 Reading: Safe at home, Writing: Storm warnings 第22章 give / provide / supply etc.
Week 12: Unit 13 Ordering a meal 第23章 think / expect / suppose etc.
Week 13: Unit 13 Reading: Going to restaurants around the world, Writing: Restaurant reviews 第24章 consider / imagine / guess etc.
Week 14: Unit 14 Discussing problems 第25章 want / wish / hope
Week 15: Wrap up & Final exam

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

New Connection: English for Listening, Speaking, Reading & Writing, 4技能を高める英語演習 Book 1, Kadoyama, T., Dubinsky, A., Keane, D. E., & Corsini, M. 2018, 成美堂
英語表現WORD SENSE: Word to Sentence 桐原書店編集部編

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってくるください。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2aB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2aB3～B4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

論理的に思考し、それを英語で筋道立てて書き、さらに聞き手によくわかってもらえるように発信する「プレゼンテーション力」を身につける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Presentation 1 プレゼンテーションの基本構造
Week 2: Unit 8 Presentation A & B (写真に関するプレゼンテーション)
Week 3: Unit 9 Presentation 2 プレゼンテーションの具体的な内容
Week 4: Unit 9 Presentation A & B (表に関するプレゼンテーション)
Week 5: Unit 10 Presentation 3 グラフを使ったプレゼンテーション、Presentation A (グラフに関するプレゼンテーション)
Week 6 Unit 10 Presentation B (円グラフに関するプレゼンテーション)、ディベートについて
Week 7: Unit 11 Simplified Debate 1 主張の理由や具体例を示す、Simplified Debate A (センテンスの並べ替え)
Week 8: Unit 11 Simplified Debate B & C (ファストフードを食べること)
Week 9: Unit 12 Simplified Debate 2 理由や具体例を示して立論する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 10: Unit 12 Simplified Debate B & C (田舎より都会に住む方が良い)
Week 11: Unit 13 Simplified Debate 3 相手の立論に反対する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 12: Unit 13 Simplified Debate B & C (ファストフードを食べること: 肯定・否定)
Week 13: Unit 14 Simplified Debate 3 立場や見方を変えて反論を発想する、Simplified Debate A (Simplified Debate B & Cの準備)
Week 14: Unit 14 Simplified Debate B & C (田舎より都会に住む方が良い: 肯定・否定)
Week 15: Wrap up & Presentation

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Speak Easy From Basic Conversation to Simplified Debate(会話からディベートまで スピーキング基本演習)藤岡克則 / 山内信幸他著, 金星堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってくる。

ナンバリング	FSS036N		
科目名	外国語コミュニケーション(英語)Ⅳ		
科目詳細	2bB3～B4		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	2bB3～B4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

①日常的な生活にポイントを当て、英語を使った生活言語能力(BICS: Basic Interpersonal Communicative Skills)を身につける。②語彙を増やす。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Unit 8 Apologizing 第13章 take
Week 2: Unit 8 Reading: The wildest job in movies, Writing: Movie reviews 第14章 have / own / belong etc.
Week 3: Unit 9 Asking about someone's feelings 第15章 let / allow / permit
Week 4: Unit 9 Reading: Do animals have feelings?, Writing: Life stories 第16章 get
Week 5: Unit 10 Talking about likes and dislikes 第17章 obtain / acquire / gain etc.
Week 6: Unit 10 Reading: Make your life more extreme, Writing: Pastimes 第18章 put / lay / place etc.
Week 7: Wrap up & Midterm exam
Week 8: Unit 11 Talking about injuries 第19章 hold / keep
Week 9: Unit 11 Reading: Sports Hero, Writing: Favorite sports 第20章 change / develop / adapt etc.
Week 10: Unit 12 Describing weather conditions 第21章 improve / increase / decrease etc.
Week 11: Unit 12 Reading: Safe at home, Writing: Storm warnings 第22章 give / provide / supply etc.
Week 12: Unit 13 Ordering a meal 第23章 think / expect / suppose etc.
Week 13: Unit 13 Reading: Going to restaurants around the world, Writing: Restaurant reviews 第24章 consider / imagine / guess etc.
Week 14: Unit 14 Discussing problems 第25章 want / wish / hope
Week 15: Wrap up & Final exam

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

小テスト、課題、中間テスト、期末テストを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

New Connection: English for Listening, Speaking, Reading & Writing, 4技能を高める英語演習 Book 1, Kadoyama, T., Dubinsky, A., Keane, D. E., & Corsini, M. 2018, 成美堂
英語表現WORD SENSE: Word to Sentence 桐原書店編集部編

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず辞書を持ってきてください。

ナンバリング	FSS025N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語) I		
科目詳細	1a		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	火1.金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

週2回、同一教員が担当する授業により、ドイツ語の仕組みを学び、会話や読解の基礎作りをします。I(前期)とII(後期)で初級文法を一通り学びます。正しい発音とドイツ語独自の文法構造を常に意識しつつ、「読む・書く・聴く・話す」の4技能をバランスよく身につけることができます。外国語の勉強法を身につけることも、この授業の大切な目標です。

◆授業内容・計画◆

第1回 カイタンス 発音(1)
第2回 発音(2) 人称
第3回 発音(3) 性・数
第4回 第1課(1)規則動詞の人称変化
第5回 第1課(2)arbeiten/findenの人称変化
第6回 第1課(3)重要動詞の人称変化
第7回 第2課(1)強変化動詞の人称変化
第8回 第2課(2)定冠詞の格変化
第9回 第2課(3)不定冠詞の格変化
第10回 第3課(1)定冠詞類
第11回 第3課(2)不定冠詞類
第12回 第3課(3)人称代名詞
第13回 第1課から第3課までのまとめ
第14回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(1)

第15回 第4課(1)前置詞と格支配
第16回 第4課(2)3・4格支配の前置詞
第17回 第5課(1)命令法
第18回 第5課(2)接続詞
第19回 第5課(3)副文
第20回 第6課(1)話法の助動詞
第21回 第6課(2)知覚表現
第22回 第6課(3)使役表現
第23回 第6課(4)助動詞に準ずる表現
第24回 第6課(5)再帰表現
第25回 第6課(6)非人称表現
第26回 第6課(7)この課のまとめ
第27回 第4課から第6課までのまとめ
第28回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(2)
第29回 学期全体の学習内容をふまえた会話と読解の練習

◆準備学習の内容◆

授業初回に配布する進捗表(チェックリスト)で学習内容や理解度を確認しましょう。教科書は独習用にも使える教材です。予習をして授業に臨みましょう。毎回の確認テストの準備も忘れずに。確認テストは前回の授業内容の復習を兼ねています。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間(目安30分)を必ず作りましょう。

◆成績評価の方法◆

定期試験で70%、平常点(確認テスト、提出物、積極的授業参加)で30%とし、総合的に評価します。提出物には次の授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CDで学ぶドイツ語入門 改訂版』三瓶慎一著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典(紙媒体)。授業初回にさまざまな辞書と選び方のポイントを紹介します。授業で独和辞典を使うのは5月の連休以降ですので、初回や4月は用意する必要はありません。

◆留意事項◆

授業進行の詳細と中間・期末試験の日程については、初回授業で配布する進捗表で確認してください。毎回の授業後の学習は欠かせないようにしましょう。不明な点は質問する習慣もつけましょう。授業への取り組みや教員との連絡が不十分な場合、成績評価試験(中間・期末)の受験資格を失います。

ナンバリング	FSS025N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語) I		
科目詳細	1b		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-301, 5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火1,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- 正しい発音と基本的な文構造を身に付ける。
- 現在形で、自分のことや周りのものについて話したり尋ねたりできる。
- ドイツ語が話されている国や都市の地理を知る。

◆授業内容・計画◆

パン職人の卵のヨーコさんが、ドイツへ修業に行きます。語学学校で知り合った友人たちとの交流を中心にストーリーは進んでいきます。各課のテーマ毎に、語彙と表現の習得・テキスト読解・作文練習などを行います。対話練習とグループワークを多く行います。また、ドイツ語圏を身近に感じるために、いろいろな都市についてのレポートを全員で分担して行います。

- 第1回 自己紹介、母音の発音、ドイツ語圏の国と都市
 第2回 子音の発音、あいさつ表現、数字
 第3回 第1課(1) テーマ「お名前は？」

- 第4回 第1課(2) 動詞の現在人称変化(規則的)
 第5回 第1課(3) 語順の基本

- 第6回 第2課(1) テーマ「趣味は何ですか？」
 第7回 第2課(2) 趣味に関する語彙

- 第8回 第2課(3) 好みを表現する(gern)
 第9回 第2課(4) 動詞の現在人称変化(幹母音の変音)
 第10回 第1・2課の確認テストと復習
 第11回 第3課(1) テーマ「駅はどこですか？」

- 第12回 第3課(2) 建物の名称、道の尋ね方
 第13回 第3課(3) 名詞の性と格、複数形

- 第14回 第3課(4) 道案内の表現
 第15回 第4課(1) テーマ「この部屋はいかがですか？」

- 第16回 第4課(2) 感想を尋ねる(gefallen, finden)
 第17回 第4課(3) 冠詞類、人称代名詞、前置詞

- 第18回 第4課(4) 願望の表現
 第19回 第3・4課の確認テストと復習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安30分×週2回)
 ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
 ②自習の方法: まずCDを聴き、繰り返し音読し、さらに書いて覚えてください。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う3回の確認テスト(筆記と聞き取り)、ドイツ事情レポートの提出、準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『グーテ・ライゼ！〈新訂増補版〉』伊藤直子ほか(郁文堂)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めての外国語では、毎時間新しいことを学びます。身につけるためには、繰り返し練習がとても大切です。必ず授業に出席することと、家で復習することを心がけてください。

ナンバリング	FSS025N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅰ		
科目詳細	1c		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	03
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	火2.金1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

週2回、同一教員が担当する授業により、ドイツ語の仕組みを学び、会話や読解の基礎作りをします。Ⅰ(前期)とⅡ(後期)で初級文法を一通り学びます。正しい発音とドイツ語独自の文法構造を常に意識しつつ、「読む・書く・聴く・話す」の4技能をバランスよく身につけることができます。外国語の勉強法を身につけることも、この授業の大切な目標です。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 カイタンス 発音(1)
- 第2回 発音(2) 人称
- 第3回 発音(3) 性・数
- 第4回 第1課(1)規則動詞の人称変化
- 第5回 第1課(2)arbeiten/findenの人称変化
- 第6回 第1課(3)重要動詞の人称変化
- 第7回 第2課(1)強変化動詞の人称変化
- 第8回 第2課(2)定冠詞の格変化
- 第9回 第2課(3)不定冠詞の格変化
- 第10回 第3課(1)定冠詞類
- 第11回 第3課(2)不定冠詞類
- 第12回 第3課(3)人称代名詞
- 第13回 第1課から第3課までのまとめ
- 第14回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(1)

- 第15回 第4課(1)前置詞と格支配
- 第16回 第4課(2)3・4格支配の前置詞
- 第17回 第5課(1)命令法
- 第18回 第5課(2)接続詞
- 第19回 第5課(3)副文
- 第20回 第6課(1)話法の助動詞
- 第21回 第6課(2)知覚表現
- 第22回 第6課(3)使役表現
- 第23回 第6課(4)助動詞に準ずる表現
- 第24回 第6課(5)再帰表現
- 第25回 第6課(6)非人称表現
- 第26回 第6課(7)この課のまとめ
- 第27回 第4課から第6課までのまとめ
- 第28回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(2)
- 第29回 学期全体の学習内容をふまえた会話と読解の練習

◆準備学習の内容◆

授業初回に配布する進捗表(チェックリスト)で学習内容や理解度を確認しましょう。教科書は独習用にも使える教材です。予習をして授業に臨みましょう。毎回の確認テストの準備も忘れずに。確認テストは前回の授業内容の復習を兼ねています。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間(目安30分)を必ず作りましょう。

◆成績評価の方法◆

定期試験で70%、平常点(確認テスト、提出物、積極的授業参加)で30%とし、総合的に評価します。提出物には次の授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CDで学ぶドイツ語入門 改訂版』三瓶愼一著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典(紙媒体)。授業初回にさまざまな辞書と選び方のポイントを紹介します。授業で独和辞典を使うのは5月の連休以降ですので、初回や4月は用意する必要はありません。

◆留意事項◆

授業進行の詳細と中間・期末試験の日程については、初回授業で配布する進捗表で確認してください。毎回の授業後の学習は欠かせないようにしましょう。不明な点は質問する習慣もつけましょう。授業への取り組みや教員との連絡が不十分な場合、成績評価試験(中間・期末)の受験資格を失います。

ナンバリング	FSS029N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅱ		
科目詳細	1a		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火1,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に引き続き、同じ教員による週2回の授業で、初級ドイツ語文法をひと通り習得します。辞書を使えば、平易に書かれた文章は読めるようになります。簡単な会話ができ、短い文章を書くことができるようになります。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 第7課(1)形容詞語尾
- 第3回 第7課(2)序数
- 第4回 第7課(3)比較級
- 第5回 第7課(4)最上級
- 第6回 第8課(1)分離動詞
- 第7回 第8課(2)非分離動詞
- 第8回 第9課(1)三基本形
- 第9回 第9課(2)現在完了形
- 第10回 第9課(3)過去形
- 第11回 第9課(4)この課のまとめ
- 第12回 第10課(1)zu不定詞の仕組み
- 第13回 第10課(2)zu不定詞句を用いた表現
- 第14回 第7課から第10課のまとめ
- 第15回 第11課(1)指示代名詞
- 第16回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(1)
- 第17回 第11課(2)定関係代名詞
- 第18回 第11課(3)不定関係代名詞
- 第19回 第12課(1)受動態の仕組み
- 第20回 第12課(2)受動態過去形
- 第21回 第12課(3)状態受動
- 第22回 第12課(4)その他の受動表現
- 第23回 第13課(1)接続法の仕組み
- 第24回 第13課(2)非現実話法
- 第25回 第13課(3)間接話法
- 第26回 第13課(4)この課のまとめ
- 第27回 第11課から第13課までのまとめ
- 第28回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(2)
- 第29回 学期全体の学習内容をふまえた会話と読解の練習
- 第30回 学期全体のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

初回に配布する進度表(チェックリスト)を参考に、授業内容を教科書で予習・復習しましょう。前回の授業内容確認のための小テストの準備も忘れずに。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間(目安30分)を必ず作りましょう。夏休みを挟みますので、前期の内容を折に触れて復習することも必要になります。教科書付属の音源を用いて発音練習を充分にしてください。

◆成績評価の方法◆

定期試験で70%、平常点(確認テスト、提出物、積極的授業参加)で30%とし、総合的に評価します。提出物には次の授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CDで学ぶドイツ語入門 改訂版』三瓶愼一著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞書は授業受講時に毎回手元に用意してください。辞書の使い方を授業時間内に勉強する機会が前期より多くなります。

◆留意事項◆

授業での積極的学習と授業時間外での予習復習を心がけてください。授業への取り組みが不十分な場合、成績評価試験(中間・期末)の受験資格を失います。わからないことがあれば必ず質問しましょう。公欠等は事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	FSS029N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅱ		
科目詳細	1b		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-301, 5-302	開講学期	後期
曜日・時限	火1,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

●基礎となる文法をしっかりと身に付ける。●過去の出来事やこれからの予定について話したり尋ねたりできる。●少し複雑な文章を書いたり理解したりできる。●ドイツ語が話されている国々の文化に親しむ。●日本やドイツの文化と習慣についてドイツ語で話す。

◆授業内容・計画◆

パン職人の卵のヨーコさんが、ドイツへ修業に行きます。語学学校で知り合った友人たちとの交流を中心にストーリーは進んでいきます。各課のテーマ毎に、語彙と表現の習得・テキスト読解・聞き取りと作文練習などを行います。対話練習とグループワークを多く行います。また、教科書のコラムを利用し、ドイツ語圏の社会や文化についてのレポートを全員で分担して行います。

- 第1回 スピーチ「夏休みの出来事」、前期の復習
- 第2回 第7課(1) テーマ「どちらへ行きますか？」
- 第3回 第7課(2) 旅行に関する語彙、時刻表現
- 第4回 第7課(3) 再帰代名詞と再帰動詞
- 第5回 第7課(4) 一日の行動を表す表現
- 第6回 第7課(5) 旅行計画を書く
- 第7回 第8課(1) テーマ「週末に何をしましたか？」
- 第8回 第8課(2) 三基本形
- 第9回 第8課(3) 過去分詞、現在完了
- 第10回 第7課・第9課前半の確認テストと復習
- 第11回 第8課(4) 過去人称変化
- 第12回 第8課(5) 過去の出来事を書く
- 第13回 第9課(1) テーマ「ニュルンベルクのクリスマス」
- 第14回 第9課(2) 観光案内を読む
- 第15回 第9課(3) 受動態
- 第16回 第9課(4) 関係代名詞、関係副詞
- 第17回 第9課(5) クリスマスに関する語彙
- 第18回 第9課(6) 関係代名詞を含む文章を読む
- 第19回 第8課後半・第9課の確認テストと復習
- 第20回 第10課(1) テーマ「日本のお正月」
- 第21回 第10課(2) 日本の正月の習慣についてドイツ語で読む
- 第22回 第10課(3) 形容詞の格変化
- 第23回 第10課(4) 形容詞の比較級・最上級
- 第24回 第10課(5) 年末年始の習慣についてドイツ語で書く
- 第25回 文法補説:接続法Ⅱ式、Ⅰ式
- 第26回 文法補説:現在分詞、序数
- 第27回 第10課・文法補説の確認テストと復習
- 第28回 ドイツの社会・文化・歴史について口頭発表
- 第29回 まとめと評価(1) ドイツ語表現力(作文課題)
- 第30回 まとめと評価(2) ドイツ事情レポート作成提出

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習してから次の授業に臨んでください。(目安30分×週2回)
- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習の方法:まずCDを聴き、繰り返し音読し、さらに書いて覚えてください。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う3回の確認テスト(筆記と聞き取り)、ドイツ事情レポートの提出、課題提出、復習、授業への積極的取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『グーテ・ライゼ！〈新訂増補版〉』伊藤直子ほか(郁文堂)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ベレ出版)

◆留意事項◆

初めての外国語では、毎時間新しいことを学びます。特に教科書の後半は、複雑な表現が登場します。身に付けるためには、繰り返し練習が大切です。時間割に従って学習を進めることと、自ら復習することを心がけてください。

ナンバリング	FSS029N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅱ		
科目詳細	1c		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	03
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火2.金1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に引き続き、同じ教員による週2回の授業で、初級ドイツ語文法をひと通り習得します。辞書を使えば、平易に書かれた文章は読めるようになります。簡単な会話ができ、短い文章を書くことができるようになります。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 第7課(1)形容詞語尾
- 第3回 第7課(2)序数
- 第4回 第7課(3)比較級
- 第5回 第7課(4)最上級
- 第6回 第8課(1)分離動詞
- 第7回 第8課(2)非分離動詞
- 第8回 第9課(1)三基本形
- 第9回 第9課(2)現在完了形
- 第10回 第9課(3)過去形
- 第11回 第9課(4)この課のまとめ
- 第12回 第10課(1)zu不定詞の仕組み
- 第13回 第10課(2)zu不定詞句を用いた表現
- 第14回 第7課から第10課のまとめ
- 第15回 第11課(1)指示代名詞
- 第16回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(1)
- 第17回 第11課(2)定関係代名詞
- 第18回 第11課(3)不定関係代名詞
- 第19回 第12課(1)受動態の仕組み
- 第20回 第12課(2)受動態過去形
- 第21回 第12課(3)状態受動
- 第22回 第12課(4)その他の受動表現
- 第23回 第13課(1)接続法の仕組み
- 第24回 第13課(2)非現実話法
- 第25回 第13課(3)間接話法
- 第26回 第13課(4)この課のまとめ
- 第27回 第11課から第13課までのまとめ
- 第28回 これまでの学習内容をふまえて知るドイツ文化(2)
- 第29回 学期全体の学習内容をふまえた会話と読解の練習
- 第30回 学期全体のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

初回に配布する進度表(チェックリスト)を参考に、授業内容を教科書で予習・復習しましょう。前回の授業内容確認のための小テストの準備も忘れずに。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間(目安30分)を必ず作りましょう。夏休みを挟みますので、前期の内容を折に触れて復習することも必要になります。教科書付属の音源を用いて発音練習を充分にしてください。

◆成績評価の方法◆

定期試験で70%、平常点(確認テスト、提出物、積極的授業参加)で30%とし、総合的に評価します。提出物には次の授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CDで学ぶドイツ語入門 改訂版』三瓶愼一著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞書は授業受講時に毎回手元に用意してください。辞書の使い方を授業時間内に勉強する機会が前期より多くなります。

◆留意事項◆

授業での積極的学習と授業時間外での予習復習を心がけてください。授業への取り組みが不十分な場合、成績評価試験(中間・期末)の受験資格を失います。わからないことがあれば必ず質問しましょう。公欠等は事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2a		
担当教員	末松 淑美		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

●テキストを読み、語彙を増やす。●文法を復習し、読解力を養う。●辞書を使って自力でドイツ語テキストを読み、書けるようになる。

◆授業内容・計画◆

教材『ゲナウ！』シリーズのうち、特に読解に重点が置かれた教科書を使います。各課は、文法と練習・口語表現・読解練習より構成されています。1年次に学んだ文法を復習し、実用的な表現を含んだテキストの読解を通して、基礎語彙の補強と定着、実践的なドイツ語運用力を養います。講読テキストには、『ハイジ』や『アンネの日記』などの文学作品も含まれます。必要に応じて、文法練習や講読のプリントを補いながら授業を進めます。

第1回 発音の復習、挨拶表現、第1課(1):自己紹介
第2回 第1課(2)プロフィールを読む・書く 第2課(1):ドイツ語圏の国々
第3回 第2課(2) 文法:動詞の現在人称変化(不規則) 国々の事情と言語
第4回 第3課(1) 文法:定冠詞・不定冠詞 ドイツ語圏の観光スポット
第5回 第3課(2) 広告文 第4課(1) 文法:複数形・人称代名詞
第6回 第4課(2) ドイツ語圏の食べ物・飲み物 レシピを読む
第7回 確認テスト(1)と復習
第8回 第5課(1) 文法:不定冠詞類・定冠詞類 建物の名称
第9回 第5課(2) 家族と職業 仕事を探す
第10回 第6課(1) 余暇活動 趣味の表現 文法:現在人称変化(幹母音の変音)
第11回 第6課(2) 講読:ハイジ
第12回 第7課(1) 日記とメール 文法:話法の助動詞・未来形
第13回 第7課(2) 講読:アンネの日記
第14回 確認テスト(2)と復習
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:文法ページの解説を読み、練習問題を解いておく。講読テキストについては、CDを聴き、音読する。分からない単語を調べておく。
復習:読み終わった例文やテキストを、繰り返し音読する。新しく学んだ表現は、書いて覚える。
(目安毎週約60分)

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回の確認テスト(筆記と聞き取り)と、準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ゲナウ！ レーゼン ノイ』新倉真矢子ほか著(第三書房)

◆参考図書◆

『説明がくわしいドイツ語入門』岡本順治(白水社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)
『独検イラスト単語集2・3・4級レベル』ヴォルフガング・シュレヒト;木川弘美(三修社)

◆留意事項◆

外国語を身につけるには、繰り返し練習が大切です。根気よく文章を音読し、語の意味を覚え、使ううちに、必ず「自力で読む力・書く力」が育ちます。

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2a		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナー、およびグループの中で行います。

第一回 イン트로ダクション
 第二回 第1課 自己紹介/導入
 第三回 第1課 自己紹介/文法
 第四回 第2課 職業/パートナー会話
 第五回 第2課 職業/グループ練習
 第六回 第3課 家族/導入
 第七回 第3課 家族/文法
 第八回 第4課 買い物/パートナー会話
 第九回 第4課 買い物/グループ練習
 第十回 第5課 物体/導入
 第十一回 第5課 物体/文法
 第十二回 第6課 職場/パートナー会話
 第十三回 第6課 職場/グループ練習
 第十四回 テストとふりかえり
 第十五回 まとめ
 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)
 授業内での活動(50%)
 学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Sandra Evans et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch, Hueber 2012
 Sabine Glas-Peters et al: Menschen A1.1. Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch, Hueber 2012

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2b		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	2年	クラス	02
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学生は、簡単なプレゼンテーションやリスニングなどを通し、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得します。さらに、このコースでは、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。また、言葉の背景にある文化の違いについても、理解し易いように配慮してありますが、会話は“会得”してこそ価値が発揮されるものですから、学生には、予習、復習に努め、その都度習得していくことが求められます。

◆授業内容・計画◆

Sie können...

1. sich vorstellen
2. sich begrüßen und verabschieden
3. über Berufe sprechen
4. über Persönliches sprechen
5. einen kurzen Text über sich schreiben
6. über Ihre Familie sprechen
7. über Ihre Sprachkenntnisse sprechen
8. Hilfe anbieten
9. nach Preisen fragen und Preise nennen
10. etwas bewerten
11. nach Wörtern fragen und Wörter nennen
12. etwas beschreiben
13. Dinge im Singular und Plural benennen
14. sagen, ob Sie etwas besitzen oder nicht
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch mit Lerner-DVD-ROM

著者: Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783193619013

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch mit Audio-CD

著者: Sabine Glas-Peters, Angela Pude, Monika Reimann

出版社: Hueber

9783193119018

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2b		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	2年	クラス	02
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

1) 初級文法の復習と定着 2) 平易な文の読解や、簡単な作文ができるようになる 3) 辞書を用いた読解技術の向上

◆授業内容・計画◆

外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱで学習した内容をもとに、短いテキストの読解を通して初級文法を復習し、文章の読み方を勉強します。文法項目に関してはおさらいビデオを用意し、反転授業とします。母語話者の先生が担当される時間に「話す・聴く」の勉強をしますので、この授業では「読む・書く」に集中します。音大生のライブツィヒ留学を題材とした教科書『わくわくライブツィヒ』を用いて丁寧かつ楽しく文法の復習をしつつ、ドイツ語圏での滞在や留学生活にも活用できる短い読解や作文ができるようになります。辞書をひいてドイツ語を精読する練習も行います。

全15回の授業計画(主に扱う文法項目)

第1回 イントロダクション 発音チェック

第2回 Lektion 1-1 (動詞の現在人称変化 規則動詞)

第3回 Lektion 1-2 (動詞の現在人称変化 不規則動詞)

第4回 Lektion 2-1 (名詞の性・格と冠詞の変化)

第5回 Lektion 2-2 (所有冠詞)

第6回 Lektion 3 (名詞の複数形・人称代名詞)

第7回 紙辞書を用いた初見テキスト読解演習(1)30ワード程度のドイツ語文

第8回 Lektion 4-1 (分離動詞・非分離動詞)

第9回 Lektion 4-2 (話法の助動詞)

第10回 Lektion 5 (前置詞)

第11回 Lektion 6-1 (再帰代名詞と再帰動詞)

第12回 Lektion 6-2 (命令形)

第13回 ここまでの文法事項まとめ

第14回 紙辞書を用いた初見テキスト読解演習(2)35ワード程度のドイツ語文

第15回 学期全体のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

初回に配布する詳しい進度リストを参考に、授業内容を必ず予習しておくこと。特に練習問題や読解課題にあらかじめ取り組んでおくことは最低限必要な準備です。毎回の小テストの準備も忘れずに。小テストは前回の授業内容の復習を兼ねています。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間を必ず作ること。(予習時間目安1時間)

◆成績評価の方法◆

小テストと担当課題の成果物(成績全体の約30%)および定期試験の点数(成績全体の約70%)を基本とし、普段の授業における取り組みから総合的に判断します。毎回の授業で行う小テストや課題成果物には次回授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『わくわくライブツィヒ』清野智昭他著(朝日出版社)

◆参考図書◆

独和辞書(毎回の授業時に必ず手元に用意すること。まだ持っていない場合は『クラウン独和辞典 第5版』(三省堂)を勧めますが、附属図書館などでいくつかの初級・中級向けの辞書を比較して、自分が使いやすい辞書を見つけましょう。不明な場合、慌てて購入せず、初回授業時に質問してください。)

※文法事項をより確実に定着させたい人には次の参考書を勧めます。

中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ 改訂版』(白水社)

※独検やゲーテ検定の受験を目指す皆さんは、附属図書館の外国語コーナーにある各種過去問題集、対策問題集、単語集を存分に活用してください。

◆留意事項◆

毎回の授業の冒頭で小テストをします。その累積点数を成績に反映させます。必修2年目のドイツ語にはこれまで以上に十分な予習時間が必要です。そのことを強く意識して勉強時間を確保してください。授業で不明な点は、積極的に質問をして解消していきましょう。公欠は、必ず事前に担当者へ個別に申し出ること。授業への取り組みや教員との連絡が不十分な場合、定期試験(中間・期末)の受験資格を失うので注意すること。

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2c		
担当教員	末松 淑美		
学年	2年	クラス	03
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

●テキストを読み、語彙を増やす。●文法を復習し、読解力を養う。●辞書を使って自力でドイツ語テキストを読み、書けるようになる。

◆授業内容・計画◆

教材『ゲナウ！』シリーズのうち、特に読解に重点が置かれた教科書を使います。各課は、文法と練習・口語表現・読解練習より構成されています。1年次に学んだ文法を復習し、実用的な表現を含んだテキストの読解を通して、基礎語彙の補強と定着、実践的なドイツ語運用力を養います。講読テキストには、『ハイジ』や『アンネの日記』などの文学作品も含まれます。必要に応じて、文法練習や講読のプリントを補いながら授業を進めます。

第1回 発音の復習、挨拶表現、第1課(1): 自己紹介
第2回 第1課(2) プロフィールを読む・書く 第2課(1): ドイツ語圏の国々
第3回 第2課(2) 文法: 動詞の現在人称変化(不規則) 国々の事情と言語
第4回 第3課(1) 文法: 定冠詞・不定冠詞 ドイツ語圏の観光スポット
第5回 第3課(2) 広告文 第4課(1) 文法: 複数形・人称代名詞
第6回 第4課(2) ドイツ語圏の食べ物・飲み物 レシピを読む
第7回 確認テスト(1)と復習
第8回 第5課(1) 文法: 不定冠詞類・定冠詞類 建物の名称
第9回 第5課(2) 家族と職業 仕事を探す
第10回 第6課(1) 余暇活動 趣味の表現 文法: 現在人称変化(幹母音の変音)
第11回 第6課(2) 講読: ハイジ
第12回 第7課(1) 日記とメール 文法: 話法の助動詞・未来形
第13回 第7課(2) 講読: アンネの日記
第14回 確認テスト(2)と復習
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習: 文法ページの解説を読み、練習問題を解いておく。講読テキストについては、CDを聴き、音読する。分からない単語を調べておく。
復習: 読み終わった例文やテキストを、繰り返し音読する。新しく学んだ表現は、書いて覚える。
(目安毎週約60分)

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回の確認テスト(筆記と聞き取り)と、準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ゲナウ！ レーゼン ノイ』新倉真矢子ほか著(第三書房)

◆参考図書◆

『説明がくわしいドイツ語入門』岡本順治(白水社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)
『独検イラスト単語集2・3・4級レベル』ヴォルフガング・シュレヒト; 木川弘美(三修社)

◆留意事項◆

外国語を身につけるには、繰り返し練習が大切です。根気よく文章を音読し、語の意味を覚え、使ううちに、必ず「自力で読む力・書く力」が育ちます。

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2c		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	2年	クラス	03
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナー、およびグループの中で行います。

第一回 イン트로ダクション
 第二回 第1課 自己紹介 文法
 第三回 第1課 自己紹介 会話練習
 第四回 第2課 職業 文法
 第五回 第2課 職業 会話練習
 第六回 第3課 家族 文法
 第七回 第3課 家族 会話練習
 第八回 第4課 買い物 文法
 第九回 第4課 買い物 会話練習
 第十回 第5課 物体 文法
 第十一回 第5課 物体 会話練習
 第十二回 第6課 職場 文法
 第十三回 第6課 職場 会話練習
 第十四回 テストとふりかえり
 第十五回 まとめ
 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)
 授業内での活動(50%)
 学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Sandra Evans et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch, Hueber 2012
 Sabine Glas-Peters et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch, Hueber 2012

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS033N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅲ		
科目詳細	2d		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	2年	クラス	04
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学生は、簡単なプレゼンテーションやリスニングなどを通し、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得します。さらに、このコースでは、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。また、言葉の背景にある文化の違いについても、理解し易いように配慮してありますが、会話は“会得”してこそ価値が発揮されるものですから、学生には、予習、復習に努め、その都度習得していくことが求められます。

◆授業内容・計画◆

Sie können...

1. sich vorstellen
2. sich begrüßen und verabschieden
3. über Berufe sprechen
4. über Persönliches sprechen
5. einen kurzen Text über sich schreiben
6. über Ihre Familie sprechen
7. über Ihre Sprachkenntnisse sprechen
8. Hilfe anbieten
9. nach Preisen fragen und Preise nennen
10. etwas bewerten
11. nach Wörtern fragen und Wörter nennen
12. etwas beschreiben
13. Dinge im Singular und Plural benennen
14. sagen, ob Sie etwas besitzen oder nicht
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch mit Lerner-DVD-ROM

著者: Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783193619013

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch mit Audio-CD

著者: Sabine Glas-Peters, Angela Pude, Monika Reimann

出版社: Hueber

9783193119018

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2a		
担当教員	末松 淑美		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●テキストを読み、語彙を増やす。●文法を復習し、読解力を養う。●辞書を使って自力でドイツ語テキストを読み、書けるようになる。

◆授業内容・計画◆

教材『ゲナウ！』シリーズのうち、特に読解に重点が置かれた教科書を使います。各課は、文法と練習・口頭表現・読解練習より構成されています。1年次に学んだ文法を復習し、実用的な表現を含んだテキストの読解を通して、基礎語彙の補強と定着、実践的なドイツ語運用力を養います。講読テキストには、説明文やインタビューのほかに、童話『小さな魔女』(オトフリート・プロイスラー)などの文学作品も含まれます。必要に応じて、文法練習や講読のプリントを補いながら授業を進めます。

第1回 夏休みの出来事を話す 第8課(1) 文法:前置詞・再帰動詞
第2回 第8課(2) 祝祭 日付の表現 説明文(ドイツの祝祭)を読む
第3回 第9課(1) インタビュー 文法:分離動詞・非分離動詞・zu不定詞句
第4回 第9課(2) 時刻表現 聖トーマス教会合唱団インタビューを読む
第5回 第10課(1) 文法:動詞の三基本形(1)・過去形・現在完了形
第6回 第10課(2) 講読:童話『小さな魔女』
第7回 確認テスト(1)と復習
第8回 第11課 文法:動詞の三基本形(2)・受動態
第9回 第11課 講読:説明文(HARIBOのクマ型グミ)を読む
第10回 第12課 文法:形容詞の変化・比較
第11回 第12課 文法:関係代名詞
第12回 第12課 講読:童話『インソップ物語』
第13回 文法:接続法 講読プリント(1)
第14回 確認テスト(2)と復習
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:文法ページの解説を読み、練習問題を解いておく。講読テキストについては、CDを聴き、音読する。分からない単語を調べておく。
復習:読み終わった例文やテキストを、繰り返し音読する。新しく学んだ表現は、書いて覚える。
(目安毎週約60分)

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回の確認テスト(筆記と聞き取り)、課題提出、復習、授業への積極的取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ゲナウ！ レーゼン ノイ』新倉真矢子ほか著(第三書房)

◆参考図書◆

『説明がくわしいドイツ語入門』岡本順治(白水社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ベレ出版)
『独検イラスト単語集2・3・4級レベル』ヴォルフガング・シュレヒト;木川弘美(三修社)

◆留意事項◆

(1)外国語を身につけるには、繰り返し練習が大切です。根気よく文章を読み、語の意味を覚え、使ううちに、必ず「自力で読む力・書く力」が育ちます。
(2)「聞く力・話す力」を養うための近道は音読です。教材に出てきたドイツ語をCDで聞いたり音読したり、繰り返し練習しましょう。

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2a		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナー、およびグループの中で行います。

第1回 イン트로ダクション
第2回 テキスト第7課 趣味 文法
第3回 テキスト第7課 趣味 会話練習
第4回 テキスト第8課 約束事をする 文法
第5回 テキスト第8課 約束事をする 会話練習
第6回 テキスト第9課 食べ物 文法
第7回 テキスト第9課 食べ物 会話練習
第8回 テキスト第10課 旅行 文法
第9回 テキスト第10課 旅行 会話練習
第10回 テキスト第11課 日常生活 文法
第11回 テキスト第11課 日常生活 会話練習
第12回 テキスト第12課 行事 文法
第13回 テキスト第12課 行事 会話練習
第14回 テストとふりかえり
第15回 まとめ

一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)
授業内での活動(50%)
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Sandra Evans et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch, Hueber 2012
Sabine Glas-Peters et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch, Hueber 2012

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2b		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	2年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

このコースは前期に引き続き、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得するコースです。学生は、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

Sie können ...

1. Komplimente machen
2. über Freizeitaktivitäten sprechen
3. um etwas bitten und sich bedanken
4. sich verabreden
5. die Uhrzeit nennen
6. einen Vorschlag machen und darauf reagieren
7. eine Einladung/Absage schreiben
8. über Ihre Essgewohnheiten sprechen
9. sich informieren und ein Telefongespräch führen
10. über Vergangenes sprechen
11. eine E-Mail schreiben
12. über Feste sprechen
13. über Reisen sprechen
14. einen Informationstext verstehen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch mit Lerner-DVD-ROM

著者: Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783193619013

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch mit Audio-CD

著者: Sabine Glas-Peters, Angela Pude, Monika Reimann

出版社: Hueber

9783193119018

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2b		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	2年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

1)初級文法の復習と定着 2)平易な文の読解や簡単な作文ができるようになる 3)辞書を用いた読解技術の向上

◆授業内容・計画◆

これまで学習した内容をもとに、短いテキストの読解を通して初級文法を復習し、文章の読み方を勉強します。母語話者の先生が担当される時間に「話す・聴く」の勉強をしますので、この授業では「読む・書く」に集中します。文法に関してはおさらいビデオを用意し、反転授業とします。前期にひきつづき、教科書『わくわくライブツィヒ』で音源や動画も活用して楽しく文法の知識を定着させましょう。ドイツ語圏での滞在や留学生活などに活用できる短い読解や作文を練習します。ドイツ語のしくみに関する知識を復習すると同時に、自分の言いたいことを発信するための基礎固めをします。辞書のひき方を実践的に勉強することも非常に重要ですので授業内で練習を積み重ねます。

- 全15回の授業計画(主に扱う文法項目)
- 第1回 イントロダクション
- 第2回 Lektion 7-1 (形容詞の格変化と比較表現)
- 第3回 Lektion 7-2 (話法の助動詞)
- 第4回 Lektion 8 (従属接続詞と副文)
- 第5回 Lektion 9-1 (現在完了形)
- 第6回 Lektion 9-2 (過去形)
- 第7回 紙辞書を用いた初見テキスト読解演習(1)35ワード程度のドイツ語文
- 第8回 ここまでの文法事項のまとめ
- 第9回 Lektion 10-1 (受動態)
- 第10回 Lektion 10-2 (関係文)
- 第11回 Lektion 11 (zu不定詞句・未来形)
- 第12回 Lektion 12 (接続法)
- 第13回 ここまでの文法項目のまとめ
- 第14回 紙辞書を用いた初見テキスト読解演習(2)40ワード程度のドイツ語文
- 第15回 学期全体のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

初回に配布する詳しい進度リストを参考に、授業内容を必ず予習しておくこと。特に練習問題や読解課題には授業前にあらかじめ取り組んでおくことが最低限必要な準備です。毎回の小テストの準備も忘れずに。小テストは前回の授業内容の復習を兼ねています。不明な点が残っていないか、覚えるべきことは覚えられているか、授業の前に見直す時間を必ず作ること。(予習時間目安1時間)

◆成績評価の方法◆

小テストと担当課題成果物の累計点数(成績全体の約30%)および定期試験の点数(成績全体の約70%)を基本とし、普段の授業における取り組みから総合的に判断します。毎回の授業で行う小テストや課題の成果物には次回授業時にフィードバックをします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『わくわくライブツィヒ』清野智昭他著(朝日出版社)

◆参考図書◆

独和辞書(紙媒体、毎回の授業時に必ず手元に用意すること。万一まだ持っていない場合は『クラウン独和辞典 第5版』(三省堂)を勧めますが、附属図書館などでいくつかの初級・中級向けの辞書を比較して、自分が使いやすい辞書を見つけましょう。不明な場合、慌てて購入せず、初回授業時に質問してください。)

※文法事項をより確実に定着させたい人には次の参考書を勧めます。

中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ 改訂版』(白水社)

※独検やゲーテ検定の受験を目指す皆さんは、附属図書館の外国語コーナーにある各種過去問題集、対策問題集、単語集を存分に活用してください。

◆留意事項◆

毎回の授業冒頭に、語彙拡充や前回授業内容を復習するための小テストをします。その累積点数を成績に反映させます。必修2年目のドイツ語には十分な予習時間が必要です。特に演奏活動が増える後期には強く意識して勉強時間を確保してください。授業で不明な点は、積極的に質問をして解消していきましょう。公欠は、必ず事前に担当者へ個別に申し出ること。授業への取り組みが不十分な場合、定期試験(中間・期末)の受験資格を失うので注意すること。

※後期のみ の再履修者は4月に教科書を必ず手元に用意し、前期の範囲を自習しておくことを強く推奨します。該当者は4月の外国語履修相談室に来室し、具体的な勉強方法を相談してください。

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2c		
担当教員	末松 淑美		
学年	2年	クラス	03
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●テキストを読み、語彙を増やす。●文法を復習し、読解力を養う。●辞書を使って自力でドイツ語テキストを読み、書けるようになる。

◆授業内容・計画◆

教材『ゲナウ！』シリーズのうち、特に読解に重点が置かれた教科書を使います。各課は、文法と練習・口頭表現・読解練習より構成されています。1年次に学んだ文法を復習し、実用的な表現を含んだテキストの読解を通して、基礎語彙の補強と定着、実践的なドイツ語運用力を養います。講読テキストには、説明文やインタビューのほかに、童話『小さな魔女』(オトフリート・プロイスラー)などの文学作品も含まれます。必要に応じて、文法練習や講読のプリントを補いながら授業を進めます。

第1回 夏休みの出来事を話す 第8課(1) 文法:前置詞・再帰動詞
第2回 第8課(2) 祝祭 日付の表現 説明文(ドイツの祝祭)を読む
第3回 第9課(1) インタビュー 文法:分離動詞・非分離動詞・zu不定詞句
第4回 第9課(2) 時刻表現 聖トーマス教会合唱団インタビューを読む
第5回 第10課(1) 文法:動詞の三基本形(1)・過去形・現在完了形
第6回 第10課(2) 講読:童話『小さな魔女』
第7回 確認テスト(1)と復習
第8回 第11課 文法:動詞の三基本形(2)・受動態
第9回 第11課 講読:説明文(HARIBOのクマ型グミ)を読む
第10回 第12課 文法:形容詞の変化・比較
第11回 第12課 文法:関係代名詞
第12回 第12課 講読:童話『インソップ物語』
第13回 文法:接続法 講読プリント(1)
第14回 確認テスト(2)と復習
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:文法ページの解説を読み、練習問題を解いておく。講読テキストについては、CDを聴き、音読する。分からない単語を調べておく。
復習:読み終わった例文やテキストを、繰り返し音読する。新しく学んだ表現は、書いて覚える。
(目安毎週約60分)

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回の確認テスト(筆記と聞き取り)、課題提出、復習、授業への積極的取り組みを総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ゲナウ！ レーゼン ノイ』新倉真矢子ほか著(第三書房)

◆参考図書◆

『説明がくわしいドイツ語入門』岡本順治(白水社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ベレ出版)
『独検イラスト単語集2・3・4級レベル』ヴォルフガング・シュレヒト;木川弘美(三修社)

◆留意事項◆

(1)外国語を身につけるには、繰り返し練習が大切です。根気よく文章を読み、語の意味を覚え、使ううちに、必ず「自力で読む力・書く力」が育ちます。
(2)「聞く力・話す力」を養うための近道は音読です。教材に出てきたドイツ語をCDで聞いたり音読したり、繰り返し練習しましょう。

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2c		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	2年	クラス	03
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナー、およびグループの中で行います。

第1回 イントロダクション
第2回 テキスト第7課 趣味 文法
第3回 テキスト第7課 趣味 会話練習
第4回 テキスト第8課 約束事をする 文法
第5回 テキスト第8課 約束事をする 会話練習
第6回 テキスト第9課 食べ物 文法
第7回 テキスト第9課 食べ物 会話練習
第8回 テキスト第10課 旅行 文法
第9回 テキスト第10課 旅行 会話練習
第10回 テキスト第11課 日常生活 文法
第11回 テキスト第11課 日常生活 会話練習
第12回 テキスト第12課 行事 文法
第13回 テキスト第12課 行事 会話練習
第14回 テストとふりかえり
第15回 まとめ

一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)
授業内での活動(50%)
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Sandra Evans et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch, Hueber 2012
Sabine Glas-Peters et al: Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch, Hueber 2012

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS037N		
科目名	外国語コミュニケーション(ドイツ語)Ⅳ		
科目詳細	2d		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	2年	クラス	O4
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

このコースは前期に引き続き、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得するコースです。学生は、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

Sie können...

1. Komplimente machen
2. über Freizeitaktivitäten sprechen
3. um etwas bitten und sich bedanken
4. sich verabreden
5. die Uhrzeit nennen
6. einen Vorschlag machen und darauf reagieren
7. eine Einladung/Absage schreiben
8. über Ihre Essgewohnheiten sprechen
9. sich informieren und ein Telefongespräch führen
10. über Vergangenes sprechen
11. eine E-Mail schreiben
12. über Feste sprechen
13. über Reisen sprechen
14. einen Informationstext verstehen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Kursbuch mit Lerner-DVD-ROM

著者: Sandra Evans, Angela Pude, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783193619013

Menschen A1.1 Deutsch als Fremdsprache Arbeitsbuch mit Audio-CD

著者: Sabine Glas-Peters, Angela Pude, Monika Reimann

出版社: Hueber

9783193119018

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	FSS026N		
科目名	外国語コミュニケーション(イタリア語)Ⅰ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目録◆

週2回の授業で「聞く・読む・書く・話す」力をバランスよく身につけるとともに、言葉の背景となるイタリア文化の理解を深めることを目指しています。言葉は文化の一部として捉えるとその学習の意義がより明確になります。「聞く・話す」力を育てるためには、聞く練習をベースにした授業を行います。「読む・書く」力では聞く練習から得られた知識を使って、書き言葉にふさわしい表現を目指します。英語とは全く違う辞書の引き方も練習していきます。また、読む練習の目的は理解した内容をイタリア語で様々な形で表現することです。「理解」していないと「記憶」することもできないため、「覚える」ことより、「理解すること」を優先します。必修科目の最終目標は学生が自立的に勉強できるようにすること、イタリア人とコミュニケーションできるようにすること、そして歌詞の理解のためのベースを作ることです。

◆授業内容・計画◆

Nuovissimo progetto italiano（Unità introduttiva ～ Unità 1、pp. 5～28）

- ガイダンス。Benvenuti! 言葉と文字 (p.5)
- イタリア語の綴りと発音 (1) (p.6)
- 主な単数形と複数形 (p.7)
- 自己紹介。動詞 essere・形容詞・聞く練習と発音の練習 (p.8)
- 人を紹介する。国籍を表す形容詞。形容詞 (1)、綴りと発音 (2) (p.9)
- 冠詞 (1) 定冠詞の意味、形と使い分け (男性形/女性形・単数形/複数形、p.10)、1～10までの数字(p.11)
- 綴りと発音 (3) Chi è? 聞く練習 (p.12)
- 動詞 avereとchiamarsi (p.13)、20までの数字、綴りと発音 (4)、(p.14)
- Unità 1. Un nuovo inizio 聞く練習の準備 (p.15)
- 聞く練習、発音の練習 (p.16)
- 理解の確認と会話の練習 (p.17)
- 規則動詞 -areの人称変化とその意味 (p.18)
- まとめと確認 (1)
- まとめと確認 (2)
- 規則動詞 -ereの人称変化とその意味(p.18)
- 規則動詞 -ireの人称変化とその意味(p.18)
- Una pizza con i colleghi. 読む練習の練習と理解の確認 (p.19)
- 冠詞 (2) 不定冠詞の意味と形。定冠詞の意味と不定冠詞の意味の違い (pp.19-20)
- 形容詞 (2) 名詞と形容詞の合わせ方。数・性の一致 (p.20)
- Di dove sei? 聞く練習の練習。理解の確認 (p.21)
- 情報を求める・与える(フォーマル・インフォーマル) (p. 22)
- 挨拶(フォーマル・インフォーマル)(pp. 22-23)
- 情報を求める・与える(練習)(p.24)
- Com'è? 人について話す (外見)(p.25).
- 友達について話す・書く (p. 26)
- イタリア語Ⅰの復習 (1)
- イタリア語Ⅰの復習 (2)
- まとめと確認 (1)
- まとめと確認 (2)

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、その代わりに必ず復習を行い、習ったことを確認してください。授業中はグループで考え、たくさん質問をしてください。授業では「どうすれば自分のイタリア語が作れるか」を目的にしてください。この授業ではイタリア語を作る《努力》が評価されるので、間違いを恐れず、新しい世界を発見するために勉強していると意識してください。補正に配られたプリントは失さないよう大事に保管してください。わからないことは、次の授業がオフィスアワーで正確に質問できるようにしてください。復習時間の目安は、毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト(授業内でフィードバック)と期末試験を中心に評価します。それに加えて、授業への取り組み、発言、課題(授業内でフィードバック)の提出などを総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

T. Marin
『Nuovissimo progetto italiano. Livello elementare A1-A2 Libro dello studente+DVD』
Edilingua

◆参考図書◆

辞書、参考書については、授業内で指示します。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラスの人数、学習状況によって変わります。欠席を避け、授業には積極的に参加してください。この授業は2人の教員が担当しており、15回ずつのブロックで構成されています。出席確認はブロックごとに行われますから、必ずどちらにも継続的に出席してください。どちらかのブロックでの欠席が授業回数の1/3を超えると失格になり、試験を受けられなくなりますから注意してください。また、繰り返される遅刻の場合、3回で欠席1回の扱いとする可能性もあります。

ナンバリング	FSS030N		
科目名	外国語コミュニケーション(イタリア語)Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

週2回の授業で「聞く・読む・書く・話す」力をバランスよく身につけるとともに、言葉の背景となるイタリア文化の理解を深めることを目指しています。言葉は文化の一部として捉えるとその学習の意義がより明確になります。「聞く・話す」力を育てるためには、聞く練習をベースにした授業を行います。「読む・書く」力では聞く練習から得られた知識を使って、書き言葉にふさわしい表現を目指します。英語とは全く違う辞書の引き方も練習していきます。また、読む練習の目的は理解した内容をイタリア語で様々な形で表現することです。「理解」していないと「記憶」することもできないため、「覚える」ことより、「理解する」ことを優先します。必修科目の最終目標は学生が自立的に勉強できるようにすること、イタリア人とコミュニケーションできるようにすること、そして歌詞の理解のためのベースを作ることです。

◆授業内容・計画◆

Nuovissimo progetto italiano – Unità 2 e Unità 3 (p.29 ～ p.53)

- 1.イタリア語Ⅰの復習
2. Unità 2. Tempo libero 空いている時間の過ごし方 (p.29)
3. 空いている時間の過ごし方・聞く練習 (p.30)
4. 頻度が高い不規則動詞andareとvenireとその用法 (p.31)
5. 頻度の高い不規則動詞dare, sapere, stare, uscire, fareとその用法 (p.32)
6. 招待する(受け入れる・断る) 聞く練習 (p.33)
7. 招待する(受け入れる・断る)の様々な表現 (p.34)
8. 様態動詞potere dovere volereの用法と変化 (p.35)
9. Dove abiti? 「どこに住んでいるの」聞く練習 (pp.35-36)
- 10.住宅について話す。間取り、部屋など (pp.36-37)
- 11.2000までの基数と序数、様々な前置詞の用法 (p.37)
- 12.Quando sei libera? 「いつ会えるの?」聞く練習 (p. 38)
- 13.まとめと確認 (1)
- 14.まとめと確認 (2)
- 15.自分の空いている時間について話す・書く (p.39) 時刻の表現。
- 16.I mezzi di trasporto urbano (イタリア語を読む・理解する、辞書の使い方) (p.40)
- 17.Unità 3. In contatto. A che ora? 聞く練習 (p.47)
- 18.冠詞前置詞の用法と見分け方、不定冠詞の複数形 (pp. 46-47)
- 19.Dov' è? 部屋を描写する (p.49)
- 20.配置を表す表現と(p.50)
- 21.C'è/ci sono (p.50)、自分の部屋について語る練習
- 23.Grazie! 情報を求める、与える。聞く練習 (p.52)
- 23.情報を求める、与えるための表現 (p.52)
- 24.所有を表す。所有形容詞(1～3人称単数の単数形)(p.51)
- 25.月、季節、日付に関する表現 (p.53)
- 26.milione/milioniまでの数字 (p.53)
- 27.イタリア語Ⅱの復習 (1)
- 28.イタリア語Ⅱの復習 (2)
- 29.まとめと確認 (1)
- 30.まとめと確認 (2)

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、その代わりに必ず復習を行い、習ったことを確認してください。授業中はグループで考え、たくさん質問をしてください。授業では「どうすれば自分のイタリア語が作れるか」を目的にしてください。この授業ではイタリア語を作る《努力》が評価されるので、間違いを恐れず、新しい世界を発見するために勉強していると意識してください。補足に配られたプリントは失さないよう大事に保管してください。わからないことは、次回の授業かオフィスアワーで正確に質問できるようにしてください。復習時間の目安は、毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト(授業内でフィードバック)と期末試験を中心に評価します。それに加えて、授業への取り組み、発言、課題(授業内でフィードバック)の提出などを総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

T. Marin
『Nuovissimo progetto italiano. Livello elementare A1-A2. Libro dello studente+DVD』
Edilingua

◆参考図書◆

辞書、参考書については、授業内で指示します。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラスの人数、学習状況によって変わります。欠席を避け、授業には積極的に参加してください。この授業は2人の教員が担当しており、15回ずつのブロックで構成されています。出席確認はブロックごとに行われますから、必ずどちらにも継続的に出席してください。どちらかのブロックでの欠席が授業回数の1/3を超えると失格になり、試験を受けられなくなりますから注意してください。また、繰り返される遅刻の場合、3回で欠席1回の扱いとする可能性もあります。

ナンバリング	FSS034N		
科目名	外国語コミュニケーション(イタリア語)Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

週2回の授業で「聞く・読む・書く・話す」力をバランスよく身につけるとともに、言葉の背景となるイタリア文化の理解を深めることを目指しています。言葉は文化の一部として捉えたとその学習の意義がより明確になります。「聞く・話す」力を育てるためには、聞く練習をベースにした授業を行います。「読む・書く」力では聞く練習から得られた知識を使って、書き言葉にふさわしい表現を目指します。英語とは全く違う辞書の引き方も練習していきます。また、読む練習の目的は理解した内容をイタリア語で様々な形で表現することです。「理解」していないと「記憶」することもできないため、「覚える」ことより、「理解すること」を優先します。必修科目の最終目標は学生が自立的に勉強できるようにすること、イタリア人とコミュニケーションできるようにすること、そして歌詞の理解のためのベースを作ることです。

◆授業内容・計画◆

Nuovissimo progetto italiano. Unità 4 ～ Unità 5 （p. 57 ～ p. 85）

- 1.ガイダンス、イタリア語Ⅱの復習
- 2.Unità 4. Buon fine settimana! 聞く練習の準備 (p.57)
- 3.聞く練習。表現と確認 (pp.58～59)
- 4.複合完了形passato prossimoの用法 (p.59)
- 5.完了形の作り方。助動詞と過去分詞 (p.60)
- 6.Ma che cosa è successo? (p.61)
- 7.完了の用法と助動詞の使い分け。場所のci。不規則動詞の完了形 (p.62～63)
- 8.Un fine settimana al museo 読む練習（文の読み方、辞書の使い方の練習、理解の確認）。日付(p.64)
- 9.完了形を用いて話す練習。時間を表す副詞の用法と位置 (pp.64～65)
- 10.Per me un panino. 聞く練習。カフェなどで注文する(pp. 66～67)
- 11.イタリアのカフェと日本のカフェ(習慣と文化の違いについて話す) (p.68)
- 12.Come hai passato il fine settimana? 読む練習（文の読み方、辞書の使い方の練習、理解の確認）(p.69)
- 13.まとめと確認 (1)
- 14.まとめと確認 (2)
- 15.Unità 5.Tempo di vacanze.聞く練習 (pp.73～74)
- 16.規則動詞の未来形の用法と作り方 (p.76)
- 17.規則動詞と不規則動詞の未来形の用法と作り方 (pp.76～77)
- 18.Viaggiare in treno. 聞く練習 (p.78)
- 19.表現と確認 (p.79)
- 20.旅行について話す (p.79)
21. In montagna 読む練習（理解の確認）(p.80)
- 22.Che tempo farà domani? 聞く練習 (p.81)
- 22.天気について話す。(p.82)
- 24.旅行について話す。表現と確認 (p.83)
- 25.Natale fra tradizione e curiosità. 読む練習（文の読み方、辞書の使い方の練習、理解の確認）(p.84)
- 27.イタリア語Ⅲの復習 (1)
- 28.イタリア語Ⅲの復習 (2)
- 29.まとめと確認 (3)
- 30.まとめと確認 (4)

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、その代わりに必ず復習を行い、習ったことを確認してください。授業中はグループで考え、たくさん質問をしてください。授業では「どうすれば自分のイタリア語が作れるか」を目的にしてください。この授業ではイタリア語を作る《努力》が評価されるので、間違いを恐れず、新しい世界を発見するために勉強していると意識してください。補足に配られたプリントは失さないよう大事に保管してください。わからないことは、次の授業かオフィスアワーで正確に質問できるようにしてください。復習時間の目安は、毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト(授業内でフィードバック)と期末試験を中心に評価します。それに加えて、授業への取り組み、発言、課題の提出(授業内でフィードバック)などを総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

Marin T.
“Nuovissimo progetto italiano 1” Libro dello studente con videocorso, Edilingua

◆参考図書◆

辞書、参考書については、授業内で指示します。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラスの人数、学習状況によって変わります。欠席を避け、授業には積極的に参加してください。この授業は2人の教員が担当しており、15回ずつのブロックで構成されています。出席確認はブロックごとに行われますから、必ずどちらにも継続的に出席してください。どちらかのブロックでの欠席が授業回数の1/3を超えると失格になり、試験を受けられなくなりますから注意してください。また、繰り返される遅刻の場合、3回で欠席1回の扱いとする可能性もあります。

ナンバリング	FSS038N		
科目名	外国語コミュニケーション(イタリア語)Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

週2回の授業で「聞く・読む・書く・話す」力をバランスよく身につけるとともに、言葉の背景となるイタリア文化の理解を深めることを目指しています。言葉は文化の一部として捉えたとその学習の意義がより明確になります。「聞く・話す」力を育てるためには、聞く練習をベースにした授業を行います。「読む・書く」力では聞く練習から得られた知識を使って、書き言葉にふさわしい表現を目指します。英語とは全く違う辞書の引き方も練習していきます。また、読む練習の目的は理解した内容をイタリア語で様々な形で表現することです。「理解」していないと「記憶」することもできないため、「覚える」ことより、「理解する」ことを優先します。必修科目の最終目標は学生が自立的に勉強できるようにすること、イタリア人とコミュニケーションできるようにすること、そして歌詞の理解のためのベースを作ることです。

◆授業内容・計画◆

Nuovissimo progetto italiano, Unità 6 ～ Unità 7 (p. 87 ～ p. 111)

- 1.イタリア語Ⅲの復習(完了形・過去について話す。語彙・表現の確認)
- 2.イタリア語Ⅲの復習(未来形・予定について話す。天気について話す。語彙・表現の確認)
3. Unità 6. 聞く練習の準備
4. A cena fuori. 聞く練習 (p.87)
5. 表現、確認 (pp. 88-89)
6. 所有形容詞と所有代名詞の形と用法 (p.90)
7. La famiglia di Gianna 読む練習 (文の読み方、辞書の使い方の練習、理解の確認) (p.91)
8. 家族について話す (p.92)
9. Da "I due fratelli" 聞く練習 (p.93)
10. レストランで注文する。表現と確認 (p.94)
11. Vorrei, mi piaceの意味と用法 (p.94)
12. Facciamo uno spuntino? 読む練習 (理解の確認) (p.95)
- 13.まとめと確認 (1)
- 14.まとめと確認 (2)
- 15.ci vuole/ci voglionoの表現。必要性を表す (p.96)、食文化について話す。イタリアと日本の違い(p.97)
- 16.La cucina italiana: un po' di storia. 読む練習 (辞書の使い方の練習、理解の確認) (p.98)
- 17.Unità 7. Al cinema. 聞く練習の準備 (pp. 101)
- 18.聞く練習(pp.101-102)
- 19.未完了の作り方と用法 (pp.103-104)
- 20.Ti ricordi? 読む練習(理解の確認)(p.105)
- 21.思い出について書く、話す (p.105)
- 22.完了と未完了の使い分けと確認 (1) (p.106)
- 23.完了と未完了の使い分けと確認 (2) (p.107)
24. 簡単なストーリーを語る (p.108)
25. Sei d' accordo? 聞く練習 (p.110)
26. 賛成・不賛成の表し方。il/la più...; i/le più...相対最上級 (p. 110)
25. 習慣と意見について話す(映画、好きな俳優など) (p. 111)
26. 書く練習。映画のあらすじ。(p. 111)
- 27.イタリア語I～Ⅳの復習 (1)
- 28.イタリア語I～Ⅳの復習 (2)
- 29.まとめと確認 (3)
- 30.まとめと確認 (4)

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、その代わりに必ず復習を行い、習ったことを確認してください。授業中はグループで考え、たくさん質問をしてください。授業では「どうすれば自分のイタリア語が作れるか」を目的にしてください。この授業ではイタリア語を作る《努力》が評価されるので、間違いを恐れず、新しい世界を発見するために勉強していると意識してください。補足に配られたプリントは失さないよう大事に保管してください。わからないことは、次の授業かオフィスアワーで正確に質問できるようにしてください。復習時間の目安は、毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト(授業内でフィードバックする)期末試験を中心に評価します。それに加えて、授業への取り組み、発言、課題の提出(授業内でフィードバックする)などを総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

Marin T.
“Nuovissimo progetto italiano 1” Libro dello studente con videocorso, Edilingua

◆参考図書◆

辞書、参考書については、授業内で指示します。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラスの数、学習状況によって変わります。欠席を避け、授業には積極的に参加してください。この授業は2人の教員が担当しており、15回ずつのブロックで構成されています。出席確認はブロックごとに行われますから、必ずどちらにも継続的に出席してください。どちらかのブロックでの欠席が授業回数の1/3を超えると失格になり、試験を受けられなくなりますから注意してください。また、繰り返される遅刻の場合、3回で欠席1回の扱いとする可能性もあります。

ナンバリング	FSS027N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語) I		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

- ・フランス語の発音の仕組みに慣れる。
- ・フランス語の初級文法を学び、フランス語独特の表現に慣れる。
- ・フランス語で簡単な挨拶や自己紹介、質問や応答ができるようになる。
- ・フランス語を聞き、理解し、自分の考えをフランス語で言う力をつける。

◆授業内容・計画◆

授業は下記の教科書を使って週二回進めます。
授業内容:

- 第1週)アルファベ、挨拶、自己紹介、1～10までの数。
- 第2週)ER動詞、否定文。
- 第3週)ER動詞、否定文の演習。
- 第4週)名詞の性、数、冠詞。
- 第5週)名詞の性、数、冠詞の演習。
- 第6週)AVOIR,ETREの活用と用法、所有形容詞。
- 第7週)AVOIR、ETREの演習。
- 第8週)形容詞、所有形容詞。
- 第9週)形容詞、所有形容詞の演習。
- 第10週)ALLER,VENIR(1)、冠詞の縮約形。
- 第11週)ALLER,VENIR(2)、命令形。
- 第12週)複合過去形(1)AVOIRを用いて。
- 第13週)AVOIRを用いる複合過去形の演習。
- 第14週)複合過去形(2)ETREを用いて。
- 第15週)ETREを用いる複合過去形の演習。

◆準備学習の内容◆

新しい外国語を自分のものにするには、ただ漠然と眺めているだけではいけません。授業の前と後の予習、復習は欠かせません。以下の点に気を付けて、1日30分、しっかり準備して授業に臨んでください。
日本語や英語などすでに知っている言語と比較しながら、どういった点が共通で、どこが違うか注意を向けてみましょう。新しい言語の特徴を自分なりの仕方で見つけよう。疑問があったら積極的に質問しましょう。
新しい単語、文法規則などが出てくると、繰り返し書き、発音し、次に同じ単語や規則が出てきても戸惑うことがないようにしておきましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点(小テスト・課題などへの取り組み)及び、期末試験の結果をもとに評価を出します。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ヴワラ!」、伊勢晃、谷口千賀子(早美出版社)。

◆参考図書◆

「仏和辞典」、「和仏辞典」などは、授業内で紹介します。

◆留意事項◆

授業内での熱心な学習と予習復習の繰り返しが大切です。毎日少しずつフランス語とかかわって、音楽のように新しい言葉のシステムに慣れましょう。

ナンバリング	FSS031N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語)Ⅱ		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

- ・フランス語の発音の仕組みに慣れる。
- ・フランス語の初級文法を学び、フランス語独特の表現に慣れる。
- ・フランス語で簡単な挨拶や自己紹介、質問や応答ができるようになる。
- ・フランス語を聞き、理解し、自分の考えをフランス語で言う力をつける。

◆授業内容・計画◆

下記教科書を用い、週2回文法の体系を学びます。

- 第1週) 目的語代名詞、強勢形代名詞。
- 第2週) 目的語代名詞、強勢形代名詞の復習。
- 第3週) 代名動詞。
- 第4週) 代名動詞の復習。
- 第5週) 半過去形、大過去形。
- 第6週) 半過去形、大過去形の復習。
- 第7週) 疑問詞を用いた疑問文。
- 第8週) 疑問詞を用いた疑問文の復習。
- 第9週) 関係代名詞。
- 第10週) 関係代名詞の復習。
- 第11週) 中性代名詞。
- 第12週) 中性代名詞の復習。
- 第13週) 単純未来、前未来形。
- 第14週) 単純未来、前未来形の復習。
- 第15週) 条件法、接続法その他。

◆準備学習の内容◆

新しい外国語を自分のものにするには、ただ漠然と眺めているだけではいけません。授業の前と後の予習、復習は欠かせません。以下の点に気を付けて、1日30分、しっかり準備して授業に臨んでください。

日本語や英語などすでに知っている言語と比較しながら、どういった点が共通で、どこが違うか注意を向けてみましょう。新しい言語の特徴を自分なりの仕方で見つけたい。疑問があったら積極的に質問しましょう。

新しい単語、文法規則などが出てくると、繰り返し書き、発音し、次に同じ単語や規則が出てきても戸惑うことがないようにしておきましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点(小テスト・課題などへの取り組み)及び、期末試験の結果をもとに評価を出します。

授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ヴワラ!」、伊勢晃、谷口千賀子(早美出版社)。

◆参考図書◆

「仏和辞典」、「和仏辞典」などは、授業内で紹介します。

◆留意事項◆

授業内での熱心な学習と予習復習の繰り返しが大切です。毎日少しずつフランス語とかかわって、音楽のように新しい言葉のシステムに慣れましょう。

ナンバリング	FSS035N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語)Ⅲ		
科目詳細	プロシエヌクラス共通シラバス		
担当教員	P. プロシエヌ		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・フランス語を読む、書く、話す力を一層充実させる。・前年度使用した教科書に加え、適宜追加資料を用い、文法知識を確実なものにする。・辞書を引いてフランス語の文章を読むことができるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 1) フランス語のアルファベットと発音練習。
- 2) 「僕たち親友なんだ！」挨拶、自己紹介、国籍。
- 3) 動詞ETREの現在形 表現と語彙、書く練習。
- 4) 復習とロールプレイ演習の準備。
- 5) ロールプレイの本番、フランス文化について(1)挨拶の仕方。
- 6) 「これはなに？」動詞AVOIR の現在形。
- 7) 不定冠詞、表現と語彙、書く練習。
- 8) 復習、ロールプレイ演習の準備。
- 9) ロールプレイ演習の本番、フランス文化について(2): フランスの様々な地域について。
- 10) 「切符がない…」一定冠詞、ER動詞の現在形。
- 11) 否定、表現と語彙、書く練習。
- 12) ロールプレイ演習の準備。
- 13) ロールプレイ演習の本番、フランス文化について(3): フランスの祝日。
- 14) まとめ。

◆準備学習の内容◆

- ・毎回辞書を引いて予習し、語彙や表現の習得に努めて下さい。
- ・予習段階での疑問点をピックアップしておき、授業中に質問して解決しましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点(出席・課題などへの取り組み)及び、期末試験(または課題)の結果をもとに評価。
授業内に適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ピエールとユゴー」、小笠原洋子(白水社)

◆参考図書◆

※適宜紹介予定

◆留意事項◆

授業内での熱心な学習と予習・復習の繰り返しが大切です。
毎日少しずつフランス語とかかわって、音楽のように新しい言葉のシステムに慣れましょう。

ナンバリング	FSS035N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語)Ⅲ		
科目詳細	ビュロークラス共通シラバス		
担当教員	X. ビュロー		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時間		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

コミュニケーションに必要なフランス語の表現力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. 授業の紹介/勉強のリズム
自己紹介(準備)
2. 自己紹介の発表1
3. 自己紹介の発表2
Listeningのプリント1(説明 / 語彙)
4. 自己紹介の発表3
教科書、pp2～12 : 5コ(暗記)
5. 自己紹介の発表4
5コの発表 教科書、pp13～21 : 5コ
Listeningの Chap1 : ①、②
6. 自己紹介の発表5
5コの発表 教科書、pp24～33 : 5コ
Listeningの Chap1 : ③、④、⑤
7. 自己紹介の発表6(終)
5コの発表 教科書、pp34～43 : 5コ
Listeningの Chap1 : ⑥
8. 5コの発表 教科書、pp44～56 : 5コ
Listeningの Chap1 : alphabet/dictee de lettres,...
9. 5コの発表 教科書、pp58～68 : 5コ
Listeningの Chap1 : alphabet (suite) / nombres
10. 5コの発表 教科書、pp69～77 : 5コ
Listeningの Chap1 : exercices 22～25
11. 5コの発表 教科書、pp78～88 : 5コ
Listeningの Chap1 : exercices 26～29
12. 5コの発表 教科書、pp89～99 : 5コ
Listeningの Chap1 : dialoguesの演劇
13. 5コの発表 教科書、pp102～112 : 5コ
Listeningの Chap3 : ①
14. 5コの発表 教科書、pp113～127 : 5コ
Listeningの Chap3 : ②a
15. 5コの発表 教科書、pp128～139 : 5コ
Listeningの Chap3 : ②b,c

◆準備学習の内容◆

毎週、暗記する文書の発表のためには、一週間の間にちゃんと準備して下さい。(毎週合計60分)文章の選び、文書の発音などで。他方、プリントの内容はプリントの語彙、質問はわからなければなりません。個人的にはわからない言葉の意味を辞書で調べて下さい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内での発言・課題などへの取り組み方)をもとに評価を出します。授業内の質問について適宜フィードバックを行います。まず出席して、挨拶から授業参加まで、トータルなコミュニケーション能力を磨いていきましょう。

◆教科書(使用テキスト)◆

「フランス語会話表現ランキング」、飯田良子、Marianne SIMON-OIKAWA, 語研、2015.

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。

第一に授業参加を重視します。

ボンジュール(挨拶)とメルスィー(感謝)とパルドン(お詫び)を大切に、フランス的コミュニケーションの心と形を身につけて表現してください。

ナンバリング	FSS039N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語)Ⅳ		
科目詳細	プロシエヌクラス共通シラバス		
担当教員	P. プロシエヌ		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・フランス語を読む、書く、話す力を一層充実させる。・前年度使用した教科書に加え、適宜追加資料を用い、文法知識を確実なものにする。・辞書を引いてフランス語の文章を読むことができるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 1) フランス語のアルファベットと発音練習。
- 2) 「僕たち親友なんだ！」挨拶、自己紹介、国籍。
- 3) 動詞ETREの現在形 表現と語彙、書く練習。
- 4) 復習とロールプレイ演習の準備。
- 5) ロールプレイの本番、フランス文化について(1)挨拶の仕方。
- 6) 「これはなに？」動詞AVOIR の現在形。
- 7) 不定冠詞、表現と語彙、書く練習。
- 8) 復習、ロールプレイ演習の準備。
- 9) ロールプレイ演習の本番、フランス文化について(2): フランスの様々な地域について。
- 10) 「切符がない…」一定冠詞、ER動詞の現在形。
- 11) 否定、表現と語彙、書く練習。
- 12) ロールプレイ演習の準備。
- 13) ロールプレイ演習の本番、フランス文化について(3): フランスの祝日。
- 14) まとめ。

◆準備学習の内容◆

- ・毎回辞書を引いて予習し、語彙や表現の習得に努めて下さい。
- ・予習段階での疑問点をピックアップしておき、授業中に質問して解決しましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点(出席・課題などへの取り組み)及び、期末試験(または課題)の結果をもとに評価。
授業内に適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

「ピエールとユゴー」、小笠原洋子(白水社)

◆参考図書◆

※適宜紹介予定

◆留意事項◆

授業内での熱心な学習と予習・復習の繰り返しが大切です。
毎日少しずつフランス語とかかわって、音楽のように新しい言葉のシステムに慣れましょう。

ナンバリング	FSS039N		
科目名	外国語コミュニケーション(フランス語)Ⅳ		
科目詳細	ビュロークラス共通シラバス		
担当教員	X. ビュロー		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

コミュニケーションに必要なフランス語の表現力をつける。

◆授業内容・計画◆

- 夏休みの話、複合過去入門
教科書、pp140~150：3コ
- 5コの発表 教科書、pp152~163：3コ
夏休みの話の発表1
- 5コの発表 教科書、pp164~181：3コ
Listening の Chap 3：③
- 6コの発表 教科書、pp182~193：3コ
夏休みの話の発表2
Listening の Chap 3：④、⑤
- 6コの発表 教科書、pp194~203：3コ
夏休みの話の発表3
Listening の Chap 3：⑥
- 6コの発表 教科書、pp352~217：3コ
夏休みの話の発表4(終)
Listening の Chap 3：exercice 21
- 6コの発表 教科書、pp220~235：3コ
Listening の Chap 3：exercices 22~26
- 6コの発表 教科書、pp238~251：3コ
Listening の Chap 3：27=書き取り/ 会話の準備
- 6コの発表 教科書、pp252~262：3コ
Listening の Chap 3：会話の演劇
- Ravel, Jean Echenoz, Chap.1, pp. 1-2
- Ravel, Jean Echenoz, Chap.1, pp. 2-4
- Ravel, Jean Echenoz, Chap.1, pp. 4-5
- Ravel, Jean Echenoz, Chap.1 (fin), Chap.5, pp.1-2
- Ravel, Jean Echenoz, Chap.5, pp. 2-4
- Bolero, Anne Fontaine (2024)

◆準備学習の内容◆

毎週、暗記する文書の発表のためには、一週間の間にちゃんと準備して下さい。(毎週合計60分)文章の選び、文書の発音などで。他方、プリントの内容はプリントの語彙、質問はわからなければなりません。個人的にはわからない言葉の意味を辞書で調べて下さい。後期なので、もう少し楽になります。暗記力はとても上手になります。耳もフランス語をよく聞き取ります。準備はよりカルクになります！

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内での発言・課題などへの取り組み方)をもとに評価を出します。授業内の質問について適宜フィードバックを行います。まず出席して、挨拶と授業参加で、トータルなコミュニケーション能力を磨いていきましょう。

◆教科書(使用テキスト)◆

「フランス語会話表現ランキング」、飯田良子、Marianne SIMON-OIKAWA、語研、2015.

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。
第一に授業参加を重視します。
ボンジュール(挨拶)とメルスィー(感謝)とパルドン(お詫び)を忘れずに、フランス的コミュニケーションの心と形を身に着けて表現することを楽しみましょう。

ナンバリング	LAL216N		
科目名	ヨーロッパ古典文学A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

古代ギリシアの神話と思想について理解を深めた上で、古代ギリシア演劇との関わりを知る。現代の映画やオペラなどによる解釈を作品そのものに照らしながら考えることが出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

ギリシア神話の特異性をヘシオドスの『神統記』によって知ったうえで、ギリシア演劇の代表作の幾つかを検討する。

- 1) 古代ギリシア社会概観。どのような時空に西欧文化の起源は生じたのか。
- 2) ヘシオドスによるギリシア神話概観(1): 世界の始まり。
- 3) ヘシオドスによるギリシア神話概観(2): 神々の世界。
- 4) 神話から文学へ。ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』。トロイア神話について。
- 5) ギリシア演劇とはどのようなものであったか。劇場と演劇の構成。
- 6) ギリシア悲劇の舞台: アテナイとテーバイ。
- 7) テーバイ神話について、ソポクレス、『オイディプス王』: ヴィデオによる鑑賞、あらすじの紹介。
- 8) ソポクレス、『オイディプス王』: 文章による確認。
- 9) ソポクレス、『オイディプス王』の構造と解釈。
- 10) アイスキュロス、『テーバイ攻めの七将』紹介。
- 11) ソポクレス、『アンティゴネ』: なぜ今アンティゴネなのか。
- 12) ソポクレス、『アンティゴネ』: 抜粋の講読。
- 13) ソポクレス、『アンティゴネ』の構造と解釈。
- 14) ソポクレス、『バツカイ』の紹介。
- 15) まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

作品は抜粋をコピーして配るので、事前に取り上げる箇所を読んでおくこと。古典古代の作品故、一読しただけでは理解しづらい点もあると思われる。授業を聞いた後、読み直してほしい。目安として予習、復習あわせて、一時間は確保されたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の課題、授業への積極的な参加、試験もしくはレポートなどを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品は抜粋をコピーして配布する。

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL300N		
科目名	文学A		
科目詳細	2022年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

古代ギリシアの神話と思想について理解を深めた上で、古代ギリシア演劇との関わりを知る。現代の映画やオペラなどによる解釈を作品そのものに照らしながら考えることが出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

ギリシア神話の特異性をヘシオドスの『神統記』によって知ったうえで、ギリシア演劇の代表作の幾つかを検討する。

- 1) 古代ギリシア社会概観。どのような時空に西欧文化の起源は生じたのか。
- 2) ヘシオドスによるギリシア神話概観(1): 世界の始まり。
- 3) ヘシオドスによるギリシア神話概観(2): 神々の世界。
- 4) 神話から文学へ。ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』。トロイア神話について。
- 5) ギリシア演劇とはどのようなものであったか。劇場と演劇の構成。
- 6) ギリシア悲劇の舞台: アテナイとテーバイ。
- 7) テーバイ神話について、ソポクレス、『オイディプス王』: ヴィデオによる鑑賞、あらすじの紹介。
- 8) ソポクレス、『オイディプス王』: 文章による確認。
- 9) ソポクレス、『オイディプス王』の構造と解釈。
- 10) アイスキュロス、『テーバイ攻めの七将』紹介。
- 11) ソポクレス、『アンティゴネ』: なぜ今アンティゴネなのか。
- 12) ソポクレス、『アンティゴネ』: 抜粋の講読。
- 13) ソポクレス、『アンティゴネ』の構造と解釈。
- 14) ソポクレス、『バツカイ』の紹介。
- 15) まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

作品は抜粋をコピーして配るので、事前に取り上げる箇所を読んでおくこと。古典古代の作品故、一読だけでは理解しづらい点もあると思われる。授業を聞いた後、読み直してほしい。目安として予習、復習あわせて、一時間は確保されたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の課題、授業への積極的な参加、試験もしくはレポートなどを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品は抜粋をコピーして配布する。

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL217N		
科目名	ヨーロッパ古典文学B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

西欧古典で最も重要な著作群であるプラトンの対話篇の幾つかを読み、「哲学」が誕生する現場をとらえられるようになる。

◆授業内容・計画◆

1. 西欧哲学とは何か:導入。
2. プラトンによる哲学の「発明」:ピュタゴラス、パルメニデス、ヘラクレイトス、ゼノンとの闘い。
3. プラトンによる哲学の「発明」:先人たちから何を、何を切り捨てたか。
4. ソフィストとの闘い:ソフィストとは誰か?
5. ソフィストとの闘い:『ゴルギアス』あらすじの紹介、抜粋の講読。
6. ソフィストとの闘い:『ゴルギアス』弁論術から正義へ。
7. プラトンによる哲学の再構築:探求の可能性『メノン』あらすじの紹介、抜粋の講読。
8. プラトンによる哲学の再構築:探求の可能性『メノン』プラトニズムの形成。
9. プラトンによる哲学の再構築:魂の配置『ソクラテスの弁明』、『クリトン』あらすじの紹介、抜粋の講読。
10. プラトンによる哲学の再構築:魂の配置『ソクラテスの弁明』、『クリトン』ソクラテスの不満―細部から読むと…。
11. プラトンによる哲学の再構築:宇宙の想像『ティマイオス』あらすじの紹介、抜粋の講読。
12. プラトンによる哲学の再構築:宇宙の想像『ティマイオス』宇宙のはじまり/時と永遠。
13. プラトンによる哲学の再構築:愛について、『饗宴』あらすじの紹介、エロースについて。
14. プラトンによる哲学の再構築:愛について、『饗宴』愛と美をめぐる。
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

作品は抜粋をコピーして配るので、事前に取り上げる箇所を読んでおくこと。古典古代の作品故、一読だけでは理解しづらい点もあると思われる。授業を聞いた後、読み直してほしい。目安として予習、復習あわせて、一時間は確保されたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の課題、授業への積極的な参加、試験もしくはレポートなどを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品は抜粋をコピーで配布する。

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL301N		
科目名	文学B		
科目詳細	2022年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

西欧古典で最も重要な著作群であるプラトンの対話篇の幾つかを読み、「哲学」が誕生する現場をとらえられるようになる。

◆授業内容・計画◆

1. 西欧哲学とは何か:導入。
2. プラトンによる哲学の「発明」:ピュタゴラス、パルメニデス、ヘラクレイトス、ゼノンとの闘い。
3. プラトンによる哲学の「発明」:先人たちから何を、何を切り捨てたか。
4. ソフィストとの闘い:ソフィストとは誰か?
5. ソフィストとの闘い:『ゴルギアス』あらすじの紹介、抜粋の講読。
6. ソフィストとの闘い:『ゴルギアス』弁論術から正義へ。
7. プラトンによる哲学の再構築:探求の可能性『メノン』あらすじの紹介、抜粋の講読。
8. プラトンによる哲学の再構築:探求の可能性『メノン』プラトニズムの形成。
9. プラトンによる哲学の再構築:魂の配置『ソクラテスの弁明』、『クリトン』あらすじの紹介、抜粋の講読。
10. プラトンによる哲学の再構築:魂の配置『ソクラテスの弁明』、『クリトン』ソクラテスの不満―細部から読むと…。
11. プラトンによる哲学の再構築:宇宙の想像『ティマイオス』あらすじの紹介、抜粋の講読。
12. プラトンによる哲学の再構築:宇宙の想像『ティマイオス』宇宙のはじまり/時と永遠。
13. プラトンによる哲学の再構築:愛について、『饗宴』あらすじの紹介、エロースについて。
14. プラトンによる哲学の再構築:愛について、『饗宴』愛と美をめぐる。
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

作品は抜粋をコピーして配るので、事前に取り上げる箇所を読んでおくこと。古典古代の作品故、一読だけでは理解しづらい点もあると思われる。授業を聞いた後、読み直してほしい。目安として予習、復習あわせて、一時間は確保されたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の課題、授業への積極的な参加、試験もしくはレポートなどを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品は抜粋をコピーで配布する。

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL240N		
科目名	日本語文章術A		
科目詳細	抽選科目 60名		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

日本語で文章を正しくわかりやすく書くための基本的な知識と技術を習得します。適切な語彙、表現、表記の仕方を用いて、レポートや、フォーマルな手紙・メールを書くことができるようになります。

◆授業内容・計画◆

授業では、まず各回のトピックについて解説し、その後、ドリルや課題に取り組んでもらいます。提出物には適宜フィードバックします。トピックによっては確認テストを行うこともあります。

1. イントロダクション
2. 「くだけた表現」と「ととのった表現」
3. レポートや論文にふさわしい表現
4. アカデミックワードと日常語
5. 接続表現の種類
6. レポートや論文にふさわしい接続表現
7. 仮名遣い
8. 送り仮名
9. 句読点
10. わかりやすい語順
11. 文のねじれ
12. 漢字の使い分け
13. 尊敬語
14. 謙譲語
15. まとめ

授業の進捗状況によって、順番や内容が変更されることもあります。

◆準備学習の内容◆

各回の内容を復習し、わからない言葉や表現は辞典等で確認する。ドリルや課題は締切までに完成させ、返却後は添削やコメントを確認し、必要に応じて再提出する。準備学習に必要な時間は、週1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加と、ドリル、課題、確認テストで評価する。提出物には適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

安部朋世 他 編著『大学生のための日本語表現トレーニング・ドリル編』(三省堂、2010、第10刷 2019)

◆参考図書◆

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』安部朋世 他 編著(三省堂、2008、第10刷 2018)

『大学生のための日本語表現トレーニング・実践編』安部朋世 他 編著(三省堂、2009、第5刷 2019)

『悪文・乱文から卒業する正しい日本語の書き方』スクール東京(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018)

『大学生のための文章表現練習帳 第2版』坂東実子(国書刊行会、2021)

◆留意事項◆

教科書を中心に進めますが、必要に応じて補足資料を適宜配布します。返却されたドリルや課題の添削内容、およびコメントをしっかりと確認し、復習してください。同じ間違いを繰り返さないよう、各回の学びをきちんと定着させ、次に進みましょう。質問は随時メール、もしくはClassroomで受け付けます。

ナンバリング	LAL241N		
科目名	日本語文章術B		
科目詳細	抽選科目 60名		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

「日本語文章術A」の内容を応用した文章表現の実践力を磨く(「日本語文章術A」を履修していない人は、今後、履修することを推奨します)。特に、音楽に関わるトピックを用いて実践練習を行い、またレポートや論文作成のために必要な技術や知識を学ぶ。グループワークによるインタラクティブな学びを通じて、自分の文章の問題点を自覚すると同時に、他者の文章から学ぶことで文章力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

授業では、まず各回のトピックについて解説し、その後、課題に取り組んでもらいます。課題ごとにクラスを小グループに分け、グループ内で共同作業で文章を作り上げたり、それぞれが書いた文章を相互評価したりして、文章力の向上を図ります。

1. イントロダクション
2. 自己紹介
3. 好きなもの(こと)を紹介する1:「文章設計図」を作って紹介文を書く
4. 好きなもの(こと)を紹介する2:紹介文の相互チェック
5. 所属先を紹介する1:「文章設計図」を作って紹介文を書く
6. 所属先を紹介する2:紹介文の相互チェック
7. 賛成・反対の意見文1:「文章設計図」を作って意見文を書く
8. 賛成・反対の意見文2:意見文の相互チェック
9. Before/After の文章1:「文章設計図」を作って文章を書く
10. Before/After の文章2:文章の相互チェック
11. 基本のプロフィールを書く
12. 基本のプロフィールの相互チェック
13. 魅力的なプロフィールを書く1:自分を知るためのリスト作り
14. 魅力的なプロフィールを書く2:キャッチフレーズを作る
15. まとめ

進捗状況によって、授業の内容や順番が変更されることもあります。

◆準備学習の内容◆

配布資料に目を通す。課題は締切までに完成させ、返却後は添削やコメントを確認し、必要に応じて再提出する。準備学習に必要な時間は、週1時間程度。

◆成績評価の方法◆

各回の課題や、グループワークへの取り組み(相互評価を含む)で評価します。課題には適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。参考書から必要な箇所を配布する。

◆参考図書◆

『大学生のための文章表現練習帳 第2版』坂東実子(国書刊行会、2021)

『大学生のための日本語表現トレーニング・ドリル編』安部朋世 他 編著(三省堂、2010、第10刷 2019)

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』安部朋世 他 編著(三省堂、2008、第10刷 2018)

『大学生のための日本語表現トレーニング・実践編』安部朋世 他 編著(三省堂、2009、第5刷 2019)

『悪文・乱文から卒業する正しい日本語の書き方』スクール東京(ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018)

◆留意事項◆

実践力を磨くためには、課題にしっかり取り組むことが重要です。また、グループワークでは積極的な意見交換が求められます。相互評価は互いの学びを高めるためのものですので、良いところを評価するだけでなく、改善すべき点をはっきりと指摘しましょう。質問は、随時メールかClassroomで受け付けます。

ナンバリング	LAL236N		
科目名	西洋宗教史A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	石田 寛子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

古代から現代にかけての西洋宗教史の流れを把握し、特にキリスト教に関わる思想、文化および社会的特徴を理解し、基本的な術語を自分の言葉で説明することができる。また西洋宗教史の背景にある哲学・思想を理解し、それらの基本的な概念を説明することができる。最終的に、宗教や関連する問題について主体的に考え、自らの音楽表現と専門領域のさらなる発展へ向けて、授業で得た知識や学びを生かすことができる。

◆授業内容・計画◆

1. 授業への導入：音楽と宗教
2. 古代イスラエルの宗教（1）：『旧約聖書』の世界
3. 古代イスラエルの宗教（2）：『旧約聖書』の教え
4. キリスト教（1）：『新約聖書』の世界
5. キリスト教（2）：『新約聖書』の教え
6. 古代から中世へ：初代教会の成立と発展・キリスト教の伝播
7. 中世キリスト教の世界（1）：東西教会の分裂・封建社会と修道院
8. 中世キリスト教の世界（2）：グレゴリオ聖歌の歴史
9. ルネサンスと宗教改革
10. 対抗宗教改革とバロック文化
11. 近代社会とキリスト教：啓蒙主義・無神論・ロマン主義のはざま
12. 世界のキリスト教：日本のカクレキリシタン・黒人霊歌
13. 霊性（スピリチュアリティ）の歴史
14. 現代における宗教の課題
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各回の授業後に各自で振り返りを行うことが望ましい（1時間程度）。その際、参考資料として提示した図書や適宜指示する資料をもとに復習し、分からないところは各自で可能な限り調べたうえで、次回の授業時に質問するといった、主体的かつ積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。また、他の授業や自身の専門領域とも関連づけるなど、音楽作品の繊細な理解や演奏表現の発展のための一助となるよう、授業への深い取り組みが求められる。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みおよび学期末レポートを総合して成績評価する。毎回の授業にリアクションペーパーを取り入れ、そこで提示された疑問には次の回でフィードバックを行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

特定のテキストは使用せず、毎回の授業にて資料を配布する。

◆参考図書◆

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』（日本聖書協会）
『キリスト教の歴史 現代をよりよく理解するために』 アラン・コルバン編（藤原書店）
『キリスト教の歴史』 小田垣雅也（講談社学術文庫）
『宗教の世界史1 宗教の誕生 宗教の起源・古代の宗教』 月本昭男編（山川出版社）
『宗教の世界史7 ユダヤ教の歴史』 市川裕編（山川出版社）
『宗教の世界史8 キリスト教の歴史1 初期キリスト教～宗教改革』 松本宣郎編（山川出版社）
『宗教の世界史9 キリスト教の歴史2 宗教改革以降』高柳俊一・松本宣郎編（山川出版社）
『宗教の世界史10 キリスト教の歴史3 東方正教会・東方諸教会』 廣岡正久篇（山川出版社）
『グレゴリオ聖歌選集』 十枝正子編著（サンパウロ）

◆留意事項◆

私語および遅刻厳禁。授業開始後30分以降の入室を遅刻とみなす（3回の遅刻は1回の欠席扱いとなる）。

ナンバリング	LAL238N		
科目名	宗教と芸術A		
科目詳細			
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天路性歌がめる教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

1) 西洋の芸術と接するにあたり不可欠な、キリスト教の基礎知識を身につける。特に聖書のおもな物語を知り、それらが美術や音楽においてどのように表現されているか、有名な作品を通じて学ぶ。2) 自分の身の回りの宗教と芸術との関係に意識を向け、それを言語で説明できるようになる。

◆授業内容・計画◆

本科目では、キリスト教を題材とした芸術作品（音楽・美術）を通して聖書の物語に触れることを講義内容の中心とする。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 新約聖書(1) イエスの誕生
- 第3回 新約聖書(2) イエスによるたとえ話
- 第4回 新約聖書(3) イエスによる奇跡物語
- 第5回 新約聖書(4) イエスの受難
- 第6回 新約聖書(5) イエスの復活
- 第7回 新約聖書(6) 教会のはじまり
- 第8回 旧約聖書(1) 天地創造
- 第9回 旧約聖書(2) ユダヤ民族の物語
- 第10回 旧約聖書(3) ユダヤの王たち
- 第11回 旧約聖書(4) ヨブの物語
- 第12回 旧約聖書(5) 詩編
- 第13回 旧約聖書(6) 預言者たち
- 第14回 身の回りの宗教と芸術

第15回 学期全体のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

講義で学んだことを、他の科目（学科・実技問わず）とも関連させながら復習してください。また、普段から美術作品に触れる機会も作りましょう。たとえば附属図書館やネットで過ごす時間のうち10～30分程度を復習に取ることができれば講義内容に関連する学習が効果的にできます。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および学期末レポートにより総合的に評価する。毎回の授業に寄せられたコメントには次の回にフィードバックする。レポートへのフィードバックは返却時に行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業時に配布する資料。
『聖書 聖書協会共同訳』（日本聖書協会）※本科目では購入を義務づけませんので教科書販売の対象にはなっていません。

◆参考図書◆

『新共同訳聖書スタディ版 改訂版』（日本聖書協会）
『聖書 文語訳』（日本聖書協会）
Oxford Annotated Bible with Apocrypha. 5th Revised edition (Oxford University Press)
Biblia sacra: Vulgata (Deutsche Bibelgesellschaft) 2007
Die Bibel nach Martin Luthers Übersetzung. Lutherbibel revidiert 2017. Mit Apokryphen (Deutsche Bibelgesellschaft)
『アートバイブル I・II』（日本聖書協会）
町田俊之『巨匠が描いた聖書』（いのちのことば社）
八木谷涼子『キリスト教の歳時記』（講談社学術文庫）
その他、授業時に随時指示します。

◆留意事項◆

参照する聖書は「聖書協会共同訳」以外、たとえば「新共同訳」でも構いません。外国語版も可。すでに何かしらの版で持っている人は新たに購入する必要はありません。複数の版との比較も勉強になります。

ナンバリング	LAL239N		
科目名	宗教と芸術B		
科目詳細			
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめづかる教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

1) 西洋の芸術と接するにあたり不可欠な、キリスト教の基礎知識を身につける。特に西方教会の暦を聖書の物語やキリスト教の教義との関連で知り、それらが美術や音楽においてどのように表現されているか、有名な作品を通じて学ぶ。2) 自分の身の回りの宗教と芸術との関係に意識を向け、それを言語で説明できるようになる。

◆授業内容・計画◆

本科目では、キリスト教の音楽や美術を通してキリスト教の暦と年中行事に触れることを講義内容の中心とする。もちろん、聖書の物語や聖人伝にも適宜言及することになる。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 四旬節
- 第3回 聖週
- 第4回 イースター
- 第5回 昇天日
- 第6回 ペンテコステ
- 第7回 三位一体主日
- 第8回 洗礼者ヨハネに関する日
- 第9回 聖母マリアに関する日
- 第10回 ハロウィン・万聖節・万霊節
- 第11回 アドベント
- 第12回 クリスマス
- 第13回 エピファニー
- 第14回 身の回りの宗教と芸術

◆準備学習の内容◆

この授業で学んだことを、他の科目(学科・実技問わず)とも関連させながら復習してください。また、普段から宗教音楽やキリスト教美術作品に触れる機会を積極的に作りましょう。附属図書館のサイト経由やネットで利用できる音源や映像資料や、その他の参考図書を参考にした学習を30分から1時間程度すると本科目の予習・復習が効果的にできます。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および学期末レポートにより総合的に評価する。毎回の授業に寄せられたコメントには次の回にフィードバックする。レポートへのフィードバックは返却時に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に配布する資料。
『聖書 聖書協会共同訳』(日本聖書協会)※本科目では購入を義務づけませんので教科書販売の対象にはなっていません。

◆参考図書◆

八木谷涼子『キリスト教の歳時記』(講談社学術文庫)
『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書統編付き 引照・注付き』(日本聖書協会)
『新共同訳聖書スタディ版 改訂版』(日本聖書協会)
『聖書 文語訳』(日本聖書協会)
Biblia sacra: Vulgata (Deutsche Bibelgesellschaft) 2007
Die Bibel nach Martin Luthers Übersetzung. Lutherbibel revidiert 2017. Mit Apokryphen (Deutsche Bibelgesellschaft)
『アートバイブル I・II』(日本聖書協会)
町田俊之『巨匠が描いた聖書』(いのちのことば社)
T・カウフマン『ルター』(教文館)
J・G・ヘルダー『言語起源論』(講談社学術文庫) その他、授業時に随時指示します。

◆留意事項◆

参照する聖書は「聖書協会共同訳」以外(たとえば「新共同訳」)でも構いません。外国語版も可。すでに何かしらの版で持っている人は新たに購入する必要はありません。複数の版との比較も勉強になります。

ナンバリング	LAL321N		
科目名	西洋宗教史		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	石田 寛子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天竺経歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

古代から現代にかけての西洋宗教史の流れを把握し、特にキリスト教に関わる思想、文化および社会的特徴を理解し、基本的な術語を自分の言葉で説明することができる。また西洋宗教史の背景にある哲学・思想を理解し、それらの基本的な概念を説明することができる。最終的に、宗教や関連する問題について主体的に考え、自らの音楽表現と専門領域のさらなる発展へ向けて、授業で得た知識や学びを生かすことができる。

◆授業内容・計画◆

1. 授業への導入：音楽と宗教
2. 古代イスラエルの宗教(1)：『旧約聖書』の世界
3. 古代イスラエルの宗教(2)：『旧約聖書』の教え
4. キリスト教(1)：『新約聖書』の世界
5. キリスト教(2)：『新約聖書』の教え
6. 古代から中世へ：初代教会の成立と発展・キリスト教の伝播
7. 中世キリスト教の世界(1)：東西教会の分裂・封建社会と修道院
8. 中世キリスト教の世界(2)：グレゴリオ聖歌の歴史
9. ルネサンスと宗教改革
10. 対抗宗教改革とバロック文化
11. 近代社会とキリスト教：啓蒙主義・無神論・ロマン主義のはざままで
12. 世界のキリスト教：日本のカクレキリシタン・黒人霊歌
13. 霊性(スピリチュアリティ)の歴史
14. 現代における宗教の課題
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各回の授業後に各自で振り返りを行うことが望ましい(1時間程度)。その際、参考資料として提示した図書や適宜指示する資料をもとに復習し、分からないところは各自で可能な限り調べたうえで、次回の授業時に質問するといった、主体的かつ積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。また、他の授業や自身の専門領域とも関連づけるなど、音楽作品の繊細な理解や演奏表現の発展のための一助となるよう、授業への深い取り組みが求められる。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みおよび学期末レポートを総合して成績評価する。毎回の授業にリアクションペーパーを取り入れ、そこで提示された疑問には次の回でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特定のテキストは使用せず、毎回の授業にて資料を配布する。

◆参考図書◆

『聖書 新共同訳 旧約聖書統編つき』(日本聖書協会)
『キリスト教の歴史 現代をよりよく理解するために』 アラン・コルバン編 (藤原書店)
『キリスト教の歴史』 小田垣雅也 (講談社学術文庫)
『宗教の世界史1 宗教の誕生 宗教の起源・古代の宗教』 月本昭男編 (山川出版社)
『宗教の世界史7 ユダヤ教の歴史』 市川裕編 (山川出版社)
『宗教の世界史8 キリスト教の歴史1 初期キリスト教～宗教改革』 松本宣郎編 (山川出版社)
『宗教の世界史9 キリスト教の歴史2 宗教改革以降』 高柳俊一・松本宣郎編 (山川出版社)
『宗教の世界史10 キリスト教の歴史3 東方正教会・東方諸教会』 廣岡正久編 (山川出版社)
『グレゴリオ聖歌選集』 十枝正子編著 (サンパウロ)

◆留意事項◆

私語および遅刻厳禁。授業開始後30分以降の入室を遅刻とみなす(3回の遅刻は1回の欠席扱いとなる)。

ナンバリング	LAL213N		
科目名	美学入門		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

美学の基本概念と根本的な問題、そしてそれをめぐる代表的な学説を知ることを通じて、美や芸術について論理的に考え、語る術を習得することができる。

◆授業内容・計画◆

美学の分野でさかんに議論されてきた問題について、様々な学説を紹介しつつ、学生の皆さんと共に考えていきます。

1. 美学とは
2. 美学の歴史
3. 自然美とは
4. 自然美の歴史
5. 「芸術」とは
6. 「芸術」の歴史
7. 芸術終焉論
8. 想像力とは
9. 想像力論の歴史
10. 模倣
11. 自然模倣の音楽
12. 創造
13. 天才の気質について
14. 天才と独創性
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で紹介した本や、自らの関心にそって発見した関連図書を読む(週2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

授業への参画度および授業内課題。フィードバックは授業にて行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(プリントを使用)

◆参考図書◆

『美学辞典』 佐々木健一(東京大学出版会)1996年。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL214N		
科目名	論理学入門		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

理性的思考の基礎とされる論理学について、様々な角度から検証する力を養うことができる。

◆授業内容・計画◆

- 1)妥当性: 何から何が導かれるか。
- 2)真理関数: 推論は関数化可能か。
- 3)名指しと量化表現: 「無」というものがあるのか。
- 4)記述と存在: 論理学と存在論。
- 5)自己言及のパラドクス。
- 6)必然性と可能性: 起こるべきことは起こるべくして起こるのか？
- 7)条件文: 「もしも」はどのように使われるのか？
- 8)未来と過去: 時間と論理学。
- 9)同一性と変化: 変わらないものなど果たしてあるのか。
- 10)曖昧さのパラドクス。
- 11)確率と論理。
- 12)逆の確率。
- 13)意思決定理論: 理性的な判断をめぐって。
- 14)論理学の歴史と現状。
- 15)まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

論理学についての予備知識は全く前提としない。むしろ授業内で聞いたことを一度自ら咀嚼してよく考え、次の授業に臨んでほしい。推薦した図書などを参考に、自ら進んで論理的な思考を身に付けるよう努めることも肝心。毎日30分から1時間は読書に充ててもらいたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の議論への積極的な参加と学期末の試験もしくはレポートを総合的に判断する。授業内での議論を通して、論理的思考の能力の進展についてフィードバックしていく予定。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

論理学やその数学への応用である証明理論の計算方法を習得することではなく、理性的な思考とされるものに課せられる様々な課題に挑戦することを目標とする。理性的な思考をめぐるパズルに挑むようなつもりで参加されたい。

ナンバリング	LAL315N		
科目名	哲学A		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代哲学の多くにおいて前提とされている自然科学の知識を概観する一方で、哲学の限界を乗り越えるために、数学や物理学が示す可能性を考察することができる。

◆授業内容・計画◆

- 1)数学と物理学、哲学の関係:導入。
- 2)トポロジー入門:これまでとは全く異なる世界
- 3)トポロジー入門:物理学に開く世界。相対性理論、時間と空間をめぐる新たな可能性。
- 4)トポロジー入門:天文学への広がり。超ひも理論の可能性。
- 5)トポロジー入門:純粋数学と物理学、まとめ。
- 6)集合と無限:素朴な集合論とラッセルのパラドクス。
- 7)集合と無限:無限集合。
- 8)集合と無限:無限の秩序。無限は無限にある？
- 9)集合と無限:数学の無限、物理学の無限、哲学の無限。
- 10)確率論の様々な用途:確率をめぐる様々な考え方。
- 11)確率論の様々な用途:条件付き確率からベイズ理論まで。
- 12)確率論の様々な用途:物理学と確率の出会い。
- 13)確率論の様々な用途:数学と物理学、哲学における確率論。
- 14)自然哲学の可能性。
- 15)まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

数学、物理学、哲学の予備知識は全く必要ないが、授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加、学期末の試験またはレポートを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

数学や物理学、哲学の知識は全く必要ない。また数式を並べて計算するというようなこともないので、そうした領域に苦手意識や嫌悪感を抱く諸君にこそ参加していただきたい。

ナンバリング	LAL215N		
科目名	現代哲学入門		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代哲学の多くにおいて前提とされている自然科学の知識を概観する一方で、哲学の限界を乗り越えるために、数学や物理学が示す可能性を考察することができる。

◆授業内容・計画◆

- 1)数学と物理学、哲学の関係:導入。
- 2)トポロジー入門:これまでとは全く異なる世界
- 3)トポロジー入門:物理学に開く世界。相対性理論、時間と空間をめぐる新たな可能性。
- 4)トポロジー入門:天文学への広がり。超ひも理論の可能性。
- 5)トポロジー入門:純粋数学と物理学、まとめ。
- 6)集合と無限:素朴な集合論とラッセルのパラドクス。
- 7)集合と無限:無限集合。
- 8)集合と無限:無限の秩序。無限は無限にある?
- 9)集合と無限:数学の無限、物理学の無限、哲学の無限。
- 10)確率論の様々な用途:確率をめぐる様々な考え方。
- 11)確率論の様々な用途:条件付き確率からベイズ理論まで。
- 12)確率論の様々な用途:物理学と確率の出会い。
- 13)確率論の様々な用途:数学と物理学、哲学における確率論。
- 14)自然哲学の可能性。
- 15)まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

数学、物理学、哲学の予備知識は全く必要ないが、授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加、学期末の試験またはレポートを総合的に評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

数学や物理学、哲学の知識は全く必要ない。また数式を並べて計算するというようなこともないので、そうした領域に苦手意識や嫌悪感を抱く諸君にこそ参加していただきたい。

ナンバリング	LAL316N		
科目名	哲学B		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

理性的思考の基礎とされる論理学について、様々な角度から検証する力を養うことができる。

◆授業内容・計画◆

- 1)妥当性: 何から何が導かれるか。
- 2)真理関数: 推論は関数化可能か。
- 3)名指しと量化表現:「無」というものがあるのか。
- 4)記述と存在: 論理学と存在論。
- 5)自己言及のパラドクス。
- 6)必然性と可能性: 起こるべきことは起こるべくして起こるのか？
- 7)条件文:「もしも」はどのように使われるのか？
- 8)未来と過去: 時間と論理学。
- 9)同一性と変化: 変わらないものなど果たしてあるのか。
- 10)曖昧さのパラドクス。
- 11)確率と論理。
- 12)逆の確率。
- 13)意思決定理論: 理性的な判断をめぐって。
- 14)論理学の歴史と現状。
- 15)まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

論理学についての予備知識は全く前提としない。むしろ授業内で聞いたことを一度自ら咀嚼してよく考え、次の授業に臨んでほしい。推薦した図書などを参考に、自ら進んで論理的な思考を身に付けるよう努めることも肝心。毎日30分から1時間は読書に充ててもらいたい。

◆成績評価の方法◆

授業内の議論への積極的な参加と学期末の試験もしくはレポートを総合的に判断する。授業内での議論を通して、論理的思考の能力の進展についてフィードバックしていく予定。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

論理学やその数学への応用である証明理論の計算方法を習得することではなく、理性的な思考とされるものに課せられる様々な課題に挑戦することを目標とする。理性的な思考をめぐるパズルに挑むようなつもりで参加されたい。

ナンバリング	LAL248N		
科目名	現代芸術の世界A		
科目詳細	学芸員選択必修		
担当教員	林 卓行		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

20世紀前半の芸術作品に関する基礎的な知識/語彙/概念を修得し、それらを応用して「感覚すること」と「考えること」の両立ができる。

◆授業内容・計画◆

20世紀後半以降を扱う「現代芸術の世界B」と合わせ、20世紀以降の芸術の多様なあらわれについて、美術を中心に一部音楽や建築、パフォーマンスなどの作例も交えながら考察します。

- 第1回：introduction: 21世紀のわたしたちと20世紀
- 第2回：マルセル・デュシャンとアヴァンギャルドの起源①——《泉》をめぐる物語
- 第3回：マルセル・デュシャンとアヴァンギャルドの起源②——〈現代アート〉の誕生
- 第4回：カジミル・マレーヴィチとアヴァンギャルドの死①——政治と芸術の蜜月としての〈アヴァンギャルド〉
- 第5回：カジミル・マレーヴィチとアヴァンギャルドの死②——ふたつの大戦後の〈アヴァンギャルド〉の帰趨
- 第6回：ワシリー・カンディンスキー／ピエト・モンドリアンと20世紀の絵画①——抽象芸術の源泉
- 第7回：ワシリー・カンディンスキー／ピエト・モンドリアンと20世紀の絵画②——社会へ拡張する抽象芸術
- 第8回：アンドレ・ブルトンとシュルレアリスムの展開①——第一次大戦と精神分析のあいだに
- 第9回：アンドレ・ブルトンとシュルレアリスムの展開②——技法の実験室としてのシュルレアリスム
- 第10回：エドゥアール・マネと西洋近代の絵画①——〈モダニズム〉の起点
- 第11回：エドゥアール・マネと西洋近代の絵画②——印象派／ポスト印象派へ
- 第12回：アンリ・マティス／パブロ・ピカソと20世紀の絵画——〈モダニズム〉の成熟
- 第13回：クレメント・グリーンバーグとモダニズムの美術①——抽象表現主義の絵画とそれ以降
- 第14回：クレメント・グリーンバーグとモダニズムの美術②——〈モダニズム〉史観とその限界
- 第15回：conclusion: 現代芸術の世界Aの〈おさらい〉と同Bの予告

◆準備学習の内容◆

展覧会や本、WEBなどを積極的に活用して、授業時以外にも多角的に作品を見る習慣をつけてください。参考となる展覧会などについては随時指示します。また各回の授業のための準備として、事前にシラバス中にある人名や用語についてあらかじめ基本的な情報を得てから(90分程度)授業に臨んでください。

◆成績評価の方法◆

各回の授業における小課題の得点と、期末レポートの得点を、1：1の割合で総合することによって成績を評価します。小課題では授業内容の理解度を一問一答形式で問うものとし、レポートは具体的な美術作品についての客観的な理解と受講者各自の考察を、小論文形式で問うものとし、小課題のフィードバックは個別に正解および解説を提示するほか、つぎの回の授業で全体の講評をします。なお小課題、期末レポートなどの提出はすべてGoogle ClassroomおよびGoogle Formを使用する予定です。詳細は授業開始時に送信される電子メールに従って、必ず登録してください。

◆教科書(使用テキスト)◆

ありません。必要な資料については随時コピーを配付します。

◆参考図書◆

- 『芸術教養シリーズ7 欧米のモダニズムとその後の運動 近現代の芸術史 造形篇I』林 洋子(編集)(京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎)、2013年(ISBN：978-4344951631)
- 『現代美術史：欧米、日本、トランスナショナル』山本浩貴(中公新書2562、中央公論新社)2019年(ISBN-978-4-12-102562-3)
- 『図鑑1900年以後の芸術』H. フォスターほか著、尾崎信一郎ほか訳(東京書籍)2019年(*できるだけ2021年刊行の第二版を参照してください)(ISBN：978-4-487-81035-2)

そのほか、授業の進捗に合わせて随時指示します。

◆留意事項◆

みなさんが自身の感じたことや考えたことを積極的にことばにしてくれることを期待します。また展覧会などへも積極的に足を運んでください。

ナンバリング	LAL249N		
科目名	現代芸術の世界B		
科目詳細	学芸員選択必修		
担当教員	林 卓行		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

20世紀後半から21世紀にかけての芸術作品に関する基礎的な知識/語彙/概念を修得し、それらを応用して「感覚すること」と「考えること」の両立ができる。

◆授業内容・計画◆

現代芸術の世界A=20世紀前半の美術に関する考察を踏まえ、主として1960年代以降2020年代までの美術を例にとりながら、現代の美術が扱ってきた問題系について、トピック別に検討します。

- 第1回:introductionあるいは現代芸術の世界Aのおさらい
- 第2回:ポップ・アート① ―― イギリスからアメリカへ
- 第3回:ポップ・アート② ―― 高度消費社会における新しいイメージ
- 第4回:1960年代のラディカルズム① ―― ミニマル・アート
- 第5回:1960年代のラディカルズム② ―― アンチ・イリュージョン、もの派、アルテ・ポーヴェラ
- 第6回:1960年代のラディカルズム③ ―― コンセプチュアル・アート
- 第7回:芸術の〈場site〉をめぐる① ―― 美術館の誕生とホワイト・キューブの逆説
- 第8回:芸術の〈場site〉をめぐる② ―― アースワークとサイト・スペシフィックな芸術
- 第9回:芸術の〈場site〉をめぐる③ ―― パブリック・アートと制度批判の芸術
- 第10回:絵画の死? ―― 1980年代の具象表現と1990年代以降の具象／抽象の融解
- 第11回:〈身体〉と〈アイデンティティ〉―― パフォーマンス、インスタレーション、そして映像作品の隆盛
- 第12回:グローバリゼーションと新自由主義下の芸術① ――「関係性の美学」
- 第13回:グローバリゼーションと新自由主義下の芸術②――「社会参加の芸術」
- 第14回:グローバリゼーションと新自由主義下の芸術③――「気候変動／危機／正義」と「生命倫理」の時代の芸術
- 第15回:conclusion 21世紀の芸術理論

◆準備学習の内容◆

展覧会や本、WEBなどを積極的に活用して、授業時以外にも多角的に作品を見る習慣をつけてください。参考となる展覧会などについては随時指示します。また各回の授業のための準備として、事前にシラバス中にある人名や用語についてあらかじめ基本的な情報を得てから(90分程度)授業に臨んでください。

◆成績評価の方法◆

各回の授業における小課題の得点と、期末レポートの得点を、1:1の割合で総合することによって成績を評価します。小課題では授業内容の理解度を一問一答形式で問うものとし、レポートは具体的な美術作品についての客観的な理解と受講者各自の考察を、小論文形式で問うものとします。小課題のフィードバックは個別に正解および解説を提示するほか、つぎの回の授業で全体の講評をします。なお小課題、期末レポートの提出にはすべてGoogle ClassroomおよびGoogle Formを使用する予定です。詳細は授業開始時に送信される電子メールに従って、かならず登録してください。

◆教科書(使用テキスト)◆

ありません。必要な資料については随時コピーを配付します。

◆参考図書◆

- 『芸術教養シリーズ7 欧米のモダニズムとその後の運動 近現代の芸術史 造形篇I 』林 洋子 (編集)(京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎)、2013年 (ISBN : 978-4344951631)
- 同『芸術教養シリーズ 8 アジア・アフリカと新しい潮流 近現代の芸術史 造形篇II 』(ISBN : 978-4344951679)
- 『現代美術史: 欧米、日本、トランスナショナル』 山本浩貴 (中公新書2562、中央公論新社)2019年 (ISBN-978-4-12-102562-3)
- 『図鑑1900年以後の芸術』 H. フォスターほか著、尾崎信一郎ほか訳 (東京書籍)2019年 (*できるだけ2021年刊行の第二版を参照してください) (ISBN: 978-4-487-81035-2)

そのほか、授業の進捗に合わせて随時指示します。

◆留意事項◆

みなさんが自身の感じたことや考えたことを積極的にことばにしてくれることを期待します。また可能であれば展覧会などへも積極的に足を運んでください。

なお授業内容を考えると、この授業のまえに「現代芸術の世界“A”」を履修しておくことが望ましいのですが、Aを履修せずにBから、あるいはBのみ履修という諸君にも配慮します。

ナンバリング	LAL250N		
科目名	建築の世界A		
科目詳細	学芸員選択必修		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代建築を取り巻く様々な状況を理解する上で、必要な知識を習得し、建築作品を読み解くまなざしを獲得することができる。住宅について、現状に縛られず、柔軟な観点から考えることができるようになること。

◆授業内容・計画◆

わたしたちを取り巻く環境である近代建築の起源と見なし得る20世紀初頭から第二次大戦までの建築を扱う。この時期のメディアを中心とする社会環境の劇的な変化は建築にどのような影響を及ぼしたのか、建築はそうした状況の変化にどのように働きかけたのか。ル・コルビュジエとアドルフ・ロース、その周辺の建築家を主な対象とする予定。

1. 住宅について考えるにあたって――戦後日本の住宅事情。
2. アドルフ・ロース(1)――ポチヨムキン都市ウィーンの状況。
3. アドルフ・ロース(2)――前衛芸術の位置、クリムトを参照。
4. アドルフ・ロース(3)――写真の時代。
5. アドルフ・ロース(4)――ファッションについて。
6. アドルフ・ロース(5)――閉ざされた窓。
7. アドルフ・ロース(6)――親密さをめぐって。
8. アドルフ・ロース(7)――劇場としての住宅。
9. アドルフ・ロース(8)――近代における主体とは何か。
10. ル・コルビュジエ(1)――開かれた窓。
11. ル・コルビュジエ(2)――写真もしくは映画について。
12. ル・コルビュジエ(3)――住むための機械。
13. ル・コルビュジエ(4)――見るための機械。
14. ル・コルビュジエ(5)――鉄道の時代。
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業の内容を理解するべく、授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。

◆成績評価の方法◆

授業への熱意と学期末の試験を総合して評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL251N		
科目名	建築の世界B		
科目詳細	学芸員選択必修		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代建築を取り巻く様々な状況を理解する上で、必要な知識を習得し、建築作品を読み解くまなざしを獲得することができる。住宅について、現状に縛られず、柔軟な観点から考えることができるようになること。

◆授業内容・計画◆

戦後の代表的な住宅を扱い、時代との密接なかかわりを考える。

- 1) 住宅再考ーホワイトUをめぐって。
- 2) イームズ自邸(1)ー戦後のアメリカについて。
- 3) イームズ自邸(2)ーデザインについて。
- 4) イームズ自邸(3)ー贈り物もしくはショック・アブソーバーとしての建築。
- 5) イームズ自邸(4)ーイームズ夫妻と戦後アメリカ社会。
- 6) イームズ自邸(5)ー戦後アメリカとケース・スタディハウス。
- 7) イームズ自邸(6)ー写真と建築。
- 8) イームズ自邸(7)ーフォトコラージュとしての建築。
- 9) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(1)ー家の中で傘をさす？
- 10) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(2)ー『都市ゲリラ住居』
- 11) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(3)ー70年代の日本、万国博覧会を中心に。
- 12) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(4)ー地下を志向する建築。
- 13) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(5)ーヴォイド(虚空)としての建築。
- 14) 安藤忠雄、『住吉の長屋』(6)ー光と影。
- 15) まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業内容を理解するために、授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。

◆成績評価の方法◆

授業への熱意と学期末の試験を総合して評価する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL246N		
科目名	美術史C		
科目詳細	学芸員選択必修【～21】		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

いわゆる近代絵画の起点となった18世紀中頃から19世紀中頃に至るロマン主義の時代において、絵画の世界で起こったことをそこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかを分析できるようになること。
近代における絵画のそれ以前、あるいはそれ以降の絵画との通時的な関連を理解する。

◆授業内容・計画◆

前期は絵画の平面性について問題にする。授業計画は以下の通り。

1. 絵画の分析入門ーレオナルド、『モナリザ』。
2. 絵画の分析入門ーフラゴナール、『門』
3. 絵画の分析入門ー17世紀オランダ静物画について。
4. ロマン主義時代の絵画、時代設定。
5. 絵画を制作するということーカンヴァス、筆、絵具。
6. 閉ざされた背景ーシュブレイアス、『亡霊を渡すカノン』、ダヴィッド、『パトロクロス』。
7. 浅浮彫の空間ーヴィアン、『アモルを売る女』、グルーズ、『息子のカラカラを糾弾するセヴェルス』。
8. 浅浮彫の空間／見ることから読むことーダヴィッド、『ソクラテスの死』。
9. カンヴァスの下方より侵入する人物。
10. 騙し絵をめぐってー何故騙されるのか。
11. スーパーフラットの絵画ーアングル、『至高のナポレオン』。
12. スーパーフラットの絵画ーアングル、『ユピテルとテティス』。
13. 黒の着衣ーシャセリオー、『自画像』。
14. 記号としての空白ードラクロワのデッサン。
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。自ら展覧会に足を運んだりして、興味を持った画家や作品について調べることも推奨する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業における熱意、課題などの取り組み方)及び期末試験を総合的に判断します。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

『近代絵画史』(上)、高階秀爾、(中公新書)などの基本的な図書をはじめとし、授業内で紹介する参考図書などは積極的に読んでほしいと思います。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL307N		
科目名	絵画の世界A		
科目詳細	学芸員選択必修【22～】		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

いわゆる近代絵画の起点となった18世紀中頃から19世紀中頃に至るロマン主義の時代において、絵画の世界で起こったことをそこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかを分析できるようになること。
近代における絵画のそれ以前、あるいはそれ以降の絵画との通時的な関連を理解する。

◆授業内容・計画◆

前期は絵画の平面性について問題にする。授業計画は以下の通り。

1. 絵画の分析入門ーレオナルド、『モナリザ』。
2. 絵画の分析入門ーフラゴナール、『門』
3. 絵画の分析入門ー17世紀オランダ静物画について。
4. ロマン主義時代の絵画、時代設定。
5. 絵画を制作することーカンヴァス、筆、絵具。
6. 閉ざされた背景ーシュブレイアス、『亡霊を渡すカノン』、ダヴィッド、『パトロクロス』。
7. 浅浮彫の空間ーヴィアン、『アモルを売る女』、グルーズ、『息子のカラカラを糾弾するセヴェルス』。
8. 浅浮彫の空間／見ることから読むことーダヴィッド、『ソクラテスの死』。
9. カンヴァスの下方より侵入する人物。
10. 騙し絵をめぐってー何故騙されるのか。
11. スーパーフラットの絵画ーアングル、『至高のナポレオン』。
12. スーパーフラットの絵画ーアングル、『ユピテルとテティス』。
13. 黒の着衣ーシャセリオー、『自画像』。
14. 記号としての空白ードラクロワのデッサン。
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。自ら展覧会に足を運んだりして、興味を持った画家や作品について調べることも推奨する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業における熱意、課題などの取り組み方)及び期末試験を総合的に判断します。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

『近代絵画史』(上)、高階秀爾、(中公新書)などの基本的な図書をはじめとし、授業内で紹介する参考図書などは積極的に読んでほしいと思います。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL247N		
科目名	美術史D		
科目詳細	学芸員選択必修【～21】		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

いわゆる近代絵画の起点となった18世紀中頃から19世紀中頃に至るロマン主義の時代において、絵画の世界で起こったことをそこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかを分析できるようになること。
近代における絵画のそれ以前、あるいはそれ以降の絵画との通時的な関連を理解する。

◆授業内容・計画◆

後期から選択する人のために、絵画における平面性の問題をエドゥアール・マネの作品分析を通して概説したのち、再びロマン主義時代に戻り、アサンブラージュ(寄せ集め)という観点から絵画を分析する。授業計画は以下の通り。

1. 閉ざされた奥行、対角線の否定ーマネ、『チュイルリー公園の音楽会』、『オペラ座の仮面舞踏会』
2. 距離の混乱ーマネ、『マキシミアンの処刑』。
3. 織物としての絵画ーマネ、『アルジャントウイユ』。
4. カンバセーション・ピースをめぐるーマネ、『温室にて』。
5. カンヴァスの表と裏ーマネ、『ジョッキを給仕する女』、『鉄道』。
6. 内と外からの光ーマネ、『笛吹の少年』、『オランピア』。
7. 伝統と革新ーマネ、『草上の昼食』。
8. 美と醜ーマネ、『オランピア』。
9. 構造としての絵画ーマネ、『バルコニー』。
10. 主体の場所ーマネ、『フォーリーベルジェールのバー』。
11. アサンブラージュとしての絵画ーダヴィッド、『テニスコートの誓い』。
12. 解剖学の悪夢ージェリコー、『死刑罪人』の頭部。
13. 美術館絵画の始まりージェリコー、『メデュース号の筏』。
14. カリカチュアの起源
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。自ら展覧会に足を運んだりして、興味を持った画家や作品について調べることも推奨する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業での熱意、課題への取り組み)と期末の試験もしくはレポートなどを基に総合的に評価。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

『近代絵画史』(上)、高階秀爾、(中公新書)などの基本的な図書をはじめとし、授業内で紹介する参考図書などは積極的に読んでほしいと思います。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL308N		
科目名	絵画の世界B		
科目詳細	学芸員選択必修【22～】		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

いわゆる近代絵画の起点となった18世紀中頃から19世紀中頃に至るロマン主義の時代において、絵画の世界で起こったことをそこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかを分析できるようになること。
近代における絵画のそれ以前、あるいはそれ以降の絵画との通時的な関連を理解する。

◆授業内容・計画◆

後期から選択する人のために、絵画における平面性の問題をエドゥアール・マネの作品分析を通して概説したのち、再びロマン主義時代に戻り、アサンブラージュ(寄せ集め)という観点から絵画を分析する。授業計画は以下の通り。

1. 閉ざされた奥行、対角線の否定ーマネ、『チュイルリー公園の音楽会』、『オペラ座の仮面舞踏会』
2. 距離の混乱ーマネ、『マキシミアンの処刑』。
3. 織物としての絵画ーマネ、『アルジャントウイユ』。
4. カンバセーション・ピースをめぐるーマネ、『温室にて』。
5. カンヴァスの表と裏ーマネ、『ジョッキを給仕する女』、『鉄道』。
6. 内と外からの光ーマネ、『笛吹の少年』、『オランピア』。
7. 伝統と革新ーマネ、『草上の昼食』。
8. 美と醜ーマネ、『オランピア』。
9. 構造としての絵画ーマネ、『バルコニー』。
10. 主体の場所ーマネ、『フォーリーベルジェールのバー』。
11. アサンブラージュとしての絵画ーダヴィッド、『テニスコートの誓い』。
12. 解剖学の悪夢ージェリコー、『死刑罪人』の頭部。
13. 美術館絵画の始まりージェリコー、『メデューズ号の筏』。
14. カリカチュアの起源
15. まとめと復習。

◆準備学習の内容◆

授業内で聞いたことについて、自分なりによく吟味、考察し次の授業に臨むようにして欲しい。授業で聞いた内容を吟味し、疑問点などを整理すること。興味を持った情報について文献を読んで学ぶことなど積極的な授業の準備に30分でも1時間でも割いてもらうことを期待する。自ら展覧会に足を運んだりして、興味を持った画家や作品について調べることも推奨する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業での熱意、課題への取り組み)と期末の試験もしくはレポートなどを基に総合的に評価。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

『近代絵画史』(上)、高階秀爾、(中公新書)などの基本的な図書をはじめとし、授業内で紹介する参考図書などは積極的に読んでほしいと思います。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL252N		
科目名	演劇の世界A		
科目詳細			
担当教員	高尾 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

演劇として、あるいは俳優訓練の方法としてだけでなく、演劇教育の手法としても注目されているインプロ(即興演劇)の基本的な考え方を身体的活動をとおして理解し、実際に舞台上で演劇表現ができるようになる。この授業では特に、身体のリラックス、失敗とリスクテイキング、スポンタナエティ、ステータスについて学ぶ。また、戯曲をもちいたモノローグと対話の実習で演技について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンスとアイスブレイク
2. 身体のリラックス(野口体操など)
3. 失敗とリスクテイキング(さしすせそ禁止など)
4. スポンタナエティ(私は木ですなど)
5. ステータス(ステータスパーティーなど)
6. 戯曲をもちいたモノローグ実習① モノローグの音読
7. 戯曲をもちいたモノローグ実習② モノローグの読み方
8. 戯曲をもちいたモノローグ実習③ 短いモノローグを使つての演習
9. 戯曲をもちいたモノローグ実習④ 短いモノローグの発表
10. 戯曲をもちいた対話実習① 戯曲の音読
11. 戯曲をもちいた対話実習② 戯曲の読み方
12. 戯曲をもちいた対話実習③ 短い戯曲を使つての演習
13. 戯曲をもちいた対話実習④ 短い戯曲の発表
14. 発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で紹介した文献・戯曲を読んだり、映画・映像を観たりしてください(目安15分)。

◆成績評価の方法◆

毎回授業後に提出するショートレポート、授業への貢献、最終レポートで総合的に成績評価します。授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にありません。授業で使用する戯曲などはこちらで準備して配布します。

◆参考図書◆

『インプロする組織—予定調和を超え、日常をゆさぶる』高尾隆, 中原淳(三省堂)
『インプロ—自由な行動表現』キース・ジョンストン(而立書房)
『キース・ジョンストンのインプロ—来日ワークショップの記録』今井純(論創社)
『インプロ教育—即興演劇は創造性を育てるか?』高尾隆(フィルムアート社)
その他の参考文献は授業中にお知らせします。

◆留意事項◆

- ・受講にあたって、演劇の経験などはまったく必要ありませんが、積極的な参加とかかわりをおねがいします。
- ・実技が中心のワークショップ形式の授業のため、遅刻をしないようにおねがいします。
- ・授業中、走ったり、床に座ったりすることもあります。多少汚れても困らない、動きやすい格好で来てください。(ジャージでなくても、ジーンズなどでも可です。)
- ・一部のワークは手をつなぐ、肩に触れる程度の身体接触を伴います。

ナンバリング	LAL253N		
科目名	演劇の世界B		
科目詳細			
担当教員	高尾 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

演劇として、あるいは俳優訓練の方法としてだけでなく、演劇教育の手法としても注目されているインプロ(即興演劇)の基本的な考え方を身体的活動をとおして理解し、実際に舞台上で演劇表現ができるようになる。この授業では特に、身体表現、自己検閲、フィードバック、物語の構造について学ぶ。また、戯曲をもちいたモノローグと対話の実習で演技について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンスとアイスブレイク
2. 身体表現(コンタクトインプロヴィゼーションなど)
3. 自己検閲(魔法の箱など)
4. フィードバック(イルカの調教など)
5. 物語の構造(むかしむかしなど)
6. 戯曲をもちいたモノローグ実習① モノローグの音読
7. 戯曲をもちいたモノローグ実習② モノローグの読み方
8. 戯曲をもちいたモノローグ実習③ 短いモノローグを使つての演習
9. 戯曲をもちいたモノローグ実習④ 短いモノローグの発表
10. 戯曲をもちいた対話実習① 戯曲の音読
11. 戯曲をもちいた対話実習② 戯曲の読み方
12. 戯曲をもちいた対話実習③ 短い戯曲を使つての演習
13. 戯曲をもちいた対話実習④ 短い戯曲の発表
14. 発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で紹介した文献・戯曲を読んだり、映画・映像を観たりしてください(目安15分)。

◆成績評価の方法◆

毎回授業後に提出するショートレポート、授業への貢献、最終レポートで総合的に成績評価します。授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にありません。授業で使用する戯曲などはこちらで準備して配布します。

◆参考図書◆

『インプロする組織—予定調和を超え、日常をゆさぶる』高尾隆, 中原淳(三省堂)
『インプロ—自由な行動表現』キース・ジョンストン(而立書房)
『キース・ジョンストンのインプロ—来日ワークショップの記録』今井純(論創社)
『インプロ教育—即興演劇は創造性を育てるか?』高尾隆(フィルムアート社)
その他の参考文献は授業中にお知らせします。

◆留意事項◆

- ・受講にあたって、演劇の経験などはまったく必要ありませんが、積極的な参加とかかわりをおねがいします。
- ・実技が中心のワークショップ形式の授業のため、遅刻をしないようにおねがいします。
- ・授業中、走ったり、床に座ったりすることもあります。多少汚れても困らない、動きやすい格好で来てください。(ジャージでなくても、ジーンズなどでも可です。)
- ・一部のワークは手をつなぐ、肩に触れる程度の身体接触を伴います。

ナンバリング	LAL228N		
科目名	日本の歴史A		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	下村 周太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

趣味・娯楽としての歴史とも、中学校や高等学校で学んだ「暗記」中心の歴史とも異なる、学問としての歴史学・日本史学の方法について基礎的な知識を習得するとともに、歴史研究の意義や醍醐味を理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1 イントロダクション
- 2 歴史学とは？(1)学問・科学としての歴史学
- 3 歴史学とは？(2)歴史学の目的
- 4 歴史学とは？(3)歴史学の方法
- 5 歴史学とは？(4)歴史学の意義
- 6 史料とは？(1)歴史学と史料
- 7 史料とは？(2)歴史的事実の認識
- 8 史料とは？(3)史料の階層性
- 9 史料とは？(4)史料の作成と伝来
- 10 史料とは？(5)様々な史料
- 11 日本史とは？(1)歴史学と一国史
- 12 日本史とは？(2)地域的視点と国際的視点
- 13 日本史とは？(3)「日本」の範囲
- 14 日本史とは？(4)「日本図」の歴史
- 15 まとめと理解度の確認

◆準備学習の内容◆

中学校や高等学校の教科書を読むなどして、日本史に関する基礎的な知識を確認しておくことが望ましい。また、毎回授業の内容を復習し、翌週の授業に臨むこと(そのため一定の時間が必要である。目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

学期末の筆記試験および、学期中に複数回実施するリアクションペーパーなどから総合的に評価する。リアクションペーパーで質問や意見を受け付け、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で適宜紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL317N		
科目名	歴史A		
科目詳細	2024年度入学生		
担当教員	下村 周太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

趣味・娯楽としての歴史とも、中学校や高等学校で学んだ「暗記」中心の歴史とも異なる、学問としての歴史学・日本史学の方法について基礎的な知識を習得するとともに、歴史研究の意義や醍醐味を理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1 イントロダクション
- 2 歴史学とは？(1)学問・科学としての歴史学
- 3 歴史学とは？(2)歴史学の目的
- 4 歴史学とは？(3)歴史学の方法
- 5 歴史学とは？(4)歴史学の意義
- 6 史料とは？(1)歴史学と史料
- 7 史料とは？(2)歴史的事実の認識
- 8 史料とは？(3)史料の階層性
- 9 史料とは？(4)史料の作成と伝来
- 10 史料とは？(5)様々な史料
- 11 日本史とは？(1)歴史学と一国史
- 12 日本史とは？(2)地域的視点と国際的視点
- 13 日本史とは？(3)「日本」の範囲
- 14 日本史とは？(4)「日本図」の歴史
- 15 まとめと理解度の確認

◆準備学習の内容◆

中学校や高等学校の教科書を読むなどして、日本史に関する基礎的な知識を確認しておくことが望ましい。また、毎回授業の内容を復習し、翌週の授業に臨むこと(そのため一定の時間が必要である。目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

学期末の筆記試験および、学期中に複数回実施するリアクションペーパーなどから総合的に評価する。リアクションペーパーで質問や意見を受け付け、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で適宜紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL319N		
科目名	歴史		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	下村 周太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

趣味・娯楽としての歴史とも、中学校や高等学校で学んだ「暗記」中心の歴史とも異なる、学問としての歴史学・日本史学の方法について基礎的な知識を習得するとともに、歴史研究の意義や醍醐味を理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1 イントロダクション
- 2 歴史学とは？(1)学問・科学としての歴史学
- 3 歴史学とは？(2)歴史学の目的
- 4 歴史学とは？(3)歴史学の方法
- 5 歴史学とは？(4)歴史学の意義
- 6 史料とは？(1)歴史学と史料
- 7 史料とは？(2)歴史的事実の認識
- 8 史料とは？(3)史料の階層性
- 9 史料とは？(4)史料の作成と伝来
- 10 史料とは？(5)様々な史料
- 11 日本史とは？(1)歴史学と一国史
- 12 日本史とは？(2)地域的視点と国際的視点
- 13 日本史とは？(3)「日本」の範囲
- 14 日本史とは？(4)「日本図」の歴史
- 15 まとめと理解度の確認

◆準備学習の内容◆

中学校や高等学校の教科書を読むなどして、日本史に関する基礎的な知識を確認しておくことが望ましい。また、毎回授業の内容を復習し、翌週の授業に臨むこと(そのため一定の時間が必要である。目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

学期末の筆記試験および、学期中に複数回実施するリアクションペーパーなどから総合的に評価する。リアクションペーパーで質問や意見を受け付け、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で適宜紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL232N		
科目名	宗教入門A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	高山 秀嗣		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

世界宗教である仏教・キリスト教・イスラームを中心に考えていく。宗教学の立場から、それぞれの宗教の日本における歴史的な展開を理解する。内容は、各宗教について概観を行ったうえで、世界各地で創始された宗教がどのような流れで日本に伝わってきたかを見ていく。それらの宗教が、日本国内の宗教状況とかかわりながらいかに変容していったのかについての考察も深める。

◆授業内容・計画◆

1. 宗教とは
2. 世界の諸宗教(1)仏教
3. 世界の諸宗教(2)キリスト教
4. 世界の諸宗教(3)イスラーム
5. 日本の諸宗教(1)
6. 日本の諸宗教(2)
7. 日本宗教史(1)古代
8. 日本宗教史(2)平安時代
9. 日本宗教史(3)鎌倉時代
10. 日本宗教史(4)室町時代
11. 日本宗教史(5)江戸時代
12. 日本宗教史(6)近代
13. 日本宗教史(7)現代
14. まとめ
15. 筆記試験

※各回の授業内容は進度により変更することがある。
グループディスカッションなども予定している。

◆準備学習の内容◆

1. 各回の授業内容についての予習が必要(1～2時間)。
2. 各回の授業終了後に内容のふりかえりを行っておくこと(1～2時間)。
3. 期末筆記試験は授業内容と深くかわるので予習・復習は必須。

◆成績評価の方法◆

期末筆記試験・授業への取り組み・授業課題提出などを総合して判定・評価する。
適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業中に連絡する。

◆留意事項◆

遅刻不可。

ナンバリング	LAL320N		
科目名	宗教入門		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	高山 秀嗣		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した美術性豊かな教員が、絵画や漫画などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

世界宗教である仏教・キリスト教・イスラームを中心に考えていく。宗教学の立場から、それぞれの宗教の日本における歴史的な展開を理解する。宗教入門では、各宗教について概観を行ったうえで、世界各地で創始された宗教がどのような流れで日本に伝わってきたかを見ていく。それらの宗教が、日本国内の宗教状況とかかわりながらいかに変容していったのかについての考察も深める。

◆授業内容・計画◆

1. 宗教とは
2. 世界の諸宗教(1)仏教
3. 世界の諸宗教(2)キリスト教
4. 世界の諸宗教(3)イスラーム
5. 日本の諸宗教(1)
6. 日本の諸宗教(2)
7. 日本宗教史(1)古代
8. 日本宗教史(2)平安時代
9. 日本宗教史(3)鎌倉時代
10. 日本宗教史(4)室町時代
11. 日本宗教史(5)江戸時代
12. 日本宗教史(6)近代
13. 日本宗教史(7)現代
14. まとめ
15. 筆記試験

※各回の授業内容は進度により変更することがある。
グループディスカッションなども予定している。

◆準備学習の内容◆

1. 各回の授業内容についての予習が必要(1～2時間)。
2. 各回の授業終了後に内容のふりかえりを行っておくこと(1～2時間)。
3. 期末筆記試験は授業内容と深くかかわるので予習・復習は必須。

◆成績評価の方法◆

期末筆記試験・授業への取り組み・授業課題提出などを総合して判定・評価する。
適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業中に連絡する。

◆留意事項◆

遅刻不可。

ナンバリング	LAL264N		
科目名	日本国憲法		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	森 保憲		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

受講者のみなさんが、日本という国家の一員として「国家」とどうかわっているのか、また、どうかわるべきなのか。国家に関する法である「憲法」を通じて、みなさんと国家との関係を考えることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

わたしたちは、国家の中で日常生活を送っていますが、ふだん「国家」の存在を意識することはあまりないと思います。しかし、この授業では、受講者のみなさんに、あえて「国家」を意識してもらおうと考えています。「憲法」という科目の性質や受講者数の関係で、担当者が一方的に講義し、受講者はひたすら講義を聴く、というかたちにならざるをえませんが、受講者のみなさんが退屈しないよう、なるべく日常的な話題を選んでお話しします。

以下の計画にそって講義を進めます。

1. イントロダクション(1):「日本国憲法」で何を学ぶのか
2. イントロダクション(2):「憲法」とはどういう法かー法システムとその中の憲法
3. 日本憲法史(1):明治維新から敗戦まで
4. 日本憲法史(2):日本国憲法制定の経緯
5. 日本国憲法の基本原理(1):国民主権と天皇制
6. 日本国憲法の基本原理(2):平和主義
7. 日本国憲法の基本原理(3):基本的人権の尊重
8. 憲法をめぐる具体的問題(1):思想・良心の自由
9. 憲法をめぐる具体的問題(2):表現の自由
10. 憲法をめぐる具体的問題(3):法の下の平等
11. 憲法をめぐる具体的問題(4):経済的自由権
12. 憲法をめぐる具体的問題(5):社会権
13. 憲法をめぐる具体的問題(6):選挙と民主主義
14. 憲法をめぐる具体的問題(7):裁判のしくみと裁判員制度
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業は上記授業計画にそって進めていきます。毎回の授業の最後に、次回授業内容の教科書該当ページを指示します。短い時間(30分程度)で構わないので、必ず該当ページに目を通し、次回の授業で何を学ぶのかについて、イメージしてきてください。そのほか、新聞を読んだり、TVのニュースを見たりして(60～120分程度)、世の中でどのようなことが起こっているかを知ろう心がけてください。授業では、その時々起こっている法律問題にもコメントするようにしたいと考えています。授業が終わったら、次回の授業までに、授業内容を思い出しながらノート等を整理してください。その際に、授業に関する疑問点なども整理し、自分で調べたり考えたりしたうえで(90分程度)、それでも理解できない点は、担当教員に質問してください。積極的な質問を待っています。

◆成績評価の方法◆

筆記試験(70%)
平常点(30%)
学期末に論述式の筆記試験を行ないます。筆記試験は、授業内容を正しく理解し、憲法をめぐる問題に対して主体的に考えることができていかどうか、を評価の基準とします。
また、毎回、簡単な課題を出します、受講者には、授業を聴いたうえで、授業終了時に課題に対する解答を提出してもらい、これを「平常点」とします。平常点は、課題について真摯に考えているかどうか、を評価の基準とします。課題は、次回授業時に解説することでフィードバックします。
なお、成績評価の前提として総授業時間数の2/3以上の課題の提出が必要です。

◆教科書(使用テキスト)◆

『よくわかる憲法(第2版)』工藤達朗(編)(ミネルヴァ書房)
『デイリー六法2025 令和7年版』(三省堂)

◆参考図書◆

授業内で扱う判例の参考図書として
・『憲法判例インデックス』工藤達朗(編)(商事法務)
日本国憲法全般を勉強するための参考書として
・『ケースで学ぶ憲法ナビ(第2版)』大林啓吾／小林祐紀(みらい)
・『10歳から読める・わかるいちばんやさしい日本国憲法』南野森(監修)(東京書店)
国家や政治のしくみを理解するための参考図書として
・『10歳から読める・わかるいちばんやさしい民主主義』五野井郁夫(監修)(東京書店)
法の役割やしくみ全体を理解するための参考図書として
・『もしも世界に法律がなかったら』木山泰嗣(日本実業出版社)
・『僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかるー13歳からの法学入門』遠藤研一郎(大和書房)

◆留意事項◆

最初から「むずかしい」、「わからない」、「興味がない」などと決めつけず、みなさんの日常生活や将来の仕事と「憲法」との関連をよく考えて、講義に臨んでください。
なお、教職課程との関係で本科目を履修する受講者も多いと思います。将来教職に就くにあたって「ふさわしくない」振る舞いをする受講者には、厳しい態度で臨みますので、あらかじめ承知しておいてください。

ナンバリング	LAL265N		
科目名	音楽著作権法入門		
科目詳細	学芸員選択必修【～21】		
担当教員	新井 恵美		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。著作権法について理解し、身近な事例について考えることができることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.著作権の概要
- 3.著作物
- 4.著作者
- 5.著作者人格権
- 6.著作権(著作財産権)(1)21～25条
- 7.著作権(著作財産権)(2)26～28条
- 8.著作権の制限(1)30～36条
- 9.著作権の制限(2)37～50条
- 10.保護期間
- 11.変動、利用、登録
- 12.著作隣接権
- 13.著作権の侵害と救済
- 14.その他の事項
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

各回テーマ(キーワード)や著作権に関する事件、判例について各自で調べてみることを、予習・復習の内容とします(60分)。

◆成績評価の方法◆

ワークシートの記入状況 30%
試験 70%
ワークシートは集中講義の1日ごとに回収し、採点及び感想や質問へのコメントを付して返却します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『著作権法入門 2024-2025』文化庁(著作権情報センター)

◆参考図書◆

- 『著作権法コンメンタール』改訂版I 小倉秀夫、金井重彦 (第一法規)
『著作権法コンメンタール』改訂版II 小倉秀夫、金井重彦 (第一法規)
『著作権法コンメンタール』改訂版III 小倉秀夫、金井重彦 (第一法規)
『著作権法コンメンタール1』第2版 半田正夫ほか (勁草書房)
『著作権法コンメンタール2』第2版 半田正夫ほか (勁草書房)
『著作権法コンメンタール3』第2版 半田正夫ほか (勁草書房)
『著作権法コンメンタール別冊』平成30年・令和2年改正解説 松田政行編 (勁草書房)
『著作権法逐条講義』七訂新版 加戸守行 (著作権情報センター)
『著作権法』第3版 茶園成樹 (有斐閣)
『標準著作権法』第5版 高林龍 (有斐閣)
『著作権法』第6版 岡村久道 (民事法研究会)
『著作権法入門』第3版 島並良、上野達弘、横山久芳 (有斐閣)
『著作権法』第4版 中山信弘 (有斐閣)
『著作権法』第6版 作花文雄 (ぎょうせい)
『はじめての著作権法』池村聡 (日本経済新聞社)
『著作権法判例百選』第6版 小泉直樹、田村善之、駒田泰土、上野達弘編 (有斐閣)

◆留意事項◆

著作権法は社会の変化に対応するため、毎年のように法改正が行われています。また、昔はプロのための法律と言われていましたが、現在では非常に身近な法律となっています。主体的に学習する意欲を持ってください。

ナンバリング	LAL310N		
科目名	音楽著作権入門		
科目詳細	学芸員選択必修【22～】		
担当教員	新井 恵美		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。著作権法について理解し、身近な事例について考えることができることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.著作権の概要
- 3.著作物
- 4.著作者
- 5.著作者人格権
- 6.著作権(著作財産権)(1)21～25条
- 7.著作権(著作財産権)(2)26～28条
- 8.著作権の制限(1)30～36条
- 9.著作権の制限(2)37～50条
- 10.保護期間
- 11.変動、利用、登録
- 12.著作隣接権
- 13.著作権の侵害と救済
- 14.その他の事項
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

各回テーマ(キーワード)や著作権に関する事件、判例について各自で調べてみることを、予習・復習の内容とします(60分)。

◆成績評価の方法◆

ワークシートの記入状況 30%
試験 70%
ワークシートは集中講義の1日ごとに回収し、採点及び感想や質問へのコメントを付して返却します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『著作権法入門 2024-2025』文化庁(著作権情報センター)

◆参考図書◆

- 『著作権法コンメンタール』改訂版I～III 小倉秀夫、金井重彦(第一法規)
 『著作権法コンメンタール1～3』第2版 半田正夫ほか(勁草書房)
 『著作権法コンメンタール別冊』平成30年・令和2年改正解説 松田政行編(勁草書房)
 『著作権法逐条講義』七訂新版 加戸守行(著作権情報センター)
 『著作権法』第3版 茶園成樹(有斐閣)
 『標準著作権法』第5版 高林龍(有斐閣)
 『著作権法』第6版 岡村久道(民事法研究会)
 『著作権法入門』第3版 島並良、上野達弘、横山久芳(有斐閣)
 『著作権法』第4版 中山信弘(有斐閣)
 『著作権法』第6版 作花文雄(ぎょうせい)
 『はじめての著作権法』池村聡(日本経済新聞社)
 『著作権法判例百選』第6版 小泉直樹、田村善之、駒田泰土、上野達弘編(有斐閣)

◆留意事項◆

著作権法は社会の変化に対応するため、毎年のように法改正が行われています。また、昔はプロのための法律と言われていましたが、現在では非常に身近な法律となっています。主体的に学習する意欲を持ってください。

ナンバリング	LAL270N		
科目名	音楽の仕事（音楽産業論）		
科目詳細			
担当教員	油井 誠志		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

音楽に関わる仕事(演奏家、教育者、音楽ビジネス、その他)の専門的な知識や技術、手法や情報、音楽の社会との関わり(「音楽産業の歴史、今、未来」「ライフスタイル、価値観の変化」「テクノロジーの進化」「グローバル化」)などについて説明することができる。またキャリア形成において自ら課題設定・解決し“進化”していける人材になれる。

◆授業内容・計画◆

主として音楽関連の仕事に関わる人になつての準備はもうつた、自分のキャリア形成においても有意義な内容をお伝えします！ 各口、下期は1インプットをメイン、午後はワークショップを行い、3日間でさまざまな視点や考え方、表現力を学び自己成長につながるカリキュラムです。※授業のイメージがわかりづらい人は、先輩たちに聞いてみてください

全体を通して以下のテーマで毎年最新の事例をもって音楽の仕事（音楽産業）を考察する。

- 3日間の構成
- DAY-1 目標[自分を知る]:INPUT「音楽産業の歴史、今」- 課題:キャリアを描く
- DAY-2 目標[世間を知る]:INPUT「音楽体験価値の変化」- 課題:社会を考察する
- DAY-3 目標[自分で創る]:INPUT「音楽とテクノロジー/グローバル」- 課題:音楽×αを考える

- ※参考資料にて事例、映像・音源などを紹介
- ※基本は対面授業を想定、情勢によってはオンライン／ツール使用
- ※グループワークでプレゼンやコミュニケーション力を養う
- ※集中講義のため、順序やテーマは臨機応変に変わります

<1日目>
自己紹介、ガイダンス:本授業の目標などを説明
音楽産業の歴史と現状:音楽とテクノロジー、市場の変化
音楽ビジネスの仕組み:レコード会社、出版社、プロダクション、その他
権利ビジネスとは?:著作権と原盤権について学ぶ
音楽制作について:A&R、音楽ができるまで
→自分のキャリアを描く

<2日目>
音楽体験の変化1:アーティスト(表現者)とリスナーの関係性
音楽体験の変化2:音楽をどうやって聴かせるか?
ヒット作品の考察:近年の事例を紹介
→マーケティング手法の活用

<3日目>
音楽とテクノロジー、グローバル
未来を考える:社会、他産業より音楽産業の未来を予想
新しい音楽体験と創造:「音楽×α」事例を紹介
音楽産業に求められる人材:クリエイティブとマーケティング
→新企画、アイデアの創出

◆準備学習の内容◆

授業内で出された課題について、時間内に提出できなかった場合やブラッシュアップしたい場合は改めて考えて指定の期日(授業で公表)までに提出をすること(15～30分程度)

◆成績評価の方法◆

授業内で随時課すレポートや授業内発表、授業への取り組み等を加えて総合的に評価する。※授業内で講評やコメントなど学生へのフィードバックあり

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業に関連する資料はその都度配布する。なお授業内に関連する文献については適宜紹介する。

◆参考図書◆

授業内で随時紹介する。

◆留意事項◆

授業への出席(各授業が関連した内容になっているため欠席すると理解できなくなる)に留意すること。

ナンバリング	LAL274N		
科目名	世界の金融と経済A		
科目詳細			
担当教員	三隅 隆司		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作家あるいは編纂家などとして活動した実務経験のある教員が、聴目や読解などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

将来に向けた不確実性が高まっていくなか（VUCAの時代ともいわれていますね）、さまざまな事態に対応しうる生活設計を自身の責任で行うことがますます重要となるこれからの時代において、身につけておくことが望ましい金融・経済に関する基礎的な知識や心がまえ（かつよくいえば金融・経済リテラシー）の習得を目標にします。

◆授業内容・計画◆

自分が生活する社会を知り(理解し)、現在から将来にわたって、(他人の意見の受け売りではなく)自らの判断で生活を送るために役に立つと考えられる金融と経済に関する事項をとりあげ、その内容やポイントについて解説します。

- (1) ガイダンス: 金融・経済について知ることの意味
- (2) 経済学は「需要と供給」に始まり「需要と供給」で終わる
- (3) 経済学は人間理解の学問である
- (4) なぜ政府が必要なのか
- (5) 人々の「意図をもった行動」が「意図せざる結果」を生む
- (6) ライフプランについて考える
- (7) 消費と貯蓄:どれだけ使ってどれだけ貯める
- (8) お金とはなにか
- (9) 利子について
- (10) 投資とは何か
- (11) 株式投資について
- (12) 年金について
- (13) NISA と iDeCo
- (14) 経済学は役に立つか
- (15) 金融リテラシーは必要か

◆準備学習の内容◆

予習： テキストおよび事前配付資料を読んでください。事前課題として、質問を出してもらいます。(目安 1時間～2時間程度)
復習： 知識確認のための簡単なレポートを提出してもらう予定です。(目安30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

- 以下の2つの課題の内容にもとづいて評価します。
- (1) 授業で提示する課題(事前質問および課題レポート) (40～60パーセント程度)
- (2) 最終課題 (40～60パーセント程度)

質問・課題に対しては、その内容に応じて、個別ないしは授業中に適宜フィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業の内容と同じことが書かれているという意味でのテキストはありません。
授業では、さまざまな著作・資料を参考にして私が作成した講義資料にもとづいて行われます。

なお、授業の内容を理解する上で参考になる書籍はいくつかありますので、それらについては、「参考図書」の項を参照下さい。

◆参考図書◆

授業内容・計画における (2)から(5)までの内容については、以下の書籍が参考になります。
小峰隆夫 『世の中の見方が変わる経済学－常識のワナに陥らないために－』 東京書籍 2023年

また、授業内容・計画における(6)から(13)までの内容については、以下の書籍が参考になります。
出口治明『働く君に伝えたい「お金」の教養－人生を変える5つの特別講義－』 ポプラ社 2016年

さらに、以下の書籍も、金融に関する解説書として大変参考になると思います。
アンドリュース・O・スミス(桜田直美・訳)『アメリカの高校生が学んでいるお金の教科書』 SBクリエイティブ 2019年

◆留意事項◆

この講義は、皆さんが生きてきた(そして、現在から将来に向かって生きていく)経済・社会をどのようにとらえていくかを考えていくものとなります。したがって、日本および世界の経済・社会に関心をもち、さまざまな情報を自発的に収集して、経済・社会に対する自分なりの実感を意識するようにして下さい。

「質問」することは、自発的な情報収集の第一歩です。疑問に思ったことは、どんな些細なことでも結構ですので、遠慮せずどんどん質問して下さい。

ナンバリング	LAL209N		
科目名	人間と文化A		
科目詳細			
担当教員	田中 理恵子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

この授業では、比較地域文化論としての文化人類学を学びながら、以下の内容を到達目標とする。(1)世界の多様な社会文化についての知識を習得できる。(2)「他者」への関心を高め、異文化をめぐる問題を理解できる。(3)文化相対主義をはじめとする文化研究の基本スタンスを体得できる。

◆授業内容・計画◆

〔授業内容〕

この授業では、世界各地の社会文化を対象に、人間の多様性を体感的に学ぶ。具体的には、人々の行動・慣習・信仰などを描く文化人類学の研究蓄積と、人々の生活を映し出す映画・絵画・写真などのメディアを参照し、さまざまな地域文化のあり方について考える。授業ではまず、わたしたちの「当たり前」「ふつう」といった感覚を問い直すことからはじめ、序盤では「他者との出会い」をテーマとして、異なる文化社会が会うとき、どのような衝突や触れ合いがみられるのかを理解する。つぎに中盤では「異文化の営み」について、いわゆる未開社会にはどのような独自の地域文化があるのかを検討する。そして終盤では人々が「世界のはじまり」をどのように想像してきたのか、各地の神話を参照しながら、その多様な世界観について学ぶ。新型コロナウイルスのまん延によって、現代文化のありようは見直しを迫られてきた。さまざまな社会文化を比較しながら、わたしたちの新たな生き方を模索し、みなさんの世界を広げていって欲しい。

〔授業計画〕

授業計画はおよそ3部に分けられ、第1部：導入編、第2部：プレゼン編、第3部：応用編となる。詳細は以下のとおり。

- <第1部> 導入編
1.人類学の眼差し：人間の多様性と彼ら／われわれの社会
【キーワード】アメリカ先住民、『ボカホンタス』＊課題：映画『ダンス・ウィズ・ウルブス』
2.人類学的思考①：「エキゾチズム」と「オリエンタリズム」
【キーワード】『ゲド戦記』、『蜂の王』
3.人類学的思考②：フィールドワークの神様と呼ばれた男
【キーワード】『クラ・島々をめぐる神秘の輪』
4.人類学的挑戦①：神秘の環「クラ」をめぐるって
【キーワード】ミラマラの神話と儀礼、バブアニューギニアの精霊と仮面
5.人類学的挑戦②：機能主義とギフトエコノミー
【キーワード】オカネとは？、『狼と香辛料』

- <第2部> プレゼン編
6.プレゼン1班 テキスト精読 「つながり」と「はみだし」
7.プレゼン2班 テキスト精読 「わたし」がひらく
8.プレゼン3班 テキスト精読 ほんとうの「わたし」とは？
9.プレゼン4班 テキスト精読 差異とともに生きる

- <第3部> 応用編
10.「人間」の探究①：進化論と人類学

◆準備学習の内容◆

事前・事後にしっかり学習をする必要がある。授業内でのコメント、授業後のリアクション・ペーパーの提出が求められる。具体的には以下の通り。

●予習として、授業日まで、指示された映像や資料に目を通しておく必要がある。毎回の授業はじめにコメントを述べてもらう。(時間目安60分)

●授業後は、毎回、リアクションペーパー(授業で学んだ内容をまとめ、感想を述べる)を、オンラインで提出する必要がある。(時間目安30分)

予習およびリアクションペーパーの内容は、翌授業でフィードバックを行う。

授業を履修している間は、普段の生活から、(1)世界の社会文化、(2)文化人類学の思考、(3)異文化・自文化をめぐる問題について、目を向けるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点・授業内発表(50%)、授業課題(20%)、最終課題(30%)によって単位評価する。授業回数の1／3を超えて欠席した場合は、最終課題を提出する資格がない。

◆教科書(使用テキスト)◆

『はみだしの人類学：ともに生きる方法』松村圭一郎 (NHK出版)

◆参考図書◆

『文化人類学への招待』山口昌男 (岩波新書)

『世界神話事典』大林太良ほか編 (角川書店)

「参考図書」の2冊は、授業に持参する必要はないが、興味のある人は目を通しておくとい。その他、必要な教材や資料がある場合には、授業中に指示する。

◆留意事項◆

プレゼンの担当を決めるため、履修希望者は1回目の授業に必ず参加すること。事前に必要な知識などはない。ただし、学問と向き合う知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提です。

ナンバリング	LAL210N		
科目名	人間と文化B		
科目詳細			
担当教員	田中 理恵子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

現代における文化の衝突や融合をめぐる問題系を学ぶことを通して、(1)現代の社会や文化にアプローチするための基本スタンスを体得できる。(2)文化人類学の議論を土台として、グローバル・スタディーズに関する基礎知識を習得できる。(3)グローバルイシューに関して自分なりに応答できるようになる。

◆授業内容・計画◆

[授業内容]

この授業では「現代を問う」手法として相当量の映像と諸理論を使いながら、具体的な社会問題と抽象的な議論に同時に取り組む。これは「映像を用いて国際情勢を知る」といった端的な趣旨では決してなく、あくまで「現代」を問う方法を皆さんが自らさまざまな実践する、という大きな目的に向かっていくためである。したがって、まずは第1回と第2回の授業を使って、わたしたちの生きる「現代」に関する基礎的な研究枠組みと、映像という手法の可能性について押さえる。その後は、細分化された問題を文献と事例を結びつけて検討・発表する、という段階的な手順を経て、各自の問題意識を掘り起こしていく。

[授業計画]

1. 現代とはどのような世界か：マクドナルド化する社会
2. 「いま・ここ」はどのようにみえるのだろうか：メディアという手法
3. 流れる世界：『1984』を超えて
4. 夢か、現か：多様な現実
5. さまよえる近代の風景：文化の衝突、境界領域を生きる
6. 世界の貧困と富：なぜ格差はあるのか、「そのこ」
7. 脱人間中心主義：生物から見た世界、ヒトモノシゼン
8. グループ発表：人間の差異との格闘
9. グループ発表：他者理解はいかに可能か
10. グループ発表：人間の本性とは？
11. グループ発表：秩序のつくり方
12. グループ発表：自然と神々の力
13. グループ発表：病むこと、癒やすこと
14. グループ発表：現在地を見定める
15. 総括

◆準備学習の内容◆

- 予習として授業日までに、指示された映像や資料に目を通しておく必要がある。毎回の授業ははじめにコメントを述べてもらう。(時間目安30分)
 - 全体のうち1回以上、グループ発表を行う必要がある。(グループ作業目安60分)
 - 授業後は毎回、リアクションペーパー(授業で学んだ内容をまとめ、感想を述べる)をオンラインで提出する必要がある。(時間目安30分)
- 予習およびリアクションペーパーの内容は、翌授業でフィードバックを行う。
加えて、普段の生活から(1)社会問題、(2)文化人類学の思考、(3)異文化・自文化をめぐる問題について、目を向けるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業課題を含む)(35%)、グループ発表(35%)最終課題(30%)によって単位評価する。
授業回数の1/3を超えて欠席した場合は、最終課題を提出する資格がない。

◆教科書(使用テキスト)◆

『人類学者のレンズ：「危機」の時代を読み解く』松村圭一郎ほか(西日本新聞社)

◆参考図書◆

授業に持参する必要はないが、テーマに応じて、以下の文献を参照すると良い。
『文化人類学キーワード 改訂版』山下晋司・船曳建夫編(有斐閣)
『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)―人類学の新たな実践へ』村尾静二・箭内匡・久保正敏編(有斐閣)

◆留意事項◆

事前に身につけておくべき知識などは特にない。ただし、学問と向き合う知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提です。

ナンバリング	LAL205N		
科目名	人間と行動A		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・「脳神経系の構造及び機能」について概説できる・「心的機能に強く関与する内分泌系」について概説できる・「記憶、感情等の生理的反応の機序」について概説できる・「高次脳機能障害の概要」を説明できる

◆授業内容・計画◆

心理学が研究の対象とする行動や感情、学習や記憶などは中枢神経系や内分泌系など身体の生理的機能が反映されたものだと考えられる。したがって、いわゆる「こころ」を理解するためにはこうした「からだ」の仕組みや働きについて理解しておくことが重要である。この授業では、こうした「こころ」と「からだ」の関係についてその概要を講義する。

第1回:オリエンテーション / 「こころ」と「からだ」の関係について

第2回:脳の構造と機能 その概要

第3回:神経系の仕組み 神経における伝導と伝達

第4回:神経伝達物質

第5回:記憶と記憶障害

第6回:記憶と薬物

第7回:睡眠・リズムと脳1

第8回:睡眠・リズムと脳2

第9回:食欲と脳

第10回:情動と脳(不安・怒り)

第11回:脳の病気1(薬物依存)

第12回:脳の病気2(うつ)

第13回:脳の病気3(統合失調症)

第14回:まとめと振り返り

第15回:テスト

◆準備学習の内容◆

授業前に提示される資料に目を通し、また授業後はできる限り速やかに復習しておく。事前事後の学習には60～90分かかることを想定している。

◆成績評価の方法◆

期末試験によって成績評価を行う。毎授業後に行う確認小テストについても一部成績に加味する事がある。確認小テストは毎回授業内で授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業中に紹介する

◆留意事項◆

全ての回に参加し、その内容を十分に理解していること、指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL206N		
科目名	人間と行動B		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

社会心理学、感覚知覚心理学、認知心理学の分野における心理学の基本的な知識を身につけ、客観的な「こころ」の研究方法を学ぶと同時に心理学的な見方、考え方を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回:導入授業の概要・オリエンテーション・グループ分け
第2回:態度・態度変容
第3回:対人魅力
第4回:恋愛 愛とは? 恋とは?
第5回:集団の形成・集団的思考
第6回:古典的条件付け
第7回:前半のまとめ
第8回:物理量と心理量精神物理学的研究の概要
第9回:知覚の恒常性知覚・錯視・恒常性・順応性
第10回:記憶と学習様々な記憶・様々な学習
第11回:パーソナルスペース・対人距離
第12回:リーダーの条件・リーダーシップ理論
第13回:道具的条件付け
第14回:復習
第15回:試験

◆準備学習の内容◆

授業前に提示される資料に目を通し、また授業後はできる限り速やかに復習しておく。事前事後の学習には60～90分かかることを想定している。

◆成績評価の方法◆

アクティブラーニング授業での成果物・発表50%、期末試験50%によって成績評価を行う。各回で行う確認小テストは翌週回授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること、指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL201N		
科目名	心のしくみA		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「幅広い視野」や「広い教養」を身につける一環として、心理学的知識や考え方を習得するとともに、アクティブラーニングを通じて自ら学ぶ力、まとめる力、伝える力を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回:オリエンテーション 授業の概要・オリエンテーション、チーム分け
第2回:心の測定法(1) 質問紙法① 質問紙を作る1
第3回:心の測定法(2) 質問紙法② 質問紙を作る2
第4回:心の測定法(3) 質問紙法③ Big5
第5回:心の測定法(4) 投影法① TAT・バウムテスト
第6回:心の測定法(5) 投影法② ロールシャッハ
第7回:前半のまとめ
第8回:心の病気(1) 青年期のうつ
第9回:心の病気(2) PTSD
第10回:こころの治療法(1) カウンセリング
第11回:心の治療法(2) 自律訓練法
第12回:心の治療法(3) マインドフルネス
第13回:心の治療法(4) 認知行動療法
第14回:後半のまとめ
第15回:試験

◆準備学習の内容◆

授業前に提示される資料に目を通し、また授業後はできる限り速やかに復習しておく。事前事後の学習には60～90分かかることを想定している。

◆成績評価の方法◆

小テスト(振り返りシート)(30%)、アクティブラーニング(30%)、期末テスト(40%)を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業中に紹介する

◆留意事項◆

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること。指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL201N		
科目名	心理学A		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「幅広い視野」や「広い教養」を身につける一環として、心理学的知識や考え方を習得するとともに、アクティブラーニングを通じて自ら学ぶ力、まとめる力、伝える力を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回:オリエンテーション 授業の概要・オリエンテーション、チーム分け
第2回:心の測定法(1) 質問紙法① 質問紙を作る1
第3回:心の測定法(2) 質問紙法② 質問紙を作る2
第4回:心の測定法(3) 質問紙法③ Big5
第5回:心の測定法(4) 投影法① TAT・バウムテスト
第6回:心の測定法(5) 投影法② ロールシャッハ
第7回:前半のまとめ
第8回:心の病気(1) 青年期のうつ
第9回:心の病気(2) PTSD
第10回:こころの治療法(1) カウンセリング
第11回:心の治療法(2) 自律訓練法
第12回:心の治療法(3) マインドフルネス
第13回:心の治療法(4) 認知行動療法
第14回:後半のまとめ
第15回:試験

◆準備学習の内容◆

授業前に提示される資料に目を通し、また授業後はできる限り速やかに復習しておく。事前事後の学習には60～90分かかることを想定している。

◆成績評価の方法◆

小テスト(振り返りシート)(30%)、アクティブラーニング(30%)、期末テスト(40%)を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業中に紹介する

◆留意事項◆

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること。指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL202N		
科目名	心のしくみB		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

人間の発達がどのようなものであるのか、主に心理学的な側面の発達について知識を深め、人間についての洞察を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回: オリエンテーション授業の説明・班分け・自己紹介・グループ学習のテーマ選択
第2回: 発達の考え方(講義) 遺伝と環境、成長・成熟と発達
第3回: 赤ちゃんを知る(講義) 赤ちゃん誕生の前後
第4回: 3歳児神話とは(講義) 3歳児神話の根拠
第5回: 3歳児神話への反論(講義) 3歳児神話への反論:現代の発達研究が示すもの
第6回: 前半のまとめ
第7回: 遊びの発達(発表)グループ学習の発表 ①「乳幼児の遊びの発達」
第8回: 『心の理論』の発達(発表)グループ学習の発表 ②「乳幼児の『心の理論』の発達」
第9回: 道徳性の発達(発表)グループ学習の発表③「乳幼児の道徳性の発達」
第10回: 知的発達(ピアジェ理論)(発表)グループ学習の発表④「乳幼児の知的発達(ピアジェ理論)」
第11回: 親の養育態度と子どもの発達(発表)グループ学習の発表⑤「親の養育態度と子どもの発達」
第12回: 後半のまとめ
第13回: 討論準備グループごとに討論の準備
第14回: 3歳児神話 賛成か反対か(討論)3歳児神話についての討論
第15回: 試験

◆準備学習の内容◆

アクティブラーニング授業での成果物・発表50%、期末試験50%によって成績評価を行う。各回で行う確認小テストは翌週回授業内でフィードバックする。

◆成績評価の方法◆

アクティブラーニング授業での成果物・発表50%、期末試験50%によって成績評価を行う。各回で行う確認小テストは翌週回授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること。指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL202N		
科目名	心理学B		
科目詳細			
担当教員	川崎 勝義		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

人間の発達がどのようなものであるのか、主に心理学的な側面の発達について知識を深め、人間についての洞察を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回：オリエンテーション授業の説明・班分け・自己紹介・グループ学習のテーマ選択
第2回：発達の考え方(講義) 遺伝と環境、成長・成熟と発達
第3回：赤ちゃんを知る(講義) 赤ちゃん誕生の前後
第4回：3歳児神話とは(講義) 3歳児神話の根拠
第5回：3歳児神話への反論(講義) 3歳児神話への反論：現代の発達研究が示すもの
第6回：前半のまとめ
第7回：遊びの発達(発表)グループ学習の発表 ①「乳幼児の遊びの発達」
第8回：『心の理論』の発達(発表)グループ学習の発表 ②「乳幼児の『心の理論』の発達」
第9回：道徳性の発達(発表)グループ学習の発表③「乳幼児の道徳性の発達」
第10回：知的発達(ピアジェ理論)(発表)グループ学習の発表④「乳幼児の知的発達(ピアジェ理論)」
第11回：親の養育態度と子どもの発達(発表)グループ学習の発表⑤「親の養育態度と子どもの発達」
第12回：後半のまとめ
第13回：討論準備グループごとに討論の準備
第14回：3歳児神話 賛成か反対か(討論)3歳児神話についての討論
第15回：試験

◆準備学習の内容◆

アクティブラーニング授業での成果物・発表50%、期末試験50%によって成績評価を行う。各回で行う確認小テストは翌週回授業内でフィードバックする。

◆成績評価の方法◆

アクティブラーニング授業での成果物・発表50%、期末試験50%によって成績評価を行う。各回で行う確認小テストは翌週回授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用しない

◆参考図書◆

授業内で紹介する

◆留意事項◆

全ての回に出席し、その内容を十分に理解していること。指示された講義前学習を行っていることを前提として講義を進める。講義内容に不明な点などあれば、質問などを行い、直ちに解決すること。

ナンバリング	LAL256N		
科目名	音の科学A		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

本講義では演奏音をその物理的特性から捉え、かつ聴取する人間の聴覚構造を理解する。その後、音響信号の基本的な性質である音の高さと大きさについて学ぶ。講義では実際に聴取体験を行なうことで、その理解を深める。音の物理的性質を正しく理解できる能力が獲得できる。

◆授業内容・計画◆

音は物理的には空気振動であり、心理的には我々の心を打つような豊かな音楽の源である。本授業はそのような音の科学に迫る内容を以下の内容に従って教示する。

- 1.ガイダンス 音の空気振動
- 2.音の仕組み1 振幅, 周波数, 位相
- 3.音の仕組み2 フーリエ変換
- 4.耳の仕組み1 蝸牛
- 5.耳の仕組み2 中枢システムと聴覚フィルタ
- 6.ラウドネス
- 7.音の大きさの測定
- 8.音楽学科のための音響学
- 9.ホール音響
- 10.録音と再生
- 11.信号処理
- 12.楽器音の解析と合成
- 13.ピッチと音高
- 14.全体討論
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートの実施状況と授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。
授業で課されたレポートの評価結果をフィードバックし、質問内容については全学生からの質問をまとめて全学生にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

大串健吾, 桑野園子, 難波誠一郎監修「音楽知覚認知ハンドブック」, 北大路書房(2020)

◆参考図書◆

「図解入門よくわかる最新音響の基本と仕組み」, 岩宮眞一郎著, 秀和システム(2014)

◆留意事項◆

日常の課題はGoogle Classroomを用いて提出する必要がある。課題は期限内に提出する必要がある。「音の科学B」を履修することで、音に対する心理的・学理的側面の理解を深めることができる。

ナンバリング	LAL257N		
科目名	音の科学B		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

本講義では、演奏音をその物理的特性から捉え、かつ聴取する人間の聴覚構造を理解する。その後、音響信号の基本的な性質である音の高さと大きさについて学ぶ。講義では実際に聴取体験を行なうことで、その理解を深める。音の物理的性質を正しく理解できる能力が獲得できる。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.聴覚心理学 ラウドネス
- 3.聴覚心理学 HRTF
- 4.聴覚心理学 時間特性
- 5.音の心理評価指標1 協和と不協和
- 6.音の心理評価指標2 臨界帯域
- 7.音の心理評価指標3 シャープネスとスペクトル重心
- 8.音の心理評価指標4 変動強度とラフネス
- 9.音色と音源定位
- 10.聴覚の知覚的体制化
- 11.知覚的体制化を体験できる錯聴現象
- 12.音声と音楽の復元効果
- 13.音楽の知覚
- 14.錯聴の体験
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

教科書を見ながらキーワードを確認し、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安は毎回2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートの実施状況と授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。
授業で課されたレポートの評価結果をフィードバックし、質問内容については全学生からの質問をまとめて全学生にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

大串健吾, 桑野園子, 難波誠一郎監修「音楽知覚認知ハンドブック」, 北大路書房(2020)

◆参考図書◆

「図解入門よくわかる最新音響の基本と仕組み」, 岩宮眞一郎著, 秀和システム(2014)

◆留意事項◆

日常の課題はGoogle Classroomを用いて提出する必要がある。課題は期限内に提出する必要がある。「音の科学A」を履修することで、音に対する物理的側面の理解を深めることができる。
2021, 2022年度の内容から大幅に変更している。

ナンバリング	LAL207N		
科目名	人間と環境A		
科目詳細			
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

人間と環境、特に子どもを取り巻く環境について、衣食住、社会とのかかわりを中心に学び、子どもの生活について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス、子どもを取り巻く環境の変化
第2回:子どもを取り巻く環境と「衣」①衣生活
第3回:子どもを取り巻く環境と「衣」②子ども服、子どもとメイク
第4回:子どもを取り巻く環境と「食」①食生活
第5回:子どもを取り巻く環境と「食」②食育について
第6回:子どもを取り巻く環境と「食」③子どもの食に関する話題
第7回:子どもを取り巻く環境と「食」④子どもの食に関する問題
第8回:子どもを取り巻く環境と「住」
第9回:子どもたちの現在の生活①習いごと
第10回:子どもたちの現在の生活②コロナ禍における生活の変化
第11回:子どもと社会①多文化社会
第12回:子どもと社会②ジェンダー
第13回:子どもと社会③子ども産業とキッズマーケット
第14回:子どもとメディア
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート50%を総合的に評価する。
課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL208N		
科目名	人間と環境B		
科目詳細			
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

人間と環境、特に子どもや子育てをめぐる環境について学び、子育て環境や家族について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス、自分の防災意識について振り返る
 第2回:子どもと安全①災害への備え
 第3回:子どもと安全②防災教育
 第4回:学校安全①学校における安全とはなにか
 第5回:学校安全②学校における安全教育とは何か
 第6回:学校安全③学校における安全管理とは何か
 第7回:子どもと社会①子ども虐待
 第8回:子どもと社会②子ども虐待とDV
 第9回:子どもと社会③子どもの貧困
 第10回:子どもと社会④ヤングケアラー
 第11回:子どもと社会⑤さまざまな家族
 第12回:子どもと社会⑥こどもの居場所
 第13回:子どもと社会⑦障がい児を取り巻く環境
 第14回:子どもと社会⑧仕事と子育ての両立
 第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
 (事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート50%を総合的に評価する。
 課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL285N		
科目名	身体の健康A		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

身体の特性について説明できる。身体と健康との関係について説明できる。身体の健康に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容（初学者が履修することを想定し基礎的な内容を中心とする。）

- 身体について学習する。
- 身体と健康との関係について学習する。
- 身体の健康にかかわる個人的・共同的な学習への参加を支援する。

- 授業計画
- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：骨および脊髄の理解と支援
 - 第3回：神経および脳の理解と支援
 - 第4回：血管およびリンパ管・リンパ節の理解と支援
 - 第5回：筋肉 皮膚の理解と支援
 - 第6回：目 耳の理解と支援
 - 第7回：鼻 口の理解と支援
 - 第8回：気管・気管支および肺の理解と支援
 - 第9回：心臓 胃の理解と支援
 - 第10回：肝臓および膵臓の理解と支援
 - 第11回：小腸および大腸の理解と支援
 - 第12回：腎臓および膀胱の理解と支援
 - 第13回：精巣および卵巣・子宮の理解と支援
 - 第14回：身体と健康の理解と支援
 - 第15回：まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。主体的な学習を支援するために課題を課すことがあります。（目安2時間）

◆成績評価の方法◆

学期末試験（50％）、課題（30％）、平常の授業への取り組み（20％）により総合的に評価します。課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書（使用テキスト）◆

教科書を使用しません。 必要に応じて資料を案内します。

◆参考図書◆

『最高に面白い 人体 取扱説明書編』坂井健雄監修（ニュートンプレス）2024.
『ぜんぶわかる 人体解剖図』坂井健雄・橋本尚詞（成美堂出版）2010.
その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

「身体の健康B」の履修希望者は「身体の健康A」を受講してから履修することが望ましいです。

ナンバリング	LAL286N		
科目名	身体の健康B		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

身体の特性について説明できる。身体と健康との関係について説明できる。身体の健康に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容（初学者が履修することを想定した基礎的な内容を中心とする。）

- 身体について学習する。
- 身体と健康との関係について学習する。
- 身体の健康にかかわる個人的・共同的な学習への参加を支援する。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： 細胞と栄養
- 第3回： 身体のしくみと栄養1 消化器
- 第4回： 身体のしくみと栄養2 代謝
- 第5回： 身体のはたらきと栄養 ビタミン・ミネラル
- 第6回： 糖尿病にかかわる食と支援
- 第7回： 肥満症にかかわる食と支援
- 第8回： 脂質異常症(高脂血症)にかかわる食と支援
- 第9回： 高血圧にかかわる食と支援
- 第10回： 精神保健にかかわる食と支援
- 第11回： 老年期医療と食
- 第12回： 在宅医療と食
- 第13回： 症例に基づいた検討1 家庭における支援
- 第14回： 症例に基づいた検討2 施設・学校等における支援
- 第15回： まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。主体的な学習を支援するために課題を課することがあります。（目安2時間）

◆成績評価の方法◆

学期末試験（50％）、課題（30％）、平常の授業への取り組み（20％）により総合的に評価します。課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストを使用しません。 必要に応じて資料を案内します。

◆参考図書◆

- 『食と健康[改訂]』朝倉富子・佐藤隆一郎(放送大学教育振興会)2024.
- 『食育の百科事典』日本食育学会編(丸善出版)2023.
- 『ICT活用編・食育実践集』藤本勇二編著(全国学校給食協会)2024.
- 『大人の食物アレルギー必携ハンドブック』永田真編著(中外医学社)2024.
- その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

「身体の健康A」を履修してから受講することが望ましいです。

ナンバリング	LAS293N		
科目名	スポーツA		
科目詳細	テニス		
担当教員	山口 知恵		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

体育館でスポンジボールを使用したショートテニスを行う。スポンジテニスの技術の習得、試合のルールやマナーを身につける。ゲームを通してコミュニケーション能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ショートテニス導入、ラケットとスポンジボールに慣れる
3. ミニラリー、壁打ち
4. ストロークの基本、フォアハンドストローク
5. ストロークの基本、バックハンドストローク
6. ボレーの練習、ストローク&ボレー
7. サーブの練習、サーブ&レシーブ
8. 簡単なゲーム形式での練習
9. シングルスゲーム(ルールやマナーの理解)
10. シングルスゲーム(点数のつけ方)
11. シングルスゲーム(セルフジャッジ)
12. ダブルスゲーム(ルールやマナーの理解)
13. ダブルスゲーム(点数のつけ方)
14. ダブルスゲーム(セルフジャッジ)
15. ダブルスゲーム(陣形の理解)

◆準備学習の内容◆

ショートテニス(スポンジテニス)のルールを調べてくる、理解してくること(書籍やネット検索で調べる、目安30分～1時間)。
体育着、体育館シューズの用意、健康管理。

◆成績評価の方法◆

平常時の授業への取り組み(準備、片付け、遅刻、提出物、参加態度、理解度、積極性、協調性など)により評価する。
その他、随時実技課題を出してフィードバックするとともに総合的に成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

体育館でスポンジボールを使用したショートテニスを行います。
体育着、体育館シューズ、飲み物、タオル等必要です。

ナンバリング	LAS294N		
科目名	スポーツB		
科目詳細	バードゴルフ		
担当教員	藺部 正人		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

新型コロナウイルスの影響により、心身共に健康を維持していくためのライフスタイルと生涯スポーツへの理解が更に必須となっている。この授業では、ディプロマポリシーに従い、生活習慣の見直し、健康・体力の維持を目標と定め、「バードゴルフ」を教材として実践し、その競技知識を深めるとともに今後の自ら運動習慣を確認・改善することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

この授業は、基本的に体育館の近くにあるハートゴルフ場（屋外）を使用して実施します。基本、屋内での実施ではありません。猛暑および雨天等の場合は、体育館内で実施します。

【第1回】ガイダンス
・シラバス記載事項の確認 ・授業の進め方、授業方針の説明
・生活習慣記録方法の説明 ・問題等あった際の連絡方法の確認

【第2回】バードゴルフの導入
（クラブの握り方を含む基礎説明を実施）

【第3回】バードゴルフの基礎説明・実践
（ルール・マナー、スコアカードについて）

【第4回】バードゴルフの基礎技術の実践①
（スイング動作の習得・練習）

【第5回】バードゴルフの基礎技術の実践②
（様々なスイングの紹介及び実践・習得・練習）

【第6回】基本技術練習①
（打ちっ放しによるスイングのチェックと注意点の説明）

【第7回】基本技術練習②
（チップショット、ハーフスイングやフルスイング等の力の入れ方）

【第8回】応用技術練習①
（ボールの飛距離や方向性に関する打ち方の実践練習）

【第9回】応用技術練習②
（籠入れの技術の説明と実践練習）

【第10回】簡易コースの実践ラウンド① いろいろな人とグループになって交流する。
（ラウンドコースの把握、ルールとマナー、安全管理の再確認）

【第11回】簡易コースの実践ラウンド②
（ラウンド中におけるスコアカードの記入方法習得、提出）

◆準備学習の内容◆

ゴルフ用のグローブ（安価な物）を購入し授業日に持参すること。バードゴルフに関係する基礎知識を調べておく（30分から1時間程度）。毎回の授業で学習した内容（ルールやマナー、技術）について復習すること（30分から1時間程度）日頃から健康管理に留意すること。また、日常生活の中で運動やスポーツを定期的に行えない学生は、歩くことや軽運動（家事やストレッチ）等での運動の機会を意図的に設け基礎体力の向上を心掛けること（30分程度）。スポーツ全般に対しメディア等を通して興味を持つこと（書籍、TV、インターネット等を利用し30分程度）。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的参加度（50％）、実施競技における実技点、ルールや安全面への理解度（30％）、自分勝手な行動をしない、時間を守ることや準備・片付け等の授業への協力度（20％）によって評価する。その他、スポーツ実技等の説明内容に関する課題の出題時には、随時授業内において口頭でフィードバックを行うことで総合的に成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

出席は、基本屋外、体育館の入り口またはバードゴルフ場で毎回取ります。授業は、基本対面、点呼形式で確認します。不測の事態に対応するオンライン（最大2回まで）では、Google Classroomへの課題の提出により確認。この場合、課題未提出は、欠席です。授業の特性上、スポーツウェア、屋外用運動靴（雨天の場合は、室内履きを用意）、帽子、ゴルフグローブを用意すること。忘れた場合、見学して頂きます。前期の屋外は、酷暑となります。必ず適宜、水分を持参し、補給してください。ケガをしないよう、周りの状況に十分注意してください。ケガ防止の観点から、自分勝手な行動は、控えてください。詳しい説明は、1回目のガイダンスで実施します。必ず出席してください。

ナンバリング	LAS295N		
科目名	スポーツC		
科目詳細	バドミントン		
担当教員	藺部 正人, 山口 知恵		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

バドミントン技術の習得、試合のルールやマナーを身につける。ゲームを通してコミュニケーション能力を養う。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. バドミントン導入、シャトルとラケットに慣れる
3. フォアハンドとバックハンドのサーブ、オーバーヘッドストローク
4. クリア、クリアラリー
5. ドライブ、ドライブラリー
6. ロブ、ドロップ、ドロップ交互
7. スマッシュ、スマッシュレシーブ、スマッシュ交互
8. ヘアピン、ヘアピンラリー
9. 半面シングルスゲーム
10. 全面シングルスゲーム
11. ダブルスゲーム(ルールやマナーの理解)
12. ダブルスゲーム(セルフジャッジ)
13. ダブルスゲーム(ポジションとローテーションの理解)
14. ダブルスゲーム(ダブルスの戦術)
15. ダブルスゲーム(まとめ)

◆準備学習の内容◆

バドミントンのルールを調べてくる。理解してくること(書籍やネット検索で調べる。目安30分～1時間)。
体育着、体育館シューズの用意、健康管理。

◆成績評価の方法◆

平常時の授業への取り組み(準備、片付け、遅刻、提出物、参加態度、理解度、積極性、協調性など)により評価する。
その他、随時実技課題を出してフィードバックするとともに総合的に成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

体育着、体育館シューズ、飲み物、タオル等が必要です。

ナンバリング	LAS296N		
科目名	スポーツD		
科目詳細	卓球		
担当教員	藺部 正人		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

近年、多様化する社会状況に応じ、心身共に健康を維持していくための「ライフスタイルの形成」と生涯スポーツ実践による「体力・コミュニケーション能力の獲得」がより必須となっている。本授業では、ディプロマポリシーに従い、社会活動における生活習慣の見直し、健康・体力の維持・向上を目標と定めている。加えて、「卓球」を教材として実践し、卓球の競技知識を深めるとともに、実施する運動状況により、自ら運動習慣を確認、改善することができるようになる

◆授業内容・計画◆

【第1回】ガイダンス
・シラバス記載事項の確認 ・授業の進め方、授業方針の説明
・生活習慣記録方法の説明 ・問題等あった際の連絡方法の確認

【第2回】卓球の導入（基礎知識について）
・コート、用具、ラケットの握り方
（これ以降の授業では、体力づくりやコンディショニングの為の運動を適宜紹介する。）

【第3回】卓球の基礎技術①スイング動作
・基本姿勢
・フォアハンドストローク
・バックハンドストローク

【第4回】卓球の基本技術②
・サービス ・レシーブ

【第5回】卓球の基本技術③
・カット ・突っつき ・ショート

【第6回】卓球の基本技術④
・スマッシュ

【第7回】卓球の基本技術⑤
・前半の復習

【第8回】シングルスゲームの進め方
・審判法 ・シングルスゲームのルール習得

【第9回】シングルスゲーム①
・ローテーション方式

【第10回】シングルスゲーム②
・勝ち抜き戦方式の説明 ・総当たり戦の説明

【第11回】ダブルスゲームの進め方
・審判法 ・ダブルスゲームのルール習得

◆準備学習の内容◆

卓球に関する基礎的なルールや技術について調べておくこと(30分から1時間程度)。毎回の授業で説明した内容(卓球のルールや技術等)について次の授業までに復習し、ゲーム等の進行がスムーズになるようにすること(30分程度)。日頃から健康管理に留意すること。また、運動やスポーツを定期的に行えない学生は、日常生活の中で歩くことや軽運動(家事やストレッチ等)を実施して基礎体力の向上に努める(30分程度)また、メディアや動画等でのスポーツ観戦の機会を意図的に設け、スポーツに関する情報に興味を持つこと(30分から1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

対面形式の授業への参加度(60%)、授業内容の理解度および受講態度(ゲームの実施状況、準備・片付け等への協力度)(40%)によって評価する。その他、スポーツ実技等に関する課題を出題した際には、随時授業内において口頭にてフィードバックを行うことで総合的に成績評価を実施する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

出席は、毎回取ります。対面授業では、点呼形式で出席確認をします。遅刻しないよう留意ください。不測の事態に対応する為のオンライン形式授業(最大2回まで)では、Google Classroomへの課題の提出により確認します。この場合、課題等の未提出は、欠席です。授業の特性上、スポーツウェア、室内用運動靴を用意すること。忘れた場合は、安全管理上の観点から見学して頂きます。なお、実技実施の際、体調の悪いときは、無理をせず見学してください。適宜水分を必ず持参し、補給してください。ケガをしないよう周りの状況に十分注意してください。詳しい内容は、1回目のガイダンスで説明します。

ナンバリング	LAL279N		
科目名	子どもの発達と心理		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業を通して、自らの子ども時代を振り返り、どのような過程を経て発達してきたのか、発達にはどのような要因が関与しているのかを理解し、説明することができる。また、どのような支援が健全な発達には効果的かを考え、説明し、実践することができる。

◆授業内容・計画◆

1. 発達とは
2. 胎児の世界
2. 驚くべき乳児の世界
3. 人間の原点である乳児
4. 赤ちゃんと言語
5. 幼児の世界(1)
6. 幼児の世界(2)
7. 児童期「10歳の壁」
8. 思春期
9. 親子関係
10. 兄弟関係
11. 発達と障害
12. 躰と体罰
13. 習い事と早期教育
14. 子どもと貧困
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

キーワードをもとに自分で新聞記事やネットの情報を検索し、基本的な知識を身につけてから授業に臨むことが必要で、そのためには1時間ほどの予習が必要になる。また、授業で扱った資料を再度読み返し、子どもの発達過程を再確認することが重要になる。そのため、30分程度の復習を要する。

◆成績評価の方法◆

授業ごとのリアクションペーパー20%、レポート80%とする。リアクションペーパーについては授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に使用しない。適宜資料の配付及び参考書を紹介する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL280N		
科目名	青年の発達と心理		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

青年期の発達の特性について説明できる。青年期の発達に基づいた心理の特性について説明できる。青年期の発達と心理に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容(初学者が履修することを想定した基礎的な内容を中心とする。)

生涯発達過程をふまえた青年期の発達の特性について学習する。

青年期の発達に基づいた心理の特性について学習する。

青年期の発達と心理にかかわる個人的・共同的な学習への参加を支援する。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 生涯にわたる発達と青年期の課題

第3回: 青年期の食生活と発達・心理

第4回: 青年期の発達・心理にかかわる健康リスク要因と行動

第5回: 青年期の発達・心理にかかわる健康リスク要因とパーソナリティ

第6回: 青年期を中心とした自殺リスクの評価と対応

第7回: 青年期を中心とした女性と健康

第8回: 青年期の発達と心理にかかわる課題1—統合失調症—

第9回: 青年の発達と心理にかかわる課題2—出生前診断—

第10回: 青年期の発達と心理にかかわるメンタル・ヘルス

第11回: 青年期の発達と心理にかかわるストレスの理解

第12回: 青年期の発達・心理にかかわるストレスとリラクゼーションの効果

第13回: 青年期の発達・心理にかかわるストレスとモニタリングの効果

第14回: 青年期の発達・心理にかかわるストレスとマインドフルネスの効果

第15回: まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。主体的な学習を支援するために課題を課すことがあります。(目安2時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストを使用しません。必要に応じて資料を案内します。

◆参考図書◆

『摂食障害がわかる本 思春期の拒食症 過食症に向き合う』鈴木真理監修(講談社)2023.

『教師と支援者のための 令和型不登校』神村栄一(ぎょうせい)2024.

『「助けて」が言えない 子ども編』松本俊彦(日本評論社)2023.

『統合失調症』村井俊哉(岩波書店)2019.

『出生前診断の現場から 専門医が考える「命の選択」』室月淳(集英社)2020.

『世界一やさしい 依存症入門』松本俊彦(河出書房新社)2021.

『はじめてのストレス心理学』永岑光恵(岩崎学術出版社)2022.

その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

授業の後半に学習した内容に基づいた課題を課すことがあります。学習に積極的に取り組まれてください。

ナンバリング	LAL281N		
科目名	老年期の発達と心理		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

老年期の発達の特性について説明できる。老年期の発達に基づいた心理の特性について説明できる。老年期の発達と心理に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容(初学者が履修することを想定した基礎的な内容を中心とする。)

- 生涯発達過程をふまえた老年期の発達の特性について学習する。
- 老年期の発達に基づいた心理の特性について学習する。
- 老年期の発達と心理にかかわる個人的・共同的な学習への参加を支援する。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 高齢化と情報処理機能にかかわる変化
- 第3回: 高齢化と記憶および学習にかかわる変化
- 第4回: 高齢化と知的発達
- 第5回: 加齢にかかわる心理
- 第6回: 高齢化社会と加齢にかかわる心理
- 第7回: 退職・社会的役割の変化にかかわる高齢者の心理
- 第8回: 加齢とパーソナリティにかかわる心理
- 第9回: 家族にかかわる高齢者の心理
- 第10回: 社会参加にかかわる高齢者の心理
- 第11回: 高齢者と心理の不調
- 第12回: 超高齢者の心理
- 第13回: 死にかかわる高齢者の心理
- 第14回: 共に在るための高齢者の心理の理解
- 第15回: まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。授業の理解を確認するために、課題を課することがあります。(目安2時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストを使用しません。必要に応じて資料を案内します。

◆参考図書◆

- 『老化と寿命の謎』飯島裕一(講談社)2024.
 - 『高齢者ケア アドバンス』古田愛子監修・井藤英喜医学監修(インターメディカ)2024.
 - 『医療福祉サービスガイドブック』鈴木豊他編(医学書院)2024.
 - 『認知症は病気ではない』奥野修司(文藝春秋)2024.
 - 『「死にたい」と言われたら 自殺の心理学』末広新(筑摩書房)2023.
- その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

授業の後半に学習した内容に基づいた課題を課することがあります。学習に積極的に取り組まれてください。

ナンバリング	LAL277N		
科目名	社会と福祉A		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

社会と福祉、特に子ども家庭福祉について少子化、子どもの家庭生活における変化、虐待問題、経済的な問題等、子育て環境や家族をめぐる現状と課題について理解し、その支援について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回:いま、わたしたちの社会で進行していること
第2回:こども家庭庁およびこども基本法について
第3回:子どもの貧困
第4回:子どもの権利
第5回:子どもの虐待
第6回:子どもの虐待とドメスティック・バイオレンス
第7回:さまざまな家族
第8回:母子保健
第9回:社会的養護
第10回:子どもの居場所づくり
第11回:障がいがある子ども
第12回:少子化と子ども家庭福祉
第13回:地域子育て支援
第14回:子どもの非行
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート50%を総合的に評価する。
課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業の際に資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL311N		
科目名	社会福祉概論A		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

社会と福祉、特に子ども家庭福祉について少子化、子どもの家庭生活における変化、虐待問題、経済的な問題等、子育て環境や家族をめぐる現状と課題について理解し、その支援について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:いま、わたしたちの社会で進行していること
- 第2回:こども家庭庁およびこども基本法について
- 第3回:子どもの貧困
- 第4回:子どもの権利
- 第5回:子どもの虐待
- 第6回:子どもの虐待とドメスティック・バイオレンス
- 第7回:さまざまな家族
- 第8回:母子保健
- 第9回:社会的養護
- 第10回:子どもの居場所づくり
- 第11回:障がいがある子ども
- 第12回:少子化と子ども家庭福祉
- 第13回:地域子育て支援
- 第14回:子どもの非行
- 第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- (事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
- (事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート50%を総合的に評価する。
課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業の際に資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL278N		
科目名	社会と福祉B		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

劇場と音楽堂のアクセシビリティを中心に、音楽とバリアフリーの関連について理解を深め、「みんなにとってやさしい社会」の実現に向け、自分は何ができるのかを考える。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス
第2回:障害の社会モデルとは
第3回:バリアの種類:4つのバリア
第4回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ①駅や公共交通
第4回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ②設備利用時、車両
第5回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ③店舗や施設、道路
第6回:障害特性と支援について考える①視覚障がい、聴覚障がい
第7回:障害特性と支援について考える②身体障がい、高齢者
第8回:障害特性と支援について考える③知的障害、内部障害、精神障害
第9回:障害特性と支援について考える④発達障害他
第10回:乳幼児連れが感じるバリアと支援
第11回:建築基準から考える劇場・音楽堂のバリアフリー
第12回:劇場・音楽等における配慮とは
第13回:劇場・音楽堂等の鑑賞までのバリア
第14回:わたしたちにできることを考える
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート試験50%を総合的に評価する。
課題についてはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

『こころのバリアフリーガイドブック』国土交通省関東運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課
『障害ってどこにあるの? こころと社会のバリアフリーハンドブック』国土交通省総合政策局 安心生活政策課

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL312N		
科目名	社会福祉概論B		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

劇場と音楽堂のアクセシビリティを中心に、音楽とバリアフリーの関連について理解を深め、「みんなにとってやさしい社会」の実現に向け、自分は何ができるのかを考える。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:障害の社会モデルとは
- 第3回:バリアの種類:4つのバリア
- 第4回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ①駅や公共交通
- 第4回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ②設備利用時、車両
- 第5回:まちにあるバリアフリーの工夫を学ぶ③店舗や施設、道路
- 第6回:障害特性と支援について考える①視覚障がい、聴覚障がい
- 第7回:障害特性と支援について考える②身体障がい、高齢者
- 第8回:障害特性と支援について考える③知的障害、内部障害、精神障害
- 第9回:障害特性と支援について考える④発達障害他
- 第10回:乳幼児連れが感じるバリアと支援
- 第11回:建築基準から考える劇場・音楽堂のバリアフリー
- 第12回:劇場・音楽等における配慮とは
- 第13回:劇場・音楽堂等の鑑賞までのバリア
- 第14回:わたしたちにできることを考える
- 第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- (事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習する(1時間)
- (事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート試験50%を総合的に評価する。課題についてはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

- 『こころのバリアフリーガイドブック』国土交通省関東運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課
- 『障害ってどこにあるの？ こころと社会のバリアフリーハンドブック』国土交通省総合政策局 安心生活政策課

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL282N		
科目名	生涯学習		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	渡邊 祐子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

本講義では、生涯学習の基本的な理解を深めることを目的に、ライフサイクルと生涯学習、自律的学習、生涯学習の施設を中心に、「生活と学習の結合」という観点から「学び」について考えることを目標とする。具体的には、(1)「学習」の基礎的な考え方を身につけ、生涯にわたる学習の意味を理解する。(2)多様な学びの機会を認識し、その実践方法と内容、学習意図を知る。(3)学習を提供する側の立場に立って、学びのあり方について他の学生と議論し、自身の知見を広げる。(4)各回のテーマを深く学び、自己理解を一層深めて、自律的学習者としての姿勢を身につける。

◆授業内容・計画◆

内容：
この講義では、生涯学習の概念から実践までを座学を通じて体系的に理解するとともに、各回で出される問いへの返答(リアクション・ペーパー)、グループ・ディスカッション、発表などのアクティビティを通じて、自己理解を深めるとともにコミュニケーション能力の向上を考えます。

計画：
1.社会変化から生じる生涯学習の課題
2.生涯設計
3.日本人のライフサイクル
4.中年の危機の問題
5.生涯現役論
6.自律的学習者を目指して
7.生涯学習の内容と方法
8.生涯学習施設
9.民間の生涯学習施設
10.生涯学習行政
11.生涯学習としての学校教育
12.地域づくりの生涯学習
13.自主学習グループ
14.ボランティア活動
15.まとめ・試験
* 上記授業計画には、生涯学習施設の現地リサーチの回、グループ発表の回が含まれます。

◆準備学習の内容◆

必要に応じて、調べ学習やレポートなどの課題を出します。課題の目安は、個人差はありますが1～3時間ほど。

◆成績評価の方法◆

成績は、試験50%、授業への積極的参加(リアクション・ペーパー、レポート、発表等)50%で評価します。
* 各回の授業は、リアクション・ペーパーの提出をもって「出席」と見なします。
* 4回以上の欠席は、修学すべき最低限の内容を履修できていないものとして、成績評価を「不可」とします。
* 学期末に試験を実施します。

なお、講義内で提出されたリアクションペーパーは、次回講義で取り上げてフィードバックを行います。
大学で合理的配慮の必要性が確認された場合は、授業環境の調整を検討します。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の講義の中で必要な資料を配布します。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL283N		
科目名	仕事と人生(キャリア発達)		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

労働にかかわる環境及び制度に関して説明できる。 職業及びキャリア発達に関して説明できる。 自己の理解及び支援に関して説明できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容(初学者が履修することを想定した基礎的な内容を中心とする。)
自己の理解及び支援に関して学習する。
職業及びキャリア発達に関して学習する。
労働にかかわる環境・制度及び支援に関して学習する。

授業計画
第1回:ガイダンス
第2回:キャリア発達
第3回:自己理解
第4回:職業理解
第5回:演習1
第6回:労働にかかわる法
第7回:能力開発
第8回:演習2
第9回:キャリアプランの過程と支援
第10回:意思決定の支援
第11回:キャリアプランの実行支援
第12回:メンタルヘルスにかかわる支援
第13回:コミュニケーション技術と支援
第14回:演習3
第15回:まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい(学習の目安1時間程度)。授業の理解を確認するために課題を課すことがあります。

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。
課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽 キャリア発達支援』山本智子(北樹出版)2021.

◆参考図書◆

『中学校・高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(実業之日本社)2023.
『学びをつなぐ!「キャリア・パスポート」』文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター(光村図書出版)2023.
『キャリア教育の射程』日本キャリア教育学会編(実業之日本社)2023.
『大学生のキャリアデザイントレーニング 第2版』稲本恵子・田中美和編(晃洋書房)2023.

『キャリア教育がわかる』児美川孝一郎(誠信書房)2023.

『大人の「非認知能力」を鍛える25の質問』ポーク重子(ディスカヴァー・トゥエンティワン)2023.
その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

講義や演習を通して学習を支援します。授業に積極的に参加してください。

ナンバリング	LAL284N		
科目名	就職・結婚・子育て		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

本授業は、「育てられてきた」自分の成長に向き合うことで、「育てる者」としての新たな自分との出会いをつくっていくことを目指す。誕生から乳幼児期の子どもの心身の発達や生活について理解を深め、「育てる者」として、子どもの健やかな成長に必要な知識と対応について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回:これまでの自分の「育ち」を振り返る-「育てられる者」から「育てる者」へ
第2回:これからの自分を考える(1)日本の若者の「今」
第3回:これからの自分を考える(2)就職～結婚
第4回:子どもの発達(1)子どもを人間としてみる
第5回:子どもの発達(2)驚くべき乳児の世界の事実
第6回:子どもの発達(3)乳児期の特性と育児のあり方
第7回:子どもの発達(4)幼児期の特性と育児のあり方
第8回:子どもの発達(5)児童期の特性と育児のあり方
第9回:子どもの発達(6)思春期の特性と大人のかかわり
第10回:子どもの生活(1)事故と安全
第11回:子どもの生活(2)疾病と予防
第12回:子どもの生活(3)食事と排泄
第13回:子どもの生活(4)睡眠
第14回:子どもの生活と遊び
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で、次回の授業までに指示された課題について取り組んでくること。
(事前学習30分 事後学習 30分)

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組みと小レポート)とレポートで総合的に評価する。
授業の課題についてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、適宜、資料を配布する。

◆参考図書◆

『まなざしの誕生赤ちゃん学革命』下條信輔(新曜社)
『心が芽ばえるときコミュニケーションの誕生と進化』明和政子(NTT出版)。
『ラブユーフォーエバー』ロバート・マンチ作、乃木りか絵(岩波書店)。
その他、授業内で適宜、提示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	LAL322N		
科目名	キャリアデザイン		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	2年,3年,4年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・変化する社会の中でキャリア理論を用いて、生涯発達という視点で自身のキャリアを設計していく考え方を身につける・就職や働くことに関する基本的な知識を理解し、進路選択・就職活動に活かす・モデル学習等を通じて、大学生活の目標を明確にし、キャリアデザインの力を発展させる・音楽で培った強みを能力や自分の専門領域について、専門外の人に説明できる・自分の強み・興味・価値観を知り、社会の中での自身の役割をイメージできる・他所との対話を通じて自己理解、社会理解を深め、キャリアデザインに活用する

◆授業内容・計画◆

授業は、ていしてレリ等門講師が1174 ムーノハノカをこる。

- (1)オリエンテーション／キャリアをデザインするとは(神村孝子)
 - ・生涯発達で考えるキャリアとは
 - ・キャリアをデザインするときに知っておくといこと
 - ・就職活動スケジュールの全体像
- (2)ライフキャリアと職業キャリア(久保田慶一)
 - ・人生の中に仕事をどう位置付けるか
 - ・自律的なキャリアとは
- (3)企業・組織・仕事を知る①【音楽業界】(中西聡)
 - ・音楽業界とは《音楽業界の仕組み》
 - ・音楽業界の現状／仕事
 - ・音楽業界で求められる力
- (4)企業・組織・仕事を知る②【音楽業界以外】(木村元)
 - ・社会、企業がめざすものとは
 - ・音大での学びを実社会(一般企業等)につなげるために
 - ・「音楽家」としての精神を失わずに実社会で生きていく
- (5)仕事をするうえで知っておきたい法律の知識(山角牧子)
 - ・就職、働くときに知っておきたい法律
 - ・求人票の見方を理解する
 - ・雇用形態ごとの比較／社会保障等について
- (6)変化する社会で求められる能力を考える(久保田慶一)
 - ・今後の社会の変化を知る
 - ・社会人基礎力はなぜ必要なのか
 - ・音楽社会人基礎力
- (7)キャリアデザインのための自己理解①【自分の取扱説明書を作る～自己を知る～】(山角倫代)
 - ・自分の強み／弱み／価値観を言語化する
 - ・これまでの経験や音楽の学びで培った力を言語化する
- (8)キャリアデザインのための自己理解②【自分の取扱説明書を伝える～自分プレゼン～】(山角倫代)
 - ・自分自身(取扱)を人にプレゼンする

◆準備学習の内容◆

授業内で出す課題に取り組んでくること(社会人インタビューなど)

◆成績評価の方法◆

授業内課題(70%)・基本的知識の獲得及び理解の評価
 受講態度(30%)・授業への出席、参加意欲及び態度の評価を授業内で適宜フィードバックするとともに、総合的に成績評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業に関連する資料はその都度配布する

◆参考図書◆

授業内で随時紹介する

◆留意事項◆

就職希望または就職を検討している学生に推奨する
 各回オムニバス形式で音楽・キャリアの専門家が講師を担当

ナンバリング	LAL291N		
科目名	音楽家のための心身論A		
科目詳細	抽選科目 15名		
担当教員	石井 ゆりこ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

「アレクサンダー・テクニーク」の考え方を基に、自分の体を知り、体とメンタルとのつながりを認識する。体を痛めない演奏、心身にストレスをためない演奏のために、必要な知識と考え方を身につける。それを応用し自分の望む表現ができるようになり、また演奏以外の日常、勉強、人間関係にも生かせるようになる。心身健康に、末長く演奏生活が続けられるための基礎を身につける。

◆授業内容・計画◆

”主な授業内容:

1. 首をゆるめ、、あごの不必要な緊張を手放す
2. 立つ、座るを見直す
3. 部分への注意力と、全体への意識ーズームイン・ズームアウト
4. 楽器を構えるという動きを見直す
5. 指先までの意識と中心軸
6. 体のデザインにそった呼吸と発声
7. 「身構え」を抑制し、生き生きとした表現に体をひらく
8. 脱力と緊張について
9. 楽に見る(楽譜を、指揮者を、観客を見る)
10. 音の強弱、音色、テンポのコントロールとからだ
11. 演奏の意図をクリアにする、体が意図についていく
12. 心身のセルフケア(演奏において、日常で)
13. 人前でのパフォーマンスー緊張を味方につける
14. 多様な楽器やジャンル等を専門とする者が一緒に学ぶことで、人間と音楽演奏への理解を深める
15. 建設的な休息について

※ 立つ、座るなどの動きのなかで、あるいは演奏時の体の気づきを深めるため、講師が手で触れることでガイドする時間を持ちます。

※ 各回数人ずつ、学んだことを応用して演奏等を実際に行ってみる時間を持ちます。
これは評価のためではなく、その後の自身の学習に生かしていただくためです。

◆準備学習の内容◆

「体の動きに気づきを向ける」ための簡単なワークを紹介しますので、それを可能なら毎日行ってください。
ノートを一冊準備し、授業で学んだことを、自分の演奏や練習、日常生活で実験してみて、気づいたことをノートに取っておいてください。次の授業でみなさんの気づきや疑問を元にさらに深めていきます。また、学期末のレポートはそのノートをもとに書いていただきます。(あわせて20分程度)

◆成績評価の方法◆

- ・授業態度ー習ったことを元に自分なりに試し、自分の演奏等に活かすこと、他の生徒を見たりシェアしあうことで学び合う態度などを含みます。
- ・毎回のノートを元にした学期末提出のレポート
- ・授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『演奏がもっとラクになる アレクサンダー・テクニーク実践のヒント48』石井ゆりこ著(ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス)

◆参考図書◆

『演奏者のためのはじめてのアレクサンダー・テクニーク』石井ゆりこ著(ヤマハミュージックエンターテイメントホールディングス)

『存在に触れる～ありのままの今に在ること』トミー・トンプソン／松代尚子訳／石井ゆりこ監修(easeofbeing press)
『音楽家のためのアレクサンダー・テクニークー心と身体の使い方』ジュディット・クラインマン(誠信書房)
『ボディ・ラーニングーわかりやすいアレクサンダー・テクニーク入門』マイケル ゲルブ(誠信書房)

◆留意事項◆

動きやすい服装、動きやすい靴を用意することを推奨します。
ノートと筆記用具をお持ちください。
授業の順序や内容は、受講者の人数や関心、理解の度合いによって変更します。
前期・後期続けての受講を歓迎します。

ナンバリング	LAL292N		
科目名	音楽家のための心身論B		
科目詳細	抽選科目 15名		
担当教員	石井 ゆりこ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「アレクサンダー・テクニーク」の考え方を基に、心身のつながりについて理解を深め、演奏時や日常において自分が心身をどう使っているかを知る。体を痛めることを予防し、心身の緊張しすぎを防ぐために必要な知識と気づきを得る。楽器演奏のなかでそれらを自分なりに応用できるようになり、主体性を持った音楽活動と、望む表現につなげる。心身健康に末長く演奏生活を持続けられるための基礎を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 主な授業内容：
- 立つ、座るを見直す
 - 骨盤と股関節と胴体、
 - 姿勢は、動きのなかにある
 - ひじの自由さと腕の自由さ
 - 体の緊張をゆるめつつ、力を発揮する
 - 拍、リズムの感覚を体全体でとらえる
 - 支え—地面から力をもらう—呼吸と発声
 - 見ることについて（楽譜を見る、お客さんを見る、デスクワーク）
 - 刺激のなかで、自分軸を持つこと
 - 体の緊張と、感情的な緊張の関係について
 - 情景を思い描く〜ヴィジョンが演奏をリードする
 - メンタルのゆれとのつき合い方
 - 結果の先取り（エンドゲイニング）をやめることの効果
 - 多様な楽器やジャンル等を専門とする者が一緒に学ぶことで、人間と音楽演奏への理解を深める
 - 建設的な休息について

※ 体の動きと、やりすぎをやめることについて、繊細なレベルで気づき体験していただくため、あるいは演奏時の体の気づきを深めるため、講師が手で触れることでガイドする時間を持ちます。

※ 各回数人ずつ、学んだことを応用して実際に演奏してみる時間を持ちます。
これは評価のためではなく、自身のその後の学習に生かしていただくための時間です。

◆準備学習の内容◆

「体の動きに気づきを向ける」ための簡単なワークを紹介しますので、それを可能なら毎日行ってください。
ノートを一冊準備し、授業で学んだことを、自分の演奏や練習、日常生活で実験してみて、気づいたことをノートに取っておいてください。次の授業でみなさんの気づきや疑問を元にさらに深めていきます。また、学期末のレポートはそのノートをもとに書いていただきます。（あわせて20分程度）

◆成績評価の方法◆

- ・授業態度一習ったことを元に自分なりに試し、自分の演奏等に活かすこと、他の生徒を見たりシェアしあうことで学び合う態度などを含みます。
- ・毎回のノートを元にした学期末提出のレポート
- ・授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『演奏がもっとラクになる アレクサンダー・テクニーク実践のヒント48』石井ゆりこ著（ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）

◆参考図書◆

- 『演奏者のためのはじめてのアレクサンダー・テクニーク』石井ゆりこ著（ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス）
- 『存在に触れる～ありのままの今に在ること』トミー・トンプソン著／松代尚子訳／石井ゆりこ監修（easeofbeing press）
- 『音楽家のためのアレクサンダー・テクニーク入門』ペドロ・デ・アルカンタラ（春秋社）
- 『ボディ・ラーニング—わかりやすいアレクサンダー・テクニーク入門』マイケル・ゲルブ（誠信書房）

◆留意事項◆

動きやすい服装、動きやすい靴を用意することを推奨します。
ノートと筆記用具をお持ちください。
授業の順序や内容は、受講者の人数や関心、理解の度合いによって変更します。
前期・後期続けての受講を歓迎します。
前期・後期それぞれ定員15名。希望者が多い場合は抽選となります。

ナンバリング	LAL287N		
科目名	医療と健康A		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代の医療は多くの職種の人たちが患者の治療に携わっている。医療の発展とともに役割は分担化され、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、臨床心理士、など、多職種が協働して治療を行ってきた。さらに、次々と新しい医療職が生まれおり、近年、これらに音楽療法士も加わるようになってきている。このようにさまざまな職種の人たちが協働する医療現場では、それぞれの役割は異なっているが、専門職として医療に従事する人たちは、お互いに共通の認識がなければならない。そこで本講義を受講する学生は、専門家レベルの医学の基礎的知識について理解を深め、それを今後の活動に生かしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 医学・医療の歴史
3. 医の倫理
4. 人体の構造と機能①人体の構成、細胞、骨・筋肉
5. 人体の構造と機能②血液
6. 人体の構造と機能③循環器
7. 人体の構造と機能④呼吸器
8. 人体の構造と機能⑤消化器
9. 人体の構造と機能⑥泌尿器
10. 人体の構造と機能⑦内分泌とホルモン
11. 人体の構造と機能⑧中枢神経-1 脳の構造
12. 人体の構造と機能⑨中枢神経-2 脳の機能
13. 人体の構造と機能⑩抹消神経
14. 人体の構造と機能⑪感覚器
15. 前期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

日常的に医学に関心をもって医学用語を調べたり(60分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(60分)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を中心に評価する。加えてレポート、ならびに授業時に小課題を出題して授業内容を随時フィードバックし、その理解度も確認し、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 第8版』北村諭著(中外医学社)

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容となっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	LAL313N		
科目名	医学一般A		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代の医療は多くの職種の人たちが患者の治療に携わっている。医療の発展とともに役割は分担化され、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、臨床心理士、など、多職種が協働して治療を行ってきた。さらに、次々と新しい医療職が生まれおり、近年、これらに音楽療法士も加わるようになってきている。このようにさまざまな職種の人たちが協働する医療現場では、それぞれの役割は異なっている、専門職として医療に従事する人たちは、お互いに共通の認識がなければならない。そこで本講義を受講する学生は、専門家レベルの医学の基礎的知識について理解を深め、それを今後の活動に生かしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 医学・医療の歴史
3. 医の倫理
4. 人体の構造と機能①人体の構成、細胞、骨・筋肉
5. 人体の構造と機能②血液
6. 人体の構造と機能③循環器
7. 人体の構造と機能④呼吸器
8. 人体の構造と機能⑤消化器
9. 人体の構造と機能⑥泌尿器
10. 人体の構造と機能⑦内分泌とホルモン
11. 人体の構造と機能⑧中枢神経-1 脳の構造
12. 人体の構造と機能⑨中枢神経-2 脳の機能
13. 人体の構造と機能⑩抹消神経
14. 人体の構造と機能⑪感覚器
15. 前期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

日常的に医学に関心をもって医学用語を調べたり(60分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(60分)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を中心に評価する。加えてレポート、ならびに授業時に小課題を出題して授業内容を随時フィードバックし、その理解度も確認し、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 第8版』北村諭著（中外医学社）

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容となっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	LAL288N		
科目名	医療と健康B		
科目詳細	2023年度以前入学生		
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代の医療は多くの職種の人たちが患者の治療に携わっている。医療の発展とともに役割は分担化され、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、臨床心理士、など、多職種が協働して治療を行ってきた。さらに、次々と新しい医療職が生まれおり、近年、これらに音楽療法士も加わるようになってきている。このようにさまざまな職種の人たちが協働する医療現場では、それぞれの役割は異なっているが、専門職として医療に従事する人たちは、お互いに共通の認識がなければならない。そこで本講義を受講する学生は、専門家レベルの医学の基礎的知識について理解を深め、それを今後の活動に生かしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 臨床医学総論①身体症状-1 循環器・呼吸器系の症状等
3. 臨床医学総論②身体症状-2 消化器系・神経系の症状等
4. 臨床医学総論③精神症状
5. 臨床医学各論①心身症
6. 臨床医学各論②メタボリックシンドローム
7. 臨床医学各論③循環器疾患
8. 臨床医学各論④神経疾患
9. 臨床医学各論⑤感染症
10. 臨床医学各論⑥統合失調症、躁うつ病、依存症
11. 臨床医学各論⑦神経症性障害、発達障害
12. 臨床医学各論⑧認知症
13. 臨床医学各論⑨がん
14. 医療職の概要、日本の医療制度について
15. 後期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

日常的に医学に関心をもって医学用語を調べたり(60分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(60分)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を中心に評価する。加えてレポート、ならびに授業時に小課題を出題して授業内容を随時フィードバックし、その理解度も確認し、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 第8版』北村諭著(中外医学社)

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容になっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	LAL314N		
科目名	医学一般B		
科目詳細	2024年度以降入学生		
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代の医療は多くの職種の人たちが患者の治療に携わっている。医療の発展とともに役割は分担化され、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、臨床心理士、など、多職種が協働して治療を行ってきた。さらに、次々と新しい医療職が生まれおり、近年、これらに音楽療法士も加わるようになっていく。このようにさまざまな職種の人たちが協働する医療現場では、それぞれの役割は異なっているが、専門職として医療に従事する人たちは、お互いに共通の認識がなければならない。そこで本講義を受講する学生は、専門家レベルの医学の基礎的知識について理解を深め、それを今後の活動に生かしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 臨床医学総論①身体症状-1 循環器・呼吸器系の症状等
3. 臨床医学総論②身体症状-2 消化器系・神経系の症状等
4. 臨床医学総論③精神症状
5. 臨床医学各論①心身症
6. 臨床医学各論②メタボリックシンドローム
7. 臨床医学各論③循環器疾患
8. 臨床医学各論④神経疾患
9. 臨床医学各論⑤感染症
10. 臨床医学各論⑥統合失調症、躁うつ病、依存症
11. 臨床医学各論⑦神経症性障害、発達障害
12. 臨床医学各論⑧認知症
13. 臨床医学各論⑨がん
14. 医療職の概要、日本の医療制度について
15. 後期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

日常的に医学に関心をもって医学用語を調べたり(60分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(60分)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を中心に評価する。加えてレポート、ならびに授業時に小課題を出題して授業内容を随時フィードバックし、その理解度も確認し、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 第8版』北村諭著（中外医学社）

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容となっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	LAL258N		
科目名	声の科学A		
科目詳細			
担当教員	楠山 敏行		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

発声に関わる医学的知識を総論的に学習することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

声の科学は声に関わる解剖、生理、疾患、および予防法を医学的に学ぶものである。声の科学Aでは音声生理学の基本となる耳鼻咽喉科学領域の器官の構造、機能および疾患を体系的に理解することができる。

1. 音の原理、聴覚の解剖と生理
2. 音の脳生理、音楽中枢、絶対音感
3. 聴覚の疾患、
4. 【特別講義】ヘッドホン・イヤホン難聴
5. 共鳴腔(鼻腔、副鼻腔、咽頭、口腔)の解剖と生理
6. 共鳴腔の疾患
7. 構音および構音障害
8. 呼吸の解剖と生理
9. 喉頭の解剖と生理
10. 喉頭の観察と声帯振動
11. 声の検査法
12. 音声障害(1)声帯病変
13. 音声障害(2)その他
14. 前期のまとめ
15. 授業内試験

なお、進行状況により内容変更の場合がある。

◆準備学習の内容◆

医学的な内容であるため発声や聴覚の解剖学および生理学的用語の予習などが望ましい。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

声の科学Aの期末学科試験(ペーパーテスト。持ち込み可)および授業への参加姿勢。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。資料を配布する。

◆参考図書◆

『新 臨床耳鼻咽喉科学〈1巻〉基礎編』(中外医学社)
『こえとことばの科学』林義雄(鳳鳴堂書店)
『発話メカニズムの解剖と生理』Joel C. Kahane(インテルナ出版)
『歌声の科学』ヨハン・スンドベリ(東京電機大学出版社)
『音声生成の科学 発声とその障害』Ingo R. Titze著 新美成二監訳(医歯薬出版)
『新ことばの科学入門第2版』広瀬肇訳(医学書院)

◆留意事項◆

なし。

ナンバリング	LAL259N		
科目名	声の科学B		
科目詳細			
担当教員	楠山 敏行		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

発声と音楽に関わる医学的知識を各論的に学習することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

声の科学は声に関わる解剖、生理、疾患、および予防法を医学的に学ぶものである。声の科学Bでは発声と音楽に関連する医学的諸問題を専門的に解説する。

- 1.前期のまとめ
- 2.ハイパーソニックエフェクト
- 3.話声、歌唱、合唱
- 4.声区
- 5.声種に関連した研究
- 6.ビブラートとノンビブラート、世界各地の発声
- 7.声と呼吸
- 8.声と年齢
- 9.声と性
- 10.声と心理
- 11.歌手の音声障害Ⅰ 声帯疾患
- 12.歌手の音声障害Ⅱ 共鳴障害
- 13.音声治療、その他の治療
- 14.後期のまとめ
- 15.授業内試験

なお、進行状況により内容変更の場合がある。

◆準備学習の内容◆

医学的な内容であるため発声や聴覚の解剖学および生理学的用語の予習などが望ましい。（目安1時間）

◆成績評価の方法◆

音の科学Bの期末学科試験および授業への参加姿勢。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。資料を配布する。

◆参考図書◆

- 『こえとことばの科学』林義雄(鳳鳴堂書店)
『発話メカニズムの解剖と生理』Joel C. Kahane(インテルナ出版)
『歌声の科学』ヨハン・スンドベリ(東京電機大学出版社)
『音声生成の科学 発声とその障害』Ingo R. Titze著 新美成二監訳(医歯薬出版)
『新ことばの科学入門第2版』広瀬肇訳(医学書院)

◆留意事項◆

声の科学Bは声の科学Aの理解を前提としているが、声の科学Aを修了していないものも受講可能とする。

ナンバリング	LAL262N		
科目名	音楽の科学A		
科目詳細			
担当教員	酒巻 文彰		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音響学の基礎を通じて、身近な音の現象から、吸音材・遮音材などの音響材料、音響計測機器、ホールなどの音響設計について理解する。

◆授業内容・計画◆

- ①音響設計の紹介、音響学への導入
- ②音の基礎知識1（音とは？）
- ③音の基礎知識2（音の性質）
- ④音の基礎知識3（音の反射、吸収、透過）
- ⑤音の基礎知識4（音の伝わり方）
- ⑥音の基礎知識5（音の波動現象）
- ⑦音の基礎知識6（室内音場）
- ⑧音響材料1（吸音材料）
- ⑨音響材料2（遮音材料）
- ⑩音響材料3（防振材料）
- ⑪音響設計の事例1（室内音響設計）
- ⑫音響設計の事例2（残響時間）
- ⑬音響設計の事例3（遮音設計）
- ⑭音響設計の事例4（防振遮音構造）
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

次回授業のテーマやキーワードを提示しますので、予習として辞典や教科書、参考図書を活用してください。（30分程度）

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みとレポート。適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(適宜プリントを配布します)

◆参考図書◆

『建築の音響設計』永田穂著(参考)

◆留意事項◆

本学の講堂、スタジオなど、現場における音響設計事例の紹介を予定しているため、授業内容は適宜変更の可能性があります。

ナンバリング	LAL263N		
科目名	音楽の科学B		
科目詳細			
担当教員	酒巻 文彰		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音響学の基礎を通じて、身近な音の現象から、吸音材・遮音材などの音響材料、音響計測機器、ホールなどの音響設計について理解する。

◆授業内容・計画◆

- ①音の基礎知識1（音とは）
- ②音の基礎知識2（音の性質）
- ③音の基礎知識3（音の反射、吸音、透過）
- ④音の基礎知識4（音の波動現象）
- ⑤音響計測機器1（騒音計）
- ⑥音響計測機器2（振動計）
- ⑦音響設計の事例1（多目的ホール）
- ⑧音響設計の事例2（コンサートホール）
- ⑨音響設計の事例3（劇場、オペラハウス）
- ⑩音響設計の事例4（体育館、大型イベント空間）
- ⑪音響設計の事例5（教会、礼拝堂）
- ⑫国内の主要なホールの紹介1（コンサートホール）
- ⑬国内の主要なホールの紹介2（多目的ホール）
- ⑭海外の主要なホールの紹介
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

次回授業のテーマやキーワードを提示しますので、予習として辞典や教科書、参考図書を活用してください。（30分程度）

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みとレポート。適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし(適宜プリントを配布します)

◆参考図書◆

『建築の音響設計』永田穂著(参考)

◆留意事項◆

本学の講堂、スタジオなど、現場における音響設計事例の紹介を予定しているため、授業内容は適宜変更の可能性があります。

ナンバリング	LAL242N		
科目名	教育メディア論		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代社会において様々なメディアを使いこなすことは社会生活の基本であり、音楽家にとっても演奏・創作・教育・研究などあらゆる活動の幅を広げることに繋がる。本科目はICT(情報通信技術)や各種メディアを活用し、情報・メディアリテラシーの基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。授業では次の項目を学ぶ。(1)基本的なツール・サービスを使いこなす、文書表現やプレゼンテーションに活用する。(2)情報モラル・セキュリティについて理解を深め、円滑にコミュニケーションできる能力を身につける。(3)学んだ技術や技能を多様な音楽活動の現場で活かす方法を考える。

◆授業内容・計画◆

授業は以下の内容を基本に学生の学習状況に合わせて進める。
最終課題として、課題文書の提出とそれについてのプレゼンテーション発表を行う。

- 1) ガイダンス: 授業目標の理解、機器の準備、ICT教育の現状
- 2) コンピュータの基礎: OSの基本操作、入力方法
- 3) クラウドサービスとコミュニケーション: Eメールやクラウドサービスの利用
- 4) オンラインでの情報収集: 検索、各種オンラインサービスの活用
- 5) 文書作成1: Wordによるレポート・論文作成の基礎
- 6) 文書作成2: 効率よく文書の体裁を整えるテクニック
- 7) 表計算: Excelによる数値データの処理と視覚化
- 8) プレゼンテーション: PowerPointによるスライド資料の作成
- 9) 視覚デザイン: 図表の作成、レイアウトの改善
- 10) 仕組みのデザイン: Scratchによるプログラミング体験実習
- 11) 情報モラル: 情報倫理、著作権、ソーシャルネットワーク
- 12) 情報セキュリティ: 個人情報の管理、ネット社会における危機管理
- 13) 課題文書の改善、プレゼンテーション発表の練習、個人指導
- 14) プレゼンテーション発表と講評
- 15) 学習のまとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

最終課題を完成させるためには、日々の積み重ねが重要となる。
メディアリテラシー向上のために、復習や課題実施を週1時間以上行うことを推奨する。

◆成績評価の方法◆

授業内で提出する課題文書およびプレゼンテーションについて、情報・メディアリテラシーや表現力の観点などから多角的に評価し、学生へフィードバックする。
その他、提出物、小テスト、演習への取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ』富士通ラーニングメディア(FOM出版)

◆参考図書◆

『伝わるデザインの基本 増補改訂3版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』高橋 佑磨, 片山 なつ(技術評論社)

◆留意事項◆

ナンバリング	LAL243N		
科目名	メディアリテラシー入門		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この講義を通してコンピュータを用いた機械学習を体得し、いわゆるAIと呼ばれる分野の基礎を音楽に特化したテーマで学ぶことができる。近年のAIブームでの基礎的なキーワードを実践的に理解することができるようになり、自ら分析することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

我が国における数理・データサイエンス教育強化の方針に基づき、本講義では音楽とデータサイエンスに関する講義を行なう。近年のコンピュータとインターネットの普及により、音楽はデジタル化され、人々に配信されるようになった。それに伴い、コンピュータ技術が発達し、音楽を情報処理によって分析する技術が向上した。このような背景を受け、本講義ではコンピュータによる音楽分析の手段を実践的に学ぶ。

1. ガイダンス、音楽とデータサイエンスの関係
2. 音楽生成AIについて 普及と理解
3. 音楽生成AIについて 体験と考察
4. 機械学習のためのソフトウェア
5. データの可視化1 外観
6. データの可視化2 サンプル間の関係
7. ナイーブベイズ識別
8. データを説明する1 エラー解析
9. データを説明する2 統計量
10. データを扱う1 分析例の解釈
11. データを扱う2 実データの分析
12. データを扱う3 解釈と自己テーマの選定
13. データを扱う4 データの取得と分類
14. データを扱う5 自己テーマの分析結果
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、かつ事前に配布された動画等の資料を視聴し、理解を深める。また、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

荒木雅弘,「フリーソフトではじめる機械学習入門 第2版」, 森北出版(2018)

◆参考図書◆

授業中に適宜指示する

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	LAL304N		
科目名	音楽データサイエンス入門		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この講義を通してコンピュータを用いた機械学習を体得し、いわゆるAIと呼ばれる分野の基礎を音楽に特化したテーマで学ぶことができる。近年のAIブームでの基礎的なキーワードを実践的に理解することができるようになり、自ら分析することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

我が国における数理・データサイエンス教育強化の方針に基づき、本講義では音楽とデータサイエンスに関する講義を行なう。近年のコンピュータとインターネットの普及により、音楽はデジタル化され、人々に配信されるようになった。それに伴い、コンピュータ技術が発達し、音楽を情報処理によって分析する技術が向上した。このような背景を受け、本講義ではコンピュータによる音楽分析の手段を実践的に学ぶ。

1. ガイダンス、音楽とデータサイエンスの関係
2. 音楽生成AIについて 普及と理解
3. 音楽生成AIについて 体験と考察
4. 機械学習のためのソフトウェア
5. データの可視化1 外観
6. データの可視化2 サンプル間の関係
7. ナイーブベイズ識別
8. データを説明する1 エラー解析
9. データを説明する2 統計量
10. データを扱う1 分析例の解釈
11. データを扱う2 実データの分析
12. データを扱う3 解釈と自己テーマの選定
13. データを扱う4 データの取得と分類
14. データを扱う5 自己テーマの分析結果
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、かつ事前に配布された動画等の資料を視聴し、理解を深める。また、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

荒木雅弘,「フリーソフトではじめる機械学習入門 第2版」, 森北出版(2018)

◆参考図書◆

授業中に適宜指示する

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	LAL276N		
科目名	お金とくらし(生涯生活設計)		
科目詳細			
担当教員	神山 久美		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

消費生活の現状や生活設計に関する基礎的な知識を得る。現在発生している消費者問題を踏まえて、消費者教育の重要性とその内容について理解を深める。私たちは消費者としてどのように意思決定をして行動していけばよいか、具体的に考えることができる。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 消費者教育の必要性
3. 経済社会の発展と消費者問題の発生
4. 消費者政策の展開
5. 商品の安全性
6. 契約と商品・サービスの購入
7. 消費者トラブル
8. クレジットカードと多重債務問題
9. 生活設計
10. 社会保険と私的保険
11. 情報化社会と消費者
12. 各ライフステージにおける消費者教育①幼児期・小中高生期
13. 各ライフステージにおける消費者教育②成人期
14. 消費者市民社会の構築に向けて
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

事前にテキストを購入して、読んでおくこと(各章20分×15章＝300分)。興味をもった事項について新聞やニュース等で情報収集をすること(随時)。

◆成績評価の方法◆

授業内課題(70%)・・・基本的知識の獲得及び理解の評価
 受講態度(30%)・・・授業への参加意欲及び態度の評価
 授業内で適宜フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『新しい消費者教育～これからの消費生活を考える～(第2版)』日本消費者教育学会関東支部監修(慶應義塾大学出版会)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストは第2版を購入すること。授業内課題でテキストを使用するため、集中講義の初日から持参すること。

ナンバリング	LAL273N		
科目名	文化経済学入門		
科目詳細			
担当教員	小山 文加		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文化経済学は、アートマネジメントや文化政策の領域と相互に深く関わっている。本授業では、オーケストラやコンサートホール、音楽祭など主に音楽分野における事例を通して、芸術・文化への支援や芸術団体・文化施設の運営をめぐる諸問題を考える際に必要な、経済学の基礎的な考え方や視点を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1 導入:文化の範囲、定義
- 2 市場とは
- 3 芸術・文化の需要
- 4 芸術・文化の供給
- 5 営利と非営利
- 6 非営利組織の種類
- 7 パトロネージ
- 8 国による芸術・文化への支援
- 9 地方自治体による芸術・文化への支援
- 10 非営利組織の運営(劇場・音楽堂等)
- 11 非営利組織の運営(芸術団体)
- 12 文化と観光(フェスティバル)
- 13 企業メセナ
- 14 教育普及事業
- 15 期末試験(課題)とまとめ

◆準備学習の内容◆

「経済学」と「芸術」や「文化」との関係をめぐる議論について、関心のある文献や記事等を探索すること。それらのテーマと、自分自身の過去・現在・未来の音楽活動とがどのように関わるか考察すること。(週60分程度)

◆成績評価の方法◆

各回で小レポートまたは確認テスト等の提出を課題とするとともに、演習課題としてグループディスカッションや発表を行う場合がある。以上の課題に対して授業内でフィードバックするとともに、学期末の筆記試験と併せて総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でレジュメを配布する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

講義を中心とします。人数に応じて適宜グループディスカッションの時間を設ける場合があります。

ナンバリング	VMP001N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽を専門とする基礎課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲（イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲）の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画
第1回：ガイダンス
第2回：課題とする歌曲1に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回：課題とする歌曲1の音の確認
第4回：課題とする歌曲1の多様な歌唱表現の検討と工夫
第5回：課題とする歌曲1の仕上げ
第6回：課題とする歌曲2に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第7回：課題とする歌曲2の音の確認
第8回：課題とする歌曲2の多様な歌唱表現の検討と工夫
第9回：課題とする歌曲2の仕上げ
第10回：課題とする歌曲3に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第11回：課題とする歌曲3の音の確認
第12回：課題とする歌曲3の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回：課題とする歌曲3の仕上げ
第14回：歌曲1、2、3のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
第15回：試験で演奏する歌曲の表現の追究
定期試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。（譜読み、原語を日本語に訳すなど）1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲：歌曲1曲 4分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

※試験はすべて暗譜で演奏する。
※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しない。
※前奏、間奏などのカットは可。
※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除く。
※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP002N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰの学びの上に立ち、声楽を専門とする学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲(イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲)の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画
第1回:ガイダンス
第2回:課題とする歌曲4に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回:課題とする歌曲4の音の確認
第4回:課題とする歌曲4の多様な歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題とする歌曲4の仕上げ
第6回:課題とする歌曲5に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第7回:課題とする歌曲5の音の確認
第8回:課題とする歌曲5の多様な歌唱表現の検討と工夫
第9回:課題とする歌曲5の仕上げ
第10回:課題とする歌曲6に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第11回:課題とする歌曲6の音の確認
第12回:課題とする歌曲6の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回:課題とする歌曲6の仕上げ
第14回:歌曲4、5、6のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究
定期試験

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲:歌曲1曲、4分以内、暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

※試験はすべて暗譜で演奏すること。
※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しないこと。
※前奏、間奏などのカットは可。
※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチターティーヴォを除くこと。
※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP003N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱの学びの上に立ち、声楽を専門とする学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲(イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲)の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画
第1回:ガイダンス
第2回:課題とする歌曲7に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回:課題とする歌曲7の音の確認
第4回:課題とする歌曲7の多様な歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題とする歌曲7の仕上げ
第6回:課題とする歌曲8に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第7回:課題とする歌曲8の音の確認
第8回:課題とする歌曲8の多様な歌唱表現の検討と工夫
第9回:課題とする歌曲8の仕上げ
第10回:課題とする歌曲9に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第11回:課題とする歌曲9の音の確認
第12回:課題とする歌曲9の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回:課題とする歌曲9の仕上げ
第14回:歌曲7、8、9のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究
定期試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲:歌曲1曲 4分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ※試験はすべて暗譜で演奏すること。
- ※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
- ※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しないこと。
- ※前奏、間奏などのカットは可。
- ※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除くこと。
- ※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP004N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学びの上に立ち、声楽を専門とする学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲(イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲)の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレバートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする歌曲10に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回:課題とする歌曲10の音の確認
第4回:課題とする歌曲10の多様な歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題とする歌曲10の仕上げ
第6回:課題とする歌曲11に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第7回:課題とする歌曲11の音の確認
第8回:課題とする歌曲11の多様な歌唱表現の検討と工夫
第9回:課題とする歌曲11の仕上げ
第10回:課題とする歌曲12に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第11回:課題とする歌曲12の音の確認
第12回:課題とする歌曲12の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回:課題とする歌曲12の仕上げ
第14回:歌曲10、11、12のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究
定期試験

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲:歌曲1曲 4分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

※試験はすべて暗譜で演奏する。
※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
※レバートリーシート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しない。
※前奏、間奏などのカットは可。
※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチターティーヴォを除く。
※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP401N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基礎の学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学習できる。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題とする声楽曲13に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回: 課題とする声楽曲13の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回: 課題とする声楽曲13の仕上げ
- 第5回: 課題とする声楽曲14に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回: 課題とする声楽曲14の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回: 課題とする声楽曲14の仕上げ
- 第8回: 課題とする声楽曲15に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回: 課題とする声楽曲15の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回: 課題とする声楽曲15の仕上げ
- 第11回: 課題とする声楽曲16に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回: 課題とする声楽曲16の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回: 課題とする声楽曲16の仕上げ
- 第14回: 声楽曲13、14、15、16のまとめの演奏と実技試験での曲の決定
- 第15回: 試験で演奏する声楽曲の表現の追究

定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲: 自由曲1曲 5分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ※Ⅴセメスター実技試験は「自由曲」とする。
- ※試験はすべて暗譜で演奏すること。
- ※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
- ※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しないこと。
- ※前奏、間奏などのカットは可。
- ※アリアは慣例のもの以外は原語、原調とする。
- ※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除くこと。
- ※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP402N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学ぶことができる。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲17に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする声楽曲17の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回:課題とする声楽曲17の仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲18に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回:課題とする声楽曲18の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回:課題とする声楽曲18の仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲19に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回:課題とする声楽曲19の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回:課題とする声楽曲19の仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲20に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回:課題とする声楽曲20の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする声楽曲20の仕上げ
- 第14回:声楽曲17、18、19、20のまとめの演奏と実技試験での曲の決定
- 第15回:試験で演奏する歌曲及び自由曲の表現の追究

定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲:歌曲3曲まで 5分以内 暗譜
自由曲3曲まで 5分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ※Ⅵセメスターの実技試験は「歌曲」及び「自由曲」とする。
- ※試験はすべて暗譜で演奏すること。
- ※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
- ※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しないこと。
- ※前奏、間奏などのカットは可。
- ※アリアは慣例のもの以外は原語、原調とする。
- ※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除くこと。
- ※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP403N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅶ)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学ぶことができる。

授業計画

第1回:ガイダンス

第2回:課題とする声楽曲21に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第3回:課題とする声楽曲21の多様な歌唱表現の検討と工夫

第4回:課題とする声楽曲21の仕上げ

第5回:課題とする声楽曲22に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第6回:課題とする声楽曲22の多様な歌唱表現の検討と工夫

第7回:課題とする声楽曲22の仕上げ

第8回:課題とする声楽曲23に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第9回:課題とする声楽曲23の多様な歌唱表現の検討と工夫

第10回:課題とする声楽曲23の仕上げ

第11回:課題とする声楽曲24に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第12回:課題とする声楽曲24の多様な歌唱表現の検討と工夫

第13回:課題とする声楽曲24の仕上げ

第14回:声楽曲21、22、23、24のまとめの演奏と実技試験での曲の決定

第15回:試験で演奏する声楽曲の表現の追究

定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。試験曲:自由曲1曲 6分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ※Ⅶ semesterの実技試験は「自由曲」とする。
- ※試験はすべて暗譜で演奏すること。
- ※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
- ※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各semesterで重複しないこと。
- ※前奏、間奏などのカットは可。
- ※アリアは慣例のもの以外は原語、原調とする。
- ※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除くこと。
- ※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMP404N		
科目名	専門実技(声楽)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅶ)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	8単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実技(声楽)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見直しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

- 授業計画
- 第1回: ガイダンス
 - 第2回: 課題とする声楽曲25に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
 - 第3回: 課題とする声楽曲25の多様な歌唱表現の検討と工夫
 - 第4回: 課題とする声楽曲25の仕上げ
 - 第5回: 課題とする声楽曲26に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
 - 第6回: 課題とする声楽曲26の多様な歌唱表現の検討と工夫
 - 第7回: 課題とする声楽曲26の仕上げ
 - 第8回: 課題とする声楽曲27に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
 - 第9回: 課題とする声楽曲27の多様な歌唱表現の検討と工夫
 - 第10回: 課題とする声楽曲27の仕上げ
 - 第11回: 課題とする声楽曲28に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
 - 第12回: 課題とする声楽曲28の多様な歌唱表現の検討と工夫
 - 第13回: 課題とする声楽曲28の仕上げ
 - 第14回: 声楽曲25、26、27、28のまとめの演奏と卒業試験での曲の決定
 - 第15回: 卒業試験で演奏する歌曲及び自由曲の表現の追究

卒業試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

- 卒業試験は複数の教員で採点する。試験曲: 歌曲3曲まで 6分以内 暗譜
- 自由曲3曲まで 6分以内 暗譜

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ※Ⅷセメスターの試験は「歌曲」及び「自由曲」とする。
- ※試験はすべて暗譜で演奏すること。
- ※伴奏者は本学学部学生、アドヴァンスト・コース生、ディプロマ・コース生に限る。
- ※レパートリー・シート記述曲や試験曲は各セメスターで重複しないこと。
- ※前奏、間奏などのカットは可。
- ※アリアは慣例のもの以外は原語、原調とする。
- ※全音出版社のイタリア歌曲集1～4巻に含まれる曲は「アリア」表記であっても歌曲扱いとする。但し「歌曲」として受験する場合は、レチタティーヴォを除くこと。
- ※日本歌曲は出版されているものに限定する。

ナンバリング	VMS005N		
科目名	イタリア語ディクシオン I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	小澤 慎吾, 矢田部 一弘		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽用語、歌曲、オペラを題材に7つの母音と子音のヴァリエーション、シラブル、アクセントを学び、テキストの朗読及び舞台発音法を用いた朗読を実践し、アナリーゼと共に歌唱法を研究し、発音の質を高める。

◆授業内容・計画◆

- ・7つの母音と様々な子音を練習する。
- ・ディットング(二重音)、トリットング(三重母音)、イアー ト(母音分離)の練習。
- ・シラバ(音節)の分け方を学ぶ。
- ・アルファベットの発音を練習する。
- ・VACCAJによる歌唱法を研究する。
- ・イタリア古典歌曲のアナリーゼをする。
- ・伊和辞典の使い方I(略語等の解説・小学館出版)

- 1)オリエンテーション／アルファベットの読み方 ほか
- 2)アルファベットの読み方の復習
- 3)7つの母音と子音の練習 (1)短母音と単子音
- 4)7つの母音と子音の復習 (2)複数母音と二重子音
- 5)ヴァッカーイ「Manca sollecita」朗読
- 6)伊和辞典の使い方、音節の分け方
- 7)ヴァッカーイ「Semplicetta tortorella」朗読
- 8)アクセントと朗読法の関係性の研究
- 9)ヴァッカーイ「Lascia il lido」朗読
- 10)「Caro mio ben」発音練習 ほか
- 11)「Sebben crudele」発音練習 ほか
- 12)試験課題の説明・練習 ほか
- 13)前期末試験とまとめ
- 14)試験講評／いろいろなイタリア語に慣れる
- 15)学習した事の総復習

※各回の授業内容は進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

予習として授業で使用するテキストのイタリア語の単語の意味を伊和辞典を使用し調べる(1週間に2～3時間)。復習としてイタリア語の母音練習(毎日30分)を行った後にテキストの単語をゆっくり発音する(毎日10分)。その後、普通のテンポ、速いテンポと変化をもたせながら発音練習をしていく(毎日10分)。イタリア語の韻文及びヴァッカーイを勉強する段階になったら、それらを朗々と朗読する練習を行う(毎日15分)。テレビ、ラジオ及びインターネット等でイタリア語を使用している講座等に耳を傾ける習慣をつけていく(時間としては、可能な限り多く触れて欲しい: 毎日30分程度)。

◆成績評価の方法◆

主に授業内レポート及び授業内実技試験により評価する。授業内レポートは、イタリア人プロの歌手の歌を聴き、イタリア語と日本語の発音の相違についてまとめてもらう。このレポートに関しては、返却及び講評はしない。授業内実技試験は、ヴァッカーイ、イタリア古典歌曲の各課題曲から各1曲の韻文を選出し暗記で朗読する。その採点方法は複数の教員で採点し、その評価は点数と講評で示す。実技試験の講評と共にこれからのイタリア語ディクシオンの取り組み方をできる限り各学生一人一人に伝える。授業内で随時フィードバック(一人一人にイタリア語の発音をさせ、より良い発音、音調、文の流れ等を構築していく)するとともに授業内レポート及び実技試験を総合的にみて成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『伊和中辞典』(小学館)、
『VACCAJ』(RICORDI版)

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

イタリア語学の授業ではなく歌唱に深く関わるものとして捉えていただきたい。

ナンバリング	VMS006N		
科目名	イタリア語ディクシオンⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	小澤 慎吾, 矢田部 一弘		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽用語、歌曲、オペラを題材に7つの母音と子音とのヴァリエーション、シラブル、アクセントを学び、テキストの朗読及び舞台発音法を用いた朗読を実践し、アナリーゼと共に歌唱法を研究し、発音の質を高める。

◆授業内容・計画◆

- ・“E”, “O”の開口母音と閉口母音の違いと“U”を徹底的に練習する。
- ・アッチェントの位置及びグラウヴェ(˘)、アクート(˙)の用い方。
- ・日本人の苦手な子音の徹底。
(ch, gh, gl, r, l, gn, sc, v, doppio等)
- ・音楽用語の発音I
- ・VACCAJによる歌唱法を研究する。
- ・イタリア歌曲のアナリーゼを行い朗読する。
- ・伊和辞典の使い方Ⅱ(専門用語、図版の説明・小学館出版)

- 1) 開口母音と閉口母音の練習
- 2) 音楽用語の発音練習・アクセントの復習(クラスのレベルにより歌曲のアナリーゼを行うことがある)
- 3) ヴァッকারイ「Avvezzo a vivere」朗読(クラスのレベルにより歌曲のアナリーゼを行うことがある)
- 4) ヴァッকারイ「Bella prova」朗読(クラスのレベルにより歌曲のアナリーゼを行うことがある)
- 5) ヴァッকারイ「Fra l' ombre un lampo solo」朗読

- (クラスのレベルにより歌曲のアナリーゼを行うことがある)
- 6) 苦手な母音及び子音練習・伊和辞典の使い方と発展
(クラスのレベルにより歌曲のアナリーゼを行うことがある)
- 7) トスティ歌曲の基礎朗読
- 8) トスティ歌曲の朗読
- 9) ベッリーニ歌曲の朗読
- 10) ドナウティ歌曲の練習朗読
- 11) ロッシーニ歌曲の朗読
- 12) 試験課題の説明・練習 ほか
- 13) 後期末試験とまとめ
- 14) 試験講評／イタリア歌曲研究
- 15) 学習した事の総復習

※各回の授業内容は進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

予習として授業で使用するテキストのイタリア語の単語の意味を伊和辞典を使用し調べる(1週間に3～4時間)。復習としてイタリア語の母音練習(毎日15分)を行った後にテキストである韻文をゆっくり発音する(毎日15分)。その後、普通のテンポ、速いテンポと変化をもたせながら発音練習をしていく(毎日15分)。仕上げに朗々とテキストを朗読する(毎日10分)。テレビ、ラジオ及びインターネット等でイタリア語を使用している講座等に耳を傾ける(時間としては、可能な限り多く触れて欲しい: 毎日1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

主に授業内レポート及び授業内実技試験により評価する。授業内レポートは、イタリアオペラを聴き、各学生の歌唱におけるイタリア語と日本語の発音の相違についてまとめてもらう。このレポートに関しては、返却及び講評はしない。授業内実技試験は、ヴァッকারイ、イタリア歌曲の各課題曲から各1曲の韻文を選出し暗記で朗読する。その採点方法は複数の教員で採点し、その評価は点数と講評で示す。実技試験の講評と共にこれからのイタリア語ディクシオンの取り組み方をできる限り各学生一人一人に伝える。授業内で随時フィードバック(一人一人にイタリア語の発音をさせ、より良い発音、音調、文の流れ等を構築していく)するとともに授業内レポート及び実技試験を総合的にみて成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『伊和中辞典』(小学館)
『VACCAJ』(RICORDI版)

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

イタリア語学の授業ではなく歌唱に深く関わるものとして捉えていただきたい。

ナンバリング	VMS007N		
科目名	イタリア語ディクシオンⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	小澤 慎吾		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音楽用語、歌曲、オペラを題材に朗読及び舞台発音法を用いた朗読を身体表現と関連づけて実践し、アナリーゼと共に歌唱法を研究し、発音の精度を高める。

◆授業内容・計画◆

- ・舞台発音法を身体と共に表現する。
- ・骨格、筋肉とイタリア語の関係を考察する。
- ・音楽用語の発音Ⅱ(歌唱・発声指導用語)
- ・VACCAJによる歌唱法を研究する。
- ・オペラアリアとレチタティーヴォのアナリーゼを行い朗読する。
- ・イタリアに関する書物の紹介。

- 1) 母音における舞台発音法の練習
- 2) 音楽用語及び歌曲の発音における舞台発音法の練習
- 3) ヴァッカイ3曲程度の朗読
- 4) ヴァッカイ新たに3曲程度の朗読
- 5) ヴァッカイ残りすべての曲の朗読
- 6) レチタティーヴォの基礎練習
- 7) レチタティーヴォの朗読
- 8) 「Ombra mai fu」のアナリーゼ
- 9) 「Ombra mai fu」の朗読
- 10) 「Lascia ch'io pianga」のアナリーゼと朗読
- 11) 「Lascia ch'io pianga」舞台発音法を用いた練習
- 12) 試験課題の説明・練習 ほか
- 13) 前期末試験とまとめ
- 14) 試験講評／レチタティーヴォとオペラの関連性を研究する。
- 15) 学習した事の総復習

※各回の授業内容はクラスのレベル及び進捗状況により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

予習として授業で使用するテキストのイタリア語の単語の意味を伊和辞典を使用し調べる(1週間に3～5時間)。復習としてイタリア語の母音練習(毎日10分)を行った後にテキストの単語をゆっくり発音する(毎日15分)。その後、普通のテンポ、速いテンポと変化をもたせながら発音練習をしていく(毎日15分)。テキストの韻文を朗々と朗読する練習を行う(毎日20分)。テキストのレチタティーヴォのリズム読み練習を行う(毎日10分)。インターネット等でイタリアの興味のある番組を探し出し傾聴する。その他イタリアのニュース番組等でイタリア語のシャワーを浴びるように習慣づける(時間としては、可能な限り多く触れて欲しい: 毎日1～2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

主に授業内レポート及び授業内実技試験により評価する。授業内レポートは、イタリアオペラを聴き、アンサンブルにおけるイタリア語と日本語の発音の相違についてまとめてもらう。このレポートに関しては、返却及び講評はしない。授業内実技試験は、ヴァッカイ課題曲から任意の1曲をこちらから提示し、朗読する。ヴァッカイのレチタティーヴォの課題をリズムと共に歌詞を朗読する。イタリア古典歌曲の中からレチタティーヴォ付きの1曲の韻文を選出し暗記で朗読する。その採点方法は複数の教員で採点し、その評価は点数と講評で示す。実技試験の講評と共にこれからのイタリア語ディクシオンの取り組み方をできる限り各学生一人一人に伝える。授業内で随時フィードバック(グループでアンサンブル曲の韻文を発音していく。その際一人一人にイタリア語の発音をさせ、より良い発音、音調、文の流れ等を構築する。)するとともに授業内レポート及び実技試験を総合的にみて成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『伊和中辞典』(小学館)
『VACCAJ』(RICORDI版)

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

イタリア語学の授業ではなく歌唱に深く関わるものとして捉えていただきたい。

ナンバリング	VMS008N		
科目名	イタリア語ディクシオンⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	小澤 慎吾		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音楽用語、オペラを題材に朗読及び舞台発音法を用いた朗読を身体表現と関連づけて実践し、アナリーゼと共に歌唱法を研究し、発音の精度を高める。

◆授業内容・計画◆

- ・舞台発音法を用いてセリフのキャッチボールを練習する。
（デュエット、テルツェット等）
- ・舞台発音法と感情表現の関係を考察する。
- ・舞台発音法を用いて、オペラのアンサンブル、モーツァルトのレチタティーヴォ付アリア等を演じ、朗読する。
- ・伊伊辞典の使い方。

- 1)「Venite in ginocchiatevi」(フィガロの結婚より)
アナリーゼとキャッチボール練習
- 2)「Venite in ginocchiatevi」朗読
- 3)「Venite in ginocchiatevi」舞台発音法を用いた練習
- 4)「Venite in ginocchiatevi」キャッチボール練習と
まとめ
- 5)6重唱(フィガロの結婚2幕より)アナリーゼ
- 6)6重唱(フィガロの結婚2幕より)朗読
- 7)6重唱(フィガロの結婚2幕より)舞台発音法を用いた練習
- 8)6重唱(フィガロの結婚2幕より)キャッチボール練習と
まとめ
- 9)レチタティーヴォ付アリア(モーツァルト)アナリーゼと
朗読
- 10)レチタティーヴォ付アリア(モーツァルト)舞台発音法の
練習
- 11)レチタティーヴォ付アリア(モーツァルト)感情表現の
考察
- 12)試験課題の説明・練習 ほか
- 13)後期末試験とまとめ
- 14)試験講評／オペラとディクシオンの関係性を探る
- 15)学習した事の総復習

※各回の授業内容は進度により変更することがある

◆準備学習の内容◆

予習として授業で使用するテキストのイタリア語の単語の意味を伊和辞典を使用し調べる（1週間に3～5時間）。復習としてイタリア語の母音練習（毎日10分）を行った後にテキストの単語をゆっくり発音する（毎日20分）。その後、普通のテンポ、速いテンポと変化をもたせながら発音練習をしていく（毎日15分）。テキストの韻文を朗々と朗読する練習を行う（毎日20分）。テキストのレチタティーヴォのリズム読み練習を行う（毎日10分）。インターネット等でイタリアの興味のある番組及びイタリアのニュース番組等を視聴しイタリア語の文を聞いた直後にその文を声を出し真似をしていく（時間としては、可能な限り多く触れて欲しい：毎日1～2時間程度）。フィガロの結婚の内容を調べ、各役柄についても検証していく（各週に1～2時間）。

◆成績評価の方法◆

朗読する。その採点方法は複数の教員で採点し、その評価は点数と講評で示す。実技試験の講評と共にこれからのイタリア語ディクシオンの取り組み方をできる限り各学生一人一人に伝える。授業内で随時フィードバック(グループでアンサンブル曲の韻文を発音していく。その際一人一人にイタリア語の発音をさせ、より良い発音、音調、文の流れ等を構築する。)するとともに授業内レポート及び実技試験を総合的にみて成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『伊和中辞典』(小学館)

◆参考図書◆

伊伊辞典 (GARZANTI)

◆留意事項◆

イタリア語学の授業ではなく歌唱に深く関わるものとして捉えていただきたい。

ナンバリング	VMS009N		
科目名	ドイツ語ディクシオン I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	長島 剛子, 山下 浩司, 山崎 法子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

- ・正しいドイツ語の発音能力の習得のみならず、息の流れに乗った自然な発音を目指す。
- ・ドイツ語の意味を理解するに留まらず、言葉の持つニュアンスを大切にして発音することを学ぶ。
- ・日常の会話体と舞台ドイツ語の発音の違いを知る。
- ・音符の上に乗せたときの母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス 独語ディクシオンとは？
- 第2回 アルファベットの読み方／ドイツ語辞書の使い方
- 第3回 母音（長母音・短母音）の練習
- 第4回 母音（開口母音・閉口母音）の練習
- 第5回 変母音（長母音・短母音）の練習
- 第6回 二重母音の練習
- 第7回 母音の復習
- 第8回 子音（破裂音、破擦音）の練習
- 第9回 子音（側音、鼻音）の練習
- 第10回 子音（摩擦音、震音）の練習
- 第11回 子音の復習
- 第12回 発音記号表での練習（母音）
- 第13回 発音記号表での練習（子音）
- 第14回 試験課題の説明・練習他
- 第15回 まとめと評価

* 各回の授業内容は進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

毎回の授業で取り上げられたドイツ語の単語を教科書を参照しながら復習すること。また発音記号表（配布予定のプリント）の語例欄を埋め、辞書で発音記号を調べ読めるようにしてくる。（目安30分以上）

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題を出しフィードバックするとともに、試験は、複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。

◆教科書（使用テキスト）◆

- ・独和辞典
- ・歌うドイツ語ハンドブック～歌唱ドイツ語の発音と名曲選 三ヶ尻 正

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	VMS010N		
科目名	ドイツ語ディクシオンⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	長島 剛子, 山下 浩司, 山崎 法子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

- ・正しいドイツ語の発音能力の習得のみならず、息の流れに乗った自然な発音を目指す。
- ・ドイツ語の意味を理解するに留まらず、言葉の持つニュアンスを大切に発音することを学ぶ。
- ・日常の会話体と舞台ドイツ語の発音の違いを知る。
- ・音符の上に乗せたときの母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期の復習 ドイツ語の詩に触れる
第2回 課題1(1)単語の発音、アクセントを中心に
第3回 課題1(2)詩人、詩の背景の理解を中心に
第4回 課題1(3)詩の朗読を中心に
第5回 課題2(1)単語の発音、アクセントを中心に
第6回 課題2(2)詩人、詩の背景の理解を中心に
第7回 課題2(3)詩の朗読を中心に
第8回 課題3(1)単語の発音、アクセントを中心に
第9回 課題3(2)詩人、詩の背景の理解を中心に
第10回 課題3(3)詩の朗読を中心に
第11回 課題4(1)単語の発音、アクセントを中心に
第12回 課題4(2)詩人、詩の背景の理解を中心に
第13回 課題4(3)詩の朗読を中心に
第14回 試験課題の説明・練習他
第15回 まとめと評価

課題1: シューベルト「野ばら」
課題2: ブラームス「子守唄」
課題3: ベートーヴェン「君を愛す」
課題4: モーツァルト「すみれ」

* 各回の授業内容は進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げられたドイツ語の詩に関して、単語一つ一つの意味と発音記号を辞書で調べ、読めるようにしてくる。
その為に毎日15分程度の学習が必要とされる。

◆成績評価の方法◆

授業の取り組みと実技試験(授業で取り上げた詩の朗読)の審査により評価する。随時課題を出し授業内でフィードバックするとともに、試験をセメスターの最後に行い、複数の教員で採点する。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・独和辞典
- ・歌うドイツ語ハンドブック～歌唱ドイツ語の発音と名曲選 三ヶ尻 正

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	VMS011N		
科目名	ドイツ語ディクシオンⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	本島 阿佐子, 加納 悦子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

正しいドイツ語発音能力の習得のみならず、歌詞の意味を理解し、言葉の持つニュアンスを大切に、息の流れに乗った自然な発音を目指す。日常会話と舞台ドイツ語の発音の違いを知り、音符の上に乗せた時の子音や長母音、短母音の処理の仕方を学ぶ。発音を学びながらドイツ歌曲(音楽)の世界をを広く範囲に渡って体験し、終了時には辞書なしでドイツ語が読めるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 ディクシオンテクニックの確認(発音記号)
第2回 ディクシオンテクニックの確認(開口母音と閉口母音)
第3回 ディクシオンテクニックの確認(ウムラウトと二重母音)
第4回 ディクシオンテクニックの確認(子音)
第5回 古典派の歌曲①ベートーベン歌曲 詩の発音と内容
第6回 古典派の歌曲②ベートーベン歌曲 復習と暗唱
第7回 古典派の歌曲①モーツァルト歌曲 詩の発音と内容
第8回 古典派の歌曲②モーツァルト歌曲 復習と暗唱
第9回 古典派の歌曲③モーツァルト歌曲 暗唱
第10回 古典派の歌曲①シューベルト歌曲(その1) 詩の発音と内容
第11回 古典派の歌曲②シューベルト歌曲(その1) 復習と暗唱
第12回 古典派の歌曲③シューベルト歌曲(その2) 詩の発音と内容、その1の復習と暗唱
第13回 古典派の歌曲④シューベルト歌曲(その2) 復習、その1の復習と暗唱
第14回 古典派の歌曲⑤シューベルト歌曲(その1) 暗唱
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

次回授業教材テキストの発音記号と意味を調べてくること。
授業で取り上げた詩は正しく抑揚を持って朗読・なるべく暗誦出来るように練習すること(最低15回)。学習時間の目安:30～60分。

◆成績評価の方法◆

実技試験は、複数の教員で採点し、総合的に成績評価する。
毎回課題を出し、授業中に各自が発表するものを常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストは授業内で指示する

◆参考図書◆

・独和辞典
・ドイツ歌曲名歌集Ⅰ(音楽の友社)

◆留意事項◆

ナンバリング	VMS012N		
科目名	ドイツ語ディクシオンⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	本島 阿佐子, 加納 悦子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

正しいドイツ語発音能力の習得のみならず、歌詞の意味を理解し、言葉の持つニュアンスを大切に、息の流れに乗った自然な発音を目指す。日常会話と舞台ドイツ語の発音の違いを知り、音符の上に乗せた時の子音や長母音、短母音の処理の仕方を学ぶ。発音を学びながらドイツ歌曲(音楽)の世界をを広く範囲に渡って体験し、終了時には辞書なしでドイツ語が読めるようにする(初見発音は試験項目)。

◆授業内容・計画◆

第1回 ロマン派の歌曲①シューマン歌曲(その1) 詩の発音と内容
第2回 ロマン派の歌曲②シューマン歌曲(その1) 復習と暗唱
第3回 ロマン派の歌曲③シューマン歌曲(その2) 詩の発音と内容
第4回 ロマン派の歌曲④シューマン歌曲(その2) 復習と暗唱
第5回 ロマン派の歌曲①ブラームス歌曲(その1) 詩の発音と内容
第6回 ロマン派の歌曲②ブラームス歌曲(その1) 復習と暗唱
第7回 ロマン派の歌曲③ブラームス歌曲(その1) 暗唱、初見の練習
第8回 ロマン派の歌曲①ヴォルフ歌曲(その1) 詩の発音と内容
第9回 後期ロマン派の歌曲②ヴォルフ歌曲(その1) 復習と暗唱
第10回 後期ロマン派の歌曲③ヴォルフ歌曲(その1) 暗唱、初見の練習
第11回 後期ロマン派の歌曲①R.シュトラウス歌曲(その1) 詩の発音と内容
第12回 後期ロマン派の歌曲②R.シュトラウス歌曲(その1) 復習と暗唱
第13回 後期ロマン派の歌曲③R.シュトラウス歌曲(その1) 暗唱、初見の練習
第14回 まとめと評価
第15回 総合復習(「歌曲演習」につなげて)

◆準備学習の内容◆

次回授業教材テキストの発音記号と意味を調べてくること。
授業で取り上げた詩は正しく抑揚を持って朗読・なるべく暗誦出来るように練習すること(最低15回)。学習時間の目安:30～60分

◆成績評価の方法◆

実技試験は、複数の教員で採点し、総合的に評価する。
毎回課題を出し、授業中に各自が発表するものを常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストは授業内で指示する

◆参考図書◆

・独和辞典
・ドイツ歌曲名歌集Ⅰ(音楽の友社)

◆留意事項◆

ナンバリング	VMS013N		
科目名	フランス語ディクシオン I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	秋山 理恵, 武内 朋子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

仏語の発音記号を理解し、声に出して発音する。美しい流れで会話を朗読できるようにする。また同様にそれを歌唱に生かせるようにする。講義では以下の項目について説明し、実際にそれを声に出して発音する。

◆授業内容・計画◆

- ・1回目 ガイダンス。
- ・2回目 母音についての説明と練習。(口むろ、平唇、円唇、前舌、後舌、鼻母音、あいまい母音)
- ・3回目 前回の復習及び半母音についての説明と練習。
- ・4回目 前回の復習及び鼻母音について再度の説明と練習
- ・5回目 1～4回目の復習。母音を一人ずつ発音する。
- ・6回目 1～5回目の復習。母音を一人ずつ発音する。ディスカッション。
- ・7回目 1～6回目の復習。仏語の母音と他外国語の母音との比較。
- ・8回目 子音字(無声子音と有声子音)の読み方の説明と練習。母音の練習。
- ・9回目 音節の特色の説明と練習。母音の練習。
- ・10回目 発音総合練習。アルファベットの読み方の説明と練習。
- ・11回目 発音総合練習。アクセント(アクサン記号)についての説明と練習。
- ・12回目 発音総合練習。単独母音字の読み方の説明と練習。
- ・13回目 発音総合練習。一人ずつ発音。
- ・14回目 最終発音総合練習と実技試験。
- ・15回目 まとめと評価。

◆準備学習の内容◆

- ・必ずノートを持参する。
- ・毎回の授業で与えられた課題の復習と予習をする。学習時間の目安は15分～30分。
- ・鏡を持参する。

◆成績評価の方法◆

- ・実技試験は複数の教員で採点し、総合的に評価する。
- ・各自発音した結果に対し、毎回フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・仏和辞典(出版社は問わない)
- ・適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

「フランス語の発音のすべて La prononciation francaise」 丸山圭三郎著 駿河台出版社

◆留意事項◆

仏語が全く分からない或いは勉強していない人でも安心していらして下さい。

ナンバリング	VMS014N		
科目名	フランス語ディクシオンⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	秋山 理恵, 武内 朋子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技術を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

仏語の持つ美しい流れと発音を理解し、ニュアンスをつけて詩を朗読できるようにする。また同様にそれを歌唱に生かせるようにする。講義では以下の項目について説明し、実際にそれを声に出して発音する。

◆授業内容・計画◆

- ・1回目 前期の復習。おもに母音の発音について。辞書の使い方について説明し、実際に使用してみる。後期の詩を決定する。
- ・2回目 二つまたはそれ以上の母音字、母音字+n.m.il.leの読み方、母音の長さについての説明と練習。
- ・3回目 音節についての説明と練習。実際に歌曲の中の詩を選び、発音記号を書く練習をする。
- ・4回目 h、c、g、qu、二つの子音字の組み合わせ、特殊な綴りの読み方、語尾の子音字についての説明と練習。3回目に取り上げた詩を発音する。
- ・5回目 リエゾン(連音)の説明と練習。アンシェヌマン(連読)、エリジオン(母音字省略)、句読記号についての説明と練習。4回目に取り上げた詩を発音する。
- ・6回目 イントネーションについての説明と練習。長母音、半長母音についての長さの説明。2曲目の詩を取り上げ、発音記号を書いた後発音する。
- ・7回目 2曲目の詩を発音した後、1曲目の発音の復習。
- ・8回目 2曲目の詩を発音した後、1曲目の発音の復習。3曲目の詩を取り上げ、発音記号を書いた後、発音する。
- ・9回目 3曲目の詩を発音した後、1・2曲目の発音の復習。
- ・10回目 3曲目の詩を発音した後、1・2曲目の発音の復習。 ディスカッション。
- ・11回目 3つの詩の発音練習及び朗読。二人一組になり、お互いに読みあう。
- ・12回目 3つの詩の発音練習及び朗読。
- ・13回目 3つの詩の発音練習及び朗読。ディスカッション。
- ・14回目 最終発音総合練習及び実技試験。
- ・15回目 まとめと評価。

◆準備学習の内容◆

毎回の授業で行った発音の復習をすること。その際、自分の出来た事と出来なかった事をきちんと精査してノートに書いておくこと。(毎日10分以上復習する事)もし出来なかった事が自分で解決しなかった場合は、次の授業内で質問をすること。自分の置かれている状況を理解する事で次の授業での心の落ち着き方に違いが出る。授業前には次の課題の日本語訳を必ず読んでくる事。(辞書を使って単語の意味を知り、自ら考えてくる事。そのために15分くらいの時間をとる事。)

◆成績評価の方法◆

- ・実技試験は複数の教員で採点し、総合的に評価する。
- ・各自発音した結果に対し、毎回フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・仏和辞典(出版社は問わない)
- ・適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

「フランス語の発音のすべて La prononciation francaise」 丸山圭三郎著 駿河台出版社

◆留意事項◆

- ・疑問・質問がある場合は、即時質問することが望ましい。

ナンバリング	VMS015N		
科目名	合唱 I		
科目詳細	1V女		
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

女声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜を正しく読み、作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- オリエンテーション(席決め、ハート分け等)。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第1曲目&第2曲目「曼珠沙華」「あひびき」
(1)音取り、テキストを読み。日本語の発音、詩と音楽の関係について掘り下げる。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第1曲目&第2曲目「曼珠沙華」「あひびき」
(2)ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第3曲目&第4曲目「にくしみ」「あかんぼ」
(1)音取り、テキストを読み。日本語の発音、詩と音楽の関係について掘り下げる。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第3曲目&第4曲目「にくしみ」「あかんぼ」
(2)ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第5曲目「紺屋のおろく」
(1)音取り、テキストを読み。日本語の発音、詩と音楽の関係について掘り下げる。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第5曲目「紺屋のおろく」
(2)ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第1曲目&第2曲目「曼珠沙華」「あひびき」
復習を通し、テキストと音楽の繋がりにへの理解を深める。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第3曲目&第4曲目「にくしみ」「あかんぼ」
復習を通し、テキストと音楽の繋がりにへの理解を深める。
- 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第5曲目「紺屋のおろく」
復習を通し、テキストと音楽の繋がりにへの理解を深める

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取組みにより評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

- 「五つの唄」女声合唱とピアノのためのー 三善晃(作曲)出版社:カワイ出版
- その他の曲を授業にて取り上げるようになった場合には、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS015N		
科目名	合唱 I		
科目詳細	1V男		
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜から作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション(パート分け、席決め)。
2. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
3. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
4. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ①ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
5. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ②ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
6. 第2回から第5回までの復習
7. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
8. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
9. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ①ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
10. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ②ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
11. 第7回から第10回の復習
12. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
13. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取り組みにより評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

ベートーヴェン交響曲第9番 第4楽章 ヴォーカルスコア(ベーレンライター版)
その他の曲に関しては、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など、変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS016N		
科目名	合唱Ⅱ		
科目詳細	1V女		
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

女声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜から作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。声楽専修合唱演奏会に向けた準備。

◆授業内容・計画◆

1. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第1曲目&第2曲目「曼珠沙華」「あひびき」
合唱演奏会に向けた練習。
(1)言葉とフレーズを意識した練習。
2. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第1曲目&第2曲目「曼珠沙華」「あひびき」
合唱演奏会に向けた練習。
(2)仕上げ。
3. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第3曲目&第4曲目「にくしみ」「あかんぼ」
合唱演奏会に向けた練習。
(1)言葉とフレーズを意識した練習。
4. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第3曲目&第4曲目「にくしみ」「あかんぼ」
合唱演奏会に向けた練習。
(2)仕上げ。
5. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第5曲目「紺屋のおろく」
合唱演奏会に向けた練習。
(1)言葉とフレーズを意識した練習。
6. 三善 晃:「五つの唄」女声合唱とピアノのための
第5曲目「紺屋のおろく」
合唱演奏会に向けた練習。
(2)仕上げ。
7. 第1回～第3回の復習。
8. 第4回～第6回の復習。
9. 演奏会に向けての通し稽古。
10. 池辺晋一郎 女声合唱曲集「東洋民謡集Ⅴ」(プリント配布)

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

1.「五つの唄」女声合唱とピアノのための- 三善晃(作曲)出版社:カワイ出版
その他の曲を授業にて取り上げるようになった場合には、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など、変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS016N		
科目名	合唱Ⅱ		
科目詳細	1V男		
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜から作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。声楽専修合唱演奏会に向けた練習。

◆授業内容・計画◆

1. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria Kyrie, Gloria
①言葉を意識した練習。

2. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria Kyrie, Gloria
②音楽的なフレーズを意識した練習。

3. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria Kyrie, Gloria
③仕上げ。

4. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
①言葉を意識した練習。

5. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
②音楽的なフレーズを意識した練習。

6. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
③仕上げ。

7. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
①言葉を意識した練習。

8. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
②音楽的なフレーズを意識した練習。

9. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
③仕上げ。

10. 演奏会に向けての通し稽古。

11. ベートーヴェン、交響曲第9番、第4楽章の合唱部分。
(1)音取り。

12. ベートーヴェン、交響曲第9番、第4楽章の合唱部分。
(2)ラテン語のテキストの読み方、発音を重点的に習得する。

13. ベートーヴェン、交響曲第9番、第4楽章の合唱部分。
(2)テキストの音価を型々理解し、音楽との関係を理解する

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ベートーヴェン交響曲第9番 第4楽章 ヴォーカルスコア(ペーレンライター版)
その他の曲に関しては、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など、変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS017N		
科目名	合唱Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜から作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション(パート分け、席決め)。
2. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
3. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
4. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ①ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
5. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
 - ②ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
6. 第2回から第5回までの復習
7. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
8. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
9. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ①ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
10. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
 - ②ハーモニー・フレーズを意識しながら、全体的な音楽の流れを作る。
11. 第7回から第10回の復習
12. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
 - ①音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。
13. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
 - ②音取り、テキストを読み。ラテン語の発音、テキストと音楽の関係について掘り下げる。

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ベートーヴェン交響曲第9番 第4楽章 ヴォーカルスコア(ベーレンライター版)
その他の曲に関しては、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など、変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS018N		
科目名	合唱Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得、合唱を通して、楽譜から作曲者の意図を汲み取る姿勢を身に付ける。声楽専修合唱演奏会に向けた練習。

◆授業内容・計画◆

1. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
①言葉を意識した練習。

2. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
②音楽的なフレーズを意識した練習。

3. ブルックナー ミサ曲第2番 Kyrie, Gloria
③仕上げ。

4. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
①言葉を意識した練習。

5. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
②音楽的なフレーズを意識した練習。

6. ブルックナー ミサ曲第2番 Credo
③仕上げ。

7. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
①言葉を意識した練習。

8. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
②音楽的なフレーズを意識した練習。

9. ブルックナー ミサ曲第2番 Agnus dei
③仕上げ。

10. 演奏会に向けての通し稽古。

11. ベートーヴェン、交響曲第9番、第4楽章の合唱部分。
(1)音取り。

12. ベートーヴェン、交響曲第9番、第4楽章の合唱部分。
(2)ラテン語のテキストの読み方、発音を重点的に習得する。

◆準備学習の内容◆

ハーモニーをピアノで弾きながら、各自のパートを練習する。また、他のパートがどのように歌っているかも把握するようにする。また、テキストの意味、内容を調べる。目安は15分～30分。

◆成績評価の方法◆

授業中の課題を常にフィードバックし、平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ベートーヴェン交響曲第9番 第4楽章 ヴォーカルスコア(ペーレンライター版)
その他の曲に関しては、プリントにて教材を配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みや予習をしてくること。授業の進み具合などで、曲目・授業内容など、変更の可能性あり。

ナンバリング	VMS023N		
科目名	英語ディクシオン I		
科目詳細			
担当教員	早坂 牧子		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

英語発音の基礎を学び、歌唱に活かせるようにする。演奏する音楽作品が書かれた時代、国、作品のジャンルや様式によって様々な発音の可能性があることを理解し、作品に相応しい舞台発音を自ら同定し、表現できる力をつける。前期は主にアメリカ英語を中心に、適宜イギリスやヨーロッパの英語と対比させながら学習する。

◆授業内容・計画◆

1. 導入とオリエンテーション: ディクシオンとは、様々な英語の発音について、IPAとフォニックス、発音上達のヒント
2. 英語の母音(1): Front Vowels and Back Vowels / 課題曲: 'My Funny Valentine'
3. 英語の母音(2): Mixed Vowels and Diphthongs / 課題曲: 'Cheek to Cheek'
4. 英語の母音(3): Triphthongs and Semi-Vowels Glides / 課題曲: 'You'll Never Walk Alone'
5. 英語の子音(1): Plosives / 課題曲: 'When You Wish Upon a Star'
6. 英語の子音(2): Fricatives / 課題曲: 'All the Things You Are'
7. 英語の子音(3): Nasal Consonants / 折り返しの復習
8. リンキング(1): 子音+母音 / 課題曲: 'Tonight'
9. リンキング(2): 母音+母音 / 課題曲: 'Moon River'
10. リンキング(3): 発音の位置が類似している音 / 課題曲: 'Part of Your World'
11. ストレス、リズムと韻律 / 課題曲: 'Sun and Moon'
12. イントネーション / 課題曲: 'For Good'
13. 変化する音と消える音 / 課題曲: 'This Is Me'
14. 期末発表
15. まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

指定された課題(音読、歌詞の訳、朗読や歌唱の録音、動画視聴など)に必ず取り組み、積極的に英語を勉強すること。一日最低10分以上(できれば30分)、英語の発音を集中して聴き、一部でもよいから実際に朗読・歌唱する時間をとること。

◆成績評価の方法◆

課題、授業中のパフォーマンス、個人発表を総合して評価する。提出物や授業内パフォーマンスに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で使用する参考資料は随時配布する。

◆参考図書◆

Labouff, Kathryn. *Singing and Communicating in English: A Singer's Guide to English Diction*. Oxford: Oxford University Press, 2007.
 里井久輝、『CD付 英語で歌おう! スタンダード・ジャズ』。東京: アルク、2013年。
 三ヶ尻正、『改装版 レッスン・留学のために/歌唱のテクニック: 音楽家の英語入門―聞く・話す・読む・書く・歌う―』。東京: ハンナ、2012年。
 その他、関連図書やオンライン上の資料を随時紹介する。

◆留意事項◆

英語の辞書(できれば電子辞書)を用意すること。歌唱・朗読上の発音に特化した授業ではありますが、十分に予習・復習の時間をとり、歌詞の内容が分かった上で授業に臨むこと。

ナンバリング	VMS024N		
科目名	英語ディクシオンⅡ		
科目詳細			
担当教員	早坂 牧子		
学年	1年,2年,3年	クラス	O1
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

英語発音の基礎を学び、歌唱に活かせるようにする。演奏する音楽作品が書かれた時代、国、作品のジャンルや様式によって様々な発音の可能性があることを理解し、作品に相応しい舞台発音を自ら同定し、表現できる力をつける。後期はアメリカ英語の発音で学んだ知識と対比させながら、イギリス英語やヨーロッパで用いられる英語についても学び、朗読と歌唱を通じて、楽曲に相応しい英語の発音を定着させていく。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション、イギリス英語のいろいろ、RPにおける母音と子音の基本
2. スタイル別実践練習(1):フォークソング / 課題曲: 'Greensleeves'
3. スタイル別実践練習(2): John Dowland / 課題曲: 'Come Again'
4. スタイル別実践練習(3): イギリス発音で歌うミュージカル① Oliver / 課題曲: 'I'd Do Anything'
5. スタイル別実践練習(4): イギリス発音で歌うミュージカル② The Sound of Music / 課題曲: 'The Sound of Music'
6. スタイル別実践練習(5): イギリス発音で歌うミュージカル③ The Sound of Music / 課題曲: 'My Favourite Things'
7. 前半の振り返り
8. スタイル別実践練習(6): イギリス発音で歌うミュージカル④ Cats / 課題曲: 'Memory'
9. スタイル別実践練習(7): イギリス発音で歌うミュージカル⑤ Les Misérables / 課題曲: 'Do You Hear the People Sing'
10. スタイル別実践練習(8): イギリス発音で歌うミュージカル⑥ / 課題曲: 'All I Ask of You'
11. スタイル別実践練習(9): イギリス発音で歌うポップス / 課題曲: 'You Raise Me Up'
12. スタイル別実践練習(10): 20世紀英歌曲 / 課題曲: Quilter, 'How Should I Your True Love Knows'
13. スタイル別実践練習(11): クリスマスソング / 課題曲: 'O Holy Night'
14. スタイル別実践練習(12): 期末発表
15. まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

指定された課題(音読、歌詞の訳、朗読や歌唱の録音、動画視聴など)に必ず取り組み、積極的に英語を勉強すること。一日最低10分以上(できれば30分)、どのような方法でもよいので、英語を集中して聴く時間をとること。

◆成績評価の方法◆

課題、授業中のパフォーマンス、最終回の個人発表を総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で使用する参考資料は随時配布する。

◆参考図書◆

Labouff, Kathryn. Singing and Communicating in English: A Singer's Guide to English Diction. Oxford: Oxford University Press, 2007.
 三ヶ尻正、『改裝版 レッスン・留学のために/歌唱のテクニック: 音楽家の英語入門—聞く・話す・読む・書く・歌う—』、東京: ハンナ、2012年。
 その他、関連図書やオンライン上の資料を随時紹介する。

◆留意事項◆

英語の辞書(できれば電子辞書)を用意すること。歌唱・朗読上の発音に特化した授業ではありますが、予習・復習の時間を十分にとり、歌詞の内容を理解した上で授業に臨むこと。

ナンバリング	VMS405N		
科目名	合唱 V		
科目詳細			
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月5,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得:(1)合唱を通して古典のさまざまな音楽語法、様式を学ぶ。(2)合唱を通して演奏、表現行為の歎びと厳しさを知る。

◆授業内容・計画◆

第1回 ブラームス ドイツ・レクイエム op.45 1楽章前半音取り
第2回 1楽章後半音取り
第3回 2楽章前半音取り
第4回 2楽章後半音取り
第5回 3楽章前半音取り
第6回 3楽章後半音取り
第7回 4楽章前半音取り
第8回 4楽章後半音取り
第9回 5楽章前半音取り
第10回 5楽章後半音取り
第11回 6楽章前半音取り
第12回 6楽章後半音取り
第13回 7楽章前半音取り
第14回 7楽章後半音取り
第15回 中間まとめ
第16回 1楽章前半歌詞中心に
第17回 1楽章後半歌詞中心に
第18回 2楽章前半歌詞中心に
第19回 2楽章後半歌詞中心に
第20回 3楽章前半歌詞中心に
第21回 3楽章後半歌詞中心に
第22回 4楽章前半歌詞中心に
第23回 4楽章後半歌詞中心に
第24回 5楽章前半歌詞中心に
第25回 5楽章後半歌詞中心に
第26回 6楽章前半歌詞中心に
第27回 6楽章後半歌詞中心に
第28回 7楽章前半歌詞中心に
第29回 7楽章後半歌詞中心に
第30回 まとめ

◆準備学習の内容◆

CDなどを聴いて曲の全体像を掴んでおく。
テキストを暗誦しておく。
目安時間は30分。

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ブラームス ドイツ・レクイエム op.45 (全音楽譜出版社ピアノ伴奏付きヴォーカルスコア)
ベートーヴェン 交響曲第9番 op.125 (ベーレンライター版ピアノ伴奏付合唱ヴォーカルスコア)
プリント教材(必要に応じて配布)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みが定かでないままに夢中になると声に支障をきたしかねないので、読譜力の弱い者は予習を怠らないこと。

ナンバリング	VMS406N		
科目名	合唱VI		
科目詳細			
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月5,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得:(1)合唱を通して古典のさまざまな音楽語法、様式を学ぶ。(2)合唱を通して演奏、表現行為の歓びと厳しさを知る。

◆授業内容・計画◆

第1回 ブラームス ドイツレクイエム 1楽章表現練習
第2回 2楽章表現練習
第3回 3楽章表現練習
第4回 4楽章表現練習
第5回 5楽章表現練習
第6回 6楽章表現練習
第7回 7楽章表現練習
第8回 1楽章仕上げ
第9回 2楽章仕上げ
第10回 3楽章仕上げ
第11回 4楽章仕上げ
第12回 5楽章仕上げ
第13回 6楽章仕上げ
第14回 7楽章仕上げ
第15回 中間まとめ
第16回 1、2楽章通しと直し
第17回 3、4楽章通しと直し
第18回 5、6、7楽章通しと直し
第19回 全曲通し
第20回 Beethoven 第九交響曲 第4楽章237-590小節 音取り 音程中心に
第21回 237-590小節 音取り 発音中心に
第22回 595-762小節 音取り 音程中心に
第23回 595-762小節 音取り 発音中心に
第24回 795-920小節 音取り 音程中心に
第25回 795-920小節 音取り 発音中心に
第26回 237-590小節 表現練習
第27回 595-762小節 表現練習
第28回 795-920小節 表現練習
第29回 全曲通し
第30回 まとめ

◆準備学習の内容◆

CDなどを聴いて曲の全体像を掴んでおく。
テキストを暗誦しておく。
目安時間は30分。

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ブラームス ドイツ・レクイエム op.45 (全音楽譜出版社ピアノ伴奏付きヴォーカルスコア)
ベートーヴェン 交響曲第9番 op.125 (ベーレンライター版ピアノ伴奏付合唱ヴォーカルスコア)
プリント教材(必要に応じて配布)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みが定かでないままに夢中になると声に支障をきたしかねないので、読譜力の弱い者は予習を怠らないこと。

ナンバリング	VMS409N		
科目名	合唱Ⅶ		
科目詳細	履修を許可された者のみ		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月5,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得:(1)合唱を通して古典のさまざまな音楽語法、様式を学ぶ。(2)合唱を通して演奏、表現行為の歓びと厳しさを知る。

◆授業内容・計画◆

第1回 ブラームスドイツレクイエム op.45 1楽章前半音取り
第2回 1楽章後半音取り
第3回 2楽章前半音取り
第4回 2楽章後半音取り
第5回 3楽章前半音取り
第6回 3楽章後半音取り
第7回 4楽章前半音取り
第8回 4楽章後半音取り
第9回 5楽章前半音取り
第10回 5楽章後半音取り
第11回 6楽章前半音取り
第12回 6楽章後半音取り
第13回 7楽章前半音取り
第14回 7楽章後半音取り
第15回 中間まとめ
第16回 1楽章前半歌詞中心に
第17回 1楽章後半歌詞中心に
第18回 2楽章前半歌詞中心に
第19回 2楽章後半歌詞中心に
第20回 3楽章前半歌詞中心に
第21回 3楽章後半歌詞中心に
第22回 4楽章前半歌詞中心に
第23回 4楽章後半歌詞中心に
第24回 5楽章前半歌詞中心に
第25回 5楽章後半歌詞中心に
第26回 6楽章前半歌詞中心に
第27回 6楽章後半歌詞中心に
第28回 7楽章前半歌詞中心に
第29回 7楽章後半歌詞中心に
第30回 まとめ

◆準備学習の内容◆

CDなどを聴いて曲の全体像を掴んでおく。
テキストを暗誦しておく。目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ブラームス ドイツ・レクイエム op.45 (全音楽譜出版社ピアノ伴奏付きヴォーカルスコア)
ベートーヴェン 交響曲第9番 op.125 (ベーレンライター版ピアノ伴奏付合唱ヴォーカルスコア)
プリント教材(必要に応じて配布)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みが定かでないままに夢中になると声に支障をきたしかねないので、読譜力の弱い者は予習を怠らないこと。

ナンバリング	VMS410N		
科目名	合唱Ⅷ		
科目詳細	履修を許可された者のみ		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月5,金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

混声合唱のレパートリーの習得:(1)合唱を通して古典のさまざまな音楽語法、様式を学ぶ。(2)合唱を通して演奏、表現行為の歓びと厳しさを知る。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ブラームス ドイツレクイエム 1楽章表現練習
第2回 2楽章表現練習
第3回 3楽章表現練習
第4回 4楽章表現練習
第5回 5楽章表現練習
第6回 6楽章表現練習
第7回 7楽章表現練習
第8回 1楽章仕上げ
第9回 2楽章仕上げ
第10回 3楽章仕上げ
第11回 4楽章仕上げ
第12回 5楽章仕上げ
第13回 6楽章仕上げ
第14回 7楽章仕上げ
第15回 中間まとめ
第16回 1、2楽章通しと直し
第17回 3、4楽章通しと直し
第18回 5、6、7楽章通しと直し
第19回 全曲通し
第20回 Beethoven 第九交響曲 第4楽章237-590小節 音取り 音程中心に
第21回 237-590小節 音取り 発音中心に

第22回 595-762小節 音取り 音程中心に
第23回 595-762小節 音取り 発音中心に
第24回 795-920小節 音取り 音程中心に
第25回 795-920小節 音取り 発音中心に
第26回 237-590小節 表現練習
第27回 595-762小節 表現練習
第28回 795-920小節 表現練習

第29回 全曲通し

◆準備学習の内容◆

CDなどを聴いて曲の全体像を掴んでおく。
テキストを暗誦しておく。
目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ブラームス ドイツ・レクイエム op.45 (全音楽譜出版社ピアノ伴奏付きヴォーカルスコア)
ベートーヴェン 交響曲第9番 op.125 (ベーレンライター版ピアノ伴奏付合唱ヴォーカルスコア)
プリント教材(必要に応じて配布)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

譜読みが定かでないままに夢中になると声に支障をきたしかねないので、読譜力の弱い者は予習を怠らないこと。

ナンバリング	VMS407N		
科目名	オペラ基礎研究A		
科目詳細			
担当教員	彌勒 忠史		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

「オペラとは何か」について考察する。基礎研究Aでは、音源、映像等の資料をまじえ、1)オペラとは何か 2)オペラにおける劇場表現とは 3)ひとつのオペラの出来るまで について知る。この中で、オペラの持つ、独自の表現法を具体的に学び、実際にひとつのオペラを創りあげるまでのプロセスを理解する。

◆授業内容・計画◆

実践の課題の題材として、オペラが誕生し、民衆に開かれた劇場でオペラが上演されるようになった初期バロック期の傑作、C.モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」を取り上げる。
オペラという舞台芸術が、どのような経緯で、どうやって生まれたのか、そもそもどのような芸術なのかを、17世紀作品の分析と実践を通して学ぶ。
リブレットの読み方、楽譜の読み方、ドラマの捉え方、音楽と言葉の扱い方、舞台の上での演技の仕方等を実践を交えて考察・トレーニングする。

- 1日目 午前)オペラの誕生と歴史 午後)実践トレーニング
- 2日目 午前)オペラ黎明期の様式 午後)実践トレーニング
- 3日目 午前)総括とレポート 午後)実践トレーニング

C.Monteeverdi
“ L’incoronazione di Poppea ”

Prologo
“ Deh, nasconditi, o Virtù ” (Fortuna, Virtù, Amore)

Atto I
“ Signor, deh, non partire ” (Poppea, Nerone)
“ Son risoluto, insomma ” (Nerone, Seneca)
“ Come dolci, Signor, come soavi ” (Poppea, Nerone)

Atto II
“ Pur sempre di Poppea ” (Drusilla, Ottone)
“ Tu che dagil avi miei ” (Ottavia, Ottone)

Atto III
“ Pur ti miro ” (Poppea, Nerone)

参考: Fortuna→Sop. Virtù→Sop.(Mez.) Amore→Sop.(Mez.), Poppea→Sop. (Mez.) Nerone→Sop. (Ten.) Seneca→Bas. or Bar. Drusilla→Sop. Ottone→Alt. (Bar.) Ottavia→Sop. (Mez.)

◆準備学習の内容◆

あらかじめ、指定された箇所を演奏できるように準備すること。授業前には必ず日本語訳をしてくること。目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックするとともにレポート及び簡単な演奏、表現によって総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

G.F.マリピエロ G.F.Malipiero編のヴォーカル・スコアを使用する予定。受講生には、講義開始以前に演奏箇所の楽譜を配布できるよう手配する。
パブリック・ドメイン(著作権フリー)となったヴォーカル・スコアが、すでにインターネット上に公開されているので、そちらも参照可能。

◆参考図書◆

可能であれば、「ポッペアの戴冠」の対訳を持参するのが望ましい(対訳は任意のもので可)。

◆留意事項◆

イタリア語の辞書を用意すること。伊和・和伊中辞典(小学館)レベルのものが望ましい。同内容のアプリ・電子辞書が、書籍版に比べると、かなり廉価で販売されているので、それらの利用も検討すると良い。

ナンバリング	VMS408N		
科目名	オペラ基礎研究B		
科目詳細			
担当教員	彌勒 忠史		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

「オペラをどのように読み解き演奏するのか」について考察する。基礎研究Bでは、オペラ基礎研究Aの考察を発展させ、より具体的に表現の方法を探究する。1)リブレット・楽譜の読み方 2)表現の実際 3)再びオペラとは何か～表現法の確立 について実践的なトレーニングを交えながら学ぶ。

◆授業内容・計画◆

実践課題の題材としてW.A.モーツァルトの「フィガロの結婚」のアンサンブルをとり上げる。
リブレットの読み方、楽譜の読み方、ドラマの捉え方、音楽と言葉の扱い方、舞台の上での演技等を、原作となるボーマルシェの戯曲「フィガロの結婚」(日本語訳)の読み合わせを踏まえ、歌唱および演技実践を交えて考察・トレーニングする。

1日目 午前)ボーマルシェ戯曲読み合わせ 午後)オペラ「フィガロの結婚」歌唱実践トレーニング
2日目 午前)ボーマルシェ戯曲読み合わせ 午後)オペラ「フィガロの結婚」歌唱実践トレーニング
3日目 午前)総括とレポート 午後)オペラ「フィガロの結婚」歌唱実践トレーニング

W.A.Mozart

“Le nozze di Figaro”
Nr.2: Duettino (Sus. Fig.)
Nr.5 Duettino (Sus. Marc.)
Nr.14 Terzetto (Sus. Cot. Csa.)
Nr.19 Sestetto (Sus. Marc. Cot. Bar. Cur. Fig.)
Nr.21 Duettino (Csa.Sus.)

◆準備学習の内容◆

指定した箇所について、テキストの朗唱、演唱を準備すること。授業前には必ず日本語訳をしてくること。
目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックするとともにレポート及び簡単な演奏、表現によって総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

W.A.モーツァルト「フィガロの結婚」のヴォーカルスコア(ペーレンライター版、もしくはペータース版)を持参するのが望ましい。

◆参考図書◆

W.A.モーツァルト「フィガロの結婚」の対訳を持参するのが望ましい(対訳は任意のもので可)。

◆留意事項◆

イタリア語の辞書を用意すること。伊和・和伊中辞典(小学館)レベルのものが望ましい。同内容のアプリ・電子辞書が、書籍版に比べると、かなり廉価で販売されているので、それらの利用も検討すると良い。

ナンバリング	VMP019N		
科目名	特別レッスン I		
科目詳細	(V)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽を専門とする基礎課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲（イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲）の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教員と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする歌曲1に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする歌曲1の音の確認
- 第4回:課題とする歌曲1の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題とする歌曲1の仕上げ
- 第6回:課題とする歌曲2に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第7回:課題とする歌曲2の音の確認
- 第8回:課題とする歌曲2の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:課題とする歌曲2の仕上げ
- 第10回:課題とする歌曲3に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第11回:課題とする歌曲3の音の確認
- 第12回:課題とする歌曲3の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする歌曲3の仕上げ
- 第14回:歌曲1、2、3のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
- 第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。（譜読み、原語を日本語に訳すなど）1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

平常の授業に取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP020N		
科目名	特別レッスンⅡ		
科目詳細	(V)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠの学びの上に立ち、声楽を専門とする学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲(イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲)の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

授業内容・計画 教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする歌曲4に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする歌曲4の音の確認
- 第4回:課題とする歌曲4の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題とする歌曲4の仕上げ
- 第6回:課題とする歌曲5に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第7回:課題とする歌曲5の音の確認
- 第8回:課題とする歌曲5の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:課題とする歌曲5の仕上げ
- 第10回:課題とする歌曲6に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第11回:課題とする歌曲6の音の確認
- 第12回:課題とする歌曲6の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする歌曲6の仕上げ
- 第14回:歌曲4、5、6のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
- 第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

平常の授業に取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP021N		
科目名	特別レッスンⅢ		
科目詳細	(V)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠ～Ⅱの学びの上に立ち、声楽曲を歌うために必要な技術はもちろんの事、詩の解釈、言語への豊かな感性を磨き、演奏家となるための基本的知識や能力を養い豊富なレパートリーを蓄積させる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題とする歌曲7に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回: 課題とする歌曲7の音の確認
- 第4回: 課題とする歌曲7の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第5回: 課題とする歌曲7の仕上げ
- 第6回: 課題とする歌曲8に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第7回: 課題とする歌曲8の音の確認
- 第8回: 課題とする歌曲8の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第9回: 課題とする歌曲8の仕上げ
- 第10回: 課題とする歌曲9に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第11回: 課題とする歌曲9の音の確認
- 第12回: 課題とする歌曲9の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回: 課題とする歌曲9の仕上げ
- 第14回: 歌曲7、8、9のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
- 第15回: 試験で演奏する歌曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP022N		
科目名	特別レッスンⅣ		
科目詳細	(Ⅴ)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠ、Ⅱ、Ⅲの学びの上に立ち、声楽を専門とする学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲(イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲)の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の演奏技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする歌曲10に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする歌曲10の音の確認
- 第4回:課題とする歌曲10の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題とする歌曲10の仕上げ
- 第6回:課題とする歌曲11に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第7回:課題とする歌曲11の音の確認
- 第8回:課題とする歌曲11の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:課題とする歌曲11の仕上げ
- 第10回:課題とする歌曲12に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第11回:課題とする歌曲12の音の確認
- 第12回:課題とする歌曲12の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする歌曲12の仕上げ
- 第14回:歌曲10、11、12のまとめの演奏と演奏試験での曲の決定
- 第15回:試験で演奏する歌曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP427N		
科目名	特別レッスンⅦ		
科目詳細	(Ⅶ)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基礎の学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力をはぐくみ、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学習できる。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲13に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする声楽曲13の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回:課題とする声楽曲13の仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲14に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回:課題とする声楽曲14の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回:課題とする声楽曲14の仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲15に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回:課題とする声楽曲15の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回:課題とする声楽曲15の仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲16に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回:課題とする声楽曲16の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする声楽曲16の仕上げ
- 第14回:声楽曲13、14、15、16のまとめの演奏と実技試験での曲の決定
- 第15回:試験で演奏する声楽曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP428N		
科目名	特別レッスンⅥ		
科目詳細	(Ⅴ)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学ぶことができる。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする声楽曲17に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回:課題とする声楽曲17の多様な歌唱表現の検討と工夫
第4回:課題とする声楽曲17の仕上げ
第5回:課題とする声楽曲18に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第6回:課題とする声楽曲18の多様な歌唱表現の検討と工夫
第7回:課題とする声楽曲18の仕上げ
第8回:課題とする声楽曲19に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第9回:課題とする声楽曲19の多様な歌唱表現の検討と工夫
第10回:課題とする声楽曲19の仕上げ
第11回:課題とする声楽曲20に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第12回:課題とする声楽曲20の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回:課題とする声楽曲20の仕上げ
第14回:声楽曲17、18、19、20のまとめの演奏と実技試験での曲の決定
第15回:試験で演奏する歌曲及び自由曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP429N		
科目名	特別レッスンⅦ		
科目詳細	(Ⅴ)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別れあⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができる。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題となる曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに主体的に自らを高められるよう学ぶことができる。

授業計画

第1回:ガイダンス

第2回:課題とする声楽曲21に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第3回:課題とする声楽曲21の多様な歌唱表現の検討と工夫

第4回:課題とする声楽曲21の仕上げ

第5回:課題とする声楽曲22に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第6回:課題とする声楽曲22の多様な歌唱表現の検討と工夫

第7回:課題とする声楽曲22の仕上げ

第8回:課題とする声楽曲23に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第9回:課題とする声楽曲23の多様な歌唱表現の検討と工夫

第10回:課題とする声楽曲23の仕上げ

第11回:課題とする声楽曲24に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景

第12回:課題とする声楽曲24の多様な歌唱表現の検討と工夫

第13回:課題とする声楽曲24の仕上げ

第14回:声楽曲21、22、23、24のまとめの演奏と実技試験での曲の決定

第15回:試験で演奏する声楽曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

:平常の授業に取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	VMP430N		
科目名	特別レッスンⅧ		
科目詳細	(Ⅴ)		
担当教員	澤畑 恵美		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

特別レッスンⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶの学びの上に立ち、声楽を専門とする専門課程の学生としての発声・呼吸法を身につけるとともに、歌曲、オペラ、宗教曲等の学修を通して、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

教師と生徒が1対1のレッスン形式で下記を学ぶ。学生の歌唱技術や音楽的能力が異なるため、個々の学生に応じた課題曲を扱う。学生は学んだことをレパートリーシートに記入し、学びの軌跡を振り返るとともに、それをもとに見通しをもって主体的に自らを高められるような仕組みで行う。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲25に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする声楽曲25の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回:課題とする声楽曲25の仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲26に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回:課題とする声楽曲26の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回:課題とする声楽曲26の仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲27に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回:課題とする声楽曲27の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回:課題とする声楽曲27の仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲28に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回:課題とする声楽曲28の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする声楽曲28の仕上げ
- 第14回:声楽曲25、26、27、28のまとめの演奏と卒業試験での曲の決定
- 第15回:卒業試験で演奏する歌曲及び自由曲の表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨む。(譜読み、原語を日本語に訳すなど)1日最低1時間は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨む

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	KBP001N		
科目名	専門実技(ピアノ) I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を身につける。(2)バロック、古典派に重点を置き、小規模、中規模の作品及びエチュードを、曲にふさわしい奏法、様式感で演奏する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。

演奏の基本となる全調のスケール、アルペッジョを学ぶ。

第2回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に

第3回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に

第4回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(3)奏法を中心に

第5回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(4)表現法、音色を中心に

第6回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(5)表現の掘り下げ

第7回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(6)仕上げとまとめ

第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を学ぶ。

第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に

第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に

第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に

第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に

第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ

第14回 演奏会形式での発表

第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。

*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

- ・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
 - ・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
- (目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

『演奏のよろこび』イェルク・デームス著(白水社)

『よくわかるピアニストからだ理論』林美希著 (ヤマハミュージックメディア)

『ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』トーマス・マーク著 古谷晋一訳(春秋社)

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP002N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・電子オルガンの基礎テクニックを見直し、表現力を養う基礎を学ぶ。
- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
- B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
- C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、A)を題材とした授業計画の例。

- 1)スコアからの編曲の仕方を学ぶ(1)必要なパートを選ぶ
- 2)スコアからの編曲の仕方を学ぶ(2)取り切れないパートの扱い方
- 3)スコアからの編曲の仕方を学ぶ(3)移調楽器
- 4)スコアからの編曲の仕方を学ぶ(4)和声の取り方
- 5)スコアからの編曲の仕方を学ぶ(5)Tuttiの扱い方
- 6)レジストレーション作成、演奏力の充実、特に基本のタッチによる演奏表現を学ぶ(6)フレーズに合った音色
- 7)レジストレーション作成、演奏力の充実、特に基本のタッチによる演奏表現を学ぶ(7)音色の重ね方
- 8)レジストレーション作成、演奏力の充実、特に基本のタッチによる演奏表現を学ぶ(8)音程の工夫
- 9)レジストレーション作成、演奏力の充実、特に基本のタッチによる演奏表現を学ぶ(9)イニシャルタッチ、アフタータッチ
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)全体の構成に留意し、作曲家の意図をくみ取りながら、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)全体の構成に留意し、作曲家の意図をくみ取りながら、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)全体の構成に留意し、作曲家の意図をくみ取りながら、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
 作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
 期末の進度や演奏について講評・評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
 題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
 編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP003N		
科目名	専門実技(オルガン) I		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

オルガン奏法の基礎的知識、技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。主に歴史的奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

—バロック作品を課題とする—

課題曲: J.S.バッハの前奏曲とフーガ、コラール作品等

- 第1回: 能力に応じた作品を選び、作品の様式、奏法を学ぶ
- 第2回: 表現力を学ぶ
- 第3回: 仕上げに結びつける
- 第4回: 任意の作品の様式、奏法を学ぶ
- 第5回: 表現力を学ぶ
- 第6回: 表現の内容を更に発展させる
- 第7回: 仕上げに結びつける
- 第8回: 能力に応じ発表会の課題曲を選び、様式、奏法を学ぶ
- 第9回: 表現力を学ぶ
- 第10回: 表現の内容を更に発展させる
- 第11回: 仕上げに結びつける
- 第12回: 発表会へ向けて内容を掘り下げる
- 第13回: 発表会へ向けて更に内容を磨く
- 第14回: 発表会へ向けての表現力を磨く
- 第15回: ゼメスタのまとめとして、演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)

音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP004N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を身につける。(2)バロック時代のポリフォニー音楽、舞踏組曲を学び、時代様式を考慮して演奏する能力を養う。(3)古典派、ロマン派の小規模、中規模の作品及びエチュードを、曲にふさわしい奏法、様式感で演奏する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲についてアプローチ法を探る
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)楽譜の読み方を中心に
第8回 課題曲を学ぶ(3)原典版と解釈版について
第9回 課題曲を学ぶ(4)形式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)装飾音、強弱法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP005N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・電子オルガンの基礎テクニックを見直し、表現力を養う基礎を学ぶ。
- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、奏法とレジストレーションの関連性に着目した授業計画の例。

- 1)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(1)音色の選び方
- 2)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(2)レガート
- 3)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(3)イニシャルタッチ、アフタータッチ
- 4)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(4)ピッチアフタータッチ、ホリゾンタルタッチ
- 5)レジストレーション作成、その効果を活かした演奏表現の追究(5)リバーブ
- 6)レジストレーション作成、その効果を活かした演奏表現の追究(6)エフェクト
- 7)レジストレーション作成、その効果を活かした演奏表現の追究(7)タッチレスポンスと脱力
- 8)レジストレーション作成、その効果を活かした演奏表現の追究(8)ffの表現
- 9)レジストレーション作成、その効果を活かした演奏表現の追究(9)ppの表現
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
専門実技試験での暗譜による演奏を評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP006N		
科目名	専門実技(オルガン)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

オルガン専門実技Ⅱに続き、オルガン演奏の基礎的知識、技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。主に歴史的奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

専門実技Ⅰで習得した基礎をさらに深め、引き続きドイツバロック作品を課題とする。
課題曲:J.S.バッハ、D.ブクステフーデ、J.バッヒエルベル、J.Jフローベルガー、他の作品

第1回:能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回:表現力を学ぶ
第3回:仕上げに結びつける
第4回:任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回:表現力を学ぶ
第6回:表現を更に発展させる
第7回:仕上げに結びつける
第8回:後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回:表現力を学ぶ
第10回:表現を更に発展させる
第11回:仕上げに結びつける
第12回:試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回:試験へ向けて更に内容を磨く
第14回:試験へ向けての表現力を磨く
第15回:ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP007N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を養う。(2)古典派、ロマン派の作品及びエチュードを幅広く学び、時代様式に沿った演奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。古典派、ロマン派の特色について学ぶ。
第2回 古典派・ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(3)奏法を中心に
第5回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第6回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(5)表現の掘り下げ
第7回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(6)仕上げとまとめ
第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第14回 演奏発表
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP008N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

・リズムに注目し、各フレーズのリズムの捉え方や全体の構成の中における楽曲のテンポの変え方等に重点を置き、把握出来ることを目標とする。
・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、作曲を念頭に置いた楽曲分析を演奏表現に繋げていく授業計画の例。

- 1)スコアからの編曲を通し、動機や主題の作り方等を学ぶ(1)音列を動機や主題へ
- 2)スコアからの編曲を通し、動機や主題の作り方等を学ぶ(2)和音進行
- 3)スコアからの編曲を通し、動機や主題の作り方等を学ぶ(3)対位法
- 4)スコアからの編曲を通し、動機や主題の作り方等を学ぶ(4)変奏
- 5)スコアからの編曲を通し、動機や主題の作り方等を学ぶ(5)構成
- 6)レジストレーション作成、演奏力の充実、動機や主題の特性を活かす演奏表現を学ぶ(6)音の入口
- 7)レジストレーション作成、演奏力の充実、動機や主題の特性を活かす演奏表現を学ぶ(7)音の出口
- 8)レジストレーション作成、演奏力の充実、動機や主題の特性を活かす演奏表現を学ぶ(8)音の向き
- 9)レジストレーション作成、演奏力の充実、動機や主題の特性を活かす演奏表現を学ぶ(9)音の広がり
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)動機や主題に着目した全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)動機や主題に着目した全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)動機や主題に着目した全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
期末の進度や演奏について講評・評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP009N		
科目名	専門実技(オルガン)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

専門実技Ⅲに続き、オルガン奏法についての知識と技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。ドイツの歴史的奏法に加え、イタリアのバロック奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

専門実技Ⅰ、Ⅱで習得した基礎をさらに深め、イタリア初期バロックの奏法も学ぶ。
課題曲: J.S.バッハのオルガン作品、G.フレスコバルディの「フィオーリ・ムジカーリ」 他

第1回: 能力に応じた作品を選び、作品の様式、奏法を学ぶ
第2回: 表現力を学ぶ
第3回: 仕上げに結びつける
第4回: 任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回: 表現力を学ぶ
第6回: 表現の内容を更に発展させる
第7回: 仕上げに結びつける
第8回: 能力に応じ発表会の課題曲を選び、様式、奏法を学ぶ
第9回: 表現力を学ぶ
第10回: 表現の内容を更に発展させる
第11回: 仕上げに結びつける
第12回: 発表会へ向けて内容を掘り下げる
第13回: 発表会へ向けて更に内容を磨く
第14回: 発表会へ向けての表現力を磨く
第15回: ゼメスタのまとめとして、演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP010N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を養う。(2)古典派に重点を置き、古典派のソナタ及びソナタ形式について深く学ぶ。(3)古典派、ロマン派の作品、エチュードを幅広く学び、時代様式に沿った演奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲へのアプローチ法を探る。
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)ソナタ及びソナタ形式について
第8回 課題曲を学ぶ(3)原典版と解釈版について
第9回 課題曲を学ぶ(4)形式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)奏法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・充分な練習、準備をして毎回の授業に臨む
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP011N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

〔楽曲演奏〕・表現力を養うことを中心とし、歌い方に必要なタッチの使い方を学ぶ。
・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、テクニック面の向上に重点を置いた授業計画の例。

- 様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(1)音の連結
- 様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(2)音の持続
- 様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(3)力の抜き方
- 様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(4)力の入れ方
- 演奏力の充実、レジストレーションとの関連性による演奏表現を学ぶ(5)リバープ
- 演奏力の充実、レジストレーションとの関連性による演奏表現を学ぶ(6)音程
- 演奏力の充実、レジストレーションとの関連性による演奏表現を学ぶ(7)エフェクト
- 演奏力の充実、レジストレーションとの関連性による演奏表現を学ぶ(8)ffの表現
- 演奏力の充実、レジストレーションとの関連性による演奏表現を学ぶ(9)ppの表現
- 様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 全体の構成、レジストレーションと奏法の関連性に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
専門実技試験での暗譜による演奏を評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP012N		
科目名	専門実技(オルガン)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

専門実技Ⅲに続き、オルガン奏法についての様式と技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。ドイツ、イタリアの歴史的奏法に加え、フランス古典(バロック期)の歴史的奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

専門実技Ⅲに加え、J.S.バッハの室内楽的オルガン作品、フランス古典様式の奏法を学ぶ。
課題曲: J.S.バッハ「トリオソナタ」、F.クーブラン「ミサ曲」等

第1回: 能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回: 表現力を学ぶ
第3回: 仕上げに結びつける
第4回: 任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回: 表現力を学ぶ
第6回: 表現を更に発展させる
第7回: 仕上げに結びつける
第8回: 後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回: 表現力を学ぶ
第10回: 表現を更に発展させる
第11回: 仕上げに結びつける
第12回: 試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回: 試験へ向けて更に内容を磨く
第14回: 試験へ向けての表現力を磨く
第15回: ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP401N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)基礎課程で習得したことをふまえ、ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーの拡大を目指し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。ロマン派、近現代の特色について学ぶ。
第2回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第5回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第6回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第7回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(6)仕上げとまとめ。
第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第14回 演奏発表
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP402N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。
- ・オーケストラ作品のリダクションばかりではなく、電子オルガンならでの表現が出来るオリジナル作品が作成出来ることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、作曲における動機の展開や構成の手法の習得を念頭に置いた授業計画の例。

- 1)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(1)動機の選別
- 2)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(2)和声、和音進行
- 3)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(3)対旋律
- 4)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(4)変奏
- 5)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(5)展開
- 6)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(6)レガート
- 7)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(7)音の切り方
- 8)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(8)歌い方
- 9)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(9)プレス
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
 作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
 期末の進度や演奏について講評・評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
 題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
 編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP403N		
科目名	専門実技(オルガン)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

専門実技Ⅳに続き、オルガン奏法についての様式と技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。歴史的奏法に加え、ロマン派の奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

専門実技Ⅳに加え、ドイツロマン派、近代作品の様式、奏法を学ぶ。
課題曲:F.メンデルスゾーン、F.リスト、J.ブラームス、M.レーガー等

第1回:能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回:表現力を学ぶ
第3回:仕上げに結びつける
第4回:任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回:表現力を学ぶ
第6回:表現を更に発展させる
第7回:仕上げに結びつける
第8回:後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回:表現力を学ぶ
第10回:表現を更に発展させる
第11回:仕上げに結びつける
第12回:試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回:試験へ向けて更に内容を磨く
第14回:試験へ向けての表現力を磨く
第15回:ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP404N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーを拡大し、時代様式に沿った演奏法を身につけ演奏解釈を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲について、アプローチ法を探る。
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)形式を中心に
第8回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第9回 課題曲を学ぶ(4)表現法を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)曲のキャラクター、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP405N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。
- ・オーケストラ作品のリダクションばかりではなく、電子オルガンならでの表現が出来るオリジナル作品が作成出来ることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
- B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
- C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

下記は、主にタッチ奏法に重点を置いた授業計画の例。

- 1)様々なタッチ奏法による演奏表現を学ぶ(1)イニシャルタッチ
- 2)様々なタッチ奏法による演奏表現を学ぶ(2)アフタータッチ
- 3)様々なタッチ奏法による演奏表現を学ぶ(3)ピッチアフタータッチ、ホリゾンタルタッチ
- 4)様々なタッチ奏法による演奏表現を学ぶ(4)レガート奏法
- 5)演奏力の充実、アフタータッチによる演奏表現を学ぶ(5)力の入れ方
- 6)演奏力の充実、アフタータッチによる演奏表現を学ぶ(6)力の抜き方
- 7)演奏力の充実、アフタータッチによる演奏表現を学ぶ(7)持続
- 8)演奏力の充実、アフタータッチによる演奏表現を学ぶ(8)脱力
- 9)演奏力の充実、アフタータッチによる演奏表現を学ぶ(9)大きなフレーズ感
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)全体の構成における様々なタッチ奏法に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)全体の構成における様々なタッチ奏法に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)全体の構成における様々なタッチ奏法に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
 作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
 専門実技試験での暗譜による演奏を評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
 題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
 編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP406N		
科目名	専門実技(オルガン)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

専門実技Ⅵに続き、オルガン奏法についての様式と技術(運指法、アーティキュレーション、タッチ、ペダル奏法等)の習得。歴史的奏法に加え、ロマン派の奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

専門実技Ⅵに加え、ドイツロマン派、近代作品の様式、奏法を学ぶ。
課題曲:F.メンデルスゾーン、F.リスト、J.ブラームス、M.レーガー等

第1回:能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回:表現力を学ぶ
第3回:仕上げに結びつける
第4回:任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回:表現力を学ぶ
第6回:表現を更に発展させる
第7回:仕上げに結びつける
第8回:後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回:表現力を学ぶ
第10回:表現を更に発展させる
第11回:仕上げに結びつける
第12回:試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回:試験へ向けて更に内容を磨く
第14回:試験へ向けての表現力を磨く
第15回:ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP407N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーをさらに拡大し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈をより深く学ぶ。(3)全ての時代を通じて重要な作曲技法の一つであるポリフォニーに基づく作品を再度掘り下げて学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 時代を問わず、これまでの学習でレパートリーが不足している分野の楽曲を選び、アプローチ法を探る。
第3回 自由曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第4回 自由曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第5回 自由曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第6回 自由曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第7回 自由曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第8回 自由曲を学ぶ(6)仕上げとまとめ
第9回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第10回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(3)強弱法、奏法を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(4)声部の色分け、立体感を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・充分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP408N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。
- ・オーケストラ作品のリダクションばかりではなく、電子オルガンならでの表現が出来るオリジナル作品が作成出来ることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

卒業作品にふさわしい電子オルガン独奏作品を創作し、自身の音楽としてアピール出来る表現を探索する。

下記は、作曲における動機の展開や構成の手法の習得を念頭に置いた授業計画の例。

- 1)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(1)動機の選別
- 2)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(2)和声、和音進行
- 3)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(3)対旋律
- 4)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(4)変奏
- 5)スコアからの編曲を通し、動機の展開や構成の手法等を学ぶ(5)展開
- 6)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(6)レガート
- 7)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(7)音の切り方
- 8)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(8)歌い方
- 9)演奏力の充実、構成に応じた様々なタッチの使い分けによる演奏表現を学ぶ(9)プレス
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)動機の展開や全体の構成に留意し、表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
期末の進度や演奏について講評・評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身に付け、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBP410N		
科目名	専門実技(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	8単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)レパートリーをさらに拡大し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈を習得する。(3)4年間の集大成としてのホールでの卒業試験に向け、よりスケールの大きい説得力のある表現と、広い空間における響きの作り方を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。レパートリーが不足している分野の楽曲を選び、アプローチ法を考える。

第2回 自由曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に

第3回 自由曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に

第4回 自由曲を学ぶ(3)表現法、奏法を中心に

第5回 卒業試験課題曲について、アプローチ法を探る。

第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に

第7回 課題曲を学ぶ(2)形式を中心に

第8回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に

第9回 課題曲を学ぶ(4)ホールの響きを踏まえた表現について

第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に

第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に

第12回 課題曲を学ぶ(7)曲のキャラクター、音色を中心に

第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に

第14回 課題曲を学ぶ(9)楽曲を掘り下げ、独自の表現を探究する。

第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。

*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

- ・充分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
 - ・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
- (目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP411N		
科目名	専門実技(電子オルガン)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	8単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・各時代様式を学ぶことで、豊かな表現力と、自ら編曲・作曲するための基礎能力を養う。
- ・オーケストラ作品のリダクションばかりではなく、電子オルガンならでの表現が出来るオリジナル作品が作成出来ることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

ジャンル・スタイルは問わず、自編及び自作のレパートリーを増やし、編曲・作曲の技法を学びつつ、レジストレーション作成、演奏力の充実、特に様々なタッチによる演奏表現、構成を把握した演奏を中心に追究する。

- 次の中から各自の卒業後の進路等に合わせて題材を選び、レパートリーを作成する。
- A)室内楽や管弦楽作品をスコアから編曲し、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - B)ピアノ作品等の楽譜を、オーケストレーションしたり電子音を使用しながら、電子オルガン独奏作品として完成させる。
 - C)作曲に必要な動機及び主題の作り方や構成力を身につけながら、電子オルガン作品を完成させる。

卒業作品にふさわしい電子オルガン独奏作品を創作し、自身の音楽としてアピール出来る表現を探索する。

下記は、作品をより良く表現するためのレジストレーション作成や奏法の習得に重点を置いた授業計画の例。

- 1)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(1)音の入口
- 2)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(2)音の出口
- 3)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(3)音の方向性
- 4)レジストレーション作成、様々なタッチによる演奏表現を学ぶ(4)リバーブとタッチの関係
- 5)演奏力の充実、レジストレーションによる効果を活かす演奏表現を学ぶ(5)サステイン
- 6)演奏力の充実、レジストレーションによる効果を活かす演奏表現を学ぶ(6)エフェクト
- 7)演奏力の充実、レジストレーションによる効果を活かす演奏表現を学ぶ(7)音程表現の工夫
- 8)演奏力の充実、レジストレーションによる効果を活かす演奏表現を学ぶ(8)響きの残し方
- 9)演奏力の充実、レジストレーションによる効果を活かす演奏表現を学ぶ(9)響きの切り方
- 10)様々な視点からのバランスに留意し、全体の演奏を作り始める
- 11)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む テクニック面の確認と向上
- 12)特に習得事項の多い部分に集中して取り組む レジストレーションの改善
- 13)全体の構成に留意し、総合的な表現力の向上を目指す(1)呼吸
- 14)全体の構成に留意し、総合的な表現力の向上を目指す(2)一貫性
- 15)全体の構成に留意し、総合的な表現力の向上を目指す(3)構成力

◆準備学習の内容◆

毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。毎日30分程度の部分練習を推奨する。
 作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

普段の習得状況について適宜フィードバックする。
 専門実技試験での暗譜による演奏を評価する。
 卒業作品として楽譜を提出する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示する。
 題材曲の資料・スコア・参考音源等は各自で用意すること。
 編曲・自作品ともに電子オルガン用の自筆譜(PC等での浄書譜も可)を用意すること。

◆参考図書◆

各授業内で指示する。

◆留意事項◆

各自の卒業後の進路に役立つ音楽能力を身につけ、他の授業との関係を図るために、個人カルテを作成し目標達成に活用していく。

ナンバリング	KBL013N		
科目名	鍵盤楽器講義(鍵盤楽器学)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	平井 千絵		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

各時代固有の、楽器の特性、奏法、演奏実践等を学び、歴史的鍵盤楽器の基礎的な知識を身につける。歴史的鍵盤楽器の発音の仕組みを正しく理解し、現代ピアノとの違いについて正しく説明することができる。

◆授業内容・計画◆

授業内容・計画

- 導入 様々な鍵盤楽器、歴史的鍵盤楽器の受容史、現代ピアノアクションへの道のり
- チェンバロ(1) ルイ・クーブラン:小節線のないプレリュードを読み解く 記譜法、音律、装飾音
- チェンバロ(2) チェンバロのアクションを学ぶ
- 見学と実習:チェンバロ(3) ルイ・クーブラン:小節線のないプレリュードを、フランス式2段鍵盤チェンバロで演奏する
- クラヴィコード(1) カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ:自由なファンタジーを読み解く
- クラヴィコード(2) クラヴィコードとオルガンのアクションを学ぶ
- 見学と実習:クラヴィコード(3) カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ:自由なファンタジーをクラヴィコードで演奏する
- 見学と実習:オルガン
- ウィーンのフォルテピアノ(1) シューベルト:即興曲を読み解く テンポ、ベダリング、アーティキュレーション
- ウィーンのフォルテピアノ(2) 19世紀初頭の様々なピアノを知る アクション、記譜法、運指法、装飾音
- 見学と実習 ウィーンのフォルテピアノ(3) シューベルト:即興曲をウィーン式アクションのフォルテピアノで聴く・弾く(シャンツ、グラーフモデル)
- エラールとブレイエル(1) ショパン:ノクターンを読み解く
- エラールとブレイエル(2) イギリス式とウィーン式のアクションの違い
- 見学と実習:(ブレイエル、エラール) オリジナルのブレイエルとエラールを聴く・弾く
- まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内容に関する音源、資料に自主的にあたることが望めます。特に、4.7.11.の「見学と実習」授業においては、楽器学資料館で実際に歴史的鍵盤楽器を演奏する実習です。その際、次の演奏課題を課します。(4. L.クーブラン:小節線のないプレリュード 7.カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ:自由なファンタジー 11.シューベルト:即興曲) ピッチの異なる楽器でも十分対応できるよう、あらかじめ確実に読譜し、自分自身の演奏解釈とイメージを持って、授業に臨むことが望めます。初回の授業で楽譜を配布し、演奏箇所を指定、説明します。
・1週間の準備と練習時間の目安 30～60分×5日

◆成績評価の方法◆

積極的に授業に取り組む姿勢、レポート提出などにより総合的に評価します。レポートは必要に応じてコメントし、返却します。

◆教科書(使用テキスト)◆

「1冊でわかる ピアノのすべて 調律師が教える歴史と音とメカニズム」 青山一郎著 アルテスパブリッシング

◆参考図書◆

授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

楽器学資料館での楽器見学、実習と、教室での座学を実施します。
楽器学資料館では、講師によるデモンストレーション、学芸員による楽器解説に加え、楽器学資料館所蔵の楽器を実際に演奏する実習を行います。歴史的な楽器に触れるというチャンスへの自覚を持ち、積極的な準備、参加が求められます。

ナンバリング	KBL014N		
科目名	鍵盤楽器講義(楽曲分析概論)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	高荒 真采		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

分析から作曲者の意図を読み取り、解釈による演奏の違いなどを吟味、比較しながら、様式感のある活き活きとした演奏表現に役立てることができる。作曲することで、音楽理論の知識をただ暗記するだけでなく、自分自身で咀嚼して表現することができる。演奏技術だけでなく、西洋音楽の文脈を理解したプロフェッショナルとして生涯学習を続ける。

◆授業内容・計画◆

鍵盤楽器の重要なレパートリーである、古典派、ロマン派の作品を中心に、演奏解釈の拠りどころとなる楽曲分析の基礎を理論的なアプローチから学ぶ。また、小曲の作曲により、流れを大きく掴むことと一つ一つの音の繊細な表現の両立、演奏者と作曲者、双方の視点を合わせ持つ体験をする。

学修内容

- 和声分析の基礎(固有和音)、伴奏形の分析、楽譜の還元
- ゆれ、転位音の分析①(経過音・刺しゅう音・倚音)
- 転位音の分析②(掛留音・逸音・先取音)、二部形式・三部形式①(フレーズの分析)
- 二部形式・三部形式②(前段と後段)、保続低音、近親転調①(長調の転調)
- 近親転調②(短調の転調)、全音階的転調と半音階的転調
- 借用和音①(準固有和音)、属九の和音
- 複合三部形式、部分、主題、フレーズ、モティーフ等の比較、借用和音②(副属七の和音)
- ロンド形式①(部分と特徴)
- ロンド形式②(全体の構成、モティーフの展開)
- ソナタ形式①(主題の分析、比較)
- ソナタ形式②(提示部と展開部)、和音の拡充①(ドッペルドミナント)
- ソナタ形式③(再現部と全体の構成)、和音の拡充②(ドッペルドミナントの第5音下方変位)
- 提出課題の作曲①、学修範囲の復習と確認
- 提出課題の作曲②
- 作品発表とフィードバック、まとめ

◆準備学習の内容◆

- 教科書や配布したプリントをよく読んで授業の準備をすること。
- 授業で学修した楽曲について、分析をもとに解釈の可能性を考え、実際の演奏に反映させる。
- 専修のレッスンで取り組んでいる楽曲において、授業内容を生かした楽曲分析を行う。音楽を語る語彙を増やし、表現の工夫を出来る限り具体的な言葉で表す。

◆成績評価の方法◆

平常点(小テストを含む)と作品提出、最終分析課題によって評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『総合和声』島岡 譲著(音楽之友社)

◆参考図書◆

『音楽アナリーゼのための実践ガイド』ナジ・ハキム、マリ＝ベルナデット・デュフルセ著 (音楽之友社)ISBN978-4-276-10304-7

『ソナチネアルバム1 New Edition』(音楽之友社) ISBN978-4-276-41221-7

『ソナタアルバム1 New Edition』(音楽之友社) ISBN978-4-276-41231-6

『ブラームス「ハイドンの主題による変奏曲」「大学祝典序曲」「悲劇的序曲」』ミニチュアスコアOGT260 (音楽之友社)ISBN978-4-276-48026-1

『新総合音楽講座4 楽式』浦田健次郎著 (財団法人ヤマハ音楽振興会)ISBN9784636132847

◆留意事項◆

五線紙と『総合和声』必携。配布したプリントを繰り返し使うので、保管に注意すること。

ナンバリング	KBL015N		
科目名	鍵盤楽器講義（作品分析概論）		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	松本 望		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

J.S.Bach、Mozart、Beethovenの作品を中心に、彼等の作品の中で和声、対位法、形式、動機の展開がどのようになっているか、作曲技法的に分析し、考察する。自分で考え、楽譜を解釈する力を養い、それを演奏に結びつけられるようにする。

◆授業内容・計画◆

鍵盤楽器作品が中心であることは勿論だが、より深い理解のため、J.S.Bachではコラール、Mozartではオペラ、室内楽、Beerhovenでは交響曲等の他のジャンルにも触れていく。分析をより深く理解するための、演奏による実習も適宜行う。終わりの方では、ロマン派近現代派の作品の分析法にも触れる。

各回の具体的内容について：

1. 導入～中世の音楽からBachの対位法曲に至るまでの楽曲の進化の過程について、Bachのコラール
2. Bach(1)～Fugaの基本形式(4声のフーガ)
3. Bach(2)～色々なFuga(二重フーガ、対唱の色々な扱い・等)
4. Bach(3)～4声以外のFugaの声部の扱いについて
5. Bach(4)～ゴールドベルク変奏曲にみる変奏と対位法の技法について
6. Mozart(1)～基本のソナタ形式の復習
7. Mozart(2)～色々なソナタ形式(3つ以上の主題を持つソナタ形式、ロンド・ソナタ形式・等)
8. Mozart(3)～オペラ・交響曲と鍵盤楽器作品との関連性
9. Beethoven(1)～初期のソナタに見る動機へのこだわり
10. Beethoven(2)～中期におけるソナタ形式の拡大と形式上の冒険について
11. Beethoven(3)～後期：巨大と極小
12. Beethoven(4)～弦楽四重奏曲・交響曲と鍵盤楽器作品との関連性
13. ロマン派の分析～様々な揺れ
14. ロマン派から近現代へ
15. 20世紀前半の様々な作曲技法について

◆準備学習の内容◆

授業中に教師が与える色々なヒントをもとに、学生自らがそれをふくらませていかなければならない。復習を兼ねて、毎週授業で部分的に扱う曲の、全体に渡る細かい分析を試みる(目安：1～2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

平常点及び共通試験による。平常点は、提出物・学習意欲等。提出物については、添削した後に授業内でフィードバックする。共通試験をセメスターの終わりに行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。毎回配布する資料を持参、参照すること。
持参する楽譜を毎回指定する。

◆参考図書◆

『バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 演奏のための分析ノート1・2』土田英介・著(音楽之友社)
『作曲家から見たピアノ進化論』野平一郎・著(音楽之友社)

◆留意事項◆

授業で与えられる曲以外にも、自分で沢山の楽譜を読み、主にバロック・古典派の様々な作品に触れてほしい。和声、モチーフ、構成等を常に考えて欲しい。しかし、曲が良くできているという事が「最も大切なこと」ではない。作品の分析によって曲を理解できたと思って満足してはいけない。分析は、曲自体のenergyを感じるための手段の1つである。分析からわかったことををもとに自分なりの解釈を試み、作曲家がその曲に託したメッセージは何であるかを各自で探ること。

ナンバリング	KBL016N		
科目名	鍵盤楽器講義(演奏解釈)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	新納 洋介		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器は、クラヴィコード、チェンバロからフォルテピアノ、そして、近代のピアノ、現代のピアノへと進化してきた。今日では、電子ピアノも幅広く使われている。それぞれの作品には、その作品が創造された楽器の特性も反映されている。他の芸術との関連にも触れながら、古今東西の鍵盤楽器曲を幅広く聴き比べ、楽器と時代様式を探り、作品解釈を深めていく。鍵盤楽器作品を幅広く取り上げ、多様な作品のありように触れ、演奏として伝えていける基礎をつくりあげる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 鍵盤楽器の歴史
～楽器の進歩と作品の密接な関係～
- 第2回 スカルラッティ：ソナタ K.9
～イタリア・バロックソナタの考察～
- 第3回 J.S.バッハ：平均律クラヴィーア曲集、ゴルトベルク変奏曲
～バッハのフーガとカノンについて～
- 第4回 モーツァルト：ピアノ・ソナタ 変ロ長調 K.333
～ピアノソナタとオペラ(魔笛)の関連性～
- 第5回 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 作品27-1,2
～ピアノソナタにおけるベートーヴェンの実験～
- 第6回 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第21番 ハ長調 作品53「ワルトシュタイン」
～作曲手法の特徴、中期の作風の特徴を踏まえた演奏へのアプローチ～
- 第7回 ショパン：ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品35「葬送」
～古典ソナタに基づく、新しいソナタの特異性～
- 第8回 シューマン：謝肉祭 作品9
～シューマンの内面に存在する対照的な二面性～(フロレスタンとオイゼビウス)
- 第9回 ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 作品5
～絶対音楽主義者としてのブラームス～
- 第10回 リスト：バラード第2番
～標題音楽主義者としてのリスト～(孫弟子クラウディオ・アラウ氏の解釈からの分析)
- 第11回 ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」
～ハルトマンの絵画からのインスピレーション～
- 第12回 ラフマニノフ：前奏曲集 作品23
～ロシア民謡からの影響～
- 第13回 ドビュッシー：前奏曲集 第2巻
～ドビュッシーの印象主義と象徴主義～
- 第14回 総括
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品について、楽譜や文献にあたり1時間ほど予習をしておくこと。また復習としては、取り上げた作品を自身の解釈により実際に演奏してみること。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックするとともに、最終授業内における筆記試験、および学習意欲(講義における質問、ディスカッションなど)に応じ総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

適宜、指示する

◆留意事項◆

予習復習をすることが望ましい。

ナンバリング	KBL017N		
科目名	鍵盤楽器講義(ピアノ教材研究概論)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	沢田 千秋		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)各国の代表的なピアノ教材を研究し、歴史的背景教育 理念、特色、長所、短所などを批判的に検証する能力を養い、ピアノ指導の実践に向け知識を身につける。(2)バッハ、シューマン、バルトークなど著名な作曲家の初心者向けの作品への理解を深める。(3)基本的なピアノ奏法について考察し、教本中の記述への適確な判断力を養う。(4)グループ発表・討論を通じてプレゼンテーション能力、他の発表に対する批評力を磨く。.

◆授業内容・計画◆

教材の様々な可能性を考察する素材として、高い理想や理念を持った教材について学ぶと共に、実践の場で使用しやすい導入期のピアノ教材を取り上げ、各教材のねらい、指導プロセス、特色、長所、短所、効果的な使用法などをグループ発表、ディスカッション、演奏を通して比較検討し、知識を深める。

- 第1回 ピアノ教本の歴史と代表的な教則本の時代背景および意義についての考察
- 第2回 研究発表のためのガイダンス
- 第3回 研究発表(1)ポリフォニー教材を中心に
- 第4回 研究発表(2)アメリカの教材～1(トンプソン他)
- 第5回 研究発表(3)アメリカの教材～2(バステイン他)
- 第6回 研究発表(4)ハンガリーの教材
- 第7回 ピアノ指導の導入方法およびピアノ奏法の基礎についてのディスカッション
- 第8回 研究発表(5)フィンランドの教材
- 第9回 研究発表(6)ロシアの教材
- 第10回 研究発表(7)ドイツ・フランスの教材
- 第11回 研究発表(8)日本の教材
- 第12回 研究発表(9)テクニク教材、ソルフェージュ教材を中心に
- 第13回 著名な作曲家による子供用の作品を学ぶ
- 第14回 子供用の小品、連弾作品による演奏発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

できるだけ多くの教材に目を通し、内容を把握しておく。(準備学習の目安／週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

研究発表、授業内レポート(コメントしてフィードバックする)、演奏発表などにより総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ：アンナ・マグダレーナのための音楽帳
 レオポルド・モーツァルト：ナンネルの音楽帳、ヴォルフガングの音楽帳
 グルリット：20のやさしい小品集、初歩者のための小練習曲op.187
 シューマン：こどものためのアルバム
 チャイコフスキー：子供のアルバム op.39、中級程度の12の小品 op.40
 ブルクミュラー：25の練習曲
 カバレフスキー：子どものためのピアノ小曲集
 プロコフィエフ：子どものための音楽—12のやさしい小品 op.65
 バルトーク：子どものために、ミクロコスモス
 ギロック：子どものためのアルバム
 三善晃：こどものためのピアノ曲集「音の森」、「海の日記帳」
 平吉毅州：こどものためのピアノ曲集「南の風」、「虹のリズム」
 湯山昭：ピアノメソッド「ピアノの宇宙」、「お菓子の世界」
 クルターク:「遊び」
 ビュイグ・ロジェピアノ教本
 トンプソン 、バステイン、ペース、バーナム、メトードローズ、バイエル
 スオミ、スズキメソッド、ミヨシメソッド、ピアノランド等

◆参考図書◆

『ピアノレッスンのための10の手紙』ツエルニー著（全音楽譜出版社）
 『ピアノ奏法の基礎』ヨゼフ・レヴィーン著（全音楽譜出版社）
 『ピアノ演奏芸術—ある教育者の手記』ネイガウス著（音楽之友社）
 『ピアノ奏法—音楽をする喜び』井上直幸著（春秋社）
 『メヘナム・プレスラーのピアノレッスン —音楽会の至宝が語る、芸術的な演奏のヒント』プレスラー著（音楽之友社）
 『ピアノ練習に寄せて—ブラームスからの提案』ビヒト=アクセンフェルト著（全音楽譜出版社）
 『正しいピアノ奏法』御木本澄子著（音楽之友社）

◆留意事項◆

授業内にプリントを配布するが、発表担当教材については、各自研究室、図書館で借りること。

ナンバリング	KBL018N		
科目名	鍵盤楽器講義(楽曲分析Ⅰ)		
科目詳細			
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1)様々な時代や地域の特徴を踏まえつつ管弦楽作品に限らず多くの作曲家と作品に触れる。2)電子オルガンでの編曲と演奏を念頭に代表的な作曲家の管弦楽法について考察する。3)吹奏楽作品の電子オルガンによる管弦楽的な編曲手法を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1)ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2)バロック期: ヴィヴァルディ/J.S.バッハ/ラモーン/スカルラッティ 他
- 3)古典派: ハイドン/モーツァルト/ベートーヴェン 他
- 4)ロマン派 前・中期: シューベルト/メンデルスゾーン/シューマン/ブラームス 他
- 5)ロマン派後期: ワーグナー/R.シュトラウス/マーラー/ 他
- 6)ロシアの作曲家: リムスキー=コルサコフ/チャイコフスキー/ボロディン/ラフマニノフ/プロコフィエフ/ショスタコーヴィチ 他
- 7)フランスの作曲家: ベルリオーズ/サン=サーンス/フォーレ/ドビュッシー/ラヴェル 他
- 8)北欧・東欧の作曲家: グリーグ/シベリウス/ニールセン/バルトーク/コダーイ/ヤナーチェク 他
- 9)イギリスの作曲家: エルガー/ディーリアス/ホルスト/ウォルトン 他
- 10)アメリカの作曲家: ピストン/ガーシュウィン/バーバー/コープランド/アイヴス/ライヒ 他
- 11)スペインの作曲家: ロドリゴ/ファリャ/アルベニス/グラナドス 他
- 12)フランスの近代オルガン作品: ユーデル/デュプレ/デュリュフレ/アラン 他
- 13)管弦楽作品の吹奏楽版編曲 手法の分析
- 14)吹奏楽作品の管弦楽的編曲の実践
- 15)授業内試験とまとめ 任意の作品を分析発表(資料を作成し提示する)

◆準備学習の内容◆

学習した内容を復習し、理解出来ていないところを明確にすること。(20分程度)

◆成績評価の方法◆

授業内での理解について適宜フィードバックする。
最終日に課題提出と発表で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント資料を配付する。
使用するスコアなどを指定する場合がある。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

配布するプリント資料は、まとめてファイリング出来るようにしておくこと。

ナンバリング	KBL019N		
科目名	鍵盤楽器講義(楽曲分析Ⅱ)		
科目詳細			
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1) 管弦楽作品の分析に必要な知識や手法を確認し分析力の基礎を養う。2) 電子オルガンでの編曲と演奏を念頭に置いた読譜力を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2) 和声法の確認(1) 非和声音による旋律形成過程
- 3) 和声法の確認(2) 声部の交替
- 4) 和声法とオーケストレーション 各楽器群への配置
- 5) オーケストレーションの効果(1) 音域の効果 チャイコフスキーの例
- 6) オーケストレーションの効果(2) 楽器群の交替 チャイコフスキーの例
- 7) オーケストレーションの効果(3) 立体感の演出 ラヴェルの例
- 8) 様々な形式(1) ソナタ形式
- 9) 様々な形式(2) メヌエット／スケルツォ／ロンド
- 10) 様々な形式(3) 交響詩
- 11) 様々な形式(4) その他 複合的な形式等
- 12) 転調(1) バロック期の例
- 13) 転調(2) 古典派の例
- 14) 転調(3) ロマン派の例
- 15) まとめと質疑応答

◆準備学習の内容◆

学習した内容を復習し、理解出来ていないところを明確にすること。(20分程度)

◆成績評価の方法◆

授業内での理解について適宜フィードバックする。
最終日の質疑応答にて習得度を評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント資料を配付する。
使用するスコアなどを指定する場合がある。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

配布するプリント資料は、まとめてファイリング出来るようにしておくこと。

ナンバリング	KBS020N		
科目名	鍵盤楽器基礎Ⅰ		
科目詳細	1鍵 全クラス共通シラバス		
担当教員	江澤 聖子, 濱尾 夕美, 堀江 志磨, 山内 のり子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

クラス授業と「リトミック」の授業の中で、ピアノを演奏する上で基礎となる「リズム」「メロディー」「ハーモニー」を一体として学び、楽譜に書かれたものを単に音にするというだけでなく、より音楽的に演奏する事の出来る表現力・読譜力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

○クラス授業
・『フランス・バロック舞曲集』の初見、メロディーの視唱、簡単な楽曲分析等を通して古典舞曲の基礎を学ぶ。
・『リズム・スタディ』で時代様式に沿ったリズム、拍子感を学ぶ。
・アレンスキー『子どものための6つの小品Op.34（連弾）』を読譜し、全曲を学ぶ。また他者の演奏を聴き批評することにより、音楽的な耳を養う。
・バッハ『コラール集』、グルリット『こどものためのアルバム』、三善晃『音の森』、シューマン『こどものためのアルバム』などから適宜数曲を選び、初見・移調奏等を通してアーティキュレーション、フレージング、アウフタクト、和声感等、演奏上の基本的な事柄を学ぶ。
○「リトミック」 身体表現への積極性を養うと共に、より適確な演奏表現に繋がる要素を探る。
○終了コンサート 授業で学んだ成果を披露する。

- 1.クラス授業① ガイダンス／導入
- 2.クラス授業② リズム・スタディ／舞曲タンブラン、ガヴォット
- 3.クラス授業③ リズム・スタディ／連弾 アレンスキーNo.1,2
- 4.特別授業(合同)リトミック(1)
- 5.クラス授業④ リズム・スタディ／連弾 アレンスキーNo.3,4
- 6.クラス授業⑤ リズム・スタディ／連弾 アレンスキーNo.5,6
7. 特別授業(合同)リトミック(2)
- 8.クラス授業⑥ 初見と移調奏／連弾 連弾の留意点 No.1,2
- 9.クラス授業⑦ 初見と移調奏／連弾 連弾の留意点 No.3,4
- 10.クラス授業⑧ 初見と移調奏／連弾 連弾の留意点 No.5,6
- 11.クラス授業⑨ 連弾 全員で各演奏の問題点と改善策を探る
- 12.クラス授業⑩ 連弾 演奏表現の錬磨
- 13.終了コンサートのリハーサル
- 14.終了コンサート
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業で取り上げた曲を復習し、次週の授業で取り上げる曲が指定された場合は、必ず目を通して、授業で演奏できる状態に準備しておく。
また終了コンサートで発表する各自の担当曲は、相手の学生との事前の合わせを含めて責任を持って仕上げる。
以上を行うために、週に3時間以上、出された課題に取り組む。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(発言・実演への積極性、グループ活動での協調性、課題に対する努力度、授業態度、授業・終了コンサートでの演奏)により総合的に評価する。
授業内での演奏、実演では、課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス・バロック舞曲集』ローラン・テシュネ、結城八千代編(音楽之友社)
『リズム・スタディ』(全音楽譜出版社)
『子どものための6つの小品 Op.34(連弾)』アントン・アレンスキー(全音楽譜出版社)
その他必要に応じて指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

「リトミック」の授業の際は、動きやすい服装とシューズ。

ナンバリング	KBS021N		
科目名	鍵盤楽器基礎Ⅱ		
科目詳細	1鍵 全クラス共通シラバス		
担当教員	江澤 聖子, 濱尾 夕美, 堀江 志磨, 山内 のり子, 八幡 顕光		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

クラス授業の中で、ピアノを演奏する上で基礎となる「リズム」「メロディー」「ハーモニー」を一体として学び、楽譜に書かれたものを単に音にするというだけでなく、より音楽的に演奏する事の出来る表現力・読譜力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

○クラス授業
・ドビュッシー『小組曲』(連弾)を学ぶ。他者の演奏を聴き批評することにより、音楽的な耳を養う。
・『リズム・スタディ』で、バロック舞曲の適切なリズムと性格、及び正しい拍子感覚への理解を深める。
・バッハ『コラール集』、『フランス・バロック舞曲集』、シューマン『こどものためのアルバム』などから適宜数曲選び、初見・移調奏等を通してアーティキュレーション、フレージング、和声感等演奏上の基本的な事柄を学ぶ。
○ヒストリカル・ダンス メヌエットなど、バロック舞曲の基本的なステップを体験する。
○特別講義 バッハ、ドビュッシーの楽曲の様式、形式、ハーモニー、音楽語法等を学ぶ。
○終了コンサート 授業で学んだ成果を披露する。

- 1.クラス授業① 夏休みの宿題発表 レポート発表及び演奏
- 2.クラス授業② リズム・スタディ／初見と移調奏／連弾 ドビュッシー『小組曲』No.1
- 3.特別授業 ヒストリカル・ダンス(1)
- 4.クラス授業③ リズム・スタディ／初見と移調奏／連弾 ドビュッシー『小組曲』No.2
- 5.特別授業 ヒストリカル・ダンス(2)
- 6.クラス授業④ リズム・スタディ／初見と移調奏／連弾 ドビュッシー『小組曲』No.3
- 7.特別講座 J.S.バッハの鍵盤楽器作品について
- 8.クラス授業⑤ リズム・スタディ／初見と移調奏／連弾 ドビュッシー『小組曲』No.4
- 9.クラス授業⑥ 連弾 呼吸、音量と響きのバランス
- 10.特別講座 ドビュッシー『小組曲』楽曲のアナリーゼ
- 11.クラス授業⑦ 連弾 音色、ニュアンスとペダリング
- 12.クラス授業⑧ 連弾 演奏表現の錬磨
- 13.終了コンサートのリハーサル
- 14.終了コンサート
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業で取り上げた曲を復習し、いつでも演奏できる状態に準備しておく。
また終了コンサートで発表する各自の担当曲は、相手の学生との事前の合わせを含めて責任を持って仕上げる。
以上を行うために、週に3時間以上、出された課題に取り組む。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(発言・実演への積極性、グループ活動での協調性、課題に対する努力度、授業態度、授業・終了コンサートでの演奏)により総合的に評価する。
授業内の演奏、実演では課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス・バロック舞曲集』ローラン・テシュネ、結城八千代編(音楽之友社)
『リズム・スタディ』(全音楽譜出版社)
『小組曲(連弾)』クロード・ドビュッシー(全音楽譜出版社)
その他、必要に応じて指示。

◆参考図書◆

『舞曲は踊る:バッハを弾くためのバロック・ダンス入門』浜中康子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

ナンバリング	KBS022N		
科目名	鍵盤楽器基礎Ⅲ		
科目詳細	2鍵 全クラス共通シラバス		
担当教員	進藤 郁子, 三木 香代, 沢田 千秋, 新納 洋介		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1年次の鍵盤基礎で学んだ『ピアノ演奏と音楽の3要素』を基として、楽譜を深く丁寧に読み、理解をして音で表現する。

◆授業内容・計画◆

1. 子供のための小品を教材に、将来指導する立場になることも想定して楽曲分析、奏法、指導法を研究する。
2. 2台ピアノを通して、音の響きや、流れを聴くセンス、呼吸法や表現法などのアンサンブルの基本を習得する。

第1回 授業内容の説明、子供のための小品①楽曲分析し、アーティキュレーション、フレージング、和声感の理解を深める。
第2回 学生間で模擬レッスンを行う。
第3回 子供のための小品②楽曲分析し、指導の留意点を学ぶ。
第4回 学生間で模擬レッスンを行う。
第5回 増本伎共子:「おことのうた」音の聴き方を学ぶ。
第6回 増本伎共子:「まりつきおどり」耳を働かせるとは、を体感する。
第7回 加藤真一郎:「雨つぶけんぱん」メロディのひとつひとつの音のタッチや音程を感じて奏でる。
第8回 加藤真一郎:「そらいろの音階」和声の変化を感じ表現する。
第9回 布施威:「ロマンチックなワルツ」2人が奏でる響きの違いと融合を体感する。
第10回 山中千佳子:「月うさぎ」ピアノの持つ可能性を探る。
第11回 壺井一歩:「夕暮れ地平線鉄道」対等なやりとりを学ぶ。
第12回 森山智宏:「ステップ踏もうよ」音楽での対話を研究する。
第13回 川島素晴:「2人のピアニスト」立体的な音響を探究する。
第14回 授業内発表。
第15回 まとめ。

◆準備学習の内容◆

出されている課題を研究。またアンサンブルは両パートを、しっかり練習すること。
個人練習及びアンサンブル練習を一週間に120分が目安。

◆成績評価の方法◆

授業内評価: 随時課題をフィードバックするとともに、平常の授業への取り組み、授業内発表での演奏により総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

子供のための小品は、授業内で配布する。
やさしい2台ピアノ曲集(音楽之友社 編)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルの「相手と共に音楽を奏でる」を深く理解し、相手の立場を配慮できる人間力も身に付ける。

ナンバリング	KBS023N		
科目名	鍵盤楽器基礎Ⅳ		
科目詳細	2鍵 全クラス共通シラバス		
担当教員	進藤 郁子, 三木 香代, 沢田 千秋, 新納 洋介		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

前期の学びを踏まえて、バッハ：インヴェンションの演奏、指導法を研究する。また、2台ピアノ演奏を通して古典ソナタの構築、ピアノ・デュオの基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. バッハ：インヴェンションを教材にポリフォニー奏法を再確認する。自らの演奏を高めると共に、学生同士で模擬レッスンを行い、適切な指導法を学ぶ。
2. 二台ピアノの作品を通して、同じ楽器での響きの融合、掛け合い、バランスなど様々な事柄に留意しながら、演奏能力、アンサンブル能力を高める。

- 第1回 Bach:Invention No.1 楽曲分析し、ポリフォニーについて理解を深める。
 第2回 Bach:Invention No.1 学生間で模擬レッスンを行う。
 第3回 Bach:Invention No.8 楽曲分析と奏法の研究をする。
 第4回 Bach:Invention No.8 学生間で模擬レッスンを行う
 第5回 まとめ
 第6回 Clementi: Sonata Op.12 第1楽章 構造、和声を分析する。
 第7回 Clementi: Sonata Op.12 第1楽章 良く聴き合い、表現する。
 第8回 Clementi: Sonata Op.12 第1楽章 ペアの問題点を分析、改善する。
 第9回 Clementi: Sonata Op.12 第2楽章 構造、和声を分析する。
 第10回 Clementi: Sonata Op.12 第2楽章 音色を合わせるよう研究する。
 第11回 Clementi: Sonata Op.12 第3楽章 構造を分析する。
 第12回 Clementi: Sonata Op.12 第3楽章 良く聴き合い、表現する。
 第13回 Clementi: Sonata Op.12 全楽章を弾き、流れを研究する。
 第14回 Clementi: Sonata Op.12 授業内発表。
 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

出されている課題を研究、またアンサンブルはパートナーに迷惑が掛からないように、しっかり準備すること。
 個人練習及びアンサンブル練習を一週間に120分が目安。

◆成績評価の方法◆

授業内評価：随時課題をフィードバックするとともに、平常の授業への取り組み、授業内発表での演奏により総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

Bach:Invention(版は問わない)
 M.Clementi:2台のピアノのためのソナタOp.12(全音版)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルの「相手と共に音楽を奏でる」を深く理解し、相手の立場を配慮できる人間力も身に付ける。

ナンバリング	KBS024N		
科目名	ピアノ指導研究入門		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	瀧尾 夕美, 山内 のり子, 稲積 亜紀子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

豊かな的確な指導力を持ち、多彩なニーズに応える優れたピアノ指導者を目指す。演奏・指導実習、著名なピアニストのレッスン動画、楽器学資料館での試弾などを通して、脱力、様々な音色とタッチ、楽曲の構造、原典版と解釈版の比較、時代背景など、指導の基礎となる事項を再確認するとともに、適切な批評眼とコミュニケーション能力を磨く。

◆授業内容・計画◆

グループレッスンの形態をとり、下記の教材の演習を通してピアノ奏法の基礎を再確認する。また、模擬授業なども行ない、ピアノ指導に必要な表現法や練習法について学ぶ。
随時、子供向け教材に幅広く触れ、レパートリーを広げる。

- 第1回 J.S.バッハの初歩的な小品、シューマン《ユーゲントアルバム》へのアプローチ法、およびピアノ奏法全般についてディスカッションする
- 第2回 ポリフォニー作品のテクニックや練習方法などバロック特有の表現法などを多角的に研究する
- 第3回 楽器学博物館にて、クラヴィコード、チェンバロ、ブロードウッド社製ピアノなど様々な時代の鍵盤楽器を試奏する
- 第4回 演奏発表
- 第5回 井上直幸「ピアノ奏法」のビデオを鑑賞し、ディスカッションする
- 第6回 シューマン《ユーゲントアルバム》を中心にロマン派の小品の表現法とテクニックを研究する
- 第7回 模擬レッスン①コミュニケーションの取り方
- 第8回 カバレフスキー《こどものためのピアノ小曲集》を中心に近現代の小品の表現法とテクニックを研究する
- 第9回 海外の著名なピアニストによるレッスンのビデオを鑑賞し、指導法を学ぶ
- 第10回 模擬レッスン②イメージを演奏表現につなげていく指導法
- 第11回 模擬レッスンの形態で演奏発表をする
- 第12回 様々なテクニック教材、古典派の小品について研究する
- 第13回 ロマン派の小品、邦人作品を含めた近現代の小品などについて研究する
- 第14回 模擬レッスンの形態で演奏発表をする
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で出された課題を研究・分析し、それらの知識や考えを生かして、演奏表現につなげられるように練習する。
(目安 週に3時間)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み(演奏・発言などの積極性、作品研究と分析力、奏法の基礎や作品の知識を生かした指導力の向上、レポート提出など)により、評価する。なおレポートや作品分析などの課題は、フィードバックするとともに総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

・シューマン: ユーゲントアルバム Op.68
・カバレフスキー: こどものためのピアノ小曲集 Op.27
(出版社は問わない。授業内で担当教員より指示する)
その他必要に応じて楽曲やテクニックの基礎的な教材を使用する。

◆参考図書◆

井上直幸: ピアノ奏法
ネイガウス: ピアノ演奏芸術

◆留意事項◆

- ・4月の履修登録変更期間以降に万が一、履修を取りやめる場合は、教務課へ申し出をすること。
- ・第一回目の授業に必ず出席すること。クラス分けの関係上、登録したクラスから別のクラスへ移動になる場合がある。

ナンバリング	KBS025N		
科目名	電子オルガン編曲 I		
科目詳細			
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1)コードプレグレーションの基本を確認する。2)コードプログレッションを学ぶ過程で様々なジャンルのスタンダードナンバーに触れ、電子オルガンによるリズム伴奏型を習得する。3)1コーラス程度の簡単な曲をいろいろな工夫でコードづけしながら演奏する。4)習得事項を自身の作編曲に活かせるようにする。

◆授業内容・計画◆

下記の内容を、机上に留まらず実際に弾きながら習得していく。

- 1)ガイダンス 授業目標と内容の概説
- 2)カデンツの流れ
- 3)ドミナントモーションとセカンダリドミナント
- 4)ツーファイブ
- 5)代理ドミナント
- 6)ドミナントモーション・ツーファイブ・代理ドミナントの実践(1)記譜
- 7)ドミナントモーション・ツーファイブ・代理ドミナントの実践(2)即興演奏
- 8)ディミニッシュコード 成り立ちと使いどころ
- 9)様々なコードプログレッション(1)循環コード
- 10)様々なコードプレグレーション(2)クリシェ
- 11)様々なコードプログレッション(3)ベース進行の可能性
- 12)コードづけの実践(1)民謡や唱歌のアレンジ
- 13)コードづけの実践(2)スタンダードナンバーのアレンジ
- 14)コードづけの実践(3)初見のメロディーのアレンジ
- 15)授業内演奏試験とまとめ 任意の楽曲1コーラスにコードづけしたものを演奏発表・楽譜提出

◆準備学習の内容◆

普段から様々なジャンルの音楽を聴き、気に入ったコードプログレッションの曲をリストアップしておく。また、それらの曲を授業内容と照らし合わせて復習にも活用する。演奏練習は15～20程度の短い時間でも録音しながら進めることを推奨。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度について適宜フィードバックする。
授業内での演奏や理解も考慮し、最終日に課題提出と演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

配布するプリント資料は、まとめてファイリング出来るようにしておくこと。

ナンバリング	KBS026N		
科目名	電子オルガン編曲Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1)様々な工夫の施された音の選び方を習得し、楽譜に書き記したり、また即興的にも演奏できるようにする。2)1コーラスを超えて、より充実した構成のアレンジや即興演奏ができるようにする。3)習得事項を自身の作編曲のより幅広い発想へとつなげていく。

◆授業内容・計画◆

下記の内容を、机上に留まらず実際に弾きながら習得していく。

- 1)ガイダンス 授業目標と内容の概説
- 2)付加音とテンションノート
- 3)和声法に照らし合わせたボイスニング
- 4)内声から対旋律の作成
- 5)転調の効果と転調進行のいろいろ
- 6)モチーフの分析と活用
- 7)展開部分・イントロ・エンディング等の作り方
- 8)任意の簡易な楽曲の単一音色によるアレンジと発表
- 9)オーケストラサウンドにおける各楽器群の特徴づけと効果的な対比
- 10)オーケストラサウンドにおける各楽器群に適したボイスニング
- 11)8)で発表したアレンジをオーケストラサウンドに
- 12)モチーフ即興演奏(1)Andante／Moderato
- 13)モチーフ即興演奏(2)Allegro
- 14)モチーフ即興演奏(3)Waltz
- 15)授業内演奏試験とまとめ 任意の楽曲を3～4分程度に編曲演奏・楽譜提出

◆準備学習の内容◆

普段から様々なジャンルの音楽を聴き、気に入った展開の曲をリストアップしておく。また、それらの曲を授業内容と照らし合わせて復習にも活用する。演奏練習は15～20程度の短い時間でも録音しながら進めることを推奨。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度について適宜フィードバックする。
授業内での演奏や理解力も考慮し、最終日に課題提出と演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

配布するプリント資料は、まとめてファイリング出来るようにしておくこと。

ナンバリング	KBL413N		
科目名	鍵盤楽器作品分析Ⅰ		
科目詳細	クラス指定有。コース・再履修者は各自で登録。		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年・3年	クラス	01
講義室	2-15	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

古典派からロマン派のピアノ作品を時代様式を踏まえながら多角的に分析し、作品の音楽的意図を汲み取り演奏表現の向上を図ることを目標とする。本授業では、ベートーヴェンのソナタ及びショパンの諸作品を中心に据え、他にシューマン、リスト、ブラームスなども取り上げ、各作品の和声、形式、書法について考察する。同一の作曲家の作品の比較、および同時代の作曲家の作品の比較、この二つの視点をもとに、古典派からロマン派の音楽の特徴を捉えてゆく。

◆授業内容・計画◆

- 西洋音楽の構成原理(1)ソナタ
 - ・L.v.Beethoven：Sonate Nr.1 f-moll op.2-1
- 西洋音楽の構成原理(2)ソナタ形式
 - ・L.v.Beethoven：Sonate Nr.21 C-dur op.53 他
- 古典派からロマン派へ
 - ・L.v.Beethoven：Sonate Nr.30 E-dur op.109
- ロマン派について
 - ・R.Schumann：Sonate Nr.2 g-moll op.22
- ソナタの変遷
 - ・F.Chopin：Sonate Nr.2 f-moll op.35
- ショパンの舞曲
 - ・F.Chopin：Mazurka Nr.15 C-dur op.24-2 他
- ショパン考―24の前奏曲(1)
 - ・F.Chopin：24 Preludes op.28 Nr.1～6
- ショパン考―24の前奏曲(2)
 - ・F.Chopin：24 Preludes op.28 Nr.7～12
- ショパン考―24の前奏曲(3)
 - ・F.Chopin：24 Preludes op.28 Nr.13～18
- ショパン考―24の前奏曲(4)
 - ・F.Chopin：24 Preludes op.28 Nr.19～24
- 器楽形式の発展(期末試験に向けて)
 - ・F.Chopin：Ballade Nr.1 g-moll op.23
- ソナタの発展
 - ・F.Chopin：Sonate Nr.3 h-moll op.58
- ブラームスの間奏曲
 - ・J.Brahms：Intermezzo op.117 他
- 調性構成の拡張
 - ・F.Liszt：Sogni d’amore
- まとめと試験(小論文形式による授業内試験)

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品を前もって聴いておくこと。(それぞれ1～2時間程度)

◆成績評価の方法◆

期末試験および平常点によって総合的に成績評価する。
期末試験は、最終授業時に筆記試験(内容は下に記す)を行う。
平常点は、(1)授業内で随時行う小レポート課題(翌週にフィードバック)、(2)授業への取り組み、の2項目とする。
【期末試験】F.ChopinのBalladeのうち事前に指定した1曲について、あらかじめ楽曲分析を行い、試験当日に出題される設問に答える。また、当日聴く2者の音源の演奏を比較考察しまとめる(任意)。答案用紙、さらに配付楽譜への書き込み(任意)を提出(試験時間120分)。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて指示、または資料を配付

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBL413N		
科目名	鍵盤楽器作品分析Ⅰ		
科目詳細	クラス指定有。コース・再履修者は各自で登録。		
担当教員	林 達也		
学年	1年・3年	クラス	02
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏家の作品理解を深めること。より豊かな演奏を分析によって高める。

◆授業内容・計画◆

前期はおもにバッハのクラヴィーア作品、ベートーヴェンのピアノソナタとショパンのピアノ作品を取り上げる。

1. 授業ガイダンスと楽曲分析法について。及びピアノ音楽の歴史とバッハのクラヴィーア作品について(概論)
2. バッハ 平均律クラヴィーア曲集
- 3.シャコンヌ ブゾーニ編曲版の分析
4. バッハ 半音階的幻想曲とフーガ及びファンタジアとフーガの分析
5. バッハ ゴールドベルクバリエーションの特異性と独創性について
- 6.ドメニコ・スカルラッティのチェンバロソナタの性格と特徴及び作品分析
- 7 モーツァルト 幻想曲k.475 ピアノソナタk.330
8. ベートーヴェンピアノソナタopus2 及びopus10及び13
9. ベートーヴェンピアノソナタopus.22.26
- 10.ベートーヴェンピアノソナタ opus27.
11. ベートーヴェンピアノソナタ opus53.opus57
12. ベートーヴェンピアノソナタ 後期ソナタについての性格と概説、opus.101.opus109を主に
13. ベートーヴェンピアノソナタopus110.111
14. ショパン 前奏曲 opus. 28の全貌とその分析
- 15.ショパン ピアノソナタ第2番と3番の比較分析

取り上げる作品と進度によって多少の前後はある。

◆準備学習の内容◆

和声及び楽式論の復習をする。予習としては、毎回取り上げられる作曲家についての生涯と主要作品を辞典で調べる(60分)。また、授業で学んだ作曲家と作品についてのノートを見直し、復習として記憶し、楽譜を再度分析し、ピアノで弾く(70分)。

◆成績評価の方法◆

記述試験と平常の授業への取り組みに(随時レポート課題を課し、そのフィードバックをする)より総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

指定された楽譜を準備し、授業に持参すること。出版社は問わない。かつプリントも配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBL414N		
科目名	鍵盤楽器作品分析Ⅱ		
科目詳細	クラス指定有。コース・再履修者は各自で登録。		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	2-15	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

近代のピアノ作品を、時代背景を踏まえながら多角的に分析し、作品の音楽的意図を汲み取り演奏表現の向上を図ることを目標とする。授業では、近代フランスおよび20世紀を代表するピアノ作品を取り上げ、各作品の和声、形式、書式について考察することこの時代の傾向である “調性からの離脱、がどのようになされたかに着目しながら、それぞれの語法の特徴を明確化する。

◆授業内容・計画◆

- 1)音律考
 - ・F.Chopin：Ballade Nr.3 op.47 他
- 2)音階および旋法について
 - ・G.Fauré:Requiem IV.Pie Jesu 他
- 3)近代フランスへの架け橋
 - ・G.Fauré：Nocturne no.6 op.63
- 4)近代フランスの音楽(1)
 - ・C.Debussy：Reflets dans l’eau (Images)
- 5)近代フランスの音楽(2)
 - ・M.Ravel：Jeux d’eau
- 6)楽曲分析への多角的な視点
 - ・C.Debussy：Des pas sur la neige (Preludes I)
- 7)調性の極限へ
 - ・A.Scriabin：Sonata no.4 op.30、no.5 op.53
- 8)調性からの離脱
 - ・A.Scriabin：Sonata no.6 op.62、no.7 op.64
- 9)十二音技法
 - ・A.Schonberg: Suite op.25 他
- 10)近代ピアノ主義の開拓(1)
 - ・S.Prokofiev：Sonata no.7 op.83より第1楽章
- 11)近代ピアノ主義の開拓(2)
 - ・S.Prokofiev：Sonata no.7 op.83より第2、3楽章
- 12)新たな技法の開拓
 - ・B.Bartok：Mikrokosmos No.125 他
- 13)時代様式と作品
 - ・W.Lutoslawski：Variations on a theme by Paganini 他
- 14)現代のピアノ書法／総括
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる作品を前もって聴いておくこと。(それぞれ1～2時間程度)

◆成績評価の方法◆

期末課題および平常点によって総合的に成績評価する。
期末課題(内容は下に記す)は、最終授業時に提出する。
平常点は、(1)授業内で随時行う小レポート課題(翌週にフィードバック)、(2)授業への取り組み、の2項目とする。
【期末課題】1800年以降に作曲されたピアノ(またはピアノを含む)作品について楽曲分析し、レポート(＝B4用紙1～2枚、譜例含む)にまとめ提出する。なお、音楽書等の解説ないし分析を参考文献としながら、その解釈についての検証を柱とするものでも可(むしろ推奨)。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて指示、または資料を配付

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBL414N		
科目名	鍵盤楽器作品分析Ⅱ		
科目詳細	クラス指定有。コース・再履修者は各自で登録。		
担当教員	林 達也		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-11	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ロマン派から20世紀の鍵盤作品の理解を深めることでより豊かな演奏を高めていく。

◆授業内容・計画◆

1. ショパン 後期作品について（幻想ポロネーズとマズルカ及びノクターン）
2. ショパン バルカローレ
3. シューマンのピアノ作品（クライスレリアーナと幻想曲）
4. シューマン（パピヨンまたは謝肉祭及び交響的練習曲）
5. フォーレ バルカローレ13番またはノクターン第6番、フランク プレリュード、コラールとフーガ
6. リスト 2つの伝説とメフィストワルツまたは巡礼の年(イタリアまたはスイス)またはバラードから抜粋
7. スクリャービンのピアノ曲について(ソナタ2番(幻想)、3番及び4番、5番、9番(黒ミサ)から抜粋)
8. ラフマニノフのピアノ作品「前奏曲、楽興の時、音の絵から抜粋」
9. メトネル 忘れられた調第二集から朝の歌と悲劇的ソナタOp.39-4及び5
10. ドビュッシー 前奏曲集第一巻から抜粋
11. .ドビュッシー 前奏曲集第二巻から抜粋
12. ドビュッシー 喜びの島、映像、仮面°から抜粋
13. ラヴェル 鏡、高雅で感傷的なワルツ、夜のガスパールから抜粋
14. シェーンベルクピアノ小品とベルクのピアノソナタ及びウェーベルンの変奏曲
15. メシアン プレリュードまたは幼子イエスズに注ぐ20のまなざしから

または、プーランクのピアノ作品とカプースチン 8つのエチュードから抜粋

取り上げる作品によっては、作品の規模により、進度(分析の深度)や作曲家により多少の前後がある。

◆準備学習の内容◆

和声と楽式論の復習をする。予習としては、毎回取り上げられる作曲家の生涯と主要作品を辞典で調べる(60分)。また、復習としては、授業で学んだ作曲家と作品についてのノートを見直し、記憶し、楽譜を分析し、再度ピアノで弾く(70分)。

◆成績評価の方法◆

記述試験及び平常の授業への取り組み(随時レポート課題も出しフィードバックする)により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

指定された楽譜を準備、授業の際持参すること。出版社は問わない。かつプリントも配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBL417N		
科目名	ピアノ教材研究 I		
科目詳細			
担当教員	進藤 郁子		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ指導において基本的な教材への知識は必要不可欠であるため、教材の分析、教材の演奏、教材の指導法の3つの観点から多角的にアプローチし、各教材について深く探求する。学習者の年齢、性格、レベルに合った適切な教材を選ぶ事が出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・導入から比較的水平の高い学習者までを視野に、世界各国の様々な子供の作品をとりあげ、グループによる分析・発表・演奏・模擬レッスンを行う。
- ・小品教材においては、その作品の長所、短所を確認し理解を深めるとともに、より良い指導法や副教材等の補い方などを考察する。
- ・練習曲教材、小品教材においては、複数の教材を比較することで、それぞれの特徴を知る。

1. 様々な教材の特色と理念①:教則本について
2. 様々な教材の特色と理念②:小曲集について
3. グループ研究発表の、教材担当決めと方法について討論
4. 研究発表① :小品教材 ドイツ① (J.S/バッハ等)
5. 研究発表② :小品教材 ドイツ② (ゲルリット・シューマン・エルメンライヒ等)
6. 研究発表③ :練習曲教材 (ルクーペ・チェルニー等)
7. 研究発表④ :ソルフェージュ教材 (町田育弥 みみをすます)
8. 研究発表⑤ :小品教材 フランス (デュティユー・ビュイグ＝ロジェ等)
9. 研究発表⑥ :小品教材 東欧 (バルトーク等)
10. 研究発表⑦ :小品教材 ロシア (チャイコフスキー・プロコフィエフ・カバレフスキー等)
11. 研究発表⑧ :小品教材 アメリカ (ギロック・ガーシュイン・バーバー等)
12. 研究発表⑨ :小品教材 日本 (田中カレン・平吉毅州等)
13. 研究発表⑩ :小品教材 日本 (湯山昭・三善晃等)
14. 演奏発表 :教材の中から曲の演奏、指導ポイント解説
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

教材の内容および特徴を的確に伝える研究発表(70分)を行なうため、入念な準備をする。発表担当でない学生は、質問ができるように、あらかじめ発表される教材について下調べをする。(週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業中のグループ発表およびそれについてのディスカッション、演奏発表、毎回の発表についての小レポートの提出等を総合的に評価する。授業内の課題については適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『こどものためのアルバム』ギロック(全音楽譜出版社)、『星のどうぶつたち』田中カレン(カワイ出版)、『お菓子の世界』湯山昭(全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

発表担当教材は、各自、研究室や図書館で借りる事。
能動的な授業参加を心懸ける事。

ナンバリング	KBL418N		
科目名	ピアノ教材研究Ⅱ		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	山内 のり子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

代表的な教材・メソッドのスペシャリストの解説や豊富な指導経験談を伺い、各教材のねらいと特徴、指導メソッドや活用法などを学ぶ。教材についての認識を更に深め、ピアノ指導に生かす。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ヤマハピアノメソッド ①ソルフェージュ指導法
- 第3回 ヤマハピアノメソッド ②ヤマハピアノメソッド
- 第4回 ギロック ピアノ・オール・ザ・ウェイ
- 第5回 バスティンメソッド ①導入教材と活用法
- 第6回 バスティンメソッド ②子どもの指導法
- 第7回 初歩のソルフェージュ教材 ①リズム活動
- 第8回 初歩のソルフェージュ教材 ②音高活動
- 第9回 ピアノランドシリーズ①メイン教材
- 第10回 ピアノランドシリーズ②副教材
- 第11回 ソナチネアルバム
- 第12回 ブルグミュラー
- 第13回 三善ピアノメソッド
- 第14回 教材を実際のレッスンで使用した場合のプレゼンテーション
- 第15回 まとめ

教材ごとに授業で配布するコメントシートに要点を書き取り、提出する。

◆準備学習の内容◆

- ・各教材を手に取り、ねらいや構成、楽曲などの特徴を把握しておく。
- ・授業で出された課題の演奏や実習の練習をする。
- ・これらの課題を準備するため、週2時間程度の時間が必要である。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。コメントシートの提出。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内容・計画の欄を参照すること

◆参考図書◆

授業内で指示する

◆留意事項◆

各招聘講師より持参すべき教材の指示があった場合、事前に通知する。その場合は、原則として図書館で借りるなどして各自持参すること。
各教材について、授業終了時にコメントシートを提出する。欠席すると提出できなくなるので注意すること。

ナンバリング	KBL419N		
科目名	ピアノ教育論 I		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	沢田 千秋		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ教育について学び、ピアノを弾きたいと思う子供たち、学生、社会人にピアノを弾く技術、ピアノを弾く喜びを伝える方法について考える。教育者として求められる演奏能力、指導力を養う上で必要となる基礎的な知識を身につける。ピアノ教育の歴史や時代様式への理解を深めピアノ教育者としての実践能力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ピアノの発展とピアノ教育の歴史概観
- 第2回 ヨハン・セバスティアン・バッハ「インヴェンション」におけるクラヴィーア教育
- 第3回 ツェルニーのピアノ教育法
- 第4回 ショパンのピアノ教育法
- 第5回 シューマンの「音楽家になるための座右銘」
- 第6回 リストのピアノ教育
- 第7回 身体運動学から見るピアノ教育
- 第8回 脳科学とピアノ教育
- 第9回 解剖学的アプローチとピアノ教育
- 第10回 コダーイ・システム
- 第11回 ネイガウスのピアノ教育
- 第12回 才能教育「スズキ・メソッド」における音楽教育
- 第13回 アンスガー・ヤンケのピアノ・メソッド
- 第14回 ツィーグラールのピアノ教育論
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

Googleスライドを用いた研究発表を行う。担当するテーマに関する書籍や資料収集及び、スライドの作成。(週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業内で行う発表に対しての取り組み、ディスカッションにおける積極的な参加など考慮し、総合的に成績評価する。提出課題については、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

- 『記譜法の歴史』カーリン・パウルスマイアー(春秋社)
- 『正しいピアノ奏法』カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ著(東川清一訳 (全音楽譜出版社))
- 『ピアノレッスンのための10の手紙』ツェルニー著(全音楽譜出版社)
- 『ピアノ奏法の基礎』ヨゼフ・レヴィーン著(全音楽譜出版社)
- 『弟子から見たショパン』ジャン・ジャック・エーゲルディンゲル(音楽之友社)

◆留意事項◆

ナンバリング	KBL423N		
科目名	ピアノ教育論		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ教育について学び、ピアノを弾きたいと思う子供たち、学生、社会人にピアノを弾く技術、ピアノを弾く喜びを伝える方法について考える。教育者として求められる演奏能力、指導力を養う上で必要となる基礎的な知識を身につける。ピアノ教育の歴史や時代様式への理解を深めピアノ教育者としての実践能力を培う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ピアノの発展とピアノ教育の歴史概観
- 第2回 ヨハン・セバスティアン・バッハ「インヴェンション」におけるクラヴィーア教育
- 第3回 ツェルニーのピアノ教育法
- 第4回 ショパンのピアノ教育法
- 第5回 シューマンの「音楽家になるための座右銘」
- 第6回 リストのピアノ教育
- 第7回 身体運動学から見るピアノ教育
- 第8回 脳科学とピアノ教育
- 第9回 解剖学的アプローチとピアノ教育
- 第10回 コダーイ・システム
- 第11回 ネイガウスのピアノ教育
- 第12回 才能教育「スズキ・メソッド」における音楽教育
- 第13回 アンスガー・ヤンケのピアノ・メソッド
- 第14回 ツィーグラールのピアノ教育論
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

Googleスライドを用いた研究発表を行う。担当するテーマに関する書籍や資料収集及び、スライドの作成。(週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業内で行う発表に対しての取り組み、ディスカッションにおける積極的な参加など考慮し、総合的に成績評価する。提出課題については、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

- 『記譜法の歴史』カーリン・パウルスマイヤー(春秋社)
- 『正しいピアノ奏法』カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ著(東川清一訳 (全音楽譜出版社))
- 『ピアノレッスンのための10の手紙』ツェルニー著(全音楽譜出版社)
- 『ピアノ奏法の基礎』ヨゼフ・レヴィーン著(全音楽譜出版社)
- 『弟子から見たショパン』ジャン・ジャック・エーゲルディンゲル(音楽之友社)

◆留意事項◆

ナンバリング	KBS401N		
科目名	ピアノコンチェルト演習A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	金子 恵, 佐野 隆哉		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ協奏曲の特徴と構造を理解し、オーケストラと協演する際の演奏法を身につけることができる。ピアノコンチェルト2台ピアノ版のソロパート、オーケストラパートとも演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲
W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第9番 変木長調《ジュナミ》K.271、第20番 ニ短調 K.466、第21番 ハ長調 K.467、第22番 変木長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 ニ長調《戴冠式》K.537、第27番 変口長調 K.595
L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15、第2番 変口長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番 ト長調 作品58、第5番 変木長調《皇帝》作品73
F.ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11、第2番 ヘ短調 作品21
R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
F.リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変木長調
E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
S.ラフマニノフ :ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
M.ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調
上記の曲から1曲を選択し、第1楽章を演奏する。

- * 課題曲以外の曲を選択希望の場合は、課題曲を1楽章学習した後に担当教員と相談の上、演奏可とする。
- * 第1楽章の学習を短時間で習得した場合には、第2楽章以降も続けて演奏可とする。

第1回 ガイダンス(曲目選択に関すること及びオーケストラパートの共演者を決める)
第2回 提示部1) 楽曲研究
第3回 提示部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第4回 提示部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第5回 展開部1) 楽曲研究
第6回 展開部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第7回 展開部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第8回 再現部1) 楽曲研究
第9回 再現部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第10回 再現部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第11回 カデンツァ、その他のパートの楽曲研究
第12回 第1楽章全体の研究
第13回 第1楽章の仕上げ
第14回 発表演奏
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲の中から各自演奏する曲を選択して、しっかり準備すること。第1回目の授業でオーケストラパートの担当を決めるので、オーケストラパートの部分もその都度よく練習すること。
個人練習及びピアノ伴奏との合わせを1週間に120分を目安に行う。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、発表演奏の成果により総合的に評価する。
課題に対するフィードバックは常に授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自が選択した曲の楽譜を用意すること。出版社は問わない。
2台ピアノ版と併せオーケストラ・スコアも用意すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業開始までに楽譜を用意し、譜読みをしておくこと。
技術的にこなせる曲を選択すること。

ナンバリング	KBS402N		
科目名	ピアノコンチェルト演習B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	金子 恵, 佐野 隆哉		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ協奏曲の特徴と構造を理解し、オーケストラと協演する際の演奏法を身につけることができる。ピアノコンチェルト2台ピアノ版のソロパート、オーケストラパートとも演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲
W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調《ジュナミ》K.271、第20番 ニ短調 K.466、第21番 ハ長調 K.467、第22番 変ホ長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 ニ長調《戴冠式》K.537、第27番 変ロ長調 K.595
L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15、第2番 変ロ長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番 ト長調 作品58、第5番 変ホ長調《皇帝》作品73
F.ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11、第2番 ヘ短調 作品21
R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
F.リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
E.グリーク:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
S.ラフマニノフ :ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
M.ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調
上記の曲から1曲を選択し、第1楽章から順に演奏する。

＊ 課題曲以外の曲を選択希望の場合は、課題曲から選択した曲の第1楽章を学習した後に担当教員と相談の上、演奏可とする。

第1回 ガイダンス(曲目選択に関すること及びオーケストラパートの共演者を決める)
第2回 選択曲の楽章の提示部1) 楽曲研究
第3回 選択曲の楽章の提示部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第4回 選択曲の楽章の提示部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第5回 選択曲の楽章の展開部1) 楽曲研究
第6回 選択曲の楽章の展開部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第7回 選択曲の楽章の展開部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第8回 選択曲の楽章の再現部1) 楽曲研究
第9回 選択曲の楽章の再現部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第10回 選択曲の楽章の再現部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第11回 選択曲の楽章のカデンツァ、その他のパートの楽曲研究
第12回 選択曲の楽章全体の研究
第13回 選択曲の楽章の仕上げ
第14回 発表演奏
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲の中から各自演奏する曲を選択して、しっかり準備すること。第1回目の授業でオーケストラパートの担当を決めるので、オーケストラパートの部分もその都度よく練習すること。
個人練習及びピアノ伴奏との合わせを1週間に120分を目安に行う。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、発表演奏の成果により総合的に評価する。
課題に対するフィードバックは常に授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自が選択した曲の楽譜を用意すること。出版社は問わない。
2台ピアノ版と併せオーケストラ・スコアも用意すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業開始までに楽譜を用意し、譜読みをしておくこと。
技術的にこなせる曲を選択すること。

ナンバリング	KBS403N		
科目名	ピアノコンチェルト演習C		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	金子 恵, 佐野 隆哉		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

ピアノ協奏曲の特徴と構造を理解し、オーケストラと協演する際の演奏法を身につけることができる。ピアノコンチェルト2台ピアノ版のソロパート、オーケストラパートとも演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲
W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調《ジュナミ》K.271、第20番 ニ短調 K.466、第21番 ハ長調 K.467、第22番 変ホ長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 ニ長調《戴冠式》K.537、第27番 変ロ長調 K.595
L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15、第2番 変ロ長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番 ト長調 作品58、第5番 変ホ長調《皇帝》作品73
F.ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11、第2番 ヘ短調 作品21
R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
F.リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
S.ラフマニノフ :ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
M.ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調
上記の曲から1曲を選択し、第1楽章を演奏する。

- * 課題曲以外の曲を選択希望の場合は、課題曲を1楽章学習した後に担当教員と相談の上、演奏可とする。
- * 第1楽章の学習を短時間で習得した場合には、第2楽章以降も続けて演奏可とする。

第1回 ガイダンス(曲目選択に関すること及びオーケストラパートの共演者を決める)
第2回 提示部1) 楽曲研究
第3回 提示部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第4回 提示部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第5回 展開部1) 楽曲研究
第6回 展開部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第7回 展開部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第8回 再現部1) 楽曲研究
第9回 再現部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
第10回 再現部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
第11回 カデンツァ、その他のパートの楽曲研究
第12回 第1楽章全体の研究
第13回 第1楽章の仕上げ
第14回 発表演奏
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲の中から各自演奏する曲を選択して、しっかり準備すること。第1回目の授業でオーケストラパートの担当を決めるので、オーケストラパートの部分もその都度よく練習すること。
個人練習及びピアノ伴奏との合わせを1週間に120分を目安に行う。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、発表演奏の成果により総合的に評価する。
課題に対するフィードバックは常に授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自が選択した曲の楽譜を用意すること。出版社は問わない。
2台ピアノ版と併せオーケストラ・スコアも用意すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業開始までに楽譜を用意し、譜読みをしておくこと。
技術的にこなせる曲を選択すること。

ナンバリング	KBS404N		
科目名	ピアノコンチェルト演習D		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	金子 恵, 佐野 隆哉		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

ピアノ協奏曲の特徴と構造を理解し、オーケストラと協演する際の演奏法を身につけることができる。ピアノコンチェルト2台ピアノ版のソロパート、オーケストラパートとも演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調《ジュナミ》K.271、第20番 ニ短調 K.466、第21番 ハ長調 K.467、第22番 変ホ長調 K.482、第23番 イ長調 K.488、第24番 ハ短調 K.491、第25番 ハ長調 K.503、第26番 ニ長調《戴冠式》K.537、第27番 変ロ長調 K.595
L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15、第2番 変ロ長調 作品19、第3番 ハ短調 作品37、第4番 ト長調 作品58、第5番 変ホ長調《皇帝》作品73
F.ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11、第2番 ヘ短調 作品21
R.シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 作品54
F.リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
E.グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 作品16
S.ラフマニノフ :ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
M.ラヴェル:ピアノ協奏曲 ト長調
上記の曲から1曲を選択し、第1楽章から順に演奏する。

＊ 課題曲以外の曲を選択希望の場合は、課題曲から選択した曲の第1楽章を学習した後に担当教員と相談の上、演奏可とする。

- 第1回 ガイダンス(曲目選択に関すること及びオーケストラパートの共演者を決める)
- 第2回 選択曲の楽章の提示部1) 楽曲研究
- 第3回 選択曲の楽章の提示部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
- 第4回 選択曲の楽章の提示部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
- 第5回 選択曲の楽章の展開部1) 楽曲研究
- 第6回 選択曲の楽章の展開部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
- 第7回 選択曲の楽章の展開部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
- 第8回 選択曲の楽章の再現部1) 楽曲研究
- 第9回 選択曲の楽章の再現部2) ソロパートとオーケストラパートのアンサンブル研究
- 第10回 選択曲の楽章の再現部3) ソロパートとオーケストラパートの奏法研究
- 第11回 選択曲の楽章のカデンツァ、その他のパートの楽曲研究
- 第12回 選択曲の楽章全体の研究
- 第13回 選択曲の楽章の仕上げ
- 第14回 発表演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲の中から各自演奏する曲を選択して、しっかり準備すること。第1回目の授業でオーケストラパートの担当を決めるので、オーケストラパートの部分もその都度よく練習すること。
個人練習及びピアノ伴奏との合わせを1週間に120分を目安に行う。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、発表演奏の成果により総合的に評価する。
課題に対するフィードバックは常に授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自が選択した曲の楽譜を用意すること。出版社は問わない。
2台ピアノ版と併せオーケストラ・スコアも用意すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業開始までに楽譜を用意し、譜読みをしておくこと。
技術的にこなせる曲を選択すること。

ナンバリング	KBS405N		
科目名	ピアノデュオ演習A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	白水 芳枝, 吉田 優子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品に関する知識を深め、音響や音色のバランス感覚、演奏解釈の意思疎通をはじめとしたピアノデュオ特有の演奏表現を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

主に古典派からロマン派、近・現代の連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品を学習する。
ピアノデュオ演習・課題曲リストの中から選曲する。

1. ガイダンス
2. 第1選択曲 前半部分① 譜読み合わせ
3. 第1選択曲 前半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
4. 第1選択曲 前半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
5. 第1選択曲 後半部分① 譜読み合わせ
6. 第1選択曲 後半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
7. 第1選択曲 後半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
8. ディスカッション(研究発表)
9. 第2選択曲 ①譜読み合わせ
10. 第2選択曲 ②楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
11. 第2選択曲 ③演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
12. 第1選択曲 全曲演習
13. 第1選択曲 総仕上げ
14. 発表演奏
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内公開レッスンの形式をとる。
課題を研究し、パートナーに迷惑がかからないようしっかり準備すること。
個人練習およびアンサンブル練習を1週間120分を目安に行うこと。
2人で演奏表現を高め、楽曲を創り上げていくために、各段階において合わせ練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

各クラスごとの発表演奏、平常の授業への取り組み・達成度により評価する。
常に課題への取り組みにフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各種版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

課題曲リストを参考に準備を進めること。

ナンバリング	KBS406N		
科目名	ピアノデュオ演習B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	白水 芳枝, 吉田 優子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノデュオ演習Aを発展させ、ピアノデュオ特有の高度な演奏技術、音楽表現を学習・実践し、演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

主に古典派からロマン派、近・現代の連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品を学習する。
ピアノデュオ演習・課題曲リストの中から選曲する。

1. ガイダンス
2. 第1選択曲 前半部分① 譜読み合わせ
3. 第1選択曲 前半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
4. 第1選択曲 前半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
5. 第1選択曲 後半部分① 譜読み合わせ
6. 第1選択曲 後半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
7. 第1選択曲 後半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
8. ディスカッション(研究発表)
9. 第2選択曲 ①譜読み合わせ
10. 第2選択曲 ②楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
11. 第2選択曲 ③演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
12. 第1選択曲 全曲演習
13. 第1選択曲 総仕上げ
14. 発表演奏
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内公開レッスンの形式をとる。
課題を研究し、パートナーに迷惑がかからないようしっかり準備すること。
個人練習およびアンサンブル練習を1週間120分を目安に行うこと。
2人で演奏表現を高め、楽曲を創り上げていくために、各段階において合わせ練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

各クラスごとの発表演奏、平常の授業への取り組み・達成度により評価する。
常に課題への取り組みにフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各種版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

夏休み中に各自準備を進めること。

ナンバリング	KBS407N		
科目名	ピアノデュオ演習C		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	白水 芳枝, 吉田 優子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品に関する知識を深め、音響や音色のバランス感覚、演奏解釈の意思疎通をはじめとしたピアノデュオ特有の演奏表現を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

主に古典派からロマン派、近・現代の連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品を学習する。
ピアノデュオ演習・課題曲リストの中から選曲する。

1. ガイダンス
2. 第1選択曲 前半部分① 譜読み合わせ
3. 第1選択曲 前半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
4. 第1選択曲 前半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
5. 第1選択曲 後半部分① 譜読み合わせ
6. 第1選択曲 後半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
7. 第1選択曲 後半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
8. ディスカッション(研究発表)
9. 第2選択曲 ①譜読み合わせ
10. 第2選択曲 ②楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
11. 第2選択曲 ③演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
12. 第1選択曲 全曲演習
13. 第1選択曲 総仕上げ
14. 発表演奏
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内公開レッスンの形式をとる。
課題を研究し、パートナーに迷惑がかからないようしっかり準備すること。
個人練習およびアンサンブル練習を1週間120分を目安に行うこと。
2人で演奏表現を高め、楽曲を創り上げていくために、各段階において合わせ練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

各クラスごとの発表演奏、平常の授業への取り組み・達成度により評価する。
常に課題への取り組みにフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各種版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

課題曲リストを参考に準備を進めること。

ナンバリング	KBS408N		
科目名	ピアノデュオ演習D		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	白水 芳枝, 吉田 優子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

ピアノデュオ演習Cを発展させ、ピアノデュオ特有の高度な演奏技術、音楽表現を学習・実践し、演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

主に古典派からロマン派、近・現代の連弾(4手)および2台ピアノのために創作されたオリジナル作品を学習する。
ピアノデュオ演習・課題曲リストの中から選曲する。

1. ガイダンス
2. 第1選択曲 前半部分① 譜読み合わせ
3. 第1選択曲 前半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
4. 第1選択曲 前半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
5. 第1選択曲 後半部分① 譜読み合わせ
6. 第1選択曲 後半部分② 楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
7. 第1選択曲 後半部分③ 演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
8. ディスカッション(研究発表)
9. 第2選択曲 ①譜読み合わせ
10. 第2選択曲 ②楽曲の内容を理解し、習熟度を高める
11. 第2選択曲 ③演奏表現の工夫、すり合わせを行い完成度を高める
12. 第1選択曲 全曲演習
13. 第1選択曲 総仕上げ
14. 発表演奏
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内公開レッスンの形式をとる。
課題を研究し、パートナーに迷惑がかからないようしっかり準備すること。
個人練習およびアンサンブル練習を1週間120分を目安に行うこと。
2人で演奏表現を高め、楽曲を創り上げていくために、各段階において合わせ練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

各クラスごとの発表演奏、平常の授業への取り組み・達成度により評価する。
常に課題への取り組みにフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

各種版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

夏休み中に各自準備を進めること。

ナンバリング	KBL421N		
科目名	歴史的ピアノ基礎講座A		
科目詳細	ピアノのみ。		
担当教員	平井 千絵		
学年	3年,4年	クラス	01
講義室	5-313	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

18世紀末～19世紀前半に生み出された楽曲を、当時の楽器(レプリカ)2台を使用し、その時代に固有の楽器の特性、奏法、演奏実践の基礎を学びます。当時の作曲家たちが聴いていたであろうフォルテピアノ(歴史的ピアノ)の音色を引き出すタッチ、奏法にフォーカスして学びます。

◆授業内容・計画◆

- 等ハ ンフォルテピアノの扱い方解説、アンソングン説明、良い音につながるメツナの解説と実音、セアルを使つての調律体験
- 18世紀末の演奏実践その1:
ウィーン古典派を代表する教則本 (Türk, Daniel Gottlob: Klavierschule)と、ロンドン・フォルテピアノ学派を代表する教則本 (Muzio Clementi : The art of pianoforte playing)から、以下の点に特に着目して当時の演奏習慣を学ぶ。
装飾音、ルバート、表記がない場合のノン・レガートorレガートの適応、固有の指遣い、テンポ
- 18世紀末の演奏実践その2 : テュルク「意欲的な演奏者のための120の小曲集」より 任意選択し準備した楽曲を演奏し、18世紀ウィーンの演奏習慣について、前週のロンドンの演奏習慣を比較し、ディスカッションしながら探求する。
- 18世紀末の演奏実践その3 : クレメンティ「ピアノフォルテ演奏の手引き」より 任意選択し準備した楽曲を演奏し、18世紀イギリスの演奏習慣について、ディスカッションしながら探求する。
- 18世紀末の演奏実践その4 :記譜されない音、書かれない指示を読み取る
課題曲 CPEバッハ : 自由ファンタジー(抜粋)に取り組み、ソロ楽曲における数字付き低音の奏法を探る
- 18世紀末の演奏実践その4(続) :記譜されない音、書かれない指示を読み取る
課題曲 CPEバッハ : 自由ファンタジー(抜粋)に取り組み、ソロ楽曲における数字付き低音の奏法を探る
<https://imslp.org/wiki/Special:ImagefromIndex/299257/wc23>
- 18世紀末の演奏実践その5:歌曲から学ぶ、古典派らしいメロディの歌わせ方
ハイドン:English Songsより 人魚の歌、誠の心
- 18世紀末の演奏実践その5(続):歌曲から学ぶ メロディの歌わせ方
ハイドン:English Songsより 人魚の歌、誠の心
- 18世紀末の演奏実践その6:変奏曲
モーツァルト:きらきら星変奏曲(抜粋)
- 18世紀末の演奏実践その6(続):変奏曲
モーツァルト:きらきら星変奏曲(抜粋)
- 19世紀の演奏実践その7 : 即興曲
シューベルト:即興曲から任意選択し、グラーフモデル(1839年ウィーン製の複製)フォルテピアノでの演奏実践を通し、ペダリング、テンポ設定等ディスカッションしながら探求する
- 19世紀の演奏実践その7(続): シューベルト:即興曲から任意選択し、グラーフモデル(1839年ウィーン製の複製)フォルテピアノでの演奏実践を通し、ペダリング、テンポ設定等ディスカッションしながら探求する
- 14.への準備
- クラス試演会
- まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業準備に要する時間には個人差があると思いますが、譜読みは確実にに行い、自分なりの解釈や質問を持って、授業に臨むことが求められます。目安 毎日15分以上
さらに、少なくとも週に1回以上、ノイベルト作 フォルテピアノ(5-313)での個人練習が求められます。(5-313は予約制。予約方法は、初回に説明しますが、1コマ90分です。)
楽器に相応しいタッチの習得を目指し、楽器本来の音を引き出すことに真剣に向き合い、取り組むことが求められます。

◆成績評価の方法◆

授業に取り組む姿勢、準備、提出課題の内容等から総合的に判断します。毎週の演奏課題と、不定期に出す提出課題に対しては適宜、フィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

1冊でわかる ピアノのすべて 調律師が教える歴史と音とメカニズム
青山一郎著 アルテスパブリッシング

◆参考図書◆

チェンパロ フォルテピアノ 渡邊順生著 東京書籍

◆留意事項◆

グループレッスンの性質上、遅刻は慎むこと。

ナンバリング	KBL422N		
科目名	歴史的ピアノ基礎講座B		
科目詳細	ピアノのみ。		
担当教員	平井 千絵		
学年	3年,4年	クラス	01
講義室	5-313	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

18世紀末～19世紀前半に生み出された楽曲を、当時の楽器(レプリカ)2台を使用し、その時代に固有の楽器の特性、奏法、演奏実践の基礎を学びます。当時の作曲家たちが聴いていたであろうフォルテピアノ(歴史的ピアノ)の音色を引き出すタッチ、奏法にフォーカスして学びます。

◆授業内容・計画◆

1. フォルテピアノの扱い方解説、アクション説明、良い音につながるタッチの解説と実習、モデルを使つての調律体験
2. 18世紀末の演奏実践その1(装飾、ルバート、音価の読み取り方、記譜されない指示の読み取り)
ハイドン、モーツァルト、トウルクの連弾曲より選択した楽曲を、クラス内でペアを組み、練習し、演奏発表。
細部の演奏解釈についてのディスカッションを行う。

3. 18世紀末の演奏実践その2 (記譜された即興性)

- カール・フィリップ・エマニュエル・バッハ：自由なファンタジー より
4. 18世紀の演奏実践その3 (イギリスフォルテピアノ楽派)
クレメンティ:ソナチネ Op.36-1
 5. 18世紀の演奏実践その4 (室内楽から学ぶバスの弾き方。和声感を表現するとは?)
ハイドン:クラヴィアトリオのクラヴィアパートより(抜粋)
 6. 19世紀初頭の演奏実践その1：当時の教則本の課題例から学ぶ、自由なパッセージの弾き方
チェルニー:ファンタジー
 7. 19世紀の演奏実践その2：当時の教則本の課題例から学ぶ、アダージョの弾き方
フンメル:ピアノ協奏曲より抜粋
 8. 19世紀ウィーンのセンスを探る その1
シューベルト:即興曲 D899-3
 9. 19世紀ウィーンのセンスを探る その2
シューベルト:歌曲より
 10. シューマン:子供の情景より任意選択
 11. ベートーヴェン:クラヴィアソロ曲より任意選択
 12. ベートーヴェン:クラヴィアソロ曲より任意選択
 13. 14.への準備
 14. クラス試演会
 15. まとめ

使用楽器：ノイペルト作 フォルテピアノ(5-313)、コーパルト作 グラーフモデル(楽器学資料館)
使用教室：5号館313室、楽器学資料館

取り組む楽曲は目安であり、受講生の積極性と進み具合を見ながら随時変更の可能性もあります。

◆準備学習の内容◆

毎回の授業準備に要する時間には個人差があると思いますが、譜読みは確実にに行い、自分なりの解釈や質問を持って、授業に臨むことが求められます。目安 毎日15分以上
さらに、少なくとも週に1回以上、ノイペルト作 フォルテピアノ(5-313)での個人練習が求められます。(5-313は予約制。予約方法は、初回到説明しますが、1コマ90分です。)
楽器に相応しいタッチの習得を目指し、楽器本来の音を引き出すことに真剣に向き合い、取り組むことが求められます。

◆成績評価の方法◆

授業に取り組む姿勢、準備、提出課題の内容等から総合的に判断します。毎週の演奏課題と、不定期に出す提出課題に対しては適宜、フィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

1冊でわかる ピアノのすべて 調律師が教える歴史と音とメカニズム
青山一郎著 アルテスパブリッシング

◆参考図書◆

チェンバロ フォルテピアノ 渡邊順生著 東京書籍

◆留意事項◆

グループレッスンの性質上、遅刻は慎むこと。

ナンバリング	KBS422N		
科目名	電子オルガン音楽理論 I		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガンならではの多彩な音色のパレットの可能性について再認識すると共に、管弦楽法における一般的な知識をも確かなものとするため、歴史的な名曲のオーケストレーションの魅力を研究し、それを可能な限り、電子オルガンでの実践に生かすことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

- (1) 電子オルガンにおける可能性と、その音色や音質に対して、生楽器との共通点や違いを認識する。
- (2) 管弦楽法の基礎知識と、各々の音楽様式の違いを踏まえた上で、電子オルガンに編曲し、演奏する技術を養う。
- (3) ピアノ曲からのオーケストレーション(編曲ならびに演奏)の実習

- 第1回 オリエンテーション
第2回 弦楽器について〈その1: 楽器の構造とボーイング〉
第3回 弦楽器について〈その2: 古典派～近・現代における奏法〉
第4回 ピアノ曲から弦楽合奏編成への編曲(1) 編曲にあたっての留意点
第5回 ピアノ曲から弦楽合奏編成への編曲(2) 実習
第6回 木管楽器について〈その1: 各楽器の特性、移調楽器の解説など〉
第7回 木管楽器について〈その2: アンサンブル書法など〉
第8回 ピアノ曲から木管五重奏編成への編曲(1) 編曲にあたっての留意点
第9回 ピアノ曲から木管五重奏編成への編曲(2) 実習
第10回 ピアノ曲から小オーケストラ編成への編曲、および電子オルガン用への編曲(1) 実施例の考察
第11回 ピアノ曲から小オーケストラ編成への編曲、および電子オルガン用への編曲(2) ピアノ曲の選定
第12回 編曲実習への指導
第13回 編曲実習への添削
第14回 期末課題(ピアノ曲から小オーケストラ編成への編曲、および電子オルガン用への編曲ならびに演奏)
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・必要な参考曲を調べ、音源と楽譜によって研究すること(授業中に指示する)。
 - ・毎回出来るだけ多くの実習に取り組むこと。
- (参考曲の研究、および実習は、週2時間程度を目安とする。)

◆成績評価の方法◆

提出物と平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

○『管弦楽技法』ゴードン・ヤコブ 著、宗像 敬 訳(音楽之友社)
その他、適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	KBS423N		
科目名	電子オルガン音楽理論Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガンならではの多彩な音色のパレットの可能性について再認識すると共に、管弦楽法における一般的な知識をも確かなものとする為、歴史的な名曲のオーケストレーションの魅力を研究し、それを可能な限り、電子オルガンでの実践に生かすことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

- (1)電子オルガンにおける可能性と、その音色や音質に対して、生楽器との共通点や違いを認識する。
- (2)管弦楽法の基礎知識と、各々の音楽様式の違いを踏まえた上で、電子オルガンに編曲し、演奏する技術を養う。
- (3)ピアノ曲からのオーケストレーション(編曲と演奏)の実習

第1回 オリエンテーション

第2回 金管楽器について〈その1:各楽器の特性、移調楽器の解説など〉

第3回 金管楽器について〈その2:アンサンブル書法など〉

第4回 ピアノ曲から金管五重奏編成への編曲(1)編曲にあたっての留意点

第5回 ピアノ曲から金管五重奏編成への編曲(2)実習

第6回 打楽器について〈その1:各楽器の特性など〉

第7回 打楽器について〈その2:アンサンブル書法など〉

第8回 その他の楽器について(1)サクソフォン

第9回 その他の楽器について(2)ピアノ、ハープなど

第10回 オーケストラ編成を意識した電子オルガン作品の創作(1)スタイルの選定

第11回 オーケストラ編成を意識した電子オルガン作品の創作(2)楽曲構成

第12回 創作実習への指導

第13回 創作実習への添削

第14回 期末課題〈オーケストラ編成を意識した電子オルガン作品の創作ならびに演奏〉

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・必要な参考曲を調べ、音源と楽譜によって研究すること(授業中に指示する)。
 - ・毎回出来るだけ多くの実習に取り組むこと。
- (参考曲の研究、および実習は、週3時間程度を目安とする。)

◆成績評価の方法◆

提出物と平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

○『管弦楽技法』ゴードン・ヤコブ 著、宗像 敬 訳(音楽之友社)

その他、適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	KBS424N		
科目名	電子オルガン音楽理論Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	4年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1) 作品分析、和声法等の音楽理論の知識を、電子オルガンの演奏・創作に生かすことができる。
- (2) アコースティック楽器と電子オルガンのアンサンブル作品を創作するためのスケッチ、構想等をまとめることができる。

◆授業内容・計画◆

電子オルガンを生かしたアンサンブル作品を創作するために、スケッチを作成する。自由な発想で作品を書く事を目標とするが、演奏される音楽を正しく楽譜に定着し、記譜する事を重要なポイントとする。
また、和声法の課題の実施と添削を適宜行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 作曲に必要な楽曲分析(1)基礎
- 第3回 作品プランについての指導(1)基礎
- 第4回 作曲に必要な楽曲分析(2)応用
- 第5回 作品プランについての指導(2)応用
- 第6回 和声法の課題の実施と添削(1)導入
- 第7回 選択した楽器の楽曲分析(1)基礎
- 第8回 作品のスケッチ作成への指導(1)基礎
- 第9回 選択した楽器の楽曲分析(2)応用
- 第10回 作品のスケッチ作成への指導(2)応用
- 第11回 和声法の課題の実施と添削(2)基礎
- 第12回 期末提出物への指導
- 第13回 期末提出物への添削
- 第14回 和声法の課題の実施と添削(3)応用
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・どのような作品を作曲したいか、しっかりと考えて文章等にまとめること(楽器、形式、ジャンル等)。
 - ・必要な参考曲を調べ、音源と楽譜によって研究すること(授業中に指示する)。
 - ・毎回出来るだけ多く作品のスケッチを作成すること。
- (参考曲の研究、およびスケッチの作成は、週3時間程度を目安とする。)

◆成績評価の方法◆

提出物と平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBS425N		
科目名	電子オルガン音楽理論Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	4年	クラス	01
講義室	N-024	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1) 作品分析、和声法等の音楽理論の知識を、電子オルガンの演奏・創作に生かすことができる。
- (2) アコースティック楽器と電子オルガンのアンサンブル作品を完成し、発表することができる。

◆授業内容・計画◆

担当教員による作品の指導を受けた上で、電子オルガンを生かしたアンサンブル作品を完成し、12月に提出する。リハーサルにおいての演奏家とのコミュニケーションと本番の演奏を、コース修了試験等により体験する。和声法の課題の実習と添削を適宜行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 提出作品の指導(1)基礎
- 第3回 提出作品の手直し(1)基礎
- 第4回 様式和声法の課題の実施と添削(1)基礎
- 第5回 提出作品の指導(2)応用
- 第6回 提出作品の手直し(2)応用
- 第7回 様式和声法の課題の実施と添削(2)応用
- 第8回 提出作品の指導(3)発展
- 第9回 提出作品の手直し(3)発展
- 第10回 様式和声法の課題の実施と添削(3)発展
- 第11回 パート譜の作成について(1)基礎
- 第12回 パート譜の作成について(2)応用
- 第13回 演奏審査リハーサル指導(1)基礎
- 第14回 演奏審査リハーサル指導(2)応用
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、作品の完成に向けて楽譜を書いてくること(週3時間程度を作業の目安とする)。
- ・12月のコース修了試験までのスケジュールを考えて作業を進めること。
- (作曲、手直し、スコアの清書、パート譜づくり、アンサンブルの練習、演奏審査会等)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みと、学期末に行われるコース修了試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜授業内で資料を配付する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP027N		
科目名	特別レッスンⅠ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を身につける。(2)バロック、古典派に重点を置き、小規模、中規模の作品及びエチュードを、曲にふさわしい奏法、様式感で演奏する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
演奏の基本となる全調のスケール、アルペッジョを学ぶ。
第2回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(3)奏法を中心に
第5回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第6回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(5)表現の掘り下げ
第7回 バロック、古典派の曲、エチュードを学ぶ(6)仕上げとまとめ
第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を学ぶ。
第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第14回 演奏会形式での発表
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

『演奏のよろこび』イェルク・デームス著(白水社)
『よくわかるピアニストからだ理論』林美希著 (ヤマハミュージックメディア)
『ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと』トーマス・マーク著 古谷晋一訳(春秋社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP028N		
科目名	特別レッスンⅡ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を身につける。(2)バロック時代のポリフォニー音楽、舞踏組曲を学び、時代様式を考慮して演奏する能力を養う。(3)古典派、ロマン派の小規模、中規模の作品及びエチュードを、曲にふさわしい奏法、様式感で演奏する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の小曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲についてアプローチ法を探る
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)楽譜の読み方を中心に
第8回 課題曲を学ぶ(3)原典版と解釈版について
第9回 課題曲を学ぶ(4)形式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)装飾音、強弱法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP029N		
科目名	特別レッスンⅢ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を養う。(2)古典派、ロマン派の作品及びエチュードを幅広く学び、時代様式に沿った演奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。古典派、ロマン派の特色について学ぶ。
第2回 古典派・ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(3)奏法を中心に
第5回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第6回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(5)表現の掘り下げ
第7回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(6)仕上げとまとめ
第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第14回 演奏発表
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・充分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP030N		
科目名	特別レッスンⅣ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を学び、豊かな表現力を養う。(2)古典派に重点を置き、古典派のソナタ及びソナタ形式について深く学ぶ。(3)古典派、ロマン派の作品、エチュードを幅広く学び、時代様式に沿った演奏法を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 古典派、ロマン派の曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲へのアプローチ法を探る。
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)ソナタ及びソナタ形式について
第8回 課題曲を学ぶ(3)原典版と解釈版について
第9回 課題曲を学ぶ(4)形式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)奏法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP432N		
科目名	特別レッスンⅤ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)基礎課程で習得したことをふまえ、ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーの拡大を目指し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。ロマン派、近現代の特色について学ぶ。
第2回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第5回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第6回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第7回 ロマン派、近現代の曲を学ぶ(6)仕上げとまとめ
第8回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第9回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第14回 演奏発表
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP433N		
科目名	特別レッスンⅥ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーを拡大し、時代様式に沿った演奏法を身につけ演奏解釈を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第3回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(2)形式、和声を中心に
第4回 ロマン派、近現代の曲、エチュードを学ぶ(3)表現法、奏法を中心に
第5回 後期試験の課題曲について、アプローチ法を探る。
第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に
第7回 課題曲を学ぶ(2)形式を中心に
第8回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第9回 課題曲を学ぶ(4)表現法を中心に
第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(7)曲のキャラクター、音色を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(9)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP434N		
科目名	特別レッスンⅦ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)ロマン派及び近現代の作品を中心にレパートリーをさらに拡大し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈をより深く学ぶ。(3)全ての時代を通じて重要な作曲技法の一つであるポリフォニーに基づく作品を再度掘り下げて学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。
第2回 時代を問わず、これまでの学習でレパートリーが不足している分野の楽曲を選び、アプローチ法を探る。
第3回 自由曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第4回 自由曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第5回 自由曲を学ぶ(3)奏法を中心に
第6回 自由曲を学ぶ(4)表現法、音色を中心に
第7回 自由曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第8回 自由曲を学ぶ(6)仕上げとまとめ
第9回 前期試験課題曲へのアプローチ法を探る。
第10回 課題曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に
第11回 課題曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に
第12回 課題曲を学ぶ(3)強弱法、奏法を中心に
第13回 課題曲を学ぶ(4)声部の色分け、立体感を中心に
第14回 課題曲を学ぶ(5)表現の掘り下げ
第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。
*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

・十分な練習、準備をして毎回のレッスンに臨む。
・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
(目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	KBP435N		
科目名	特別レッスンⅧ		
科目詳細	(P)		
担当教員	教員		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)ピアノ演奏の基本的な技術を確立し、豊かな表現力を養う。(2)レパートリーをさらに拡大し、時代様式に沿った演奏法、演奏解釈を習得する。(3)4年間の集大成としてのホールでの卒業試験に向け、よりスケールの大きい説得力のある表現と、広い空間における響きの作り方を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 セメスターの学習計画を立てる。レパートリーが不足している分野の楽曲を選び、アプローチ法を考える。

第2回 自由曲を学ぶ(1)時代背景、様式を中心に

第3回 自由曲を学ぶ(2)形式、和声を中心に

第4回 自由曲を学ぶ(3)表現法、奏法を中心に

第5回 卒業試験課題曲について、アプローチ法を探る。

第6回 課題曲を学ぶ(1)時代背景を中心に

第7回 課題曲を学ぶ(2)形式を中心に

第8回 課題曲を学ぶ(3)奏法を中心に

第9回 課題曲を学ぶ(4)ホールの響きを踏まえた表現について

第10回 課題曲を学ぶ(5)和声を中心に

第11回 課題曲を学ぶ(6)強弱、コントラストのつけ方を中心に

第12回 課題曲を学ぶ(7)曲のキャラクター、音色を中心に

第13回 課題曲を学ぶ(8)楽曲全体の構成を中心に

第14回 課題曲を学ぶ(9)楽曲を掘り下げ、独自の表現を探究する。

第15回 まとめ

*上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。

*各回の授業内容は、進度により変更することがある。

◆準備学習の内容◆

- ・十分な練習、準備をして毎回の授業に臨む。
 - ・事前に作品に対する知識、理解を深めておく。
- (目安 週20時間以上)

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックする。
実技試験の成績評価は点数で示す。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得する。基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の扱い方、練習方法
- 第3回 基本的な奏法
- 第4回 練習曲Ⅰ-①確認、課題曲Ⅰ-①確認
- 第5回 練習曲Ⅰ-①定着、課題曲Ⅰ-①表現の工夫
- 第6回 練習曲Ⅰ-②確認、課題曲Ⅰ-①仕上げの演奏
- 第7回 練習曲Ⅰ-②定着、課題曲Ⅰ-②確認
- 第8回 練習曲Ⅰ-③確認、課題曲Ⅰ-②表現の工夫
- 第9回 練習曲Ⅰ-③定着、課題曲Ⅰ-②仕上げの演奏
- 第10回 練習曲Ⅰ-④確認、課題曲Ⅰ-③確認
- 第11回 練習曲Ⅰ-④定着、課題曲Ⅰ-③表現の工夫
- 第12回 練習曲Ⅰ-⑤確認、課題曲Ⅰ-③仕上げの演奏
- 第13回 練習曲Ⅰ-⑤定着、課題曲Ⅰ-④確認
- 第14回 課題曲Ⅰ-④表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 専門実技Ⅱの目標と進め方の確認
- 第2回 専門実技Ⅰの復習と自己の課題確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅱ-①確認、課題曲Ⅱ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅱ-①定着、課題曲Ⅱ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅱ-②確認、課題曲Ⅱ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅱ-②定着、課題曲Ⅱ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅱ-③確認、課題曲Ⅱ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅱ-③定着、課題曲Ⅱ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅱ-④確認、課題曲Ⅱ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅱ-④定着、課題曲Ⅱ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅱ-⑤確認、課題曲Ⅱ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅱ-⑤定着、課題曲Ⅱ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅱ-④曲に応じた表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅱ-④曲に応じた表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅱ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 専門実技Ⅲの目標と進め方の確認
- 第2回 専門実技Ⅱの復習と自己の課題確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅲ-①確認、課題曲Ⅲ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅲ-①定着、課題曲Ⅲ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅲ-②確認、課題曲Ⅲ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅲ-②定着、課題曲Ⅲ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅲ-③確認、課題曲Ⅲ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅲ-③定着、課題曲Ⅲ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅲ-④確認、課題曲Ⅲ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅲ-④定着、課題曲Ⅲ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅲ-⑤確認、課題曲Ⅲ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅲ-⑤定着、課題曲Ⅲ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅲ-④曲に応じた表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅲ-④曲に応じた表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅲ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程のまとめにふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 専門実技Ⅳの目標と進め方の確認
- 第2回 専門実技Ⅲの復習と自己の課題確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅳ-①確認、課題曲Ⅳ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅳ-①定着、課題曲Ⅳ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅳ-②確認、課題曲Ⅳ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅳ-②定着、課題曲Ⅳ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅳ-③確認、課題曲Ⅳ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅳ-③定着、課題曲Ⅳ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅳ-④確認、課題曲Ⅳ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅳ-④定着、課題曲Ⅳ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅳ-⑤確認、課題曲Ⅳ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅳ-⑤定着、課題曲Ⅳ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅳ-④曲に応じた表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅳ-④曲に応じた表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅳ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 多様なジャンルの演奏に関する目標と進め方の確認
- 第2回 基礎課程の復習としての演奏と、専門課程における自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅴ-①確認、課題曲Ⅴ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅴ-①定着、課題曲Ⅴ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅴ-②確認、課題曲Ⅴ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅴ-②定着、課題曲Ⅴ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅴ-③確認、課題曲Ⅴ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅴ-③定着、課題曲Ⅴ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅴ-④確認、課題曲Ⅴ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅴ-④定着、課題曲Ⅴ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅴ-⑤確認、課題曲Ⅴ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅴ-⑤定着、課題曲Ⅴ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅴ-④曲にふさわしい表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅴ-④曲にふさわしい表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅴ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 多様なジャンルの演奏に関する目標と進め方の確認
- 第2回 専門実技Ⅴの復習と自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅵ-①確認、課題曲Ⅵ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅵ-①定着、課題曲Ⅵ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅵ-②確認、課題曲Ⅵ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅵ-②定着、課題曲Ⅵ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅵ-③確認、課題曲Ⅵ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅵ-③定着、課題曲Ⅵ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅵ-④確認、課題曲Ⅵ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅵ-④定着、課題曲Ⅵ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅵ-⑤確認、課題曲Ⅵ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅵ-⑤定着、課題曲Ⅵ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅵ-④曲にふさわしい表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅵ-④曲にふさわしい表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅵ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を磨く。

◆授業内容・計画◆

第1回 レパートリーの拡大のための目標と進め方の確認
第2回 専門実技Ⅵの復習と自己の課題の確認のための演奏
第3回 練習曲Ⅶ-①確認、課題曲Ⅶ-①確認
第4回 練習曲Ⅶ-①定着、課題曲Ⅶ-①表現の工夫
第5回 練習曲Ⅶ-②確認、課題曲Ⅶ-①仕上げの演奏
第6回 練習曲Ⅶ-②定着、課題曲Ⅶ-②確認
第7回 練習曲Ⅶ-③確認、課題曲Ⅶ-②表現の工夫
第8回 練習曲Ⅶ-③定着、課題曲Ⅶ-②仕上げの演奏
第9回 練習曲Ⅶ-④確認、課題曲Ⅶ-③確認
第10回 練習曲Ⅶ-④定着、課題曲Ⅶ-③表現の工夫
第11回 練習曲Ⅶ-⑤確認、課題曲Ⅶ-③仕上げの演奏
第12回 練習曲Ⅶ-⑤定着、課題曲Ⅶ-④確認
第13回 課題曲Ⅶ-④曲にふさわしい表現の研究
第14回 課題曲Ⅶ-④曲にふさわしい表現の工夫
第15回 演奏試験に向けた課題曲Ⅶ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(弦管打)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	8単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程のしめくりにふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を一層磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 レパートリーの拡大のための目標と進め方の確認等
- 第2回 専門実技Ⅶの復習と音楽家としての自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅷ-①確認、課題曲Ⅷ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅷ-①定着、課題曲Ⅷ-①表現の研究
- 第5回 練習曲Ⅷ-②確認、課題曲Ⅷ-①表現の工夫
- 第6回 練習曲Ⅷ-②定着、課題曲Ⅷ-①仕上げ
- 第7回 練習曲Ⅷ-③確認、課題曲Ⅷ-②確認
- 第8回 練習曲Ⅷ-③定着、課題曲Ⅷ-②表現の研究
- 第9回 練習曲Ⅷ-④確認、課題曲Ⅷ-②表現の工夫
- 第10回 練習曲Ⅷ-④定着、課題曲Ⅷ-②仕上げ
- 第11回 課題曲Ⅷ-③確認
- 第12回 課題曲Ⅷ-③曲にふさわしい表現の研究
- 第13回 課題曲Ⅷ-③曲にふさわしい表現の工夫
- 第14回 課題曲Ⅷ-③曲にふさわしい表現の一層の工夫
- 第15回 卒業演奏試験に向けた課題曲Ⅷ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

卒業演奏試験により評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	弦(ハープ除く)		
担当教員	篠原 英和		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

集団演奏の第一歩として同属楽器の均質な音の融合と奏法の統一、アンサンブルの基本的な知識、技術、演奏表現を実習する。

◆授業内容・計画◆

主としてバロック~古典的合奏作品を教材とし、その奏法とアンサンブルの基本を以下の点を重視しつつ演奏実習する。

学生の総体的レベル等を考慮し、選曲並びに授業の進行に関して立案する。

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)音程・テンポ・リズム・表現を他の奏者と共有すること。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進度に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)~(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)~(11)までの内容の反復。
- (15)まとめ

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要があり、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。
また、授業の進度については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

曲によってはブルトは固定せず、必要に応じ、単パートによる分奏を行う。
ヴァイオリン専攻生は交代でヴィオラを担当する。

◆準備学習の内容◆

楽譜配布後は、最初の合奏までに自パートを自習しておく。(2~5時間程度)
ヴィオラ担当のヴァイオリン専攻生は特に事前の準備に留意すること。(2~5時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

ヴィヴァルディー:2Vl.のための協奏曲(RV 580)
弦楽のための協奏曲(RV 151)など
モーツァルト:ディヴェルティメントより
モーツァルト:「アダージョとフーガ」
ブリテン:シンブルシンフォニー
J.S.バッハ:「フーガの技法」より
バッハ:「シャコンヌ」(ニルセン/永峰編曲)
などから選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴィオラは音楽資料課より貸与される。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	FI		
担当教員	高橋 聖純		
学年	1年	クラス	02
講義室	6-113	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

様々な作品の演奏を通じて、アンサンブルにとって重要な協調性や積極性を養うと同時に、合図の仕方、音程の合わせ方、音色の合わせ方等の基本的技術を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

主にバロックからフランス近代までの二重奏から四重奏程度のスタンダードなアンサンブル作品の演奏を授業毎に発表会形式で行い、演奏終了後に良かった点や問題点、改善法等について授業履修者全員でディスカッションして演奏の向上を図る。尚、アンサンブルメンバーの組み合わせならびにパート分担は固定されず常に交代される。

※各回の進行は目安であり、授業の様子をみて柔軟に進める。

- 第 1回 レッソンの進め方や、グループと組み合わせ等の話し合い
- 第 2回 課題曲1 譜面、音の確認
- 第 3回 課題曲1 表現の工夫、仕上げ
- 第 4回 課題曲2 譜面、音の確認
- 第 5回 課題曲2 表現の工夫、仕上げ
- 第 6回 課題曲3 譜面、音の確認
- 第 7回 課題曲3 表現の工夫、仕上げ
- 第 8回 課題曲4 譜面、音の確認
- 第 9回 課題曲4 表現の工夫、仕上げ
- 第10回 課題曲5 譜面、音の確認
- 第11回 課題曲5 表現の工夫、仕上げ
- 第12回 課題曲6 譜面、音の確認
- 第13回 課題曲6 表現の工夫
- 第14回 課題曲6 仕上げ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で指示された課題曲の担当パートを各自が練習(目安90分程度)した上で、授業内発表演奏に向けてグループごとに練習(120分程度)すること。

◆成績評価の方法◆

授業内演奏に対する取り組み姿勢、理解度、習熟度により評価する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる楽曲は、学生の技術及び音楽的レベルを考慮して授業内にて指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルを組む他のメンバーに事前の練習合わせや授業内演奏等で迷惑の掛からぬよう十分な準備をすること。無断欠席は厳禁。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Ob,Fg		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

相手の音を聴き取りながら、同時に演奏していける「耳」を鍛える。

◆授業内容・計画◆

今後、皆さんは少人数での室内楽からオーケストラのような大人数のアンサンブルも始まります。その時に起こる危険な事は「自分の譜面に書いてある音」をくた吹いていく」という点。これではアンサンブルは成立しません。

以下にあげる事柄

- ・音色感
- ・音の在り方ー音符の捉え方
- ・音の方向性ー生きたフレーズ
- ・ピアノと管楽器の音の保持力の違い
- ・弦楽器と管楽器の音の見え方
- ・視覚として見る事が出来ない「息」-見えない物を感じ取る

何となく分かっているようで実は分かっていない上記の事柄を整理しながら、短い曲を使い考察していく。

- 1)オリエンテーション
 - 2)ロングトーンの効用(音色感一息のスピードの変化)
 - 3)ロングトーンの楽曲に於ける意味(息の方向性の捉え方)
 - 4)楽譜の読み方A(4+4 8+8 16+16)
 - 5)楽譜の読み方B(4+3 3+3)
 - 6)ピッチについての考察
 - 7)A=440とA=442の違い
 - 8)音叉の効用と音色との関わり
 - 9)チューナーの正しい使い方
 - 10)楽譜の読み方C(速度記号 強弱記号)
 - 11)楽譜の読み方D(表情記号をどう読むのか)
 - 12)楽譜の読み方E(横に読む×縦に読む)
 - 13)曲のまとめ
 - 14)曲の仕上げ
 - 15)前期のまとめ
- 以上について 簡単な2重奏を使い進める。

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習し数回のあわせをしておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルをするうえで重要な事は 他者の音を聴ける「耳」を持てるかどうか という点。常に考え、感じ取る努力をする。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブルⅠ		
科目詳細	CI		
担当教員	大和田 智彦		
学年	1年	クラス	04
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

クラリネットの各特殊管の特性を理解する。すべての特殊管の組み立て片付け方法を知る。特殊管を全て演奏することができる。自分に合った特殊管を見つける。リードによる特性を理解し発音のタイミングを理解する。プレスによるタイムコントロールを理解する。他の楽器の特性を理解しそれに追隨して合わせる瞬発力を身につける。アンサンブルの形態やパートによって立ち位置が変わることを理解する。アンサンブルの和を乱すことなく、他者へ音楽上の指摘を与えることができる

◆授業内容・計画◆

管楽アンサンブルにおける基本事項を学ぶ。
クラリネットの各特殊楽器を体験し、適正を確認する。
アンサンブルの中での拍の捉え方やテンポキープ等を意識することや、バランスを意識した音色 音程合わせを習得する。
また、録音を通して、音楽の創作、及び作品を完成させるという作業の中で探求する姿勢づくりを大切にし、演奏するという自己責任を自覚する。
小編成曲(5重奏曲、6重奏曲)にて各特殊管の割り当てを増やしそれぞれが経験する
積極的に演奏に対する指摘を行い、自らの役割を認識していく

- 授業計画:
- 1.ガイダンス(目標の確認と前期スケジュールの確認、各係の確認)
 - 2.小編成曲①各特殊管の経験
 3. 小編成曲①グループディスカッション
 4. 小編成曲①フィードバック
 5. 小編成曲①レコーディング
 6. 小編成曲①試演会(学生間での評価含む)
 7. 小編成曲②各特殊管の経験
 8. 小編成曲②グループディスカッション
 9. 小編成曲②フィードバック
 - 10.小編成曲②レコーディング
 11. 小編成曲②試演会
 12. 中編成曲譜読み(作品研究)
 13. 中編成曲グループディスカッション
 14. 中編成曲フィードバック
 - 15.試演会(学生間の評価)と後期への課題提案

◆準備学習の内容◆

新曲を始める前には授業前に予習(楽譜をみながら聴きながら楽譜を追い、難箇所を確認し練習)しておくこと。
フィードバックにて指示された箇所など、授業後にも欠かさず時間と取って確認すること。
目安毎日1時間程度
それぞれが、主体的に選曲を試み、バランスの良いパート配置を考えること。
編曲曲はオリジナルの原曲を聴いての楽曲の印象や、事前の譜読みは丁寧に行う。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、積極的な発言、アンサンブルを創る態度を考慮して成績を評価する。
グループディスカッションにおいて、具体的な提案であるか、建設的な態度であるか、客観性のある指摘であるかを評価する。
フィードバックに際して指摘内容を素直に受け入れる心構えや、改善につなげる姿勢を評価する。
レコーディング時に各種指摘が適応されているかを評価する。
試演会及びまとめの演奏の完成度による評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

図書館、研究室所蔵、または講師及び個人所持の楽譜を使用。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

選曲は授業外での作業とし各自積極的に提案すること。
授業以外の時間での積極的な練習を心がける。
アンサンブル、団体での所作、係り業務、指示系統の確認を大事にする。

各パート譜作成や、スコアの製本は必須。
また、楽譜の取り扱いについても注意を払うと共に、保管についても責任をもって行う。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Sax		
担当教員	瀧上 典彦		
学年	1年	クラス	05
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

常用のアルトでのアンサンブルから始め、特殊管の持ち替え、取り扱い、演奏に対応する。ブレスと、合図・発音の関係を理解する。同属楽器アンサンブルの特色を捉える。サクソフォーンアンサンブルを通じて、個人の積極性、グループでの協調性や責任感を養い、アンサンブルの基本的技術の習得に努める。

◆授業内容・計画◆

2重奏、3重奏、4重奏、合奏に取り組む。
主にバロック以降の編曲作品に取り組む。まとめの都度発表し、感想・意見を全員でディスカッションし、演奏内容の充実と向上をねらう。特殊管に柔軟に対応できるようにする。
可能ならば履修学年を超えて合奏にも取り組み、協奏曲の伴奏も体験する。ソリストは適時指名する。

第1回 授業進行・内容説明、自己紹介、学内発表曲の取り組み、特殊管・運指の説明、バロック作品の演奏(1) アルト
第2回 バロック作品の演奏(2) アルト
第3回 バロック作品の演奏(3) まとめ・発表
第4回 バロック作品の演奏(4) アルトまたは特殊管
第5回 バロック作品の演奏(5) アルトまたは特殊管
第6回 バロック作品の演奏(6) アルトまたは特殊管使用 まとめ・発表
第7回 合奏(1)
第8回 合奏(2)
第9回 バロック・古典作品の演奏(1) 四重奏
第10回 バロック・古典作品の演奏(2) 四重奏
第11回 バロック・古典作品の演奏(3) まとめ・発表
第12回 バロック・古典作品の演奏(4) 四重奏
第13回 バロック・古典作品の演奏(5) 四重奏
第14回 バロック・古典作品の演奏(6) 四重奏 まとめ・演奏試験に向けた予行演習
第15回 まとめと評価、演奏試験

小編成候補曲 Hook,Boismortier,Haendel,Vivaidi
合奏候補曲 Holst,伊藤,Glazounov

※進行は適宜調整し最適化を図る。
※内容・課題・編成・曲目選択は適宜検討し、変更・追加など柔軟に対応し実施する。

◆準備学習の内容◆

事前準備を進める。パートナーとの合わせ練習を意義のあるものにし、週に3回程度、1回1.5時間程度確保を目標にして授業に備える。改善点がある場合は次の授業に向け修正し、前向きな姿勢で取り組めるよう準備をする。

◆成績評価の方法◆

履修者合同での演奏試験。授業に対する姿勢、パートナーシップ、理解度、習熟度。
授業内アンサンブル体験や発表また実習の中で課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適時に配布または指定

◆参考図書◆

授業内に指示

◆留意事項◆

パートナーシップを大切にする。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Cor		
担当教員	井手 詩朗		
学年	1年	クラス	06
講義室	N-027	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ホルンアンサンブルを通じて、基礎的な演奏スタイルとともに、ハーモニー、バランス等アンサンブルの基礎を学ぶ。また、音楽を楽しみながら仲間とのコミュニケーションを大切にし、責任感、社会性を習得する。

◆授業内容・計画◆

ホルンの合奏により、さまざまな音楽表現を実践する。

- 第1回 オリエンテーション、ホルン5度の実践によるハーモニートレーニング。
- 第2回 簡単なコラールによるハーモニー作り
- 第3回 ファンファーレ曲によるバランス作り
- 第4回 ハーモニーバランス作りの実践
- 第5回 難易度の低い4重奏(オリジナル作品)グループA
- 第6回 難易度の低い4重奏グループB
- 第7回 難易度の低い4重奏グループC
- 第8回 4重奏曲表現の確認
- 第9回 古典派の代表的作品であるライヒャ作曲トリオグループA
- 第10回 古典派の代表的作品であるライヒャ作曲トリオグループB
- 第11回 古典派の代表的作品であるライヒャ作曲トリオグループC
- 第12回 ライヒャ作曲トリオの表現を確認
- 第13回 発表会用の作品研究 前半
- 第14回 発表会用の作品研究 後半
- 第15回 授業内発表会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

各自の技量に応じた合奏能力の習得、授業に取り組む姿勢等を総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜担当教官と相談し用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず予習をしてから出席すること。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Trp		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年	クラス	07
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

同属楽器(トランペット)の組み合わせ(二重奏から四重奏またはそれ以上)を通して、音色の調和、音程のとり方、音楽の作り方を研究し、アンサンブルの基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アンサンブルの基盤となる基礎奏法 1
- 第3回 アンサンブルの基礎となる基礎奏法2
- 第4回 アンサンブルのテクニック 技術編 音程、ハーモニー、アインザッツについて
- 第5回 実践練習 二重奏の課題 レパートリー1
- 第6回 二重奏の課題 レパートリー2
- 第7回 二重奏の課題 レパートリー3
- 第8回 四重奏の課題 レパートリー1
- 第9回 四重奏の課題 レパートリー2
- 第10回 四重奏の課題 レパートリー3
- 第11回 四重奏の課題 レパートリー4
- 第12回 四重奏の課題 レパートリー5
- 第13回 四重奏の課題 レパートリー6
- 第14回 四重奏の課題 レパートリー7
- 第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる曲目について、充分練習し、また作曲家についてとその楽曲についてできる限り調べておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教員と相談し、授業に必要な曲のスコアとパート譜を用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルにおける各個人の責任と、楽譜・楽器などの管理と確認。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Trb		
担当教員	岸良 開城		
学年	1年	クラス	08
講義室	3-207	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

同属楽器(トロンボーン)のアンサンブルを通して、音色の調和や音程のとり方、音楽の作り方等の基礎を学び、実践する。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス
第2回: トロンボーンの歴史について／簡単なコラールによるハーモニー作り
第3回: ハーモニーバランス作りの実践
第4回: 二重奏(表現の工夫)

第5回: 二重奏(二重奏の実践)
第6回: 三重奏(表現の工夫、音程の取り方を学ぶ)
第7回: 三重奏(ハーモニーバランス作りの実践)
第8回: 三重奏(三重奏の実践)
第9回: 四重奏(表現の工夫、音程の取り方を学ぶ)
第10回: 四重奏(ハーモニーバランス作りの実践)
第11回: 四重奏(グループディスカッション)
第12回: 四重奏(四重奏の実践)
第13回: 発表会用作品の研究①
第14回: 発表会用作品の研究②
第15回: 授業内発表、まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する曲の譜読み・予習をしてから授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取組態度。
各アンサンブル実践、授業内発表の演奏による評価。
レッスン中の課題については常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	Eup,Tub		
担当教員	安東 京平		
学年	1年	クラス	09
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ユーフォニアムとチューバで構成されるアンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく。

◆授業内容・計画◆

四重奏を中心にし、二重奏から八重奏までを学習する。オリジナル作品と編曲作品を取り上げる。必要に応じて作・編曲も行う。単に演奏技術向上を目指すだけではなく音楽的考察を高める。
曲の背景理解のために楽曲分析なども行う。授業内発表を定期的に取り入れ、より実践に役立つ演奏を学ぶ。また初見演奏などの技術も高める。授業履修者の状況により編成や内容はその都度、学生と指導者間において協議の上進めていく。アンサンブルにおけるリハーサルを進め方、グループ内でのコミュニケーションの取り方なども学んでいく。

- 1、ガイダンス
- 2、デュエット1、初見課題を用いて
- 3、デュエット2、バッハのインヴェンションを用いて
- 4、デュエットの演奏実践
- 5、カルテット編曲作品1、コラールを用いて
- 6、カルテット編曲作品2、フーガを用いて
- 7、カルテット編曲作品の演奏実践
- 8、大編成アンサンブル基礎
- 9、大編成アンサンブル応用
- 10、1900年代のカルテットオリジナル作品の研究
- 11、1900年代のカルテットオリジナル作品の実演
- 12、2000年代のカルテットオリジナル作品の研究
- 13、2000年代のカルテットオリジナル作品の実演
- 14、カルテットオリジナル作品の演奏実践
- 15、実技試験とまとめ(必要に応じて発表会形式にて)

◆準備学習の内容◆

譜読みなどの個々の技術的準備、課題曲のリハーサル、曲の背景の調査など。

◆成績評価の方法◆

各授業に対する準備、平常の授業への取り組み、アンサンブル的演奏技量などを評価の対象とする。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

履修者のレベルに応じて、授業内容を変更する可能性がある。

ナンバリング	SWS065N		
科目名	基礎アンサンブル I		
科目詳細	打楽器		
担当教員	植松 透		
学年	1年	クラス	10
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

打楽器アンサンブルを通して、初源的かつ最も身近な楽器たる打楽器の可能性を追求し、様々なジャンルで活躍する打楽器の役割、合奏の基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

オーケストラ等で使われる基本的な楽器の基礎奏法を習得し、また構造、歴史等必要な知識を学ぶ。
楽器の名称や種別を体系的におぼえ、学内定期演奏会に参加し、演奏に必要な設置方法、舞台裏のノウハウなどを体験する。

演奏曲目(予定)
IONISATION (Edgard Varese)
TOCCATA for Percussion (Carlos Chavez)

第1回 ガイダンス「打楽器」とは?「アンサンブル」とは?
第2回 楽器の構造及び取り扱い方法について
第3回 合奏「イオニゼーション1」譜読み・アナリゼ
第4回 合奏「イオニゼーション2」セッティングに関する考察
第5回 合奏「イオニゼーション3」楽器奏法習得・理解
第6回 合奏「イオニゼーション4」特殊楽器とは?
第7回 合奏「イオニゼーション5」スティック・マレット等の選択に関する考察
第8回 学内演奏会 演奏・運営両面から評価
第9回 講義1 打楽器の歴史「儀式としての打楽器から民族音楽まで」
第10回 講義2 打楽器の歴史「西洋音楽から考える打楽器の歴史」
第11回 合奏「木片のための音楽1」ミニマリズムについて・音楽における打楽器の役割とは?
第12回 合奏「木片のための音楽2」単純な構造楽器から学ぶ音色の作り方
第13回 合奏「木片のための音楽3」メロディ・リズム・テンポ考
第14回 合奏「木片のための音楽4」発表・演奏についてディスカッション
第15回 前期総括 打楽器アンサンブルの実践と理解

◆準備学習の内容◆

演奏曲スコアの精読。各楽器の名称、奏法等理解をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、および演奏会への参加。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	弦(ハープ除く)		
担当教員	篠原 英和		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

前期を継承し、更なるアンサンブル技術の向上とともに、「個」の集合体としてのアンサンブルにおいて、自らの表現と全体のそれとの接点を感じることができることを目指す。成果発表としてBオケ後期学内演奏会への出演。

◆授業内容・計画◆

アンサンブルにおける留意点については、どの時点・レベルにあっても相違はないが、後期においては古典～近代の作品の中からクラスのメンバー構成、能力に応じて次のような観点から選曲する。

・バロック～古典の接点。国・民族によるスタイルの相違を知る。スタイルに応じた演奏法・技術の体験など。

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)音程・テンポ・リズム・表現を他の奏者と共有すること。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進度に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)~(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)~(11)までの内容の反復。
- (15)成果発表

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要がある、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。

また、授業の進度については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

授業終了前後を問わず機会を求め、公開演奏をもって成果を示す。

◆準備学習の内容◆

楽譜配布後は、最初の合奏までに自パートを自習しておく。(2～5時間程度)
ヴィオラ担当のヴァイオリン専攻生は特に事前の準備に留意すること。(2～5時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

J.S.バッハ:ブランデンブルク協奏曲第3番
ロッシーニ:弦楽のためのソナタより
ニールセン:小組曲op.1
などより選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

前期に同じ。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	FI		
担当教員	高橋 聖純		
学年	1年	クラス	02
講義室	6-113	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

様々な作品の演奏を通じて、アンサンブルにとって重要な協調性や積極性を養うと同時に、合図の仕方、音程の合わせ方、音色の合わせ方等の基本的技術を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続きバロックから古典、ロマン派、そしてポピュラーのものも取り入れる。進み具合をみて同族特殊管(アルトフルート・バスフルート等)を加え、合奏を体験する。その際採り上げる曲は現代作品にまで広げる。
前期同様発表会の授業形式を採り、演奏終了後に良かった点や問題点、改善点等についてディスカッションして演奏の向上を図る。尚、アンサンブルメンバーの組み合わせならびにパート分担は固定されず常に交代される。

※各回の進行は目安であり、授業の様子をみて柔軟に進める。

- 第 1回 課題曲1 譜面、音の確認
- 第 2回 課題曲1 表現の工夫
- 第 3回 課題曲1 仕上げ
- 第 4回 課題曲2 譜面、音の確認
- 第 5回 課題曲2 表現の工夫
- 第 6回 課題曲2 仕上げ
- 第 7回 課題曲3 譜面、音の確認
- 第 8回 課題曲3 表現の工夫
- 第 9回 課題曲3 仕上げ
- 第10回 課題曲3 まとめ
- 第11回 課題曲4 譜面、音の確認
- 第12回 課題曲4 表現の工夫
- 第13回 課題曲4 表現の探究
- 第10回 課題曲4 仕上げ
- 第14回 課題曲4 まとめ

第15回 全体のまとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で指示された課題曲の担当パートを各自が練習(目安90分程度)した上で、授業内発表演奏に向けてグループごとに練習(120分程度)すること。

◆成績評価の方法◆

授業内演奏に対する姿勢、理解度、習熟度により評価する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる楽曲は、学生の技術及び音楽的レベルに応じて選択し、授業内にて指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルを組む他のメンバーに事前の練習合わせや授業内演奏等で迷惑が掛からぬように各自十分な準備をすること。無断欠席は厳禁。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Ob,Fg		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

相手の音を聴き取りながら、同時に演奏していける「耳」を鍛える。

◆授業内容・計画◆

今後、皆さんは少人数での室内楽からオーケストラのような大人数のアンサンブルも始まります。その時に起こる危険な事はく自分の譜面に書いてある音くをくただ吹いていくくという点。これではアンサンブルは成立しません。

前期に取り組んできた事を踏まえつつ、後期では

- ・安定した音造り
- ・ダブルリードに起こるリードの問題点 等

現実的な諸問題を実際に演奏するなかで、考察していく。

- 1)前期の復習
- 2)前期の復習(聴衆に対しての音楽演奏の意味)
- 3)体の使い方A(運指と頭脳と眼の関係)
- 4)体の使い方B(呼吸とは？ 腹式呼吸の間違った解釈)
- 5)アンブシュア考察A(日本語と西洋言語の違い)
- 6)アンブシュア考察B(アパチュアに関して 金管奏者から学べる事)
- 7)ダブルリードの息の流れ(マウスピースが無い事とF1との違いから考えられる事)
- 8)リードに何を求めているのか？
- 9)リードに求めてはいけないこと
- 10)長調と短調(長3和音と短3和音の捉え方)
- 11)調性による色彩を感じ取る(現時代の弊害)
- 12)日常生活の中にある音楽のヒント
- 13)曲のまとめ
- 14)曲の仕上げ
- 15)1年間のまとめ

以上のついて後期では 3重奏(3声)の編成で取り組む。

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習し、数回のあわせをしておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルをするうえで重要な事は、他者の音を聴けるく耳くを持てるかどうか、という点。常に考え、感じ取る努力をする。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	CI		
担当教員	大和田 智彦		
学年	1年	クラス	04
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

常に本番を想定し現在必要なことが何かを理解する。他者が必要としていることを想像しフォローアップに配慮することが出来る。授業の中で得た知識を使い自らの演奏会などを企画することが出来る。アンサンブルの中で自らの存在価値を見出し、適切に主張することが出来る。他人からの音楽的な指摘に対して、謙虚かつ適切に対処することが出来る。音楽を作る上で必要なスケジュールの立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

基礎アンサンブルIIに準じ、専門課程におけるさまざまな合奏授業(室内楽、オーケストラ、吹奏楽)への準備段階とする。
発音の種類や、音の処理、語尾を注意し、表現の幅を広げる
中編成曲(8重奏曲等)から始め大編成の曲でのアンサンブルづくりににおける積極的な行動や意識を養う。

授業計画:
1.ガイダンス(目標の確認と前期スケジュールの確認)
2.中編成曲譜読み(作品研究、時代背景研究、作曲家研究)
3.中編成曲グループディスカッション
4.中編成曲フィードバック
5.中編成曲レコーディング
6.中編成曲試演会(学生間での評価含む)
7.大編成曲譜読み(作品研究、時代背景研究、作曲家研究)
8.大編成曲グループディスカッション
9.大編成曲フィードバック
10.大編成曲レコーディング
11.大編成曲レコーディング評価、および相互確認
12.大編成曲、特殊管別パート練習
13.大編成曲試演会及びフィードバック①
14.大編成曲試演会及びフィードバック②
15.試演会(学生間の評価)

◆準備学習の内容◆

新曲を始める前には授業前に予習(楽譜をみながら聴きながら楽譜を追い、難箇所を確認し練習)しておくこと。
フィードバックにて指示された箇所など、授業後にも欠かさず時間と取って確認すること。
目安毎日1時間程度
それぞれが、主体的に選曲を試み、バランスの良いパート配置を考えること。
編曲曲はオリジナルの原曲を聴いての楽曲の印象や、事前の譜読みは丁寧に行う。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、積極的な発言、アンサンブルを創る態度を考慮して成績を評価する。
グループディスカッションにおいて、具体性な提案であるか、建設的な態度であるか、客観性のある指摘であるかを評価する。
フィードバックに際して指摘内容を素直に受け入れる心構えや、改善につなげる姿勢を評価する。
レコーディング時に各種指摘が適応されているかを評価する。
試演会及びまとめの演奏の完成度による評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

図書館、研究室所蔵、または講師及び個人所持の楽譜を使用。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

選曲は授業外での作業とし各自積極的に提案すること。
授業以外の時間での積極的な練習を心がける。
アンサンブル、団体での所作、係り業務、指示系統の確認を大事にする。

各パート譜作成や、スコアの製本は必須。
また、楽譜の取り扱いについても注意を払うと共に、保管についても責任をもって行う。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Sax		
担当教員	瀧上 典彦		
学年	1年	クラス	05
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

特殊管への適性を見据えつつ、チーム編成する。パートの役割を理解し、能動的・受動的表現を体験する。自己主張、パートナーの主張を相互理解して、表現に繋げる。演奏発表、コメント発表し、自己評価と客観評価を確認する。合奏では、合奏曲のほか、コンチェルトの実習も実施し、演奏体験を広げる。

◆授業内容・計画◆

4重奏、合奏に取り組む。前期に引き続き、バロック以降の編曲作品に、次いで後期ロマン派の流れを組む近現代のアンサンブル作品に取り組む。前期と同様にチーム毎に進行する。一曲のまとめに発表し合えるように努め、感想・意見を全員でディスカッションし、演奏内容の充実と向上をねらう。より一層特殊管の習得度を高める。履修学年を超えて合奏にも取り組みたい。協奏曲の伴奏も体験する。ソリストは適時指名する。

第1回 授業進行・内容説明、合奏(1) 合奏曲また協奏曲
第2回 合奏(2)
第3回 バロック・古典作品の演奏(1)、四重奏
第4回 バロック・古典作品の演奏(2)、四重奏
第5回 バロック・古典作品の演奏(3)、四重奏 まとめ
第6回 合奏(3) コンチェルト実習①、合奏
第7回 合奏(4) コンチェルト実習②、合奏
第8回 近代作品の演奏(1) 四重奏
第9回 近代作品の演奏(2) 四重奏
第10回 近代作品の演奏(3) 四重奏 まとめ
第11回 近現代オリジナル作品の演奏(1)、四重奏
第12回 近現代オリジナル作品の演奏(2)、四重奏
第13回 近現代オリジナル作品の演奏(3)、四重奏
第14回 近現代オリジナル作品の演奏(4)、四重奏 演奏試験に向けた予行演習
第15回 まとめと評価、演奏試験

小編成候補曲 Scarlatti,保科,Debussy,Koch,Français
合奏候補曲 Holst,伊藤,Glazounov,Tomasi,Ibert

※進行は適宜調整し最適化を図る。
※内容・課題・編成・曲目選択は適宜検討し、変更・追加など柔軟に対応し実施する。

◆準備学習の内容◆

事前準備を進める。パートナーとの合わせ練習を意義のあるものにし、週に3回程度、1回1.5時間程度確保を目標にして授業に備える。改善点がある場合は次の授業に向け修正し、前向きな姿勢で取り組めるよう準備をする。

◆成績評価の方法◆

履修者合同での演奏試験。授業に対する姿勢、パートナーシップ、理解度、習熟度。授業内アンサンブル体験や発表また実習の中で課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適時に配布または指定

◆参考図書◆

授業内に指示

◆留意事項◆

パートナーシップを大切にする。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Cor		
担当教員	井手 詩朗		
学年	1年	クラス	06
講義室	N-027	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ホルンアンサンブルを通じて、基礎的な演奏スタイルとともに、ハーモニー、バランス等アンサンブルの基礎を学ぶ。また、音楽を楽しみながら仲間とのコミュニケーションを大切にし、責任感、社会性を習得する。

◆授業内容・計画◆

より高度なホルンの合奏により、さまざまな音楽表現を実践する。

- 第1回 難易度中程度の4重奏曲(オリジナル作品)の作品研究グループA
- 第2回 難易度中程度の4重奏曲(オリジナル作品)の作品研究グループB
- 第4回 ベートーベンの初期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品A
- 第5回 ベートーベンの初期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品B
- 第6回 ベートーベンの初期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品C
- 第7回 ベートーベンの後期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品A
- 第8回 ベートーベンの後期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品B
- 第9回 ベートーベンの後期の管弦楽作品からオーケストラにおけるアンサンブルの基礎研究 作品C
- 第10回 近現代のオリジナル作品研究グループ演奏A
- 第11回 近現代のオリジナル作品研究グループ演奏B
- 第12回 近現代のオリジナル作品研究グループ演奏C
- 第13回 発表会に向けた作品研究 前半
- 第14回 発表会に向けた作品研究 後半
- 第15回 授業内発表会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

各自の技量に応じた合奏能力の習得、授業に取り組む姿勢等を総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜担当教官と相談し用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業には必ず予習をしてから出席すること。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Trp		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年	クラス	07
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

同属楽器(トランペット)の組み合わせ(二重奏から四重奏またはそれ以上)を通して、音色の調和、音程のとり方、音楽の作り方を研究し、アンサンブルの基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 多重奏の課題A 1楽譜の確認
- 第3回 多重奏の課題A 2表現の工夫
- 第4回 多重奏の課題A 3仕上げの演奏
- 第5回 多重奏の課題B 4楽譜の確認
- 第6回 多重奏の課題B 5表現の工夫
- 第7回 多重奏の課題B 6仕上げの演奏
- 第8回 多重奏の課題C 1楽譜の確認
- 第9回 多重奏の課題C 2表現の工夫
- 第10回 多重奏の課題C 3仕上げの演奏
- 第11回 自由編曲の課題 1楽譜の確認
- 第12回 自由編曲の課題 2表現の工夫
- 第13回 自由編曲の課題 3仕上げの演奏
- 第14回 演奏発表会の準備
- 第15回 まとめの演奏発表会

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げる曲目について、充分練習し、また作曲家についてとその楽曲についてできる限り調べておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教員と相談し、授業に必要な曲のスコアとパート譜を用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルにおける各個人の責任と、楽譜・楽器などの管理と確認。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Trb		
担当教員	岸良 開城		
学年	1年	クラス	08
講義室	3-207	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

同属楽器(トロンボーン)のアンサンブルを通して、音色の調和や音程のとり方、音楽の作り方等の基礎を学び、実践する。

◆授業内容・計画◆

第1回:アンサンブル(ハーモニーをより美しく響かせるには)
 第2回:アンサンブル(メロディーの歌い方)
 第3回:アンサンブル(タンキングの研究、音色の差違を学ぶ)
 第4回:アンサンブル(呼吸について)
 第5回:アンサンブル(自身の演奏を客観的に聴く)
 第6回:アンサンブル(譜面の裏を読む)
 第7回:アンサンブル(自身の考えを他者に伝える)
 第8回:アンサンブル(自身の役割)
 第9回:オーケストラスタディー(古典派音楽時代)
 第10回:オーケストラスタディー(ロマン派①ブラームス)
 第11回:オーケストラスタディー(ロマン派②ワーグナー)
 第12回:オーケストラスタディー(近代音楽時代)
 第13回:授業内発表会に向けた作品研究①
 第14回:授業内発表会に向けた作品研究②
 第15回:授業内発表会、まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する曲の譜読み・予習をしてから授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取組態度。
 レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	Eup,Tub		
担当教員	安東 京平		
学年	1年	クラス	09
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ユーフォニアムとチューバで構成されるアンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく。

◆授業内容・計画◆

四重奏を中心にし、二重奏から八重奏までを学習する。オリジナル作品と編曲作品を取り上げる。必要に応じて作・編曲も行う。単に演奏技術向上を目指すだけでなく音楽的考察を高める。
曲の背景理解のために楽曲分析なども行う。授業内発表を定期的に取り入れ、より実践に役立つ演奏を学ぶ。また初見演奏などの技術も高める。授業履修者の状況により編成や内容はその都度、学生と指導者間において協議の上進めていく。アンサンブルにおけるリハーサルを進め方、グループ内でのコミュニケーションの取り方なども学んでいく。

- 1、ガイダンス
- 2、トリオ1、パッサリシンフォニアを用いて
- 3、トリオ2、オリジナル作品を用いて
- 4、トリオの演奏実演
- 5、カルテット編曲作品1、ガブリエリの作品を用いて
- 6、カルテット編曲作品2、弦楽四重奏作品の編曲実習
- 7、カルテット編曲作品3、弦楽四重奏作品の演奏実演
- 8、大編成アンサンブル基礎
- 9、大編成アンサンブル応用
- 10、1900年代のカルテットオリジナル作品の研究
- 11、1900年代のカルテットオリジナル作品の実演
- 12、2000年代のカルテットオリジナル作品の研究
- 13、2000年代のカルテットオリジナル作品の実演
- 14、カルテットオリジナル作品の演奏実践
- 15、実技試験とまとめ(必要に応じて発表会形式にて)

◆準備学習の内容◆

譜読みなどの個々の技術的準備、課題曲のリハーサル、曲の背景の調査など。

◆成績評価の方法◆

各授業に対する準備、平常の授業への取り組み、アンサンブル的演奏技量などを評価の対象とする。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

履修者のレベルに応じて、授業内容を変更する可能性がある。

ナンバリング	SWS066N		
科目名	基礎アンサンブルⅡ		
科目詳細	打楽器		
担当教員	植松 透		
学年	1年	クラス	10
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

打楽器アンサンブルを通して、初源的かつ最も身近な楽器たる打楽器の可能性を追求し、様々なジャンルで活躍する打楽器の役割、合奏の基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

基本的な打楽器アンサンブル作品を通して音色やハーモニー、リズムの理解などアンサンブルの基礎を学ぶ。特殊な楽器や奏法に対する理解を深める。また定期演奏会に参加し、演奏会運営に携わる。

演奏曲目(予定)

IONISATION (Edgard Varese)

TOCCATA for Percussion (Carlos Chavez)

第1回 ガイダンス「演奏会」とは?

第2回 楽譜管理・楽器準備・舞台設営ノウハウの習得に向けて

第3回 合奏「鐘1」譜読み・アナリーゼ

第4回 合奏「鐘2」ソロとアンサンブル・発音の共有と対峙

第5回 合奏「鐘3」楽音と騒音についての考察

第6回 合奏「鐘4」指揮に合わせること・呼吸を意識した演奏とは?

第7回 合奏「鐘5」空間を意識したアンサンブルとは?

第8回 定期演奏会 演奏・運営両面から評価

第9回 反省会「演奏会」とはなんだったのか

第10回 講義3 打楽器アンサンブルの歴史「ヴァレーズ・ケージ・クセナキス」

第11回 講義4 打楽器アンサンブルの歴史「現代音楽における打楽器の役割」

第12回 講義5 打楽器アンサンブルの歴史「日本の作曲家による作品について」

第13回 合奏「四季1」編曲の実践・ハーモニーへの理解

第14回 合奏「四季2」鍵盤楽器によるアンサンブル、打楽器の特性を知る

第15回 後期総括 打楽器を通して音楽全般への興味・理解が深まったか、演奏を通して音楽を具現化するためのノウハウを得たかを中心に評価。

◆準備学習の内容◆

演奏曲スコアの精読。各楽器の名称、奏法等理解をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、および演奏会への参加。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	弦(ハープ除く)		
担当教員	篠原 英和		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

アンサンブルに必要な楽譜の読み方、音程の取り方、各楽器間の音のバランス感覚を正しく理解して演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 楽譜を正しく読む ガイダンス
- 2) 楽譜に書かれていることが正しく演奏されているか 古典派の音楽を取り上げる
- 3) 楽譜に書かれていることが正しく演奏されているか アーティキュレーションを学ぶ
- 4) 音程を正確にとる 呼吸の重要性
- 5) 合奏の中での音程のとり方 テンポの決め方
- 6) 合奏の中での音程のとり方 基本的な奏法と弓使いの決め方
- 7) 正しく取った音程がその演奏箇所でも適当かの判断 リズムの感じ方と弓使いの技術
- 8) 正しく取った音程がその演奏箇所でも適当かの判断 左手の指使いの決め方
- 9) 和声的にみた場合における音楽的バランス判断 合奏の中での音程の取り方
- 10) 和声的にみた場合における音楽的バランス判断 ソロと合奏との音程の取り方の違い
- 11) リズムの感じ方 フォルテ、ピアノの奏法の区別
- 12) リズムの感じ方 各楽器間の音量バランスの取り方
- 13) 曲を仕上げる アクセント、スフォルツァンドなどの奏法と処理のしかた
- 14) 曲を仕上げる 和声的にみた場合の強弱と表現のしかたと効果
- 15) まとめ 学んだことをもとに、作品全体の解釈とまとめ

◆準備学習の内容◆

楽譜配布後は、最初の合奏までに自パートを自習しておく。(2～5時間程度)
ヴァイオリン担当のヴァイオリン専攻生は特に事前の準備に留意すること。(2～5時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリンの学生は交代でヴァイオリンを担当することがある。

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	FI		
担当教員	菅井 春恵		
学年	2年	クラス	02
講義室	6-112	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

- 様々な作品の演奏を通じてアンサンブルに必要な基本技術を習得することができる。
- フルートアンサンブルの主要レパートリーを演奏できる。
- ディスカッションすることにより、感じたことを伝えるコミュニケーション力を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

フルートを中心とした様々な時代の二重奏から小編成の合奏までの作品の演奏を、毎週発表会形式で行ない、演奏終了後に演奏の良かった点、問題点や改善点等について授業履修者全員でディスカッションする。

1. 授業の進め方の説明・次回曲決定・アンサンブルエチュード
 2. 二重奏① 教則本「ALTES」より2重奏 基礎
 3. 二重奏② 教則本「ALTES」より2重奏 応用
 4. 三重奏① F.Devienne「TRIO」1.2楽章 1. Allegro poco agitato (合図の出し方、アーティキュレーション)
 5. 三重奏② F.Devienne「TRIO」1.2楽章 2.Largo (テンポ設定の見つけ方、音程)
 6. 三重奏③ F.Devienne「TRIO」1.2楽章 3.Prestp (発音の仕方、種類)
 7. 四重奏① casterede:Flutes en vacances I. FLÛTES PASTORALES
 8. 四重奏② casterede:Flutes en vacances II. FLÛTES JOYEUSES
 9. 四重奏③ casterede:Flutes en vacances III. FLÛTES RÉVEUSES
 10. 四重奏④ casterede:Flutes en vacances IV. FLÛTES LÉGÈRES
 11. 二重奏① W.A.Mozart「魔笛」for Tow Fietes より Der Vogelfänger bin ich ja (アーティキュレーション)
 12. 二重奏② W.A.Mozart「魔笛」for Tow Fietes より Das klinget so Herrlich (スタッカート)
 13. 四重奏① Janjan:sky-symphonie 基礎
 14. 四重奏② Janjan:sky-symphonie 応用
 - 15.まとめ 半期の内容をディスカッションして振り返る
- ※進行状況により、変更有り。

◆準備学習の内容◆

一週間で発表できるよう、個人の丁寧な譜読み、グループで音楽表現を出来るようになるまでの合わせ練習をすること。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、理解度、演奏技術を総合して評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて授業履修生と相談の上指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルを組んだ他のメンバーに迷惑がかからぬ様十分な準備をすること。無断欠席は厳禁。
授業内容は進度の具合により変更あり。学外での実施有り。

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	Ob,Fg		
担当教員	坪井 隆明		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

相手の音を聴き取りながら、同時に演奏していける「耳」を鍛える。

◆授業内容・計画◆

昨年皆さんは様々な少人数での室内楽やオーケストラのような大人数のアンサンブルを体験して来たと思います。その時に起こる危険な事は〈自分の譜面に書いてある音〉を〈ただ吹いていく〉という点。実際に体験して来た中で これではアンサンブルは成立しない という場に出会ったかと思います。

以下にあげる事柄

- ・音色感
- ・音の在り方ー音符の捉え方
- ・音の方向性ー生きたフレーズ
- ・ピアノと管楽器の音の保持力の違い
- ・弦楽器と管楽器の音の見え方
- ・視覚として見る事が出来ない「息」ー見えない物を感じ取る

何となく分かっているようで実は分かっていない上記の事柄を整理しながら、短い曲を使い考察していく。

- 1)オリエンテーション
 - 2)ロングトーンの効用(音色感ー息のスピードの変化)
 - 3)ロングトーンの楽曲に於ける意味(息の方向性の捉え方)
 - 4)楽譜の読み方A(4+4 8+8 16+16)
 - 5)楽譜の読み方B(4+3 3+3)
 - 6)ピッチについての考察
 - 7)A=440とA=442の違い
 - 8)音叉の効用と音色との関わり
 - 9)チューナーの正しい使い方
 - 10)楽譜の読み方C(速度記号 強弱記号)
 - 11)楽譜の読み方D(表情記号をどう読むのか)
 - 12)楽譜の読み方E(横に読む×縦に読む)
 - 13)曲のまとめ
 - 14)曲の仕上げ
 - 15)前期のまとめ
- 以上について 2重奏から4重奏の形態で実践していく。

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習し数回のあわせをしておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルをするうえで重要な事は 他者の音を聴ける〈耳〉を持てるかどうか という点。
常に考え、感じ取る努力をする。

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	CI		
担当教員	大和田 智彦		
学年	2年	クラス	O4
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこと		

◆授業目標◆

クラリネットアンサンブル内での自分のパートにおける和声位置を理解する。自分が演奏する音や音量等を客観的にとらえ自分の理解との違いを認識する。リードによる特性を理解し発音のタイミングを理解する。プレスによるタイムコントロールを理解する。各パートの役割を理解し、他のパートと協調連携する。楽譜の中の違和感を見つけ、自分なりの解釈を他者と協調する。楽曲に対して、作曲家の背景、作曲された時代、環境、その他へ関心を寄せ、それを主張し演奏に役立てる方法を修得する。

◆授業内容・計画◆

専門課程におけるさまざまな合奏授業(室内楽、オーケストラ、吹奏楽)への準備段階とする。
様々なアンサンブルの演奏を通じて、音色の作り方、音楽の組み立て方、イニシアティブ、またはそれに付ける応用力を磨く。
また、録音を通して、音楽の創作、及び作品を完成させるという作業の中で、探求する姿勢づくりを大切にし、演奏するという自己責任を自覚する。

- 授業計画:
- 1.ガイダンス(目標の確認と前期スケジュールの確認、各係の確認)
 - 2.小編成曲①各特殊管の経験
 - 3.小編成曲①グループディスカッション
 - 4.小編成曲①フィードバック
 - 5.小編成曲①レコーディング
 - 6.小編成曲①試演会(学生間での評価含む)
 - 7.小編成曲②各特殊管の経験
 - 8.小編成曲②グループディスカッション
 - 9.小編成曲②フィードバック
 - 10.小編成曲②レコーディング
 - 11.小編成曲②試演会
 - 12.中編成曲譜読み(作品研究)
 - 13.中編成曲グループディスカッション
 - 14.中編成曲フィードバック
 - 15.試演会(学生間の評価)と後期への課題提案

◆準備学習の内容◆

新曲を始める前には授業前に予習(楽譜をみながら聴きながら楽譜を追い、難箇所を確認し練習)しておくこと。
フィードバックにて指示された箇所など、授業後にも欠かさず時間と取って確認すること。
目安毎日1時間程度
それぞれが、主体的に選曲を試み、バランスの良いパート配置を考えること。
編曲曲はオリジナルの原曲を聴いての楽曲の印象や、事前の譜読みは丁寧に言う。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、積極的な発言、アンサンブルを創る態度を考慮して成績を評価する。
グループディスカッションにおいて、具体性な提案であるか、建設的な態度であるか、客観性のある指摘であるか、を評価する。
フィードバックに際して指摘内容を素直に受け入れる心構えや、改善につなげる姿勢を評価する。
レコーディング時に各種指摘が適応されているかを評価する。
試演会及びまとめの演奏の完成度による評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

図書館、研究室所蔵、または講師及び個人所持の楽譜を使用。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

選曲は授業外での作業とし各自積極的に提案すること。
授業以外の時間での積極的な練習を心がける。
アンサンブル、団体での所作、係り業務、指示系統の確認を大事にする。
原曲、編曲問わずアンサンブルの可能性を求め様々なアイデアからの選曲を提案する。
編曲の場合、原曲との比較をし、演奏表現の研究をする。
パートの役割や、奏者としての聞こえ方と客観的な聞こえ方の比較し研究する。
各パート譜作成や、スコアの製本は必須。
また、楽譜の取り扱いについても注意を払うと共に、保管についても責任をもって行う。

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	Sax		
担当教員	瀧上 典彦		
学年	2年	クラス	05
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

サクソフォーンアンサンブルを通して、作品の演奏を通して、演奏時の自己発想・コミュニケーション等の社会性と、合図・音程・音色等基礎技術を習得し、また主要なレパートリーを体験と習得する。 パートの役割を理解し、主張と調和を意識し、表現に繋げる。演奏発表、コメント発表し、自己評価と客観評価を確認する。合奏では、合奏曲のほか、コンチェルトの実習も実施し、演奏体験を広げる。

◆授業内容・計画◆

アンサンブルの基礎技術、表現・ブレス・合図・発音・音色・音程の考察をし実践する。
二重奏・三重奏・四重奏(またはそれ以上の編成)作品の演奏に取り組む。表現研究また楽器持ち替えを研究する。可能ならば履修学年を超えて大編成を組織し、合奏や協奏曲の伴奏を体験する。ソリストは適時指名する。

- 第1回 授業進行・内容説明 バロックからロマン派作品の演奏(1)、二重奏
- 第2回 バロックからロマン派作品の演奏(2)、二重奏
- 第3回 バロックからロマン派作品の演奏(3)、二重奏 まとめ・発表
- 第4回 ロマン派～作品の演奏(1)、四重奏①
- 第5回 ロマン派～作品の演奏(2)、四重奏②
- 第6回 ロマン派～作品の演奏(3)、四重奏③まとめ・発表
- 第7回 合奏(1) コンチェルト実習
- 第8回 合奏(2) コンチェルト実習
- 第9回 ロマン派～作品の演奏(4)、四重奏①
- 第10回 ロマン派～作品の演奏(5)、四重奏②
- 第11回 ロマン派～作品の演奏(6)、四重奏③まとめ・発表
- 第12回 オリジナル作品の演奏(1)、四重奏①
- 第13回 オリジナル作品の演奏(2)、四重奏②
- 第14回 オリジナル作品の演奏(3)、四重奏③、演奏試験に向けた予行演習
- 第15回 まとめと評価、演奏試験

小編成候補曲 Leclair,Grieg,Mendelssohn,Singelée
合奏候補曲 Holst,伊藤,Glazounov,Tomasi,Ibert

※進行は適宜調整し最適化を図る。
※内容・課題・編成・曲目選択は適宜検討し、変更・追加など柔軟に対応し実施

◆準備学習の内容◆

パートナーとの合わせ練習を意義のあるものにし、週に3回程度、1回1.5時間程度確保を目標にして授業に備える。改善点がある場合は次の授業に向け修正し、前向きな姿勢で取り組めるよう準備をする。

◆成績評価の方法◆

〃履修者合同での演奏試験。授業に対する姿勢、パートナーシップ、理解度、習熟度。レポート適時指示。
授業内アンサンブル体験や発表また実習の中で課題を常にフィードバックする。 ”

◆教科書(使用テキスト)◆

適時に配布または指定

◆参考図書◆

授業内に指示

◆留意事項◆

パートナーシップを大切にする。

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	金管(Cor,Trp,Trb,Eup,Tub)		
担当教員	岸良 開城		
学年	2年	クラス	O6
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管アンサンブルのレパートリーを通じてオーケストラや吹奏楽団のなかでの金管楽器同士のバランス、音色の調和など金管アンサンブルの基本を研究する。

◆授業内容・計画◆

金管アンサンブル(トランペット・ホルン・トロンボーン・ユーフォニアム・チューバ)の編成を中心に古典的な楽曲を取り上げ、音色の調和、メロディー、ハーモニー、リズムの三要素を理解し表現することによって、金管アンサンブルの基本を学ぶ。
アンサンブル発表会を行う。

- 第1回 オリエンテーション/アンサンブル発表会のプログラムを作成しパートを決め、レッスンスケジュールを決める
- 第2回 レッスン①それぞれの楽曲のスタイルの確認、プログラム前半分
- 第3回 レッスン②それぞれの楽曲のスタイルの確認、プログラム後半分
- 第4回 レッスン③基礎的な合図、ブレスなどのタイミングの取り方、プログラム前半分
- 第5回 レッスン④基礎的な合図、ブレスなどのタイミングの取り方、プログラム後半分
- 第6回 レッスン⑤メロディーと伴奏とのダイナミクスの作り方、バランスの作り方、プログラム前半分
- 第7回 レッスン⑥メロディーと伴奏とのダイナミクスの作り方、バランスの作り方、プログラム後半分
- 第8回 レッスン⑦音楽的イニシアティブの取り方、リズムからのアプローチ
- 第9回 レッスン⑧音楽的イニシアティブの取り方、ハーモニーからのアプローチ
- 第10回 レッスン⑨音楽的イニシアティブの取り方、メロディーからのアプローチ
- 第11回 レッスン⑩各楽曲の総合的なまとめ①プログラム前半分
- 第12回 レッスン⑪各楽曲の総合的なまとめ②プログラム後半分
- 第13回 レッスン⑫各楽曲の総合的なまとめ③通し稽古
- 第14回 学内発表会
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各グループは演奏する曲を必ず譜読み・予習をしてから授業に臨むこと

必ずスコアを用意すること

◆成績評価の方法◆

平常の授業へ取り組み姿勢等の授業内評価。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

採り上げる楽曲のスコアとパート譜

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各アンサンブルは固定メンバーで組織され登録すること

ナンバリング	SWS067N		
科目名	基礎アンサンブルⅢ		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	2年	クラス	07
講義室	N-026	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

打楽器アンサンブルを通して、初源的かつ最も身近な楽器たる打楽器の可能性を追求し、様々なジャンルで活躍する打楽器の役割、合奏の基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

上級生とのアンサンブルを通し、チームワーク、多種多様な楽器の組み合わせ、特殊な奏法などを学ぶ。
学内定期演奏会に参加、演奏会運営のノウハウを習得する。

- 第1回 ガイダンス「打楽器」とは?「アンサンブル」とは?
- 第2回 楽器の構造及び取り扱い方法について
- 第3回 合奏1 学内演奏会譜読み・アナリーゼ
- 第4回 合奏2 セッティングに関する考察
- 第5回 合奏3 楽器奏法習得・理解
- 第6回 合奏4 特殊楽器とは?
- 第7回 合奏5 スティック・マレット等の選択に関する考察
- 第8回 学内演奏会 演奏・運営両面から評価
- 第9回 講義1 打楽器演奏法「膜鳴楽器・体鳴楽器」
- 第10回 講義2 打楽器演奏法「木質・金属・皮」
- 第11回 合奏「トッカータ1」リズムの体系的習得
- 第12回 合奏「トッカータ2」音響の統一・音色の統一
- 第13回 合奏「トッカータ3」室内楽としての演奏法・指揮者なしの意義
- 第14回 合奏「トッカータ4」発表・演奏についてディスカッション
- 第15回 前期総括 打楽器アンサンブルの実践と理解

◆準備学習の内容◆

演奏曲スコアの精読。必要に応じて特殊楽器、創作楽器の準備、設置方法の検討など。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、および演奏会への参加。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	弦(ハープ除く)		
担当教員	篠原 英和		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

アンサンブルⅢの復習とさらに高度な演奏ができる。成果発表としてBオケ後期学内演奏会への出演。

◆授業内容・計画◆

- 1)前期で学んだことの復習 ガイダンス
- 2)前期で学んだことの復習 ロマン派の楽曲を取り上げる
- 3)弓使い、指使いの決め方、選び方 古典派の音楽との奏法の違い
- 4)さらに深い表現をするために 楽譜から理解すること
- 5)さらに深い表現をするために 音色の変化
- 6)合奏のなかでのソロの仕方。表現の基礎。
7)合奏のなかでのソロの仕方 より深い表現をする技術
- 8)リーダーの役目 合奏の中でソロの役割と演奏のしかた
- 9)リーダーの役目 通奏低音の演奏のしかた
- 10)指揮の方法 合奏の中でのアインザッツの仕方
- 11)指揮の方法 効果的なヴィブラートとテンポの決め方
- 12)アンサンブルの指導法 リーダー(コンサートマスター)の役割
- 13)アンサンブルの指導法 指揮法
- 14)曲を仕上げる アンサンブルの指導法
- 15) 成果発表

◆準備学習の内容◆

前期より難度の高い楽曲での授業となるため、よりしっかりした準備をしてくること(1日2時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリンの学生は交代でヴィオラを担当することがある。

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	FI		
担当教員	菅井 春恵		
学年	2年	クラス	02
講義室	6-112	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

様々な作品の演奏を通じてアンサンブルに必要な基本技術を習得すると同時にフルートアンサンブルの主要レパートリーを身につける。授業はフルートを中心とした様々な時代の二重奏から小編成の合奏までの作品の演奏を授業毎に発表会形式で行ない、演奏終了後に演奏の良かった点、問題点や改善点等について授業履修者全員でディスカッションし、演奏の向上を図る。

◆授業内容・計画◆

- 1.四重奏 Berthomieu:Chats (3fl+Altfl) 1.ペルサ・ブルー 2.ピューマ
- 2.四重奏 Berthomieu:Chats (3fl+Altfl) 3.シャモワ 4.リンクス
- 3.四重奏 Berthomieu:Chats (3fl+Altfl) 5.シャ・ペルシェ
- 4.四重奏 Berthomieu:ARCADIE 1.BERGERS
- 5.四重奏 Berthomieu:ARCADIE 2.LASYRINX MAGIQUE
- 6.四重奏 Berthomieu:ARCADIE 3.DRYADES
- 7.四重奏 Berthomieu:ARCADIE 4.仕上げ
- 8.八重奏 Mozart:Ave verum corpus (和声・音程)
- 9.八重奏 Mozart:Ave verum corpus (フレージング)
- 10.八重奏 Mozart:Ave verum corpus (仕上げ)
- 11.フルートオーケストラ(基礎)
- 12.フルートオーケストラ(ディスカッションを含む)発展
- 13.フルートオーケストラ(ディスカッションを含む)応用
- 14.フルートオーケストラ(仕上げ)
- 15.まとめ 半期内容をディスカッションにて振りかえる

◆準備学習の内容◆

一週間で発表できるよう、個人の丁寧な譜読み、グループで音楽表現を出来るようになるまでの合わせをしておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、理解度、演奏技術を総合的に判断し評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて授業履修生相談の上指示。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルを組んだメンバーに迷惑のかからない様十分な準備をすること。無断欠席は厳禁。
授業内容は進度の具合により変更あり。学外での実施有り。

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	Ob,Fg		
担当教員	坪井 隆明		
学年	2年	クラス	03
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

相手の音を聴き取りながら、同時に演奏していける「耳」を鍛える。

◆授業内容・計画◆

少人数での室内楽からオーケストラのような大人数のアンサンブルを体験し始めている中で〈自分の譜面に書いてある音〉を〈ただ吹いていく〉というだけではアンサンブルは成立しないという現実に向き合っていると思います。

前期に取り組んできた事を踏まえつつ、後期では

- ・安定した音造り
- ・ダブルリードに起こるリードの問題点 等

現実的な諸問題を実際に演奏するなかで、考察していく。

- 1)前期の復習
- 2)前期の復習(聴衆に対しての音楽演奏の意味)
- 3)体の使い方A(運指と頭脳と眼の関係)
- 4)体の使い方B(呼吸とは？ 腹式呼吸の間違った解釈)
- 5)アンブシュア考察A(日本語と西洋言語の違い)
- 6)アンブシュア考察B(アパチュアに関して 金管奏者から学べる事)
- 7)ダブルリードの息の流れ(マウスピースが無い事とFとの違いから考えられる事)
- 8)リードに何を求めているのか？
- 9)リードに求めてはいけないこと
- 10)長調と短調(長3和音と短3和音の捉え方)
- 11)調性による色彩を感じ取る(現時代の弊害)
- 12)日常生活の中にある音楽のヒント
- 13)曲のまとめ
- 14)曲の仕上げ
- 15)1年間のまとめ

以上のついて後期も引き続き2重奏から4重奏の形態で実践していく。

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習し、数回のあわせをしておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブルをするうえで重要な事は、他者の音を聴ける〈耳〉を持てるかどうか、という点。
常に考え、感じ取る努力をする。

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	CI		
担当教員	大和田 智彦		
学年	2年	クラス	04
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

常に本番を想定し現在必要なことが何かを理解する。他者が必要としていることを想像しフォローアップに配慮することが出来る。授業の中で得た知識を使い自らの演奏会などを企画することが出来る。アンサンブルの中で自らの存在価値を見出し、適切に主張することが出来る。他人からの音楽的な指摘に対して、謙虚かつ適切に対処することが出来る。音楽を作る上で必要なスケジュールの立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

基礎アンサンブルⅢに準じ、専門課程におけるさまざまな合奏授業（室内楽、オーケストラ、吹奏楽）への準備段階とする。
発音の種類や、音の処理、語尾を注意し、表現の幅を広げる
中編成曲（8重奏曲等）から始め大編成の曲でのアンサンブルつくりにおける積極的な行動や意識を養う。

- 授業計画：
- 1.ガイダンス（目標の確認と前期スケジュールの確認）
 - 2.中編成曲譜読み（作品研究、時代背景研究、作曲家研究）
 - 3.中編成曲グループディスカッション
 - 4.中編成曲フィードバック
 - 5.中編成曲レコーディング
 - 6.中編成曲試演会（学生間での評価含む）
 - 7.大編成曲譜読み（作品研究、時代背景研究、作曲家研究）
 - 8.大編成曲グループディスカッション
 - 9.大編成曲フィードバック
 - 10.大編成曲レコーディング
 - 11.大編成曲レコーディング評価、および相互確認
 - 12.大編成曲、特殊管別パート練習
 - 13.大編成曲試演会及びフィードバック①
 - 14.大編成曲試演会及びフィードバック②
 - 15.試演会（学生間の評価）

◆準備学習の内容◆

新曲を始める前には授業前に予習（楽譜をみながら聴きながら楽譜を追い、難箇所を確認し練習）しておくこと。
フィードバックにて指示された箇所など、授業後にも欠かさず時間と取って確認すること。
目安毎日1時間程度
それぞれが、主体的に選曲を試み、バランスの良いパート配置を考えること。
編曲曲はオリジナルの原曲を聴いての楽曲の印象や、事前の譜読みは丁寧に行う。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、積極的な発言、アンサンブルを創る態度を考慮して成績を評価する。
グループディスカッションにおいて、具体的な提案であるか、建設的な態度であるか、客観性のある指摘であるか、を評価します。
フィードバックに際して指摘内容を素直に受け入れる心構えや、改善につなげる姿勢を評価する。
レコーディング時に各種指摘が適応されているかを評価する。
試演会及びまとめの演奏の完成度による評価。

◆教科書（使用テキスト）◆

図書館、研究室所蔵、または講師及び個人所持の楽譜を使用。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

選曲は授業外での作業とし各自積極的に提案すること。
授業以外の時間での積極的な練習を心がける。
アンサンブル、団体での所作、係り業務、指示系統の確認を大事にする。
原曲、編曲問わずアンサンブルの可能性を求め様々なアイデアからの選曲を提案する。
編曲の場合、原曲との比較をし、演奏表現の研究をする。
パートの役割や、奏者としての聞こえ方と客観的な聞こえ方の比較し研究する。
各パート譜作成や、スコアの製本は必須。
また、楽譜の取り扱いについても注意を払うと共に、保管についても責任をもって行う。

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	Sax		
担当教員	瀧上 典彦		
学年	2年	クラス	05
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

サクソフォーンアンサンブルを通して、作品の演奏を通して、演奏時の自己発想・コミュニケーション等の社会性と、合図・音程・音色等基礎技術を習得し、また主要なレパートリーを体験と習得する。演奏発表、コメント発表し、自己評価と客観評価を確認する。合奏では、合奏曲のほか、コンチェルトの実習も実施し、演奏体験を広げる。自己の演奏を企画構成し、選曲・スケジューリングを行い実践する。

◆授業内容・計画◆

前期を応用し、アンサンブルの基礎技術、表現・ブレス・合図・発音・音色・音程の考察を实践し発展させる。オリジナル作品に取り組み、レパートリーの拡充、演奏の充実を図る。可能であれば、履修学年を超えて合奏にも取り組み、協奏曲の伴奏を体験する。ソリストは適時指名する。

- 第1回 授業進行・内容説明、合奏(1)
- 第2回 オリジナル作品の演奏(1)、四重奏①
- 第3回 オリジナル作品の演奏(2)、四重奏②
- 第4回 オリジナル作品の演奏(3)、四重奏③まとめ・発表
- 第5回 合奏(2) ①
- 第6回 合奏(3) コンチェルト実習①
- 第7回 合奏(4) コンチェルト実習②
- 第8回 合奏(5) ②
- 第9回 合奏(6) ③まとめ
- 第10回 オリジナル作品の演奏(4)、四重奏①
- 第11回 オリジナル作品の演奏(5)、四重奏②
- 第12回 オリジナル作品の演奏(6)、四重奏③
- 第13回 オリジナル作品の演奏(7)、四重奏④
- 第14回 オリジナル作品の演奏(8)、四重奏⑤ 演奏試験に向けた予行演習
- 第15回 まとめと評価、演奏会を想定した演奏試験

小編成候補曲 Dubois,Rueff,Pascal.Desenclos

合奏候補曲 Holst,伊藤,Glazounov,Tomasi,Ibert,Dubois,Villa=Lobos

※進行は適宜調整し最適化を図る。

※内容・課題・編成・曲目選択は適宜検討し、変更・追加など柔軟に対応し実施する。

◆準備学習の内容◆

パートナーとの合わせ練習を意義のあるものにし、週に3回程度、1回1.5時間程度確保を目標にして授業に備える。改善点がある場合は次の授業に向け修正し、前向きな姿勢で取り組めるよう準備をする。

◆成績評価の方法◆

履修者合同での演奏試験。授業に対する姿勢、パートナーシップ、理解度、習熟度。レポート適時指示。授業内アンサンブル体験や発表また実習の中で課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適時に配布または指定

◆参考図書◆

授業内に指示

◆留意事項◆

パートナーシップを大切にする。

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	金管(Cor,Trp,Trb,Eup,Tub)		
担当教員	岸良 開城		
学年	2年	クラス	06
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管アンサンブルのレパートリーを通じてオーケストラや吹奏楽団のなかでの金管楽器同士のバランス、音色の調和など金管アンサンブルの基本を研究する。

◆授業内容・計画◆

金管5重奏(トランペット2・ホルン・トロンボーン・チューバ)の編成を中心にアンサンブルⅢの範囲をより広げ、レパートリーを拡げることと、より豊かな表現力の習得を目指す。

アンサンブル発表会

第1回 オリエンテーション/アンサンブル発表会のプログラムを作成しパートを決め、レッスンスケジュールを決める

第2回 レッスン①各楽曲のスタイルの確認、プログラム前半分

第3回 レッスン②各楽曲のスタイルの確認、プログラム後半分

第4回 レッスン③基礎的な合図、ブレスなどのタイミングの取り方、プログラム前半分

第5回 レッスン④基礎的な合図、ブレスなどのタイミングの取り方、プログラム後半分

第6回 レッスン⑤メロディーと伴奏とのダイナミクスの作り方、バランスの作り方、プログラム前半分

第7回 レッスン⑥メロディーと伴奏とのダイナミクスの作り方、バランスの作り方、プログラム後半分

第8回 レッスン⑦音楽的イニシアティブの取り方、リズムからのアプローチ

第9回 レッスン⑧音楽的イニシアティブの取り方、ハーモニーからのアプローチ

第10回 レッスン⑨音楽的イニシアティブの取り方、メロディーからのアプローチ

第11回 レッスン⑩各楽曲の総合的なまとめ、プログラム前半分

第12回 レッスン⑪各楽曲の総合的なまとめ、プログラム後半分

第13回 レッスン⑫各楽曲の総合的なまとめ、通し稽古

第14回 学内発表会

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各グループは演奏する曲を必ず譜読み・予習をしてから授業に臨むこと

必ずスコアを用意すること

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み姿勢等の授業内評価。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

採り上げる楽曲のスコアとパート譜

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各アンサンブルは固定メンバーで組織され登録すること

ナンバリング	SWS068N		
科目名	基礎アンサンブルⅣ		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	2年	クラス	07
講義室	N-026	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

打楽器アンサンブルを通して、初源的かつ最も身近な楽器たる打楽器の可能性を追求し、様々なジャンルで活躍する打楽器の役割、合奏の基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

基本的な打楽器アンサンブル演奏技術・方法の確立を目指す。クラシック、ジャズ、民族音楽等、様々な音楽の演奏法の研究、作編曲の実践。

定期演奏会に参加。演奏会の企画、立案の実践。

第1回 ガイダンス「演奏会」とは？

第2回 楽譜管理・楽器準備・舞台設営ノウハウの習得に向けて

第3回 合奏1 定期演奏会譜読み・アナリーゼ

第4回 合奏2 パートによるイニシアチブ、主と従について

第5回 合奏3 演奏と演出の融合の是非

第6回 合奏4 指揮に合わせること・呼吸を意識した演奏とは？

第7回 合奏5 空間を意識したアンサンブルとは？

第8回 定期演奏会 演奏・運営両面から評価

第9回 反省会「演奏会」とはなんだったのか

第10回 講義3 打楽器アンサンブル「物体の打楽器化、SE・イメージからのアンサンブル」

第11回 講義4 打楽器アンサンブル「芸術？パフォーマンス？」

第12回 講義5 打楽器アンサンブル「打楽器奏者とは？」

第13回 合奏6 学内演奏家へ向けて、大編成アンサンブル作編曲の実践

第14回 合奏7 試演・ディスカッション

第15回 後期総括 打楽器を通して音楽全般への興味・理解が深まったか、演奏を通して音楽を具現化するためのノウハウを得たかを中心に評価。

◆準備学習の内容◆

演奏曲スコアの精読。作品の時代背景等の理解。また演奏会運営に関する情報の整理、精査。

◆成績評価の方法◆

授業に対する姿勢、および演奏会への参加。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS069N		
科目名	管弦楽Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦, 栗田 博文		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	水3,水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

管弦楽Ⅰ～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハーブを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハーブは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 ガイダンス
- 2 前期学内演奏会への導入
- 3 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②技術的演習
- 7 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 8 前期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 9 前期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 10 前期学内演奏会
- 11 オーケストラコンサートへの導入
- 12 オーケストラコンサート全体リハーサル①
- 13 管打分奏、弦分奏
- 14 Aオーケストラ前期定期演奏会鑑賞
- 15 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラ を担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS070N		
科目名	管弦楽Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	水3,水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

管弦楽I～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハーブを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハーブは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 オーケストラコンサート全体リハーサル②
- 2 オーケストラコンサート の仕上げ
- 3 オーケストラコンサートゲネプロ
- 4 オーケストラコンサート
- 5 後期学内演奏会への導入
- 6 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 7 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 8 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 9 全体リハーサル②技術的演習
- 10 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 11 全体リハーサル④歴史的観点から楽曲をとらえる。
- 12 後期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 13 後期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 14 後期学内演奏会、後期のまとめ
- 15 Aオーケストラ後期定期演奏会鑑賞

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
 授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
 ・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
 ・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
 尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラ を担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生 ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS071N		
科目名	管弦楽Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦, 栗田 博文		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	水3,水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

管弦楽I～IVは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハーブを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハーブは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 ガイダンス
- 2 前期学内演奏会への導入
- 3 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②技術的演習
- 7 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 8 前期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 9 前期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 10 前期学内演奏会
- 11 オーケストラコンサートの導入
- 12 オーケストラコンサート全体リハーサル①
- 13 管打分奏、弦分奏
- 14 Aオーケストラ前期定期演奏会鑑賞
- 15 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
 授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
 ・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
 ・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
 尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS072N		
科目名	管弦楽Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	水3,水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

管弦楽Ⅰ～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハーブを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハーブは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 オーケストラコンサート全体リハーサル②
- 2 オーケストラコンサートへの仕上げ
- 3 オーケストラコンサートゲネプロ
- 4 オーケストラコンサート
- 5 後期学内演奏会への導入
- 6 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 7 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 8 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 9 全体リハーサル②技術的演習
- 10 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 11 全体リハーサル④歴史的観点から楽曲をとらえる。
- 12 後期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 13 後期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 14 後期学内演奏会、後期のまとめ
- 15 Aオーケストラ後期定期演奏会鑑賞

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS073N		
科目名	吹奏楽 I		
科目詳細			
担当教員	岸良 開城, 大和田 智彦, 田中 靖人		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	月3,月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

ウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究することを学習目標とする。

◆授業内容・計画◆

【前期】

- ・吹奏楽の基本的なレパートリーを中心にアンサンブルの基礎を学習する。
- ・研究発表の場として学内演奏会を実施する(第13回)。
- ・演奏会のための臨時練習あり(第12回)。

【予定曲】

G.ホルスト:吹奏楽のための第二組曲 ヘ長調 作品286

兼田敏:シンフォニック・バンドのためのパッサカリア

A.リード:エル・カミーノ・リアル 他

第1回:ガイダンス

第2回:授業内発表会(1年プラス、2年プラス)に向けてのリハーサル 前半

第3回:授業内発表会(1年プラス、2年プラス)に向けてのリハーサル 後半

第4回:授業内発表会のゲネプロおよび発表会本番

第5回:合奏において、全体の中での自分の役割を知る 前半

第6回:合奏において、全体の中での自分の役割を知る 後半

第7回:合奏において、個々の作品を分析する 前半

第8回:合奏において、個々の作品を分析する 後半

第9回:合奏において、個々の作品の分析結果をもとに深い理解を進める

第10回:学内演奏会に向けてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる

第11回:学内演奏会の技術的演習のための分奏を取り混ぜ演奏の仕上げに向かう

第12回:前期学内演奏会のための総練習

第13回:Bプラス学内演奏会

第14回:プラスオルケスター(Aプラス)定期演奏会(聴講必須)

◆準備学習の内容◆

個人的に個人練習およびパート練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業・演奏会等への出席・参加・取り組み姿勢によって単位を認定する。

毎回の授業で出される課題(担当教員からのフィードバックあり)の達成度を含め、総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

【曲目について】

G.ホルスト:吹奏楽のための第二組曲 ヘ長調 作品286

兼田敏:シンフォニック・バンドのためのパッサカリア

A.リード:エル・カミーノ・リアル 他

ナンバリング	SWS074N		
科目名	吹奏楽Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岸良 開城, 大和田 智彦, 田中 靖人		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	月3,月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

吹奏楽Ⅰに引き続き、ウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究することを学習目標とする。

◆授業内容・計画◆

【後期】

- ・作曲専修と当該授業とのコラボレーションによって作品公募を行い、新たな吹奏楽作品を探索していく。
- ・吹奏楽の基本的なレパートリーを中心にさらに進んだ段階としての合奏を学習する。
- ・研究発表の場として、学内演奏会を実施する(第14回)。
- ・演奏会のための臨時練習あり(第13回)。

【後期演習予定曲】

- ・吹奏楽オリジナル作品
- ・作曲専修の作品から選ばれた曲

第1回: ガイダンス／作曲専修公募作品選曲(練習)

第2回: 作曲専修演奏審査／後期学内演奏会のプログラム全体の譜読み

第3回: 後期学内演奏会のプログラム全体の譜読み

第4回: 合奏において、全体の中での自分の役割を知る

第5回: 分奏を取り混ぜ、パート譜を正確に読み作品の中の自分の役割を学ぶ

第6回: 分奏を取り混ぜ、パート譜を正確に読み作品の中の自分の役割を学ぶ

第7回: 合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める

第8回: 合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める

第9回: 合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める

第10回: 演奏会にむけてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる

第11回: シンフォニック・ウインド・アンサンブル(Aプラス)定期演奏会(聴講必須)

第12回: 演奏会にむけてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる

第13回: 後期演奏会のための総練習

第14回: Bプラス定期演奏会

◆準備学習の内容◆

個人的に個人練習およびパート練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業・演奏会等への出席・参加・取り組み姿勢によって単位を認定する。

毎回の授業で出される課題(担当教員からのフィードバックあり)の達成度を含め、総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	SWS075N		
科目名	吹奏楽Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	岸良 開城, 大和田 智彦, 田中 靖人		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	月3,月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究することを学習目標とする。

◆授業内容・計画◆

【前期】

- ・吹奏楽の基本的なレパートリーを中心にアンサンブルの基礎を学習する。
- ・研究発表の場として学内演奏会を実施する(第13回)。
- ・演奏会のための臨時練習あり(第12回)。

【予定曲】

G.ホルスト:吹奏楽のための第二組曲 ヘ長調 作品286
 兼田敏:シンフォニック・バンドのためのパッサカリヤ
 A.リード:エル・カミーノ・レアル 他

第1回:ガイダンス

第2回:授業内発表会(1年ブラス、2年ブラス)に向けてのリハーサル 前半

第3回:授業内発表会(1年ブラス、2年ブラス)に向けてのリハーサル 後半

第4回:授業内発表会のゲネプロおよび発表会本番

第5回:合奏において、全体の中での自分の役割を知る 前半

第6回:合奏において、全体の中での自分の役割を知る 後半

第7回:合奏において、個々の作品を分析する 前半

第8回:合奏において、個々の作品を分析する 後半

第9回:合奏において、個々の作品の分析結果をもとに深い理解を進める

第10回:学内演奏会に向けてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる

第11回:学内演奏会の技術的演習のための分奏を取り混ぜ演奏の仕上げに向かう

第12回:前期学内演奏会のための総練習

第13回:Bブラス学内演奏会

◆準備学習の内容◆

個人的に個人練習およびパート練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業・演奏会等への出席・参加・取り組み姿勢によって単位を認定する。

毎回の授業で出される課題(担当教員からのフィードバックあり)の達成度を含め、総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

曲目について

G.ホルスト:吹奏楽のための第二組曲 ヘ長調 作品286

兼田敏:シンフォニック・バンドのためのパッサカリヤ

A.リード:エル・カミーノ・レアル 他

ナンバリング	SWS076N		
科目名	吹奏楽Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	岸良 開城, 大和田 智彦, 田中 靖人		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	月3,月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

吹奏楽Ⅰに引き続きウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究することを学習目標とする。

◆授業内容・計画◆

【後期】

- ・作曲専修と当該授業とのコラボレーションによって作品公募を行い、新たな吹奏楽作品を探求していく。
- ・吹奏楽の基本的なレパートリーを中心にさらに進んだ段階としての合奏を学習する。
- ・研究発表の場として、学内演奏会を実施する(第14回)。
- ・演奏会のための臨時練習あり(第13回)。

【後期演習予定曲】

- ・吹奏楽オリジナル作品
- ・作曲専修の作品から選ばれた曲

第1回:ガイダンス／作曲専修公募作品選曲(練習)
 第2回:作曲専修演奏審査／後期学内演奏会のプログラム全体の譜読み
 第3回:後期学内演奏会のプログラム全体の譜読み
 第4回:合奏において、全体の中での自分の役割を知る
 第5回:分奏を取り混ぜ、パート譜を正確に読み作品の中の自分の役割を学ぶ
 第6回:分奏を取り混ぜ、パート譜を正確に読み作品の中の自分の役割を学ぶ
 第7回:合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める
 第8回:合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める
 第9回:合奏において個々の作品を分析し深い理解を進める
 第10回:演奏会にむけてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる
 第11回:シンフォニック・ウインド・アンサンブル(Aプラス)定期演奏会(聴講必須)
 第12回:演奏会にむけてリハーサル進捗を客観的に分析し公演への個々の準備計画を立てる
 第13回:後期演奏会のための総練習
 第14回:Bプラス定期演奏会

◆準備学習の内容◆

個人的に個人練習およびパート練習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業・演奏会等への出席・参加・取り組み姿勢によって単位を認定する。
 毎回の授業で出される課題(担当教員からのフィードバックあり)の達成度を含め、総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	SWS465N		
科目名	管弦楽A		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦,幸西 秀彦,高橋 聖純,青木 高志,永峰 高志,松井 直之,工藤 俊幸,平子 ひさえ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- 1 ガイダンス
- 2 音楽鑑賞教室への導入
- 3 全体リハーサル①
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②
- 7 音楽鑑賞教室への仕上げ
- 8 音楽鑑賞教室への総練習
- 9 音楽鑑賞教室Aゲネプロ
- 10 音楽鑑賞教室A演奏会
- 11 音楽鑑賞教室Bゲネプロ
- 12 音楽鑑賞教室B演奏会
- 13 音楽鑑賞教室Cゲネプロ
- 14 音楽鑑賞教室C演奏会
- 15 音楽鑑賞教室Dゲネプロ
- 16 佐藤財団演奏会ゲネプロ
- 17 佐藤財団演奏会
- 18 前期定期演奏会への導入
- 19 全体リハーサル①譜読み
- 20 全体リハーサル②曲想確認
- 21 管打分奏、弦分奏①譜読みの確認前半
- 22 管打分奏、弦分奏②譜読みの確認後半
- 23 全体リハーサル③指揮の見方の演習
- 24 全体リハーサル④アンサンブルの確認
- 25 前期定期演奏会への仕上げ①技術的
- 26 前期定期演奏会への仕上げ②音楽的
- 27 前期定期演奏会への総練習①歴史的観点から曲想をとらえる。
- 28 前期定期演奏会への総練習②精神的観点から表現力を身につける。
- 29 前期定期演奏会への総練習③上記すべての観点を確認する。
- 30 前期定期演奏会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出来る人と出来ない人が生じる。したがって単に出欠率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS466N		
科目名	管弦楽B		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦,幸西 秀彦,高橋 聖純,青木 高志,永峰 高志,松井 直之,平子 ひさえ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。
週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- オペラへの導入
- オーケストラ全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- オーケストラ分奏①譜読み前半
- オーケストラ分奏②譜読み後半
- オーケストラ全体リハーサル②全曲のイメージ確認
- 歌入りリハーサル①歌手とのアンサンブル演習
- 歌入りリハーサル②歌手とのアンサンブル確認
- 舞台稽古①オーケストラビットでの奏法の会得
- 舞台稽古②オーケストラビットでのステージとのアンサンブル演習
- 総練習
- オペラゲネプロ①演習
- オペラゲネプロ②確認
- オペラ公演①1日目
- オペラ公演②2日目
- 後期定期演奏会への導入
- 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる前半
- 全体リハーサル②全曲のイメージをとらえる後半
- 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 全体リハーサル③全曲のイメージ確認
- 全体リハーサル④指揮の見方の演習
- 後期定期演奏会への仕上げ①アンサンブルの確認
- 後期定期演奏会への仕上げ②技術的
- 後期定期演奏会への総練習①音楽的
- 後期定期演奏会への総練習②歴史的観点から曲想をとらえる。
- 後期定期演奏会への総練習③精神的観点から表現力を身につける。
- 後期定期演奏会
- 現代音楽作品研究への導入
- 現代音楽作品研究
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠出席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS467N		
科目名	管弦楽C		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦, 幸西 秀彦, 高橋 聖純, 青木 高志, 永峰 高志, 松井 直之, 工藤 俊幸, 平子 ひさえ		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		
	ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- 1 ガイダンス
- 2 音楽鑑賞教室への導入
- 3 全体リハーサル①
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②
- 7 音楽鑑賞教室への仕上げ
- 8 音楽鑑賞教室への総練習
- 9 音楽鑑賞教室Aゲネプロ
- 10 音楽鑑賞教室A演奏会
- 11 音楽鑑賞教室Bゲネプロ
- 12 音楽鑑賞教室B演奏会
- 13 音楽鑑賞教室Cゲネプロ
- 14 音楽鑑賞教室C演奏会
- 15 音楽鑑賞教室Dゲネプロ
- 16 佐藤財団演奏会ゲネプロ
- 17 佐藤財団演奏会
- 18 前期定期演奏会への導入
- 19 全体リハーサル①譜読み
- 20 全体リハーサル②曲想確認
- 21 管打分奏、弦分奏①譜読みの確認前半
- 22 管打分奏、弦分奏②譜読みの確認後半
- 23 全体リハーサル③指揮の見方の演習
- 24 全体リハーサル④アンサンブルの確認
- 25 前期定期演奏会への仕上げ①技術的
- 26 前期定期演奏会への仕上げ②音楽的
- 27 前期定期演奏会への総練習①歴史的観点から曲想をとらえる。
- 28 前期定期演奏会への総練習②精神的観点から表現力を身につける。
- 29 前期定期演奏会への総練習③上記すべての観点を確認する。
- 30 前期定期演奏会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
 授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出入れる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
 ・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
 ・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
 尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS468N		
科目名	管弦楽D		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦, 幸西 秀彦, 高橋 聖純, 青木 高志, 永峰 高志, 松井 直之, 平子 ひさえ		
学年	1年, 4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3, 火4, 金3, 金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- オペラへの導入
- オーケストラ全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- オーケストラ分奏①譜読み前半
- オーケストラ分奏②譜読み後半
- オーケストラ全体リハーサル②全曲のイメージ確認
- 歌入りリハーサル①歌手とのアンサンブル演習
- 歌入りリハーサル②歌手とのアンサンブル確認
- 舞台稽古①オーケストラビットでの奏法の会得
- 舞台稽古②オーケストラビットでのステージとのアンサンブル演習
- 総練習
- オペラゲネプロ①演習
- オペラゲネプロ②確認
- オペラ公演①1日目
- オペラ公演②2日目
- 後期定期演奏会への導入
- 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる前半
- 全体リハーサル②全曲のイメージをとらえる後半
- 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 全体リハーサル③全曲のイメージ確認
- 全体リハーサル④指揮の見方の演習
- 後期定期演奏会への仕上げ①アンサンブルの確認
- 後期定期演奏会への仕上げ②技術的
- 後期定期演奏会への総練習①音楽的
- 後期定期演奏会への総練習②歴史的観点から曲想をとらえる。
- 後期定期演奏会への総練習③精神的観点から表現力を身につける。
- 後期定期演奏会
- 現代音楽作品研究への導入
- 現代音楽作品研究
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS469N		
科目名	管弦楽法B I		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

西洋音楽がその長い歴史のなかで作り上げてきた絢爛たる音色の世界オーケストラ、そして吹奏楽——古典から近現代までの豊かなオーケストレーションのメカニズムを知ることにより作品への理解を深め、演奏・作曲・編曲へ生かす。この領域を知することは、あらゆる音楽の現場において重要なことと言えます。(1)実演、映像、音源等により、楽器のメカニズム、特性と奏法等を学ぶ。(2)様々なオーケストラ・スコアと、ピアノ曲の優れたオーケストレーションの例を分析し、書法を学ぶ。(3)ピアノの名曲による様々な小課題をオーケストレーションすることにより、スコアリングの技術を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 序論
第2回 弦楽器について理解を深める(弦楽合奏研究)
第3回 スコアリング実習(1):弦楽器の書法を身につける(前半)
第4回 スコアリング実習(2):弦楽器の書法を身につける(後半)
第5回 木管楽器について理解を深める(木管合奏研究)
第6回 スコアリング実習(3):木管楽器の書法を身につける(前半)
第7回 スコアリング実習(4):木管楽器の書法を身につける(後半)
第8回 金管楽器について理解を深める(金管合奏研究)
第9回 スコアリング実習(5):金管楽器の書法を身につける(前半)
第10回 スコアリング実習(6):金管楽器の書法を身につける(後半)
第11回 打楽器について理解を深める(打楽器合奏研究)
第12回 スコアリング実習(7):打楽器の書法を身につける(前半)
第13回 スコアリング実習(8):打楽器の書法を身につける(後半)
第14回 スコアリング実習(9):オーケストラ・スコアの書き方について理解を深める
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

オーケストラ作品をただ聴くだけでなく、普段からスコアと併せて学習するよう心がける。
毎日曲を聴いたりして授業にそなえること(目安毎日1時間)

◆成績評価の方法◆

授業内試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜資料を配付する。

◆参考図書◆

G.ヤコブ著 管弦楽技法
W.ピストン著 管弦楽法
伊福部昭著 管弦楽法
ベルリオーズ、R.シュトラウス、リムスキー・コルサコフ等の管弦楽法著書

◆留意事項◆

五線紙持参のこと。

ナンバリング	SWS470N		
科目名	管弦楽法BⅡ		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

西洋音楽がその長い歴史のなかで作り上げてきた絢爛たる音色の世界オーケストラ、そして吹奏楽——古典から近現代までの豊かなオーケストレーションのメカニズムを知ることにより作品への理解を深め、演奏・作曲・編曲へ生かします。この領域を知ることが、あらゆる音楽の現場において重要なことと言えます。(1)実演、映像、音源等により、楽器のメカニズム、特性と奏法等を理解する(2)様々なオーケストラ・スコアと、ピアノ曲の優れたオーケストレーションの例を分析し、書法を理解する。(3)ピアノの名曲による様々な小課題をオーケストレーションすることにより、スコアリングの技術を体得する。(4)受講生自身の選んだ楽曲又は自作品のオーケストレーションを行い実践力を涵養する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 総譜(スコア)の書き方について理解を深める
- 第2回 2管編成の研究
- 第3回 スコアリング実習(1):2管編成の書法を学ぶ(前半)
- 第4回 スコアリング実習(2):2管編成の書法を学ぶ(後半)
- 第5回 吹奏楽の研究
- 第6回 スコアリング実習(3):吹奏楽の書法を学ぶ(前半)
- 第7回 スコアリング実習(4):吹奏楽の書法を学ぶ(後半)
- 第8回 パート譜の書き方について理解を深める
- 第9回 スコアリング実習(5):総合的な視点を学ぶ(前半)
- 第10回 スコアリング実習(6):総合的な視点を学ぶ(後半)
- 第11回 スコアリング実習(7):オーケストレーションを仕上げる(前半)
- 第12回 スコアリング実習(8):オーケストレーションを仕上げる(後半)
- 第13回 オーケストラ(または吹奏楽)による試演を通じ知識を体感する(前半)
- 第14回 オーケストラ(または吹奏楽)による試演を通じ知識を体感する(後半)
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

オーケストラ作品をただ聴くだけでなく、普段からスコアと併せて学習するよう心がける。
毎日曲を聴いたりして授業にそなえること(目安毎日1時間)

◆成績評価の方法◆

授業内試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜資料を配付する。

◆参考図書◆

G.ヤコブ著 管弦楽技法
W.ピストン著 管弦楽法
伊福部昭著 管弦楽法
ベルリオーズ、R.シュトラウス、リムスキー・コルサコフ等の管弦楽法著書

◆留意事項◆

五線紙持参のこと。

ナンバリング	SWS471N		
科目名	吹奏楽A		
科目詳細			
担当教員	井手 詩朗, 高橋 聖純, 田中 靖人, 岸良 開城		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	木3,木4,木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ブラスオーケスターの大編成による合奏を通して、アンサンブルのスキルを身に付けるとともに、出演の有無にかかわらず、演奏会実現のための様々な役割を果たそうとすることで、プロの演奏者及び吹奏楽指導者としての資質を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 定期演奏会に向けた譜読みと6月7日のハミングホールコンサートの譜読み
- 第2回 定期演奏会の演奏曲とハミングホールコンサートの合奏の基礎を作る
- 第3回 ハミングホールコンサートの質を高める
- 第4回 ハミングホールコンサートの仕上げ
- 第5回 ハミングホールコンサートのGP
- 第6回 定期演奏会の演奏曲前半の流れを作り質を高める
- 第7回 定期演奏会の演奏曲後半の流れを作り質を高める
- 第8回 定期演奏会の演奏曲全体の流れを作り質を高める
- 第9回 定期演奏会の演奏曲前半の仕上げ
- 第10回 定期演奏会の演奏曲後半の仕上げ
- 第11回 定期演奏会の演奏曲後半(アンコールを含む)の仕上げ
- 第12回 定期演奏会の演奏曲全体の通し稽古と流れの確認
- 第13回 定期演奏会の演奏曲のGP
- 第14回 ブラスオーケスター第66回定期演奏会(東京文化会館)
- 第15回 定期演奏会の振り返り

◆準備学習の内容◆

参考音源を聴いておくこと。また、スコア・リーディングや自分のパートの練習を十分行って授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業や演奏会への取り組み状況によって評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏会で演奏する楽譜(パート譜を貸し出すので、きれいに使用すること)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆留意事項◆

履修生で当該演奏会に出演しない者も、演奏会及びリハーサルの見学を積極的に行うこと。

ナンバリング	SWS472N		
科目名	吹奏楽B		
科目詳細			
担当教員	井手 詩朗, 高橋 聖純, 田中 靖人, 岸良 開城		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	木3,木4,木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

ウィンド・アンサンブルの柔軟な編成を通して、多様なアンサンブルのスキルを身に付けるとともに、出演の有無にかかわらず、演奏会実現のための様々な役割を果たそうとすることで、プロの演奏者及び吹奏楽指導者としての資質を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第1回 立飛ステージガーデンコンサートの譜読み
<立飛ステージガーデンコンサートプログラム>曲目未定
第2回 立飛ステージガーデンコンサートの仕上げ
<SWE定期演奏会プログラム>曲目未定
第3回 シンフォニックウインドアンサンブル(以下SWE)の譜読み
第4回 SWE演奏曲の前半プログラムの質を高める
第5回 SWE演奏曲の後半プログラムの質を高める
第6回 SWE演奏曲の打楽器中心の分奏
第7回 SWE演奏曲の前半の流れを作る
第8回 SWE演奏曲の後半の流れを作る
第9回 SWE定期演奏会の全体の流れを作りながら仕上げを行う
第10回 SWE定期演奏会の全体の仕上げ
第11回 SWE定期演奏会GP
第12回 第64回SWE定期演奏会
第13回 青梅佐藤財団演奏曲の譜読み
<青梅佐藤財団演奏会プログラム>曲目未定
第14回 青梅佐藤財団演奏曲の仕上げ
第15回 青梅佐藤財団コンサート(羽村ゆとりぎホール)

◆準備学習の内容◆

参考音源を聴いておくこと。また、スコア・リーディングや自分のパートの練習を十分行って授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業や演奏会への取り組み状況によって評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏会で演奏する楽譜(パート譜を貸し出すので、きれいに使用すること)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆留意事項◆

※いずれの授業でも、次の力を身に付けるよう、自ら進んで工夫をすること。

- ・楽譜を読む力
- ・音を聴く力
- ・考えて演奏する力
- ・心を通して演奏する力

※履修生で、当該演奏会に出演しない者も、演奏会及びリハーサルの見学を積極的に行い、演奏表現の工夫や演奏会開催のための多様な仕事を学ぶこと。

ナンバリング	SWS473N		
科目名	吹奏楽C		
科目詳細			
担当教員	井手 詩朗, 高橋 聖純, 田中 靖人, 岸良 開城		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	木3,木4,木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

ブラスオーケスターの大編成による合奏を通して、アンサンブルのスキルを高めるとともに、出演の有無にかかわらず、演奏会実現のための様々な役割を果たすことで、プロの演奏者及び吹奏楽指導者としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 定期演奏会に向けた譜読みと6月7日のハミングホールコンサートの譜読み
- 第2回 定期演奏会の演奏曲とハミングホールコンサートの合奏の基礎を作る
- 第3回 ハミングホールコンサートの質を高める
- 第4回 ハミングホールコンサートの仕上げ
- 第5回 ハミングホールコンサートのGP
- 第6回 定期演奏会の演奏曲前半の流れを作り質を高める
- 第7回 定期演奏会の演奏曲後半の流れを作り質を高める
- 第8回 定期演奏会の演奏曲全体の流れを作り質を高める
- 第9回 定期演奏会の演奏曲前半の仕上げ
- 第10回 定期演奏会の演奏曲後半の仕上げ
- 第11回 定期演奏会の演奏曲後半(アンコールを含む)の仕上げ
- 第12回 定期演奏会の演奏曲全体の通し稽古と流れの確認
- 第13回 定期演奏会の演奏曲のGP
- 第14回 ブラスオーケスター第66回定期演奏会(東京文化会館)
- 第15回 定期演奏会の振り返り

◆準備学習の内容◆

参考音源を聴いておくこと。また、スコア・リーディングや自分のパートの練習を十分行って授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業や演奏会への取り組み状況によって評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏会で演奏する楽譜(パート譜を貸し出すので、きれいに使用すること)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆留意事項◆

※いずれの授業でも、次の力を高めるよう、自ら進んで工夫をすること。

- ・楽譜を読む力
- ・音を聴く力
- ・考えて演奏する力
- ・心を通して演奏する力

※履修生で、当該演奏会に出演しない者も、演奏会及びリハーサルの見学を積極的に行い、演奏表現の工夫や演奏会開催のための多様な仕事を学ぶこと。

ナンバリング	SWS474N		
科目名	吹奏楽D		
科目詳細			
担当教員	井手 詩朗, 高橋 聖純, 田中 靖人, 岸良 開城		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	木3,木4,木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

ウィンド・アンサンブルの柔軟な編成を通して、多様なアンサンブルのスキルを高めるとともに、出演の有無にかかわらず、演奏会実現のための様々な役割を果たすことで、プロの演奏者及び吹奏楽指導者としての資質を磨く。

◆授業内容・計画◆

第1回 立飛ステージガーデンコンサートの譜読み
<立飛ステージガーデンコンサートプログラム>曲目未定
第2回 立飛ステージガーデンコンサートの仕上げ
<SWE定期演奏会プログラム>曲目未定
第3回 シンフォニックウインドアンサンブル(以下SWE)の譜読み
第4回 SWE演奏曲の前半プログラムの質を高める
第5回 SWE演奏曲の後半プログラムの質を高める
第6回 SWE演奏曲の打楽器中心の分奏
第7回 SWE演奏曲の前半の流れを作る
第8回 SWE演奏曲の後半の流れを作る
第9回 SWE定期演奏会の全体の流れを作りながら仕上げを行う
第10回 SWE定期演奏会の全体の仕上げ
第11回 SWE定期演奏会GP
第12回 第64回SWE定期演奏会
第13回 青梅佐藤財団演奏曲の譜読み
<青梅佐藤財団演奏会プログラム>曲目未定
第14回 青梅佐藤財団演奏曲の仕上げ
第15回 青梅佐藤財団コンサート(羽村ゆとりぎホール)

◆準備学習の内容◆

参考音源を聴いておくこと。また、スコア・リーディングや自分のパートの練習を十分行って授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業や演奏会への取り組み状況によって評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏会で演奏する楽譜(パート譜を貸し出すので、きれいに使用すること)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆留意事項◆

※いずれの授業でも、次の力を高めるよう、自ら進んで工夫をすること。

- ・楽譜を読む力
- ・音を聴く力
- ・考えて演奏する力
- ・心を通して演奏する力

※履修生で、当該演奏会に出演しない者も、演奏会及びリハーサルの見学を積極的に行い、演奏表現の工夫や演奏会開催のための多様な仕事を学ぶこと。

ナンバリング	SWL476N		
科目名	室内楽作品研究B		
科目詳細			
担当教員	岡田 安樹浩		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

1) 取り組む作品について研究し、演奏だけでなく言葉でも作品について語ることができるようになる 2) 室内楽のレパートリーについて知識と関心を深める 3) 室内楽レパートリーを拡充する

◆授業内容・計画◆

受講者によるグループ発表とディスカッションを中心に構成される演習形式の授業です。

受講者には、グループごとに演奏する作品のプログラム・ノートを作成するための文献収集、読解、楽曲分析などを行ってもらいます。そして、発表とディスカッションを通して内容をブラッシュアップしてゆき、最終的に学期末に予定されている試演会において、実際にプログラム・ノートを印刷・配布して演奏を行ってもらいます。

自主企画の室内楽演奏会を開催する模擬実習のような授業と考えてください。

以下のような流れで進める予定ですが、実際のスケジュールは受講人数に応じて変更する可能性があります。

- 第1回 授業ガイダンス／グループ・演奏曲目の決定
- 第2回 作品研究の方法：文献・資料の収集／楽曲分析の方法など
- 第3回 グループAによる発表（1回目）
- 第4回 グループBによる発表（1回目）
- 第5回 グループCによる発表（1回目）
- 第6回 グループDによる発表（1回目）
- 第7回 グループEによる発表（1回目）
- 第8回 プログラム・ノートの書き方
- 第9回 グループAによる発表（2回目）
- 第10回 グループBによる発表（2回目）
- 第11回 グループCによる発表（2回目）
- 第12回 グループDによる発表（2回目）
- 第13回 グループEによる発表（2回目）
- 第14回 試演会
- 第15回 まとめと評価

プログラム・ノートは1曲あたり1200字程度の分量を想定しています。

演奏会の曲目解説の書き方を身につけたい方、大学院への進学を考えている方（課題研究や修士論文などを執筆する基礎的な知識と経験を積むことができます）、自主企画のコンサートを開催している（していきたいと思っている）方には特におすすめの授業だと思います。

◆準備学習の内容◆

作品についての研究と演奏の両面で準備が必要です。

◆成績評価の方法◆

授業内での発表の内容とディスカッションへの参加の程度、学期末の試演会での発表（プログラム・ノートと演奏）により総合的に成績評価します。

◆教科書（使用テキスト）◆

特になし

◆参考図書◆

リチャード・J・ウィンジェル『改訂新版 音楽の文章術：論文・レポートの執筆から文献表記法まで』（宮澤淳一・小倉真理訳）春秋社

受講者の選択した作曲家・作品についての参考文献については授業内で紹介します。

◆留意事項◆

初回のガイダンスでグループ分けと曲目を決定するので、必ず出席してください。

自分が担当する回をやむを得ない理由で欠席する場合、曲目変更・受講生間での発表日程の交換等を行う場合には、必ず担当教員に相談と報告をしてください。

ナンバリング	SWS477N		
科目名	上級アンサンブルA		
科目詳細	弦楽器		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金 2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

アンサンブルI～IVで培った弦楽合奏の基礎学習と演奏経験を踏まえ、更に合奏能力の向上を目指す。合奏における「個人的表現」の可能性を探る。成果発表としてBオーケ前期学内演奏会への出演。

◆授業内容・計画◆

積極的に新曲・新分野に取り組む。

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)音程・テンポ・リズム・表現を他の奏者と共有すること。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進捗に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)～(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)～(11)までの内容の反復。
- (15)成果発表

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要があり、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。

また、授業の進捗については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

授業終了前後を問わず機会を求め、公開演奏をもって成果を示す。

◆準備学習の内容◆

楽譜配布後は、最初の合奏までに自パートを自習しておく。(2～5時間程度)
ヴァイオリン担当のヴァイオリン専攻生は特に事前の準備に留意すること。(2～5時間程度)

◆成績評価の方法◆

作品と演奏への取り組み姿勢により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

リュートの為の古代舞曲とアリア第3番(レスピーギ)
弦楽セレナーデ(ドヴォルジャーク)
弦楽のための交響曲(メンデルスゾーン)
その他より選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン科履修生は交代でヴィオラを担当することがある。

ナンバリング	SWS477N		
科目名	上級アンサンブルA		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	1年,3年	クラス	07
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

木管楽器のアンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回音程、タイミングの合わせ方、課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、上級アンサンブルAのまとめ

◆準備学習の内容◆

譜読みなどの個々の技術的準備、課題曲のリハーサル、曲の背景の調査など。

◆成績評価の方法◆

各授業に対する準備、出席状況、アンサンブル的演奏技量などを評価の対象とする。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS478N		
科目名	上級アンサンブルB		
科目詳細	弦楽器		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

前期での目標に加え、更に履修生の自主的なアンサンブルへの取り組みを促す。様々な曲のスタイルに応じた奏法を習得し、個々の表現として完成し得る能力を涵養する。

◆授業内容・計画◆

前期の授業を継続すると共に、ここでは履修生が自主的に演奏を仕上げることも試みると同時に、アンサンブル(オーケストラ)における各種奏法について、技術的な完成度を高める。

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)表現を他の奏者と共有すること。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進度に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)~(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)~(11)までの内容の反復。
- (15)まとめ

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要がある、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。

また、授業の進度については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

授業終了前後を問わず機会を求め、公開演奏をもって成果を示す。

◆準備学習の内容◆

各曲の初回練習時まで、譜読みとともに表現に至るまで個々の意思を確立しておくこと。(スコア読みを含めて3~7時間程度)

◆成績評価の方法◆

作品と演奏への取り組み姿勢により評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

弦楽セレナーデ(ドヴォルジャーク)
弦楽セレナーデ(スーク)
大フーガ(ベートーヴェン)
弦楽のための交響曲(メンデルスゾーン)
イタリアン・セレナーデ(ヴォルフ)
その他より選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専修の履修生はヴィオラを担当することもある。

ナンバリング	SWS478N		
科目名	上級アンサンブルB		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	1年,3年	クラス	07
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

木管楽器アンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、上級アンサンブルBのまとめ

◆準備学習の内容◆

譜読みなどの個々の技術的準備、課題曲のリハーサル、曲の背景の調査など。

◆成績評価の方法◆

各授業に対する準備、出席状況、アンサンブル的演奏技量などを評価の対象とする。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS479N		
科目名	上級アンサンブルC		
科目詳細	弦楽器		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

基礎アンサンブルI～IV、上級アンサンブルA/Bで培った弦楽合奏の基礎学習と演奏経験を踏まえ、更に合奏能力の向上を目指す。アンサンブルの指導法を併せて学ぶ。成果発表としてBオケ前期学内演奏会に出演する。

◆授業内容・計画◆

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)表現を他の奏者と共有すること。演奏者相互の意見交換を積極的に行う。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進度に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)～(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)～(11)までの内容の反復。
- (15)成果発表

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要がある、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。

また、授業の進度については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

授業終了前後を問わず機会を求め、公開演奏をもって成果を示す。

◆準備学習の内容◆

各曲の初回練習時まで、譜読みその他準備を完了しておくこと。(3～6時間程度)

◆成績評価の方法◆

作品と演奏への取り組み姿勢により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

リュートの為の古代舞曲とアリア第3番(レスピーギ)
弦楽セレナーデ(ドヴォルジャーク)
弦楽のための交響曲(メンデルスゾーン)
その他より選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の履修生は交代でヴィオラを担当することがある。

ナンバリング	SWS479N		
科目名	上級アンサンブルC		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	1年,4年	クラス	07
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

木管楽器アンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回 音程、タイミングの合わせ方、課題の選曲
第3回 課題一曲目の譜読み、
第4回 課題一曲目の楽曲分析
第5回 課題一曲目の表現法研究
第6回 課題一曲目の仕上げ
第7回 課題二曲目の譜読み
第8回 課題二曲目の楽曲分析
第9回 課題二曲目の表現法研究
第10回 課題二曲目の仕上げ
第11回 課題三曲目の譜読み
第12回 課題三曲目の楽曲分析
第13回 課題三曲目の表現法研究
第14回 課題三曲目の仕上げ
第15回 課題曲三曲の通し演奏、上級アンサンブルCのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み
発表演奏会への出演
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教員と相談し、授業に必要な曲のスコアとパート譜を用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS480N		
科目名	上級アンサンブルD		
科目詳細	弦楽器		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

前期での目標に加え、更に履修生の自主的なアンサンブルへの取り組みを促す。指導する立場となった際に必要なことを学ぶ。

◆授業内容・計画◆

前期の授業を継続すると共に、ここでは履修生が自主的に演奏を仕上げることも試みさせる。

指導者として必要な奏法の知識、および教授法の実践。

- (1)オリエンテーション
- (2)まずは個々の読譜の結果を合奏として体験する。
- (3)(2)の結果を基に各個人の奏法等について検討を始める。
- (4)各個人の奏法等についての検討を続ける。
- (5)(4)までの結果に従い、個々の奏法の修正等を行う。
- (6)引き続き個々の奏法の修正等を行う。
- (7)(6)までの成果によっては、表現と奏法との関連を学ぶ。
- (8)音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
- (9)その時々々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
- (10)表現を他の奏者と共有すること。演奏者相互の意見交換を積極的に行う。
- (11)他のパートを聴く=歌いながら弾くことを習慣づける。
- (12)演奏の進度に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。
- (13)上記(2)~(6)までの内容の反復。
- (14)上記(7)~(11)までの内容の反復。
- (15)まとめ

上記は個別に習得するものではなく、相互に関連づけて習得する必要がある、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。

また、授業の進度については各回の成果次第となる。選曲に関しても同様である。

授業終了前後を問わず機会を求め、公開演奏をもって成果を示す。

◆準備学習の内容◆

譜読み等を完了の上、練習に臨むこと。(4時間程度)
同時に、各自が奏法や表現に関する理論的な背景を明確にしておくこと。(2時間程度)

◆成績評価の方法◆

作品と演奏への取り組み姿勢により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

弦楽セレナーデ(ドヴォルジャーク)
弦楽セレナーデ(スーク)
大フーガ(ベートーヴェン)
弦楽のための交響曲(メンデルスゾーン)
イタリアン・セレナーデ(ヴォルフ)
その他より選曲する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専修の履修生は交代でヴィオラを担当することがある。

ナンバリング	SWS480N		
科目名	上級アンサンブルD		
科目詳細	打楽器		
担当教員	幸西 秀彦		
学年	1年,4年	クラス	07
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

木管楽器アンサンブルを通して、室内楽演奏に必要な知識と技術を学び、演奏で実践をしていく

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、上級アンサンブルDのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業内指示

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み
発表演奏会への出演
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教員と相談し、授業に必要な曲のスコアとパート譜を用意する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWP077N		
科目名	特別レッスン I		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得する。基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の扱い方、練習方法
- 第3回 基本的な奏法
- 第4回 練習曲 I -①確認、課題曲 I -①確認
- 第5回 練習曲 I -①定着、課題曲 I -①表現の工夫
- 第6回 練習曲 I -②確認、課題曲 I -①仕上げの演奏
- 第7回 練習曲 I -②定着、課題曲 I -②確認
- 第8回 練習曲 I -③確認、課題曲 I -②表現の工夫
- 第9回 練習曲 I -③定着、課題曲 I -②仕上げの演奏
- 第10回 練習曲 I -④確認、課題曲 I -③確認
- 第11回 練習曲 I -④定着、課題曲 I -③表現の工夫
- 第12回 練習曲 I -⑤確認、課題曲 I -③仕上げの演奏
- 第13回 練習曲 I -⑤定着、課題曲 I -④確認
- 第14回 課題曲 I -④表現の工夫
- 第15回 課題曲④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP078N		
科目名	特別レッスンⅡ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 特別レッスンⅡの目標と進め方の確認
 第2回 特別レッスンⅠの復習と自己の課題確認のための演奏
 第3回 練習曲Ⅱ-①確認、課題曲Ⅱ-①確認
 第4回 練習曲Ⅱ-①定着、課題曲Ⅱ-①表現の工夫
 第5回 練習曲Ⅱ-②確認、課題曲Ⅱ-①仕上げの演奏
 第6回 練習曲Ⅱ-②定着、課題曲Ⅱ-②確認
 第7回 練習曲Ⅱ-③確認、課題曲Ⅱ-②表現の工夫
 第8回 練習曲Ⅱ-③定着、課題曲Ⅱ-②仕上げの演奏
 第9回 練習曲Ⅱ-④確認、課題曲Ⅱ-③確認
 第10回 練習曲Ⅱ-④定着、課題曲Ⅱ-③表現の工夫
 第11回 練習曲Ⅱ-⑤確認、課題曲Ⅱ-③仕上げの演奏
 第12回 練習曲Ⅱ-⑤定着、課題曲Ⅱ-④確認
 第13回 課題曲Ⅱ-④曲に応じた表現の研究
 第14回 課題曲Ⅱ-④曲に応じた表現の工夫
 第15回 課題曲Ⅱ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP079N		
科目名	特別レッスンⅢ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 特別レッスンⅢの目標と進め方の確認
第2回 特別レッスンⅡの復習と自己の課題確認のための演奏
第3回 練習曲Ⅲ-①確認、課題曲Ⅲ-①確認
第4回 練習曲Ⅲ-①定着、課題曲Ⅲ-①表現の工夫
第5回 練習曲Ⅲ-②確認、課題曲Ⅲ-①仕上げの演奏
第6回 練習曲Ⅲ-②定着、課題曲Ⅲ-②確認
第7回 練習曲Ⅲ-③確認、課題曲Ⅲ-②表現の工夫
第8回 練習曲Ⅲ-③定着、課題曲Ⅲ-②仕上げの演奏
第9回 練習曲Ⅲ-④確認、課題曲Ⅲ-③確認
第10回 練習曲Ⅲ-④定着、課題曲Ⅲ-③表現の工夫
第11回 練習曲Ⅲ-⑤確認、課題曲Ⅲ-③仕上げの演奏
第12回 練習曲Ⅲ-⑤定着、課題曲Ⅲ-④確認
第13回 課題曲Ⅲ-④曲に応じた表現の研究
第14回 課題曲Ⅲ-④曲に応じた表現の工夫
第15回 課題曲Ⅲ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP080N		
科目名	特別レッスンⅣ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得し、基礎課程のまとめにふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を磨く。

◆授業内容・計画◆

第1回 特別レッスンⅣの目標と進め方の確認
第2回 特別レッスンⅢの復習と自己の課題確認のための演奏
第3回 練習曲Ⅳ-①確認、課題曲Ⅳ-①確認
第4回 練習曲Ⅳ-①定着、課題曲Ⅳ-①表現の工夫
第5回 練習曲Ⅳ-②確認、課題曲Ⅳ-①仕上げの演奏
第6回 練習曲Ⅳ-②定着、課題曲Ⅳ-②確認
第7回 練習曲Ⅳ-③確認、課題曲Ⅳ-②表現の工夫
第8回 練習曲Ⅳ-③定着、課題曲Ⅳ-②仕上げの演奏
第9回 練習曲Ⅳ-④確認、課題曲Ⅳ-③確認
第10回 練習曲Ⅳ-④定着、課題曲Ⅳ-③表現の工夫
第11回 練習曲Ⅳ-⑤確認、課題曲Ⅳ-③仕上げの演奏
第12回 練習曲Ⅳ-⑤定着、課題曲Ⅳ-④確認
第13回 課題曲Ⅳ-④曲に応じた表現の研究
第14回 課題曲Ⅳ-④曲に応じた表現の工夫
第15回 課題曲Ⅳ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP495N		
科目名	特別レッスンⅤ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 多様なジャンルの演奏に関する目標と進め方の確認
- 第2回 基礎課程の復習としての演奏と、専門課程における自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅴ-①確認、課題曲Ⅴ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅴ-①定着、課題曲Ⅴ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅴ-②確認、課題曲Ⅴ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅴ-②定着、課題曲Ⅴ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅴ-③確認、課題曲Ⅴ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅴ-③定着、課題曲Ⅴ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅴ-④確認、課題曲Ⅴ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅴ-④定着、課題曲Ⅴ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅴ-⑤確認、課題曲Ⅴ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅴ-⑤定着、課題曲Ⅴ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅴ-④曲にふさわしい表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅴ-④曲にふさわしい表現の工夫
- 第15回 課題曲Ⅴ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP496N		
科目名	特別レッスンVI		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 多様なジャンルの演奏に関する目標と進め方の確認
- 第2回 特別レッスンVの復習と自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲VI-①確認、課題曲VI-①確認
- 第4回 練習曲VI-①定着、課題曲VI-①表現の工夫
- 第5回 練習曲VI-②確認、課題曲VI-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲VI-②定着、課題曲VI-②確認
- 第7回 練習曲VI-③確認、課題曲VI-②表現の工夫
- 第8回 練習曲VI-③定着、課題曲VI-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲VI-④確認、課題曲VI-③確認
- 第10回 練習曲VI-④定着、課題曲VI-③表現の工夫
- 第11回 練習曲VI-⑤確認、課題曲VI-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲VI-⑤定着、課題曲VI-④確認
- 第13回 課題曲VI-④曲にふさわしい表現の研究
- 第14回 課題曲VI-④曲にふさわしい表現の工夫
- 第15回 課題曲VI-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP497N		
科目名	特別レッスンⅦ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソロ、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 レパートリーの拡大のための目標と進め方の確認
- 第2回 特別レッスンⅥの復習と自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅶ-①確認、課題曲Ⅶ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅶ-①定着、課題曲Ⅶ-①表現の工夫
- 第5回 練習曲Ⅶ-②確認、課題曲Ⅶ-①仕上げの演奏
- 第6回 練習曲Ⅶ-②定着、課題曲Ⅶ-②確認
- 第7回 練習曲Ⅶ-③確認、課題曲Ⅶ-②表現の工夫
- 第8回 練習曲Ⅶ-③定着、課題曲Ⅶ-②仕上げの演奏
- 第9回 練習曲Ⅶ-④確認、課題曲Ⅶ-③確認
- 第10回 練習曲Ⅶ-④定着、課題曲Ⅶ-③表現の工夫
- 第11回 練習曲Ⅶ-⑤確認、課題曲Ⅶ-③仕上げの演奏
- 第12回 練習曲Ⅶ-⑤定着、課題曲Ⅶ-④確認
- 第13回 課題曲Ⅶ-④曲にふさわしい表現の研究
- 第14回 課題曲Ⅶ-④曲にふさわしい表現の工夫
- 第15回 課題曲Ⅶ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング	SWP498N		
科目名	特別レッスンⅧ		
科目詳細	(S)		
担当教員	教員		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を確実に習得し、専門課程のしめくりにふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術を一層磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 レパートリーの拡大のための目標と進め方の確認等
- 第2回 特別レッスンⅦの復習と音楽家としての自己の課題の確認のための演奏
- 第3回 練習曲Ⅶ-①確認、課題曲Ⅶ-①確認
- 第4回 練習曲Ⅶ-①定着、課題曲Ⅶ-①表現の研究
- 第5回 練習曲Ⅶ-②確認、課題曲Ⅶ-①表現の工夫
- 第6回 練習曲Ⅶ-②定着、課題曲Ⅶ-①仕上げ
- 第7回 練習曲Ⅶ-③確認、課題曲Ⅶ-②確認
- 第8回 練習曲Ⅶ-③定着、課題曲Ⅶ-②表現の研究
- 第9回 練習曲Ⅶ-④確認、課題曲Ⅶ-②表現の工夫
- 第10回 練習曲Ⅶ-④定着、課題曲Ⅶ-②仕上げ
- 第11回 課題曲Ⅶ-③確認
- 第12回 課題曲Ⅶ-③曲にふさわしい表現の研究
- 第13回 課題曲Ⅶ-③曲にふさわしい表現の工夫
- 第14回 課題曲Ⅶ-③曲にふさわしい表現の一層の工夫
- 第15回 課題曲Ⅶ-④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み姿勢をもとに評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ) I		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。
- ・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の仕組みと奏法の基礎
- 第3回 演奏姿勢と呼吸法
- 第4回 音作りの研究
- 第5回 トライアド:ナンバリングと視覚化
- 第6回 トライアド:転回形とその視覚化
- 第7回 セブンス・コードとドミナント・モーション
- 第8回 コードトーンによるインプロヴィゼーション:Take the A Train
- 第9回 コードトーンによるインプロヴィゼーション:Blues
- 第10回 コードトーンによるインプロヴィゼーション:まとめ
- 第11回 スケールのナンバリングとハーモニック・リズムの理解
- 第12回 ドミナント・スケール
- 第13回 ドミナント・スケールによるフレーズの作成
- 第14回 サブドミナント・スケール
- 第15回 専門実技(ジャズ) I のまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な練習時間を費やすこと。(目安毎日1時間以上)
演奏する内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。
- ・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 奏法と呼吸法の確認
- 第3回 テトラコード:基本形
- 第4回 テトラコード:転回形
- 第5回 マイナー・テトラコード
- 第6回 テトラコードによるメロディーラインの作成
- 第7回 スイングビートにおける8分音符の演奏法
- 第8回 ビバップ・ラインの演奏法
- 第9回 ドミナント・ビバップ・スケール
- 第10回 ドミナント・ビバップ・スケールによるフレーズの作成
- 第11回 V7 - I :コードトーンとスケール
- 第12回 V7 - I :フレーズの作成
- 第13回 II m7 - V7 - I :コードトーンとスケール
- 第14回 II m7 - V7 - I :フレーズの作成
- 第15回 専門実技(ジャズ)Ⅱのまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な時間を費やすこと。(目安毎日1時間以上)
吹く内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ビバップ的ラインの作り方について学び、ハーモニー感覚を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技ⅠⅡの復習と課題の確認
- 第3回 II m7 - V7 - I :スタンダードナンバーでの実践
- 第4回 II m7 - V7 - I :アイデアの発展
- 第5回 ハーモニックマイナー・パーフェクト5th・ピロウ
- 第6回 II m7b5 - V7b9 - I m:フレーズの作成
- 第7回 II m7b5 - V7b9 - I m:スタンダードナンバーでの実践
- 第8回 III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I :仕組み
- 第9回 III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I :フレーズの作成
- 第10回 #IV m7b5 - VII7b9 - III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I
- 第11回 メジャー・ビバップ・スケール
- 第12回 メジャー・ビバップ・スケールによるフレーズの作成
- 第13回 ドミナントとメジャー・ビバップ・スケールの連結
- 第14回 その他のビバップ・スケール
- 第15回 専門実技(ジャズ)Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクリプトをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ビバップ的ラインの作り方について学び、ハーモニー感覚を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技Ⅲの復習と課題の確認
- 第3回 ガイドトーン・ライン
- 第4回 ガイドトーンのソロへの応用
- 第5回 ブルースの構造
- 第6回 ブルーススケールとペントニック
- 第7回 ペントニック・スケールの基礎
- 第8回 ペントニック・ライン
- 第9回 コードとペントニック
- 第10回 マイナー6th ペントニック
- 第11回 ペントニック on Blues
- 第12回 楽曲でのペントニックの使用法
- 第13回 ポキャブラリーの習得とその発展の方法
- 第14回 トランスクライプしたソロのアナライズ
- 第15回 専門実技(ジャズ)Ⅳのまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクライプをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ビバップ的アプローチを基本に、それ以降のスタイルについて積極的に研究を重ね、習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技Ⅳの復習と課題の確認
- 第3回 奏法と呼吸法の再確認
- 第4回 テンションノート
- 第5回 ジャズ・メロディックマイナー・スケール
- 第6回 メロディックマイナーのコードとスケールの関係
- 第7回 ロクリアン#2 スケール
- 第8回 ロクリアン#2 と メロディック・マイナー・スケールの関係
- 第9回 オルタード・スケール(メロディックマイナーを活用)
- 第10回 リディアンb7・スケール(メロディックマイナーを活用)
- 第11回 アプローチノートの基礎
- 第12回 アプローチノートを用いたアイデアの発展
- 第13回 ダブル・アプローチノート
- 第14回 アプローチノートのフレーズへの組み込み
- 第15回 専門実技(ジャズ)Ⅴのまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクリプトをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ビバップ的アプローチを基本に、それ以降のスタイルについて積極的に研究し、習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技Ⅴの復習と課題の確認
- 第3回 デミニッシュ・スケール(half/whole)の基礎
- 第4回 デミニッシュ・スケールを用いたパターン作成のためのアイデア
- 第5回 V7でのデミニッシュ・スケールの活用
- 第6回 デミニッシュ・スケール(whole/half)
- 第7回 さまざまなデミニッシュ・コードへの対処法
- 第8回 トライアド・ペア(ヘクサトニック)の基礎
- 第9回 トライアド・ペア:コードとスケールの関係
- 第10回 トライアド・ペアを用いたアイデアの発展
- 第11回 カップリング・トライアド
- 第12回 モード奏法の基礎
- 第13回 モードへのアプローチ法
- 第14回 モードに対するアイデアの発展
- 第15回 専門実技(ジャズ)Ⅵのまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクリプトをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

3年間で習得した知識と技術を更に発展させ、即興演奏・伴奏を確実なものにする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技Ⅵの復習と課題の確認
- 第3回 自己の奏法を見つめ直す 美しい音色のために
- 第4回 フォース・インターバル
- 第5回 フォース・サイクル
- 第6回 フォースを用いたアイデアの発展
- 第7回 クロマチック・スケール
- 第8回 クロマチック的アプローチ
- 第9回 コルトレーン・チェンジ: Giant Steps
- 第10回 コルトレーン・チェンジ: Count Down
- 第11回 コルトレーン・チェンジ: その他の楽曲
- 第12回 ブルース: 12 Keys
- 第13回 ブルース(ビバップ・チェンジ): 12 keys
- 第14回 スロー・ブルース
- 第15回 ジャズ専門実技Ⅶのまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクリプトをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング			
科目名	専門実技(ジャズ)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	8単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

3年間で習得した知識と技術を更に発展させ、即興演奏・伴奏を確実なものにする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ専門実技Ⅶの復習と課題の確認
- 第3回 ボサノバ:歴史とその音楽
- 第4回 ボサノバ:レパートリー
- 第5回 課題曲1:曲のアナリーゼとそれに基づくアイデアの構築
- 第6回 課題曲1:より自由な演奏のために
- 第7回 課題曲2:曲のアナリーゼとそれに基づくアイデアの構築
- 第8回 課題曲2:より自由な演奏のために
- 第9回 奏法上の問題点の克服
- 第10回 デュエット:聴き合う
- 第11回 デュエット:混じる
- 第12回 課題曲3:曲の背景を知る
- 第13回 課題曲3:演奏表現を広げる
- 第14回 課題曲3:仕上げ
- 第15回 ジャズ専門実技のまとめ

◆準備学習の内容◆

積極的にトランスクリプトをし、それについて分析すること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング	JZP025N		
科目名	クラシック基礎実技 I		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

楽器演奏に必要な、基礎技術、基礎訓練方法、練習方法をクラシック音楽等の学習を通じて習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 基本奏法
- 第3回 練習方法
- 第4回 音の確認と課題発見 課題曲1による
- 第5回 まとまりのある演奏に向けた工夫 課題曲1による
- 第6回 仕上げ 課題曲1による
- 第7回 音の確認と課題発見 課題曲2による
- 第8回 演奏表現の検討 課題曲2による
- 第9回 演奏表現の工夫 課題曲2による
- 第10回 仕上げ 課題曲2による
- 第11回 音の確認、演奏のポイント 課題曲3による
- 第12回 楽曲の背景と演奏表現の検討 課題曲3による
- 第13回 演奏表現の工夫 課題曲3による
- 第14回 仕上げ 課題曲3による
- 第15回 クラシック基礎実技 I のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

レッスン前に演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安毎日1時間)

◆成績評価の方法◆

担当者による授業内評価。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

各担当者の裁量により、学生の資質、レベルに応じて学習内容が決定され、授業内で行われる成績評価をすべく、前期末の到達目標を設定し計画的に進められる。

ナンバリング	JZP026N		
科目名	クラシック基礎実技Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

クラシック基礎実技Ⅱに引き続き、楽器演奏に必要な、基礎技術、基礎訓練方法、練習方法をクラシック音楽等の学習を通じて習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 クラシック基礎実技Ⅰの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 音の確認、演奏のポイント 課題曲4による
- 第4回 楽曲の背景と演奏表現の検討 課題曲4による
- 第5回 演奏表現の工夫 課題曲4による
- 第6回 仕上げ 課題曲4による
- 第7回 音の確認と演奏のポイント 課題曲5による
- 第8回 楽曲の背景と演奏表現の検討 課題曲5による
- 第9回 演奏表現の工夫 課題曲5による
- 第10回 仕上げ 課題曲5による
- 第11回 音の確認と演奏のポイント 課題曲6による
- 第12回 楽曲の背景と演奏表現の検討 課題曲6による
- 第13回 アンサンブル 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 アンサンブル 仕上げ
- 第15回 クラシック基礎実技Ⅱのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

レッスン前に、演奏する曲を十分に練習しておく。(目安毎日1時間)

◆成績評価の方法◆

各担当者による授業内評価。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当者による指示教材。

◆参考図書◆

各担当者による推薦図書。

◆留意事項◆

各担当者の裁量により、学生の資質、レベルに応じて学習内容が決定され、授業内で行われる成績評価をすべく、学年末の到達目標を設定し計画的に進められる。

ナンバリング	JZS027N		
科目名	即興演奏 I		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

- (1)コードトーンのみを使ってインプロヴァイズする訓練を積み、徐々にスケールの使用まで発展することができる。
(2)コード・トーンの構成音と基本的なスケールの関係を理解し、ハーモニック・リズムを学び、ラインを作ることができる。
(3)ドミナント・モーションでの基本的なリックを身に付け実践することができる。

◆授業内容・計画◆

- (1)ジャズ誕生までの歴史 ディスカッション
(2)コード・プログレッション
(3)ダイアトニック・スケール・コード
(4)セカンダリー・ドミナント
(5)トライアドとコードトーン
(6)テトラコード
(7)ドミナント・モーション
(8)メジャー・キーにおけるII-V-I プログレッション
(9)ガイドトーン・ライン
(10)ビバップ・スケール
(11)マイナー・キーにおけるII-V-I プログレッション
(12)ハーモニックマイナー・パーフェクト・フィフス・ピロウ
(13)ロクリアン#2
(14)代理コード
(15)まとめ

基本的に随所で伴奏に合わせてそれぞれの楽器を演奏し、理論の理解と実践を並行して授業を進める。

◆準備学習の内容◆

コードとスケールの関係を理解し、頭の中で視覚化できるように訓練を重ねる。

◆成績評価の方法◆

授業内での理解度と実践力
宿題の提出
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

「インサイド・インプロヴィゼーション・シリーズ」
Vol.1 メロディック・ストラクチャー
Vol.3 ジャズ・ライン
ジェリー・バーガンジ著(ATN,inc)

「ザ・ジャズ・セオリー」
Mark Levine著(ATN,inc)

◆留意事項◆

毎回の授業には必ず専門楽器を持参すること

ナンバリング	JZS028N		
科目名	即興演奏Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

即興演奏Iで学んだ基本的なことからさらに発展し、それぞれのコード上での可能性を広げ、演奏することができる。譜面を見るという行為から極力離れ、より自由にインプロヴァイズする能力を高められる。

◆授業内容・計画◆

ドミナント・モーションを中心に、より深くコード・チェンジを理解し実践する。

- (1)ペンタトニック・スケール#1基礎知識
- (2)ペンタトニック・スケール#2実践
- (3)ペンタトニック・スケール#3応用
- (4)テンション・ノート
- (5)テンション・リゾルヴ(緊張音の解決)
- (6)デミニッシュ・スケール half/whole, whole/half
- (7)デミニッシュ・スケールの応用
- (8)オルタード・スケール#1メロディック・マイナー応用
- (9)オルタード・スケール#2トライアド・ペア応用
- (10)ジャズ・メロディックマイナー・スケールの応用
- (11)リディアン♭7スケール#1基礎知識
- (12)リディアン♭7スケール#2実践と応用
- (13)その他のスケール
- (14)セッション
- (15)まとめ

◆準備学習の内容◆

それぞれの課題は、テクニカルな練習と並行し、スタンダード・ナンバーなどのコード・チェンジにのせ実践的な練習を積む。

◆成績評価の方法◆

授業内での理解度と実践力
宿題、レポート
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

「インサイド・インプロヴィゼーション・シリーズ」
Vol.2 ペンタトニック・スケール
ジェリー・バーガンジ著(ATN,inc.)

◆留意事項◆

常に楽器を通して学ぶこと。

ナンバリング	JZS029N		
科目名	即興演奏Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

より高度なことをより単純明快に、そして瞬時に考え実践することができる。

◆授業内容・計画◆

- (1)トライアド・ペア(ヘクサトニック)
- (2)モードにおけるトライアド・ペアの使用法
- (3)トライアド・ペア応用
- (4)トライアド・ペアまとめ
- (5)ディミニッシュ・コードにおけるアプローチ
- (6)コルトレーン・チェンジ Giant Steps
- (7)コルトレーン・チェンジ その他の曲
- (8)コルトレーン・チェンジの応用
- (9)ボキャブラリーの習得とその発展の方法
- (10)ジャズのリズムと言語との関係
- (11)リズム・セクションのあり方
- (12)ビバップ的作曲と演奏#1作曲
- (13)ビバップ的作曲と演奏#2演奏
- (14)セッション
- (15)まとめ

それぞれの課題を様々なコード・プログレッションで試す。
また実際のスタンダード・ナンバーに合わせて実践する。

◆準備学習の内容◆

トランスクリプトを積極的に行う。
そして、学習したことに照らし合わせアナライズする。

◆成績評価の方法◆

宿題、レポート
授業内での理解力と実践力
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

「メロディック・マイナー・スケール」
ラーモン・リッカー(ATN,inc.)

「ザ・ジャズ・セオリー」
Mark Levine著(ATN,inc.)

◆留意事項◆

楽器を通して学ぶこと。

ナンバリング	JZS030N		
科目名	即興演奏Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

I、I I、I I I を通して学んできたジャズ・インプロヴィゼーションをするためのスキルを基にセッション形式で実践し、意識を持って演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- (1)歌詞とメロディーの関係による作曲法
- (2)コンスタント・ストラクチャー
- (3)コンスタント・ストラクチャーによる作曲と演奏#1作曲
- (4)コンスタント・ストラクチャーによる作曲と演奏#2演奏
- (5)バラードの演奏法
- (6)バラードの作曲と演奏
- (7)スタンダード・ナンバー#1
- (8)スタンダード・ナンバー#2(I、I I、I I I、IVで学んだことを踏まえセッション形式で実践する)
- (9)ボサノバ#1アントニオ・カルロス・ジョビンの作品研究
- (10)ボサノバ#2実践
- (11)セッション#1ジャズ・ミュージシャンによる作品を題材に
- (12)セッション#2隠れた名曲を題材に
- (13)オリジナル曲の作曲と演奏#1試演と修正
- (14)オリジナル曲の作曲と演奏#2演奏
- (15)まとめ

◆準備学習の内容◆

決められた曲の中で、どのようなアイデアを使うことができるのかを考える。
インプロヴィゼーションの場になったら暗譜で演奏できるように、1曲づつ地道に覚えていく。

◆成績評価の方法◆

授業内での理解力と実践力
レポート
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

「ハウ・トゥー・インプロヴァイズ」
ハル・クルツク著(ATN,inc)

◆留意事項◆

No Thinking !
演奏する時に考えてはだめ。感じること。
しかしそれは、考える練習をとことんやった上での話である。

ナンバリング	JZS031N		
科目名	ジャズ・アンサンブル I		
科目詳細			
担当教員	宮本 貴奈, 熊谷ヤスマサ		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

スイングのリズムに対する意識の持ち方を習得する。
アンサンブルにおいて、コール&レスポンスの基本を習得。

楽譜に表記出来ないリズム(基本形)を体感し習得する。

◆授業内容・計画◆

スイング感の習得(デキシード・スタイルを演奏、学習)
バラード、変拍子の演奏方法
ラテンのリズムを習得
前期、後期合わせて習得した内容の復習

2ビートスイングの演奏方法
4ビートスイングの演奏方法
ポリリズムが複合されたスイング感の習得

バラードの演奏方法習得
3拍子、5拍子、7拍子の授業(その1)基本的なグルーヴの習得
3拍子、5拍子、7拍子の授業(その2)小節線を越えるリズムのバリエーション

サルサ、サンバなどラテンリズムの演奏法 基本的なグルーヴの習得
サルサ、ソングなどラテンリズムの演奏法 小節線を越えるリズムのバリエーション
サンバ、ボサノヴァ等、ブラジルのリズム習得

スイング、ラテン、変拍子を複合する楽曲の演奏法を習得
生徒の選曲、編曲による発表会

◆準備学習の内容◆

次の授業で演奏する曲のスタイルの楽曲を前もって聞いておくこと。
どういうスタイルの音楽を聞けば良いかは毎回の授業終了後に口頭で伝えます。

◆成績評価の方法◆

実技(演奏能力、和音判断聴力)、コンサートの構成員
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて作成します。

◆参考図書◆

Jazz Standard Bible 1 & 2,
Real Book

◆留意事項◆

ジャズを演奏するにあたって何よりもリズムが大切であるという意識をしっかりと学習する。
スイング感を頭でなく、体で覚えて行く感覚を養う。
アンサンブルをする時にまず自分よりも相手の音を聞くということを習得する。

ナンバリング	JZS032N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅡ		
科目詳細			
担当教員	宮本 貴奈, 熊谷ヤスマサ		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

前期で習得したリズムスタイルを更に深く、また変拍子のリズムも学習する。

ジャズコンボにおける曲の構成について学習する。

テーマ(曲)を基にして即興でイントロからエンディングまで演奏する技術と知識を習得する。

◆授業内容・計画◆

アドリブのスタイルの違いを研究、実践する。
ダイナミクスやテンポの即興性を高める。
他の演奏者の音を聞いて、ビート(四分音符)を読み(感じ)取る聴力を養う。
変拍子、ルバートの研究(授業)

トラディショナルなスタイルでの演奏法、アドリブの練習
モダンジャズにおける演奏法、アドリブの練習
「間、無音」を使ってリズムバリエーションを作り、アドリブ演奏の幅を広げる。

音量(ダイナミクス)の即興性、順応性を高める事により、アンサンブルの表現力の幅を広げる。
テンポの即興性、順応性を高める事により、アンサンブルの表現力の幅を広げる。
上記2点を同時に応用できる実力を高める

アドリブのリズム性(その1) 一音一音の強弱や音の長さの具体的なコントロール法を習得
アドリブのリズム性(その2) 基本グルーヴから外れて自由に表現する方法を習得
ポリリズムを用いた即興メロディの習得

変拍子、ルバートの研究(実践)

生徒の選曲と構成による発表会

◆準備学習の内容◆

メトロノームやドラム演奏をガイドに、自由なリズムを演奏する練習をすること。
4分や8分、また3連や5連音符といった割り切れる音符を用いずに即興のメロディーを演奏しながら、自分の体の中で正確なリズム(テンポ)をキープする練習を毎日行うこと。

◆成績評価の方法◆

実技、クラス内での発表会
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

このクラスはアンサンブルの基本を習得するクラスです。
ジャズで「グルーヴする」という言葉をよく耳にしますが、本当の意味のグルーヴというのは相手を聞く事からしか作れないという事をこのクラスで習得します。

それによってアンサンブルがより楽しいものになり、演奏をしている時の視野が広がり、結果として自分の即興演奏が楽に、そして一層意味のある物語をになって行きます。
そのまずベースをこのクラスでしっかりと楽しみながら習得して欲しいです。

ナンバリング	JZS033N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅢ		
科目詳細			
担当教員	井上 陽介		
学年	2年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

I、IIで得た基本を元により密度の濃いインタープレイを即興的に作り上げる方法を模索、体験し習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 基本的なジャズスタンダードナンバーAABA形式の楽曲の演奏。
第3回 基本的なジャズスタンダードナンバーABAB形式の楽曲の演奏。
第4回 基本的なブルース形式の楽曲の演奏。
第5回 変則的なスタンダードナンバーの楽曲の演奏。
第6回 変則的なジャズスタンダードナンバーの楽曲の演奏。
第7回 アップテンポにおけるリズムセクションの作り方。
第8回 スローテンポにおけるリズムセクションの作り方。
第9回 スイング形式における各個人のビートの独立性の捉え方。
第10回 ラテン音楽に準じた各個人のビートの独立性の捉え方。
第11回 ロックリズムにおける各個人のビートの独立性の捉え方。
第12回 各人の編曲とアンサンブルのリードのやり方について学ぶ。
第13回 各人のオリジナルの作曲と演奏と要望の伝達のやり方と学ぶ。
第14回 ブルース形式に立ち戻りビートの発展性を確かめる。
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

沢山の音源を聞き、ジャズの伝統の根源に流れるものを体得しておく。

◆成績評価の方法◆

実技、授業への取り組み。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

ジャズスタンダードの楽譜集。作成された譜面。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

あくまで各楽器のグルーブを大切にしながら、お互いの音を聞くことによって得られる、インプロビゼーションの表現力を磨くこと。
優れたインプロバイザーとは何かを考えることを忘れないようにする。

ナンバリング	JZS034N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅣ		
科目詳細			
担当教員	井上 陽介		
学年	2年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズアンサンブルⅢで習得した能力をもとに、各生徒の個別のコンセプトを 追求し、グループに還元させていく能力を身につける。そのためにアイデアを 生徒に提出してもらい、アンサンブル全体で実践して成果を確かめていく。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 生徒自身のアレンジのアイデアとアンサンブルにおける指導力を試す(1)リーダーとして曲の説明
第3回 生徒自身のアレンジのアイデアとアンサンブルにおける指導力を試す(2)リズムセクションへの要請
第4回 生徒自身のアレンジのアイデアとアンサンブルにおける指導力を試す(3)ソロセクションへの要請
第5回 歴史的な名演のアレンジを研究し個人のアイデアとの比較(1)モダンジャズ時期のスタイル
第6回 歴史的な名演のアレンジを研究し個人のアイデアとの比較(2)コンテンポラリーのスタイル
第7回 生徒自身のオリジナルナンバーの演奏しアンサンブルにおけるアレンジ力を試す(1)リーダーとしての説明
第8回 生徒自身のオリジナルナンバーの演奏しアンサンブルにおけるアレンジ力を試す(2)リズムセクションへの要請
第9回 生徒自身のオリジナルナンバーの演奏しアンサンブルにおけるアレンジ力を試す(3)ソロセクションへの要請
第10回 各個人をフィーチャーし、実際のコンサート時に必要な能力を考える(1)パーフォーマーとしての心がけ
第11回 各個人をフィーチャーし、実際のコンサート時に必要な能力を考える(2)バランス感覚を養う
第12回 基本的なスタンダードナンバーに立ち戻り成果を確かめる。
第13回 基本的なブルースナンバーに立ち戻り成果を確かめる。
第14回 アップテンポの演奏で成果を確かめ、技術的な完成を目指す。
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

沢山の音源を聞き、ジャズにおける根源となるものへの研究。ジャズ以外の音楽にも目を向ける。音楽の根源となるものを模索する。

◆成績評価の方法◆

実技、授業への取り組み。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

ジャズスタンダードの譜面集。作成された譜面。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズの根幹に根差したものを失わずにより自由なアンサンブルへ視野を広げる。
あくまでグループを大切に。他人の音を聞くことを忘れずに。

ナンバリング	JZS037N		
科目名	ジャズ伴奏法 I		
科目詳細	ピアノ、ベース、ドラムスのみ		
担当教員	塩谷 哲		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ピアノトリオにおける伴奏のバリエーションをリズム、ハーモニー、スタイルなど様々な観点から研究していく。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ・スタンダード(1)テーマの弾き方
- 第3回 ジャズ・スタンダード(2)グルーヴ
- 第4回 ジャズ・スタンダード(3)アンサンブル
- 第5回 ジャズ・スタンダード(4)イントロ・エンディング
- 第6回 ジャズ・スタンダード(5)アドリブの意義
- 第7回 ジャズ・スタンダード(6)アドリブの方法
- 第8回 ジャズ・スタンダード(7)アドリブの実践
- 第9回 ジャズ・スタンダード(8)アドリブの現在と未来
- 第10回 ジャズ・スタンダード(10)2台ピアノ
- 第11回 ラテン(1)クラーク
- 第12回 ラテン(2)モントゥーノⅠ ～2-3クラーク～
- 第13回 ラテン(3)モントゥーノⅡ ～3-2クラーク～
- 第14回 ラテン(4)各楽器の役割
- 第15回 ラテン(5)グルーヴ

◆準備学習の内容◆

様々なリズムスタイル、様々な楽器編成における的確な伴奏の例を、普段からその点に着目しながらCDや生演奏を聴くことで掴んでおく。

◆成績評価の方法◆

実技、アレンジ、コミュニケーション能力等、授業中のあらゆる場면을総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズの演奏の基本であるリズムセクションの大切さ、アンサンブルの大切さを体験し認識する事。

ナンバリング	JZS038N		
科目名	ジャズ伴奏法Ⅱ		
科目詳細	ピアノ、ベース、ドラムスのみ		
担当教員	塩谷 哲		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ伴奏法Ⅰで習得したものをさらに発展させる。実際の管楽器等のソリストの伴奏を体験し、本質と可能性について考察する。スイング以外のリズム、特にラテン音楽を体験し、各楽器の役割とアンサンブルのあり方を認識する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ラテン(6)アンサンブルⅠ 各楽器の役割
- 第2回 ラテン(7)アンサンブルⅡ リズムの組み合わせの理解
- 第3回 ラテン(8) Rumba, Salsa, Mambo etc.
- 第4回 ラテン(9) Samba, Bossa Nova etc.
- 第5回 ラテン(10) Tango
- 第6回 トリオ研究(1) Oscar Peterson
- 第7回 トリオ研究(2) Bill Evans
- 第8回 トリオ研究(3) Herbie Hancock
- 第9回 トリオ研究(4) Chick Corea
- 第10回 トリオ研究(5) Keith Jarrett
- 第11回 学生によるオリジナル曲(1) 楽曲の分析
- 第12回 学生によるオリジナル曲(2) アレンジ
- 第13回 学生によるオリジナル曲(3) 演奏上の留意点
- 第14回 学生によるオリジナル曲(4) 総合
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

ジャズ伴奏法Ⅰと同様に様々な観点から実際に演奏されたものを聴き、考察する。

◆成績評価の方法◆

実技、アレンジ、コミュニケーション能力等、授業中のあらゆる場面を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

伴奏によって演奏のクオリティーが大きく変わる事を認識する。各楽器のアンサンブル時における反応、対応の力を磨き、様々な現場で対処出来る力を作る基礎を固める事の大切さを感じ取る。

ナンバリング	JZS039N		
科目名	ビッグバンドA		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、ビッグバンドというスタイルが出来上がった歴史を学びながら、編成などを覚えます。
- 2、ダンスミュージックだったビッグバンド音楽がどのようにして一般に浸透していったかを当時の代表曲を題材に学びます。
- 3、コンボ編成とビッグバンド編成のリズム隊の演奏の仕方を学びます。
- 4、スイングジャズとビッグバンドの関係を代表曲を題材に学びます。
- 5、ラテンジャズとビッグバンドの関係を代表曲を題材に学びます。
- 6、コンボ編成の代表曲やコンテンポラリーの代表曲をビッグバンド編成に編曲したものでスイング、ラテンなどとの違いを学びます。
- 7、ビッグバンドにおけるセクションのあり方を各セクションごとに代表曲を題材に学びます。
- 8、トランペット、トロンボーン、サクソ、各セクションビッグバンドにおける役割を代表曲を題材に学びます。
- 9、リズム隊とプラスセクションのビッグバンドでの役割を代表曲を題材に学びます。
- 10、ドラムとリードトランペット。リードトランペットとその他のTb、Saxセクションとの細かい結びつきを代表曲を題材に学びます。
- 11、ピアニストがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 12、ドラマーがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 13、ベーシストがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 14、トランペットがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 15、11～14でやらなかったその他の演奏家がリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなければいけないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS040N		
科目名	ビッグバンドB		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、ビッグバンドからコンボ編成中心の時代を代表曲を題材に学びます。
- 2、現代のビッグバンドとビックバンドという形態が出来た当時の音楽との違いを代表曲を題材に学びます。
- 3、ビッグバンドにおけるソロ演奏の仕方を学びます。
- 4、初見の演奏方法を代表曲を題材に学びます。
- 5、譜面に書いてあることを、書ききれない事などを代表曲を題材に学びます。
- 6、特殊な編成のビッグバンドを代表曲を題材に学びます。
- 7、セクションごとにフィーチャーされ代表曲を題材に学びます。
- 8、実際のコンサートで、音場環境がよくない場所における演奏方法を代表曲を題材に学びます。
- 9、既にある曲を自分たちで変えたい場合のアレンジ方法、ソロの配分考慮を学びます。
- 10、Saxセクションが様々な楽器を持ち替える(フルート、クラリネット)を代表曲を題材に学びます。
- 11、プラスセクションのミュートの使い方を代表曲を題材に学びます。
- 12、大きいサイズの演奏場所と小さい場所の演奏ノウハウを代表曲を題材に学びます。
- 13、録音スタジオでの作品の作り方、代表曲を題材に学びます。
- 14、録音したものと自分が演奏して直接聞こえる感覚の違いを代表曲を題材に学びます。
- 15、大きな音、小さな音の作品を代表曲を題材に学びます。

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなければいけないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS041N		
科目名	ビッグバンドC		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、現代ビッグバンド代表曲を題材に学びます。
- 2、現代のビッグバンドとダンスビッグバンドという形態が出来た当時の音楽の共通点を代表曲を題材に学びます。
- 3、ビッグバンドにおけるラテン音楽の仕方を学びます。特にパーカッション
- 4、バリトンサックスとバストロンボーン的重要性、演奏方法を代表曲を題材に学びます。
- 5、バラードなどで必要な音程感を代表曲を題材に学びます。
- 6、16のビートを代表曲を題材に学びます。
- 7、フルートがフィーチャーされた代表曲を題材に学びます。
- 8、実際のコンサートで、音場環境がよくない場所における演奏方法を代表曲を題材に学びます。
- 9、既にある曲のソロの配分考慮を学びます。
- 10、楽器を持ち替える(フルート、クラリネット)を代表曲を題材に学びます。
- 11、ビッグバンドの代表曲で数パターンのアレンジがある作品を学びます。
- 12、長時間のリハーサルを行う時重要なポイントなのを代表曲を題材に学びます。
- 13、録音の際のマイクの使い方代表曲を題材に学びます。
- 14、マイクの特性とマイク選びを代表曲を題材に学びます。
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなれば行けないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS042N		
科目名	ビッグバンドD		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	2年,4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、ビッグバンドの代表曲を題材に、アーティキュレーションを学びます。
- 2、編曲家によってアーティキュレーション違いを代表曲を題材に学びます。
- 3、ソロ演奏時の効果的バックグラウンドの仕方を学びます。
- 4、長い時間の曲(20分以上)演奏方法を代表曲を題材に学びます。
- 5、譜面に書いてあることを、書ききれない事などを代表曲を題材に学びます。
- 6、ビッグバンドの一般的な配置と普段あまりやらない配置の違い、それを演奏する時のコツなど
- 7、セクションごとにフィーチャーされ代表曲を題材に学びます。
- 8、ライブハウスとコンサートホール、場所における演奏方法の違いを題材に学びます。
- 9、もしビッグバンドで演奏していて、不慮の事態に備える方法を学びます。
- 10、リズムセクションが様々な楽器を持ち替える(ベース、エレキベース、ピアノ、キーボード)を代表曲を題材に学びます。
- 11、ブラスセクションのミュートの効果的な使い方を代表曲を題材に学びます。
- 12、リードの役割とサイドの役割を代表作を題材に学びます。
- 13、スタジオでの作品の作り方、代表曲を題材に学びます。
- 14、スタジオで録音したものとホールで録音したものの比較を題材に学びます。
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなれば行けないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、平常の授業への取り組み、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS425N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅤ		
科目詳細			
担当教員	金子 健, 池田 篤		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-001	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ソングライターの楽曲を題材にスモールアンサンブルでの表現を学ぶ。オリジナルを正しく学ぶことから、スタンダードの解釈を深める。スタンダードソングを素材に各自のジャズコンセプトの確立を目指す。アンサンブルにおけるコミュニケーション能力とImprovisationの向上を目指す。アンサンブル・リーダーとして選曲/参考資料/収集と発表/アレンジ/譜面作成/リーダーとして意向を伝える。

◆授業内容・計画◆

- [1] Jerome Kern (1) Verse & Swing – “All The Things You Are” etc.
- [2] Jerome Kern (2) Minor Tune – “Yesterdays” etc.
- [3] Cole Porter (1) Ballard – “Every Time We Say Goodbye” etc.
- [4] Cole Porter (2) Latin & Swing – “Love For Sale” etc.
- [5] George Gershwin (1) Fast Swing – “I Got Rhythm” etc.
- [6] George Gershwin (2) Verse – “Someone To Watch Over Me” etc.
- [7] Richard Rodgers (1) Swing – “Have You Met Miss Jones?” etc.
- [8] Richard Rodgers (2) Jazz Waltz – “My Favorite Things” etc.
- [9] Harold Arlen (1) Verse & Swing – “As Long As I Live” etc.
- [10] Harold Arlen (2) Fast Swing – “My Shining Hour” etc.
- [11] Jule Styne (1) Swing – “It’s You Or No One Line” etc.
- [12] Jule Styne (2) Ballard – “Things We Did Last Summer” etc.
- [13] Jimmy Van Heusen (1) Medium Slow – “I Thought About You” etc.
- [14] Jimmy Van Heusen (2) Swing – “Like Someone In Love” etc.
- [15] Johnny Mandel (1) Jazz Waltz – “Emily” etc.

◆準備学習の内容◆

上記に掲載したコンポーザーの楽曲を演奏しているCDを出来るだけ多く聴き、同じ曲においての様々なアプローチの違いを聴くこと。また、VocalのCDも聴き、楽曲の理解も深める。

◆成績評価の方法◆

アンサンブル実技試験
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で配布

◆参考図書◆

スタンダード・ジャズのすべて大事典 ベスト850
小川隆夫 著

◆留意事項◆

アンサンブルでは各々がリーダーとしてバンドをまとめる実習もします。リーダーとしての自覚、またサイドメンとしての役割も常に考えて臨むこと。

ナンバリング	JZS426N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅥ		
科目詳細			
担当教員	金子 健, 池田 篤		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-001	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズオリジナル楽曲を題材にスモールアンサンブルでの表現を学ぶ。オリジナルを正しく学ぶことから、スタンダードの解釈を深める。ジャズオリジナル楽曲を素材に各自のジャズコンセプトの確立を目指す。アンサンブルにおけるコミュニケーション能力とImprovisationの向上を目指す。アンサンブル・リーダーとして 選曲/参考資料/収集と発表/アレンジ/譜面作成/リーダーとして意向を伝える。

◆授業内容・計画◆

- [1] Duke Ellington (1) Swing –“Don't Get Around Much Anymore” etc.
- [2] Duke Ellington (2) Fast Swing –“Cottontail” etc.
- [3] Charlie Parker (1) Jazz Contrabass–“Ornithology” etc.
- [4] Dizzy Gillespie (1) Latin & Swing – “A Night In Tunisia” etc.
- [5] Tadd Dameron (1) Ballad –“If You Could See Me Now” etc.
- [6] Thelonious Monk (1) Swing –“I Mean You” etc.
- [7] Thelonious Monk (2) Intro & Ending–“Round Midnight” etc.
- [8] Miles Davis (1) Jazz Contrabass –“Half Nelson” etc.
- [9] Miles Davis (2) Jazz Waltz –“All Blues” etc.
- [10] Sonny Rollins (1) Swing –“Pent Up House” etc.
- [11] Sonny Rollins (2) Jazz Waltz –“Valse Hot” etc.
- [12] Horace Silver (1) Latin & Swing –“Nica's Dream” etc.
- [13] Horace Silver (2) Second Line –“The Preacher” etc.
- [14] Benny Golson (1) Swing –“Whisper Not” etc.
- [15] John Coltrane(1) Fast Swing–“Moment's Notice” etc.

◆準備学習の内容◆

上記に掲載したアーティストのオリジナル楽曲を聴くとともに、同じ曲をとりあげているほかのアーティストのアプローチも聴くこと。

◆成績評価の方法◆

アンサンブル実技試験
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で配布

◆参考図書◆

「スタンダード・ジャズのすべて大事典 ベスト850」小川隆夫 著

◆留意事項◆

アンサンブルでは各々がリーダーとしてバンドをまとめる実習もします。リーダーとしての自覚、またサイドメンとしての役割も常に考えて臨むこと。

ナンバリング	JZS427N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅦ		
科目詳細			
担当教員	高橋 信之介, 小曾根 真		
学年	4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズを演奏する上で最も重要なリズムの理解をより深め、アンサンブルを通して各楽器パートの役割を確認し、リズムで共演者と繋がっていく感覚を身につける。ジャズの各時代の曲を演奏しながら、リズム、メロディー、ハーモニーの関係を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 New Orleans Jazz、特にセカンドラインが用いられる曲を演奏しながらジャズの基本的なスウィング感、リズムのボキャブラリーを学ぶ。
- 第2回 Swing Jazzの曲を演奏しながら、各楽器パートの役割を理解する。
- 第3回 Bluesの曲を演奏しながら、3連符、グルーヴ、スウィングの理解をより深める。
- 第4回 Be-Bop、Charlie Parker、Dizzy Gillespieを題材に、リズム、メロディ、ハーモニーの関係、それ以前のジャズから何が、どの様に発展していったか理解しながらスタイルの演奏法を身につける。
- 第5回 Hard Bopの曲を題材に、リズム、メロディ、ハーモニーの関係、それ以前のジャズから何が、どの様に発展していったか理解しながらスタイルの演奏法を身につける。
- 第6回 Thelonious Monkの曲を題材に、リズムのボキャブラリー、インタープレイのアイデアを学ぶ。
- 第7回 Miles Davisの曲を題材に、リズム、メロディ、ハーモニーの関係、それ以前のジャズから何が、どの様に発展していったか理解しながらスタイルの演奏法を身につける。
- 第8回 John Coltraneの曲を題材に、リズム、メロディ、ハーモニーの関係、それ以前のジャズから何が、どの様に発展していったか理解しながらスタイルの演奏法を身につける。
- 第9回 Bill Evansの曲を題材に、より緻密なリズム、メロディ、ハーモニーを使ったインタープレイのアイデアを学ぶ。
- 第10回 Ornette Colemanの曲を題材にリズム、メロディ、ハーモニーの関係、それ以前のジャズから何が、どの様に発展していったか理解しながらスタイルの演奏法を身につける。
- 第11回 変拍子の曲を演奏し、変拍子のバリエーションを学び、リズムの理解をより深める。
- 第12回 ポリリズムのバリエーション、ボキャブラリーを演奏し、リズムの理解をより深める。
- 第13回 変拍子の中でのポリリズムの使い方を学び、より鋭いリズムの感覚身につける。
- 第14回 小曾根先生による特別授業。
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏予定の曲の予習、様々なアーティストの演奏を聴いて、演奏方法、表現の仕方を研究し、習得する。

◆成績評価の方法◆

実技、授業への取り組みで評価。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

Real Book
その他、必要に応じて作成します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズはリズムが命です。しかし、ただパターンや正確なリズムを勉強すれば良いかと言えばそうでは無いところがジャズの難しい所であり、楽しい所でもあります。ジャズのリズムを理解するのは新しい言語を習得するプロセスと同じです。リズムで繋がる事が出来れば、より音楽がアンサンブルが楽しく、深い物になって行きます。

ナンバリング	JZS428N		
科目名	ジャズ・アンサンブルⅧ		
科目詳細			
担当教員	高橋 信之介, 小曾根 真		
学年	4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

前期で習得したリズムの感覚を、より即興演奏、表現の手段として生かして行く。ブルース、ジャズ、ラテン、ブラジル音楽、学生各自のオリジナル曲を題材に、楽曲を深く考察し、アンサンブルの中での各楽器の役割を理解した上で演奏、表現する能力を身につける。学生のオリジナル曲を題材にする際、曲を提供する学生は、作曲家、バンドリーダーとしての役割を学び、曲を与えられた学生は作曲者の意向を理解し、曲の世界観に合った演奏、表現方法を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ブルースを題材にし、時代背景、歌詞を理解して、フィーリングを表現する方法を習得。
- 第2回 ジャズスタンダードを題材にし、時代背景、歌詞を理解して、フィーリングを表現する方法を習得。
- 第3回 ラテン音楽の様々なリズム、各楽器の役割を学ぶ。
- 第4回 ブラジル音楽の様々なリズム、各楽器の役割を学ぶ。
- 第5回 Funk, R&Bを題材にして、グルーヴの作り方を学ぶ
- 第6回 フリージャズを題材に、ゼロから何かを表現する
- 第7回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく。
 - 1、作曲家、バンドリーダーとしての役割
- 第8回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく。
 - 2、楽曲の分析、考察。
- 第9回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく。
 - 3、演奏者からのアイデアの提供
- 第10回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく。
 - 4、リズムセクションの役割
- 第11回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく。
 - 5、メロディ楽器の役割
- 第12回 学生のオリジナル曲を演奏し、曲とアンサンブルのクオリティーを高めていく
 - 6、アンサンブル中のリーダーシップ
- 第13回 小曾根先生による特別授業
- 第14回 学生の選択曲による発表会
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏予定の曲の予習、様々なアーティストの演奏を聴いて、演奏方法、表現の仕方を研究し、習得する。

◆成績評価の方法◆

実技、授業への取り組みで評価。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

Real Book
その他、必要に応じて作成します

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズは様々な異文化との交流で発展してきました。可能な限り沢山の音楽を聴き、より多くの文化に触れてもらいたい。
授業を通して、人の音を良く聴く、意向、意見を尊重しながら自分のアイデアも出して行く、と言ったコミュニケーションの大切さを実感してもらいたい。それはジャズをより深く理解する事につながると考えます。

ナンバリング	JZS429N		
科目名	ビッグバンドE		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、ビッグバンド黄金時代の代表曲を題材に、アンサンブルの作り方学びます。
- 2、コンテンポラリービッグバンドの代表曲を題材に、アンサンブルの作り方学びます。
- 3、コンボとビッグバンドが融合したような小編成のビッグバンドの代表曲を題材に学びます。
- 4、ディークエリントン代表曲を題材に学びます。
- 5、パットメセニーの代表曲を題材に学びます。
- 6、ドンセベスキーの代表曲を題材に学びます。
- 7、ベニーグッドマン、ウディー・ハーマンの代表曲を題材に学びます。
- 8、ディキシランドジャズの代表曲を題材に学びます。
- 9、ラテンジャズの代表曲を題材に学びます。
- 10、バラードの演奏をトミードーシー楽団の代表曲を使って学びます。
- 11、クラシック音楽を使ったビッグバンドアレンジの代表曲を題材に学びます。
- 12、ファストスイングの代表作を題材に学びます。
- 13、ミディアムスイングの代表曲を題材に学びます。
- 14、ファストロックの代表曲を題材に学びます。
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなければいけないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度

授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS430N		
科目名	ビッグバンドF		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	3年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、アンサンブルをやる時にリード同士のコミュニケーションの方法を学びます。
- 2、アンサンブル時の音程を作り方を学びます。
- 3、ジャズバンド特有のハーモニーをアンサンブルする方法を学びます。
- 4、シンプルな発音でスイングする方法を代表曲を使って学びます。
- 5、ジャズアンサンブルに出てくる特有の発音記号、アティキュレーションを学びます。
- 6、リードとして演奏する為の心構えを学びます。
- 7、サイドとして演奏する為の心構えを学びます。
- 8、ドラムが演奏すべきことを皆で理解することをドラマーがリーダーの楽団の代表曲を使って学びます。
- 9、リハーサル時の注意する事と本番で注意する事を学びます。
- 10、演奏時間による音楽の組み立て方を学びます。
- 11、リハーサルの進め方を実際に進めてもらい、シュミレーションします。
- 12、ビッグバンドにおけるコンダクトの方法とその技術。
- 13、最大音量を出す為の技術を学びます。
- 14、近年の音楽と30年代の音楽のボリューム、ビブラートの技術を学びます。
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でなければ行けないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS431N		
科目名	ビッグバンドG		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、ビッグバンドというスタイルが出来上がった歴史を学びながら、編成などを覚えます。
- 2、ダンスミュージックだったビッグバンド音楽がどのようにして一般に浸透していったかを当時の代表曲を題材に学びます。
- 3、コンボ編成とビッグバンド編成のリズム隊の演奏の仕方を学びます。
- 4、スイングジャズとビッグバンドの関係を代表曲を題材に学びます。
- 5、ラテンジャズとビッグバンドの関係を代表曲を題材に学びます。
- 6、コンボ編成の代表曲やコンテンポラリーの代表曲をビッグバンド編成に編曲したものでスイング、ラテンなどとの違いを学びます。
- 7、ビッグバンドにおけるセクションのあり方を各セクションごとに代表曲を題材に学びます。
- 8、トランペット、トロンボーン、サクソ、各セクションビッグバンドにおける役割を代表曲を題材に学びます。
- 9、リズム隊とプラスセクションのビッグバンドでの役割を代表曲を題材に学びます。
- 10、ドラムとリードトランペット。リードトランペットとその他のTb、Saxセクションとの細かい結つきを代表曲を題材に学びます。
- 11、ピアニストがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 12、ドラマーがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 13、ベーシストがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 14、トランペットがリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。
- 15、11～14でやらなかったその他の演奏家がリーダーだった作品の代表曲を題材に学びます。

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなければ行けないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS432N		
科目名	ビッグバンドH		
科目詳細			
担当教員	中川 英二郎, 塩谷 哲		
学年	4年	クラス	01
講義室	6-110	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズの代表的なバンド形態のひとつであるビッグバンド。デューク・エリントンやカウント・ベイシー等の作品を深く研究し演奏することで、ジャズ・アンサンブルの基礎を築きます。

◆授業内容・計画◆

- 1、各セクションごとに決めておくことを譜面に書起す方法を学びます。
- 2、楽譜上に引き継がなければいけない情報を書く方法を学びます。
- 3、譜面とマイクの位置関係を学びます。
- 4、様々な楽譜を理解する為に、過去の有名作品のオリジナル楽譜を見て学びます。
- 5、屋外で演奏するときと屋内で演奏する技術的ものを学びます。
- 6、30年代のビックバンドの代表曲を題材に学びます。
- 7、40年代のビックバンドの代表曲を題材に学びます。
- 8、50年代のビックバンドの代表曲を題材に学びます。
- 9、60年代のビックバンドの代表曲を題材に学びます。
- 10、70年代のビックバンドの代表曲を題材に学びます。
- 11、スイング、ラテン、バラード、8ビートなど多ジャンルにわたる演奏技術とその特徴を学びます。
- 12、ステージパフォーマンスと演奏技術の総合的な使い方を学びます。
- 13、リハーサルにおいて必要な技術力を学びます。
- 14、総合的に演奏していくための技術を学びます。
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業では技術的な話を短時間でしなければいけないので、演奏曲目のオリジナル楽曲をCDなどで聞いておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技、受講態度
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出席、時間厳守。

ナンバリング	JZS434N		
科目名	録音・舞台表現B		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

録音スタジオにおいて、ヘッドフォンをはじめとするスタジオの機材を使っての実際の音作りを経験する。また限られた時間内で作品を制作していく環境においての録音の進行方法や意識を高める事、そしてエンジニアとのコミュニケーションの取り方を含む、スタジオ内での意識の持ち方を習得する。

◆授業内容・計画◆

録音技術についての学習

- 1: 楽器の配置の方法
- 2: サウンドチェックの方法(ヘッドフォン使用)
- 3: クリックスラックを使っての録音
- 4: パンチイン、パンチアウトの実践
- 5: インサート録音の実践
- 6: ミックス(トラック)ダウンの実践(エフェクトを含む)

その他

- 7: 録音する曲の順番の選択(休憩の取り方を含む)
- 8: 限られた時間内でのリハーサル方法
- 9: エンジニアとのコミュニケーション

◆準備学習の内容◆

CDなどに録音されているそれぞれの楽器の音色や、ミックスにおいて作られた配置場所を意識して聞いてみる。

◆成績評価の方法◆

実際にレコーディングスタジオに入って録音を経験し、エンジニアとの対話を含む全体の進め方と、最終的に仕上がった音の双方で評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

レコーディングにおいて機材を使った演奏方法を習得する事は重要だが、それと同様に大切な事はスタジオでの自分の気持ちの持ち方で進行状況が変化するという事。限られた時間というプレッシャーとうまく向かい合う事が大切。

また経験を積んだエンジニアは単に技術者ではなく、コンソールという楽器を演奏する音楽家という意識を持つ事も非常に大切。その意識を持つか持たないかで仕上がる音楽の内容と音質が全く異なる事を一人一人の演奏家達に学習してもらいたい。

ナンバリング	JZS435N		
科目名	レコーディング実習		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

録音スタジオにおいて、ヘッドフォンをはじめとするスタジオの機材を使っての実際の音作りを経験する。また限られた時間内で作品を制作していく環境においての録音の進行方法や意識を高める事、そしてエンジニアとのコミュニケーションの取り方を含む、スタジオ内での意識の持ち方を習得する。

◆授業内容・計画◆

録音技術についての学習

- 1: 楽器の配置の方法
- 2: サウンドチェックの方法(ヘッドフォン使用)
- 3: クリックスラックを使っての録音
- 4: パンチイン、パンチアウトの実践
- 5: インサート録音の実践
- 6: ミックス(トラック)ダウンの実践(エフェクトを含む)

その他

- 7: 録音する曲の順番の選択(休憩の取り方を含む)
- 8: 限られた時間内でのリハーサル方法
- 9: エンジニアとのコミュニケーション

◆準備学習の内容◆

CDなどに録音されているそれぞれの楽器の音色や、ミックスにおいて作られた配置場所を意識して聞いてみる。

◆成績評価の方法◆

実際にレコーディングスタジオに入って録音を経験し、エンジニアとの対話を含む全体の進め方と、最終的に仕上がった音の双方で評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

レコーディングにおいて機材を使った演奏方法を習得する事は重要だが、それと同様に大切な事はスタジオでの自分の気持ちの持ち方で進行状況が変化するという事。限られた時間というプレッシャーとうまく向かい合う事が大切。

また経験を積んだエンジニアは単に技術者ではなく、コンソールという楽器を演奏する音楽家という意識を持つ事も非常に大切。その意識を持つか持たないかで仕上がる音楽の内容と音質が全く異なる事を一人一人の演奏家達に学習してもらいたい。

ナンバリング	JZL043N		
科目名	ジャズ史 I		
科目詳細			
担当教員	高橋 徹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

およそ、100年間で急速に発展した”ジャズ”。その発展の過程に現れた偉大な音楽家たちの残した遺産(レコード・映像・著書など)を、より深く、広範囲に知り、自らの目、耳で確かめることで、自己の音楽観を幅広いものにしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

膨大に残された、音源・映像の中から、ジャズの発展と変貌で重要な役割をはたしてきた音楽家を毎回、時代を追って取り上げ、その活動歴をたどる。

授業で採り上げる主なミュージシャン(予定)

- 1.King Oliver /Scott Joplin/Jelly Roll Morton
- 2.Louis Arnsstrong
- 3.Bix Beiderbecke / Duke Ellington
- 4.Glenn Miller / Benny Goodman/Count Basie
- 5.Charlie Parker / Dizzy Gillespie
- 6.Bud Powell / Thelonious Monk
- 7.Stan Getz/Paul Desmond/Dave Brubeck/Art Pepper
- 8.Clifford Brown~Max Roach/ArtBlakey &The Jazz Messngers
- 9.Sonny Rollins
- 10.Cannonball Adderley /M.J.Q/ Sonny Stitt
- 11.Bill Evans/John Coltrane
- 12 Eric Dolphy/Charles Mingus
- 13.Miles Davis 前半
- 14.Miles Davis 後半
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

上記のアーティストの音源を可能な限り多く聴いておくこと。

◆成績評価の方法◆

期末レポート

授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出来る限り通年(ジャズ史 I とジャズ史II)での履修が望ましい。

ナンバリング	JZL044N		
科目名	ジャズ史Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	高橋 徹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

およそ、100年間で急速に発展した”ジャズ”。その発展の過程に現れた偉大な音楽家たちの残した遺産(レコード・映像・著書など)を、より深く、広範囲に知り、自らの目、耳で確かめることで、自己の音楽観を幅広いものにしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

膨大に残された、音源・映像の中から、ジャズの発展と変貌で重要な役割をはたしてきた音楽家を毎回、時代を追って取り上げ、その活動歴をたどる。

授業で採り上げる主なミュージシャン(予定)

- 1.Ornette Coleman / Albert Ayler / Cecil Talyer
- 2.Herbie Hancock/Lee Morgan /Wayne Shorter
- 3.Elvin Jones/Tony Williams
- 4.Weather Report
- 5.Chick Corea~Return to Forever
- 6.Kieth Jarrett
- 7.Headhunters
- 8.Jaco Pastorius
- 9.VSOP / GJT / Fusion
- 10.Wynton Marsalis/Brnford Marsalis
- 11.Pat Metheny/John Scofield

- 12.Michael Brecker
- 13.Michel Petrucciani/Brad Mehldau
- 14.Joshua Redman/Mark Turner

◆準備学習の内容◆

上記のアーティストの音源を可能な限り多く聴いておくこと。

◆成績評価の方法◆

期末レポート

授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

出来る限り通年(ジャズ史Ⅰとジャズ史Ⅱ)での履修が望ましい

ナンバリング	JZS045N		
科目名	リズム・トレーニングA		
科目詳細			
担当教員	高橋 徹		
学年	2年	クラス	01
講義室	3別-D	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

どんな楽器を演奏するにしても、体内に正しく太いリズムが常に流れ続けるのが理想である。
この授業では、確固たる4分音符を感じながら自らの楽器を演奏できるようになることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

ドラムセットを使っの様々なリズムのベーシックの形を習得する。平行して基本的なスティックコントロールの練習もしていく予定。

第1回 8th note feel (1) キックをキープしながらカウント
第2回 8th note feel (2) ハット・ライドを使ったリズムパターン
第3回 8th note feel (3) 右手のバリエーション
第4回 8th note feel (4) キックのバリエーション
第5回 Swing feel (1) キックをキープしながらカウント
第6回 Swing feel (2) ハット・ライドを使ったリズムパターン
第7回 Swing feel (3) 様々なパターン
第8回 Swing feel (4) 左手コンピング
第9回 Funk feel (1) キックをキープしながらカウント
第10回 Funk feel (2) 16th
第11回 Funk feel (3) キックの簡単なバリエーション
第12回 Latin feel (1) キックをキープしながらカウント
第13回 Latin feel (2) ブラジルのリズム
第14回 Latin feel (3) キューバのリズム
第15回 まとめ

平行して4分音符をキックしながらの、オルタネイトスティッキングでの、4分、8分、3連、16分音符の練習。

◆準備学習の内容◆

日頃、様々な音楽のドラムのパターンに興味をもって聴いておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各自でスティックを準備すること。

ナンバリング	JZS046N		
科目名	リズム・トレーニングB		
科目詳細			
担当教員	高橋 信之介		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-003	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ、ラテン、ブラジリアン、その他様々な国のリズムを学習する事で、色々なリズムパターンをより深く理解する。また複雑なポリリズムのバリエーションを学習してリズムのボキャブラリーを増やしていくと共に、より強いリズム感を身につける。授業で学習した事を常に各自の楽器にフィードバック出来る事を目標とする。

◆授業内容・計画◆

- (1)音楽における言葉、言語の発音とリズムの関連。
- (2)クラーベの種類と、それらを元に発展していったリズム。
- (3)ニューオーリンズのリズム。セカンドラインやマーチ等。
- (4)ジャズ、スイングのリズムと3連音符、8分音符について。
- (5)ベーシックなラテンのリズム。各楽器のパターンを理解する。
- (6)ベーシックなブラジリアンのリズム。
- (7)アフリカ、南米諸国の音楽とリズムパターン。
- (8)8分音符と16分音符のリズムのバリエーション。
- (9)3連音符のリズムのバリエーション。
- (10)ポリリズム 8分音符と16分音符の奇数割りのバリエーション。
- (11)8分音符と16分音符の奇数割りリズムを演奏の中で実践してより理解を深める。
- (12)ポリリズム 3連音符の偶数割りのバリエーション。
- (13)3連音符の偶数割りのリズムの実践。
- (14)メトロノーム、シーケンサーを使ったリズムトレーニング。
- (15)総括とテスト。

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習と実践

◆成績評価の方法◆

実技テスト
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズを演奏する上でリズムをより深く理解する事は全ての奏者に必要です。普段の練習にこの授業で学んだトレーニングを取り入れて行って欲しいです。複雑なリズムのバリエーションを習得する事は、ソロ演奏だけでなく、より緻密なアンサンブルをする能力にも繋がります。

ナンバリング	JZS047N		
科目名	ジャズ編曲 I		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

作編曲AB(3年次に開講)で学ぶ「ビッグバンド・アレンジ」の為に必要な編曲の基本的事項を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. トランペットの用法
2. 旋律を作る
3. アルト・サキソフォーンの用法
4. 3ノート・ボイスिंग
5. テンション
6. イントロとエンディング
7. ベース・ライン
8. 対旋律
9. テナー・サキソフォーン／Duo曲の作編曲
10. 実習と録音
11. バリトン・サキソフォーン／リズム的な楽曲
12. 実習と録音
13. ソプラノ・サキソフォーン／スローバラード
14. コード進行の研究
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を必ず実施し、提出する。

◆成績評価の方法◆

提出課題、授業への学習姿勢を総合的に成績評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配布のハンドアウト

◆参考図書◆

◆留意事項◆

今後の編曲関連授業へにも備え、課題実施には、コンピュータによる浄書し、編曲物を音で聴きながら実施することが望ましい。

ナンバリング	JZS048N		
科目名	ジャズ編曲Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	2年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

アプローチ・コードを中心にした作編曲、オープンヴォイスिंगスを用いた作編曲を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1.Four-way close
- 2.アプローチ
- 3.テンションの実践
- 4.ハーモナイズの約束
- 4.ダイアトニック・アプローチ
- 5.ドミナント・アプローチ
- 6.Low Interval Limit
- 7.Four-way closeのアレンジ
- 8.添削
- 9.実作レコーディング
- 10.モード
- 11.Drop 2
- 12.アッパー・ストラクチャーズ
- 13.Spread voicings
14. オープン・ヴォイスिंग実作
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を確実に実施、学習する。

◆成績評価の方法◆

期末提出作品評価と授業へ取り組む姿勢を総合的に成績評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配布のハンドアウト

◆参考図書◆

“The Jazz Piano Book” Mark Levine, Sher Music Co.

◆留意事項◆

今後の編曲関連授業へにも備え、課題実施には、コンピュータによる浄書し、編曲物を音で聴きながら実施することが望ましい。

ナンバリング	CRS001N		
科目名	和声 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 高荒 真采, 吉田 真梨		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

知的かつ繊細な耳を養い、響きのバランス、構成等を考えながら無駄のない声部書法で美しい和声課題を作成することができる。

◆授業内容・計画◆

進度は個々の学生によって異なる。
特に和声Iでは四声体による機能 and 和声の基礎的な書法の確認に重点がおかれる。

- 1) ガイダンス
- 2) 入学前の学習内容の復習
- 3) カデンツと終止
- 4) フレーズ構成
- 5) 全体の構成
- 6) 非和声
- 7) 偶成和音
- 8) 反復進行
- 9) 保続音上の和声進行
- 10) ソプラノ課題におけるバス・ライン
- 11) バス課題におけるソプラノ・ライン
- 12) 近親調への転調
- 13) 遠隔調への転調と異名同音転調
- 14) 実作品における和声進行
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。
必修授業が第4セメスターまでであることを念頭におき、毎回の授業で力を確実につけるため、時間をかけて熟考すること。
また、生きた感覚として和声を体得する意識を常にもち、「音に出して」復習することや実作品の和声分析を並行して行う。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。
試験は四声体のソプラノ課題。

◆教科書(使用テキスト)◆

共通のテキストは用いないが、適宜教員が指示する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS002N		
科目名	和声Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 高荒 真采, 吉田 真梨		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

知的で繊細な耳を養い、響きのバランス、構成等を考えながら無駄のない声部書法で美しい和声課題を作成することができる。

◆授業内容・計画◆

進度は個々の学生によって異なる。

特に和声Ⅱではアルテルネ課題の実習を中心に行う。基礎的な書法に加え、より複雑な転調や非和声音の課題が含まれる。進んだ学生はシャラン等フランス和声教材を用い、より繊細な書法について学ぶ。

- 1) 前期試験課題の解説・復習
- 2) 前期内容の復習
- 3) 基礎的内容の確認
- 4) アルテルネ課題の実習(バス課題部分の構成と書法①組み合わせによる)
- 5) アルテルネ課題の実習(バス課題部分の構成と書法②階梯導入による)
- 6) アルテルネ課題の実習(ソプラノ課題部分の構成と書法①フレーズと終止)
- 7) アルテルネ課題の実習(ソプラノ課題部分の構成と書法②転調とモチーフの活用)
- 8) アルテルネ課題の実習(バス・ソプラノ課題の接続部分の書法①長調から短調へ、短調から長調へ)
- 9) アルテルネ課題の実習(バス・ソプラノ課題の接続部分の書法②音域、各声部の接続)
- 10) フランス和声課題の実習(シャラン380の課題集・24の課題集)和音数字の解説
- 11) フランス和声課題の実習(シャラン380の課題集・24の課題集)連結の規則
- 12) フランス和声課題の実習(シャラン380の課題集・24の課題集)全体の構成
- 13) 実作品における和声進行と声部書法①フレーズと終止
- 14) 実作品における和声進行と声部書法②転調と対旋律
- 15) 実作品における和声進行と声部書法③全体の構成とまとめ

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。

必修授業が第4セメスターまでであることを念頭におき、毎回の授業で力を確実につけるため、時間をかけて熟考すること。また、生きた感覚として和声を体得する意識を常にもち、「音に出して」復習することや実作品の和声分析を並行して行う。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。

試験は和声Iよりやや高度な四声体のアルテルネ課題。

◆教科書(使用テキスト)◆

共通のテキストは用いないが、適宜教員が指示する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS003N		
科目名	和声Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 今村 央子, 奥定 美和, 中安 義雄		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

様々な時代の作曲家の様式を学修する。知的で繊細な耳を養い、響きのバランス、構成等を考えながら無駄のない声部書法で弦楽四重奏の和声課題が作成できる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生によって進度が異なる。
特に和声Ⅲでは弦楽四重奏の基礎的な書法と実作品の研究を中心に学修する。

- 1) 第2セメスターの試験課題解答の学修
- 2) 第2セメスターの内容の復習
- 3) 弦楽器の基礎知識(楽器の特性、音域、奏法等)
- 4) 弦楽四重奏の書法(古典派)①Allegroの書法
- 5) 弦楽四重奏の書法(古典派)②Andanteの書法
- 6) 弦楽四重奏の書法(古典派)③Adagioの書法
- 7) 弦楽四重奏の書法(古典派)④Minuettoの書法
- 8) 弦楽四重奏の書法(ロマン派)①旋律の特徴
- 9) 弦楽四重奏の書法(ロマン派)②和声の特徴
- 10) 弦楽四重奏の書法(ロマン派)③転調の特徴
- 11) 弦楽四重奏の書法(ロマン派)④主題の展開
- 12) 弦楽四重奏の書法(その他)任意の弦楽四重奏の分析
- 13) 課題作成の要点①全体の構成
- 14) 課題作成の要点②各声部の書法
- 15) まとめ

研究対象となる作曲家、作品は、学生の興味や能力に応じて適宜教員と相談して決定する。

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。
古典派、ロマン派を中心に沢山の弦楽四重奏曲の楽譜を見て聴き、研究すること。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。
試験は弦楽四重奏。試験当日に演奏審査をする。
(演奏審査は予告のうえ変更する場合がある。)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS004N		
科目名	和声Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 今村 央子, 奥定 美和, 中安 義雄		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

様々な時代の作曲家の様式を学修する。知的で繊細な耳を養い、響きのバランス、構成等を考えながら無駄のない書法により、ピアノ伴奏の和声課題が作成できる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生によって進度が異なる。
特に和声Ⅳではピアノ伴奏の書法と実作品の研究を中心に学修する。
また和声課題を創作することにより、和声Ⅰ～Ⅳの学修内容全体の定着をはかる。

- 1) 第3セメスター試験課題解答の学修
- 2) 第3セメスターの内容の復習
- 3) ピアノの基礎知識(倍音、各音域の音質と音量、ペダル等)
- 4) ピアノ伴奏の書法①(和音構成音の配置と音域の使い方)
- 5) ピアノ伴奏の書法②(分散和音の書き方と伴奏形の変化)
- 6) ピアノ伴奏の書法③(モチーフの組み合わせ)
- 7) ピアノ伴奏の書法④(転調と終止)
- 8) ピアノ伴奏の書法⑤(全体の構成)
- 9) 実作品の研究①(古典派・モーツァルトのピアノ書法の特徴)
- 10) 実作品の研究②(古典派・ベートーヴェンのピアノ書法の特徴)
- 11) 実作品の研究③(ロマン派・シューベルトとメンデルスゾーンのピアノ書法の特徴)
- 12) 実作品の研究④(ロマン派・シューマンのピアノ書法の特徴)
- 13) 創作和声課題の添削① 全体の構成
- 14) 創作和声課題の添削② 各声部の書法
- 15) まとめ

研究対象となる作曲家、作品は、学生の興味や能力に応じて、適宜教員と相談して決定する。

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。
古典派、ロマン派を中心に沢山のピアノを含む室内楽、歌曲の楽譜を見て聴くこと。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。
試験はピアノ伴奏課題。試験当日に演奏審査をする。
(演奏審査は予告のうえ変更する場合がある。)
創作和声課題1題以上の提出が義務づけられる。
提出された創作和声課題は次年度に試演会で実演することができる。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS005N		
科目名	対位法Ⅰ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 今村 央子, 奥定 美和		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

知的で繊細な耳を養い、対位法的書法の技術と感覚を磨き、フーガの構成をもつバス課題作成することができる。

◆授業内容・計画◆

進度は個々の学生により異なる。

特に対位法Ⅰでは「フーガの構成を持つバス課題」を中心に学修する。バス課題の中には、フーガ的な導入や構成をもつ課題が多い。それらを通して対位法的な書法を学ぶ。J.S.バッハの曲を多数分析する。学生の能力に応じて、カノン、コラール、コラールヴァリエーション、インヴェンション、転回可能対位法等、様々な対位法の分析や実習などに及ぶことがある。

- 1) ガイダンス
- 2) 入学前の学習内容の確認
- 3) ポリフォニーの基礎
- 4) 和声進行とポリフォニー
- 5) 主唱の和声進行
- 6) 答唱と対唱、答対唱
- 7) 主唱、答唱の導入と主要提示部
- 8) 転調と反復進行
- 9) 平行調提示部
- 10) 嬉遊部とモティーフの展開
- 11) 下属調提示部と下属調平行調提示部
- 12) 保続低音と真正追迫
- 13) J. S. バッハのフーガ① 平均律クラヴィーア曲集第1巻より 任意のフーガの分析
- 14) J. S. バッハのフーガ② 平均律クラヴィーア曲集第2巻より 任意のフーガの分析
- 15) まとめ

分析する作品は、学生の興味や能力に応じて、適宜教員と相談して決定する。

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。
J. S. バッハの対位法的な書法による作品を、自主学修として研究すること。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点（授業毎の課題添削を含む）。
共通試験はフーガ的構成を持つバス課題。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

バッハ『平均律クラヴィーア曲集第1巻』
バッハ『平均律クラヴィーア曲集第2巻』
ウィーン原典版、ヘンレ版、ペーレンライター版等の原典版を用いるのが望ましい。

◆留意事項◆

厳格対位法Ⅰの履修を推奨する。
共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS006N		
科目名	対位法Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	市川 景之, 今村 央子, 奥定 美和		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

学習フーガの実習。様々な主唱により主要提示部と第1嬉遊部を作成することができる。

◆授業内容・計画◆

進度は個々の学生により異なる。

様々な主唱による答唱、対唱の作成と主要提示部、第1嬉遊部の書法を学修する。

特に掛留音の効果的な使用法を身に付けたい。

J. S. バッハのフーガの作品を多数分析する。学生の能力に応じて、カノン、コラール、コラールバリエーション、インヴェンション、転回可能対位法等、さまざまな対位法の分析や実習に及ぶことがある。

- 1) 第1セメスター共通試験解答の説明及び復習
- 2) 学習フーガ全体の構成①
- 3) 主唱の和声分析
- 4) 答唱と正応・変応
- 5) 対唱と答対唱①(対唱作成上の注意点)
- 6) 対唱と答対唱②(変応と答対唱)
- 7) 結句と主唱、答唱の導入
- 8) 自由唱と声部の増減
- 9) 第1嬉遊部のモチーフ導入と転調
- 10) 第1嬉遊部の自由唱
- 11) 実習①(正応する主唱)
- 12) 実習②(変応を含む主唱)
- 13) 実習③(短調における増音程)
- 14) 実習④(半音階的な主唱)
- 15) まとめ

分析する作品は、学生の興味や能力に応じて、適宜教員と相談して決定する。

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。

J. S. バッハの対位法的な書法による作品を、自主学修として研究すること。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。

共通試験は「学習フーガの主要提示部と第1嬉遊部(モチーフと和声進行のプランのみ可)の作成」。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フーガの実習』島岡譲著(国立音楽大学)

◆参考図書◆

パリ音楽院の方式による『フーガ書法』山口博史著(音楽之友社)

◆留意事項◆

厳格対位法Ⅱの履修を推奨する。

共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS007N		
科目名	対位法Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	奥定 美和, 中安 義雄, 吉田 真梨		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

学習フーガ全体の見通しを持ちつつ、副提示部と嬉遊部を作成できる。

◆授業内容・計画◆

進度は個々の学生により異なる。進んでいる学生は追迫部に入ってもよい。

次第に規模が大きくなる3つの嬉遊部の書法と属音保続上の嬉遊句の展開が学修の中心となる。
特に、自然かつ効果的な嬉遊句の使用と転調、自由唱の書き方や休ませ方、リズムの密度と響きのバランス、クライマックスの作り方など細部の書法を洗練させる。
学習フーガを緻密に学ぶことは書式の訓練の宝庫である。授業では課題の添削とともにJ. S. バッハの対位法的作品にも触れ、学習フーガ作曲に応用する。

- 1) 第2セメスター共通試験解答の説明及び復習
- 2) 主要提示部と第1嬉遊部の復習
- 3) 副提示部の主唱、答唱
- 4) 副提示部の対唱、答対唱
- 5) 副提示部の主題配分
- 6) 嬉遊部の嬉遊句選択
- 7) 第2嬉遊部①(嬉遊句を用いた転調)
- 8) 第2嬉遊部②(嬉遊句の重なり)
- 9) 第2嬉遊部③(嬉遊句の各声部への配分)
- 10) 第2嬉遊部④(自由唱の書き方)
- 11) 第3嬉遊部①(嬉遊句の縮小形、反行形とたたみかけ)
- 12) 第3嬉遊部②(嬉遊句の拡大形と保続低音)
- 13) 第3嬉遊部③(保続低音上の和声進行)
- 14) 嬉遊部のまとめ
- 15) まとめ(主要提示部ー第1嬉遊部ー平行調提示部ー第2嬉遊部ー下属調提示部ー下属調平行調提示部ー第3嬉遊部)

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題を必ず作成すること。
J. S. バッハの対位法的な書法による作品を、自主学修として研究すること。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。
共通試験は「嬉遊部と副提示部」を含む予定。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フーガの実習』島岡譲著(国立音楽大学)

◆参考図書◆

パリ音楽院の方式による『フーガ書法』山口博史著(音楽之友社)

◆留意事項◆

厳格対位法Ⅲの履修を推奨する。
共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS008N		
科目名	対位法Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	奥定 美和, 中安 義雄, 吉田 真梨		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

学習フーガ全体の見通しを持ちつつ、追迫部全体を作成できる。

◆授業内容・計画◆

進度は学生により異なる。
学期末に学習フーガ1曲以上の提出が義務である。

追迫部を学修し、学習フーガを完成させる。
特に真正追迫にいたるまでの追迫の間隔、フーガ全体のクライマックスの作り方が中心となる。
学習フーガを緻密に学ぶことは書式の訓練の宝庫である。授業では、多数の学習フーガや実作品の研究、分析も行う。フーガの考え方は古典派以降も現代まで脈々と受け継がれていることを実作品を通して学ぶ。

- 1) 第3セメスター共通試験主題による復習
- 2) 第3嬉遊部までの復習
- 3) 追迫とは
- 4) 追迫の間隔
- 5) 主要追迫区のプラン
- 6) 主要追迫区の実作
- 7) 対唱追迫区のプランと転調
- 8) 対唱追迫区の実作
- 9) 平行調追迫区と主題の拡大形のプラン
- 10) 平行調追迫区と主題の拡大形の実作
- 11) 真正追迫区とコーダのプラン
- 12) 真正追迫区とコーダの実作
- 13) 実作品の研究
- 14) 提出作品の確認
- 15) まとめ

分析する作品は、学生の興味や能力に応じて、適宜教員と相談して決定する。

◆準備学習の内容◆

原則学生が準備してきた課題を添削する形で進むため、指示された課題は必ず作成すること。
J. S. バッハ及び他の様々な作曲家の対位法的作品の研究・分析により、洗練された対位法の書式について、自主学修する。

◆成績評価の方法◆

共通試験及び平常点(授業毎の課題添削を含む)。
共通試験は「追迫部全体の作成」を予定している。
提出されたフーガ作品のうち数曲により次年度に試演会を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フーガの実習』島岡譲著(国立音楽大学)

◆参考図書◆

パリ音楽院の方式による『フーガ書法』山口博史著(音楽之友社)

◆留意事項◆

厳格対位法Ⅳの履修を推奨する。
共通試験課題に空白部分がある場合には、課題を再提出させることがある。

ナンバリング	CRS009N		
科目名	作曲 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。
- (2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲 I」では、創作の基礎研究を行う。

授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
- 第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
- 第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第11回 前期提出作品の完成
- 第12回 後期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第13回 後期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第14回 後期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第15回 まとめ(夏休み中に後期提出作品の作曲を進めておく)

「作曲 I」の提出作品は「自由な作品(未完成も可)またはスケッチや構想プログラムなど創作過程が判る資料」とする。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安: 週5時間程度

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取り組みを総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CRS010N		
科目名	作曲Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。
- (2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
- (3)作品発表までの様々な過程を、実践的に身につける。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅱ」では、「作曲Ⅰ」をふまえて、創作の基礎研究を継続する。
授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を説明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。
また、「作曲Ⅱ」では演奏審査会において、演奏家とのリレーション、リハーサル、本番でのプログラム作成、舞台スタッフ、運営等を実際に経験することが求められる。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 後期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第3回 後期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第4回 後期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第5回 後期提出作品創作実習(1)導入
- 第6回 後期提出作品創作実習(2)基礎
- 第7回 後期提出作品創作実習(3)応用
- 第8回 後期提出作品創作実習(4)最終チェック
- 第9回 後期提出作品の完成・パート譜作成等
- 第10回 演奏審査会への準備
- 第11回 次作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第12回 次作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第13回 次作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第14回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成
- 第15回 まとめ(春休み中に次作品の完成を目指す)

「作曲Ⅱ」の提出作品は「ピアノを伴う二重奏作品(声も可、詳細は担当教員と相談のこと)」とする。ただし前期に完成作品を提出した場合、後期ではそれと異なる作品を提出、演奏しなければならない。提出作品は演奏審査会で演奏される。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

主に作品の提出と演奏審査により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CRS011N		
科目名	作曲Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。
- (2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
- (3)大きな編成による室内楽等規模の大きな作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅲ」では、「作曲Ⅱ」をふまえてさらに進んだ創作研究を行う。
授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
- 第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
- 第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第11回 前期提出作品の完成
- 第12回 後期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第13回 後期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第14回 後期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第15回 まとめ(夏休み中に後期提出作品の作曲を進めておく)

「作曲Ⅲ」の提出作品は「自由な作品(未完成可)またはスケッチや構想プログラムなど創作過程が判る資料」とする。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取組みを総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CRS012N		
科目名	作曲Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。
- (2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
- (3)大きな編成による室内楽等規模の大きな作品を創作することができる。
- (4)作品の発表までの様々な過程を実践的に身につける。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅳ」では、「作曲Ⅲ」をふまえてさらに進んだ創作研究を継続する。

授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。

また、「作曲Ⅳ」では演奏審査会において、演奏家とのリレーション、リハーサル、本番でのプログラム作成、舞台スタッフ、運営等を実際に経験することが求められる。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 後期提出作品創作実習(1)基礎
- 第3回 後期提出作品創作実習(2)応用
- 第4回 後期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第5回 後期提出作品の完成・パート譜作成等
- 第6回 演奏審査会への準備
- 第7回 次作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第8回 次作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第9回 次作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第10回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第11回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第12回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第13回 次作品創作実習(1)基礎
- 第14回 次作品創作実習(2)応用
- 第15回 まとめ(春休み中に次作品の完成を目指す)

「作曲Ⅳ」の提出作品は「演奏者3～7名までの作品(全体の半数までは声も可。詳細は担当教員と相談のこと)」とする。ただし前期に完成作品を提出した場合、後期ではそれと異なる作品を提出、演奏しなければならない。提出作品は演奏審査会で演奏される。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。

準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

主に作品の提出と演奏審査により評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CRS013N		
科目名	アナリーゼⅠ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)中世にはじまり古典派までの時代の音楽について、楽曲分析を通じて理解できる。(2)中世にはじまり古典派までの時代の音楽について、自ら楽曲分析を行うことができる。

◆授業内容・計画◆

「アナリーゼⅠ」では、西洋音楽史の黎明から中世、ルネサンス、バロックを経て古典派に至るまでの各時期から、代表的な楽曲を分析する。

(1)～(10)は講義形式で、各回1～2曲の楽曲分析を実践する。
扱う作品については、下記のような流れを基本とするが、受講者の理解や段階、興味の方向性などに応じて、変更することもあり得る。
(11)～(14)では、古典派までの時代から、受講者自らが選曲し、分析発表する。

- (1)グレゴリオ聖歌と声明、おらしよ、現存する最古のカノン「夏は来たりぬ」など
- (2)中世のさまざまな音楽技法
- (3)パッヘルベル:カノン、ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集「四季」
- (4)J.S.バッハ:平均律クラヴィア曲集、ゴルトベルク変奏曲
- (5)クレメンティ:ソナチネ、モーツァルト:ピアノソナタ第11番「トルコ行進曲付」
- (9)ハイドン:交響曲第94番「驚愕」、第101番「時計」
- (6)モーツァルトの短調
- (7)ベートーヴェン:ピアノソナタ第1番、第8番
- (8)ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第7番、第8番、第9番「ラズモフスキー」
- (10)ベートーヴェン:交響曲第9番
- (11)古典派までの時代から、受講者A、Bが自ら選曲し、分析発表する。
- (12)古典派までの時代から、受講者C、Dが自ら選曲し、分析発表する。
- (13)古典派までの時代から、受講者E、Fが自ら選曲し、分析発表する。
- (14)古典派までの時代から、受講者G、Hが自ら選曲し、分析発表する。
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

和声学についての理解を前提として授業は進められる。
今日的な「聴く」行為の変化を鑑み、毎回の授業において、楽曲を鑑賞する時間となるべく確保する予定。それでも、作品によってはすべてを紹介できないこともあり得るので、各自全曲を視聴、読譜のうえ復習し、さらに理解を深めてほしい。また、授業でとりあげた演奏以外の録音や映像を積極的に視聴したり、関連作品を調べたりすること。
授業内容は、各楽曲をより詳しく分析するためのヒントに過ぎないので、授業で示されたことをもとに、各自より深い分析を進め、それを他の楽曲にも応用すること。

◆成績評価の方法◆

- 1)毎回の受講態度(授業への能動的参加の姿勢)＝10%
 - 2)授業内における分析発表＝40%
自身の見解を持ち、それを論理的にプレゼンテーションする能力を見る。授業内で発表しない者についてはレポート提出を課すことでそれに代える。
 - 3)期末試験＝50%
- その他、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS014N		
科目名	アナリーゼⅡ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)古典派以後、19世紀の音楽(ロマン派を経て、国民楽派に至る時代)の音楽について、楽曲分析を通じて理解できる。(2)古典派以後、19世紀の音楽(ロマン派を経て、国民楽派に至る時代)の音楽について、自ら楽曲分析を行うことができる。

◆授業内容・計画◆

「アナリーゼⅡ」では、古典派以後、19世紀の音楽(ロマン派を経て、国民楽派等に至る時代)から、代表的な楽曲を分析する。

(1)～(10)は講義形式で、各回1～2曲の楽曲分析を実践する。
扱う作品については、下記のような流れを基本とするが、受講者の理解や段階、興味の方向性などに応じて、変更することもあり得る。
(11)～(14)では、古典派以後、19世紀の音楽から、受講者自らが選曲し、分析発表する。

- (1)シューベルト:連作歌曲集「冬の旅」
- (2)シューマン:連作歌曲集「詩人の恋」
- (3)ショパン:24の前奏曲
- (4)リスト:ピアノ・ソナタ
- (5)ブラームス:交響曲第1番、第4番
- (6)ヴァーグナー:トリスタンとイゾルデ
- (7)ドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」、国民楽派の諸傾向
- (8)ムソルグスキー:展覧会の絵
- (9)フランス国民音楽協会とサティ
- (10)ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲、交響詩「海」
- (11)古典派以後、19世紀の音楽から、受講者A、Bが自ら選曲し、分析発表する。
- (12)古典派以後、19世紀の音楽から、受講者C、Dが自ら選曲し、分析発表する。
- (13)古典派以後、19世紀の音楽から、受講者E、Fが自ら選曲し、分析発表する。
- (14)古典派以後、19世紀の音楽から、受講者G、Hが自ら選曲し、分析発表する。
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

和声学についての理解を前提として授業は進められる。
今日的な「聴く」行為の変化を鑑み、毎回の授業において、楽曲を鑑賞する時間となるべく確保する予定。それでも、作品によってはすべてを紹介できないこともあり得るので、各自全曲を視聴、読譜のうえ復習し、さらに理解を深めてほしい。また、授業でとりあげた演奏以外の録音や映像を積極的に視聴したり、関連作品を調べたりすること。
授業内容は、各楽曲をより詳しく分析するためのヒントに過ぎないので、授業で示されたことをもとに、各自より深い分析を進め、それを他の楽曲にも応用すること。

◆成績評価の方法◆

- 1)毎回の受講態度(授業への能動的参加の姿勢)=10%
 - 2)授業内における分析発表=40%
自身の見解を持ち、それを論理的にプレゼンテーションする能力を見る。授業内で発表しない者についてはレポート提出を課すことでそれに代える。
 - 3)期末試験=50%
- その他、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS015N		
科目名	アナリーゼⅢ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

19世紀前半～20世紀前半の音楽について、自ら楽曲分析を行うことで曲の理解を深めることができる。各自の能動的な姿勢が望まれる。

◆授業内容・計画◆

19世紀後半～20世紀前半の音楽を分析する(下記の楽曲についてはあくまで予定であり、授業の進度に応じて変更する場合もある)。

- (1)～(9)は講義形式で、各回1～2曲の楽曲分析を実践する。
(10)～(14)では、19世紀後半～20世紀前半の音楽から選曲し、分析発表する。

- (1) ガイダンス
(2) G.マーラー: 交響曲第5番
(3) I.ストラヴィンスキー: バレエ音楽《春の祭典》、ダンバートン・オークス
(4) C.ドビュッシー: 交響詩《海》、前奏曲集第2巻から
(5) S.ラフマニノフ: ピアノ協奏曲第2番、A.スクリャービン: ピアノ・ソナタ第9番《黒ミサ》
(6) B.バルトーク: 弦楽器と打楽器とチェレスタのための音楽、S.プロコフィエフ: 交響曲第1番《古典》
(7) M.ラヴェル: クープランの墓、亡き王女のためのパヴァーヌ
(8) A.シェーンベルク: 管弦楽のための5つの小品、A.ベルク: ピアノ・ソナタ
(9) A.ヴェーベルン: 弦楽四重奏のための6つのバガテル
(10) 20世紀前半の音楽から、受講者が分析発表する。その(1)
(11) 20世紀前半の音楽から、受講者が分析発表する。その(2)
(12) 20世紀前半の音楽から、受講者が分析発表する。その(3)
(13) 20世紀前半の音楽から、受講者が分析発表する。その(4)
(14) 20世紀前半の音楽から、受講者が分析発表する。その(5)
(15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

和声や楽典の知識と理解を前提として進められる。また授業で扱う楽曲は、その作曲家においても、その時代においても、ほんの一部を取り上げているにすぎない。したがって当然のことながら、この授業において全ての事柄を網羅できる訳ではない。そのことを前提として、各自が広い好奇心を持って色々な音楽を聴き、研究することが望まれる。そして、音楽史の理解を深めておくことも必須である。

◆成績評価の方法◆

授業内における分析発表と毎回の受講態度による。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS016N		
科目名	アナリーゼⅣ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)20世紀後半から現在に至る音楽について、楽曲分析を通じて理解できる。(2)20世紀後半から現在に至る音楽について、自ら楽曲分析を行うことができる。各自の能動的な姿勢が望まれる。

◆授業内容・計画◆

前期で扱った作品以降の音楽を分析する(下記の楽曲についてはあくまで予定であり、授業の進度に応じて変更する場合もある)。

(1)～(9)は講義形式で、各回1～2曲の楽曲分析を実践する。
(10)～(14)では、後期で対象となる時代～現代に至る音楽の中から各自が選曲し、分析発表する。

- (1)A.シェーンベルク、A.ヴェーベルン、A.ベルクの12音技法を比較、検証する。その(1)
- (2)A.シェーンベルク、A.ヴェーベルン、A.ベルクの12音技法を比較、検証する。その(2)
- (3)C.アイヴズ:ニューイングランドの3つの場所
- (4)E.ヴァレーズ、メシアン
- (5)P.ブーレーズ、K.シュトックハウゼン
- (6)J.ケージ、M.フェルドマン
- (7)G.リゲティ、S.ライヒ
- (8)その他、(1)～(7)以外の作曲家と、70年代以後の様々な潮流。
- (9)現代の音楽～日本
- (10)後期で扱った時代の音楽～現在に至るまでの音楽の中から、受講者が分析発表する。その(1)
- (11)後期で扱った時代の音楽～現在に至るまでの音楽の中から、受講者が分析発表する。その(2)
- (12)後期で扱った時代の音楽～現在に至るまでの音楽の中から、受講者が分析発表する。その(3)
- (13)後期で扱った時代の音楽～現在に至るまでの音楽の中から、受講者が分析発表する。その(4)
- (14)後期で扱った時代の音楽～現在に至るまでの音楽の中から、受講者が分析発表する。その(5)
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

和声や楽典の知識と理解を前提として進められる。また授業で扱う楽曲は、その作曲家においても、その時代においても、ほんの一部を取り上げているにすぎない。したがって当然のことながら、この授業において全ての事柄を網羅できる訳ではない。そのことを前提として、各自が広い好奇心を持って色々な音楽を聴き、研究することが望まれる。そして、音楽史の理解を深めておくことも必須である。

◆成績評価の方法◆

授業内における分析発表と毎回の受講態度による。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML001N		
科目名	コンピュータ音楽創作 I		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

Maxを活用したコンピュータ音楽創作の基礎を習得できる。

◆授業内容・計画◆

コンピュータ音楽やメディアアート制作のためのグラフィカルなプログラミング環境「Max」を用い、アルゴリズム作曲、コンピュータ音合成技術、およびデジタル音声信号処理技術の基礎を習得する。

前期試験において、Maxを活用したコンピュータ音楽演奏を行う。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) Maxの概要とプログラミングスタイル
- 2) コントロール・オブジェクトの特性と四則演算
- 3) 乱数を用いたアルゴリズム
- 4) 確率を用いたアルゴリズム
- 5) アブストラクション・オブジェクト
- 6) 補間処理とオートメーション
- 7) 音のデジタル表現
- 8) DSPオブジェクトの特性
- 9) オシレーターとAM合成
- 10) FM合成
- 11) 加算合成
- 12) アンプリチュード・エンヴェローブ
- 13) フィルタリング
- 14) 演奏のためのインターフェース設計
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、Maxに用意されている実例プログラムなどへ積極的に当たること。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Maxの教科書(ノイマンピアノ 著/リットーミュージック)
 2061:Maxオデッセイ(ノイマンピアノ 著/リットーミュージック)
 「Max」ではじめるサウンドプログラミング(松村誠一郎 著/工学社)
 Pure Data—チュートリアル&リファレンス(美山千香士 著/ワークスコーポレーション)
 Step by Step—Max/MSPで学ぶシーケンス・アドベンチャー(Gregory Taylor 著/NextPublishing Authors Press)
 Making Music. 74 Creative Strategies for Electronic Music Producers (Dennis DeSantis 著/Ableton)

◆留意事項◆

作曲専修から履修を希望する学生については、オリエンテーション期間中に面接を行い可否を決定する。

ナンバリング	CML002N		
科目名	コンピュータ音楽創作Ⅱ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

Maxを活用したコンピュータ音楽創作の基礎を習得できる。

◆授業内容・計画◆

コンピュータ音楽やメディアアート制作のためのグラフィカルなプログラミング環境「Max」を用い、アルゴリズム作曲、コンピュータ音合成技術、およびデジタル音声信号処理技術の実践的使用方法を習得する。
学年末試験において、マイク入力を用いたライブエレクトロニクス作品を制作し発表する。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) オーディオ入力
- 2) ディレイ&フィードバック
- 3) ヴァリアブル・ディレイ
- 4) サンプリングと様々な再生方法
- 5) サンプラーの実装
- 6) ポリフォニック・サンプラーの実装
- 7) コントロール・アルゴリズムとDSPの接続
- 8) パンニング
- 9) フリークエンシー・シフト
- 10) ピッチ・シフト
- 11) リバーブ
- 12) オーディオ分析結果を用いたインタラクション
- 13) マルチ・エフェクターの設計
- 14) 演奏のためのインターフェース設計
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、Maxに用意されている実例プログラムなどへ積極的に当たること。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Maxの教科書(ノイマンピアノ 著/リットーミュージック)
2061.Maxオデッセイ(ノイマンピアノ 著/リットーミュージック)
「Max」ではじめるサウンドプログラミング(松村誠一郎 著/工学社)
Pure Data—チュートリアル&リファレンス(美山千香土 著/ワークスコーポレーション)
Step by Step—Max/MSPで学ぶシーケンス・アドベンチャー(Gregory Taylor 著/NextPublishing Authors Press)
Making Music. 74 Creative Strategies for Electronic Music Producers(Dennis DeSantis 著/Ableton)

◆留意事項◆

ナンバリング	CML003N		
科目名	コンピュータ音楽創作Ⅲ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年,2年,3年	クラス	O1
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

グラニューサンプリングの実装と、それを応用した電子音響音楽作品を創作できる。

◆授業内容・計画◆

Cycling '74 Maxを用いてグラニューサンプリングを実装する。明確なピッチを持たない音を収録し、同じ素材を履修者間でシェアして、電子音響音楽(フィクストメディア)作品を創作する。特に、音のテクスチャと漸次変化、レイヤーに着目する。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) グラニューサンプリングの実装1 音のグレインと窓掛け処理
- 3) グラニューサンプリングの実装2 オーバーラップ
- 4) グラニューサンプリングの実装3 ランダムイズ
- 5) グラニューサンプリングの実装1 自由なサンプル再生
- 6) グラニューサンプリングの実装2 各種パラメータの付与
- 7) グラニューサンプリングの実装3 ポリフォニー
- 8) グラニューサンプリングの実装4 ランダム／ランダムウォーク／確率によるパラメータ制御
- 9) グラニューサンプリングの実装5 テンデンスーマスキングによるパラメータ制御
- 10) グラニューサンプリングの実装6 パラメータの漸次変化
- 11) サンプル収録
- 12) 創作技法1 レイヤリング
- 13) 創作技法2 ミックス
- 14) 創作技法3 マスタリング
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、Maxに用意されている実例プログラムなどへ積極的に当たること。授業で紹介する先行作品の聴取を行うこと。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Electronic Music and Sound Design – Theory and Practice with Max 8 – Vol. 1 & 2 (Alessandro Cipriano, Maurizio Giri 著／Contemponet)
 Microsound (Curtis Roads／The MIT Press)
 Mixing Secrets for the Small Studio (Mike Senior 著／Focal Press)
 Mastering Audio (Bob Katz 著／Focal Press)
 とくぱっく〜デジタル・スタジオの話 (David Shimamoto 著／Studio Gyokimae)
 Pro Tools 12 Software徹底操作ガイド (大鶴暢彦 著／リットーミュージック)

◆留意事項◆

ナンバリング	CML004N		
科目名	コンピュータ音楽創作Ⅳ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	今井 慎太郎		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1つの楽器とコンピュータのためのライブエレクトロニクス作品を創作できる。

◆授業内容・計画◆

任意の楽器1つとコンピュータのためのライブエレクトロニクス作品を創作する。マイク入力を通じた基本的な音声信号処理による習作を制作する。既存のひな形プログラムを活用しながら、楽器パートとコンピュータパートの効果的な組み合わせを探求する。

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) ガイダンス
- 2) ライブエレクトロニクスとは
- 3) インタラクティビティ
- 4) オートメーション
- 5) シンクロナス・プログラミング
- 6) スコアフォロー
- 7) モジュレーションによる習作
- 8) フィルタリングによる習作
- 9) ディレイ&フィードバックによる習作
- 10) ピッチシフトによる習作
- 11) パンニングによる習作
- 12) 高度な音声信号処理1 ループサンプリング
- 13) 高度な音声信号処理2 グレインベース・フリークエンシーモジュレーション
- 14) 高度な音声信号処理3 フェイズ・ボコーダー
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習のほか、Maxに用意されている実例プログラムなどへ積極的に当たること。授業で紹介する先行作品の聴取を行うこと。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、および期末試験発表で評価する。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Max/MSP/Jitter for Music: A Practical Guide to Developing Interactive Music Systems for Education and More (V. J. Manzo 著/Oxford Univ Pr)

音楽言語の技法(オリヴィエ・メシアン 著/ヤマハミュージックメディア)
はじめての〈脱〉音楽—やさしい現代音楽の作曲法(木石岳 著/自由現代社)

◆留意事項◆

ナンバリング	MML001N		
科目名	音楽情報を読み解くⅠ		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽についての的確な情報を選び取り、その内容を正確に読み解いて、他者に明確に伝えられるようになる。

◆授業内容・計画◆

ロマン主義音楽の研究者エマニュエル・レベルによる、2016年のラ・フォル・ジュルネ音楽祭の解説本『ナチュール——自然と音楽』を取り上げる。毎回担当を決めて、記述内容について発表を行う。

1. 導入:学習の進め方について
2. 第1章「アルカディア——ヴィヴァルディの《四季》をめぐって」の読解(1):第1節
3. 第1章「アルカディア——ヴィヴァルディの《四季》をめぐって」の読解(2):第2節・第3節
4. 第1章「アルカディア——ヴィヴァルディの《四季》をめぐって」の読解(3):第4節
5. 第1章「アルカディア——ヴィヴァルディの《四季》をめぐって」の読解(4):第5節
6. 第1章「アルカディア——ヴィヴァルディの《四季》をめぐって」の読解(5):第6節
7. 第3章「雷雨——ベートーヴェンの「田園」交響曲をめぐって」の読解(1):第1節
8. 第3章「雷雨——ベートーヴェンの「田園」交響曲をめぐって」の読解(2):第2節・第3節
9. 第3章「雷雨——ベートーヴェンの「田園」交響曲をめぐって」の読解(3):第4節
10. 第3章「雷雨——ベートーヴェンの「田園」交響曲をめぐって」の読解(4):第5節
11. 第4章「風景——ロマン主義と自然」の読解(1):第1節
12. 第4章「風景——ロマン主義と自然」の読解(2):第2節
13. 第4章「風景——ロマン主義と自然」の読解(3):第3節
14. 第4章「風景——ロマン主義と自然」の読解(4):第4節・第5節
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で指示する箇所を読み、テキストで言及される音楽作品について調べ、聴いてくること。

◆成績評価の方法◆

発表の内容(70%)、及び、期末のレポート課題(30%)により評価を行う。
発表については、授業内で随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

エマニュエル・レベル『ナチュール——自然と音楽』西久美子訳(アルテスパブリッシング、2016年)
その他は授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MML002N		
科目名	音楽情報を読み解くⅡ		
科目詳細			
担当教員	谷口 昭弘		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学習することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

(1) 日々の音楽と社会を考える文章(論文・記事・単行本の抜粋など)を読み、音楽の多様な捉え方・価値観に触れ、受け止めることができる。(2) それらを元に、自らの発想を伝えることができる。

◆授業内容・計画◆

文献は4～5種程度を読み解く予定(カッコの中は仮のテーマ)。
第1回:ガイダンス
第2回:テキストA(音楽に対する問題意識を高める)(1)全体の解説と輪読の割り当て
第3回:テキストA(2)輪読
第4回:テキストA(3)まとめと応用
第5回:テキストB(人間が音楽とどのように付き合ってきたか)(1)全体の解説と輪読の割り当て
第6回:テキストB(2)輪読
第7回:テキストB(3)まとめと応用
第8回:テキストC(社会の中の音楽)(1)全体の解説と輪読の割り当て
第9回:テキストC(2)輪読
第10回:テキストC(3)まとめと応用
第11回:テキストD(現代の日本の音楽)(1)解説と前半の輪読
第12回:テキストD(2)後半の輪読とまとめと応用
第13回:テキストE(グローバリズムの中の音楽)(1)解説と前半の輪読
第14回:テキストE(2)後半の輪読とまとめと応用
第15回:学びのまとめ

◆準備学習の内容◆

毎回課される読書課題にもとづくレスポンスを各自がクラスで発表し、議論をします。したがって事前予習・課題を前提とした授業になります。事前に読書課題の熟読と考察を行うこと(目安＝2時間)。事後に、学んだことを復習し、分からない部分を補っておく(目安＝1時間)。いずれの課題においても、自主的に問題意識を持って参加してください。また疑問に感じたことは自発的に調べましょう。インターネットの情報検索は便利ですが「(インターネットで)検索しても見つかりません」でとどめず、図書館に行って紙媒体による事典・辞典や様々な本を参照してください。なお対面授業ができない場合は、課題学習が中心となります。

◆成績評価の方法◆

毎回のアウトプットの質やディスカッションの積極的参加について評価する。また、事前に提出するアウトプットについては、授業内でフィードバックする。学びのまとめとしてレポートを課する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「参考図書」の欄に示した文献を出発点としますが、クラスの様子を見て、新たに文献や資料を提示することがあります。詳しくは初回授業にて指示します。

◆参考図書◆

音楽と人間とのかわり合いを考える文献を中心に読んでいこうと考えています。例えば以下のものを考えています。

- ・日下部吉彦『音楽を嫌いにする方法』(大阪書籍 1986)
 - ・小泉文夫『おたまじゃくし無用論』(いんなあとりっぷ 1973年、青土社 1980年、ほるぷ出版 1984)
 - ・渡辺裕『聴衆の誕生：ポスト・モダン時代の音楽文化』(春秋社 1989、春秋社 1996年、春秋社 2004年、中央公論新社 2012年)
 - ・西原稔『ピアノの誕生：楽器の向こうに「近代」が見える』(講談社 1995)
 - ・トマス・トゥリノ『ミュージック・アズ・ソーシャル・ライフ：歌い踊ることをめぐる政治』野澤豊＋西島千尋訳(水声社 2015)
- その他、授業中で適宜紹介します。

文章をまとめるには、次のような本も役に立つでしょう。

- ・リチャード・R・ウィンジェル『改訂新版 音楽の文章術—論文・レポートの執筆から文献表記法まで』(春秋社 2014年)
- ・本多勝一『日本語の作文技術』(朝日新聞社 1982年 [朝日文庫])
- ・本多勝一『実戦・日本語の作文技術』(朝日新聞社 1994年 [朝日文庫])

◆留意事項◆

(1)実習等でやむをえず欠席をする人は必ず事前に届け出るとともに、他の発表者の負担とならないようによく打ち合わせてください。(2)配布資料がある場合、それらは原則としてその日の授業で配ります。休み場合は他の受講生に頼んで預かってもらってください(連絡を取り合うことのできる受講生を早めにつけておきましょう)。

ナンバリング	MML003N		
科目名	音楽情報を読み解くⅢ		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽に関わる様々なトピックの文章をとりあげ、音楽研究の多角的な視点、音楽についての多様な概念や価値観への理解を深める。音楽に関する文章を批判的に読み解き、その概要を的確に伝えること、また内容に対する自分の意見を明確に伝え議論することを身につける。

◆授業内容・計画◆

10～30ページ程度の文章を教材とし、それぞれ1～3回を使って読み解きます。
とりあげる教材と順番は、受講生の希望に応じて決定します（以下は仮のプラン）。

1. ガイダンス
2. テキストA(1)解説と前半の輪読
3. テキストA(2)後半の輪読
5. テキストB(1)解説と前半の輪読
6. テキストB(2)後半の輪読
7. テキストB(3)まとめと応用
8. テキストC(1)解説と前半の輪読
9. テキストC(2)後半の輪読、まとめと応用
10. テキストD(1)解説と前半の輪読
11. テキストD(2)後半の輪読、まとめと応用
12. テキストE 担当受講生の発表とディスカッション
13. テキストF 担当受講生の発表とディスカッション
14. テキストG 担当受講生の発表とディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で扱う文章を事前に熟読し、わからない言葉や内容については事典・辞書、関連書、インターネット等で調べておく。
文章の概要、重要だと思ったポイント、疑問に思ったことなどをまとめておく。準備学習に必要な時間は、週1.5時間程度。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、口頭発表、ディスカッションについて適宜フィードバックし、評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「参考図書」として挙げた文献を中心に、受講生の興味に応じて選択する。その他にも、受講生が希望する教材があれば適宜取り入れる。

◆参考図書◆

- ・『民族音楽学12の視点』徳丸吉彦 監修、増野亜子 編(音楽之友社、2016年)
 - ・『ミュージックスとの付き合い方——民族音楽学の拡がり』徳丸吉彦(左右社、2016年)
 - ・『現代日本社会における音楽』月溪恒子、北川純子、小塩さとみ(放送大学、2008年)
 - ・『音楽と心の科学史——音楽学と心理学が交差するとき』西田紘子、小寺未知留 編著(春秋社、2024年)
 - ・『ポップ・ミュージックを語る10の視点』大和田俊之 他編著(アルテスパブリッシング、2020年)
 - ・『コンクール文化論——競技としての芸術・表現活動』宮入恭平、増野亜子、神保夏子、小塩さとみ 編著(青弓社、2024年)
- その他、授業中に適宜紹介します。

◆留意事項◆

実習等でやむをえず欠席する場合は、必ず事前に届け出るとともに、他の発表者の負担とならないように調整してください。

ナンバリング	MML004N		
科目名	音楽情報を読み解くⅣ		
科目詳細			
担当教員	前島 美保		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

主に日本音楽について書かれた重要文献から、適確な情報を選び取り、正確に内容を読み解いて、他者に伝えられるようになる。また自身の意見を持ち、他者と意見交換をすることができる。

◆授業内容・計画◆

前半は担当教員が用意した日本音楽に関する文献(参考:2023年『音楽からみた日本人』、2024年『ドレミを選んだ日本人』)を輪読し、発表を行う。発表後には討議、意見交換を行う。
後半は受講者がそれぞれの関心に基づいた日本音楽に関する文献を選択し、読み解き、発表を行う。発表後には、討議、意見交換を行う(以下は予定)。

- 第1回 導入(1):ガイダンス(自己紹介、発表の分担決めなど)
- 第2回 導入(2): 日本音楽に関する情報の調べ方について
- 第3回 導入(3): サンプル発表
- 第4回 個人発表(1) 学生Aによる発表1
- 第5回 個人発表(2) 学生Bによる発表1
- 第6回 個人発表(3) 学生Cによる発表1
- 第7回 個人発表(4) 学生Dによる発表1
- 第8回 個人発表(5) 学生Eによる発表1
- 第9回 中間のまとめ
- 第10回 個人発表(6) 学生Aによる発表2
- 第11回 個人発表(7) 学生Bによる発表2
- 第12回 個人発表(8) 学生Cによる発表2
- 第13回 個人発表(9) 学生Dによる発表2
- 第14回 個人発表(10) 学生Eによる発表2
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・発表担当者は、発表の1週間前までに取り上げる文献を提出すること。
- ・毎回、指定された文献を全員が必ず精読してくること(週2時間程度)。
- ・発表担当者は、レジュメを用意すること。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、発表の内容、討議への参加等を総合的に評価する。毎回、発表に対する講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業中に指示する。

◆参考図書◆

『日本音楽大事典』(平凡社、1989年)。
その他は、適宜授業中に指示する。

◆留意事項◆

文献の選択については相談に乗ります。主体的かつ積極的な参加を期待します。

ナンバリング	MML014N		
科目名	楽器・音響講義 I		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器・音響講義IとIIでは、楽器と音響に関する科学分野の学問を知る。当該分野の初心者が対象となるような内容を幅広く、かつ具体的に学ぶ。Iでは主に理論について学び、IIではパソコンを用いた実習を通して理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 音楽音響
2. 楽器の音響学1—発音原理, 弦鳴, 気鳴
3. 楽器の音響学2—膜鳴楽器, 体鳴楽器, 非線形性
4. 音楽の認知
5. 音楽と感情
6. 協和感
7. 演奏科学
8. 演奏の分析1—ピアノ
9. 演奏の分析2—ドラム
10. 音楽情報処理1—和声の処理
11. 音楽情報処理2—音響分析
12. 音楽情報処理3—音楽の理解と音響合成
13. 音楽情報処理4—自動編曲・作曲・伴奏
14. 全体討論
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートの実施状況と授業内試験、および授業への取り組みへ、適宜フィードバックを行いつつ、それらを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

日本音響学会編, 音響学講座9, 「音楽音響」, コロナ社(2023) ISBN: 978-4-339-01369-6 4700+tax

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

Google Classroomを用いたレポート提出を伴う。レポートが期限内に提出されない場合は欠席となるので注意が必要である。「楽器・音響講義II」を履修することで、Iで学んだ内容をIIで実際に手を動かすことにより理解を深めることができる。2022年度までの「楽器・音響講義I」とは大幅に内容を変更している。

ナンバリング	MML015N		
科目名	楽器・音響講義Ⅱ		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器・音響講義ⅠとⅡでは、楽器と音響に関する科学分野の学問を知る。当該分野の初心者が対象となるような内容を幅広く、かつ具体的に学ぶ。Ⅰでは主に理論について学び、Ⅱではパソコンを用いた実習を通して理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス Octaveの概要
2. 基礎計算
3. 波形の読み込みと描写
4. 波形ビューワーの利用
5. スペクトル解析
6. 協和と不協和
7. 臨界帯域
8. シャープネスとスペクトル重心
9. 変動強度とラフネス
10. ダウンビット処理
11. ステレオ音源化
12. 音響波形の分析
13. 波形処理課題
14. 全体討論
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

示されたキーワードを参考に、インターネットなどで検索し、授業の前にあらかじめ理解を深めておくこと(目安 2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートの実施状況と授業内試験、および授業への取り組みへ、適宜フィードバックを行いつつ、それらを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する。

◆参考図書◆

適宜紹介する。

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。スマホやタブレットだけでは履修できない。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。分析ソフトウェアには、商用ソフトMatlabのクローンである「Octave」を用いる予定である。「楽器・音響講義Ⅰ」で学んだ理論について、実際にプログラミングを通して理解を深める。

ナンバリング	CML005N		
科目名	コンピュータ録音演習Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音響学の基礎と、音響機器について学び、活用出来る事を目指す

◆授業内容・計画◆

身の回りの音についてや、何気なく接している音響機器を、理論や仕組みの面から見直し、理論、機材の使用方法などを習得します。

- 1 音響学の基礎-1 音に関わる数字
- 2 音響学の基礎-2 音の現象
- 3 音響学の基礎-3 規格について
- 4 音響機材の基礎知識
- 5 音響の歴史
- 6 マイクロフォンについて
- 7 スピーカーについて
- 8 イコライザーについて
- 9 エフェクターについて
- 10 アナログとデジタル
- 11 ミキサーについて
- 12 電気について
- 13 電気音響の目的を考える
- 14 音響プランをたてる
- 15 まとめ

授業は座学と実習の両方を行います。
機材を取り扱う為、作業しやすい服装、靴などを着用のこと。
グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
授業内で指示する事を遵守のこと。

◆準備学習の内容◆

身近に存在する音響機器を改めて見直し、音響機器を通じて音や音楽を再考してみてください

◆成績評価の方法◆

授業時に、機材に対する理解、取扱、協調性のある行動をとり、
また活用出来ているか、実習を通じて評価します。
状況に応じて、授業内試験を行う場合があります。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内適宜配布します。

◆参考図書◆

ハンド・オブ・レコーディング・エンジニアリング／ジョン・アーグル 著(ステレオサウンド社)
音響映像設備マニュアル(リットー・ミュージック)
プロサウンド (隔月刊ステレオサウンド社)

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ録音演習Ⅱ(後期)も併せて履修すること。

ナンバリング	CML006N		
科目名	コンピュータ録音演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

録音の歴史と基本を学ぶ

◆授業内容・計画◆

普段何気なく聞いている音楽などを自身で制作することで、意図や思想など理解を深めます。
使用するスタジオのスケジュールによって予定は前後することがあります。

- 1録音の基礎-1 歴史
- 2録音の基礎-2 技法
- 3録音の基礎-3 環境、手法について
- 4録音機器の使用法-1 ProToolsの基礎
- 5録音機器の使用法-2 ProToolsの使用法
- 6録音機器の使用法-3 ProToolsの関連機器
- 7録音演習-1 朗読の録音
- 8録音演習-2 歌声の録音
- 9録音演習-3 ソロ楽器の録音
- 10録音演習-4 アンサンブルの録音
- 11編集演習-1 時間軸編集
- 12編集演習-2 音量・音質補正
- 13編集演習-3 トラックダウン
- 14編集演習-4 マスタリング
- 15まとめ

授業は座学と実習の両方を行います。
機材を取り扱う為、作業しやすい服装、靴などを着用のこと。
グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
授業内で指示する事を遵守のこと。

◆準備学習の内容◆

身近に存在する音楽、放送などを通じ、音響機器、技術を見直してみてください。

◆成績評価の方法◆

授業時に、機材に対する理解、取扱、協調性のある行動をとり、
また活用出来ているか、実習を通じて評価します。
状況に応じて、授業内試験を行う場合があります。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内適宜配布します。

◆参考図書◆

ハンド・オブ・レコーディング・エンジニアリング／ジョン・アーグル 著(ステレオサウンド社)
音響映像設備マニュアル(リットー・ミュージック)
プロサウンド (隔月刊ステレオサウンド社)

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ録音演習Ⅰ(前期)も併せて履修すること。

ナンバリング	CML007N		
科目名	コンピュータ録音演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音響学を活かし制作に必要な技術を身につける

◆授業内容・計画◆

道具としての音響機材や関連する機材の使用法またその構成などを習得し、音に関わる事象を学び、制作に活かします。
使用するスタジオのスケジュールによって予定は変更することがあります。

- 1 理論、機器取り扱い復習
- 2 音に関ることについて(舞台について)
- 3 音に関ることについて(環境について)
- 4 音に関ることについて(リスクマネジメント)
- 5 音に関ることについて(楽器について)
- 6 音に関ることについて(音響効果について)
- 7 音に関ることについて(映画音響について)
- 8 音に関ることについて(音源再生について)
- 9 音に関ることについて(舞台照明について)
- 10 音に関ることについて(撮影機器について)
- 11 音に関ることについて(映像機器について)
- 12 音に関ることについて(ネットワークオーディオ)
- 13 音に関ることについて(DANTE)
- 14 音に関ることについて(使用実習)
- 15 まとめ

授業は座学と実習の両方を行います。
機材を取り扱う為、作業しやすい服装、靴などを着用のこと。
グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
授業内で指示する事を遵守のこと。

◆準備学習の内容◆

制作に用いる音響機器に普段から接し、使用法、活用法を身につけてください。

◆成績評価の方法◆

授業時に、機材に対する理解、取扱、協調性のある行動をとり、
また活用出来ているか、実習を通じて評価します。
状況に応じて、授業内試験を行う場合があります。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内適宜配布します。

◆参考図書◆

ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング(ジョン・M. アーグル 著、プロサウンド編集部 監修)
プロサウンド(隔月刊ステレオサウンド社)
ホルンの響きと音楽演奏(ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳、市ヶ谷出版社刊)
プロ音響データブック／日本音響家協会編(リットー・ミュージック)
舞台技術の共通基礎(劇場等演出空間運用基準協議会)

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ録音演習Ⅳ も併せて履修すること。

ナンバリング	CML008N		
科目名	コンピュータ録音演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

録音に関わる事と、技法を学ぶ

◆授業内容・計画◆

自身の制作に活かせるように技法や流れを習得します。
使用するスタジオのスケジュールによって予定は前後することがあります

- 1 音声データに関する品質など
- 2 録音作業について
- 3 ディレクションについて
- 4 編集・整音について
- 5 ミックスについて
- 6 応用録音演習-1 録音ブースの使用
- 7 応用録音演習-2 マルチトラック録音
- 8 応用編集演習-1 音声編集
- 9 応用編集演習-2 ダイナミックスの調整
- 10 応用編集演習-3 エフェクターの付加調整
- 11 応用編集演習-4 空間の調整
- 12 応用編集演習-5 ステムミックス
- 13 応用編集演習-6 ミックスダウン
- 14 応用編集演習-7 マスタリング
- 15 まとめ

授業は座学と実習の両方を行います。
機材を取り扱う為、作業しやすい服装、靴などを着用のこと。
グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
授業内で指示する事を遵守のこと。

◆準備学習の内容◆

音を定着するという事象を踏まえ、完成形としての制作物がどんなものなのかを描いてください。

◆成績評価の方法◆

授業時に、機材に対する理解、取扱、協調性のある行動をとり、
また活用出来ているか、実習を通じて評価します。
状況に応じて、授業内試験を行う場合があります。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内適宜配布します。

◆参考図書◆

ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング(ジョン・M. アーグル 著, プロサウンド編集部 監修)
音響映像設備マニュアル(リットー・ミュージック)
プロサウンド (隔月刊ステレオサウンド社)
ホールの響きと音楽演奏(ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳、市ヶ谷出版社刊)
プロ音響データブック/日本音響家協会編(リットー・ミュージック)

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ録音演習Ⅲ も併せて履修すること。

ナンバリング	MTL001U		
科目名	音楽療法講義 I		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

音楽療法の世界への入門として、この分野の総論的内容を理解する。

◆授業内容・計画◆

講義中に、演習やグループ学習を適宜取り入れる。

1. イントロダクション 音楽療法とは？
2. 音楽療法の概要
3. 音楽療法の定義
4. 音楽療法の歴史
5. 音楽療法の対象領域
6. 音楽療法の実際①実践のプロセス
7. 音楽療法の実際②音楽活動の体験
8. 音楽療法における〈健康〉の概念
9. 音楽療法における〈音楽〉の概念
10. 音楽の機能とアプローチ①心、身体、社会
11. 音楽の機能とアプローチ②グループ発表
12. 音楽療法の背景理論とアプローチ①身体へのアプローチ
13. 音楽療法の背景理論とアプローチ②心理療法的アプローチ
14. 音楽療法の背景理論とアプローチ④教育的・社会的アプローチ
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

配布資料や紹介する参考図書を事前に読んでおく。講義中に紹介する資料、活動、展覧会、コンサートなどがあれば、出来るだけ触れてみる。講義で扱った事柄で興味関心のあることについて、さらに調べる。（目安1時間）

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよびレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する

◆参考図書◆

『音楽療法入門－理論と実践Ⅰ～Ⅲ』、デイビス、グフェラー、タウト編、一麦出版社
『音楽療法を知る－その理論と技法』宮本啓子、二俣泉編、杏林書院
『音楽療法を定義する』ブルシア、東海大学出版会
『子どもの音楽療法ハンドブック』若尾裕他 音楽之友社
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編 岩崎学術出版社

他、授業内で指示

◆留意事項◆

各回の内容および進め方は、履修者の興味関心に応じて柔軟に変更する。

授業内で演習やグループ学習を行うことがあるため、出席をこころがけてください。

ナンバリング	MTL002U		
科目名	音楽療法講義Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

音楽療法における基礎的な考え方や実践について、障害とコミュニティ音楽療法を主な対象領域とし、その概要を学ぶ。具体的には、①障害のある人との音楽療法について、障害の多面的理解・実践の詳細・障害と表現をめぐる問題などを理解する②コミュニティ音楽療法について、基本的な考え方や実践例を理解する。

◆授業内容・計画◆

講義中に、演習やグループ学習を適宜取り入れる。

- 1.イントロダクション
- 2.障害と表現
- 3.知的発達障害のある人との音楽療法
- 4.発達支援の音楽療法
- 5.自閉スペクトラム症の音楽療法
- 6.神経学的多様性と音楽療法
- 7.脳血管障害後遺症と音楽療法
- 8.中間まとめ
- 9.障害学と音楽療法
- 10.障害と表現を巡る対話的な音楽実践
11. コミュニティ音楽療法①理論的背景
- 12.コミュニティ音楽療法②実践例
- 13.コミュニティ音楽療法③社会課題と向き合う音楽療法の企画
- 14.コミュニティ音楽療法④社会課題と向き合う音楽活動の企画発表
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

配布資料や紹介する参考図書を事前に読んでおく。講義中に紹介する資料、活動、展覧会、コンサートなどがあれば、出来るだけ触れてみる。講義で扱った事柄で興味関心のあることについて、さらに調べる。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよびレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する

◆参考図書◆

『音楽で育てよう:子どものコミュニケーション・スキル』二俣泉、鈴木涼子(春秋社)
『子どもの世界をよみとく音楽療法:特別支援教育の発達の視点を踏まえて』、加藤博之(明治図書)
『実践:発達障害児のための音楽療法』ボクシル(人間と歴史社)
『コミュニティ音楽療法への招待』スティーゲ、オーロ編(風間書房)
『文化中心音楽療法』スティーゲ(音楽之友社)

他、授業内で指示

◆留意事項◆

各回の内容および進め方は、履修者の興味関心に応じて柔軟に変更する。
授業内で演習やグループ学習を行うことがあるため、出席をこころがけてください。

ナンバリング	MTL003U		
科目名	音楽療法講義Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

音楽療法の様々な理論と技法を理解し、その学術的および臨床的意義と役割を説明できる。

◆授業内容・計画◆

様々なニーズを抱えるクライアントを対象した音楽実践例を紹介し、音楽の臨床的作用を探る。次のようなトピックスについて、講義および演習を行う。特に音楽中心音楽療法の理論と実践について検証し、国内外における最新の音楽療法の動向を紹介する。

1. オリエンテーション
2. ストレスと音楽
3. 認知症高齢者対象の音楽療法の理論
4. 認知症高齢者対象の音楽療法の実践
5. 脳梗塞後遺症患者の音楽療法の理論
6. 脳梗塞後遺症患者の音楽療法の実践
7. 終末期ケアにおける音楽療法の理論
8. 終末期ケアにおける音楽療法の実践
9. 精神障害者対象の音楽療法の理論
10. 精神障害者対象の音楽療法の実践
11. 東日本大震災後の被災者対象の音楽療法の理論と実践
12. 音楽療法における倫理
13. 音楽療法士のコンピテンシー(職業能力)について
14. 音楽療法の臨床的作用とセッションにおける実践技法
15. まとめ・試験

◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。授業前には必ず関連文献(授業内で指示)を講読し、授業後に振り返りの感想を書くこと(理論と実践を統合することでより理解を深めるため、一定の時間が必要である)。目安時間は、予習30分、復習30分

◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する。

◆参考図書◆

『音楽療法事典・新訂版』デッカー＝フォイクト、他著、阪上正巳、他訳(人間と歴史社)
『精神の病いと音楽－スキゾフレニア・生命・自然－』阪上正巳(廣済堂出版)
『音楽療法と精神医学』阪上正巳(人間と歴史社)
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編著(岩崎学術出版社)
『音楽療法の現在』国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編(人間と歴史社)
『文化中心音楽療法』B.スティーゲ著、阪上正巳監訳(音楽之友社)
『芸術療法実践講座4 音楽療法』飯森眞喜雄・阪上正巳編 岡崎香奈ほか著(岩崎学術出版社)

◆留意事項◆

積極的に質問や討論を行うこと。
本授業では、国内外の音楽療法実践映像を紹介するため、録音録画は不可。

ナンバリング	MTL004U		
科目名	音楽療法講義Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	3-114	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

音楽療法の様々な理論と技法を理解し、その学術的および臨床的意義と役割を説明できる。

◆授業内容・計画◆

様々なニーズを抱える児童・成人を対象した音楽実践例を紹介し、発達と音楽の関係性を探る。次のようなトピックスについて、講義および演習を行う。特に音楽中心音楽療法の理論と実践について検証し、国内外における最新の音楽療法の動向を紹介する。

1. オリエンテーション:発達と音楽
2. 自閉症児対象の音楽療法の理論
3. 自閉症児対象の音楽療法の実践
4. 肢体不自由児対象の音楽療法の理論
5. 肢体不自由児対象の音楽療法の実践
6. 知的障害児対象の音楽療法の理論
7. 知的障害児対象の音楽療法の実践
8. 青少年対象の音楽療法の理論
9. 青少年対象の音楽療法の実践
10. ノードフ・ロビンズ音楽療法アプローチの理論
11. ノードフ・ロビンズ音楽療法アプローチの実践
12. 集団音楽療法の理論
13. 集団音楽療法の実践
14. 不登校児の音楽療法理論と実践
15. まとめ・試験

◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。授業前には必ず関連文献(授業内で指示)を講読し、授業後に振り返りの感想を書くこと(理論と実践を統合することでより理解を深めるため、一定の時間が必要である)。目安時間は、予習30分、復習30分

◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する。

◆参考図書◆

『音楽療法事典・新訂版』デッカー＝フォイクト、他著、阪上正巳、他訳(人間と歴史社)
『精神の病いと音楽－スキゾフレニア・生命・自然－』阪上正巳(廣済堂出版)
『音楽療法と精神医学』阪上正巳(人間と歴史社)
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編著(岩崎学術出版社)
『音楽療法の現在』国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編(人間と歴史社)
『文化中心音楽療法』B.スティーゲ著、阪上正巳監訳(音楽之友社)
『芸術療法実践講座4 音楽療法』飯森眞喜雄・阪上正巳編 岡崎香奈ほか著(岩崎学術出版社)

◆留意事項◆

積極的に質問や討論を行うこと。
本授業では、国内外の音楽療法実践映像を紹介するため、録音録画は不可。

ナンバリング	MTP009N		
科目名	演奏実習(声楽) I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学ぶ。コンコーネ50番を通して母音によるレガート唱法を学び、歌う喜びと豊かな表現力を養うことができる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生に応じた課題曲を扱う。様々な形の学修に当たる教員の指導を目の当たりにすることで、学生は自らが学習するだけでなく、教育のスキルについても考える機会をもつことも出来る。

授業計画

第1回:ガイダンス

第2回:呼吸法の基礎、発声法の基礎

第3回:コンコーネ50番より(1～3番)

第4回:コンコーネ50番より(4～5番)

第5回:コンコーネ50番より(6～7番)

第6回:コンコーネ50番より(8～9番)

第7回:コンコーネ50番より(10～11番)

第8回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習

第9回:コンコーネ50番より(12～13番)

第10回:コンコーネ50番より(14～15番)

第11回:コンコーネ50番より(16～17番)

第12回:コンコーネ50番より(18～19番)

第13回:コンコーネ50番より(20～21番)

第14回:コンコーネ50番より(22～24番)

第15回:声楽表現1のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選集』《国立音楽大学編》(カワイ出版)

『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)

『コンコーネ50番』(全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP010N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅰの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を養うことが出来る。

◆授業内容・計画◆

個々の学生に応じた課題曲を扱う。様々な形の学修に当たる教員の指導を目の当たりにすることで、学生は自らが学習するだけでなく、教育のスキルについても考える機会をもつことが出来る。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第3回:イタリア歌曲その1(1)音の確認
第4回:イタリア歌曲その1(2)音楽表現の工夫
第5回:イタリア歌曲その1(3)仕上げ
第6回:イタリア歌曲その2(1)音の確認
第7回:イタリア歌曲その2(2)音楽表現の工夫
第8回:イタリア歌曲その2(3)仕上げ
第9回:イタリア語の発音訓練
第10回:イタリア歌曲その3(1)音の確認
第11回:イタリア歌曲その3(2)音楽表現の工夫
第12回:イタリア歌曲その3(3)仕上げ
第13回:イタリア歌曲1、2、3のまとめ
第14回:定期試験でのイタリア歌曲の決定
第15回:定期試験に向けてイタリア歌曲の表現追究
定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、演奏課題を常にフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲 1曲 3分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選集』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『コンコーネ50番』(全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP011N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅱまでの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を高めることができる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生に応じた課題曲を扱う。様々な形の学修に当たる教員の指導を目の当たりにすることで、学生は自らが学習するだけでなく、教育のスキルについても考える機会をもつことができる。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第3回:イタリア歌曲その4(1)音の確認
第4回:イタリア歌曲その4(2)音楽表現の工夫
第5回:イタリア歌曲その4(3)仕上げ
第6回:イタリア歌曲その5(1)音の確認
第7回:イタリア歌曲その5(2)音楽表現の工夫
第8回:イタリア歌曲その5(3)仕上げ
第9回:イタリア語の発音訓練
第10回:イタリア歌曲その6(1)音の確認
第11回:イタリア歌曲その6(2)音楽表現の工夫
第12回:イタリア歌曲その6(3)仕上げ
第13回:イタリア歌曲4、5、6のまとめ
第14回:イタリア語の発音(2)
第15回:まとめ、イタリア歌曲の表現追究
定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『コンコーネ』50番(全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP012N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

レッスンを通して、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、専攻に役立てることができる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生に応じた課題曲を扱う。様々な形の学修に当たる教員の指導を目の当たりにすることで、学生は自らが学習するだけでなく、教育のスキルについても考える機会をもつことが出来る。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第3回:イタリア歌曲その7(1)音の確認
第4回:イタリア歌曲その7(2)音楽表現の工夫
第5回:イタリア歌曲その7(3)仕上げ
第6回:イタリア歌曲その8(1)音の確認
第7回:イタリア歌曲その8(2)音楽表現の工夫
第8回:イタリア歌曲その8(3)仕上げ
第9回:イタリア語の発音訓練
第10回:イタリア歌曲その9(1)音の確認
第11回:イタリア歌曲その9(2)音楽表現の工夫
第12回:イタリア歌曲その9(3)仕上げ
第13回:イタリア歌曲7、8、9のまとめ
第14回:定期試験でのイタリア歌曲の決定
第15回:定期試験に向けてイタリア歌曲の表現追究
定期実技試験

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、演奏課題を常にフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲 1曲 3分以内 暗譜。

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『コンコーネ』50番(全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP013N		
科目名	演奏実習(ピアノ) I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して音楽の基本的な事柄、メロディー、リズム、ハーモニーを学び、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力の基礎を習得する。

◆授業内容・計画◆

必修曲 バッハ、スカルラッティ、モーツァルトなど個々の能力に応じて選んでいく。

授業計画

第1回 スケールメイトの説明、バッハ: インヴェンション、シンフォニアの選曲(個々の能力において選定)

第2回 スケールメイト、初見

第3回 バッハの時代背景

第4回 スケールメイト及び 個々の必修曲を詳しく読譜、分析

第5回 バッハの様式について

第6回 初見、また簡単なメロディーに伴奏付け

第7回 バッハの仕上げに向けて

第8回 バッハの暗譜確認、スカルラッティ、モーツァルト曲を選曲

第9回 バッハの最終仕上げ、スケールメイト

第10回 童謡などに伴奏付け

第11回 スカルラッティ、モーツァルト① ソナタ形式

第12回 スカルラッティ、モーツァルト② フィンガーテクニック

第13回 スカルラッティ、モーツァルト③ バランス

第14回 スカルラッティ、モーツァルト④ 仕上げ

第15回 前期のまとめ及び後期必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。

・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。

・前回の復習をすること。

(1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業内評価: 授業への取り組み及び演奏についてのフィードバック等、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版

日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ

個々の課題曲の楽譜

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP014N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

前期で学んだことを発展させ、鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して音楽の基本的な事柄、メロディー、リズム、ハーモニーを学び、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

必修曲 古典派の作品

授業計画

- 第1回 スケールメイト、新しい必修曲の時代背景
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 童謡などに即興で伴奏付け
- 第4回 必修曲、提示部の分析と表現の工夫
- 第5回 展開部の分析と表現の工夫
- 第6回 再現部の表現(特に提示部との違い)の工夫及び仕上げに向けて
- 第7回 必修曲のまとめ
- 第8回 後期試験曲の選定
- 第9回 個々の試験曲の分析及びスケールメイト
- 第10回 練習方法の確認
- 第11回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第12回 音楽表現の工夫
- 第13回 更に美しい音色などの追求
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的な仕上げ、春休み中に準備する二年次の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・前回の復習をすること。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版
日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ
個々の課題曲の楽譜

◆参考図書◆

授業内で提示する

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP015N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

一年次までの学びの上に立ち、レパートリーの拡大や技術の向上を図る。鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を発展させる。

◆授業内容・計画◆

必修曲 ロマン派の作品

授業計画

- 第1回 スケールメイト、新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 スケールメイトと日本歌曲などに即興で伴奏付け、また移調を試みる
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ
- 第8回 新しい必修曲の選定及びスケールメイト、また即興演奏
- 第9回 必修曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第10回 練習方法の確認
- 第11回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第12回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第13回 更に多様な音楽表現の工夫及びスケールメイト
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的な仕上げ、夏休み中に準備する後期の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・前回の復習をすること(特にコードネームによる伴奏付け)
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

達成度で授業内評価を行う。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版
日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ
個々の必修曲の楽譜

◆参考図書◆

授業内で指示する

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP016N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

今までの学びの上に立ち、レパートリーの拡大や技術の向上を図る。鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を発展させる。

◆授業内容・計画◆

必修曲 ロマン派の曲

授業計画

- 第1回 スケールメイト、新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 スケールメイトと日本歌曲などに即興で伴奏付け
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ及び後期試験曲の選定
- 第8回 スケールメイト及び後期試験曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第9回 練習方法の確認及び日本歌曲などに伴奏付け、また即興演奏
- 第10回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第11回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第12回 更に多様な音楽表現の工夫及びスケールメイト
- 第13回 ロマン派らしい美しさの探求
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的なまとめ、春休み中に準備する三年次の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・毎回の復習をすること。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

演奏試験で評価を行う。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・スケールメイト改訂版
- ・個々の必修曲の楽譜
- ・日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP417N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅳまでの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、様々な原語による歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、専攻に役立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、イタリア歌曲の歌唱表現法、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲などの基本的な歌唱表現法を学ぶ。

第1回: ガイダンス
第2回: 課題とする歌曲10(1)音の確認
第3回: 課題とする歌曲10(2)発音、詩の背景
第4回: 課題とする歌曲10(3)仕上げ
第5回: 課題とする歌曲11(1)音の確認
第6回: 課題とする歌曲11(2)発音、詩の背景
第7回: 課題とする歌曲11(3)仕上げ
第8回: 課題とする歌曲12(1)音の確認
第9回: 課題とする歌曲12(2)発音、詩の背景
第10回: 課題とする歌曲12(3)仕上げ
第11回: 課題とする歌曲13(1)音の確認
第12回: 課題とする歌曲13(2)発音、詩の背景
第13回: 課題とする歌曲13(3)仕上げ
第14回: 課題とする歌曲の表現追究
第15回: 演奏実習Ⅴのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『ドイツ歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『日本歌曲集』1、2、3(全音楽譜出版社) 他

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP418N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅵまでの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、様々な原語の歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、専攻に役立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、イタリア歌曲の歌唱表現法、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲などの基本的な歌唱表現法を学ぶ。

第1回: ガイダンス
第2回: 課題とする歌曲14(1)音の確認
第3回: 課題とする歌曲14(2)発音、詩の背景
第4回: 課題とする歌曲14(3)仕上げ
第5回: 課題とする歌曲15(1)音の確認
第6回: 課題とする歌曲15(2)発音、詩の背景
第7回: 課題とする歌曲15(3)仕上げ
第8回: 課題とする歌曲16(1)音の確認
第9回: 課題とする歌曲16(2)発音、詩の背景
第10回: 課題とする歌曲16(3)仕上げ
第11回: 課題とする歌曲17(1)音の確認
第12回: 課題とする歌曲17(2)発音、詩の背景
第13回: 課題とする歌曲17(3)仕上げ
第14回: 歌曲のまとめ、試験曲決定
第15回: 試験曲の表現追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、演奏課題を常にフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
試験曲: 任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲 1曲 4分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『ドイツ歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『日本歌曲集』1、2、3(全音楽譜出版社) 他

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP419N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(Ⅴ)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅵまでの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、様々な原語の歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、専攻に役立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、個々の能力に応じて、歌曲、オペラアリア、童謡など多様なジャンルの中から曲を選択し、総合的な歌唱表現法の習得ができる。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲18(1)音の確認
- 第3回:課題とする声楽曲18(2)発音、詩の背景
- 第4回:課題とする声楽曲18(3)仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲19(1)音の確認
- 第6回:課題とする声楽曲19(2)発音、詩の背景
- 第7回:課題とする声楽曲19(3)仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲20(1)音の確認
- 第9回:課題とする声楽曲20(2)発音、詩の背景
- 第10回:課題とする声楽曲20(3)仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲21(1)音の確認
- 第12回:課題とする声楽曲21(2)発音、詩の背景
- 第13回:課題とする声楽曲21(3)仕上げ
- 第14回:課題とする声楽曲の表現追究
- 第15回:演奏実習(声楽)Ⅶのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2(全音楽譜出版社)
『ドイツ歌曲集』1、2 (全音楽譜出版社)
『日本歌曲集』1、2、3(全音楽譜出版社) 他

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP420N		
科目名	演奏実習(声楽)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

演奏実習(声楽)Ⅶまでの学びの上に立ち、声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、様々な原語の歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、専攻に役立てることが出来る。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、個々の能力に応じて、歌曲、オペラアリア、童謡など多様なジャンルの中から曲を選択し、総合的な歌唱表現法の習得できる。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲22(1)音の確認
- 第3回:課題とする声楽曲22(2)発音、詩の背景
- 第4回:課題とする声楽曲22(3)仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲23(1)音の確認
- 第6回:課題とする声楽曲23(2)発音、詩の背景
- 第7回:課題とする声楽曲23(3)仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲24(1)音の確認
- 第9回:課題とする声楽曲24(2)発音、詩の背景
- 第10回:課題とする声楽曲24(3)仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲25(1)音の確認
- 第12回:課題とする声楽曲25(2)発音、詩の背景
- 第13回:課題とする声楽曲25(3)仕上げ
- 第14回:試験曲の決定、声楽曲の表現追究
- 第15回:演奏実習(声楽)Ⅶのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点し、演奏課題を常にフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。
試験曲:自由曲 1曲 5分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

『イタリア声楽曲選曲』《国立音楽大学編》(カワイ出版)
『イタリア歌曲集』1、2 (全音楽譜出版社)
『ドイツ歌曲集』1、2 (全音楽譜出版社)
『日本歌曲集』1、2、3 (全音楽譜出版社) 他

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	MTP421N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～Ⅳまでの学びの上に立ち、スケールの習得やレパートリーの拡大、鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を更に発展させる。

コードネームによる伴奏付け、移調、即興の内容、技術の向上を図る

◆授業内容・計画◆

教材 スケールメイト
ロマン派及び近代曲 シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、ラヴェルなどのピアノ曲

授業計画

- 第1回 スケールメイト、新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 スケールメイトと世界の名曲などに伴奏付け
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ
- 第8回 新しい必修曲の選定及びスケールメイト
- 第9回 必修曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第10回 練習方法の確認
- 第11回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第12回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第13回 更に多様な音楽表現の工夫及びスケールメイト
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的な仕上げ、夏休み中に準備する後期の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・毎回必ず復習すること。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

達成度で授業内評価を行う。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・スケールメイト
- ・個々の必修曲の楽譜
- ・日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP422N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～IVで学んだ事柄を土台にして音楽療法の現場で活用できる音楽表現のための演奏能力を更に高める。
今までの学びの上に立ち、スケールの習得やレパートリーの拡大、鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を発展させる。
コードネームによる伴奏付け、移調、即興の内容、技術の向上を図る。

◆授業内容・計画◆

教材 スケールメイト
必修曲 ロマン派及び近代曲 シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、ラヴェルなどのピアノ曲

授業計画

- 第1回 スケールメイト、新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 スケールメイトと日本歌曲などに即興で伴奏付け
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ及び後期試験曲の選定
- 第8回 スケールメイト及び後期試験曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第9回 練習方法の確認及び日本歌曲などに伴奏付け
- 第10回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第11回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第12回 更に多様な音楽表現の工夫及びスケールメイト
- 第13回 美しい音色の探求
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的なまとめ、スケールメイト、春休み中に準備する四年次の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・毎回の復習をすること。
 - ・後期試験に向けてスケールメイトにしっかり取り組む。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・スケールメイト
- ・個々の必修曲の楽譜
- ・日本歌曲、童謡、世界の名曲、ポピュラー音楽から選ぶ

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP423N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

三年次までの学びの上に立ち、レパートリーの拡大、鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を更に発展させる。また最終学年であることを鑑みて実践で役立つ即興演奏の実力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

教材 近現代 フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク、プロコフィエフ、カバレフスキー等のピアノ曲

授業計画

- 第1回 新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 即興演奏及び即興での伴奏付け
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ
- 第8回 新しい必修曲の選定及び即興演奏
- 第9回 必修曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第10回 練習方法の確認
- 第11回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第12回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第13回 更に多様な音楽表現の工夫
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的な仕上げ、夏休み中に準備する後期の必修曲の選定

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・毎回の復習をすること。
 - ・自宅でも即興演奏などに取り組む。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

達成度等で授業内評価を行う。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・個々の必修曲の楽譜
- ・ロマン派の歌曲集

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTP424N		
科目名	演奏実習(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

三年次までの学びの上に立ち、レパートリーの拡大、鍵盤楽器(ピアノ)の演奏実習を通して、音楽療法の実践に当たって必要な演奏能力を更に発展させる。
また最終学年であることを鑑みて実践で役立つ即興演奏の実力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

教材 近現代 フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク、プロコフィエフ、カバレフスキー等のピアノ曲

授業計画

- 第1回 新しい必修曲の作曲家の生涯と時代背景を確認
- 第2回 練習方法の確認
- 第3回 ロマン派の歌曲に即興で伴奏付け、及び移調などの研究
- 第4回 必修曲、詳しい分析と表現の工夫
- 第5回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第6回 多様な表現方法の研究
- 第7回 必修曲のまとめ及び 卒業試験曲の選定
- 第8回 即興演奏及び卒業試験曲の作曲家の生涯と時代背景の確認
- 第9回 練習方法の確認及びロマン派の歌曲などに伴奏付け
- 第10回 練習を踏まえて問題点の解決
- 第11回 詳しく読譜して表現方法の研究
- 第12回 更に多様な音楽表現の工夫
- 第13回 近、現代曲らしい音色の探求
- 第14回 暗譜の確認
- 第15回 最終的なまとめ及び四年間の勉強を踏まえて将来への研究課題を見付ける

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・毎回の復習をすること。
 - ・自宅でも即興演奏などに取り組む。
- (1日1時間程度)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・個々の必修曲の楽譜
- ・ロマン派の歌曲集

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS017N		
科目名	作曲基礎講義(楽器法)		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)オーケストラで使用される代表的な楽器を中心に、楽器全般に関して、構造的・歴史的に理解できる。(2)それぞれの楽器で作曲や編曲をできるようになる。

◆授業内容・計画◆

構造的な理解を比較的得やすい楽器である金管楽器から導入し、音域や奏法だけでなく、倍音および構造的な理解を伴って学習する。

可能な限り、実演を伴いつつ、また、視聴覚教材を用いて学習する。
各自、それぞれの楽器について、毎回、短いソロの楽曲を創作し、それについての意見交換等も実施する。

- (1)トランペット
- (2)ホルン
- (3)トロンボーン
- (4)ユーフォニアム、テューバ
- (5)フルート
- (6)クラリネット
- (7)サキソフォン
- (8)オーボエ、バスーン
- (9)フリーリード、オルガン、その他の気鳴楽器
- (10)ヴァイオリン、ヴィオラ
- (11)チェロ、コントラバス
- (12)ハープ、その他の弦鳴楽器
- (13)膜鳴楽器、体鳴楽器
- (14)電気・電子楽器、その他
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

倍音、振動等の音響学の基礎知識を前提とする。毎回扱う各楽器について、各自事前に研究し、音源、映像、楽譜等に、可能な限り多数、触れておくこと。そして、テキストの内容を事前に精読しておくこと。それらを踏まえ、数小節でもよいので、できる限りその楽器のための小品を作曲しておくこと。
また、授業内容を踏まえて、用意した小品のブラッシュアップをし、可能な限り友人等を通じて実演経験を経ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での小品作曲内容と期末試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『管弦楽技法』／ゴードン・ヤコブ／音楽之友社

◆参考図書◆

『The Study of Orchestration』Samuel Adler／W.W.Norton
* 上記『The Study of Orchestration』にはCD-Rom版、ワークブック版も存在する。これらも併せて購入することを推奨する。

『完本 管弦楽法』／伊福部昭／音楽之友社
『管弦楽法』／ベルリオーズ、R.シュトラウス／音楽之友社
『管弦楽法』／ピストン／音楽之友社
『編曲の本』／日本作編曲家協会／ヤマハ
『楽器のしくみ』／緒方英子／日本実業出版社
『楽器の音響学』／安藤由典／音楽之友社
『楽器』／ダイアグラムグループ編／マール社

◆留意事項◆

五線紙必携のこと。

ナンバリング	CRS018N		
科目名	作曲基礎講義(DTM)		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

本授業では、“コンピュータと作曲”あるいは“コンピュータと音楽”、その全体を俯瞰するといった広い視野を失わぬよう心がけつつ、作編曲の作業を助ける「日用品」としてのコンピュータ使用法を学ぶ。
創造の思考を妨げない操作技術／操作知識の体得を目標とする。

◆授業内容・計画◆

- 1.シンセサイザとシーケンサについて理解する
- 2.MIDIデータの制作法を学ぶ(1):音価、音高と音強
- 3.MIDIデータの制作法を学ぶ(2):様々なコントロールデータ
- 4.ソフトウェアシンセサイザーの諸設定について理解する
- 5.録音の仕組みと方法について理解する
- 6.インサートプラグインの諸設定について理解する
- 7.ミックス作業の概要を理解する
- 8.楽譜データの制作法を学ぶ(1):音符と休符の入力
- 9.楽譜データの制作法を学ぶ(2):紙面の設定と印刷
- 10.楽譜データの制作法を学ぶ(3):様々な記号の入力
- 11.楽譜データの制作法を学ぶ(4):レイヤー処理
- 12.映像／画像データの扱い方について理解する
- 13.MIDIデータと楽譜データの相互運用法について理解する
- 14.制作データのパッケージングと送付の方法を理解する
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

履修者によっては、授業内の限られた時間では実習が不足する。メディアセンターの環境を利用した復習を積極的に行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

提出課題、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS019N		
科目名	録音実習		
科目詳細	前・後期共通シラバス		
担当教員	栗山 和樹		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

録音の実習を通して、音の性質を科学的にとらえる思考力を養う。

◆授業内容・計画◆

- 1.録音の予備知識(ケーブルの種類等)
- 2.マイクとその周辺機材
- 3.録音の原理
- 4.Pro Toolsをインストールする
- 5.Pro Toolsで録音にトライ
- 6.多重録音
- 7.クリックを聞きながら録音する
- 8.MIDI録音
- 9.バス送り
- 10.ノーマライズ、リミッター、イコライザー
- 11.音の反射、バウンス
- 12.録音の実習
- 13.ピアノ録音
- 14.編集とミックスダウン
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

実習した事を必ず、復習して授業に望むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢、提出課題を総合的に成績評価する。
なお、提出課題はコメントを付けたリ採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布するハンドアウト

◆参考図書◆

ProTools12 Software徹底操作ガイド

◆留意事項◆

注意:この授業では「Pro Tools」というソフトを使用して実習します。
コンピュータがなくても、受講、単位取得は可能ですが、、Macをお持ちの方は自分のコンピュータを持参し実際に動かして学ぶと学習効果が上がると思います。「Pro Tools」は大学で用意いたします。

ナンバリング	CRS020N		
科目名	DTM演習 I		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

”コンピュータと作曲”あるいは”コンピュータと音楽”、その全体を俯瞰しようとする広い視野を失わぬよう心がけつつ、作編曲の作業を助ける「日用品」としてのコンピュータ使用法を確実に学び、自身の創作活動へ活かせるようになる。創作の思考を妨げない操作技術／操作知識を習得する。

◆授業内容・計画◆

音楽系ソフトの活用法について、主に Logic Pro と MuseScore を使用し、様々な操作・設定方法を理解し、実践する。

- 1.シンセサイザの概念と各種パラメータ
- 2.MIDIデータにおけるコントロールチェンジとミキサー・オートメーション
- 3.シンセサイザによる小品の作曲実習
- 4.楽譜データの制作法(1):スコアとパート譜の運用法
- 5.楽譜データの制作法(2):読みやすい紙面設定と用途に合わせた出力
- 6.楽譜データの制作法(3):様々な記号の設定と入力
- 7.録音に関する基本概念とマイク等の機材に関する主要知識
- 8.録音実習
- 9.インサートプラグインの諸設定
- 10.ミックス作業に関する基礎知識
- 11.トラックダウン実習
- 12.楽曲制作実習(1)全体のプラン
- 13.楽曲制作実習(2)アレンジ
- 14.楽曲制作実習(3)仕上げ
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

履修者によっては、授業内の限られた時間では実習が不足する。メディアセンターの環境を利用した復習を積極的に行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

提出課題、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS021N		
科目名	DTM演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

”コンピュータと作曲”あるいは”コンピュータと音楽”、その全体を俯瞰しようとする広い視野を失わぬよう心がけつつ、作編曲の作業を助ける「日用品」としてのコンピュータ使用法を確実に学び、自身の創作活動へ活かせるようになる。創作の思考を妨げない操作技術／操作知識を習得する。

◆授業内容・計画◆

前期の内容を踏まえ、以下の項目について、より発展的内容を理解し体得する。
主に Logic Pro と MuseScore を使用し、コンピュータにおける様々な操作・設定方法を理解し、実践する。

1. サンプラの動作原理と操作方法(レイヤー、キースイッチなど)
2. 生楽器演奏の再現(1)ピアノ
3. 生楽器演奏の再現(2)ギター
4. 生楽器演奏の再現(3)ドラムスとパーカッション
5. 様々なジャンルの演奏再現(1)バンド
6. 様々なジャンルの演奏再現(2)オーケストラ
7. 様々なジャンルの演奏再現(3)民族音楽
8. 映像データの併用と同期に関する基礎知識
9. 楽譜ソフトを含めた映像音楽の制作フローについて
10. 様々なメディアへの対応、データ形式について
11. その他の様々な音楽ソフト
12. 楽曲制作実習(1)全体のプラン
13. 楽曲制作実習(2)アレンジ
14. 楽曲制作実習(3)仕上げ
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

履修者によっては、授業内の限られた時間では実習が不足する。メディアセンターの環境を利用した復習を積極的に行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

提出課題、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS022N		
科目名	現代音楽演奏実習Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	山本 哲也		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	水放	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)20世紀以降に作曲された作品(主として演奏者が2人以上の作品)について、的確な読譜ができるようになる。(2)様々な奏法や記譜法を知る。(3)作品解釈の多様な可能性について考え、深く考察した上での演奏ができるようになる。(4)作曲家の意図や考え、作曲様式に関する知識を得、演奏に反映することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

本年度は本学主催公演「聴き伝えるもの、聴き伝わるもの」での上演予定曲目と連動し、フランチェスコ・フィリディの作品に焦点を当てて学ぶ。

- 1)ガイダンス
- 2)作曲家像の考察と非西洋楽器のため書かれた作品の実例
- 3)課題曲1-1 上記に基づく楽曲の読譜
- 4)課題曲1-2 上記楽曲の作曲様式の研究と解釈の可能性
- 5)課題曲1-3 上記楽曲の演奏のポイント
- 6)課題曲1-4 上記楽曲の音楽表現の工夫
- 7)課題曲1-5 上記楽曲の音楽表現の深化
- 8)課題曲1-6 上記楽曲の仕上げと相互評価
- 9)課題曲2-1 上記に基づく作品の読譜
- 10)課題曲2-2 上記作品の作曲様式の研究と解釈の可能性
- 11)課題曲2-3 上記作品の演奏のポイント
- 12)課題曲2-4 上記作品の音楽表現の工夫
- 13)課題曲2-5 上記作品の音楽表現の深化
- 14)課題曲2-6 上記作品の仕上げと相互評価
- 15)「現代音楽演奏実習Ⅰ」のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる作品について十分に予習、練習をしておくこと。また、作曲家や作品に関する知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすることにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CRS023N		
科目名	現代音楽演奏実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	山本 哲也		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	水放	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)20世紀以降に作曲された作品(主として演奏者が2人以上の作品)について、的確な読譜ができるようになる。(2)様々な奏法や記譜法を知る。(3)作品解釈の多様な可能性について考え、深く考察した上での演奏ができるようになる。(4)作曲家の意図や考え方、作曲様式に関する知識を得、演奏に反映することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、フランチェスコ・フィリディの作品に焦点を当てて学ぶ。本学主催公演「聴き伝わるもの、聴き伝えるもの」への出演を前提に、公演での上演に値するクオリティにまで完成度を高めることで、作曲家や作品の理解をより一層深める。

- 1)ガイダンス
- 2)課題曲1-1 上演楽曲についての解釈や表現の深化1
- 3)課題曲1-2 上演楽曲についての解釈や表現の深化2
- 4)課題曲1-3 上演楽曲についての解釈や表現の深化3
- 5)課題曲1-4 上演楽曲についての解釈や表現の深化4
- 6)課題曲2-1 上演楽曲についての解釈や表現の深化1
- 7)課題曲2-2 上演楽曲についての解釈や表現の深化2
- 8)課題曲2-3 上演楽曲についての解釈や表現の深化3
- 9)課題曲2-4 上演楽曲についての解釈や表現の深化4
- 10)課題曲3-1 新たな楽曲についての研究、解釈
- 11)課題曲3-2 上記楽曲についての工夫、深化
- 12)課題曲3-3 上記楽曲についての仕上げと相互評価
- 13)課題曲4-1 新たな楽曲についての研究、解釈
- 14)課題曲4-2 上記楽曲についての工夫、深化
- 15)課題曲4-3 上記楽曲についての仕上げと相互評価、発表会

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる作品について十分に予習、練習をしておくこと。また、作曲者や作品に関する知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすることにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CML009N		
科目名	マルチメディア・プログラミング I		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

作品のアイデアを表現として具現化するプロセスの実践を通し、創作に必要とされるソフトウェア開発技術を修得する。前期は視聴覚表現の演習を軸に初級コーディングの基礎を学ぶ。単なる技能獲得に留まらず、創作表現への活用力を養うことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

授業内容はプログラミングの基礎知識や理論に関する講義と演習(グループワークを含む)、プレゼン実習、ディスカッション、課題制作実習で構成される。
学生は、「作品または作品表現の要素となるプログラムの開発」を目標に研究・制作計画を立てて遂行し、プレゼンテーション発表の場で実践過程と成果についての客観的な説明を行う。

習熟度を随時考慮しながら、下記の項目を学習する。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容と学習方針の確認、コミュニケーションツールの整備)
- 第2回 プログラミング概論、開発環境の整備
- 第3回 プログラミングの学習プロセス(身体化の過程)
- 第4回 コーディング入門(基本シンタックス)、リファレンスの読み方
- 第5回 データの加工(文と式、数値、演算子)、エラーの適切な対処
- 第6回 モーショングラフィックス制作演習(時間を伴う表現)
- 第7回 情報のデジタル表現(アナログからの変換、データ型とリテラル、変数と定数)
- 第8回 コンピュータのアーキテクチャ、応用演習
- 第9回 色とかたちの表現(p5.jsによる視覚表現、2次元グラフィックスの基礎概念)
- 第10回 音と音楽の表現(デジタルオーディオの基礎、p5.jsによる音声処理)
- 第11回 自律的な判断(制御構文、比較、条件分岐)
- 第12回 ユーザインタラクションの形成(UI/UXデザイン、ヒューマンマシンインターフェース)
- 第13回 研究・制作計画(コンセプトデザイン、要件定義と設計)
- 第14回 研究・制作作業実習、発表資料作成
- 第15回 最終プレゼンテーション発表、振り返りとディスカッション

上記に加えて授業内で3分プレゼンを毎週持ち回りでを行い、テクノロジーとアートについての素養を相互に高め合う。

※ 本授業では主にJavaScript言語およびp5.jsライブラリを取り扱う。

◆準備学習の内容◆

表現技能の向上のために、学習内容を日頃から実践的に活用することが望ましい。
毎週2時間以上を目安に復習、自主的な探求に基づく学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

提出課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。
その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

増井 敏克(2020)図解まるわかり プログラミングのしくみ, 翔泳社.

廣瀬 豪(2018)いちばんやさしい JavaScript 入門教室, ソーテック社.

Benedikt Groß, Hartmut Bohnacker, Julia Laub, その他(2018)Generative Design with p5.js [p5.js版ジェネラティブデザイン] ―ウェブでのクリエイティブ・コーディング, ビー・エヌ・エヌ新社社.

◆留意事項◆

プログラミング学習には積み重ねが不可欠であるため、授業には毎回出席し、復習を十分行うこと。

ナンバリング	CML010N		
科目名	マルチメディア・プログラミングⅡ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

作品のアイデアを表現として具現化するプロセスの実践を通し、創作に必要とされるソフトウェア開発技術を修得する。後期は初級コーディングの後半部分を学び、一般的なプログラミングの構成概念を理解する。単なる技能獲得に留まらず、創作表現への活用力を養うことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

授業内容はプログラミングの基礎知識や理論に関する講義と演習（グループワークを含む）、プレゼン実習、ディスカッション、課題制作実習で構成される。
学生は、「作品または作品表現の要素となるプログラムの開発」を目標に研究・制作計画を立てて遂行し、プレゼンテーション発表の場で実践過程と成果についての客観的な説明を行う。

習熟度を随時考慮しながら、下記の項目を学習する。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容と学習方針の確認、前期内容の復習)
- 第2回 開発プロセスの全体像(要件定義からテストまで)
- 第3回 繰り返しと自動化(反復処理)
- 第4回 繰り返しの表現への応用演習
- 第5回 手続きの抽象化(関数)
- 第6回 オーディオビジュアライザー制作演習(入力信号処理)
- 第7回 データの構造化(配列、オブジェクト)
- 第8回 機能の抽象化と再利用(クラス、オブジェクト指向プログラミング)
- 第9回 構造化データ・抽象化の表現への応用演習
- 第10回 視覚入力の活用(カメラ入力、画像処理)
- 第11回 身体との接点(各種スマホセンサーの活用)
- 第12回 研究・制作準備(関連研究のサーベイ、要素検証テスト)
- 第13回 研究・制作計画(コンセプトデザイン、要件定義と設計)
- 第14回 研究・制作作業実習、発表資料作成
- 第15回 最終プレゼンテーション発表、振り返りとディスカッション

上記に加えて授業内で3分プレゼンを毎週持ち回りでを行い、テクノロジーとアートについての素養を相互に高め合う。

※ 本授業では主にJavaScript言語およびp5.jsライブラリを取り扱う。

◆準備学習の内容◆

表現技能の向上のために、学習内容を日頃から実践的に活用することが望ましい。
毎週2時間以上を目安に復習、自主的な探求に基づく学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

提出課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。
その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

クレール クイグリー、パトリシア フォスター(2019)決定版 コンピュータサイエンス図鑑, 創元社.

ロン・ホホワイト(2015)コンピューター&テクノロジー解体新書, SBクリエイティブ.

クジラ飛行机(2020)プログラミング言語大全, 技術評論社.

石田保輝, 宮崎修一(2017) アルゴリズム図鑑 絵で見てわかる26のアルゴリズム, 翔泳社.

◆留意事項◆

プログラミング学習には積み重ねが不可欠であるため、授業には毎回出席し、復習を十分行うこと。
マルチメディア・プログラミングⅠを併せて履修すること。

ナンバリング	CML011N		
科目名	マルチメディア・プログラミングⅢ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「仕組みのデザインを通してものごとを表現する」を目標に、創作に必要とされる諸技術や概念を技能として修得する。前期はメディアアートやコンピュータ音楽に関連する諸概念を理解し、ひとの身体・心理・感性とテクノロジーの関係性について広い視座を持って表現活動を行えるようにする。

◆授業内容・計画◆

授業内容は技術的知識や理論に関する講義と演習（グループワークを含む）、プレゼン実習、ディスカッション、課題制作実習で構成される。学生は、「作品または作品表現の要素となるプログラムの開発」を目標に研究・制作計画を立てて遂行し、プレゼンテーション発表の場で実践過程と成果についての客観的な説明を行う。

習熟度を随時考慮しながら、下記の項目を学習する。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容と学習方針の確認)
- 第2回 メディアアートに関係する技術・概念の俯瞰
- 第3回 仕組みのデザイン(手続き、アルゴリズム)
- 第4回 時間と動きの表現1(タイマー、シーケンス、補間)
- 第5回 時間と動きの表現2(ベクトル、運動、フィルタ)
- 第6回 デジタルオーディオ再入門(音響合成、演奏表現)
- 第7回 物理量と心理量(スケーリング、マッピング)
- 第8回 ランダムと有機性(対称性、ノイズ、カオス、エージェント、複雑系)
- 第9回 生成的表現(アルゴリズムックデザイン、ジェネレーティブアート)
- 第10回 アルゴリズム作曲法(生成モデル、人工知能)
- 第11回 感覚特性に合わせた表現(クロスモーダル表現、可聴化と視覚化)
- 第12回 特徴・意味の抽出(基礎的なデータ解析、統計、知識表現)
- 第13回 研究・制作計画(関連研究のサーベイ、コンセプトデザイン、要件定義と設計)
- 第14回 研究・制作作業実習、発表資料作成
- 第15回 最終プレゼンテーション発表、振り返りとディスカッション

上記に加えて授業内で3分プレゼンを毎週持ち回りでを行い、テクノロジーとアートについての素養を相互に高め合う。

◆準備学習の内容◆

表現技能の向上のために、学習内容を日頃から実践的に活用することが望ましい。毎週2時間以上を目安に復習、自主的な探求に基づく学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

提出課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

miku (2020) クリエイティブコーディングの教科書, Zenn.
 (オンライン電子書籍: <https://zenn.dev/baroqueengine/books/a19140f2d9fc1a>)

ウエンディ・スターラー (2009) ゲーム開発のための数学・物理学入門 改訂版 (Professional game programming), SBクリエイティブ.

Tom Stafford, Matt Webb (2005) Mind Hacks ―実験で知る脳と心のシステム, オライリージャパン.

◆留意事項◆

プログラミング学習には積み重ねが不可欠であるため、授業には毎回出席し、復習を十分行うこと。

ナンバリング	CML012N		
科目名	マルチメディア・プログラミングⅣ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「仕組みのデザインを通してものごとを表現する」を目標に、創作に必要とされる諸技術や概念を技能として修得する。後期はネットワークや各種デバイスの活用など、より鑑賞者・オーディエンスや社会との接点を強く持てる表現技法を学び、創作研究実習の成果を展示形式で発表する。

◆授業内容・計画◆

授業内容は技術的知識や理論に関する講義と演習(グループワークを含む)、プレゼン実習、ディスカッション、課題制作実習で構成される。学生は研究・作品制作を行い、展示形式で成果の発表を行う。また成果についてのプレゼンテーションを行い、実践過程と成果について客観的に説明する。

習熟度を随時考慮しながら、下記の項目を学習する。

- 第1回 オリエンテーション(授業内容と学習方針の確認)
- 第2回 ウェブテクノロジー入門(WWW、HTTP、HTMLとCSS)
- 第3回 動的な文書構造の操作(DOM、イベント処理)
- 第4回 外部技術・データの活用1(ライブラリとフレームワーク、WebAudio、WebGL)
- 第5回 外部技術・データの活用2(オープンソースソフトウェア、外部Web API)
- 第6回 シングルボードコンピュータ実習(Raspberry Pi入門)
- 第7回 OS基本機能へのアクセス(コマンドラインシェル、プロセス間通信)
- 第8回 コミュニケーションの形成(ネットワーク基礎、Node.jsによるサーバ構築)
- 第9回 電子工作との連携(センサーデータ読み取り、動力部品の制御)
- 第10回 クオリティの向上(テストとデバッグ、リファクタリング、チューニング)
- 第11回 ユーザーへの公開(パッケージング、クラウドコンピューティング)
- 第12回 研究・制作準備(関連研究のサーベイ、要素検証テスト)
- 第13回 研究・制作計画(コンセプトデザイン、要件定義と設計)
- 第14回 研究・制作作業実習、展示準備、発表資料作成
- 第15回 最終展示・プレゼンテーション発表、発表、振り返りとディスカッション

上記に加えて授業内で3分プレゼンを毎週持ち回りでを行い、テクノロジーとアートについての素養を相互に高め合う。

◆準備学習の内容◆

表現技能の向上のために、学習内容を日頃から実践的に活用することが望ましい。毎週2時間以上を目安に復習、自主的な探求に基づく学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

展示課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

赤間 公太郎, 狩野 咲, 鈴木 清敬 (2022) 世界一わかりやすいHTML&CSSコーディングとサイト制作の教科書[改訂2版] (世界一わかりやすい教科書), 技術評論社.

三宅 英明, 大角 祐介 (2015) 新しいLinuxの教科書 単行本, SBクリエイティブ.

福田 和宏 (2020) これ1冊でできる! ラズベリー・パイ 超入門 改訂第6版 Raspberry Pi 1+/2/3/4/Zero/Zero W対応, ソーテック社.

◆留意事項◆

プログラミング学習には積み重ねが不可欠であるため、授業には毎回出席し、復習を十分行うこと。マルチメディア・プログラミングⅢを併せて履修すること。

ナンバリング	CML013N		
科目名	コンピュータ音楽講義 I		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

主に調性音楽の楽曲分析を通してその原理を学びながら、実際に作曲を試み、19世紀までの西洋音楽の様式概念と手法を体得する。ライブ・コンピュータ音楽作品制作時、楽器パート作曲への手がかりを各自が見い出していく。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 楽曲分析(1): 調性音楽の基本原則
3. 楽曲分析(2): 和声の理論と楽曲分析
4. 楽曲分析(3): 各種小形式の基本原則
5. 音楽語法の研究と実習(1): 小品作曲実習／添削・前半
6. 音楽語法の研究と実習(2): 小品作曲実習／添削・後半
7. 楽曲分析(4): 古典派、ロマン派、またはそれらの外側または周縁にある音楽
8. 音楽の構成についての分析(4)、ポリフォニー
9. 楽曲分析(5): 各種形式と主題変奏の原理
10. 音楽語法の研究と実習(3): 学生による分析研究発表・前半
11. 音楽語法の研究と実習(4): 学生による分析研究発表・後半
12. 音楽語法の研究と実習(5): 作曲実習／添削・前半
13. 音楽語法の研究と実習(6): 作曲実習／添削・後半
14. 創作発表(2)、ディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で指定する資料を読み、聞いてくる

◆成績評価の方法◆

授業内で指定される課題の遂行状況。課題にはコメントなどによるフィードバックを行う。
作品創作: 19世紀までの音楽様式をベースとする。

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML014N		
科目名	コンピュータ音楽講義Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

前期に続き、西洋音楽史上の様々な様式をさらに20世紀の多様な音楽技法まで学んだ上で、自らの創作へのヒントを得て実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 楽曲分析(1): 中世・ルネッサンス期・バロック以前の音楽
2. 楽曲分析(2): 19世紀ロマン派音楽の変遷
3. 楽曲分析(3): 19世紀～20世紀初頭の音楽の変遷
4. 楽器法概説(1): 主な楽器
5. 楽器法概説(2): その他の楽器
6. 楽曲分析(4): 20世紀の音楽諸技法・前半(新しい秩序・理論の探求)
7. 楽曲分析(5): 20世紀の音楽諸技法・後半(不確定性をめぐる諸潮流)
8. 音楽語法の研究と実習(1): 学生による研究と創作プランの発表、講評・前半
9. 音楽語法の研究と実習(2): 学生による研究と創作プランの発表、講評・後半
10. 楽器法実習(弦楽器)
11. 楽器法実習(管楽器)
12. 音楽語法の研究と実習(3): 作曲実習／添削・前半
13. 音楽語法の研究と実習(4): 作曲実習／添削・後半
14. 発表、ディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各回に扱うテーマに関連する楽曲の予習・復習。またその実践を通して、各自の創作を積極的に進めること。
各回の準備学習に必要な時間: 1時間以上

◆成績評価の方法◆

作品創作: ピアノ以外の楽器をふくむ自由形式による作品。
授業中、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML015N		
科目名	コンピュータ音楽講義Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1年目に得た)西洋音楽の知見と技術、楽器についての理解をさらに深め、器楽アンサンブルにおける自らの創作をより発展的に実践する。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 鑑賞と分析(1): 現存の音楽を概観する・前半(20世紀からの成果)
3. 鑑賞と分析(2): 現存の音楽を概観する・後半(ミクストメディア)
4. 様式の分析研究と応用(1): 学生による研究発表・前半
5. 様式の分析研究と応用(2): 学生による研究発表・後半
6. アンサンブル書法の実習・前半(古典以来の原理)
7. アンサンブル書法の実習・後半(現代奏法等も取り入れての書法)
8. モデル化とシステム構築
9. コンピュータ支援作曲ツール
10. 楽器法概説(打楽器)
11. 楽器法実習(打楽器)
12. 様式の分析研究と応用(4)、分析結果による作品の添削、討論・前半
13. 様式の分析研究と応用(5)、分析結果による作品の添削、討論・後半
14. 発表、ディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各回に扱うテーマに関連する楽曲の予習・復習。またその実践を通して、各自の創作を積極的に進めること。
各回の準備学習に必要な時間: 1時間以上

◆成績評価の方法◆

作品創作: 3人以上の編成の自由形式によるアンサンブル作品

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML016N		
科目名	コンピュータ音楽講義Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

現在行われている多種多様な音楽と周辺領域に関する試みに対する知見を広げ、さらに各自の興味と関心に基づく研究とその共有により理解を深め、創作への可能性を見出し実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 管弦楽法(1)
2. 管弦楽法(2)
3. 鑑賞と分析(1) 現在世界で行われている研究・音楽と周辺領域(様々な楽器や演奏法)
4. 鑑賞と分析(2) 現在世界で行われている研究や音楽と周辺領域(ライブエレクトロニクス作曲概論)
5. 学生による研究と創作プラン発表(1)
6. 鑑賞と分析(3) 現在世界で行われている研究や音楽と周辺領域(音楽周辺ツール)
7. 学生による研究と創作プラン発表(2)
8. 鑑賞と分析(4) 現在世界で行われている研究や音楽と周辺領域(ミクストメディア)
9. 学生による研究と創作プラン発表(3)
10. 鑑賞と分析(5) 現在世界で行われている研究や音楽と周辺領域(学生の創作プランへのリアクションとしてのテーマ)
11. 発表作品の添削(1)
12. 発表作品の添削(2)
13. 発表作品の添削(3)
14. 発表、ディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

研究と発表の準備、創作

◆成績評価の方法◆

作品創作: 自由形式による自分の研究に基づく作品
提出作品解説の小論

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML017N		
科目名	コンピュータ応用講義A		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	Tomggg		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

Logicの基本操作を学び、サンプラー/シンセサイザー/波形編集などを用いた、ポピュラー音楽の制作フローを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. Logicの基本操作
3. サンプラー操作
4. シンセサイザー操作
5. 波形編集
6. ビート制作
7. メロディとコード制作
8. ミックス
9. エフェクト～EQ/ダイナミクス/リバーブ
10. エフェクト～リバーブ
11. 書き出し～2mix/パラ/ステム
12. 作曲ワークショップ～基礎
13. 作曲ワークショップ～アレンジ
14. 作曲ワークショップ～仕上げ
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽制作のために、ビルボードやMTV、各種サブスクリプションサービス(spotify、AppleMusicなど)の音楽チャートをチェックし、聴いてくること。国内はもちろん、アメリカ、イギリス、アジア圏など、世界中の楽曲を日常的に聴けると良いです。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で提示する。

◆参考図書◆

ポップ・ミュージックを語る10の視点 / 大和田俊之、榊山寛、牧村憲一 | アルテスパブリッシング
クリティカル・ワード ポピュラー音楽〈聴く〉を広げる・更新する / 永富真梨 / 忠聡太 / 日高良祐 = 編著 | フィルムアート社

◆留意事項◆

ナンバリング	CML018N		
科目名	コンピュータ応用講義B		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	Tomggg		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

Logicの基本操作を学び、サンプラー/シンセサイザー/波形編集などを用いた、ポピュラー音楽の制作フローを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. リミックス～基礎1(歴史)
3. リミックス～基礎2(実践)
4. リミックス～応用
5. リミックス～仕上げ
6. サンプリング～基礎1(歴史)
7. サンプリング～基礎2(実践)
8. サンプリング～応用
9. サンプリング～仕上げ
10. 作曲ワークショップ2～基礎
11. 作曲ワークショップ2～応用
12. 作曲ワークショップ2～アレンジ
13. 作曲ワークショップ2～ミックス
14. 作曲ワークショップ2～マスタリング
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽制作のために、ビルボードやMTV、各種サブスクリプションサービス(spotify、AppleMusicなど)の音楽チャートをチェックし、聴いてくること。国内はもちろん、アメリカ、イギリス、アジア圏など、世界中のヒット曲を聴けると良いです。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で提示する。

◆参考図書◆

ポップ・ミュージックを語る10の視点 / 大和田俊之、榊山寛、牧村憲一 | アルテスパブリッシング
クリティカル・ワード ポピュラー音楽〈聴く〉を広げる・更新する / 永富真梨 / 忠聡太 / 日高良祐 = 編著 | フィルムアート社

◆留意事項◆

ナンバリング	CML019N		
科目名	コンピュータ応用講義C		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	Tomggg		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

様々なスタイルやボーカルを取り入れた、ポピュラー音楽の制作フローを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. UKG/2step分析
3. UKG/2step実践
4. Trap分析
5. Trap実践
6. breakbeats分析
7. breakbeats実践
8. subbass制作
9. Jpop, Kpop応用
10. 歌モノ～基礎
11. 歌モノ～応用
12. 歌モノ～アレンジ
13. 歌モノ～ミックス
14. 歌モノ～マスタリング
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽制作のために、ビルボードやMTV、各種サブスクリプションサービス(spotify、AppleMusicなど)の音楽チャートをチェックし、聴いてくること。国内はもちろん、アメリカ、イギリス、アジア圏など、世界中の楽曲を日常的に聴けると良いです。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

ポップ・ミュージックを語る10の視点 / 大和田俊之、榊山寛、牧村憲一 | アルテスパブリッシング
クリティカル・ワード ポピュラー音楽〈聴く〉を広げる・更新する / 永富真梨 / 忠聡太 / 日高良祐 = 編著 | フィルムアート社

◆留意事項◆

ナンバリング	CML020N		
科目名	コンピュータ応用講義D		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	大橋 史		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

MVやオーディオ・ビジュアル、抽象絵画などをはじめとする”音と視覚表現の関係性”を探究することを目的とした授業です。視覚効果とモーショングラフィックスを作るためのソフトウェアAdobe AfterEffectsの基礎的な技術を集中的に学びながら、さまざまなモーショングラフィックス制作を経て物づくりに関して重要な考え方である「抽象化」の理解も目指していきます。授業の初日にAfterEffectsの基礎的な技術を学び、二日目の課題の内容は「音色の可視化をテーマにしたループアニメーション」、三日目は「音楽にシンクロしたキネティックタイポグラフィ」をテーマにしたモーショングラフィックスを作ります。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション(1):「音楽性を感じる視覚表現」の作例紹介
- 2.イントロダクション(2): AfterEffectsの起動、プロジェクトファイルの作成(フレームレート、コンポジション、ツールバーの説明)
- 3.イントロダクション(3): アニメーションの基礎的な運動の紹介
- 4.イントロダクション(4): レンダリング
- 5.イントロダクション(5): 制作1
- 6.抽象化(1): ベーシックな色彩論を通じて抽象化を理解する
- 7.抽象化(2): 制作2と講評
- 8.リズム1: 名作ポスターを通じて視覚的なリズムを学ぶ
- 9.リズム(2): 制作3
- 10.リズム(3): 講評
- 11.キネティックタイポグラフィ(1): 有名なキネティックタイポグラフィ作品を鑑賞する
- 12.キネティックタイポグラフィ(2): さまざまな書体の特徴に触れる
- 13.キネティックタイポグラフィ(3): 任意の楽曲と文字の動きがシンクロしたアニメーションを作る
- 14.キネティックタイポグラフィ(4): 任意の楽曲と文字の動きがシンクロしたアニメーションを作る
- 15.キネティックタイポグラフィ(5): 講評

◆準備学習の内容◆

事前にIllustratorやPhotoshopなどadobeのソフトウェアに触っておくと理解が早まります。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

出席と演習を通した成果物(aepファイルと書き出されたムービーファイルの内容)で評価します。フィードバックは授業内で随時、および課題提出後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

デザインの授業 目で見て学ぶデザインの構成 佐藤好彦著(エムディエヌコーポレーション)

◆留意事項◆

演習後に課題を制作してもらいます。自宅にAfterEffectsでの作業が出来る環境にしておくこと。

ナンバリング	CMS021N		
科目名	コンピュータ応用演習Ⅰ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	平野 昌太郎		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「音楽を制作するようにデザインをし、デザインをするように音楽を制作する」。実際にデザインの作業を体験し、個々が共通点を発見し体験することで自身の音楽制作へと還元できるような視点の養成を目指します。流行や技法に流されずに模索し続けること、完成させるのではなく可能性に触れること、個の作業ではなく、全員で成果を共有しながら先へ進むこと。

◆授業内容・計画◆

1. 音楽のグラフィック、映像のビジュアライズ
2. 見えるもの、聞こえるもの(1)編集
3. 見えるもの、聞こえるもの(2)リズム・メロディ・ハーモニー
4. 色彩と音色(1)スタディ
5. 色彩と音色(2)分析
6. 余白と間(1)素材制作
7. 余白と間(2)構成
8. テクスチャ(1)採取
9. テクスチャ(2)分析
10. 音楽のある風景(1)素材制作
11. 音楽のある風景(2)ラフの制作
12. 音楽のある風景(3)構成
13. 音楽のある風景(4)仕上げ
14. 課外授業
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

初日は先入観を捨ててきてください。常に日常生活や自然の中からデザイン、音楽に共通する概念を探してください。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、課題評価、授業中適宜フィードバックを行う

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

タイポグラフィ・トゥデイ(誠文堂新光社)

◆留意事項◆

コンピュータ応用演習Ⅱとのセットでの受講を推奨します。アプリケーションの説明は授業内で順次行うので、初心者の方の受講も歓迎します。無断での遅刻、欠席は厳禁。

ナンバリング	CMS022N		
科目名	コンピュータ応用演習Ⅱ		
科目詳細	履修人数制限あり		
担当教員	平野 昌太郎		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「音楽を制作するようにデザインをし、デザインをするように音楽を制作する」。実際にデザインの作業を体験し、個々が共通点を発見し体験することで自身の音楽制作へと還元できるような視点の養成を目指します。流行や技法に流されずに模索し続けること、完成させるのではなく可能性に触れること、個の作業ではなく、全員で成果を共有しながら先へ進むこと。

◆授業内容・計画◆

1. 1枚の紙(1)素材制作
2. 1枚の紙(2)構成
3. 対比(1)素材制作
4. 対比(2)構成
5. chとレイヤー(1)素材制作
6. chとレイヤー(2)構成
7. 時間軸(1)スタディ
8. 時間軸(2)分析
9. コンピュータエフェクト(1)スタディ
10. コンピュータエフェクト(1)分析
11. 楽曲のビジュアライズ(1)素材制作
12. 楽曲のビジュアライズ(2)ラフの制作
13. 楽曲のビジュアライズ(3)文字組
14. 楽曲のビジュアライズ(4)仕上げ
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

初日は先入観を捨ててきてください。常に日常の生活や自然の中からデザイン、音楽に共通する概念を探してください。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、課題評価、授業中適宜フィードバックを行う

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

タイポグラフィ・トゥデイ(誠文堂新光社)

◆留意事項◆

コンピュータ応用演習Ⅱとのセットでの受講を推奨します。無断での遅刻、欠席は厳禁。

ナンバリング	CMS401N		
科目名	コンピュータ応用演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	平野 昌太郎		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	金 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「音楽を制作するようにデザインをし、デザインをするように音楽を制作する」。実際にデザインの作業を体験し、個々が共通点を発見し体験することで自身の音楽制作へと還元できるような視点の養成を目指します。流行や技法に流されずに模索し続けること、完成させるのではなく可能性に触れること、個の作業ではなく、全員で成果を共有しながら先へ進むこと。

◆授業内容・計画◆

1. 五線譜とグリッド(1)講義
2. 五線譜とグリッド(2)スタディ
3. コンサートビジュアル制作a(1)素材制作
4. コンサートビジュアル制作a(2)ラフの制作
5. コンサートビジュアル制作a(3)フォーマット制作
6. コンサートビジュアル制作a(4)文字組
7. コンサートビジュアル制作a(5)仕上げ
8. チケット制作a(1)ラフの制作
9. チケット制作a(2)仕上げ
10. パンフレット制作a(1)ラフの制作
11. パンフレット制作a(2)フォーマット制作
12. パンフレット制作a(3)文字組
13. パンフレット制作a(4)仕上げ
14. 課外授業
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

初日は先入観を捨ててきてください。常に日常の生活や自然の中からデザイン、音楽に共通する概念を探してください。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、課題評価、授業中適宜フィードバックを行う

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

タイポグラフィ・トゥデイ(誠文堂新光社)

◆留意事項◆

コンピュータ応用演習Ⅳとセットの受講を推奨。遅刻、欠席は厳禁。

ナンバリング	CMS402N		
科目名	コンピュータ応用演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	平野 昌太郎		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	金 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「音楽を制作するようにデザインをし、デザインをするように音楽を制作する」。実際にデザインの作業を体験し、個々が共通点を発見し体験することで自身の音楽制作へと還元できるような視点の養成を目指します。流行や技法に流されずに模索し続けること、完成させるのではなく可能性に触れること、個の作業ではなく、全員で成果を共有しながら先へ進むこと。

◆授業内容・計画◆

1. コンサートビジュアルb(1)素材制作
2. コンサートビジュアルb(2)ラフの制作
3. コンサートビジュアルb(3)フォーマット制作
4. コンサートビジュアルb(4)文字組
5. コンサートビジュアルb(5)仕上げ
6. チケット制作b
7. パンフレット制作b(1)ラフの制作
8. パンフレット制作b(2)フォーマット制作
9. パンフレット制作b(3)文字組
10. パンフレット制作b(4)仕上げ
11. ポートフォリオ制作(1)編集
12. ポートフォリオ制作(2)ラフの制作
13. ポートフォリオ制作(3)フォーマット制作
14. ポートフォリオ制作(4)仕上げ
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

初日は先入観を捨ててきてください。常に日常の生活や自然の中からデザイン、音楽に共通する概念を探してください。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、課題評価、授業中適宜フィードバックを行う

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

タイポグラフィ・トゥデイ(誠文堂新光社)

◆留意事項◆

コンピュータ応用演習Ⅳとセットの受講を推奨。遅刻、欠席は厳禁。

ナンバリング	CMS403N		
科目名	コンピュータ音楽実習A		
科目詳細	履修を許可された者のみ2年次から履修可		
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

本科目は研究開発活動の基礎を身につけることを主眼に、「音楽テクノロジーの社会活用」をテーマとして研究開発のプロセスを体験する。具体的には、音楽をとりまくテクノロジーがどのように他分野を含む社会課題へ寄与し、次世代の文化を拓くかという問いに取り組む。授業は実践的ワークショップを中心に、以下の目標により構成する。(1) さまざまな社会課題のトピックに関して実情を調査し、情報収集のスキルを高める。(2) 新しい社会的ニーズの創出について企画案をプロデュースし、プランニングの能力を習得する。(3) 企画案に対するプロトタイプを制作して具現化し、効果的なプレゼンテーションを行う。

◆授業内容・計画◆

授業内容は、各トピックの事例に関する講義とディスカッション、サーベイ、企画考案と資料作成実習、プロトタイプ制作など多岐にわたる。最終的に企画案とプロトタイプについての口頭プレゼンテーション発表を行う。

1) オリエンテーション(計画の作成)

[社会課題のサーベイ]

- 2) 聴覚による情報提示
- 3) エンターテインメント(体験型商業コンテンツ)
- 4) 生活シーンの音環境(サウンドスケープ、ウェルビーイング)
- 5) 工業製品(快音化、振動制御)
- 6) 医療・福祉分野との関連(HCI、生体計測)
- 7) メディア教育(共創)
- 8) リサーチプレゼンテーションとディスカッション

[企画案プロデュース]

- 9) 企画案のブレインストーミング
- 10) 企画書の作成
- 11) 企画案プレゼンテーションとディスカッション

[プロトタイプ制作実習]

- 12) 技術調査・要素検証
- 13) 要件定義・設計
- 14) 実装・テスト
- 15) プレゼンテーション発表と講評

◆準備学習の内容◆

最終課題の遂行にあたっては、日々の積み重ねが重要となる。
予習・復習として毎週調査作業を1時間程度、資料作成・制作作業を1時間程度行うことを推奨する。

◆成績評価の方法◆

提出課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。
その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CMS405N		
科目名	コンピュータ音楽実習C		
科目詳細			
担当教員	Tomggg		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ポピュラー音楽とメディア、ツールに対する分析的アプローチと今日的な制作フローを実践する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 環境・テクノロジー・音楽
3. リズムから考える Tresillo
4. リズムから考える jersey club
5. リズムから考える juke/footwork
6. リズムから考える Vogue
7. 世界のダンスミュージック(南米)
8. 世界のダンスミュージック(アジア)
9. 世界のダンスミュージック(北極圏)
10. 世界のダンスミュージック-まとめ-
11. DAWワークショップ-基礎-
12. DAWワークショップ-基礎2-
13. DAWワークショップ-応用-
14. DAWワークショップ-仕上げ-
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽制作のために、ビルボードやMTV、各種サブスクリプションサービス(spotify、AppleMusicなど)の音楽チャートをチェックし、聴いてくること。国内はもちろん、アメリカ、イギリス、アジア圏など、世界中の楽曲を日常的に聴けると良いです。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で提示する。

◆参考図書◆

ポップ・ミュージックを語る10の視点 / 大和田俊之、榊山寛、牧村憲一 | アルテスパブリッシング
クリティカル・ワード ポピュラー音楽<聴く>を広げる・更新する / 永富真梨 / 忠聡太 / 日高良祐 = 編著 | フィルムアート社

◆留意事項◆

ナンバリング	CMS406N		
科目名	コンピュータ音楽実習D		
科目詳細			
担当教員	大橋 史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

MVやアニメーション作品、モーショングラフィックスをはじめとした音楽と映像がかけ合わさった作品制作を教員がメンターとなってサポートする授業です。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション(1):オーディオビジュアル作品の事例紹介
- 2.イントロダクション(2):面談
- 3.イントロダクション(3):関心のある領域の作品を集めてみる
- 4.イントロダクション(4):自分のためにレコメンドした作品をプレゼンする
- 5.イントロダクション(5):意見交換
- 6.プランニング(1):コンセプトを考える
- 7.プランニング(2):企画書制作
- 8.プランニング(3):企画チェック
- 9.プランニング(4):プロトタイピング
- 10.プランニング(5):プレゼンテーション
- 11.制作(1):中間チェック
- 12.制作(2):カラーグレーディング
- 13.制作(3):ルック
- 14.制作(4):ブラッシュアップ
- 15.講評:学生が作ったアニメーションを講評します

◆準備学習の内容◆

事前にIllustratorやPhotoshopなどadobeのソフトウェアを触っておくと理解が早まります。

◆成績評価の方法◆

出席と演習を通した成果物で評価します。成果物を提出できない場合は失格となります。

◆教科書(使用テキスト)◆

未定

◆参考図書◆

未定

◆留意事項◆

事前にコンピュータ応用講義Dの履修を推薦する。また、授業内容が個人プロジェクトを教員がメンターとしてサポートする形式上、学生の目的意識やモチベーションが明確に作品のクオリティとして反映されやすいです。学生がどんな作品が作りたいかビジョンを明確にするためのお手伝いは可能ですが、漠然としていると何も完成することなく授業が終わってしまう可能性もあります。

ナンバリング	CMS407N		
科目名	コンピュータ音楽実習E		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-02	開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

舞台公演に関わる様々な技術について学ぶ

◆授業内容・計画◆

舞台、道具、照明、音響など、舞台公演に関わる様々な技術、及び職種を知り、また技術なども実習を通じ学ぶ

- 1 劇場舞台の仕組み
- 2 舞台機構
- 3 舞台美術、大道具
- 4 時間軸管理
- 5 舞台照明
- 6 照明機器
- 7 照明制御
- 8 照明プラン
- 9 美術と照明
- 10 舞台音響
- 11 空間音響
- 12 音響機器と技術
- 13 その他の技術
- 14 作品との関わり
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
 機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
 授業内で指示する事を遵守のこと。
 授業はシラバスの内容から、順不同、また複合的に授業を進めていきます

◆準備学習の内容◆

日頃から、舞台公演に関心を持ち、
 各自の研究のテーマや授業に役立てるように心がける。
 疑問があれば、積極的に質問する。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内製作、授業態度の総合評価。授業内、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

舞台技術の共通基礎/劇場等演出空間運用基準協議会
 舞台技術の基礎知識/滝善光/レクラム社
 舞台監督読本/舞台監督研究室 編・著/四海書房
 舞台・テレビジョン照明/日本照明家協会編
 ステージ・舞台照明入門/藤井直/リットーミュージック
 舞台音響技術概論/半田健一/兼六館出版

◆留意事項◆

スケジュールが合えば、外部施設を見学に行く可能性がありますが、その際は事前に連絡します。
 実習も多くありますので、内容に変更がある場合があります。
 実社会と通じる内容であり、無断欠席、および遅刻は、単位未取得に繋がります、ご留意ください。

ナンバリング	CMS408N		
科目名	コンピュータ音楽実習F		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

様々なスタジオ音響技術や関連する技術を身につける

◆授業内容・計画◆

現在の業界で実際に行われていることを検証し、マルチチャンネル、及びMA作業などを実習を通じ学ぶ

- 1 録音・再生技術に関して
- 2 マルチチャンネル録音に関して-1(空間表現)
- 3 マルチチャンネル録音に関して-2(マルチマイク)
- 4 マルチチャンネル再生に関して-1(空間表現)
- 5 マルチチャンネル再生に関して-2(マルチチャンネル)
- 6 音声と映像の関係
- 7 音響効果に関して
- 8 編集技術に関して
- 9 音声ファイル、伝送技術について
- 10 実習-プラン
- 11 実習-録音
- 12 実習-効果
- 13 実習-編集
- 14 実習-ミックス
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、授業内で指示する事を遵守のこと。
授業はシラバスの内容から、順不同、また複合的に授業を進めていきます

◆準備学習の内容◆

日頃から、作品に関連する音に関心を持ち、各自の研究のテーマや授業に役立てるように心がける。目安週1時間以上。
疑問があれば、積極的に質問する。

◆成績評価の方法◆

授業内製作、授業態度の総合評価。授業中、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

サウンドデザインバイブル/沢口真生、染谷和孝、戸田信子/兼六館出版
Sound Design/ デイビッド・ゾンネンシャイン/フィルムアート社
音を作る/木村哲人/筑摩書房
音作り半世紀/大和定次/春秋社

◆留意事項◆

スケジュールが合えば、外部のスタジオを見学に行く可能性があります、その際は事前に連絡します。
実習が多くありますので、内容に変更がある場合があります。
実社会と通じる内容であり、無断欠席、および遅刻は、単位未取得に繋がります、ご留意ください。

ナンバリング	CML409N		
科目名	卒業論文Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行, 松田 周		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

後期に提出する卒業論文の完成に向け、「卒業プロジェクト」として開発・研究活動を行う。次の各項目を具体的な目標とする。(1) 自身の関心に沿って基礎調査を行い、研究テーマを決定する。(2) 研究の目的に対して適切な方法論を探り、研究計画を立てる。(3) 卒業論文の骨子を作成し、研究経過について授業内で報告発表を行う。

◆授業内容・計画◆

各々が具体的な開発目標および研究課題を設定し、コンピュータ音楽やメディアアートに関連するテーマで論文を作成する。

本科目と後期「卒業論文Ⅱ」を通して、文献講読や独自の創作・調査・実験・開発等を行いながら研究を進め、最終的に卒業論文として提出する。
卒業制作作品と関連したテーマであれば望ましい。

以下の内容について、履修学生の指向や進捗に応じて講義・演習・実習・ディスカッション・個人指導を行う。

- (1) 授業ガイダンス(課題要件、年間計画の確認、クラス分け)
- (2) 研究とは何か(学術コミュニケーション、必要なスキル)
- (3) 研究トピックのブレインストーミング(アイデア発想法)
- (4) 情報の収集と評価(情報リテラシー)
- (5) トピックに関する基礎調査(関連研究・事例、学会、研究者)
- (6) リサーチクエスション(問い)の設定
- (7) 進捗報告会(ディスカッション)
- (8) 研究の方法論(分野による考え方や方法の違い、研究倫理)
- (9) 問いからテーマへ(課題の一般化、エビデンスの見積り)
- (10) リサーチデザイン(新規性・有用性・有効性の検討)
- (11) 研究テーマの決定(研究対象、目的、方法)
- (12) 予備的な研究作業の実施(プレ実験、開発検証など)
- (13) 研究計画書の作成
- (14) 中間報告会(ディスカッション)
- (15) 講評とまとめ、後期計画の検討

◆準備学習の内容◆

卒業プロジェクトのテーマとして何がふさわしいかを熟慮し、授業開始時にはいくつかの候補を用意しておくことが望ましい。各々の研究テーマに則し、論文の場合は関連資料の調査、ソフトウェア/システム開発の場合は関連技術の修得を常に心がけること。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

中間発表:50%、授業内での取り組み:50%(表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す)。フィードバックは授業内で随時、および発表後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

新版 論文の教室—レポートから卒論まで(戸田山和久 著/NHK出版)
 リサーチの技法(ウェイン・ブース、グレゴリー・コロンブ他)
 改訂版 音楽の文章セミナー:プログラム・ノートから論文まで(久保田慶一 著/音楽之友社)
 コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)
 サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
 人工知能が音楽を創る(デイヴィッド・コープ著/音楽之友社)
 音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)

◆留意事項◆

ナンバリング	CML410N		
科目名	卒業論文Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行, 松田 周		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「卒業論文Ⅰ」にて設定した研究課題を遂行し、最終的に卒業論文として完成させる。またそれについてのプレゼンテーションを最終発表にて実施する。次の各項目を具体的な目標とする。(1) 研究作業を通して独自の情報を創出する。(2) 情報を学術文書の形式に反映させ、質と量ともに十分な論文を作成する。(3) 研究内容について効果的なプレゼンテーション発表を行う。

◆授業内容・計画◆

前期の「卒業論文Ⅰ」にて各自設定した研究課題を遂行し、論文を執筆する。
以下の内容について、履修学生の指向や進捗に応じて講義・演習・実習・ディスカッション・個人指導を行う。

- (1) 研究計画の確認
- (2) アカデミック・ライティングの基礎(論文の要素、構成の理解)
- (3) 論文の章立て、主張の検討(ディスカッション)
- (4) 研究作業による情報の創出(実験、アンケート、開発テストなど)
- (5) 序論の執筆(背景、課題設定、仮説、目的、意義)
- (6) 資料の利用(図表の作成、引用と参考文献リスト)
- (7) 進捗報告会(ディスカッション)
- (8) 本論の執筆(方法と結果、考察)
- (9) 結論と概要の執筆、タイトルの再考
- (10) 書式とレイアウトの確認(表紙、目次、見出し、適切な文章表現など)
- (11) 文書構造の視覚化(文書作成ツールのテクニック)
- (12) 論文予備提出と添削指導
- (13) プレゼンテーションの予行演習
- (14) 最終プレゼンテーション発表
- (15) 講評とまとめ、論文の最終提出(校正、製本)

最終提出物は以下とする。

- 1. 概要(作品解説兼用)
 - 2. 研究論文(20,000字程度)
 - 3. 必要に応じて添付資料等
- ※ 論文および添付資料はデジタルデータとハードコピー(印刷・製本したもの)を提出すること。

◆準備学習の内容◆

各々の研究テーマに則し、論文の場合は関連資料の調査、ソフトウェア/システム開発の場合は関連技術の修得を常に心がけること。目安週1時間以上。

◆成績評価の方法◆

最終提出物: 60%、最終プレゼンテーション: 20%、授業内での取り組み: 20%(表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す)。フィードバックは授業内で随時、および発表後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

新版 論文の教室—レポートから卒論まで(戸田山和久 著/NHK出版)
リサーチの技法(ウェイン・ブース, グレゴリー・コロンブ他)
改訂版 音楽の文章セミナー: プログラム・ノートから論文まで(久保田慶一 著/音楽之友社)
コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)
サウンドとメディアの文化資源学(渡辺裕 著/春秋社)
人工知能が音楽を創る(デイヴィッド・コープ著/音楽之友社)
音響メディア史(谷口文和ほか 著/ナカニシヤ出版)

◆留意事項◆

ナンバリング	CMS411N		
科目名	アプリケーション開発実習 I		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コンピュータ、ネットワーク、映像、音響、センサー、電子回路、IoTデバイス、アクチュエータ、クラウドデータ連携など、多岐にわたる技術を統合し、活用する方法を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- ・音響・映像技術やデータ処理技術、電子回路やIoTの基礎を学び、それらの歴史と現在の状況を理解する。
- ・センサーやIoTデバイスのデータ取得・制御、クラウド連携、プログラミング、映像・音響の処理技術を体験的に学ぶ。
- ・学んだ技術を統合し、自身のアイデアを形にする力を養い、音楽やアート分野での独自性を発揮できる応用力を身につける。
- ・技術選定、プロトタイプ開発、完成作品の発表までの一連の流れを学び、創作活動の中で活用できる制作プロセスを習得する。

- 第1回 オリエンテーション（授業内容確認と研究計画）
- 第2回 技術の歴史と現在：音響・映像・センサー技術の規格、運用、発展
- 第3回 コンピュータ入出力技術：基礎から応用まで
- 第4回 通信技術、ネットワーク技術の基礎と応用
- 第5回 電子回路基礎：電子部品と簡単な回路設計
- 第6回 IoT基礎：センサーとマイコン（Arduino、ESP32、Raspberry Piなど）の連携
- 第7回 IoT応用：データ収集と制御システムの設計
- 第8回 映像処理1：入出力、描画、エフェクトの基礎
- 第9回 映像処理2：音響との連携、実践的アプリケーション開発
- 第10回 iOSアプリ開発1：環境構築と基本的なUI設計
- 第11回 iOSアプリ開発2：センサー連携とデータ処理の実践
- 第12回 データ処理1：センサーからのデータ取得と可視化
- 第13回 データ処理2：クラウド連携とデータ管理基礎
- 第14回 作品創作計画：コンセプト設計と技術選定
- 第15回 作品制作：プロトタイプ開発と発表準備

◆準備学習の内容◆

復習を十分行うこと。
自主的に学習をすすめ課題を見つけること
目安週2時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、提出課題、プレゼンテーション、作品等によって評価する。
課題にはコメントなどによるフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付資料

◆参考図書◆

数学から創るジェネラティブアート－Processingで学ぶかたちのデザイン(巴山竜来)
動きそのもののデザイン リサーチ・スルー・デザインによる運動共感の探(三好賢聖)
IoT電子工作 やりたいこと事典(後閑 哲也)
アイデアをカタチにする! M5Stack入門&実践ガイド(技術評論社)
IoT開発スタートブック ―― ESP32でクラウドにつなげる電子工作をはじめよう！(下島健彦)

◆留意事項◆

ナンバリング	CMS412N		
科目名	アプリケーション開発実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	松田 周		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	2-04	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

各種メディアを統合するプログラミング環境とiOSアプリ開発を用いて、作品創作を実践的に行う。映像、音響、センサー、IoT、AI応用技術を活用し、幅広い技術を駆使した応用力の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回 オリエンテーション(授業内容確認と研究計画)
第2回 iOSアプリ開発1:環境構築と基本的なUI設計
第3回 iOSアプリ開発2:音響・映像処理の基礎
第4回 iOSアプリ開発3:センサー連携とデータ取得
第5回 アプリケーション開発1:Max拡張(関数とデータ処理)
第6回 アプリケーション開発2:Maxエクスターナルオブジェクト(音声応用)
第7回 アプリケーション開発3:Maxエクスターナルオブジェクト(映像応用)
第8回 IoT応用1:電子回路基礎とセンサー制御
第9回 IoT応用2:クラウド連携とIoTデータ管理
第10回 AI応用1:生成AIの基礎と音響・映像への応用
第11回 AI応用2:インタラクティブなアート制作の実践例
第12回 作品創作計画:多技術統合のコンセプト設計
第13回 作品創作実践:プロトタイプ開発と検証
第14回 作品創作応用:発表準備とフィードバック
第15回 作品発表:プレゼンテーションと総括

◆準備学習の内容◆

復習を十分行うこと。
自主的に学習をすすめる課題を見つけること。
目安週2時間以上。

◆成績評価の方法◆

授業内実習、提出課題、プレゼンテーション、作品等によって評価する。
課題にはコメントなどによるフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付資料

◆参考図書◆

数学から創るジェネラティブアート - Processingで学ぶかたちのデザイン(巴山竜来)
動きそのもののデザイン リサーチ・スルー・デザインによる運動共感の探(三好賢聖)
IoT電子工作 やりたいこと事典(後閑 哲也)
アイデアをカタチにする! M5Stack入門&実践ガイド(技術評論社)
IoT開発スタートブック ―― ESP32でクラウドにつなげる電子工作をはじめよう!(下島健彦)

◆留意事項◆

ナンバリング	MML013N		
科目名	音楽学入門		
科目詳細	オムニバス形式※休講情報配信時注意		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

音楽研究の歴史や多様性を理解し、自ら課題を設定して研究できるようになる。

◆授業内容・計画◆

近代ヨーロッパを源流として展開してきた「音楽学」の特徴を認識するとともに、その研究対象・研究方法における現代的広がりを、音楽民族学、日本音楽研究、ポピュラー音楽研究、音楽社会学などを含む様々な視点から概観します。音楽研究の諸領域と実例を学びつつ、自ら課題を設定して研究を進めることができますようにします。

◆各回のテーマと担当者(担当者の記載がない回は、早稲田担当)

1. イントロダクション、音楽学の歴史
2. 音楽民族学の展開と音楽学の多様化
3. 楽譜の多様性:音楽を伝える方法
4. 楽器学(横井雅子、楽器学資料館にて)
5. 西洋古楽(太田垣至、楽器学資料館にて)
6. 課題の設定・資料検索ワークショップ(図書館にて)
7. 資料の扱い方:注記と参考資料一覧について
8. 音響学(三浦雅展)
9. 音楽美学(瀬尾文子)
10. 日本音楽(前島美保)
11. ポピュラー音楽・音楽社会学研究(小泉恭子)
12. 研究発表(Aグループ)
13. 研究発表(Bグループ)
14. 研究発表(Cグループ)
15. まとめと補遺

授業の進捗状況や受講生の人数により、内容や順番が変更されることもあります。

◆準備学習の内容◆

配布資料、参考資料に目を通し、課題に取り組む。各自の研究テーマに関する資料収集と調査を進め、研究発表のための原稿、レジュメ(発表概要をまとめた配布資料)、必要に応じてパワーポイント資料を準備する。各回30分～1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、課題、発表、発表資料(レジュメ、必要に応じてパワーポイント)によって総合的に評価する。課題と発表に関しては適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に定めない。

◆参考図書◆

『音楽学を学ぶ人のために』根岸一美・三浦信一郎 編(世界思想社、2004)
『音楽論』白石美雪・横井雅子・宮澤淳一(武蔵野美術大学出版局、2016)
『音楽理論の基礎』笠原潔・徳丸吉彦(放送大学、2007)
『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一 編著(音楽之友社、1999)
『世界音楽への招待』柘植元一(音楽之友社、1991)
その他、授業で適宜紹介します。

◆留意事項◆

幅広く音楽学の世界を概観する授業です。研究発表に向けて、遅くとも資料検索ワークショップまでに各自の研究テーマを設定しましょう。

ナンバリング	MMS429N		
科目名	インターンシップ		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	土2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

インターンシップに向けて、基本的な心構えを学び、前提となる知識を身につける。

◆授業内容・計画◆

インターンシップは、大学という枠組みを出た社会活動となるので、常識と考えられる部分も含めて、礼儀礼節などについては改めて明確な自覚を促したい。大学と受け入れ先という複数の組織が関係しているという点からは、必要な連絡や報告についても意識を高めて欲しい。受け入れ先について正確な情報を得ておくことは、先方に対する最低限の礼儀であると同時に、体験をより稔り豊かなものにする基盤ともなるはずである。

- 第1回 導入
- 第2回 インターンシップ先の選定
- 第3回 インターンシップに向けての心得
- 第4回 日誌の書き方・提出・返却について
- 第5回 個人発表：インターンシップ先について知る(1)ホールA
- 第6回 個人発表：インターンシップ先について知る(2)ホールB
- 第7回 個人発表：インターンシップ先について知る(3)出版社C
- 第8回 個人発表：インターンシップ先について知る(4)出版社D
- 第9回 同じ種類の職場に関する調査
- 第10回 中間のまとめ
- 第11回 日本社会とインターンシップ
- 第12回 ディスカッション：インターンシップ体験を踏まえて(1)ホールAでの体験から
- 第13回 ディスカッション：インターンシップ体験を踏まえて(2)ホールBでの体験から
- 第14回 ディスカッション：インターンシップ体験を踏まえて(3)出版社での体験から
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・受け入れ先について、しっかりとした情報収集をし、個人発表を行うこと(1回の発表に対する準備は2～3時間程度)。
- ・受け入れ先以外に関しても、インターンシップ全般に関して、また自分が興味を持っている職種の全般に関して、常に関心を高め、情報を得るように努めること。

◆成績評価の方法◆

授業に取り組む姿勢、インターンシップ日誌の内容。日誌には適宜講評を加えます。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

- ・研修先としてマネジメント系を希望する場合は「マネジメント実習Ⅰ」、出版系を希望する場合は「音楽情報の編集・加工Ⅰ」、情報技術系を希望する場合は少なくとも「音楽情報の編集・加工Ⅱ」を合わせて履修するのが望ましい。なお研修先は、大学と提携している会社に限らず、学生自身が自主的にみつけてきてもよい。ただし、その場合はまず大学の指導教員に相談し、事前の調査と実習内容の報告をよりいっそう確実に行うこと。
- ・インターンシップに際しては、受け入れ先の担当者、大学の指導教員に、円滑かつ十分に連絡・報告を行うこと。
- ・インターンシップでの個々の姿勢は、大学全体のイメージにも影響を及ぼすような責任の重いものであることを自覚すること。

ナンバリング	CRS024N		
科目名	総譜奏法A I		
科目詳細	作曲専修履修		
担当教員	近藤 岳		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-03	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

各種音部記号に通じ、様々な編成のスコアを読み解く力と演奏力を研鑽する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ハ音記号の読譜と演奏①(アルト記号)
3. ハ音記号の読譜と演奏②(テノール記号)
4. ハ音記号の読譜と演奏③(ソプラノ記号)
5. ハ音記号の読譜と演奏④(メゾソプラノ記号)
6. ハ音記号の読譜と演奏⑤(バリトン記号)
7. ト音記号、ヘ音記号、各種ハ音記号用いた読譜と初見① 2声
8. ト音記号、ヘ音記号、各種ハ音記号用いた読譜と初見② 3声
9. 弦楽三重奏曲① 古典派
10. 弦楽三重奏曲② ロマン派
11. 弦楽四重奏曲① 古典派
12. 弦楽四重奏曲② ロマン派
13. ソプラノ、アルト、テノール、バス記号によるコラール① ガイダンス
14. ソプラノ、アルト、テノール、バス記号によるコラール② バッハを中心に
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各種音部記号(クレ読み)を常に行っておくこと。また、授業内で取り扱った作品は復習をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックするとともに、読譜能力、演奏技術、その習熟度や完成度、また授業への取り組みや姿勢を基に、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内に適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

ジョルジュ・ダンドウロ G.Dandelot 著 『マニユエル・プラティーク』 Manuel pratique, エディション・マックス・エッシング Editions Max Esching

◆留意事項◆

ピアノ演奏があまり得意ではない学生にとっては履修が厳しいものになるので、履修を十分に考慮すること。

ナンバリング	CRS024N		
科目名	総譜奏法A I		
科目詳細	コース生、電オル生履修		
担当教員	篠田 昌伸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-308	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

古典派の弦楽3重奏に始まり、移調楽器を含む室内楽の楽器パートに取り組む、その後古典派や近代の弦楽四重奏、木管五重奏、弦楽アンサンブルまで、弾くことができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ベートーヴェンまたはシューベルトの弦楽三重奏(1)(ハ音記号の確認から、実習へ)
- 第2回 ベートーヴェンまたはシューベルトの弦楽三重奏(2)(各曲の提示部、または第一主題部まで)
- 第3回 ベートーヴェンまたはシューベルトの弦楽三重奏(3)(展開部、または提示部まで)
- 第4回 ベートーヴェンまたはシューベルトの弦楽三重奏(4)(再現部、または展開部まで)
- 第5回 移調楽器を含む三重奏(1)(B管と弦楽器を含む作品)
- 第6回 移調楽器を含む三重奏(2)(A管と弦楽器を含む作品)
- 第7回 古典派の弦楽四重奏(1)(モーツァルト、またはベートーヴェンの作品 前半)
- 第8回 古典派の弦楽四重奏(2)(モーツァルト、またはベートーヴェンの作品 後半)
- 第9回 フランス近代の弦楽四重奏(1)(フォーレ、ドビュッシー、ボロディン等の作品 前半)
- 第10回 フランス近代の弦楽四重奏(2)(フォーレ、ドビュッシー、ボロディン等の作品 後半)
- 第11回 B管クラリネットを含む、クラリネット5重奏
- 第12回 A管クラリネットを含む、クラリネット5重奏
- 第13回 木管5重奏曲
- 第14回 弦楽アンサンブル
- 第15回 まとめと評価(各人の今学期の成果)

◆準備学習の内容◆

それぞれの実力に応じて選択した楽曲のスコアを読み、ピアノで弾く練習をすること(60分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業での平常点、取り組みの様子、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

課題のスコアは、教員が生徒それぞれにPDFファイルで送付する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS025N		
科目名	総譜奏法AⅡ		
科目詳細	作曲専修履修		
担当教員	近藤 岳		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-03	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

各種音部記号に通じ、様々な編成のスコアを読み解く力と演奏力を研鑽する。

◆授業内容・計画◆

1. 前期の復習
2. 各種音部記号の復習① ソプラノ、アルト、テノール記号
3. 各種音部記号の復習② メゾソプラノ、バリトン記号
4. 各種音部記号の復習③ 全7つの音部記号
5. C管、Es管、A管楽器の読譜
6. D管、B管楽器の読譜
7. F管、G管楽器の読譜
8. 移調奏① 単旋律～2声を中心に
9. 移調奏② 大譜表(ピアノ曲)
10. 様々なアンサンブル曲① 木管五重奏曲の読譜
11. 様々なアンサンブル曲② 金管五重奏の読譜
12. オーケストラ楽曲(バロック、古典派)の読譜
13. オーケストラ楽曲(ロマン派)の読譜
14. オーケストラ楽曲(近現代)の読譜
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各種音部記号(クレ読み)を常に行っておくこと。また、授業内で取り扱った作品は復習をしておくこと。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出しフィードバックするとともに、読譜能力、演奏技術、その習熟度や完成度、また授業への取り組みや姿勢を基に、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内に適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

ジョルジュ・ダンドウロ G.Dandelot 著 『マニユエル・プラティーク』 Manuel pratique, エディション・マックス・エッシング Editions Max Esching

◆留意事項◆

ピアノ演奏があまり得意ではない学生にとっては履修が厳しいものになるので、履修を十分に考慮すること。

ナンバリング	CRS025N		
科目名	総譜奏法AⅡ		
科目詳細	コース生、電オル生履修		
担当教員	篠田 昌伸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-308	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽五重奏に始まり、古典またはロマン派のクラリネット五重奏、近代の木管五重奏、さらに管楽セレナーデや弦楽合奏曲までを弾くことができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 弦楽五重奏(1)(ベートーヴェンの作品)
- 第2回 弦楽五重奏(2)(モーツァルトの作品)
- 第3回 弦楽五重奏(3)(シューベルトの作品)
- 第4回 古典派またはロマン派のクラリネット五重奏(1)(モーツァルトの作品、提示部)
- 第5回 古典派またはロマン派のクラリネット五重奏(2)(モーツァルトの作品、展開部、または再現部)
- 第6回 古典派またはロマン派のクラリネット五重奏(3)(ウェーバー、またはブラームスの作品、提示部)
- 第7回 古典派またはロマン派のクラリネット五重奏(4)(ウェーバー、またはブラームスの作品、展開部)
- 第8回 古典派またはロマン派のクラリネット五重奏(5)(ウェーバー、またはブラームスの作品、再現部)
- 第9回 近代の木管五重奏(1)(ミヨーの組曲 前半)
- 第10回 近代の木管五重奏(2)(ミヨーの組曲 後半)
- 第11回 近代の木管五重奏(3)(イベールの組曲 前半)
- 第12回 近代の木管五重奏(4)(イベールの組曲 後半)
- 第13回 管楽合奏または弦楽合奏曲(1)(ドボルザーク、またはチャイコフスキーの作品 前半)
- 第14回 管楽合奏または弦楽合奏曲(2)(ドボルザーク、またはチャイコフスキーの作品 後半)
- 第15回 まとめと評価(各人の今学期の成果)

◆準備学習の内容◆

それぞれの実力に応じて選択した楽曲のスコアを読み、ピアノで弾く練習をすること(60分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業での平常点、取り組みの様子、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

課題のスコアは、教員が生徒それぞれにPDFファイルで送付する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS026N		
科目名	総譜奏法AⅢ		
科目詳細	作曲専修履修		
担当教員	林 達也		
学年	2年	クラス	02
講義室	2-31	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

室内楽、声楽及び管弦楽の諸作品をピアノで演奏表現できることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

様々なオーケストラ作品をピアノで弾くこと、さらにはそれを演奏表現にまで高めることを目標とする。各々の能力水準に合わせたグループレッスン形態で授業を進める。

前期: 様々な移調楽器の読譜訓練・室内楽作品の総譜視奏の練習

- 第1回 移調楽器の視奏復習①(B管)
- 第2回 移調楽器の視奏復習②(F管)
- 第3回 弦楽四重奏の総譜視奏(練習課題)
- 第4回 弦楽四重奏の総譜視奏(Haydn)
- 第5回 弦楽四重奏の総譜視奏(Mozart)
- 第6回 弦楽四重奏の総譜視奏(Beethoven)
- 第7回 木管三重奏の総譜視奏①(練習課題)
- 第8回 木管三重奏の総譜視奏②(モーツァルト作品)
- 第9回 木管三重奏の総譜視奏③(ベートーベン作品)
- 第10回 木管五重奏の分析(練習課題)
- 第11回 木管五重奏の総譜視奏(実作品を用いる)
- 第12回 オーケストラ楽器の総譜による分析(練習課題)
- 第13回 オーケストラ譜のピアノ用編曲①(ハイドン作品)
- 第14回 オーケストラ譜のピアノ用編曲②(モーツァルト作品)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

様々なスコアを読譜してピアノで弾く習慣をつける。特に移調楽器の読譜に慣れておくこと(60分)
また授業で学習した作品を音楽的な流れを考慮しながらミス無くピアノで弾けるように復習をする。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常点及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントの配布と室内楽や管弦楽曲のスコア。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS026N		
科目名	総譜奏法AⅢ		
科目詳細	コース生、電オル生履修		
担当教員	篠田 昌伸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-308	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦5部を中心とした、モーツァルト、ハイドン等の古典派のシンフォニーに始まり、ベートーヴェン、シューベルト等古典派の序曲や、コンチェルトのオケパート、またフィガロ、魔弾、等の簡易なオペラの序曲までを弾くことができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 古典派のシンフォニー(1)(ハイドンまたはモーツァルトの初期のシンフォニー 前半)
- 第2回 古典派のシンフォニー(2)(ハイドンまたはモーツァルトの初期のシンフォニー 後半)
- 第3回 古典派のシンフォニー(3)(シューベルトのシンフォニー 前半)
- 第4回 古典派のシンフォニー(4)(シューベルトのシンフォニー 後半)
- 第5回 古典派の序曲(1)(ベートーヴェンの序曲 前半)
- 第6回 古典派の序曲(2)(ベートーヴェンの序曲 後半)
- 第7回 古典派の序曲(3)(シューベルトの序曲)
- 第8回 古典、ロマン派の協奏曲(1)(モーツァルトの協奏曲)
- 第9回 古典、ロマン派の協奏曲(2)(ベートーヴェンの協奏曲)
- 第10回 古典、ロマン派の協奏曲(3)(チャイコフスキーの協奏曲)
- 第11回 古典、ロマン派のオペラ序曲(1)(モーツァルトのオペラ序曲 前半)
- 第12回 古典、ロマン派のオペラ序曲(2)(モーツァルトのオペラ序曲 後半)
- 第13回 古典、ロマン派のオペラ序曲(3)(ロッシーニのオペラ序曲 前半)
- 第14回 古典、ロマン派のオペラ序曲(4)(ロッシーニのオペラ序曲 後半)
- 第15回 まとめと評価(各人の今学期の成果)

◆準備学習の内容◆

それぞれの実力に応じて選択した楽曲のスコアを読み、ピアノで弾く練習をすること(60分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業での平常点、取り組みの様子、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

課題のスコアは、教員が生徒それぞれにPDFファイルで送付する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS027N		
科目名	総譜奏法AⅣ		
科目詳細	作曲専修履修		
担当教員	林 達也		
学年	2年	クラス	02
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

室内楽、声楽及び管弦楽の諸作品をピアノで演奏表現できることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

様々なオーケストラ作品をピアノで弾くこと、さらにはそれを演奏表現にまで高めることを目標とする。各々の能力水準に合わせたグループセッション形態で授業を進める。

後期:前期授業で学んだ基礎を発展させる。様々な様式による室内楽作品・管弦楽作品の総譜視奏。

- 第1回 ハイドンのシンフォニーの分析
- 第2回 ハイドンのシンフォニーの視奏
- 第3回 モーツァルトのシンフォニーの分析
- 第4回 モーツァルトのシンフォニーの視奏
- 第5回 ベートーベンのシンフォニーの分析
- 第6回 ベートーベンのシンフォニーの視奏
- 第7回 メンデルスゾーンのシンフォニーの分析
- 第8回 メンデルスゾーンのシンフォニーの視奏
- 第9回 チャイコフスキーのシンフォニーの分析
- 第10回 チャイコフスキーのシンフォニーの視奏
- 第11回 ドビッシューのオーケストラ作品のピアノ用編曲①(牧神の午後の前奏曲)
- 第12回 ドビッシューのオーケストラ作品のピアノ用編曲②(海)
- 第13回 ラヴェルのオーケストラ作品の総譜視奏のための作品分析(マ・メール・ロア)
- 第14回 ラヴェルのオーケストラ作品の総譜視奏(マ・メール・ロア)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

様々な楽曲のスコアを読譜し、ピアノで弾いてみる。特に移調楽器の読譜に慣れておくこと(60分)
また、授業で学習した楽曲を音楽的な流れを考慮してミス無くピアノで弾けるようにする。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常点及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布と室内楽及び管弦楽曲のスコアを各自持参すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS027N		
科目名	総譜奏法AⅣ		
科目詳細	コース生、電オル生履修		
担当教員	篠田 昌伸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-308	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ロマン派や近代の組曲に始まり、ベートーヴェン、ブラームス、ドボルザーク、チャイコフスキー等ロマンの交響曲、さらに近代の任意のオーケストラ曲まで、実力に応じてレパートリーを増やしていく。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ロマン派の組曲(1)(メンデルスゾーン、グリーグ等の組曲 前半)
- 第2回 ロマン派の組曲(2)(メンデルスゾーン、グリーグ等の組曲 後半)
- 第3回 近代の組曲(1)(フォーレ、ドビュッシー、リムスキー、その他の組曲から。前半)
- 第4回 近代の組曲(2)(フォーレ、ドビュッシー、リムスキー、その他の組曲から。後半)
- 第5回 ベートーヴェンの交響曲(1)(選択したシンフォニーの緩徐楽章)
- 第6回 ベートーヴェンの交響曲(2)(選択したシンフォニーのソナタ楽章 前半)
- 第7回 ベートーヴェンの交響曲(3)(選択したシンフォニーのソナタ楽章 後半)
- 第8回 ベートーヴェンの交響曲(4)(選択したシンフォニーのスケルツォ)
- 第9回 ロマン派の交響曲(1)(ブラームスの作品 前半)
- 第10回 ロマン派の交響曲(2)(ブラームスの作品 後半)
- 第11回 ロマン派の交響曲(3)(チャイコフスキーの作品 前半)
- 第12回 ロマン派の交響曲(4)(チャイコフスキーの作品 後半)
- 第13回 任意のオーケストラ曲(1)(各人の進度に合わせたより進歩的な楽曲 前半)
- 第14回 任意のオーケストラ曲(2)(各人の進度に合わせたより進歩的な楽曲 後半)
- 第15回 まとめと評価(各人の今学期の成果)

◆準備学習の内容◆

それぞれの実力に応じて選択した楽曲のスコアを読み、ピアノで弾く練習をすること(60分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業での平常点、取り組みの様子、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

課題のスコアは、教員が生徒それぞれにPDFファイルで送付する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS028N		
科目名	編曲法AⅠ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

簡単なメロディーに相応しいコード進行を付け、いろいろな手法で編曲できる。

◆授業内容・計画◆

- 1 オリエンテーション
- 2 和声とコードの違いについての考察
- 3 chord name 各種の学習
- 4 chord nameとコード進行の学習方法
- 5 同上2 ドミナントモーション
- 6 同上4 サブドミナント各種
- 7 同上5 2ー5モーション1前半
- 8 同上6 2ー5モーション2後半
- 9 コード進行各種とポップス曲
- 10 コード付け1/4
- 11 コード付け2/4
- 12 コード付け3/4
- 13 録音実習1前半
- 14 録音実習2後半
- 15 課題発表

◆準備学習の内容◆

クラシック音楽またはクラシック以外の音楽、ポピュラー音楽、J-Popなどを聴いて、コードの変化について考察しておく。

◆成績評価の方法◆

編曲作品の提出および平常の授業への取り組みを評価する。
また、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著

思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き) [単行本]リットーミュージック 河村ケン著

- BGMのすべて アドリブメロディー付 改訂新版 ベスト356 小森谷清 著編 全音楽譜出版社
- 決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解 北川祐編著 リットーミュージック

◆留意事項◆

このクラスでは、コード進行を中心に編曲法を学ぶが、既に和声の基礎知識がある事。従って、作曲科学生は優先される。他学科学生で和声の知識が無い者は、編曲法BI,BIIを受講して下さい。

ナンバリング	CRS029N		
科目名	編曲法AⅡ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ポピュラー音楽全般のアレンジ方法を自分なりのやり方でできるようになる。

◆授業内容・計画◆

1楽曲への編曲への予備知識

①コーラス形式、アドリブ部分、間奏などの作り方。

2②ベースライン

3③バックিং のいろいろと楽器

4④カウンターラインと楽器

5⑤フィルインと楽器

6ジャズ系、ソウル系、ロック系、ポップス系、フォーク系などジャンルについて(1)知識

7同上(2)実習

8ピアノ伴奏付き合唱曲への編曲に取り組む

9ヒット曲からの学習(歌謡曲、J-POP,シャンソン、JAZZ音楽、ロック音楽各種、BlackMusic、ワールドミュージック、歴史的代表的な全米ポップスなど)から例を見る(1)基礎

10ヒット曲からの学習(歌謡曲、J-POP,シャンソン、JAZZ音楽、ロック音楽各種、BlackMusic、ワールドミュージック、歴史的代表的な全米ポップスなど)から例を見る(2)応用

11ストリングスアンサンブル書法

12編成と規模～ソロ／デュオ／バンド／オケ～インスト曲のアレンジを学習する為、2台キーボード(1)導入

13編成と規模～ソロ／デュオ／バンド／オケ～インスト曲のアレンジを学習する為、2台キーボード(2)実習

14編成と規模～ソロ／デュオ／バンド／オケ～インスト曲のアレンジを学習する為、2台キーボード(3)完成

15まとめと評価(発表)

◆準備学習の内容◆

Jpopやジャズがどんな形式で出来ているかに興味を持ち、自分なりの形式にたいするイメージが持てる様にしておく。

◆成績評価の方法◆

編曲作品の提出および平常の授業への取り組みを評価する。

また、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著

思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き)[単行本]リットーミュージック 河村ケン著

●BGMのすべて アドリブメロディー付 改訂新版 ベスト356

小森谷清 著編 全音楽譜出版社

●決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解 北川祐編著 リットーミュージック

編曲法AIIで使用

●実践アレンジ・テクニック(デジタル世代の音楽教本)外山一彦 ビーエヌエヌ新社

◆留意事項◆

このクラスでは、コード進行を中心に編曲法を学ぶが、既に和声の基礎知識がある事。従って、作曲科学生は優先される。多学科学生で和声の知識が無い者は、編曲法BI,IIIを受講して下さい。

作品発表提出などのPCの使用不使用は任意

ナンバリング	CRS030N		
科目名	編曲法AⅢ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	2-15	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ジャズの手法を中心に編曲法の基礎を理解し、実践できる。

◆授業内容・計画◆

1. Jazz Concept
2. Chord とChord Scale
3. Diatonic Chord とNon Diatonic Chord
4. TensionとTension Resolve
5. Chord Progression
6. Swing FeelとWalking Bass
7. Interpretation の技法
8. 4 Way Close Voicing
9. Open Voicing
10. Spread Voicing とその応用
11. Big Band Score Analyzeと実践 (1)概論
12. Big Band Score Analyzeと実践 (2)基礎
13. Big Band Score Analyzeと実践 (3)応用
14. Part Writing
15. Score Writing

◆準備学習の内容◆

Big Band Jazzはもちろん、Bebop以降のジャズも多く聴き、その表現の手法を学んでほしい。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、期末提出課題により評価する。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

Arranging For Large Jazz Ensemble / Dick Lowell and Ken Pulling (ATN,inc.)

◆留意事項◆

PC持参推奨

ナンバリング	CRS042N		
科目名	ジャズ・ハーモニー I		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	2-15	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ジャズの手法を中心に編曲法の基礎を理解し、実践できる。

◆授業内容・計画◆

1. Jazz Concept
2. Chord とChord Scale
3. Diatonic Chord とNon Diatonic Chord
4. TensionとTension Resolve
5. Chord Progression
6. Swing FeelとWalking Bass
7. Interpretation の技法
8. 4 Way Close Voicing
9. Open Voicing
10. Spread Voicing とその応用
11. Big Band Score Analyzeと実践 (1)概論
12. Big Band Score Analyzeと実践 (2)基礎
13. Big Band Score Analyzeと実践 (3)応用
14. Part Writing
15. Score Writing

◆準備学習の内容◆

Big Band Jazzはもちろん、Bebop以降のジャズも多く聴き、その表現の手法を学んでほしい。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、期末提出課題により評価する。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

Arranging For Large Jazz Ensemble / Dick Lowell and Ken Pulling (ATN,inc.)

◆留意事項◆

PC持参推奨

ナンバリング	CRS031N		
科目名	編曲法AⅣ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

クラシック音楽、民謡、などのメロディーをポップス化することで、アレンジの基礎的な考え方とノウハウを学び、実践できる

◆授業内容・計画◆

- 1 バッハ、ベートーベン、プッチーニ、ショパン、フォーレ、チャイコフスキーなどの名曲をアレンジする方法について考察し解説する。ポップスアレンジの方法について考察し解説する。
- 2 同上B, JAZZアレンジの場合を考察し、解説する
- 3 同上C, Fusion, Latinアレンジの場合を考察する
- 4 Classic曲をJAZZ音楽にするために必要なことの考察と解説
- 5 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 6 同上、打ち込み実習1前半
- 7 同上、打ち込み実習2後半
- 8 Classic曲を、Latin(BossaNova)にするために必要なことの考察と解説
- 9 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 10 同上、打ち込み実習1前半
- 11 同上、打ち込み実習2後半
- 12 民謡をFusionスタイルにアレンジするために必要なことの考察と解説
- 13 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 14 同上、打ち込み実習
- 15 実施の結果の発表(授業内試験)

◆準備学習の内容◆

各回に課される課題を仕上げて次回の授業へ持ってくる

◆成績評価の方法◆

課題の取り組む姿勢と出席率、授業への取り組み姿勢。
また、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS043N		
科目名	ジャズ・ハーモニーⅡ		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

クラシック音楽、民謡、などのメロディーをポップス化することで、アレンジの基礎的な考え方とノウハウを学び、実践できる

◆授業内容・計画◆

- 1 バッハ、ベートーベン、プッチーニ、ショパン、フォーレ、チャイコフスキーなどの名曲をアレンジする方法について考察し解説する。ポップスアレンジの方法について考察し解説する。
- 2 同上B, JAZZアレンジの場合を考察し、解説する
- 3 同上C, Fusion, Latinアレンジの場合を考察する
- 4 Classic曲をJAZZ音楽にするために必要なことの考察と解説
- 5 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 6 同上、打ち込み実習1前半
- 7 同上、打ち込み実習2後半
- 8 Classic曲を、Latin(BossaNova)にするために必要なことの考察と解説
- 9 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 10 同上、打ち込み実習1前半
- 11 同上、打ち込み実習2後半
- 12 民謡をFusionスタイルにアレンジするために必要なことの考察と解説
- 13 同上、メロディーの変形、コードの最適化、伴奏パターンの最適化(実習)
- 14 同上、打ち込み実習
- 15 実施の結果の発表(授業内試験)

◆準備学習の内容◆

各回に課される課題を仕上げて次回の授業へ持ってくる

◆成績評価の方法◆

課題の取り組む姿勢と出席率、授業への取り組み姿勢。
また、随時課題を出し授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS032N		
科目名	管弦楽法A I		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

オーケストラ各楽器の楽器法(メカニズム、特性、奏法等)を理解した上で、編曲することができる。

◆授業内容・計画◆

前期では、弦楽合奏と木管合奏の実習を行う。
可能な限り音源や試演により、実際に音を聴き体感的に学習する。

- (1) オリエンテーション／弦楽器の楽器法
- (2) 弦楽合奏の書法①各楽器の扱い方
- (3) 弦楽合奏の書法②声部の重ね方
- (4) 弦楽合奏の書法③編曲実習
- (5) 弦楽合奏のスコアリング
- (6) 弦楽合奏の試演に向けたパート譜作成と配付
- (7) 弦楽合奏による試演*
- (8) 木管楽器の楽器法／木管セクションの和弦
- (9) 木管五重奏の書法①各楽器の扱い方
- (10) 木管五重奏の書法②声部の重ね方
- (11) 木管五重奏の書法③編曲実習
- (12) 木管五重奏のスコアリング
- (13) 木管五重奏の試演に向けたパート譜作成と配付
- (14) 木管五重奏による試演*
- (15) まとめ

*試演の時期は変更の可能性あり

◆準備学習の内容◆

授業内で扱った楽曲のみならず、さまざまな様式の楽曲のスコアを音源と共に読むこと。

◆成績評価の方法◆

提出課題と平常点による。その他、授業内で行う実習課題や提出物で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎授業時に資料を配付。

◆参考図書◆

- ・新総合音楽講座8『管弦楽法概論』河江一仁著(ヤマハミュージックメディア)
- ・『管弦楽技法』ゴードン・ヤコブ著、宗像敬訳(音楽之友社)
- ・『管弦楽法』ウォルター・ピストン著、戸田邦雄訳(音楽之友社)
- ・完本『管弦楽法』伊福部昭著(音楽之友社)
- ・Samuel Adler: "The Study of Orchestration" (W.W.Norton & Company)

◆留意事項◆

五線紙を毎回持参すること。
試演に向けてのスコアとパート譜の作成過程においては、納期を遵守し、入念な見直し作業を行うこと。

ナンバリング	CRS033N		
科目名	管弦楽法AⅡ		
科目詳細			
担当教員	菊池 幸夫		
学年	2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

オーケストラ各楽器の楽器法(メカニズム、特性、奏法等)を理解した上で、編曲することができる。

◆授業内容・計画◆

後期では、金管五重奏と管弦楽の実習を行う。
可能な限り音源や試演により、実際に音を聴き体感的に学習する。

- (1) 金管楽器の楽器法／金管セクションの和弦
- (2) 金管五重奏の書法①各楽器の扱い方
- (3) 金管五重奏の書法②編曲実習
- (4) 金管五重奏のスコアリング
- (5) 金管五重奏の試演に向けたパート譜作成と配付
- (6) 金管五重奏による試演*
- (7) 打楽器の書法
- (8) 小編成管弦楽の書法
- (9) 2管編成管弦楽の書法①各セクションの扱い方
- (10) 2管編成管弦楽の書法②声部の重ね方
- (11) 2管編成管弦楽の書法③編曲実習
- (12) 2管編成管弦楽のスコアリング
- (13) 管弦楽のパート譜作成と配付
- (14) 管弦楽による試演*
- (15) まとめ

*試演の時期は変更の可能性あり

◆準備学習の内容◆

授業内で扱った楽曲のみならず、さまざまな様式の楽曲のスコアを音源と共に読むこと。

◆成績評価の方法◆

提出課題と平常点による。その他、授業内で行う実習課題や提出物で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎授業時に資料を配付。

◆参考図書◆

- ・新総合音楽講座8『管弦楽法概論』河江一仁著(ヤマハミュージックメディア)
- ・『管弦楽技法』ゴードン・ヤコブ著、宗像敬訳(音楽之友社)
- ・『管弦楽法』ウォルター・ピストン著、戸田邦雄訳(音楽之友社)
- ・完本『管弦楽法』伊福部昭著(音楽之友社)
- ・Samuel Adler: "The Study of Orchestration" (W.W.Norton & Company)

◆留意事項◆

五線紙を毎回持参すること。
試演に向けてのスコアとパート譜の作成過程においては、納期を遵守し、入念な見直し作業を行うこと。

ナンバリング	CRS405N		
科目名	吹奏楽法 I		
科目詳細			
担当教員	中橋 愛生		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-21	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

吹奏楽で用いられる各楽器の特性および書法を学び、アンサンブル作品制作および試演を通じて楽器法を修得する。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス: スケジュールの確認／「吹奏楽」とは
- 2) 基礎知識1: ミリタリーバンド様式
- 3) 基礎知識2: 現代日本の吹奏楽
- 4) 基礎知識3: ハルモニウムジーク／管楽オーケストラ
- 5) 基礎知識4: ウインドアンサンブル様式
- 6) アマチュアを想定した楽器運用法1(総論)
- 7) アマチュアを想定した楽器運用法2(木管楽器)
- 8) アマチュアを想定した楽器運用法3(金管楽器)
- 9) アマチュアを想定した楽器運用法4(打楽器)
- 10) アマチュアを想定した楽器運用法5(編入楽器)
- 11) ブラスバンドとその周辺
- 12) マーチングの楽器たち
- 13) レッスン形式によるアンサンブル作品創作実習
- 14) 制作した作品についてのディスカッション
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

アンサンブル作品研究、およびアンサンブル作品制作を適宜行うこと。(最終的な作品の完成に至るまでの総時間の目安は20時間。)

◆成績評価の方法◆

制作したアンサンブル作品の内容、およびその制作過程を総合して評価する。
完成した後および制作途中において、随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』佐伯茂樹 著(河出書房新社)

◆参考図書◆

『管弦楽法』W.ピストン 著(音楽之友社)
『完本 管絃楽法』伊福部昭 著(音楽之友社)

『吹奏楽の歴史』秋山紀夫 著(ミュージックエイト)

◆留意事項◆

基本的にレジュメ以外の資料等のハンドアウトは紙媒体での配布は行わず、全てGoogle Classroomにて授業前日の正午にデータにて配信する。
教室のモニターにも投影するが、自分で自在に閲覧できるようにノートPCやタブレット端末を持参するのが望ましい(必須ではない)。
また、必要に応じて各自でプリントアウトして持参すること。

最終的に提出する課題楽曲のため、長期的な計画を持って自主的に授業外での作業・学習を心掛けること。

課題楽曲の作成のためにPCおよび何らかの楽譜作成ソフト(フリーソフト可)を所持していることが望ましい(必須ではない)。

ナンバリング	CRS406N		
科目名	吹奏楽法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	中橋 愛生		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-21	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

吹奏楽全体を運用するための書法、および社会に出た際に要求される多様な曲種に対応できる書法を学び、吹奏楽作品制作および試演を通じて自己の書法を確立する。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス: スケジュールの確認／吹奏楽の市場
- 2) 編成の決定
- 3) 吹奏楽における「バランス」その1 …垂直的考察
- 4) 吹奏楽における「バランス」その2 …水平的考察
- 5) 管弦楽作品の吹奏楽編曲(トランスクリプション)
- 6) ピアノ曲などからの編曲(アレンジメント)
- 7) 団体歌などの編曲(実践例考察)
- 8) マーチの諸相
- 9) レッスン形式による吹奏楽作品制作実習
- 10) パート譜作成法
- 11) パート譜の確認
- 12) アメリカの教育用作品
- 13) 吹奏楽作品の試演(学籍番号前半)
- 14) 吹奏楽作品の試演(学籍番号後半)
- 15) まとめ

学生の課題作成の進捗状況によっては、一部授業内容を変更することも考えられる。

◆準備学習の内容◆

吹奏楽作品研究、および吹奏楽作品制作を適宜行うこと。(最終的な作品の完成に至るまでの総時間の目安は30時間。)

◆成績評価の方法◆

制作した吹奏楽作品の内容、およびその制作過程を総合して評価する。
完成した作品の試奏時および制作途上において、随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『バンドのための編曲法』フランク・エリクソン 著、伊藤康英 訳(東亜音楽社)
『コンテンポラリー・アレンジャー』ドン・セベスキー 著、林雅彦ほか 訳(ATN)
『コンプリート・アレンジャー』サミー・ネスティコ 著、三上クニ 訳(ATN)

◆留意事項◆

基本的にレジュメ以外の資料等のハンドアウトは紙媒体での配布は行わず、全てGoogle Classroomにて授業前日の正午にデータにて配信する。
教室のモニターにも投影するが、自分で自在に閲覧できるようにノートPCやタブレット端末を持参するのが望ましい(必須ではない)。
また、必要に応じて各自でプリントアウトして持参すること。

最終的に提出する課題楽曲のため、長期的な計画を持って自主的に授業外での作業・学習を心掛けること。

課題楽曲の作成のためにPCおよび何らかの楽譜作成ソフト(フリーソフト可)を所持していることが望ましい(必須ではない)。

ナンバリング	CRS407N		
科目名	実用管弦楽法 I		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

実用的なオーケストラの作編曲ができる

◆授業内容・計画◆

- 1.管弦楽法基礎知識の確認／ユニゾン
- 2.定型書式
- 3.チェロとコントラバスの関係
- 4.チェロバス用法
- 5.和弦
- 6.和弦+リズム
- 7.和弦+リズムを修正
- 8.div.
- 9.ブラス・コンビネーション
- 10.ハーブの用法 コードによるグリッサンド
- 11.アレンジ課題提示
- 12.アレンジ課題添削と分析
- 13.プリプロダクション
- 14.レコーディング
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業では各楽器の音域、奏法など基礎的な内容は、すでに習得しているものとして授業をすすめる為、他の「管弦楽法」を既に履修してからの受講が望ましい。
各回に課される課題を実施し、提出すること。

◆成績評価の方法◆

課題の完成度、授業へ取り組む姿勢を総合的に成績評価する。
なお、提出課題はコメントを付けたり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。
提出された課題をクラスで共有し、内容について討論するなどグループ学習する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業は、単に授業を聴講しているだけでは、学習効果はあげられない。毎回、課題を実施することにより学習効果が上がる。課題提出は手書きでも構わないが、浄書ソフトを用い、常に実音化しながら学習することが望ましい。

ナンバリング	CRS425N		
科目名	実用管弦楽法A		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

実用的なオーケストラの作編曲ができる

◆授業内容・計画◆

- 1.管弦楽法基礎知識の確認／ユニゾン
- 2.定型書式
- 3.チェロとコントラバスの関係
- 4.チェロバス用法
- 5.和弦
- 6.和弦+リズム
- 7.和弦+リズムを修正
- 8.div.
- 9.ブラス・コンビネーション
- 10.ハーブの用法 コードによるグリッサンド
- 11.アレンジ課題提示
- 12.アレンジ課題添削と分析
- 13.プリプロダクション
- 14.レコーディング
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業では各楽器の音域、奏法など基礎的な内容は、すでに習得しているものとして授業をすすめる為、他の「管弦楽法」を既に履修してからの受講が望ましい。
各回に課される課題を実施し、提出すること。

◆成績評価の方法◆

課題の完成度、授業へ取り組む姿勢を総合的に成績評価する。
なお、提出課題はコメントを付けたり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。
提出された課題をクラスで共有し、内容について討論するなどグループ学習する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業は、単に授業を聴講しているだけでは、学習効果はあげられない。毎回、課題を実施することにより学習効果が上がる。課題提出は手書きでも構わないが、浄書ソフトを用い、常に実音化しながら学習することが望ましい。

ナンバリング	CRS408N		
科目名	実用管弦楽法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-03	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

実用的なオーケストラの作編曲ができる

◆授業内容・計画◆

- 1.ユニゾン
- 2.定型書式
- 3.チェロ・バス用法
- 4.和弦の基礎
- 5.和弦の用法(迫力ある構成)
- 6.音色の変化
- 7.実作課題の添削
- 8.実作課題パート譜の提出
- 9.マルチレコーディングの準備
- 10.弦楽セクションの用法
- 11.木管セクションの用法
- 12.金管セクションの用法
- 13.ハープの用法
- 14.ポストプロダクション
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業では各楽器の音域、奏法など基礎的な内容は、すでに習得しているものとして授業をすすめる為、「管弦楽法」等の講義履修により、楽器法に関する基礎知識を既習している必要がある。

◆成績評価の方法◆

課題の完成度、授業へ取り組む姿勢を総合的に成績評価する。
 なお、提出課題はコメントを付したり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。
 提出された課題をクラスで共有し、内容について討論するなどグループ学習する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布するハンドアウト。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業では、単に授業内容を傍観しているだけでは、学習効果はあげられない。毎回、課された課題を実施し、修正を重ねることにより学習効果を生む。
 課題提出は手書きでも構わないが、コンピュータによる浄書ソフトを用い、常に実音化しながら学習することが望ましい。

ナンバリング	CRS401N		
科目名	作曲Ⅴ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅴ」では、「作曲Ⅳ」をふまえてより高度な創作研究を行う。
個人または集合個人レッスンの方式で、(1)～(3)の授業を進めていく。
(1)楽曲の構造、音組織、楽器法と管弦楽法等を多角的に研究する。
(2)担当教員による創作指導を受けて、提出作品と演奏審査の準備をする。(編成・規模は担当の教員と要相談)
(3)多くの作曲体験を持つために未完、完成を問わず複数の作品の創作にチャレンジする。
上記の方針に従って、学生個々の考え、習熟度、特性に応じて、授業内容とスケジュールを決定していく。

第1回 オリエンテーション
第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)楽曲の構造
第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)音組織
第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)楽器法と管弦楽法等
第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
第11回 前期提出作品の完成
第12回 後期提出作品のための楽曲研究(1)楽曲の構造
第13回 後期提出作品のための楽曲研究(2)音組織
第14回 後期提出作品のための楽曲研究(3)楽器法と管弦楽法等
第15回 まとめ(夏休み中に後期提出作品の作曲を進めておく)

「作曲Ⅴ」の提出作品は「自由な作品(未完成も可)またはスケッチや構想プログラムなど制作過程が判る資料」とする(編成は自由)。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取組みを総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS617N		
科目名	作曲理論ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	奥定 美和		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-307	開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランスの和音数字について理解し、和声課題を作成できる。また、主にバッハとその時代の対位法的作品について、その書法を理解・応用し、学習フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

1. フランス式和音数字の解説
2. 三和音の実習
3. 属七の和音の実習
4. 副七の和音の実習
5. 属九の和音の実習(バス課題)
6. 属九の和音の実習(ソプラノ課題)
7. 学習フーガ(主唱と答唱)
8. 学習フーガ(対唱と答対唱)
9. 学習フーガ(主要提示部・第1嬉遊部)
10. 学習フーガ(平行調提示部・第2嬉遊部)
11. 学習フーガ(下属調提示部・下属調平行調提示部・第3嬉遊部)
12. 学習フーガ(追迫部・真正追迫部・コーダ)
13. 主にバッハとその時代の対位法的作品の研究
14. フランス近代作品の和声研究
15. 作品の試演と批評

◆準備学習の内容◆

学生は個々の習熟度に合わせた課題を実施する。和声課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

定期試験(和声課題の実施)及び平常点。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

島岡譲「フーガの実習」

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

指定された実作品の楽譜は各自用意すること。
研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

ナンバリング	CCS617N		
科目名	作曲理論ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-301	開講学期	前期
曜日・時限	木放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1.和声課題について、それぞれの課題の趣旨を理解し、洗練された和声連結、声部進行により四声体和声を作成できる。2.主にバッハとその時代の対位法的作品について、その書法を理解・応用し、学習フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス
- 2) バス課題の作成法①(階梯導入課題)
- 3) バス課題の作成法②(AB主題の組み合わせによる課題)
- 4) ソプラノ課題の作成法①(和声連結の特徴)
- 5) ソプラノ課題の作成法②(モチーフの展開)
- 6) 学習フーガの作曲①(主唱と答唱)
- 7) 学習フーガの作曲②(対唱と答対唱)
- 8) 学習フーガの作曲③(主要提示部・第1嬉遊部)
- 9) 学習フーガの作曲④(平行調提示部・第2嬉遊部)
- 10) 学習フーガの作曲⑤(下屬調提示部・下屬調平行調提示部・第3嬉遊部)
- 11) 学習フーガの作曲⑥(主要追迫部・対唱対迫部)
- 12) 学習フーガの作曲⑦(平行調追迫部・真正追迫部・コーダ)
- 13) バッハとその時代の対位法的作品の研究
- 14) フランス近代作品の和声研究
- 15) 作品の講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

学期末に教員の指示により、課題の提出または試験を行う。
さらに、授業における課題の内容、フィードバック後の進歩の状況などの平常点を総合し評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フーガの実習』島岡譲著(国立音楽大学)
その他は授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

指定された実作品の楽譜は各自用意すること。
研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

ナンバリング	CCS625N		
科目名	実用音楽ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

最も基本的な編成である4リズムの基礎を学び、より実践的、実用的な編曲能力をヴォーカル作品の作編曲を行える能力を獲得する。

◆授業内容・計画◆

1. ヴォーカル曲 動機研究
2. テーマ部の実作
3. 実作課題演習と添削
4. ベース・ラインの基礎
5. R&Bを中心にしたスタイル別エレクトリック・ベースの研究
6. 実作課題演習と添削
7. 実作課題演習と添削
8. リズム・プログラミングの基礎
9. ドラムスの基礎研究
10. R&Bを中心にしたスタイル別ドラム・パターンの研究
11. 実作課題演習と添削
12. イントロとコーダ研究
13. ヴォーカル録音
14. 視聴とディスカッション
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、課される編曲課題を確実に実施する。

◆成績評価の方法◆

授業内制作作品提出による評価、及び平常の授業への取り組みによる評価、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布するハンドアウトを使用。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業では、Logic等のDAWアプリケーションによる課題制作が課される。

ナンバリング	CCS625N		
科目名	実用音楽ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

既成映像作品の分析・考察をし、あらゆるジャンルの音楽を作品へ作曲をするアプローチ方法を学び、成果を発表できる。

◆授業内容・計画◆

1映像表現と音楽表現の状態を既成の映画、ドラマから考察して発表する。(1)導入
2〃(2)メロディーやモチーフはどう有るべきか、音色、楽器編成は？
3〃(3)キャラクターによる違い、テーマとヴァリエーション
4〃(4)要求されたジャンルの音楽を思い通りに作曲する方法～演習(1)説明と添削
6〃選曲から作曲までのプロセスを考察して演習(2)前半
7〃選曲から作曲までのプロセスを考察して演習(2)後半
8マニピュレート音楽制作方法解説
9〃作曲演習
10映画とテレビドラマ、アニメーション、ゲームなどの音楽の違い考察
11ミュージカル、J-pop,歌謡曲、テーマパーク、などの音楽の違い考察
12あるメロディーを使用目的に沿った編曲を行う実習 前半
13あるメロディーを使用目的に沿った編曲を行う実習 後半
14思い通りに作曲する方法を考察し実習する
15試験(授業内作品発表)

◆準備学習の内容◆

クラシック伝統音楽の語法以外の音楽を幅広く聴く事と知る事。
日常のあらゆる行動、場所、場面の中で聴かれる音楽の役割について考察する事。
様々な映像に伴うあらゆる音楽について深く聴く事。

◆成績評価の方法◆

期末授業内試験作品発表、平常の授業への取り組み方、随時課題を加味して評価する。
授業中、課題について常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

プロ直伝! 職業作曲家への道 曲作りを仕事にするための常識と戦術、そして心得/山口哲一/リットーミュージック
映画にとって音楽とはなにか/ミシェル・シオン著/勁草書房、
200CD映画音楽スコアサントラを聴く/立風書房
イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう! (CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著

思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き) [単行本]リットーミュージック 河村ケン著

◆留意事項◆

受講者は自分の趣向する映像作品の音楽についての研究発表を学年内に適宜行う。
作曲及び音楽制作のPC使用が望ましい。コンピュータ音楽演習など授業を受ける等、入門程度は学習して欲しい。
Macユーザーであることが望ましい。

ナンバリング	CML413N		
科目名	コンピュータ音楽ゼミ I		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	今井 慎太郎, 片桐 健順		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用した芸術表現を探索できる。基礎課程で学んだ知識と技術を振り返り、先行作品や技術をサーベイした上で、各々の目標を設定し、芸術的にも技術的にもさらに高いレベルのコンピュータ音楽およびメディアアート作品創作を実践できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 基礎課程で修得した技術の確認
- 3) 基礎課程での創作を振り返る
- 4) 先行作品のサーベイ
- 5) 今後の技術修得プランの検討
- 6) 今後の創作プランの検討
- 7) 試験発表作品形態の検討
- 8) 試験発表作品形態の決定
- 9) 創作技術のサーベイ
- 10) 創作手法のサーベイ
- 11) 試験発表作品の課題
- 12) 試験発表作品のための技術習得
- 13) 試験発表作品の遂行状況の確認
- 14) 試験発表作品のリハーサル進行状況の確認
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

発表作品：70%、授業内での取組み：30%（表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す）。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

◆参考図書◆

聴取の詩学 梓と出来事（庄野進 著／春秋社）
アートとコンピュータ（藤幡正樹 著／慶應義塾大学出版会）
芸術の設計（岡崎乾二郎 著／フィルムアート社）
現代音楽×メディアアート（中村滋延 著／九州大学出版会）
生き物と音の事典（生物音響学会 編／朝倉書店）
フィールド・レコーディング入門（柳沢英輔／フィルムアート社）
音と耳から考える（細川周平 編著／アルテスパブリッシング）
Code as Creative Medium（ゴラン・レヴィン ほか著／ビー・エヌ・エヌ）
現代音楽史（沼野雄司／中央公論新社）
コンピュータ音楽（Curtis Roads 著／東京電機大学出版局）
人工知能が音楽を創る（デイヴィッド・コープ 著／音楽之友社）
憂鬱と官能を教えた学校（菊地成孔、大谷能生 著／河出書房新社）
野生のオーケストラが聴こえる（バーニー・クラウド 著／みすず書房）
Audible Design（Trevor Wishart 著／Orpheus the Pantomime Ltd）
Sound Art（Peter Weibel 編／The MIT Press）

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS402N		
科目名	作曲Ⅵ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1) 現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2) 幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
(3) 作品の発表までの様々な過程を実践的に身につける。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅵ」では、「作曲Ⅴ」をふまえてより高度な創作研究を継続し、提出作品を完成させる。
個人または集合個人レッスンの方式で、(1)～(4)の授業を進めていく。
(1) 楽曲の構造、音組織、楽器法と管弦楽法等を多角的に研究する。
(2) 担当教員による創作指導を受けて、創作実習と演奏審査の準備をする。(編成・規模は担当の教員と要相談)
(3) 多くの作曲体験を持つために未完、完成を問わず複数の作品の創作にチャレンジする。
(4) リハーサルにおける演奏家とのコミュニケーションと、本番の演奏を演奏審査等により体験する。
上記の方針に従って、学生個々の考え、習熟度、特性に応じて、授業内容とスケジュールを決定していく。

- 第1回 オリエンテーション
第2回 後期提出作品創作実習(1)基礎・応用
第3回 後期提出作品創作実習(2)最終チェック
第4回 後期提出作品の完成・パート譜作成等
第5回 演奏審査会への準備
第6回 次作品のための楽曲研究(1)楽曲の構造
第7回 次提出作品のための楽曲研究(2)音組織
第8回 次作品のための楽曲研究(3)楽器法と管弦楽法等
第9回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
第10回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
第11回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
第12回 次作品創作実習(1)導入
第13回 次作品創作実習(2)基礎
第14回 次作品創作実習(3)応用
第15回 まとめ(春休み中に次作品の完成を目指す)

「作曲Ⅵ」の提出作品は「4～15名までの編成(詳細は担当教員と相談のこと)」とする。11月に行われる演奏審査会は「作曲作品展」のオーディションを兼ねる。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安: 週5時間程度

◆成績評価の方法◆

主に作品の提出と演奏審査により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS618N		
科目名	作曲理論ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	奥定 美和		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-307	開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランスの和音数字に習熟し、和声課題を作成できる。また、様々な時代様式の対位法的作品について、その書法を理解・応用し、学習フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

1. フランス式数字和声(非和声音)
2. フランス和声課題(シャラン380の課題集9巻バス課題)
3. フランス和声課題(シャラン380の課題集10巻ソプラノ課題)
4. フランス和声課題(シャラン24の課題集バス課題)
5. フランス和声課題(シャラン24の課題集ソプラノ課題)
6. フランス近代作品の和声研究(フォーレ)
7. フランス和声課題(フォーシェなどの課題集)
8. フーガの研究と創作(半音階的主唱によるフーガ)第一部
9. フーガの研究と創作(半音階的主唱によるフーガ)第二部
10. フーガの研究と創作(半音階的主唱によるフーガ)追迫
11. フーガの研究と創作(半音階的主唱によるフーガ)コーダ
12. フーガの研究と創作(器楽的主唱によるフーガ)第一部
13. フーガの研究と創作(器楽的主唱によるフーガ)第二部
14. フーガの研究と創作(器楽的主唱によるフーガ)追迫
15. 対位法的作品の研究(オルガン作品を中心に)

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

定期試験、平常点、および試演内容。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

島岡譲「フーガの実習」(国立音楽大学)

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

原則として年1回行われる「フーガ演奏会」への出品を義務とする。

ナンバリング	CCS618N		
科目名	作曲理論ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-301	開講学期	後期
曜日・時限	木放	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1.和声課題に習熟し、洗練された書法により和声課題を作成できる。2.様々な時代様式の対位法的作品について、その書法を理解・応用し、学習フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

- 1) 第1セメスターの復習
- 2) 和声課題の作成法①(和声連結)
- 3) 和声課題の作成法②(転調と終止)
- 4) 和声課題の作成法③(声部書法)
- 5) 和声課題の作成法④(モティーフの展開)
- 5) 和声課題の作成法⑤(大規模な課題における構成法)
- 6) 学習フーガ①(主題の作り方、主題の和声構造と真正追迫)
- 7) 学習フーガ②(答唱、対唱と答対唱)
- 8) 学習フーガ③(全体を通したテーマ配分)
- 9) 学習フーガ④(嬉遊部の転調法)
- 10) 学習フーガ⑤(モティーフの展開とクライマックスの作り方)
- 11) 学習フーガ⑥(保続低音上の書法)
- 12) 学習フーガ⑦(追迫の間隔と追迫部全体のプラン)
- 13) 対位法的作品の研究(バッハを中心に)
- 14) フランス近代作品の和声研究(フォーレを中心に)
- 15) 作品の試演と講評、まとめ

尚、原則として年1回行われる「フーガ演奏会」への出品を義務とする。

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

学期末に、教員の指示により、課題の提出または試験を行う。
さらに、授業における課題の内容、フィードバック後の進歩の状況などの平常点を総合し評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フーガの実習』島岡譲著(国立音楽大学)
その他は授業内で学生のレヴェルに合わせて指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

指定された実作品の楽譜は各自用意すること。
研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

ナンバリング	CCS626N		
科目名	実用音楽ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ポピュラー音楽の実践的な編曲法をスタイル別に学び、編曲を行える能力を獲得する。

◆授業内容・計画◆

アコースティック・ギターの研究

1. ギターの研究
2. ギターによるコンピング
3. ギターを含んだ編成を実作する。
4. 添削
5. 録音
6. モーダル・インターチェンジ
7. ビートルズ和声進行の分析
8. ビートルズ和声進行模作
9. キューバ音楽の歴史
10. キューバ音楽のリズム研究
11. ソンのリズム・プログラミング
12. ピアノ・モントゥーノ
13. 実作と添削(分散和音)
14. 実作と添削(打楽器的な和音)
- 15 試演

◆準備学習の内容◆

毎回、課される作編曲課題を確実にこなす。

◆成績評価の方法◆

授業内制作作品提出による評価、及び平常の授業への取り組みの評価、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布するハンドアウト

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS626N		
科目名	実用音楽ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

既成映像作品の分析・考察をし、あらゆるジャンルの音楽を作品へ作曲をするアプローチ方法を学び、成果を発表できる。

◆授業内容・計画◆

- 1.オーケストラスコアリーディング
- 2.DTM実習
- 3.ストリングスの用法
- 4.ストリングスの実習
- 5.ストリングスの課題楽曲の添削
- 6.ウッドウィンドの用法
- 7.ウッドウィンドの実習
- 8.ウッドウィンドの課題楽曲の添削
- 9.ブラスセクションの用法
- 10.ブラスセクションの実習
- 11.ブラスセクションの添削
- 12.ボーカル曲の用法
- 13.ボーカル曲のアレンジ実習
- 14.ボーカル曲の添削
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

クラシック伝統音楽の語法以外の音楽を幅広く聴く事と知る事。
 日常のあらゆる行動、場所、場面の中で聴かれる音楽の役割について考察する事。
 様々な映像に伴うあらゆる音楽について深く聴く事。

◆成績評価の方法◆

随時作品発表、平常の授業への取り組み方、学期末授業内試験(作品発表)を加味して評価する。
 授業中、課題について常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

映画にとって音楽とはなにか/ミシェル・シオン著/勁草書房、
 200CD映画音楽スコアサントラを聴く/立風書房
 イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著

思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き) [単行本]リットーミュージック 河村ケン著

●プロ直伝! 職業作曲家への道 曲作りを仕事にするための常識と戦術、そして心得/山口哲一/リットーミュージック

◆留意事項◆

受講者は自分の趣向する映像作品の音楽についての研究発表を学年内に適宜行う。
 作曲及び音楽制作のPC使用が望ましい。コンピュータ音楽演習など授業を受ける等、入門程度は学習して欲しい。
 Macユーザーであることが望ましい。

ナンバリング	CML414N		
科目名	コンピュータ音楽ゼミⅡ		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	今井 慎太郎, 片桐 健順		
学年	3年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用した芸術表現を探究できる。前期に学んだ知識と技術を振り返り、先行作品や技術をサーベイした上で、各々の目標を設定し、芸術的にも技術的にもさらに高いレベルのコンピュータ音楽およびメディアアート作品創作を実践できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 前期に修得した技術の確認
- 3) 前期の創作を振り返る
- 4) 先行作品のサーベイ
- 5) 今後の技術修得プランの検討
- 6) 今後の創作プランの検討
- 7) 試験発表作品形態の検討
- 8) 試験発表作品形態の決定
- 9) 創作技術のサーベイ
- 10) 創作手法のサーベイ
- 11) 試験発表作品の課題
- 12) 試験発表作品のための技術習得
- 13) 試験発表作品の遂行状況の確認
- 14) 試験発表作品のリハーサル進行状況の確認
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

発表作品: 70%、授業内での取り組み: 30%(表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す)。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

アートとコンピュータ(藤幡正樹 著/慶應義塾大学出版会)
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)
 コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)
 人工知能が音楽を創る(デイヴィッド・コープ著/音楽之友社)
 憂鬱と官能を教えた学校(菊地成孔, 大谷能生 著/河出書房新社)
 野生のオーケストラが聴こえる—サウンドスケープ生態学と音楽の起源(バーニー・クラウド 著/みすず書房)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Art: Sound as a Medium of Art(Peter Weibel 編/The MIT Press)

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS403N		
科目名	作曲Ⅶ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
(3)卒業作品の準備をする。

◆授業内容・計画◆

「作曲Ⅶ」では、「作曲Ⅵ」をふまえてより高度な創作研究を行う。
個人または集合個人レッスンの方式で、(1)～(3)の授業を進めていく。
(1)楽曲の構造、音組織、楽器法と管弦楽法等を多角的に研究する。
(2)担当教員による創作指導を受けて、提出作品と演奏審査の準備をする。(編成・規模は担当の教員と要相談)
(3)多くの作曲体験を持つために未完、完成を問わず複数の作品の創作にチャレンジする。
上記の方針に従って、学生個々の考え、習熟度、特性に応じて、授業内容とスケジュールを決定していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)楽曲の構造
- 第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)音組織
- 第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)楽器法と管弦楽法等
- 第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
- 第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
- 第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第11回 前期提出作品の完成
- 第12回 卒業作品のための楽曲研究(1)楽曲の構造
- 第13回 卒業作品のための楽曲研究(2)音組織
- 第14回 卒業作品のための楽曲研究(3)楽器法と管弦楽法等
- 第15回 まとめ(夏休み中に卒業作品の作曲を進めておく)

「作曲Ⅶ」の提出作品は「自由な作品(未完成も可)またはスケッチや構想プログラムなど制作過程が判る資料」とする(編成は自由)。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取組みを総合的に評価する。

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS619N		
科目名	作曲理論ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-301	開講学期	前期
曜日・時限	金 1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

作曲理論のスペシャリストとなるために必要な、知識、教養、技術を身につける。具体的には、(1) 洗練された書法で和声課題、学習フーガを作曲できる。(2) 理論的なアプローチにより様々な楽曲を分析できる。

◆授業内容・計画◆

レッスンは個人の進度に合わせて行う。
実習を中心に行う。

- 1) 第2セメスターの復習
- 2) 和声課題の作成法①(日本の和声課題)
- 3) 和声課題の作成法②(フランスの和声課題)
- 4) 和声課題の作成法③(様式により異なる配置と響きのバランス)
- 5) 和声課題の作成法④(自作の四声体と和声課題)
- 6) 和声課題の作成法⑤(自作のピアノ伴奏課題)
- 7) 学習フーガの実習①(さまざまな主唱)
- 8) 学習フーガの実習②(主唱の性格とフーガのプラン)
- 9) 学習フーガの実習③(テンポとリズム感)
- 10) 学習フーガの実習④(響きの厚みと声部数のバランス)
- 11) 学習フーガの実習⑤(全体の構成と強弱のプラン)
- 12) 対位法的作品の研究(バッハ、シューマン、ブラームス、フランク等の作品)
- 13) フランス近代作品の和声研究(フォーレ、ラヴェル等の作品)
- 14) 作品の試演と講評
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。
事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

学期末に、教員の指示により、課題の提出または試験を行う。
さらに、授業における課題の内容、フィードバック後の進歩の状況などの平常点を総合し評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で学生のレベルに合わせて指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

指定された実作品の楽譜は各自用意すること。
研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

ナンバリング	CCS619N		
科目名	作曲理論ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-302	開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランスの和声課題を参考に、様式に従った和声課題を作成できる。また、主にバッハとその時代の対位法的作品について、書法を理解・応用し、フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

1. フランス和声課題(Challanのバス課題)
2. フランス和声課題(Challanのソプラノ課題)
3. フランス和声課題(Raynaudのバス課題)
4. フランス和声課題(Raynaudのソプラノ課題)
5. フォーレのスタイルによる和声課題(1)ソロ楽器とピアノ
6. フォーレのスタイルによる和声課題(2)弦楽四重奏
7. 学習フーガ(主要提示部と平行調提示部)
8. 学習フーガ(嬉遊句の選び方と嬉遊部全体のプラン)
9. 学習フーガ(第1・第2嬉遊部)
10. 学習フーガ(下屬調提示部・下屬調平行調提示部)
11. 学習フーガ(第3嬉遊部)
12. 学習フーガ(追迫部・真正追迫部・コーダ)
13. パリ音楽院コンクール受賞フーガ作品の分析
14. J.S.Bach「平均律クラヴィーア曲集」の分析
15. 作品の試演と批評

※内容は学生の進度に応じて変更する

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

定期試験と平常点により評価する。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS627N		
科目名	実用音楽ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

商業音楽における弦楽四重奏曲の作編曲が実践的に行える能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.スコアと基礎知識
- 2.弦楽四重奏曲の動機特徴
- 3.ホモフォニックとポリフォニック、伴奏型
- 4.声部間の緊張
- 5.リズム補填とエコー
- 6.バスラインの研究、対旋律、半音進行
- 7.メロディとバスライン
- 8.内声部と上声部における対旋律
- 9.3度、6度、8度による作法
- 10.2、3重の対旋律
- 11.モード作法
- 12.旋律的な伴奏型
- 13.試演
- 14.視聴とディスカッション
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を確実にこなす。

◆成績評価の方法◆

授業内提出作品の評価、及び平常の授業への取り組みの評価、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS627N		
科目名	実用音楽ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

デモテープの完成を目指して、作曲スキルを上げていく。

◆授業内容・計画◆

- 1.デモテープ制作
- 2.DTM実習
- 3.ボーカル曲の制作
- 4.CM音楽曲の制作
- 5.映画音楽の制作
- 6.ドラマの音楽の制作
- 7.ミュージックエフェクトについて
- 8.ミュージックエフェクトの用法
- 9.ミュージックエフェクトの実習
- 10.デモテープ制作実習
- 11.デモテープ音楽の添削
- 12.レコーディング用法
- 13.レコーディング実習
- 14.デモテープの発表
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

クラシック伝統音楽の語法以外の音楽を幅広く聴く事と知る事。
 日常のあらゆる場面の中で聴かれる音楽の役割について考察する事。
 映像に伴うあらゆる音楽について深く聴く事。

◆成績評価の方法◆

授業内試験により評価する。試験では、ある映像作品を与え、それに音楽作品を作曲する事を課題とする。
 授業中、課題について常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

映画にとって音楽とはなにか/ミシェル・シオン著/勁草書房、
 200CD映画音楽スコアサントラを聴く/立風書房
 ●クリエイターが教えるシンセサイザー・テクニック99 (CD付き)野崎 貴朗 (著)リットーミュージック

◆留意事項◆

受講者は自分の趣向する映像作品の音楽についての研究発表を学年内に適宜行う。
 作曲及び音楽制作のPC使用が望ましい。コンピュータ音楽演習など授業を受ける等、積極的な学習をすること。

ナンバリング	CML415N		
科目名	コンピュータ音楽ゼミⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	今井 慎太郎, 片桐 健順		
学年	4年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用した芸術表現を探究できる。3年次までに学んだ知識と技術を振り返り、先行作品や技術をサーベイした上で、各々の目標を設定し、芸術的にも技術的にもさらに高いレベルで、独創性に富み洗練されたコンピュータ音楽およびメディアアート作品創作を実践できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 3年次に修得した技術の確認
- 3) 3年次の創作を振り返る
- 4) 先行作品のサーベイ
- 5) 今後の技術修得プランの検討
- 6) 今後の創作プランの検討
- 7) 試験発表作品形態の検討
- 8) 試験発表作品形態の決定
- 9) 創作技術のサーベイ
- 10) 創作手法のサーベイ
- 11) 試験発表作品の課題
- 12) 試験発表作品のための技術習得
- 13) 試験発表作品の遂行状況の確認
- 14) 試験発表作品のリハーサル進行状況の確認
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

発表作品：70%、授業内での取組み：30%（表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す）。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

聴取の詩学 梓と出来事(庄野進 著／春秋社)

アートとコンピュータ(藤幡正樹 著／慶應義塾大学出版会)

芸術の設計(岡崎乾二郎 著／フィルムアート社)

現代音楽×メディアアート(中村滋延 著／九州大学出版会)

生き物と音の事典(生物音響学会 編／朝倉書店)

フィールド・レコーディング入門(柳沢英輔／フィルムアート社)

音と耳から考える(細川周平 編著／アルテスパブリッシング)

Code as Creative Medium(ゴラン・レヴィン ほか著／ビー・エヌ・エヌ)

現代音楽史(沼野雄司／中央公論新社)

コンピュータ音楽(Curtis Roads 著／東京電機大学出版局)

人工知能が音楽を創る(デイヴィッド・コープ 著／音楽之友社)

憂鬱と官能を教えた学校(菊地成孔, 大谷能生 著／河出書房新社)

野生のオーケストラが聴こえる(バーニー・クラウド 著／みすず書房)

Audible Design(Trevor Wishart 著／Orpheus the Pantomime Ltd)

Sound Art(Peter Weibel 編／The MIT Press)

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS404N		
科目名	作曲Ⅷ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
(3)作品の発表までの様々な過程を実践的に身につける。(4)卒業作品を完成させる。

◆授業内容・計画◆

「作曲ⅧⅢ」では、「作曲ⅦⅡ」をふまえてより高度な創作研究を継続し、卒業作品を完成させる。
個人または集合個人レッスンの方式で、(1)～(4)の授業を進めていく。
(1)楽曲の構造、音組織、楽器法と管弦楽法等を多角的に研究する。
(2)担当教員による創作指導を受けて、創作実習と演奏審査の準備をする。(編成・規模は担当の教員と要相談)
(3)多くの作曲体験を持つために未完、完成を問わず複数の作品の創作にチャレンジする。
(4)リハーサルにおける演奏家とのコミュニケーションと、本番の演奏を演奏審査等により体験する。
上記の方針に従って、学生個々の考え、習熟度、特性に応じて、授業内容とスケジュールを決定していく。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業作品創作実習(1)前半部分の基礎
- 第3回 卒業作品創作実習(2)前半部分の応用
- 第4回 卒業作品創作実習(3)中間部分の基礎
- 第5回 卒業作品創作実習(4)中間部分の応用
- 第6回 卒業作品創作実習(5)後半部分の基礎
- 第7回 卒業作品創作実習(6)後半部分の応用
- 第8回 卒業作品創作実習(7)最終チェックと作品の完成
- 第9回 卒業演奏審査会への準備(1)導入
- 第10回 卒業演奏審査会への準備(2)基礎
- 第11回 卒業演奏審査会への準備(3)応用
- 第12回 次作品創作実習(1)導入
- 第13回 次作品創作実習(2)基礎
- 第14回 次作品創作実習(3)応用
- 第15回 まとめ

「作曲ⅧⅢ」の提出作品は「3管編成以内の管弦楽、或いは任意の編成による作品(詳細は担当教員と相談のこと)」とする。12月と翌年2月にオーケストラ作品を中心とする卒業演奏審査会が行われる。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。
準備学習の目安:週5時間程度

◆成績評価の方法◆

作品の提出と演奏審査により評価する。
レッスン中に課題は常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS620N		
科目名	作曲理論ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	今村 央子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-301	開講学期	後期
曜日・時限	金 1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

作曲理論のスペシャリストとなるために必要な、知識、教養、技術を身に付ける。具体的には、(1) 洗練された書法で和声課題、学習フーガを作曲できる。(2) 理論的なアプローチにより様々な楽曲を詳細に分析し、作品の特徴について説明することができる。

◆授業内容・計画◆

レッスンは個人の進度に合わせて行う。
実習を中心に行う。

- 1) 第3セメスターの復習
- 2) フランス和声課題の実習①(和音数字によるバス課題)
- 3) フランス和声課題の実習②(和音数字によるソプラノ課題)
- 4) フランス和声課題の実習③(シャラン380の課題集・24の課題集、フォーシェ等を用いて)
- 5) フランス和声課題の実習④(シャラン380の課題集・24の課題集、フォーシェ等を用いて)
- 6) 創作和声課題の作曲①(全体のプラン作成)
- 7) 創作和声課題の作曲②(添削)
- 8) 創作和声課題の作曲③(仕上げ)
- 9) 学習フーガの実習①(自作主題の作成)
- 10) 学習フーガの実習②(楽器編成の特徴)
- 11) 学習フーガの実習③(添削)
- 12) 学習フーガの実習④(仕上げと確認)
- 13) 対位法的作品の研究(任意の作曲家の対位法的作品)
- 14) フランス近代作品の和声研究(任意の作曲家の作品)
- 15) 作品の試演と講評、まとめ

なお、原則として年1回行われる「フーガ演奏会」への出品、または学習フーガ1作品以上の提出を単位取得条件とする。

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。
事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

学期末に、教員の指示により、課題の提出または試験を行う。
さらに、授業における課題の内容、フィードバック後の進歩の状況などの平常点を総合し評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で学生のレベルに合わせて指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

指定された実作品の楽譜は各自用意すること。
研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

ナンバリング	CCS620N		
科目名	作曲理論ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-302	開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランスの和音数字に習熟し、和声課題を作成できる。また、様々な時代様式の対位法的作品について、その書法を理解・応用し、フーガを作曲できる。

◆授業内容・計画◆

1. フォーレのスタイルによる和声課題(1)ソロ楽器とピアノ
2. フォーレのスタイルによる和声課題(2)弦楽四重奏
3. 学習フーガ(様々な曲想の主題の作り方)
4. 学習フーガ(嬉遊部における様々な手法)
5. 学習フーガ(追迫部における様々な手法)
6. フーガ(二重フーガ、三重フーガ)
7. 和声課題の作成(AB組み合わせ、階梯導入によるバス課題)
8. 和声課題の作成(転位音、偶成和音を含むソプラノ課題)
9. フランス近代作品の和声研究(1)Debussy
10. フランス近代作品の和声研究(2)Ravel
11. J.S.Bachのフーガ作品の研究
12. J.S.Bachの対位法的オルガン作品の研究
13. ロマン派のスタイル和声
14. フランス近代のスタイル和声
15. 作品の試演と批評

原則として年1回行われる「フーガ演奏会」への出品を義務とする。

※内容は学生の進度に応じて変更する

◆準備学習の内容◆

ゼミは主に学生が書いたものを添削する形で進むため、課題の実習、フーガの作曲は準備学習として行う。事前に予告した実作品について和声分析、構成の分析などを行うこと。研究した作品は自分で演奏する、複数の録音を比較するなど、演奏面からのアプローチも行うこと。

◆成績評価の方法◆

「フーガ演奏会」出品作品、定期試験、平常点により評価する。(授業毎の課題添削を含む)

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS628N		
科目名	実用音楽ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ポピュラー音楽、映画音楽における、ストリングスを中心にした作編曲が行える能力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

1. ストリングスの基本
2. 非和声音の扱い
3. 潤色
4. 和声骨格
5. ストリングスアレンジ
6. 添削
7. ストリングス・シミュレーション用法
8. ストリングス・シミュレーションの実習
9. ボーカル曲のアレンジ(ハーブ)
10. ボーカル曲のアレンジ(カルテット)
11. ボーカル曲のアレンジ(ストリングス)
12. フレンチ・ホルン概論、用法研究
13. フレンチ・ホルンを含む編成規模とサウンド
14. ダブルリードの用法
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

実作課題を確実にこなすこと。また、授業で扱った内容を実作に活かすよう、復習を欠かさないこと。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

学年末試演会提出作品評価、及び平常の授業、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配布資料

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS628N		
科目名	実用音楽ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

多摩美術大学などの学生の映像作品とのコラボレーションを活かし、映像または或るコンセプトにオリジナル音楽を作曲できる。

◆授業内容・計画◆

1. 映画音楽の分析(1)前半
2. 映画音楽の分析(2)後半
3. CM音楽の分析(1)前半
4. CM音楽の分析(2)後半
5. ドラマのサウンドトラックの分析(1)前半
6. ドラマのサウンドトラックの分析(2)後半
7. アニメーションのサウンドトラックの分析(1)前半
8. アニメーションのサウンドトラックの分析(2)後半
9. 映像作品の音楽制作実習(1)前半
10. 映像作品の音楽制作実習(2)後半
11. 映像作品の音楽制作・応用(1)前半
12. 映像作品の音楽制作・応用(2)後半
13. レコーディング実習
14. 創作作品発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

クラシック伝統音楽の語法以外の音楽を幅広く聴く事と知る事。
 日常のあらゆる場面の中で聴かれる音楽の役割について考察する事。
 映像に伴うあらゆる音楽について深く聴く事。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方を加味し、課題への評価。
 授業中、課題について常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

映画にとって音楽とはなにか/ミシェル・シオン著/勁草書房、
 200CD映画音楽スコアサントラを聴く/立風書房
 イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著

思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き) [単行本]リットーミュージック 河村ケン著

●クリエイターが教えるシンセサイザー・テクニック99 (CD付き)野崎 貴朗(著)リットーミュージック

◆留意事項◆

受講者は自分の趣向する映像作品の音楽についての研究発表を学年内に適宜行う。
 作曲及び音楽制作のPC使用が望ましい。コンピュータ音楽演習など授業を受ける等、積極的な学習をすること。

ナンバリング	CML416N		
科目名	コンピュータ音楽ゼミⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	今井 慎太郎, 片桐 健順		
学年	4年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コンピュータをはじめとするテクノロジーを応用した芸術表現を探究できる。これまでに学んだ知識と技術を振り返り、先行作品や技術をサーベイした上で、各々の目標を設定し、芸術的にも技術的にもさらに高いレベルで、独創性に富み洗練されたコンピュータ音楽およびメディアアート作品創作を実践できる。

◆授業内容・計画◆

以下の授業計画は、履修学生の指向や進捗に応じて変更となる可能性がある。

- 1) 当該セメスターの計画
- 2) 前期に修得した技術の確認
- 3) 前期の創作を振り返る
- 4) 先行作品のサーベイ
- 5) 今後の技術修得プランの検討
- 6) 今後の創作プランの検討
- 7) 卒業試験発表作品形態の検討
- 8) 卒業試験発表作品形態の決定
- 9) 創作技術のサーベイ
- 10) 創作手法のサーベイ
- 11) 試験発表作品の課題
- 12) 試験発表作品のための技術習得
- 13) 試験発表作品の遂行状況の確認
- 14) 試験発表作品のリハーサル進行状況の確認
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

継続的な創作の実践や関連技術の修得のみならず、アートやテクノロジーに関する最新動向には常に注意を払い、コンサートや展示、研究会等に積極的に参加すること。目安毎日1時間。

◆成績評価の方法◆

発表作品: 90%、授業内での取り組み: 10%(表記のパーセンテージは概ねの評価の割合を示す)。フィードバックは授業内で随時、および試験後に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

アートとコンピュータ(藤幡正樹 著/慶應義塾大学出版会)
 芸術の設計—見る／作ることのアプリケーション(岡崎乾二郎 著/フィルムアート社)
 現代音楽×メディアアート—音響と映像のシンセシス(中村滋延 著/九州大学出版会)
 コンピュータ音楽—歴史・テクノロジー・アート(Curtis Roads 著/東京電機大学出版局)
 人工知能が音楽を創る(デイヴィッド・コープ著/音楽之友社)
 憂鬱と官能を教えた学校(菊地成孔, 大谷能生 著/河出書房新社)
 野生のオーケストラが聴こえる—サウンドスケープ生態学と音楽の起源(バーニー・クラウド 著/みすず書房)
 遙かなる他者のためのデザイン(久保田晃弘 著/ビー・エヌ・エヌ新社)
 Audible Design(Trevor Wishart 著/Orpheus the Pantomime Ltd)
 Sound Art: Sound as a Medium of Art(Peter Weibel 編/The MIT Press)

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS413N		
科目名	作曲特講C		
科目詳細			
担当教員	清水 祥平		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴目や視覚などの音楽の実践的な基盤力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

過去作品の分析を通して自らの作曲テクニックの向上を目指す

◆授業内容・計画◆

講義とワークショップ

過去作品の分析を通して、実際にそれらの技法を元に1分程度の小品を作成し、技法を身につける

取り上げる予定の作曲家及び作品

P.Boulez・・・douze notasion、sur incises、Le Marteau sans maître、rituel、Messagesquisse

O.Messiaen・・・Vingt Regards sur l'Enfant-Jésus他

H.Holliger・・・(t)air (e)

K.Stockhausen・・・Gruppen他

W.Rhim・・・String Quartet n° 3, Im Innersten他

武満徹・・・鳥は星形の庭に降りる

Galina Ustvolskaya – Piano Sonata

Helmut Lachenmann・・・Allegro Sostenuto他

Kurtág György・・・Jatekok他

小品作成は上記のものからいくつかを行う

例として「Le Marteau sans maître」からは「和音の乗法」、「rituel、Messagesquisse」からは「音列の増殖」、Messiaen作品からは「モード(複調)による作曲」、「和音の変容」等の分析を通して同様の技法を用いて1分程度の作品を作成する。

◆準備学習の内容◆

上記作曲家について調べておく

◆成績評価の方法◆

出席と授業態度

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布します

◆参考図書◆

上記作品

◆留意事項◆

4色ボールペン等の色分けができる筆記用具を用意すること

ナンバリング	CRS414N		
科目名	作曲特講D		
科目詳細	集中講義		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大規模編成の作品に不可欠なパート譜を、専門的なクオリティで完成できる。

◆授業内容・計画◆

本講義では、作曲専修の3年次、4年次において、大半の学生が必要となるパート譜作成とその使用過程について、校正、レイアウト、エディット、ガイドの作成、譜めくりの考慮、製本、納品と回収等の、実務的な側面から研究、実践する。

＜1日目(9月20日)＞「パート譜作成に関する概要」

スコアの浄書に先立ち、実務上の様々な問題点を、具体的な事例とともに整理する。浄書ソフトの扱いに際し、パート譜作成までを見据えた様々な措置(強弱記号等を各パートに正しく所属させる、発想標語の表示や練習番号の設定をパート譜にも反映できるような設定で行う、小節番号の表示設定の適切な処理、等)について留意する必要がある。このような留意点を踏まえない状態で作成したスコアは、最終的にパート譜作成時点で多くの労力を要することとなるので、これらの事項をまとめ、実際の浄書に臨む。

＜2日目(10月11日)＞「パート譜を完成させるために必要なスコアのエディット」

作曲そのものの完成とは別次元の問題として、スコア及びパート譜の見易さを考慮した適切なエディット、実務上の諸問題への配慮、厳格な校正、といった作業が必須となる。少なくとも学内での自作の演奏機会においては、作曲者自らその責を負う必要がある。ここでは、そのような徹底的なエディットを完遂させ、最終的なスコアの製本納品に至る実務的側面も踏まえて実践する。

＜3日目(10月25日)＞「パート譜の作成」

浄書ソフトを用いた場合、完璧なエディットを経たスコアであっても、そのままパート譜に反映されるわけではない。適切且つ完璧なパート譜に仕上げる過程は、様々な経験と知見がなければ成立しない。完璧にスコアをエディットしたつもりであっても、パート譜にしてみても初めて気付く問題点も多々発見されるのが常である。適切な紙質や音符の大きさ、製本方法に至る様々な実務的側面を実習する。また、上演前の配付(ナンバリング等を含む)から上演後の回収と管理に至る実務についても扱う。

◆準備学習の内容◆

「ワークショップB」(水曜5限)内で行われるスコアおよびパート譜作成のための講義(5月、9月の2回)を可能な限り聴講しておくこと。また、音楽資料課等において、様々なパート譜を閲覧し、事前研究を重ねておくこと。

また、2日目の前には、3年生においてそれぞれの作品が完成し、一部パート譜が用意される必要がある。本授業によるエディット作業は、あくまでも作品内容とは関わりのない部分であるので、必ず完成作品を用意すること。

同様に、3日目の前には、4年生においてそれぞれの作品が完成し、一部パート譜が用意される必要がある。本授業によるエディット作業は、あくまでも作品内容とは関わりのない部分であるので、必ず完成作品を用意すること。

3年、4年になる前に、上級生がどのようにしてパート譜の作成を行っているのか、審査会への協力、上級生との交流など、できる限り多くの現場に接し、知見を深めておくこと。

◆成績評価の方法◆

受講態度、及び納品されたパート譜の完成度によって評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

とくになし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML417N		
科目名	コンピュータ音楽概論A		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

15回の授業を通して、学生は：(1)コンピュータ音楽の歴史的発展についての知識を得る。(2)コンピュータ音楽に関連する科学的研究の知識を得る。(3)音楽に関する文章を読むための英文読解力を養う。(4)楽曲についての感想を、英語でディスカッションできるようになる。(5)専門用語を使って、楽曲分析を実施できるようになる。

◆授業内容・計画◆

この授業では、コンピュータ音楽の分野に関する概念や作品を学ぶ。講義は英語で行われる。学生は授業でのディスカッションを通して、英語力を実践・活用する機会がある。コンピュータ音楽と科学研究の接点に重点を置き、「時間」、「音」、「声」、「空間」、「形式」という5つのトピック分野を紹介する。。音楽の例は主に電子音楽やコンピュータ音楽に焦点を当てますが、アコースティック楽器のために作られた音楽にも触れます。学生は毎週クラスのディスカッションに参加することが求められる。研究プロジェクトの焦点として、コンピュータ音楽に関連するトピックを選択する。研究プロジェクトは、歴史的方法、分析的方法、実験的方法のいずれかをを用いて行う。

- 1) 序説: 授業の進め方の説明、主要概念の概説、自己紹介
- 2) テーマ1: 時間。クロノメトリー、時計学; テンポ、メトロノーム、BPM; 拍子; 音価・リズム記譜法
- 3) テーマ1の実践例・作品とディスカッション
- 4) テーマ2: 音。ピッチ、周波数、倍音、波形、音響合成、コンピュータによる音色分析
- 5) テーマ2の実践例・作品とディスカッション
- 6) テーマ3: 声。会話・音声知覚、フォルマント、ヴォコーダー、ボーカロイド
- 7) テーマ3の実践例・作品とディスカッション
- 8) 中間レビュー
- 9) テーマ4: 空間。無響室、両耳知覚、リバーブ、マルチチャンネル配置
- 10) テーマ4の実践例・作品とディスカッション
- 11) テーマ5: 形式。メロディ、シーケンス、スタイルモデリング、生成アルゴリズム、確率過程
- 12) テーマ5の実践例・作品とディスカッション
- 13) 学生主導のディスカッション、研究進捗報告
- 14) 学生主導のディスカッション、研究進捗報告
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題とされた課題を解決するために、教材を読んだり、曲を聴いたり、講義ノートを復習したりして授業にそなえること。目安毎週3時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

Sonic Art: An Introduction to Electroacoustic Music Composition / Moore 著 (Routledge, 2016)
Scratch Music Projects / Brown & Ruthmann 編著 (Oxford U Press, 2020)

◆留意事項◆

この授業は主に英語で行う。だが、高度な英語力は必要となく、学生のニーズに授業課題のための求められた英語力レベルは適合する。
Primary language of instruction will be in English; required proficiency level will be adjusted to students' abilities.

ナンバリング	CML418N		
科目名	コンピュータ音楽概論B		
科目詳細			
担当教員	C. コックス		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

15回の授業を通して、学生は：(1)コンピュータ音楽の歴史的発展についての知識を得る。(2)視聴覚作品における芸術理論の知識を得る。(3)視聴覚作品における論文を読むための英文読解力を養う。(4)視聴覚作品についての感想を、英語でディスカッションできるようになる。(5)専門用語を使って、視聴覚作品の分析を実施できるようになる。

◆授業内容・計画◆

この授業では、コンピュータ音楽の分野に関する概念や作品を学ぶ。講義は英語で行われる。学生は授業でのディスカッションを通して、英語力を実践・活用する機会がある。コンピュータ音楽と視聴覚的なメディア・アートの接点に重点を置き、「共感覚」、「映画音楽」、「ゲーム」、「インスタレーション」、「ダンス」という5つのトピック分野を紹介する。。音楽の例は主に電子音楽やコンピュータ音楽に焦点を当てますが、アコースティック楽器のために作られた音楽にも触れます。学生は毎週クラスのディスカッションに参加することが求められる。研究プロジェクトの焦点として、コンピュータ音楽に関連するトピックを選択する。

授業予定:

- 1)序説:授業の進め方の説明、主要概念の概説、自己紹介
- 2)テーマ1:共感覚。音、色、図形
- 3)テーマ1の実践例・作品とディスカッション
- 4)テーマ2:映画音楽。モンタージュ
- 5)テーマ2の実践例・作品とディスカッション
- 6)テーマ3:ゲーム。インタラクティブ・アダプティブ・オーディオ
- 7)テーマ3の実践例・作品とディスカッション
- 8)中間レビュー
- 9)テーマ4:インスタレーション。双方向性、サウンド・アート、建築
- 10)テーマ4の実践例・作品とディスカッション
- 11)テーマ5:ダンス。身体、インタラクティブ・ダンス
- 12)テーマ5の実践例・作品とディスカッション
- 13)学生主導のディスカッション、研究進捗報告
- 14)学生主導のディスカッション、研究進捗報告
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題とされた課題を解決するために、教材を読んだり、曲を聴いたり、講義ノートを復習したりして授業にそなえること。目安毎週3時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。評価基準については初回の授業時に具体例を示して詳述する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

The Oxford Handbook of Interactive Audio / Collins, Kapralos & Tessler 編著 (Oxford University Press, 2014)
The Oxford Handbook of Sound and Image in Digital Media / Vernallis, Herzog & Richardson 編著 (Oxford University Press, 2013)

◆留意事項◆

この授業は主に英語で行う。だが、高度な英語力は必要としなく、学生のニーズに授業課題のための求められた英語力レベルは適合する。

ナンバリング	MML007N		
科目名	音楽情報研究法Ⅰ		
科目詳細	隔週授業、オムニバス※休講情報配信時注意		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

音楽情報専修の多岐にわたる分野を専門とする講師の話聞き、4年の学修を通して探究することのできる可能性を具体的に知るとともに、自分の関心を深め、目的を持って専門的な学びを始められるようになる。

◆授業内容・計画◆

学部1年生を対象とした隔週開講のオムニバス授業です。音楽情報専修の教員に加え、様々な領域で活躍していらっしゃる外部講師の方々をお招きし、それぞれの専門について紹介します。外部講師をお招きする回は、学部2年生以上・修士課程の大学院生・コース生からなる総合ゼミとの合同開催になります。

*授業計画
第1回 4/14 三浦雅展
「オリエンテーション／音楽情報研究法の受講目的」

第2回 4/28 早稲田みな子
「音楽民族学のアプローチ」
文化の担い手の立場にたって文化を理解することについて、様々な事例を紹介しながら考えます。

第3回 5/19 神部智
「音楽分析入門」
音楽は時間とともにどんどん展開していくので、つかみどころがありません。では、その全体像はどのように捉えたらよいのでしょうか。まずは楽譜という設計図に基づきつつ、「分析」というアプローチを通して音楽の姿に迫ってみたいと思います。

第4回 6/2 塚田花恵
「西洋音楽の「カノン」の功罪」

第5回 6/16 小幡哲史(ヤマハ株式会社)
【合同】「ヤマハの技術開発と演奏科学」

第6回 6/30 前島美保
「日本音楽(研究)とは？」
島国日本に住み、日々、日本語を話している私たちにとって、日本音楽とは何でしょう。次回の「お囃子ワークショップ」の導入も兼ねて、日本音楽研究の射程とその意義について考えたいと思います。

第7回 7/14 山田寛
【合同】「お囃子ワークショップ」

◆準備学習の内容◆

各講義テーマの内容をおおいに参考にしながら自分の関心を見据え、探究してゆく意識を持つことが大切です。より興味深く話が聞けるように、講義の前には関連領域にかんする書籍などを読んで基礎的なことを確認し、ぜひ自分のアンテナを広げておきましょう。

◆成績評価の方法◆

毎回、各講師から課題が出題されます。成績はそれらの総合評価となります。課題については適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

各講師より適宜、指示されます。

◆留意事項◆

諸事情によりテーマや予定が変更になる可能性があります。

ナンバリング	MML008N		
科目名	音楽情報研究法Ⅱ		
科目詳細	隔週授業、オムニバス※休講情報配信時注意		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽情報専修の多岐にわたる分野を専門とする講師の話聞き、4年の学修を通して探究することのできる可能性を具体的に知るとともに、自分の関心を深め、目的を持って専門的な学びを始められるようになる。

◆授業内容・計画◆

学部1年生を対象とした隔週開講のオムニバス授業です。音楽情報専修の教員に加え、様々な領域で活躍していらっしゃる外部講師の方々をお招きし、それぞれの専門について紹介します。外部講師にご登壇いただく回は、学部2年生以上・修士課程の大学院生・コース生からなる総合ゼミとの合同開催になります。

*授業計画
第1回 9/8 富田行紀
【合同】「地域文化の振興とは～所沢ミュージズの場合～」

第2回 9/22 中田朱美
「作曲家の言葉」
作曲家の語る言葉には創造の端緒が隠れていると、誰もが考えますよね。作者の言葉なのですから当然です。この回ではこうした「作者の言葉」を妄信した結果、音楽の解釈が大きく紆余曲折することになった例を参考に、誘惑と落とし穴、解釈の難しさについて考えます。

第3回 10/6 瀬尾文子
「音楽美学：音楽の形式美を味わう」

第4回 10/20 小林篤茂(元大学院音楽学専攻(楽器・音響))
【合同】「音大卒業後のキャリア形成について」

第5回 11/10 瀬尾文子
「音楽とジェンダー」
「男性終止」「女性終止」とは何でしょうか。また、西洋音楽史に並ぶ作曲家の名はなぜ男性ばかりなのでしょう。音楽とジェンダーの関係を歴史的に整理し、批判的に考察します。

第6回 12/8 三浦雅展
「音楽データサイエンスの紹介」

第7回 12/22 三浦雅展
【合同】研究発表の聴講(予定)

◆準備学習の内容◆

各講義テーマの内容をおおいに参考にしながら自分の関心を見据え、探究してゆく意識を持つことが大切です。より興味深く話が聞けるように、講義の前には関連領域にかんする書籍などを読んで基礎的なことを確認し、ぜひ自分のアンテナを広げておきましょう。

◆成績評価の方法◆

毎回、各講師から課題が出題されます。成績はそれらの総合評価となります。課題については適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

各講師より適宜、指示されます。

◆留意事項◆

諸事情によりテーマや予定が変更になる可能性があります。

ナンバリング	MML009N		
科目名	音楽情報研究法Ⅲ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅠ」との合同授業が2回入ります。
それ以外の回では、修士1～2年生と学部4年生が持ち回りで発表を行います。
発表内容は、各自の関心にもとづいて進めている研究の途中経過報告です。
司会進行は、3年生が2人一組で行います。
積極的に発表に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1) 4/14 オリエンテーション、研究発表1
- 2) 4/28 研究発表2
- 3) 5/19 研究発表3
- 4) 6/2 研究発表4
- 5) 6/16 総合ゼミⅠとの合同授業①: ゲスト講師によるお話
- 6) 6/30 研究発表5
- 7) 7/14 総合ゼミⅠとの合同授業②: お囃子ワークショップ

◆準備学習の内容◆

学期末レポートに向け、聴いた発表のいずれかについて独自にさらなる調査・考察を進める(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

学期末レポートと討論への参加度を総合的に評価します。
発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MML010N		
科目名	音楽情報研究法Ⅳ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅡ」との合同授業が2回入ります。

第2回は、学部3年生による卒業研究プロスペクト(卒業研究のテーマや内容についての見通し)の発表です。

その他の回は、修士論文、および卒業研究の中間発表です。中間発表は、完成作の全体像を示しつつ、それまでに仕上がった部分、とりわけ完成作の要点となる部分について詳しく論じる(あるいは報告する)ものです。1月の完成に向けて軌道修正したり、欠陥を補ったりするためにいきます。

次年度、自分が発表する番になることを意識して、発表方法や質疑応答の仕方について注意深く観察し学びましょう。

また、積極的に発表内容に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1) 9/8 総合ゼミⅡとの合同授業①: ゲスト講師によるお話
- 2) 9/22 3年生による卒業研究プロスペクト
- 3) 10/6 研究発表1
- 4) 10/20 総合ゼミⅡとの合同授業②: ゲスト講師によるお話
- 5) 11/10 研究発表2
- 6) 12/8 研究発表3
- 7) 12/22 研究発表4

◆準備学習の内容◆

学期末レポートに向け、聴いた発表のいずれかについて独自にさらなる調査・考察を進める(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

学期末レポートと討論への参加度を総合的に評価します。

発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MML403N		
科目名	音楽情報研究法Ⅴ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅠ」との合同授業が1回入ります。
それ以外の回では、修士1～2年生と学部4年生が持ち回りで発表を行います。
発表内容は、各自の関心にもとづいて進めている研究の途中経過報告です。
司会進行は、3年生が2人一組で行います。
積極的に発表に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1) 4/14 オリエンテーション、研究発表1
- 2) 4/28 研究発表2
- 3) 5/19 研究発表3
- 4) 6/2 研究発表4
- 5) 6/16 総合ゼミⅠとの合同授業①: ゲスト講師によるお話
- 6) 6/30 研究発表5
- 7) 7/14 研究発表6

◆準備学習の内容◆

学期末レポートに向け、聴いた発表のいずれかについて独自にさらなる調査・考察を進める(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

学期末レポートと討論への参加度を総合的に評価します。
発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MML404N		
科目名	音楽情報研究法Ⅵ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅡ」との合同授業が2回入ります。

第2回は、学部3年生による卒業研究プロスペクト(卒業研究のテーマや内容についての見通し)の発表です。持ち時間は、質疑応答を含めて1人7～8分程度です。必要に応じて配布資料を用意してください。

その他の回は、修士論文、および卒業研究の中間発表です。中間発表は、完成作の全体像を示しつつ、それまでに仕上がった部分、とりわけ完成作の要点となる部分について詳しく論じる(あるいは報告する)ものです。1月の完成に向けて軌道修正したり、欠陥を補ったりするためにいきます。

司会進行は、3年生が2人一組で行います

次年度、自分が発表する番になることを意識して、発表方法や質疑応答の仕方について注意深く観察し学びましょう。

また、積極的に発表内容に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)9/8 総合ゼミⅡとの合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 2)9/22 3年生による卒業研究プロスペクト
- 3)10/6 研究発表1
- 4)10/20 総合ゼミⅡとの合同授業②:ゲスト講師によるお話
- 5)11/10 研究発表2
- 6)12/8 研究発表3
- 7)12/22 研究発表4

◆準備学習の内容◆

学期末レポートに向け、聴いた発表のいずれかについて独自にさらなる調査・考察を進める(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

学期末レポートと討論への参加度を総合的に評価します。

発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MML405N		
科目名	音楽情報研究法Ⅶ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅠ」との合同授業が1回入ります。
それ以外の回では、修士1～2年生と学部4年生が持ち回りで発表を行います。
発表内容は、各自の関心にもとづいて進めている研究の途中経過報告です。
発表者は、指導教員の指導を受けながら準備を進め、読み上げ原稿と配付資料(＋パワポ資料任意)を用意して下さい。
聴き手は、質疑応答時間に積極的に質問やコメントをしましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1) 4/14 オリエンテーション、研究発表1
- 2) 4/28 研究発表2
- 3) 5/19 研究発表3
- 4) 6/2 研究発表4
- 5) 6/16 総合ゼミⅠとの合同授業①: ゲスト講師によるお話
- 6) 6/30 研究発表5
- 7) 7/14 研究発表6

◆準備学習の内容◆

発表者は、レジュメ(読み上げ原稿そのままではなく、発表概要をまとめたもの)を準備する。
また、声に出して読み上げ練習をし、割当時間内に発表を終えられるように調整する。
発表者が準備にかかる時間は、30時間程度。

◆成績評価の方法◆

発表内容と討論への参加度を総合的に評価します。
発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MML406N		
科目名	音楽情報研究法Ⅷ		
科目詳細	修士「音楽学研究法」と合同。隔週授業。		
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知る。研究発表の方法を学ぶとともに、ディスカッションの経験を積む。

◆授業内容・計画◆

音楽情報専修に所属する教員、修士課程の大学院生、および学部2年生以上が一堂に会して研究発表や質疑応答を行う機会です。「総合ゼミ」とも呼ばれています。

学部1年生のみで行う「総合ゼミⅡ」との合同授業が2回入ります。

第2回は、学部3年生による卒業研究プロスペクト(卒業研究のテーマや内容についての見通し)の発表です。

その他の回は、修士論文、および卒業研究の中間発表です。中間発表は、完成作の全体像を示しつつ、それまでに仕上がった部分、とりわけ完成作の要点となる部分について詳しく論じる(あるいは報告する)ものです。1月の完成に向けて軌道修正したり、欠陥を補ったりするために行います。

発表者は、指導教員の指導を受けながら準備を進め、読み上げ原稿と配付資料(+パワポ資料任意)を用意して下さい。

聴き手は、積極的に発表内容に耳を傾け、質疑応答時間に質問やコメントができるように心がけましょう。

◆各回の概要(順番や発表枠は変更の可能性があります)

- 1)9/8 総合ゼミⅡとの合同授業①:ゲスト講師によるお話
- 2)9/22 3年生による卒業研究プロスペクト
- 3)10/6 研究発表1
- 4)10/20 総合ゼミⅡとの合同授業②:ゲスト講師によるお話
- 5)11/10 研究発表2
- 6)12/8 研究発表3
- 7)12/22 研究発表4

◆準備学習の内容◆

発表者は、レジュメ(読み上げ原稿そのままではなく、発表概要をまとめたもの)を準備する。

また、声に出して読み上げ練習をし、割当時間内に発表を終えられるように調整する。

発表者が準備にかかる時間は30時間程度。

◆成績評価の方法◆

発表内容と討論への参加度を総合的に評価します。

発表や質問に対する教員のフィードバックは、適宜、授業の中で行われます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

授業連絡はClassroomを通じて行います。常時、チェックするようにしてください。

ナンバリング	MTL005N		
科目名	音楽療法研究 I		
科目詳細			
担当教員	八重田 美衣		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽療法の臨床現場で音楽療法士に要求されるのは、クライアントのニーズを的確に理解し、瞬間瞬間のクライアントの表現を支え、引き出し、寄り添い、導くことです。しかし、これは一朝一夕にできるものではありません。他者を理解し援助する前に、まずは己を知る必要があります。そこで本授業では、学生の皆さんが、即興体験を通し、音楽と自分との関係をみなおし自らの音楽的自己を意識化すること、「コミュニケーションとしての即興演奏の可能性」を様々な角度から探っていくことをねらいとします。

◆授業内容・計画◆

毎時間の授業は、実技演習とディスカッションにより進められ、音楽的体験と言語分析の相互作用を重視します。毎回の授業での音楽的体験を各自まとめ、次の授業時にレポート提出してもらいます。

- 1、オリエンテーション
- 2、個人内対話と個人間対話
- 3、自己理解と他者理解
- 4、コミュニケーションの深層構造
- 5、聴覚と視覚の関係
- 6、聴覚と触覚の関係
- 7、イメージと音楽
- 8、動きと音楽
- 9、声と音楽
- 10、光と音楽
- 11、同質の原理
- 12、グループダイナミクス
- 13、障害に応じた楽器、自助具の工夫
- 14、コミュニケーションとしての音楽の可能性
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業での音楽的体験を指定された3つの項目にまとめ、毎回次の授業の開始時にレポート提出する。
宿題とされたイディオムを用いて即興で弾き歌いの練習をして授業に備えること。目安は毎日30分。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、提出レポート、授業内試験により総合的に評価します。
適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内において随時紹介していきます。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTL006N		
科目名	音楽療法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	八重田 美衣		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

本授業では学生自らが即興体験を通して「コミュニケーションとしての音楽の可能性」を様々な角度から模索していくことをねらいとします。

◆授業内容・計画◆

様々な楽器や声を用いた即興演奏による実技演習とディスカッションにより授業は進められ、音楽的体験と言語分析の相互作用を重視し、毎回の授業での体験を各自まとめ、次の授業時にレポート提出してもらいます。

- 1、オリエンテーション
- 2、即興演奏における「制限」と「自由」
- 3、イディオムの意味
- 4、「音程」によるピアノ即興
- 5、「ペンタトニック&変形ペンタトニック」を用いた歌とピアノの即興
- 6、「教会旋法」を用いた歌とピアノの即興
- 7、「中近東のイディオム」を用いた歌とピアノの即興
- 8、「ブルース&ラテン」即興
- 9、様々な音楽スタイルを用いた即興
- 10、映像・音声の分析方法
- 11、音楽療法の「記録、評価、報告書」の書き方
- 12、セラピストの「共感的理解」
- 13、セラピストの「無条件の肯定的配慮」
- 14、セラピストの「自己一致・純粋性」
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

授業での音楽的体験を指定された3つの項目にまとめ、毎回次の授業開始時にレポート提出すること。
宿題とされたイディオムを用いて即興で弾き歌いの練習をして授業に備えること。目安は毎日30分。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、提出レポート、授業内試験により総合的に評価します。
適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内において、随時紹介していきます。

◆留意事項◆

ナンバリング	MTL401N		
科目名	音楽療法研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	八重田 美衣		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

本授業は毎時間課題とされた国内・外の研究論文をすべて熟読してあることを前提とする。学生は、音楽療法臨床場面の映像資料を様々な角度から分析し、文献、映像資料に対する互いの疑問、発見、理解を共有するディスカッションを通して、とらえ方の違いや多様性を学び、洞察力を高めることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

- 1、オリエンテーション
- 2、音楽療法の定義
- 3、医学モデルに基づく医療的実践
- 4、教育的実践
- 5、生態学的実践
- 6、人間主義に基づくノードフ・ロビンズ「創造的音楽療法」
- 7、チーム医療における重症心身障害児・者への音楽療法
- 8、聴覚障害児・者への音楽療法
- 9、レット症候群児・者への音楽療法
- 10、神経発達障害児・者への音楽療法
- 11、情緒障害児への音楽療法
- 12、認知・コミュニケーションの発達学 乳幼児の音楽療法
- 13、音楽療法士の倫理綱領1「インフォームドコンセント」
- 14、音楽療法士の倫理綱領2「守秘義務」
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

配布資料を熟読し、疑問点、感想をもって授業にのぞむこと。
英語の文献は授業前に必ず日本語訳をしてくること。和洋論文を理解するためには一定の時間が必要である。目安は3時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、提出レポートにより評価します。
適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『即興音楽療法の諸理論 上 下』ケネス・E・ブルシア著(人間と歴史社)

◆参考図書◆

授業内において、随時紹介していきます
『音楽療法を定義する』ケネス・E・ブルシア 東海大学出版会 2001
『音楽療法ケーススタディ(上)』ケネス・E・ブルシア 音楽之友社 2004

◆留意事項◆

ナンバリング	MTL402N		
科目名	音楽療法研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	八重田 美衣		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

本授業は毎時間課題とされた国内・外の研究論文をすべて熟読してあることを前提とする。学生が一つ一つの論文について、互いの疑問、発見、理解を共有するディスカッションを通して、とらえ方の違いや多様性を学び、洞察力を高めることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

- 1、オリエンテーション
- 2、治療実践における介入の広さと深さ
- 3、治療的介入の深さと病態レベルの関係
- 4、音楽療法の量的リサーチと質的リサーチ
- 5、音楽療法の事例研究の意義
- 6、精神科における支持的音楽心理療法
- 7、精神科デイケアにおけるグループ音楽療法の実践
- 8、精神科デイケアにおける個別音楽療法の実践
- 9、精神科における洞察的音楽心理療法
- 10、精神科における変容的音楽心理療法
- 11、ブリーストリー「分析的音楽療法」
- 12、GIMによる音楽療法
- 13、医療現場における音楽療法
- 14、緩和ケアにおける音楽療法
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

配布資料を熟読し、疑問点、感想をもって授業にのぞむこと。
英語の文献は授業前に必ず日本語訳をしてくること。和洋論文を理解するためには一定の時間が必要である。目安は3時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、提出レポートにより評価します。
適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『即興音楽療法の諸理論 上 下』ケネス・E・ブルシア (音楽と歴史社)

◆参考図書◆

授業内において、随時紹介していきます。
『音楽療法を定義する』ケネス・E・ブルシア 東海大学出版会 2001
『音楽療法ケーススタディ(下)』ケネス・E・ブルシア 音楽之友社 2004

◆留意事項◆

ナンバリング	MTL403N		
科目名	障害児教育A		
科目詳細			
担当教員	重田 絵美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

心身に障害をもつ子どもの育ちは、障害の特性や発達状況、環境要因などにより、一人一人異なっている。障害児が他者と関わりを持ち、社会で豊かに生きていくための力を育むためには、一人一人の発達状況や心身の課題についての理解、個々のニーズに応じた適切な支援が必要である。授業では、さまざまな障害の特性や心身の発達についての基本的な知識を学んだうえで、音楽療法の事例から、音楽を通じた成長発達の支え方について理解を深めることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 障害児を対象とした音楽療法のプロセス
3. 信頼関係の構築
4. 障害児の心身の発達と課題 ①知的障害
5. 障害児の心身の発達と課題 ②肢体不自由
6. 障害児の心身の発達と課題 ③発達障害
7. 障害児の心身の発達と課題 ④視覚障害
8. 障害児の心身の発達と課題 ⑤聴覚障害
9. 障害児の心身の発達と課題 ⑥重複障害
10. 障害児の心身の発達と課題 ⑦重症心身障害
11. 特別支援教育と音楽
12. 障害児にとっての音楽の意味 ①認知能力・運動機能の発達と音楽
13. 障害児にとっての音楽の意味 ②情緒の発達と音楽
14. 障害児にとっての音楽の意味 ③コミュニケーションの発達と音楽
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示する参考資料や課題学習のために、授業外に計20時間以上の学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、レポートや課題の提出及び発表による。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時掲示していく

◆参考図書◆

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』:独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所編
『知的障害のある子どもへの音楽療法』遠山文吉編著(明治図書)

◆留意事項◆

授業内容によって、映像資料や楽器などを使用する。

ナンバリング	MTL404N		
科目名	障害児教育B		
科目詳細			
担当教員	重田 絵美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

障害児の音楽療法では、対象児との信頼関係だけではなく、保護者の協力や理解も重要となる。授業では、障害児をもつ親の体験記を通して様々な葛藤や思いなどについて知り、気持ちの寄り添い方について考えを深める。また、子どもの発達段階やライフサイクルに沿ったアプローチ、環境設定の工夫、手遊び歌や歌唱、楽器などの活動について取り上げ、一人一人の子どもの実態と目標に応じて、音・音楽を効果的に活用する方法を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 保護者との信頼関係構築(障害の受容についての理解・寄り添い方)
3. 音楽療法セッションの実際(枠組み・環境設定など)
4. 障害児の発達段階に応じた音・音楽を通じた関わり・配慮や工夫
5. ライフサイクルにおける課題と目標(就学、思春期、成人期など)
6. 音楽技法の臨床的意味 I. 手遊び歌
7. 音楽技法の臨床的意味 II. 歌いかけ
8. 音楽技法の臨床的意味 III. 打楽器類
9. 音楽技法の臨床的意味 IV. 弦楽器類
10. 音楽技法の臨床的意味 V. その他の楽器類
11. 個人音楽療法 I. その特徴と意味
12. 個人音楽療法 II. 事例研究
13. 集団音楽療法 I. その特徴と意味
14. 集団音楽療法 II. 事例研究
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示する参考資料や課題学習のために、授業外に計20時間以上の学習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、レポートや課題の提出及び発表による。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時掲示していく

◆参考図書◆

『障害をもつ子を産むということ』野辺明子、横尾京子、加部一彦編集(中央法規出版)
『障害をもつ子を育てるということ』野辺明子、加部一彦、横尾京子、藤井和子編集(中央法規出版)
『障害児の発達臨床Ⅰ 感覚と運動の高次化からみた子ども理解』宇佐川浩著
『障害児の発達臨床Ⅱ 感覚と運動の高次化からみた子ども理解』宇佐川浩著

◆留意事項◆

授業内容によって、映像資料や楽器などを使用する。

ナンバリング	MTL405N		
科目名	臨床心理学A		
科目詳細			
担当教員	武田 恒平		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

臨床心理学とは、人々の生活や社会に影響を与えている心の仕組みについて研究し、実践的にその知識を人々の幸福や福祉に役立てる学問である。本講義では、臨床心理学の成り立ちや理論、心の働き、人々に対する援助・支援のあり方などについて考察する。そして、臨床心理学の基本について知見を深めるとともに、実生活にそれらの知見を活かしていくことを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 臨床心理学の成り立ち
3. 人格の理論
4. 愛着と発達の理論
5. 心の仕組みと見立て
6. 認知的理論
7. 感情の理論
8. ストレスや不安とのつきあい方
9. 心の病
10. 社会・コミュニティによる援助
11. 来談者中心理論に基づく支援
12. 認知行動理論に基づく支援
13. 精神分析理論に基づく支援
14. 臨床心理学と生きる援助
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各授業後に授業内容を振り返り、考察しながらレポートに取り組むこと。(目安:30分～3時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み態度に加え、講義後のレポートにて総合的に評価する。
提出されたレポートに対するフィードバックは、次回授業時等で適宜行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

『人間適応の心理』P.M.サイモンズ 著、畠山忠 訳(風間書房)
『心理学史』今田恵 著(岩波書店)
『音楽療法の基礎』村井靖児 著(音楽之友社)

◆留意事項◆

参考図書や資料は上記以外にも授業内で紹介することがあります。興味があればお読みください。

ナンバリング	MTL406N		
科目名	臨床心理学B		
科目詳細			
担当教員	鬼塚 淳子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

臨床心理学とは、心理学的な知識・技法を用いて、さまざまな心の悩みや困難を軽減・解消することを目標とする実践的な学問である。本講義では、演習やロール・プレイを交えて、自分自身や対象者が抱える心の問題を見極め、その問題解決をサポートするために必要なことを学習していく。それらを通じて、臨床心理学の基本や心理療法の全体像を把握することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス・オリエンテーション
- 心理療法概説(1) ライフサイクルと発達/大学生の心の特徴
- 心理アセスメント① 面接法・観察法・検査法 ～芸術表現療法
- 心理面接のテクニック① 話の聴き方
- 心理面接のテクニック② 話を展開させるコツ
- 心理療法概説(2) 身体疾患と心理療法 ～身体を通じたアプローチ
- 心の健康への対処① セルフエンパワメント ～芸術と生きる力
- 心の健康への対処② 発達過程にまつわる問題と支援
- 心の健康への対処③ うつ病/不安症/主要な心理的疾患と対処法
- 心理面接のテクニック③ ピアカウンセリング
- 心理療法概説(3) 心の健康と社会 ソーシャルサポート
- 共に生きる① よりしあわせに生きるためのヒント
- 共に生きる② ストレスを味方につける こころの処方箋
- 共に生きる③ 対人機能・コミュニケーションワーク
- 全体ワーク まとめ

◆準備学習の内容◆

事前学習として、参考図書を精読し、授業で扱われる内容の概要を把握したうえで講義に出席することが望ましい(目安3時間)。

◆成績評価の方法◆

授業の参加態度、提出レポートなどを総合的に評価する。尚、提出されたレポートに対するフィードバックは、次回授業時に適宜行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

じぶん＆こころ まなBOOK(培風館)

◆参考図書◆

『精神療法面接のコツ』 神田橋 條治(著) 岩崎学術出版社(1990/9/3)

◆留意事項◆

ナンバリング	MTL007N		
科目名	臨床医学論A		
科目詳細			
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽療法で対象とする障害や疾患は多岐にわたるが、臨床医学論A・Bでは、それらのうち主として精神科領域の障害や疾患について学んでいく。臨床医学論Aでは、精神医学に関する入門的知識と精神障害を理解するために必要な基礎知識を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション(臨床精神医学)
2. 精神医学の基礎知識(1)(精神医学の歴史と概念、精神障害の分類)
3. 精神医学の基礎知識(2)(精神科症候群)
4. 統合失調症(1)(統合失調症の概念・疫学・病因)
5. 統合失調症(2)(統合失調症の症状・経過・治療)
6. 気分障害(1)(うつ病・双極性障害の概念・疫学・病因)
7. 気分障害(2)(うつ病・双極性障害の症状・経過・治療)
8. 神経症性障害(1)(不安障害)
9. 神経症性障害(2)(ストレス関連障害)
10. 摂食障害(摂食障害の概念・病因・分類・症状・治療)
11. 心理療法(1)(精神療法の概念と基礎的事項)
12. 心理療法(2)(認知療法の概念と基礎的事項)
13. 精神科薬物療法(1)(向精神薬の分類)
14. 精神科薬物療法(2)(向精神薬の薬理学)
15. 前期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。日常的に臨床医学に関心を持ち(30分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(30分)。

◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野『精神医学』 第4版 増補版 上野武治編集(医学書院)

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容となっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	MTL008N		
科目名	臨床医学論B		
科目詳細			
担当教員	小山田 静枝		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽療法で対象とする障害や疾患は多岐にわたるが、臨床医学論A・Bでは、それらのうち主として精神科領域の障害や疾患について学んでいく。臨床医学論Bでは、精神医学に関する入門的知識と精神障害を理解するために必要な基礎知識を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 器質性精神障害
3. 症状性精神障害
4. 物質関連障害
5. 発達障害
6. パーソナリティ障害
7. てんかん
8. 心身症
9. 心理検査
10. 精神症状評価
11. 認知療法
12. 精神科リハビリテーション
13. わが国の自殺の状況と対策
14. 精神科医療の制度と現状
15. 後期のまとめ・知識確認、授業内テスト

◆準備学習の内容◆

事前事後学習は60分間を目安とする。日常的に臨床医学に関心を持ち(30分)、授業後の復習では参考図書等の該当箇所を読むこと(30分)。

◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野『精神医学』 第4版 増補版 上野武治編集(医学書院)

◆参考図書◆

授業内で随時提示していく。

◆留意事項◆

この講義はA・Bで一貫した内容となっているので、両者を連続して履修することが望ましい。

ナンバリング	MTS411N		
科目名	器楽合奏 I		
科目詳細			
担当教員	小宮 暖		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

セラピストが臨床的に即興を用いるためには、即興の素材(What)について熟知していることと、それを相手との関係性において、どのように(How)用いることができるのかについて、様々な可能性を知っていることが必要です。前期は特に前者のWhatの側面について、即興演奏で用いる音素材について、各種の音階や即興スタイルについて学びます。

◆授業内容・計画◆

1. 導入
2. 単旋律の即興
3. 無調の即興
4. 一音、二音、三音即興
5. 教会旋法1白鍵で
6. 教会旋法2 主音をCにして
7. 調性の即興1: 主要三和音を用いて
8. 調性の即興2: 副三和音を用いて
9. 調性の即興3: 借用和音
10. ペンタトニックスケール
11. ブルース
12. その他の音階
13. 復調、多調
14. 実技テスト
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回授業で紹介される音階や和声を用いて即興演奏の練習を行い、身体で覚えるまで十分に消化すること。目安時間: 毎日15分～30分

◆成績評価の方法◆

各授業の課題の実施状況、学期末実技試験。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業時間外の練習を積極的に行い、課題を十分に消化すること。

ナンバリング	MTS412N		
科目名	器楽合奏Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	小宮 暖		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

セラピストが臨床的に即興を用いるためには、即興の素材(What)について熟知していることと、それを相手との関係性において、どのように(How)用いることができるのかについて、様々な可能性を知っていることが必要です。後期は特に後者のHowの側面について、『ケネス・ブルシアの64の臨床的即興技法』の文献を参考にしながら、ロールプレイを通じて探求します。学生が即興演奏における相手との関係性への意識を高め、臨床的意図を持って即興の素材を用いることができるようになることが目標です。またロールプレイでの即興体験についてクラス内で言語化することを通じて、音楽体験を言語化する能力も養います。

◆授業内容・計画◆

1. 導入
2. 共感の技法1(模倣、同期)
3. 共感の技法2(同調、取り入れ)
4. 共感の技法3(反映、強調)
5. 構造付けの技法1(リズム的構造化)
6. 構造付けの技法2(調的中心付け)
7. 構造付けの技法3(シェーピング)
8. 引き出す技法1(反復、模範)
9. 引き出す技法2(空間を空ける、空間に入れる)
10. 引き出す技法3(延長、完成)
11. 方向転換の技法1(変化導入、差異化、変調)
12. 方向転換の技法2(緊張、弛緩)
13. 方向転換の技法3(介在、反応、比較)
14. グループのリード
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業後にクラスメイトとのロールプレイを通じて、授業の内容を十分に消化すること。練習の目安時間:45分

◆成績評価の方法◆

クラス内発表、期末レポート。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時配布

◆参考図書◆

『即興音楽療法の諸理論 (下)』ケネス・ブルシア著 人間と歴史社

◆留意事項◆

授業時間外の練習、クラスメイトとのロールプレイなどを積極的に行い、課題を十分に消化すること。

ナンバリング	MTS413N		
科目名	器楽合奏Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

多様な人々が協働して行う音楽作りの実習を通して、音楽経験や技術の違いを超えた参加型音楽活動のファシリテーションの基礎を身につける。前期は、さまざまな要素による即興的な合奏を体験する。また、言葉による振り返りによって、自由－枠、個－集団、時間－空間の配置といった視点から音楽の成り立ちを感知し、言語化する力を養う。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 絵から①図形・絵画
3. 絵から②動画
4. 音環境から
5. 素材から①自然素材(木・水・石など)
6. 素材から②身近な素材(台所用品など)
7. 動きから①身振り
8. 動きから②指揮
9. 言葉から①単語
10. 言葉から②物語
11. ルール①音楽ゲーム
12. ルール②ルールの設定と更新
13. 学生による活動の計画と発表①学生A,B,C
14. 学生による活動の計画と発表②学生D,E,F
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で行ったことを、自分で／仲間と／様々な人と試してみる。(30分～60分)
 いろんな即興演奏や共同作曲作品を聴き、その音楽がどのように成り立っているかを考えてみる(15分～)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよび実技試験とレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

『音楽ってどうやるの:ミュージシャンが作った音楽の教科書』野村誠、片岡祐介(あおぞら出版社)
 『授業がもっと楽しくなる:音楽づくりのヒント』野村誠(音楽之友社)
 『音さがしの本:リトル・サウンド・エデュケーション』マリー・シェーファー(春秋社)
 『おとなと子どものための即興音楽ゲーム』リリ・フリーデマン(音楽之友社)
 『こころとからだを育む音楽ゲーム』ジョン・ビーン、アメリカ・オールドフィールド(音楽之友社)
 ほか、授業内で指示

◆留意事項◆

履修者の状況によって各回の内容および進め方は柔軟に変更する。

ナンバリング	MTS414N		
科目名	器楽合奏Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

多様な人々が協働して行う音楽作りの実習を通して、音楽経験や技術の違いを超えた参加型音楽活動のファシリテーションの基礎を身につける。後期は、臨床場面に応じた既成曲の編曲やパート分け、合奏の指揮等ができるようになることを目指す。また、言葉による振り返りによって、自由一枠、個一集団、時間一空間の配置といった視点から音楽の成り立ちを感知し、言語化する力を養う。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 楽器活動のアレンジ: トーンチャイム①コード・メロディ
3. 楽器活動のアレンジ: トーンチャイム②音程、コミュニケーションなど
4. 音楽療法のための合奏曲の実習①選曲、練習
5. 音楽療法のための合奏曲の実習②実践
6. 既成曲の合奏アレンジ①
7. 既成曲の合奏アレンジ②
8. 楽器の組み合わせ①似た素材、異なる素材
9. 楽器の組み合わせ②そこにあるもので
10. 音楽劇の実習①既存作品の実践
11. 音楽劇の実習②創作
12. 音楽劇の実習③発表
13. 学生による活動の計画と発表①学生A,B,C
14. 学生による活動の計画と発表②学生D,E,F
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で行ったことを、自分で／仲間と／様々な人と試してみる。(30分～60分)
臨床現場を想定して、合奏の構成や編曲を考える(30分～)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよび実技試験とレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示

◆参考図書◆

『原風景音旅行』丹野修一・折山もと子(人間と歴史社)
『障害児教育におけるグループ音楽療法』ポール・ノードフ & クライヴ・ロビンズ(人間と歴史社)
ほか、授業内で指示

◆留意事項◆

履修者の状況によって各回の内容および進め方は柔軟に変更する。

ナンバリング	MTS415N		
科目名	歌唱実習 I		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽療法の臨床場面における声および歌唱を用いた表現の基礎を身につける。具体的には、①声や歌の持つ特徴や作用を知り、自らのリソース(資源)として生かすことができるようになる。②音楽療法セッションでよく用いられる基礎的なレパートリーを弾き歌うことができるようになる。③楽曲の特徴や歌詞の内容・意味、作詞者や作曲者、時代背景等について、必要に応じて説明できるようになる。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 音楽療法における声・歌唱活動とは
3. 歌唱活動の実践
4. 弾き歌いの基礎①歌詞の意味、伴奏の意味について
5. 弾き歌いの基礎②楽曲の時代や文化的背景
6. 弾き歌いの基礎③コード譜について
7. 音楽療法セッションにおける移調と転調
8. 音楽療法セッションにおける新曲視唱
9. 弾き歌いにおける声の出し方について
10. 歌唱活動とさまざまな楽器の組み合わせ
11. 個別と集団活動における弾き歌いの違いと伴奏法について
12. 実技試験①(学生A、B、C)
13. 実技試験②(学生D、E、F)
14. 実技試験③(学生G、H、I)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習:課題を十分に練習する(1時間～)。復習:授業で行ったことを、自分で／仲間と／様々な人と試してみる(1時間～)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよび実技試験とレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『歌伴のすべて ベスト916 改訂第9版』小森谷 清・島 由季 共編(全音)

◆参考図書◆

『弾き語りキーボード・セッション①:音楽療法の必須100曲 高齢者編』菅田文子(あおぞら音楽社)
『弾き語りキーボード・セッション②:音楽療法の必須100曲 子ども編』菅田文子(あおぞら音楽社)
『弾き語りキーボード・セッション③:音楽療法の必須100曲 おとな編』菅田文子(あおぞら音楽社)
『音楽療法で使う即興・伴奏・作曲:初心者のための30日間マスター』菅田文子(あおぞら音楽社)
ほか、授業内で指示

◆留意事項◆

履修者の状況に応じて、各回の内容および進め方は柔軟に変更する。必要に応じて、個々のニーズに合わせた指導も行う。

ナンバリング	MTS416N		
科目名	歌唱実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

前期に学んだ音楽療法における声や歌唱表現の基礎をもとに、臨床場面に即した声や歌唱の活動を展開する。具体的には、①活動に即した楽曲の適切な用い方やアレンジができるようになる。②声や歌唱を用いた様々な創作活動を体験する。③声や歌唱を用いた活動の計画と実施ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション:歌唱実践におけるコンテクスト性
2. 活動に即した創作活動①音楽療法セッションの導入に用いる歌
3. 活動に即した創作活動②音楽療法セッションの終結に用いる歌
4. 児童対象の活動①理論と実践
5. 児童対象の活動②ロールプレイ
6. 成人対象の活動①理論と実践
7. 成人対象の活動②ロールプレイ
8. 高齢者対象の活動①理論と実践
9. 高齢者対象の活動②ロールプレイ
10. 声や歌唱を用いた様々な創作活動①替え歌、歌作り、即興的やりとり
11. 声や歌唱を用いた様々な創作活動②かけ声、擬音、ラップなど
12. 声や歌唱を用いた様々な創作活動③語り(物語)、朗読
13. 臨床場面における歌唱活動の計画と発表①学生A,B,C
14. 臨床場面における歌唱活動の計画と発表②学生D,E,F
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習:課題を充分に練習する(1時間～)。復習:授業で行ったことを、自分で／仲間と／様々な人と試してみる(1時間～)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みおよび実技試験とレポートにより評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『歌伴のすべて ベスト916 改訂第9版』小森谷 清・島 由季 共編(全音)

◆参考図書◆

前期の参考図書に加えて、
『音楽療法のためのオリジナル曲集:静かな森の大きな木』生野里花・二俣泉編(春秋社)
『音楽療法のためのオリジナル曲集:だれかの音がする』鈴木祐仁編(春秋社)
『創造的音楽療法曲集:子どものためのプレイソング』ポール・ノードフ、クライヴ・ロビンズ(音楽之友社)
『音楽ってどうやるの:ミュージシャンが作った音楽の教科書』野村誠、片岡祐介(あおぞら出版社)
ほか、授業内で指示

◆留意事項◆

履修者の状況に応じて、各回の内容および進め方は柔軟に変更する。必要に応じて、個々のニーズに合わせた指導も行う。

ナンバリング	MEL001N		
科目名	音楽教育講義A		
科目詳細	1E(前半7回:津田、後半7回:鯨井)		
担当教員	津田 正之、鯨井 正子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

(1)音楽教育の基礎・基本について理解する。(2)体験を通して、音楽教育の諸理論の理解を深める。(3)日本の近代から現代にかけての音楽教育の歴史を理解する。(4)歴史的・社会的諸条件と音楽・教育の双方向的な関係を理解する。主に(1)(2)は津田が担当、(3)(4)は鯨井が担当する。

◆授業内容・計画◆

- (1)(2)
1. 音楽とは何か
 2. 音楽教育とは何か
 3. 音楽教育の意義を考える(1)ー音楽家や音楽教育者の論からー
 4. 音楽教育の意義を考える(2)ー音楽家や音楽教育者、脳科学者の論からー
 5. 音楽教育の現状と課題ー学校教育の実態中心に
 6. 国立音楽大学の合唱活動ー昭和の活動
 7. 国立音楽大学の合唱活動ー令和の活動
- (3)(4)
8. 国立音楽大学の音楽教育と岡本敏明
 9. 明治時代(1)ー唱歌教育の起こりと教科書ー
 10. 明治時代(2)ー言文一致唱歌と文部省唱歌ー
 11. 大正時代ー童謡の興隆と衰退ー
 12. 昭和時代(1)ー鑑賞教育と童謡歌手ー
 13. 昭和時代(2)ー戦後の唱歌と童謡ー
 14. 講義のまとめ、レポート提出と発表(1)平成、令和時代の音楽教育を見つめる
 15. 講義のまとめ、レポート提出と発表(2)平成、令和時代の音楽教育への意見交換

◆準備学習の内容◆

配布された資料等を事前に読み、整理して、次の授業に備える(目安時間30分)。発表に向けての資料収集(目安時間3時間)。パワーポイントによるプレゼンテーション資料作り(目安時間3時間)

◆成績評価の方法◆

- (1)(2)レポート。その他随時課題を出し、コメントシートにフィードバックする。授業内発表、ディスカッションへの参加状況等についても評価する。
- (3)(4)発表用資料、プレゼン用データ、事後のレポートにより評価する。発表用資料・データは発表前にフィードバックする。これらを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

◆参考図書◆

随時、授業内で提示する。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者により1. から7.、8. から14. という2つのシリーズで行われる。1つのクラスは、この順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから1. から7. の授業を受ける。

授業内でのディスカッション等に積極的に参加できるよう、気が付いたことをメモするなどして、その内容について考え、自分なりの意見をまとめておく。

ナンバリング	MEL002N		
科目名	音楽教育講義B		
科目詳細	2E		
担当教員	瀧川 淳		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

これからの音楽科教育に必要なICTの知識を体験的に学びながら、音楽授業におけるその効果的な活用方法について理解を深める

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.今、なぜICTか
- 3.学校とICT
- 4.音楽科とICT
- 5.創作(音楽づくり)におけるICTの実践例
- 6.創作(音楽づくり)におけるICTの活用法
- 7.鑑賞におけるICTの実践例
- 8.鑑賞におけるICTの活用法
- 9.歌唱におけるICTの活用法
- 10.器楽におけるICTの活用法
- 11.学生発表グループA～D
- 12.学生発表グループE～H
- 13.学生発表グループI～L
- 14.学生発表の総括
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・タブレットやスマホを使用した実践をする。事前にアプリ等の指示があった場合には、事前にそれを体験してみる。
- ・授業前の準備として文献を紹介することがあるので、指定があった場合には必ず読んでおくこと(目安毎回1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

毎回のリフレクションシート、授業やディスカッションへの積極的な参加態度、またレポートの内容から総合的に評価する。レポートや個人／グループ発表については、その都度コメントを記して次につながるよう指導する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。適宜資料を配布する。

◆参考図書◆

各授業テーマに応じて、適宜、授業時に紹介する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MEL003N		
科目名	音楽教育講義C		
科目詳細	2E		
担当教員	森尻 有貴		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

英語圏(英国)の音楽教育の特色と内容について演習を通して理解し、授業例についてテキストを元にプレゼンテーションができる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 世界から見た日本の教育について
3. イギリスの音楽教育の構造
4. イギリスの音楽教育の内容:初等教育
5. イギリスの音楽教育の内容:中等教育
6. 教材発表と教材演習:初等教育(Year1)
7. 教材発表と教材演習:初等教育(Year2)
8. 教材発表と教材演習:初等教育(Year3)
9. 教材発表と教材演習:初等教育(Year4)
10. 教材発表と教材演習:初等教育(Year5)
11. 教材発表と教材演習:初等教育(Year6)
12. 教材発表と教材演習:中等教育前期
13. 教材発表と教材演習:中等教育後期
14. 社会教育と課題
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

プリント・資料等の準備に留意すること。簡単な英語で書かれたテキストを訳して発表や演習を行うため、担当部分に関しては英訳などの準備を行う。

授業例を分担して発表を行うため、発表準備や資料購読、発表への省察などで、全体で3-4時間程度の授業外準備が想定される。

◆成績評価の方法◆

担当部分の教材例の発表内容、発表資料、レポート課題を主に評価し、演習課題に関しては随時授業内でフィードバックする。また、授業内発表、ディスカッションへの参加状況等、平常の授業への取り組みも含め、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。各自、英和辞典などを用意すること(電子辞書やWeb版でも構わない)。

◆参考図書◆

以下の書籍の中から、音源やテキストを抜粋して使用する。各自で購入の必要はない。
Helen MacGregor(2014)Music Express: Complete Music Scheme for Primary Class Teachers. A&C Black
GCSE Music Edexcel Complete Revision & Practice. CGP Books

◆留意事項◆

イギリスの音楽教育で用いられているテキストを用いて、イギリスの学校ではどんな音楽教育が展開されているのか演習を行う。英語力は問わないが、辞書などを活用すること。

ナンバリング	MEL004N		
科目名	音楽教育講義D		
科目詳細	2クラス共通シラバス		
担当教員	津田 正之, 三宅 博子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)音楽教育について考えるための基礎事項について理解する。(2)音楽教育について研究するための方法について理解する。(3)音楽教育家として心身に障害のある人々とかわることについての知識と理解を深める。(4)人々の生活や人生を支えている音楽の意味について自らの例を含めて理解する。

◆授業内容・計画◆

- (1)(2)
1. 音楽教育の研究とは何か
 2. 様々な研究について学ぶー論文や書籍の調べ方
 3. 様々な研究方法について学ぶー質的な研究、量的な研究、理論と実践との関係
 4. 関心のある研究テーマを広く調査する。
 5. 調査したことを発表しその内容について議論する。1グループ
 6. 調査したことを発表しその内容について議論する。2グループ
- (3)(4)
8. 音楽療法とは①概要
 9. 音楽療法とは②事例
 10. 音楽教育と音楽療法
 11. コミュニティの音楽療法
 12. インクルーシブな音楽活動①計画
 13. インクルーシブな音楽活動②実施
 14. インクルーシブな音楽活動③振り返り
 15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料を事前に読み、授業に備える(1時間)
 授業の内容を踏まえて、レポートを作成する(1時間)
 発表の準備(3時間)

◆成績評価の方法◆

授業内レポートによる。
 その他、課題への取り組み方、授業内発表、ディスカッションへの参加状況等についてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。参考資料を授業内で提示する。

◆参考図書◆

・日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』音楽之友社。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者より1. から7. 、8. から14. という2つのシリーズで行われる。1つのクラスはこの順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから、1. から7. の授業を受ける。
 (1)(2)は津田が担当する。(3)(4)は三宅が担当する。

授業、そしてディスカッション等に積極的に参加できるよう、配布された資料や参考資料は事前に読んでおくこと。また、気が付いたことをメモするなどして、その内容について考え、自分なりの意見をまとめておく。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習（合唱）Ⅰ		
科目詳細	1E、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

合唱音楽の魅力は汲めど尽きない。アンサンブルする、調和を求める、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するためには、演奏技術の修練と知識の深さが求められる。この授業での名曲演奏の実体験を通して、音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

- 1.本授業におけるガイダンス:選曲を9つのグループに分け、教材を渡すグループ、合唱におけるハーモニーを構成するグループ、合唱音楽のルーツを、ア・カペラ、ピアノ付き作品、管弦楽付き作品それぞれの魅力を味わうために、「さあ、歌おう！美しい合唱曲を！！」
- 2.効果的なウォーミングアップの研究1：ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう①Victoria
- 3.効果的なウォーミングアップの研究2：ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう②Palestrina
- 4.効果的な発声練習の考察1：美しい宗教曲を歌おう
- 5.効果的な発声練習の考察2：カルミナブラーナの世界 カールオルフの世界
- 6.カルミナブラーナを歌おう1：ラテン語、テキストの理解を深めよう
- 7.カルミナブラーナを歌おう2：オスティナート、リズムの反復、その効果は
- 8.カルミナブラーナを歌おう3：多彩な合唱曲での構成
- 9.カルミナブラーナを歌おう4：日本の美しい合唱曲も深めよう1 風が(高田三郎)
- 10.カルミナブラーナを歌おう5：日本の美しい合唱曲も深めよう2 爽やかな五月に(小林秀雄)
- 11.カルミナブラーナを歌おう6：心に沁みる日本の歌も楽しもう1 みかんの花咲く丘(海沼実)
- 12.カルミナブラーナを歌おう7：心に沁みる日本の歌も楽しもう2 うみ(上田真樹編曲)
- 13.前期のレパートリーを深めよう
- 14.コンサートの選曲、コンサートのマネージメント、12月の演奏会に向けてのプログラムビルディング
- 15、前期まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。使用教材は3冊を併用しながら、その関連性の中で学びを深めていきたいと考えてシラバスとしての毎授業の柱を構築している。古今東西という大きな振れ幅がある音楽には時代や国境の垣根は無いので、シラバスの柱が横断的かつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

合唱音楽には多様性があり、アカデミックさ、精神性、大衆性、社会性を兼ね備えている。12月には演奏会を控え、コンサートでのステージ構成の構築、そのプロセスを実践的な学びとして一層深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期のレパートリーを深めよう 12月のコンサートに向けて選曲 プログラムビルディング
- 2.コンサートへの実践・総合演習① 指揮者、伴奏者の役割 効果的な指導法
- 3.コンサートへの実践・総合演習② 響きのある発声法とは ホールや聖堂を意識した発声法とは
- 4.コンサートへの実践・総合演習③ 歌うこと 語ること 発語するということ
- 5.コンサートを成功させるとは！ コンサートマネジメント 集客への意識を高めよう
- 6.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察① 音楽的アプローチ
- 7.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察② 伝える、伝える演奏とは
- 8.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察③ 演奏者の喜び
- 9.リーダーシャッツ 歌の宝物 幅広いレパートリーはまさに音楽という宝物
- 10.コンサートのリハーサルを高めよう①作品ごとの様式を意識した演奏を
- 11.コンサートのリハーサルを高めよう②アンサンブルの充実を
- 12.コンサートのリハーサルを高めよう③合唱音楽の可能性と多様性、そして楽しみ
- 13.コンサートでの実践は宝物:舞台空間という不思議
- 14.人の声の美しさ、人の心の美しさ それが合唱の温かさ、エネルギー
- 15.前期後期の総括

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。幅広い作品群を取り上げ、横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。12月の演奏会に向けて前期以上に指揮者、ピアニスト、アンサンブルトレーナー、アンサンブルメンバーなどその役割を担うことで、深い学びと演奏体験を充実させることを望んでいる。

ナンバリング	MES007N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅲ		
科目詳細	2E、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

合唱音楽の魅力は汲めど尽きない。アンサンブルする、調和を求める、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するためには、演奏技術の修練と知識の深さが求められる。この授業での名曲演奏の実体験を通して、音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

- 1.本授業におけるガイダンス:選曲をするということ、教材を選ぶということ、合唱におけるパートを編成ということ、合唱音楽のルーツとは、ア・カベラ、ピアノ付き作品、管弦楽付き作品それぞれの魅力を味わうために、「さあ、歌おう！美しい合唱曲を！！」
- 2.効果的なウオーミングアップの研究1:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう①Victoria
- 3.効果的なウオーミングアップの研究2:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう②Palestrina
- 4.効果的な発声練習の考察1:美しい宗教曲を歌おう
- 5.効果的な発声練習の考察2:カルミナブラーナの世界 カールオルフの世界
- 6.カルミナブラーナを歌おう1:ラテン語、テキストの理解を深めよう
- 7.カルミナブラーナを歌おう2:オスティナート、リズムの反復、その効果は
- 8.カルミナブラーナを歌おう3:多彩な合唱曲での構成
- 9.カルミナブラーナを歌おう4:日本の美しい合唱曲も深めよう1 風が(高田三郎)
- 10.カルミナブラーナを歌おう5:日本の美しい合唱曲も深めよう2 爽やかな五月に(小林秀雄)
- 11.カルミナブラーナを歌おう6:心に沁みる日本の歌も楽しもう1 みかんの花咲く丘(海沼実)
- 12.カルミナブラーナを歌おう7:心に沁みる日本の歌も楽しもう2 うみ(上田真樹編曲)
- 13.前期のレパートリーを深めよう
- 14.コンサートの選曲、コンサートのマネージメント、12月の演奏会に向けてのプログラムビルディング
- 15、前期まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツIV』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を感じ、その神髄に触れることも目的としている。使用教材は3冊を併用しながら、その関連性の中で学びを深めていきたいと考えてシラバスとしての毎授業の柱を構築している。古今東西という大きな振れ幅がある音楽には時代や国境の垣根は無いので、シラバスの柱が横断的かつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。

ナンバリング	MES008N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅳ		
科目詳細	2E、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

合唱音楽には多様性があり、アカデミックさ、精神性、大衆性、社会性を兼ね備えている。12月には演奏会を控え、コンサートでのステージ構成の構築、そのプロセスを実践的な学びとして一層深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期のレパートリーを深めよう 12月のコンサートに向けて選曲 プログラムビルディング
- 2.コンサートへの実践・総合演習① 指揮者、伴奏者の役割 効果的な指導法
- 3.コンサートへの実践・総合演習② 響きのある発声法とは ホールや聖堂を意識した発声法とは
- 4.コンサートへの実践・総合演習③ 歌うこと 語ること 発語すること
- 5.コンサートを成功させるとは！ コンサートマネジメント 集客への意識を高めよう
- 6.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察① 音楽的アプローチ
- 7.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察② 伝わる、伝える演奏とは
- 8.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察③ 演奏者の喜び
- 9.リーダーシャッツ 歌の宝物 幅広いレパートリーはまさに音楽という宝物
- 10.コンサートのリハーサルを高めよう①作品ごとの様式を意識した演奏を
- 11.コンサートのリハーサルを高めよう②アンサンブルの充実を
- 12.コンサートのリハーサルを高めよう③合唱音楽の可能性と多様性、そして楽しみ
- 13.コンサートでの実践は宝物:舞台空間という不思議
- 14.人の声の美しさ、人の心の美しさ それが合唱の温かさ、エネルギー
- 15.前期後期の総括

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。幅広い作品群を取り上げ、横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。12月の演奏会に向けて前期以上に指揮者、ピアニスト、アンサンブルトレーナー、アンサンブルメンバーなどその役割を担うことで、深い学びと演奏体験を充実させることを望んでいる。

ナンバリング	MES017N		
科目名	音楽教育演習(合奏)A		
科目詳細	1E(2020年度以降入学生)		
担当教員	松浦 孝成		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこと		

◆授業目標◆

リコーダーの基本奏法を学ぶ。リコーダー合奏を通して、協力しひとつの音楽を作り上げる過程を体験し楽しむことができる。リコーダーのために作曲・編曲された作品を演奏し、リコーダー音楽の多様性、可能性そして楽しさを知ることができる。

◆授業内容・計画◆

- 1.カイトダンス
アルトリコーダーを使って基本的奏法1.息・舌(タンギング)・指 中音域を使って練習
- 2.アルトリコーダーを使って基本的奏法2.中・低音域 曲「カノン」ほか スタッカートの練習 曲「聖者の行進」ほか
- 3.アルトリコーダーを使って基本的奏法3.中・低音域 曲「バス・ダンス」ほか スラーの練習 曲「アメイジング・グレイス」ほか
- 4.アルトリコーダーを使って基本的奏法4.高音域・全音域 曲「春の日の花と輝く」、「四季より春」ほか
リコーダーの歴史の講義
- 5.アルトリコーダーでやさしいアンサンブル(最低音、派生音も使った曲の練習) 曲「皇帝より2楽章」ほか
- 6.これまでに練習してきた曲を少人数のグループに分かれて発表し、お互いの演奏を聴く
- 7.講師によるリコーダー・ミニコンサート～大小8種類のリコーダーの紹介と演奏～
リコーダーの種類の講義
ソプラノ、アルトリコーダーを使った簡単なアンサンブル 曲「ビギナーズ・ビギン」、「マーチ」ほか
上記の曲でテナー、バスリコーダーも使ってみる。

8～13は、グループに分かれて重奏(3重奏以上) と、クラス全員でリコーダーオーケストラの授業をおこなう。

◆重奏では、各パートの役割りの確認、ハーモニー作りの実践

◆リコーダーオーケストラでは、多くの皆さんにとって初めての響きを体験。リコーダーオーケストラのシステムと作り方の学習
※アルトリコーダーは各自の楽器を、その他の楽器は大学の楽器を使用する。

- 8.重奏のパート分けと選曲
リコーダーオーケストラの練習1 曲「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」
- 9.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
リコーダーオーケストラの練習2 オーケストラの作り方(レジストレーションについて)
- 10.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
リコーダーオーケストラの練習3 曲「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」、「リコーダーオーケストラのための作品」
- 11～13.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
14回目の発表に向けて、「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」、「リコーダーオーケストラ曲の練習」
- 14.アンサンブルの発表会(重奏とリコーダーオーケストラ)
- 15.まとめ

・8回以降の重奏の参考曲(学生と相談して選曲)

- ルネサンス作品
- C.deセルミジ:生命の春にある限り(4声)
- J.ダウランド:今こそ別れ(4声)
- M.ブレトリウス編:「舞曲集」より(4声)

バロック作品

◆準備学習の内容◆

テキスト、プリントの曲を練習(復習、予習)しておくこと。特に次の授業の曲は練習してくること。
アンサンブルの実習に入ってからでは、責任を持ってパート練習をしておく。
毎日20分、リコーダーの練習をしましょう。
参考図書(CD)、YouTubeなどで、さまざまなリコーダーアンサンブルの曲を聴いてみること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方を評価する。
6回目の発表でコメントしてフィードバックする。
14回目のアンサンブルの発表会を授業内実技試験として評価する。
提出された課題に対しては、基本的に次の講義までにコメントしてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー 楽器を知ってじょうずに吹こう!』松浦孝成(KYODO-MUSIC)
その他随時プリントを配布

◆参考図書◆

『リコーダーが上手くなる方法』渡辺清美(自由現代社)
『アルトリコーダー教本』吉澤実(全音楽譜出版社)
CD『スーパーリコーダーカルテットVol.1、Vol.2、Vol.3』スーパーリコーダーカルテット(ナミ・レコード)

◆留意事項◆

アルトリコーダー(樹脂製で可)とテキストを用意すること。
アルトリコーダー推奨楽器 メーカー:アウロス 型番509BW(E)

ナンバリング	MES010N		
科目名	音楽教育演習(合奏)Ⅱ		
科目詳細	1E		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、小中高など主には学校の音楽室で活用していく打楽器の現在、未来を考える授業体験となる。特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、打楽器の魅力に触れ、世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②打楽器のルーツに触れる、根源的な音の誕生と人との関わりを知る
- ③ハンドドラムと身体への適応(腕、手首、指の機能、役割)
- ④小物打楽器の魅力(自然からの音、生活にある打楽器などへの着眼)
- ⑤様々な打楽器を扱う基本ストロークの理解
- ⑥音楽室の打楽器～基本(小太鼓や大太鼓、シンバル、タンバリンなどの基本知識と奏法)
- ⑦音楽室の打楽器～応用(演奏法の理解と実践)
- ⑧マーチングの打楽器を扱い、合奏と動きの魅力に触れる。歩行運動とリズム
- ⑨教材から探る現代の打楽器表現と創作 20世紀の打楽器音楽の発展
- ⑩基礎的導入としてのラテンパーカッション
- ⑪ドラムセットの活用法や西アフリカの打楽器とクロスリズムのアンサンブル
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ(シロフォン、マリンバ基本奏法)
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル(旋律、和声、リズムを奏でる)
- ⑭邦楽打楽器の紹介と基礎実践(撥に親しむ、祭り囃子合奏、即興リズム)
- ⑮世界の民族音楽に欠かせないリズムとその打楽器の誕生に触れ、鑑賞資料などの紹介

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業内演習への取り組み姿勢を評価する。(80%)
自主的制作の打楽器マイノート作成、または授業課題でのレポート内容を評価する(20%)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動もあるため、安全で動きやすい服装とシューズを着用すること。

ナンバリング	MES018N		
科目名	音楽教育演習(合奏)B		
科目詳細	1E		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、小中高など主には学校の音楽室で活用していく打楽器の現在、未来を考える授業体験となる。特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、打楽器の魅力に触れ、世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②打楽器のルーツに触れる、根源的な音の誕生と人との関わりを知る
- ③ハンドドラムと身体への適応(腕、手首、指の機能、役割)
- ④小物打楽器の魅力(自然からの音、生活にある打楽器などへの着眼)
- ⑤様々な打楽器を扱う基本ストロークの理解
- ⑥音楽室の打楽器～基本(小太鼓や大太鼓、シンバル、タンバリンなどの基本知識と奏法)
- ⑦音楽室の打楽器～応用(演奏法の理解と実践)
- ⑧マーチングの打楽器を扱い、合奏と動きの魅力に触れる。歩行運動とリズム
- ⑨教材から探る現代の打楽器表現と創作 20世紀の打楽器音楽の発展
- ⑩基礎的導入としてのラテンパーカッション
- ⑪ドラムセットの活用法や西アフリカの打楽器とクロスリズムのアンサンブル
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ(シロフォン、マリンバ基本奏法)
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル(旋律、和声、リズムを奏でる)
- ⑭邦楽打楽器の紹介と基礎実践(撥に親しむ、祭り囃子合奏、即興リズム)
- ⑮世界の民族音楽に欠かせないリズムとその打楽器の誕生に触れ、鑑賞資料などの紹介

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業内演習への取り組み姿勢を評価する。(80%)
自主的政策の打楽器マイノート作成、または授業課題のレポート内容を評価する。(20%)

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動もあるため、安全で動きやすい服装とシューズを着用すること。

ナンバリング	MES011N		
科目名	音楽教育演習(指揮法)Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	大浦 智弘		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

学校教育現場、特に中学校の音楽科や高等学校の芸術科音楽の授業における合唱・合奏指導に活用できる基礎的な指揮の技術や知識を学習し、受講生による合唱・合奏のアンサンブルのリハーサルや実技試験を通じて実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 指揮者の役割について学び、メンターとして指揮・指導するための基礎的な技術、表現方法を習得する。
 2. スコアの読み方から楽曲分析、演奏解釈の可能性を研究し、リハーサル運営方法を習得する。
- 以上の内容について、受講生はピアノを含めたアンサンブル(合奏・合唱)を指揮しながら演習する。
 実際の指導現場を想定して、指揮する側と演奏する側／指導を受ける側の双方の立場に立ってフィード・バックする。
- 第1回:概説(指揮者の役割、指揮棒の役割と扱い方、指揮法テクニック、基本的な拍子の図形の描き方、楽譜の読み方等について)
 * 第2回からは基本的な拍子の指揮法と音楽表現のためのテクニックについて学び、シンプルな課題曲に取り組む。
 第2回:概説・演習①単純拍子(2拍子・3拍子・4拍子)の指揮法
 第3回:実践①単純拍子(2拍子・3拍子・4拍子)の指揮法
 第4回:概説・演習②legato/staccato, cresc./decresc.等の基本的な音楽表現の指揮
 第5回:実践②legato/staccato, cresc./decresc.等の基本的な音楽表現の指揮
 第6回:概説・演習③アウフタクトの指揮とフェルマータのある楽曲の指揮と楽曲の締め括り方
 第7回:実践③アウフタクトの指揮とフェルマータのある楽曲の指揮と楽曲の締め括り方
 第8回:概説(合唱指導のためのリハーサル運営と課題曲の読譜・解釈)
 * 第8回からは基本を元に複合的なキャラクターの課題曲に取り組む。
 第9回:概説・演習④合唱課題曲の指揮
 第10回:実践④合唱課題曲の指揮
 第11回:実技試験リハーサル《正しいテンポの維持と音楽表現の要求に留意しながら演習》
 第12回:実技試験リハーサル《各パートへのアインザッツ(入り)と音楽表現の要求に留意しながら演習》
 第13回:実技試験【Group A】
 第14回:実技試験【Group B】
 第15回:筆記試験と総括

◆準備学習の内容◆

事前に課題曲を予習する。基本的には受講生が指揮するほか、合唱、あるいはピアノや楽器を演奏して指導を受ける側の立場も体験するので、各自課題曲の譜読みや練習を充分に行う。(1時間程度)

◆成績評価の方法◆

リハーサル実習での受講生同士による相互評価(コメント・シート)によるフィード・バック、実技試験と筆記試験の成績、出席、平常時の取組みにより総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布する資料

◆参考図書◆

『新版 学ぼう指揮法 Step by step わらべうたからシンフォニーまで』山本訓久 著(アルテスパブリッシング)『ブルクミュラーで指揮法入門』山本訓久 著(アルテスパブリッシング)、『指揮者の仕事術』伊東乾 著(光文社新書)、『名指揮者があなたに伝えたいこと 100のリーダー・シップ』千蔵八郎 著(春秋社)

◆留意事項◆

授業で配布の楽譜や資料、指揮棒、筆記用具を各自持参する。常に授業の内容・課題曲だけでなく、自分が取り組んでいる楽曲や活動、今後の進路に反映・応用できるか思考する。

ナンバリング	MES012N		
科目名	音楽教育演習（指揮法）Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	大浦 智弘		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

学校教育現場、特に中学校の音楽科や高等学校の芸術科音楽の授業における合唱・合奏指導に活用できる実践的な指揮の技術や知識を学習し、受講生による合唱・合奏のアンサンブルのリハーサルや実技試験を通じて習得する。

◆授業内容・計画◆

- 前期で学んだ指揮者の役割や基礎的な技術をもとに、指導者として演奏者や学習者からより良い音楽表現を引き出すための技術を習得する。
 - 移調楽器について学び、視唱／視奏を実践してスコア・リーディングを習得する。
 - 楽曲分析から楽曲を理解し、より豊かな演奏表現の可能性を研究し、リハーサル運営方法を習得する。
- 以上の内容について、受講生はピアノを含めたアンサンブル（合唱・合奏）を指揮しながら演習する。
 実際の指導現場を想定して、指揮する側と演奏する側／指導を受ける側の双方の立場に立ってフィード・バックする。

- 第1回：概説（スコア・リーディングと移調楽器）・演習①移調楽器のための課題曲に取り組む。
- 第2回：演習②複合拍子（6拍子等）の指揮
- 第3回：実践②複合拍子（6拍子等）の指揮
- 第4回：演習②混合拍子（5拍子等）の指揮
- 第5回：演習②混合拍子（5拍子等）の指揮
- 第6回：概説（小編成アンサンブル・スコアの読譜と編曲、楽曲分析について）・演習③変拍子の指揮
- ＊第6回からは課題曲を小編成アンサンブルのために編曲し、実際に指揮することで、それまで習得した基本的な指揮法と音楽表現テクニックを実践・応用していく。
- 第7回：実践③変拍子の指揮
- 第8回：演習④フェルマータの指揮法
- 第9回：実践④フェルマータの指揮法
- 第10回：演習⑤／実践⑤（まとめ：要求される音楽表現と必要な指揮のテクニックの理解）
- 第11回：実技試験リハーサル 《基本図形に留意しながら演習》
- 第12回：実技試験リハーサル 《各パートへのアインザッツ（入り）と音楽表現の要求に留意しながら演習》
- 第13回：実技試験【Group A】
- 第14回：実技試験【Group B】
- 第15回：筆記試験と総括

◆準備学習の内容◆

事前に課題曲を予習する。基本的には受講生が合唱、あるいはピアノや楽器を演奏して指導を受ける側の立場も体験するので、各自課題曲の譜読みや練習を充分に行う。（1時間程度）

◆成績評価の方法◆

授業内で実施する指揮の実技試験や平常時の提出課題への取り組み、出席状況により総合的に評価する。実技試験は教員による5項目の評価のほか、受講生同士による相互チェックも行いフィードバックする。提出課題は教員が確認・採点し返却する。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業内で配布する資料

◆参考図書◆

『新版 学ぼう指揮法 Step by step わらべうたからシンフォニーまで』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『ブルクミュラーで指揮法入門』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『指揮者の仕事術』伊東乾著（光文社新書）、『名指揮者があなたに伝えたいこと 100のリーダー・シップ』千蔵八郎著（春秋社）

◆留意事項◆

教科書、授業で配布の楽譜や資料、指揮棒、筆記用具を各自持参する。演奏担当時には各自任意の楽器を持参する。常に授業の内容・課題曲だけでなく、自分が取り組んでいる楽曲や活動、今後の進路に反映・応用できるか思考する。

ナンバリング	MES013N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅰ		
科目詳細	1E		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

本授業では20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)と空間を関連づけた総合的な音楽教育」であるリトミックを演習形式で学ぶ。音楽をよく聴き、感じて、表現できる音楽的な身体をつくる。グループでの即興をとおして、自分の想いを伝え、また、他人の想いを受け止めることができるコミュニケーション能力を高める。音楽の諸要素と身体との関係を知ることができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて
- 第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)
- 第3回 身体の知覚(呼吸 声 緊張と弛緩)
- 第4回 時間・空間・エネルギー(1)歩行
- 第5回 時間・空間・エネルギー(2)様々な動き
- 第6回 歩行を通じた音楽要素の理解
- 第7回 音楽の要素と身体の関係(1)拍 ビート
- 第8回 音楽の要素と身体の関係(2)テンポ
- 第9回 音楽の要素と身体の関係(3)ダイナミクス
- 第10回 音楽の要素と身体の関係(4)拍子 フレーズ
- 第11回 音楽用語を身体で学ぼう (楽語を絵や図形にする)
- 第12回 音楽用語を身体で学ぼう (楽語を動く、身体表現する)
- 第13回 身体は楽器 アンサンブル創作(1)楽曲分析から身体表現
- 第14回 身体は楽器 アンサンブル創作(2)発表
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科にリンクさせて考え、応用できる学修姿勢を希望する。
グループワークの課題については、授業前に自主的、積極的に準備して授業にのぞむ。(30分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子 (講談社文庫)
その他、授業内に資料配布

◆参考図書◆

「リトミックでつくる楽しい音楽授業」井上恵理 酒井美恵子著 (明治図書)

「ダルクローズのリトミック」 エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳 (ドレミ出版社)
「体を楽器にした表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選」 神原雅之編著 (明治図書)
「トットちゃんの先生 小林宗作抄伝」佐野和彦(話の特集)
「リズム・インサイド」 神原雅之編著
「リズムと音楽と教育」E.J＝ダルクローズ(全音楽譜出版社)
「リトミック・芸術と教育」E.J＝ダルクローズ(全音楽譜出版社)
「エミール・ジャック＝ダルクローズ」フランクマルタン
(全音楽譜出版社)
「リトミック研究の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)
「リトミック実践の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)
「はじめてでもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア」井上恵理 酒井美恵子編著(明治図書)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES014N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	1E		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

・音楽教育演習(リトミック)Ⅰで学んだことを基礎にして、さらに実践と考察を深めることができる。・音楽に敏感に反応する「筋肉運動感覚」と「内的聴覚」を身につける。・音楽の諸要素を、身体活動を通して学習するダルクローズの方法論を実践をとおして理解する。・後期では、音楽作品を身体化する活動をとおり、ダルクローズの理論を活かした、音楽鑑賞、音楽分析を行う。・創造的な活動、アンサンブルの力を伸ばすことができる。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期のふりかえりと復習
第2回 音楽の要素と身体の関係 (1)フレーズ
第3回 音楽の要素と身体の関係 (2)音楽の強弱 速さ アーティキュレーション
第4回 音楽の要素と身体の関係 (3)音程 その1
第5回 音楽の要素と身体の関係 (4)音程 その2
第6回 音楽の要素と身体の関係 (5)和音 その1
第7回 音楽の要素と身体の関係 (6)和音 その2
第8回 音楽作品を身体表現化しよう(ピアノ作品)導入
第9回 音楽作品を身体表現化しよう(ピアノ作品)展開
第10回 音楽作品を身体表現化しよう(管楽器作品)導入
第11回 音楽作品を身体表現化しよう(管楽器作品)展開
第12回 音楽作品を身体表現化しよう(弦楽器作品)導入
第13回 音楽作品を身体表現化しよう(弦楽器作品)展開
第14回 作品鑑賞
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科科目にリンクさせて考え、応用できる学修姿勢を希望する。
グループワーク課題については、授業前に自主的、積極的に準備して授業に臨む。(30分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子著 講談社文庫

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之 編著(明治図書)
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドゥレスパー著 石丸由理訳(ドレミ楽譜出版社)
『リズムと音楽と教育』E.J=ダルクローズ著(全音楽譜出版社)
『はじめてでもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア』井上恵理 酒井美恵子編著(明治図書)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミ I		
科目詳細	合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

合唱音楽の魅力は汲めど尽きない。アンサンブルする、調和を求める、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するためには、演奏技術の修練と知識の深さが求められる。この授業での実体験を通して、演奏家としても音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

第1回 美しい宗教曲を歌おう① AVE MARIAとは、聖母賛歌とは グレゴリオ聖歌とは
第2回 美しい宗教曲を歌おう② AVE VERUM CORPUSとは
第3回 美しい宗教曲を歌おう③ マリア讃歌とは
第4回 美しい宗教曲を歌おう④ 詩編とは
第5回 美しいアンサンブルをしよう① メンデルスゾーン二重唱曲集 わが願いはこの愛すべてを
第6回 美しいアンサンブルをしよう② メンデルスゾーン二重唱曲集 秋の歌
第7回 美しいアンサンブルをしよう③ メンデルスゾーン二重唱曲集 挨拶
第8回 合唱のためのエチュード① 松下耕作品 移動度唱法 ソルミゼーション
第9回 合唱のためのエチュード② 松下耕作品 教会旋法 わらべうた
第10回 合唱のためのエチュード③ 松下耕作品 カノン ポリフォニー
第11回 美しい日本語でア・カペラしよう① 木下牧子作品 サッカーによせて(谷川俊太郎作詩)
第12回 美しい日本語でア・カペラしよう② 木下牧子作品 ほたる たんじょう(工藤直子作詩)
第13回 美しい日本語でア・カペラしよう③ 木下牧子作品 橐のうた(岸田衿子作詩)
第14回 教育現場の合唱曲を歌おう 指導者のためのエクササイズ
第15回 前期の総まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱練習としての授業では、アンサンブルや音楽的な表現に集中できるように、合唱曲の譜読み、アナリーゼ、歌唱練習を週最低でも1時間(読譜能力により増減)は周到に行うこと。

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、授業内の取り組みと歌唱実技、合唱指揮の実技、合唱指導する際の創意工夫などにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配付する。購入する楽譜については適宜、授業内で指示する。

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	音楽教育研究		
担当教員	鯨井 正子		
学年	3年	クラス	02
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

(1) 音楽教育についての論文や文献を適切に読み取ることができる。(2) 音楽教育に関わる課題を設け、それに対する情報を調査、分析、整理するなど、研究の方法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業は演習を主とし、以下の計画は進度により前後します。

1. ガイダンス: 授業内容の説明、研究作業の概説、スケジュール確認
2. 音楽教育に関わる研究論文の紹介と読解(1) 例: 人物に焦点を当てた研究
3. 音楽教育に関わる研究論文の紹介と読解(2) 例: フィールドワークを用いた研究
4. 研究作業を学ぶ(1) 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』から「はじめに」を読む
5. 研究作業を学ぶ(2) 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』から第1章、第2章を読む
6. 研究作業を学ぶ(3) 『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』から第3章を読む
7. 研究作業を学ぶ(4) 『新版 思考の整理学』からⅢを中心に読む
8. 研究の演習Ⅰ(1) テーマや目的の検討
9. 研究の演習Ⅰ(2) テーマや目的に沿った先行研究や情報の収集
10. 研究の演習Ⅰ(3) 先行研究や情報の検討
11. 研究の演習Ⅰ(4) テーマや目的の確定と役割分担
12. 研究の演習Ⅰ(5) 先行研究を読み解く
13. 研究の演習Ⅰ(6) 情報の精査1
14. 研究の演習Ⅰ(7) 情報の精査2
15. まとめと後期(専門ゼミⅡ)に向けた課題の確認と提示

◆準備学習の内容◆

- ・課題に出されたテキストや教員が示した文献・資料等は予め読み、授業に臨んで下さい。(読む時間は内容や分量によるが、30分から1時間は取り組むこと。)
- ・発表の際はレジュメや資料を作成し、前もって教員に提出して下さい。PC作業にも慣れるよう、積極的にチャレンジしましょう。
- ・各自が音楽教育やその関連領域に対して問題意識や関心を持って取り組むこと。そのためにも図書館等を利用し、様々な情報や文献に触れることを心掛けて下さい。

◆成績評価の方法◆

準備学習の様子と内容、各個人発表の内容とディスカッションなど授業への参加状況、適宜に課すレポートにはフィードバックし、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

『新版 思考の整理学』外山滋比古(筑摩書房)
『リサーチのはじめかた 「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー、クリストファー・レア、安原和見(筑摩書房)
ほかにも受講生の関心や授業から生まれたトピックに合わせ、適宜、提示します。

◆留意事項◆

- ・専門ゼミⅠで取り組むテーマや目的は、受講者の関心を軸に教員のアドバイスも踏まえて選びます。
- ・お互いのレポートや資料を読みディスカッションをすることも、自身の調査、研究、考察に生かして下さい。
- ・卒業後は教える立場になる学生が多く、自らの課題を持って学ぶことも難しくなると思います。このゼミを通して物事を学び思考する、さらにそれを伝えることを実践して下さい。

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	コミュニティ音楽		
担当教員	津田 正之		
学年	1年,3年	クラス	03
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	月 1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽について考えるための基礎的な事項について理解する。(2)音楽教育とコミュニティ音楽活動の関連について理解する。(3)様々なアウトリーチ活動について理解する。(4)深く考え、批評的にものごとについて考察する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:コミュニティ音楽とは
2. これまでのコミュニティ音楽活動の紹介1ー小学校
3. これまでのコミュニティ音楽活動の紹介2ー養護施設
4. 社会教育とコミュニティ音楽
5. 学校教育とコミュニティ音楽
6. 多様な人々とコミュニティ音楽
7. 様々な音楽活動ー学校
8. 様々な音楽活動ー地域
9. 様々な音楽活動ー高齢者
10. 様々な音楽活動ー障害をもつ人々
11. コミュニティ音楽活動の実践発表1ー小学校など
12. コミュニティ音楽活動の実践発表2ー養護施設など
13. コミュニティ音楽活動の実践発表3ー高齢者施設など
14. これまでの学習の振り返り
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料は事前によく読んでおくこと。事前学習1時間、事後の学習1時間

◆成績評価の方法◆

レポート、その他随時課題を出しフィードバックするとともに、授業内発表、ディスカッションへの参加状況等により総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

・岡田倫代『ピア・サポート力がつくコミュニケーショントレーニング』学事出版。

◆参考図書◆

随時、紹介する。

- ・熊木真見子『子どものコミュニケーション力を高める！音楽あそび ベスト40』明治図書。
- ・赤羽・深見『たのしい楽器あそびと合奏の本【伴奏CD付き】』ヤマハミュージック。

◆留意事項◆

各自が自分の興味のある音楽分野や専門性を踏まえた上で授業に臨むこと。自らの経験や体験と、文献・資料・情報から読み取ることのできる内容を関連付けて、コミュニティ音楽に関するそれぞれの考え方を深めてほしい。

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	部活動研究		
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,3年	クラス	04
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

学校教育における音楽系の部活動について、その意義や活動の内容について知り、またこれからの部活動のあり方について考えることを目的とする。

◆授業内容・計画◆

第1週目 ガイダンス
第2週目 学校教育と部活動について
第3週目 部活動の活動形態について
第4週目 海外の学校における音楽系活動の実態
第5週目 学校部活動と地域クラブ活動のあり方について
第6週目 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方に関する総合的なガイドライン」を読む
第7週目 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方に関する総合的なガイドライン」の内容を考える
第8週目 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方に関する総合的なガイドライン」と音楽系部活動の関係を知る
第9週目 学生発表Aとその検討
第10週目 学生発表Bとその検討
第11週目 学生発表Cとその検討
第12週目 学生発表Dとその検討
第13週目 学生発表Eとその検討
第14週目 学生発表Fとその検討
第15週目 まとめ
授業の進め方:グループワーク、ディスカッションなどを適宜行なう。

◆準備学習の内容◆

各回の授業内容を事前に予習しておくこと。準備に要する時間は各自の発表内容による。目安:1週間につき2時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業内の取り組みに対しフィードバックするとともに、口述発表等により総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で配布

◆参考図書◆

「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」(令和4年12月スポーツ庁、文化庁)

◆留意事項◆

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	リトミック・ソルフェージュ		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	05
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した「音（聴覚）」と「動き（筋肉運動感覚）」と空間を関連づけた総合的な音楽教育を学ぶ。実践、文献購読、ディスカッションを通してソルフェージュ、即興演奏（作曲）、リトミックの分野を音楽教育に活用する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1ガイダンス 授業の内容とスケジュール
- 2.パフォーマンスコミュニケーション
- 3.パフォーマンスコミュニケーション・ディスカッション
- 4 ダルクローズ音楽教育の理論と背景『音楽と人間』
- 5 ダルクローズ音楽教育の理論と背景『リズム・音楽・教育』
- 6 空間の知覚と音楽の知覚(実践)
- 7時間と空間とエネルギーの関連(実践)
- 8ダルクローズソルフェージュ（音階）
- 9ダルクローズソルフェージュ(和音)
- 10 動きを取り入れた音楽ワークの考案 即時反応を生かしたワーク
- 11 動きを取り入れた音楽ワークの考案 イメージ活動を生かしたワーク
- 12 動きを取り入れた音楽ワークの考案
13. 音楽と動きとことばの集団即興
- 14 ことばの集団即興
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科にリンクさせて考え応用できるようにする。グループワークの課題については、授業前に自主的、積極的に準備して授業にのぞむ。（30分～1時間）

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。
授業内で課題についてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽と人間』エミール・ジャック＝ダルクローズ （開成出版社）

◆参考図書◆

- 『リズム・音楽・教育』 エミール・ジャック＝ダルクローズ（開成出版）
『リトミックでつくる楽しい音楽授業』井上恵理 酒井恵美子著（明治図書）
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳（ドレミ出版社）
『ダルクローズ・リトミックの日本への導入』小林恵子 （日本ジャック＝ダルクローズ協会）
『リズム・インサイド』ジュリア・ブラック&ステファン・ムーア著 神原雅之他訳（ふくろう出版）
『体を楽器にした表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著（明治図書）
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン （全音楽譜出版社）
『リトミック研究の現在（いま）』日本ダルクローズ音楽教育学会（開成出版）
『リトミック実践の現在（いま）』日本ダルクローズ音楽教育学会（開成出版）
『ダルクローズピアノ曲集』ジャック＝ダルクローズ作品研究会（カワイ出版）
『はじめてでもわかりやすいーリトミックを活用した授業アイデア小学校音楽ー』井上恵理 酒井美恵子編著（明治図書）

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴（素足が望ましい）で参加すること

ナンバリング	MEL401N		
科目名	専門ゼミ I		
科目詳細	学校教育		
担当教員	布村 育子		
学年	1年,3年	クラス	O6
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

近年の教育時事問題の考察を通して学校教育が抱える諸課題を理解する。授業時に行うディスカッション、集団討論、グループ学習、個人での探求の時間を通して、教育時事問題の学術的な見方・考え方を理解し、教員としての高い倫理観や人権意識を育むことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

○授業内容

各回に教員が教育時事問題を紹介し、ディスカッション等のテーマを提示する。学生は授業時だけではなく、各回のテーマを個人の学習においても考察し、5回・10回・14回の授業時にその結果をミニレポートにまとめる。

○授業計画

1. ガイダンス
2. 生徒指導上の課題①—少年非行・少年犯罪
3. 生徒指導上の課題②—不登校
4. 生徒指導上の課題③—いじめ
5. 第2回～第4回のふりかえり—問題行動とは何か。問題のある子どもとは何か。
6. 近年の教育課題①—虐待
7. 近年の教育課題②—部活動
8. 近年の教育課題③—外国籍の子どもへの指導
9. 近年の教育課題④—校則
10. 第5回～第9回のふりかえり—学校と社会とをつなぐ教育課程とは何か。
11. 教員に関する課題①—教員の不適切な指導
12. 教員に関する課題②—教員の服務
13. 教員に関する課題③—働き方改革
14. 第11回～第13回のふりかえり—日本社会は何を教員に期待しているのか。
15. 授業のまとめと評価

◆準備学習の内容◆

教育に関するニュース等を視聴する。(毎日5分程度)

視聴したニュース等について自らの意見を文章にして整理する習慣を身につける。(毎日30分程度)

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と、5回・10回・14回に提出するミニレポートの内容とを踏まえて総合的に評価する。

ミニレポートについては、Classroomを通してコメントする。代表的な意見については授業内で紹介し、フィードバックを行なう。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業の際に提示する。

◆参考図書◆

各回の授業の際に提示する。

◆留意事項◆

授業時のディスカッションでは、自身の体験談だけではなく、根拠のある情報等をもとに意見を述べられるようにしておくこと。

ナンバリング	MTL407N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-212(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

自分が関心を持つ音楽療法の対象やアプローチについて多元的に理解するための基礎的な事柄を身に着ける。具体的には、①音楽療法士としての自己を探索する②音楽療法の対象となる人々や状況、音楽による関わり等について主体的に調べ、理解を深める③障害児・者やコミュニティの領域を中心とする音楽療法事例の読解を通して、実践と理論の結びつきを理解する。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 音楽療法士としての自己を知る①音楽履歴書の作成
3. 音楽療法士としての自己を知る②音楽履歴書の発表(学生A, B)
4. 音楽療法士としての自己を知る③音楽履歴書の発表(学生C, D)
5. 音楽療法を学ぶ上で興味関心のあるテーマ(研究のたね)について考える
6. 「研究のたね」の発表(学生A, B)
7. 「研究のたね」の発表(学生C, D)
8. ケーススタディの読解①概要の理解
9. ケーススタディの読解②発表(学生A)
10. ケーススタディの読解③発表(学生B)
11. ケーススタディの読解④発表(学生C)
12. ケーススタディの読解⑤発表(学生D)
13. 「研究のたね」の途中経過の報告(学生A, B)
14. 「研究のたね」の途中経過の報告(学生C, D)
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

自分が興味関心を抱く音楽療法のトピックについて、文献・資料・楽譜・映像・フィールドワーク等を通じて調べ、まとめる。音楽および人との関わりの履歴書を作成する。ケースの要約を作成する。(各2時間～)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、課題の遂行状況により評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

未定

◆参考図書◆

『音楽療法ケーススタディ上・下』ケネス・E・ブルシア編(音楽之友社)
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編(岩崎学術出版社)
『コミュニティ音楽療法への招待』スティーゲ&オーロ(風間書房)
ほか、授業内で指示

◆留意事項◆

自己の興味や経験に照らし合わせて発言や議論を行い、主体的に参加することを期待します。

ナンバリング	MTL407N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	5-210(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

心理療法としての音楽療法を学ぶ。音楽と人間のアイデンティティの関係を学ぶとともに、精神科・高齢者・緩和ケア領域における具体的なケースをとらえて、その考え方や方法・技法、セッションの様子などを知る。

◆授業内容・計画◆

学生自身の「音楽履歴書(バイオグラフィ)」を作り、授業内でプレゼンテーションしながら、自らのパーソナリティ形成における音楽の役割を考察する。次に、児童・精神科・高齢者・緩和ケア領域等の症例報告を輪読しながら、ケースを通して音楽療法の具体的な方法や技法、治療プロセス、背景理論、ケースのまとめ方などを学んでいく。(学生の人数により、以下の回数は変動する。)必要に応じて、実技面も指導する。

- (1) イントロダクション
- (2) 学生Aの音楽履歴書
- (3) 学生Bの音楽履歴書
- (4) 学生Cの音楽履歴書
- (5) 学生Dの音楽履歴書
- (6) 学生Eの音楽履歴書
- (7) 音楽療法ケース・スタディ1(認知症高齢者対象)
- (8) 音楽療法ケース・スタディ2(精神障害者対象)
- (9) 音楽療法ケース・スタディ3(発達障害児対象)
- (10) 音楽療法ケース・スタディ4(知的障害者対象)
- (11) 音楽療法ケース・スタディ5(終末期患者対象)
- (12) 音楽療法ケース・スタディ6(リハビリテーション領域)
- (13) 音楽療法ケース・スタディ7(入院患者対象)
- (14) 音楽療法ケース・スタディ8(予防音楽療法領域)
- (15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

自身の音楽履歴書やケース・スタディの要約を作成する。事前事後学習は60分間を目安とする。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと課題の履行により評価。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編(岩崎学術出版社)

◆参考図書◆

『音楽療法ケーススタディ(下)』ケネス・ブルーシア編(音楽之友社)
デッカー＝フォイクト、他(阪上正巳、他訳):音楽療法事典・新訂版、人間と歴史社
国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編:音楽療法の現在、人間と歴史社

◆留意事項◆

授業中の討論に積極的に参加すること

ナンバリング	MML407N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	音楽情報、音楽学／情報・社会(コース)		
担当教員	神部 智		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

専門ゼミⅡで実施する研究発表に向けて、周囲と十分な意思疎通を図りながら、適切な企画構成ができる。

◆授業内容・計画◆

履修者間での意思疎通を深め、問題意識を共有し、研究成果を公表することの意義を考えた上で、研究計画を立て、必要な作業を見極めて役割分担し、準備作業を進めます。

概要は以下の通り:

- 第1回 オリエンテーション(どのように学ぶのか)
- 第2回 テーマ検討1(各自の関心と全体的な方向の検討)
- 第3回 テーマ検討2(第1回予備調査報告)
- 第4回 テーマ検討3(ディスカッション1)
- 第5回 テーマ検討4(第2回予備調査報告)
- 第6回 テーマ検討5(ディスカッション2、テーマの決定)
- 第7回 進行スケジュール決定
- 第8回 作業内容の検討と役割分担
- 第9回 準備作業1(プログラム原案の作成)
- 第10回 準備作業2(キーワードの決定)
- 第11回 準備作業1・2の経過報告とディスカッション
- 第12回 準備作業3(コンセプトの確認)
- 第13回 準備作業4(専門ゼミⅡの進行について)
- 第14回 準備作業3・4の経過報告とディスカッション
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

共同研究の進行スケジュールを妨げないよう責任感を持って、調査・報告・実務作業など役割に応じた準備を進めること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、各種提出物などにより総合的に評価します。

ディスカッションや提出物には随時フィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

1年を通しての共同作業となるので、学生間、担当教員との円滑な意思疎通に常に心を配り、こまめな連絡を怠らないこと。

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	合唱		
担当教員	木島 タロー		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

合唱表現と教育現場での実践的な指導法と編曲法を学ぶ。楽曲の求める表現を的確、迅速に理解し、必要な訓練や課題を割り出す方法を身につける。戦後から平成にかけて主流であった頭声発声のみにとどまらず、ジャンルごとに適切な発声を使用する。芸術音楽、生活音楽をバランスよく学び、生涯学習や青少年教育の指導者としての自分をマネジメントすることを学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. デモンストレーションとディスカッション
2. 楽曲Ⅰ学修
3. 基礎①音程と言語について
4. 基礎② ピッチとニュアンスについて
5. 基礎③ 学習者を惹きつける曲のプレゼンテーション
6. 楽曲Ⅱ学修
7. 楽曲Ⅲについてのディスカッション
8. 模擬指導①楽曲Ⅰ
9. 模擬指導①についてのディスカッション
10. 模擬指導②楽曲Ⅱ
11. 模擬指導②についてのディスカッション
12. アレンジについての学修
13. アレンジ発表とディスカッション第一組
14. アレンジ発表とディスカッション第二組
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

編曲や譜読みなどの宿題がある。また、発声訓練を日々行うことが強く推奨される。以上の合計に、目安として1日に15分以上、週4日程度。

◆成績評価の方法◆

平常の授業、特にその出席率と、学習態度の積極性、提出課題への取り組み状況により評価する。課題については、授業内およびClassroomなどを用いた通信で随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキストについてはその都度案内する。数百円程度の楽譜ピースを使用する可能性がある。

◆参考図書◆

『6色発声トレーニング』木島タロー著(日本音楽レ・クリエーション指導協会)
『歌って生き抜け 命のコラス ～宗教ファジー日本はゴスペルから何を継ぐのか～』木島タロー著(ギャラクシーブックス)

◆留意事項◆

授業内で配布される資料をまとめるためのファイルを持つこと。見開きA3か、A4の資料が中心になる。書き込みができる形でのファイリングを推奨。色ペンの使用も推奨される。
一度配布された楽譜は必ず毎授業に持参すること。
なお、タブレットを使用する学生には、PDFでの配布も可能。スマホでの資料管理は、画面が小さく実用的でないため認めない。
授業内容については、学習の進捗、疾病感染対策の影響、学生の実習による公欠などを鑑み、随時柔軟に調整する。

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	音楽教育研究		
担当教員	鯨井 正子		
学年	3年	クラス	02
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内・外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

専門ゼミⅠでの成果を踏まえ、音楽教育に関わる課題の調査と研究を通して報告文を作成し、発表する。

◆授業内容・計画◆

授業は演習を主とし、以下の計画は進度により前後します。

1. 前期(専門ゼミⅠ)の振り返り、テーマや目的及びスケジュール確認
2. 研究の演習Ⅱ(1)テーマや目的の確定、報告文作成と発表に向けた構成の考案
3. 研究の演習Ⅱ(2)資料の収集と整理
4. 研究の演習Ⅱ(3)資料の整理と調査
5. 研究の演習Ⅱ(4)資料の調査
6. 研究の演習Ⅱ(5)資料の調査と読み解き
7. 研究の演習Ⅱ(6)調査内容の分析や精査
8. 研究の演習Ⅱ(7)調査内容の整理
9. 中間のまとめ、作業確認、考察とディスカッション
10. 研究の演習Ⅱ(8)調査内容のさらなる整理と、報告文作成と発表に向けた構成の確認ないし再考
11. 報告文作成(1)構成の確定
12. 報告文作成(2)執筆、推敲
13. 報告文作成(3)執筆あるいは推敲、発表の準備
14. 発表の準備
15. 発表、専門ゼミⅠとⅡのまとめ、来年度(専門ゼミⅢとⅣ)への展望

◆準備学習の内容◆

- ・教員が示した文献・資料等は予め読み、授業に臨んで下さい。(読む時間は内容や分量によるが、30分から1時間は取り組むこと。)
- ・発表の際はレジュメや資料を作成し、前もって教員に提出して下さい。PC作業にも慣れるよう、積極的にチャレンジしましょう。
- ・各自が音楽教育やその関連領域に対して問題意識や関心を持って取り組むこと。そのためには図書館等を利用し、様々な情報や文献に触れることを心掛けて下さい。

◆成績評価の方法◆

準備学習の内容、ディスカッションなど授業への参加状況、研究報告文や発表内容によって評価します。授業内では適宜、フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

『新版 思考の整理学』外山滋比古(筑摩書房)
『リサーチのはじめかた「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー、クリストファー・レア、安原和見(筑摩書房)
ほかにも適宜、提示します。

◆留意事項◆

- ・専門ゼミⅡは専門ゼミⅠの「研究の演習Ⅰ」を引き継ぎ、テーマや目的に沿った報告文の作成と発表を目指します。内容と作業行程により、グループ作業も検討します。
- ・お互いのレポートや資料を読みディスカッションをすることも、自身の調査、研究、考察に生かして下さい。
- ・卒業後は教える立場になる学生が多く、自らの課題を持って学ぶことも難しくなると思います。このゼミを通して物事を学び思考しまとめる、さらに伝えることを実践して下さい。

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	コミュニティ音楽		
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,3年	クラス	03
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	月 1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

コミュニティと音楽との関わりについての考え方を多角的に知り、音楽がコミュニティにはたす役割を理想的・実践的に考察して、理解する。さまざまなコミュニティの場で展開される音楽のアウトリーチやワークショップ、それにファシリテーションの事例を取り上げ、それらを参考としながら自分たちでワークショップや音楽活動を企画しプレゼンすることで、場の目的にあったより効果的な音楽とコミュニティのあり方について考える。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス： コミュニティと音楽
- 2.コミュニティと音楽との多様な関わり方
- 3.音楽が果たす役割の多様性
- 4.コミュニティ音楽の事例① 音楽家が参加するワークショップやアウトリーチ：国内
- 5.コミュニティ音楽の事例② 音楽家が参加するワークショップやアウトリーチ：海外
- 6.コミュニティ音楽の事例③ 伝統音楽
- 7.コミュニティ音楽の事例④ フェスティバル
- 8.コミュニティ音楽の事例⑤ 公共文化施設のチャレンジ
- 9.ワークショップとファシリテーション①：音楽の新しい提供方法
- 10.ワークショップとファシリテーション②：その方法と効果
- 11.自分たちでつくるワークショップ①：企画立案
- 12.自分たちでつくるワークショップ②：プランニング
- 13.ワークショップ実践①とリフレクション：グループA
- 14.ワークショップ実践②とリフレクション：グループB
- 15まとめ：今後に向けた課題

◆準備学習の内容◆

- ・授業前の準備として文献を紹介することができるので、指定があった場合には必ず読んでおくこと（目安毎回1時間程度）。
- ・授業内容に関連して、事前に調べ学習を課すことがある（目安毎回30分程度）。
- ・後半のワークショップ・プレゼンテーションでは、グループ活動への積極的な参加が望まれる。

◆成績評価の方法◆

毎回のリフレクションシート、授業やディスカッションへの積極的な参加態度、またワークショップの内容から総合的に評価する。レポートや個人／グループ発表については、その都度コメントを記して次につながるように指導する。

◆教科書（使用テキスト）◆

なし。適宜資料を配布する。

◆参考図書◆

各授業テーマに応じて、適宜、授業時に紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	部活動研究		
担当教員	津田 正之		
学年	1年,3年	クラス	O4
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月 1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

識者や部活動現場の観察などから、吹奏楽を中心とした部活動に関する理解深める。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
 2. 文化部活動の地域移行をめぐる検討と現状①－何が問題なのか
 3. 同上②－これまでの音楽系部活動の歩み
 4. 同上③－文化庁での議論とその背景
 5. 同上④－各地域の取組の現状と課題
 6. 部活動現場のフィールドワーク1－中学校現場(吹奏楽)
 7. 部活動現場のフィールドワーク2中学校現場(吹奏楽)
 8. 部活動現場のフィールドワーク3－高等学校現場(吹奏楽)
 9. 課外活動現場のフィールドワーク4－小学校現場(吹奏楽)
 10. 部活動現場のフィールドワーク5－小学校現場(合唱)
 11. 個人またはペア・グループでの研究6－小学校現場(合唱)
 12. 部活動現場のフィールドワーク7－小学校現場(合唱)
 13. 個人またはペア・グループでの研究4－研究発表の準備
 14. 研究発表会1－前半グループ
 15. 研究発表会2－後半グループ ゼミのまとめ
- 1

◆準備学習の内容◆

前時までの学習を踏まえ、本時の学習に向けて必要な課題に取り組む。1週間につき1～2時間程度。発表に向けての取組段階では、3時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業への出席状況や取組状況、レポートや研究発表(適宜、フィードバックして全体で共有)の状況を見て、総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

適宜、必要な資料等を紹介する。

◆留意事項◆

フィールドワークの日時や詳細については、ゼミ学生の時間割や訪問させていただく学校の状況から、学生と相談して決定する。フィールドワークの場合、土曜日に活動する可能性があるのを含んでおくこと。また該当校種や該当校は学生と相談の上、調整する。研究発表は、必要な資料を配布し、プレゼンソフトで使っていく。

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	リトミック・ソルフェージュ		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	05
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

前期に引き続き、ダルクローズの音楽教育法について理論を深めるとともに、実践力を高めていく。即興演奏、即興表現、音楽作品の身体化の力を高める。

◆授業内容・計画◆

- ことば・音楽・動き（夏休みの課題の発表）
- ことば・音楽・動き（夏休みの課題の発表とディスカッション）
- ことば・音楽・動き（グループディスカッション）
- 舞台空間、音楽空間、演劇空間
- 楽譜（図形）を動く
- 動きを楽譜（図形）にする
- 様々な人を対象にしたダルクローズリトミック（子ども）
- 様々な人を対象にしたダルクローズリトミック（高齢者）
- 様々な人々を対象にしたダルクローズリトミック（障がいを持つ人たち）
- 小学校の音楽教材を使った活動（歌唱）
- 小学校の音楽教材を使った活動（器楽表現）
- 中学校の音楽教材を使った活動（創作）
- 中学校の音楽教材を使った活動（鑑賞）
- グループ即興表現（声と動き）
- グループ即興表現（音具と楽器）
- まとめ

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科にリンクさせて考え応用できるようにする。グループワークの課題については、自主的、積極的に準備して授業にのぞむ。（30分～1時間）

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。
課題について授業内でフィードバックする。

◆教科書（使用テキスト）◆

『音楽と人間』エミール・ジャック＝ダルクローズ（開成出版）
『はじめてでもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア 小学校音楽一』井上恵理 酒井美恵子編著（明治図書）

◆参考図書◆

『リズム・音楽・教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ（開成出版）
『リトミックでつくる楽しい音楽授業』井上恵理 酒井恵美子著（明治図書）
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドウレスパーズ著 石丸由理訳（ドレミ出版者）
『ダルクローズ・リトミックの日本への導入』小林恵子（日本ジャック＝ダルクローズ協会）
『体を楽器にした表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著（明治図書）
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン（全音楽譜出版社）
『リトミック研究の現在（いま）』日本ダルクローズ音楽教育学会（開成出版）
『リトミック実践の現在（いま）』日本ダルクローズ音楽教育学会（開成出版）

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴（素足が望ましい）で参加すること

ナンバリング	MEL402N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	学校教育		
担当教員	森 薫		
学年	1年,3年	クラス	06
講義室	6-301～303	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

学校と音楽教育との関わりについての現代的課題を多面的に理解する。また、先行研究の内容や方法について学び、問いの立て方について考える。各自関心のあるテーマを選び、それに関わる先行研究を読んで批判的に検討し、調査を進め、レジュメを作成する。作成したレジュメをもとに発表とディスカッションを行う。あわせて、研究を進めるための基本的なPCスキルを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス：学校と音楽教育の現代的課題
2. 自分の興味・関心をさぐる
3. 学術論文データベースに親しむ
4. 音楽科の学習や児童・生徒に焦点をあてた研究
5. 音楽科の教科書や教材に焦点をあてた研究
6. 音楽科のカリキュラムに焦点をあてた研究
7. 音楽科教師や指導方法に焦点をあてた研究
8. 音楽科と学校行事は課外活動の関わりに焦点をあてた研究
9. 国外の音楽科教育研究で注目されているテーマ
10. 先行研究を批判的に読むということ
11. 質的研究と量的研究
12. 小論文を書いてみよう① テーマを立てよう
13. 小論文を書いてみよう② 先行研究を集めよう
14. 小論文を書いてみよう③ 引用・参照の方法
15. 発表とディスカッション

全回を通じて上記の内容を網羅するよう進める。履修者の理解度や興味・関心に合わせて進行するため、学習順序を変更する場合がある。

◆準備学習の内容◆

- ・できるかぎり、毎回自分のノートPCやタブレット等を持参すること。
- ・授業中の作業や課題作成においては、Word、Excel、PowerPointを使用する。Macの場合は代替のソフトを用いて受講してもらうが、自身でビューアーやソフトを探す必要が生じる場合がある。
- ・授業前の準備として文献を紹介することがあるので、指定があった場合には読んでおくこと。

◆成績評価の方法◆

毎回のリフレクションシート、授業やその中でのディスカッションへの積極的な参加態度、また期末に提出する小論文の内容から総合的に評価する。
リフレクションシートに記された内容は、その次の回の授業の冒頭でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。適宜資料を配布する。

◆参考図書◆

各授業テーマに応じて、適宜、授業時に紹介する。

◆留意事項◆

できるかぎり、毎回自分のノートPCやタブレット等、文章の執筆や資料の閲覧ができるデバイスを持参すること。

ナンバリング	MTL408N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-212(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽療法に関する興味関心を研究へとつなげるための基礎的な方法を、演習を通じて理解する。具体的には、事例や文献の読解、関連文献の収集、自らの音楽療法セッション体験を様々な方法で記述することを通じて、卒業研究へ向けた興味関心の明確化を図る。

◆授業内容・計画◆

毎回、学生が持ち回りで発表し、全員でディスカッションを行う。

1. イントロダクション
2. 音楽療法文献の読解①文献の検索
3. 音楽療法文献の読解②用語を調べる、定義する
4. 音楽療法文献の読解③内容を要約する
5. 音楽療法文献の読解④関連文献を探す、調べる
6. 音楽療法文献の読解⑤障害児・者領域
7. 音楽療法文献の読解③コミュニティ領域
8. 音楽療法文献の読解④質的リサーチ
9. 音楽療法文献の読解⑤量的リサーチ
10. 音楽療法セッションの体験を言葉にする①話す
11. 音楽療法セッションの体験を言葉にする②書く
12. 音楽療法セッションの体験を言葉にする③描く・図にする
13. 音楽療法セッションの体験を言葉にする④図にする
14. 卒業研究テーマの発表
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前準備では、課題に応じた文献や資料を収集し、目を通しておく。文献読解や音楽療法セッションの記述では、課題に主体的に取り組む。文献資料や課題に取り組んだ成果をもとに、プレゼンテーション資料を作成する。(目安:1～2時間/日)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、課題の遂行状況により評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

未定

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

自己の興味や経験に照らし合わせて発言や議論を行い、主体的に参加することを期待します。

ナンバリング	MTL408N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	5-210(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

様々な領域における音楽療法研究論文の分析を通して、音楽療法の方法、理論、研究法、論文の書き方などを学ぶとともに、学生が自らの音楽療法観、あるいは音楽療法理論を模索・形成する。

◆授業内容・計画◆

音楽療法関係の学術雑誌、すなわち『日本音楽療法学会誌』、『音楽療法研究』、『音楽療法』、『音楽療法研究年報』他のなかから学生が研究論文を選択し、要約してプレゼンテーションすることを通して、音楽療法の方法、理論、研究方法、論文の書き方などを学ぶ。次いで、実習での体験や音楽療法講義Ⅰ～Ⅳ・専門ゼミⅠの理解をも踏まえながら、自らの音楽療法観を模索・形成する。つまり、各人が順に自らの音楽療法観・音楽療法理論をプレゼンテーションし、それをもとにクラス全員でディスカッションする(学生の人数によってそれぞれの課題の回数は変わってくる)。必要に応じて、実技面も指導する。

- (1)オリエンテーション
- (2)音楽療法研究論文(高齢者領域)
- (3)音楽療法研究論文(精神科領域)
- (4)音楽療法研究論文(緩和ケア領域)
- (5)音楽療法研究論文(一般医療領域)
- (6)音楽療法研究論文(理論研究)
- (7)音楽療法研究論文(歴史研究)
- (8)音楽療法研究論文(量的研究)
- (9)音楽療法研究論文(質的研究)
- (10)学生Aの音楽療法観
- (11)学生Bの音楽療法観
- (12)学生Cの音楽療法観
- (13)学生Dの音楽療法観
- (14)学生Eの音楽療法観
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中に示す課題(研究論文の要約と自身の音楽療法観のレジュメ)を準備する。事前事後学習は60分間を目安とする。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと課題の履行により評価。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編(岩崎学術出版社)

◆参考図書◆

『音楽療法 理論と背景』エヴァン・ルード著、村井靖児訳(ユリス・出版部)
『音楽療法を定義する』ケネス・ブルーシア著、生野里花訳(東海大学出版会)
『即興音楽療法の諸理論 上』ケネス・ブルーシア(林庸二監訳)(人間と歴史社)
『音楽療法事典・新訂版』デッカー＝フォイクト他編、阪上正巳、他訳(人間と歴史社)
『音楽療法の現在』国立音楽大学音楽研究所音楽療法研究部門編(人間と歴史社)
『音楽療法と精神医学』阪上正巳(人間と歴史社)

◆留意事項◆

活発なディスカッションを期待する

ナンバリング	MML408N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	音楽情報・音楽学／情報・社会(コース)		
担当教員	神部 智		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

専門ゼミⅡにおいて決定した計画案に沿って十分な準備を重ね、適切な手法に基づいた研究発表会を開催できる。発表の成果を総括し、文章にまとめることができる。

◆授業内容・計画◆

11月後半ないし12月前半に想定される研究発表会に向けて、研究冊子の作成・図書館展示・図書館広報誌『ぱるらんど』への寄稿などを準備・実施してゆきます。

発表会の具体的な準備は、担当毎に進められますが、授業履習者以外の協力者を共同作業ですので、担当を超えた情報共有や全体の進行状況の把握が不可欠です。そのため、授業は各担当からの報告とそれを受けてのディスカッションが中心になります。

発表会の当日やリハーサルを含め、授業以外の時間にも作業が必要となる場合があります。

授業の概要は以下の通り：

第1回 オリエンテーション(専門ゼミⅡでの決定事項の確認)

第2回 研究発表会の準備1(グループAの発表)

第3回 研究発表会の準備1(グループBの発表)

第4回 研究発表会の準備1(グループCの発表)

第5回 全体計画の調整

第6回 必要機材などについて検討

第7回 機材手配、広報計画

第8回 冊子の執筆分担決定

第9回 原稿執筆と経過報告

第10回 原稿読み合せ、研究冊子と進行台本作成

第11回 進行状況の確認と最終作業

第12回 研究発表会

第13回 反省会

第14回 記録のまとめとレポート作成

第15回 総括

◆準備学習の内容◆

共同研究の進行スケジュールを妨げないよう責任感を持って調査や実務作業など役割に応じた準備を進め、その経過や具体的な成果を授業内で報告できるよう準備すること。

◆成績評価の方法◆

平常点、研究発表会等への貢献度、レポートなどを総合的に評価します。

ディスカッションには必要に応じてコメントを加えてゆきます。

◆教科書(使用テキスト)◆

テーマに沿って授業内で指示します。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

- ・協調性を念頭に責任ある行動をすること。
- ・計画的かつ時間に余裕を持った進行を心懸けること。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	合唱		
担当教員	木島 タロー		
学年	4年	クラス	O1
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	金 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

合唱もしくは合唱指導に関するテーマについて研究し、卒業論文または卒業作品を制作すること。伴奏しながら指導する力と教育用の合唱のアレンジ力を身につける。

◆授業内容・計画◆

合唱指導の実践方法を学ぶ。

- 第1週目 楽曲のプレゼンテーション①自由曲
- 第2週目 指導法ディスカッション①課題の割り出し
- 第3週目 音程指導の基礎
- 第4週目 発声指導の基礎
- 第5週目 実践的な指揮法
- 第6週目 英語楽曲の学習①課題曲前半
- 第7週目 英語楽曲の学習①課題曲後半
- 第8週目 楽曲のプレゼンテーション②指定曲
- 第9週目 指導法ディスカッション②対象年齢別の課題
- 第10週目 教材選択の基礎
- 第11週目 実践的な伴奏法
- 第12週目 楽曲のプレゼンテーション③実習課題
- 第13週目 指導法ディスカッション③魅力的な授業の作り方
- 第14週目 アンサンブル実習①テンポの速い曲
- 第15週目 アンサンブル実習②ポピュラー音楽

◆準備学習の内容◆

編曲や譜読みなどの宿題がある。また、発声訓練を日々行うことが強く推奨される。以上の合計に、目安として1日に15分以上、週4日程度。また、発声訓練を日々行うことが強く推奨される。以上の合計に、目安として1日に20分以上。

◆成績評価の方法◆

出席率、プレゼンテーションする楽曲の事前学習度合い、毎曲の暗譜の度合い、提出課題による効果測定、模擬授業の積極性をもって評価する。
課題については、授業内およびClassroomなどを用いた通信で随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキストについてはその都度案内する。数百円程度の楽譜ピースを使用する可能性がある。

◆参考図書◆

『歌って生き抜け 命のコーラス ～宗教ファジー日本はゴスペルから何を継ぐのか～』木島タロー著(ギャラクシーブックス)

◆留意事項◆

授業内で配布される資料をまとめるためのファイルを持つこと。見開きA3か、A4の資料が中心になる。書き込みができる形でのファイリングを推奨。色ペンの使用も推奨される。なお、タブレットを使用する学生には、PDFでの配布も可能。スマホでの資料管理は、画面が小さく実用的でないため認めない。
一度配布された楽譜は毎回の授業に持参すること。
授業内容については、学習の進捗、疾病感染対策の影響、学生の実習による公欠などを鑑み、随時柔軟に調整する。
原則として不織布マスクを着用のこと(この授業のための替えを持つことが望ましい)。ただしコーラス専用とされる市販のマスクの着用は奨励する。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	音楽教育研究		
担当教員	鯨井 正子		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

これまでの音楽活動や経験・体験をもとに、卒業研究のテーマ、目的、課題を明確にする。さらに、必要な文献を読み、資料を調べ、研究計画を立てる。

◆授業内容・計画◆

専門ゼミⅢは専門ゼミⅣの準備と位置付け、先行研究や関連文献を読み解き、資料の調査を行います。授業は演習を主とし、以下の計画は進度により前後します。

1. オリエンテーション: 授業内容の説明、卒業研究提出までのスケジュールの作成
2. 研究テーマ、目的の検討(1) 関心や問題点の整理
3. 研究テーマ、目的の検討(2) 先行研究や文献の検討
4. 研究テーマ、目的の検討(3) 資料選定
5. 研究テーマ、目的の確定
6. 研究経過報告(1) 文献や資料の読み解き(学生Aグループ)
7. 研究経過報告(2) 文献や資料の読み解き(学生Bグループ)
8. 研究経過報告(3) 文献や資料の読み解き((1)、(2)の修正と補完)
9. 中間のまとめ: ここまでの研究の振り返りとディスカッション
10. 研究経過報告(4) 文献や資料の整理(学生Aグループ)
11. 研究経過報告(5) 文献や資料の整理(学生Bグループ)
12. 研究経過報告(6) 文献や資料の整理((4)(5)の修正と補完)
13. 卒業研究の構成の検討(1) 研究テーマ、目的、課題、参考文献の確認
14. 卒業研究の構成の検討(2) タイトル、目次、研究計画の検討
15. まとめ、及び夏休みと後期(専門ゼミⅣ)への課題の提示

◆準備学習の内容◆

1. 課題に出されたテキストや教員が示した文献・資料等は予め読み、授業に臨むこと。(準備時間: 1～2時間)
 2. 発表の際はレジュメや資料を作成し、前もって教員に提出する。PC作業にも積極的にチャレンジし、慣れること。(準備時間: 2～3時間)
- ・準備時間は目安として、各人の課題やスケジュールにより必要な時間を確保して下さい。
- ・各人が音楽教育やその関連領域に対して問題意識や関心を持って取り組むこと、そのためにも図書館等を利用するなど、日頃から様々な情報や文献に触れることを心掛けて下さい。

◆成績評価の方法◆

準備学習、レポート、個人の報告や発表のそれぞれの内容についてフィードバックします。また、ディスカッションなども含め、授業への参加状況も評価対象とします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

受講生の関心や授業から生まれたトピックに合わせ、適宜、提示します。

◆留意事項◆

- ・専門ゼミⅢと専門ゼミⅣを通して卒業研究に取り組み、論文あるいは報告文を書き上げます。
- ・自身の研究計画は4年生のスケジュールと照らし合わせて立てること。ゼミでの報告も余裕を持って準備して下さい。
- ・お互いのレポートや資料を読みディスカッションをすることも、自身の調査、研究、考察に活かして下さい。
- ・卒業後は教える立場になる学生も多く、自らの課題を持って学ぶことが難しくなると思います。このゼミを通して物事を学び思考しまとめる、さらに伝えることを実践して下さい。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	コミュニティ音楽		
担当教員	津田 正之		
学年	1年,4年	クラス	03
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽の理論と実践についての理解を深める。(2)音楽教育とコミュニティ音楽活動の接点について探求する。(3)地域の伝統芸能や諸民族のコミュニティ音楽活動について理解を深める。(4)研究課題について明確な目的を持つ。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション・授業内容と課題の確認
2. 音楽教育とコミュニティ音楽
3. 地域の音楽(伝統音楽)とコミュニティ音楽
4. 諸民族の音楽とコミュニティ
5. コミュニティ音楽研究について
6. 卒業研究のテーマ別ディスカッション(1):例)子どものためのコミュニティ音楽活動
7. 卒業研究のテーマ別ディスカッション(2):例)特別なニーズを持つ人々のためのコミュニティ音楽
8. 卒業研究のテーマ別ディスカッション(3):例)高齢者のためのコミュニティ音楽
9. 卒業研究のテーマ別ディスカッション(4):例)その他のコミュニティ音楽
10. 卒業研究のテーマについて
11. 研究の動機と目的について
12. 研究方法について
13. 図書館、その他の機関における調査方法について
14. 先行研究について
15. まとめと今後の課題

◆準備学習の内容◆

各自、各グループの研究課題に則って、文献や関連資料を収集・整理しておくこと。コンピュータを使いこなせるように(ワード、パワーポイント、エクセル、インターネットでの調査等)しておくこと。課題発表に関しては、個人、グループの場合共にしっかりと準備をして臨むこと。(1時間以上)

◆成績評価の方法◆

課題研究への取組とレポートについて随時フィードバックし、これらの内容と成果により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に無し

◆参考図書◆

随時、紹介する。

- ・熊木真見子『子どものコミュニケーション力を高める！音楽あそびベスト40』明治図書。
- ・赤羽・深見『たのしい楽器あそびと合奏の本【伴奏CD付き】』ヤマハミュージック。

◆留意事項◆

各自の得意とする音楽分野や専門性を踏まえた上でワーキンググループをつくり、お互いの研究課題に共通性を持たせながら協同して探求していくこと。個人あるいはグループで、コミュニティ音楽活動のボランティアを行ったり、地域のコミュニティ音楽活動の参与観察を行うなどして、そこで明らかになった実践的な課題を卒業研究に活かしていくことを望む。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	吹奏楽指導者		
担当教員	内田 有一		
学年	1年,4年	クラス	04
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

吹奏楽部の地域移行に関するテーマについて研究し、卒業論文を執筆することができる。

◆授業内容・計画◆

3年次における研究および口述発表を継続して行う。研究をより専門的に深め、最終的には後期の論文にまとめる。

- 第1週目 3年次における研究発表をする確認する
- 第2週目 部活動の地域移行の背景と現状
- 第3週目 部活動(吹奏楽、合唱)の指導上の問題点

- 第4週目 生涯学習における吹奏楽活動の在り方
- 第5週目 J.マーセルから見る音楽的成長と人間的成長
- 第6週目 地域移行先進地域の情報収集及び文科省における審議の考察
- 第7週目 地域移行における課題の整理①地域移行において解決すべき課題を把握する。
- 第8週目 地域移行における課題の整理②特別活動の教育機能をどのように移行に反映するか。
- 第9週目 地域移行における課題の整理③音楽活動の地域展開とは何か。
- 第10週目 地域移行における課題の整理④指導人材をどのように育成し、確保するのか。
- 第11週目 エル・システマの検討
- 第12週目 個人の研究テーマに関する検討
- 第13週目 音楽心理学(感情心理学)における音楽する喜びの考察
- 第14週目 日本とオランダにおける吹奏楽の教育機能の比較
- 第15週目 振り返りとⅣに向けての課題設定

◆準備学習の内容◆

各自のテーマについて文献や楽譜や音源、映像を使って学修を深めること。準備に要する時間は各自の研究内容による。目安:1週間につき2時間程度。仕上げの段階では、毎日1時間程度。

◆成績評価の方法◆

提出論文の作成過程でフィードバックするとともに、研究成果により成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

J.I.マーセル著「音楽教育と人間形成」「音楽的成長のための教育」
 日本吹奏楽史
 吹奏楽指導講座
 ベーシックバンドレパートリー
 タイムアンドウインズ
 新版吹奏楽講座1 木管楽器
 新版吹奏楽講座2 金管楽器
 新版吹奏楽講座3 打楽器、マーチングバンド
 新版吹奏楽講座7 吹奏楽の編成と歴史
 オーケストラ楽器 おもしろ雑学事典

◆留意事項◆

各自の研究テーマは前期から準備すること。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	リトミック・ソルフェージュ		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,4年	クラス	05
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)ダルクローズの音楽教育理論について理解を深める。(2)リトミック教育の理論と実践の関連について理解する。(3)音楽と身体の動きを関連させた芸術や教育に関連することがらについて理解を深める。(4)自らの経験・体験と、教科書や資料・情報から読み取ることのできる内容を理論的に関連付けて、自分の研究課題と研究テーマを決定する。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:授業の内容説明とスケジュール
2. 卒業研究の方法と手順
3. 卒業研究の課題設定
4. リトミックの実践に関する課題 ー模擬授業(拍子)ー
5. リトミックの実践に関する課題 ー模擬授業(音程)ー
6. リトミックの実践に関する課題 ー模擬授業(ハーモニー)ー
7. ダルクローズについて学ぶ 歴史研究 (時代の背景)
8. ダルクローズについて学ぶ 作品研究 (歌曲)
9. ダルクローズについて学ぶ 作品研究 (ピアノ曲)
10. ダルクローズについて学ぶ 作品研究 (器楽曲)
11. 文献購読 『リズム・音楽・教育』から
12. 文献購読 『音楽と人間』から
13. 各国のダルクローズ音楽教育の現状の資料収集
14. 卒業研究の経過報告と今後への課題
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

過去3年間の間に学んできた音楽教育に関する知識・理解、ならびに術科で培ってきた技能を再度確認し、卒業研究の課題に取り組む際にどのように応用していけるか自ら考えておく。コンピュータの基本的操作方法を身に付けておく。
毎時取り上げる文献を事前に講読しておくこと(1時間以上)。

◆成績評価の方法◆

随時課題を出す。研究課題の取り組み及び平常時の取り組みにより総合的に評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『リズム・音楽・教育』 エミール・ジャック＝ダルクローズ著(全音楽譜出版社)
『音楽と人間』 エミール・ジャック＝ダルクローズ著(開成出版)
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドウレスパー著(ドレミ楽譜出版社)
『リズム・インサイド』ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア著(ふくろう出版)
『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ヴァージニア・ホッジ・ミード著(ふくろう出版)
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン他著(全音楽譜出版社)
『“体を楽器”にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著(明治図書)
『はじめてでもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア小学校音楽ー』井上恵理 酒井美恵子編著(明治図書)
『ジャック＝ダルクローズピアノ作品集』ジャック＝ダルクローズ作品研究会編(カワイ出版)

◆留意事項◆

1年で卒業研究をまとめるためには、受講前から研究課題やテーマについて熟考していることが必須である。自分なりの研究テーマを持って授業に臨むこと。

ナンバリング	MEL403N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	学校教育		
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,4年	クラス	06
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽を教えることに関わるテーマについて、個々のテーマに基づいて調査、研究を進め、卒業研究の準備を行う。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス:音楽教育研究とは
- 2.先行研究論文の検索方法
- 3.先行研究論文を読む
- 4.先行研究論文を批判的に検討する
- 5.研究テーマの検討
- 6.研究テーマの決定
- 7.論文執筆の方法
- 8.論文執筆の実践
- 9.論文執筆に向けてとディスカッション① 学生発表A
- 10.論文執筆に向けてとディスカッション② 学生発表B
- 11.論文執筆に向けてとディスカッション③ 学生発表C
- 12.論文執筆に向けてとディスカッション④ 学生発表D
- 13.論文発表に向けてとディスカッション⑤ 学生発表E
- 14.これまでの発表に基づいたリフレクション
- 15まとめ:今後の課題設定の提示

◆準備学習の内容◆

先行研究の収集や論文の精読など、自分の研究テーマや論文の執筆に関わるのでしっかり取り組むこと。また発表担当者はその他、資料の作成をきちんと準備すること(毎週の平均準備学習の時間は1時間前後である)。

◆成績評価の方法◆

毎回のリフレクションシート、発表の内容やディスカッションへの積極的な参加態度から総合的に評価する。レポートや個人／グループ発表については、その都度コメントを記して次につながるように指導する。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。適宜資料を配布する。

◆参考図書◆

研究のテーマに応じて、適宜、提示する。

◆留意事項◆

専門ゼミⅢとⅣを通して研究を進め論文を書き上げます。論文の執筆は執筆にも推敲にも体裁を整えるのにも時間がかかるもの。余裕を持って調査執筆を進めること

ナンバリング	MTL409N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-210(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

専門ゼミⅢ、Ⅳでは、これまでに学んだ音楽療法の多様な方法、理論、実践の理解に基づきながら、グループ討論、および個別指導を通して、各人の選んだテーマについて、卒業論文を作成する。専門ゼミⅢでは、学生各自が論文テーマを設定し、論文素描を作成した上で、参考文献や資料を検索・収集し、調査を進め、授業で発表・討論しながら論文の構想を練る。

◆授業内容・計画◆

次のスケジュールにしたがって論文の構想を形づくる。クラスメートの学生のプレゼンテーション時にも議論に積極的に参加し、自己の創作に活かす。

- (1)オリエンテーション
- (2)論文の書き方
- (3)論文テーマの設定1(提示と討論、Aグループ)
- (4)論文テーマの設定2(提示と討論、Bグループ)
- (5)論文素描(Aグループ)
- (6)論文素描(Bグループ)
- (7)文献収集法
- (8)論文第1回論文構成発表(学生A)
- (9)論文第1回論文構成発表(学生B)
- (10)論文第1回論文構成発表(学生C)
- (11)論文第1回論文構成発表(学生D)
- (12)論文第1回論文構成発表(学生E)
- (13)ビブリオグラフィー(Aグループ)
- (14)ビブリオグラフィー(Bグループ)
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

各自のテーマに基づき卒業論文作成に向かう(テーマ設定、文献・資料収集、調査実施、構想作成など)(目安:2時間/日)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および課題の達成により評価する。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する

◆参考図書◆

授業内でその都度提示する

◆留意事項◆

活発なディスカッションを期待する

ナンバリング	MTL409N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	5-212(研究室)	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

グループ討論および個別指導を通して、卒業論文を作成する。具体的には、各自の興味関心に基づいて研究テーマを設定し、資料の収集と読解を行い、論文構想を練る。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション
- 2.現場での実践体験をもとにした論文作成における基本的事項
- 3.研究テーマの探索
- 4.研究テーマに関する資料収集
- 5.研究テーマの設定
- 6.研究倫理について
- 7.先行研究の検索、文献リスト作成
- 8.先行研究の読解
- 9.論文構想の発表①学生A
- 10.論文構想の発表②学生B
- 11.論文構想の発表③学生C
- 12.文献表の作成
- 13.章立ての構想
- 14.卒業研究の中間発表
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

各自のテーマに基づき、論文作成に取り組む(テーマ設定、文献・資料収集と読解、調査、構想作成など)。(目安:2時間/日)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および課題の遂行状況により評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

◆参考図書◆

個々の学生に応じて必要なものを提示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MML409N		
科目名	専門ゼミⅢ		
科目詳細	(コース含む)音楽情報系クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や		

◆授業目標◆

これまでの研究や音楽活動をもとに、後期に論文または卒業制作を提出できるよう、目標を明確に設定し、計画を具体的に立て、準備を行う。

◆授業内容・計画◆

○概要

後期末に提出する「卒業研究」の成果の形態には、大きく分けて「論文」と「卒業制作」の二種類が想定される。「論文」は、通常の学術論文なので、指導教員の指導に従って計画・執筆を進める。「卒業制作」は、論文のみならず、作品、演奏などの形態もあり得る。内容次第では、各種の演奏実践などを中心とした課題も認める。複数の専門分野における経験を生かした独創的な研究や、充実した音楽実践に結びつくような計画立案・実施などにも期待したい。ただし、作品や演奏を中心とする場合であっても、音楽研究の分野に貢献しうる内容を持つ必要があり、また、何らかの形の提出物を研究報告と合わせて提出しなければならない。なお、具体的にどのような課題が許容されるかについては随時、指導する。受講者は、それぞれの関心領域において適切な研究テーマを選択し、参考文献の調査や基礎的な文献の講読を行う。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの選定(1)主題を考える
- 第3回 研究テーマの選定(2)副題を考える
- 第4回 資料調査の方法
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 個人発表(1)学生Aによる発表
- 第7回 個人発表(2)学生Bによる発表
- 第8回 個人発表(3)学生Cによる発表
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 個人発表(4)学生Dによる発表
- 第11回 個人発表(5)学生Eによる発表
- 第12回 個人発表(6)学生Fによる発表
- 第13回 総括ディスカッション(1)学生Aをリーダーとして
- 第14回 総括ディスカッション(2)学生Bをリーダーとして
- 第15回 まとめ:レポート作成に向けて

◆準備学習の内容◆

音楽情報研究法における個人発表、また学期末のレポート提出に向けて、日々準備を進める。期末レポートは、一般的なレポートの分量としては多いように感じられるかも知れないが、段階的に積み重ねれば、それを総合したものとして十分に達成可能である。

◆成績評価の方法◆

音楽情報研究法における発表の内容、課題への取り組みの姿勢、学期末までの成果物(論文を構成する文章)。なお、授業内で提出された成果物はそのつどコメントを付けてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

充実した個人発表を積み重ねることが、稔り豊かな成果に結びつく。ひとつひとつの個人発表に向けて、しっかりとした準備をすること。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	合唱		
担当教員	木島 タロー		
学年	4年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	金 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

合唱もしくは合唱指導に関するテーマについて研究し、卒業論文または卒業作品を制作すること。伴奏しながら指導する能力と教育用の合唱のアレンジ能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1週目 アレンジの基礎
第2週目 自作アレンジの発表と指導①基礎
第3週目 自作アレンジの発表と指導②応用
第4週目 卒業作品および論文テーマディスカッション
第5週目 演奏と指導の実践①日本語の楽曲
第6週目 演奏と指導の実践②外国語の楽曲
第7週目 作品発表①シンプルな楽曲
第8週目 作品発表②複雑な楽曲
第9週目 指導法についてのディスカッション
第10週目 教材プレゼンテーションについてのディスカッション
第11週目 作品/論文指導①中学生指導対象
第12週目 作品/論文指導①高校生指導対象
第13週目 作品/論文指導①生涯学習指導対象
第14週目 アンサンブル実習①詳細な指導
第15週目 アンサンブル実習②授業内発表

◆準備学習の内容◆

作・編曲を行うために楽譜作成ソフトの使用について事前に可能な状態にしておくとともに、授業後に作編曲や各自のテーマに応じた論文作成を進める。準備に要する時間は各自の研究内容による。目安:1週間につき2時間程度。仕上げの段階では、毎日1時間程度。

◆成績評価の方法◆

提出論文の作成過程でフィードバックするとともに、研究成果により成績評価する。
課題については、授業内およびClassroomなどを用いた通信で随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用テキストについてはその都度案内する。数百円程度の楽譜ピースを使用する可能性がある。

◆参考図書◆

『歌って生き抜け 命のコーラス ～宗教ファジー日本はゴスペルから何を継ぐのか～』木島タロー著(ギャラクシーブックス)

◆留意事項◆

授業内で配布される資料をまとめるためのファイルを持つこと。見開きA3か、A4の資料が中心になる。書き込みができる形でのファイリングを推奨。色ペンの使用も推奨される。なお、タブレットを使用する学生には、PDFでの配布も可能。スマホでの資料管理は、画面が小さく実用的でないため認めない。
授業内容については、学習の進捗、疾病感染対策の影響、学生の実習による公欠などを鑑み、随時柔軟に調整する。
原則として不織布マスクを着用のこと(この授業のための替えを持つことが望ましい)。ただしコーラス専用とされる市販のマスクの着用は奨励する。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	音楽教育研究		
担当教員	鯨井 正子		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内・外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

専門ゼミⅢでの学びを踏まえ、卒業研究を論文ないし報告文として完成させ、発表する。

◆授業内容・計画◆

専門ゼミⅣは専門ゼミⅢの内容を引き継ぎ、卒業研究論文ないし卒業研究報告文の執筆と発表を行います。授業は演習を主とし、以下の計画は進度により前後します。

1. オリエンテーション: 前期(専門ゼミⅢ)の振り返り、夏休みの成果報告、スケジュール確認、今後の目標設定
2. 研究テーマ、目的、課題、タイトル、目次、研究方法、研究対象や資料、参考文献等の提出と確認
3. 経過報告と執筆の要点(1)学生Aグループの報告、目的に合った内容の一貫性について
4. 経過報告と執筆の要点(2)学生Bグループの報告、文章の推敲について
5. 経過報告と執筆の要点(3)学生Cグループの報告、書式について
6. 経過報告と執筆の要点(4)学生Aグループの報告、表や資料の作成について
7. 経過報告と執筆の要点(5)学生Bグループの報告、考察の提示
8. 経過報告と執筆の要点(6)学生Cグループの報告、結論の明示とさらなる課題の提案
9. 中間のまとめ: ここまでの研究の振り返りとディスカッション
10. 経過報告と執筆の要点(7)学生Aグループの報告、中間のまとめを生かした内容の見直し
11. 経過報告と執筆の要点(8)学生Bグループの報告、仕上げに向けた書式の確認
12. 経過報告と執筆の要点(9)学生Cグループの報告、仕上げに向けての推敲
13. 経過報告と執筆の要点(10)論文あるいは報告文の仕上げとレジュメの準備
14. レジュメ完成、及び研究発表会の準備(1)発表原稿と資料の作成について
15. 研究発表会の準備(2)とゼミのまとめ

◆準備学習の内容◆

1. 発表者は原稿や資料を作成し、前もって教員に提出すること。(必要時間: 2～3時間)
 2. 互いの原稿や資料は授業後にも必ず振り返り、自身の研究や原稿および資料作りに生かすこと。(必要時間: 1時間)
- 必要時間は目安とし、原稿執筆とそのための研究調査に要する時間は各人の研究段階とスケジュールに応じて確保して下さい。

◆成績評価の方法◆

準備学習の様子とその内容、ディスカッションも含めた授業への参加状況、卒業研究論文・報告文および発表内容から評価します。記述や発表の内容は、授業内で適宜、フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜、提示します。

◆留意事項◆

- ・自身の研究計画は4年生のスケジュールと照らし合わせて立てること。ゼミでの経過報告や執筆後の発表も余裕を持って準備して下さい。
- ・お互いのレポートや資料を読みディスカッションをすることも、自身の調査、研究、考察に活かして下さい。
- ・卒業後は教える立場になる学生も多く、自らの課題を持って学ぶことが難しくなると思います。このゼミを通して物事を学び思考しまとめる、さらにそれを伝えることを実践して下さい。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	コミュニティ音楽		
担当教員	津田 正之		
学年	1年,4年	クラス	03
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽の理論と実践の基づいた研究法に関する理解を深める。(2)コミュニティ音楽とは何か、という問いに自分なりの答えを出す。(3)コミュニティ音楽の多様性について理解する。(4)卒業研究を完成させる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション・卒業研究完成にむけてのスケジュール等の確認
2. 卒業研究の構成について
3. 引用文献と文献整理、観察記録のまとめ方等について
4. 卒業研究に関する発表とディスカッション(1):例)子どものためのコミュニティ音楽
5. 卒業研究に関する発表とディスカッション(2):例)特別なニーズを持つ人々のためのコミュニティ音楽
6. 卒業研究に関する発表とディスカッション(3):例)高齢者のためのコミュニティ音楽
7. 卒業研究に関する発表とディスカッション(4):例)地域のコミュニティ音楽活動
8. 卒業研究に関する発表とディスカッション(5):例)コミュニティのイベントとしての音楽活動
9. 卒業研究に関する発表とディスカッション(6):例)諸民族のコミュニティ音楽
10. 卒業研究に関する質疑応答(1):文章のまとめ方について
11. 卒業研究に関する質疑応答(2):全体のまとめ方について
12. 卒業研究の完成にむけて(1):諸事項の確認
13. 卒業研究の完成にむけて(2):資料・追記・図・写真等の確認
14. クラス内発表会
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に則って、先行研究や関連領域の資料、インタビューや観察記録などを収集・整理しておくこと。コンピュータを常に様々な面から使いこなせるように準備しておくこと(毎週2時間以上)。卒業研究の進行に伴う作業や課題発表のための準備は、遅れないように早め早めに行い、余裕をもって授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

卒業研究に向けての取組について随時フィードバックし、これらの取組と成果により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

◆参考図書◆

随時、紹介する。

◆留意事項◆

期日内に卒業研究を完成させ、充実した卒業研究発表会を遂行することができるよう、計画性をもって授業に臨むこと。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	吹奏楽指導者		
担当教員	内田 有一		
学年	1年,4年	クラス	O4
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

吹奏楽部の地域移行や指導方法についてさまざまな角度から自由研究を行う。前期に引き続き研究論文を作成し研究発表をする。

◆授業内容・計画◆

各自のテーマの準備と個人対応

- 第1週目 課題からテーマの策定
- 第2週目 研究テーマの検討
- 第3週目 研究計画書の作成
- 第4週目 研究計画の確定
- 第5週目 情報処理と考察
- 第6週目 論文の書き方と柱立て
- 第7週目 論文作成①データの整理と分析
- 第8週目 論文作成②分析に基づく考察
- 第9週目 論文作成③問題の所在から結論までの一貫性確認
- 第10週目 論文作成④体裁、引用の確認
- 第11週目 ゼミ内中間発表
- 第12週目 中間発表を通じた修正
- 第13週目 論文完成
- 第14週目 研究発表の準備
- 第15週目 研究発表リハーサル

◆準備学習の内容◆

授業内に各自のテーマで授業内で教員との対話をしながら論文作成を進める。準備に要する時間は各自の研究内容による。目安:1週間につき2時間程度。授業後は、毎日1時間程度作成を行う。

◆成績評価の方法◆

提出論文の作成過程でフィードバックするとともに、研究成果により成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

J.L.マーセル「音楽的成長のための教育」「音楽教育と人間形成」
 新山王政和「吹奏楽を科学する」
 日本吹奏楽史
 吹奏楽指導講座
 ベーシック バンド レパートリー
 タイム アンド ウィンズ
 新版吹奏楽講座1 木管楽器
 新版吹奏楽講座2 金管楽器
 新版吹奏楽講座3 打楽器、マーチングバンド
 新版吹奏楽講座7 吹奏楽の編成と歴史
 オーケストラ楽器 おもしろ雑学事典

◆留意事項◆

研究発表は論文であるため、準備は前期から行なう。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	リトミック・ソルフェージュ		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,4年	クラス	05
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

(1)ダルクローズ音楽教育法の理論的基盤を理解する。(2)リトミックの理論と実践について自分の考えを持つ。(3)リトミックの関連領域を理解する。(4)卒業研究を完成させる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション:卒業研究について、スケジュールの確認
2. 卒業研究課題に関する発表とディスカッション (1) テーマ
3. 卒業研究課題に関する発表とディスカッション (2) 構成
4. 卒業研究課題に関する発表とディスカッション (3) 文献
5. 舞台発表にむけてのディスカッション (演出について)
6. 舞台発表にむけてのディスカッション (照明について)
7. 模擬授業(1) 幼児を対象にした活動
8. 模擬授業(2) 小学生を対象にした活動
9. 模擬授業(3) 高齢者を対象にした活動
10. 卒業研究の完成にむけて(1):内容について
11. 卒業研究の完成に向けて(2):諸事項の確認
12. 卒業研究の完成に向けて(3):資料・追記について
13. 卒業研究の完成
14. クラス内研究発表会
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

個々の研究テーマにそってPCで文章を書き溜めておくこと。クラスでディスカッションをして 考察を深めていく。必要に応じてアンケートやインタビューなども行う。
毎回の授業の準備に1時間～2時間の取り組みが必要。卒業研究の取り組みは、個々の必要に応じて毎週2時間以上の取り組みが必要。

◆成績評価の方法◆

卒業研究課題への取り組みと、研究の成果により評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『音楽と人間』 エミール・ジャック＝ダルクローズ著(開成出版)
『定本オリジナル版 リズム・音楽・教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著(開成出版)
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドゥレスパー著(ドレミ楽譜出版社)
『リズム・インサイド』ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア著(ふくろう出版)
『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ヴァージニア・ホッジ・ミード著(ふくろう出版)
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン他著(全音楽譜出版社)
『“体を楽器”にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著(明治図書)

『ダルクローズピアノ曲集』 ジャック＝ダルクローズ作品研究会監修 (カワイ出版)

『はじめてもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア』井上恵理 酒井美恵子編著(明治図書)

◆留意事項◆

自分の研究課題の特質に合わせて準備を万全に整え、ゆとりをもって卒業研究を執筆すること。

ナンバリング	MEL404N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	学校教育		
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,4年	クラス	06
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

音楽を教えることに関わるテーマについて、個々のテーマに基づいて調査、研究を進め、卒業研究を完成させる。

◆授業内容・計画◆

1.ガイダンス:卒業研究完成に向けて
2.卒業研究の構成
3.卒業研究の検討(題目と章立ての検討)
4.卒業研究の検討:学生発表A
5.卒業研究の検討:学生発表B
6.卒業研究の検討:学生発表C
7.卒業研究の検討:学生発表D
8.卒業研究の検討:学生発表E
9.卒業研究の執筆:第1章第1節
10.卒業研究の執筆:第1章第2節
11.卒業研究の執筆:第2章第1節
12.卒業研究の執筆:第2章第2節
13.卒業研究の執筆:第3章
14.卒業研究の執筆:まとめ
15まとめ:卒業研究の概要作成
4～8回は、各自のテーマについて卒業研究の一部をまとめ発表し、それをもとに全員で検討する。9～14回は、原則として、個人指導とし、執筆した原稿の添削指導とする。

◆準備学習の内容◆

卒業研究の完成に向けて、執筆を進めること。毎週の平均準備時間の目安は2～3時間。

◆成績評価の方法◆

卒業研究に向けての取り組みや、発表の内容やディスカッションへの積極的な参加態度から総合的に評価する。レポートや個人／グループ発表については、その都度コメントを記して次につながるように指導する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

必要に応じて、適宜、提示する。

◆留意事項◆

卒業研究の完成に向けて、計画性を持って授業に臨むこと。

ナンバリング	MTL410N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	岡崎 香奈		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-210(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

専門ゼミⅢ、Ⅳでは、これまでに学んだ音楽療法の多様な方法、理論、実践の理解に基づきながら、各人の選んだテーマについて、卒業論文を作成する。専門ゼミⅣでは、専門ゼミⅢで設定した各自のテーマに基づき、さらなる討論や個別指導を通して論文を完成させる。

◆授業内容・計画◆

授業内の討論、および個別指導を通して、実際に卒業論文を作成していく。クラスメートの学生のプレゼンテーション時にも議論に積極的に参加し、研究に協力するとともに自己の創作に活かす。

- (1)論文第2回論文構成発表(学生A)
- (2)論文第2回論文構成発表(学生B)
- (3)論文第2回論文構成発表(学生C)
- (4)論文第2回論文構成発表(学生D)
- (5)論文第2回論文構成発表(学生E)
- (6)論文中間発表(学生A)
- (7)論文中間発表(学生B)
- (8)論文中間発表(学生C)
- (9)論文中間発表(学生D)
- (10)論文中間発表(学生E)
- (11)個別指導(学生A)
- (12)個別指導(学生B)
- (13)個別指導(学生C)
- (14)個別指導(学生D)
- (15)個別指導(学生E)

◆準備学習の内容◆

各自のテーマに基づき卒業論文作成を進める(目安:2時間/日)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および完成した卒業論文により評価する。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示

◆参考図書◆

授業内でその都度提示

◆留意事項◆

活発なディスカッションを期待する

ナンバリング	MTL410N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	音楽療法		
担当教員	三宅 博子		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	5-212(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

グループ討論および個別指導を通して、卒業論文を作成する。具体的には、論文構想を練り直しながら執筆を進め、完成させる。

◆授業内容・計画◆

- 1.夏休みの進捗発表とディスカッション
- 2.章立ての検討①(学生A)
- 3.章立ての検討②(学生B)
- 4.章立ての検討③(学生C)
- 5.各章の精査①(学生A)
- 6.各章の精査②(学生B)
- 7.各章の精査③(学生C)
- 8.中間発表①(学生A)
- 9.中間発表②(学生B)
- 10.中間発表③(学生C)
- 11.論文構成の練り直し
- 12.個別指導①(学生A)
- 13.個別指導②(学生B)
- 14.個別指導③(学生C)
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

各自のテーマに基づき、論文作成を進める。(目安:2時間/日)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および完成した卒業論文により評価する。適宜、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で必要に応じて指示する。

◆参考図書◆

個々の学生に応じて必要なものを提示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MML410N		
科目名	専門ゼミⅣ		
科目詳細	(コース含む)音楽情報系クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や		

◆授業目標◆

これまでの研究や音楽活動をもとに、後期に論文または卒業制作を提出できるよう、目標を明確に設定し、計画を具体的に立て、準備を行う。

◆授業内容・計画◆

○概要

後期末に提出する「卒業研究」の成果の形態には、大きく分けて「論文」と「卒業制作」の二種類が想定される。「論文」は、通常の学術論文なので、指導教員の指導に従って計画・執筆を進める。「卒業制作」は、論文のみならず、作品、演奏などの形態もあり得る。内容次第では、各種の演奏実践などを中心とした課題も認める。複数の専門分野における経験を生かした独創的な研究や、充実した音楽実践に結びつくような計画立案・実施などにも期待したい。ただし、作品や演奏を中心とする場合であっても、音楽研究の分野に貢献しうる内容を持つ必要があり、また、何らかの形の提出物を研究報告と合わせて提出しなければならない。なお、具体的にどのような課題が許容されるかについては随時、指導する。受講者は、それぞれの関心領域において適切な研究テーマを選択し、参考文献の調査や基礎的な文献の講読を行う。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの選定(1)主題を考える
- 第3回 研究テーマの選定(2)副題を考える
- 第4回 資料調査の方法
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 個人発表(1)学生Aによる発表
- 第7回 個人発表(2)学生Bによる発表
- 第8回 個人発表(3)学生Cによる発表
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 個人発表(4)学生Dによる発表
- 第11回 個人発表(5)学生Eによる発表
- 第12回 個人発表(6)学生Fによる発表
- 第13回 総括ディスカッション(1)学生Aをリーダーとして
- 第14回 総括ディスカッション(2)学生Bをリーダーとして
- 第15回 まとめ:レポート作成に向けて

◆準備学習の内容◆

音楽情報研究法における個人発表、また学期末のレポート提出に向けて、日々準備を進める。期末レポートは、一般的なレポートの分量としては多いように感じられるかも知れないが、段階的に積み重ねれば、それを総合したものとして十分に達成可能である。

◆成績評価の方法◆

音楽情報研究法における発表の内容、課題への取り組みの姿勢、学期末までの成果物(論文を構成する文章)。なお、授業内で提出された成果物はそのつどコメントを付けてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適宜指示する。

◆留意事項◆

充実した個人発表を積み重ねることが、稔り豊かな成果に結びつく。ひとつひとつの個人発表に向けて、しっかりとした準備をすること。

ナンバリング	MES015N		
科目名	音楽教育演習(即興演奏法)Ⅰ		
科目詳細	2E		
担当教員	佐藤 温子		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

自分の気持ちや考えを「音楽」にして表現する力、他者と対話する力をつける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 即興について
2. 対話としての即興(声や動きを用いて)
3. 身近なものを使った即興(新聞紙やペットボトル、ダンボールなどを用いて)
4. 集団で音を作る(ボディーパーカッションや打楽器を用いて)
5. 限られた音を使って即興
6. 様々な音階を使って即興
7. ブルーススタイルを使って即興(1)概要を理解する
8. ブルーススタイルを使って即興(2)アンサンブル
9. 絵画に音をつける(1)音の付け方のアイデアを探る
10. 絵画に音をつける(2)アイデアをつなぐ、ストーリーを描く
11. 動画に音をつける(1)音の付け方のアイデアを探る
12. 動画に音をつける(2)アイデアをつなぐ、ストーリーを描く
13. グループによるアンサンブル作り(1)構想を練る
14. グループによるアンサンブル作り(2)表現の工夫を加える
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で体験した様々な即興を自ら復習、展開したり、出される課題の準備をしてくること。(30分)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「歌はともだち」教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回、授業のはじめに弾き歌いを順番にします。(「歌はともだち」から選びます。)

ナンバリング	MES016N		
科目名	音楽教育演習(即興演奏法)Ⅱ		
科目詳細	2E		
担当教員	井上 恵理		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

自分の気持ちや考えを「音楽」にして表現する力、他者と対話する力を身につける。鍵盤楽器(キーボード)を主として用いる。鍵盤楽器の持つ可能性を探求しながら、連弾即興やイメージ即興をする力を身につける。メロディーの伴奏づけ、弾き歌いの能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 即興について
2. 鍵盤楽器での即興 楽器としての表現の可能性を知る
3. 様々な音程による即興
4. 半音音階による即興・全音音階による即興
5. コードネームによる即興 Maj. minor
6. コードネームによる即興 7th
7. コードネームによる即興 Aug. dim
8. 和声進行のハンドサインを見ながら即興する I・IV・V・VIを中心
9. 和声進行のハンドサインを見ながら即興する II・III・5度調のVも加える
10. パートナーとの連弾即興
11. 弾き歌いと伴奏づけ 小学校の歌唱教材
12. 弾き歌いと伴奏づけ 中学校の歌唱教材
13. 音楽作品(例曲)の和声進行を用いた即興 Bach Schumann
14. 音楽作品(例曲)の和声進行を用いた即興 Chopin
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で学んだ課題を復習し、次のステップへ応用できる力をつけていく。課題を行う時は常に「聴く」ことを忘れないこと。鍵盤を見ないで演奏できるようにする。ハーモニーやソルフェージュ、器楽演奏など、他の科目ともリンクさせ、今、自分がむきあっている音楽作品に対しての和声感にも敏感になること。(毎日15分程度の復習と予習が望ましい)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業の取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

・「歌はともだち」教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回、授業のはじめに 弾き歌いを順番にします。(「歌はともだち」から選びます。) 歌つなぎ即興は毎回行います。

ナンバリング	MES406N		
科目名	合唱表現B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	上田 真樹		
学年	3年	クラス	01
講義室	6-111	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

合唱の実習を通して、その作品の構造や作者の意図を学ぶ

◆授業内容・計画◆

合唱作品を多く書いている作曲者の一人として、創作過程においてどのようなことを考え、意図し、作編曲しているかを紹介し、実際にそれらの作品を作曲者と共に演奏することによって、学生一人ひとりが実感として体験することを目的とする。

演奏者（歌い手・指揮者・伴奏者）や指導者として、あるいは創作者として、将来合唱に関わる可能性のある学生を広く歓迎します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 概論：合唱曲の作曲、編曲について
- 第3回 拙作編曲作品の紹介と解説
- 第4回 教育現場における合唱について
- 第5回 Nコン課題曲（作曲作品）の演奏、および分析と解説
- 第6回 Nコン課題曲（編曲作品）に演奏、および分析と解説
- 第7回 合唱組曲の実習（1）第一曲の演奏
- 第8回 合唱組曲の実習（2）第二曲の演奏
- 第9回 合唱組曲の実習（3）第三曲の演奏
- 第10回 合唱組曲の実習（4）第四曲の演奏
- 第11回 合唱組曲の実習（5）組曲全体の構造について
- 第12回 合唱組曲の実習（6）日本語と音楽の関わりについて
- 第13回 合唱組曲の実習（7）合唱作品の書法について
- 第14回 合唱組曲の実習（8）全曲演奏
- 第15回 総括

課題とする作品は、初回の授業で履修者の状況を見て決めます。
以下のいずれかにする予定です。
また、他の作品については、随時授業内で配布します。

- ◆谷川俊太郎作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『いまここに』
- ◆岸田衿子作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『花と風と』
- ◆林望作詩/上田真樹作曲：童声（女声）合唱組曲『あめつちのうた』

◆準備学習の内容◆

指揮や伴奏を担当する学生については、事前に譜読みや練習をして臨むこと（目安2時間）。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業への取り組みなど平常点。授業内で適宜フィードバックをする。

◆教科書（使用テキスト）◆

初回授業で指示するので、それまでは購入しないこと。

- ◆谷川俊太郎作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『いまここに』（全音楽譜出版社）
- ◆岸田衿子作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『花と風と』（全音楽譜出版社）
- ◆林望作詩/上田真樹作曲：童声（女声）合唱組曲『あめつちのうた』（全音楽譜出版社）

◆参考図書◆

NHK全国学校音楽コンクール課題曲（NHK出版）、「心に花を咲かせよう」混声合唱編（全音楽譜出版社）、混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」（全音楽譜出版社）

◆留意事項◆

ナンバリング	MES407N		
科目名	合唱表現		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

合唱の実習を通して、その作品の構造や作者の意図を学ぶ

◆授業内容・計画◆

合唱作品を多く書いている作曲者の一人として、創作過程においてどのようなことを考え、意図し、作編曲しているかを紹介し、実際にそれらの作品を作曲者と共に演奏することによって、学生一人ひとりが実感として体験することを目的とする。

演奏者（歌い手・指揮者・伴奏者）や指導者として、あるいは創作者として、将来合唱に関わる可能性のある学生を広く歓迎します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 概論：合唱曲の作曲、編曲について
- 第3回 拙作編曲作品の紹介と解説
- 第4回 教育現場における合唱について
- 第5回 Nコン課題曲（作曲作品）の演奏、および分析と解説
- 第6回 Nコン課題曲（編曲作品）に演奏、および分析と解説
- 第7回 合唱組曲の実習（1）第一曲の演奏
- 第8回 合唱組曲の実習（2）第二曲の演奏
- 第9回 合唱組曲の実習（3）第三曲の演奏
- 第10回 合唱組曲の実習（4）第四曲の演奏
- 第11回 合唱組曲の実習（5）組曲全体の構造について
- 第12回 合唱組曲の実習（6）日本語と音楽の関わりについて
- 第13回 合唱組曲の実習（7）合唱作品の書法について
- 第14回 合唱組曲の実習（8）全曲演奏
- 第15回 総括

課題とする作品は、初回の授業で履修者の状況を見て決めます。
以下のいずれかにする予定です。
また、他の作品については、随時授業内で配布します。

- ◆谷川俊太郎作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『いまここに』
- ◆岸田衿子作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『花と風と』
- ◆林望作詩/上田真樹作曲：童声（女声）合唱組曲『あめつちのうた』

◆準備学習の内容◆

指揮や伴奏を担当する学生については、事前に譜読みや練習をして臨むこと（目安2時間）。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業への取り組みなど平常点。授業内で適宜フィードバックをする。

◆教科書（使用テキスト）◆

初回授業で指示するので、それまでは購入しないこと。

- ◆谷川俊太郎作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『いまここに』（全音楽譜出版社）
- ◆岸田衿子作詩/上田真樹作曲：混声合唱組曲『花と風と』（全音楽譜出版社）
- ◆林望作詩/上田真樹作曲：童声（女声）合唱組曲『あめつちのうた』（全音楽譜出版社）

◆参考図書◆

NHK全国学校音楽コンクール課題曲（NHK出版）、「心に花を咲かせよう」混声合唱編（全音楽譜出版社）、混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」（全音楽譜出版社）

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL002N		
科目名	幼児教育講義(教職概論)		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)教職の意義と職務内容、役割について学ぶ。(2)「かかわり」の視点から幼児教育の意義を理解し、幼稚園教員の役割や資質を学ぶ。(3)(1)と(2)から、進路選択の自己理解や適性を考える機会をとるとともに、教員に求められる資質能力の研鑽、望ましい社会経験を積極的に積むことへの意欲を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回:幼稚園教諭をめぐる社会の動向
第2回:幼児教育の意義①幼稚園教諭の職務、身分と具体的職務内容
第3回:幼児教育の意義②教育法規の理解
第4回:幼児教育の意義③これからの幼児教育に求められるもの
第5回:かかわりの中で育つ(1)子どもがかかわる世界とは
第6回:かかわりの中で育つ(2)子どもがかかわる世界を「みる」とは
第7回:かかわりの中で育つ(3)子どもを理解するとは
第8回:幼児教育の現状と課題(1)新たな保育制度
第9回:幼児教育の現状と課題(2)閉塞する子育てとそのための子育て支援
第10回:幼児教育の現状と課題(3)虐待とその背景
第11回:幼児教育の現状と課題(4)特別支援教育の推進
第12回:幼児教育の現状と課題(5)人権教育の推進
第13回:教員の意識と資質向上
第14回:教職への進路選択ー先輩の話を聞くー
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

各授業で出された小レポートを作成し、授業に臨むこと(準備学習1時間)

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、態度、小レポート)と試験を総合的に評価する。
授業後のコメントシートで出された各自の問いや学びは、授業内でコメントしたり全体でディスカッションを行ったりしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)。

◆参考図書◆

『子どもを「人間としてみる」ということ』佐伯他著(ミネルヴァ書房)。
『ホントのねがいをつかむー自閉症児を育む教育実践』赤木・佐藤著(全国障害者問題研究会出版部)。
『驚くべき乳幼児の心の世界「二人称的アプローチ」から見えてくること』ヴァステヴィ・レディ著、佐伯胖訳(ミネルヴァ書房)。
『シリーズ授業10障害児教育発達障の壁をこえる』稲垣他著(岩波書店)。

◆留意事項◆

参考資料のうち、2冊以上は読んでおくこと。

ナンバリング	ECL041N		
科目名	幼児教育講義(幼稚園の運営)		
科目詳細			
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

現代の学校教育に関する社会的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。加えて、学校と地域の連携、学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:学校をめぐる近年の様々な状況の変化と、子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題
- 第2回:近年の教育政策の動向
- 第3回:諸外国の教育事情や教育改革
- 第4回:社会から期待される学校運営を考える
- 第5回:幼稚園における教育活動の年間の流れを理解する
- 第6回:幼稚園評価とPDCAサイクルの重要性を理解する
- 第7回:学級経営の仕組みと効果的な方法を考える
- 第8回:地域との連携・協働による学校づくりと教育活動の意義と方法を知る
- 第9回:教職員間の連携とチーム保育の重要性
- 第10回:開かれた学校づくりの事例検討
- 第11回:学校の危機管理の重要性と学校安全の必要性
- 第12回:幼稚園を取り巻く安全上の課題(1)事故
- 第13回:幼稚園を取り巻く安全上の課題(2)生活安全、災害安全、交通安全
- 第14回:幼稚園における安全管理の課題(1)施設の安全性
- 第15回:幼稚園における安全管理の課題(2)家庭や地域との安全管理や意識の連携

◆準備学習の内容◆

- (事前学習)授業時に指示された資料の範囲を次回の授業までに読んでおくこと。(1時間)
- (事後学習)授業時に指示された事項について自分で調べたり考えたりおくこと。(1時間)

◆成績評価の方法◆

レポート課題(50%)、授業内課題(30%)、討議・授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。授業内での討論や課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

文部科学省『幼稚園教育要領』
授業内で適宜、指示する。

◆参考図書◆

- 『最新保育小六法・資料集2024』大豆生田啓友・三谷大紀編(ミネルヴァ書房)
- 『保育学用語辞典』秋田喜代美監修・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編(中央法規)

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	ECL042N		
科目名	特別支援教育とその方法		
科目詳細			
担当教員	山本 智子, 岡崎 香奈, 三宅 博子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

特別な支援を必要とする幼児の教育上または生活上の困難について説明できる。 個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について説明できる。

◆授業内容・計画◆

授業内容

- 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を学習する。
- 特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を学習する。
- 特別の教育的ニーズのある幼児の教育上または生活上の困難とその対応を学習する。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:特別支援教育の基礎1:背景、考え方、制度、条件整備、対象になる幼児、就学の過程
- 第3回:特別支援教育の基礎2:教育課程、個別計画、訪問教育、相談支援
- 第4回:特別支援教育の基礎3:歴史
- 第5回:特別支援学校
- 第6回:障害種別に応じた教育1:視覚障害・聴覚障害・言語障害
- 第7回:障害種別に応じた教育2:知的障害・肢体不自由
- 第8回:障害種別に応じた教育3:病弱/身体虚弱・重複障害・発達障害
- 第9回:病気・障害のある子どものアセスメント:
- 第10回:まとめと評価
- 第11回:特別支援教育と実践1:計画
- 第12回:特別支援教育と実践2:検討
- 第13回:特別支援教育と実践3:実施
- 第14回:特別支援教育と実践4:省察
- 第15回:まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。(1時間)
主体的な学習を支援するために課題を課することがあります。

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。
課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書を使用しません。 必要に応じて資料を配布します。

◆参考図書◆

文部科学省「特別支援学校学習指導要領等(平成29年4月公示・平成31年2月公示)」Web Page.
「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所」Web Page.
『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(ジヤース教育新社)2020.
『改裝版 さくら・さくらんぼの障害児保育』斎藤公子(太郎次郎社)2019.
『障害児保育』汐見稔幸・大豆生田啓友監修(ミネルヴァ書房)2021.
『障害児保育・教育』山本智子編著(北樹出版)2022.

『保育所・認定こども園・幼稚園対応 配慮を必要とする子どもの「個別の支援計画」』藤原里美(中央法規出版)2023.
『特別支援教育と障害児の保育・福祉:切れ目や隙間のない支援と配慮』杉本敏夫監修(ミネルヴァ書房)2023.
『ケースに学ぶ音楽療法Ⅰ・Ⅱ』阪上正巳・岡崎香奈編著(岩崎学術出版社)2017.
その他の参考図書については必要に応じて授業において案内します。

◆留意事項◆

特別支援教育の学習は、特別な支援を必要とする子どもの理解から始まります。ボランティアやインターンシップ等を通して、病気や障害のある子ども、外国にルーツのある子ども、経済的な支援を必要とする子ども等と定期的に交流する機会をもって下さい。

ナンバリング	ECL001N		
科目名	幼児教育講義(保育原理)		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

子どもの最善の利益となる保育の在り方について、保育の歴史や思想を始点として考えていく。特に、倉橋惣三の保育観や子ども観を学びながら、子どもと育ち合う者としての知識、スキル、姿勢を養う。

◆授業内容・計画◆

第1回:保育との出会い(1)保育とは
第2回:保育との出会い(2)保育制度を知る
第3回:保育との出会い(3)保育法規を知る
第4回:保育実践との出会い(1)保育の現場を知る
第5回:保育実践との出会い(2)保育内容・方法・形態を知る
第6回:保育の歴史(1)西洋近代における保育の思想
第7回:保育の歴史(2)日本の保育の歴史と思想
第8回:保育の歴史(3)倉橋惣三
第9回:保育の歴史(4)小林宗作
第10回:諸外国の保育を知る
第11回:保育の計画と方法
第12回:保育者の専門性
第13回:家族支援と子育て支援
第14回:保育の現状と課題
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

テキストのうち、次の講義内容に関連する部分を毎回、指摘する。その部分を読み、要点を掴むとともに、問いを持って講義に臨むこと(準備学習1時間)

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、授業態度、小レポート)と試験で総合的に評価する。
授業後のコメントシートで出された各自の問いや学びは授業内でコメントしたり全体でディスカッションを行ったりしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)。
『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館)。
『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)。

◆参考図書◆

『幼児教育へのいざない円熟した保育者になるために』佐伯胖(ミネルヴァ書房)。
『学校と社会』デューイ著、宮原誠一訳(岩波文庫)。
『エミール(上下)』ルソー著、今野一雄訳(岩波文庫)。
『窓ぎわのトットちゃん』黒柳徹子(講談社文庫)。

◆留意事項◆

参考図書にも目を通すこと。

ナンバリング	ECL003N		
科目名	幼児教育講義(発達心理)		
科目詳細			
担当教員	丹羽 さがの		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習する。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び、その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達の特徴について、基本的知識を身に付ける。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深める。

◆授業内容・計画◆

第1回 イン트로ダクション:発達を学ぶ重要性、発達のメカニズム
第2回 乳児期の運動・認知の発達
第3回 乳児期の言語・社会性の発達
第4回 幼児期の運動・認知の発達
第5回 幼児期の言語・社会性の発達
第6回 乳幼児期の自己と情動制御の発達
第7回 児童期の認知発達
第8回 児童期の社会性の発達
第9回 青年期のアイデンティティの発達
第10回 青年期の人間関係
第11回 学びの様々な理論と学びの動機づけ
第12回 成人期の発達1:職業選択、家庭生活、子育て
第13回 成人期の発達2:中年期
第14回 老年期の発達
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回授業内容を復習し、理解の不足している部分については参考図書等を参照して補うか、担当講師への質問としてまとめておく。(目安30分程度)

◆成績評価の方法◆

筆記試験60% 平常点40%(コミュニケーション・カード等) 授業時に毎回記入するコミュニケーション・カードは、下線and/orコメント付きで返却する。次回授業冒頭で多かった質問・疑問について解説するほか、特によかったコメントについて紹介する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『教育職・心理職のための発達心理学』中道圭人・小川翔大(編著)(ナカニシヤ出版)
『問いから始める発達心理学—生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子他(編著)(有斐閣) その他、授業中に適宜紹介します。

◆留意事項◆

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

ナンバリング	ECL011N		
科目名	幼児音楽教育講義A		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児と音楽のかかわりの重要性について様々な観点から理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 授業の進め方
2. 幼児と音楽の関わり
3. 初期の音楽行動とスキルの発達
4. 感性と表現の発達
5. 幼児の表現活動と傍らにいる大人の役割
6. 幼児の遊びと音楽
7. 音楽教育メソッド①エミール・ジャック＝ダルクローズの音楽教育
8. 音楽教育メソッド②カール・オルフの音楽教育
9. 音楽教育メソッド③オルフ楽器を用いた即興演奏
10. 音楽教育メソッド④コダーイ・ゾルターン音楽教育
11. 音楽教育メソッド⑤マリーシェーファーのサウンドスケープ
11. 音楽教育メソッド⑥CMM
12. わらべうたの音楽性
13. 幼児の音楽表現① 3歳、4歳児
14. 幼児の音楽表現② 5歳児
15. 試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

授業内では小テストを実施する。必ず復習をして授業にのぞむこと(目安は60分間)。

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度と小テスト、まとめテスト等で総合的に評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『幼児音楽教育要論』(神原雅之編著／開成出版)

◆参考図書◆

『こどもの歌200』『続こどもの歌200』(小林美実編著／チャイルド本社)

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。

ナンバリング	ECL012N		
科目名	幼児音楽教育講義B		
科目詳細			
担当教員	堀江 志磨		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・ピアノ初心者のための教材の研究を通し、その特色、長所、短所などを知り、ピアノ指導の実践に役立てることができる。・基本的なピアノ奏法について考察し、幼児への的確な言葉で指導・伝達できる。・討論・模擬レッスンを通じて、意見発信能力、演奏に対する批評力を磨き、幼児に対するレッスンに応用することができる。

◆授業内容・計画◆

導入機の教材研究、ピアノ奏法の映像の視聴を通して、幼児へのピアノ指導の実践に向けて必要な知識を得、さらに模擬レッスンを通して実際のレッスン現場の様子を体験する。

- 1、オリエンテーション、
- 2、教材について外観・導入方法の違い
- 3、トンプソン
- 4、ブレピアノランド
- 5、バーナム他
- 6、レッスンにおける教師の働きかけについて①(発話)
- 7、レッスンにおける教師の働きかけについて②(実演)
- 8、基本テクニックについて(ピアノ奏法のレクチャー映像視聴)
- 9、グループで、導入期程度の曲のレッスンに向け討論。
- 10、グループで、レッスンのポイントを討論、ミニレッスンをする。レッスンに対する全体討論。
- 11、ペアで、レッスンのポイントを討論、ミニレッスンをする。レッスンに対する全体討論。
- 12、模擬レッスン1(テクニック・表現中心に)
- 13、模擬レッスン2(生徒への働きかけ中心に)
- 14、模擬レッスン1、2について、学生同志の講評、
- 15、まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

出された課題に対し考えをまとめる、準備をする、資料を作るなどのため、週に1～3時間程度の時間を必要とする。

◆成績評価の方法◆

討論や実践に対して授業内で教員からフィードバックを行い、学生同志の討論・意見共有によってもお互いにフィードバックを行う。成績評価は、授業内容への取り組み、課題の達成度、出席等を総合的に見て評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

トンプソンピアノ教本 音楽之友社
ブレピアノランド 音楽之友社
バーナムピアノテクニック、ミニブック／導入書 全音楽譜出版
など。授業内で指定する。

◆参考図書◆

『ピアノ奏法 音楽を表現する喜び』井上直幸(春秋社)

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	ECS014N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅰ		
科目詳細	1Ⅰ、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

合唱音楽の魅力は汲めど尽きない。アンサンブルする、調和を求める、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するためには、演奏技術の修練と知識の深さが求められる。この授業での名曲演奏の実体験を通して、音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

- 1.本授業におけるガイダンス:選曲をするということ、教材を選ぶということ、合唱におけるパートを編成すること、合唱音楽のルーツとは、ア・カベラ、ピアノ付き作品、管弦楽付き作品それぞれの魅力を味わうために、「さあ、歌おう！美しい合唱曲を！！」
- 2.効果的なウオーミングアップの研究1:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう①Victoria
- 3.効果的なウオーミングアップの研究2:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう②Palestrina
- 4.効果的な発声練習の考察1:美しい宗教曲を歌おう
- 5.効果的な発声練習の考察2:カルミナブラーナの世界 カールオルフの世界
- 6.カルミナブラーナを歌おう1:ラテン語、テキストの理解を深めよう
- 7.カルミナブラーナを歌おう2:オスティナート、リズムの反復、その効果は
- 8.カルミナブラーナを歌おう3:多彩な合唱曲での構成
- 9.カルミナブラーナを歌おう4:日本の美しい合唱曲も深めよう1 風が(高田三郎)
- 10.カルミナブラーナを歌おう5:日本の美しい合唱曲も深めよう2 爽やかな五月に(小林秀雄)
- 11.カルミナブラーナを歌おう6:心に沁みる日本の歌も楽しもう1 みかんの花咲く丘(海沼実)
- 12.カルミナブラーナを歌おう7:心に沁みる日本の歌も楽しもう2 うみ(上田真樹編曲)
- 13.前期のレパトリーを深めよう
- 14.コンサートの選曲、コンサートのマネージメント、12月の演奏会に向けてのプログラムビルディング
- 15、前期まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を感じ、その神髄に触れることも目的としている。使用教材は3冊を併用しながら、その関連性の中で学びを深めていきたいと考えてシラバスとしての毎授業の柱を構築している。古今東西という大きな振れ幅がある音楽には時代や国境の垣根は無いので、シラバスの柱が横断的かつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。

ナンバリング	ECS015N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1I、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年	クラス	03
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

合唱音楽には多様性があり、アカデミックさ、精神性、大衆性、社会性を兼ね備えている。12月には演奏会を控え、コンサートでのステージ構成の構築、そのプロセスを実践的な学びとして一層深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期のレパートリーを深めよう 12月のコンサートに向けて選曲 プログラムビルディング
- 2.コンサートへの実践・総合演習① 指揮者、伴奏者の役割 効果的な指導法
- 3.コンサートへの実践・総合演習② 響きのある発声法とは ホールや聖堂を意識した発声法とは
- 4.コンサートへの実践・総合演習③ 歌うこと 語ること 発語するということ
- 5.コンサートを成功させるとは！ コンサートマネジメント 集客への意識を高めよう
- 6.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察① 音楽的アプローチ
- 7.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察② 伝える、伝える演奏とは
- 8.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察③ 演奏者の喜び
- 9.リーダーシャッツ 歌の宝物 幅広いレパートリーはまさに音楽という宝物
- 10.コンサートのリハーサルを高めよう①作品ごとの様式を意識した演奏を
- 11.コンサートのリハーサルを高めよう②アンサンブルの充実を
- 12.コンサートのリハーサルを高めよう③合唱音楽の可能性と多様性、そして楽しみ
- 13.コンサートでの実践は宝物:舞台空間という不思議
- 14.人の声の美しさ、人の心の美しさ それが合唱の温かさ、エネルギー
- 15.前期後期の総括

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。幅広い作品群を取り上げ、横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。12月の演奏会に向けて前期以上に指揮者、ピアニスト、アンサンブルトレーナー、アンサンブルメンバーなどその役割を担うことで、深い学びと演奏体験を充実させることを望んでいる。

ナンバリング	ECS016N		
科目名	音楽教育演習(合奏・打楽器)Ⅰ		
科目詳細	2I		
担当教員	新谷 祥子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-030	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

打楽器を楽しむ活用する、その意識が高まることを目標に打楽器学習経験のない学生であってもこの楽器の魅力を知る導入として様々な打楽器に触れ、扱うことに慣れていく。重要なことは、からだで打楽器との関わり、つまりは楽器を楽しく鳴らすための身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習する。さらには幼児体験に欠かせない音と遊び、打楽器はどのような役割を担っているかを考え楽しむ。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②話し言葉からリズムの誕生へ繋げる試み(リズム以前、音楽以前からの打楽器の話)
- ③素手を使って音探し「ハンドドラム」への取り組み(音色とコール&レスポンスの関係性)
- ④タンバリンやトライアングルなどの基本と安全な打ち方を知り、手の細かな部位を活用する
- ⑤2線譜、2音律から探るリズムのうねりと発見
- ⑥基本「小太鼓を打つ」1 スティックや楽器と親しむ
- ⑦基本「小太鼓を打つ」2 簡単なリズム打ちと手順の工夫
- ⑧打ちながら歩く～幼児用の太鼓を身につけて動く
- ⑨打ちながら歩く～鼓笛隊からマーチングなどに活用する初歩的ステップや簡単なフォーメーション
- ⑩鍵盤打楽器、木琴、マリンバなどに親しむ
- ⑪オルフの打楽器を用いる音遊び
- ⑫余韻の特性を活かす打楽器観察と音づくり
- ⑬ラテンパーカッション1 ポップスのリズムなどに通じる簡単にトライできるラテンリズムの紹介
- ⑭ラテンパーカッション2 サンバや8ビートなどを組み合わせて子どもの歌への取り組み
- ⑮安全で優しい動きを使うボディ・パーカッションのグループ活動。その楽しさに触れる

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習を行うとともに、復習しておく。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業内における課題への取り組みについてフィードバックするとともに、授業内レポートを総合的に評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動を考慮し、安全で動きやすい服装とシューズの着用とする。
楽器準備の積極的な相互協力を求める

ナンバリング	ECS017N		
科目名	音楽教育演習(合奏・打楽器)Ⅱ		
科目詳細	2I		
担当教員	新谷 祥子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

前期では一般的な打楽器の基礎を広義的に紹介しているが、後期では幼児と接する現場での活用法など、より具体的な内容とする。簡単に音がしやすい楽器をどうやって魅力ある音の道具として扱っていくのか。触れ合う楽器はどのような新しい表情をもっているのかを探る。

◆授業内容・計画◆

- ①振る楽器の多様性を見つめ、創作打楽器への視点を広げる
- ②幼児向けの歌あそびと打楽器小物打楽器の活用
- ③ティンパニや大太鼓など大型の打楽器と触れ合う楽しみ
- ④鍵盤打楽器 簡単なハーモニーとリズムの合奏
- ⑤鍵盤打楽器 幼児に馴染みのある楽曲でアンサンブル
- ⑥ドラムセットを用いた音遊びと基本学習(インナードラミングとオノマトペ打法)
- ⑦初歩的なサンバリズムへの取り組み
- ⑧日本の祭りのリズム多種への関心を高め、幼児と取り組む「祭り」リズムへの視点を広げる
- ⑨楽器の形、音を伝える記号などの考案
- ⑩擬音、自然音、人工音、幼児と取り組むサウンドスケープを考える
- ⑪リズムあそびと指導方法 大アンサンブルの取り組み
- ⑫市販されている打楽器、子どもが見つかる打楽器、手作りの打楽器など、打楽器のこれから
- ⑬絵本で探る音探しと音作り オノマトペに焦点を当てる(ゲスト講師と共に)
- ⑭打楽器でグループ発表まで到達するための取り組みかた
- ⑮発表指導

◆準備学習の内容◆

授業内で提案する本、視聴覚資料などを積極的に事前学習。打楽器は多様な民族様式が生んだ楽器であることから、多種文化に触れる時間を拡充する。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業は演習時間が多くなるが、技術的な成果よりも、平常の授業内での積極的な取り組みかたを高く評価する。また通年で扱った打楽器各種について、将来的に指導や発表などの現場で役立つガイドラインとなるよう、独自の方法でオリジナルノート制作を行い、そのノート内容も評価の対象とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

前期同様

ナンバリング	ECS018N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅰ		
科目詳細	11		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズ(1865~1950)が創案した「音(聴覚)」と「動き(筋肉運動感覚)」と「空間」を関連付けた総合的な音楽教育法を学ぶ。幼児の育ちを助ける音楽表現、身体表現の方法を実践を通して学ぶ。音楽を全身で聴き、イメージする力、表現する力を自らつけていく。

◆授業内容・計画◆

- (1) ガイダンス ダルクローズリトミックについて
- (2) 五感を使う。聴覚とは？自分の周囲の空間を意識する。サウンドスケープ
- (3) 呼吸 身体の緊張と脱力～身体が良い楽器になるために～
- (4) 時間と空間とエネルギーの関係
- (5) 声と動き
- (6) ことばを動く(ことばのリズム)
- (7) ことばを歌う(ことばの旋律)
- (8) 即興演奏と即興唱
- (9) 音楽の諸要素と身体活動(拍)
- (10) 音楽の諸要素と身体活動(テンポ・ダイナミクス)
- (11) 音楽の諸要素と身体活動(アナクルーシス)
- (12) 音楽の諸要素と身体活動(拍子とフレーズ)
- (13) 歌を動かそう
- (14) ピアノで遊ぼう
- (15) 音楽ゲームを創ろう

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を他の学科科目や術科科目にリンクさせて考え応用できるようにする。グループワークの課題については、積極的にグループで準備して授業にのぞむ。(目安1時間～2時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。授業内の課題発表については随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

黒柳徹子著「窓際のトットちゃん」(講談社文庫) その他の資料は授業内で配布

◆参考図書◆

「ダルクローズのリトミック」エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳(ドレミ出版社)
「体を楽器にした表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選」神原雅之編著(明治図書)
「リトミックでつくる楽しい音楽授業」井上恵理 酒井美恵子著(明治図書)
「はじめてでもわかりやすいリトミックを活用した授業アイデア」井上恵理 酒井美恵子編著(明治図書)

◆留意事項◆

全身運動のできる動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	ECS019N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	11		
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

リトミックはスイスの音楽教育家、作曲家エミール・ジャック＝ダルクローズ(1865-1950)が創案した音楽教育方法である。リトミックはリズム・動きを通して音楽を理解し、心身の調和を図ることを教育目的としている。本授業では実践を通して「音楽と動き」の関係性を学ぶ。また身体活動を通して育む、幼児の音楽表現の重要性についても探っていく。尚授業の成果を「幼教Day」(毎年1月末～2月初旬頃開催)で発表する。練習段階からクラス一丸となり積極的に参加することを求める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(授業参加の心得)
2. リトミックについて(音楽と動きの結びつき)
3. 規則的な拍(クルーシス、メタクルーシス、アナクルーシス)
4. 時間・空間・エネルギーの関係
5. 分割
6. 縮小と拡大
7. 中間実技試験
8. カノン
9. 補足リズム
10. 不等拍
11. 幼教Dayでの発表について
12. 音楽に即した振り付け創作①(ピアノ曲のコレオグラフィー)
13. 音楽に即した振り付け創作②(オーケストラ曲のコレオグラフィー)
14. 音楽に即した振り付け創作③(ボディパーカッション)
15. 発表とまとめ

◆準備学習の内容◆

毎回配布するプリント資料に目を通してから、授業にのぞむこと。(目安時間は30分)

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度を重要視して評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。資料は適宜授業時に配布する。

◆参考図書◆

DVD『豊かな音楽表現を育てる幼児のリトミック』(伊藤仁美監修/新宿スタジオ)
『1歳～5歳児がよろこぶ 保育ではじめてリトミック』(神原雅之、伊藤仁美著/チャイルド本社)

◆留意事項◆

動きやすい服装で参加すること。スカートは認めない。
底の薄いシューズ着用か、裸足で授業参加のこと。

ナンバリング	ECL411N		
科目名	専門ゼミⅠ		
科目詳細	幼児音楽教育 卒業研究		
担当教員	八幡 眞由美, 安部 博史, 伊藤 仁美, 林 浩子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだ		

◆授業目標◆

幼児教育専攻の学生が、幼児教育あるいは幼児の音楽教育に関して問題意識を持ち、自らが見いだした課題について調べ、それを卒業研究としてまとめることを通じて、課題発見、課題探求、そして課題解決の能力を育成することを目的とする。したがって、研究分野は幼児に関連した保育学、教育学、心理学、造形、音楽教育学等とするが、学生のニーズも踏まえてこれら狭い範囲に必ずしも限定するのではなく、何らかの形で幼児あるいは音楽と関連するか、還元されうるものであれば可とする。

◆授業内容・計画◆

幼児教育の卒業研究は、「論文」または「作品」を提出する。「論文」は、所定の書式にしたがって作成する。「作品」は、作品の制作に加えて、作品の概要等を添付することを条件とする。個人研究を基本とする。ただし、フィールド調査をはじめグループで行うことのメリットが生かせるような研究であれば、共同研究を行うことを認める。この場合、1グループは最大3名とし、共同研究者全員で1つの論文を分担執筆して作成し、提出する。昨年の12月に発表したゼミの振り分けにもとづき、各指導教員の指示にしたがって目標に向かって進めてほしい。

- 第1回 ゼミごとのオリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定の仕方について学ぶ
- 第3回 多様な研究方法について学ぶ: 観察法
- 第4回 多様な研究方法について学ぶ: 調査法
- 第5回 多様な研究方法について学ぶ: 実験法
- 第6回 論文検索の仕方を学ぶ
- 第7回 論文検索の実践
- 第8回 論文の構成を学ぶ
- 第9回 先行研究の読み方を学ぶ
- 第10回 先行研究のまとめ方を学ぶ
- 第11回 研究テーマの検討
- 第12回 研究テーマの発表
- 第13回 中間発表に向けての準備
- 第14回 第1回中間発表
- 第15回 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

昨年度末に行った希望調査にもとづいて所属ゼミを決めてあり、指導教員からすでに事前準備に関する指導を受けていると思われる。そこで、4月に行われる第1回のゼミの時間までにその準備を整えておいてほしい。授業では毎回課題が出されるので、必ずその準備をしてくること(目安時間は1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

課題へのフィードバックは授業内で行う。この卒業研究では、毎週行われるゼミでのディスカッションへの関与状況をもとに総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ゼミごとに指導教員から指示をする。

◆参考図書◆

ゼミごとに指導教員から指示をする。

◆留意事項◆

締め切りの日時等は厳守すること。単位認定要件について1つでも充足できていない場合、成績がDとなりうるので注意してほしい。

ナンバリング	ECL412N		
科目名	専門ゼミⅡ		
科目詳細	幼児音楽教育 卒業研究		
担当教員	八幡 真由美, 安部 博史, 伊藤 仁美, 林 浩子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

専門ゼミと同じであるが、4年間の学びの集大成として各自が論文または作品としてまとめることで、自ら学ぶ力を育成することができる。

◆授業内容・計画◆

専門ゼミⅡに記した授業内容・計画にしたがって、進めてほしい。

- 第1回 後期のゼミに関する全体的なオリエンテーション
- 第2回 途中経過の発表
- 第3回 中間発表に向けた準備
- 第4回 第2回中間発表
- 第5回 集めたデータの検討会
- 第6回 データのまとめ方を学ぶ
- 第7回 集めた事例の検討会
- 第8回 事例のまとめ方を学ぶ
- 第9回 論文執筆への準備を行う
- 第10回 序論の書き方を学ぶ
- 第11回 方法の書き方を学ぶ
- 第12回 結果の書き方を学ぶ
- 第13回 考察の書き方を学ぶ
- 第14回 論文全体のまとめをする
- 第15回 論文／作品発表会

◆準備学習の内容◆

前期のゼミに引き続き行うもので、4年間の集大成としての自覚をもって臨んでほしい。夏期休暇中もデータ収集、文献検索などに有効に使ってほしい。(目安時間は1時間程度)

◆成績評価の方法◆

9月(予定)に行われる中間発表での発表と質疑、卒業研究(論文または作品)の提出、卒業研究要旨の提出、およびゼミ内もしくは全体での発表会での発表の要件をすべて満たすことにより単位を認める。成績評価は、今年度に専門ゼミⅡを担当する教員4名と副査の合議によって決める。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

専門ゼミⅡにおいてゼミへの欠席回数が多い場合、第1回の中間発表を行わなかった場合は、いずれも専門ゼミⅡの履修を認めないことがあるので注意してほしい。

ナンバリング	ECS029N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅲ		
科目詳細	21、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

合唱音楽の魅力は汲めど尽きない。アンサンブルする、調和を求める、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するためには、演奏技術の修練と知識の深さが求められる。この授業での名曲演奏の実体験を通して、音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

- 1.本授業におけるガイダンス:選曲をすること、教材を選ぶということ、合唱におけるパートを編成すること、合唱音楽のルーツとは、ア・カペラ、ピアノ付き作品、管弦楽付き作品それぞれの魅力を味わうために、「さあ、歌おう！美しい合唱曲を！！」
- 2.効果的なウオーミングアップの研究1:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう①VICTORIA
- 3.効果的なウオーミングアップの研究2:ルネッサンスの美しい宗教曲を歌おう②PALESTRINA
- 4.効果的な発声練習の考察1:美しい宗教曲を歌おう
- 5.効果的な発声練習の考察2:カルミナブラーナの世界 カールオルフの世界
- 6.カルミナブラーナを歌おう1:ラテン語、テキストの理解を深めよう
- 7.カルミナブラーナを歌おう2:オスティナート、リズムの反復、その効果は
- 8.カルミナブラーナを歌おう3:多彩な合唱曲での構成
- 9.カルミナブラーナを歌おう4:日本の美しい合唱曲も深めよう1 風が(高田三郎)
- 10.カルミナブラーナを歌おう5:日本の美しい合唱曲も深めよう2 爽やかな五月に(小林秀雄)
- 11.カルミナブラーナを歌おう6:心に沁みる日本の歌も楽しもう1 みかんの花咲く丘(海沼実)
- 12.カルミナブラーナを歌おう7:心に沁みる日本の歌も楽しもう2 うみ(上田真樹編曲)
- 13.前期のレパートリーを深めよう
- 14.コンサートの選曲、コンサートのマネージメント、12月の演奏会に向けてのプログラムビルディング
15. 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。使用教材は3冊を併用しながら、その関連性の中で学びを深めていきたいと考えてシラバスとしての毎授業の柱を構築している。古今東西という大きな振れ幅がある音楽には時代や国境の垣根は無いので、シラバスの柱が横断的かつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。

ナンバリング	ECS030N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅳ		
科目詳細	21、混声合唱		
担当教員	藤原 規生		
学年	2年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

合唱音楽には多様性があり、アカデミックさ、精神性、大衆性、社会性を兼ね備えている。12月には演奏会を控え、コンサートでのステージ構成の構築、そのプロセスを実践的な学びとして一層深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期のレパートリーを深めよう 12月のコンサートに向けて選曲 プログラムビルディング
- 2.コンサートへの実践・総合演習① 指揮者、伴奏者の役割 効果的な指導法
- 3.コンサートへの実践・総合演習② 響きのある発声法とは ホールや聖堂を意識した発声法とは
- 4.コンサートへの実践・総合演習③ 歌うこと 語ること 発語すること
- 5.コンサートを成功させるとは！ コンサートマネージメント 集客への意識を高めよう
- 6.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察① 音楽的アプローチ
- 7.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察② 伝わる、伝える演奏とは
- 8.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察③ 演奏者の喜び
- 9.リーダーシャッツ 歌の宝物 幅広いレパートリーはまさに音楽という宝物
- 10.コンサートのリハーサルを高めよう①作品ごとの様式を意識した演奏を
- 11.コンサートのリハーサルを高めよう②アンサンブルの充実を
- 12.コンサートのリハーサルを高めよう③合唱音楽の可能性と多様性、そして楽しみ
- 13.コンサートでの実践は宝物：舞台空間という不思議
- 14.人の声の美しさ、人の心の美しさ それが合唱の温かさ、エネルギー
- 15.前期後期の総括

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、主体的に調べ、学習を深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。また、課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『CARMINA BURANA』Carl Orff作曲 SCHOTT版・『リーダーシャッツⅣ』混声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 カワイ出版・『混声合唱のための「歌い継ぎたい日本の歌」【春夏編】』・全音楽譜出版

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(シヨパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。幅広い作品群を取り上げ、横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。12月の演奏会に向けて前期以上に指揮者、ピアニスト、アンサンブルトレーナー、アンサンブルメンバーなどその役割を担うことで、深い学びと演奏体験を充実させることを望んでいる。

ナンバリング	ECS020N		
科目名	音楽教育演習(即興演奏法) I		
科目詳細	2I		
担当教員	伊藤 仁美		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児音楽教育を学ぶ者にとって、基礎的な即興演奏能力は必須である。本授業では幼児の豊かな音楽表現を引き出すのに必要とされる、様々な音楽の諸要素を取り入れた即興的な音楽づくりを展開できる実践力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス ダルクローゼリミックと即興演奏(インプロヴィゼーション)
2. 鍵盤に親しむ1(ブラックキー)
3. 鍵盤に親しむ2(グラフィックスコア)
4. 簡易伴奏1(二部形式、オスティナート)
5. 簡易伴奏2(マーチ、ワルツ)
6. 簡易伴奏3(和声音と非和声音)
7. スケールを用いた即興グループワーク
8. 副三和音と借用和音1(VI, IIの和音)
9. 副三和音と借用和音2(第一転回、第二転回)
10. 副三和音と借用和音3(4度上の属7、2度上の属7、ドッペルドミナント)
11. 音楽と動き1(声による即興)
12. 音楽と動き2(打楽器による即興)
13. コードネームを用いた即興1(メジャー、マイナー)
14. コードネームを用いた即興2(オーギュメント、ディミニッシュ)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の課題に真摯に取り組み、練習してくること。(目安1時間)
課題発表日に欠席した場合、必ず翌週行なう。

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度と小テスト、まとめテスト等で総合的に評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『これからはじめる即興演奏』(馬淵明彦・杉本明著/スタイルノート)

◆参考図書◆

『キーボード・ハーモニーによる即興演奏』(ソル・ヴァーコヴィッツ著、江崎正剛訳/創芸書房)

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。毎回授業に出席すること。

ナンバリング	ECS021N		
科目名	音楽教育演習(即興演奏法)Ⅱ		
科目詳細	2I		
担当教員	伊藤 仁美		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

本授業では幼児の豊かな音楽表現を引き出すことのできる、様々な音楽の諸要素を取り入れた即興演奏能力と、幼児の多様な即興表現に呼応する応用力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス ダルクローズリミックと即興演奏(インプロヴィゼーション)
2. リズムインプロヴィゼーションの基礎
3. リズムインプロヴィゼーションの応用
4. リズムインプロヴィゼーションの発展
5. メロディインプロヴィゼーションの基礎
6. メロディインプロヴィゼーションの応用
7. メロディインプロヴィゼーションの発展
8. クラス内発表
9. 絵本をモチーフにした即興演奏1(乗り物の絵本)
10. 絵本をモチーフにした即興演奏2(動物の絵本)
11. 絵画をモチーフにした即興演奏3(グラフィックの絵本)
12. 音楽と動き1(動きに音楽をつける)
13. 音楽と動き2(音楽に動きをつける)
14. クラス内発表の練習
15. クラス内発表および試験

◆準備学習の内容◆

毎回の課題に真摯に取り組み、練習してくること。(目安1時間)
課題発表日に欠席した場合、必ず翌週行なう。

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度と小テスト、まとめテスト等で総合的に評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『これからはじめる即興演奏』(馬淵明彦・杉本明著／スタイルノート)

◆参考図書◆

『キーボード・ハーモニーによる即興演奏』(ソル・ヴァーコヴィッツ著、江崎正剛訳／創芸書房)

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。毎回授業に出席すること。

ナンバリング	ECL030N		
科目名	幼児と健康		
科目詳細			
担当教員	山本 智子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目まの実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

幼児の健康・発育・発達と保育について説明できる。保育環境の衛生管理・安全管理について説明できる。

◆授業内容・計画◆

- 授業内容
- 幼児の健康について学習する。
- 授業計画
- 第1回:ガイダンス
- 第2回:乳児期を中心に心身の健康を支援する制度(母子保健)
- 第3回:乳幼児期を中心とする心の発達と健康
- 第4回:乳幼児期を中心とする子どもの事故と予防
- 第5回:乳幼児期を中心とする心身の健康にかかわる救急処置
- 第6回:乳幼児期を中心とする健康管理にかかわる実施体制
- 第7回:乳幼児期を中心とする個人および集団の心身の健康と安全管理

◆準備学習の内容◆

復習を中心に取り組んでください(少なくとも1時間程度)。授業の理解を支援するために、課題を課することがあります。

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書を使用しません。 必要に応じて資料等を案内します。

◆参考図書◆

- 『子どもの遊びを考える 「いいこと思いついた！」から見えてくること』佐伯胖編著(北大路書房)2023.
- 『子どもが中心の「共主体」の保育へ 日本の保育アップデート!』大豆生田啓友監修(小学館)2023.
- 『子どもの健康と安全』『最新保育士養成講座』総括編纂委員会編(全国社会福祉協議会)2024.
- 『もしものときにすぐ動ける 応急処置52シーン』三上剛人・田口裕紀子編(日本看護協会出版会)2023.
- 『チャイルドヘルス 子どもと毒』伊原崇晃編(診断と治療社)2024・6.
- 『基礎看護実技』山本智子(北樹出版)2022.
- その他の参考文献については授業において紹介します。

◆留意事項◆

乳幼児教育にかかわる学習は、子どもの理解から始まります。ボランティアやインターンシップ等での幼児と健康にかかわる教育活動を通して、子どもと定期的に交流する機会をもってください。

ナンバリング	ECL036N		
科目名	保育内容「健康」の指導法		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

領域「健康」について、意義・ねらい・内容を理解するとともに、養護と教育に関わる保育の内容がそれぞれに関係性をもち、総合的に保育を展開して行くための知識、技術、判断力を養う。子どもの発達を「健康」の領域から捉えた保育について考える。

◆授業内容・計画◆

第1回:保育内容「健康」の指導法とは
第2回:領域「健康」①ねらい・内容、歴史的変遷について
第3回:領域「健康」②他領域との関連、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、小学校との接続
第4回:子どもの健康と遊びの指導と援助①遊びの意義
第5回:子どもの健康と遊びの指導と援助②指導上の留意点と配慮
第6回:事例検討①遊びのなかの学び
第7回:事例検討②最新保育事情と遊び
第8回:さまざまな運動遊び
第9回:保育における運動遊びの実践
第10回:安全にかかわる指導
第11回:事例検討③最新保育事情と運動遊び
第12回:基本的生活習慣にかかわる指導①教材研究
第13回:基本的生活習慣にかかわる指導②教材研究と指導計画作成
第14回:基本的生活習慣にかかわる指導②模擬保育と省察
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験(30%)、指導案作成・模擬保育の実施(30%)、授業への取り組み(40%)により総合的に評価する。
課題等には適宜評価を行い、フィールドワークを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL031N		
科目名	幼児と人間関係		
科目詳細	前期前半7回の授業		
担当教員	林 浩子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第1回: 幼児を取り巻く社会、地域、家庭の人間関係の現代の特徴とその社会的背景を考える
 第2回: 人との関りの育ちを見る関係発達論的視点を理解する
 第3回: 人との関りの発達の道筋と援助 (1) 乳児期
 第4回: 人との関りの発達の道筋と援助 (2) 幼児期
 第5回: 事例検討 (1) 幼児の自立心の育ちと発達の姿
 第6回: 事例検討 (2) 幼児の協同性の育ちと発達の姿
 第7回: 事例検討 (3) 幼児の道徳性・規範意識の芽生えと発達の姿
 第8回: 幼児と人間関係の課題
 定期試験

◆準備学習の内容◆

授業内で次の講義内容と関連する資料と課題を提示する。それを読み、自分なりに問いを持って授業に臨むこと(準備学習1時間)。

◆成績評価の方法◆

定期試験(50%)、授業内小テスト(30%)、討議や授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2018 (フレーベル館)
 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省
 『保育指針解説』厚生労働省
 その他、授業内で資料を配布する。

◆参考図書◆

『子どもを人間としてみる』佐伯胖 2013(ミネルヴァ書房)
 『幼児教育へのいざない 増補改訂版: 円熟した保育者になるために』佐伯胖 2014(東京大学出版会)

◆留意事項◆

授業内で行うミニテストを受け、合格点に達しない場合は単位は認められない。

ナンバリング	ECL037N		
科目名	保育内容「人間関係」の指導法		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させ理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する課程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業計画

- 第1回:幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する
- 第2回:領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する
- 第3回:幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校の生活や教科等とのつながりを理解する
- 第4回:幼稚園教育における評価の考え方に基づいた、子供どもの人との関わりの育ちを見る視点を考える
- 第5回:子どもの人との関わりの育ちを支える援助理論を理解する (1)ケアリングの視点
- 第6回:子どもの人との関わりの育ちを支える援助理論を理解する (2)二人称的アプローチ
- 第7回:事例検討 (1)人との関わりに困難を抱える子どもの理解と援助
- 第8回:事例検討 (2)人との関わりにおける子どもの葛藤体験の意味と援助
- 第9回:事例検討 (3)子どもの人との関わりを育てる教師の連携
- 第10回:人との関わりを育てる具体的保育を想定した指導案を作成する
- 第11回:人との関わりを育てる情報機器や教材の活用を知る
- 第12回:具体的保育を想定した教材を作成する
- 第13回:情報機器や教材を用いた模擬保育を行う
- 第14回:模擬保育とその振り返りと保育内容「人間関係」の指導法の課題を考える
- 第15回:定期試験

◆準備学習の内容◆

授業内で次の講義内容と関連する資料を配布する。それを読み、自分なりに問いを持って授業に臨むこと(準備学習1時間)。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、授業態度)と試験で総合的に評価する。
授業後のコメントシートで出された各自の問いや学びは授業内でコメントしたり、全体でディスカッションを行ったりしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)
『保育所保育指針解説書』厚生労働省(フレーベル館)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)
その他、必要に応じて資料を配布します。

◆参考図書◆

『共感 育ち合う保育の中で』佐伯胖著(ミネルヴァ書房).
『人間関係の指導法』若月・岩田編著(玉川大学出版部).
『裸で育て君らしくー大阪・アトム協同保育所』NHK「子どもプロジェクト」.

◆留意事項◆

講義だけではなく、保育現場の映像を見たり、グループに分かれて実践事例を読み解いたりしながらディスカッションを行っていきます。授業への積極的な参加を望みます。

ナンバリング	ECL032N		
科目名	幼児と環境		
科目詳細	前期後半7回の授業		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技術を身につける。特に、領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりを理解する。

◆授業内容・計画◆

第1回:現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題:環境の諸側面、知識基盤社会、ESD、SDGs等
第2回:乳幼児の発達における環境との関わり:乳幼児の環境との関わりを考える心理学的視点
第3回:乳幼児期・児童期の認知発達
第4回:乳幼児の物理的、数量・図形とのかかわりと具体的な活動(おもちゃづくり等)
第5回:乳幼児の生物・自然とのかかわりと具体的な活動(1)自然物を使った遊び等
第6回:乳幼児の生物・自然とのかかわりと具体的な活動(2)自然体験活動等
第7回:乳幼児の標識・文字等とのかかわり:乳幼児を取り巻く標識・文字環境と、それらに関わる具体的な活動(生活の中の標識・文字探し等)
第8回:乳幼児の情報・施設とのかかわり:乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらに関わる具体的な活動(施設見学、遊び場マップ作成)

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)(40%)、発表(20%)、筆記試験(40%)を総合的に評価する。
課題等についてはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

- ・教材研究のために制作を行います。授業中に指示された用品を必ず持参してください。
- ・グループワークを実施します。積極的に参加してください。

ナンバリング	ECL038N		
科目名	保育内容「環境」の指導法		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された「環境」のねらい及び内容について理解を深める。また、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回:幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する
第2回:領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が環境に関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する
第3回:幼稚園教育における評価の考え方に基づいた、幼児と環境との関わりへの育ちを見る視点や評価を考える
第4回:幼児期の環境との関わりと、小学校の生活や教科等へのつながりを理解する
第5回:事例検討(1)園内のものや場のかかわりと援助
第6回:事例検討(2)自然との関わりの意味と援助
第7回:事例検討(3)園外の場合や施設とのかかわりと援助
第8回:事例検討(4)数量や図形、標識・文字等に関わる保育の実際と援助(小学校との接続、情報機器の活用を考える)
第9回:事例検討(5)生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際と援助(身近な情報や、日本文化・異文化に触れる活動)
第10回:環境との豊かな関わりを生み出す情報機器の活用を考える
第11回:情報機器を用いた教材を作成する
第12回:身近な素材や自然物を用いた教材を作成する
第13回:環境とのかかわりを豊かにする具体的な保育を構想し、指導案を作成する
第14回:模擬保育とその振り返りを通して、主体的・対話的に保育を改善する視点を身に付ける
第15回:環境に関わる現代的課題と保育内容「環境」の指導法の課題を考える

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので、各自で予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

レポート試験(30%)、指導案作成・模擬保育の実施(30%)、討議・授業への取り組み(40%)を総合的に評価する。
課題等には適宜講評を行い、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

・教材研究のために制作を行います。授業中に指示された用品を必ず準備してください。

ナンバリング	ECL033N		
科目名	幼児と言葉		
科目詳細	前期7回の授業		
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-B13	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を理解する。

◆授業内容・計画◆

第1回:人間にとって「言葉」とはなにか:人間にとっての言葉の意義と機能
第2回:子どもは言葉をどのように獲得するのか:子どもの言葉の発達
第3回:「言葉に対する感覚」とはなにか:言葉の美しさ、楽しさを感じる(演習)
第4回:言葉に対する感覚を豊かにする実践(1)言葉遊び、保育への取り入れ方
第5回:言葉に対する感覚を豊かにする実践(2)言葉遊び(演習)
第6回:幼児にとっての児童文化財(1)幼児にとっての児童文化財の意義
第7回:幼児にとっての児童文化財(2)児童文化財の種類、歴史
第7回:幼児にとっての児童文化財(3)児童文化財の保育への取り入れ方

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)30%、発表30%、筆記試験40%を総合的に評価する。
課題にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL039N		
科目名	保育内容「言葉」の指導法		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	1年3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児の言葉を取り巻く現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:領域「言葉」(1)幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい、内容
第2回:領域「言葉」(2)他領域との関連、「幼児の終わりまでに育て欲しい姿」との関連、小学校との接続
第3回:子どもの言葉の発達と評価
第4回:言葉を豊かにする環境構成と援助(1)言葉による伝え合いを育む援助
第5回:言葉を豊かにする環境構成と援助(2)言葉のすれ違いやうまく伝わらない際の援助
第6回:言葉を豊かにする環境構成と援助(3)文字等で伝える楽しさを生み出す援助(情報機器の活用を考える)
第7回:言葉を豊かにする環境構成と援助(4)ごっこ遊び(事例検討)
第8回:子どもにとっての児童文化財(1)児童文化財の意義
第9回:子どもにとっての児童文化財(2)教材研究、指導案立案(情報機器の活用を考える)
第10回:子どもにとっての児童文化財(3)模擬保育と振り返り
第11回:言葉に対する感覚を豊かにする実践(1)言葉遊びの意義
第12回:言葉に対する感覚を豊かにする実践(2)言葉遊びの指導案立案(情報機器の活用を考える)
第13回:言葉に対する感覚を豊かにする実践(3)模擬保育と振り返り
第14回:言葉をめぐる現代的課題
第15回:特別な配慮が必要な幼児への指導

◆準備学習の内容◆

- (事前学習) 次回の講義内容を提示するので予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

レポート試験(30%)、指導案作成・模擬保育(50%)、授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。
課題にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

資料を配布する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

- ・児童文化財の作成があります。授業時に指示された用品は必ず準備してください。
- ・児童文化財の実演発表を実施します。早めの準備を行うこと。

ナンバリング	ECL034N		
科目名	幼児と表現A		
科目詳細	前期後半7回の授業		
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児は様々な音や音楽と出会い、心を動かされる。そして感じたことを「動く、歌う、話す、弾く」などの音楽的行為で表現する。本授業では幼児期における豊かな表現活動の在り方について検討する。

◆授業内容・計画◆

- (1) 授業の進め方
- (2) 幼児期における「音・音楽との出会い」(聴くこと)
- (3) 幼児期における「音・音楽への気づき」(知覚すること)
- (4) 幼児期における「音・音楽との一体感」(動く、感じる、歌う、弾く等の音楽反応)
- (5) 幼児期における「音・音楽への理解」(把握すること)
- (6) 幼児期における「音・音楽の想像的・創造的な表現」(弾く、音楽づくり等)
- (7) 幼児の表現活動における保育者の役割
- (8) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内では小テストを実施する。必ず復習をして授業にのぞむこと(目安は60分間)。

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度と小テスト、まとめテスト等で総合的に評価する。
授業内での討論やコメントシートに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ①『こどもの歌200』・『続こどもの歌200』(小林美実編著/チャイルド本社)
- ②『1～5歳児がよろこぶ 保育ではじめてリトミック』(神原雅之・伊藤仁美/チャイルド本社)

◆参考図書◆

授業内で提示する。

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。毎回授業に出席すること。

ナンバリング	ECL035N		
科目名	幼児と表現B		
科目詳細	前期前半7回の授業		
担当教員	島田 由紀子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-B13	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

領域「表現」に関する幼児の造形表現の発達や、幼児の感性や創造性を豊かにする造形遊びなど、専門的事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

1. 豊かな感性を育む乳幼児期の造形表現
2. 自分自身の表現を感じる・みる・楽しむ―形と色を探る
3. 素材との応答―モノの特性を活かした造形表現
4. 身近な素材を活かした表現活動について学ぶ
5. 他者との応答―ヒトと協働し合う表現
6. 造形表現の基礎的知識と技能①技法遊び
7. 造形表現の基礎的知識と技能②ICT
8. まとめ

◆準備学習の内容◆

学びを振り返りまとめる(30分程度)。授業内試験のための学習(2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内試験(40%)、授業の課題提出(30%)、授業での取り組み(30%)を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「子どもと表現」島田由紀子・駒久美子編著(中央法規出版)

◆参考図書◆

「コンパス・表現」 島田由紀子・駒久美子編 建帛社、幼稚園教育要領

◆留意事項◆

積極的な授業参加を求めます。授業に必要な教材の用意が必要になります。

ナンバリング	ECL040N		
科目名	保育内容「表現」の指導法		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美, 島田 由紀子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-13	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

(1)幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させ理解を深める。(2)幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- (1) 音楽的表現の指導計画とは
- (2) 音楽的表現の活動一事例①歌あそび
- (3) 音楽的表現の活動一事例②身体表現
- (4) 音楽的表現の活動一事例③音楽づくり
- (5) 指導案の作成
- (6) 指導案による模擬保育
- (7) 発表および後半のまとめ
- (8) 保育者の造形表現遊びの支えについて考える
- (9) 身近な素材を使った造形表現活動を考える
- (10) 指導案の作成、及び教材研究について考える①ICTの活用
- (11) 指導案の作成、及び教材研究について考える②多様な子どもへの援助
- (12) 指導案の作成、及び教材研究について考える②幼保小の接続
- (13) 指導案をもとに模擬保を行う①
- (14) 指導案をもとに模擬保を行う②
- (15) まとめ

◆準備学習の内容◆

学びの振り返りを毎回ワークシートなどにまとめる(目安30分)。指導案を考える(目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

ワークシートなどの提出物返却と講評、教材研究や授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

- (1)「子どもと表現」島田由紀子・駒久美子編著(中央法規出版)
- (2)『こどものうた200』『続こどものうた200』(小林美実編著／チャイルド本社)
- (3)『1～5歳児がよろこぶ 保育ではじめてリトミック』(神原雅之・伊藤仁美著／チャイルド本社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	ECL424N		
科目名	幼児教育課程論		
科目詳細			
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼稚園における教育課程の意義を理解するとともに、幼稚園教育の基本を踏まえた幼稚園における指導の考え方にに基づいた指導計画や幼児の発達を見通した指導計画の作成について理解する。

◆授業内容・計画◆

第1回:幼稚園教育要領の性格及び位置づけを理解する(1)遊びを通した総合的な指導の意義と教師の役割
第2回:幼稚園教育要領の性格及び位置づけを理解する(2)5領域のねらい及び内容とその関連、小学校への接続
第3回:幼稚園教育要領の性格及び位置づけを理解する(3)幼稚園教育における幼児理解と評価
第4回:幼稚園教育要領の改訂の変遷及び改定内容とその社会的背景
第5回:教育課程編成の目的と基本原理を理解する(1)幼児や地域の実態から教育課程と指導計画を考える
第6回:教育課程編成の目的と基本原理を理解する(2)領域及び学年を横断した教育課程と指導計画を考える
第7回:カリキュラムマネジメントの意義や重要性を理解する
第8回:カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する
第9回:長期の指導計画とカリキュラムマネジメント(1)3歳児
第10回:長期の指導計画とカリキュラムマネジメント(2)4歳児
第11回:長期の指導計画とカリキュラムマネジメント(3)5歳児
第12回:長期の指導計画と短期の指導計画の関係を考える
第13回:短期の指導計画の実践(1)日案の作成と評価
第14回:短期の指導計画の実践(2)活動別の部分案の作成と評価
第15回:指導計画の課題

◆準備学習の内容◆

(事前学習) 次回の講義内容を提示するので予習をする(1時間)
(事後学習) 講義内容をまとめる(1時間)

◆成績評価の方法◆

定期試験(40%)、課題作成の実施(40%)、討議や授業への取り組み(20%)を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL425N		
科目名	幼児教育方法論		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第1回:教育方法の基礎的理論と実践を理解する
第2回:主体的・対話的で深い学びが生まれる教育方法の在り方について理解する
第3回:保育を構成、展開する上での環境の意味と教材の関係について理解する
第4回:保育における育みたい資質・能力について理解する
第5回:保育における幼児理解に基づいた評価の基礎的な考えを理解する
第6回:保育を行う上での指導技術を身に付ける (1)「話す」ことと「聴く」こと
第7回:保育を行う上での指導技術を身に付ける (2)OHPやOHCを利用した保育の展開
第8回:保育を行う上での指導技術を身に付ける (3)パソコンを利用した保育の展開
第9回:保育を行う上での指導技術を身に付ける (4)音楽機器を利用した保育の展開
(1)～(4)のうち指導案を一つ作成する。
第10回:情報機器及び教材の活用 (1)子どもの興味・関心を高めたりするための情報機器を活用した教材を考える
第11回:情報機器及び教材の活用 (2)子どもの学びをふりかえるための情報機器を活用した教材を考える
第12回:情報機器及び教材の活用 (3)子どもの体験を広げるための情報機器の活用した教材を作成する
第13回:作成した教材の発表と模擬保育を行う
第14回:作成した教材と模擬保育を振り返る
第15回:子どもたちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解する

◆準備学習の内容◆

授業内で次の授業に関連するトピックス、及び課題を伝え、それについて各自、事前に調べてくる(目安30分)。

◆成績評価の方法◆

平常点50%(授業への取り組み、授業態度)と提出された課題50%で総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストは使用せず、授業内で資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で教示する。

◆留意事項◆

色々な機器に触れ、それを使い教材を作成したり、その教材の使い方を実際に触れながら時系列に学んでいく。そのため、欠席をすると学びの継続が困難になることを周知しておく。また、課題は提出しなければ単位は認められない。

ナンバリング	ECL413N		
科目名	幼児理解と教育相談		
科目詳細	2名の教員が担当する		
担当教員	林 浩子, 丹羽 さがの		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼稚園や保育園といった保育の現場では、子どもに寄り添い、保護者の悩みに耳を傾ける姿勢が求められる。言い換えれば、カウンセリングに関する知識や技能が保育者には必須であるといえる。そこでこの授業では、カウンセリングに関する基本的な知識や技能を身につけ、それを実践できるようになることが目標である。

◆授業内容・計画◆

以下の計画に沿って授業を進める

- 第1回 子どもを理解する①「みる」とは？
- 第2回 子どもを理解する②ケアリングの視点
- 第3回 子どもを理解する③二人称的アプローチ
- 第4回 子どもを理解する④記録と考察
- 第5回 実践事例を読み解く①ちょっと気になる子ども
- 第6回 実践事例を読み解く②障害のある子ども
- 第7回 実践事例を読み解く③子ども同士の関わり
- 第8回 保育の場における相談ニーズとカウンセリングマインド
- 第9回 保育場面でのカウンセリング技法の活用①カウンセリングの基本的事項
- 第10回 保育場面でのカウンセリング技法の活用②カウンセリングの技法
- 第11回 専門家との連携による相談・支援
- 第12回 保育者の専門性と相談活動
- 第13回 基礎的対人関係のトレーニング①選択し、説明する ②相手を受け入れられない時
- 第14回 基礎的対人関係のトレーニング③嫌な気持ちへの対処 ④相手の視点に立つ
- 第15回 まとめと試験

◆準備学習の内容◆

参考資料をあらかじめ配布するので、授業までにしっかりと読んでおくことが基本である(準備学習1時間)。

◆成績評価の方法◆

試験によって評価する。
授業でのコメントシートで出た各自の問いや学びを授業内で取り上げ、ディスカッションを行ったりコメントしたりしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを用いる。

◆参考図書◆

『子どもの理解と保育・教育相談』2008 小田豊・秋田喜代美(編)(株)みらい。

◆留意事項◆

授業時間開始と同時に出席をとる。遅刻は認めない。

ナンバリング	ECL414N		
科目名	教育実習 I		
科目詳細	3I		
担当教員	林 浩子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼稚園教諭の仕事は多岐にわたる。教育実習 I では、次にあげる二つの目標を立てる。(1)保育中の働きだけではなく、保育前の環境の準備、保育後と片づけや反省、翌日の保育の準備、園の運営に係る事務など、幼稚園教諭の多岐にわたる仕事を間近に見て知る。(2)保育の中で子どもが活動する姿と教師の働きを間近に観察しながら、今、この瞬間を生きる子どもの心の動きを感じ取りながら、教師の援助の在り方を読み取り、実習録に記録として残す。なお、授業では、1週間の幼稚園実習を突りあるものにするために、実習記録の書き方、保育の仕事の楽しさと厳しさ、教諭としての服務態度、子ども理解の深め方を修得する。

◆授業内容・計画◆

第1回:実習のスケジュールと本授業の計画・実習の準備について
第2回:幼稚園教育実習の目的と方法:ビデオ視聴
第3回:幼稚園の現場を知る(1)
第4回:幼稚園の現場を知る(2)
第5回:実習記録①実習記録の目的と視点
第6回:実習記録②時系列記録
第7回:実習記録③エピソード記録
第8回:実習記録④環境・遊びマップ
第9回:実習記録⑤ドキュメンテーション
第10回:指導計画①指導案の立て方、指導案立案の手順
第11回:指導計画②部分実習指導案の作成 その1
第12回:指導計画③部分実習指導案の作成 その2
第13回:指導計画④部分実習指導案の作成 その3
第14回:実習事前指導
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

今回の講義内容と関連する部分を毎回提示する。その部分を読み要点を掴むとともに、自分にとっての疑問点を明らかにして講義に臨むこと(準備学習1時間、課題学習1時間)。

◆成績評価の方法◆

実習園の評価、オリエンテーション参加、授業内討議への参加、課題(提出物)によって総合的に評価する。課題等にはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『教育実習ハンドアウト』(幼児音楽教育専攻教員作成、授業内配布)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

- ・責任感と熱意を持って取り組むこと。
- ・社会人としてのマナーを遵守すること。
- ・教育実習に関する連絡を見落とさないようにすること。メールは常に確認すること。
- ・提出物の期限を厳守すること。

ナンバリング	ECL415N		
科目名	教育実習Ⅱ		
科目詳細	41		
担当教員	林 浩子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

教育実習Ⅰでの学びを深めるための3週間の実習と、その事前、事後指導を中心とする。保育の場合は、子どもと子ども、子どもと大人（保育者・親）、大人と大人の間の関わり合いから、それぞれの学びが生まれる共同の学びの場である。この学びの共同体に自分の目的意識を持って積極的に参加し、そこでの自分のかかわりを省察し、幼稚園教諭の仕事を内側から知り、保育者としての課題を見つける。

◆授業内容・計画◆

第1回:教育実習Ⅱの意義と服務、実習のスケジュール
第2回:教育実習録Ⅰの分析と教育実習Ⅱの課題の理解
第3回:指導計画の作成と演習(1)日々の記録から計画へ
第4回:指導計画の作成と演習(2)部分実習指導案の作成
第5回:指導計画の作成と演習(3)責任実習指導案の作成
第6回:指導計画の作成と演習(4)責任実習指導案の発表とまとめ
第7回:実習(園の見学と部分実習の準備)
第8回:実習(部分実習)
第9回:実習(責任実習)
第10回:実習体験のまとめとグループによる話し合い(1)振り返りの作成と相互報告
第11回:実習体験のまとめとグループによる話し合い(2)相互報告とまとめ
第12回:実習の反省と自己課題のまとめ
第13回:実習の成果レポートの作成
第14回:レポートのクラス内発表
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト3冊のうち次の講義内容と関連する部分を毎回提示する。その部分を読み、要点を掴むとともに、自分にとっての疑問点を明らかにして講義に臨むこと(準備学習1時間、課題学習1時間)。

◆成績評価の方法◆

実習幼稚園による評価を基本とし、準備段階と実習後の課題提出、授業への参加度を総合して評価する。各自の課題における問いや学びを、クラス全体で取り上げディスカッションを行ったり、コメントしたりしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

(1)『教育実習ハンドアウト』(教育実習Ⅰで使用したもの)

◆参考図書◆

『幼稚園教育指導資料第1集指導計画の作成と保育の展開』文部科学省(フレーベル館)
『幼稚園教育指導資料第3集幼児理解と評価』文部科学省(フレーベル館)

◆留意事項◆

実習は実習園の完全な好意によって成り立っている。この好意に応える熱意と責任感を持っていない場合は、単位取得は難しいことを十分に自覚して授業と実習に臨んで欲しい。

ナンバリング	ECL416N		
科目名	教職実践演習(幼稚園)		
科目詳細	教育実習Ⅱ履修者のみ		
担当教員	林 浩子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

個々の子どもの特性に応じた対応と集団指導の両立、家庭との連携、子どもの安全等に関するさまざまな事例の検討、討議を通じて、(1)教員の役割(2)教職の意義(3)職務内容等を総合的に理解しているか、また、理解内容を保育の実践に適切にいかすことができるかを確認する。最終的に、個々の子どもの特性や状況に応じた指導力を高め、保護者との連携や対応の在り方を身に付けることで、クラスを運営する力を高めることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

第1回:教職実践演習の授業の目的と目標
第2回:教育実習の反省と履修ノートによる自己把握
第3回:事例検討(1)計画的な環境構成とは
第4回:事例検討(2)保育環境をデザインする
第5回:事例検討(3)一人一人に応じた指導を考える
第6回:事例検討(4)個と集団を考える
第7回:事例検討(5)造形活動の中の個別の子ども理解と指導
第8回:事例検討(6)音楽活動の中の個別の子ども理解と指導
第9回:事例検討(7)特別支援を要する子どもの理解と援助
第10回:事例検討(8)保育における行事の意味
第11回:事例検討(9)家庭との連携を考える—保護者対応—
第12回:事例検討(10)保幼稚小連携の意味と実際
第13回:学級経営と評価
第14回:保育者の省察と成長
第15回:まとめ(授業のまとめと履修ノートの完成)

◆準備学習の内容◆

(事前学習:1時間)毎回、次の授業のテーマに関する課題を出す。そのテーマについて、実習でのエピソードや疑問点をまとめて授業に参加すること。(事後学習:1時間)授業を受けて、実習で実践的に学んだことがどのように自分の中で明確になったのかをワークシートにまとめる。

◆成績評価の方法◆

討議への積極的な参加度、授業毎のワークシートの作成と提出、期末レポートを総合して評価する。授業毎の各自のワークシートは次の授業時に話題として取り上げたり、コメントしていく。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内で紹介します。

◆留意事項◆

教職に関わるすべての科目のまとめを行うとともに、保育者としての総合的な実践的な力をつけることを目指す。出席と討議への参加度を重視する。

ナンバリング	ECL426N		
科目名	幼児教育の体験活動A		
科目詳細			
担当教員	八幡 真由美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

教育実習履修にあたり、幼稚園教員として幼児の安全と安心への意識向上とそのための知識や技能の習得を目指す。また、特別支援学校における活動を体験し、特別な支援を必要とする幼児に対する理解と支援について知識や理解を深めることで実践力を身につける。

◆授業内容・計画◆

授業内容

1. 公益財団法人・東京防災救急協会主催の上級救急救命講習（8時間）を受講し、「救命技能認定証」を取得する。
2. 特別支援学校で体験活動を行い、子どもや特別支援教育に関する知識や理解を深める。

授業計画

第1回: 授業ガイダンスと救急救命講習参加の事前指導

第2回: 東京防災救急協会主催の上級救急救命講習
（1）救命の意義

第3回: （2）乳児・幼児の心肺蘇生およびAEDの使い方

第4回: （3）異物除去および止血法

第5回: （4）傷病者管理

第6回: （5）外傷の応急処置

第7回: （6）外傷時の搬送法

第8回: （7）「救命技能認定」試験を受験し、「救命技能認定証」を取得する。
第9回: 事後指導

第10回: 特別支援学校における体験活動の学内事前指導

第11回: 特別支援学校における体験活動の実施
（1）特別支援学校の目的や役割を学ぶ

第12回: （2）クラスに入り、授業の様子や個別支援について学ぶ

第13回: （3）質疑応答

第14回: 特別支援学校における体験活動の学内事後指導（討議を行いレポートを作成する）
第15回: 「幼児教育の体験活動A」のまとめ
定期試験: レポート試験

◆準備学習の内容◆

事前・事後の学習等を活用して予習および復習に取り組んでください。（少なくとも2時間程度）
理解を支援するために、課題を課すことがあります。

◆成績評価の方法◆

事前の指導への取り組み（20％）、体験活動での取り組み（50％）、事後の指導での取り組み（30％）により総合的に評価します。
課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書（使用テキスト）◆

プリントを配布します。

◆参考図書◆

参考図書については授業内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

特別支援教育の学習は、特別の支援を必要とする子どもの理解から始まります。体験活動の他に、ボランティアやインターンシップ等を通して、子どもたちと定期的に交流する機会をもってください。

ナンバリング	ECL427N		
科目名	幼児教育の体験活動B		
科目詳細			
担当教員	林 浩子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

様々な現場や施設を見学し、それぞれの学校や施設の専門員の話聞くことで、幼稚園教員として領域及び保育内容の具体的実践や指導法を高めていくのに必要な知識や技能を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

第1回:授業ガイダンスと事前指導(保育所並びに認定子ども園の保育の目的と機能を理解する)
第2回:見学(1)保育所並びに認定子ども園
第3回:環境並びに保育士、保育教諭の役割を学ぶ
第4回:保育所並びに子供園見学事後指導(幼稚園との差異と連携の意味について討議する)
第5回:小学校見学の事前指導(小学校学習指導要領を読み、小学校教育の目的を理解する)
第6回:見学(2)小学校

第7回:教科の意味やその指導について学ぶ
第8回:小学校見学事後指導(幼稚園の領域と小学校の教科の繋がりについて討議する)
第9回:児童文化財出版社見学事前指導
第10回:見学(3)児童文化財出版社
第11回:児童文化財出版社見学事前指導(討議とまとめ)
第12回:園外保育の事前指導(園外保育の意味と実施の注意点について学ぶ。)
第13回:見学(4)園外施設見学と施設スタッフの講義
第14回:園外保育の意味と計画
第15回:園外施設の事後指導(討議とまとめ)

◆準備学習の内容◆

事前・事後の学習等を活用して予習および復習に取り組んでください。(少なくとも2時間程度)
理解を支援するために、課題を課すことがあります。

◆成績評価の方法◆

レポート試験(50%)、討議・授業への取り組み(50%)を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

文部科学省『小学校学習指導要領(平成30年)』。
厚生労働省『保育所保育指針(平成30年)』。
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領(平成30年)』。
その他、授業内で資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

特別支援教育の学習は、特別の支援を必要とする子どもの理解から始まります。体験活動の他に、ボランティアやインターンシップ等を通して、子どもたちと定期的に交流する機会をもってください。

ナンバリング	ECL024N		
科目名	美術A		
科目詳細			
担当教員	笹野井 もも		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	5-B13	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

美術教育が担う役割は多様であるが、この授業では様々な美術作品の制作をするなどして、学生自身の感性を高めることや自己発見を促すことと同時に、教育者として必要な基礎造形の知識と技術を身につけることを主眼としている。美術演習に対して苦手意識を持つものほど履修してほしい。なぜならば、教師の苦手意識はそのまま子どもたちに反映されるからである。また音楽の専門家としての視点をもって、美術に取り組んだ時、芸術としての共通点を見出し、自身の専門性へフィードバックされることもねらいとしている。美術Aは平面的な課題を主に扱い、色彩や形について造詣を深め、まとめとしてオリジナル絵本を制作する。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.平面・絵画表現について(講義と演習)
- 3.観察して描く①(デッサンによる表現)
- 4.観察して描く②(構図、空間、光の表現)
- 5.「音楽を表そう」色彩構成①(基本的な色彩論)
- 6.「音楽を表そう」色彩構成②(制作・トータルカラーを使用し、色を選択する)
- 7.「音楽を表そう」色彩構成③(制作・デザインに合わせてカットする)
- 8.「音楽を表そう」色彩構成④(制作・台紙に貼り構成する)
- 9.造形的な視点からみた絵本の種類と特徴について
- 10.ミニチュア絵本で装丁を学ぶ
- 11.紙で作る仕掛けを学ぶ
- 12.オリジナル絵本①(制作・絵コンテを描く)
- 13.オリジナル絵本②(制作・ページの描写)
- 14.オリジナル絵本③(制作・製本)
- 15.鑑賞会・まとめ

◆準備学習の内容◆

オリジナル絵本の内容を決め、紙、布などの素材を各自で購入すること(2時間)。図書館や書店などで参考になる絵本を探すこと(1時間)。

◆成績評価の方法◆

毎回進行状況に応じて随時課題を出し、作業に反映できるようにする。提出作品の内容と授業への参加状況を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて資料を配布する。

◆参考図書◆

『0歳からの表現・造形』皆本二三江編著(文化書房博文社)

◆留意事項◆

欠席が多いと提出作品(課題)の完成が難しくなり、成績に影響する。筆記用具は各自が用意すること。ガイダンスで説明するので、履修希望者はできる限り参加すること。美術Bと続けて履修することが望ましい。

ナンバリング	ECL025N		
科目名	美術B		
科目詳細			
担当教員	笹野井 もも		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	5-B13	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

美術教育が担う役割は多様であるが、この授業では様々な美術作品制作をするなどして、学生自身の感性を高めることや自己発見を促すことと同時に、教育者として必要な基礎造形の知識と技術を身につけることを主眼としている。美術演習に対して苦手意識を持つものほど履修してほしい。なぜならば、教師の苦手意識はそのまま子どもたちに反映されるからである。また音楽の専門家としての視点をもって、美術に取り組んだ時、芸術としての共通点を見出し、自身の専門性へフィードバックされることもねらいとしている。美術Aと異なる点は、主に立体の制作を行うことである。一般的に紙や描画材などの素材にはなじみがあるが、木や金属、粘土となると経験する機会が少なくなる。様々な素材に触れ、楽器を制作することで、自身の身近にある美術や工芸の魅力に気づいてほしい。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス、モノを作るためのデッサン①
2. モノを作るためのデッサン②
3. 「そっくり塑造」石粉粘土彫刻①(身近な食材を石粉粘土で作る)
4. 「そっくり塑造」石粉粘土彫刻②(乾燥させながら細かく造形する)
5. 「そっくり塑造」石粉粘土彫刻③(着色で質感を表現する)
6. 「楽器を作ろう～土の楽器～」陶芸①(導入・陶芸の基礎を学ぶ)
7. 「楽器を作ろう～土の楽器～」陶芸②(音が出るものを作る、土笛・土鈴の成型)
8. 「楽器を作ろう～土の楽器～」陶芸③(土笛・土鈴の成型・乾燥)
9. 「楽器を作ろう～土の楽器～」陶芸④(絵付け、施釉)／「そっくり塑造」石粉粘土彫刻④(作品にニスを塗って仕上げる)
10. 「楽器を作ろう～カリンバ～」①(導入・木工の基礎を学ぶ)
11. 「楽器を作ろう～カリンバ～」②(木工:デザインに合わせて製材、彫刻)
12. 「楽器を作ろう～カリンバ～」③(金工:真鍮棒を鍛造する)
13. 「楽器を作ろう～カリンバ～」④(木工:表面の加工、塗装)
14. 「楽器を作ろう～カリンバ～」⑤(組み立て)
15. 鑑賞会・まとめ、作って遊べる楽器、音具の紹介と制作

◆準備学習の内容◆

弥生笛とカリンバのデザインを考えること(各1時間)。

◆成績評価の方法◆

毎回進行状況に応じて随時課題を出し、作業に反映できるようにする。提出作品の内容と授業への参加状況を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて資料を配布する。

◆参考図書◆

『0歳からの表現・造形』皆本二三江編著(文化書房博文社)

◆留意事項◆

欠席が多いと提出作品(課題)の完成が難しくなり、成績に影響する。筆記用具は各自が用意すること。ガイダンスで説明するので、履修希望者はできる限り参加すること。美術Aと続けて履修することが望ましい。

ナンバリング	ECL422N		
科目名	児童文学A		
科目詳細			
担当教員	八幡 眞由美		
学年	3年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

前半はディズニー及びスタジオジブリを通して児童文学について理解を深める。後半は児童文学の種類や内容を学び、児童文学全般について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス 児童文学クイズ
第2回:ディズニー作品と児童文学①ディズニープリンセス
第3回:ディズニー作品と児童文学②「塔の上のラプンツェル」「リトルマーメイド」等
第4回:ディズニー作品と児童文学③「アナと雪の女王」
第5回:ディズニー作品と児童文学④「くまのプーさん」、「不思議の国のアリス」
第6回:スタジオジブリ作品と児童文学①となりのトトロ
第7回:スタジオジブリ作品と児童文学②魔女の宅急便
第8回:スタジオジブリ作品と児童文学③千と千尋の神隠し
第9回:スタジオジブリ作品と児童文学④ハウルの動く城
第10回:絵本①さまざまな絵本
第11回:絵本②絵本の視覚的表現
第12回:『赤い鳥』とその役割
第13回:大正から昭和にかけて活躍した童謡詩人①北原白秋・野口雨情・西條八十他
第14回:大正から昭和にかけて活躍した童謡詩人②金子みすゞ・武内俊子他
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習)各回の授業内容に応じて作品を読む。(1時間)
(事後学習)授業内で取り上げた作品や興味がある作品を読む。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート試験50%により総合的に評価する。
課題についてはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL428N		
科目名	児童文学		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは挿画家などとして活動した人物性豊かな教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基盤力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

前半はディズニー及びスタジオジブリを通して児童文学について理解を深める。後半は児童文学の種類や内容を学び、児童文学全般について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス 児童文学クイズ
第2回:ディズニー作品と児童文学①ディズニープリンセス
第3回:ディズニー作品と児童文学②「塔の上のラプンツェル」「リトルマーメイド」等
第4回:ディズニー作品と児童文学③「アナと雪の女王」
第5回:ディズニー作品と児童文学④「くまのプーさん」、「不思議の国のアリス」
第6回:スタジオジブリ作品と児童文学①となりのトトロ
第7回:スタジオジブリ作品と児童文学②魔女の宅急便
第8回:スタジオジブリ作品と児童文学③千と千尋の神隠し
第9回:スタジオジブリ作品と児童文学④ハウルの動く城
第10回:絵本①さまざまな絵本
第11回:絵本②絵本の視覚的表現
第12回:『赤い鳥』とその役割
第13回:大正から昭和にかけて活躍した童謡詩人①北原白秋・野口雨情・西條八十他
第14回:大正から昭和にかけて活躍した童謡詩人②金子みすゞ・武内俊子他
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

(事前学習)各回の授業内容に応じて作品を読む。(1時間)
(事後学習)授業内で取り上げた作品や興味がある作品を読む。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業貢献度(授業への取り組み、授業時に課す課題等)50%、学期末レポート試験50%により総合的に評価する。
課題についてはフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	ECL022N		
科目名	表現教育A		
科目詳細	幼児と美術		
担当教員	笹野井 もも		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-B13	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児教育に携わる者として、身近な素材や、描画材などから造形する知識と能力が求められるが、本授業では、単に知識・技能など造形力の向上を目指すだけでなく、子どもたちの成長にとって「なぜ必要なのか」、「なぜそうするのか」、といった発想力や想像力を念頭におきつつ学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス 造形と遊びについて(身の回りにあるもので作って遊ぶ)、造形教育の意義と歴史について
- 2.しかけのあるカード作り
- 3.手踊り人形①(劇遊びのための人形制作。物語から構想し、絵コンテ制作、人形のデザイン。)
- 4.手踊り人形②(人形の頭部の造形)
- 5.手踊り人形③(人形の頭部の造形、小道具の制作)
- 6.造形ワークショップの企画①(造形を通じた学びについて)
- 7.造形ワークショップの企画②(題材の検討・計画案の作成)
- 8.造形ワークショップの企画③(準備)
- 9.造形ワークショップの企画④(試行)
- 10.造形ワークショップの企画⑤(振り返り・計画案の推敲)
- 11.造形ワークショップの企画⑥(実践に向けて)
- 12.手踊り人形④(人形の組み立て、人形劇の練習①)
- 13.手踊り人形⑤(人形劇の練習②)
- 14.人形劇の上演・鑑賞会
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

手踊り人形、ワークショップ企画ともにグループワークで行う。各グループは協力・分担して参考資料を探すこと(2時間)。また、基本的な材料は授業で用意するが、手踊り人形の装飾など、各自で準備・購入が必要なものもある(2時間)。

◆成績評価の方法◆

毎回進行状況に応じて課題を出し、作業に反映させる。提出作品の内容と授業への参加状況を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて資料を配布する。

◆参考図書◆

『0歳からの表現・造形』皆本二三江編著(文化書房博文社)

◆留意事項◆

欠席が多いと提出作品(課題)の完成が難しくなり、成績に影響する。またグループワークが多いため、各グループは協力・分担して取り組むこと。バランスのとれた幼児教育者になるためには、美術A,Bも履修することが望ましい。

ナンバリング	ECL023N		
科目名	表現教育B		
科目詳細	幼児と演劇		
担当教員	杉山 りん		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

演劇ワークショップやダンスムーブメントを通して心身の緊張を解きほぐし、身体感覚を研ぎ澄ませ、表現することに対して自由で積極的な姿勢を養う。また、子どもを対象とした創造的身体表現遊びの実践事例に触れながら、活動の特徴や担い手として必要な力について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 本授業の理論的背景と実践紹介
2. 演劇ワークショップ・表現遊び
3. ドラマムーブメントの理論と実際(1)障がい児を対象とした実践から
4. ドラマムーブメントの理論と実際(2)地域子育て支援における実践から
5. ドラマムーブメントの理論と実際(3)共生・共創を目指した舞台づくりの実践から
6. 自分の身体でできることを知ろう(身体意識・空間意識の理解)
7. 「環境とのかかわり」をアレンジする(1)遊具とのかかわり
8. 「環境とのかかわり」をアレンジする(2)音・他者とのかかわり
9. 「動きの質」をアレンジする
10. 即興表現(「歩く」のエチュード)
11. ダンスムーブメントの基礎
12. グループワーク(1)即興表現とデッサン、フレーズから舞台作品の創作
13. グループワーク(2)作品発表と意見交換
14. グループワーク(3)ダンスムーブメント活動の計画
15. グループワーク(4)ダンスムーブメント活動の実践・まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で取り組んだ実技について継続的に取り組み、提示された参考資料について精読すること(目安30分)。
作品発表に向けたグループワークにおいては、創作のための準備や動きの修練を行うこと(目安60分)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みやグループワークにおける参加度、提出物から総合的に評価する。毎回の授業時のコメントシートと最終レポート課題を出し、随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。随時プリントを配布する。

◆参考図書◆

『発達障がい児の育成・支援とムーブメント教育』小林芳文・大橋さつき・飯村敦子編著(大修館書店)

◆留意事項◆

動きやすい服装で参加すること。

ナンバリング	ECL409N		
科目名	表現教育C		
科目詳細			
担当教員	ヒダノ 修一		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

日本最古の伝統楽器「太鼓」や和楽器全般の歴史や魅力を十分に理解し、自ら演奏が出来るようになり、それらを正しく指導出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

1. 「太鼓」をはじめとする様々な伝統楽器の紹介(歴史的な背景、演奏方法の基礎知識、楽器の構造の解説、世界の打楽器との相違等)および講師による模範演奏、参考映像鑑賞等。
2. ※この回から講義と実技が半分となる。講義「日本国内各地のお祭りや伝統行事と太鼓の関わり(映像資料や音源を用いて解説)」。太鼓実技1「身体全体を使ったリズム表現の実践」
3. 講義「日本国内および世界の”音楽としての”太鼓事情」。太鼓実技2「実際にバチを持ち、打ち方、構え方、音の出し方、掛け声の実践」
4. 講義「国内の教育現場における太鼓・和楽器の事情(実際に使われている教科書や指導書等の教材を見ながら講義)」。太鼓実技3「身体全体でテンポを刻みながら簡単な数種類のリズムを練習」
5. 講義「太鼓の種類とそれぞれの演奏方法の紹介」。太鼓実技4「伴奏リズムと主旋律リズムをいくつか紹介し、二重奏の実践」
6. 講義「リズムを演奏しながら歌を歌う日本の伝統的な手法を紹介・実演(北海道ソーラン節等)」。太鼓実技5「楽譜を使い短い基本エクササイズを練習」
7. 講義「太鼓と西洋音楽の融合作品の紹介(クラシック、J-POP、ジャズ、ロック等)」。太鼓の実技6「伝統的な鳴り物(金属楽器)の紹介、実践」
8. 講義「指導者としての話術・指導方法の実践」。太鼓の実技7「子どもと一緒に太鼓をたたき模擬授業の実践・指導法の研究」
9. 講義「リズムを作ってみよう。(様々なリズムを組み合わせた作曲・編曲の実践)」。太鼓の楽曲練習1「幼教Day発表に向けた練習を開始。楽曲の練習。構成、細かい手順、振付を確認」
10. 講義「個性を各々の表現方法を尊重し楽器演奏で具体化」。太鼓の楽曲練習2「創作リズムの授業内発表および意見交換、幼教Dayで演奏する作品に自作のリズムを取り入れる」
11. 講義「叩くだけではない様々な太鼓表現の紹介、実践」。太鼓の楽曲練習3「完成度を高めるために各パートを細かく再確認」
12. 講義「音楽表現における”演出”の重要性、自らをセルフプロデュースする方法・実践・参考例」、太鼓の楽曲練習4「振付を整え、腕や身体の動きを全員で確認。学生と一緒に演出を考える」
13. 講義「エンターテインメントとしての”太鼓音楽”の実例(映像資料を鑑賞)、パフォーマンス方法の実践」。太鼓の楽曲練習5「完成した楽曲を演奏し、意見交換するなど最終調整」、幼教Dayに向けた衣装決め。
14. 幼教Dayに向けた最終練習、演出・パフォーマンス精度の最終調整。
- 15.

◆準備学習の内容◆

授業で学習した事柄を復習する。目安は30分程度とする。実技の復習に関しては、毎日20分程度の練習を行う。学校外で楽器を使わない練習方法は講師と要相談。

◆成績評価の方法◆

試験は実施しない。授業への意欲的な態度(幼教Dayでの発表に向けての学習態度も含む)、授業課題等を総合的に鑑みて評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

太鼓バチをそれぞれ個人持ちで購入。その他は特になし。

◆参考図書◆

「中学生の器楽」教育芸術社、「スーパー太鼓塾 ヒダノ修一とLet's ドンドコ！」音楽之友社、「打てば響く」ヤマハ・ミュージックメディア

◆留意事項◆

運動性も高いので、ジャージやスウェット等の動きやすい服装を準備したほうが良い。スニーカーも必要。汗をかきやすい場合はタオルや着替えの準備も必要。講師側で絆創膏なども検討。

ナンバリング	ECL410N		
科目名	表現教育D		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

幼児教育に携わる者にとって必要な表現教育の知識と技術を幅広く学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1) 子どものうたを用いた表現活動①遊びうた、季節のうた
- 2) 子どものうたを用いた表現活動②身体表現を伴うもの
- 3) 音楽と動き①3歳児
- 4) 音楽と動き②4歳児
- 5) 音楽と動き③5歳児
- 6) グループワーク
- 7) 発表とまとめ
- 8) パネルシアターの実践①特徴と意義
- 9) パネルシアターの実践②ストーリーと音楽
- 10) パネルシアターの実践③効果的な表現手法
- 11) パネルシアターの試演
- 12) 既存のパネルシアター作品の比較検討①子どもの歌を用いた作品
- 13) 既存のパネルシアター作品の比較検討②ストーリー性のある作品
- 14) 上演
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示された課題曲(こどもの歌)はあらかじめ弾き歌いができるように練習しておく。(目安時間40分間)

◆成績評価の方法◆

授業内容の具体的な振り返りと、今後の学びにどのように繋げていくことが望ましいかをレポートにまとめ適宜コメントを返す。表現された作品とともに総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『こどものうた200』『続こどものうた200』小林美実編著(チャイルド本社)『1～5歳児がよろこぶ 保育ではじめてリトミック』神原雅之・伊藤仁美著(チャイルド本社)

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

材料費が若干かかる場合がある。

ナンバリング	CEP049N		
科目名	声楽表現 I		
科目詳細	1 鍵 SJCD		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1 単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を養う。グルーブレッスンという特性を生かして、アンサンブルする楽しさと表現の技術を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

専門を同じくする学生複数名によるグルーブレッスンにより、一斉学習と個別学習を適宜組み合わせで行う。様々な形の学修に当たる教員の指導を目の当たりにすることで、学生は自らが学習するだけでなく、教育のスキルについても考える機会をもつことも出来る。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 呼吸法の基礎

第3回: コンコーネ50番より(1～3番)

第4回: コンコーネ50番より(4～5番)

第5回: コンコーネ50番より(6～7番)

第6回: コンコーネ50番より(8～9番)

第7回: コンコーネ50番より(10～11番)

第8回: 発声法の基礎

第9回: コンコーネ50番より(12～13番)

第10回: コンコーネ50番より(14～15番)

第11回: コンコーネ50番より(16～17番)

第12回: コンコーネ50番より(18～19番)

第13回: コンコーネ50番より(20～21番)

第14回: 呼吸法、発声法のまとめ

第15回: 声楽表現 I のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

- ・I は平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または

「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社

「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP049N		
科目名	声楽表現 I		
科目詳細	1E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を個人レッスンで学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を養う。

◆授業内容・計画◆

将来教員として指導に当たる為に、しっかりと技術の取得を目指す。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 呼吸法の基礎

第3回: コンコーネ50番より(1～3番)

第4回: コンコーネ50番より(4～5番)

第5回: コンコーネ50番より(6～7番)

第6回: コンコーネ50番より(8～9番)

第7回: コンコーネ50番より(10～11番)

第8回: 発声法の基礎

第9回: コンコーネ50番より(12～13番)

第10回: コンコーネ50番より(14～15番)

第11回: コンコーネ50番より(16～17番)

第12回: コンコーネ50番より(18～19番)

第13回: コンコーネ50番より(20～21番)

第14回: 呼吸法、発声法のまとめ

第15回: 声楽表現 I のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

- ・I は授業の取り組み、実技平常点で評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」≪国立音楽大学編≫ カワイ出版 または

「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社

「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP049N		
科目名	声楽表現 I		
科目詳細	11		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を養う。

◆授業内容・計画◆

将来教員として指導にあたるためにしっかりと技術の習得を目指す

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 呼吸法の基礎

第3回: コンコーネ50番より(1～3番)

第4回: コンコーネ50番より(4～5番)

第5回: コンコーネ50番より(6～7番)

第6回: コンコーネ50番より(8～9番)

第7回: コンコーネ50番より(10～11番)

第8回: 発声法の基礎

第9回: コンコーネ50番より(12～13番)

第10回: コンコーネ50番より(14～15番)

第11回: コンコーネ50番より(16～17番)

第12回: コンコーネ50番より(18～19番)

第13回: コンコーネ50番より(20～21番)

第14回: 呼吸法、発声法のまとめ

第15回: 声楽表現 I のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

- ・I は授業の取り組み、実技平常点で評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選集」《国立音楽大学編》カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ50番」 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP050N		
科目名	声楽表現Ⅱ		
科目詳細	1鍵SJCD		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つ技術を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続きさらなる歌唱技術を磨き、教育のスキルの向上を目指す。イタリア古典歌曲等より歌いやすい歌曲を選曲し、語学とともに、歌唱法も学び、演奏試験に向けて歌えるようにする。

授業計画

第1回：ガイダンス
第2回：呼吸法の基礎、発声法の基礎
第3回：コンコーネ50番より(22～25番)
第4回：コンコーネ50番より(26～29番)
第5回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲1の音の確認
第6回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲1の歌唱表現の検討と工夫
第7回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲1の歌唱表現の仕上げ
第8回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲2の音の確認
第9回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲2の歌唱表現の検討と工夫
第10回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲2の歌唱表現の仕上げ
第11回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲3の音の確認
第12回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲3の歌唱表現の検討と工夫
第13回：歌曲1、2、3の仕上げ
第14回：演奏試験曲の決定
第15回：演奏試験曲の表現の追求

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲：任意のイタリア歌曲1曲 2分30秒以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP050N		
科目名	声楽表現Ⅱ		
科目詳細	1E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つ技術を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続きさらなる歌唱技術を磨き、教育者としてのスキルの向上を目指す。イタリア古典歌曲等より歌いやすい歌曲を選曲し、語学とともに、歌唱法も学び、演奏試験に向けて歌えるようにする。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：呼吸法の基礎、発声法の基礎
- 第3回：コンコーネ50番より(22～25番)
- 第4回：コンコーネ50番より(26～29番)
- 第5回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲1の音の確認
- 第6回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲1の歌唱表現の検討と工夫
- 第7回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲1の歌唱表現の仕上げ
- 第8回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲2の音の確認
- 第9回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲2の歌唱表現の検討と工夫
- 第10回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲2の歌唱表現の仕上げ
- 第11回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲3の音の確認
- 第12回：イタリア古典歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲3の歌唱表現の検討と工夫
- 第13回：歌曲1、2、3の仕上げ
- 第14回：演奏試験曲の決定
- 第15回：演奏試験曲の表現の追求

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲：任意のイタリア歌曲 1曲 3分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP050N		
科目名	声楽表現Ⅱ		
科目詳細	1I		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つ技術を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続きさらなる歌唱技術を磨き、教育者としてのスキルの向上を目指す。任意の歌曲等より歌いやすい歌曲を選曲し、語学とともに、歌唱法も学び、演奏試験に向けて歌えるようにする。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法の基礎、発声法の基礎
第3回:コンコーネ50番より(22～25番)
第4回:コンコーネ50番より(26～29番)
第5回:任意の歌曲または課題曲の歌曲1の音の確認
第6回:任意の歌曲または課題曲の歌曲1の歌唱表現の検討と工夫
第7回:任意の歌曲または課題曲の歌曲1の歌唱表現の仕上げ
第8回:任意の歌曲または課題曲の歌曲2の音の確認
第9回:任意の歌曲または課題曲の歌曲2の歌唱表現の検討と工夫
第10回:任意の歌曲または課題曲の歌曲2の歌唱表現の仕上げ
第11回:任意の歌曲または課題曲の歌曲3の音の確認
第12回:任意の歌曲または課題曲の歌曲3の歌唱表現の検討と工夫
第13回:歌曲1, 2, 3, の仕上げ
第14回:演奏試験曲の決定
第15回:演奏試験曲の表現の追求

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。

試験曲:任意のイタリア歌曲 1曲 3分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP051N		
科目名	声楽表現Ⅲ		
科目詳細	2鍵SCD		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅱで学んだことに基き、さらにイタリア歌曲を中心に歌唱技術を磨くことで、より自由な歌唱表現ができるようにする。また、アンサンブルの楽しさも味わえるようにする。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: コンコーネ50番より(30～35番)
- 第3回: イタリア歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲4の音の確認
- 第4回: ドイツ歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲4の歌唱表現の工夫と考察
- 第5回: 日本歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲4の仕上げ
- 第6回: コンコーネ50番より(36～40番)
- 第7回: アンサンブル曲2の音の確認
- 第8回: アンサンブル曲2の表現の工夫と考察
- 第9回: アンサンブル曲2の仕上げ
- 第10回: イタリア歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲5の歌唱表現と工夫
- 第11回: ドイツ歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲6の歌唱表現と工夫
- 第12回: 日本歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲7の歌唱表現と工夫
- 第13回: 伊、独、日の歌曲などから任意のまたは参考曲の
歌曲5、6、7、の仕上げ
- 第14回: アンサンブル曲などの仕上げ
- 第15回: 声楽表現Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしておくこと)

◆成績評価の方法◆

- ・Ⅲは平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP051N		
科目名	声楽表現Ⅲ		
科目詳細	2E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅱで学んだことに基き、さらにイタリア歌曲を中心に歌唱技術を磨くことにて、より自由な歌唱表現ができるようにする。

授業計画

第1回: ガイダンス
第2回: コンコーネ50番より(30～35番)
第3回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の音と歌詞の確認
第4回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の歌唱表現の工夫と考察
第5回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の音、歌詞の確認
第6回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の歌唱表現の工夫と考察
第7回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の歌曲4の音と歌詞の確認
第8回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の歌曲4の歌唱表現の工夫と考察
第9回: コンコーネ50番(36～40番)
第10回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲5の歌唱表現と工夫
第11回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲6の歌唱表現と工夫
第12回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲7の歌唱表現と工夫
第13回: 伊、独、日の歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲5、6、7、の仕上げ
第14回: 歌曲5、6、7の暗譜での演奏
第15回: 声楽表現Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

- ・Ⅲは授業の取り組み、実技平常点で評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

歌曲の言語に関しては特に指定はしない

ナンバリング	CEP051N		
科目名	声楽表現Ⅲ		
科目詳細	2I		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅱで学んだことに基き、さらにイタリア歌曲を中心に歌唱技術を磨くことにて、より自由な歌唱表現ができるようにする。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: コンコーネ50番より(30～35番)
- 第3回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の音の確認
- 第4回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の歌唱表現の工夫と考察
- 第5回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲4の音と歌詞の確認
- 第6回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の歌唱表現の工夫と考察
- 第7回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の歌曲4の音と歌詞の確認
- 第8回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の歌曲4の歌唱表現の工夫と考察
- 第9回: コンコーネ50番より(36～40番)
- 第10回: イタリア歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲5の歌唱表現と工夫
- 第11回: ドイツ歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲6の歌唱表現と工夫
- 第12回: 日本歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲7の歌唱表現と工夫
- 第13回: 伊、独、日の歌曲などから任意のまたは課題曲の
歌曲5、6、7、の仕上げ
- 第14回: 歌曲5、6、7の暗譜での演奏
- 第15回: 声楽表現Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしておくこと)

◆成績評価の方法◆

- ・Ⅲは授業の取り組み、実技平常点で評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP052N		
科目名	声楽表現Ⅳ		
科目詳細	2鍵SCD		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。イタリア、ドイツ、日本歌曲の魅力にも触れながら歌唱技術を磨き、アンサンブルの楽しさも味わえるようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅲに引き続き、グループレッスンの特質をいかし、アンサンブルも含め、細やかな歌唱表現の向上をめざし、高い技術を身に付ける。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:コンコーネ50番より(41～44番)
第3回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第4回:各自の課題に応じた歌曲8の歌唱表現と工夫
第5回:各自の課題に応じた歌曲8の仕上げ
第6回:各自の課題に応じた歌曲9の歌唱表現と工夫
第7回:各自の課題に応じた歌曲9の仕上げ
第8回:コンコーネ50番より(45～47番)
第9回:アンサンブル曲3の歌唱表現と工夫
第10回:アンサンブル曲3の仕上げ
第11回:各自の課題に応じた歌曲10の歌唱表現と工夫
第12回:各自の課題に応じた歌曲10の仕上げ
第13回:コンコーネ50番より(48～50番)
第14回:実技試験に向けた歌曲の決定
第15回:実技試験に向けた歌曲のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲・ドイツ歌曲・フランス歌曲・日本歌曲1曲 2分30秒以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP052N		
科目名	声楽表現Ⅳ		
科目詳細	2E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。イタリア、ドイツ、日本歌曲の魅力にも触れながら歌唱技術を磨き、演奏の楽しさも味わえるようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅲに引き続き、個人レッスンを継続し、細やかな歌唱表現の向上をめざし、高い技術を身に付ける。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:コンコーネ50番より(41～44番)
第3回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第4回:各自の課題に応じた歌曲8の歌唱表現と工夫
第5回:各自の課題に応じた歌曲8の仕上げ
第6回:各自の課題に応じた歌曲9の歌唱表現と工夫
第7回:各自の課題に応じた歌曲9の仕上げ
第8回:コンコーネ50番より(45～47番)
第9回:課題曲の歌曲8の暗譜での演奏
第10回:課題曲の歌曲9の暗譜での演奏
第11回:各自の課題に応じた歌曲10の歌唱表現と工夫
第12回:各自の課題に応じた歌曲10の仕上げ
第13回:コンコーネ50番より(48～50番)
第14回:実技試験に向けた歌曲の決定
第15回:実技試験に向けた歌曲のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲の中から1曲 3分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP052N		
科目名	声楽表現Ⅳ		
科目詳細	21		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。イタリア、ドイツ、日本歌曲の魅力にも触れながら歌唱技術を磨き、演奏の楽しさも味わえるようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅲに引き続き、グループレッスンの特質をいかし、アンサンブルも含め、細やかな歌唱表現の向上をめざし、高い技術を身に付ける。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:コンコーネ50番より(41～44番)
第3回:呼吸法の基礎、発声法の基礎の復習
第4回:各自の課題に応じた歌曲8の歌唱表現と工夫
第5回:各自の課題に応じた歌曲8の仕上げ
第6回:各自の課題に応じた歌曲9の歌唱表現と工夫
第7回:各自の課題に応じた歌曲9の仕上げ
第8回:コンコーネ50番より(45～47番)
第9回:課題曲の歌曲8の暗譜での演奏
第10回:課題曲の歌曲9の暗譜での演奏
第11回:各自の課題に応じた歌曲10の歌唱表現と工夫
第12回:各自の課題に応じた歌曲10の仕上げ
第13回:コンコーネ50番より(48～50番)
第14回:実技試験に向けた歌曲の決定
第15回:実技試験に向けた歌曲のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。

試験曲:任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲の中から1曲 3分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》 カワイ出版 または
「イタリア歌曲集」1 全音楽譜出版社
「コンコーネ」50番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP461N		
科目名	声楽表現Ⅴ		
科目詳細	3C		
担当教員	(Ⅴ)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。
4セメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より高度な技術と演奏法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業の概要

4セメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、より専門的な歌曲を歌えるようにする。
発声技術、発語、イタリア、ドイツ、フランス日本各国の発音についても、個々の適正に合わせて学んでゆく。また、アンサンブルの楽しさも引き続き味わう機会を持ち、ともに歌う喜びの重要性を学ぶ。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法、発声法の復習
第3回:コンコーネ25番あるいは40番より(1～4番)
第4回:任意の歌曲11の歌唱表現の検討と工夫
第5回:任意の歌曲11の歌唱表現の仕上げ
第6回:アンサンブルの曲における表現の工夫
第7回:アンサンブルの曲における表現の仕上げ
第8回:コンコーネ25番あるいは40番より(5～8番)
第9回:課題として示された歌曲12の歌唱表現の検討と工夫
第10回:任意の歌曲12の歌唱表現の仕上げ
第11回:任意の歌曲13の歌唱表現の検討と工夫
第12回:任意の歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第13回:任意の歌曲14の歌唱表現の検討と工夫
第14回:任意の歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第15回:声楽表現Ⅴのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

参考書・参考資料等
授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP461N		
科目名	声楽表現Ⅴ		
科目詳細	3E		
担当教員	(Ⅴ)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。
4セメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より高度な技術と演奏法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業の概要

4セメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、より専門的な歌曲を歌えるようにする。
発声技術、発語、イタリア、ドイツ、フランス、日本各国の発音についても、個々の適正に合わせて学んでゆく。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法、発声法の復習
第3回:コンコーネ25番あるいは40番より(1～4番)
第4回:課題として示された歌曲11の歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題として示された歌曲11の歌唱表現の仕上げ
第6回:アンサンブルの曲における表現の工夫
第7回:アンサンブルの曲における表現の仕上げ
第8回:コンコーネ25番あるいは40番より(5～8番)
第9回:課題として示された歌曲12の歌唱表現の検討と工夫
第10回:課題として示された歌曲12の歌唱表現の仕上げ
第11回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の検討と工夫
第12回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第13回:課題として示された歌曲14の歌唱表現の検討と工夫
第14回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第15回:声楽表現Ⅴのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてやること)

◆成績評価の方法◆

- ・Ⅴは平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

参考書・参考資料等
授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP461N		
科目名	声楽表現Ⅴ		
科目詳細	3I		
担当教員	(Ⅴ)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。
4セメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より高度な技術と演奏法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業の概要

4セメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、より専門的な歌曲を歌えるようにする。
発声技術、発語、イタリア、ドイツ、フランス、日本各国の発音についても、個々の適正に合わせて学んでゆく。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:呼吸法、発声法の復習
第3回:コンコーネ25番あるいは40番より(1～4番)
第4回:課題として示された歌曲11の歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題として示された歌曲11の歌唱表現の仕上げ
第6回:アンサンブルの曲における表現の工夫
第7回:アンサンブルの曲における表現の仕上げ
第8回:コンコーネ25番あるいは40番より(5～8番)
第9回:課題として示された歌曲12の歌唱表現の検討と工夫
第10回:課題として示された歌曲12の歌唱表現の仕上げ
第11回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の検討と工夫
第12回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第13回:課題として示された歌曲14の歌唱表現の検討と工夫
第14回:課題として示された歌曲13の歌唱表現の仕上げ
第15回:声楽表現Ⅴのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

- ・Ⅴは平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

参考書・参考資料等
授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP462N		
科目名	声楽表現Ⅵ		
科目詳細	3C		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅴまでで学んだ多くの歌曲やアンサンブル曲の歌唱法を生かして、より豊かな表現のための深い知識、技術を身に付ける。イタリア、ドイツ、フランス、日本の歌曲から、個々に適した曲を学び、歌唱実践することにより知見をより深めてゆく。
アンサンブルも合わせて学んでゆく。
専門的な高い発声技術を要する曲目も自由に表現できるようにする

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
第3回:コンコーネ25番または40番より(9～12番)
第4回:任意の歌曲15の歌唱表現の検討と工夫
第5回:任意の歌曲15の歌唱表現の仕上げ
第6回:任意の歌曲16の歌唱表現の検討と工夫
第7回:任意の歌曲16の歌唱表現の仕上げ
第8回:アンサンブル曲の検討と工夫
第9回:アンサンブル曲の仕上げ
第10回:任意の歌曲17の歌唱表現の検討と工夫
第11回:任意の歌曲17の歌唱表現の仕上げ
第12回:コンコーネ25番または40番より(13～16)
第13回:演奏試験の曲の決定
第14回:演奏試験の曲の追求と再考
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社
コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP462N		
科目名	声楽表現Ⅵ		
科目詳細	3E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅴまでで学んだ多くの歌曲の歌唱法を生かして、より豊かな表現のための深い知識、技術を身に付ける。イタリア、ドイツ、フランス、日本の歌曲から、個々に適した曲を学び、歌唱実践することにより知見をより深めてゆく。

専門的な高い発声技術を要する曲目も自由に表現できるようにする

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
第3回:コンコーネ25番または40番より(9～12番)
第4回:課題として示された歌曲15の歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題として示された歌曲15の歌唱表現の仕上げ
第6回:課題として示された歌曲16の歌唱表現の検討と工夫
第7回:課題として示された歌曲16の歌唱表現の仕上げ
第8回:課題曲の歌曲15の暗譜での演奏
第9回:課題曲の歌曲16の暗譜での演奏
第10回:課題として示された歌曲17の歌唱表現の検討と工夫
第11回:課題として示された歌曲17の歌唱表現の仕上げ
第12回:コンコーネ25番または40番より(13～16)
第13回:演奏試験の曲の決定
第14回:演奏試験の曲の追求と再考
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲の中から1曲 4分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社
コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP462N		
科目名	声楽表現Ⅵ		
科目詳細	3I		
担当教員	(Ⅴ)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。

◆授業内容・計画◆

声楽表現Ⅴまでで学んだ多くの歌曲やアンサンブル曲の歌唱法を生かして、より豊かな表現のための深い知識、技術を身に付ける。イタリア、ドイツ、フランス、日本の歌曲から、個々に適した曲を学び、歌唱実践することにより知見をより深めてゆく。
専門的な高い発声技術を要する曲目も自由に表現できるようにする

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
第3回:コンコーネ25番または40番より(9～12番)
第4回:課題として示された歌曲15の歌唱表現の検討と工夫
第5回:課題として示された歌曲15の歌唱表現の仕上げ
第6回:課題として示された歌曲16の歌唱表現の検討と工夫
第7回:課題として示された歌曲16の歌唱表現の仕上げ
第8回:課題曲の歌曲15の暗譜での演奏
第9回:課題曲の歌曲16の暗譜での演奏
第10回:課題として示された歌曲17の歌唱表現の検討と工夫
第11回:課題として示された歌曲17の歌唱表現の仕上げ
第12回:コンコーネ25番または40番より(13～16)
第13回:演奏試験の曲の決定
第14回:演奏試験の曲の追求と再考
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲:任意のイタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲の中から1曲 4分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社
コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP463N		
科目名	声楽表現Ⅶ		
科目詳細	4C		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立てるようにする。6セメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より説得力のある優れた歌唱を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅵセメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、様々な年代、ジャンルを題材にさらなる総合的な歌唱表現ができるようにする。
(イタリア、ドイツ、フランス、日本、スペイン、英米歌曲、オペラアリア、オラトリオ、など)

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
第3回:コンコーネ25番または40番より(17～20番)
第4回:任意の自由曲18の歌唱表現の検討と工夫
第5回:任意の自由曲18の歌唱表現の仕上げ
第6回:任意の自由曲19の歌唱表現の検討
第7回:任意の自由曲19の歌唱表現の工夫
第8回:任意の自由曲19の歌唱表現の仕上げ
第9回:コンコーネ25番または40番より(21～23番)
第10回:任意の自由曲20の歌唱表現の検討
第11回:任意の自由曲20の歌唱表現の工夫
第12回:任意の自由曲20の歌唱表現の仕上げ
第13回:アンサンブル曲の検討と工夫
第14回:アンサンブル曲の仕上げ
第15回:声楽表現Ⅶのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
コンコーネ50番 全音楽譜出版社
コンコーネ25番 全音楽譜出版社
コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP463N		
科目名	声楽表現Ⅶ		
科目詳細	4E		
担当教員	(Ⅴ)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立てるようにする。
Ⅶセメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より説得力のある優れた歌唱を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅶセメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、様々な年代、ジャンルを題材にさらなる総合的な歌唱表現ができるようにする。
(イタリア、ドイツ、フランス、日本、スペイン、英米歌曲、オペラリア、オラトリオ、など)

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
- 第3回:コンコーネ25番または40番より(17～20番)
- 第4回:課題として示された、或いは任意の自由曲18の
歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題として示された、或いは任意の自由曲18の
歌唱表現の仕上げ
- 第6回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の検討
- 第7回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の工夫
- 第8回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の仕上げ
- 第9回:コンコーネ25番または40番より(21～23番)
- 第10回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の検討
- 第11回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の工夫
- 第12回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の仕上げ
- 第13回:課題曲の歌曲18、19の暗譜での演奏
- 第14回:課題曲の歌曲20の暗譜での演奏
- 第15回:声楽表現Ⅶのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

- イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
- イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
- コンコーネ50番 全音楽譜出版社
- コンコーネ25番 全音楽譜出版社
- コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP463N		
科目名	声楽表現Ⅶ		
科目詳細	4I		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立てるようにする。
Ⅶセメスターを通して学んだ歌唱法をさらに発展させて、より説得力のある優れた歌唱を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅶセメスターまでに習得した歌唱技術を生かして、様々な年代、ジャンルを題材にさらなる総合的な歌唱表現ができるようにする。
(イタリア、ドイツ、フランス、日本、スペイン、英米歌曲、オペラリア、オラトリオ、など)

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:発声法、呼吸法の基礎、復習
- 第3回:コンコーネ25番または40番より(17～20番)
- 第4回:課題として示された、或いは任意の自由曲18の
歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題として示された、或いは任意の自由曲18の
歌唱表現の仕上げ
- 第6回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の検討
- 第7回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の工夫
- 第8回:課題として示された、或いは任意の自由曲19の
歌唱表現の仕上げ
- 第9回:コンコーネ25番または40番より(21～23番)
- 第10回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の検討
- 第11回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の工夫
- 第12回:課題として示された、或いは任意の自由曲20の
歌唱表現の仕上げ
- 第13回:課題曲の歌曲18、19の暗譜での演奏
- 第14回:課題曲の歌曲20の暗譜での演奏
- 第15回:声楽表現Ⅶのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

- イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
- イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
- コンコーネ50番 全音楽譜出版社
- コンコーネ25番 全音楽譜出版社
- コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP464N		
科目名	声楽表現Ⅷ		
科目詳細	4C		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。教育者としても充分に通用する歌唱表現の知識と経験を積み、より確かな実力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅶ Semesterまでに習得したさまざまな知識、演奏技術を、より高めることにより、ジャンルを問わず、総合的な歌唱表現を習得する。個々の特性を生かした選曲をしながら、より高い技術も身に付け、アンサンブルなどから音楽を共有する喜びを味わうことによって、音楽の本質を把握し、教育者としても子供から高齢者まで指導できる力を付ける。
そのために、童謡や、一般的に知名度の高い曲なども取り入れて歌えるようにする。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:発声法、呼吸法の復習
- 第3回:コンコーネ25番、または40番より
(24～25番)
- 第4回:任意の自由曲21の歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:任意の自由曲21の歌唱表現の仕上げ
- 第6回:アンサンブル曲の検討と工夫
- 第7回:アンサンブル曲の仕上げ
- 第8回:任意の自由曲22の歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:任意の自由曲22の歌唱表現の仕上げ
- 第10回:コンコーネ15番、または40番より
(1～5番)(26番～30番)
- 第11回:任意の自由曲23の歌唱表現の検討と工夫
- 第12回:任意の自由曲23の歌唱表現の仕上げ
- 第13回:任意の自由曲24の歌唱表現の検討と工夫
- 第14回:任意の自由曲24の歌唱表現の仕上げと演奏試験曲の選曲
- 第15回:演奏試験曲の追求とまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。(授業ごとのフィードバックをすることに加えて、学習曲は暗譜させて評価)

◆教科書(使用テキスト)◆

- イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
- イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
- コンコーネ50番 全音楽譜出版社
- コンコーネ25番 全音楽譜出版社
- コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP464N		
科目名	声楽表現Ⅶ		
科目詳細	4E		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。教育者としても充分に通用する歌唱表現の知識と経験を積み、より確かな実力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅶ semesterまでに習得したさまざまな知識、演奏技術を、より高めることにより、ジャンルを問わず、総合的な歌唱表現を習得する。個々の特性を生かした選曲をしながら、より高い技術も身に付け、演奏する喜びを味わうことによって、音楽の本質を把握し、教育者としても子供から高齢者まで指導できる力を付ける。
そのために、童謡や、一般的に知名度の高い曲なども取り入れて歌えるようにする。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:発声法、呼吸法の復習
- 第3回:コンコーネ25番(24～25番)、または40番より(26～30番)
- 第4回:課題として示された、或いは任意の自由曲
21の歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題として示された、或いは任意の自由曲
21の歌唱表現の仕上げ
- 第6回:課題として示された、或いは任意の自由曲21の暗譜での演奏
- 第7回:コンコーネ15番(1～5番)40番(30～40番)
- 第8回:課題として示された、或いは任意の自由曲
22の歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:課題として示された、或いは任意の自由曲
22の歌唱表現の仕上げ
- 第10回:課題曲として示された、或いは任意の自由曲22の暗譜での演奏
- 第11回:課題として示された、或いは任意の自由曲
23の歌唱表現の検討と工夫
- 第12回:課題として示された、或いは任意の自由曲
23の歌唱表現の仕上げ
- 第13回:課題として示された、或いは任意の自由曲
24の歌唱表現の検討と工夫
- 第14回:課題として示された、或いは任意の自由曲
24の歌唱表現の仕上げと演奏試験曲の選曲
- 第15回:演奏試験曲の追求とまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。
試験曲:自由曲1曲 5分以内 暗譜

◆教科書(使用テキスト)◆

- イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
- イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
- コンコーネ50番 全音楽譜出版社
- コンコーネ25番 全音楽譜出版社
- コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP464N		
科目名	声楽表現Ⅶ		
科目詳細	41		
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、また、歌唱を通して歌う喜びと豊かな表現力を養うことにより、それぞれの専攻に役立つようにする。教育者としても十分に通用する歌唱表現の知識と経験を積み、より確かな実力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Ⅶセメスターまでに習得したさまざまな知識、演奏技術を、より高めることにより、ジャンルを問わず、総合的な歌唱表現を習得する。個々の特性を生かした選曲をしながら、より高い技術も身に付け、演奏する喜びを味わうことによって、音楽の本質を把握し、教育者としても子供から高齢者まで指導できる力を付ける。
そのために、童謡や、一般的に知名度の高い曲なども取り入れて歌えるようにする。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:発声法、呼吸法の復習
- 第3回:コンコーネ25番(24～25番)、または40番より(26～30番)
- 第4回:課題として示された、或いは任意の自由曲
21の歌唱表現の検討と工夫
- 第5回:課題として示された、或いは任意の自由曲
21の歌唱表現の仕上げ
- 第6回:課題として示された、或いは任意の自由曲21の暗譜での演奏
- 第7回:コンコーネ15番(1～5番)40番(30～40番)
- 第8回:課題として示された、或いは任意の自由曲
22の歌唱表現の検討と工夫
- 第9回:課題として示された、或いは任意の自由曲
22の歌唱表現の仕上げ
- 第10回:課題曲として示された、或いは任意の自由曲22の暗譜での演奏
- 第11回:課題として示された、或いは任意の自由曲
23の歌唱表現の検討と工夫
- 第12回:課題として示された、或いは任意の自由曲
23の歌唱表現の仕上げ
- 第13回:課題として示された、或いは任意の自由曲
24の歌唱表現の検討と工夫
- 第14回:課題として示された、或いは任意の自由曲
24の歌唱表現の仕上げと演奏試験曲の選曲
- 第15回:演奏試験曲の追求とまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと(1日最低 30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと(新曲は歌詞の意味調べ、音取りを必ずしてくること)

◆成績評価の方法◆

授業内では常に課題をフィードバックするとともに、実技試験は複数の教員によって審査され、総合的に成績評価する。

- ・試験曲:自由曲1曲(5分以内、暗譜)

◆教科書(使用テキスト)◆

- イタリア声楽曲選曲《国立音楽大学編》 カワイ出版
- イタリア歌曲集1、2 全音楽譜出版社
- コンコーネ50番 全音楽譜出版社
- コンコーネ25番 全音楽譜出版社
- コンコーネ40番 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP053N		
科目名	器楽表現(ピアノ) I		
科目詳細	1V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.ピアノ構造と発音原理、ペダル機構の仕組みなどを理解し、自然で無駄のないピアノ演奏の基本姿勢を身につける。 2.スケールとカデンツの習熟を通じ、演奏に必要な機能と和声の基礎を学ぶとともに、運指法の原則を知る。 3.音の高さ、長さ、強さなどを楽譜から正しく読みとることができる力を身につける。 4.コードネームについて学び、実際にコード付きの旋律に即興で伴奏をつけることができる力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ピアノについての予備知識(アクション、ペダル機構など)
- 第2回 ピアノの基本姿勢とペダル用法について
- 第3回 古典派の作品を学ぶ(1)時代背景や形式等を理解して、イメージをつくる
- 第4回 古典派の作品を学ぶ(2)調、アーティキュレーション、フレーズなどを楽譜から読み取る
- 第5回 古典派の作品を学ぶ(3)適切な指使いを選択し、イメージに近づくような奏法を試みる
- 第6回 古典派の作品を学ぶ(4)暗譜と仕上げ
- 第7回 古典派の作品を学ぶ(5)仕上げと批評
- 第8回 自由選択曲(1)曲の全体像、作曲家の個性、表現の可能性について検討する
- 第9回 自由選択曲(2)適切な指使い、フレージングを心がけ、イメージに近づく
- 第10回 自由選択曲(3)暗譜・仕上げ
- 第11回 コードネームの知識 コードネーム付きの楽譜で、演習を試みる
- 第12回 コードネームの実践 童謡などに自分でコードネームをつけ、演習を試みる
- 第13回 コードネームの実践と歌唱伴奏 唱歌などを互いに伴奏することで、息を合わせる力を養う
- 第14回 古典派の作品、自由選択曲の試演と批評
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・ピアノ表現は毎日の積み重ねによって大きな効果が得られるので、基礎の学習をレッスンで行った後、必ず復習すること。(目安毎日50分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと表現意欲、達成度で評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

自由選択曲は、個々の技量に合った適切な曲を選択し、学ぶこと。

ナンバリング	CEP053N		
科目名	器楽表現(ピアノ) I		
科目詳細	1鍵(オル、電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ演奏に必要な基礎(テクニック、読譜力、表現力等)をしっかりと習得することを主眼とし、専攻であるオルガン・電子オルガンの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・ピアノ演奏の基本的なテクニックの習得(タッチ・脱力、レガート奏法、ペダルの使い方 等)
- ・個々の能力に合った作品(バロック、古典派等)を学ぶ
- ・伴奏を学ぶ

- 第1回目 学生の習熟度を知るため全員演奏する
第2回目 基本テクニック①打鍵方法
第3回目 基本テクニック②音階
第4回目 基本テクニック③アルペジオ
第5回目 基本テクニック④カデンツ
第6回目 基本テクニック⑤練習方法
第7回目 バッハの作品①テーマの捉え方
第8回目 バッハの作品②アーティキュレーション
第9回目 バッハの作品③終止形と調性
第10回目 古典派の作品①作品構造の理解
第11回目 古典派の作品②メロディーと伴奏型
第12回目 古典派の作品③フレーズ
第13回目 古典派の作品④仕上げるイメージをしっかりと持つ
第14回目 お互いの演奏を聴き合う
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (目安: 毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価: 授業への取り組み及び演奏成果
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材
※スケールメイト改訂版
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等 テキストは未定 授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP053N		
科目名	器楽表現(ピアノ) I		
科目詳細	1SJ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基本的なピアノ奏法を身につける ②ハーモニーに関する基礎的な知識を学ぶ ③正しい読譜、理解に基づいて自分の感じた音楽をピアノで豊かに表現できるようにする

◆授業内容・計画◆

この学生にあった小品 及び スケールメイト改訂版 は毎回勉強する

- 1回目 学生の習熟度を知る為全員演奏する
- 2回目 カデンツの基本形について学ぶ(ドミナントの理解)
- 3回目 基礎テクニック① 打鍵方法
- 4回目 基礎テクニック② 運指
- 5回目 基礎テクニック③ アルペジオ
- 6回目 基礎テクニック④ 第2回～第5回までのおさらい
- 7回目 J.S.バッハの作品に触れる① テーマの捉え方
- 8回目 J.S.バッハの作品に触れる② アーティキュレーション
- 9回目 J.S.バッハの作品に触れる③ 終止形と調性、作品構造への理解
- 10回目 基礎テクニック⑤ ハーモニー、和声、カデンツの理解の確認
- 11回目 古典派の作品① 作品構造の理解
- 12回目 古典派の作品② 表示記号、楽語に対する理解
- 13回目 古典派の作品③ メロディーと伴奏型
- 14回目 古典派の作品④ フレーズ、構成
- 15回目 お互いの演奏を聴きあう、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備して臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価; 平常授業への取り組みにより評価する。その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。

◆参考図書◆

ハノン／ピアノ教本(全音ほか)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP053N		
科目名	器楽表現(ピアノ) I		
科目詳細	1EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、スケール全調に取り組み、調性感を身につける。履修する曲の背景やレッスンで学んだことを自己の課題と成果へ繋げ、ピアノの技術及び表現力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス(授業内容の確認)
第2回: スケールメイトの活用法
第3回: バロックの音楽(1)～スカルラッティ研究
第4回: バロックの音楽(2)～J.S.バッハ『インヴェンション・シンフォニア』研究
第5回: バロックの音楽(3)～J.S.バッハ『フランス組曲』研究
第6回: バロックの音楽(4)～J.S.バッハ『イタリア協奏曲』研究
第7回: 古典派の音楽(1)～ソナタ研究(提示部)
第8回: 古典派の音楽(2)～ソナタ研究(展開部)
第9回: 古典派の音楽(3)～ソナタ研究(再現部)
第10回: 古典派の作曲家研究(1)～ハイドン
第11回: 古典派の作曲家研究(2)～モーツァルト
第12回: 古典派の作曲家研究(3)～ベートーヴェン
第13回: 変奏曲研究
第14回: 研究発表
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイト改訂版を練習すること。
- ・宿題とされた課題の作品研究をして、自ら調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものをAA～Dの評価にして提示する。レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP053N		
科目名	器楽表現(ピアノ) I		
科目詳細	1 情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基礎的なピアノ奏法を身に付ける②スケールとカデンツァを学びそれぞれの調性の和声感を身に付ける③様々な楽曲を学び音楽の世界観を拡げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 学生が選んだ自由曲を弾く。
- 2回目 学生が学んできた経緯を把握し、これから勉強する曲を決める。
- 3回目 バッハの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 4回目 指使い、フレーズを確認する。
- 5回目 バッハの作品を暗譜で弾く。
- 6回目 モーツァルトの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 7回目 指使い、フレーズ、ペダルを確認する。
- 8回目 モーツァルトの作品を暗譜で弾く。
- 9回目 ベートーヴェンの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 10回目 指使い、フレーズ、ペダル、デュナーミクを確認する。
- 11回目 ベートーヴェンの作品を暗譜で弾く。
- 12回目 シューベルトの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 13回目 指使い、フレーズ、ペダル、セカンドペダルを確認する。
- 14回目 シューベルトの作品を暗譜で弾く。
- 15回目 まとめと後期に勉強する作品の選定。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価: 授業への取り組み
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP054N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細	1V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.スケール、アルペジオ、重音奏法などピアノの基礎的なテクニックを学び、自然なピアノ奏法を身につける。2.楽譜からアーティキュレーション、リズムなどを正しく読み取ることができる力を養う。3.互いの音を聴き、息を合わせる連弾を体験し、自らの演奏表現の向上にもつなげる。4.テンポのコントロールとリズムの表現能力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 ポリフォニー作品の研究(1)楽曲分析、作品のイメージをつくる
第2回 ポリフォニー作品の研究(2)アーティキュレーション、フレージングなどへの留意
第3回 ポリフォニー作品の研究(3)声部ごとの彫琢、フィンガリングの検討
第4回 ポリフォニー作品の研究(4)暗譜と仕上げ
第5回 4手のための作品(連弾曲)の演習(1)楽曲の理解とイメージ
第6回 4手のための作品(連弾曲)の演習(2)4手による表現とバランスへの留意
第7回 4手のための作品(連弾曲)の演習(3)仕上げ
第8回 演奏試験曲の準備 楽曲全体を見通し、曲の性格、イメージについて考察する
第9回 演奏試験曲の研究 形式と調の理解、和声分析
第10回 演奏試験曲の彫琢 フィンガリング、タッチ、テンポの検討
第11回 演奏試験曲の暗譜と仕上げ
第12回 演奏試験曲の演習
第13回 演奏試験曲の演習と批評
第14回 復習と確認
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

・個々のレベルに合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
・ピアノ表現は毎日の積み重ねによって大きな効果が得られるので、基礎の学習をレッスンで行った後、必ず復習すること。
(目安毎日50分)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は、複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP054N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細	1鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ演奏に必要な基礎(テクニック、読譜力、表現力等)をしっかりと習得することを主眼とし、専攻であるオルガン・電子オルガンの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・基本的なテクニックの習得 (Iのレベルアップ)
- ・能力に合った作品(バロック、古典派、ロマン派等)を学ぶ
- ・ミクロコスモス第I・II巻(バルトーク)を学ぶ

第1回目 夏休み宿題曲①弾き合い
第2回目 夏休み宿題曲②表現を深める
第3回目 夏休み宿題曲③仕上げ
第4回目 後期試験曲①選定
第5回目 後期試験曲②曲の理解、構造分析
第6回目 後期試験曲③相応しいタッチの習得
第7回目 後期試験曲④練習方法
第8回目 ミクロコスモス①数曲選択
第9回目 ミクロコスモス②特徴をよく掴んで演奏する
第10回目 ミクロコスモス③仕上げ
第11回目 後期試験曲⑤イメージをしっかりと持つ
第12回目 後期試験曲⑥表現を深める
第13回目 後期試験曲⑦暗譜
第14回目 後期試験曲⑧仲間で聴き合う
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (目安:毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

成績評価:演奏試験
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材
※スケールメイト改訂版
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等 テキストは未定 授業内で支持する
※バルトーク:ミクロコスモス第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ巻(教会旋法・バルトーク書法 等) 春秋社版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP054N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細	1SJ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基本的なピアノ奏法を身につける ②短調に対する知識をより身につける(和声的、旋律的音階への理解) ③正しい読譜、理解に基づいて自分の感じた音楽をピアノで豊かに表現できるようにする

◆授業内容・計画◆

基本的なテクニックの習得(Ⅰのレベルアップ)

- 1回目 夏休み宿題曲の弾きあい
- 2回目 短調への理解① 和声的音階
- 3回目 短調への理解② 旋律的音階
- 4回目 後期試験曲① 選定
- 5回目 後期試験曲② 構造、楽語の理解
- 6回目 後期試験曲③ メロディーと伴奏
- 7回目 スケールメイト、和声の確認① これまでの習得内容の確認
- 8回目 後期試験曲④ フレーズ
- 9回目 後期試験曲⑤ 終止形、和声
- 10回目 スケールメイト、和声の確認② カデンツァについての確認
- 11回目 後期試験曲⑥ 仕上げに向けての練習方法
- 12回目 後期試験曲⑦ 暗譜の試み① フレーズの呼吸をとらえる
- 13回目 後期試験曲⑧ 暗譜の試み② 和声感に対する意識
- 14回目 後期試験曲⑨ 表現を深める
- 15回目 お互いの演奏を聴きあう、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備して臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価; 平常授業への取り組み、及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。

◆参考図書◆

ハノン／ピアノ教本(全音ほか)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP054N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細	1EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、スケール全調に取り組み、調性感を身につける。履修する曲の背景やレッスンで学んだことを自己の課題と成果へ繋げ、ピアノの技術及び表現力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス(夏休みの研究発表)
第2回: ロマン派の音楽(1)～シューベルト『即興曲』研究
第3回: ロマン派の音楽(2)～シューベルト『楽興の時』研究
第4回: ロマン派の音楽(3)～メンデルスゾーン『無言歌』研究
第5回: 試験曲取り組み、ディスカッション
第6回: スケールメイト 全調スケール取り組み
第7回: ロマン派の音楽(4)～ショパン『ワルツ』研究
第8回: ロマン派の音楽(5)～ショパン『即興曲』研究
第9回: 各自の試験曲研究(1)～楽曲の背景発表
第10回: 各自の試験曲研究(2)～楽曲研究
第11回: 各自の試験曲研究(3)～多様な音楽表現の検討
第12回: 各自の試験曲研究(4)～音楽表現の工夫
第13回: 各自の試験曲研究(5)～暗譜の取り組み
第14回: 各自の試験曲研究(6)～仕上げ、演奏発表
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
 - ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
- (目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものと実技試験(100点満点)を合計し、2分の1にした点数をAA～Dの評価にして提示する。なお実技試験は複数の教員で採点する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP054N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅱ		
科目詳細	1情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基礎的なピアノ奏法を身に付ける②スケールとカデンツァを学びそれぞれの調性の和声感を身に付ける③様々な楽曲を学び音楽の世界観を拡げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 学生が夏休みに学んだ曲を演奏する。
- 2回目 メンデルスゾーンの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 3回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 4回目 メンデルスゾーンの作品を暗譜で弾く。
- 5回目 シューマンの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 6回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、テンポ記号の確認。
- 7回目 シューマンの作品を暗譜で弾く。
- 8回目 ショパンの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 9回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、テンポ記号の確認。
- 10回目 ショパンの作品を暗譜で弾く。
- 11回目 ドビュッシーの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 12回目 指使い、フレーズ、ペダル、セカンドペダル、発想記号の確認。
- 13回目 ドビュッシーの作品を暗譜で弾く。
- 14回目 後期試験曲をこれまで勉強してきた曲から選定。
- 15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し、成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP055N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細	2V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.ピアノ演奏の基本的なテクニックを確立し、表現力の向上を目指す。2.楽典の知識、ピアノの歴史への理解、楽器への習熟などピアノ演奏表現上、必要な基礎的能力を高める。3.歌曲伴奏を行うことで、伴奏と歌の密接な関わりについての意識を培う。4.初見演奏、即興演奏などにおける留意点を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

第1回 初見演奏
第2回 ロマン派の練習曲(1)イメージをつくる、エチュードの目的、作品分析
第3回 ロマン派の練習曲(2)フィンガリング、タッチの工夫
第4回 ロマン派の練習曲(3)仕上げと暗譜
第5回 連弾曲を学ぶ(1)各パートの演習
第6回 連弾曲を学ぶ(2)パートを入れ替えて演奏
第7回 コードネームを使った伴奏～小学唱歌を題材に～
第8回 コードネームを使った弾き歌い(1)～中学唱歌を題材に～
第9回 コードネームを使った弾き歌い(2)～自由曲を題材に～
第10回 イタリア歌曲の伴奏(1)作品分析と読譜
第11回 イタリア歌曲の伴奏(2)仕上げ
第12回 初見演奏
第13回 即興演奏
第14回 試演会 夏休み課題の検討
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(目安毎日50分)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、アンサンブルへの取り組み、グループレッスンでの積極的な参加などにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。
小・中学校音楽教科書。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループレッスンにおいては、互いの音楽をよく聴き、高め合うことを心がける。
伴奏、連弾などアンサンブル演習においては、息を合わせ、共に表現することを学ぶ。

ナンバリング	CEP055N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細	2鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ演奏に必要な基礎(テクニック、読譜力、表現力等)をしっかり習得することを主眼とし、専攻であるオルガン・電子オルガンの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・ピアノ演奏の基本的なテクニックの習得(Ⅱのレベルアップ)
- ・個々の能力に合った作品(古典派、ロマン派、近代等)を学ぶ
- ・ミクロコスモス第Ⅱ・Ⅲ巻(バルトーク)を学ぶ
- ・伴奏を学ぶ
- ・連弾・二台ピアノを学ぶ

第1回目 春休み宿題曲①弾き合い
第2回目 春休み宿題曲②表現を深める
第3回目 春休み宿題曲③仕上げ
第4回目 ロマン派の曲①特徴をつかむ
第5回目 ロマン派の曲②弾きこなせるように
第6回目 ロマン派の曲③仕上げ
第7回目 連弾曲①各々のレベルに合う曲
第8回目 連弾曲②お互いの音を良く聴き、表現を深める
第9回目 連弾曲③仕上げ
第10回目 自由曲①曲の理解、構造分析
第11回目 自由曲②相應しいタッチ、テクニックの習得
第12回目 自由曲③曲のイメージをしっかり持つ
第13回目 自由曲④表現を深める
第14回目 自由曲⑤仕上げ
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
(目安:毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み及び演奏成果
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

※スケールメイト改訂版
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等
※バルトーク:ミクロコスモス第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ巻(教会旋法・バルトーク書法 等)春秋社版

※連弾用教材(例)
ベートーヴェン:交響曲集 全音楽譜出版社
ブラームス:ハンガリー舞曲集、ワルツ集 全音楽譜出版社
ドヴォルザーク:スラヴ舞曲集 全音楽譜出版社
ドビュッシー:小組曲 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP055N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細	2SJ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基本的なピアノ奏法を身につける ②伴奏について学ぶ ③正しい読譜、理解に基づいて自分の感じた音楽をピアノで豊かに表現できるようにする

◆授業内容・計画◆

基本的なテクニックの習得(Ⅱのレベルアップ)

- 1回目 春休み中の学習についての確認
- 2回目 和声について① 長調のスケール、アルペジオ、カデンツァについての確認
- 3回目 和声について② 短調のスケール、アルペジオ、カデンツァについての確認
- 4回目 春休み宿題曲① 和声に対する認識、それをふまえた演奏
- 5回目 春休み宿題曲② 表現について
- 6回目 春休み宿題曲③ 仕上げ
- 7回目 スケールメイト、和声の確認① これまでの習得内容の確認
- 8回目 中学校教材の伴奏① 伴奏とは
- 9回目 中学校教材の伴奏② バランスについて
- 10回目 中学校教材の伴奏③ 演奏上の呼吸について
- 11回目 ロマン派の作品① 構造の理解
- 12回目 ロマン派の作品② フレーズ
- 13回目 ロマン派の作品③ 表示記号、楽語との関連
- 14回目 ロマン派の作品④ イメージ通りに弾けるようになるために
- 15回目 お互いの演奏を聴きあう、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備して臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:平常の授業への取り組みにより評価する。
その他、随時課題を出フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。

◆参考図書◆

ハノン／ピアノ教本(全音ほか)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP055N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細	2EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、スケールメイト改訂版に取り組み、アルペジオのテクニックを身につける。履修する曲の背景やレッスンで学んだことを記録して自己の課題と成果へ繋げ、ピアノの技術及び表現力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス(授業内容の確認、スケールメイトの活用法)
 第2回: ロマン派の音楽(1)～ブラームス『ラプソディー』研究
 第3回: ロマン派の音楽(2)～シューマン『幻想小曲集』研究
 第4回: ロマン派の音楽(3)～シューマン『子供の情景』研究
 第5回: ロマン派の音楽(4)～リスト『ため息・愛の夢第3番』研究
 第6回: ロマン派の音楽(5)～リスト『コンソレーション』研究
 第7回: ロマン派の音楽(6)～チャイコフスキー『子供のアルバム』研究
 第8回: ロマン派の音楽(7)～チャイコフスキー『四季』研究
 第9回: ロマン派の音楽(8)～フォーレ『即興曲』研究
 第10回: ロマン派の音楽(9)～フォーレ『舟歌、ワルツ・カプリス』研究
 第11回: アンサンブル研究(1)1台4手課題曲(「教材曲例一覧」より任意)
 第12回: アンサンブル研究(2)1台4手課題曲(「教材曲例一覧」より任意)
 第13回: アンサンブル研究(3)1台4手課題曲(「教材曲例一覧」より任意)
 第14回: 最終仕上げ
 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル・目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
- ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものをAA～Dの評価にして提示する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP055N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅲ		
科目詳細	2情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①1年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
- 2回目 リストの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 3回目 リストの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 4回目 リストの作品を暗譜で弾く。
- 5回目 ブラームスの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 6回目 ブラームスの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 7回目 ブラームスの作品を暗譜で弾く。
- 8回目 プロコフィエフの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 9回目 プロコフィエフの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 10回目 プロコフィエフの作品を暗譜で弾く。
- 11回目 バルトークの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 12回目 バルトークの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 13回目 バルトークの作品を暗譜で弾く。
- 14回目 後期に勉強する作品の選定。
- 15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP056N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細	2V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.多彩な音色や様々な表現ができるしなやかな感性とたしかな技術を体得する。 2.和声の感覚を高め、ハーモニーの響きを感じ取る能力を磨く。 3.公開演奏を目的として、楽曲を解釈し、仕上げていくアプローチを学び、経験により自信をつけていく。

◆授業内容・計画◆

第1回 夏休み課題の発表演奏
第2回 調律と音律について
第3回 2台ピアノのための作品(1)楽曲全体の構成、調変化等について検討する
第4回 2台ピアノのための作品(2)各パートの表現
第5回 2台ピアノのための作品(3)仕上げ
第6回 近・現代の小品(1)時代背景、楽曲分析
第7回 近・現代の小品(2)演奏解釈
第8回 試験曲(自由課題曲)(1)曲全体を見通し、構成などを理解する
第9回 試験曲(自由課題曲)(2)楽曲について形式と和声の分析を試みる
第10回 試験曲(自由課題曲)(3)アーティキュレーション、フィンガリングなど、細部を検討する
第11回 試験曲(自由課題曲)(4)ディナーミク、テンポ、ペダリングなどの検討
第12回 試験曲(自由課題曲)(5)表現に向けてテクニックを磨く
第13回 試験曲(自由課題曲)(6)暗譜
第14回 試験曲(自由課題曲)(7)仕上げ
第15回 試演会

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベルに合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(毎日目安50分)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

演奏試験。演奏試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

レッスンや講義で学んだことを、次回のレッスンまでに復習すること。
自らの演奏表現を高め、技術を確かなものとし、知識を積み重ねていくこと。

ナンバリング	CEP056N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細	2鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

ピアノ演奏に必要な基礎力(テクニック、読譜力、表現力等)を高め、かつ専攻であるオルガン・電子オルガンの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・基本的なテクニックの習得(Ⅲのレベルアップ)
- ・個々の能力に合った作品(古典派・ロマン派・近現代等)を学ぶ
- ・ミクロコスモス第Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ巻(バルトーク)を学ぶ
- ・伴奏を学ぶ

- 第1回目 課題曲①弾き合う
第2回目 課題曲②表現を深める
第3回目 課題曲③仕上げ
第4回目 後期試験曲①課題曲から選定
第5回目 後期試験曲②曲の理解、構造分析
第6回目 後期試験曲③相応しいタッチ、テクニックの習得
第7回目 ミクロコスモス①特徴をつかむ
第8回目 ミクロコスモス②表現を深める
第9回目 伴奏曲①中学校用の教材から選定
第10回目 伴奏曲②曲の特徴をつかむ、弾き歌い
第11回目 後期試験曲④曲のイメージをしっかりと持つ
第12回目 後期試験曲⑤暗譜
第13回目 後期試験曲⑥細部迄フレージング、ペダリングに留意
第14回目 後期試験曲⑦表現を深める
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (目安:毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

※スケールメイト改訂版
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等 テキストは未定 授業内で指示する
※バルトーク:ミクロコスモス第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ巻(教会旋法・バルトーク書法 等)春秋社版
※中学校・高等学校の教科書の歌唱曲(伴奏用)及び鑑賞用の曲

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP056N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細	2SJ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

①基本的なピアノ奏法を身につける ②正しい読譜、理解に基づいて自分の感じた音楽をピアノで豊かに表現できるようにする

◆授業内容・計画◆

基本的なテクニックの習得(Ⅲのレベルアップ)

- 1回目 課題曲① 弾きあい
- 2回目 課題曲② 表現を深める、暗譜の意味について確認
- 3回目 課題曲③ 仕上げ
- 4回目 和声について① ハーモニー、長調、短調の認識の確認
- 5回目 後期試験曲① 選定
- 6回目 後期試験曲② 構造の理解
- 7回目 後期試験曲③ メロディーと伴奏
- 8回目 後期試験曲④ フレーズ
- 9回目 後期試験曲⑤ 終止形と和声
- 10回目 和声について② 指づかい、ハーモニーに対する認識の確認
- 11回目 後期試験曲⑥ 仕上げを意識した練習方法
- 12回目 後期試験曲⑦ イメージを持ってさらう、表現を深める
- 13回目 後期試験曲⑧ 暗譜の試み1 フレーズの呼吸をとらえる
- 14回目 後期試験曲⑨ 暗譜の試み2 和声感に対する意識
- 15回目 お互いの演奏を聴きあう、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・毎回のレッスンによく準備して臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価; 平常の授業への取り組み、及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。

◆参考図書◆

ハノン／ピアノ教本(全音ほか)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP056N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細	2EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、スケールメイト改訂版に取り組み、アルペジオのテクニックを身につける。履修する曲の背景やレッスンで学んだことを記録して自己の課題と成果へ繋げ、ピアノの技術及び表現力を向上させる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回: ガイダンス(夏休み研究発表)
- 第2回: 近現代の音楽(1)～ドビュッシー『アラベスク』研究
- 第3回: 近現代の音楽(2)～ドビュッシー『子供の領分』研究
- 第4回: 近現代の音楽(3)～ドビュッシー『ベルガマスク組曲』研究
- 第5回: 試験曲取り組み(スケールメイトも含む)
- 第6回: 近現代の音楽(4)～ラヴェル『ソナチネ』研究
- 第7回: 近現代の音楽(5)～ラヴェル『水の戯れ』研究
- 第8回: 近現代の音楽(6)～バルトーク『ミクロコスモス』研究
- 第9回: 近現代の音楽(7)～プロコフィエフ『束の間の幻影』研究
- 第10回: 近現代の音楽(8)～カバレフスキー『ソナチネ』研究
- 第11回: 各自の試験曲研究(1)～多様な音楽表現の検討
- 第12回: 各自の試験曲研究(2)～音楽表現の工夫
- 第13回: 各自の試験曲研究(3)～暗譜の確認
- 第14回: 各自の試験曲の最終仕上げ
- 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
 - ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
 - ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
- (目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものと実技試験(100点満点)を合計し、2分の1にした点数をAA～Dの評価にして提示する。なお実技試験は複数の教員で採点する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP056N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅳ		
科目詳細	2情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ①1年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツァを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける
③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
2回目 グラナドスの作品を個々の能力に応じて勉強する。
3回目 グラナドスの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
4回目 グラナドスの作品を暗譜で弾く。
5回目 古典派の連弾曲を勉強する。
6回目 古典派の連弾曲を教員と弾く。
7回目 ロマン派の連弾曲を勉強する。
8回目 ロマン派の連弾曲を教員と弾く。
9回目 近、現代の連弾曲を勉強する。
10回目 近、現代の連弾曲を教員と弾く。
11回目 古典派の2台ピアノの作品を勉強する。
12回目 古典派の2台ピアノの作品を教員と弾く。
13回目 後期試験曲を選定。
14回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、時代背景を確認。
15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP465N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細	3Ⅴ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指す。 2.アンサンブルの経験を積み、感覚を磨き、能力を高める。 3.じっくりと古典派のソナタを深く読み込み、より深い芸術性と豊かな表現を目指す。 4.ドイツ・リート伴奏を通じて、詩と音楽の緊密な結びつきをピアノパートにおいて表現できるよう、奏法を研究する。

◆授業内容・計画◆

第1回 古典派のソナタを学ぶ(1)全体を見通す
第2回 古典派のソナタを学ぶ(2)楽曲分析・和声と形式
第3回 古典派のソナタを学ぶ(3)読譜とエディションの比較研究～図書館を利用～
第4回 古典派のソナタを学ぶ(4)自筆譜と出版譜の比較～図書館を利用～
第5回 古典派のソナタを学ぶ(5)解釈、表現～文献や資料も研究～
第6回 古典派のソナタを学ぶ(6)細部にわたり、より深い表現研究
第7回 古典派のソナタを学ぶ(7)仕上げと暗譜
第8回 ドイツリートの伴奏(1)歌詞の音読と解釈、ピアノパートの読譜
第9回 ドイツリートの伴奏(2)ピアノパートの研究、和声分析など
第10回 ドイツリートの伴奏(3)言葉と音色の密接な関係について学ぶ
第11回 ドイツリートの伴奏(4)歌とピアノのバランスなど全体の仕上げ
第12回 試演会に向けての学習
第13回 試演会
第14回 夏休み課題の検討、今後の課題とディスカッション
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
- ・毎回のレッスンには楽曲を研究し、よく練習して臨むこと。(毎日目安50分)
- ・各自、図書館などの施設を利用し、様々な録音資料、映像資料などにもあたること。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、演奏表現意欲と達成度で評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

とりあげた曲にまつわる他の芸術分野の作品についても触れ、より深い解釈ができるよう、常に積極的に演奏表現について研究すること。

ナンバリング	CEP465N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細	3鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～Ⅳの基礎過程で学習した内容を深め、より高度で音楽的なピアノ演奏が出来ることを目指す。そして専攻のオルガン・電子オルガンでの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・ピアノ演奏の基本的なテクニックと表現力の習得
- ・個々の能力に合った作品を学ぶ
- ・伴奏及び連弾・二台ピアノ作品を学ぶ

- 第1回目 課題曲①弾き合う
第2回目 課題曲②表現を深める
第3回目 課題曲③仕上げ
第4回目 連弾曲①作品構造分析
第5回目 連弾曲②音色、フォーレーシング、ペダリングに留意
第6回目 連弾曲③お互いのパートを良く聴き表現を深める
第7回目 連弾曲④仕上げ
第8回目 自由曲①近現代の曲から選ぶ
第9回目 自由曲②曲の理解、構造分析
第10回目 自由曲③表現に相応しいタッチ、テクニックの習得
第11回目 自由曲④表現を深める
第12回目 自由曲⑤イメージをしっかりと描く
第13回目 自由曲⑥細部迄表現を磨く
第14回目 自由曲⑦仕上げ
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
(目安:毎日75分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み及び演奏成果
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ※スケールメイト改訂版
- ※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等
- ※中学校・高等学校の教科書の歌唱曲及び鑑賞用の曲(伴奏用)

- ※※連弾用教材(例)
- ベートーヴェン:交響曲集 全音楽譜出版社
- ブラームス:ハンガリー舞曲集、ワルツ集 全音楽譜出版社
- ドヴォルザーク:スラヴ舞曲集 全音楽譜出版社
- ドビュッシー:小組曲 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP465N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細	3S		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指す。2.楽譜を深く読み込み、より深い芸術性と豊かな表現を目指す。3.伴奏の勉強を通じて、詩と音楽の緊密な結びつきをピアノパートにおいて表現できるよう、奏法を研究する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 古典派のソナタを学ぶ(1) 全体を見通す・・・古典派とはなにかを学ぶ
- 第2回 古典派のソナタを学ぶ(2) 楽曲分析・・・和声について改めて考える
- 第3回 古典派のソナタを学ぶ(3) 原典版について学ぶ
- 第4回 古典派のソナタを学ぶ(4) 提示部の練習
- 第5回 古典派のソナタを学ぶ(5) 展開部の練習
- 第6回 古典派のソナタを学ぶ(6) 再現部の練習
- 第7回 古典派のソナタを学ぶ(7) 仕上げと暗譜
- 第8回 合唱曲伴奏の仕方を学ぶ(1) 楽譜の読み方、コードネームについて知識を深める
- 第9回 合唱曲伴奏の仕方を学ぶ(2) 左手の音が持つ、和声構成における重要な支えの音の存在について学ぶ
- 第10回 合唱曲伴奏の仕方を学ぶ(3) 合唱のパートにも触れ、音のバランスを伴奏の側からも読み取る方法を学ぶ
- 第11回 合唱曲伴奏の仕方を学ぶ(4) 演奏の確認、まとめ
- 第12回 ロマン派の小品を学ぶ(1) 作曲家について学ぶ
- 第13回 ロマン派の小品を学ぶ(2) フレーズの作り方、指使いの研究
- 第14回 ロマン派の小品を学ぶ(3) メロディーと伴奏のバランスを考える
- 第15回 ロマン派の小品を学ぶ(4) 仕上げ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・各自、図書館などの施設を利用し、様々な録音資料、映像資料などにもあたること。
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、演奏表現意欲と達成度で評価する。その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

とりあげた曲にまつわる他の芸術分野の作品についても触れ、より深い解釈ができるよう、常に積極的に演奏表現について研究すること。

ナンバリング	CEP465N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細	3情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ①2年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツァを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける
③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
2回目 グラナドスの作品を個々の能力に応じて勉強する。
3回目 グラナドスの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
4回目 グラナドスの作品を暗譜で弾く。
5回目 古典派の連弾曲を勉強する。
6回目 古典派の連弾曲を教員と弾く。
7回目 ロマン派の連弾曲を勉強する。
8回目 ロマン派の連弾曲を教員と弾く。
9回目 近、現代の連弾曲を勉強する。
10回目 近、現代の連弾曲を教員と弾く。
11回目 古典派の2台ピアノの作品を勉強する。
12回目 古典派の2台ピアノの作品を教員と弾く。
13回目 後期試験曲を選定。
14回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、時代背景を確認。
15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP465N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅴ		
科目詳細	3EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、アンサンブル課題にも取り組みながら複数で演奏表現をする為の様々な奏法を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス
第2回: 自由選択曲(1)～楽曲背景の発表
第3回: 自由選択曲(2)～多様な音楽表現の研究
第4回: 自由選択曲(3)～演奏表現の工夫
第5回: 自由選択曲(4)～仕上げ
第6回: アンサンブル曲研究(1)～1台4手課題曲(作曲家と楽曲構成の理解と譜読みの確認)
第7回: アンサンブル曲研究(2)～1台4手課題曲(アンサンブルとしての呼吸、ペダリングの確認)
第8回: アンサンブル曲研究(3)～1台4手課題曲(音響のバランスと演奏解釈についての考察)
第9回: アンサンブル曲研究(4)～2台4手課題曲(作曲家と楽曲構成の理解と譜読みの確認)
第10回: アンサンブル曲研究(5)～2台4手課題曲(アンサンブルとしての呼吸、ペダリングの確認)
第11回: アンサンブル曲研究(6)～2台4手課題曲(音響のバランスと演奏解釈についての考察)
第12回: アンサンブル曲研究(7)～2台4手課題曲(演奏表現の確認と仕上げ)
第13回: 自由選択曲 演奏発表
第14回: アンサンブル曲の演奏発表
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイトを練習すること。
- ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものをAA～Dの評価にして提示する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP466N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅵ		
科目詳細	3Ⅴ		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指し、伴奏の役割と重要性についても学ぶ。 2.適切なフィンガリングを自ら選択できる力を養う。 3.ペダリングについて、自らの演奏をよく聴取し、コントロールできるようにする。 4.簡単な楽曲を短期間で自らの力で仕上げられるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 中学教科書の歌唱曲の初見伴奏(1)曲想に合わせてテンポやハーモニー、ブレスなどを意識する
第2回 中学教科書の歌唱曲の初見伴奏(2)役割を交代する
第3回 バロック時代の作品を学ぶ(1)全体を見通し、構成を理解する
第4回 バロック時代の作品を学ぶ(2)声部ごとに奏する、歌唱による表現の実験など
第5回 バロック時代の作品を学ぶ(3)楽曲分析
第6回 バロック時代の作品を学ぶ(4)表現の可能性について細部の検討
第7回 バロック時代の鍵盤楽器について学ぶ(楽器学資料館を利用し試弾を行う)
第8回 バロック時代の作品を学ぶ(5)現代ピアノでの演奏上の工夫
第9回 オラトリオのアリアの伴奏(1)歌詞の理解、器楽と声楽の調和について学ぶ
第10回 オラトリオのアリアの伴奏(2)声楽、器楽各パートを分析し、表現の可能性を検討する
第11回 オラトリオのアリアの伴奏(3)演習を通じ、より深い芸術性を追求する
第12回 オラトリオのアリアの伴奏(4)録音と批評
第13回 自由課題(小品)の演習(楽譜を集中して読み、自らの力で短期間で仕上げる訓練を行う)
第14回 自由課題(小品)の暗譜と仕上げ
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイト改訂版を練習すること。
・毎回のレッスンには楽曲を研究し、よく練習して臨むこと。(毎日目安50分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと自主的な研究意欲、演奏表現の達成度で授業内評価を行う。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト改訂版。
中学校音楽教科書。 その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP466N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅵ		
科目詳細	3鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～Ⅳの基礎過程で学習した内容を深め、より高度で音楽的なピアノ演奏が出来ることを目指す。そして専攻のオルガン・電子オルガンでの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・ピアノ演奏の基本的なテクニックと表現力の習得
- ・個々の能力に合った作品を学ぶ
- ・伴奏及び連弾・二台ピアノ作品を学ぶ

- 第1回目 課題曲①弾き合う
第2回目 課題曲②表現を深める
第3回目 課題曲③仕上げ
第4回目 後期試験曲①選定
第5回目 後期試験曲②曲の理解、構造分析
第6回目 後期試験曲③相応しいタッチ、テクニックの習得
第7回目 後期試験曲④イメージをしっかりと持つ
第8回目 2台ピアノ作品①曲の理解、構造分析
第9回目 2台ピアノ作品②音色、バランスに留意
第10回目 2台ピアノ作品③仕上げ
第11回目 後期試験曲⑤表現を深める
第12回目 後期試験曲⑥暗譜
第13回目 後期試験曲⑦細部迄表現を磨く
第14回目 後期試験曲⑧仲間で聴き合う
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安:毎日75分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材:
※スケールメイト改訂版
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品 等
※中学校・高等学校の教科書の歌唱曲及び鑑賞用の曲(伴奏用)

※※連弾用教材(例)
ベートーヴェン:交響曲集 全音楽譜出版社
ブラームス:ハンガリー舞曲集、ワルツ集 全音楽譜出版社
ドヴォルザーク:スラヴ舞曲集 全音楽譜出版社
ドビュッシー:小組曲 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP466N		
科目名	器楽表現(ピアノ)VI		
科目詳細	3S		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指し、伴奏の役割と重要性についても学ぶ。2.適切なフィンガリングを自ら選択できる力を養う。3.ペダリングについて、自らの演奏をよく聴取し、コントロールできるようにする。4.簡単な楽曲を短期間で自らの力で仕上げられるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 中学教科書の歌唱曲の初見伴奏(1) 初見伴奏における注意点について学ぶ
第2回 中学教科書の歌唱曲の初見伴奏(2) 様々なパートの記された大譜表の読み方になれる
第3回 中学教科書の歌唱曲の初見伴奏(3) 移調について学ぶ
第4回 バロック時代の作品を学ぶ(1) 楽曲分析
第5回 バロック時代の作品を学ぶ(2) "声部"の意味について、音楽的に理解する
第6回 バロック時代の作品を学ぶ(3) 当時の楽器をイメージしながら勉強する
第7回 バロック時代の作品を学ぶ(4) 各声部の音楽的意味を感じながら演奏していく
第8回 バロック時代の作品を学ぶ(5) 仕上げ
第9回 変奏曲について学ぶ(1) 作品の全体像をつかむ
第10回 変奏曲について学ぶ(2) テーマの研究
第11回 変奏曲について学ぶ(3) それぞれの変奏の特徴をつかむ 1 テーマからの派生について学ぶ
第12回 変奏曲について学ぶ(4) それぞれの変奏の特徴をつかむ 2 全体の流れの中で表現する
第13回 変奏曲について学ぶ(5) 長調、短調の音楽的特徴を捉える
第14回 変奏曲について学ぶ(6) 全体の流れをつかむ
第15回 変奏曲について学ぶ(7) 仕上げ、試演会

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
(目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと自主的な研究意欲、演奏表現の達成度で授業内評価を行う。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

中学校音楽教科書

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP466N		
科目名	器楽表現(ピアノ)VI		
科目詳細	3情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ①2年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツァを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける
③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
- 2回目 ラヴェルの作品を個々の能力に応じて勉強する。
- 3回目 ラヴェルの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
- 4回目 ラヴェルの作品を暗譜で弾く。
- 5回目 古典派の連弾曲を勉強する。
- 6回目 古典派の連弾曲を教員と弾く。
- 7回目 ロマン派の連弾曲を勉強する。
- 8回目 ロマン派の連弾曲を教員と弾く。
- 9回目 近、現代の連弾曲を勉強する。
- 10回目 近、現代の連弾曲を教員と弾く。
- 11回目 古典派の2台ピアノの作品を勉強する。
- 12回目 古典派の2台ピアノの作品を教員と弾く。
- 13回目 後期試験曲を選定。
- 14回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、時代背景を確認。
- 15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP466N		
科目名	器楽表現(ピアノ)VI		
科目詳細	3EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、アンサンブル課題にも取り組みながら複数で演奏表現をする為の様々な奏法を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス
第2回: 自由選択曲(1)～楽曲背景の発表
第3回: 自由選択曲(2)～多様な音楽表現の検討
第4回: 自由選択曲(3)～更なる演奏表現の工夫
第5回: 仕上げ
第6回: 伴奏研究(1)声楽の伴奏の役割とポイント
第7回: 伴奏研究(2)器楽の伴奏の役割とポイント
第8回: 伴奏研究(3)学校で使う教材の伴奏の役割とポイント
第9回: 伴奏研究(4)近現代の楽曲の伴奏の役割とポイント
第10回: 試験課題曲の取り組み
第11回: 試験課題曲研究(1)～楽曲背景の発表
第12回: 試験課題曲研究(2)～多様な音楽表現の検討
第13回: 試験課題曲研究(3)～演奏表現の工夫
第14回: 試験課題曲研究(4)～仕上げ
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイトを練習すること。
- ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものと実技試験(100点満点)を合計し、2分の1にした点数をAA～Dの評価にして提示する。なお実技試験は複数の教員で採点する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP467N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細	4V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.楽譜からいかに人間の感情を読み取り、それをピアノで表現することができるか、常に探究心をもって、課題にあたる。 2.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指す。特にカンタービレ奏法を学び、ピアノで「歌う」ことができるよう心掛ける。 3.重唱の伴奏や歌唱指導の際の「弾き歌い」などの能力を身につける。 4.オペラ・アリアの伴奏などを通じ、テンポの重要性を理解する。

◆授業内容・計画◆

第1回 重唱の伴奏(1)読譜と分析
第2回 重唱の伴奏(2)表現研究
第3回 弾き歌い(1)伴奏を中心に学ぶ
第4回 弾き歌い(2)歌唱の充実
第5回 ロマン派の小品(1)読譜と分析
第6回 ロマン派の小品(2)表現研究
第7回 ロマン派の小品(3)暗譜と仕上げ
第8回 オペラ・アリアの伴奏(1)歌詞についての研究と読譜
第9回 オペラ・アリアの伴奏(2)オーケストラ・パートのピアノ表現
第10回 オペラ・アリアの伴奏(3)表現の研究、テンポのコントロールなど
第11回 近・現代の小品(1)曲の性格、時代背景などを学ぶ
第12回 近・現代の小品(2)表現の可能性について検討
第13回 近・現代の小品(3)暗譜と仕上げ
第14回 試演会、夏休み課題の検討
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレヴェル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
- ・毎回のレッスンには楽曲を研究し、よく練習して臨むこと。(毎日目安50分)
- ・伴奏の演習にあたっては、歌と伴奏の役割を交代しながら、両方のパートを学ぶ。

◆成績評価の方法◆

ソロ作品、アンサンブル作品ともに、課題への真摯な取り組みと積極性、達成度により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP467N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細	4鍵(オル,電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～Ⅳの基礎過程で学習した内容を深め、より高度で音楽的なピアノ演奏が出来ることを目指す。そして専攻のオルガン・電子オルガンでの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・高度なピアノ演奏テクニックと表現力の習得
- ・個々の能力に合った作品を学ぶ
- ・伴奏及び連弾・二台ピアノ作品を学ぶ

- 第1回目 春休み宿題曲①弾き合う
第2回目 春休み宿題曲②表現を深める
第3回目 春休み宿題曲③仕上げ
第4回目 連弾曲①作品構造分析
第5回目 連弾曲②音色、フォーレーシング、ペダリングに留意
第6回目 連弾曲③お互いのパートを良く聴き表現を深める
第7回目 連弾曲④仕上げ
第8回目 自由曲①近現代の曲から選ぶ
第9回目 自由曲②曲の理解、構造分析
第10回目 自由曲③表現に相応しいタッチ、テクニックの習得
第11回目 自由曲④表現を深める
第12回目 自由曲⑤イメージをしっかりと描く
第13回目 自由曲⑥細部迄表現を磨く
第14回目 自由曲⑦仕上げ
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
(目安:毎日75分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み及び演奏成果
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ※スケールメイト
- ※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品等
- ※中学校・高等学校の教科書の歌唱曲及び鑑賞用の曲(伴奏用)

- ※※連弾用教材(例)
- ベートーヴェン:交響曲集 全音楽譜出版社
- ブラームス:ハンガリー舞曲集、ワルツ集 全音楽譜出版社
- ドヴォルザーク:スラヴ舞曲集 全音楽譜出版社
- ドビュッシー:小組曲 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP467N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細	4S		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.楽譜からいかに人間の感情を読み取り、それをピアノで表現することができるか、常に探究心をもって、課題にあたる。2.既に学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指す。特にカンタービレ奏法を学び、ピアノで「歌う」ことができるよう心掛ける。3.重唱の伴奏や歌唱指導の際の「弾き歌い」などの能力を身につける。4.教育実習を見据えた、直ちに実践できる応用適応能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 重唱の伴奏(1) 出身中学、高校の校歌を使って、伴奏を学ぶ
- 第2回 重唱の伴奏(2) 校歌における、各声部の和声的意味を、再度確認する
- 第3回 重唱の伴奏(3) 短い重唱曲を取り上げ、伴奏パートの重要な音を理解する
- 第4回 重唱の伴奏(4) 実際に演奏を通して、バランスについて考える
- 第5回 ロマン派の小品(1) 楽譜の選び方について学ぶ
- 第6回 ロマン派の小品(2) 各国それぞれの「ロマン派作品」についての特徴を理解する
- 第7回 ロマン派の小品(3) 楽譜に書かれている楽語について詳しく意味を理解する
- 第8回 ロマン派の小品(4) フレーズにおける「声楽的要素」、「器楽的要素」について考える(1)フレーズ感について考える
- 第9回 ロマン派の小品(5) フレーズにおける「声楽的要素」、「器楽的要素」について考える(2)ハーモニーを意識する
- 第10回 ロマン派の小品(6) 演奏上のタイミング、音楽的『揺れ』の可能性について学ぶ、仕上げ
- 第11回 近・現代の小品(1) 読譜、特徴について学ぶ
- 第12回 近・現代の小品(2) 表現可能性についての検討
- 第13回 近・現代の小品(3) 打鍵について考える(現代のピアノにおける特徴に触れながら)
- 第14回 近・現代の小品(4) 和声について考える(スケールメイトの復習をしながら)
- 第15回 近・現代の小品(5) 仕上げ、試演会

◆準備学習の内容◆

- ・課題についてよく準備して臨む。
 - ・伴奏の演習にあたっては、歌と伴奏の役割を交代しながら、両方のパートを学ぶ。
- (目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

ソロ作品、アンサンブル作品ともに、課題への真摯な取り組みと積極性、達成度により評価する。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP467N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細	4情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ①2年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツァを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける
③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
2回目 ヒンデミットの作品を個々の能力に応じて勉強する。
3回目 ヒンデミットの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
4回目 ヒンデミットの作品を暗譜で弾く。
5回目 古典派の連弾曲を勉強する。
6回目 古典派の連弾曲を教員と弾く。
7回目 ロマン派の連弾曲を勉強する。
8回目 ロマン派の連弾曲を教員と弾く。
9回目 近、現代の連弾曲を勉強する。
10回目 近、現代の連弾曲を教員と弾く。
11回目 古典派の2台ピアノの作品を勉強する。
12回目 古典派の2台ピアノの作品を教員と弾く。
13回目 後期試験曲を選定。
14回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、時代背景を確認。
15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験は複数の教員で採点し成績をつける。
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP467N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅶ		
科目詳細	4EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、アンサンブル課題にも取り組みながら複数で演奏表現をする為の様々な奏法を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス
第2回: 教員採用試験の傾向と対策、教育実習に向けた準備
第3回: 課題曲の作品研究と演奏法
第4回: 該当の都道府県の課題に取り組む(新曲視奏、伴奏など)
第5回: 学校教材を使用し、弾き歌いの研究
第6回: 個々の問題点の検討と克服
第7回: 自由選択曲(1)楽曲背景の研究
第8回: 自由選択曲(2)多様な音楽表現の研究
第9回: 自由選択曲(3)演奏表現の工夫
第10回: 仕上げ
第11回: アンサンブル曲研究(1)1台4手(「教材曲例一覧」より任意)
第12回: アンサンブル曲研究(2)1台4手(「教材曲例一覧」より任意)
第13回: アンサンブル曲研究(3)2台4手(「教材曲例一覧」より任意)
第14回: 研究発表
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイトを練習すること。
- ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものをAA～Dの評価にして提示する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

※教材曲例一覧は学生便覧(別冊)を参照。

ナンバリング	CEP468N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細	4V		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.これまでに学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指し、自発的な表現意欲と音楽への洞察力を深める。 2.ピアノ協奏曲などを通じ、オーケストラの様々な音色についてより詳しく学び、多彩でスケールの大きな演奏を目指す。 3.初級者のピアノ演奏について、正しくアドバイスしたり、より音楽的な表現に近づくことを導ける指導力も身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 ピアノ入門教材を用い、指導法について学ぶ(1)練習曲
第2回 ピアノ入門教材を用い、指導法について学ぶ(2)小品
第3回 ピアノ協奏曲(1)コンチェルトのスタイルを学ぶ
第4回 ピアノ協奏曲(2)読譜
第5回 ピアノ協奏曲(3)オーケストラ・パートの研究
第6回 ピアノ協奏曲(4)録音資料と共にスコアリーディングを行い、移調楽器の記譜法を学ぶ
第7回 ピアノ協奏曲(5)表現の研究
第8回 ピアノ協奏曲(6)演奏と聴取
第9回 自由課題曲(1)読譜、分析
第10回 自由課題曲(2)表現研究
第11回 自由課題曲(3)暗譜と仕上げ
第12回 これまでに学んだレパートリーの演習
第13回 弾き歌いなど、初見課題に取り組む
第14回 試演会
第15回 4年間の総括

◆準備学習の内容◆

- ・個々のレベル、目的に合わせてスケールメイトを練習すること。
- ・毎回のレッスンには楽曲を研究し、よく練習して臨むこと。(毎日目安50分)
- ・様々な楽器、記譜法についての知識を得てレッスンに臨む。

◆成績評価の方法◆

自主的な研究と演奏の達成度、課題に対しての積極的な取り組みによって評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP468N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細	4鍵(オル、電オル)		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

I～IVの基礎課程で学習した内容を深め、より高度で音楽的なピアノ演奏が出来ることを目指す。そして専攻のオルガン・電子オルガンでの演奏能力の向上に役立てる。

◆授業内容・計画◆

- ・高度なピアノ演奏テクニックと表現力の習得
 - ・個々の能力に合った作品を学ぶ
 - ・伴奏及び連弾・二台ピアノ作品を学ぶ
- 第1回目 夏休み宿題曲①弾き合う
第2回目 夏休み宿題曲②表現を深める
第3回目 夏休み宿題曲③仕上げ
第4回目 重奏曲①作品構造分析
第5回目 重奏曲②音色、フォーレーシング、ペダリングに留意
第6回目 重奏曲③お互いのパートを良く聴き表現を深める
第7回目 重奏曲④仕上げ
第8回目 自由曲①選定
第9回目 自由曲②曲の理解、構造分析
第10回目 自由曲③表現に相応しいタッチ、テクニックの習得
第11回目 自由曲④表現を深める
第12回目 自由曲⑤イメージをしっかりと描く
第13回目 自由曲⑥細部迄表現を磨く
第14回目 自由曲⑦仕上げ
第15回目 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと
- (目安:毎日75分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み及び演奏成果
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

※スケールメイト
※バロック・古典派・ロマン派・近現代の作品等 テキストは未定 授業内で指示する
※中学校・高等学校の教科書の歌唱曲及び鑑賞用の曲(伴奏用)

※※連弾用教材(例)
ベートーヴェン:交響曲集 全音楽譜出版社
ブラームス:ハンガリー舞曲集、ワルツ集 全音楽譜出版社
ドヴォルザーク:スラヴ舞曲集 全音楽譜出版社
ドビュッシー:小組曲 全音楽譜出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP468N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細	4S		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

1.これまでに学んだテクニックと表現力のより一層の向上を目指し、自発的な表現意欲と音楽への洞察力を深める。2.初級者のピアノ演奏について、正しくアドバイスしたり、より音楽的な表現に近づくことを導ける指導力も身につける。3.日本人作品への知識を深める。

◆授業内容・計画◆

第1回 ピアノ入門教材を用い、指導法について学ぶ(1) 指の形、手の形の意味について考える
第2回 ピアノ入門教材を用い、指導法について学ぶ(2) 和声の重要性について考える～スケールメイトを使用しながら～
第3回 邦人作品を学ぶ(1) 日本の作曲家について学ぶ
第4回 邦人作品を学ぶ(2) 読譜、音楽的特徴の研究
第5回 邦人作品を学ぶ(3) フレーズを感じながら、音楽的呼吸を考えて練習する
第6回 邦人作品を学ぶ(4) 音のバランス、強弱の質について考える
第7回 邦人作品を学ぶ(5) 全体の流れを考える
第8回 邦人作品を学ぶ(6) 仕上げ
第9回 自由課題曲(1) 読譜、作品の背景について学ぶ
第10回 自由課題曲(2) 自主的に表現をすることに挑戦し、全体像を考えながら音楽的抑揚をつけていく
第11回 自由課題曲(3) 暗譜について学ぶ(1)フレーズの呼吸をとらえる
第12回 自由課題曲(4) 暗譜について学ぶ(2)和声感に対する意識
第13回 自由課題曲(5) 実際により確実な暗譜ができるように仕上げに向けていく
第14回 自由課題曲(6) 試演会

第15回 4年間のまとめ

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨む。
・様々な楽器、記譜法についての知識を得てレッスンに臨む。
(目安毎日60分以上)

◆成績評価の方法◆

自主的な研究と演奏の達成度、課題に対しての積極的な取り組みによって評価する。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

ピアノ初級入門教材

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP468N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細	4情		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- ①2年次に学んだ基礎の上に立ち、更なるピアノ奏法を身につける②アルペジオとカデンツァを学び、それぞれの調性の和声感を身に付ける
③様々な楽曲を学び音楽の世界観を広げる

◆授業内容・計画◆

各々の能力にあった小品およびスケールメイト改訂版を勉強する

- 1回目 課題曲を演奏する。
2回目 ラフマニノフの作品を個々の能力に応じて勉強する。
3回目 ラフマニノフの作品の指使い、フレーズ、ペダル、発想記号の確認。
4回目 ラフマニノフの作品を暗譜で弾く。
5回目 古典派の連弾曲を勉強する。
6回目 古典派の連弾曲を教員と弾く。
7回目 ロマン派の連弾曲を勉強する。
8回目 ロマン派の連弾曲を許員と弾く。
9回目 近、現代の連弾曲を勉強する。
10回目 近、現代の連弾曲を教員と弾く。
11回目 古典派の2台ピアノの作品を勉強する。
12回目 古典派の2台ピアノの作品を教員と弾く。
13回目 後期試験曲を選定。
14回目 指使い、フレーズ、ペダル、発想記号、時代背景を確認。
15回目 まとめと発表。

◆準備学習の内容◆

- ・各々のレベルでスケールメイト改訂版をよく勉強すること
 - ・予習、復習をよくすること
- (目安:1日30分以上)

◆成績評価の方法◆

授業内評価:授業への取り組み
個々の課題については授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト 改訂版

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP468N		
科目名	器楽表現(ピアノ)Ⅷ		
科目詳細	4EI		
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

個人レッスンにおいて、アンサンブル課題にも取り組みながら複数の演奏表現をする為の様々な奏法を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

第1回: ガイダンス
第2回: 自由選択曲(1)～楽曲背景の研究発表
第3回: 自由選択曲(2)～多様な音楽表現の検討
第4回: 自由選択曲(3)～更なる演奏表現の工夫
第5回: 卒業試験曲への取り組み
第6回: 各自の卒業試験曲研究(1)楽曲研究
第7回: 各自の卒業試験曲研究(2)楽曲背景の研究発表
第8回: 各自の卒業試験曲研究(3)多様な音楽表現の検討
第9回: 各自の卒業試験曲研究(4)更なる演奏表現の工夫
第10回: 各自の卒業試験曲研究(5)ディスカッション
第11回: 各自の卒業試験曲研究(6)暗譜の確認
第12回: 総合的な音楽表現の追求
第13回: 卒業試験曲の仕上げ
第14回: 卒業試験曲の演奏発表
第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・スケールメイトを練習すること。
- ・宿題とされた課題は、作品研究をして調べたことを記録し、授業で発表できるようにすること。
- ・研究で得た知識をピアノ演奏に生かし、よく練習して授業に臨むこと。
(目安 毎日60分程度)

◆成績評価の方法◆

授業の意欲・態度、作品研究、技術の向上・成果を授業内評価(100点満点)したものと実技試験(100点満点)を合計し、2分の1にした点数をAA～Dの評価にして提示する。なお実技試験は複数の教員で採点する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

スケールメイト。その他、授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	器楽表現(弦管打) I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の扱い方と基本的な音の出し方
- 第3回 楽器の仕組みと練習の方法
- 第4回 課題曲①音の確認と課題発見
- 第5回 課題曲①まとまりのある演奏に向けた工夫
- 第6回 課題曲①仕上げ
- 第7回 課題曲②音の確認と課題発見
- 第8回 課題曲②演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲②仕上げ
- 第11回 課題曲③音の確認、演奏のポイント
- 第12回 課題曲③楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲③仕上げ
- 第15回 器楽表現 I のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP076N		
科目名	器楽表現(電子オルガン) I		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガン未経験者は足鍵盤や様々なオルガン奏法に慣れるように、経験者はさらに技術や演奏表現を上達させ、卒業後の進路に役立てることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1曲に多く時間をかけるよりも、なるべく多くの曲を楽しみながら経験出来るように、レパートリーを増やすことを目標とする。
 未経験者は、まず足鍵盤に慣れるためにベースのみで練習。左手とベース、右手とベース等、順序を経て、両手と足を合わせて弾けるようにする。
 経験者は、レパートリーを増やし、専攻に役立つ学びを心がける。
 下記は、未経験者の習得進度の例。

第1回	ベースのみで足鍵盤に慣れる練習 (1)音の切り方
第2回	ベースのみで足鍵盤に慣れる練習 (2)音のつなげ方
第3回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習 (1)1拍目の取り方
第4回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習 (2)リズムののり方
第5回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習 (1)ベースのレガート
第6回	右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得
第7回	全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック (1)イニシャルタッチ
第8回	全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック (2)アフタータッチ
第9回	リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得 (1)オンビート
第10回	リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得 (2)アフタービート
第11回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得 (1)レガートのつなげ方
第12回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得 (2)Tutti
第13回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得 (3)p,pp
第14回	全体のテンポの流れやフレーズ感をチェック
第15回	授業内での演奏発表と、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・レッスンの題材は図書館などを利用し準備する。弾いてみたい曲やジャンルの希望があれば適宜相談する。
- ・楽器が自宅に無い学生はSPCの電子オルガンで練習。
- ・復習と予習にそれぞれ15～30分ほどは楽器に触れることが望ましい。
- ・レジストレーションデータを各自で保存できるようUSBフラッシュメモリーを用意する。メモリーは電子オルガン専用を用意することを推奨する。容量は問わないが器楽表現の授業のみを考慮する場合は1GB程度で十分。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度については適宜フィードバックする。成績は授業に対する取り組みと授業内演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

卒業後に役立てるため電子オルガン演奏の他にピアノでの即興演奏や作編曲もレッスン可能。

ナンバリング			
科目名	器楽表現(弦管打)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、相手の音楽を聴きながら演奏する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 器楽表現Ⅰの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲④音の確認、演奏のポイント
- 第4回 課題曲④楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲④演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲④仕上げ
- 第7回 課題曲⑤(重奏)音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑤(重奏)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑤(重奏)互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑤(重奏)仕上げ
- 第11回 課題曲⑥(ソロ)音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑥(ソロ)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑥(ソロ)ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑥(ソロ)仕上げ
- 第15回 器楽表現Ⅱのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP093N		
科目名	器楽表現(電子オルガン)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガン未経験者は足鍵盤や様々なオルガン奏法に慣れるように、経験者はさらに技術や演奏表現を上達させ、卒業後の進路に役立てることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1曲に多く時間をかけるよりも、なるべく多くの曲を楽しみながら経験出来るように、レパートリーを増やすことを目標とする。
 未経験者は、足鍵盤に慣れて来たら、リズムに乗る練習や、演奏表現を向上させる。色々なジャンルの音楽を経験し、さらに演奏表現が向上出来るようにする。
 経験者は、レパートリーを増やし、専攻に役立つ学びを心がける。
 下記は、未経験者の習得進度の例。

第1回	ベースのみで足鍵盤に慣れる練習(1)細かい音の長さ
第2回	ベースのみで足鍵盤に慣れる練習(2)レガートのつなげ方
第3回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(1)オンビート
第4回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(2)アフタービート
第5回	左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(3)パートのバランス
第6回	右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得
第7回	全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(1)イニシャルタッチ
第8回	全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(2)アフタータッチ
第9回	リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(1)リズムののり方
第10回	リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(2)リズムのくずし方
第11回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(1)のりしろレガート
第12回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(2)各パートのバランス
第13回	表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(3)呼吸、構成
第14回	全体のテンポの流れやフレーズ感をチェック
第15回	授業内での演奏発表と、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・レッスンの題材は図書館などを利用し準備する。弾いてみたい曲やジャンルの希望があれば適宜相談する。
- ・楽器が自宅に無い学生はSPCの電子オルガンで練習。
- ・復習と予習にそれぞれ15～30分ほどは楽器に触れることが望ましい。
- ・レジストレーションデータを各自で保存できるようUSBフラッシュメモリーを用意する。メモリーは電子オルガン専用を用意することを推奨する。容量は問わないが器楽表現の授業のみを考慮する場合は1GB程度で十分。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度については適宜フィードバックする。成績は授業に対する取り組みと授業内演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

卒業後に役立てるため電子オルガン演奏の他にピアノでの即興演奏や作編曲もレッスン可能。

ナンバリング			
科目名	器楽表現(弦管打)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、アンサンブルやピアノ伴奏のついたソロの演奏表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 器楽表現Ⅱの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑦(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑦(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑦(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑦(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑧(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑧(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑧(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑧(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑨(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑨(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑨(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑨(ソロ) 仕上げ
- 第15回 器楽表現Ⅲのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP488N		
科目名	器楽表現(電子オルガン)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガン未経験者は足鍵盤や様々なオルガン奏法に慣れるように、経験者はさらに技術や演奏表現を上達させ、卒業後の進路に役立てることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1曲に多く時間をかけるよりも、なるべく多くの曲を楽しみながら経験出来るように、レパートリーを増やすことを目標とする。
未経験者は、Ⅰ,Ⅱセメスターをさらに難易度のレベルを上げ、好きな曲が弾けるように演奏表現の向上も学ぶ。
経験者は、簡単な曲をアレンジしたり、コピーすることにもチャレンジし、専攻に役立つ学びを心がける。
下記は、未経験者の習得進度の例。

- 第1回 左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(1)つま先とかかと
第2回 左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(2)姿勢
第3回 右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得(1)レガート奏法
第4回 右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得(2)音の切り方
第5回 全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(1)イニシャルタッチ
第6回 全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(2)アフタータッチ
- 第7回 リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(1)縦のり
第8回 リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(2)横のり
第9回 自分でレジストレーションを作ることを経験する(1)選び方
第10回 自分でレジストレーションを作ることを経験する(2)組み合わせ
第11回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(1)フレーズ
第12回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(2)Tuttiとpp
第13回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(3)構成力
第14回 暗譜しながら、全体のテンポの流れやフレーズ感をチェック
第15回 授業内での演奏発表と、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・レッスンの題材は図書館などを利用し準備する。弾いてみたい曲やジャンルの希望があれば適宜相談する。
- ・楽器が自宅に無い学生はSPCの電子オルガンで練習。
- ・復習と予習にそれぞれ15～30分ほどは楽器に触れることが望ましい。
- ・レジストレーションデータを各自で保存できるようUSBフラッシュメモリーを用意する。メモリーは電子オルガン専用を用意することを推奨する。容量は問わないが器楽表現の授業のみを考慮する場合は1GB程度で十分。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度については適宜フィードバックする。成績は授業に対する取り組みと授業内演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する

◆留意事項◆

卒業後に役立てるため電子オルガン演奏の他にピアノでの即興演奏や作編曲もレッスン可能。

ナンバリング			
科目名	器楽表現(弦管打)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	教員		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、曲にふさわしい音楽表現を工夫して、アンサンブルやピアノ伴奏のついたソロの演奏表現をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 器楽表現Ⅲの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑩(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑩(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑩(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑩(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑪(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑪(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑪(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑪(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑫(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑫(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑫(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑫(ソロ) 仕上げ
- 第15回 器楽表現Ⅳのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP505N		
科目名	器楽表現(電子オルガン)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(電オル)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

電子オルガン未経験者は足鍵盤や様々なオルガン奏法に慣れるように、経験者はさらに技術や演奏表現を上達させ、卒業後の進路に役立てることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

1曲に多く時間をかけるよりも、なるべく多くの曲を楽しみながら経験出来るように、レパートリーを増やすことを目標とする。

未経験者は、Ⅲセメスターの内容のレベルアップと、可能であれば曲作りも経験する。

経験者は、簡単な曲をアレンジしたり、コピーすることにもチャレンジし、専攻に役立つ学びを心がける。

下記は、未経験者の習得進度の例。

- 第1回 左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(1)つま先とかかと
- 第2回 左手とベースを合わせてリズム感を養いながら練習(2)左手レガート
- 第3回 右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得(1)のりしろレガート
- 第4回 右手と左手のみで、電子オルガンならではのタッチの使い方を習得(2)音の切り方
- 第5回 全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(1)イニシャルタッチ
- 第6回 全て合わせての演奏。それぞれのタッチの使い方をチェック(2)アフタータッチ

- 第7回 リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(1)オンビート
- 第8回 リズムのノリ方を、参考音源なども交えながら習得(2)アフタービート
- 第9回 自分でレジストレーションを作ることを経験する(1)リズムを打ち込む
- 第10回 自分でレジストレーションを作ることを経験する(2)リズムをシーケンスに組む
- 第11回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(1)呼吸
- 第12回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(2)構成
- 第13回 表現力を養うことに重きを置き、演奏法を取得(3)一貫性
- 第14回 暗譜しながら、全体のテンポの流れやフレーズ感をチェック
- 第15回 授業内での演奏発表と、まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・レッスンの題材は図書館などを利用し準備する。弾いてみたい曲やジャンルの希望があれば適宜相談する。
- ・楽器が自宅に無い学生はSPCの電子オルガンで練習。
- ・復習と予習にそれぞれ15～30分ほどは楽器に触れることが望ましい。
- ・レジストレーションデータを各自で保存できるようUSBフラッシュメモリーを用意する。メモリーは電子オルガン専用に用意することを推奨する。容量は問わないが器楽表現の授業のみを考慮する場合は1GB程度で十分。

◆成績評価の方法◆

普段の習得度については適宜フィードバックする。成績は授業に対する取り組みと授業内演奏で評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する

◆留意事項◆

卒業後に役立てるため電子オルガン演奏の他にピアノでの即興演奏や作編曲もレッスン可能。

ナンバリング	CEP057N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ) I		
科目詳細			
担当教員			
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)ピアノの演奏の基本的な技術及び表現力を習得する。
(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。
(3)20世紀から今日に至る様々な音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に直接、役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス(個々の学生の状態の把握と授業の説明)
第2回:課題曲1-1「19世紀後半から20世紀初頭にかけてのピアノ独奏曲」の読譜のポイント
第3回:課題曲1-2 上記楽曲の作曲様式の研究と作品解釈
第4回:課題曲1-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第5回:課題曲1-4 上記楽曲の仕上げと相互評価
第6回:課題曲2-1「20世紀前半のピアノ独奏曲」の読譜のポイント
第7回:課題曲2-2 上記楽曲の作曲様式の研究と作品解釈
第8回:課題曲2-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第9回:課題曲2-4 上記楽曲の仕上げと相互評価
第10回:課題曲3-1「20世紀前半のピアノ独奏曲」の読譜のポイント
第11回:課題曲3-2 上記楽曲の作曲様式の研究と作品解釈
第12回:課題曲3-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第13回:課題曲3-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第14回:課題曲3-5 上記楽曲の仕上げと相互評価
第15回:器楽表現(創作系ピアノ) I のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(毎日目安40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP058N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)ピアノの演奏の基本的な技術及び表現力を習得する。
- (2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品について幅広い知識と理解を得る。
- (3)ピアノという楽器の仕組みを知り、鍵盤上での特殊な奏法や特殊なペダルの使用法を用いた楽曲が演奏できる。
- (4)20世紀から今日に至る様々な音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:ピアノの仕組みと鍵盤上での様々な特殊奏法
第2回:課題曲1-1「鍵盤上での特殊奏法を用いたピアノ曲」の奏法研究と読譜のポイント
第3回:課題曲1-2 上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第4回:課題曲1-3 上記楽曲の音楽表現の工夫
第5回:課題曲1-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第6回:課題曲1-5 上記楽曲の仕上げと相互評価
第7回:3本のペダルの仕組みと使用法
第8回:課題曲2-1「特殊なペダルの使用法を用いたピアノ曲」の奏法研究
第9回:課題曲2-2 上記楽曲の音楽表現の工夫
第10回:課題曲2-3 上記楽曲の仕上げと相互評価
第11回:課題曲3-1「20世紀前半から今日までのピアノ独奏曲」の選択と読譜のポイント
第12回:課題曲3-2 上記楽曲の作曲様式の研究と作品解釈
第13回:課題曲3-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第14回:課題曲3-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第15回:課題曲3-5 上記楽曲の仕上げと相互評価

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、定期試験の結果、提出レポートにより判断する。定期試験(実技試験)は複数の教員で採点する。レッスン中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。課題曲3は個々の学生に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP059N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員			
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の基本的な技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。(3)ピアノの内部奏法についての知識を得、それらを用いた楽曲が演奏できるようになる。(4)図形楽譜の基本的な読み解き方を学ぶ。(5)20世紀から今日に至る様々な音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:「様々なピアノの内部奏法」の実例
第2回: 課題曲1-1「内部奏法を用いたピアノ曲その1」の奏法研究と読譜のポイント
第3回: 課題曲1-2 上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第4回: 課題曲1-3 上記楽曲の音楽表現の工夫と深化
第5回: 課題曲2-1「内部奏法を用いたピアノ曲その2」の奏法研究と読譜のポイント
第6回: 課題曲2-2 上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第7回: 課題曲2-3 上記楽曲の音楽表現の工夫と深化
第8回:「内部奏法を用いたピアノ曲その1、その2」の仕上げと相互評価
第9回:「様々な図形楽譜と記譜法」の実例
第10回: 課題曲3-1「図形楽譜によるピアノ曲」の読譜のポイント
第11回: 課題曲3-2 上記楽曲のリアリゼーションの基礎
第12回: 課題曲3-3 上記楽曲のリアリゼーションの実践
第13回: 課題曲3-4 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第14回:「図形楽譜によるピアノ曲」の仕上げと相互評価
第15回: 器楽表現(創作系ピアノ)Ⅲのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、定期試験の結果、提出レポートにより判断する。定期試験(実技試験)は複数の教員で採点する。レッスン中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP060N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員			
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の基本的な技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。(3)プリペアド・ピアノについての知識を得、楽曲が演奏できるようになる。(4)20世紀から今日に至る様々な音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:「プリペアド・ピアノ及びプリパレイション」の概要
第2回: 課題曲1-1「プリペアド・ピアノのための楽曲その1」のプリパレイション研究と実践
第3回: 課題曲1-2 上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第4回: 課題曲1-3 上記楽曲の音楽表現の工夫
第5回: 課題曲1-4「プリペアド・ピアノのための楽曲その1」の仕上げと相互評価
第6回: 課題曲2-1「プリペアド・ピアノのための楽曲その2」のプリパレイション研究と実践
第7回: 課題曲2-2 上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第8回: 課題曲2-3 上記楽曲の音楽表現の工夫
第9回: 課題曲2-4「プリペアド・ピアノのための楽曲その2」の仕上げと相互評価
第10回: 課題曲3-1「20～21世紀のピアノ曲」の読譜のポイント
第11回: 課題曲3-2 上記楽曲の作曲様式の研究と作品解釈
第12回: 課題曲3-3 上記楽曲の演奏のポイント
第13回: 課題曲3-4 上記楽曲の音楽表現の工夫
第14回: 課題曲3-5 上記楽曲の音楽表現の深化
第15回: 課題曲3-6「20～21世紀のピアノ曲」の仕上げと相互評価
定期試験

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(毎日目安40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、定期試験の結果、提出レポートにより判断する。定期試験(実技試験)は複数の教員で採点する。レッスン中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する。課題曲3は、個々の学生に応じた楽曲を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP469N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅴ		
科目詳細			
担当教員			
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての更に深い知識と理解を得る。(3)2台ピアノの作品、1台4手(連弾)のための作品の演奏を通して、アンサンブルの経験を積む。(4)今日に至る様々な音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:ガイダンス 2台ピアノ作品、ピアノ1台4手作品(連弾)についての概要
第2回:課題曲1-1:2台ピアノ作品の読譜のポイント
第3回:課題曲1-2:上記楽曲の奏法研究
第4回:課題曲1-3:上記楽曲の作品解釈
第5回:課題曲1-4:上記楽曲の音楽表現のポイント
第6回:課題曲1-5:上記楽曲の音楽表現の工夫
第7回:課題曲1-6:上記楽曲の音楽表現の深化
第8回:課題曲1-7:上記楽曲の仕上げと相互評価
第9回:課題曲2-1:1台4手作品の読譜のポイント
第10回:課題曲2-2:上記楽曲の奏法研究
第11回:課題曲2-3:上記楽曲の作品解釈と音楽表現のポイント
第12回:課題曲2-4:上記楽曲の音楽表現の工夫
第13回:課題曲2-5:上記楽曲の音楽表現の深化
第14回:課題曲2-6:上記楽曲の仕上げと相互評価
第15回:器楽表現(創作系ピアノ)Ⅴのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(毎日目安40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価しフィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指示する。個々の学生に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP470N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅵ		
科目詳細			
担当教員			
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。(3)作曲家の意図、記譜法、実際に鳴る音と音楽の相互関係について考察ができるようになる。(4)今日に至る、そして、現代における様々な地域の音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:課題曲1-1:ソロ作品(その1)の読譜のポイント
第2回:課題曲1-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第3回:課題曲1-3:上記楽曲の音楽表現の工夫と深化
第4回:課題曲1-4:上記楽曲の仕上げと相互評価
第5回:課題曲2-1:ソロ作品(その2)の読譜のポイント
第6回:課題曲2-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第7回:課題曲2-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第8回:課題曲2-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第9回:課題曲2-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第10回:課題曲3-1:ソロ作品(その3)の読譜のポイント
第11回:課題曲3-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第12回:課題曲3-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第13回:課題曲3-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第14回:課題曲3-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第15回:器楽表現(創作系ピアノ)Ⅵのまとめの演奏
定期試験

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安毎日40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、定期試験の結果、提出レポートにより判断する。定期試験(実技試験)は複数の教員で採点する。レッスン中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指示する。個々の学生に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP471N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅶ		
科目詳細			
担当教員			
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。(3)作曲家の意図、記譜法、実際に鳴る音と音楽の相互関係について考察ができるようになる。(4)今日に至る、そして、現代における様々な地域の音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:課題曲1-1:ソロ作品(その1)の読譜のポイント
第2回:課題曲1-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第3回:課題曲1-3:上記楽曲の音楽表現の工夫と深化
第4回:課題曲1-4:上記楽曲の仕上げと相互評価
第5回:課題曲2-1:ソロ作品(その2)の読譜のポイント
第6回:課題曲2-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第7回:課題曲2-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第8回:課題曲2-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第9回:課題曲2-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第10回:課題曲3-1:ソロ作品(その3)の読譜のポイント
第11回:課題曲3-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第12回:課題曲3-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第13回:課題曲3-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第14回:課題曲3-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第15回:器楽表現(創作系ピアノ)Ⅶのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安毎日40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価し、フィードバックすること、提出レポートにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指示する。個々の学生に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP472N		
科目名	器楽表現(創作系ピアノ)Ⅷ		
科目詳細			
担当教員			
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)ピアノの演奏の技術及び表現力を習得する。(2)多様な時代、様式の作品に触れることにより、ピアノ作品についての幅広い知識と理解を得る。(3)作曲家の意図、記譜法、実際に鳴る音と音楽の相互関係について考察ができるようになる。(4)今日に至る、そして、現代における様々な地域の音楽を知り、演奏することにより、自らの創作活動に役立てることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回:課題曲1-1:ソロ作品(その1)の読譜のポイント
第2回:課題曲1-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第3回:課題曲1-3:上記楽曲の音楽表現の工夫と深化
第4回:課題曲1-4:上記楽曲の仕上げと相互評価
第5回:課題曲2-1:ソロ作品(その2)の読譜のポイント
第6回:課題曲2-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第7回:課題曲2-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第8回:課題曲2-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第9回:課題曲2-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第10回:課題曲3-1:ソロ作品(その3)の読譜のポイント
第11回:課題曲3-2:上記楽曲の作品解釈と演奏のポイント
第12回:課題曲3-3:上記楽曲の音楽表現の工夫
第13回:課題曲3-4:上記楽曲の音楽表現の深化
第14回:課題曲3-5:上記楽曲の仕上げと相互評価
第15回:器楽表現(創作系ピアノ)Ⅷのまとめの演奏
定期試験

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。(目安毎日40分) また、作曲者と作品についての知識を得ておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、定期試験の結果、提出レポートにより判断する。
レッスン中に課題を適宜フィードバックする。
定期試験(実技試験)は複数の教員で採点する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指示する。個々の学生に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEP001N		
科目名	西洋古楽表現(リコーダー)Ⅰ		
科目詳細	初級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

リコーダーの歴史、構造を知り、基礎技術を身につける。ルネッサンス、バロック時代の演奏様式を理解し、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 リコーダーについて
- リコーダーの歴史、構造、主なレパートリーについて学習する。
- 第2回 リコーダーの基本奏法
- アルトリコーダー構え方、呼吸法、タンギング、運指法について学習する。
- 第3回 基礎練習(1)
- 左手の運指練習
- 第4回 基礎練習(2)
- 右手の運指練習
- 第5回 基礎練習(3)
- 低音域の安定して美しい音を出す練習
- 第6回 基礎練習(4)
- 高音域のサミングの練習
- 第7回 楽譜の読み方と表現(1)
- 二重奏のレパートリーを教材にして、ルネサンス、バロック音楽固有の楽譜の読み方や特有の奏法を学習する
- 第8回 楽譜の読み方と表現(3)
- ルネッサンスの舞曲より、パヴァーヌ
- 第9回 楽譜の読み方と表現(4)
- ルネッサンスの舞曲より、ガリアルド
- 第10回 楽譜の読み方と表現(5)
- バロックの舞曲より、メヌエット
- 第11回 楽譜の読み方と表現(6)
- バロックの舞曲より、アルマンド
- 第12回 楽譜の読み方と表現(7)
- バロックの舞曲より、サラバンド
- 第13回 楽譜の読み方と表現(8)
- バロックの舞曲より、クーラント
- 第14回 楽譜の読み方と表現(9)
- バロックの舞曲より、ガヴオット他
- 第15回
- まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題の取り組みや発表演奏を適宜講評し、学期末実技試験の結果を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ギースベルト リコーダー教本』F. J. ギースベルト著(日本ショット社)
受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP004N		
科目名	西洋古楽表現(リコーダー)Ⅱ		
科目詳細	初級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

アンサンブルを中心に、ルネッサンス、バロック時代の年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回 アルトリコーダー以外のリコーダー
ソプラノ、テナー、バス、グレートバス、コントラバス等、様々なサイズのリコーダーを演奏する技術を学習する。

第2回 プレトリウス等の作品
様々な楽器を使用してのアンサンブルを学習する。

第3回 プレトリウス等の作品
課題曲の仕上げ

第4回 バッハのコラール
コラールの歌詞との関係を学習する

第5回 バッハのコラール
課題曲の仕上げ

第6回 ホルボーンのパヴァーン
実際に踊り、その性格を学習する

第7回 ホルボーンのパヴァーン
課題曲の仕上げ

第8回 ホルボーンのカリヤルド
実際に踊り、その性格を学習する

第9回 ホルボーンのカリヤルド
課題曲の仕上げ

第10回 ホルボーンのアルマンド
実際に踊り、その性格を学習する

第11回 ホルボーンのアルマンド
課題曲の仕上げ

第12回 ガブリエリのカンツォン
多声部のカンツォンを学習する

第13回 ガブリエリのカンツォン
カンツォンにおける、2拍子と3拍子の関係を学習する

第14回 ガブリエリのカンツォン
課題曲の仕上げ

第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題の取り組みや発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ギースベルト リコーダー教本』F. J. ギースベルト著(日本ショット社)
受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP007N		
科目名	西洋古楽表現(リコーダー)Ⅲ		
科目詳細	中級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アンサンブルを中心に、ルネッサンス、バロック時代の年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、グループ分け
- 第2回 パレストリーナ等の作品
後ルネサンス音楽の時代背景、形式について学習する
- 第3回 パレストリーナ等の作品
歌詞との関係
- 第4回 パレストリーナ等の作品
ポリフォニー演奏の学習
- 第5回 パレストリーナ等の作品
課題曲の仕上げ
- 第6回 フレスコバルディのリチェルカーレ
初期イタリア音楽のリチェルカーレについて時代背景、形式について学習する
- 第7回 フレスコバルディのリチェルカーレ
使用されている調性、フィグーラなどを楽譜から読み取る
- 第8回 フレスコバルディのリチェルカーレ
課題曲の仕上げ
- 第9回 メルラのカンツォン
初期イタリア音楽のカンツォンについて時代背景、形式について学習する
- 第10回 メルラのカンツォン
使用されている調性、フィグーラなどを楽譜から読み取る
- 第11回 メルラのカンツォン
課題曲の仕上げ
- 第12回 ローゼンミューラのソナタ
バロック中期の時代背景、形式について学習する
- 第13回 ローゼンミューラのソナタ
使用されている調性、舞曲のリズム、フィグーラなどを楽譜から読み取る
- 第14回 ローゼンミューラのソナタ
課題曲の仕上げ
- 第15回
まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題の取り組みや発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP010N		
科目名	西洋古楽表現(リコーダー)Ⅳ		
科目詳細	中級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

通奏低音を入れたアンサンブルを中心に、バロック時代の年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 J. S. バッハのフーガ レグレンツィの主題によるフーガ
バロック後期の時代背景、形式について学習する
- 第2回 J. S. バッハのフーガ レグレンツィの主題によるフーガ
使用されている調性、フィグーラなどを楽譜から読み取る
- 第3回 J. S. バッハのフーガ レグレンツィの主題によるフーガ
課題曲の仕上げ
- 第4回 通奏低音
通奏低音の基本的な知識を学習する
- 第5回 J. C. シックハルトの協奏曲
協奏曲について学習する
- 第6回 J. C. シックハルトの協奏曲
第1楽章、第2楽章の協奏曲様式の学習
- 第7回 J. C. シックハルトの協奏曲
第1楽章、第2楽章の仕上げ
- 第8回 J. C. シックハルトの協奏曲
第3楽章・緩徐楽章の装飾と表現について
- 第9回 J. C. シックハルトの協奏曲
第3楽章の仕上げ
- 第10回 J. C. シックハルトの協奏曲
第4楽章の舞曲様式の学習
- 第11回 J. C. シックハルトの協奏曲
第4楽章の仕上げ
- 第12回 J. C. シックハルトの協奏曲
全曲を通奏低音にチェンバロを入れて仕上げる
- 第13回 パーセルのシャコンヌ
シャコンヌについて学習する
- 第14回 パーセルのシャコンヌ
課題曲の仕上げ
- 第15回
まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題の取り組みや発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP002N		
科目名	西洋古楽表現(ヴィオラ・ダ・ガンバ)Ⅰ		
科目詳細	初級		
担当教員	坪田 一子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ヴィオラ・ダ・ガンバの歴史的背景を学習し、美しい音で合奏が出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 楽器の歴史的背景と構造。構え方と弓の持ち方
- 第2回 開放弦を鳴らす
- 第3回 左手の構え方
- 第4回 音階とリズム練習
- 第5回 簡単な旋律を弾く
- 第6回 コーラルの合奏(歌のフレーズに合わせる)
- 第7回 コーラルの合奏(正しい音程で美しいハーモニーを作る)
- 第8回 コーラルの合奏まとめ
- 第9回 ルネサンスの舞曲<パヴァーヌ> T.スザートの曲集から、ゆったりとした二拍子の作品を演奏する
- 第10回 ルネサンスの舞曲 第9回に引き続きいくつかのパヴァーヌを演奏し、舞曲のテンポや形式を学習する
- 第11回 ルネサンスの舞曲<アルマンド> T.スザートの曲集から、軽快な二拍子の舞曲を演奏する
- 第12回 ルネサンスの舞曲 第11回に引き続きいくつかのアルマンドを演奏し、舞曲のテンポや形式を学習する
- 第13回 ルネサンスの舞曲<ガリアルド> T.スザートの曲集から、軽快な三拍子の舞曲を演奏する
- 第14回 ルネサンスの舞曲 第13回に引き続きいくつかのガリアルドを演奏し、舞曲のテンポや形式を学習する
- 第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

課題の練習を必ずしてくる。

◆成績評価の方法◆

平常の課題への取り組みにより評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつどプリントを配布。

◆参考図書◆

ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳「ヴィオール概論」(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

トレブル、テナー、バスにパートを振り分け、楽器を貸し出す。

ナンバリング	CEP005N		
科目名	西洋古楽表現(ヴィオラ・ダ・ガムバ)Ⅱ		
科目詳細	初級		
担当教員	坪田 一子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ルネサンスから初期バロックまでのレパートリーをより広く学ぶ。楽器をより美しく鳴らせるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 イタリアの合唱曲
- 第2回 イタリアの器楽曲
- 第3回 イタリアのコンソートまとめ
- 第4回 フランスの合唱曲
- 第5回 フランスの器楽曲
- 第6回 フランスのコンソートまとめ
- 第7回 ドイツの合唱曲
- 第8回 ドイツの器楽曲
- 第9回 ドイツのコンソートまとめ
- 第10回 イギリスの合唱曲
- 第11回 イギリスの器楽曲 16世紀の作品
- 第12回 イギリスの器楽曲 17世紀の作品
- 第13回 イギリスのコンソートまとめ
- 第14回 グループごとに相談して試験や芸術祭で弾く曲を決める
- 第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

課題を練習してくる他、音楽史の中での位置づけや時代背景も調べておく。

◆成績評価の方法◆

楽器を大切に扱い、課題に熱心に取り組んでいるかを評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつどプリントを配布。

◆参考図書◆

ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳「ヴィオラ概論」(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

グループ・レッスンだが、個人のレベルにあった指導をする。

ナンバリング	CEP008N		
科目名	西洋古楽表現(ヴィオラ・ダ・ガムバ)Ⅲ		
科目詳細	中級		
担当教員	坪田 一子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演奏技術のみがき、より美しい音での合奏が出来るようになる。全集や叢書から楽譜をリサーチ出来るようになる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、編成決め
- 第2回 イタリアのコンソート G.G.ガストルディ「バレー集」より舞曲を演奏
- 第3回 イタリアのコンソート G.フレスコバルディ＜フランス風シャンソン＞
- 第4回 イタリアのコンソート G.ガブリエリ＜カンツォン＞
- 第5回 イタリアのコンソートまとめ
- 第6回 ドイツのコンソート J.H.シャイン「音楽の饗宴」より舞曲を演奏
- 第7回 ドイツのコンソート ＜イントラダ＞＜パドゥアーナ＞
- 第8回 ドイツのコンソート ＜ガリアルダ＞＜アルマンド＞
- 第9回 ドイツのコンソートまとめ
- 第10回 イギリスのコンソート ムジカ・ブリタニカ「ヘンリー8世の作品集」より
- 第11回 イギリスのコンソート ムジカ・ブリタニカ「エリザベス朝のコンソート音楽」より
- 第12回 イギリスのコンソート ムジカ・ブリタニカ「ジャコバン時代のコンソート音楽」より
- 第13回 イギリスのコンソート ムジカ・ブリタニカ「コンソート・ソング」より
- 第14回 イギリスのコンソートまとめ
- 第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

課題の個人練習、作曲家について調べる。(週2時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど指示。

◆参考図書◆

ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳「ヴィオール概論」(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

希望があればバロック期のソロ曲や通奏低音の課題も用意する。

ナンバリング	CEP011N		
科目名	西洋古楽表現(ヴィオラ・ダ・ガバン)Ⅳ		
科目詳細	中級		
担当教員	坪田 一子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

イギリスのコンソート音楽の歴史的意義を理解し、適切な奏法で演奏できるようになる。

◆授業内容・計画◆

コンソート音楽の黄金期をかざったイギリスの作品は、大陸とは隔たった環境で独自の発展をとげていった。当時出版されず手稿譜として残された作品群は長い間知られることがなかったが、その数は膨大で西洋音楽史において異色の存在である。ここではそのような作品を実際に演奏し、大陸からどのように影響を受け、それがどのようにイギリス風になっていったかなどを考察し、演奏技術についても向上を目指していく。

- 第1回 インノミネについて J.タヴァナー＜インノミネ＞
第2回 W.バード＜インノミネ＞
第3回 O.ギボンズ＜インノミネ＞
第4回 その他の定旋律を持つ作品
第5回 舞曲について 16世紀の＜パヴァーヌ＞＜ガリアルド＞ A.ホルボーンなど
第6回 J.ジェンキンス＜パヴァーヌ＞
第7回 ファンタジアについて W.バード＜ファンタジア＞
第8回 J.ジェンキンス＜ファンタジア＞
第9回 O.ギボンズ＜ファンタジア＞
第10回 A.フェラボスコ＜ファンタジア＞
第11回 コンソート・スイーツあるいはファンタジア舞曲について
- 第12回 W.ロウズ＜組曲＞
第13回 M.ロック＜組曲＞
第14回 H.パーセル＜ファンタジア＞＜インノミネ＞
第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

課題の個人練習。(週2時間程度)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつどプリントを配布

◆参考図書◆

「ヴィオール概論」ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

課題曲はメンバーの技量に合わせて調整する。希望があればバロック期のソロ曲や通奏低音の課題も用意する。

ナンバリング	CEP003N		
科目名	西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅰ		
科目詳細	初級		
担当教員	長久 真実子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-004	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

チェンバロを弾く上で身につけたいタッチ、奏法の基礎を学ぶ。また、チェンバロ伴奏やアンサンブルに欠かせない通奏低音(数字付き低音)の基礎を習得する。

◆授業内容・計画◆

第1回 カイダンス 楽器の仕組みと扱い方について

- 第2回 ソロ: チェンバロのタッチ～レガート奏法を中心に～クラヴィスNo.9 J.S.Bach : Praeludium
通奏低音: 基本位置の和音
- 第3回 ソロ: クラヴィスNo.9 J.S.Bach : Praeludium 仕上げ
通奏低音: 基本位置の和音の連結
- 第4回 ソロ: チェンバロのタッチ～アーティキュレーション～ クラヴィスNo.1 J.Krieger : Menuet
通奏低音: 6の和音
- 第5回 ソロ: クラヴィスNo.1 J.Krieger : Menuet 仕上げ
通奏低音: 6の和音の連続
- 第6回 ソロ: 強弱の表現 クラヴィスNo.3 G.F.Händel: Gavotte
通奏低音: 基本和音と6の和音 実践
- 第7回 ソロ: クラヴィスNo.3 G.F.Händel: Gavotte 仕上げ
通奏低音: 4-3の和音
- 第8回 ソロ: 装飾音の工夫 クラヴィスNo.5a/b C.Petzzold: Menuet 1/2
通奏低音: 4-3の和音 実践
- 第9回 ソロ: クラヴィスNo.5a/b C.Petzzold: Menuet 1/2 仕上げ
通奏低音: 46の和音
- 第10回 ソロ: フランスバロックに触れる クラヴィスNo.4 M.Correte: Les Folies d'Espagne
通奏低音: 7の和音 属7、長7、短7、減7
- 第11回 ソロ: レジストレーションの変化 クラヴィスNo.4 M.Correte: Les Folies d'Espagne
通奏低音: 7の和音 実践
- 第12回 ソロ: クラヴィスNo.4 M.Correte: Les Folies d'Espagne 仕上げ
通奏低音: 7-6の連続
- 第13回 ソロ: 発表曲準備
通奏低音: 発表曲準備
- 第14回 授業内発表① ソロ曲と通奏低音
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業を受けるにあたり、チェンバロで練習する時間を週2時間は確保すること。また、通奏低音も復習が欠かせないため、そのつもりで臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び学期末の授業内発表の演奏により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『クラヴィス』(大塚直哉編、現代ギター社)

◆参考図書◆

『通奏低音の練習』(上尾直毅、アカデミア・ミュージック)
『鍵盤による数字つき和声』(R.O.モリス著/今井円治訳、音楽之友社)
『チェンバロ大事典』(日本チェンバロ協会編、春秋社)

◆留意事項◆

- ・この授業は、火曜3限および4限の時間帯にチェンバロⅢと合同で開講します。(3限と4限のどちらの時間帯で履修登録しても構いません。)
- ・レッスン曲は個人の技量やペースに合わせて調整します。
- ・チェンバロを使った実技レッスンのため、受け入れ人数はチェンバロⅢ受講者と合わせて1時限あたり最大9名までとする。受講者数によっては、少人数のグループレッスンを行う。
- ・履修希望者は必ずオリエンテーションに参加すること。やむを得ない理由でオリエンテーションに参加できない場合は、前日までに教務に申し出ること。

ナンバリング	CEP006N		
科目名	西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅱ		
科目詳細	初級		
担当教員	長久 真実子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-004	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

チェンバロⅠに引き続き、バロック時代の曲を知りチェンバロでの表現を習得する。通奏低音の基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ソロ:アーティキュレーションと指使い クラヴィスNo.12 J.S.Bach : Invention 1 片手ずつ
通奏低音:前期の和音復習
- 第2回 ソロ:クラヴィスNo.12 J.S.Bach : Invention 1
通奏低音:7-6と7-7の連続
- 第3回 ソロ:クラヴィスNo.12 J.S.Bach : Invention 1 仕上げ
通奏低音:56の和音
- 第4回 ソロ:声部の弾きわけ クラヴィスNo.10 J.C.F.Fischer : Chaconne
通奏低音:56の和音 いろいろな配置
- 第5回 ソロ:クラヴィスNo.10 J.C.F.Fischer : Chaconne 仕上げ
通奏低音:34の和音、246の和音
- 第6回 ソロ:フランスバロックの魅力～ノン・ムジュレ～ クラヴィスNo.17 J.-H.d'Anglibert : Prélude
通奏低音:フランス式の表記
- 第7回 ソロ:クラヴィスNo.17 J.-H.d'Anglibert : Prélude 仕上げ
通奏低音:9-8の和音
- 第8回 ソロ:フランスバロックの魅力～響きを聴く～ クラヴィスNo.11 F.Couperin : Prélude 1
通奏低音:実践
- 第9回 ソロ:クラヴィスNo.11 F.Couperin : Prélude 1 仕上げ
通奏低音:実践 クラヴィスNo.52 J.S.Bach : Air
- 第10回 ソロ:フランスバロックの魅力～バスラインに留意して～ クラヴィスNo.15 F.Couperin : Les Baricades
通奏低音:クラヴィスNo.52 J.S.Bach : Air 仕上げ
- 第11回 ソロ: クラヴィスNo.15 F.Couperin : Les Baricades 仕上げ
通奏低音: 発表曲準備
- 第12回 ソロ:発表曲準備
通奏低音: アンサンブル合わせ
- 第13回 ソロ:発表曲
通奏低音: アンサンブル合わせ
- 第14回 授業内発表 ソロ曲とアンサンブル曲
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業を受けるにあたり、チェンバロで練習する時間を週2時間は確保すること。また、通奏低音も復習が欠かせないため、そのつもりで臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び学期末の試験により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

クラヴィス(大塚直哉編、現代ギター社)

◆参考図書◆

通奏低音の練習(上尾直毅、アカデミア・ミュージック)
鍵盤による数字つき和声(R.O.モリス著/今井円治訳、音楽之友社)
チェンバロ大事典(日本チェンバロ協会編、春秋社)

◆留意事項◆

- ・この授業はチェンバロⅠに引き続き、火曜日3限および4限の時間帯にチェンバロⅣと合同で開講します。(3限と4限のどちらの時間帯で履修登録しても構いません。)
- ・レッスン曲は個人の技量やペースに合わせて調整します。
- ・受講者数によっては、少人数のグループレッスンを行う。

ナンバリング	CEP009N		
科目名	西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅲ		
科目詳細	中級		
担当教員	長久 真実子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	N-004	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

チェンバロのタッチや奏法をさらに深く習得し、各声部の弾きわけができる。通奏低音では様々な配置で奏することができる。即興にも挑戦する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ソロ:アーティキュレーションと拍節① クラヴィスNo.2 J.P.Rameau : Menuet
通奏低音:基本形と6の和音
- 第2回 ソロ:アーティキュレーションと拍節② クラヴィスNo.8 J.S.Bach : Praeludium
通奏低音:基本形と6の和音 滑らかな連結
- 第3回 ソロ:アーティキュレーションと拍節③ クラヴィスNo.16 G.P.Telemann: Fantasia
通奏低音:7の和音復習
- 第4回 ソロ:クラヴィスNo.16 G.P.Telemann: Fantasia 仕上げ
通奏低音:56、34、246の和音復習
- 第5回 ソロ:柔軟なアーティキュレーション① クラヴィスNo.13 J.S.Bach : Praeludium
通奏低音:9-8、4-3の連結
- 第6回 ソロ:クラヴィスNo.13 J.S.Bach : Praeludium 仕上げ
通奏低音:9-8、4-3の連結 実践
- 第7回 ソロ:柔軟なアーティキュレーション② クラヴィスNo.14 J.S.Bach :Prelude
通奏低音:二重倚音
- 第8回 ソロ: クラヴィスNo.14 J.S.Bach :Prelude 仕上げ
通奏低音:二重倚音 実践
- 第9回 ソロ:声部の弾きわけ クラヴィスNo.26b G.F.Händel:Fuga
通奏低音:右手の即興
- 第10回 ソロ:様々な装飾 クラヴィスNo.28 J.S.Bach : Wer nur den lieben Gott lässt walten
通奏低音:右手の即興 実践
- 第11回 ソロ:クラヴィスNo.28 J.S.Bach : Wer nur den lieben Gott lässt walten 仕上げ
通奏低音: 発表曲準備
- 第12回 ソロ: 発表曲準備
通奏低音: アンサンブル曲合わせ
- 第13回 ソロ: 発表曲
通奏低音: アンサンブル曲合わせ
- 第14回 授業内発表 ソロ曲とアンサンブル曲
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業を受けるにあたり、チェンバロで練習する時間を週2時間は確保すること。また、通奏低音も復習が欠かせないため、そのつもりで臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び学期末の授業内発表の演奏により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

クラヴィス(大塚直哉編、現代ギター社)
通奏低音の練習(上尾直毅、アカデミア・ミュージック)

◆参考図書◆

鍵盤による数字つき和声(R.O.モリス著/今井円治訳、音楽之友社)
チェンバロ大事典(日本チェンバロ協会編、春秋社)
チェンバロ 歴史と様式の系譜(久保田彰、株式会社ショパン)

◆留意事項◆

- ・この授業は、火曜3限および4限の時間帯にチェンバロⅠと合同で開講します。(3限と4限のどちらの時間帯で履修登録しても構いません。)
- ・レッスン曲は個人の技量やペースに合わせて調整します。
- ・チェンバロを使った実技レッスンのため、受け入れ人数はチェンバロⅢ受講者と合わせて1時限あたり最大9名までとする。受講者数によっては、少人数のグループレッスンを行う。
- ・履修希望者は必ずオリエンテーションに参加すること。やむを得ない理由でオリエンテーションに参加できない場合は、前日までに教務に申し出ること。

ナンバリング	CEP012N		
科目名	西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅳ		
科目詳細	中級		
担当教員	長久 真実子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	N-004	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

チェンバロⅢに引き続き、演奏技術に加え表現も磨く。通奏低音はアンサンブルでの実践に生かせるよう、アルペジオや即興の工夫を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ソロ:声部の弾きわけ① クラヴィスNo7 J.S.Bach : Sarabande
通奏低音: アルペジオの工夫① クラヴィスNo.44 A.Vivaldi : Concerto La Primavera
- 第2回 ソロ: クラヴィスNo.7 J.S.Bach : Sarabande 装飾音に留意して
通奏低音: アルペジオの工夫② クラヴィスNo.49 A.Vivaldi : Concerto L'Inverno
- 第3回 ソロ:クラヴィスNo.7 J.S.Bach : Sarabande 仕上げ
通奏低音:言葉との関係① クラヴィスNo.50 G.Caccini : Amarilli
- 第4回 ソロ:声部の弾きわけ② クラヴィスNo.18 J.P.Sweelinck : Pavana Lachrimae
通奏低音:クラヴィスNo.50 G.Caccini : Amarilli 仕上げ
- 第5回 ソロ:クラヴィスNo.18 J.P.Sweelinck : Pavana Lachrimae オールドフィンガリング
通奏低音:言葉との関係② クラヴィスNo.54 J.S.Bach : Ich habe genug
- 第6回 ソロ:クラヴィスNo.18 J.P.Sweelinck : Pavana Lachrimae
通奏低音:クラヴィスNo.54 J.S.Bach : Ich habe genug 仕上げ
- 第7回 ソロ:クラヴィスNo.18 J.P.Sweelinck : Pavana Lachrimae 仕上げ
通奏低音:フランス式の表記 クラヴィスNo.55 F.Couperin
- 第8回 ソロ: 声部の弾きわけ③ クラヴィスNo.19 G.Böhm : Allemande
通奏低音: 器楽旋律との関係 クラヴィスNo.52 J.S.Bach : Air
- 第9回 ソロ: クラヴィスNo.19 G.Böhm : Allemande
通奏低音:クラヴィスNo.52 J.S.Bach : Air
- 第10回 ソロ: クラヴィスNo.19 G.Böhm : Allemande 仕上げ
通奏低音: クラヴィスNo.52 J.S.Bach : Air 仕上げ
- 第11回 ソロ: 発表曲準備
通奏低音: 発表曲準備
- 第12回 ソロ: 発表曲
通奏低音: アンサンブル合わせ
- 第13回 ソロ:発表曲
通奏低音: アンサンブル合わせ
- 第14回 授業内発表 ソロ曲とアンサンブル曲
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業を受けるにあたり、チェンバロで練習する時間を週2時間は確保すること。また、通奏低音も復習が欠かせないため、そのつもりで臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、及び学期末の授業内発表の演奏により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『クラヴィス』(大塚直哉編、現代ギター社)
『通奏低音の練習』(上尾直毅、アカデミア・ミュージック)

◆参考図書◆

『鍵盤による数字つき和声』(R.O.モリス著/今井円治訳、音楽之友社)
『チェンバロ大事典』(日本チェンバロ協会編、春秋社)
『チェンバロ 歴史と様式の系譜』(久保田彰、株式会社ショパン)

◆留意事項◆

- ・この授業はチェンバロⅢに引き続き、火曜日3限および4限の時間帯にチェンバロⅡと合同で開講します。(3限と4限のどちらの時間帯で履修登録しても構いません。)
- ・レッスン曲は個人の技量やペースに合わせて調整します。
- ・受講者数によっては、少人数のグループレッスンを行う。

ナンバリング	CEP013N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅰ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽の中で長い歴史を持つ、長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回:楽器の名称、扱い方を学ぶ
第2回:基本的奏法の練習
第3回:楽譜の読み方、「さくらさくら」
第4回:「通りゃんせ」
第5回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方① 2段目まで
第6回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方② 4段目まで
第7回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方③ 最後まで
第8回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方④ 復習
第9回:古典曲「供奴」二上り部分① 1ページ5段目まで
第10回:古典曲「供奴」二上り部分② 1ページ終わりまで
第11回:古典曲「供奴」二上り部分③ 2ページ3段目まで
第12回:古典曲「供奴」二上り部分④ 2ページ8段目まで
第13回:古典曲「供奴」二上り部分⑤ 3ページ4段目まで
第14回:古典曲「供奴」二上り部分⑥ 3ページ終わりまで
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演奏に必要な道具(ばち・指掛け・ひざゴム・プラスチック駒)を初回授業時に購入してもらう。(7,800円程度、持っている学生は不要)
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、できるだけ後期の授業も履修すること。

ナンバリング	CEP013N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線) I		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽の中で長い歴史を持つ、長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回:楽器の名称、扱い方を学ぶ
第2回:基本的奏法の練習
第3回:楽譜の読み方、「さくらさくら」
第4回:「通りゃんせ」
第5回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方① 2段目まで
第6回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方② 4段目まで
第7回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方③ 最後まで
第8回:古典曲「勧進帳」より寄せの合方④ 復習
第9回:古典曲「供奴」二上り部分① 1ページ5段目まで
第10回:古典曲「供奴」二上り部分② 1ページ終わりまで
第11回:古典曲「供奴」二上り部分③ 2ページ3段目まで
第12回:古典曲「供奴」二上り部分④ 2ページ8段目まで
第13回:古典曲「供奴」二上り部分⑤ 3ページ4段目まで
第14回:古典曲「供奴」二上り部分⑥ 3ページ終わりまで
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演奏に必要な道具(ばち・指掛け・ひざゴム・プラスチック駒)を初回授業時に購入してもらう。(7,800円程度、持っている学生は不要)
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、できるだけ後期の授業も履修すること。

ナンバリング	CEP013N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅰ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,2年	クラス	03
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

日本音楽の中で、長い歴史を持つ長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンスおよび三味線を弾くために使うもの(木撥・指掛け・ひざゴム・ブラ駒)の名称・使用用途の説明
第2回 調弦の仕方の習得 課題曲「さくらさくら」(前半)音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「さくらさくら」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「さくらさくら」(通して)五線譜でない三味線独自の譜面(三線譜)の説明および実践(仕上げ)
第5回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(前半)音の確認と演奏上のポイント
第6回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第8回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(通して)楽曲の背景
第9回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(通して)仕上げ
第10回 課題曲「供奴」(①ページ前半)音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「供奴」(①ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第12回 課題曲「供奴」(②ページ前半)音の確認と演奏上のポイント
第13回 課題曲「供奴」(②ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第14回 課題曲「供奴」(②ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第15回 課題曲「供奴」(①②ページ通して)楽曲の背景、授業総括
(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わない。
前期最終授業日に、3～4名にてグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
演奏に必要な道具(ばち・指掛け・ひざゴム・プラスチック駒)を初回授業時に購入してもらう。(7800円程度、持っている学生は不要)
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ)履修すること。

ナンバリング	CEP013N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅰ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,2年	クラス	04
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

日本音楽の中で、長い歴史を持つ長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンスおよび三味線を弾くために使うもの(木撥・指掛け・ひざゴム・ブラ駒)の名称・使用用途の説明
第2回 調弦の仕方の習得 課題曲「さくらさくら」(前半)音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「さくらさくら」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「さくらさくら」(通して)五線譜でない三味線独自の譜面(三線譜)の説明および実践(仕上げ)
第5回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(前半)音の確認と演奏上のポイント
第6回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(後半)音の確認と演奏上のポイント
第8回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(通して)楽曲の背景
第9回 課題曲「勧進帳寄せの合方」(通して)仕上げ
第10回 課題曲「供奴」(①ページ前半)音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「供奴」(①ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第12回 課題曲「供奴」(②ページ前半)音の確認と演奏上のポイント
第13回 課題曲「供奴」(②ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第14回 課題曲「供奴」(②ページ後半)音の確認と演奏上のポイント
第15回 課題曲「供奴」(①②ページ通して)楽曲の背景、授業総括
(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わない。
前期最終授業日に、3～4名にてグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
演奏に必要な道具(ばち・指掛け・ひざゴム・プラスチック駒)を初回授業時に購入してもらう。(7800円程度、持っている学生は不要)
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ)履修すること。

ナンバリング	CEP017N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅱ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽の中で長い歴史を持つ、長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行いたいと考えている。

◆授業内容・計画◆

第1回:古典曲「供奴」二上り部分⑦ 前期の復習
第2回:古典曲「供奴」二上り部分⑧ 4ページ3段目まで
第3回:古典曲「供奴」二上り部分⑨ 4ページ終わりまで
第4回:古典曲「供奴」二上り部分⑩ 8ページ終わりまで
第5回:古典曲「供奴」二上り部分⑪ 最後まで
第6回:古典曲「供奴」二上り部分⑫ 復習
第7回:古典曲「供奴」二上り部分⑬ 復習
第8回:古典曲「供奴」本調子部分① 1ページ終わりまで
第9回:古典曲「供奴」本調子部分② 2ページ終わりまで
第10回:古典曲「供奴」本調子部分③ 4ページ1段目まで
第11回:古典曲「供奴」本調子部分④ 最後まで
第12回:古典曲「供奴」本調子部分⑤ 替手・唄
第13回:古典曲「供奴」本調子部分⑥ 復習・合奏
第14回:古典曲「供奴」本調子部分⑦ 復習・合奏
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期の授業も履修すること。

ナンバリング	CEP017N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅱ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽の中で長い歴史を持つ、長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行いたいと考えている。

◆授業内容・計画◆

第1回:古典曲「供奴」二上り部分⑦ 前期の復習
第2回:古典曲「供奴」二上り部分⑧ 4ページ3段目まで
第3回:古典曲「供奴」二上り部分⑨ 4ページ終わりまで
第4回:古典曲「供奴」二上り部分⑩ 8ページ終わりまで
第5回:古典曲「供奴」二上り部分⑪ 最後まで
第6回:古典曲「供奴」二上り部分⑫ 復習
第7回:古典曲「供奴」二上り部分⑬ 復習
第8回:古典曲「供奴」本調子部分① 1ページ終わりまで
第9回:古典曲「供奴」本調子部分② 2ページ終わりまで
第10回:古典曲「供奴」本調子部分③ 4ページ1段目まで
第11回:古典曲「供奴」本調子部分④ 最後まで
第12回:古典曲「供奴」本調子部分⑤ 替手・唄
第13回:古典曲「供奴」本調子部分⑥ 復習・合奏
第14回:古典曲「供奴」本調子部分⑦ 復習・合奏
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期の授業も履修すること。

ナンバリング	CEP017N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅱ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,2年	クラス	03
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

日本音楽の中で、長い歴史を持つ長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回 I 授業の確認
第2回 課題曲「供奴」(③ページ)音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「供奴」(④ページ)音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「供奴」(①～④ページ)テンポのつながりを踏まえ仕上げ
第5回 課題曲「供奴」(⑧ページ)音の確認と演奏上のポイント(⑤～⑦ページは調弦が異なるため、①～④ページと同じ調弦の⑧⑨ページを先に行う)
第6回 課題曲「供奴」(⑨ページ)音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「供奴」(①～④ページ、⑧⑨ページ)楽曲の背景、仕上げ
第8回 課題曲「供奴」(⑤ページ)音の確認と演奏上のポイント
第9回 課題曲「供奴」(⑥ページ)音の確認と演奏上のポイント
第10回 課題曲「供奴」(⑦ページ)音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「供奴」(⑤～⑦ページ)楽曲の背景、仕上げ
第12回 課題曲「供奴」の唄(⑥ページ)音の確認と演奏上のポイント
第13回 課題曲「供奴」の唄(⑦ページ)音の確認と演奏上のポイント
第14回 課題曲「供奴」の唄(⑥⑦ページ通して)唄と三味線との関わり方・唄う際使用する扇子の持ち方、仕上げ
第15回 課題曲「供奴」の唄・三味線(⑥⑦ページ)学生のみで唄・三味線に分かれて合奏・仕上げ、授業総括
(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習を行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わない。
後期最終授業日に、3～4名にてグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ)履修すること。

ナンバリング	CEP017N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅱ		
科目詳細	初級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,2年	クラス	04
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

日本音楽の中で、長い歴史を持つ長唄三味線の基本的な演奏技術を習得しつつ、日本の伝統音楽の知識、日本文化の理解を深める。折に触れ、西洋音楽との比較も行う。

◆授業内容・計画◆

第1回 I 授業の確認
第2回 課題曲「供奴」(③ページ)音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「供奴」(④ページ)音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「供奴」(①～④ページ)テンポのつながりを踏まえ仕上げ
第5回 課題曲「供奴」(⑧ページ)音の確認と演奏上のポイント(⑤～⑦ページは調弦が異なるため、①～④ページと同じ調弦の⑧⑨ページを先に行う)
第6回 課題曲「供奴」(⑨ページ)音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「供奴」(①～④ページ、⑧⑨ページ)楽曲の背景、仕上げ
第8回 課題曲「供奴」(⑤ページ)音の確認と演奏上のポイント
第9回 課題曲「供奴」(⑥ページ)音の確認と演奏上のポイント
第10回 課題曲「供奴」(⑦ページ)音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「供奴」(⑤～⑦ページ)楽曲の背景、仕上げ
第12回 課題曲「供奴」の唄(⑥ページ)音の確認と演奏上のポイント
第13回 課題曲「供奴」の唄(⑦ページ)音の確認と演奏上のポイント
第14回 課題曲「供奴」の唄(⑥⑦ページ通して)唄と三味線との関わり方・唄う際使用する扇子の持ち方、仕上げ
第15回 課題曲「供奴」の唄・三味線(⑥⑦ページ)学生のみで唄・三味線に分かれて合奏・仕上げ、授業総括(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習を行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わない。
後期最終授業日に、3～4名にてグループ発表を行う。

習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
三味線は大学の楽器を貸与する。
毎年履修希望者が定員を上回るので、オリエンテーション期間にガイダンスを行う。
履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
実技授業であるため、必ず前期(Ⅰ)・後期(Ⅱ)履修すること。

ナンバリング	CEP021N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅲ		
科目詳細	中級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	2年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級で習得した演奏技術をさらに拡大し、より一層の技術や知識の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンスおよび調弦・奏法の復習
第2回 課題曲「松の緑」(前半) 音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「松の緑」(後半) 音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「松の緑」(後半) 音の確認と演奏上のポイント
第5回 課題曲「松の緑」(通して)楽曲の背景・仕上げ
第6回 課題曲「鞍馬山」(1ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「鞍馬山」(1・2ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第8回 課題曲「鞍馬山」(1~3ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第9回 課題曲「鞍馬山」(1~3ページ) 唄との関連性を踏まえうたえで実技を行う
第10回 課題曲「鞍馬山」(4ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「鞍馬山」(4~5ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第12回 課題曲「鞍馬山」(4~6ページ) 音の確認と演奏上のポイント
第13回 課題曲「鞍馬山」(6ページ) 少人数に分けて個々のレベルアップをはかる
第14回 課題曲「鞍馬山」(1~6ページ) 演奏上の工夫
第15回 14回に渡った音楽表現Ⅲのまとめ
(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業前に演奏する曲を、復習・予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

前期最終授業日に、3~4名にてグループ発表を行う。
授業に取り組む姿勢、表現力や技術力を総合的に判断し評価する。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。
その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP021N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅲ		
科目詳細	中級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	2年,3年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級で習得した演奏技術を踏まえ、さらなる技術や知識の向上を目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回:古典曲「都鳥」① 1ページ終わりまで
第2回:古典曲「都鳥」② 6ページ1段目まで
第3回:古典曲「都鳥」③ 6ページ4段目まで
第4回:古典曲「都鳥」④ 替手・合奏
第5回:古典曲「花見踊」① 1ページ5段目まで
第6回:古典曲「花見踊」② 3ページ7段目まで
第7回:古典曲「花見踊」③ 6ページ終わりまで
第8回:古典曲「花見踊」④ ここまでの復習
第9回:古典曲「花見踊」⑤ 7ページ5段目まで
第10回:古典曲「花見踊」⑥ 8ページ2段目まで
第11回:古典曲「花見踊」⑦ 8ページ7段目まで
第12回:古典曲「花見踊」⑧ ここまでの復習
第13回:古典曲「花見踊」⑨ 10ページ3段目まで
第14回:古典曲「花見踊」⑩ ここまでの復習
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

三味線は大学の楽器を貸与する。
オリエンテーション期間にガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
授業への積極的参加を希望する。
なお、年度により適切な曲を選択するので、曲目を変更することもあり得る。

ナンバリング	CEP025N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅳ		
科目詳細	中級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	2年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級で習得した演奏技術をさらに拡大し、より一層の技術や知識の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンスおよび音楽表現Ⅲの復習
第2回 課題曲「鞍馬山」(7ページ)音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「鞍馬山」(7・8ページ)音の確認と演奏上のポイント
第4回 課題曲「鞍馬山」(7・9ページ)音の確認と演奏上のポイント
第5回 課題曲「鞍馬山」個々のレベルを踏まえ、ソロ演奏部分の選定
第6回 課題曲「鞍馬山」全体を通して曲の完成度を高める
第7回 課題曲「鞍馬山」一曲を総合的に、表現力を高めながら演奏する
第8回 課題曲「勸進帳」より滝流し合方(第1回目)音の確認と演奏上のポイント
第9回 課題曲「勸進帳」より滝流し合方(第2回目)正確な音程の習得
第10回 課題曲「勸進帳」より滝流し合方(第3回目)スムーズなスクイ・ハジキを習得したうえで、テンポアップをはかる
第11回 課題曲「勸進帳」三段目合方より段切まで(第1回目)音の確認と演奏上のポイント
第12回 課題曲「勸進帳」三段目合方より段切まで(第2回目)楽曲の解説と理解
第13回 課題曲「勸進帳」三段目合方より段切まで(第3回目)演奏上の工夫
第14回 課題曲「勸進帳」第8回目からの課題曲全体を通して
第15回 14回に渡った音楽表現Ⅳのまとめ
(状況により変更の場合あり)

◆準備学習の内容◆

授業前に演奏する曲を、復習・予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

後期最終授業日に、3～4名にてグループ発表を行う。
授業に取り組む姿勢、表現力や技術力を総合的に判断し評価する。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。
その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CEP025N		
科目名	日本伝統音楽表現(三味線)Ⅳ		
科目詳細	中級三味線		
担当教員	今藤 政子		
学年	2年,3年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級で習得した演奏技術を踏まえ、さらなる技術や知識の向上を目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回:古典曲「花見踊」⑪ 前期の復習
第2回:古典曲「花見踊」⑫ 10ページ8段目まで
第3回:古典曲「花見踊」⑬ 最後まで
第4回:古典曲「花見踊」⑭ 復習
第5回:古典曲「花見踊」⑮ 替手・掛け声
第6回:古典曲「花見踊」⑯ 復習・合奏
第7回:古典曲「花見踊」⑰ 復習・合奏
第8回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方① 1ページ7段目まで
第9回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方② 2ページ2段目まで
第10回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方③ 2ページ終わりまで
第11回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方④ ここまでの復習
第12回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方⑤ 3ページ5段目まで
第13回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方⑥ 復習
第14回:古典曲「勧進帳」より滝流しの合方⑦ 復習
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習をすることが望ましい。

◆成績評価の方法◆

試験は行わないが、最終授業日に、数名ずつに分かれてのグループ発表を行う。
習得への積極性を重視する。
必要に応じてレポートの提出等も行う。
授業内の実技に対しては、必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて、講師が準備し配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

三味線は大学の楽器を貸与する。
オリエンテーション期間にガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席すること。
ガイダンス日は告知する。
授業への積極的参加を希望する。
なお、年度により適切な曲を選択するので、曲目を変更することもあり得る。

ナンバリング	CEP014N		
科目名	日本伝統音楽表現(雅楽) I		
科目詳細	初級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

日本音楽の中でも最も古く、千三百年を越える歴史をもつ雅楽の演奏法を学ぶことにより、日本の音楽を身近に感じ、その様式や時間の流れを体得します。初級では、小・中学校の音楽の教科書にも取り上げられている雅楽の名曲「越天楽(えてんらく)」などの曲を課題曲とし、笙、箏、龍笛のいずれかの楽器を選択して、唱歌(しょうが)の歌い方、楽器の取扱方、楽譜の読み方など、演奏の基礎を学びます。

◆授業内容・計画◆

日本に1200以上伝わる「雅楽」の実技を学ぶ。楽器は次のようなものがあります。

- ・管楽器: 笙(しょう)、箏(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)
- ・絃楽器: 琵琶(びわ)、箏(こと)
- ・打楽器: 羯鼓(かっこ)、太鼓(たいこ)、鉦鼓(しょうこ)

履修者は主楽器として管楽器から一つ選択して実習します。笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導します。

＜前期＞主楽器のみ(笙)
履修曲: 越天楽 五常楽急(ごしょうらくのきゅう)

1. 越天楽の唱歌と笙の合竹(和音)
2. 笙の十一種の合竹をおぼえる 楽器の扱い方
3. 楽器に慣れる(1)「吹く・吸う」の呼吸の練習
4. 楽器に慣れる(2)楽器の運指法
5. 越天楽の演奏法(1)一行目
6. 越天楽の演奏法(2)二行目
7. 越天楽の演奏法(3)三行目
8. 越天楽合奏
9. 五常楽急の唱歌 五常楽急の演奏法(1)一、二行目
10. 五常楽急の演奏法(2)三、四行目
11. 五常楽急の演奏法(3)合奏
12. 越天楽・五常楽急の合奏(1)
13. 唱歌・楽器運指法・演奏法の確認
14. 越天楽・五常楽急の合奏(2)暗譜を目標
15. まとめ

授業各回はそれ以前に習得したものの復習を適宜挿入します。
「合奏」と記されている日は、他の楽器と合奏します。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間程度)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視し、適宜講評する。
前期末に実技試験を行う。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。
笙は楽器室保管の楽器を貸与する。
4月上旬にガイダンスを行うので受講希望者は必ず出席すること。

ナンバリング	CEP018N		
科目名	日本伝統音楽表現(雅楽)Ⅱ		
科目詳細	初級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

雅楽の初歩的な曲を学ぶことにより、日本の音楽を身近に感じ、その様式や時間の流れを体得します。課題曲としては、「越天楽」など平調の曲を学ぶほか、双調「酒胡子」も学ぶことによって調の違いを味わいます。前期に引き続き、管楽器(笙・篳篥・龍笛)を主に学びますが、絃楽器(琵琶・箏)や打楽器(羯鼓・太鼓・鉦鼓)の奏法も一通り体験して、合奏します。また、歌物のジャンルから 朗詠「嘉辰」取り上げ、古代歌謡の歌い方を学びます。

◆授業内容・計画◆

笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導します。

＜後期＞履修曲：
平調 /越天楽 五常楽急 陪臚(ばいろ)鶏徳(けいとく)
双調 /酒胡子(しゅこうし)
朗詠 /嘉辰(かしん)

雅楽特有の音楽の流れを身に付けるために、履修曲の唱歌はなるべく暗譜するようにしましょう。

1. 前期の復習 越天楽・五常楽急の合奏
2. 琵琶・箏・打楽器の体験
3. 陪臚の唱歌・陪臚の演奏法(1)太鼓八まで
4. 陪臚の演奏法(2)全曲
5. 越天楽・五常楽急・陪臚の合奏
6. 朗詠/嘉辰 双調/酒胡子の唱歌
7. 双調/酒胡子の演奏法(1)三行目まで
8. 双調/酒胡子の演奏法(2)全曲
9. 越天楽・五常楽急・陪臚・双調/酒胡子の合奏 朗詠/嘉辰
10. 鶏徳の唱歌・鶏徳の演奏法(1)二行目まで
11. 鶏徳の演奏法(2)全曲
12. 鶏徳の演奏法(3)合奏
13. 演奏法の基礎を確認
14. 初級履修曲の合奏 越天楽 五常楽急 陪臚 鶏徳、朗詠/嘉辰、双調/酒胡子 など

15. まとめ

授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入します。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏です。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間程度)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視し、適宜講評する。
後期末に実技試験を行う。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業の都度、楽譜プリントを配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ―見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。
受講希望者は4月のガイダンスに出席すること。

ナンバリング	CEP022N		
科目名	日本伝統音楽表現(雅楽)Ⅲ		
科目詳細	中級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

前年度またはそれ以前において「雅楽初級」を履修した学生、及びそれと同程度の知識と技術を有する学生を対象とする。基礎知識をもとに太食調、双調楽曲の合奏を行い、技術の向上を図る。合奏の中で他の楽器の音を聞きながら演奏できるようにする。フリーリズムの「音取」を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導する。

履修曲:平調 /音取
太食調 /音取 合歎塩 抜頭
双調 /音取 武徳楽 入破 胡飲酒破 鳥急

1. 平調音取、(初級履修曲)越天楽 五常楽急 陪臚 合奏
2. 平調音取 双調音取、(初級履修曲)鶏徳 酒胡子、朗詠/嘉辰 合奏
3. 太食調音取 合歎塩
4. 太食調音取 抜頭
5. 太食調音取 合歎塩 抜頭 合奏
6. 双調音取 武徳楽
7. 双調音取 入破
8. 双調音取 武徳楽 入破 合奏
9. 双調音取 胡飲酒破
10. 双調音取 賀殿急
11. 双調音取 胡飲酒破 賀殿急 合奏
12. 前期履修曲の合奏(1)太食調音取 合歎塩 抜頭
13. 前期履修曲の演奏法確認
14. 前期履修曲の合奏(2)双調音取 武徳楽 入破 胡飲酒破 賀殿急
15. まとめ

授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。
余裕のある時に以下の曲を随時履修 平調/甘州

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間程度)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視し、適宜講評する。
前期末に実技試験を行う。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつー見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。

ナンバリング	CEP026N		
科目名	日本伝統音楽表現(雅楽)Ⅳ		
科目詳細	中級雅楽		
担当教員	宮田 まゆみ		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

平調、太食調、双調、壹越調と、主音の異なるさまざまな楽曲の音階や音律構造を知り、調の違いを味わう。催馬楽・朗詠など中世歌謡の歌唱法と伴奏法を学び、雅楽演奏の多様な面を知る。

◆授業内容・計画◆

笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導する。

履修曲:太食調 /長慶子
平調 /林歌
壹越調 /音取 酒胡子 武徳楽 陵王
催馬楽 /更衣 ほか

1. (前期履修曲) 双調音取 武徳楽 入破 胡飲酒破 賀殿急 合奏
2. 太食調音取 長慶子
3. 太食調音取 長慶子、(前期履修曲) 合歡塩、抜頭 合奏
4. 平調音取 林歌
5. 催馬楽/更衣
6. 平調音取 林歌 催馬楽/更衣 合奏
7. 壹越調/新羅陵王
8. 壹越調/新羅陵王 合奏
9. 壹越調音取 酒胡子
10. 壹越調音取 武徳楽
11. 壹越調音取 酒胡子 武徳楽 合奏
12. 後期履修曲の合奏(1) 太食調音取 長慶子、平調音取 林歌、催馬楽/更衣など
13. 後期履修曲の演奏法確認
14. 後期履修曲の合奏(2) 壹越調音取 酒胡子 武徳楽、陵王など
15. まとめ

授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間程度)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視し、適宜講評する。
後期末に実技試験を行う。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。

ナンバリング	CEP015N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅰ		
科目詳細	初級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

邦楽の中で最もポピュラーな楽器のひとつ、箏。現在、邦楽は学校教育でも取り入れられ重要視されている。邦楽に初めて接する小・中学生や高校生に対し、歴史や奏法を正しく指導する力を持ち、楽器の取扱方や箏において最も重要な調絃方法を修得。箏を通して日本の音階に親しみ、じっくりと曲に取り組むことにより邦楽全体を身近に感じ興味を持つことを目指す。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

1. 箏の取扱・箏の歴史について
2. 箏の取扱・平調子の調絃法
3. 「さくら」親指を中心とした基本奏法
4. 「さくら」親指・人差し指・中指を中心とした基本奏法
5. 「さくら」押し手を取り入れた基本奏法
6. 「さくら」仕上げ(自ら曲想を考え、表現する)
7. 「うさぎ」合奏曲(前半)
8. 「うさぎ」合奏曲(全曲)
9. 「かごめかごめ」合奏曲(前半)
10. 「かごめかごめ」合奏曲(全曲)
11. 「ゆきやこんこ」合奏曲(前半)
12. 「ゆきやこんこ」合奏曲(全曲)
13. 「さくら」「うさぎ」(仕上げ)
14. 「かごめかごめ」「ゆきやこんこ」(仕上げ)
15. 演奏発表・まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
前期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり。(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・履修希望者は4月初旬に実施のガイダンスに必ず出席すること
- ・楽器は大学所有のものを使用
- ・箏爪の購入(4月の教科書販売期間に売店で購入し、必ず個人所有のこと。教務課より指示あり。初回授業に間に合わせるように)

ナンバリング	CEP015N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅰ		
科目詳細	初級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

邦楽の中で最もポピュラーな楽器のひとつ、箏。現在、邦楽は学校教育でも取り入れられ重要視されている。邦楽に初めて接する小・中学生や高校生に対し、歴史や奏法を正しく指導する力を持ち、楽器の取扱方や箏において最も重要な調絃方法を修得。箏を通して日本の音階に親しみ、じっくりと曲に取り組むことにより邦楽全体を身近に感じ興味を持つことを目指す。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

1. 箏の取扱・箏の歴史について
2. 箏の取扱・平調子の調絃法
3. 「さくら」親指を中心とした基本奏法
4. 「さくら」親指・人差し指・中指を中心とした基本奏法
5. 「さくら」押し手を取り入れた基本奏法
6. 「さくら」仕上げ(自ら曲想を考え、表現する)
7. 「うさぎ」合奏曲(前半)
8. 「うさぎ」合奏曲(全曲)
9. 「かごめかごめ」合奏曲(前半)
10. 「かごめかごめ」合奏曲(全曲)
11. 「ゆきやこんこ」合奏曲(前半)
12. 「ゆきやこんこ」合奏曲(全曲)
13. 仕上げ
14. 演奏発表・まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
前期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・履修希望者は4月初旬に実施のガイダンスに必ず出席すること
- ・楽器は大学所有のものを使用
- ・箏爪の購入(4月の教科書販売期間に売店で購入し、必ず個人所有のこと。教務課より指示あり。初回授業に間に合わせるように)

ナンバリング	CEP019N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅱ		
科目詳細	初級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

邦楽には必ず用いられる唱歌に親しみ、古典曲を演奏する。箏独特の奏法や間を学んだ上で現代曲にも取り組み、前期に習得した知識や技術をより高める。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

- 1.唱歌の解説・八橋検校「六段の調」(初段前半・唱歌)
- 2.八橋検校「六段の調」(初段前半・演奏)
- 3.八橋検校「六段の調」(初段後半・唱歌)
- 4.八橋検校「六段の調」(初段後半・演奏)
- 5.八橋検校「六段の調」(初段仕上げ)
- 6.八橋検校「六段の調」(四段前半・唱歌)
- 7.八橋検校「六段の調」(四段前半・演奏)
- 8.八橋検校「六段の調」(四段後半・唱歌)
- 9.八橋検校「六段の調」(四段後半・演奏)
- 10.八橋検校「六段の調」(四段仕上げ)
- 11.八橋検校「六段の調」(六段・唱歌と演奏)
- 12.八橋検校「六段の調」(六段・唱歌と演奏)
- 13.八橋検校「六段の調」(初段・四段・六段)
- 14.「六段の調」演奏発表・まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
後期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

必ず箏爪・楽譜持参のこと

ナンバリング	CEP019N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅱ		
科目詳細	初級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

邦楽の中で最もポピュラーな楽器のひとつ、箏。現在、邦楽は学校教育でも取り入れられ重要視されている。邦楽に初めて接する小・中学生や高校生に対し、歴史や奏法を正しく指導する力を持ち、楽器の取扱方や箏において最も重要な調絃方法を修得。箏を通して日本の音階に親しみ、じっくりと曲に取り組むことにより邦楽全体を身近に感じ興味を持つことを目指す。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

- 1.唱歌の解説・八橋検校「六段の調」(初段前半・唱歌)
- 2.八橋検校「六段の調」(初段前半・演奏)
- 3.八橋検校「六段の調」(初段後半・唱歌)
- 4.八橋検校「六段の調」(初段後半・演奏)
- 5.八橋検校「六段の調」(初段仕上げ)
- 6.八橋検校「六段の調」(四段前半・唱歌)
- 7.八橋検校「六段の調」(四段後半・演奏)
- 8.八橋検校「六段の調」(四段後半・唱歌)
- 9.八橋検校「六段の調」(四段後半・演奏)
- 10.八橋検校「六段の調」(四段仕上げ)
- 11.八橋検校「六段の調」(六段・唱歌と演奏)
- 12.八橋検校「六段の調」(六段・唱歌と演奏)
- 13.八橋検校「六段の調」(初段・四段・六段)
- 14.「六段の調」演奏発表・まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
後期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

必ず箏爪・楽譜持参のこと

ナンバリング	CEP023N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅲ		
科目詳細	中級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	2年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級箏で身につけた基礎を基に、さらに踏み込んで古典・現代曲や様々な形態の合奏曲に取り組む。古典では弾き歌いをし言葉の意味を捉えて音を奏でること、現代曲では相手の音を聴きながら音で応えアンサンブルを楽しむ事を目指す。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

- 1.八橋検校「六段の調」(復習)
- 2.宮城道雄「大井川」(弾き歌い)
- 3.宮城道雄「大井川」(弾き歌い)
- 4.宮城道雄「大井川」(仕上げ)
- 5.宮城道雄「春の園」(弾き歌い)
- 6.宮城道雄「春の園」(仕上げ)
- 7.宮城道雄「大井川・春の園」(合奏)
- 8.沢井比河流「OKOTO」(一章)
- 9.沢井比河流「OKOTO」(一章)
- 10.沢井比河流「OKOTO」(二章)
- 11.沢井比河流「OKOTO」(二章)
- 12.沢井比河流「OKOTO」(三章)
- 13.沢井比河流「OKOTO」(三章)
- 14.まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
後期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

箏爪・楽譜持参のこと

ナンバリング	CEP027N		
科目名	日本伝統音楽表現(箏)Ⅳ		
科目詳細	中級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	2年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級箏で身に付けた基礎を基に、さらに踏み込んで古典や現代曲と様々な合奏形態の曲に取り組む。特に現代曲では五線譜を用い、箏で音楽を自由に表現することを目指す。そして希望者には、12月に開催する日本伝統音楽コース演奏会に参加できるレベルまで引き上げる。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。

1. 沢井比河流「OKOTO」(一章・復習)
2. 沢井比河流「OKOTO」(二章・復習)
3. 沢井比河流「OKOTO」(三章・復習)
4. 沢井比河流「OKOTO」(全章)
5. 吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き)
6. 吉沢検校「千鳥の曲」(波の部)
7. 吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き・波の部)
8. 吉沢検校「千鳥の曲」(合奏)
9. 吉沢検校「千鳥の曲」(仕上げ)
10. 長澤勝俊「かぐや姫の手事」(五線譜を用いて・前半)
11. 長澤勝俊「かぐや姫の手事」(中盤)
12. 長澤勝俊「かぐや姫の手事」(後半)
13. 長澤勝俊「かぐや姫の手事」(全曲)
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

復習を必ず行い、提示する課題の内容を出来る限り理解してくること。

◆成績評価の方法◆

授業への姿勢により評価する。
後期最終授業内での演奏発表の成果により加点の可能性あり(減点無し)
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

箏爪・楽譜持参のこと

ナンバリング	CEP016N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅰ		
科目詳細	初級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長唄囃子の笛、小鼓の奏法を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現を知ることができる。いわゆる西洋音楽との違いを体験、考えながら日本音楽の魅力に迫る。楽器の構造や組み方、構え方などから始め、最終的には古典長唄曲を通して演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- ・伝統打楽器の代表とも言える小鼓の演習。
- ・横笛(篠笛)の演習。
- ・三味線音楽(特に長唄)における二つの楽器の奏法や記譜法などから日本音楽の特徴、様式などを知る。

- 小鼓
- 第1回 譜読みの為の基本と小鼓の組み方。
- 第2回 構え方と打ち方。
- 第3回 長唄「雛鶴三番叟」(揉み出し)
- 第4回 長唄「雛鶴三番叟」(三番地)
- 第5回 長唄「雛鶴三番叟」(三番地留)
- 第6回 長唄「雛鶴三番叟」(散し大小)
- 第7回 長唄「雛鶴三番叟」(段切迄通し)
- 第8回 長唄「末広狩」(初め～御前に)
- 第9回 長唄「末広狩」(～忍恋)
- 第10回 長唄「末広狩」(～はんな傘)
- 第11回 長唄「末広狩」(～散し三段目)
- 第12回 長唄「末広狩」(～段切迄通し)
- 第13回 長唄「末広狩」(部分的に三味線と合奏)
- 第14回 長唄「末広狩」(通しで三味線と合奏)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏)

- 篠笛
- 第1回 基本1(テキストP1～3)
- 第2回 基本2(テキストP4～7)
- 第3回 基本3(テキストP8～9)
- 第4回 基本4(テキストP10～11)
- 第5回 基本5(テキストP12～15)
- 第6回 基本6(テキストP16～17)
- 第7回 基本7(テキストP18～19)
- 第8回 基本8(テキストP20～21)
- 第9回 基本9(テキストP22～23)
- 第10回 長唄「ことぶき」(読譜と演奏)
- 第11回 長唄「ことぶき」(三味線と合奏)「越後獅子」(読譜と演奏己が姿～こん細やかに)
- 第12回 長唄「越後獅子」(なんたら～越後の獅子は)
- 第13回 長唄「越後獅子」(三味線と合奏)
- 第14回 長唄「越後獅子」(通し)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器との合奏)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなどの資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。その他は授業内の篠笛、小鼓の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック篠笛「飛天」(有限会社日音)
- ・「篠笛の本」山田、福原著(有限会社日音)

◆参考図書◆

- ・「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP016N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅰ		
科目詳細	初級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長唄囃子の笛、小鼓の奏法を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現を知ることができる。いわゆる西洋音楽との違いを体験、考えながら日本音楽の魅力に迫る。楽器の構造や組み方、構え方などから始め、最終的には古典長唄曲を通して演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- ・伝統打楽器の代表とも言える小鼓の演習。
- ・横笛(篠笛)の演習。
- ・三味線音楽(特に長唄)における二つの楽器の奏法や記譜法などから日本音楽の特徴、様式などを知る。

- 小鼓
- 第1回 譜読みの為の基本と小鼓の組み方。
 - 第2回 構え方と打ち方。
 - 第3回 長唄「雛鶴三番叟」(揉み出し)
 - 第4回 長唄「雛鶴三番叟」(三番地)
 - 第5回 長唄「雛鶴三番叟」(三番地留)
 - 第6回 長唄「雛鶴三番叟」(散し大小)
 - 第7回 長唄「雛鶴三番叟」(段切迄通し)
 - 第8回 長唄「末広狩」(初め～御前に)
 - 第9回 長唄「末広狩」(～忍恋)
 - 第10回 長唄「末広狩」(～はんな傘)
 - 第11回 長唄「末広狩」(～散し三段目)
 - 第12回 長唄「末広狩」(～段切迄通し)
 - 第13回 長唄「末広狩」(部分的に三味線と合奏)
 - 第14回 長唄「末広狩」(通しで三味線と合奏)
 - 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏)

- 篠笛
- 第1回 基本1(テキストP1～3)
 - 第2回 基本2(テキストP4～7)
 - 第3回 基本3(テキストP8～9)
 - 第4回 基本4(テキストP10～11)
 - 第5回 基本5(テキストP12～15)
 - 第6回 基本6(テキストP16～17)
 - 第7回 基本7(テキストP18～19)
 - 第8回 基本8(テキストP20～21)
 - 第9回 基本9(テキストP22～23)
 - 第10回 長唄「ことぶき」(読譜と演奏)
 - 第11回 長唄「ことぶき」(三味線と合奏)「越後獅子」(読譜と演奏己が姿～こん細やかに)
 - 第12回 長唄「越後獅子」(なんたら～越後の獅子は)
 - 第13回 長唄「越後獅子」(三味線と合奏)
 - 第14回 長唄「越後獅子」(通し)
 - 第15回 まとめ(三味線、打楽器との合奏)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなどの資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。その他は授業内の篠笛、小鼓の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック篠笛「飛天」(有限会社日音)
- ・「篠笛の本」山田、福原著(有限会社日音)

◆参考図書◆

- ・「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP020N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅱ		
科目詳細	初級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長唄囃子の笛(能管)、締太鼓の奏法を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現を知ることができる。いわゆる西洋音楽との違いを体験、考えながら日本音楽の魅力に迫る。教育音楽に日本古来の音楽を取り上げるにあたり、何が大切かを考える。楽器の構造や組み方、構え方から最終的には古典長唄曲を演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- ・伝統打楽器の代表とも言える締太鼓の演習。
- ・横笛(能管)の演習。
- ・三味線音楽(特に長唄)における二つの楽器の奏法や記譜法などから日本音楽の特徴、様式などを学ぶ。

締太鼓

- 第1回 譜読みの為の基本と太鼓の組み方。
- 第2回 構えと打ち方。
- 第3回 長唄「末広狩」(初め～忍恋)
- 第4回 長唄「末広狩」(傘をさすなら～弥生実にもそうよな)
- 第5回 長唄「末広狩」(四つの海～君が代は)
- 第6回 長唄「末広狩」(万々歳も～段切)
- 第7回 長唄「末広狩」(まとめ・三味線と合奏)
- 第8回 長唄「五郎」(セリ合方)
- 第9回 長唄「五郎」(藪の鶯～庭の梅)
- 第10回 長唄「五郎」(あれそよしよと～吹き送る)
- 第11回 長唄「五郎」(堤のすみれ～仲の町)
- 第12回 長唄「五郎」(よしやよし～段切)
- 第13回 長唄「五郎」(まとめ・三味線と合奏)
- 第14回 長唄「末広狩」「五郎」(通し)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏)

能管

- 第1回 譜読みの為の基本と構え方。
- 第2回 音出し
- 第3回 篠笛との違いを考え、改めて能管独特の演奏法を学ぶ。
- 第4回 長唄「末広狩」(頼うだ人は～お使いか)
- 第5回 長唄「末広狩」(恋の奴の～忍恋)
- 第6回 長唄「末広狩」(傘をさすなら～弥生実にもそうよの)
- 第7回 長唄「末広狩」(四つの海今ぞ治る)
- 第8回 長唄「末広狩」(時津風波の鼓の)
- 第9回 長唄「末広狩」(声澄て～末広がりにこそ)
- 第10回 長唄「末広狩」(めでたけれ)
- 第11回 長唄「末広狩」(段切)
- 第12回 長唄「末広狩」(四つの海～段切)
- 第13回 長唄「末広狩」(通し)
- 第14回 長唄「末広狩」(三味線と合奏)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなど資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、授業内での能管と締太鼓の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック能管(有限会社日音)
- ・能管の教本「能管」(有限会社日音)

◆参考図書◆

- ・「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP020N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅱ		
科目詳細	初級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長唄囃子の笛(能管)、締太鼓の奏法を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現を知ることができる。いわゆる西洋音楽との違いを体験、考えながら日本音楽の魅力に迫る。教育音楽に日本古来の音楽を取り上げるにあたり、何が大切かを考える。楽器の構造や組み方、構え方から最終的には古典長唄曲を演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

- ・伝統打楽器の代表とも言える締太鼓の演習。
- ・横笛(能管)の演習。
- ・三味線音楽(特に長唄)における二つの楽器の奏法や記譜法などから日本音楽の特徴、様式などを学ぶ。

締太鼓

- 第1回 譜読みの為の基本と太鼓の組み方。
- 第2回 構えと打ち方。
- 第3回 長唄「末広狩」(初め～忍恋)
- 第4回 長唄「末広狩」(傘をさすなら～弥生実にもそうよな)
- 第5回 長唄「末広狩」(四つの海～君が代は)
- 第6回 長唄「末広狩」(万々歳も～段切)
- 第7回 長唄「末広狩」(まとめ・三味線と合奏)
- 第8回 長唄「五郎」(セリ合方)
- 第9回 長唄「五郎」(藪の鶯～庭の梅)
- 第10回 長唄「五郎」(あれそよしよと～吹き送る)
- 第11回 長唄「五郎」(堤のすみれ～仲の町)
- 第12回 長唄「五郎」(よしやよし～段切)
- 第13回 長唄「五郎」(まとめ・三味線と合奏)
- 第14回 長唄「末広狩」「五郎」(通し)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏)

能管

- 第1回 譜読みの為の基本と構え方。
- 第2回 音出し
- 第3回 篠笛との違いを考え、改めて能管独特の演奏法を学ぶ。
- 第4回 長唄「末広狩」(頼うだ人は～お使いか)
- 第5回 長唄「末広狩」(恋の奴の～忍恋)
- 第6回 長唄「末広狩」(傘をさすなら～弥生実にもそうよの)
- 第7回 長唄「末広狩」(四つの海今ぞ治る)
- 第8回 長唄「末広狩」(時津風波の鼓の)
- 第9回 長唄「末広狩」(声澄て～末広がりにこそ)
- 第10回 長唄「末広狩」(めでたけれ)
- 第11回 長唄「末広狩」(段切)
- 第12回 長唄「末広狩」(四つの海～段切)
- 第13回 長唄「末広狩」(通し)
- 第14回 長唄「末広狩」(三味線と合奏)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなど資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、授業内での能管と締太鼓の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック能管(有限会社日音)
- ・能管の教本「能管」(有限会社日音)

◆参考図書◆

- ・「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP024N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅲ		
科目詳細	中級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級に引続き、篠笛と小鼓の奏法を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現の理解を深め又、歌舞伎音楽の中から、黒御簾の音楽を採り上げる。実習の他、映像なども使用しどのような楽器がどのような場面で囃子に使用されているか、またその楽器がどのように演奏されているかを調べながら、日本音楽に生きている感性を知り、その魅力に迫ることができる。

◆授業内容・計画◆

- ・篠笛と小鼓の演習。
- ・歌舞伎における黒御簾音楽の役割を調べる。
- ・大太鼓が芝居や他の楽器にどのように関わるか調べ、他の楽器も含め奏法や表現を知る。

小鼓

- 第1回 長唄「小鍛冶」(初め～セリ合方)
- 第2回 長唄「小鍛冶」(それ唐土～勇まじし)
- 第3回 長唄「小鍛冶」(伝え聞く～拍子合方)
- 第4回 長唄「小鍛冶」(打つという～金床に)
- 第5回 長唄「小鍛冶」(金床合方)
- 第6回 長唄「小鍛冶」(火加減～たぐいなき)
- 第7回 長唄「小鍛冶」(清光りんりん～切れ物と)
- 第8回 長唄「小鍛冶」(段切迄通し)
- 第9回 黒御簾の小鼓(ドンタッポ他)
- 第10回 長唄「供奴」(初め～駆けつける)
- 第11回 長唄「供奴」(おんらが旦那～華麗な出立)
- 第12回 長唄「供奴」(ツナギ合方～石づき)
- 第13回 長唄「供奴」(足拍子合方)
- 第14回 長唄「供奴」(段切迄通し・三味線と合奏)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏。黒御簾音楽の体験)

篠笛

- 第1回 長唄「越後獅子」(初め～囃すのも)
- 第2回 長唄「越後獅子」(言の葉も～習いにや合方)
- 第3回 長唄「越後獅子」(三味線と合奏)
- 第4回 祭囃子と長唄囃子の関係
- 第5回 長唄「越後獅子」(まとめ)
- 第6回 テキスト曲集より独奏曲(竹の唄前半)
- 第7回 テキスト曲集より独奏曲(竹の唄後半)
- 第8回 テキスト曲集より独奏曲(竹の唄通し)
- 第9回 黒御簾の篠笛(ドンタッポ他)
- 第10回 テキスト曲集より独奏曲(京の夜前半)
- 第11回 テキスト曲集より独奏曲(京の夜後半)
- 第12回 テキスト曲集より独奏曲(京の夜通し)
- 第13回 長唄「供奴」(おんらが旦那～華麗な出立)
- 第14回 長唄「供奴」(三味線と合奏)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなどの資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。授業内の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック篠笛「飛天」(有限会社日音)
- ・『篠笛の本』山田、福原著(有限会社日音)

◆参考図書◆

- ・「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP028N		
科目名	日本伝統音楽表現(囃子)Ⅳ		
科目詳細	中級囃子		
担当教員	山田 寛		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級に引続き、能管と締太鼓を学ぶことにより、日本音楽固有の様式や表現の理解を深め又、歌舞伎音楽の中から、黒御簾の音楽を探り上げる。実習の他映像も使いどのような楽器が囃子に使用されているか、またその楽器がどのように演奏されているかを調べながら、日本音楽に生きている感性を知り、その魅力に迫ることができる。教育音楽に日本古来の音楽を取り上げるにあたり、何が大切かを考える。

◆授業内容・計画◆

- ・能管と締太鼓の演習。
- ・黒御簾独特の楽器を調べる。
- ・出囃子(舞台に出て演奏すること)と黒御簾音楽との関わりを調べ、黒御簾の役割を知る。
- ・締太鼓を使う黒御簾音楽を取り上げ実習する。

締太鼓

- 第1回 長唄「小鍛冶」(セリ合方)
- 第2回 長唄「小鍛冶」(打つという～金床に)
- 第3回 長唄「小鍛冶」(火加減～手柄のほどぞたぐいなき)
- 第4回 長唄「小鍛冶」(清光～段切)
- 第5回 長唄「小鍛冶」(三味線と合奏)
- 第6回 黒御簾音楽「着到」
- 第7回 長唄「供奴」(初め～やっこらさ)
- 第8回 長唄「供奴」(武家の～駆けつける)
- 第9回 長唄「供奴」(初め～駆けつける三味線と合奏)
- 第10回 長唄「供奴」(おんらが～華麗な出立)
- 第11回 長唄「供奴」(石づき～よんやさ)
- 第12回 長唄「供奴」(面白や～段切)
- 第13回 長唄「供奴」(おんらが～段切三味線と合奏)
- 第14回 長唄「供奴」(通し)
- 第15回 まとめ(三味線、打楽器、笛との合奏。黒御簾音楽の体験)

能管

- 第1回 長唄「小鍛冶」(セリ合方)
- 第2回 長唄「小鍛冶」(セリ合方～唐土に)
- 第3回 長唄「小鍛冶」(麻衣～金床に)
- 第4回 長唄「小鍛冶」(火加減～たぐいなき)
- 第5回 長唄「小鍛冶」(清光～段切)
- 第6回 長唄「小鍛冶」(三味線と合奏)
- 第7回 長唄「供奴」(初め～やっこらさ)
- 第8回 長唄「供奴」(武家の～富士の雪さへあるとても)
- 第9回 長唄「供奴」(なんとときかぎらず～駆けつける)
- 第10回 長唄「供奴」(おんらが旦那～華麗な出立)
- 第11回 長唄「供奴」(石づき～よんやさ)
- 第12回 長唄「供奴」(面白や～段切)
- 第13回 長唄「供奴」(通し)

◆準備学習の内容◆

授業内容の復習とプリントなど資料整理

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。授業内の演奏。
授業内の実技に対しては必要に応じてフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック能管(有限会社日音)
- ・能管の教本「能管」(有限会社日音)

◆参考図書◆

「日本音楽ことはじめ」山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆

ナンバリング	CES201U		
科目名	オルガン基礎講座		
科目詳細			
担当教員	菅 哲也		
学年	2年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オルガンの構造と古今のオルガン作品及び奏法について、基本的な知識が得られる。

◆授業内容・計画◆

オルガンは鍵盤楽器に分類されるが、その発音原理は管楽器であることを理解した上で、時代と国によって異なる楽器と奏法の様式を学ぶ。また、オルガン音楽史上重要な作曲家とその作品について研究する。講義期間中には実際にパイプオルガンに触れる機会を設ける。

- 1) ガイダンス
- 2) オルガンの構造 (1) パイプの種類
- 3) オルガンの構造 (2) Werkについて
- 4) オルガンのレジストレーション (1) バロック
- 5) オルガンのレジストレーション (2) ロマン派
- 6) オルガンのレジストレーション (3) 近現代
- 7) オルガン作品研究 (1) イタリアバロック
- 8) オルガン作品研究 (2) ネーデルランド
- 9) オルガン作品研究 (3) フランス古典
- 10) オルガン作品研究 (4) 北ドイツオルガン楽派
- 11) オルガン作品研究 (5) J.S.バッハ
- 12) オルガン作品研究 (6) ロマン派・近現代
- 13) オルガン実技 (1) 手鍵盤の奏法
- 14) オルガン実技 (2) 足鍵盤の奏法
- 15) 筆記試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

配布したオルガンの課題曲を練習すること。目安は毎日1時間

◆成績評価の方法◆

授業内で課題について適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜プリントを配付する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES202U		
科目名	チェンバロ基礎講座		
科目詳細			
担当教員	大塚 直哉		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

チェンバロという楽器の構造や歴史的な奏法を知り、もともとチェンバロで弾かれることを想定して書かれた鍵盤音楽についての理解を深める

◆授業内容・計画◆

3日間の集中講義の形で行う。チェンバロやクラヴィコードを間近で見て、音を聴きながら、バッハやF.クーブラン、スカルラッティなど、主に17～18世紀の鍵盤音楽における「楽器」「音楽」「奏者(奏法)」の密接な関係について、いろいろな角度から考えていきたい。講義中にチェンバロの調律を体験したり、簡易な作品を試奏する時間を設ける予定なので、実際に体感しながら理解を深めてもらいたい。

- 【第1日】
- ①チェンバロの仕組み・仕組み・構造・名称の由来などについて
 - ②チェンバロの調律を理解するために～純正な5度と狭い5度を調律してみる～
 - ③歴史的文献から読み取る「チェンバロのタッチ」について考える～F.クーブラン、ラモー、フォルケルなどの文献から～
 - ④様々なタイプのチェンバロに親しむ【その1:イタリアン・ヴァージナル】→チェンバロのさまざまなタイプ、クラヴィコード、フォルテピアノを順に紹介し、ふさわしいレパートリーを交代で演奏しながら(一部録音を使用する)、その特徴を理解する。
 - ⑤様々なタイプのチェンバロに親しむ【その2:1段ルッカースタイプをミートーン調律で聴く】

- 【第2日】
- ⑥歴史的調律法の多彩さを理解する～その1: 中全音律の魅力と制約
 - ⑦様々なタイプのチェンバロに親しむ【その3:1段ルッカースタイプを不等分調律法で聴く】
 - ⑧様々なタイプのチェンバロに親しむその4:2段ジャーマン】
 - ⑨様々なタイプのチェンバロに親しむ【発展1:クラヴィコード】
 - ⑩様々なタイプのチェンバロに親しむ【発展2:フォルテピアノ】

- 【第3日】
- ⑪歴史的調律法の多彩さを理解する～その2: 不等分律の「割り付け」を体験してみる
 - ⑫様々なタイプのチェンバロに親しむ【その5:楽器学資料館にあるフレンチ、イタリアン、イングリッシュモデルのチェンバロについて】
 - ⑬17～18世紀の文献に見る鍵盤楽器での「装飾」「運指法」「演奏表現」「通奏低音」など
 - ⑭即興演奏(オスティナートバス、ファンタジー、数字つき低音など)を体験する
 - ⑮まとめ

※なお、参加者の人数や興味関心の方角によっては、講義内容の一部を変更する場合があります。

◆準備学習の内容◆

参考図書の中からかを講義前に一読しておくこと(10時間程度)。

◆成績評価の方法◆

講義内では、交代でその楽器にふさわしい小品を弾いてもらったり(各自の演奏に対しては毎回アドバイスをを行う)、疑問点を質問してもらう時間を取る予定なので、受け身にならずに積極的に参加してもらいたい。演奏や質問にはフィードバックを行う。そのような授業への参加の積極度とレポートを合算して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

- ①「DVDブック:チェンバロ～歴史と様式の系譜」久保田彰(ショパン)
- ②「チェンバロ、フォルテピアノ」渡邊順生(東京書籍)

◆留意事項◆

ナンバリング	CES211N		
科目名	選択ソルフェージュF I		
科目詳細	器楽(Dと同一時限開講)		
担当教員	山本 哲也		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なソルフェージュで学習したことを、専攻に応用する訓練を通し、自在性を高める。

◆授業内容・計画◆

ソルフェージュ学習で、読譜、リズム、聴覚形成の分野で学んだことを実際に専攻にどのように生かしていけばよいかを学ぶ。

- 1) ガイダンス
- 2) 勉強している作品を読譜からの検証1 基礎
- 3) 勉強している作品を読譜からの検証2 応用
- 4) 勉強している作品をリズムから検証1 基礎
- 5) 勉強している作品をリズムから検証2 応用
- 6) 勉強している作品の内的聴取の検証1 基礎
- 7) 勉強している作品の内的聴取の検証2 応用
- 8) 新たな作品を読譜からの検証1 基礎
- 9) 新たな作品を読譜からの検証2 応用
- 10) 新たな作品をリズムから検証1 基礎
- 11) 新たな作品をリズムから検証2 応用
- 12) 新たな作品の内的聴取の検証1 基礎
- 13) 新たな作品の内的聴取の検証2 応用
- 14) 既習作品と新たな作品への理解度の検証1 基礎
- 15) 既習作品と新たな作品への理解度の検証2 応用

◆準備学習の内容◆

前期については古典派から近現代までの作品を中心とする。自分が勉強した、あるいは勉強したい作品の楽譜を準備する。

◆成績評価の方法◆

出席率を含む平常授業への取り組みにより評価する。必ずしも取り上げた作品の完成度のみではなく、理解度が成績評価の重要な要素となる。授業中、常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品の楽譜、関連図書

◆参考図書◆

特に指定しない

◆留意事項◆

- ・取り上げる作品は専攻実技で学んでいる作品に限らないので、より準備学習の時間が必要となる。
- ・第一回の授業で履修制限を行う場合がある。第一回の授業に必ず出席すること。

ナンバリング	CES212N		
科目名	選択ソルフェージュⅡ		
科目詳細	器楽(Dと同一時限開講)		
担当教員	山本 哲也		
学年	2年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に学んだことを敷衍し、近現代作品の演奏方法をも研究することにより自在性を獲得する。

◆授業内容・計画◆

後期は基本的に近現代作品を取り上げる。特に作曲3年の演奏審査会、本学主催の作曲作品展への出演を通し、同世代の作曲学生とのコラボレーションをすることで、同時代音楽への理解を深める。

- 1) ガイダンス
- 2) 作曲学生による作品の試演1
- 3) 作曲学生による作品の試演2
- 4) 作曲学生による作品の試演3
- 5) 作曲3年演奏審査会のリハーサル1
- 6) 作曲3年演奏審査会のリハーサル2
- 7) 作曲3年演奏審査会のリハーサル3
- 8) 作曲3年演奏審査会のリハーサル4
- 9) 作曲作品展のリハーサル1
- 10) 作曲作品展のリハーサル2
- 11) 作曲3年演奏審査会の当日リハーサル1
- 12) 作曲3年演奏審査会の当日リハーサル2
- 13) 作曲作品展のリハーサル3
- 14) 作曲3年演奏審査会1
- 15) 作曲3年演奏審査会2

なお、作曲作品展の指揮は本学客員教授の工藤俊幸先生が担当する。

◆準備学習の内容◆

リハーサルに万全の状態に臨めるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みで考えるが、実作品の演奏の完成度も問われる。授業中、常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

実作品の楽譜、関連図書

◆参考図書◆

特に指定しない

◆留意事項◆

- ・特に近年、現代音楽の演奏についても理解があり、かつ、良い結果を出せる演奏家が求められているので、そのような演奏家を目指すという明確な目的をもって学習にあたってもらいたい。
- ・第一回の授業で履修制限を行う場合がある。第一回の授業に必ず出席すること。

ナンバリング	CES209N		
科目名	選択ソルフェージュⅠ		
科目詳細	ピアノ／伴奏		
担当教員	小山 和		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

スコアリーディング、移調奏、アンサンブル、初見など鍵盤奏者に欠かせない分野の強化と、楽譜の深い読解力を養うことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

●課題曲

木管楽器の協奏曲の伴奏パート。
曲目は進度とレベルに応じて決定します。

オーケストラ作品の編曲をピアノで伴奏・演奏する際に、より効果的でオーケストラルな響きで立体的に演奏できることを目指します。
またスコアリーディングにおける移調楽器の読み替えや楽器についての知識、移調奏のためのハ音記号を読む力、アンサンブルでの聴く力などの強化をし、特に伴奏やアンサンブルに必要な資質を養います。
基本的には以下の順序で進めていきますが、履修者のレベルに合わせた進捗で行います。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ピアノ曲の初見視奏 基礎
- 第3回 ピアノ曲の初見視奏 応用
- 第4回 通奏低音 入門
- 第5回 通奏低音 基礎
- 第6回 古典派弦楽三重奏、四重奏のピアノ編曲と試奏 基礎
- 第7回 古典派弦楽三重奏、四重奏のピアノ編曲と視奏 応用
- 第8回 移調奏 入門
- 第9回 移調奏 基礎
- 第10回 移調楽器の読譜およびスコアの読譜
- 第11回 アンサンブル演習 (1)伴奏部分の既出版ピアノ編曲と総譜の比較
- 第12回 アンサンブル演習 (2)曲の時代背景と曲想の分析
- 第13回 アンサンブル演習 (3)総合的な演奏研究
- 第14回 アンサンブル演習 (4)伴奏演習
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を欠かさないこと。
ハ音記号や移調楽器を含む読譜に慣れるため、毎日実技練習をすること。(目安毎日15分)
また、授業で取り扱った作品は音源を聴いてみる。

◆成績評価の方法◆

平常の取り組み＋期末試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で別途プリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

試奏が中心の授業になりますが、苦手意識を持たず積極的に参加すること。

ナンバリング	CES210N		
科目名	選択ソルフェージュⅡ		
科目詳細	ピアノ／伴奏		
担当教員	小山 和		
学年	1年3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

移調奏、通奏低音、初見など鍵盤奏者に欠かせない分野の能力の強化と、アンサンブルや伴奏に不可欠な多角的で深い楽譜の読解力を養うことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

様々な楽器の伴奏をする際に必要となる深い演奏解釈の能力、及びより高度な伴奏技術の習得を目指します。
また移調楽器の読み替えや楽器についての知識、移調奏のためのハ音記号を読む力、通奏低音のための数字付き低音を理解する力、アンサンブルでの聴く力などの強化をし、特に伴奏やアンサンブルに必要な資質を養います。
基本的には以下の順序で進めていきますが、履修者のレベルに合わせた進捗で行います。

- 第1回 前期の復習
- 第2回 歌曲の移調 基礎
- 第3回 歌曲の移調 応用
- 第4回 20世紀以降のピアノ曲の初見試奏
- 第5回 器楽伴奏曲の初見試奏 基礎
- 第6回 器楽伴奏曲の初見試奏 応用
- 第7回 移調楽器の試奏及び暗譜試奏
- 第8回 クラシックスタイルの伴奏付け
- 第9回 20世紀以降の器楽伴奏曲の初見試奏
- 第10回 演奏研究 木管・金管楽器の伴奏
- 第11回 アンサンブル試奏 木管・金管楽器
- 第12回 スコアリーディング 入門
- 第13回 スコアリーディング 基礎
- 第14回 スコアリーディング 応用
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を欠かさないこと。
ハ音記号や移調楽器を含む読譜に慣れるため、毎日実技練習をすること。(目安毎日15分)
また、授業で取り扱った作品は音源を聴いてみる。

◆成績評価の方法◆

平常の取り組み＋期末試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリントを配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

試奏が中心の授業になりますが、苦手意識を持たず積極的に参加すること。

ナンバリング	CRS034U		
科目名	厳格対位法 I		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-39	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

和声とともに音楽を構成する重要な要素である対位法を基礎から学び、立体的に音を書く力と、洗練された内的な聴覚を養う。

◆授業内容・計画◆

厳格対位法の課題の実習を中心に行う。テキストは毎回使用し、その他必要に応じてプリントも配布される。
この授業は厳格対位法を初めて学ぶ学生のためのものであるが、既習者はレベルに応じたところから学習を始められる。
対位法作品の分析も行う。J.S.Bach「インヴェンション」「平均律クラヴィーア曲集」を中心とし、分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には楽譜を持参すること。

1. 導入「対位法とは何か」「厳格対位法の学習について」
2. 二声「全音符」の規則、範例の分析と課題の実施
3. 二声「全音符」(1) 長調
4. 二声「全音符」(2) 短調
5. 二声「全音符」(3) ドリア、フリギア旋法
6. 二声「全音符」(4) リディア、ミクソリディア、エオリア旋法
7. 二声「二分音符」の規則、範例の分析と課題の実施
8. 二声「二分音符」(1) 長調
9. 二声「二分音符」(2) 短調
10. 二声「二分音符」(3) ドリア、フリギア旋法
11. 二声「二分音符」(4) リディア、ミクソリディア、エオリア旋法
12. 二声「二分音符」のまとめと「四分音符」の導入
13. 対位法作品の分析(1) J.S.Bach「インヴェンション」
14. 対位法作品の分析(2) 「平均律クラヴィーア曲集」
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

実施したものは授業内で添削を受けるか、提出することもできる。

◆成績評価の方法◆

授業内試験と平常点。第12回に課題を配布し、第14回を課題提出日とする。また、毎回の授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『バリ音楽院の方式による厳格対位法 第2版』山口博史著、音楽之友社

◆参考図書◆

『対位法』ノエル＝ギャロン、マルセル・ビッチュ著、矢代秋雄訳、音楽之友社

◆留意事項◆

対位法作品の分析も行う。J.S.Bach「インヴェンション」「平均律クラヴィーア曲集」を中心とし、分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には楽譜を持参すること。

ナンバリング	CRS035U		
科目名	厳格対位法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-39	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

厳格対位法の訓練を通して、注意深く選択しながら音を書く力と、洗練された内的な聴覚を養う。二声の華麗対位法までを習得する。

◆授業内容・計画◆

厳格対位法の課題の実習を中心に行う。テキストは毎回使用し、その他必要に応じてプリントも配布される。
対位法作品の分析も行。J.S.Bach「平均律クラヴィーア曲集」を中心とし、分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には楽譜を持参すること。

- 1.二声「二分音符」の復習と「四分音符」の範例の分析
- 2.二声「四分音符」(1)長調
- 3.二声「四分音符」(2)短調
- 4.二声「四分音符」(3)ドリア、フリギア旋法
- 5.二声「四分音符」(4)リディア、ミクソリディア、エオリア旋法
- 6.二声「移勢」(1)長調
- 7.二声「移勢」(2)短調
- 8.二声「移勢」(3)旋法
- 9.二声「華麗対位法」の規則、範例の分析と課題の実施
- 10.二声「華麗対位法」(1)長調
- 11.二声「華麗対位法」(2)短調
- 12.二声「華麗対位法」(3)ドリア、フリギア旋法
- 13.二声「華麗対位法」(4)リディア、ミクソリディア、エオリア旋法
- 14.対位法作品の分析
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

実施したものは授業内で添削を受けるか、授業後に提出することもできる。

◆成績評価の方法◆

授業内試験と平常点。第12回に課題を配布し、第14回を課題提出日とする。また、毎回の授業で随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パリ音楽院の方式による厳格対位法 第2版』山口博史著、音楽之友社

◆参考図書◆

『対位法』ノエル＝ギャロン、マルセル・ビッチュ著、矢代秋雄訳、音楽之友社

◆留意事項◆

対位法作品の分析も行。J.S.Bach「平均律クラヴィーア曲集」を中心とし、分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には楽譜を持参すること。

ナンバリング	CRS036U		
科目名	厳格対位法Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	奥定 美和		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

厳格対位法Ⅰ,Ⅱに続き、前期では三声以上による対位法を学習する。ポリフォニー音楽における各声部の独立と調和について研究し、作曲技術の向上と聴感覚の発達を目指す。

◆授業内容・計画◆

1. 三声対位法・全音符①長調と短調
2. 三声対位法・全音符②旋法
3. 三声対位法・四分音符①長調と短調
4. 三声対位法・四分音符②旋法
5. 三声対位法・移勢①長調と短調
6. 三声対位法・移勢②旋法
7. 三声対位法・華麗対位法①長調
8. 三声対位法・華麗対位法②短調
9. 三声対位法・華麗対位法③旋法
10. 三声対位法・混合類①長調
11. 三声対位法・混合類②短調
12. 三声対位法・混合類③旋法
13. 転回可能対位法
14. 総括
15. 課題提出

◆準備学習の内容◆

課題実施の時間を毎回設け、適宜添削を行う。三声を習得することが目安であるが、学生の進度によって変わることもある。進度は各学生のレベルによるが、実際の作品を多く分析し、自らも課題をこなすことが対位法習得に欠かせないことを留意してもらいたい。

◆成績評価の方法◆

提出課題の結果と平常点により評価する。
授業で添削を受けて完成した実施をまとめておき、最終授業後に指示されたものを提出する。

授業中課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パリ音楽院の方式による厳格対位法 第2版』山口博史著(音楽之友社)

◆参考図書◆

『対位法』ノエル＝ギャロン、マルセル・ビッチュ著、矢代秋雄訳、音楽之友社

◆留意事項◆

対位法作品の分析も行う。分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には必要に応じて楽譜を持参すること。

ナンバリング	CRS037U		
科目名	厳格対位法Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	奥定 美和		
学年	1年,2年,4年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

厳格対位法Ⅲに続き、後期では様々な対位法を学習する。ポリフォニー音楽における各声部の独立と調和について研究し、作曲技術の向上と聴感の発達を目指す。

◆授業内容・計画◆

1. 四声対位法・全音符①長調
2. 四声対位法・全音符②短調
3. 四声対位法・全音符③旋法
4. 四声対位法・華麗対位法①長調
5. 四声対位法・華麗対位法②短調
6. 四声対位法・華麗対位法③旋法
7. 四声対位法・大混合類①長調
8. 四声対位法・大混合類②短調
9. 四声対位法・大混合類③旋法
10. 作品分析:バッハ/音楽の捧げもの
11. 作品分析:バッハ/マタイ受難曲
12. 作品分析:バッハ/コラール
13. 4声体コラールの実習
14. コラール前奏曲の実習
15. 総括と課題提出

◆準備学習の内容◆

課題実施の時間を毎回設け、適宜添削を行う。
四声の習得を目安とするが、厳格対位法Ⅲの内容を引き続き実施することもある。
進度は各学生のレベルによるが、実際の作品を多く分析し、自らも課題をこなすことが対位法習得に欠かせないことを留意してもらいたい。

◆成績評価の方法◆

提出課題の結果と平常点により評価する。
授業で添削を受けて完成した実施をまとめておき、最終授業後に指示されたものを提出する。

授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パリ音楽院の方式による厳格対位法 第2版』山口博史著(音楽之友社)

◆参考図書◆

『対位法』ノエル＝ギャロン、マルセル・ビッチュ著、矢代秋雄訳、音楽之友社

◆留意事項◆

対位法作品の分析も行う。分析を行う場合は前の授業で予告するので、次の授業には必要に応じて楽譜を持参すること。

ナンバリング	CRS038U		
科目名	指揮法研究 I		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1) 指揮者の役割を意識化し、多様な音楽の現場において必要な指揮法の基礎を習得する (2) 指揮の見方、指揮というボディーランゲージへの理解を相互に演奏することで養う (3) 指揮台に立つ前に必要な作品のアナリーゼ、スコアリーディングの基本を習得する

◆授業内容・計画◆

指揮者は自らは音を出さない音楽家である。演奏する対象者は現場により多種多様であることを認識し、伝わる指揮、その場に必要な指揮をするために必要な技術を習得する。

指揮法研究Iでは、基本的な指揮法技術習得を課題として、ピアノ曲の分析を通して作品に必要な指揮法を自ら考える力を養う。

第1回 オリエンテーション
 第2回 指揮法基礎 脱力に始まる指揮の基礎 打点を体得
 第3回 指揮法基礎 2拍子・3拍子・4拍子の叩き、しゃくい運動の習得
 第4回 指揮法基礎 5拍子・6拍子の叩き、しゃくい運動の習得
 第5回 楽曲の指揮 佐藤真<大地讃頌>
 第6回 楽曲の指揮 佐藤真<大地讃頌>
 第7回 楽曲の指揮 モーツァルト<アイネ・クライネ・ナハトムジーク>第1楽章
 第8回 楽曲の指揮 モーツァルト<アイネ・クライネ・ナハトムジーク>第1楽章
 第9回 楽曲の指揮 モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジークより第3楽章
 第10回 楽曲の指揮 モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジークより第3楽章
 第11回 指揮法の基礎 1つ振り、ワルツの指揮への導入
 第12回 楽曲の指揮 ヨハン・シュトラウスⅡ世「皇帝円舞曲」
 第13回 楽曲の指揮 ヨハン・シュトラウスⅡ世「皇帝円舞曲」
 第14回 楽曲の指揮 ベートーヴェン 交響曲第2番 第1楽章
 第15回 楽曲の指揮 ベートーヴェン交響曲第2番 第1楽章

◆準備学習の内容◆

・様々な指揮者の実演に、映像視聴も含め日ごろから多く接することを心掛ける。
 ・参考図書も利用して課題曲について準備しておく。

◆成績評価の方法◆

平素の授業への取り組みなど、総合的に評価する。
 授業中、随時演奏内容等へのフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

・改訂・新版 実践的指揮法～管弦楽、吹奏楽の指揮を目指す人に～ 小松一彦著 音楽之友社
 ・ブルクミュラーで指揮法入門 山本訓久 ARTES

◆留意事項◆

各自指揮棒を用意する。
 ヒールの高い靴は授業内では履かないように。
 動きやすい服装を心掛ける。
 曲目や進行状況によって、授業内容は変更になる可能性がある。

ナンバリング	CRS039U		
科目名	指揮法研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

(1) 指揮技術の応用を習得し様々な楽曲に対応できる力を養う (2) 指揮の見方、指揮というボディランゲージへの理解を相互に演奏することで養う (3) 指揮台に立つ前に必要な作品のアナリゼ、スコアリーディングの基本を習得する

◆授業内容・計画◆

- ・指揮法IIIにおいては、指揮法の応用技術を学ぶと同時に管弦楽作品の指揮法に取り組む。
- ・作品の分析を通して、指揮者に必要な準備を学ぶ。
- ・難解な変拍子を含む作品に対応する指揮法を学ぶ。

第1回 ベートーヴェン交響曲第4番 第1楽章の分析と指揮
第2回 ベートーヴェン交響曲第4番 第1楽章の分析と指揮
第3回 ベートーヴェン交響曲第4番 第2楽章の分析と指揮
第4回 ベートーヴェン交響曲第4番 第2楽章の分析と指揮
第5回 ベートーヴェン交響曲第4番 第3楽章の分析と指揮
第6回 ベートーヴェン交響曲第4番 第3&4楽章の分析と指揮
第7回 ベートーヴェン交響曲第4番 第4楽章の分析と指揮
第8回 スコアの分析と変拍子指揮への考察
第9回 変拍子に挑戦 ストラヴィンスキー作曲「春の祭典」より
第10回 変拍子に挑戦 ストラヴィンスキー「春の祭典」より
第11回 変拍子に挑戦 ストラヴィンスキー「春の祭典」より
第12回 変拍子に挑戦 ストラヴィンスキー「春の祭典」より
第13回 変拍子に挑戦 ストラヴィンスキー「春の祭典」より
第14回 様々な管弦楽作品における指揮法的問題への考察
第15回 様々な管弦楽作品における指揮法的問題への考察

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するために、事前に指示された楽譜に目をとおしておく。
- ・様々な音源を自主的に視聴することにより、指揮を読み取る視野を広げる。

◆成績評価の方法◆

平素の授業への取り組みなど、総合的に評価する。
授業中、随時演奏内容等へのフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

改訂・新版 実践的指揮法～管弦楽、吹奏楽の指揮を目指す人に～小松一彦著 音楽之友社

◆留意事項◆

各自指揮棒を用意すること。
授業内では高いヒールの靴は履かないように。
動きやすい服装を心掛ける。
曲目や授業内容は、授業の進行度合いによって変更になる場合がある。

ナンバリング	CRS040U		
科目名	指揮法研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

(1) 楽曲の指揮で直面する様々な問題と、演奏解釈について主体的に取り組み、自らの演奏に生かすことができる。(2) 古典派の楽曲を、ふさわしい音楽表現によって指揮できる。(3) ロマン派の楽曲を、ふさわしい音楽表現によって指揮できる。

◆授業内容・計画◆

指揮者は、高度なバトンテクニック、深い演奏解釈と効率の良いリハーサル・テクニックを要求される。管弦楽、吹奏楽、合唱等の指揮に必要な、これらの実践的なテクニックの応用を学ぶ。

指揮法研究Ⅲでは、より進んだ指揮の技術を学ぶ。課題曲は、古典派からロマン派に至る管弦楽作品の中から適宜取り上げる。また、受講生は、ピアニストと指揮者を適宜交代して行う。2台のピアノを使用。実習においては、受講生になるべく均等に機会を与える。とり上げる課題(楽曲)については、履修学生の能力や適正を考慮しつつその都度決定される。

第1回 オリエンテーション(リハーサルとコンサート本番について)

<古典派の楽曲>

第2回 モーツァルト「フィガロの結婚序曲」より(1)基礎

第3回 モーツァルト「フィガロの結婚序曲」より(2)応用

第4回 モーツァルト「交響曲第40番」より(1)基礎

第5回 モーツァルト「交響曲第40番」より(2)応用

第6回 ベートーヴェン「コリオラン序曲」より(1)基礎

第7回 ベートーヴェン「コリオラン序曲」より(2)応用

第8回 ベートーヴェン「交響曲第5番」より(1)基礎

第9回 ベートーヴェン「交響曲第5番」より(2)応用

第10回 ベートーヴェン「交響曲第5番」より(3)発展

<ロマン派の音楽>

第11回 シューベルト「未完成交響曲」より(1)基礎

第12回 シューベルト「未完成交響曲」より(2)応用

第13回 メンデルスゾーン「フィンガルの洞窟序曲」より(1)基礎

第14回 メンデルスゾーン「フィンガルの洞窟序曲」より(2)応用

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・授業内で配布するピアノ譜(分奏する)を練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

履修学生の属性、能力に応じて取り上げる作品は以上とは限らない場合がある。

ナンバリング	CRS041U		
科目名	指揮法研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	キハラ 良尚		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1) 楽曲の指揮で直面する様々な問題と、演奏解釈について主体的に取り組み、自らの演奏に生かすことができる。(2) ロマン派の楽曲をふさわしい音楽表現によって指揮できる。(3) 近代の楽曲をふさわしい音楽表現によって指揮できる。

◆授業内容・計画◆

指揮者は、高度なバトンテクニック、深い演奏解釈と効率の良いリハーサル・テクニックを要求される。管弦楽、吹奏楽、合唱等の指揮に必要な、これらの実践的なテクニックの応用を学ぶ。

指揮法研究Ⅳでは引き続き、より進んだ指揮の技術を学ぶ。課題曲は、ロマン派から近現代に至る管弦楽作品の中から適宜取り上げる。また、受講生は、ピアニストと指揮者を適宜交代して行う。2台のピアノを使用。とり上げる課題(楽曲)については、履修学生の能力や適正を考慮しつつその都度決定される。

第1回 オリエンテーション
第2回 チャイコフスキー「エレージー」より(1)基礎
第3回 チャイコフスキー「エレージー」より(2)応用
第4回 ドヴォルザーク「交響曲第8番」より(1)基礎
第5回 ドヴォルザーク「交響曲第8番」より(2)応用
第6回 ドヴォルザーク「交響曲第8番」より(3)発展
＜近代の楽曲＞
第7回 バルトーク「ミクロコスモス」より(1)基礎
第8回 バルトーク「ミクロコスモス」より(2)応用
第9回 ドビュッシー「小組曲」より(1)基礎
第10回 ドビュッシー「小組曲」より(2)応用
第11回 ドビュッシー「小組曲」より(3)発展
第12回 ラヴェル「マ・メール・ロワ」より(1)基礎
第13回 ラヴェル「マ・メール・ロワ」より(2)応用
第14回 ラヴェル「マ・メール・ロワ」より(3)発展
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・授業内で配布するピアノ譜(分奏する)を練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

履修学生の属性、能力により扱う作品は上記の限りではない。

ナンバリング	SWS081N		
科目名	編曲法B I		
科目詳細			
担当教員	川上 統		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

吹奏楽及び合奏の指導者ならば知っておきたい「編曲」の技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

木管楽器／金管楽器、またはピアノを伴う楽器による編曲を通して、編曲の基礎を学ぶ。
可能ならば作成した譜面の試演を多く取り入れる事を行う。
尚、オンラインと対面の併用を考えての授業展開を考えているが、
試演が難しい場合は適宜実作の時間と交代しながら適宜行う。

1. ガイダンス
2. 木管楽器について
3. 木管楽器の同属楽器を扱う短い楽曲の実作と添削①
4. 試演①
5. 木管楽器の同属楽器を扱う短い楽曲の実作と添削②
6. 試演②
7. ピアノを伴う編曲の実作と添削
8. 試演③
9. 異種楽器の混合編成による短い楽曲の実作と添削①
10. 試演④
11. 異種楽器の混合編成による短い楽曲の実作と添削②
12. 試演⑤
13. 最終提出編曲課題の実作①
14. 最終提出編曲課題の実作②
15. 試演⑥とまとめ

◆準備学習の内容◆

毎週課される部分を研究、実習し、次回授業に持参する。

◆成績評価の方法◆

期末提出作品評価と平常点、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。課題に関するプリント等を随時配布する。
また五線紙は毎回使うので必ず初回授業から用意する事。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

注意！！
和声の知識が不可欠な為、1、2年生には難しいです。3年生での履修が効果的です。

<注意> 授業初日に出席出来なかった場合は、履修できない事があります。

前期、後期ともに最終日に編曲物提出があります。課題提出が提出されなければ単位が認定されません。
授業以外にも毎週、編曲課題等の実施に多くの時間が必要で、負担の多い授業です。他の履修科目とのスケジュール等もよく考慮すること。

ナンバリング	SWS082N		
科目名	編曲法BⅡ		
科目詳細			
担当教員	川上 統		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

吹奏楽及び合奏の指導者ならば知っておきたい「編曲」の技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

ポピュラー音楽等、クラシック外のジャンルの素材も扱えるように知識を広める。
それと平行して金管楽器、またはピアノを伴う楽器による編曲を通して、編曲の基礎を学ぶ。
可能ならば作成した譜面の試演を多く取り入れる事を行う。
尚、オンラインと対面の併用を考えての授業展開を考えているが、
試演が難しい場合は適宜実作の時間と交代しながら適宜行う。

1. ガイダンス
2. リハーモナイズ等の和音変更の方法についての実作①
3. リハーモナイズ等の和音変更の方法についての実作②
4. 対旋律を作る①シンプルなライン
5. 対旋律を作る②より工夫したライン
6. 金管楽器について
7. 金管楽器のアンサンブル編曲の実作と添削
8. 試演①
9. 弦楽器のアンサンブル編曲の実作と添削
10. 試演②
11. 異種楽器の混合編成による短い楽曲の実作と添削
12. 試演③
13. 最終提出編曲課題の実作①
14. 最終提出編曲課題の実作②
15. 試演⑥とまとめ

◆準備学習の内容◆

毎週課される部分を研究、実習し、次回授業に持参する。

◆成績評価の方法◆

期末提出作品評価と平常点、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。課題に関するプリント等を随時配布する。
また五線紙は毎回使うので必ず初回授業から用意する事。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

前期、後期ともに最終日に編曲物提出があります。課題提出が提出されなければ単位が認定されません。
毎週、多くの編曲課題等の実施に授業外で多くの時間が必要で、負担の多い授業です。他の履修科目とのスケジュール等もよく考慮すること。
毎回の授業内での説明を聞く事が重要ですので、遅刻、欠席などしないように。

ナンバリング	CES203N		
科目名	編曲法BⅢ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

編曲法BI, II で学習した内容を踏まえ、より実践的かつ発展的な書法を習得する。

◆授業内容・計画◆

編曲法BI, II での学習を踏まえ、様々な編曲作品(楽譜が出版されているもの、映像付随音楽、舞台での上演を前提としたもの、など)を参照しつつ、履修生による編曲作品の「試演を中心とした学習」を行います。
「自由に楽譜を書く」「その楽譜が演奏される機会をほぼ必ず設ける」という2点が特徴です。

- メロディについて(1): 非和声音の効用についての復習
- メロディについて(2): カウンターメロディについての復習
- メロディに関する課題の実施
- 試演(1～3)
- リハーモナイズ(1): 代理コードについて理解する
- リハーモナイズ(2): 和音の分割について理解する
- リハーモナイズに関する課題の実施
- 試演(5～7)
- 楽曲ジャンルに応じた編曲(1): クラシックからポップスまでの様々な様式、楽式を理解する
- 楽曲ジャンルに応じた編曲(2): リズムの編作
- 楽曲ジャンルに関する課題の実施
- 試演(9～11)
- 総合的な課題の実施
- 試演(13)
- まとめ

授業は、「テーマの設定／講義」→「個々の目的意識に合わせ編曲に取り組む」→「試奏」→「演奏者を交え、学生同士で意見交換を行う」という流れを一巡とし、その繰り返しとなります。
取り組むテーマは履修者それぞれの希望を汲み決定しますので、その内容や楽器編成規模により上記の繰り返しは半期あたり2～4巡の範囲で変動します。

◆準備学習の内容◆

楽曲を作品として学ぶだけでなく、街頭やテレビなど日頃耳にする様々な「音」全てに対して自覚的であること。
授業で扱った内容を復習し授業に備えること(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

発表作品の内容、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配付します

◆参考図書◆

◆留意事項◆

五線紙を持参する事

ナンバリング	CES223N		
科目名	編曲法C I		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	足本 憲治		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

編曲法について、実践的かつ発展的な書法を習得する。

◆授業内容・計画◆

2024年度まで「編曲法BⅢ、Ⅳ」として開講されていた科目です。カリキュラム改訂に伴い、Ⅰ～Ⅳという積み上げ式ではなくなりましたので誰でも履修が可能です。ただし、この「編曲法C」はもともとの「Ⅲ、Ⅳ」という授業内容を引き継いでおり、入門クラスのような丁寧な解説よりも実践を多く行うクラスとして位置付けられています。例えば1,2年次の「ハーモニーⅠ～Ⅳ」の学習内容がほとんど身につけていない…といった学生にとっては授業内容の理解が大変かもしれません。一方、1年生でも「音楽系の高校でそういうことはすでにやってきました！」ということであれば大丈夫です。

授業では、様々な編曲作品(楽譜が出版されているもの、映像付随音楽、舞台での上演を前提としたもの、など)を参照しつつ、履修生による編曲作品の「試演を中心とした学習」を行います。

「自由に楽譜を書く」「その楽譜が演奏される機会をほぼ必ず設ける」という2点が特徴です。

- 1.メロディについて(1):非和声音の効用についての復習
- 2.メロディについて(2):カウンターメロディについての復習
- 3.メロディに関する課題の実施
- 4.試演(1～3)
- 5.リハーモナイズ(1):代理コードについて理解する
- 6.リハーモナイズ(2):和音の分割について理解する
- 7.リハーモナイズに関する課題の実施
- 8.試演(5～7)
- 9.楽曲ジャンルに応じた編曲(1):クラシックからポップスまでの様々な様式、楽式を理解する
- 10.楽曲ジャンルに応じた編曲(2):リズムの編作
- 11.楽曲ジャンルに関する課題の実施
- 12.試演(9～11)
- 13.総合的な課題の実施
- 14.試演(13)
- 15.まとめ

授業は、「テーマの設定／講義」→「個々の目的意識に合わせ編曲に取り組む」→「試奏」→「演奏者を交え、学生同士で意見交換を行う」という流れを一巡とし、その繰り返しとなります。

取り組むテーマは履修者それぞれの希望を汲み決定しますので、その内容や楽器編成規模により上記の繰り返しは半期あたり2～4巡の範囲で変動します。

◆準備学習の内容◆

楽曲を作品として学ぶだけでなく、街頭やテレビなど日頃耳にする様々な「音」全てに対して自覚的であること。

授業で扱った内容を復習し授業に備えること(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

発表作品の内容、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配付します

◆参考図書◆

◆留意事項◆

五線紙を持参する事

ナンバリング	CES204N		
科目名	編曲法BⅣ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	足本 憲治		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

編曲法BI, II で学習した内容を踏まえ、より実践的かつ発展的な書法を習得する。

◆授業内容・計画◆

編曲法BI, II での学習を踏まえ、様々な編曲作品(楽譜が出版されているもの、映像付随音楽、舞台での上演を前提としたもの、など)を参照しつつ、履修生による編曲作品の「試演を中心とした学習」を行います。
「自由に楽譜を書く」「その楽譜が演奏される機会をほぼ必ず設ける」という2点が特徴です。

- 1.モチーフの扱い:過去の名曲を分析しモチーフの変容について学ぶ
- 2.選曲について
- 3.1, 2にて実施した課題の試演
- 4.創作的な編曲(1):様式のコントロール
- 5.創作的な編曲(2):起承転結といった構成のコントロール
- 6.創作的な編曲に関する課題の実施
- 7.4, 5, 6にて実施した課題の試演
- 8.楽器編成の置換(1):音域と響き
- 9.楽器編成の置換(2):管弦楽法
- 10.楽器編成の置換に関する課題の実施
- 11.8, 9, 10にて実施した課題の試演
- 12.総合的な課題の実施(1)前半
- 13.総合的な課題の実施(2)後半
- 14.12, 13にて実施した課題の試演
- 15.まとめ

授業は、「テーマの設定／講義」→「個々の目的意識に合わせ編曲に取り組む」→「試奏」→「演奏者を交え、学生同士で意見交換を行う」という流れを一巡としその繰り返しとなります。

取り組むテーマは履修者それぞれの希望を汲み決定しますので、その内容や楽器編成規模により上記の繰り返しは半期あたり2～4巡の範囲で変動します。

◆準備学習の内容◆

楽曲を作品として学ぶだけでなく、街頭やテレビなど日頃耳にする様々な「音」全てに対して自覚的であること。

授業で扱った内容を復習し授業に備えること(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

発表作品の内容、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配付します

◆参考図書◆

◆留意事項◆

五線紙を持参する事

ナンバリング	CES224N		
科目名	編曲法CⅡ		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	足本 憲治		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

編曲法について、実践的かつ発展的な書法を習得する。

◆授業内容・計画◆

2024年度まで「編曲法BⅢ、Ⅳ」として開講されていた科目です。カリキュラム改訂に伴い、Ⅰ～Ⅳという積み上げ式ではなくなりましたので誰でも履修が可能です。ただし、この「編曲法C」はもともとの「Ⅲ、Ⅳ」という授業内容を引き継いでおり、入門クラスのような丁寧な解説よりも実践を多く行うクラスとして位置付けられています。例えば1,2年次の「ハーモニーⅠ～Ⅳ」の学習内容がほとんど身につけていない…といった学生にとっては授業内容の理解が大変かもしれません。一方、1年生でも「音楽系の高校でそういうことはすでにやってきました！」ということであれば大丈夫です。

授業では、様々な編曲作品(楽譜が出版されているもの、映像付随音楽、舞台での上演を前提としたもの、など)を参照しつつ、履修生による編曲作品の「試演を中心とした学習」を行います。

「自由に楽譜を書く」「その楽譜が演奏される機会をほぼ必ず設ける」という2点が特徴です。

1. モティーフの扱い: 過去の名曲を分析しモティーフの変容について学ぶ
2. 選曲について
3. 1, 2にて実施した課題の試演
4. 創作的な編曲(1): 様式のコントロール
5. 創作的な編曲(2): 起承転結といった構成のコントロール
6. 創作的な編曲に関する課題の実施
7. 4, 5, 6にて実施した課題の試演
8. 楽器編成の置換(1): 音域と響き
9. 楽器編成の置換(2): 管弦楽法
10. 楽器編成の置換に関する課題の実施
11. 8, 9, 10にて実施した課題の試演
12. 総合的な課題の実施(1)前半
13. 総合的な課題の実施(2)後半
14. 12, 13にて実施した課題の試演
15. まとめ

授業は、「テーマの設定／講義」→「個々の目的意識に合わせ編曲に取り組む」→「試奏」→「演奏者を交え、学生同士で意見交換を行う」という流れを一巡しその繰り返しとなります。

取り組むテーマは履修者それぞれの希望を汲み決定しますので、その内容や楽器編成規模により上記の繰り返しは半期あたり2～4巡の範囲で変動します。

◆準備学習の内容◆

楽曲を作品として学ぶだけでなく、街頭やテレビなど日頃耳にする様々な「音」全てに対して自覚的であること。
授業で扱った内容を復習し授業に備えること(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

発表作品の内容、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配付します

◆参考図書◆

◆留意事項◆

五線紙を持参する事

ナンバリング	CES401N		
科目名	管弦楽法C I		
科目詳細			
担当教員	清水 祥平		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

様々な編成へのオーケストレーションが出来るようになる

◆授業内容・計画◆

- 第1回 導入 オーケストレーションの実際と、音と楽器のインテンシティについて
- 第2回 弦楽器について 概論
- 第3回 Violinについて
- 第4回 Violaについて
- 第5回 Celloについて
- 第6回 Contra-bassについて
- 第7回 簡易な四声体を主体にしたピアノ曲の編曲
- 第8回 ペダル・ノートの処理と課題実施
- 第9回 トレモロの処理と課題実施
- 第10回 アルベルティ・バスの処理と課題実施
- 第11回 ピアノ譜における内声部の重複と課題実施
- 第12回 弦楽の分割法
- 第13回 弦楽五部の編曲
- 第14回 パート譜の作成方法
- 第15回 試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

オーケストラのスコアを最低限でも1冊購入し、記譜について学習しておく事
ムソルグスキー作曲ラベル編曲の「展覧会の絵」推奨

◆成績評価の方法◆

試験及び提出課題による。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

「管弦楽法」W.ピストン(音楽之友社)
「管弦楽法」伊福部昭(音楽之友社)
「管弦楽法」エクトール・ベルリオーズ/リヒャルト・シュトラウス(音楽之友社)

◆留意事項◆

管弦楽法の本は参考図書以外のものでも良いのですが、ヤマハや河合等の「薄い」本だと不正確なことが多いのでお薦めできません。
毎回プリントを配布するので、履修者はA4のクリアファイル等を各自用意しておく事。
又、20段程度のアンサンブル編曲用の五線紙(横長B4又はA3サイズ)を各自用意しておく事。

ナンバリング	CES402N		
科目名	管弦楽法CⅡ		
科目詳細			
担当教員	清水 祥平		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

様々な編成のオーケストレーションが出来るようになる

◆授業内容・計画◆

- 第1回 木管楽器 概論
- 第2回 Fluteについて
- 第3回 Oboeについて
- 第4回 Clarinetについて
- 第5回 Fagottについて
- 第6回 Hornについて
- 第7回 木管五重奏編曲実施
- 第8回 Trumpetについて
- 第9回 Tromboneについて
- 第10回 Tubaについて
- 第11回 Harpについて
- 第12回 打楽器について
- 第13回 Tuttiの作り方
- 第14回 2～3管編成のオーケストレーション実施
- 第15回 試験とまとめ

講義予定15回

◆準備学習の内容◆

オーケストラのスコアを最低限でも1冊購入し、記譜について学習しておく事

◆成績評価の方法◆

試験及び提出課題による。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

「管弦楽法」W.ピストン(音楽之友社)
「管弦楽法」伊福部昭(音楽之友社)
「管弦楽法」エクトール・ベルリオーズ/リヒャルト・シュトラウス(音楽之友社)

◆留意事項◆

管弦楽法の本は参考図書以外のものでも良いのですが、ヤマハや河合等の「薄い」本だと不正確なことが多いのでお薦めできません。
毎回プリントを配布するので、履修者はA4のクリアファイル等を各自用意しておく事。
又、20段程度のアンサンブル編曲用の五線紙(横長B4又はA3サイズ)を各自用意しておく事。

ナンバリング	CES304N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用A I		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-31	開講学期	前期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

コードネームを見ながら、伴奏を工夫して、弾き歌いができるようになること。和音記号を見て弾けるようになること。

◆授業内容・計画◆

- 1 ガイダンス
- 2 弾き歌い 歌唱教材より（前半）
- 3 弾き歌い 歌唱教材より（後半）
- 4 歌をひきだす前奏の作曲方法、演奏方法
- 5 基本的な和音進行による即興演奏（中級編）
- 6 基本的な和音進行による即興演奏（上級編）
- 7 コードネームによる即興演奏（中級編）
- 8 コードネームによる即興演奏（上級編）
- 9 テーマと変奏(いろいろな様式を学ぶ)(中級編)
- 10 テーマと変奏(いろいろな様式を学ぶ)(上級編)
- 11 歌の伴奏付け（中級編）
- 12 歌の伴奏付け（上級編）
- 13 借用和音を使った即興演奏（中級編）
- 14 借用和音を使った即興演奏（上級編）
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた課題をあらかじめ、十分に予習すること

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業の中でリアリゼーションへのフィードバックを行い、課題、試験を併せて総合的に評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

「歌はともだち」教育芸術社

◆参考図書◆

授業内で伝える

◆留意事項◆

ナンバリング	CES305N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用B I		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-03	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なコード進行を学び与えられたメロディーにキーボードで伴奏できる。

◆授業内容・計画◆

- 1)「オリエンテーション」
- 2)「コードネームを理解するには」～コードネーム各種の確認
- 3)「ダイアトニックのコード進行の上にメロディを作る」
- 4)「ノンダイアトニックのコード進行を実際の曲から探す」
- 5)「ドミナントモーション($V_7 \rightarrow I$)を既成曲から探して模倣する」
- 6)「 $II \rightarrow V_7$ モーションを既成曲から探して模倣する」
- 7)「クリシェ進行の上にメロディを作る」
- 8)「 $V_7 \rightarrow I_7$ $II \rightarrow V_7$ を各調で弾いてみる」
- 9)「実際の曲から好きなコード進行を見つける」
- 10)「実際の曲から見つけたコード進行の上に自分のメロディーを置いてみる」
- 11)「既成曲を基にしてオリジナルメロディを作る」
- 12)「作ったメロディに言葉(詞)を置いてみる」曲先の考え方を学ぶ
- 13)「メロディと言葉をどのように合体するかまとまりのある『歌』を作ってみる」
- 14)「制作した歌の発表」
- 15)「授業内試験」(発表)とまとめ

◆準備学習の内容◆

ポピュラー音楽のコード進行を学び、あらゆるメロディーにキーボードで伴奏をつける事、あるいはコード進行の上にメロディーを作って弾く、歌う事。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価、また授業内発表を評価する。
授業中、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

- 1.イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著
- 2.思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き)[単行本]リットーミュージック 河村ケン著
- BGMのすべてアドリブメロディー付改訂新版ベスト356/小森谷清著／全音
- いきなり作詞ができてしまう本！(言視BOOKS)／葉月けめこ著／言視舎

◆留意事項◆

五線紙ノートは必ず持参すること

ナンバリング	CES306N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用C I		
科目詳細			
担当教員	赤石 直哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-13	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

様々な音楽スタイルでのキーボードにおけるヴォイスिंगを身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.基礎知識の確認と発展的理解 ①楽典
- 2.基礎知識の確認と発展的理解 ②ハーモニー
- 3.コードシンボルの理解
- 4.基本的なヴォイスिंग(3和音・4和音)
- 5.II-V-I進行の基本
- 6.レフトハンド・ヴォイスिंग(2ノート)
- 7.フォー・ウェイ・クロース
- 8.テンション① 9th
- 9.テンション② 13th
- 10.オルタード・テンション
- 11.ジャズ史入門
- 12.モーダルなコード進行
- 13.楽曲分析とヴォイスिंगの応用 ①ポップス
- 14.楽曲分析とヴォイスिंगの応用 ②ジャズ
- 15.前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

各回の終了時に、担当者より指示された内容をしっかり予習、練習する。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題へのフィードバックを総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適時、資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で、参考音源を指示する。

◆留意事項◆

このクラスは「応用」のクラスです。
ハーモニーの学習経験がない1年生には履修困難です。

この授業は毎回の積み重ね、復習が重要な授業です。

ナンバリング	CES205N		
科目名	選択ソルフェージュA I		
科目詳細	基礎力徹底		
担当教員	中辻 小百合		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

聴音、読譜、リズム、視唱を軸とした訓練を通して、音楽家としての基礎能力を確実に身につけることを目的とする。(1)音を正確に聴き取り、楽譜に定着できる。(2)楽譜をより速く正確に読み、楽曲の全体像を把握できる。(3)楽譜を読み取り正確に再現できるだけでなく、より活き活きと表現できる。(4)様々な様式による楽曲に対応できる総合的な力を身につける。

◆授業内容・計画◆

基礎力の強化に重点を置く。

以下に示す学習項目を適宜組み合わせながら授業を進めていく。

各学習項目の垣根を越えて様々な角度から課題へのアプローチを試み、総合的かつ体系的に学習を進めていくことによって、より確実なステップアップを図る。

- 1) 単旋律聴音(1)記憶
- 2) 単旋律聴音(2)筆記
- 3) 複旋律聴音
- 4) 和声聴音
- 5) リズム聴音
- 6) 音源を用いた歴史的名曲の聴音
- 7) 楽譜の間違い探し
- 8) 新曲視唱
- 9) リズム付き新曲視唱
- 10) リズム打ち
- 11) リズム読み
- 12) リズム・アンサンブル
- 13) 音部記号の読譜
- 14) 移調楽器の読譜
- 15) 総合演習

◆準備学習の内容◆

ソルフェージュの学習プロセスにおいて、復習は重要な役割を果たす。授業後、学習内容を必ず振り返り、より確実な定着を図ること。(目安: 週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

学期末試験及び平常点により総合的に評価する。また、授業内に課す課題に対して適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆留意事項◆

- ・五線紙必携。
- ・履修学生の理解度及び習熟度を測るため、初回授業内において小テストを実施する。やむを得ず初回授業を欠席した学生は、2回目以降の授業内において必ず受験すること。

ナンバリング	CES206N		
科目名	選択ソルフェージュAⅡ		
科目詳細	基礎力徹底		
担当教員	中辻 小百合		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

聴音、読譜、リズム、視唱を軸とした訓練を通して、音楽家としての基礎能力を確実に身につけることを目的とする。(1)音を正確に聴き取り、楽譜に定着できる。(2)楽譜をより速く正確に読み、楽曲の全体像を把握できる。(3)楽譜を読み取り正確に再現できるだけでなく、より活き活きと表現できる。(4)様々な様式による楽曲に対応できる総合的な力を身につける。

◆授業内容・計画◆

基礎力の強化に重点を置く。

以下に示す学習項目を適宜組み合わせながら授業を進めていく。

各学習項目の垣根を越えて様々な角度から課題へのアプローチを試み、総合的かつ体系的に学習を進めていくことによって、より確実なステップアップを図る。

また、前期の学習内容を発展させ、様々な様式による実作品を教材として適宜用いる。

- 1) 単旋律聴音(1)記憶
- 2) 単旋律聴音(2)筆記
- 3) 複旋律聴音
- 4) 和声聴音
- 5) リズム聴音
- 6) 音源を用いた歴史的名曲の聴音
- 7) 楽譜の間違い探し
- 8) 新曲視唱
- 9) リズム付き新曲視唱
- 10) リズム打ち
- 11) リズム読み
- 12) リズム・アンサンブル
- 13) 音部記号の読譜
- 14) 移調楽器の読譜
- 15) 総合演習

◆準備学習の内容◆

ソルフェージュの学習プロセスにおいて、復習は重要な役割を果たす。授業後、学習内容を必ず振り返り、より確実な定着を図ること。(目安:週1時間程度)

◆成績評価の方法◆

学期末試験及び平常点により総合的に評価する。また、授業内に課す課題に対して適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

- 『ソルフェージュ 視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ リズム』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ 聴音』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆留意事項◆

五線紙必携。

ナンバリング	CES207N		
科目名	選択ソルフェージュB I		
科目詳細	応用力徹底		
担当教員	中安 義雄		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソルフェージュ能力を高めることによって練習効率が向上する。また楽曲をただ単純に早く読めるようになるだけでなく、旋律や和声の変化とアーティキュレーションやニュアンスの変化の関連性を考えて演奏ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

視唱、聴音、リズム打ち、クレ読み等の基本的なソルフェージュの実習をフランスの教材や実際の楽曲から取り上げて行いつつ、各回の目的に応じて与えられた課題の分析や楽曲との対比をし、音楽理論の側面からも理解を深める。

第1回 ガイダンス

(以下、履修生の状況に応じて多少変化する可能性もある)

第2回 非和声音への理解1(課題の分析、移調)

第3回 非和声音への理解2(楽曲の分析、ニュアンスとの関連性を考慮して実践)

第4回 転調を多く含む課題1(課題の分析、移調)

第5回 転調を多く含む課題2(楽曲の分析、ニュアンスとの関連性を考慮して実践)

第6回 非和声音・転調の総括(分析、移調や伴奏付け等)

第7回 読譜(クレ読み・リズム読みを集中的に行う)

第8回 第7回の反復と移調管楽器1(主にB♭管、F管を読む練習)

第9回 第7回の反復と移調管楽器2(2パートを同時に読む練習)

第10回 第7回の反復と移調管楽器3(更に多くのパートを読む練習)

第11回 四声体和声1(課題と楽曲の分析、初見視奏)

第12回 四声体和声2(バッハのコラールの分析、初見視奏)

第13回 スコアリーディング1(弦楽四重奏や木管五重奏のピアノリダクション、視奏)

第14回 スコアリーディング2(ピアノリダクション版と原譜との比較、古典派のオーケストラスコアの視奏)

第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で提示する課題は基本的には各回で完結するが、自主的に復習を重ねること。

◆成績評価の方法◆

平常点及び学期末試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

初回の授業ではガイダンスと、履修生の実力を測るための簡単なテストを行う。またソルフェージュの応用力を幅広く向上させるため、後期の選択ソルフェージュB IIを継続履修することが望ましい。

ナンバリング	CES208N		
科目名	選択ソルフェージュBⅡ		
科目詳細	応用力徹底		
担当教員	中安 義雄		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期の学習を踏まえた上で、練習効率を向上するだけでなく、様々な時代の楽曲やポピュラーミュージックを実践・分析することにより楽曲への対応力を上げ、更に理解の深い演奏ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

前期同様、基本的なソルフェージュの実習をフランスの教材や実際の楽曲から取り上げて行い、分析も行う。取り分け後期は実際の楽曲を主軸に置き、普段の練習・演奏に活きるよう知見を広める。

- 第1回 前期の復習を兼ねた課題1(主に非和声音と転調を多く含む聴音、視唱・視奏課題)
- 第2回 前期の復習を兼ねた課題2(主にクレ読み、リズム読み、移調管読みの課題)
- 第3回 前期の復習を兼ねた課題3(主に四声体と和声の聴音、初見視奏課題、スコアリーディング)
- 第4回 旋法を含む課題1(各旋法の確認、課題の分析)
- 第5回 旋法を含む課題2(楽曲の分析、実践)
- 第6回 複雑なリズムを含む課題1(様々な連符、変拍子)
- 第7回 複雑なリズムを含む課題2(楽曲の分析、実践)
- 第8回 和声分析と伴奏付け(和音記号、コードネーム、数字付き低音の確認、実践)
- 第9回 ジャズ・ポピュラー音楽をもとにした課題1(ブルーノートの確認、楽曲のリズムやコード進行の分析)
- 第10回 ジャズ・ポピュラー音楽をもとにした課題2(クラシック作品との比較)
- 第11回 特定の時代に着目した総合演習1(ルネサンス～バロック)
- 第12回 特定の時代に着目した総合演習2(古典派)
- 第13回 特定の時代に着目した総合演習3(ロマン派)
- 第14回 特定の時代に着目した総合演習4(近現代)
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

前期と同様に、学習内容を意識して、自主的な復習を重ねること。

◆成績評価の方法◆

平常点及び学期末試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

前期の内容をある程度引き継いで発展させていくため、選択ソルフェージュBⅠから継続履修することが望ましい。

ナンバリング	VMS201N		
科目名	選択ソルフェージュC I		
科目詳細	声楽		
担当教員	山田 香		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-12	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソルフェージュⅠ～Ⅳで学習してきたソルフェージュの基礎能力を、実作品に応用する。特に声楽作品を演奏するのに必要な基礎能力(視唱、読譜、リズムなど)の強化、重唱や合唱などアンサンブルに必要な能力の強化を目指す。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 歌曲の視唱・読譜力の強化(1) イタリア古典歌曲より
3. 歌曲の視唱・読譜力の強化(2) 日本歌曲より
4. オペラ アリアの視唱・読譜力の強化(1) W.A.モーツァルトの作品より
5. オペラ アリアの視唱・読譜力の強化(2) G.プッチーニの作品より
6. 歌曲とオペラ アリアの課題による視唱・読譜力のまとめ
7. 重唱(歌曲)の視唱・アンサンブル力の強化(1) 古典派の作品より
8. 重唱(歌曲)の視唱・アンサンブル力の強化(2) 前期ロマン派の作品より
9. 重唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(1) W.A.モーツァルトの作品より
10. 重唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(2) G.ヴェルディの作品より
11. 重唱課題による視唱・アンサンブル力のまとめ
12. 合唱(宗教曲)の視唱・アンサンブル力の強化(1) レクイエムより
13. 合唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(1) W.A.モーツァルトの作品より
14. 合唱課題による視唱・アンサンブル力のまとめ
15. 実技試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

取り上げる内容が重唱などのアンサンブル作品の場合に、授業前に楽譜の準備や譜読みが必要となる場合がある。(目安1時間)
また、授業で扱った課題の復習を毎日重ねること(目安毎日20分)

◆成績評価の方法◆

出席状況、平常の授業への取り組み方、授業内実技試験、その他、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ・視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ・読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

毎回五線ノートを準備すること。
履修者の様子や社会状況により若干の内容変更を伴うこともあるが、事前に連絡しながら行う。

ナンバリング	VMS202N		
科目名	選択ソルフェージュCⅡ		
科目詳細	声楽		
担当教員	山田 香		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-12	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソルフェージュⅠ～Ⅳで学習してきたソルフェージュの基礎能力を、実作品に応用する。特に声楽作品を演奏するのに必要な基礎能力(視唱、読譜、リズムなど)の強化、重唱や合唱などアンサンブルに必要な能力の強化を目指す。前期に学習した内容を別の作品を用いて強化する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 歌曲の視唱・読譜力の強化(3) イタリア・ドイツ歌曲より
3. 歌曲の視唱・読譜力の強化(4) フランス歌曲より
4. オペラ アリアの視唱・読譜力の強化(3) G.ドニゼッティの作品より
5. オペラ アリアの視唱・読譜力の強化(4) 邦人作曲家の作品より
6. 歌曲とオペラ アリアの課題による視唱・読譜力のまとめ
7. 重唱(歌曲)の視唱・アンサンブル力の強化(3) 後期ロマン派の作品より
8. 重唱(歌曲)の視唱・アンサンブル力の強化(4) 近・現代の作品より
9. 重唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(3) G.プッチーニの作品より
10. 重唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(4) 邦人作曲家の作品より
11. 重唱課題による視唱・アンサンブル力のまとめ
12. 合唱(宗教曲)の視唱・アンサンブル力の強化(2) F.ヘンデル「メサイア」より
13. 合唱(オペラ)の視唱・アンサンブル力の強化(2) G.ロッシーニの作品より
14. 合唱課題による視唱・アンサンブル力のまとめ
15. 実技試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

取り上げる内容が重唱などのアンサンブル作品の場合に、授業前に楽譜の準備や譜読みが必要となる場合がある。(目安1時間)
また、授業で扱った課題の復習を毎日重ねること(目安毎日20分)

◆成績評価の方法◆

出席状況、平常の授業への取り組み方、授業内実技試験、その他、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ソルフェージュ・視唱』国立音楽大学編(音楽之友社)
『ソルフェージュ・読譜』国立音楽大学編(音楽之友社)

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

毎回五線ノートを準備すること。
履修者の様子や社会状況により若干の内容変更を伴うこともあるが、事前に連絡しながら行う。

ナンバリング	CES403N		
科目名	ハーモニーⅤ		
科目詳細	中級～上級4声体課題の実習		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	02
講義室	2-16	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーの四声体書法を深めるとともに、調性音楽の文法を読み取り深く味わうための耳を育むことを目的とする。ひいては、ハーモニーの原理が、各時代様式のさまざまな楽曲における語法とどう結びついているのかの理解を促すことを目指す。

◆授業内容・計画◆

1. 1～2年次の復習、理解度を確認する小テスト
2. 和音連結における原則と例外①三和音
3. 和音連結における原則と例外②七の和音
4. 和音連結における原則と例外③カデンツと和音進行(D進行等)
5. 和音連結における原則と例外④各種定型(D定型等)
6. 借用和音①副次固有和音(副Ⅴ、副Ⅱ等)
7. 借用和音②準固有和音
8. D諸和音
9. D2諸和音
10. S諸和音
11. その他の和音(変位和音等)
12. 反復進行①正進行
13. 反復進行②準正進行、変進行
14. 保続・オルゲルプункト
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で学んだ内容および課題を、自宅にて音を弾いたり音源を聴くことによって、耳で確かめながら理解をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および定期試験(詳細は授業内にて伝達)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎回授業内にてプリントを配付

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I,II,III(池内友次郎 他 著、音楽之友社)
『総合和声』(島岡譲 他 著、音楽之友社)

◆留意事項◆

自身がこれまで演奏等の音楽経験で培ってきた音に対する感覚を、本授業での学びを通してさらに磨きをかけてほしい。授業において学ぶ理論的アプローチは、自身の感覚をより確かなものとするためのツールと考えて取り組んでほしい。

ナンバリング	CES403N		
科目名	ハーモニーⅤ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	神本 真理		
学年	3年	クラス	03
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニー学習における4声体書法をより深く習得する傍ら、豊かな楽曲解釈へと繋がっていくことを目標とする。1)これまでのハーモニーの学習内容を復習した後、さらに多彩な和声における音楽語法に触れ、豊かな和声感を育む。2)そのために先ず、四声体書法を通して、さまざまな和声を理解する。3)そして、アナリーゼ(和声分析)を通して、名曲の魅力を深く味わい、専攻実技へのヒントを得る。4)学習の到達点は、「自らが書いた音をいかに耳(頭の中)でよく聴き、検証できるか」である。その為には、「聴く力」を深めていくことも意識されたい。

◆授業内容・計画◆

第1回 これまでの理解度を確認する小テスト
第2回 4声体の配置
第3回 4声体の連結
第4回 和音設定と様々な終止について
第5回 D諸和音 (1) 基礎(第5回以降、アナリーゼも並行して毎回行う)
第6回 D諸和音 (2) 応用
第7回 D2諸和音 (1) 基礎
第8回 D2諸和音 (2) 応用
第9回 さまざまな変化和音(増6、ナポリなど)
第10回 S諸和音
第11回 借用和音 (1) 準固有和音
第12回 借用和音 (2) 副属七の和音
第13回 総合的なアナリーゼ(楽曲の構造と転調などを重点的に)
第14回 確認小テストと復習
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

<準備学習の内容>

1)授業内容の復習を兼ねて、毎回、短い宿題が出る。習熟度に関わりなく、必ず取り組むこと。(目安30分)
2)授業で説明した内容を、可能な限りピアノで弾いて、自身でよく聴いて確かめることが大切です。様々な音同士の組み合わせの可能性から、響きへの審美感を持つこと。

◆成績評価の方法◆

学期末の試験は、四声体の筆記試験と、アナリーゼのレポートとする。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付プリント/国立音楽大学編「ハーモニー・ハンドブック」(1年次の「ハーモニーI」で全学生へ配布したものです。破損・紛失した学生は申し出てください。)

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I, II, III 池内友次郎 他 著(音楽之友社)
『総合和声』島岡譲 他著(音楽之友社)
『和声の仕組み・楽曲の仕組み』島岡譲 著(音楽之友社)

◆留意事項◆

ハーモニー学習で得た音楽的な収穫を、机上の学びに留まらず、専攻実技に活かすことを目的として学ぶ姿勢を期待したい。ぜひ積極的な意識を持って、授業と課題に取り組んでほしい。

ナンバリング	CES403N		
科目名	ハーモニーⅤ		
科目詳細	中程度～上級／Ⅰ～Ⅳを踏まえ、より高度に		
担当教員	近藤 岳		
学年	3年	クラス	04
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●ハーモニーⅠ～Ⅳで学習した和声を踏まえ、バロック時代から用いられている数字付き和声（通奏低音）や、フランス式の数字付き和声の理解・習得を目指します。●授業では、主にH.シャラン『380の和声課題』を用いて進めますが、都度授業内容に即した他の課題も提示し、実施していきます。●「ハーモニーⅤ」では、非和声音（和音外音）なしの課題を中心に行いますが、後期（6セメスター）を見越して非和声音を含む課題へのアプローチも進め、より高度な和声課題が音楽的に実施できるようにします。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス（和声記号の復習と、数字について、フランス式和声の考え方）
2. 三和音（転回形なし）バス課題の実施（特にイレギュラーな和声進行の説明と実施）
3. 三和音（転回形含む）バス課題の実施① 六の和音
4. 三和音（転回形含む）バス課題の実施② 四六の和音と3つの特徴的な用法
5. 四和音（属七の和音）によるバス課題の実施① 自然解決による用法
6. 四和音（属七の和音）によるバス課題の実施② あらゆる解決
7. 四和音（属七の和音）によるソプラノ課題の実施①
8. 四和音（属七の和音）によるソプラノ課題の実施② 転回形をより多く含む課題
9. 属七の和音の響きに基づいたG.フォーレのスタイル和声について（バス課題）
10. 属七の和音の響きに基づいたG.フォーレのスタイル和声について（ソプラノ課題）
11. 四和音（七の和音）によるバス課題の実施①
12. 四和音（七の和音）によるバス課題の実施② 転回形をより多く含む課題
13. 四和音（七の和音）によるソプラノ課題の実施①
14. 四和音（七の和音）によるソプラノ課題の実施② 総合的な課題
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中に取り組む課題、指示した予習・復習課題を随時積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み、課題提出、出席回数などを含め総合的に評価する。
課題について適宜フィードバックを行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』Ⅰ巻～Ⅲ巻 池内友次郎ほか 著（音楽之友社）、『新しい和声 理論と聴感覚の統合』林達也 著（アルテスパブリッシング）

◆留意事項◆

ナンバリング	CES403N		
科目名	ハーモニーⅤ		
科目詳細	初級～中程度／Ⅰ～Ⅳの学習を多様に深化		
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	3年	クラス	05
講義室	2-13	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1～2年次の和声を復習し、より確実なものとする。実作品も参照しながら、より豊かで幅広い和声感を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション、1年次の復習
2. 4声体の配置
3. 三和音の連結(基本形を中心に)
4. 三和音の連結(転回形を中心に)
5. 様々なD和音(属七の和音)
6. 様々なD和音(属九の和音)
7. II7の和音
8. ドリアのIV7、ナボリの六の和音等
9. 借用和音(準固有和音)
10. 借用和音(副属七の和音)
11. 確認小テスト
12. 近親調転調課題 前半
13. 近親調転調課題 後半
14. 復習
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

講義で学んだ内容は必ず復習してください。模範解答をピアノで弾いて、響きのバランスと声部の動きをよく聴き、弾いた際の手の形も確かめると良いでしょう。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付しますが、「和声 理論と実習」を持っている人は持参すること。また、全員に配布されるハンドブックは確認のため使用するので、持ってくること。

◆参考図書◆

●「和声 理論と実習」Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(池内友次郎 著他、音楽之友社)等。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CES411N		
科目名	選択ハーモニーA I		
科目詳細	中級～上級4声体課題の実習		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-16	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーの四声体書法を深めるとともに、調性音楽の文法を読み取り深く味わうための耳を育むことを目的とする。ひいては、ハーモニーの原理が、各時代様式のさまざまな楽曲における語法とどう結びついているのかの理解を促すことを目指す。

◆授業内容・計画◆

1. 1～2年次の復習、理解度を確認する小テスト
2. 和音連結における原則と例外①三和音
3. 和音連結における原則と例外②七の和音
4. 和音連結における原則と例外③カデンツと和音進行(D進行等)
5. 和音連結における原則と例外④各種定型(D定型等)
6. 借用和音①副次固有和音(副Ⅴ、副Ⅱ等)
7. 借用和音②準固有和音
8. D諸和音
9. D2諸和音
10. S諸和音
11. その他の和音(変位和音等)
12. 反復進行①正進行
13. 反復進行②準正進行、変進行
14. 保続・オルゲルポイント
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で学んだ内容および課題を、自宅にて音を弾いたり音源を聴くことによって、耳で確かめながら理解をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および定期試験(詳細は授業内にて伝達)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎回授業内にてプリントを配付

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I,II,III(池内友次郎 他 著、音楽之友社)
『総合和声』(島岡譲 他 著、音楽之友社)

◆留意事項◆

自身がこれまで演奏等の音楽経験で培ってきた音に対する感覚を、本授業での学びを通してさらに磨きをかけてほしい。授業において学ぶ理論的アプローチは、自身の感覚をより確かなものとするためのツールと考えて取り組んでほしい。

ナンバリング	CES404N		
科目名	ハーモニーⅥ		
科目詳細	中級～上級4声体課題の実習		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	02
講義室	2-16	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーの四声体書法をさらに深めるとともに、調性音楽の多様な技法や表現方法への理解を深めることを目的とする。また、ハーモニー学習の応用として、混声合唱や器楽アンサンブルの書法についても触れ、編曲の実習にも取り組む。

◆授業内容・計画◆

1. 四声体書法の復習、理解度を確認する小テスト
2. 近親転調①両外声課題
3. 近親転調②バス課題
4. 近親転調③ソプラノ課題
5. 遠隔転調①3度転調
6. 遠隔転調②異名同音的転調
7. 楽曲の和音分析①和声音と非和声音
8. 楽曲の和音分析②転調の判別
9. 音階と旋法①五音音階
10. 音階と旋法②教会旋法
11. 編曲①混声合唱
12. 編曲②器楽アンサンブル
13. 編曲③実習(基礎)
14. 編曲④実習(応用)
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で学んだ内容および課題を、自宅にて音を弾いたり音源を聴くことによって、耳で確かめながら理解をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および定期試験(詳細は授業内にて伝達)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎回授業内にてプリントを配付

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I,II,III(池内友次郎 他 著、音楽之友社)
『総合和声』(島岡譲 他 著、音楽之友社)

◆留意事項◆

自身がこれまで演奏等の音楽経験で培ってきた音に対する感覚を、本授業での学びを通してさらに磨きをかけてほしい。授業において学ぶ理論的アプローチは、自身の感覚をより確かなものとするためのツールと考えて取り組んでほしい。

ナンバリング	CES404N		
科目名	ハーモニーⅥ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	神本 真理		
学年	3年	クラス	03
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)これまでのハーモニー学習を土台として、時代や様式を幅広くアプローチできる力を養う。反復進行や近代の作曲家ごとの和声様式にも触れる。2)ハーモニーⅤと同様、まず四声体書法を通して、さまざまな和声を理解する。3)そして、アナリーゼ(和声分析)を通して、名曲の魅力を深く味わい、専攻実技での豊かな音楽表現へと繋げていく。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期の復習 および テスト返却と解説
第2回 転調(1) 近親転調 1 基礎
第3回 転調(2) 近親転調 2 応用
第4回 転調(3) 半音階的転調
第5回 転調(4) 遠隔調転調 1 基礎
第6回 転調(5) 遠隔調転調 2 応用
第7回 反復進行 (1) 基礎
第8回 反復進行 (2) 応用
第9回 保続低音における和音分析
第10回 偶成和音を含むソプラノ課題 (1) 基礎
第11回 偶成和音を含むソプラノ課題 (2) 応用
第12回 作曲家の和声様式 (1) バロックから古典派まで
第13回 作曲家の和声様式 (2) ロマン派
第14回 作曲家の和声様式 (3) 近代
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

1)授業内容の復習を兼ねて、毎回、短い宿題が出る。習熟度に関わりなく、必ず取り組むこと。(目安30分)
2)授業で説明した内容を、可能な限りピアノで弾いて、自身でよく聴いて確かめることが大切です。様々な音同士の組み合わせの可能性から、響きへの審美感を持つこと。

◆成績評価の方法◆

学期末の試験は四声体の筆記試験と、アナリーゼのレポートとする。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付プリント／国立音楽大学編「ハーモニー・ハンドブック」(1年次の「ハーモニーⅠ」で全学生へ配布したものです。破損・紛失した学生は申し出てください。)

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 池内友次郎 他 著(音楽之友社)
『総合和声』島岡譲 他 著(音楽之友社)
『和声の仕組み・楽曲の仕組み』島岡譲 著(音楽之友社)

◆留意事項◆

Vよりも更に学習内容が深くなるため、扱う和音記号などは複雑になってくる一方、音楽的な色彩感と魅力が広がっていく。
ぜひ積極的な意識を持って、授業と課題に取り組んでほしい。

ナンバリング	CES404N		
科目名	ハーモニーⅥ		
科目詳細	中程度～上級／Ⅰ～Ⅴを踏まえ、より高度に		
担当教員	近藤 岳		
学年	3年	クラス	04
講義室	2-11	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●「ハーモニーⅤ」を引き継いで、フランス式の和声数字課題を中心に、数字による和声の理解がより一層深まるように進めていきます。●特にⅥゼメでは、非和声音(和音外音)の豊かな表情を音楽的に表現できるようにします。●様々な作曲家の固有の音楽語法を深く理解し、それらの分析やスタイル和声の実施を行います。●J.S.バッハのコラール書法の考察、主題的な性格を持つバス課題の実施を通じてポリフォニー書法にも長けるように課題を進めていきます。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「ハーモニーⅤ」の復習)
2. 四の和音(属九の和音)によるバス課題の実施① 基本型を中心に
3. 四の和音(属九の和音)によるバス課題の実施② 根音省略(転回形)
4. 四の和音(属九の和音)によるソプラノ課題の実施
5. 様々な和音の組み合わせによるバス課題の実施
6. 非和声音について(和声音が転位し、揺れ動く音の表情の考察)
7. 非和声音① 係留音を含むバス・ソプラノ課題
8. 非和声音② 倚音を含むバス・ソプラノ課題
9. 非和声音③ 刺繍音、経過音、保続音を含むバス・ソプラノ課題
10. 古典～ロマン派の作曲家作品に見る和声語法の特徴(アナリーゼとスタイル和声)
11. ロマン派後期～近代の作曲家作品に見る和声語法の特徴(アナリーゼとスタイル和声)
12. J.S.バッハの様式によるコラール和声付けについて
13. 主題的な性格を持つバス課題の実施① 主題の考え方、複数の主題の扱い方
14. 主題的な性格を持つバス課題の実施② ポリフォニー書法について
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中に取り組む課題、指示した予習・復習課題を随時積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み、課題提出、出席回数など含め総合的に評価する。課題について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』Ⅰ巻～Ⅲ巻 池内友次郎ほか 著(音楽之友社)、『新しい和声 理論と聴感覚の統合』林達也 著(アルテスパブリッシング)

◆留意事項◆

ナンバリング	CES404N		
科目名	ハーモニーⅥ		
科目詳細	初級～中程度／Ⅰ～Ⅴの学習を多様に深化		
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	3年	クラス	05
講義室	2-13	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーⅤの内容を復習し、より確実なものとする。後期はソプラノ課題を中心に学んでいく。4声体の実施に関しては、最終的に大学院の和声課題を問題なく実施でき更に一歩進んだレベルを目指す。実作品も参照することで、理論を絶対視しない、柔軟な耳と思考を養う。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション、前期の復習
2. ソプラノ課題 ①
3. ソプラノ課題 ②
4. 転調を含むソプラノ課題
5. 転調を含むソプラノ課題とバス課題
6. 確認小テスト(転調を含むソプラノ課題とバス課題)
7. 遠隔転調について
8. 非和声音を含むソプラノ課題
9. 偶成和音
10. 反復進行 ①
11. 反復進行 ②
12. 和音記号以外の表記の仕方 ～ 数字付きバスとコードネームについて
13. 理論と実作品(L.v. ベートーヴェン 交響曲第3番《英雄》を例にして)
14. 復習
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

講義で学んだ内容は必ず復習してください。模範解答をピアノで弾いて、響きのバランスと声部の動きをよく聴き、弾いた際の手の形も確かると良いでしょう。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付しますが、「和声 理論と実習」を持っている人は持参すること。また、全員に配布されるハンドブックは確認のため使用するの、持ってくること。

◆参考図書◆

- 「和声 理論と実習」Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(池内友次郎 著他、音楽之友社)等。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CES412N		
科目名	選択ハーモニーAⅡ		
科目詳細	中級～上級4声体課題の実習		
担当教員	菊池 幸夫		
学年	3年	クラス	02
講義室	2-16	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーの四声体書法をさらに深めるとともに、調性音楽の多様な技法や表現方法への理解を深めることを目的とする。また、ハーモニー学習の応用として、混声合唱や器楽アンサンブルの書法についても触れ、編曲の実習にも取り組む。

◆授業内容・計画◆

1. 四声体書法の復習、理解度を確認する小テスト
2. 近親転調①両外声課題
3. 近親転調②バス課題
4. 近親転調③ソプラノ課題
5. 遠隔転調①3度転調
6. 遠隔転調②異名同音的転調
7. 楽曲の和音分析①和声音と非和声音
8. 楽曲の和音分析②転調の判別
9. 音階と旋法①五音音階
10. 音階と旋法②教会旋法
11. 編曲①混声合唱
12. 編曲②器楽アンサンブル
13. 編曲③実習(基礎)
14. 編曲④実習(応用)
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で学んだ内容および課題を、自宅にて音を弾いたり音源を聴くことによって、耳で確かめながら理解をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、および定期試験(詳細は授業内にて伝達)による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

毎回授業内にてプリントを配付

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I,II,III(池内友次郎 他 著、音楽之友社)
『総合和声』(島岡譲 他 著、音楽之友社)

◆留意事項◆

自身がこれまで演奏等の音楽経験で培ってきた音に対する感覚を、本授業での学びを通してさらに磨きをかけてほしい。授業において学ぶ理論的アプローチは、自身の感覚をより確かなものとするためのツールと考えて取り組んでほしい。

ナンバリング	CES405N		
科目名	ハーモニーⅦ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	4年	クラス	O1
講義室	2-32	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

今までに習得した和声書法の基礎の確認と補習及びその発展。前期はJ. Sバッハのコラール及び様式和声を研究する大学院の入試準備など、特に4年生のために十分な準備と補習ができる。それぞれの能力に対応した課題を実践する。調性の力学や声部の流麗な動向を理論的な観点と感覚的な把握を重要視した書式訓練と実践を行うことができる。

◆授業内容・計画◆

今までに学んだ和声法の基礎の確認と補習。
古典派の機能และ声から近代までの和声理論の実践を行う。

前期:基礎を固め、確認するための課題を重点的にまず行っていく。基礎が不十分な人は、足りない項目を補っていく。また、バッハ作品の分析を併せて行う。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 三和音の連結法
- 第3回 四和音の連結法
- 第4回 属9根省の連結法
- 第5回 諸規則のまとめ
- 第6回 準固有和音
- 第7回 反復進行
- 第8回 転調課題の実践
- 第9回 和音外音含む課題
- 第10回 J.S.バッハのコラールについて
- 第11回 コラール書法の理論
- 第12回 コラール書法の実践①「通奏低音付バス課題」
- 第13回 コラール書法の実践②「ソプラノ旋律による課題」
- 第14回 カノンの模倣のコラール
- 第15回 まとめ

進度は受講者のレベルに応じて多少前後することがある。

◆準備学習の内容◆

準備学習:これまでの学習の復習。予習:各回の授業の項目の和音について予め教科書を読んでおく。(60分)
復習:授業で学んだ項目と課題の範例を毎日ピアノで弾き、記憶し、学びが不十分な点を見直す。(70分)

◆成績評価の方法◆

- 1.課題2. 期末試験
- 3.平常の授業への取り組み
4. その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES413N		
科目名	選択ハーモニーB I		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	神本 真理		
学年	3年	クラス	03
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニー学習における4声体書法をより深く習得する傍ら、豊かな楽曲解釈へと繋がっていくことを目標とする。1)これまでのハーモニーの学習内容を復習した後、さらに多彩な和声における音楽語法に触れ、豊かな和声感を育む。2)そのために先ず、四声体書法を通して、さまざまな和声を理解する。3)そして、アナリーゼ(和声分析)を通して、名曲の魅力を深く味わい、専攻実技へのヒントを得る。4)学習の到達点は、「自らが書いた音をいかに耳(頭の中)でよく聴き、検証できるか」である。その為には、「聴く力」を深めていくことも意識されたい。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 これまでの理解度を確認する小テスト
- 第2回 4声体の配置
- 第3回 4声体の連結
- 第4回 和音設定と様々な終止について
- 第5回 D諸和音 (1) 基礎(第5回以降、アナリーゼも並行して毎回行う)
- 第6回 D諸和音 (2) 応用
- 第7回 D2諸和音 (1) 基礎
- 第8回 D2諸和音 (2) 応用
- 第9回 さまざまな変化和音(増6、ナポリなど)
- 第10回 S諸和音
- 第11回 借用和音 (1) 準固有和音
- 第12回 借用和音 (2) 副属七の和音
- 第13回 総合的なアナリーゼ(楽曲の構造と転調などを重点的に)
- 第14回 確認小テストと復習
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

<準備学習の内容>

- 1)授業内容の復習を兼ねて、毎回、短い宿題が出る。習熟度に関わりなく、必ず取り組むこと。(目安30分)
- 2)授業で説明した内容を、可能な限りピアノで弾いて、自身でよく聴いて確かめることが大切です。様々な音同士の組み合わせの可能性から、響きへの審美感を持つこと。

◆成績評価の方法◆

学期末の試験は、四声体の筆記試験と、アナリーゼのレポートとする。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付プリント／国立音楽大学編「ハーモニー・ハンドブック」(1年次の「ハーモニーI」で全学生へ配布したものです。破損・紛失した学生は申し出てください。)

◆参考図書◆

- 『和声 理論と実習』I, II, III 池内友次郎 他 著(音楽之友社)
- 『総合和声』島岡譲 他著(音楽之友社)
- 『和声の仕組み・楽曲の仕組み』島岡譲 著(音楽之友社)

◆留意事項◆

ハーモニー学習で得た音楽的な収穫を、机上の学びに留まらず、専攻実技に活かすことを目的として学ぶ姿勢を期待したい。ぜひ積極的な意識を持って、授業と課題に取り組んでほしい。

ナンバリング	CES406N		
科目名	ハーモニーⅧ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	4年	クラス	01
講義室	2-32	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

今までに習得した和声書法の基礎の確認と補習及びその発展。J.S.バッハ・モーツァルト・シューマン・ショパンなどの様式和声を研究する。特に4年生は大学院入試準備の補習としても活用できる。それぞれの能力に対応した課題を実践する。調性の力学や声部の流麗な動向を理論的な観点と感覚的な把握を重要視した書式訓練と実践を行うことができる。

◆授業内容・計画◆

今までに学んだ和声法の基礎の確認と補習。
古典派の機能และ声から近代までの和声理論の実践を行う。

後期:18世紀から20世紀の大作作曲家の作品の和声分析などを行う。

- 第1回 バッハ様式について(概論)
- 第2回 バッハの和声様式課題の実施方法
- 第3回 バッハの和声様式課題の実践
- 第4回 転回対位法を含む和声課題の実施
- 第5回 フーガ導入部を含むバス課題の実施
- 第6回 モーツァルトの和声様式について(概論)
- 第7回 モーツァルトの和声様式の実践
- 第8回 シューマンの和声様式について(概論)
- 第9回 シューマンの和声様式の実践
- 第10回 ショパンの和声様式について(概論)
- 第11回 ショパンの和声様式の実践
- 第12回 フォーレの和声様式について(概論)
- 第13回 フォーレの和声様式の実践
- 第14回 ドビュッシーの和声様式について(概論)
- 第15回 まとめ

進度は受講者のレベルに応じて多少前後することがある。

◆準備学習の内容◆

準備学習:再度これまでの学習の復習(仕上げた課題を再度見直す)。予習:各回で学習する項目をあらかじめ教科書で読んでおく。(70分)
復習:授業で学んだ課題と内容についてピアノで弾き、範例と照らし合わせながら、学びの不十分な点はないか確認する。(60分)

◆成績評価の方法◆

- 1.与えられた課題の実施量
- 2.平常の授業への取り組み
- 3.試験
- 4.その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

『新しい和声』 林 達也 著 アルテスパブリッシング 社

◆留意事項◆

ナンバリング	CES414N		
科目名	選択ハーモニーBⅡ		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	神本 真理		
学年	3年	クラス	03
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)これまでのハーモニー学習を土台として、時代や様式を幅広くアプローチできる力を養う。反復進行や近代の作曲家ごとの和声様式にも触れる。2)ハーモニーⅤと同様、まず四声体書法を通して、さまざまな和声を理解する。3)そして、アナリーゼ(和声分析)を通して、名曲の魅力を深く味わい、専攻実技での豊かな音楽表現へと繋げていく。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期の復習 および テスト返却と解説
第2回 転調(1) 近親転調 1 基礎
第3回 転調(2) 近親転調 2 応用
第4回 転調(3) 半音階的転調
第5回 転調(4) 遠隔調転調 1 基礎
第6回 転調(5) 遠隔調転調 2 応用
第7回 反復進行 (1) 基礎
第8回 反復進行 (2) 応用
第9回 保続低音における和音分析
第10回 偶成和音を含むソプラノ課題 (1) 基礎
第11回 偶成和音を含むソプラノ課題 (2) 応用
第12回 作曲家の和声様式 (1) バロックから古典派まで
第13回 作曲家の和声様式 (2) ロマン派
第14回 作曲家の和声様式 (3) 近代
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

1)授業内容の復習を兼ねて、毎回、短い宿題が出る。習熟度に関わりなく、必ず取り組むこと。(目安30分)
2)授業で説明した内容を、可能な限りピアノで弾いて、自身でよく聴いて確かめることが大切です。様々な音同士の組み合わせの可能性から、響きへの審美感を持つこと。

◆成績評価の方法◆

学期末の試験は四声体の筆記試験と、アナリーゼのレポートとする。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内配付プリント／国立音楽大学編「ハーモニー・ハンドブック」(1年次の「ハーモニーI」で全学生へ配布したものです。破損・紛失した学生は申し出てください。)

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I, II, III 池内友次郎 他 著(音楽之友社)
『総合和声』島岡譲 他 著(音楽之友社)
『和声の仕組み・楽曲の仕組み』島岡譲 著(音楽之友社)

◆留意事項◆

Vよりも更に学習内容が深くなるため、扱う和音記号などは複雑になってくる一方、音楽的な色彩感と魅力が広がっていく。ぜひ積極的な意識を持って、授業と課題に取り組んでほしい。

ナンバリング	CES415N		
科目名	選択ハーモニーC I		
科目詳細	中程度～上級／I～IVを踏まえ、より高度に		
担当教員	近藤 岳		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●ハーモニー I ～Ⅳで学習した和声を踏まえ、バロック時代から用いられている数字付き和声（通奏低音）や、フランス式の数字付き和声の理解・習得を目指します。●授業では、主にH.シャラン『380の和声課題』を用いて進めますが、都度授業内容に即した他の課題も提示し、実施していきます。●「ハーモニー V」では、非和声音（和音外音）なしの課題を中心に行いますが、後期（6セメスター）を見越して非和声音を含む課題へのアプローチも進め、より高度な和声課題が音楽的に実施できるようにします。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス（和声記号の復習と、数字について、フランス式和声の考え方）
2. 三和音（転回形なし）バス課題の実施（特にイレギュラーな和声進行の説明と実施）
3. 三和音（転回形含む）バス課題の実施① 六の和音
4. 三和音（転回形含む）バス課題の実施② 四六の和音と3つの特徴的な用法
5. 四和音（属七の和音）によるバス課題の実施① 自然解決による用法
6. 四和音（属七の和音）によるバス課題の実施② あらゆる解決
7. 四和音（属七の和音）によるソプラノ課題の実施①
8. 四和音（属七の和音）によるソプラノ課題の実施② 転回形をより多く含む課題
9. 属七の和音の響きに基づいたG.フォーレのスタイル和声について（バス課題）
10. 属七の和音の響きに基づいたG.フォーレのスタイル和声について（ソプラノ課題）
11. 四和音（七の和音）によるバス課題の実施①
12. 四和音（七の和音）によるバス課題の実施② 転回形をより多く含む課題
13. 四和音（七の和音）によるソプラノ課題の実施①
14. 四和音（七の和音）によるソプラノ課題の実施② 総合的な課題
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中に取り組む課題、指示した予習・復習課題を随時積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み、課題提出、出席回数などを含め総合的に評価する。
課題について適宜フィードバックを行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』I巻～Ⅲ巻 池内友次郎ほか 著（音楽之友社）、『新しい和声 理論と聴感覚の統合』林達也 著（アルテスパブリッシング）

◆留意事項◆

ナンバリング	CES416N		
科目名	選択ハーモニーCⅡ		
科目詳細	中程度～上級／I～Vを踏まえ、より高度に		
担当教員	近藤 岳		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●「ハーモニーⅤ」を引き継いで、フランス式の和声数字課題を中心に、数字による和声の理解がより一層深まるように進めていきます。●特にⅥゼメでは、非和声音(和音外音)の豊かな表情を音楽的に表現できるようにします。●様々な作曲家の固有の音楽語法を深く理解し、それらの分析やスタイル和声の実施を行います。●J.S.バッハのコラール書法の考察、主題的な性格を持つバス課題の実施を通じてポリフォニー書法にも長けるように課題を進めていきます。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(「ハーモニーⅤ」の復習)
2. 四の和音(属九の和音)によるバス課題の実施① 基本型を中心に
3. 四の和音(属九の和音)によるバス課題の実施② 根音省略(転回形)
4. 四の和音(属九の和音)によるソプラノ課題の実施
5. 様々な和音の組み合わせによるバス課題の実施
6. 非和声音について(和声音が転位し、揺れ動く音の表情の考察)
7. 非和声音① 係留音を含むバス・ソプラノ課題
8. 非和声音② 倚音を含むバス・ソプラノ課題
9. 非和声音③ 刺繍音、経過音、保続音を含むバス・ソプラノ課題
10. 古典～ロマン派の作曲家作品に見る和声語法の特徴(アナリーゼとスタイル和声)
11. ロマン派後期～近代の作曲家作品に見る和声語法の特徴(アナリーゼとスタイル和声)
12. J.S.バッハの様式によるコラール和声付けについて
13. 主題的な性格を持つバス課題の実施① 主題の考え方、複数の主題の扱い方
14. 主題的な性格を持つバス課題の実施② ポリフォニー書法について
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中に取り組む課題、指示した予習・復習課題を随時積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業内での取り組み、課題提出、出席回数など含め総合的に評価する。課題について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

『和声 理論と実習』Ⅰ巻～Ⅲ巻 池内友次郎ほか 著(音楽之友社)、『新しい和声 理論と聴感覚の統合』林達也 著(アルテスパブリッシング)

◆留意事項◆

ナンバリング	CES417N		
科目名	選択ハーモニーD I		
科目詳細	初級～中程度／I～IVの学習を多様に深化		
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	3年	クラス	O1
講義室	2-13	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1～2年次の和声を復習し、より確実なものとする。実作品も参照しながら、より豊かで幅広い和声感を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション、1年次の復習

2. 4声体の配置
3. 三和音の連結(基本形を中心に)
4. 三和音の連結(転回形を中心に)
5. 様々なD和音(属七の和音)
6. 様々なD和音(属九の和音)
7. II7の和音
8. ドリアのIV7、ナボリの六の和音等
9. 借用和音(準固有和音)
10. 借用和音(副属七の和音)
11. 確認小テスト
12. 近親調転調課題 前半
13. 近親調転調課題 後半
14. 復習

15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

講義で学んだ内容は必ず復習してください。模範解答をピアノで弾いて、響きのバランスと声部の動きをよく聴き、弾いた際の手の形も確かめると良いでしょう。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付しますが、「和声 理論と実習」を持っている人は持参すること。また、全員に配布されるハンドブックは確認のため使用するので、持ってくること。

◆参考図書◆

●「和声 理論と実習」I, II, III(池内友次郎 著他、音楽之友社)等。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CES418N		
科目名	選択ハーモニーDⅡ		
科目詳細	初級～中程度／I～Vの学習を多様に深化		
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-13	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ハーモニーⅤの内容を復習し、より確実なものとする。後期はソプラノ課題を中心に学んでいく。4声体の実施に関しては、最終的に大学院の和声課題を問題なく実施でき更に一歩進んだレベルを目指す。実作品も参照することで、理論を絶対視しない、柔軟な耳と思考を養う。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション、前期の復習
2. ソプラノ課題 ①
3. ソプラノ課題 ②
4. 転調を含むソプラノ課題
5. 転調を含むソプラノ課題とバス課題
6. 確認小テスト(転調を含むソプラノ課題とバス課題)
7. 遠隔転調について
8. 非和声音を含むソプラノ課題
9. 偶成和音
10. 反復進行 ①
11. 反復進行 ②
12. 和音記号以外の表記の仕方 ～ 数字付きバスとコードネームについて
13. 理論と実作品(L.v. ベートーヴェン 交響曲第3番《英雄》を例にして)
14. 復習
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

講義で学んだ内容は必ず復習してください。模範解答をピアノで弾いて、響きのバランスと声部の動きをよく聴き、弾いた際の手の形も確かると良いでしょう。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

その都度プリントを配付しますが、「和声 理論と実習」を持っている人は持参すること。また、全員に配布されるハンドブックは確認のため使用するの、持ってくること。

◆参考図書◆

- 「和声 理論と実習」Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ(池内友次郎 著他、音楽之友社)等。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CES300N		
科目名	キーボード・ハーモニー入門A I		
科目詳細	ハーモニー学習と平行して和音記号を主に学ぶ		
担当教員	上田 真樹, 神本 真理, 川上 統		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

1) キーボードを用いて和声感を養いハーモニーの理解を深める。2) 弾き歌いなどの実践的な力を身につける。3) 教員採用試験や、グレード試験へ対応できる基礎力を身につける。4) 通奏低音の基礎を理解する。

◆授業内容・計画◆

＜「入門」はAとBに分かれ、2種類のシラバス内容となります。
科目詳細と、この内容をよく読み、各自の希望する方を選択して下さい。
この「入門A」は「ハーモニー学習と平行して和音記号を主体として学ぶ」クラスです。＞

基本的な和声理論、カデンツ、旋律の和声付けと伴奏付け、弾き歌い、移調などを行います。また、和音記号とコードネームなども学びます。ハーモニーと併行して履修することで、ハーモニーの理解が深まり、それを実践的に応用できるようにします。

- 1) 和音の構成音と名称、コードネーム その1
- 2) 様々な伴奏形、コードネームその2
- 3) I-Vのカデンツと伴奏付け
- 4) I-IV-V-Iのカデンツと伴奏付け (1) 基礎編
- 5) I-IV-V-Iのカデンツと伴奏付け (2) アルペルティバス、アルペジオ等
- 6) 伴奏付けの配置の仕方 その1 右手メロディ、左手伴奏
- 7) 伴奏付けの配置の仕方 その2 弾き歌い
- 8) Iの第2転回形と非和声音
- 9) 属七の和音と借用音の概要
- 10) 借用和音 その1 (ドッペルドミナントを中心に)
- 11) IIとIIの第1転回形
- 12) VIの和音、V-VIの連結
- 13) 借用和音 その2 (その他の副属和音)
- 14) 三和音の第1転回形
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験、筆記試験による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各クラスにより、個別に指定されます。
売店販売の指定教科書一覧に指定が無い教員については、初回授業で確認してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

キーボードの台数に限りがありますので、初回授業時に超過がある場合は人数調整のため、クラスの移動が可能な学生にはそのようにお願いする場合があります。

ナンバリング	CES301N		
科目名	キーボード・ハーモニー入門B I		
科目詳細	コードネームを主体としてポピュラー音楽を学ぶ		
担当教員	井上 恵理, 赤石 直哉, 台信 遼		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

1) キーボードを通じてコードネームを用いた演奏ができるようにする。2) 弾き歌いなどの実践的な力を身につける。3) 教員採用試験や、グレード試験へ対応できる基礎力を身につける。4) 様々なポピュラー音楽の感覚を養う。

◆授業内容・計画◆

<「入門」はAとB、2種類のシラバス内容となります。
科目詳細と、この内容をよく読み、各自の希望する方を選択して下さい。
この「入門B」は「コードネームを主体として主にポピュラー音楽を学ぶ」クラスです。>

基本的なコードネームと、それを用いたコード進行、旋律の和声付けと伴奏付け、弾き歌い、移調などを行います。また、和音記号による理解も平行して行います。教育現場その他、実際の音楽活動の中で必要不可欠な、様々なポピュラー音楽スタイルの伴奏法を実践し、現場で役立つスキルを身につけます。

- 1) コードネームをつかめるようにする その1(三和音)
- 2) コードネームをつかめるようにする その2(七の和音)
- 3) コードネームをつかめるようにする その3(その他の和音、分数)
- 4) ダイアトニックのコード進行と基本的な伴奏型(C major)
- 5) ダイアトニックのコード進行と基本的な伴奏型(様々なmajorキー)
- 6) ドミナント・モーションとI-IV-Vの機能
- 7) その他のダイアトニック・コードの機能
- 8) II - V 進行を各種のキーで実践する
- 9) セカンダリー・ドミナント
- 10) コードネームを見て旋律に伴奏をつける
- 11) コードネームを見て弾き歌いをする
- 12) 様々なリズムによる伴奏の実践
- 13) テンションについて。コードネームを見て自由に旋律を弾く
- 14) 自由に選択したポピュラー音楽の伴奏づけ、弾き歌い
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験、筆記試験による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各クラスにより、個別に指定されます。
売店販売での指定教科書一覧に指定が無い教員については、初回授業で確認してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

キーボードの台数に限りがありますので、初回授業時に超過がある場合は人数調整のため、クラスの移動が可能な学生にはそのようにお願いする場合があります。

ナンバリング	CES302N		
科目名	キーボード・ハーモニー入門AⅡ		
科目詳細	ハーモニー学習と平行して和音記号を主に学ぶ		
担当教員	上田 真樹, 神本 真理, 川上 統		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) キーボードを用いて和声感を養いハーモニーの理解を深める。2) 弾き歌いなどの実践的な力を身につける。3) 教員採用試験や、グレード試験へ対応できる基礎力を身につける。4) 通奏低音の基礎を理解する。

◆授業内容・計画◆

<「入門」はAとB、2種類のシラバス内容となります。>

科目詳細と、この内容をよく読み、各自の希望する方を選択して下さい。

この「入門A」は「ハーモニー学習と平行して和音記号を主体として学ぶ」クラスです。>

基本的な和声理論、カデンツ、旋律の和声付け、伴奏付け、弾き歌い、移調などを行います。また、和音記号とコードネームなども学びます。ハーモニーと併行して履修することで、ハーモニーの理解が深まり、それを実践的に応用できるようにします。

- 1) 前期の復習
- 2) 三和音の第2転回形
- 3) 属七の和音の転回形
- 4) 通奏低音(数字付きバス)(1)概要と三和音の実習
- 5) 通奏低音(数字付きバス)(2)七の和音やその他の応用編
- 6) 通奏低音(数字付きバス)(3)実際の楽曲のリアリゼーション
- 7) 借用和音の転回形(1)ドッペルドミナントを中心に
- 8) 借用和音の転回形(2)その他の副属和音
- 9) 準固有和音
- 10) 転調(1)近親転調を中心に
- 11) 転調(2)応用編
- 12) 合奏と移調奏
- 13) 自作曲の弾き歌い(クラスの半数, 前半)
- 14) 自作曲の弾き歌い(クラスの半数, 後半)
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験、筆記試験による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各クラスにより、個別に指定されます。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES303N		
科目名	キーボード・ハーモニー入門BⅡ		
科目詳細	コードネームを主体としてポピュラー音楽を学ぶ		
担当教員	赤石 直哉, 台信 遼		
学年		クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) キーボードを通じてコードネームを用いた演奏ができるようにする。2) 弾き歌いなどの実践的な力を身につける。3) 教員採用試験や、グレード試験へ対応できる基礎力を身につける。4) 様々なポピュラー音楽の感覚を養う。

◆授業内容・計画◆

<「入門」はAとB、2種類のシラバス内容となります。>

科目詳細と、この内容をよく読み、各自の希望する方を選択して下さい。

この「入門B」は「コードネームを主体として主にポピュラー音楽を学ぶ」クラスです。>

基本的なコードネームと、それを用いたコード進行、旋律の和声付けと伴奏付け、弾き歌い、移調などを行います。また、和音記号による理解も平行して行います。教育現場その他、実際の音楽活動の中で必要不可欠な、様々なポピュラー音楽スタイルの伴奏法を実践し、現場で役立つスキルを身につけます。

- 1) 前期の復習
- 2) ダイアトニックのコード進行と基本的な伴奏型 (C minor)
- 3) ダイアトニックのコード進行と基本的な伴奏型 (様々なminorキー)
- 4) II - V 進行を各種のキーで実践する (minor を含む)
- 5) セカンダリー・ドミナント (minor での実践)
- 6) 代理コードによるカデンツの実践
- 7) 各種のモードと、それを用いたコード進行
- 8) ブルースノートと、それを用いた楽曲の弾き歌い
- 9) クリシェ、その他典型的なポピュラーのコード進行
- 10) コードネームを見て弾き歌いをする (応用編)
- 11) 様々なリズムによる伴奏の実践 (応用編)
- 12) スウィングによる伴奏の実践
- 13) テンションについて。コードネームを見て自由に旋律を弾く (応用編)
- 14) 自由に選択したポピュラー音楽の伴奏づけ、弾き歌い
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験、筆記試験による。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各クラスにより、個別に指定されます。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES308N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用AⅡ		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

コードネームや和音記号をみて弾き歌いができること。メロディの伴奏付け、編曲(テーマと変奏)などができること。

◆授業内容・計画◆

1. 音階唱に伴奏をつける。(Cdur)
2. 音階唱に伴奏をつける。(長音階)
3. 音階唱に伴奏をつける。(短音階)
4. 既存曲のハーモニー進行を使って(例曲:バッハ)
5. 既存曲のハーモニー進行をつかって(例曲:ベートーヴェン)
6. 関係調への転調
7. 減七の和音を活用した音楽づくり
8. 長七の和音を活用した音楽づくり
9. テーマと変奏曲 前半
10. テーマと変奏曲 後半
11. 弾き語り 前半
12. 弾き語り 後半
13. 弾き歌い 前半
14. 弾き歌い 後半
15. 振り返りとまとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた課題を、あらかじめ十分に予習する。

◆成績評価の方法◆

出席状況、授業への取り組み姿勢、課題、試験から総合的に評価する。
適宜授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

「歌はともだち」教育芸術社

その他、プリント配布

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES309N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用BⅡ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-03	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なコード進行を学びメロディー作曲をする。
さらに弾き語りによるオリジナル楽曲に挑戦する。

◆授業内容・計画◆

- 1)「オリエンテーション」
- 2)「Aメロの作り方」
- 3)「Bメロの作り方」
- 4)「サビの作り方」
- 5)「アウトロの作り方」
- 6)「王道進行を既成曲から探して模倣する」
- 7)「複数の実際の曲から得た任意のコード進行を、ソング形式ABCDなどに沿って並べてみる」
- 8)「メロディを歌いながら伴奏を弾く」
- 9)「DTMソフトの使い方」(1)
- 10)「DTMソフトの使い方」(2)
- 11)「音楽データの書き出し方」
- 12)「制作した歌の録音実習」(1)
- 13)「制作した歌の録音実習」(2)
- 14)「制作した歌の発表」
- 15)「授業内試験」(発表)とまとめ

◆準備学習の内容◆

ポピュラー音楽のコード進行を学び、あらゆるメロディーにキーボードで伴奏をつける事、あるいはコード進行の上にメロディーを作って弾く、歌う事。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価、また授業内発表を評価する。
授業中、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

- 1.イメージした通りに作曲する方法50 恋愛感情や日常の出来事をどんどん曲にしよう！(CD付き)リットーミュージック 梅垣ルナ著
- 2.思いどおりに作曲ができる本 Q&A方式で音楽制作の実践テクニックをピンポイント解説!(CD2枚付き)[単行本]リットーミュージック 河村ケン著

- BGMのすべてアドリブメロディー付改訂新版ベスト356/小森谷清著/全音
- いきなり作詞ができてしまう本！(言視BOOKS)/葉月けめこ著/言視舎

◆留意事項◆

五線紙ノートは必ず持参すること

ナンバリング	CES310N		
科目名	キーボード・ハーモニー応用CⅡ		
科目詳細			
担当教員	赤石 直哉		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-13	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

様々な音楽スタイルにおけるキーボードによるヴォイスिंगを身につける

◆授業内容・計画◆

- 1.前期の復習
- 2.ドロップ2&4、クローズドとオープンを使い分け
- 3.スタイル別コード・ヴォイスिंग ①ポップス
- 4.スタイル別コード・ヴォイスिंग ②ブルース
- 5.スタイル別コード・ヴォイスिंग ③ボサノバ
- 6.ソロピアノのための左手伴奏
- 7.ヴォイスिंगのリズム的アプローチ
- 8.リハーモナイズの基礎
- 9.アッパー・ストラクチャーズ
- 10.テンションの発展
- 11.非和声音の活用
- 12.リハーモナイズの発展
- 13.選曲に応じたスタイル分析
- 14.自由なヴォイスिंगの構築
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

各回の終了時に、担当者より指示された内容をしっかり予習、練習する。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み姿勢。課題へのフィードバックを総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適時、資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で、参考音源を指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES217S		
科目名	楽曲分析A I		
科目詳細			
担当教員	上田 真樹		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

楽曲分析の基礎を学びます。
バロック、古典派の作品を中心に楽曲分析を行い、和声や楽曲全体の有機的な構造を理解することを目標とします。

◆授業内容・計画◆

まず、和声分析の基礎から始め、楽節や動機など基礎的事項をおさえ、短い歌曲作品によってリート形式を学んだのち、器楽・室内楽作品を中心に変奏曲、フーガ、ソナタ形式など基本的な形式について学びます。
歌曲においては、歌詩と音楽との関わり、修辞学的観点からも分析を行います。
授業は講義および演習方式で行われるため、各自の積極的な参加が求められます。

第1回 ガイダンス及び楽式の基礎について
第2回 和声分析の基礎(1)和音の表記について
第3回 和声分析の基礎(2)実作品の分析
第4回 歌曲(1)二部形式
第5回 歌曲(2)三部形式
第6回 歌曲(3)通作歌曲
第7回 変奏曲(1)実作品の分析
第8回 変奏曲(2)様々な変奏曲
第9回 対位法的楽曲(1)様々なカノン
第10回 対位法的楽曲(2)フーガの分析
第11回 ソナタ形式(1)全体の構造
第12回 ソナタ形式(2)提示部
第13回 ソナタ形式(3)展開部と再現部
第14回 ソナタ形式(4)ソナタ形式を用いた楽曲
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に楽曲を指定し、各自予習するよう指示することがある。

◆成績評価の方法◆

レポート及び試験、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES218S		
科目名	楽曲分析AⅡ		
科目詳細			
担当教員	上田 真樹		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

楽曲分析の基礎を学びます。

バロック、古典派、ロマン派、近代の作品を中心に楽曲分析を行い、和声や楽曲全体の有機的な構造を理解することを目標とします。

◆授業内容・計画◆

楽曲分析Iで学んだことを活かして、より広い視野による分析を試みます。

連作歌曲や合唱作品、歌劇など、より大きな規模の作品について、時代様式や地域性も意識しながら、作品の有機的な構造について考えます。また、ロマン派～近現代における、それまでの形式とは異なる作品の構造を学びます。

声楽作品を多く取り上げ、歌詩と音楽との関わり、修辞学的観点からも分析を行います。

授業は講義および演習方式で行われるため、各自の積極的な参加が求められます。

- 第1回 ロマン派のピアノ曲(1)F.Chopin: 前奏曲より
- 第2回 連作歌曲(1)R.Schumann:『詩人の恋』全体の構造
- 第3回 連作歌曲(2)R.Schumann:『詩人の恋』各曲の分析
- 第4回 連作歌曲(3)R.Schumann:『詩人の恋』詩と音楽
- 第5回 ロマン派のピアノ曲(2)J.Brahms:Intermezzoより
- 第6回 日本の歌曲(1)言葉と音楽
- 第7回 日本の歌曲(2)伊藤康英:『あんこまパン』動機と楽曲の構造
- 第8回 近代のピアノ曲 C.Debyussy:『子供の領分』より
- 第9回 オペラ(1)W.A.Mozart:『魔笛』作品の成り立ちと背景
- 第10回 オペラ(2)W.A.Mozart:『魔笛』フリーメイソンとの関わり
- 第11回 オペラ(3)W.A.Mozart:『魔笛』全体の構造
- 第12回 レクイエム(1)G.Fauré:『レクイエム』各曲の分析
- 第13回 レクイエム(2)G.Fauré:『レクイエム』全体の構造
- 第14回 総括
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に楽曲を指定し、各自予習するよう指示することがある。

◆成績評価の方法◆

レポート及び試験、平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES219U		
科目名	楽曲分析B I		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

楽曲分析の第一歩は基本的な情報を読み取るのですが、そこから何をすくい取ってどうアウトプットするかは、各自の目的や活動によると思います。（作曲家は自分の作曲に、演奏家は演奏に生かすなど、あるいは曲について説明・プレゼンするという形もあるかと思います。）この授業では、基本的な知識を扱いながらも、履修生の状況に応じてそういったことも考慮していければと思います。楽式、和声や転調、オーケストレーション、楽器の性能や演奏現場での実際的な問題など、様々な切り口から多角的に楽曲に迫り、各時代の様式と各曲や作曲家の独自性を考察、それらのプロセスを通して、各自が自分に必要な楽曲分析能力の習得を目指します。

◆授業内容・計画◆

楽曲分析は、その曲の実際の演奏に立ち会う体験により、より深い理解と多くの発見を得ることができる。そのため本講義では、初めに基礎知識を学んだ後、同年度のプラスオルケスター、オーケストラ各定期演奏会の曲目を分析課題曲として積極的に取り上げ、それを中心に関連するトピックを順次取り上げ解説していく形をとる。

1. オリエンテーション、ガイダンス、楽曲分析序論
2. 楽節構造と楽式の基礎
3. 和声分析の方法と実習(1): 原理、和音の度数と転回型、カデンツなど
4. 和声分析の方法と実習(2): 転調、実際の楽曲の分析など
5. 楽式(1): 変奏曲形式
6. 楽式(2): ロンド形式
7. 楽式(3): ソナタ形式
8. 楽式(4): 複合三部形式
9. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(1) 1曲目: 概要・形式・和声などの観点から
10. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(2) 1曲目: 管弦楽法などの観点から
11. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(3) 2曲目: 概要・形式・和声などの観点から
12. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(4) 2曲目: 管弦楽法などの観点から
13. 耳による楽曲分析の試み
14. 各自が選択した課題曲の研究
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

楽曲分析は時間を要する作業であり、限られた授業時間内には概要や一部の楽曲例しか扱えないため、曲全体を聴くことや実習の残りの作業が、しばしば授業時間外の自主学習にゆだねられます。また効果をあげるためには、積極的に関連楽曲を聴いたり、資料を参照したりする習慣をもつことが求められます。

◆成績評価の方法◆

学期末のレポート課題、平常点。
随時課題を出しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES220U		
科目名	楽曲分析BⅡ		
科目詳細			
担当教員	北爪 裕道		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-01	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に続き、様々な時代・様式の音楽についてさらに理解を深め、20世紀に至る音楽史の流れをつかむとともに、それに対する各自の総合的知見・考察を得る。

◆授業内容・計画◆

後期のオケ定期の演目であるベートーヴェンの第9交響曲を取り上げる予定。それを軸としつつ、20世紀初頭に至るまでの間の歴史的に重要な作品などを取り上げる。内容の詳細は、前期の授業の様子や履修生の状況にも応じて適宜調整する。

1. 古典派の管弦楽曲(ハイドン、モーツァルト)
2. 黎明期～バロック期の管弦楽曲
3. 各楽器の原理と歴史
4. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(1) 1曲目:概要・形式・和声などの観点から
5. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(2) 1曲目:管弦楽法などの観点から
6. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(3) 2曲目:概要・形式・和声などの観点から
7. 定期演奏会の曲目から選択した楽曲の分析(4) 2曲目:管弦楽法などの観点から
8. 19世紀の管弦楽曲の変遷:ベルリオーズ《幻想交響曲》、リストの交響詩、オーケストレーションにみる作曲家の個性(1)
9. 19世紀の管弦楽曲の変遷:ベルリオーズ《幻想交響曲》、リストの交響詩、オーケストレーションにみる作曲家の個性(2)
10. 19世紀のサロン音楽:シューベルト、ショパンの音楽、ほか
11. 19世紀後半～20世紀に至る音楽の変遷(1):「調性」ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》、シェーンベルクの音楽、ほか
12. 19世紀後半～20世紀に至る音楽の変遷(1):「リズム」ストラヴィンスキー《春の祭典》ほか
13. 受講者による課題曲の分析発表
14. 受講者による課題曲の分析発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

楽曲分析は時間を要する作業であり、限られた授業時間内には概要や一部の楽曲例しか扱えないため、曲全体を聴くことや実習の残りの作業が、しばしば授業時間外の自主学習にゆだねられます。また効果をあげるためには、積極的に関連楽曲を聴いたり、資料を参照したりする習慣をもつことが求められます。

◆成績評価の方法◆

学期末のレポート課題または分析発表、平常点。
随時課題を出しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

分析に必要な楽譜などは授業内で指示する。必要に応じてプリントを配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS201N		
科目名	選択ソルフェージュD I		
科目詳細	器楽(Fと同一時限開講)		
担当教員	山本 哲也		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なソルフェージュで学習したことを、専攻に応用する訓練を通し、自在性を高める。

◆授業内容・計画◆

ソルフェージュ学習で、読譜、リズム、聴覚形成の分野で学んだことを実際に専攻にどのように生かしていけばよいかを学ぶ。

- 1) ガイダンス
- 2) 勉強している作品を読譜からの検証1 基礎
- 3) 勉強している作品を読譜からの検証2 応用
- 4) 勉強している作品をリズムから検証1 基礎
- 5) 勉強している作品をリズムから検証2 応用
- 6) 勉強している作品の内的聴取の検証1 基礎
- 7) 勉強している作品の内的聴取の検証2 応用
- 8) 新たな作品を読譜からの検証1 基礎
- 9) 新たな作品を読譜からの検証2 応用
- 10) 新たな作品をリズムから検証1 基礎
- 11) 新たな作品をリズムから検証2 応用
- 12) 新たな作品の内的聴取の検証1 基礎
- 13) 新たな作品の内的聴取の検証2 応用
- 14) 既習作品と新たな作品への理解度の検証1 基礎
- 15) 既習作品と新たな作品への理解度の検証2 応用

◆準備学習の内容◆

前期については古典派から近現代までの作品を中心とする。自分が勉強した、あるいは勉強したい作品の楽譜を準備する。

◆成績評価の方法◆

出席率を含む平常授業への取り組みにより評価する。必ずしも取り上げた作品の完成度のみではなく、理解度が成績評価の重要な要素となる。授業中、常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

取り上げる作品の楽譜、関連図書

◆参考図書◆

特に指定しない

◆留意事項◆

- ・取り上げる作品は専攻実技で学んでいる作品に限らないので、より準備学習の時間が必要となる。
- ・第一回の授業で履修制限を行う場合がある。第一回の授業に必ず出席すること。

ナンバリング	SWS202N		
科目名	選択ソルフェージュDⅡ		
科目詳細	器楽(Fと同一時限開講)		
担当教員	山本 哲也		
学年	3年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に学んだことを敷衍し、近現代作品の演奏方法をも研究することにより自在性を獲得する。

◆授業内容・計画◆

後期は基本的に近現代作品を取り上げる。特に作曲3年の演奏審査会、本学主催の作曲作品展への出演を通し、同世代の作曲学生とのコラボレーションをすることで、同時代音楽への理解を深める。

- 1) ガイダンス
- 2) 作曲学生による作品の試演1
- 3) 作曲学生による作品の試演2
- 4) 作曲学生による作品の試演3
- 5) 作曲3年演奏審査会のリハーサル1
- 6) 作曲3年演奏審査会のリハーサル2
- 7) 作曲3年演奏審査会のリハーサル3
- 8) 作曲3年演奏審査会のリハーサル4
- 9) 作曲作品展のリハーサル1
- 10) 作曲作品展のリハーサル2
- 11) 作曲3年演奏審査会の当日リハーサル1
- 12) 作曲3年演奏審査会の当日リハーサル2
- 13) 作曲作品展のリハーサル3
- 14) 作曲3年演奏審査会1
- 15) 作曲3年演奏審査会2

なお、作曲作品展の指揮は本学客員教授の工藤俊幸先生が担当する。

◆準備学習の内容◆

リハーサルに万全の状態に臨めるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みで考えるが、実作品の演奏の完成度も問われる。授業中、常にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

実作品の楽譜、関連図書

◆参考図書◆

特に指定しない

◆留意事項◆

- ・特に近年、現代音楽の演奏についても理解があり、かつ、良い結果を出せる演奏家が求められているので、そのような演奏家を目指すという明確な目的をもって学習にあたってもらいたい。
- ・第一回の授業で履修制限を行う場合がある。第一回の授業に必ず出席すること。

ナンバリング	CES221N		
科目名	旋法和声 I		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-39	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽の要素のひとつに、音階が挙げられる。この授業では、中世から現在に至るまでの作品を見ながら旋法の変化について調べ、時代様式や作曲家の語法を読み解くことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

中世から20世紀までの各時代の楽曲分析と、様々な旋法を使った課題の実施、小品の作曲を試みる。
また、課題の実施に先立ち、数字式低音についても学習する。
※進度は学生の要望、理解度に応じて調整する。

1. 古代ギリシャの音楽
2. 中世の音楽①グレゴリオ聖歌と教会旋法
3. 中世の音楽②ノートル・ダム楽派、近代作品における和声的教会旋法
4. 中世の音楽③アルス・アンティカ(アダン・ド・ラ・アル)
5. 中世の音楽④アルス・ノヴァ(マシヨー)
6. 記譜法研究(図書館ガイダンス)
7. ルネサンスの音楽①イギリスの音楽とブルゴーニュ楽派: ダンスタブル、デュファイ
8. ルネサンスの音楽②フランドル楽派: オケゲム、ジョスカン・デ・プレ
9. 後期ルネサンスの音楽: パレストリーナ、T.L.ヴィクトリア
10. バロックの音楽①モンテヴェルディ、ジェズアルド
11. バロックの音楽②数字式低音
12. バロックの音楽③バッハ: 旋法的コラールのアナリーゼ
13. バロックの音楽④バッハ: 旋法的コラールの実習
14. 旋法を使った作品の創作とアナリーゼ
15. 発表

◆準備学習の内容◆

授業外でも積極的に楽曲分析をすること。
数字式低音による課題や作品の添削が受けられるよう、授業時間外にも時間を見つけて取り組むこと。

◆成績評価の方法◆

平常点(実習および提出物)
授業中、課題などについて随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。譜例、プリントを適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

図書館ガイダンスの日程は未定。

ナンバリング	CES222N		
科目名	旋法和声Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	吉田 真梨		
学年	2年	クラス	01
講義室	2-39	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽の要素のひとつに、音階が挙げられる。この授業では、中世から現在に至るまでの作品を見ながら旋法の変化について調べ、時代様式や作曲家の語法を読み解くことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

中世から20世紀までの各時代の楽曲分析と、様々な旋法を使った課題の実施、小品の作曲を試みる。
また、課題の実施に先立ち、数字式低音についても学習する。
※進度は学生の要望、理解度に応じて調整する。

1. 古典派の音楽に見られる旋法性
2. ロマン派の音楽に見られる旋法性①
3. ロマン派の音楽に見られる旋法性②民族音階
4. フランス近代の音楽①フォーレ/中期歌曲
5. フランス近代の音楽②フォーレ/後期歌曲
6. フランス近代の音楽③フォーレ/室内楽曲
7. フランス近代の音楽④ドビュッシー/歌曲
8. フランス近代の音楽⑤ドビュッシー/室内楽曲、管弦楽曲
9. フランス近代の音楽⑥ラヴェル: 室内楽曲
10. フランス近代の音楽⑦ラヴェル: 管弦楽曲
11. フランス近代の音楽⑧サティ、ミヨー他
12. 東欧の音楽: バルトーク他
13. アメリカ、現代の音楽: バーンスタイン、メシアン他
14. 旋法を使った作品の創作とアナリーゼ
15. 分析・作品発表

◆準備学習の内容◆

授業外でも積極的に楽曲分析をすること。
数字式低音による課題や作品の添削が受けられるよう、授業時間外にも時間を見つけて取り組むこと。

◆成績評価の方法◆

平常点(実習および提出物)
授業中、課題などについて随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。譜例、プリントを適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CML201T		
科目名	コンピュータ音楽概論C		
科目詳細			
担当教員	平山 晴花		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

電子音楽(Electroacoustic Composition)の作曲における歴史、理論、美学について、Curtis Roseの文献をもとに様々な視点から考察する。また、その考察もとに、自分自身の創作物や創作アイデアの美学や意義についてコンテキストとともに自分の言葉でアウトプットできるようにする。

◆授業内容・計画◆

1日目(計5回):

以下の視点から過去の音楽作品を考察する(1-3回)。その後、各学生の作品やアイデアについてグループディスカッションを行う(4-5回)。

- 電子メディアと作曲
- 音の性質
- 音素材作り
- 音の変容

2日目(計5回):

以下の視点から過去の音楽作品を考察する(6-8回)。その後、各学生の作品やアイデアについてグループディスカッションを行う(9-10回)。

- リズムのプロセス
- 電子音楽におけるピッチ
- 空間の表現
- 多重スケールの組織化

3日目(計5回):

以下の視点から過去の音楽作品を考察する(11-13回)。その後、各学生の作品やアイデアについてグループディスカッションを行う(14-15回)。

- 音による語り
- 音生成のストラテジー
- ミキシングの芸術性

また、最後の授業後には、これまでの考察やディスカッションをもとに、自分の音楽作品や作品アイデアについての簡単なレポートを提出する。

◆準備学習の内容◆

復習に重点を置き、毎回の授業後には最後のレポートに備えてノートなどをとっておく。

◆成績評価の方法◆

授業およびディスカッションへの取り組み、レポートの内容を総合的に評価する。
授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布する。

◆参考図書◆

Curtis Roads 『Composing Electronic Music: A New Aesthetic』、他

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング			
科目名	作品研究A		
科目詳細			
担当教員	谷口 昭弘		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1) 映画作品における音楽の役割と位置づけを理解する。音楽が映画の鑑賞にもたらす効果について理解する。(2) 音楽が映画の鑑賞にもたらす効果について理解する。(3) 映画に使われる音楽で使われる、独特の手法について理解する。(4) ディズニー映画音楽のスタイルの変遷を耳で聞き分けることができる。

◆授業内容・計画◆

- ディズニー映画における音楽の機能
- 短編映画の歌と音楽: ミッキー・マウス・シリーズとシリー・シンフォニー
- 『白雪姫』と『ピノキオ』: 歌とスコアと物語
- 『ダンボ』のスコア、『バンビ』の挿入歌、スコアにおける動物の視点
- 『ファンタジア』、第二次大戦中のプロパガンダ作品、『ピーターパン』
- アラン・メンケン、ハワード・アシュマンと『リトル・マーメイド』
- 『リトル・マーメイド』の歌とスコア、『美女と野獣』: <朝の風景>を中心に
- 『美女と野獣』: スコアを中心に、『アラジン』におけるハリウッド＝アラブ音楽、ミュージカルの要素
- 『アラジン』: 挿入歌を中心に、『ライオン・キング』: 歌とスコアの分業
- 『ライオン・キング』のスコアにおける動機の扱い方
- 『ノートルダムの鐘』以降
- ピクサー映画 (1): 『トイ・ストーリー』における非ミュージカルの歌の扱い方
- ピクサー映画 (2): 『トイ・ストーリー2』『トイ・ストーリー3』
- ピクサー映画 (3): 『リメンバー・ミー』
- 学期末試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

授業で扱う映画作品について、図書館やレンタル・ビデオ、動画配信サービス等を利用して何度も観ておくこと。その際、使われている音楽に注意して見る。可能であれば、使われている音楽や場面の詳細についてメモを取り、授業内のレスポンス・シートに、その考察を反映させること(目安3時間半)

◆成績評価の方法◆

日頃の授業について適宜評価し、学期末試験により評価する。また、レスポンス・シート(Google Classroomに課題として提出する)に書かれた考察や質問について、授業の冒頭の時間を、その講評に当てる。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ディズニー・ミュージック ディズニー映画 音楽の秘密』谷口昭弘(スタイルノート)

◆参考図書◆

『映画にとって音とはなにか』ミシェル・シオン著、川竹 英克、J.ピノン訳(勁草書房)
『映画の音楽』ミシェル シオン著、小沼 純一、伊藤制子、北村真澄、二本木かおり訳(みすず書房)
『映画音楽: その歴史と作曲家』柳生すみまる(芳賀書店)
“The Disney Song Encyclopedia” Thomas S. Hirschak and Mark A. Robinson (Scarecrow).
“Music in Disney’s Animated Features” James Bohn (University Press of Mississippi).
“The Disney Films” Leonard Maltin (Disney Editions).
“On the Track: A Guide to Contemporary Film Scoring” Fred Karlin and Rayburn Wright (Routledge).
“Film Music: A Neglected Art” Roy M. Pendergast (Norton).

◆留意事項◆

【授業中の配布物について】

・授業で使う資料については、Google Classroomによって配布します。

ナンバリング			
科目名	作品研究B		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

フランス・ロマン主義の音楽家エクトール・ベルリオーズ(1803～69)の作品、そして彼が生きた時代についての基礎知識を身につける。また、ベルリオーズの創作の歴史的意義について、各自の考えを深める。

◆授業内容・計画◆

この授業では、ベルリオーズの《幻想交響曲》(1830)を中心に、ロマン主義芸術について、また19世紀フランス音楽文化史について理解を深める。

1. 導入:ロマン主義の音楽
2. ベルリオーズの生涯と主要作品
3. 19世紀フランス音楽史のなかのベルリオーズ
4. ベルリオーズのシェイクスピア体験
5. 1820年代のベルリオーズの創作と《幻想交響曲》
6. 《幻想交響曲》の標題とその文学的源泉(1):シャトーブリアン、ド・クインシーほか
7. 《幻想交響曲》の標題とその文学的源泉(2):ノディエ、ユゴーほか
8. 《幻想交響曲》の音楽表現:第1楽章
9. 《幻想交響曲》の音楽表現:第2楽章・第3楽章
10. 《幻想交響曲》の音楽表現:第4楽章・第5楽章
11. 《レリオ》の創作
12. 演奏、出版、評価
13. ベルリオーズの「芸術家」像(1):《イタリアのハロルド》、《ベンヴェヌート・チェツリーニ》
14. ベルリオーズの「芸術家」像(2):『ユーフォニア』
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で扱う楽曲をあらかじめ聴いておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(70%)、及び、期末のレポート課題(30%)により評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

ベルリオーズ『ミニチュア・スコア:幻想交響曲 作品14』井上さつき解説(音楽之友社、2001年)
授業ごとにレジュメを配布する。

◆参考図書◆

Julian Rushton. Berlioz: Symphonie Fantastique. (Cambridge University Press, 2023)
ベルリオーズ『ベルリオーズ回想録1・2』丹治恒次郎訳(白水社、1981年)
今谷和徳、井上さつき『フランス音楽史』(春秋社、2010年)
村山則子『ベルリオーズ ドラマと音楽——リスト・ワーグナーとの交流と共に』(作品社、2024年)
シャトーブリアン『ルネ』湊野ゆり子訳注(大学書林、1999年)
ノディエ『ノディエ幻想短篇集』篠田知和基編訳(岩波書店、1990年)
ド・クインシー『阿片常用者の告白』野島秀勝訳(岩波書店、2007年)
その他は、授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング			
科目名	作品研究C		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

ジャン・シベリウス(1865～1957)の交響曲に関心を持ち、作品への理解を深めるとともに、創作の背景となった文化や社会、歴史について多面的に考えることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 北欧フィンランドと作曲家シベリウスについて
2. シベリウスの創作活動
3. シベリウスの交響曲概観
4. 初期シベリウスの作品について(交響詩《クレルヴォ》、《レンミンカイネン》ほか)
5. 交響曲第1番(1900)
6. 交響曲第2番(1902)
7. 中期シベリウスの作品について(交響詩《ポヒョラの娘》、弦楽四重奏曲《親愛なる声》ほか)
8. 交響曲第3番(1907)
9. 交響曲第4番(1911)
10. 後期シベリウスの作品について(交響詩《オセアニデス》、《タピオラ》ほか)
11. 交響曲第5番(1919)
12. 交響曲第6番(1923)
13. 交響曲第7番(1924)
14. 未完に終わった交響曲第8番(紛失)の謎
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

シベリウスの交響曲のCDやDVDを鑑賞しつつ、関連文献で各曲の概要を調べておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

◆成績評価の方法◆

レポート及び平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『作曲家・人と作品 シベリウス』神部智(音楽之友社)

◆参考図書◆

『シベリウスの交響詩とその時代 神話と音楽をめぐる作曲家の冒険』神部智(音楽之友社)

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEL228S		
科目名	作品研究D		
科目詳細			
担当教員	前島 美保		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

三味線音楽(長唄・常磐津節・清元節等)の有名な楽曲を作曲者別に取り上げ、作品の成立背景、関連史料の読解、詞章の語釈等を踏まえて音楽的な特徴について理解を深める。また、近年の研究動向にも触れつつ、演奏を聴き比べながら味わう。日本伝統音楽コース演奏会に関連した楽曲も取り上げる予定。

◆授業内容・計画◆

(下記の内容は変更する場合がある。)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 長唄1「越後獅子」
- 第3回 長唄2「勸進帳」
- 第4回 長唄3「吾妻八景」
- 第5回 長唄4「秋の色種」
- 第6回 長唄5「元禄花見踊」
- 第7回 長唄6「船弁慶」
- 第8回 常磐津節1「屋敷娘」
- 第9回 常磐津節2「戻橋」
- 第10回 富本節「浅間」
- 第11回 清元節1「三社祭」
- 第12回 清元節2「三千歳」
- 第13回 附属図書館で竹内文庫の史料を閲覧
- 第14回 古曲(河東節・一中節・宮園節・荻江節)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業後に参考文献や視聴覚資料などによって関心を高め、積極的に復習するよう心がけること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

出席・平常点、および期末レポートを総合的に評価する。また随時、コメント等を課し、授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて、適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

実際に鑑賞する機会を積極的に持って欲しい。

ナンバリング	CEL229S		
科目名	音楽美学A		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽の様々な機能を考察し、時代的・社会的背景を視野に入れた解釈の仕方を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

人は音楽にどんな役割を持たせ、演奏したり聴いたりしてきたか。この授業では、西洋音楽史に残る数々の名作を、その目的(＝音楽に与えられた機能)から考察する。とりあげる曲は、もちろん必ずしもそれだけが目的でない場合もあるが、多くはそれが主眼となっている作品である。音楽に与えられたそれらの機能は、作曲当時の思想的・社会的背景と関連付けられる。それらを詳細に確認していくことで、音楽の多面的なあり方を学ぶ。それは結果的に、音楽のいろいろな楽しみ方を知ることにつながるはずである。

1. 導入
2. 気持ちを伝える ①作曲家・演奏者の心の表現
3. 気持ちを伝える ②劇中人物の心の表現
4. 癒す
5. 鼓舞する
6. 踊りのための音楽
7. 雰囲気作り ①機会音楽
8. 雰囲気作り ②劇音楽
9. 演奏の超絶技巧を楽しむ ①声楽編
10. 演奏の超絶技巧を楽しむ ②楽器編
11. 共同体意識を強める
12. 権力者を皮肉る
13. 模倣を楽しむ
14. 瞑想／祈り
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業で自習してもらいたい内容を伝えます(本や音楽作品)。

◆成績評価の方法◆

リアクションペーパー50%、学期末レポート50%
リアベに関しては、翌週の授業冒頭でコメントをする。
レポートに関しては、赤入れしてお返りする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

- ・『音楽とは: ニコラス・クックが語る5つの視点』ニコラス・クック／著 福仲冬子／訳 音楽之友社 2022
- ・『音楽と心の科学史 音楽学と心理学が交差するとき』、西田紘子・小寺未知留／編 春秋社音楽学叢書 2023
- ・『「聴くこと」の革命 ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」をどう聴いたか』、マーク・エヴァン・ボンズ／著 近藤謙・井上登喜子／訳 アルテスパブリッシング 2015
- ・『音楽の聴き方ー聴く型と趣味を語る言葉ー』岡田暁生／著 中央公論新社 2009
- ・『西洋音楽の歴史』高橋浩子、本岡浩子、中村孝義、網干毅／著 東京書籍 1996
- ・『音楽家はいかに心を描いたかー バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト』(放送大学叢書) 笠原潔／著 左右社 2009
- ・『チェリビダッケ 音楽の現象学』セルジュ・チェリビダッケ／著、石原良哉／訳 アルファベータブックス(増補新版) 2017

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL230S		
科目名	音楽美学B		
科目詳細			
担当教員	川上 啓太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽を含む諸芸術について、あるいはそれらに関する他者の営みについて抱く疑問について考えるための、基本的な概念の習得。

◆授業内容・計画◆

1917年、フランスの音楽雑誌『クーリエ・ミュージカル』で、「美学 Esthétique」をめぐる応酬があった。先鋒は国民音楽協会のヴァンサン・ダンディで、これに応酬したのは、かつて彼に反旗を翻す形でラヴェルとともに国民音楽協会を立ち上げたシャルル・ケクランである。

彼らのやりとりや、今もお強い影響力をもつ当時の著書『作曲法講義』に出てくる用語に着目しながら、「芸術」とは何か？などといった美学の基本概念を確認しながら、とりわけ18世紀末から20世紀初頭までの作曲家の「美学」の変遷と対立を紐解いてゆく。

美学に関する著作を紐解いていくだけではなく、器楽作品の和声と形式に着目した分析を主眼とすること、私たちが日常で触れ合う現代の諸芸術に目を向けることに、本授業の特色がある。

- 1)「芸術」とは何か？美とは何か？——美学の基本概念について
- 2)洞窟の比喻——古代ギリシアの政治・教育・音楽
- 3)主題の展開と循環
- 4)形式(フォルム)とデフォルメーション
- 5)明快な主題から、謎めく主題へ
- 6)「音楽が永遠に変わった日」——ベートーヴェン症候群
- 7)物語論(ナラトロジー)
- 8)間テキスト性(インターテクスチュアリティ)
- 9)紋中紋——底知れぬ深みに置くということ
- 10)絶対音楽・標題音楽・純粋音楽
- 11)音楽の「展開」は「高級官僚の仕事」か？
- 12)作者の死
- 13)漸次的解明
- 14)「人間的」か、「健康的」か
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

授業ごとに、次の授業までに予習すべきテキストを指定する。

◆成績評価の方法◆

今年度が初担当の授業となるため、受講者の人数が読めない。人数が多いようであれば講義形式でペーパーテストを行い、その点数・内容によって成績評価を行う。人数が少ない場合には授業をより実りのあるものとするような他者とのコミュニケーションを重視した成績評価を行う。フィードバックは授業内で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業ごとに自作資料を配布する。

◆参考図書◆

授業ごとに適宜提示する。

◆留意事項◆

大学のメールアカウントを通じて課題や試験に関する連絡をするため、受信したら即時通知されるよう設定しておくこと。

ナンバリング	CEL409S		
科目名	グレゴリオ聖歌A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	渡辺 研一郎		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-A	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

座学と演奏実践を通じ、グレゴリオ聖歌の基礎を学ぶ。聖歌そのものだけでなく、関連する歴史や音楽理論など、総合的にグレゴリオ聖歌への理解を深める。また、自らテーマを見つけグレゴリオ聖歌に関するレポートを作成することで、グレゴリオ聖歌を通じた自主的な学びを行う。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ガイダンス:グレゴリオ聖歌を学ぶということ
- 2回 グレゴリオ聖歌史概論
- 3回 ネウマ入門①～単純ネウマ、融化ネウマ～
- 4回 アンティフォナを歌う
- 5回 ネウマ入門②～複合ネウマ、特殊ネウマ～
- 6回 入祭唱を歌う
- 7回 旋法とグレゴリオ聖歌① 第1、2旋法
- 8回 旋法とグレゴリオ聖歌② 第3、4旋法
- 9回 旋法とグレゴリオ聖歌③ 第5、6旋法
- 10回 旋法とグレゴリオ聖歌④ 第7、8旋法
- 11回 待降節の聖歌を歌う
- 12回 デイジョンのトナリウム:中世の文字譜
- 13回 降誕節の聖歌を歌う
- 14回 メディチ版の聖歌集:17世紀のグレゴリオ聖歌
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

着実な理解のために、
前回内容の復習を行ってから授業に参加すること。
復習に必要な時間は内容や理解度によって異なると思われるが、最低1時間は確保しよう。
疑問点があれば積極的に質問してほしい。
授業で扱った聖歌を更に歌えるように復習するのは勿論だが、ネウマの名前と形を覚えたり、各旋法について理解するなど座学的な復習も必要である。
また、学期末にグレゴリオ聖歌に関するレポートの提出がある。
各自、授業で印象に残った内容や、興味のある事項をメモしておく等、レポートのテーマとなるトピックを見つけておくこと。(レポートに関する詳細は授業内で説明する。)
復習が肝要な理由は、グレゴリオ聖歌の学習においては、聞いたことのない用語や見たことのない楽譜など、日頃の音楽的常識とは異なる場面にしばしば遭遇するためだ。
ただ、その新鮮な音楽体験こそグレゴリオ聖歌学習における醍醐味のひとつと言える。授業外での学習を積極的に行い、グレゴリオ聖歌の興味深い世界を更に堪能してもらいたい。

◆成績評価の方法◆

レポート及び平常の授業での取り組み。
グレゴリオ聖歌は教会・修道院といった“共同体”で育まれ歌われる音楽であるから、毎回の授業への参加度と授業内での取り組みは評価において重視される。また、各自が作成するグレゴリオ聖歌に関するレポートも重要な評価対象である。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント等を配布する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

特に無し。

ナンバリング	CEL436S		
科目名	グレゴリオ聖歌		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	渡辺 研一郎		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-A	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物に聖歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

座学と演奏実践を通じ、グレゴリオ聖歌の基礎を学ぶ。聖歌そのものだけでなく、関連する歴史や音楽理論など、総合的にグレゴリオ聖歌への理解を深める。また、自らテーマを見つけグレゴリオ聖歌に関するレポートを作成することで、グレゴリオ聖歌を通じた自主的な学びを行う。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ガイダンス:グレゴリオ聖歌を学ぶということ
- 2回 グレゴリオ聖歌史概論
- 3回 ネウマ入門①～単純ネウマ、融化ネウマ～
- 4回 アンティフォナを歌う
- 5回 ネウマ入門②～複合ネウマ、特殊ネウマ～
- 6回 入祭唱を歌う
- 7回 旋法とグレゴリオ聖歌① 第1、2旋法
- 8回 旋法とグレゴリオ聖歌② 第3、4旋法
- 9回 旋法とグレゴリオ聖歌③ 第5、6旋法
- 10回 旋法とグレゴリオ聖歌④ 第7、8旋法
- 11回 待降節の聖歌を歌う
- 12回 ディジョンのトナリウム:中世の文字譜
- 13回 降誕節の聖歌を歌う
- 14回 メディチ版の聖歌集:17世紀のグレゴリオ聖歌
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

着実な理解のために、
前回内容の復習を行ってから授業に参加すること。
復習に必要な時間は内容や理解度によって異なると思われるが、最低1時間は確保しよう。
疑問点があれば積極的に質問してほしい。
授業で扱った聖歌を更に歌えるように復習するのは勿論だが、ネウマの名前と形を覚えたり、各旋法について理解するなど座学的な復習も必要である。
また、学期末にグレゴリオ聖歌に関するレポートの提出がある。
各自、授業で印象に残った内容や、興味のある事項をメモしておく等、レポートのテーマとなるトピックを見つけておくこと。(レポートに関する詳細は授業内で説明する。)
復習が肝要な理由は、グレゴリオ聖歌の学習においては、聞いたことのない用語や見たことのない楽譜など、日頃の音楽的常識とは異なる場面にしばしば遭遇するためだ。
ただ、その新鮮な音楽体験こそグレゴリオ聖歌学習における醍醐味のひとつと言える。授業外での学習を積極的に行い、グレゴリオ聖歌の興味深い世界を更に堪能してもらいたい。

◆成績評価の方法◆

レポート及び平常の授業での取り組み。
グレゴリオ聖歌は教会・修道院といった“共同体”で育まれ歌われる音楽であるから、毎回の授業への参加度と授業内での取り組みは評価において重視される。また、各自が作成するグレゴリオ聖歌に関するレポートも重要な評価対象である。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント等を配布する。

◆参考図書◆

授業内で紹介する。

◆留意事項◆

特に無し。

ナンバリング	CEL411S		
科目名	アジア音楽史A		
科目詳細			
担当教員	丸山 洋司		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

南アジア、東南アジアの音楽文化について、様々な視点(楽器の素材や構造、演奏の機会、音楽様式の特徴、音楽の伝播、音楽の社会的意味など)から考察し、その多様性を理解する。ある国(地域)の音楽について、近隣諸国(地域)の音楽からの歴史的影響に注目して考察することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

本講義では、南アジア、東南アジアの音楽文化を広く概観し、共通点や相違点について横断的に解説する。

1. 南アジアの文化概観
2. インド古典音楽の二大系統
3. インド古典音楽の理論と実践
4. 南アジアおよび周辺地域の弦楽器(シタールおよび類似の楽器)
5. 南アジアおよび周辺地域の膜鳴楽器(タブラーおよび類似の楽器)
6. インドの地方の音楽芸能
7. インドのポピュラー音楽およびインド古典音楽の影響を受けた欧米の音楽家たち
8. 楽器学資料館見学(アジアの伝統楽器を中心に)
9. アジアの伝統楽器比較
10. 東南アジアの文化概観
11. 宮廷で発展した合奏 (タイ、インドネシア、ミャンマー)
12. ミャンマーの音楽①古典歌謡と小編成の合奏
13. ミャンマーの音楽②サインワイン
14. インドネシアの音楽 (ジャワとバリのガムラン)
15. 総括

◆準備学習の内容◆

- ・前の授業で指示された課題(用語についての調査、特定の動画の視聴など)に取り組む。
- ・事前にメールで配布するレジュメに目を通す。
- ・楽器学資料館見学後、興味を持ったアジアの楽器についての小レポートを課す。

◆成績評価の方法◆

- ・授業時の発言やコメント 30%
- ・学期中に課す課題 30%
- ・学期末レポート 40%
- * 授業中の発言やコメント、学期中に課す課題については、適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・印刷媒体の教科書は使用しない。
- ・授業中に紹介する資料については、授業後に各自できる限り目を通し、考察を深めること。

◆参考図書◆

- 『アジア音楽史』柘植元一他編(音楽之友社 1996年)
『はじめての世界音楽』柘植元一他編(音楽之友社 1999年)
『インド文化事典』杉本良男編(丸善出版 2018年)
『東南アジア文化事典』信田敏宏他編(丸善出版 2018年)
『インドネシア芸能への招待：音楽・舞踊・演劇の世界』皆川 厚一編(東京堂出版 2010年)

◆留意事項◆

- ・アジア地域の音楽に触れる機会を増やし、講義で得た知識をさらに深めることを望む。

ナンバリング	CEL413S		
科目名	日本音楽史概説A		
科目詳細			
担当教員	前島 美保		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽史概説Aでは、日本音楽(古典音楽・伝統音楽)を中心に古代から中世まで歴史的に概観することができる。各芸能の代表曲を鑑賞しながらその響きに慣れ親しみ、日本音楽に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。

◆授業内容・計画◆

(以下の講義概要は予定)

- 第1回 ガイダンス:日本音楽史の時代区分と特徴、雅楽伝来以前
- 第2回 古代の音楽:雅楽1(舞楽)
- 第3回 古代の音楽:雅楽2(管絃)
- 第4回 古代の音楽:雅楽3(歌物)
- 第5回 古代の音楽:声明1(南都・天台・真言)
- 第6回 中世の音楽:声明2(浄土・禅)
- 第7回 中間のまとめ
- 第8回 中世の音楽:平家(琵琶楽)
- 第9回 中世の音楽:能をとりまく諸芸能
- 第10回 中世の音楽:能楽1(歴史)
- 第11回 中世の音楽:能楽2(音楽構造)
- 第12回 中世の音楽:能楽3(狂言)
- 第13回 郷土の音楽:民俗芸能
- 第14回 郷土の音楽:民謡
- 第15回 筆記試験

◆準備学習の内容◆

授業後に参考文献や関連音源などによって関心を高め、積極的に復習するよう心がけること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

出席(平常点)および最終回の筆記試験。また随時、コメント等を課し、授業中にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

- ・平野健次他編『日本音楽大事典』(平凡社、1989年)。
 - ・『日本音楽基本用語辞典』(音楽之友社、2007年)。
 - ・小島美子監修、国立劇場企画・編集『日本の伝統芸能講座 音楽』(淡交社、2008年)。
 - ・服部幸雄監修、国立劇場企画・編集『日本の伝統芸能講座 舞踊演劇』(淡交社、2009年)。
 - ・日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」(Webサイト)。
- その他、適宜授業中に指示する。

◆留意事項◆

実際に鑑賞する機会を積極的に持って欲しい。

ナンバリング	CEL415S		
科目名	日本音楽(雅楽)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	中村 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や祝言などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

日本に千数百年前から伝承されている雅楽には、管絃、舞楽、朗詠、催馬楽、国風歌舞が含まれる。それぞれを鑑賞しながら、使用する楽器の構造や音の特徴について学び、楽器を触ったり、唱歌などの歌を歌う体験をする。また奈良・平安時代から現在に至る雅楽の歴史を、雅楽を伝えた人々に焦点をあてつつ学ぶ。現代の雅楽、他の音楽との関りにも触れる。

◆授業内容・計画◆

- 1.雅楽とは
- 2.笙～天からの光のような
- 3.箏・篳篥～地の声、人の声
- 4.龍笛～龍のように自在に
- 5.琵琶・箏・和琴～殿上人の楽しみ
- 6.打ちものいろいろ／越天楽のアナリーゼ
- 7.雅楽の音楽理論～調・拍子
- 8.舞①～舞楽の上演形式、舞台、装束
- 9.舞②～左舞、右舞、古代の舞
- 10.歌もの～催馬楽・朗詠・古代歌謡
- 11.物語の中の雅楽～源氏物語、枕草紙ほか
- 12.雅楽を伝えた人々①～殿上人と楽人
- 13.雅楽を伝えた人々②～武家社会のなかで
- 14.現代の雅楽の在り方
- 15.まとめ

＊希望者には興味のあるトピックについて発表してもらうことがある。

◆準備学習の内容◆

次回の内容について、教科書に目を通しておく。(30分)
 授業で紹介する参考図書を読む。
 機会を見つけて生演奏、映像やCDで、雅楽を視聴する。

◆成績評価の方法◆

毎授業後に提出されるワークシートを翌週に返却し講評する。
 学期末に授業内試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修 誠文堂新光社

◆参考図書◆

『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修 メイツ出版
 『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
 『図説 雅楽入門事典』芝祐靖監修、遠藤徹他著(柏書房)
 『説話と横笛～平安京の管絃と楽人』磯 水絵著(勉誠出版)

◆留意事項◆

古代歌謡を歌ったり、雅楽器に触れて音を出す、舞を舞うなど、鑑賞だけでなく体験する機会を設けるので、積極的に参加してほしい。

ナンバリング	CEL450S		
科目名	日本音楽(雅楽)		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	中村 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天竺経歌がある教員が、聴音や祝言などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

日本に千数百年前から伝承されている雅楽には、管絃、舞楽、朗詠、催馬楽、国風歌舞が含まれる。それぞれを鑑賞しながら、使用する楽器の構造や音の特徴について学び、楽器を触ったり、唱歌などの歌を歌う体験をする。また奈良・平安時代から現在に至る雅楽の歴史を、雅楽を伝えた人々に焦点をあてつつ学ぶ。現代の雅楽、他の音楽との関りにも触れる。

◆授業内容・計画◆

- 1.雅楽とは
- 2.笙～天からの光のような
- 3.簞箏～地の声、人の声
- 4.龍笛～龍のように自在に
- 5.琵琶・箏・和琴～殿上人の楽しみ
- 6.打ちものいろいろ／越天楽のアナリーゼ
- 7.雅楽の音楽理論～調・拍子
- 8.舞①～舞楽の上演形式、舞台、装束
- 9.舞②～左舞、右舞、古代の舞
- 10.歌もの～催馬楽・朗詠・古代歌謡
- 11.物語の中の雅楽～源氏物語、枕草紙ほか
- 12.雅楽を伝えた人々①～殿上人と楽人
- 13.雅楽を伝えた人々②～武家社会のなかで
- 14.現代の雅楽の在り方
- 15.まとめ

* 希望者には興味のあるトピックについて発表してもらうことがある。

◆準備学習の内容◆

次回の内容について、教科書に目を通しておく。(30分)
授業で紹介する参考図書を読む。
機会を見つけて生演奏、映像やCDで、雅楽を視聴する。

◆成績評価の方法◆

毎授業後に提出されるワークシートを翌週に返却し講評する。
学期末に授業内試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修 誠文堂新光社

◆参考図書◆

『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修 メイツ出版
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
『図説 雅楽入門事典』芝祐靖監修、遠藤徹他著(柏書房)
『説話と横笛～平安京の管絃と楽人』磯 水絵著(勉誠出版)

◆留意事項◆

古代歌謡を歌ったり、雅楽器に触れて音を出す、舞を舞うなど、鑑賞だけでなく体験する機会を設けるので、積極的に参加してほしい。

ナンバリング	CEL417S		
科目名	日本音楽(声明)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	塚越 秀成		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

仏教信仰の一形態として、素朴な声のみによる発声より始まり、宗教芸術音楽へと発展していった声明について学ぶ。
古代・中世における日本音楽の中心的存在でもあり、かつ近世音楽にも大きな影響を与え、今日再び注目を得るに至った声明のうち、天台声明とともに二大流派である真言声明について、新義派の豊山声明を中心に、実習を交えながら、声明の歴史・理論について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

- 1 声明とはなにか。声明曲紹介「四智梵語」
- 2 映像鑑賞「大般若転読会」
- 3 基礎実習「基本音型」
- 4 法要と声明
- 5 曲目紹介「唄」「散華」「対揚」
- 6 声明の記譜法・楽譜・歴史
- 7 声明の音楽理論
- 8 声明で用いる鳴らし物(楽器)「鐺」「鉢」「錫杖」
- 9 鳴らし物「法螺」鑑賞「南都声明」「南山進流」
- 10 映像鑑賞「千僧音曼荼羅」
- 11 真言各流の声明の聞き比べ「四智讃」ほか
- 12 鎌倉時代の声明(醍醐流声明)
- 13 声明の語り物「表白」「祭文」「講式」「和讃」
- 14 新作声明鑑賞
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

配付する資料『声明の歴史と理論』を毎授業前に熟読してくること。

◆成績評価の方法◆

日頃の授業では、随時課題を出しフィードバックする。期末には、レポートもしくは筆記試験に基づき総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント配布

◆参考図書◆

『豊山声明大成』豊山声明大成刊行会発行(授業中の貸し出しあり)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL449S		
科目名	日本音楽(声明)		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	塚越 秀成		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

仏教信仰の一形態として、素朴な声のみによる発声より始まり、宗教芸術音楽へと発展していった声明について学ぶ。
 古代・中世における日本音楽の中心的存在でもあり、かつ近世音楽にも大きな影響を与え、今日再び注目を得るに至った声明のうち、天台声明とともに二大流派である真言声明について、新義派の豊山声明を中心に、実習を交えながら、声明の歴史・理論について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

- 1 声明とはなにか。声明曲紹介「四智梵語」
- 2 映像鑑賞「大般若転読会」
- 3 基礎実習「基本音型」
- 4 法要と声明
- 5 曲目紹介「唄」「散華」「対揚」
- 6 声明の記譜法・楽譜・歴史
- 7 声明の音楽理論
- 8 声明で用いる鳴らし物(楽器)「鐺」「鉢」「錫杖」
- 9 鳴らし物「法螺」鑑賞「南都声明」「南山進流」
- 10 映像鑑賞「千僧音曼荼羅」
- 11 真言各流の声明の聞き比べ「四智讃」ほか
- 12 鎌倉時代の声明(醍醐流声明)
- 13 声明の語り物「表白」「祭文」「講式」「和讃」
- 14 新作声明鑑賞
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

配付する資料『声明の歴史と理論』を毎授業前に熟読してくること。

◆成績評価の方法◆

日頃の授業では、随時課題を出しフィードバックする。期末には、レポートもしくは筆記試験に基づき総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリント配布

◆参考図書◆

『豊山声明大成』豊山声明大成刊行会発行(授業中の貸し出しあり)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL419S		
科目名	日本音楽(能楽)A		
科目詳細			
担当教員	森田 都紀		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽(能楽)では、①能・狂言の音楽的特徴ならびに演劇的特徴を総合的に理解する。諸芸能や古典文学との関わり、歴史などを学ぶこと通じて、日本音楽史における能楽の位置づけを考える。②能楽に用いる楽器・能面・謡本・扇などの実物に触れることにより、能楽に慣れ親しむ。③能楽の継承の抱える今日的な課題について考え、日本音楽の未来を見据えるまなざしを養う。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス:能楽とは
第2回 能楽の概説:能狂言・役籍・流儀・舞台
第3回 能の諸作品①:古典文学とのかかわり
第4回 能の諸作品②:諸芸能とのかかわり
第5回 謡:発声・音階・リズム・謡本
第6回 囃子:楽器の音色・構造
第7回 囃子:各楽器の特性・リズム・手付
第8回 所作・舞
第9回 能面
第10回 歴史と思想①:寺社との関係
第11回 歴史と思想②:勧進と夢幻能
第12回 歴史と思想③:天皇制との関係
第13回 能楽の継承と今日的課題①:後継者
第14回 能楽の継承と今日的課題②:楽器製作技術と材料
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業後に参考文献や関連音源などによって関心を高め、積極的に復習するよう心がけること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

出席(平常点)および最終回の筆記試験。また随時、コメント等を課し、授業中にフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

必要に応じて講義時に紹介する。
日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」(Webサイト)を授業中に参照する予定である。

◆留意事項◆

実際に能・狂言を鑑賞する機会をできるだけ持ってほしい。

ナンバリング	CEL451S		
科目名	日本音楽(能楽)		
科目詳細			
担当教員	森田 都紀		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

日本音楽(能楽)では、①能・狂言の音楽的特徴ならびに演劇的特徴を総合的に理解する。諸芸能や古典文学との関わり、歴史などを学ぶことと通じて、日本音楽史における能楽の位置づけを考える。②能楽に用いる楽器・能面・謡本・扇などの実物に触れることにより、能楽に慣れ親しむ。③能楽の継承の抱える今日的な課題について考え、日本音楽の未来を見据えるまなざしを養う。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス:能楽とは
第2回 能楽の概説:能狂言・役籍・流儀・舞台
第3回 能の諸作品①:古典文学とのかかわり
第4回 能の諸作品②:諸芸能とのかかわり
第5回 謡:発声・音階・リズム・謡本
第6回 囃子:楽器の音色・構造
第7回 囃子:各楽器の特性・リズム・手付
第8回 所作・舞
第9回 能面
第10回 歴史と思想①:寺社との関係
第11回 歴史と思想②:勧進と夢幻能
第12回 歴史と思想③:天皇制との関係
第13回 能楽の継承と今日的課題①:後継者
第14回 能楽の継承と今日的課題②:楽器製作技術と材料
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業後に参考文献や関連音源などによって関心を高め、積極的に復習するよう心がけること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

出席(平常点)および最終回の筆記試験。また随時、コメント等を課し、授業中にフィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

必要に応じて講義時に紹介する。
日本芸術文化振興会「文化デジタルライブラリー」(Webサイト)を授業中に参照する予定である。

◆留意事項◆

実際に能・狂言を鑑賞する機会をできるだけ持ってほしい。

ナンバリング	CEL421S		
科目名	日本音楽(近世邦楽)A		
科目詳細			
担当教員	根岸 正海		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

江戸時代の芸能、音楽についての知識を深める。日本音楽史における江戸時代の特徴を認識する。

◆授業内容・計画◆

日本音楽史においては古代から中世、近世に発生したさまざまな伝統音楽が併存する重層性がある。本講座では、そこから江戸時代を切り取り、古くから継承された音楽、新たに生み出された音楽から「時代」の様相を概観する。毎回の授業内容は下記のとおり予定しているが、受講生の人数、予備知識の有無により若干の変更がある場合がある。

- (1)ガイダンス/日本音楽史の特色
- (2)箏曲、尺八の歴史/盲人音楽の歴史
- (3)三味線伝来・操り芝居と義太夫節
- (4)歌舞伎における義太夫節「菅原伝授手習鑑」
- (5)長唄「京鹿子娘道成寺」(1)18世紀中期の所作事と長唄
- (6)長唄「京鹿子娘道成寺」(2)作品の構成と内容
- (7)長唄と歌舞伎囃子(黒御簾音楽)
- (8)歌舞伎の中の浄瑠璃諸流
- (9)上方の和事における三味線音楽
- (10)長唄「勧進帳」(1)作品の構成と内容
- (11)長唄「勧進帳」(2)学校教育における三味線音楽
- (12)豊後系浄瑠璃の歴史
- (13)歌舞伎に見られる浄瑠璃諸流
- (14)新作歌舞伎の音楽/三味線音楽の問題点
- (15)まとめ

◆準備学習の内容◆

予習は特に必要ない。むしろ、授業の復習に力を注いでもらいたい。とくに授業内で全容を視聴することができなかった作品については図書館で見直す必要がある。また授業内に配布された資料は必ず目を通しておくこと。そのため週におよそ1～2時間の自習時間が必要になる。

◆成績評価の方法◆

学期末にレポート課題を提出する。また、学期内に数回リアクションペーパーを提出してもらい講評する。評価の割合についてはレポート課題が7割、リアクションペーパーを含め、授業に取り組む姿勢など平常点を3割として、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキストは使用しない。授業内に適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内に指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL422S		
科目名	日本音楽(近世邦楽)B		
科目詳細			
担当教員	福田 千絵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業では、「三曲」と総称される近世邦楽の歴史と魅力を学ぶ。三曲とは、地歌(三味線)、箏曲、尺八楽、胡弓楽の総称であり、本来は別の種目でありながら、合奏を通じて密接に結びついて発展してきた。地歌と箏曲の成り立ちと合奏の特徴、尺八との関係性を学び、日本の伝統的な合奏の感覚を理解する。併せて、明治時代以降の三曲の広がりも理解する。

◆授業内容・計画◆

- (1) ガイダンス:近世邦楽の概要
- (2) 三曲とは:三曲の楽器
- (3) 三味線の歴史
- (4) 地歌のレパートリー:三味線組歌
- (5) 地歌のレパートリー:端歌・地唄舞
- (6) 箏の歴史
- (7) 箏のレパートリー:箏組歌・段物・砧物
- (8) 箏のレパートリー:幕末新箏曲・山田流箏曲
- (9) 尺八の歴史と音楽
- (10) 三曲合奏
- (11) その他の箏・尺八
- (12) 新日本音楽
- (13) 現代邦楽
- (14) 新しい邦楽
- (15) まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏会や図書館の視聴覚資料、インターネットを積極的に活用し、地歌箏曲をはじめとする日本音楽に触れる機会を増やしてほしい。

◆成績評価の方法◆

毎回授業後にアンケートを実施し、フィードバックする。成績は、課題への取り組みと期末レポートによって総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。授業時に資料を配布する。

◆参考図書◆

『箏と箏曲を知る事典』宮崎まゆみ(東京堂出版)、『地歌・箏曲の世界—いま甦る初代富山清琴の芸談』田中健次、徳丸吉彦、富山清琴、野川美穂子(勉誠社)、『まるごと三味線の本』田中悠美子、野川美穂子、配川美加編(青弓社)『日本音楽基本用語辞典』音楽之友社

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL424S		
科目名	音楽民族学A		
科目詳細			
担当教員	鈴木 良枝		
学年	1年3年	クラス	01
講義室	SPC-C	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

インドネシア・バリ島のガムランの演奏を習得し、楽譜を使用せず、口頭で伝承される音楽の形態を理解する。

◆授業内容・計画◆

楽譜を使用せず、バリ島現地での伝統的な学習方法に挑戦する。授業では複数の楽器を交代で練習し、バリ島の音楽の構造を理解する。

- 1)楽器の名称、扱い方等の解説
- (2)＜ギラ＞形式の学習 ガンサのポロスパートを習得する
- (3)＜ギラ＞形式の学習 ガンサのサンシパートを習得し、ポロスと合奏する
- (4)＜ギラ＞形式の学習 ジェゴガン、ゴングパートを習得し、ガンサと合奏する
- (5)＜ギラ＞形式の学習 レヨンのパート1を演奏し、合奏する
- (6)＜ギラ＞形式の学習 レヨンのパート2を演奏し、合奏する
- (7)＜ギラ＞形式の学習 太鼓のパート1(ラナン)を演奏し、合奏する
- (8)＜ギラ＞形式の学習 太鼓のパート2(ワドン)を演奏し、合奏する
- (9)伝統器楽曲＜バパンスリシール＞の学習 ガンサポロス
- (10)伝統器楽曲＜バパンスリシール＞の学習 ガンササンシ
- (11)伝統器楽曲＜バパンスリシール＞の学習 太鼓に挑戦
- (12)伝統器楽曲＜バパンスリシール＞の学習 太鼓に挑戦
- (13) 伝統器楽曲＜バパンスリシール＞の合奏 まとめ
- (14) 到達度チェック、＜ギラ＞の合奏復習
- (15)到達度チェック2、＜バパンスリシール＞の合奏復習

◆準備学習の内容◆

授業時にそのつど講師が指示する、AV資料の試聴や参考図書を読むなどの作業を行っておく

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと講評、および授業内で数回行う演奏の理解度・到達度テストの総合評価

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書はないが、授業内で読むべき参考資料を指示する

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

楽器数が限られるため、受講者数が多い場合は順次交代しながら進める。楽器に直接触れられない時間も他の受講生をよく見て学ぶこと。また床に直接座ることができる服装で受講すること。

ナンバリング	CEL425S		
科目名	音楽民族学B		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

日本を含む世界各地の音楽的伝統や芸能に人々がどのように向き合い、どのような感性を育んできたのか、またそれらを現代社会の中でいかに実践し、どのような意味を見出しているのかなどについて考え、理解する。

◆授業内容・計画◆

講義をベースとしますが、授業の中で世界の音楽を理解するための検討を受講生も行うことによって問題意識を共有し、各授業回の対象となる世界の音楽的事象を考察します。
予定している各授業回のテーマは以下の通りです。進捗状況等により、順番や内容が変更になることもあります。

- 1) イントロダクション: 民族音楽とは
- 2) 民族音楽学のアプローチ
- 3) 世界音楽の概念

- 4) 文化変容
- 5) アフリカのリズム
- 6) 観光と音楽
- 7) 音階・音律の多様性
- 8) 宗教と音楽

- 9) アイヌの音楽文化

- 10) 社会運動と音楽

- 11) 民謡研究
- 12) ディアスポラの音楽
- 13) 現代生活における音楽
- 14) 世界音楽と映画
- 15) まとめと補遺

◆準備学習の内容◆

配布資料に目を通し、授業で扱うテーマや問題について予習しておきましょう。各回のワークシートへのフィードバックを確認し、さらに質問やコメントがあれば、授業で共有できるようにまとめておきましょう。準備に要するのは週に1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、各回のワークシートを総合して評価します。
適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業用に作成した配布資料により進めます。

◆参考図書◆

- ・『民族音楽学12の視点』徳丸吉彦・増野亜子 編(音楽之友社、2016年)
- ・『ミュージックスとの付き合い方―民族音楽学の拡がり』徳丸吉彦(放送大学叢書、2016年)
- ・『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一 編(音楽之友社、1999年)
- ・『世界音楽への招待』柘植元一(音楽之友社、1991年)
- その他(授業内で紹介する)

◆留意事項◆

本来であれば実際の音楽に触れることが最も大切なので、直接授業で取り上げないジャンルの音楽であっても、機会をとらえて積極的に生で聴くことを勧めます。担当者からもパフォーマンス関連の情報を提供しますが、受講生からの情報も大いに歓迎します。

ナンバリング	CEL428S		
科目名	現代音楽研究A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	宮川 渉		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業は一般的に現代音楽と呼ばれる第2次世界大戦後以降の西洋音楽に関する知識を深めることを目標とする。授業内容は大きく二つの部分に分かれており、前半では現代音楽の大きな流れについて学び、後半ではミニマル・ミュージック、日本人作曲家、スペクトル音楽に焦点を当てて現代音楽を探求する。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
 - 2.ミュージック・コンクレートと電子音楽
 - 3.セリー音楽
 - 4.ジョン・ケージ
 - 5.トーン・クラスター
 - 6.イアニス・クセナキス
 - 7.引用の音楽
 - 8.ミニマル・ミュージック① 概説
 - 9.ミニマル・ミュージック② その影響
 - 10.日本人作曲家① 武満徹① 概説
 - 11.日本人作曲家② 武満徹② 《地平線のドーリア》
 - 12.日本人作曲家③ 細川俊夫
 - 13.スペクトル音楽① 概説
 - 14.スペクトル音楽② その影響
 - 15.まとめ
- 講義内容は必要に応じて変更することがある。

◆準備学習の内容◆

授業で扱う作品を聴いたり、それに関する情報収集を行うこと。毎週1時間程度の予習復習が必要となる。

◆成績評価の方法◆

授業への参加、レポート、期末試験(筆記試験)などを考慮し、総合的に成績評価する。レポートへのフィードバックは授業中に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

- 『はじめての音楽史』久保田慶一編(音楽之友社)
- 『音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで』久保田慶一編(音楽之友社)
- 『現代音楽を読み解く88のキーワード』ジャン＝イヴ・ボスール(音楽之友社)
- 『20世紀を語る音楽』アレックス・ロス(みすず書房)

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEL436S		
科目名	現代音楽研究		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	宮川 渉		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業は一般的に現代音楽と呼ばれる第2次世界大戦後以降の西洋音楽に関する知識を深めることを目標とする。授業内容は大きく二つの部分に分かれており、前半では現代音楽の大きな流れについて学び、後半ではミニマル・ミュージック、日本人作曲家、スペクトル音楽に焦点を当てて現代音楽を探求する。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
 - 2.ミュージック・コンクレートと電子音楽
 - 3.セリー音楽
 - 4.ジョン・ケージ
 - 5.トーン・クラスター
 - 6.イアニス・クセナキス
 - 7.引用の音楽
 - 8.ミニマル・ミュージック① 概説
 - 9.ミニマル・ミュージック② その影響
 - 10.日本人作曲家① 武満徹① 概説
 - 11.日本人作曲家② 武満徹② 《地平線のドーリア》
 - 12.日本人作曲家③ 細川俊夫
 - 13.スペクトル音楽① 概説
 - 14.スペクトル音楽② その影響
 - 15.まとめ
- 講義内容は必要に応じて変更することがある。

◆準備学習の内容◆

授業で扱う作品を聴いたり、それに関する情報収集を行うこと。毎週1時間程度の予習復習が必要となる。

◆成績評価の方法◆

授業への参加、レポート、期末試験(筆記試験)などを考慮し、総合的に成績評価する。レポートへのフィードバックは授業中に行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

- 『はじめての音楽史』久保田慶一編(音楽之友社)
『音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで』久保田慶一編(音楽之友社)
『現代音楽を読み解く88のキーワード』ジャン＝イヴ・ボスール(音楽之友社)
『20世紀を語る音楽』アレックス・ロス(みすず書房)

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEL430S		
科目名	ポピュラー音楽研究A		
科目詳細			
担当教員	周東 美材		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

・日本のポピュラー音楽の文化の特徴を理解できるようになる。・宝塚歌劇団、ワタナベエンターテインメント、ジャニーズ事務所、アイドル・オーディションなどの成り立ちの歴史を理解できるようになる。・授業を通じて学んだことをもとにして、自身の問題関心や音楽経験に基づいたレポートを執筆する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 「家族」とは何か
第3回 「近代家族」とは何か: 性別役割分業、子ども中心主義、異性愛主義
第4回 宝塚少女歌劇
第5回 宝塚歌劇団
第6回 童謡と童謡歌手
第7回 アニメソング
第8回 米軍基地からテレビへ
第9回 渡辺プロダクション
第10回 ジャニーズ事務所
第11回 ジャニーズとふたつの東京オリンピック
第12回 グループサウンズ
第13回 アイドル・オーディション番組「スター誕生!」
第14回 K-POPの成り立ちと韓国3大事務所
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の所定の箇所を読み(1時間程度)、関連する音源や映像を確認する(1時間程度)

◆成績評価の方法◆

・学期末レポート(70%): レポートの評価基準は(1)考察のオリジナリティ、(2)考察の論理性、(3)レポート形式の妥当性の3点
・平常の授業への取り組み(30%): 受講状況とコメントシートの内容
(学期末レポートは返却時のコメントもしくはメールによって、授業時のコメントシートは次回授業時にフィードバックする)

◆教科書(使用テキスト)◆

『「未熟さ」の系譜: 宝塚からジャニーズまで』周東美材(新潮社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL431S		
科目名	ポピュラー音楽研究B		
科目詳細			
担当教員	小泉 恭子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ポピュラー音楽は幅が広く、定義しづらいといわれるが、この授業を通じて、クラシック音楽との共通点や相違点も考えながら、「ポピュラー音楽とはなにか」について多角的に要点を学ぶ。1950年代以降のポピュラー音楽の歴史を楽曲を中心に振り返り、ジャンルによる特徴についても理解する。

◆授業内容・計画◆

- 音楽メディアの変遷—アナログからデジタルへ
- ポピュラー音楽史(洋楽)—ロックの黎明期・1950年代
- ポピュラー音楽史(洋楽)—ロックの発展期・1960年代
- ポピュラー音楽史(洋楽)—ロックの転換期・1970年代
- ポピュラー音楽史(洋楽)—MTVの登場・1980年代
- ポピュラー音楽史(洋楽)—ヒップホップの時代へ・1980年代以降
- ポピュラー音楽史(邦楽)—和製ポップスの誕生・1960年代
- ポピュラー音楽史(邦楽)—歌謡曲の黄金期とアイドル歌謡・1970年代
- ポピュラー音楽史(邦楽)—フォークからニューミュージックへ・1970年代
- ポピュラー音楽史(邦楽)—シティポップの登場・1970年代～1980年代
- ポピュラー音楽史(邦楽)—Jポップの誕生と発展・1980年代以降
- ジャンル研究—ジャズ、ソウル、ファンク
- ジャンル研究—英米以外のポピュラー音楽
- ジャンル研究—イージーリスニング、インストゥルメンタル
- 総合討論とまとめ

◆準備学習の内容◆

日常生活の隅々にまで浸透する音楽のうち、ポピュラー音楽とカテゴライズされるサウンドの断片がいかに多いかを、意識してみてください。聴き取った音楽のジャンルや曲名、作曲された年代や作曲者、歌手についても授業内で質問しますので、答えられるようにしておいてください。

◆成績評価の方法◆

討論(30%)、コメントペーパー(30%)、期末レポート(40%)を総合的に評価します。討論とコメントペーパーへのフィードバックは、翌週の授業で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

指定教科書はありません。

◆参考図書◆

授業の各回において参考文献を紹介します。

◆留意事項◆

授業回数の3分の2以上に出席した履修者を成績評価の対象者とします。

ナンバリング	CEL432S		
科目名	ポピュラー音楽研究C		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

劇場映画における「音楽」の役割を考察し、ポストプロダクションにおける映画音楽製作のプロセスと理論を学び、理解できる。

◆授業内容・計画◆

映画音楽制作過程で重要な「スポッティング(映像のどこから、どこまで、どのような音楽をどのように付けるかを決める作業)」に焦点をあて、基本的な技法、プリスコア・セッションを考察します。

1. 映画音楽の歴史
2. 映画音楽の種類
3. 映画音楽制作のプロセス
4. サウンドトラック
5. ミュージック・キューと転調
6. 映画音楽の理論的配置
7. 音楽の目的分析
8. 映画視聴とタイミングシート制作
9. 映画実作品の音楽分析(1)(前半)
10. 映画実作品の音楽分析(2)(後半)
11. 映画音楽の入る場所／入らない場所
12. 作品分析課題の実施(タイミングシートを完成させる)
13. 作品分析課題の実施(音楽目的を考える)
14. シナリオ分析
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題として課される課題を考察、研究し、授業にのぞむこと(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

映画音楽分析課題提出、及び授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「映画音楽の技法」音楽之友社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業では、映画分析課題が課され、映画を視聴する必要があります。

ナンバリング	CEL433S		
科目名	ポピュラー音楽研究D		
科目詳細			
担当教員	宮入 恭平		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ライブカルチャーをととして、ポピュラー音楽が日本および海外の社会、経済、政治や文化とどのようにかかわっているのかについて理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション
2. 「メディア」ライブ概念
3. 「産業」文化産業がつくるポピュラー音楽
4. 「教育」教育に取り込まれたポピュラー音楽
5. 「社会」ポピュラー音楽との接しかた
6. 「法律」ポピュラー音楽と法律の関係
7. 「政治」ポピュラー音楽に含まれる政治性
8. 「アイデンティティ」アイデンティティとしてのポピュラー音楽
9. 「アイドル」アイドルの位置づけ
10. 「アニソン」席卷するアニソン
11. 「ツーリズム」ポピュラー音楽と観光の関係
12. 「ライブハウス」ポピュラー音楽のパフォーマンス空間
13. 「ストリート」オルタナティブなポピュラー音楽シーン
14. 「フェス」音楽と政治の関係
15. 「レジャー」レジャーとしてのポピュラー音楽

◆準備学習の内容◆

事前に教科書を読んでおいてください。

◆成績評価の方法◆

リアクション(授業内に実施)と学期末レポート(最後の授業時間に提出)から評価します。
課題については、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ライブカルチャーの教科書』宮入恭平著(青弓社)

◆参考図書◆

『コンクール文化論』宮入恭平、ほか編著(青弓社)
『音楽と政治』宮入恭平著(人文書院)
『J-POP文化論』宮入恭平著(彩流社)
『発表会文化論』宮入恭平編著(青弓社)
その他、授業中に紹介します。

◆留意事項◆

成績評価は授業への出席を前提とします。

ナンバリング	CEL434S		
科目名	ポピュラー音楽研究E		
科目詳細			
担当教員	早坂 牧子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

ミュージカルの歴史的背景と、現代にいたる代表的作品について基本的な知識を得る。ミュージカル作品における音楽の役割とスタイルについて理解し、作曲家・作詞家がどのような意図をもって、どのような音楽的表現により、いかなる劇的効果を生み出そうとしているか、これが歴史的にどのような変遷をたどって来たか、考察する。

◆授業内容・計画◆

ミュージカル研究には様々な切り口がありますが、このコースでは特にその「音楽語法」に着目してミュージカルを読み解きます。舞台上で進行するストーリーやパフォーマンスにおける人物の感情、情景の「増幅装置」としての音楽に、どのような特徴と機能があるか、作品の視聴と分析を通じて考えます。授業で扱う作品は以下の予定です（変更可能性あり）：

1. ミュージカルのルーツ：オペレッタ、 minstrel・ショー、ヴォードヴィル
2. 黎明期の舞台：ティンパンアレイ、レヴュー、ブロードウェイ
3. カーン＆ロジャース&ハマーstein：「ショー・ボート」「オクラホマ！」
4. 1950年代MGM作品：「雨に唄えば」「バンドワゴン」
5. バーンスタインとミュージカル：「オン・ザ・タウン」「ウェストサイド・ストーリー」
6. ロック・ミュージカル：「ヘアー」「ジーズ・クライスト・スーパースター」
7. ソンドハイム：「カンパニー」「太平洋序曲」「ジョージの恋人」「スウィーニー・トッド」「イントウ・ザ・ウッズ」
8. ロイド＝ウェーバー：「オペラ座の怪人」「キャッツ」「エビータ」
9. スティーヴン・シュワルツ：「ゴッドスベル」「ウィキッド」
10. ディズニー発ミュージカルとアラン・メンケン：「アラジン」「ノートルダムの鐘」
11. クロード＝ミシェル・シェーンベルク&アラン・プーブリル「レ・ミゼラブル」、 「ミス・サイゴン」
12. ウィーン・ミュージカル：「エリザベート」「モーツァルト！」
13. アメリカ社会を映し出すミュージカルの音楽語法：ジョナサン・ラーソン「レント」、リン＝マニエル・ミランダ「ハミルトン」
14. 日本のミュージカルとこれから
15. まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

理解を深めるために、授業で扱う作品のあらすじや、作曲家の背景を調べ、楽曲を一部でもよいから動画サイトなどを利用して見ておくことを推奨する。

◆成績評価の方法◆

各授業で提出してもらえレスポンス・シート、期末レポートによって総合的に評価する。提出物に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業で使用する授業スライド含め、参考資料は随時配布する。

◆参考図書◆

小山内伸、『ミュージカル史』。東京：中央公論新社、2016年。
重木昭信、『音楽劇の歴史：オペラ・オペレッタ・ミュージカル』。東京：平凡社、2019年。
宮本直美、『ミュージカルの歴史—なぜ突然歌いだすのか』。東京：中公新書、2022年。
Knapp, Raymond, Mitchell Morris, and Stacy Wolf, eds. The Oxford Handbook of the American Musical. New York: Oxford University Press, 2011.
McMillin, H. Scott. The Musical as Drama. Princeton, NJ: Princeton University Press, 2006.
その他、関連図書やオンライン上の資料を随時紹介する。

◆留意事項◆

・授業で扱う作品は変更することがある。
・病気、実習等で公欠の際も、授業スライド・参考動画資料をもとに自習の上、レスポンス・シートを提出することを前提とする（提出期限は融通する）。

ナンバリング	CEL435S		
科目名	ポピュラー音楽研究F		
科目詳細			
担当教員	早坂 牧子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

宝塚歌劇の歴史的展開を概観し、日本発エンターテインメントとしての独自性を、音楽的特徴から考察する。歌唱法、音楽のスタイルと機能、借用に着目し、オペレッタ、ミュージカル、レビューといった西洋の大衆音楽文化と、昭和歌謡、J-Popなどの日本の大衆音楽文化が融合した、特異な音楽劇ジャンルとしての宝塚の位置づけを理解する。

◆授業内容・計画◆

宝塚歌劇は、女性のみで演じられるというジェンダー的特徴がフォーカスされがちですが、その音楽的劇作法には、西洋と日本の大衆音楽文化の独自の融合を見ることができます。この授業では、「音楽の仕掛け」をテーマに、主に1980年代後半～2000年までの公演作品の鑑賞と分析を通じて、「音楽劇」としての宝塚歌劇は大衆音楽史の中にいかに位置づけられるのか、またその音楽がどのように作られ、宝塚の商業エンターテインメントとしての成功に寄与してきたかを考えます。

1. 宝塚歌劇史外観：日本初のレビューから社会現象へ
2. レビューの形式：《ザ・レビューII》
3. レビューの形式：《ル・ポアゾン》
4. 昭和の複合音楽エンタメとしての宝塚歌劇：「ベルサイユのばら」(1)
5. 昭和の複合音楽エンタメとしての宝塚歌劇：「ベルサイユのばら」(2)
6. 1990年代のショー：《ミリオン・ドリームズ》
7. ドラマを語らせる音楽作劇：「風と共に去りぬ」
8. ダンスと音楽：「ジャンクション24」
9. 宝塚とジャズ：「ブラック・ジャック」
10. 多様な借用：「PUCK」
11. 歌われるレビュー：「コート・ダ・ジュール」
12. 翻案ミュージカル：「エリザベート」
13. オリジナル作品：「あかねさす紫の花」
14. 日米共作作品：「NEVER SAY GOODBYE」
15. 個人発表、まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

動画サイトなどを利用して、宝塚の舞台映像に親しんでおくことを勧める。

◆成績評価の方法◆

各授業で提出してもらうレスポンス・シート、期末レポートによって総合的に評価する。提出物に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で使用する参考資料は随時配布する。

◆参考図書◆

関連図書やオンライン上の資料を随時紹介する。

◆留意事項◆

授業で扱う作品は大幅に変更することがある。
病気、実習等で欠欠の際も、授業スライド・参考動画資料をもとに自習の上、レスポンス・シートを提出することを前提とする(提出期限は融通する)。

ナンバリング	CEL234U		
科目名	楽器学概説A		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

世の中の楽器をその発音の仕組みから体系的に理解し、自ら考えて分類できるようになる。

◆授業内容・計画◆

作曲家や演奏家の頭の中に存在する音楽イメージを音として具体化するにおいて、楽器の位置づけは重要である。楽器の発展と進化により、様々な時代で世界中で音楽は様々な進歩した。本講義では、楽器の特徴をホルンボステル―ザックスによる分類法に基づき、楽器の特徴を正しく理解し、科学的かつ俯瞰的な観点から楽器を総合的に理解できることを目標とする。

- 1.概要と楽器の分類
- 2.気鳴楽器とは
- 3.気鳴楽器の仕組み
- 4.気鳴楽器の具体例
- 5.弦鳴楽器とは
- 6.弦鳴楽器の仕組み
- 7.弦鳴楽器の具体例
- 8.膜鳴楽器とは
- 9.膜鳴楽器の仕組みと具体例
- 10.体鳴楽器とは
- 11.体鳴楽器の仕組みと具体例
- 12.電鳴楽器とは
- 13.電鳴楽器の仕組みと具体例
- 14.用語のまとめと近年の動向
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

次の授業までに、教科書を読みながらキーワードを理解し、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。自らの興味だけでなく、学問として楽器を俯瞰的に眺めるため、様々な楽器について興味を持つように努めること。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートの実施状況と授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。毎回のワークシートについては適宜フィードバックを行なう。

◆教科書(使用テキスト)◆

柳田益造編,「楽器の科学」ソフトバンククリエイティブ社(2013)

◆参考図書◆

授業中に適宜指示する

◆留意事項◆

Google Classroomを用いたレポート提出を伴う。レポートが期限内に提出されない場合は欠席となるので注意が必要である。また、授業内容と受講生の人数に応じて、楽器学資料館の見学を実施することがある。また簡単な楽器制作を行なう可能性もある。「楽器学概説B」を受講することで、科学的な分析と計測について体験することができる。

ナンバリング	CEL235U		
科目名	楽器学概説B		
科目詳細	学芸員選択必修(オムニバス形式)		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

弦管打楽器の発音原理と構造, 分類について理解できる。弦管打楽器の歴史的変遷や地理的分布について理解できる。弦管打楽器による合奏の諸形態と効果について理解できる。弦管打楽器やその合奏による楽曲を知り, その特徴を理解できる。

◆授業内容・計画◆

複数の教員によるオムニバス形式で実施する。

- 1.弦管打楽器の概観
- 2.管楽器(気鳴楽器)
- 3.木管楽器1: フルートの仲間(エア・リード楽器)
- 4.木管楽器2: オーボエ・クラリネットなどの仲間(リード楽器)
- 5.金管楽器: ラッパの仲間
- 6.弦楽器1: 音が持続する楽器
- 7.弦楽器2: 音が減衰する楽器
- 8.打楽器1: 太鼓
- 9.打楽器2: その他の打楽器
- 10.楽器の計測例
- 11.弦管打楽器の文化史1(古代～ルネサンス)
- 12.弦管打楽器の文化史2(バロック・古典派)
- 13.弦管打楽器の文化史3(19世紀以降)
- 14.全体討論とフィードバック
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

楽器学資料館や各種音源などを活用し、毎回の授業内容で取り上げる楽器についてあらかじめ親しんでおくこと。

◆成績評価の方法◆

期末レポート、毎回のコメントシートなどにより総合的に評価する。コメントシートは適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜プリントを配布する。

◆参考図書◆

適宜授業で紹介する。

◆留意事項◆

集中講義期間に実施するため、各自スケジュールの調整を行なうこと。複数の教員によるオムニバス形式であるため、各回の実施状況は教員のやり方に従う。「楽器学概説A」を併せて受講することで、楽器の構造に関する基礎を学ぶことができる。

ナンバリング	CEL236U		
科目名	楽器学概説C		
科目詳細	学芸員選択必修(前半前島・後半早稲田)		
担当教員	早稲田 みな子, 前島 美保		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

1. 20世紀から21世紀にかけての急速な社会の変化の中で、世界各地の楽器がどのような過程を経て現在に至っているのかを学びます。
 2. 情報共有化とグローバル化という視点からは見えないかもしれない各国各地域の楽器の特徴を通して、楽器の世界の奥深さを確認します。
 3. 各地の人々の音に対するこだわりを探究します。4. 事例を通して、楽器に関する問題意識を感じる力を養います。

◆授業内容・計画◆

前半7回は前島が、後半7回は早稲田が担当します。

まず日本の楽器のこだわりの世界を確認し、続いて世界各地の代表的な楽器やユニークな楽器などを紹介します。それぞれの楽器の特徴や、楽器に対する人々の思い入れを通して、人間と楽器のさまざまなつきあい方を考え、認識する機会にしたいと思います。

1～7回: 前島担当

- 1) イントロダクション
- 2) 日本1: 吹き物(管楽器)
- 3) 日本2: 弾き物(絃楽器)
- 4) 日本3: 打ち物(打楽器)
- 5) 東アジア・東南アジア
- 6) 南アジア・西アジア
- 7) 楽器学資料館見学1: アジアの楽器を中心に

8～14回: 早稲田担当

- 8) イントロダクション
- 9) ブラック・アフリカ
- 10) アフリカ・ディアスポラ
- 11) 先住民: 南北アメリカ、日本、その他
- 12) ヨーロッパ
- 13) 楽器の伝播
- 14) 楽器学資料館見学2: アジア以外の地域の楽器
- 15) まとめと評価

楽器学資料館見学を含め、授業の順番や内容は変更になる可能性もあります。

◆準備学習の内容◆

事前に提示されるテーマやキーワードがある場合には、参考図書やインターネットを活用して予習してください。準備学習に必要な時間は、週1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業への参加姿勢、取り組み、各回のレスポンスシートを総合して評価します。提出物には随時、フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

資料を随時配付します。

◆参考図書◆

参考資料は授業時間中に紹介します。

◆留意事項◆

楽器学資料館の公開講座や「楽器の10分講座」(https://www.gs.kunitachi.ac.jp/ja/event_topics/)などを積極的に利用して、楽器の知識と経験を増やすことを心がけてください。

ナンバリング	CEL237U		
科目名	楽器学概説D		
科目詳細	学芸員選択必修(オムニバス形式)		
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1.過去に人々がどのような楽器を使って音楽活動を行い、現在私たちが使っている楽器とどのような結びつきがあるのかということに主眼を置いて学びます。2. 無関係に思われる遠い過去の事例が私たちと何らかの形でつながっていることもあり得ます。紹介する楽器を身近な存在として認識し、楽器の将来を展望します。 3. 人間が古代から音楽活動に使ってきたさまざまな楽器について考察するための基礎的分析力を得ることもめざします。

◆授業内容・計画◆

各回は担当者が異なるオムニバスの形で実施します。

- 1 楽器の存在意義を考える:横井雅子
- 2 楽器の基礎知識:早稲田みな子
- 3 楽器の歴史 ヨーロッパ ルネサンス・バロック(鍵盤):大塚直哉
- 4 楽器の歴史 ヨーロッパ ルネサンス・バロック(弦楽器):坪田一子
- 5 楽器の歴史 ヨーロッパ ルネサンス・バロック(管楽器):菊池奏絵
- 6 過去の世界の楽器:古代世界(1)ギリシア・ローマ:高久暁
- 7 過去の世界の楽器:古代世界(2)西アジア:鈴木麻菜美
- 8 過去の世界の楽器:古代世界(3)南アジア:丸山洋司
- 9 過去の世界の楽器:古代世界(4)東アジア①:植村幸生
- 10 過去の世界の楽器:古代世界(5)東アジア②:宮田まゆみ
- 11 失われた音を求めて:楽器の復元(1)ヨーロッパ:太田垣至
- 12 失われた音を求めて:楽器の復元(2)日本:宮田まゆみ
- 13 失われた音を求めて:楽器の改良と未来:三浦雅展
- 14 見学:楽器学資料館:早稲田みな子
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業回ごとに担当教員が異なるため、異なる方式で課題や予習が課せられる可能性があります。常に担当教員からの連絡を確認して取り組むようにしてください。準備学習に必要な時間は、各回につき1時間程度。

◆成績評価の方法◆

回により課題の方法が異なります。課題へのフィードバックはその回を担当した教員が行います。各回に提示された課題の評価を総合して成績を判定します。

◆教科書(使用テキスト)◆

回ごとに担当教員が必要に応じて指示します。

◆参考図書◆

参考資料は授業時間中に紹介します。

◆留意事項◆

楽器学資料館は空調がきつめですので、見学時には適宜、防寒対策をしてください。

ナンバリング	CES239S		
科目名	リトミック I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	中明 佳代, 佐藤 温子, 清水 あずみ		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した「音（聴覚）と動き（筋肉運動感覚）を関連づけた総合的な音楽教育」である。
音楽に敏感に反応し表現できる「身体」と「内的聴覚」そして「感性」を育てる。音楽の諸要素を身体の動き、空間と関連付け、楽譜を「感じて」演奏できる音楽能力を伸ばす。
また、グループワークをととして、表現力、創造力、アンサンブル能力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて
第2回 五感をつかう・聴覚とは？
自分のまわりの空間を意識する。
第3回 呼吸 身体の緊張と脱力
第4回 時間と空間とエネルギーの関係
第5回 声と動き 音と動き
第6回 即興表現(1) 声
第7回 即興表現(2) 打楽器
第8回 音楽の諸要素と身体活動(拍)
第9回 音楽の諸要素と身体活動(テンポ・ダイナミクス)
第10回 音楽の諸要素と身体活動(アナクルーシス)
第11回 音楽の諸要素と身体活動(拍子)
第12回 音楽の諸要素と身体活動(フレーズ)
第13回 音楽の諸要素と身体活動(旋律)
第14回 音楽諸要素と身体活動 (和声)
第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で得た「気づき」を自分の専攻分野、他の学科授業、術科授業とリンクさせ、応用していく姿勢を望む。目安30分(試験課題の練習など)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、定期試験、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布

◆参考図書◆

「ダルクローズのリトミック」 エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳 (ドレミ出版社)
「体を楽器にした表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選」 神原雅之編著 (明治図書)
「窓際のトットちゃん」黒柳徹子 (講談社文庫)
「トットちゃんの先生 小林宗作抄伝」佐野和彦(話の特集)
「リズム・インサイド」 神原雅之編著
「リトミック・芸術と教育」E.J＝ダルクローズ(全音楽譜出版社)
「エミール・ジャック＝ダルクローズ」フランクマルタン(全音楽譜出版社)
「リトミック研究の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)
「リトミック実践の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	CES240S		
科目名	リトミックⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	中明 佳代, 佐藤 温子, 清水 あずみ		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

リトミックIで学んだことをさらに深める。

音楽(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)の関連性をさらに深め、音楽に敏感に反応する「筋肉運動感覚」と「内的聴覚」を育てる。

グループワークを通して、表現力、創造力、アンサンブル能力を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 I の復習
- 第3回 アナクルーシスとクルーシス
- 第4回 拍の細分化
- 第5回 バイナリービートとターナリービート
- 第6回 拍子(1) 等拍拍子
- 第7回 拍子(2) 不等拍拍子
- 第8回 休符 休止
- 第9回 補足リズム
- 第10回 クロスリズム 2対3 3対4
- 第11回 音楽作品の視覚化、身体化
- 第12回 音から動き 動きから音 グループ創作(1) レパートリー研究
- 第13回 音から動き 動きから音 グループ創作(2) 作品分析
- 第14回 音から動き 動きから音 グループ創作(3) 空間構成
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で得た「気づき」を、自分の専攻分野、他の学科授業、術科授業とリンクさせ。応用していく学習姿勢をのぞむ。目安30分(試験課題の練習など)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてその都度フィードバックするとともに、課題の発表、定期試験、レポートなどから総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を配布

◆参考図書◆

リトミック参照

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足可)で受講すること

ナンバリング	CES243U		
科目名	ボディーテクニック I		
科目詳細			
担当教員	楠原 竜也		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「自己の身体」との対話だけでなく、「他者の身体」との対話も行ない、固定観念に縛られない柔軟な身体と心、そして頭(思考)を身につけ、表現の基礎として必要な身体表現を習得することができる。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ダンス・コミュニケーション(1) 基礎
3. ダンス・コミュニケーション(2) 発展
4. ダンス・コミュニケーション(3) 応用
5. 自己の身体との対話(1) 身体、集中
6. 自己の身体との対話(2) 感覚
7. コンタクト・ワーク(他者の身体との対話)(1) 預ける、支える
8. コンタクト・ワーク(2) 押し合う、引き合う
9. コンタクト・ワーク(3) 転がる
10. コンタクト・ワーク(4) 乗る
11. コンタクト・ワーク(5) 接触、非接触
12. コンタクト・ワーク(6) コンビネーション① 基礎
13. コンタクト・ワーク(7) コンビネーション② 応用
13. コンタクト・ワーク(10) ジャムセッション① 基礎
14. コンタクト・ワーク(11) ジャムセッション② 応用
15. フィードバック

◆準備学習の内容◆

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態であって授業に臨めるように常に身体のケア、けがへの留意を行うこと。(目安:日15分程度)

授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。(目安:週30分程度)

自分の身体の中で何が起きているかを自分なりの言葉で整理してくること。(目安:週30分程度)

◆成績評価の方法◆

授業への参加度(積極性・態度)80%

受講レポート20%

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて資料を適宜配布する。

◆参考図書◆

必要に応じて参考図書を適宜紹介する。

◆留意事項◆

全身運動ができる服装、素足で参加すること。前髪などが気にならないように髪の毛をまとめておくこと。

定員20名とする。

履修者の学修状況によって各テーマが前後する等、シラバス通りに展開しない場合もある。

将来教職に就く予定者、身体表現を伴った教えに進む者など、教育関係に関心のある者にとっても有効な授業である。

頭で考える前にまず動いてみましょう。そして、個人個人の持つ表現能力をあらゆる手段で発見しましょう。

ナンバリング	CES244U		
科目名	ボディーテクニックⅡ		
科目詳細			
担当教員	楠原 竜也		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

ボディテクニックⅠで学修したことを踏まえつつ、テーマに沿ってインプロヴィゼーションを行ない、そこから生まれた動きを構成し、ダンス作品がどのようにできあがっていくかを実践を通して学ぶことができる。ソロやデュオ、グループ作品へと発展させることができる。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 解放 動きのボキャブラリーの発明
3. 創作(1) 身体と動き(ボディ&アクション)
4. 創作(2) 時間性・力性(ダイナミクス)
5. 創作(3) 空間性(スペース)
6. 創作(4) 関係性(リレーションシップ)① デュオ
7. 創作(5) 関係性(リレーションシップ)② デュオ創作
8. 創作(6) 関係性(リレーションシップ)③ グループ
9. 創作(7) 関係性(リレーションシップ)③ グループ創作
10. 創作(8) 造形からのアプローチ① 感覚のスケッチ
11. 創作(9) 造形からのアプローチ② ソロ創作
12. 創作(10) 造形からのアプローチ③ グループ創作
13. ジャムセッション(1) 基礎
14. ジャムセッション(2) 応用
15. フィードバック

◆準備学習の内容◆

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態授業に臨めるように常に身体のケア、けがへの留意を行うこと。(目安:日15分程度)

授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。(目安:週30分程度)

自分の身体の中で何が起きているかを自分なりの言葉で整理してくること。(目安:週30分程度)

◆成績評価の方法◆

授業への参加度(積極性・態度)80%

受講レポート20%

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。必要に応じて資料を適宜配布する。

◆参考図書◆

必要に応じて参考図書を適宜紹介する。

◆留意事項◆

全身運動ができる服装、素足で参加すること。前髪などが気にならないように髪の毛をまとめておくこと。

定員20名とする。

履修者の学修状況によって各テーマが前後する等、シラバス通りに展開しない場合もある。

将来教職に就く予定者、身体表現を伴った教えに進む者など、教育関係に関心のある者にとっても有効な授業である。

頭で考える前にまず動いてみましょう。そして、個人個人の持つ表現能力をあらゆる手段で発見しましょう。

ナンバリング	CES449U		
科目名	即興演奏法 I		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-B	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

リトミックを創案した音楽教育家・作曲家であるエミール・ジャック＝ダルクローズ(1865～1950)は、音楽(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)の関連に着目し、「即興」を音楽教育および人間教育における大切な要素として位置づけている。その思想に基づき、楽譜に頼らず、自らが音楽となり、表現すること、コミュニケーションツールとしての音楽を「即興」とおして体験することを目標とする。ピアノを主な表現媒体とするが、専攻楽器での即興、声や打楽器での即興、動きの即興も積極的に取り入れていく。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 即興について
2. 音楽で自己紹介 (ピアノ、専攻楽器etc)
3. 2台ピアノでの対話 (リズムを中心に)
4. 2台ピアノでの対話 (メロディを中心に)
5. 2台ピアノでの対話 (音のイメージを中心に)
6. 様々な音程による即興演奏 (完全5度、完全4度)
7. 様々な音程による即興演奏 (長2度、短2度)
8. 様々な音程による即興演奏 (3度、6度、7度)
9. コードネームによる即興演奏 (例曲からのピアノソロ即興)
10. コードネームによる即興演奏 (例曲からのピアノデュオ即興)
11. 動きと音楽の即興
12. ことばと音楽の即興
13. 絵と音楽の即興
14. 課題の発表
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で体験した様々な即興を自ら反復、展開し、十分に練習しておくこと。
課題の準備をしておくこと。
(目安あわせて1時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについて、その都度フィードバックするとともに、課題の発表、定期試験などを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES450U		
科目名	即興演奏法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-B	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

即興演奏法Ⅰで学んだことをさらに深める。色々な音素材を用いた即興を体験することにより、自身の音楽のボキャブラリーを増やしていく。色々なスタイルの即興を通して、豊かな自身の演奏能力、表現能力の向上へとつなげていく。

◆授業内容・計画◆

1. 前期の振り返り
2. ポエムに音をつける
3. 絵本に音をつける
4. コードネームからの即興演奏（例曲をつかって）
5. コードネームからの即興演奏（創作してみよう）
6. 教会旋法をつかった即興（ドリア旋法）
7. 教会旋法をつかった即興（フリギア旋法、リディア旋法）
8. 教会旋法をつかった即興（ミクソリディア旋法）
9. 様々な音階をつかった即興（日本の音階の導入）
10. 様々な音階をつかった即興（日本の音階の発展）
11. イメージと即興演奏
12. フリースタイルの即興(1) デュオ
13. フリースタイルの即興(2) ソロ
14. フリースタイルの即興(3) グループ
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業内で体験した様々な即興を自ら反復、展開し、十分に練習しておくこと。
課題の準備をしてくること。
（目安あわせて1時間）

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについて、その都度フィードバックするとともに、課題の発表、定期試験などを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES453U		
科目名	モダンダンス I		
科目詳細			
担当教員	明尾 真弓		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

モダンダンステクニック(初級)の習得。ダンスの基礎を学ぶとともに、身体を自由に動かす喜び、音楽にのって動く喜びを感じ取る。

◆授業内容・計画◆

毎回、身体感覚の鋭敏化、関節可動域の拡大、効果的な呼吸法の習得のためストレッチやバーレッスンを行った後、立つ、歩く、回る、跳ぶといった基本的なテクニックを学ぶ。

- 1ーガイダンス
- 2ー体をほぐすストレッチ
- 3ー基本となる姿勢をとってみようー真直ぐに立つ
- 4ー足の基本ポジションー1番ポジション～5番ポジション
- 5ーダンスウォーキング①つま先から歩こう
- 6ーダンスウォーキング②手の動きもつけて歩こう
- 7ー四拍子の移動①足の動きに注意して
- 8ー四拍子の移動②上体の動きを加えよう
- 9ー三拍子の移動①強弱を意識して
- 10ー三拍子の移動②軌跡を変えながら
- 11ー目が回らないように回ろう
- 12ー移動しながら回ろう
- 13ー空中で舞う①小さなジャンプ
- 14ー空中で舞う②大きなジャンプ
- 15ーまとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業のなかで行うストレッチや筋力トレーニングを20分前後、毎日継続して行う。
授業前には、前回取り上げた内容を復習し、授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、実技試験(目標の達成度合い)などにより総合的に成績評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

動きやすく柔らかい素材の服装に更衣すること。

ナンバリング	CES454U		
科目名	モダンダンスⅡ		
科目詳細			
担当教員	明尾 真弓		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「モダンダンスI」(前期)を発展させる。後半は創作に取り組み、表現者、教育者として必要な想像力、創造力をさらに磨いていく。

◆授業内容・計画◆

前期に準ずる。基礎テクニックの習得と並行して前期より一歩進め、組み合わせ、フレーズ化した動きにも挑戦する。後半は小グループに分かれて、テーマ、音楽なども自由に選び小作品を創作し、クラス発表会をする。

- 1ーガイダンス・前期の復習
- 2ー振付を覚えて踊ってみよう①前半部分を覚える
- 3ー振付を覚えて踊ってみよう②復習
- 4ー振付を覚えて踊ってみよう③後半部分を覚える
- 5ー振付を覚えて踊ってみよう④復習
- 6ー振付を覚えて踊ってみよう⑤数人でお互いの動きをチェックしながら練習する
- 7ー振付を覚えて踊ってみよう⑥まとめ
- 8ーDVD鑑賞①映像からモダンダンスの理解を深める 前半
- 9ーDVD鑑賞②後半
- 10ー創作①グループを決め、テーマを決める
- 11ー創作②テーマに沿って選曲する
- 12ー創作③テーマに沿った動きを見つける
- 13ー創作④構成を考えながら仕上げていく
- 14ー創作⑤クラス発表会
- 15ーまとめ

◆準備学習の内容◆

授業のなかで行うストレッチや筋力トレーニングを20分前後、毎日継続して行う。
振付られた動きを復習し授業に臨む。
作品創作では授業中に創作作業がスムーズに進行するように必要な準備をして授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

課題についてレッスン中にフィードバックするとともに、平常の授業への取り組み、実技試験などにより総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

動きやすく柔らかい素材の服装に更衣すること。

ナンバリング	CES455U		
科目名	ヒストリカルダンスⅠ		
科目詳細			
担当教員	八幡 顕光		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ヒストリカルダンスとは、主にルネサンス、バロック及びロココ時代の宮廷舞踊を指し、クラシック・バレエや社交ダンスのルーツになったダンスであり、それらは当時のダンス教師が書き残した舞踏譜や理論書によって再現できる。授業では、メヌエットやガヴォットなどバロック時代のダンスを中心に、日頃、演奏や鑑賞を通して関わっている舞曲を実際に踊ってみる。歴史背景とともに、舞踏譜の読み方の基礎を学ぶ。また、ヒストリカル・ダンスのテクニックに必要な身体の柔軟性を養うためのストレッチなども行う。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ルネサンスダンスから＜パヴァーヌ＞
3. バロックダンスの歴史的背景
4. バロックダンスのテクニック
5. ＜ブレ＞のステップ
6. ＜メヌエット＞のステップ
7. ＜ブレ＞舞踏譜の読み方
8. まとめ（第1回～第7回）
9. ＜メヌエット＞のステップと歴史的背景
10. ＜メヌエット＞のフィギュア（その1）と音楽との関連性
11. ＜メヌエット＞のフィギュア（その2）とエスコートやお辞儀など、フランス貴族スタイルについて
12. ＜ガヴォット＞のステップ
13. まとめ（第9回～第12回）
14. コントルダンス
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・バロック時代の作品だけでなく様々な様式における舞曲を鑑賞してみる。（目安：週1～2回 30分）
- ・教科書に記載されているQRコードを通して、動画を視聴しながらステップの予習・復習を行う。（目安：週2～3回 30分）
- ・プレスとともに身体をしなやかに使えるよう、ストレッチやバロックダンスに生きるウォーミングアップ（授業内でも取り上げる）を練習する。（目安：毎日10分）

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、ダンス実技発表、レポート等から、総合的に評価する。
発表についてのコメントをはじめ、授業内で、学生にフィードバックを行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

浜中康子著『舞曲は踊る ―バツハを弾くためのバロック・ダンス入門―』（音楽之友社）

◆参考図書◆

授業時に、随時紹介する。

◆留意事項◆

動きやすい服装とシューズ。（初回に説明します）
半期単位の授業であるが、授業内容はⅠからⅡへ発展的に計画されているため、継続して受講することが望ましい。

ナンバリング	CES456U		
科目名	ヒストリカルダンスⅡ		
科目詳細			
担当教員	八幡 顕光		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期の授業(ヒストリカルⅠ)を踏まえて、バロック時代のダンスを中心に、基本的なステップの練習をさらに発展させ、舞曲の種類もサラバンドやジグなどレパートリーを広げる。舞踏譜の読み方実習をステップアップさせて、音楽と舞踊(動き)との関連性や様式について探求し、舞曲への理解を深める。また、19世紀の舞踏会で踊られた「カドリーユ」などを、J.シュトラウス二世の音楽に合わせて踊ってみる機会を作りたい。引続き、ヒストリカル・ダンスのテクニクに必要な身体の柔軟性を養うためのストレッチなども行う。

◆授業内容・計画◆

- 1.バロックダンスのテクニク
- 2.舞踏譜について
- 3.<ガヴォット>のステップとフィギュア
- 4.<ガヴォット>の振付作品を踊る
- 5.<サラバンド>のステップとフィギュア
- 6.<サラバンド>舞踏譜に基づいて
- 7.<サラバンド>ヘンデルの「Lascia ch'io pianga」
- 8.まとめ(第1回～第7回)
- 9.<ジグ>のステップ練習
- 10.<ジグ>のステップとフィギュア
- 11.<ジグ>舞踏譜に基づいて
- 12.19世紀<カドリーユ>の練習(1)
- 13.19世紀<カドリーユ>の練習(2)
- 14.まとめ(第9回～第13回)
- 15.仕上げそして評価

◆準備学習の内容◆

- ・バロック時代の作品だけでなく様々な様式における舞曲を鑑賞してみる。(目安:週1～2回 30分)
- ・教科書に記載されているQRコードを通して、動画を視聴しながらステップの予習・復習を行う。(目安:週2～3回 30分)
- ・プレスとともに身体をしなやかに使えるよう、ストレッチやバロックダンスに生きるウォーミングアップ(授業内でも取り上げる)を練習する。(目安:毎日10分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みに対しフィードバックするとともに、ダンス実技試験、レポート等から、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

浜中康子著『舞曲は踊るーバッハを弾くためのバロック・ダンス入門ー』(音楽之友社)

◆参考図書◆

授業時に、随時紹介する。

◆留意事項◆

動きやすい服装とシューズ。
半期単位の授業であるが、授業内容はIからIIへ発展的に計画されているため、継続して受講することが望ましい。

ナンバリング	VML409S		
科目名	オペラ史A		
科目詳細			
担当教員	中田 朱美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラの誕生から19世紀末までの流れを把握できる。それぞれの作品の音楽的特徴を説明できるようになる。響きの背景に、時代様式・成立事情・作品間の相関性・他の芸術ジャンルとの関連・社会的背景といったさまざまなコンテクストを考察することができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オペラの誕生：モンテヴェルディ《オルフェオ》
- 第2回 オペラの大衆化：《ボッペアの戴冠》
- 第3回 喜劇オペラの興隆：《奥様女中》、《フィガロの結婚》
- 第4回 ジングシュピールの系譜：《魔笛》、《フィデリオ》、《魔弾の射手》
- 第5回 歌唱法の展開、喜歌劇の系譜：《セヴィリヤの理髪師》
- 第6回 初期ロマン派オペラ①イタリア：ベッリーニ、ドニゼッティ
- 第7回 初期ロマン派オペラ②ドイツ：《魔弾の射手》
- 第8回 フランス・ロマン派オペラ「グランド・オペラ」：マイヤーベア《悪魔のロベール》、《ユグノー教徒》
- 第9回 ドラマトゥルギーとオペラ①：ヴェルディ
- 第10回 ドラマトゥルギーとオペラ②：《カルメン》
- 第11回 楽劇①：《トリスタンとイゾルデ》ほか
- 第12回 楽劇②：《ニュルンベルクのマイスタージンガー》
- 第13回 文学オペラ：《エヴゲーニイ・オネーギン》
- 第14回 期末試験
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

さまざまなメディアを通して、オペラに触れていきましょう。次の授業で扱うオペラのあらすじは、毎回予習しておいてください。各回の内容が、以降の授業内容の背景として言及されますので、復習も大切にしましょう。

◆成績評価の方法◆

成績は、出席率・授業への取り組み・小テスト(ないしレポート)を平常点として4割、期末試験の結果を6割とし、総合的に評価します。期末試験は「授業の配布資料のみ持ち込み、各人の手書きノートのみ可」とします。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、指示します。

◆参考図書◆

- ・『16人16曲でわかるオペラの歴史』加藤浩子(平凡社新書1016)、平凡社、2022年。
 - ・『新グローヴ オペラ事典』セイディ、スタンリー編 中矢一義、土田英三郎、日本語版監修、白水社、2006年。
 - ・『オペラとその象徴：モンテヴェルディからヴァーグナーまでの舞台表現』ドニントン、ロバート 佐竹淳訳、音楽之友社、1995年。
 - ・『世界史でたどる名作オペラ』西原稔 東京堂出版、2013年。
 - ・『オックスフォード・オペラ史』パーカー、ロジャー 大崎滋生訳、平凡社、1999年。
 - ・『オペラがわかる101の質問』ヘンツェ＝デーリング、ザビーネ、ジークハルト・デーリング 長木誠司訳、アルテスバブリッシング、2020年。
 - ・『新 イタリア・オペラ史』水谷彰良 音楽之友社、2015年。
- ほかは適宜、指示します。

◆留意事項◆

オペラは大規模なジャンルですので、作品解釈へのアプローチもさまざまです。対象となる作品との距離によって作品の理解も変わってきますので、さまざまな問題意識と絡めつつ、できるだけたくさんのおペラに触れる機会を持ちましょう。このオペラ史Aと、隔年で開講されるオペラ史Bで、ジャンルの誕生から20世紀中葉までのオペラ史を通観します。

ナンバリング	VML412S		
科目名	宗教音楽史B		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-211	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や		

◆授業目標◆

西洋伝統音楽のレパートリーの重要な部分を占めるキリスト教音楽について、最終的には独学できるよう、必要最低限の知識とノウハウを身に付ける。

◆授業内容・計画◆

【レクイエムとクリスマスの音楽】

キリスト教音楽の様々なジャンルのうち、レクイエム(鎮魂曲)およびキリスト降誕を祝う音楽の二つに焦点を当て、その歴史を跡づけます。実例から学んでいく方法をとります。音楽史に残る名曲を鑑賞しつつ、それらの形式の根底にある思想や先行作品の影響を逐一確認します。

1. 導入:両ジャンルの教義的な事柄について
2. オケゲム《レクイエム》
3. シュッツ《音楽による葬送》
4. モーツァルト《レクイエム》
5. ブラームス《ドイツ語レクイエム》
6. フォーレ《レクイエム》
7. プリテン《戦争レクイエム》
8. ケルン大聖堂のクリスマス・ミサ(映像鑑賞)
9. 《アベ・マリア》
10. パストラーレ
11. マニフィカト
12. J.S. バッハ《クリスマス・オラトリオ》
13. ヘンデル《メサイヤ》第1部
14. クリスマス・キャロル
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽に限らず、広くキリスト教やその文化に関する本を読む(週1冊)。わからないことがあったらどしどし質問して下さい。

◆成績評価の方法◆

対面の場合:授業内課題(リアクションペーパー)20%、学期末試験80%
前者については授業内で応答し、後者については試験終了後に解答を配布します。
オンラインの場合:毎回の課題100%。次の回の際に講評を行います。
学期の途中で形式が変わった場合は、状況に応じて、また、学生と相談の上、判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

『CDで聴くキリスト教音楽の歴史 名曲解説・歌詞対訳』Ⅰ、Ⅱ、日本キリスト教団出版局、2001年。
金澤正剛『キリスト教音楽の歴史 初代教会からJ.S. バッハまで』、日本キリスト教団出版局、2005年。
相良憲昭『音楽史の中のミサ曲』、音楽之友社、1993年。
井上太郎『レクイエムの歴史:死と音楽との対話』、河出書房新社、2013年。
『宗教音楽対訳集成』井形ちづる、吉村恒訳・編、国書刊行会、2007年。

◆留意事項◆

通史的な知識は、上記の参考図書を自習して補って下さい。また、聖書は自習のために一冊所有しておいて下さい。

ナンバリング	KBL426S		
科目名	鍵盤音楽史A		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-211	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ウィーン古典派に至るまでの鍵盤音楽の歴史を理解し、主要な作曲家の作品について解説することができる。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 中世から16世紀までの鍵盤音楽(ドイツ、イタリア、イギリス、ネーデルランド)
3. 17世紀の鍵盤音楽(イタリア、フランス、ドイツ)
4. J.S.バッハ(1):オルガン作品
5. J.S.バッハ(2):クラヴィーア作品
6. 18世紀後半の鍵盤音楽
7. ウィーン古典派の鍵盤音楽
8. ハイドンの鍵盤音楽
9. モーツァルトの鍵盤音楽
10. ベートーヴェン(1)台頭期のピアノ・ソナタ
11. ベートーヴェン(2)実験期のピアノ・ソナタ
12. ベートーヴェン(3)ドラマ的ソナタ期のピアノ・ソナタ
13. ベートーヴェン(4)カンタービレ期～ロマン期のピアノ・ソナタ
14. ベートーヴェン(5)孤高期のピアノ・ソナタ
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で課題とされた作品のCDやDVDを鑑賞しつつ、関連文献で各曲の概要を調べておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

◆成績評価の方法◆

レポート及び平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業に必要な資料等を配布する。

◆参考図書◆

『鍵盤音楽の歴史』F.E.カービー、千蔵八郎訳(全音楽譜出版社)

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	SWL481S		
科目名	室内楽史A		
科目詳細			
担当教員	大矢 素子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

人はなぜ過去の音楽を学び続けるのか。また、本授業のテーマである＜室内楽＞とは、そもそもいったい何なのか。この授業により、＜室内楽＞というジャンルが現在のかたちに至るまで、どのように形づくられてきたのか、通史的に振り返ることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 室内楽とは
2. ルネサンス: 貴族文化と室内楽
3. バロックの室内楽: 通奏低音の役割
4. リュリに見られるフランス音楽の発展と室内楽
5. クーブランの室内楽
6. バッハの室内楽
7. ハイドンの室内楽
8. モーツァルトの室内楽1 ピアノ・ソナタほか
9. モーツァルトの室内楽2 弦楽四重奏曲ほか
10. ベートーヴェンの室内楽1 ピアノ三重奏曲ほか
11. ベートーヴェンの室内楽2 弦楽四重奏曲ほか
12. シューベルトの室内楽
13. シューマンの室内楽 文学と音楽
14. 発表会
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業で取り上げた作品については、できる範囲で楽譜を見て、より深い理解を心がけてほしい。

◆成績評価の方法◆

通常の授業への取り組みと、学期末のテストによって評価する。演奏などの発表をもって評価に代える場合もある。ただし、当初の指示は社会情勢に応じて変更される可能性がある。また、提示した課題に対し特筆すべき答案等があった場合は、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

とくになし

◆参考図書◆

Mark A. Radice, Chamber Music: An Essential History Ann Arbor: The University of Michigan Presse, 2012.

◆留意事項◆

*授業計画は状況により多少変化する可能性がある
また、その時の状況に応じ、授業の実施形態を変更する可能性がある。

ナンバリング	SWL483S		
科目名	管弦楽史A		
科目詳細			
担当教員	岡田 安樹浩		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

管弦楽曲のレパートリーを把握し、代表的な作曲家・作品を知り、その歴史的位置づけを理解する。

◆授業内容・計画◆

管弦楽曲というジャンルに属する楽曲は無限にあるが、まずは今日のオーケストラの演奏レパートリーを把握することが先決である。オーケストラの楽器を演奏する者は勿論のこと、ピアノその他を専門とするオーケストラや管弦楽曲に馴染みのない者も、各自の好みは脇においておき、知っておくべき作曲家、作品に触れることが必要である。この授業では、それらをできるだけ多く紹介しながら、その歴史的位置づけを解説する。また、特に重要な曲についてはスコアを検討し、楽曲分析的なアプローチも加えてゆく予定である。

第1回導入とガイダンス
 第2回「オーケストラ」の成立と「シンフォニー」の起源
 第3回古典派のシンフォニー1: ハイドンのシンフォニー
 第4回古典派のシンフォニー2: モーツァルトのシンフォニー
 第5回古典派からロマン派へ1: ベートーヴェンのシンフォニー1(第1番～第6番)
 第6回古典派からロマン派へ2: ベートーヴェンの序曲
 第7回古典派からロマン派へ3: ベートーヴェンのシンフォニー2(第7番～第9番)
 第8回古典派からロマン派へ4: シューベルトのシンフォニー
 第9回ロマン派のシンフォニー1: メンデルスゾーンの演奏会用序曲とシンフォニー
 第10回ロマン派のシンフォニー2: シューマンのシンフォニー
 第11回ベルリオーズの標題シンフォニー
 第12回リストの「交響詩」
 第13回ワーグナーのオペラ序曲／楽劇の前奏曲
 第14回19世紀中頃の管弦楽曲ジャンルの総括
 第15回まとめ

◆準備学習の内容◆

楽曲を聴き、スコアを研究する。

◆成績評価の方法◆

レポートの内容とそれに対するフィードバックで評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。

◆参考図書◆

大崎滋生『文化としてのシンフォニー1』 平凡社 2005年
 大崎滋生『文化としてのシンフォニー2』 平凡社 2008年
 エクトール・ベルリオーズ、リヒャルト・シュトラウス『管弦楽法』(広瀬大介訳、小鍛冶邦隆監修) 音楽之友社 2006年
 パウル・ベッカー『オーケストラの音楽史: 大作曲家が追い求めた理想の音楽』(松村哲哉訳) 白水社 2013年
 Manuel Gervink. Geschichte der Symphonie. Laaber 2016.
 Handbuch der musikalischen Gattungen, Bd. 1-3. Hrsg. von Siegfried Mauser. Laaber.

◆留意事項◆

ナンバリング	VML414S		
科目名	歌曲史B		
科目詳細			
担当教員	岡田 安樹浩		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

19世紀中頃以降の歌曲史の概略を把握し、各時代の特徴が分かるようになる。

◆授業内容・計画◆

19世紀中頃から20世紀中頃までの歌曲の歴史を、重要な作曲家・作品を中心に紹介する。

第1回 導入＆ガイダンス

第2回 19世紀中頃のリート美学の変化／リストとワーグナーのリート

第3回 19世紀後半のドイツ語圏(1):ブラームスのリート

第4回 19世紀後半のドイツ語圏(2):ヴォルフのリート

第5回 世紀転換期～20世紀前半のドイツ語圏(1):マーラーのリートとオーケストラ伴奏付き歌曲

第6回 世紀転換期～20世紀前半のドイツ語圏(2):R. シュトラウスのリートとオーケストラ伴奏付き歌曲

第7回 19世紀前半のフランス歌曲:ベルリオーズの「メロディ」

第8回 19世紀後半のフランス語圏:フォレ、デュパルクほかのメロディ

第9回 世紀転換期～20世紀前半のフランス語圏:ドビュッシーとラヴェル

第10回 19世紀後半～20世紀前半のスラヴ圏:ムソルグスキー、ドヴォジャーク、ヤナーチェクほか

第11回 20世紀前半～中頃(1):新ウィーン楽派(シェーンベルク、ウェーベルンほか)

第12回 20世紀前半～中頃(2):新古典主義の歌曲

第13回 20世紀前半～中頃(3):「6人組」、メシアンほか

第14回 20世紀中頃以降の歌曲

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で紹介した作品の楽譜や音源を各自でチェックすること。

◆成績評価の方法◆

レポートとそれに対するフィードバックで評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。

◆参考図書◆

ピエール・ベルナック『フランス歌曲の演奏と解釈』林田きみ子訳、音楽之友社、1987年。

ヴァルター・デュル『19世紀のドイツ・リート』喜多尾道冬訳、音楽之友社、1998年。

ヴァルター・デュル『声楽曲の作曲原理』村田千尋訳、音楽之友社、2009年。

フランソワ・ル・ルー／ロマン・レイナルディ『フランス歌曲の珠玉:深い理解と演奏のために』美山節子・山田兼士訳、春秋社、2009年

デニス・スティーブンス『歌曲の歴史』石田徹・美栄訳、音楽之友社、1986年

ヴァルター・ヴィオーラ『ドイツ・リートの歴史と美学』石井不二雄訳、音楽之友社、1973年。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL238N		
科目名	ジャズ入門		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時間	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかを理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

[1]ジャズとは
ジャズの表現方法
[2]ジャズの歴史とスタイルの変遷(1)
アーリージャズ～スイングジャズ
[3]ジャズの歴史とスタイルの変遷(2)
ビバップ～クールジャズ～ファンキージャズ
[4]ジャズの歴史とスタイルの変遷(3)
モードジャズ～フリージャズ～現代
[5]インプロヴィゼーションのための基礎知識(1)
リードシート・ソングフォーム等について
[6]インプロヴィゼーションのための基礎知識(2)
コードについて
[7]インプロヴィゼーションのための基礎知識(3)
スケールについて
[8]インプロヴィゼーションのための基礎知識(4)
Voicing とWalking Lineについて
[9]ジャズの実践(1)
コード・スケール・リックの練習方法
[10]ジャズの実践(2)
リズム訓練・トランスクリプト・アナリゼ
[11] ジャズの実践(3)
ジャズソルフェージュの実践
[12] ジャズアンサンブルの基礎演習(1)
ブルースを題材として
[13] ジャズアンサンブルの基礎演習(2)
スタンダードチューンを題材として
[14] ジャズアンサンブルの基礎演習(3)
イントロ・エンディングの技法
[15] ジャズアンサンブルの基礎演習(4)
ジャムセッションの実践

◆準備学習の内容◆

まずは「スタンダード・ソング」と呼ばれている楽曲を題材としたジャズの演奏を多く聴いてみましょう。そして好みの楽曲からそれを演奏している様々なアーティストのCDを聴き比べてみて下さい。また今現在活躍しているアーティストも含め、一人のアーティストが影響を受けたであろう別のアーティストへ、時代をさかのぼってその源流を探ることも重要です。編成、時代、スタイルにこだわらず、Jazzというジャンルにカテゴライズされた多くの演奏を知り、聴くことはジャズという音楽と接する第一歩となります。

◆成績評価の方法◆

期末レポート及び授業内での評価と出席状況
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリントを配付

◆参考図書◆

「The Jazz Theory Book」Mark Levine 著(ATN.inc.)
「ジャズの歴史」相倉久人 著(新潮新書)

◆留意事項◆

授業の中で実際に演奏することもあるので、可能な限り楽器を持参。

ナンバリング	CEL238N		
科目名	ジャズ入門		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかを理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] ジャズ理論と実践
ブルース (1)
- [2] ジャズ理論と実践
ブルース (2)
- [3] ジャズ理論と実践
ブルース (3)
- [4] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (1)
- [5] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (2)
- [6] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (3)
- [7] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (1)
- [8] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (2)
- [9] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (3)
- [10] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(1)
- [11] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(2)
- [12] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(3)
- [13] ジャズ・スタイル研究と実践
リハモナイズ
- [14] ジャズ・スタイル研究と実践
メトリック・モジュレーション
- [15] ジャズ・アンサンブル研究発表

◆準備学習の内容◆

まずは「スタンダード・ソング」と呼ばれている楽曲を題材としたジャズの演奏を多く聴いてみましょう。そして好みの楽曲からそれを演奏している様々なアーティストのCDを聴き比べてみて下さい。また今現在活躍しているアーティストも含め、一人のアーティストが影響を受けたであろう別のアーティストへ、時代をさかのぼってその源流を探ることも重要です。編成、時代、スタイルにこだわらず、Jazzというジャンルにカテゴライズされた多くの演奏を知り、聴くことはジャズという音楽と接する第一歩となります。

◆成績評価の方法◆

期末レポート及び授業内での評価と出席状況
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリントを配付

◆参考図書◆

「The Jazz Theory Book」Mark Levine 著(ATN.inc.)
「ジャズの歴史」相倉久人 著(新潮新書)

◆留意事項◆

授業の中で実際に演奏することもあるので、可能な限り楽器を持参。

ナンバリング	CEL239N		
科目名	ジャズ入門A		
科目詳細	2022年度以降入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時間	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかを理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1]ジャズとは
ジャズの表現方法
- [2]ジャズの歴史とスタイルの変遷(1)
アーリージャズ～スイングジャズ
- [3]ジャズの歴史とスタイルの変遷(2)
ビバップ～クールジャズ～ファンキージャズ
- [4]ジャズの歴史とスタイルの変遷(3)
モードジャズ～フリージャズ～現代
- [5]インプロヴィゼーションのための基礎知識(1)
リードシート・ソングフォーム等について
- [6]インプロヴィゼーションのための基礎知識(2)
コードについて
- [7]インプロヴィゼーションのための基礎知識(3)
スケールについて
- [8]インプロヴィゼーションのための基礎知識(4)
Voicing とWalking Lineについて
- [9]ジャズの実践(1)
コード・スケール・リックの練習方法
- [10]ジャズの実践(2)
リズム訓練・トランスクリプト・アナリゼ
- [11] ジャズの実践(3)
ジャズソルフェージュの実践
- [12] ジャズアンサンブルの基礎演習(1)
ブルースを題材として
- [13] ジャズアンサンブルの基礎演習(2)
スタンダードチューンを題材として
- [14] ジャズアンサンブルの基礎演習(3)
イントロ・エンディングの技法
- [15] ジャズアンサンブルの基礎演習(4)
ジャムセッションの実践

◆準備学習の内容◆

まずは「スタンダード・ソング」と呼ばれている楽曲を題材としたジャズの演奏を多く聴いてみましょう。そして好みの楽曲からそれを演奏している様々なアーティストのCDを聴き比べてみて下さい。また今現在活躍しているアーティストも含め、一人のアーティストが影響を受けたであろう別のアーティストへ、時代をさかのぼってその源流を探ることも重要です。編成、時代、スタイルにこだわらず、Jazzというジャンルにカテゴライズされた多くの演奏を知り、聴くことはジャズという音楽と接する第一歩となります。

◆成績評価の方法◆

期末レポート及び授業内での評価と出席状況
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリントを配付

◆参考図書◆

- 「The Jazz Theory Book」Mark Levine 著 (ATN.inc.)
- 「ジャズの歴史」相倉久人 著 (新潮新書)

◆留意事項◆

授業の中で実際に演奏することもあるので、可能な限り楽器を持参。

ナンバリング	CEL240N		
科目名	ジャズ入門B		
科目詳細	2022年度以降入学生		
担当教員	金子 健		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかを理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] ジャズ理論と実践
ブルース (1)
- [2] ジャズ理論と実践
ブルース (2)
- [3] ジャズ理論と実践
ブルース (3)
- [4] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (1)
- [5] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (2)
- [6] ジャズ理論と実践
ソングライターによる楽曲 (3)
- [7] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (1)
- [8] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (2)
- [9] ジャズ理論と実践
ジャズ・オリジナル (3)
- [10] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(1)
- [11] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(2)
- [12] ジャズ・スタイル研究と実践
ジャズ・コントラファクト(3)
- [13] ジャズ・スタイル研究と実践
リハモナイズ
- [14] ジャズ・スタイル研究と実践
メトリック・モジュレーション
- [15] ジャズ・アンサンブル研究発表

◆準備学習の内容◆

まずは「スタンダード・ソング」と呼ばれている楽曲を題材としたジャズの演奏を多く聴いてみましょう。そして好みの楽曲からそれを演奏している様々なアーティストのCDを聴き比べてみて下さい。また今現在活躍しているアーティストも含め、一人のアーティストが影響を受けたであろう別のアーティストへ、時代をさかのぼってその源流を探ることも重要です。編成、時代、スタイルにこだわらず、Jazzというジャンルにカテゴライズされた多くの演奏を知り、聴くことはジャズという音楽と接する第一歩となります。

◆成績評価の方法◆

期末レポート及び授業内での評価と出席状況
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でプリントを配付

◆参考図書◆

「The Jazz Theory Book」Mark Levine 著(ATN.inc.)
「ジャズの歴史」相倉久人 著(新潮新書)

◆留意事項◆

授業の中で実際に演奏することもあるので、可能な限り楽器を持参。

ナンバリング	CES501N		
科目名	西洋古楽アンサンブル入門Ⅰ		
科目詳細	西洋古楽アンサンブルAと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

バロック期の作品を題材とした古楽アンサンブルのレッスンを通じて、作曲当時の楽器や資料から学ぶことのできる奏法・歌唱法を体験し、各自の専門に生かす引き出しを増やす。

◆授業内容・計画◆

※バッハやヴィヴァルディ、テレマンのソナタ、イタリア古典歌曲やヘンデルのアリアなどバロック期の作品を題材に、古楽アンサンブルの基礎を体験する。後期開講の「西洋古楽アンサンブル入門Ⅱ」と連続した内容である。バロックヴァイオリン(大西)、フラウトラヴェルソ(菊池)、チェンバロとオルガン(大塚)の3名の教員が3クラスに分かれて、または合同でアンサンブルレッスンやレクチャーを行いながら進めてゆき、学期末にはクラス全体で発表会を行う。

※アンサンブルレッスンで対象となる楽器は、鍵盤楽器、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、ファゴット、リコーダー、ヴィオラ・ダ・ガンバ、声楽であるが、これ以外の楽器で参加可能な場合もあるので、希望する者はotsuka.naoya@kunitachi.ac.jpまで事前に問い合わせること。また、専攻生を同等の実力を持つ場合には、専攻生以外でも参加を認める。

※チェンバロ、バロックヴァイオリン、フラウト・トラヴェルソなど、大学にある古楽器を専攻生に体験してもらう機会を積極的に設ける。

※ほかの学生のレッスンの聴講を通して、自分の専攻以外の楽器の仕組みや表現方法、演奏習慣などについても積極的に理解を深めたい。

- 第1回 ガイダンス、「古楽」とは
- 第2回 通奏低音とは
- 第3回 バロック時代の声楽～《アマリリ》からレチタティーヴォへ
- 第4回 バロック時代の器楽～なぜ「古楽器」なのか
- 第5回 アンサンブルの曲決め
- 第6回 アンサンブルレッスン(1)(各自の曲について)楽譜の研究 前半
- 第7回 アンサンブルレッスン(2)(各自の曲について)楽譜の研究 後半
- 第8回 アンサンブルレッスン(3)(各自の曲について)作曲者の時代の演奏習慣を意識して
- 第9回 アンサンブルレッスン(4)(各自の曲について)テンポ・拍節・リズムの研究
- 第10回 アンサンブルレッスン(5)(各自の曲について)音型、ハーモニー、通奏低音の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(6)(各自の曲について)相手の音をよく聴く・バランス
- 第12回 アンサンブルレッスン(7)(各自の曲について)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

アンサンブルごとに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と前期末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほか、試験時の演奏について最終回に3名の教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

ナンバリング	CES502N		
科目名	西洋古楽アンサンブル入門Ⅱ		
科目詳細	西洋古楽アンサンブルBと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

バロック期の作品を題材として古楽アンサンブルのレッスンを通じて、作曲当時の楽器や資料から学ぶことのできる奏法・歌唱法を体験し、各自の専門に生かす引き出しを増やす。

◆授業内容・計画◆

※バッハやヴィヴァルディ、テレマンのソナタ、イタリア古典歌曲やヘンデルのアリアなどバロック期の作品を題材に、古楽アンサンブルの基礎を体験する。前期開講の西洋古楽演奏アンサンブル入門Ⅰ(古楽アンサンブルの基礎)と連続した内容であるが、よりよいアンサンブルに向けて各自の技術や作品理解を深めることをⅡにおいては重視する。バロックヴァイオリン(大西)、フラウトラヴェルソ(菊池)、チェンバロとオルガン(大塚)の3名の教員が3クラスに分かれて、または合同でアンサンブルレッスンやレクチャーを行いながら進めてゆき、学期末にはクラス全体で発表会を行う。

※ピアノ専攻の学生はチェンバロを、ヴァイオリン専攻はバロックヴァイオリンを、フルート専攻はフラウトラヴェルソを、というように希望者には古楽器を体験する機会を作りたいが、現代楽器でアンサンブルに参加することも可能である。声楽、鍵盤楽器、管弦打楽器とも各自の専門性を生かして参加するのが望ましい。

※ほかの学生のレッスンの聴講を通して、自分の専攻以外の楽器の仕組みや表現方法、演奏習慣についても積極的に理解を深めたい。

- 第1回 ガイダンス、よりよいアンサンブルに向けて
- 第2回 古楽アンサンブルの基礎技術①～調律法、ピッチの問題の基礎を理解する～
- 第3回 古楽アンサンブルの基礎技術②～拍感、ダンスからくるリズム感について～
- 第4回 アンサンブルの曲決め
- 第5回 アンサンブルレッスン(1)楽譜の研究
- 第6回 アンサンブルレッスン(2)調律法、ピッチを意識した演奏の研究
- 第7回 アンサンブルレッスン(3)拍感、リズムを意識した演奏の研究
- 第8回 アンサンブルレッスン(4)和声、通奏低音を意識した演奏の研究
- 第9回 アンサンブルレッスン(5)相手の音をよく聴く
- 第10回 アンサンブルレッスン(6)様式感、形式感を意識した演奏の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(7)同時代の理論書を参考にした演奏の研究
- 第12回 アンサンブルレッスン(8)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

アンサンブルごとに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と学年末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほかに、試験時の演奏について最終回に3名の教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

ナンバリング	CCL438N		
科目名	西洋古楽研究B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-301(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

西洋古楽の本質をつかみ、演奏・鑑賞・研究の実践に役立つ知識を身に付ける

◆授業内容・計画◆

履修者それぞれが実技レッスンで取り組んでいる楽曲を題材に、作曲家や時代様式、楽器の歴史や特性を学ぶ。実技で扱わないが必要な知識については、適宜補う。最終的には、各発表会における曲目解説で、充実した内容を執筆することを目標とする。

1. 導入:リサーチ方法および参考文献の紹介
2. 作品の基本情報
3. 曲の内実の紹介① 学生グループA
4. 曲の内実の紹介② 学生グループB
5. 作曲家と時代様式 学生グループA
6. 作曲家と時代様式 学生グループB
7. 楽器の特性 学生グループA
8. 楽器の特性 学生グループB
9. 演奏解釈 学生グループA
10. 演奏解釈 学生グループB
11. 曲目解説①草稿の検討 学生グループA
12. 曲目解説②草稿の検討 学生グループB
13. 曲目解説③改訂版の検討 学生グループA
14. 曲目解説④改訂版の検討 学生グループB
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

発表準備、特に資料作り。週2時間程度。

◆成績評価の方法◆

発表と曲目解説の出来、および授業への参加態度。発表については、その都度講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

那須田務『古楽夜話：古楽を楽しむための60のエピソード』、音楽之友社、2023年。

ブルース・ヘインズ『古楽の終焉：HIP〈歴史的知識にもとづく演奏〉とはなにか』、大竹尚之訳、シリーズBooksウト、アルテスパブリッシング、2022年。

アンナー・ピルスマ、渡邊順生『バッハ・古楽・チェロ：アンナー・ピルスマは語る』、加藤拓未編・訳、シリーズBooksウト、アルテスパブリッシング、新装版、2020年。

ニコラウス・アーノンクール『古楽とは何か：言語としての音楽』、樋口隆一、許光俊訳、音楽之友社、1997年。

アントニー・ルーリー『内なるオルフェウスの歌：古楽が教えてくれるもの』、有村祐輔訳、音楽之友社、1995年。

ハリー・ハスケル『古楽の復活：音楽の「真実の姿」を求めて』、有村祐輔監訳、東京書籍、1992年。

◆留意事項◆

学内外の古楽系の演奏会を積極的に聴きに行ってください。

ナンバリング	CCL439N		
科目名	西洋古楽研究		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-301(研究室)	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

西洋古楽の本質をつかみ、演奏・鑑賞・研究の実践に役立つ知識を身に付ける

◆授業内容・計画◆

履修者それぞれが実技レッスンで取り組んでいる楽曲を題材に、作曲家や時代様式、楽器の歴史や特性を学ぶ。実技で扱わないが必要な知識については、適宜補う。最終的には、各発表会における曲目解説で、充実した内容を執筆することを目標とする。

1. 導入:リサーチ方法および参考文献の紹介
2. 作品の基本情報
3. 曲の内実の紹介① 学生グループA
4. 曲の内実の紹介② 学生グループB
5. 作曲家と時代様式 学生グループA
6. 作曲家と時代様式 学生グループB
7. 楽器の特性 学生グループA
8. 楽器の特性 学生グループB
9. 演奏解釈 学生グループA
10. 演奏解釈 学生グループB
11. 曲目解説①草稿の検討 学生グループA
12. 曲目解説②草稿の検討 学生グループB
13. 曲目解説③改訂版の検討 学生グループA
14. 曲目解説④改訂版の検討 学生グループB
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

発表準備、特に資料作り。週2時間程度。

◆成績評価の方法◆

発表と曲目解説の出来、および授業への参加態度。発表については、その都度講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

那須田務『古楽夜話：古楽を楽しむための60のエピソード』、音楽之友社、2023年。

ブルース・ヘインズ『古楽の終焉：HIP〈歴史的知識にもとづく演奏〉とはなにか』、大竹尚之訳、シリーズBooksウト、アルテスパブリッシング、2022年。

アンナー・ビルスマ、渡邊順生『バッハ・古楽・チェロ：アンナー・ビルスマは語る』、加藤拓未編・訳、シリーズBooksウト、アルテスパブリッシング、新装版、2020年。

ニコラウス・アーノンクール『古楽とは何か：言語としての音楽』、樋口隆一、許光俊訳、音楽之友社、1997年。

アントニー・ルーリー『内なるオルフェウスの歌：古楽が教えてくれるもの』、有村祐輔訳、音楽之友社、1995年。

ハリー・ハスケル『古楽の復活：音楽の「真実の姿」を求めて』、有村祐輔監訳、東京書籍、1992年。

◆留意事項◆

学内外の古楽系の演奏会を積極的に聴きに行ってください。

ナンバリング	MML434N		
科目名	アーツ・マネージメント概論 I		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

さまざまなアーツ・マネージメントの領域を学習し、生成の過程をふり返りながら、現在のアーツ・マネージメントのありようを理解する。芸術に関わる活動(演奏活動など)をマネージメントの視点からとらえることができるようにする。自分なりの、音楽イベントやコンサートなどの企画提案をする力を獲得する。

◆授業内容・計画◆

さまざまなマネージメントについて、プリント、図版、映像資料などを用いて体系的に解説する。最新の情報を盛り込みながら進める。

1. アーツ・マネージメントとは 生演奏の意義 生成A I時代のアーツ・マネージメント
2. アーツ・マネージメントの諸相 上演系・展示系
3. マネジメントの視点におけるアーツ
4. 音楽のマネージメント(1) 概観 文化施設とマネジメント
5. 音楽のマネージメント(2) 事例 オペラ びわ湖ホール他
6. 音楽のマネージメント(3) 展開 コンテンツ・マネジメント ITの活用
7. 音楽のマネージメント(4) 課題 何をすればよいのか 活動の場の拡大 反田恭平の活動
8. 音楽のマネージメント(5) 展望 芸術は役に立つ? エル・システマ
9. 演劇のマネージメント 平田オリザの活動を参照して
10. バレエのマネージメント 熊川哲也の舞台づくりと後進育成
11. 映像のマネージメント(1) 概観
12. 映像のマネージメント(2) 事例と展望 ヒット映画を生み出すマネジメント『君の名は』『鬼滅の刃』を参照する
13. 音楽マネジメントを支える映像 プロジェクション・マッピング 初音ミク ライゾマティクスの仕事
14. これからのアーツ・マネージメント
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

アーツ・マネージメントの概念について理解する。さまざまな芸術領域のアーツ・マネージメントを吟味し、新たなマネージメントの展望を探ってみる。有益なマネージメントのためのアイデア、プランを創出してみる。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、レポートなどの総合評価。レポートには適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

ハンス・アビング(山本和弘訳)『金と芸術』grambooks、2007年。岡田暁生『音楽の危機《第九》が歌えなくなった日』中公新書、2020年。反田恭平『終止符のない人生』幻冬舎、2022年。洋書は手に取りやすい邦訳を紹介した。必要に応じて原典を参照すること。他に適宜授業中に指示。

◆留意事項◆

自分が鑑賞した芸術作品のマネジメントが、どのように行われていたかを吟味してほしい。

ナンバリング	MML435N		
科目名	アーツ・マネージメント概論Ⅱ		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アーツ・マネージメント概論Ⅰで学習したことを基盤にして、実際にどのようなマネージメントが行なわれているかを理解する。現代の人々の音楽に対するニーズは何か、自分の考えを明らかにできる。レポート課題に取り組み、PRの実践方法を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽に関わるアーツ・マネージメントについて、具体的事例を中心に、プリント、図版、映像資料などを用いて解説する。最新の情報を盛り込みながら進める。

1. オーケストラ 日本のオーケストラの形成をめぐって アウトリーチ
2. プレス対応と告知 事例 検討 プレスリリース
3. コンサート・マネージャーの仕事
4. クラシック・コンサートの制作(1)普及のプロセス マーケット検討 事務処理など
5. クラシック・コンサートの制作(2)PR チラシ 情報処理と伝達 ITの活用
6. ホール(1) ホールとマネージメント
7. ホール(2) さまざまなホール 生涯学習の拠点としてのホール
8. ミュージカル 支援者を得るためのビジネスモデル
9. 資金の捻出 助成金獲得 パトロネージ メセナ ファンドレイジング
10. 現代社会の諸問題とアーツ・マネージメント
11. チケットを売る PR ケーススタディを交えて
12. アートの値段 アートの価値をつくる
13. オーディエンス開拓と育成 YOASOBIの戦略
14. 社会におけるアーツ・マネージメント
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

アーツ・マネージメント概論Ⅰで学んだことを踏まえて、音楽マネージメントに求められていることは何かを考えてみる。マネージメントにおいて、有効な情報伝達とはどのようなものか、広報戦略についても、自己の考えを導き出してみる。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、レポートなどの総合評価。レポートには適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

ハンス・アビング(山本和弘訳)『金と芸術』grambooks、2007年。大村大二郎『お金の流れで読み解くビートルズの栄光と挫折』秀和システム、2022年。岡田暁生『音楽の危機《第九》が歌えなくなった日』中公新書、2020年。洋書は手に取りやすい邦訳を紹介した。他に適宜授業中に指示。

◆留意事項◆

さまざまに展開されているアーツ・マネージメントに目を向け、その長所と短所を自分なりに検討してみてほしい。

ナンバリング	MML427N		
科目名	文化政策論 I		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本の文化政策全般について知識を増やす。各自で調査も行い、文化政策の実際の事業（ホール運営など）についての理解を深める。海外の文化政策と日本の文化政策とを比較し、各国の文化に対する価値観を明確にする。文化や芸術と行政の関わりや支援のあり方などについて認識する。

◆授業内容・計画◆

資料、図版などを用いて日本および海外の文化政策について解説する。最新の情報を盛り込みながら進める。

1. 文化と政策 政策の仕組み
2. 文化政策に関連する組織と事業
3. 政策の文化形成への影響 行政関連のミュージアムによる情報提供
4. 政策における文化の位置
5. 文化政策の形成 明治から現代まで
6. 文化権 文化政策の体系 他の政策領域との関連
7. ホール運営と文化政策(1)
8. ホール運営と文化政策(2)
9. アメリカの文化政策(1) ニューディール政策時の芸術文化政策
10. アメリカの文化政策(2) 全米芸術基金 マッチング・グラント
11. フランスの文化政策 文化省の権限
12. ドイツ、イギリスの文化政策 ドイツの音楽政策 イギリスのアーツカウンシル
13. スウェーデンの文化政策 福祉国家の文化政策
14. 文化予算
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

普段から、国がどのような文化政策を行っているか、報道や関連資料などを参照し、理解を深める。
国公立のホール運営について、文化政策の側面で検討してみる。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、レポートなどの総合評価。レポートには適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

小林真理『文化権の確立に向けて』勁草書房、2004年。井口貢編『入門文化政策』ミネルヴァ書房、2008年。枝川明敬『文化政策の論理と芸術支援の実際』晃洋書房、2022年。藤野一夫『みんなの文化政策講義 文化的commonsをつくるために』水曜社、2022年。他に、必要に応じて授業中に指示。

◆留意事項◆

芸術・文化が行政上どのように扱われているか理解を深める。最新の政策にも目を向けてほしい。

ナンバリング	MML428N		
科目名	文化政策論Ⅱ		
科目詳細	学芸員推奨		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,3年,4年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文化政策論Ⅰで学んだことを踏まえて、文化政策について具体的に検討し、各自で調査も行い、文化や芸術と行政との関わりや支援のあり方についてさらに理解を深める。地方自治体の文化政策のさまざまな取り組みについての知識を増やし、行政に対する自分なりの見地を確立する。

◆授業内容・計画◆

文化政策Ⅰで解説した国の政策と関連させながら、地方自治体の取り組みや役割について、資料、図版などを用いて解説する。さらに、政策を支えるNPO、NGO、そして、文化や自然の価値観を形成している文化財保護や世界遺産と行政の関わりについても取り上げる。最新の情報も盛り込みながら進める。

1. 文化芸術基本法 法に根差した文化政策を考える
2. 劇場・音楽堂等の活性化に関する法律
3. 音楽に関する文化政策 政策による芸術振興
4. 著作権 パロディ文化も検討
5. 地域社会と文化政策 地域文化の振興
6. パブリック・アート アートの共有のために
7. 地方公共団体の文化政策(1) 地域のブランディング
8. 地方公共団体の文化政策(2) 全国に目を向けて
9. 国と地方公共団体(1) まちおこし ゆるキャラ YouTubeによる行政事業の情報発信
10. 国と地方公共団体(2) まちづくり エコ・ミュゼ 政策評価
11. NPO NGO 市民参加への期待
12. 日本の文化財保護 ケーススタディも交えて
13. 世界遺産 文化遺産 自然遺産 無形文化遺産
14. これからの文化政策
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

文化芸術基本法を十分に理解する。そのうえで、文化政策に関する理解を深める。文化芸術基本法が、地方自治体の文化政策にどのように影響しているか、具体的に調査し考察する。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、レポートなどの総合評価。レポートには適宜講評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

◆参考図書◆

小林真理『文化権の確立に向けて』勁草書房、2004年。枝川明敬『文化政策の論理と芸術支援の実際』晃洋書房、2022年。藤野一夫『みんなの文化政策講義 文化的コモンズをつくるために』水曜社、2022年。他に、必要に応じて授業中に指示。

◆留意事項◆

日々のニュースにも目を向けて、グローバル、ローカル、両方の視点で文化政策に対する理解を深めてほしい。

ナンバリング	CEL442N		
科目名	商業音楽概論A		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

外部講師を招き商業音楽における様々な話を聞く、そして実践的な音楽制作を学ぶ。映画音楽史を学ぶと同時に映像における音楽の効果を学んでいき、より豊かな人生の幅を広げることが目標である。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.外部講師による音楽制作の教示(1)
- 3.映画音楽の誕生:サイレント時代(1)
- 4.映画音楽の誕生:サイレント時代(2)
- 5.外部講師による音楽制作の教示(2)
- 6.映画音楽の助走:ミュージカル映画全盛期(1)
- 7.映画音楽の助走:ミュージカル映画全盛期(2)
- 8.映画音楽の成長:シンフォニック・スコア時代(1)
- 9.映画音楽の成長:シンフォニック・スコア時代(2)
- 10.映画音楽の成長:移民組による「Made in America」スコアの成立(1)
- 11.映画音楽の成長:移民組による「Made in America」スコアの成立(2)
- 12.外部講師による音楽制作の教示(3)
- 13.映像音楽の選曲実習
- 14.プレゼン実習
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

課題を課すので、提出する事。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CEL443N		
科目名	商業音楽概論B		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

外部講師による商業音楽業界の話や、実践的な作曲実技を習う。前期においては、映画の誕生、助走、成長、成熟の歴史の過程を追ってみた。後期においては、作曲家、国、時代別で細かく映画音楽を分析し、映像における音楽の効果を学んでいく。商業音楽における様々な職種を紹介しつつ、より豊かな人生の幅を広げることが目標である。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.外部講師による音楽制作の教示(1)
- 3.映画音楽史の復習
- 4.映画音楽の熟成:ポップス化の時代(1)
- 5.映画音楽の熟成:ポップス化の時代(2)
- 6.外部講師による音楽制作の教示(2)
- 7.映画音楽の熟成:オリジナル・スコアの受難時代(1)
- 8.映画音楽の熟成:オリジナル・スコアの受難時代(2)
- 9.映画音楽の熟成:シンフォニック・スコアの復権
- 10.外部講師による音楽制作の教示(3)
- 11.映画音楽の熟成:21世紀の映画音楽
- 12.DTMソフトの使い方
- 13.映像音楽の作曲実習
- 14.プレゼン実習
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

課題を課すので、提出する事。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、授業内試験、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MML414N		
科目名	原書講読(ドイツ語)Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初～中級ドイツ語で書かれた音楽関連の文章を、辞書を片手に難なく読めるようになる。

◆授業内容・計画◆

西洋音楽を学ぶうえで、ドイツ語文献を読めるようになることは非常に大きな助けとなります。それにまた、古来、聴覚文化に重きを置いてきた国の言葉は、それ自体が音楽的であり、味わい深いです。本授業では、初級文法をひととおり総復習しながら、比較的易しいドイツ語で書かれた、音楽についての軽めの文章を<多読>していきます。そうすることでまずはドイツ語に慣れ、基本的な語彙を身につけましょう。文法が頭に入り、基本的な用語が辞書なしに分かるようになってくると、文献講読は俄然楽しくなってくるです。

- 1) ガイダンスおよび動詞の人称変化発音確認、テキスト①
- 2) 名詞の性・数・格、テキスト②
- 3) 人称代名詞、テキスト③
- 4) 命令法、指示代名詞、テキスト④
- 5) 定冠詞類、不定冠詞類、不定代名詞、テキスト⑤
- 6) 助動詞、テキスト⑥
- 7) 分離・非分離動詞、テキスト⑦
- 8) 前置詞、テキスト⑧
- 9) 形容詞、テキスト⑨
- 10) 接続詞と副文、テキスト⑩
- 11) 再帰表現、過去形と完了形テキスト⑪
- 12) 受動態、分詞、テキスト⑫
- 13) 関係代名詞、比較表現、テキスト⑬
- 14) 接続法、テキスト⑭
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

前週までに配布された教材テキストに目を通し、知らない単語を辞書で調べてくる。その際、辞書の同項目を入念に読み、例文や特定の言い回しをノートするなど、十分に自習する。週3時間以上。

◆成績評価の方法◆

履修者10人未満の場合：平常点（毎回の授業での口頭での和訳）のみ。
それ以上の場合：平常点50%、期末テスト50%
平常点についてはその場でコメントし、テストに関しては終了後に解説をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

履修者の語学力に鑑みて、毎回こちらで用意します。

◆参考図書◆

Marie-Agnes Dittrich, Grundwortschatz Musik. 55 Begriffe, die man kennen sollte, Bärenreiter, 2008.

◆留意事項◆

ナンバリング	MML415N		
科目名	原書講読(フランス語) I		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽に関するフランス語テキストを理解する基礎を身につける。

◆授業内容・計画◆

前期の授業では、作曲家が書いたテキストを扱う。
まず、ラヴェルによる「自伝的素描」を読み進める。次に、ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析を取り上げる。
なお、進度によっては、テキストを変更する場合もある。

1. 導入、ラヴェル「自伝的素描」(第1頁)
2. ラヴェル「自伝的素描」(第2頁)
3. ラヴェル「自伝的素描」(第3頁)
4. ラヴェル「自伝的素描」(第4頁)
5. ラヴェル「自伝的素描」(第5頁)
6. 小テスト、ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(導入)
7. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第1段落)
8. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第2段落)
9. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第3段落)
10. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第4段落)
11. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第5段落)
12. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第6段落)
13. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第7段落)
14. ベルリオーズによるベートーヴェンの田園交響曲の分析(第8段落)、小テスト
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で指示する箇所の予習・復習をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(50%)、及び、小テスト(50%)により評価する。
小テストは授業内で実施し、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Maurice Ravel. « Une esquisse autobiographique », avec une introduction par Roland-Manuel (La Revue musicale, décembre 1938, pp. 15-23).
Hector Berlioz. À travers chants : études musicales, adorations, boutades et critiques (Lyon : Symétrie, 2013).
その他は授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MML417N		
科目名	原書講読(日本語) I		
科目詳細			
担当教員	前島 美保		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽に関する各種テキストを読みながら、くずし字(変体仮名)を解読する能力を高める。また江戸時代の出版文化への興味関心を養う。

◆授業内容・計画◆

(以下は予定。受講者の経験や関心に沿って、内容を変更することがある。)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 くずし字とは(身近なくずし字に触れる)
- 第3回 くずし字を読む1(『小学唱歌集』)
- 第4回 くずし字を読む2(明治期の邦楽譜)
- 第5回 くずし字を読む3(『百人一首』)
- 第6回 くずし字を読む4(音曲正本(長唄))
- 第7回 くずし字を読む5(音曲正本(常磐津節))
- 第8回 くずし字を読む6(音曲正本の作品を鑑賞する)
- 第9回 くずし字を読む7(音曲正本(清元節))
- 第10回 くずし字を読む8(音曲正本(義太夫節))
- 第11回 くずし字を読む9(音曲正本の作品を鑑賞する)
- 第12回 くずし字を読む10(芝居番付)
- 第13回 附属図書館で竹内文庫の版本等を閲覧
- 第14回 くずし字を読む11(『御狂言楽屋本説』)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

受講生による輪読を行うため、必ず予習してくること(週1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

予習を含め平常の授業に対する取り組みを中心に、適宜講評し、評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

伊地知鐵男編『増補改訂 仮名変体集』(新典社、税込385円)。

◆参考図書◆

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)。
 中野三敏『和本のすすめ—江戸を読み解くために』(岩波新書)。
 その他、適宜授業中に指示する。

◆留意事項◆

くずし字を通して、近代以前の日本の音楽文化への関心を高め、視野を広げて欲しい。積極的な参加を期待する。

ナンバリング	MML418N		
科目名	原書講読(英語) I		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-121	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

音楽関係の基本的英単語や、音楽を描写・表現・説明する際の英語の言い回し等を学ぶ。いろいろな内容の文章に触れることで、語彙や表現に関する知識を増やし、音楽に関する英文読解力を養う。

◆授業内容・計画◆

アメリカの大学等で音楽の教科書として使われている The Enjoyment of Music を基本的な教材とし、様々なトピックの英文の訳に取り組む。必要部分はコピーかPDFを配布する。

受講生が読みたい英文(CDやDVDの英文解説、英語の音楽雑誌の記事等)も教材として取り上げ、異なる筆者による様々な英文スタイルに接する。

図書館で英語文献検索のワークショップを行う回を一度設け、受講生が自ら英語の文献や雑誌記事を検索・入手できるようにする。それぞれが興味のある英文を持ち寄り、それらも教材として使用する。

- 1) イントロダクション
- 2) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「バロック音楽」など)
- 3) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「印象派」など)
- 4) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「アメリカ芸術音楽」など)
- 5) 英語文献検索ワークショップ(図書館)
- 6) 受講生が選択した英文の読解(雑誌記事など)
- 7) 受講生が選択した英文の読解(CD解説など)
- 8) 受講生が選択した英文の読解(音楽教科書の一部など)
- 9) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「モーツァルトと室内楽」など)
- 10) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「ブルースとジャズ」など)
- 11) 教科書教材の読解(受講生が選んだセクション: 例「チャイコフスキーとバレエ」など)
- 12) 受講生が選択した英文の読解(パンフレットなど)
- 13) 受講生が選択した英文の読解(プログラムなど)
- 14) 受講生が選択した英文の読解(楽譜解説など)
- 15) まとめ

* 英語文献検索ワークショップ(図書館)の日程は未定です。決定次第、授業内でお知らせします。

◆準備学習の内容◆

参考図書『音楽家の英語入門』からの抜粋、および The Enjoyment of Music の目次をあらかじめ配布するので、内容をざっと見ておく。割り当て部分を和訳するだけでなく、毎回の授業で扱う範囲全体に目を通し、わからない単語やフレーズを調べておく。毎回の授業を振り返って復習し、各教材の読解終了後は課題を提出する。準備学習に必要な時間は、週1.5時間程度。

◆成績評価の方法◆

予習を含む授業への参加度と課題の提出により評価します。割り当てた英文の訳文に対しては授業内でフィードバックし、提出課題は採点后、返却します。

◆教科書(使用テキスト)◆

The Enjoyment of Music (by Joseph Machlis & Kristine Forney, shorter version, 7th edition, 1995)

◆参考図書◆

『音楽家の英語入門』三ヶ尻正(シヨパン、2000年)

◆留意事項◆

授業はGoogle Classroomで配布するGoogle Documentを共有し、書き込みをしながら行います。インターネットに接続してGoogle Classroom が利用できる端末(PC、タブレット、スマホ等)を授業にご持参ください。

ナンバリング	MML419N		
科目名	原書講読(ドイツ語)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

含蓄に富んだ音楽についてのドイツ語の文章を読めるようになる。

◆授業内容・計画◆

西洋音楽を学ぶうえで、ドイツ語文献を読めるようになることは非常に大きな助けとなります。それにまた、古来、聴覚文化に重きを置いてきた国の言葉はそれ自体が音楽的であり、味わい深いです。本授業では、音楽を話題としたドイツ語の文章を精読します。精読に値する含蓄あるテキストを選ぶため、ドイツ語の難易度もそれに応じて前期より高めとなります。教材として用いるのは、音楽に関する西洋画の数々を詳しく解説した、Albert Ausoni著『Bildlexikon der Kunst 13/ Die Musik: Symbolik und Allegorien』(Parthas Verlag, 2006)です。履修者の選んだトピックを読んでいきます。(下記の見出しは、仮のものです)

- 1)「シンボルと象徴:愛」
- 2)「シンボルと象徴:五感」
- 3)「シンボルと象徴:ヴァニタス」
- 4)「神話の伝承:アポロ」
- 5)「神話の伝承:オルフェウス」
- 6)「神話の伝承:ミューズ」
- 7)「音楽実践:音楽と劇場」
- 8)「音楽実践:宮廷の音楽」
- 9)「音楽実践:オーケストラと指揮」
- 10)「宗教的テーマ:聖チェチーリア」
- 11)「宗教的テーマ:音楽する天使たち」
- 12)「宗教的テーマ:最後の審判」
- 13)「楽器:ヴァイオリン」
- 14)「楽器:トロンボーン」
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

前週までに配布された教材に、ひととおりの訳をつけてくること。週3時間以上。

◆成績評価の方法◆

履修者10名未満の場合:平常点(毎回の授業での口頭での和訳)のみ
それ以上の場合:平常点50%、学期末テスト50%
平常点についてはその場でコメントし、テストに関しては終了後に解説をする。

◆教科書(使用テキスト)◆

履修者の関心に応じて、この書籍からトピックを選びます。最初の回に選んでいただきます。

◆参考図書◆

適宜、授業で紹介します。

◆留意事項◆

しっかりと予習をして臨んで下さい。

ナンバリング	MML420N		
科目名	原書講読(フランス語)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽に関するフランス語テキストを理解する基礎を身につける。

◆授業内容・計画◆

後期の授業では、『19世紀フランス音楽事典』に含まれる項目を選んで輪読する。

1. 導入、項目Aの読解:前半
2. 項目Aの読解:後半
3. 項目Bの読解:前半
4. 項目Bの読解:後半
5. 項目Cの読解:前半
6. 項目Cの読解:後半
7. 小テスト、中間まとめ
8. 項目Dの読解:前半
9. 項目Dの読解:後半
10. 項目Eの読解:前半
11. 項目Eの読解:後半
12. 項目Fの読解:前半
13. 項目Fの読解:後半
14. 小テスト、用語の確認
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で指示する箇所の予習・復習をすること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(50%)、及び、小テスト(50%)により評価する。
小テストは授業内で実施し、フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

Joël-Marie Fauquet (dir). Dictionnaire de la musique en France au XIXe siècle (Paris: Fayard, 2003)
その他は授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	MML422N		
科目名	原書講読(日本語)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	根岸 正海		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

江戸時代の芸能、音楽についての知識を深める。当時のさまざまな資料に触れることで、社会における芸能や音楽の存在を多角的にとらえることができるようになる。

◆授業内容・計画◆

今年度はNHK 大河ドラマで蔦屋重三郎が採り上げられていることでもあるので、蔦屋関連の出版物に注目する講座にしたい。なお受講生の興味や進度により他作品を採りあげることもある。

- 1.ガイダンス/江戸時代の芸能と音楽
- 2.江戸の演劇書
- 3.芝居の資料－芝居番付、音曲正本－
- 4.豊後系浄瑠璃の系譜
- 5.正本と版元の関係
- 6.蔦屋から刊行された富本正本
- 7.富本豊前太夫を題材とした黄表紙「両国の名取」を読む(1)
- 8 黄表紙「両国の名取」を読む(2)
- 9 黄表紙「両国の名取」を読む(3)
10. 黄表紙「両国の名取」を読む(4)
11. 黄表紙「両国の名取」を読む(5)
- 12.芝居番付を読む(1)－顔見世番付、辻番付－
- 13.芝居番付を読む(2)－役割番付、絵本番付－
- 14.芝居町の様子を地図から読み解く
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

受講生による輪読を行うので、必ず予習をしてくること。予習にかかる時間は個人差があるがおおよそ週1時間程度と思われる。

◆成績評価の方法◆

予習を含め平常の授業に取り組む姿勢を中心に、適宜講評しつつ評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

松尾聰編『字典かな:出典明記・改訂版』(笠間書院、418円)
テキスト入手については第1回の授業内に説明する。

◆参考図書◆

『図説江戸の演劇書』赤間亮著(八木書店)
『和本のすすめ』中野三敏著(岩波新書)

◆留意事項◆

なお、購読する資料については受講生の学習歴によって変更する場合がある。その際も江戸時代の音曲関係の資料を用いる。

ナンバリング	MML423N		
科目名	原書講読(英語)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	宮澤 淳一		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-306～307	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽に関わる英語文献の読み方の基礎的な能力を強化する。語彙や表現に親しみ、その調査能力を身につけ、論述の流れを追えるようになる。

◆授業内容・計画◆

親しみやすく、かつ読みごたえのある文章として、『ザ・ニューヨーカー』誌を中心に活躍する気鋭の音楽ジャーナリスト、アレックス・ロスの記事を取り上げます。たとえば、『ゴルトベルク変奏曲』、ベートーヴェンと「機械仕掛けの神」、アンドラーシュ・シフとシューベルトの最後のソナタ、20世紀における交響曲、リヒャルト・シュトラウスの《サロメ》、ワーグナーとしてのボブ・ディラン、ドビュッシー論、プーレーズ論、武満徹論、指揮者トスカニーニとトランプ大統領、セシル・テイラーとノイズの芸術、レッド・ツェッペリンの《天国への階段》の盗作論争などを候補のテキストに考えています。受講生の皆さんの必要性和関心に応じて選びましょう(よかったら www.newyorker.com でAlex Ross の名前で検索してほかの記事も探してみてください)。

個々の英文を精緻に読むことだけでなく、音楽や音楽文化をめぐるテキストにおいて、何が(what)、どのように(how)、論じられ、展開していくのか(発想)を学んでください。(発想を学ぶために、邦訳のあるロスの著作も適宜参照しましょう。)

教室では「読んで訳す」ことが中心になるかもしれませんが、「訳す＝理解する」ために、「調べる」ことも必要です。図書やインターネットでの調べ方のコツも教えられればと思います。

段取りとしては、主に、オンラインのスプレッドシート(Google)で訳文の分担作成(事前準備)をしてもらい、それに基づき、議論をしながら読解を進めます(教室でもパソコンやタブレット等を開いて閲覧しながら検討していきます)。

以下は、テキストを3本読む場合のプランです(1本か2本を読む可能性もあります)。

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:テキストA＝作曲家論(1)記事全体の俯瞰
- 第3回:テキストA＝作曲家論(2)個々のパラグラフの読解(前半)
- 第4回:テキストA＝作曲家論(3)個々のパラグラフの読解(中盤)
- 第5回:テキストA＝作曲家論(4)個々のパラグラフの読解(後半)
- 第6回:テキストA＝作曲家論(5)総括・発展
- 第7回:テキストB＝演奏論(1)記事全体の俯瞰
- 第8回:テキストB＝演奏論(2)個々のパラグラフの読解(前半)
- 第9回:テキストB＝演奏論(3)個々のパラグラフの読解(中盤)
- 第10回:テキストB＝演奏論(4)個々のパラグラフの読解(後半)
- 第11回:テキストB＝演奏論(5)総括・発展
- 第12回:テキストC＝音楽文化論(1)記事全体の俯瞰
- 第13回:テキストC＝音楽文化論(2)個々のパラグラフの読解(前半)
- 第14回:テキストC＝音楽文化論(3)個々のパラグラフの読解(後半)
- 第15回:テキストC＝音楽文化論(4)総括・発展／授業全体のまとめ(フィードバック)

※皆さんの苦手な文法事項があれば、希望に応じて補足的・復習的な指導をします。

◆準備学習の内容◆

毎週、オンラインでスプレッドシートへの訳文の記入を願います。(オンラインの自動翻訳サービスは急速に発達しており、無視できない水準になっていますので、援用が望ましい場面では、正しい援用の仕方を指導します。)

◆成績評価の方法◆

準備(分担する訳文の事前作成)と授業での参加度(考察での意見交換)と、ときどきの訳文提出やクイズ実施等による平常点(しかし、純粹な語学力を問うものではありません)。積極的な学生には肯定的な評価をします。訳文や意見については、添削をすることで理解度についてフィードバックすることになります(まとまった提出については、Excellent, Very Good, Good, Satisfactory, Fair, Poorなどと付記します)。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自がインターネットでダウンロードの可能なテキストを使用します。

◆参考図書◆

ミケ尻正『改装版 音楽家の英語入門』(ショパン、2012年)。
ウインジェル『改訂新版 音楽の文章術——論文・レポートの書き方から文献表記法まで』宮澤淳一、小倉眞理訳(春秋社、2014年)。

ロス『これを聴け』柿沼敏江訳(みすず書房、2015年)。
ロス『20世紀を語る音楽』(全2巻)柿沼敏江訳(みすず書房、2010年)。

◆留意事項◆

外国語の「読解」では、慎重に逐語訳ができることも大切ですが、「要するにどういことですか？」という問いに対して、自分の言葉で具体的に説明できることが求められましょう。それができて初めて第三者が読んでもわかる訳文が生まれます(「直訳」か「意訳」か、という議論とは少し違います)。この授業は翻訳講座ではありませんが、学術研究に求められる「読解」と「翻訳」の基礎的な発想や約束事についてはできる限り指導します。

ナンバリング	MML436N		
科目名	音楽情報研究講義(楽器・音響)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	三浦 雅展		
学年	3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。

- 1.ガイダンス
- 2.演奏科学とは 音楽の科学研究に向けた準備
- 3.研究倫理
- 4.グラフの書き方, 集計報告
- 5.個人情報保護, 情報セキュリティ
- 6.グループディスカッション
- 7.Rの基礎
- 8.統計基礎 平均, 分散
- 9.統計基礎 相関係数, 共分散
- 10.統計的仮説検定
- 11.t検定, 分散分析
- 12.実験計画と実施
- 13.分析
- 14.全体ディスカッション
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業の前半は事前に関連するキーワードを自分で調べて理解を深める必要がある(授業前に実施。目安は1. 5時間)。また授業の後半は教科書に沿って進める。教科書の内容をよく読み, 予習をしてから授業に取り組む必要がある。(目安 授業前に1. 5時間)。また毎回の授業の後に内容を復習し体得する必要がある(目安1. 5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験, および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

◆参考図書◆

授業において適宜紹介する。

◆留意事項◆

音楽情報研究講義(楽器・音響)Bの授業を履修することで、この授業で学んだことを実践的に理解できるようになる。また音楽情報専修の3年生で4年時の専門ゼミⅢ, Ⅳおよび卒業研究で楽器・音響分野の内容を希望する者は、受講を強く薦める。

ナンバリング	MML437N		
科目名	音楽情報研究講義(楽器・音響)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	三浦 雅展		
学年	3年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。実験対象としては、例えば演奏音の音響信号、歌詞や文章などの日本語、行動実験による心理実験データ、楽譜の情報、楽器やレコードジャケットなどの音楽に関する画像情報などが可能である。

- 1.ガイダンス
- 2.実験計画
- 3.収録実験の準備
- 4.収録実験1 機器の設置と準備
- 5.収録実験2 実験参加者へのインストラクションと実施
- 6.収録実験3 記録結果の確認
- 7.評価実験の準備
- 8.評価実験の実施1 入力の準備
- 9.評価実験の実施2 実施とフィードバック
- 10.分析1 グラフ化
- 11.分析2 統計的検定
- 12.分析3 報告書の執筆
- 13.グループディスカッション
- 14.全体討論
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業の全体構成として、収録実験、評価実験、分析などを行なうため、事前の予習と復習が不可欠である(いずれも目安として1.5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

難波精一郎, 桑野園子著,「音の評価のための心理学的測定法」, コロナ社(1998)

◆参考図書◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

◆留意事項◆

本講義の内容を理解する上で、音楽情報研究講義(楽器・音響)Aの授業を履修し理解していることが必要となる。もしAを未履修で履修する場合は自主的な予習が必要となる。また収録実験などで授業時間を変更する場合があるので、ガイダンス時に全員の予定を確認する。さらに、音楽情報専修の3年生で、4年時の専門ゼミⅢ、Ⅳおよび卒業研究で楽器・音響分野の内容を希望する者は、受講を強く薦める。

ナンバリング	MML438N		
科目名	音楽の統計科学 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。

- 1.ガイダンス
- 2.演奏科学とは 音楽の科学研究に向けた準備
- 3.研究倫理
- 4.グラフの書き方, 集計報告
- 5.個人情報保護, 情報セキュリティ
- 6.グループディスカッション
- 7.Rの基礎
- 8.統計基礎 平均, 分散
- 9.統計基礎 相関係数, 共分散
- 10.統計的仮説検定
- 11.t検定, 分散分析
- 12.実験計画と実施
- 13.分析
- 14.全体ディスカッション
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業の前半は事前に関連するキーワードを自分で調べて理解を深める必要がある(授業前に実施。目安は1.5時間)。また授業の後半は教科書に沿って進める。教科書の内容をよく読み、予習をしてから授業に取り組む必要がある。(目安 授業前に1.5時間)。また毎回の授業の後に内容を復習し体得する必要がある(目安1.5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

◆参考図書◆

授業において適宜紹介する。

◆留意事項◆

演奏科学研究Ⅰで学んだ基礎を、実際に演奏科学研究Ⅱで実践的に学ぶことができる。さらに修士課題研究において科学的・実験的な取り組みを行いたい場合は、この授業を通してその基礎を学ぶことができる。

ナンバリング	MML439N		
科目名	音楽の統計科学Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽を主観的または経験的な基準だけでなく、客観的かつ体系的に研究ができるようになる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を研究するには、演奏音や音楽情報の収録や測定といった実験や実測が必要となる。本授業では、音楽情報を対象とした科学的・実験的な検証方法の基礎を学ぶ。実験対象としては、例えば演奏音の音響信号、歌詞や文章などの日本語、行動実験による心理実験データ、楽譜の情報、楽器やレコードジャケットなどの音楽に関する画像情報などが可能である。

- 1.ガイダンス
- 2.実験計画
- 3.収録実験の準備
- 4.収録実験1 機器の設置と準備
- 5.収録実験2 実験参加者へのインストラクションと実施
- 6.収録実験3 記録結果の確認
- 7.評価実験の準備
- 8.評価実験の実施1 入力の準備
- 9.評価実験の実施2 実施とフィードバック
- 10.分析1 グラフ化
- 11.分析2 統計的検定
- 12.分析3 報告書の執筆
- 13.グループディスカッション
- 14.全体討論
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業の全体構成として、収録実験、評価実験、分析などを行なうため、事前の予習と復習が不可欠である(いずれも目安として1.5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

難波精一郎, 桑野園子著,「音の評価のための心理学的測定法」, コロナ社(1998)

◆参考図書◆

山田 剛史, 杉澤 武俊, 村井 潤一郎, Rによるやさしい統計学, オーム社(2008)。978-4274067105 2700+TAX

◆留意事項◆

演奏科学研究Ⅰで学んだ基礎を、実際に演奏科学研究Ⅱで実践的に学ぶことができる。さらに修士課題研究において科学的・実験的な取り組みを行ないたい場合は、この授業を通してその実現可能性について考察できる。

ナンバリング	CEL446N		
科目名	学校教育専門演習A		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-31	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

教員採用試験対策として、初見視唱・視奏、伴奏付け、弾き歌いの基礎的な知識・技能を身に付け、豊かな音楽表現を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 1 ガイダンス 自分の目標を定める(レポートリーカルテを作成する)
- 2 弾き歌い 歌唱教材より グループA
- 3 弾き歌い 歌唱教材より グループB
- 4 歌をひきだす前奏の作曲方法、演奏方法
- 5 基本的な和音進行による即興演奏 グループA
- 6 基本的な和音進行による即興演奏 グループB
- 7 コードネームによる即興演奏 グループA
- 8 コードネームによる即興演奏 グループB
- 9 テーマと変奏(いろいろな様式を学ぶ)グループA
- 10 テーマと変奏(いろいろな様式を学ぶ)グループB
- 11 歌の伴奏付け グループA
- 12 歌の伴奏付け グループB
- 13 弾き歌い グループA
- 14 弾き歌い グループB
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた課題をあらかじめ、十分に予習すること。(毎日15分は歌あるいは鍵盤楽器で課題にあたるのが望ましい。)

◆成績評価の方法◆

毎回の課題の発表(音源提出)をその都度、フィードバックする。毎回の授業をととしての習熟度を評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「歌はともだち」 教育芸術社

◆参考図書◆

『新総合音楽講座6 伴奏づけ』(竹内剛、ヤマハ音楽振興会)
『新総合音楽講座5 コード進行法』(岩間稔、ヤマハ音楽振興会)
馬淵明彦・杉本明 「はじめての即興演奏」 スタイルノート

◆留意事項◆

教員採用選考を受験する予定であること。学校教育専門演習A、B、Cのどの科目から履修しても構わないが、2年間で3科目とも受講することが望ましい。

ナンバリング	CEL447N		
科目名	学校教育専門演習B		
科目詳細			
担当教員	浅田 裕		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学校教育における教材や音楽科教育に必要な音楽史及び楽典等の理解を深め、教育論文の書き方を身に付けるとともに、学習指導要領に基づいた授業力の向上を図る。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学習指導要領、観点別学習状況の評価
- 第3回 基本的な楽典、コードネーム、ギター等
- 第4回 移調楽器
- 第5回 教育論文の書き方①(基本編)
- 第6回 リコーダー、ドラム等
- 第7回 教育論文の書き方②(自分らしさを出す論文)
- 第8回 音楽史(西洋、日本)
- 第9回 教育論文の書き方③(1本仕上げてみる)
- 第10回 教材曲の作曲、編曲
- 第11回 指導計画の作成
- 第12回 音楽教育史、多様な教材曲
- 第13回 学校教育専門演習Bのまとめ(基礎編)
- 第14回 学校教育専門演習Bのまとめ(発展編)
- 第15回 今後の課題

◆準備学習の内容◆

- ・第1～第12回において、各自つかんだ課題の解決を図るよう自主学習に取り組み、第13回～第15回のまとめと今後の課題に生かす。
 - ・復習として第5,7,9回以外に過去問に取り上げられた楽曲を聴くとともに日常的に多様な音楽を聴く習慣を付ける。
- (各回1.5時間程度の復習を要する)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況、提出物、試験等によって評価する。
提出物はコメントを付けて、筆答試験は点数を付けて返却し、課題と成果がわかるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- 『中学校学習指導要領解説音楽編』(平成29年度版)
- 『高等学校学習指導要領解説芸術編』(平成30年度版)
- 『中学校の音楽教科書』令和3年度以降使用教科書(2社、計8冊)

◆参考図書◆

- 野本由紀夫『はじめてのオーケストラ・スコア』音楽之友社.2003.
 - 野本由紀夫『クラシック名曲のワケ 音楽授業に生かすアナリーゼ』音楽之友社.2016.
 - 沼口隆他『楽譜を読む本 感動を生み出す記号たち』ヤマハミュージックメディア.2010.
 - 文部科学省編『教育用音楽用語』教育芸術社.2002年.
- ※その他随時紹介する。

◆留意事項◆

- ・学校教育コース以外で希望する学生は、教員採用選考を受験する予定であること。学校教育専門演習A、B、Cのどの科目から履修しても構わないが、2年間で3科目とも受講することが望ましい。
- ・GoogleClassroomを活用する。

ナンバリング	CEL448N		
科目名	学校教育専門演習C		
科目詳細			
担当教員	浅田 裕		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

学校の教員として求められている日本の音楽と世界の諸民族の音楽についての理解を深め、それらの音楽を生かした学習指導の展開を研究・工夫する力を付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンスとデジタルコンテンツの紹介
- 第2回 日本の音楽①(歌舞伎「勧進帳」前半)
- 第3回 日本の音楽②(歌舞伎「勧進帳」後半)
- 第4回 日本の音楽③(文楽)
- 第5回 日本の音楽④(能楽)
- 第6回 日本の音楽⑤(雅楽)
- 第7回 日本の音楽⑥(近世邦楽、民俗芸能等)
- 第8回 世界の諸民族の音楽①(日本とアジアの楽器)
- 第9回 世界の諸民族の音楽②(アジアの舞台芸能や楽器)
- 第10回 世界の諸民族の音楽③(ヨーロッパ、北米、中南米の音楽)
- 第11回 世界の諸民族の音楽④(アフリカ、オセアニアの音楽)
- 第12回 世界の諸民族の音楽⑤(ミュージカルと映画の音楽)
- 第13回 学校教育専門演習Cのまとめ(基礎編)
- 第14回 学校教育専門演習Cのまとめ(発展編)
- 第15回 今後の課題

◆準備学習の内容◆

- ・第1～第12回において、各自つかんだ課題の解決を図るよう自主学習に取り組み、第13回～第15回のまとめと今後の課題に生かす。
- ・復習として扱ったジャンルや地域、時代に関連する多様な音楽や楽器をできるだけ多く知ったり聴いたりする。(各回1時間程度の復習を必要とする。)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況、提出物、試験によって評価する。
提出物はコメントを付けて、筆答試験は点数を付けて返却し、課題と成果がわかるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- 『中学校学習指導要領解説音楽編』(平成29年度版)
- 『高等学校学習指導要領解説芸術編』(平成30年度版)
- 『中学校の音楽教科書』令和3年度以降使用教科書(2社、計8冊)

◆参考図書◆

- 『日本音楽基本用語辞典』音楽之友社.2007.
- 福井昭史『よくわかる日本音楽基礎講座(増補・改訂版)』音楽之友社.2020.
- (その他随時紹介する)

◆留意事項◆

- ・学校教育コース以外で希望する学生は、教員採用選考を受験する予定であること。学校教育専門演習A、B、Cのどの科目から履修しても構わないが、2年間で3科目とも受講することが望ましい。
- ・GoogleClassroomを使用する。

ナンバリング	SCL003N		
科目名	音楽・学び・情報		
科目詳細	1E療情I(前半津田先生・後半前島先生)		
担当教員	津田 正之, 前島 美保		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)音楽に関する知識の意義を理解して、適切に使うことができる。(2)情報環境に適切に対応できる。(3)学びや情報伝達にとってたいせつな「ことば」を適切に理解し使うことができる。(4)音楽が社会の中で果たす役割について理解することができる。

◆授業内容・計画◆

- (1) これからの音楽の学びで求められる資質・能力
- (2) これからの音楽の学びで求められる学習方法
- (3)「天国の音楽議会」の演習－内容の把握とグループ・担当の決定
- (4)「天国の音楽議会」の演習－発表の準備への取組
- (5)「天国の音楽議会」の発表と意見交流 前半グループ
- (6)「天国の音楽議会」の発表と意見交流 後半グループ
- (7) 自分たちの音楽の学びの振り返り

- (8) 言葉と音楽
- (9) 音楽と情報
- (10) 音楽と言葉の力(1)事例1
- (11) 音楽と言葉の力(2)事例2
- (12) グループ発表(1)グループA
- (13) グループ発表(2)グループB
- (14) グループ発表(3)グループC
- (15) まとめ

(1)～(7)と(8)～(14)は、担当教員が入れ代わります。

◆準備学習の内容◆

授業で課せられた課題を行い、発表できるように準備しておくこと。あらかじめ教材や資料が配布されている場合は事前に目を通し、主旨をつかんで授業に臨むこと。なお、事前事後の学習時間は60分を目安とする。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況と課題の成果による。課題等に対してフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時、指定する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	SCL004N		
科目名	音楽・心・身体		
科目詳細	1E療情I		
担当教員	岡崎 香奈, 井上 恵理		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

(1)心と音楽の関係を考える。(2)音楽による癒しや治療の問題を考える。(3)音楽と身体の関わりを考える。(1)(2)は岡崎が(3)は井上が担当する。

◆授業内容・計画◆

前半(担当:岡崎)

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 音楽と記憶
- 第3回 音楽とストレス
- 第4回 人の心理と音楽の関わり
- 第5回 医療・福祉現場における音楽の活用
- 第6回 音楽療法とは何か
- 第7回 音楽と創造性

後半(担当:井上)

- 第8回 イン트로ダクション
- 第9回 音楽と呼吸
- 第10回 音楽と歩行
- 第11回 身体の中の音・身体から発する音
- 第12回 音楽と身振り
- 第13回 音楽と表情
- 第14回 声・言葉・音・動き
- 第15回 まとめ

第1回～第7回と第8回～第14回は、担当教員が入れ代わります。

◆準備学習の内容◆

締め切りまでに各回の課題を提出する。事前事後学習は60分間を目安とする。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと課題の履行により評価。

出欠について(前半後半合わせて14回中5回欠席で不合格)

前半部(岡崎担当)は、授業参加態度などの平常点50%、最終レポート50%を元に総合的に成績を評価する。

後半部(井上担当分)は、出席状況、授業のミニワークシートなどの平常点50%、最終レポート50%で総合的に評価する。

適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度紹介する。

◆参考図書◆

授業内でその都度紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	SCL005N		
科目名	音楽・社会・キャリア		
科目詳細	2E療情I(前半早稲田先生・後半林先生)		
担当教員	早稲田 みな子, 林 浩子		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・キャリアや仕事についての基本的な事項を理解する・音楽と社会の関係について、様々な角度から理解する・音楽に関連して職業について理解する・人生の出来事(ライフステージ)や生活段階(ライフイベント)を理解し、人生の設計(キャリアデザイン)ができる

◆授業内容・計画◆

前半7回は早稲田が、後半7回は林が担当する。前半では、社会における音楽の様々な在りかたについて、後半では、キャリアにおける法制度やキャリアとライフスタイルについて学ぶ。

- 1) 導入: 現代社会における音楽
- 2) 戦争と音楽① 軍歌、軍国歌謡
- 3) 戦争と音楽② 敵性音楽、慰安・団結のための音楽
- 4) 震災と音楽① 東日本大震災を例に
- 5) 震災と音楽② 被災ピアノ
- 6) 地域と芸能
- 7) 学校教育の中の音楽
- 8) 「働く」ということ: 権利と義務
- 9) ライフスタイルとキャリア① 現代社会が抱える課題
- 10) ライフスタイルとキャリア② 学校におけるキャリア教育
- 11) ライフスタイルとキャリア③ 大学卒業から結婚まで
- 12) ライフスタイルとキャリア④ 結婚から子育て期
- 13) ライフスタイルとキャリア⑤ キャリアを積むということ
- 14) 人生における音楽が果たす役割
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

授業で提示された課題や下調べの事項を、次回の授業までに行なってください。
事前に配布する資料がある場合には、精読しておくこと。
事前学習の平均的な目安は60分程度とする。

◆成績評価の方法◆

前半と後半とで予習や課題の形式が異なりますが、提出状況やその内容によって二人の教員で総合的に判断します。
適宜、フィードバックを行ないます。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業資料で提示します。

◆参考図書◆

授業内で紹介します。

◆留意事項◆

後半の授業(林担当分)ではグループでディスカッション等を行ないます。積極的な参加を求めます。

ナンバリング	SCL403N		
科目名	アーツ プロジェクトA		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「音楽✕美術」?で何が生まれるか?色、形、絵、造形、視覚芸術を聴覚芸術を関連付け、自らの芸術感性を高め、いろいろな発想でアートを発信する力をつけていきます。立川市・国立音楽大学連携事業の一環として砂川学習館でのプロジェクトに関わります。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス アーツプロジェクトとは
- 第2回 アーツプロジェクトとは
- 第3回 ワークショップ1 身の回りの風景(大学内の発見)アートにする。写真、絵。
- 第4回 ワークショップ2 作成した写真や絵にポエムや音楽をつける
- 第5回 プロジェクトテーマ調査
- 第6回 プロジェクトテーマ決定
- 第7回 アーツプロジェクト1 コンセプト作成
- 第8回 アーツプロジェクト2 チーム編成
- 第9回 アーツプロジェクト3 音楽✕美術
- 第10回 アーツプロジェクト4 地域✕大学
- 第11回 アーツプロジェクト5 自然✕季節✕人
- 第12回 プレゼンテーション1 チーム別
- 第13回 プレゼンテーション 2 総体
- 第14回 砂川学習館におけるプロジェクト実践
- 第15回 振り返り

◆準備学習の内容◆

課題に対して、個人、あるいはグループで取り組み、毎回の授業で経過や成果を発表する。写真、動画等の製作もあるので、それらのスキルも身につけていく準備学修が必要。(1時間目安)

◆成績評価の方法◆

授業目標に照らして、プロジェクトの企画内容、計画、実施におけるチームでの役割の遂行と、プロジェクトにどれだけかかわったかについてのレポートに対するフィードバック(講評)、自己評価・他者評価を基に、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

『プロジェクト学習の基本と手法―課題解決力と論理的思考力が身につく』鈴木敏恵(教育出版)
『100の指令』日比野克彦(朝日出版社)

◆留意事項◆

砂川学習館での活動(アーツプロジェクトの最終実践)は7月の土曜日になります。(7/5 あるいは 7/12 を予定しています)

ナンバリング	SCL402N		
科目名	Music Cultures in Japan		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

Learning Goals (授業目標) (1) obtaining an overview of various forms of Japanese music in regards to their history and development (様々なジャンルの日本の音楽の歴史・発展を概観する), (2) understanding social and cultural aspects of each genre, such as gender, class, lineage, and social changes (ジェンダー、階級、伝承系統など、各ジャンルの社会的・文化的側面を理解する), and (3) examining musical aspects, such as scales, rhythms, performance styles, and methods of teaching (音階、リズム、演奏様式、教授法など、各ジャンルの音楽的側面を考察する).

◆授業内容・計画◆

Description and Plan 授業内容・計画
This course aims at gaining a rough understanding of the main genres and instruments of traditional Japanese music and theatrical arts in English.
Each class will focus on a particular instrument or genre, and the instructor describes its cultural and musical aspects with audio and visual materials.
There are three days reserved for student presentations.
Each student is required to select a topic related to the genre or instrument treated in the class and make a brief presentation in English with a PPT file and/or a handout that outlines the presentation.
The number and length of individual presentations may vary according to the number of students.

この授業は、様々なジャンルの日本の音楽・芸能について、英語でその概要を理解することを目標としています。
毎回の授業では、特定の楽器やジャンルに焦点をあて、その音楽的・文化的側面について、視聴覚資料を用いながら説明します。
授業は英語で行われますが、必要に応じて日本語の解説も付け加えます。
学期中、3回の授業は受講生による発表に充てられます。
一人につき発表回数は学期中2～3回を予定しています。
授業でそれまでに扱ったジャンルや楽器に関するトピックを選び、それについて英語で発表してもらいます。
発表に際しては、パワーポイント(英語の読み原稿付き)と発表概要を英語でまとめた配布物(あるいはそのいずれか)を準備してもらいます。

1. Introduction and overview
2. Gagaku (court music)
3. Noh Theatre (masked drama)
4. Student presentation based on the topics from weeks 1 to 3
5. Shakuhachi (bamboo flute)
6. Koto (zither)
7. Okinawan music
8. Shamisen (three-stringed lute)
9. Student presentation based on the topics from weeks 5 to 8
10. Bunraku (puppet theatre)
11. Kabuki (music drama)
12. Min'yo (folksongs)
13. Japanese popular music
14. Student presentation based on the topics from weeks 10-13
15. Summary

The above class contents and order may change depending on the progress of the class.

◆準備学習の内容◆

For each lecture, please review the handouts and reference materials. For student presentations, please prepare PPT files and/or handouts. It will take at least a few hours to prepare for a presentation, and about 30 min. to an hour to review lecture materials, depending on individual student's English proficiency.
講義については配布資料に目を通し、予習・復習して下さい。発表に際してはパワーポイント(英語の読み原稿付き)と配布資料(あるいはそのいずれか)を用意してください。英語力によりますが、発表準備には少なくとも数時間、講義資料の予習・復習には30分～1時間ほどを要すると考えてください。

◆成績評価の方法◆

Assessment 成績評価の方法
Class preparation and participation 平常の授業への取り組み - 60%
Class presentations and PPT files and/or handouts クラス発表と発表資料(読み原稿付き/パワーポイントと配布資料、またはいずれか)(2～3回) - 40%
Active class participation is highly encouraged.
積極的な授業への参加を奨励します。
The instructor will give feedback on the student presentations and PPT files and/or handouts.
クラス発表と発表資料については、適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

None. Excerpts from the referece books listed below will be provided in paper or PDF file format.
特に指定しない。以下の参考図書から必要箇所のコピー、またはPDFファイルを配布する。

◆参考図書◆

- (1) Traditional Japanese Music at a Glance (by Tanaka, Kenji & Takashi Koto, The New Edition, 2016, Tokyo: Academia Music Ltd.)
- (2) Traditional Japanese Music and Musical Instruments (by Malm, William P., The New Edition, 2000, Tokyo: Kodansha International)
- (3) The Ashgate Research Companion to Japanese Music (Tokita, Alison McQueen and David W. Hughes eds., 2007, Aldershot, Hants: Ashgate)
- (4)『ひと目でわかる日本音楽入門』田中健次(音楽之友社、2003年)
- (5)『図解日本音楽史』(増補改訂版)田中健次(東京堂出版、2018年)

◆留意事項◆

- (1)Required level of English 必要な英語のレベル:high school graduate level 高校卒業程度
- (2)The class will be conducted mostly in English, but explanation in Japanese may be added if necessary. 授業は英語で行われますが、必要に応じて日本語の解説も付け加えます。

ナンバリング	CES029N		
科目名	英語会話(入門) I		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスではプリントを用いながら座学・演習・ペアワークを組み合わせ、シンプルでわかりやすい英文を発話できるためのスキルの習得を目指します。

Week 1 授業ガイダンス・基本品詞
Week 2 makeの用法① - SV・SVC・SVO
Week 3 makeの用法② - SVOO・SVOC
Week 4 makeの用法③ - Speaking演習課題
Week 5 getの用法① - SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC
Week 6 getの用法② - Speaking演習
Week 7 小テスト①・前半総括
Week 8 find・leaveの用法①
Week 9 find・leaveの用法② - Speaking演習課題
Week 10 助動詞①
Week 11 助動詞② - Speaking演習課題
Week 12 時制①
Week 13 時制② - Speaking演習課題
Week 14 小テスト②・後半総括

Note: クラスの人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

予習: 次の単元に関してこれまでに使ったことのある参考書や教科書を用いて復習を行う。(1時間)
復習: プリントで配布される演習問題解く、もしくは指定されたSpeakingの反復練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員よりプリントを配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES051N		
科目名	英語初級(会話入門)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスではプリントを用いながら座学・演習・ペアワークを組み合わせ、シンプルでわかりやすい英文を発話できるためのスキルの習得を目指します。

- Week 1 授業ガイダンス・基本品詞
- Week 2 makeの用法① – SV・SVC・SVO
- Week 3 makeの用法② – SVOO・SVOC
- Week 4 makeの用法③ – Speaking演習課題
- Week 5 getの用法① – SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC
- Week 6 getの用法② – Speaking演習
- Week 7 小テスト①・前半総括
- Week 8 find・leaveの用法①
- Week 9 find・leaveの用法② – Speaking演習課題
- Week 10 助動詞①
- Week 11 助動詞② – Speaking演習課題
- Week 12 時制①
- Week 13 時制② – Speaking演習課題
- Week 14 小テスト②・後半総括

Note:クラスの数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

- 予習:次の単元に関してこれまでに使ったことのある参考書や教科書を用いて復習を行う。(1時間)
- 復習:プリントで配布される演習問題解く、もしくは指定されたSpeakingの反復練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員よりプリントを配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES069N		
科目名	英語初級(会話入門)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内・外において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴き手や読者などの目ま の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスではプリントを用いながら座学・演習・ペアワークを組み合わせ、シンプルでわかりやすい英文を発話するためのスキルの習得を目指します。

Week 1 授業ガイダンス・基本品詞
Week 2 makeの用法① - SV・SVC・SVO
Week 3 makeの用法② - SVOO・SVOC
Week 4 makeの用法③ - Speaking演習課題
Week 5 getの用法① - SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC
Week 6 getの用法② - Speaking演習
Week 7 小テスト①・前半総括
Week 8 find・leaveの用法①
Week 9 find・leaveの用法② - Speaking演習課題
Week 10 助動詞①
Week 11 助動詞② - Speaking演習課題
Week 12 時制①
Week 13 時制② - Speaking演習課題
Week 14 小テスト②・後半総括

Note:クラスの人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

予習:次の単元に関してこれまでに使ったことのある参考書や教科書を用いて復習を行う。(1時間)
復習:プリントで配布される演習問題解く、もしくは指定されたSpeakingの反復練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員よりプリントを配布します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES030N		
科目名	英語会話(入門)Ⅱ		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスでは主に英語の発音ルールの確認と反復練習をとおして、リスニング力とスピーキング力の向上を目指します。

Week 1 授業ガイダンス・前期復習
Week 2 疑問詞①
Week 3 疑問詞② - Speaking演習
Week 4 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ①
Week 5 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ②
Week 6 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ③ - 小テスト①
Week 7 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ①
Week 8 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ②
Week 9 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ③ - 小テスト②
Week 10 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ①
Week 11 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ②
Week 12 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ③
Week 13 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ④ - 小テスト③
Week 14 後期総括

Note:クラスの人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

予習:教科書の該当ページの英文の構造を分析する。(1時間)
復習:授業で確認した発音ルールに基づいて繰り返し音読練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

スティーブジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン
出版社:朝日出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES052N		
科目名	英語初級(会話入門)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスでは主に英語の発音ルールの確認と反復練習をとおして、リスニング力とスピーキング力の向上を目指します。

- Week 1 授業ガイダンス・前期復習
- Week 2 疑問詞①
- Week 3 疑問詞② - Speaking演習
- Week 4 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ①
- Week 5 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ②
- Week 6 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ③ - 小テスト①
- Week 7 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ①
- Week 8 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ②
- Week 9 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ③ - 小テスト②
- Week 10 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ①
- Week 11 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ②
- Week 12 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ③
- Week 13 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ④ - 小テスト③
- Week 14 後期総括

Note:クラスの人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

- 予習:教科書の該当ページの英文の構造を分析する。(1時間)
- 復習:授業で確認した発音ルールに基づいて繰り返し音読練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

スティーブジョブズ伝説のスピーチ&プレゼン
出版社:朝日出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES070N		
科目名	英語初級(会話入門)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	瀬上 和典		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

文法や発音に関する知識をしっかりとスキル化して、人にわかりやすい初歩的な英語表現を発話できるようになる。

◆授業内容・計画◆

このクラスでは主に英語の発音ルールの確認と反復練習をとおして、リスニング力とスピーキング力の向上を目指します。

- Week 1 授業ガイダンス・前期復習
- Week 2 疑問詞①
- Week 3 疑問詞② – Speaking演習
- Week 4 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ①
- Week 5 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ②
- Week 6 Stay Hungry, Stay Foolish p.58 ③ – 小テスト①
- Week 7 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ①
- Week 8 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ②
- Week 9 Stay Hungry, Stay Foolish p.60 ③ – 小テスト②
- Week 10 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ①
- Week 11 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ②
- Week 12 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ③
- Week 13 Stay Hungry, Stay Foolish p.62 ④ – 小テスト③
- Week 14 後期総括

Note:クラスの人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することもあります。

◆準備学習の内容◆

- 予習:教科書の該当ページの英文の構造を分析する。(1時間)
- 復習:授業で確認した発音ルールに基づいて繰り返し音読練習を行う。(1時間)

◆成績評価の方法◆

授業参加度、小テストを総合して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

スティーブジョブズ伝説のスピーチ & プレゼン
出版社:朝日出版社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES031N		
科目名	英語会話(初級) I		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

海外旅行に必要な英会話を学ぶ

◆授業内容・計画◆

初級会話Iでは海外旅行をテーマにボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

Lesson 1: オリエンテーション
Lesson 2: U1 Airport
Lesson 3: U2 Plane
Lesson 4: U2-3 Arrival
Lesson 5: U3 Immigration
Lesson 6: U4 Hotel
Lesson 7: 中間スピーキング試験とまとめ
Lesson 8: U5 Getting information
Lesson 9: U5-6 Sightseeing
Lesson 10: U6 Restaurant
Lesson 11: U7 Theater
Lesson 12: U7と復習 Reservation
Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
Lesson 14: ロールプレイ発表
Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題や授業の復習(文法や単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、提出物、学期末テストなどを総合して評価する。また提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキスト名: Enjoy Your Trip!
著者: Masumi Takeuchi, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara
出版社: 南雲堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

Please bring an English-Japanese dictionary for each lesson.

ナンバリング	CES053N		
科目名	英語初級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

海外旅行に必要な英会話を学ぶ

◆授業内容・計画◆

初級会話Iでは海外旅行をテーマにボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力 を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

- Lesson 1: オリエンテーション
- Lesson 2: U1 Airport
- Lesson 3: U2 Plane
- Lesson 4: U2-3 Arrival
- Lesson 5: U3 Immigration
- Lesson 6: U4 Hotel
- Lesson 7: 中間スピーキング試験とまとめ
- Lesson 8: U5 Getting information
- Lesson 9: U5-6 Sightseeing
- Lesson 10: U6 Restaurant
- Lesson 11: U7 Theater
- Lesson 12: U7と復習 Reservation
- Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
- Lesson 14: ロールプレイ発表
- Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題や授業の復習(文法・単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、宿題、学期末テストなどを総合して評価する。また提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキスト名:Enjoy Your Trip!

著者:Masumi Takeuchi, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara

出版社:南雲堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

Please bring an English-Japanese dictionary for each lesson.

ナンバリング	CES071N		
科目名	英語初級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

海外旅行に必要な英会話を学ぶ

◆授業内容・計画◆

初級会話Iでは海外旅行をテーマにボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

Lesson 1: オリエンテーション
Lesson 2: U1 Airport
Lesson 3: U2 Plane
Lesson 4: U2-3 Arrival
Lesson 5: U3 Immigration
Lesson 6: U4 Hotel
Lesson 7: 中間スピーキング試験とまとめ
Lesson 8: U5 Getting information
Lesson 9: U5-6 Sightseeing
Lesson 10: U6 Restaurant
Lesson 11: U7 Theater
Lesson 12: U7と復習 Reservation
Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
Lesson 14: ロールプレイ発表
Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題や授業の復習(文法・単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、宿題、学期末テストなどを総合して評価する。また提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキスト名:Enjoy Your Trip!
著者:Masumi Takeuchi, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara
出版社:南雲堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

Please bring an English-Japanese dictionary for each lesson.

ナンバリング	CES032N		
科目名	英語会話(初級)Ⅱ		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

海外旅行で役立つ英会話を学ぶ

◆授業内容・計画◆

初級会話Ⅱでは海外旅行をテーマに前期に続きボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

Lesson 1: オリエンテーション
Lesson 2: U8 At the restaurant
Lesson 3: U8 復習と実践的な注文練習
Lesson 4: U9 Shopping
Lesson 5: U9 復習と買い物説明
Lesson 6: U10 Lost and found
Lesson 7: U10 状況説明と紛失物の詳細
Lesson 8: 中間スピーキング試験
Lesson 9: U11 Using public transportation
Lesson 10: U11 公共交通機関の情報収集
Lesson 11: U12 Medical care
Lesson 12: U12 症状の説明
Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
Lesson 14: ロールプレイ発表
Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、宿題、学期末テストなどを総合して評価する。また提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

テキスト名:Enjoy Your Trip!
著者:Masumi Takeuchi, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara
出版社:南雲堂

◆参考図書◆

◆留意事項◆

英語辞書を毎授業持参すること。参加人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES054N		
科目名	英語初級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なコミュニケーションスキルを身につける

◆授業内容・計画◆

初級会話Ⅱでは海外旅行をテーマに前期に続きボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力 を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

- Lesson 1: オリエンテーション
- Lesson 2: U8 At the restaurant
- Lesson 3: U8 復習と実践的な注文練習
- Lesson 4: U9 Shopping
- Lesson 5: U9 復習と買い物説明
- Lesson 6: U10 Lost and found
- Lesson 7: U10 状況説明と紛失物の詳細
- Lesson 8: 中間スピーキング試験
- Lesson 9: U11 Using public transportation
- Lesson 10: U11 公共交通機関の情報収集
- Lesson 11: U12 Medical care
- Lesson 12: U12 症状の説明
- Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
- Lesson 14: ロールプレイ発表
- Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Enjoy Your Trip! (著者: Masumi Tanaka, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara 出版社: 南雲堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

英語辞書を毎授業持参すること。参加人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES072N		
科目名	英語初級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

基本的なコミュニケーションスキルを身につける

◆授業内容・計画◆

初級会話IIでは海外旅行をテーマに前期に続きボキャブラリー・発音・アクセントなどに注意しながら基礎コミュニケーション能力を多角的に養ってゆきます。またペアワークやロールプレイを通して実践的な会話練習を行います。

Lesson 1: オリエンテーション
Lesson 2: U8 At the restaurant
Lesson 3: U8 復習と実践的な注文練習
Lesson 4: U9 Shopping
Lesson 5: U9 復習と買い物説明
Lesson 6: U10 Lost and found
Lesson 7: U10 状況説明と紛失物の詳細
Lesson 8: 中間スピーキング試験
Lesson 9: U11 Using public transportation
Lesson 10: U11 公共交通機関の情報収集
Lesson 11: U12 Medical care
Lesson 12: U12 症状の説明
Lesson 13: 復習、ロールプレイ発表準備
Lesson 14: ロールプレイ発表
Lesson 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

宿題を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Enjoy Your Trip! (著者: Masumi Tanaka, Nobumi Nakai, Chizu Sugawara 出版社: 南雲堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

英語辞書を毎授業持参すること。参加人数や英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES255N		
科目名	英語会話(中級) I		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介

Week 2: 専攻や専攻楽器について、初対面での会話(リスニングとスピーキング)

Week 3: 海外の音楽大学のHPと音大生の生活について(リーディングとスピーキング)

Week 4: 基礎的な音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)

Week 5: 作曲家、基礎的な音楽史(語彙とリーディング)

Week 6: 音楽表現(リスニング、リーディング、スピーキング)、中間発表準備

Week 7: 中間発表、まとめ

Week 8: 演奏法(語彙とリーディング)

Week 9: 演奏法(リスニング、スピーキング)

Week 10: 練習法(リスニング、スピーキング)

Week 11: 海外の音楽教育、授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック(リーディング、リスニング)

Week 12: 英語での授業やレッスン(スピーキング)

Week 13: 期末発表準備

Week 14: 期末発表

Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES330N		
科目名	英語中級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

- Week 1: ガイダンス、自己紹介
- Week 2: 専攻や専攻楽器について、初対面での会話(リスニングとスピーキング)
- Week 3: 海外の音楽大学のHPと音大生の生活について(リーディングとスピーキング)
- Week 4: 基礎的な音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
- Week 5: 作曲家、基礎的な音楽史(語彙とリーディング)
- Week 6: 音楽表現(リスニング、リーディング、スピーキング)、中間発表準備
- Week 7: 中間発表、まとめ
- Week 8: 演奏法(語彙とリーディング)
- Week 9: 演奏法(リスニング、スピーキング)
- Week 10: 練習法(リスニング、スピーキング)
- Week 11: 海外の音楽教育、授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック(リーディング、リスニング)
- Week 12: 英語での授業やレッスン(スピーキング)
- Week 13: 期末発表準備
- Week 14: 期末発表
- Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES077N		
科目名	英語中級(講習会対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

- Week 1: ガイダンス、自己紹介
- Week 2: 専攻や専攻楽器について、初対面での会話(リスニングとスピーキング)
- Week 3: 海外の音楽大学のHPと音大生の生活について(リーディングとスピーキング)
- Week 4: 基礎的な音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
- Week 5: 作曲家、基礎的な音楽史(語彙とリーディング)
- Week 6: 音楽表現(リスニング、リーディング、スピーキング)、中間発表準備
- Week 7: 中間発表、まとめ
- Week 8: 演奏法(語彙とリーディング)
- Week 9: 演奏法(リスニング、スピーキング)
- Week 10: 練習法(リスニング、スピーキング)
- Week 11: 海外の音楽教育、授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック(リーディング、リスニング)
- Week 12: 英語での授業やレッスン(スピーキング)
- Week 13: 期末発表準備
- Week 14: 期末発表
- Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES256N		
科目名	英語会話(中級)Ⅱ		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
Week 2: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング、スピーキング)
Week 4: 指導法(リーディング、リスニング)
Week 5: 幼児・児童指導、英語リトミック(リーディング、リスニング)
Week 6: 英語での指導実践練習(スピーキング)、中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: 海外講習会、ワークショップ: 申し込み、問い合わせ(リーディング、ライティング)
Week 9: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
Week 10: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング)
Week 11: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)
Week 12: 将来の目標、音楽のキャリアについて(リスニング、リーディング、スピーキング)
Week 13: 期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES331N		
科目名	英語中級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

- Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
- Week 2: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
- Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング、スピーキング)
- Week 4: 指導法(リーディング、リスニング)
- Week 5: 幼児・児童指導、英語リトミック(リーディング、リスニング)
- Week 6: 英語での指導実践練習(スピーキング)、中間発表準備
- Week 7: 中間発表、まとめ
- Week 8: 海外講習会、ワークショップ: 申し込み、問い合わせ(リーディング、ライティング)
- Week 9: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
- Week 10: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング)
- Week 11: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)
- Week 12: 将来の目標、音楽のキャリアについて(リスニング、リーディング、スピーキング)
- Week 13: 期末発表準備
- Week 14: 期末発表
- Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES078N		
科目名	英語中級(講習会対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習、基礎的な英文法の学習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

- Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
- Week 2: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
- Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング、スピーキング)
- Week 4: 指導法(リーディング、リスニング)
- Week 5: 幼児・児童指導、英語リトミック(リーディング、リスニング)
- Week 6: 英語での指導実践練習(スピーキング)、中間発表準備
- Week 7: 中間発表、まとめ
- Week 8: 海外講習会、ワークショップ: 申し込み、問い合わせ(リーディング、ライティング)
- Week 9: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
- Week 10: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング)
- Week 11: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)
- Week 12: 将来の目標、音楽のキャリアについて(リスニング、リーディング、スピーキング)
- Week 13: 期末発表準備
- Week 14: 期末発表
- Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES257N		
科目名	英語会話(上級) I		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介
Week 2: 専攻や専攻楽器について(リーディング、リスニング)
Week 3: 専攻や専攻楽器について(スピーキング、ライティング)
Week 4: 海外の音楽大学のHPと音大生の授業や生活について
Week 5: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
Week 6: 音楽用語、音楽理論(リスニング、スピーキング)、中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: 音楽史、作曲家(語彙とリーディング)
Week 9: 音楽史、作曲家(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 10: 演奏法(語彙とリーディング)
Week 11: 演奏法、練習法(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 12: 海外の音楽教育・授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック
Week 13: 海外の音楽教育・授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック(実践練習)、期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES332N		
科目名	英語上級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介
Week 2: 専攻や専攻楽器について
Week 3: 海外の音楽大学のHPと音大生の授業や生活について
Week 4: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
Week 5: 音楽用語、音楽理論(リスニング、スピーキング)
Week 6: 中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: 音楽史、作曲家(語彙とリーディング)
Week 9: 音楽史、作曲家(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 10: 演奏法(語彙とリーディング)
Week 11: 演奏法、練習法(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 12: 海外の音楽教育、授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック
Week 13: 期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES081N		
科目名	英語上級(講習会対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介
Week 2: 専攻や専攻楽器について
Week 3: 海外の音楽大学のHPと音大生の授業や生活について
Week 4: 音楽用語、音楽理論(語彙とリーディング)
Week 5: 音楽用語、音楽理論(リスニング、スピーキング)
Week 6: 中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: 音楽史、作曲家(語彙とリーディング)
Week 9: 音楽史、作曲家(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 10: 演奏法(語彙とリーディング)
Week 11: 演奏法、練習法(リスニング、スピーキング、ライティング)
Week 12: 海外の音楽教育、授業、幼児・児童レッスン、英語リトミック
Week 13: 期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES258N		
科目名	英語会話(上級)Ⅱ		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、音楽・演奏に関する英語表現や語彙を実践的な会話練習、ロールプレイ、発表、ディスカッション、模擬レッスン等を通して学ぶ。そのために必要な英語の発音や日常会話練習も行う。随時、海外の音楽家のインタビューやマスタークラス、授業、レッスン等の動画、音楽や演奏・指導法に関する英語の文献を取り入れ、音楽や演奏について英語で学ぶ内容とする。

Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
Week 2: 音楽用語、音楽理論
Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング)
Week 4: 曲分析、作品の特徴について(スピーキング、ライティング)
Week 5: 指導法(リーディング、リスニング)
Week 6: 指導法(ライティング、スピーキング)、中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(リスニング、リーディング)
Week 9: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(スピーキング、ライティング)
Week 10: 海外講習会、ワークショップについて(リーディング、ライティング)
Week 11: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
Week 12: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング、リーディング)
Week 13: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)、期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES333N		
科目名	英語上級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

- Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
- Week 2: 音楽用語、音楽理論
- Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング)
- Week 4: 曲分析、作品の特徴について(スピーキング、ライティング)
- Week 5: 指導法(リーディング、リスニング)
- Week 6: 指導法(ライティング、スピーキング)、中間発表準備
- Week 7: 中間発表、まとめ
- Week 8: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(リスニング、リーディング)
- Week 9: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(スピーキング、ライティング)
- Week 10: 海外講習会、ワークショップについて(リーディング、ライティング)
- Week 11: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
- Week 12: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング、リーディング)
- Week 13: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)、期末発表準備
- Week 14: 期末発表
- Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES082N		
科目名	英語上級(講習会対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	山村 薫		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	2単位
備考	国内・海外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽・演奏に関する英語表現や語彙を学び、音楽家や指導者に役立つ英語力(①音楽や演奏について英語で話す ②英語で実技レッスン、音楽の授業を受ける ③英語で音楽や演奏を指導する ④海外での講習会、コンクール、ワークショップ等に参加、留学準備をする)を身につける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: ガイダンス、自己紹介、音楽大学での日常会話練習
Week 2: 音楽用語、音楽理論
Week 3: 曲分析、作品の特徴について(リーディング)
Week 4: 曲分析、作品の特徴について(スピーキング、ライティング)
Week 5: 指導法(リーディング、リスニング)
Week 6: 指導法(ライティング、スピーキング)、中間発表準備
Week 7: 中間発表、まとめ
Week 8: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(リスニング、リーディング)
Week 9: オーケストラ・アンサンブル等のリハーサル(スピーキング、ライティング)
Week 10: 海外講習会、ワークショップについて(リーディング、ライティング)
Week 11: 海外講習会、ワークショップ: 模擬会話、レッスン・合わせ実践練習(スピーキング)
Week 12: 海外の演奏家、指導者の話(リスニング、リーディング)
Week 13: 海外の先生や学校への手紙、履歴書の書き方(ライティング)、期末発表準備
Week 14: 期末発表
Week 15: まとめ

◆準備学習の内容◆

課題や授業の予習・復習を行うこと。(週30分～1時間程度)

◆成績評価の方法◆

授業態度、取り組み姿勢、課題、中間・期末発表を総合して評価する。課題に対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

参加人数や専攻、英語理解度によって上記の授業計画スケジュールは変更することがある。

ナンバリング	CES247N		
科目名	総合英語A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit1 Our World
- 2 Lesson A
- 3 Meeting New People
- 4 Lesson B
- 5 Unit2 Career Paths
- 6 Lesson A
- 7 Cave Scientist、ここまでのまとめ
- 8 Lesson B
- 9 Unit3 Adventure
- 10 Lesson A
- 11 Hooked on Adventure
- 12 Lesson B
- 13 Unit4 The Visual Age
- 14 Lesson A, B
- 15 A Million 'Likes'、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES322N		
科目名	英語初級(再入門)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit1 Our World
- 2 Reading 1
- 3 Meeting New People
- 4 Reading 2
- 5 Unit2 Career Paths
- 6 Reading 1
- 7 Cave Scientist、ここまでのまとめ
- 8 Reading 2
- 9 Unit3 Adventure
- 10 Reading 1
- 11 Hooked on Adventure
- 12 Reading 2
- 13 Unit4 The Visual Age
- 14 Reading 1, 2
- 15 A Million 'Likes'、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES067N		
科目名	英語初級(再入門)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは翻訳家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit1 Our World
- 2 Reading 1
- 3 Meeting New People
- 4 Reading 2
- 5 Unit2 Career Paths
- 6 Reading 1
- 7 Cave Scientist、ここまでのまとめ
- 8 Reading 2
- 9 Unit3 Adventure
- 10 Reading 1
- 11 Hooked on Adventure
- 12 Reading 2
- 13 Unit4 The Visual Age
- 14 Reading 1, 2
- 15 A Million 'Likes'、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES248N		
科目名	総合英語B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit5 Risk-Taking
- 2 Reading 1
- 3 Freediving
- 4 Reading 2
- 5 Unit6 Saving the Wild
- 6 Reading 1
- 7 Saving Lemurs、ここまでのまとめ
- 8 Reading 2
- 9 Unit7 Ancient Builders
- 10 Reading 1
- 11 Mysterious Moai
- 12 Reading 2
- 13 Unit8 Alien Worlds
- 14 Reading 1, 2
- 15 Exoplanets、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES323N		
科目名	英語初級(再入門)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit5 Risk-Taking
- 2 Reading 1
- 3 Freediving
- 4 Reading 2
- 5 Unit6 Saving the Wild
- 6 Reading 1
- 7 Saving Lemurs、ここまでのまとめ
- 8 Reading 2
- 9 Unit7 Ancient Builders
- 10 Reading 1
- 11 Mysterious Moai
- 12 Reading 2
- 13 Unit8 Alien Worlds
- 14 Reading 1, 2
- 15 Exoplanets、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES068N		
科目名	英語初級(再入門)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは翻訳家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

読む、書く、聞く、話す、の4技能を通して学ぶことで、統合的に英語スキルを向上することができる。また、英語という言葉の背景にある異なる文化に関心を持ち理解を深めることができる。

◆授業内容・計画◆

教科書はリーディングとライティングに特化した、アカデミック・イングリッシュの教材である。順序だてたレッスンで、言語スキル、クリティカルシンキング力など、高等教育に必要とされる様々なスキルを身につける。ビデオ、チャート、インフォグラフィックには、日常生活や社会に関する様々な興味深いコンテンツが使用されており、視聴覚を使って読み解く力を養い、アカデミックな環境でも成功できるように学習する。また、配布物からも英語やその背景にある異文化について学ぶ。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する可能性があります。

- 1 ガイダンス、Unit5 Risk-Taking
- 2 Reading 1
- 3 Freediving
- 4 Reading 2
- 5 Unit6 Saving the Wild
- 6 Reading 1
- 7 Saving Lemurs、ここまでのまとめ
- 8 Reading 2
- 9 Unit7 Ancient Builders
- 10 Reading 1
- 11 Mysterious Moai
- 12 Reading 2
- 13 Unit8 Alien Worlds
- 14 Reading 1, 2
- 15 Exoplanets、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験やコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Pathways Foundations Reading, Writing, and Critical Thinking, 3rd edition』 Mari Vargo, Laurie Blass, and Kristin Sherman (センゲージラーニング)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES249N		
科目名	総合英語C		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を正確に理解し、②世界各国の文化を学び、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)

Week 2 Australia: 語彙を学びストーリーを知る

Week 3 Australia: 映像内容の把握とディスカッション

Week 4 Indonesia: 語彙を学びストーリーを知る

Week 5 Indonesia: 映像内容の把握とディスカッション

Week 6 Singapore: 語彙を学びストーリーを知る

Week 7 Singapore: 映像内容の把握とディスカッション

Week 8 中間試験

Week 9 China: 意語彙を学びストーリーを知る

Week 10 China: 映像内容の把握とディスカッション

Week 11 Argentina: 語彙を学びストーリーを知る

Week 12 Argentina: 映像内容の把握とディスカッション

Week 13 Mexico: 語彙を学びストーリーを知る

Week 14 Mexico: 映像内容の把握とディスカッション

Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES324N		
科目名	英語中級(映画)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を正確に理解し、②世界各国の文化を学び、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

- Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)
- Week 2 Australia: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 3 Australia: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 4 Indonesia: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 5 Indonesia: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 6 Singapore: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 7 Singapore: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 8 中間試験
- Week 9 China: 意語彙を学びストーリーを知る
- Week 10 China: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 11 Argentina: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 12 Argentina(映像内容の把握とディスカッション
- Week 13 Mexico: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 14 Mexico: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES073N		
科目名	言語と文化(英語)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を正確に理解し、②世界各国の文化を学び、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)

Week 2 Australia: 語彙を学びストーリーを知る

Week 3 Australia: 映像内容の把握とディスカッション

Week 4 Indonesia: 語彙を学びストーリーを知る

Week 5 Indonesia: 映像内容の把握とディスカッション

Week 6 Singapore: 語彙を学びストーリーを知る

Week 7 Singapore: 映像内容の把握とディスカッション

Week 8 中間試験

Week 9 China: 意語彙を学びストーリーを知る

Week 10 China: 映像内容の把握とディスカッション

Week 11 Argentina: 語彙を学びストーリーを知る

Week 12 Argentina: 映像内容の把握とディスカッション

Week 13 Mexico: 語彙を学びストーリーを知る

Week 14 Mexico: 映像内容の把握とディスカッション

Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES250N		
科目名	総合英語D		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を早く正確に理解し、②自国と世界各国の文化を比較学習し、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)

Week 2 Finland: 語彙を学びストーリーを知る

Week 3 Finland: 映像内容の把握とディスカッション

Week 4 Poland: 語彙を学びストーリーを知る

Week 5 Poland: 映像内容の把握とディスカッション

Week 6 Spain: 語彙を学びストーリーを知る

Week 7 Spain: 映像内容の把握とディスカッション

Week 8 中間試験

Week 9 Greece: 意語彙を学びストーリーを知る

Week 10 Greece: 映像内容の把握とディスカッション

Week 11 Kenya: 語彙を学びストーリーを知る

Week 12 Kenya: 映像内容の把握とディスカッション

Week 13 Morocco: 語彙を学びストーリーを知る

Week 14 Morocco: 映像内容の把握とディスカッション

Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES325N		
科目名	英語中級(映画)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を早く正確に理解し、②自国と世界各国の文化を比較学習し、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

- Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)
- Week 2 Finland: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 3 Finland: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 4 Poland: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 5 Poland: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 6 Spain: 語彙を学びストーリーを知る

- Week 7 Spain: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 8 中間試験
- Week 9 Greece: 意語彙を学びストーリーを知る
- Week 10 Greece: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 11 Kenya: 語彙を学びストーリーを知る
- Week 12 Kenya(映像内容の把握とディスカッション
- Week 13 Morocco: 語彙を学びストーリーを知る

- Week 14 Morocco: 映像内容の把握とディスカッション
- Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES074N		
科目名	言語と文化(英語)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	ロン 美香		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

テキストとDVDをとおして、①英文を早く正確に理解し、②自国と世界各国の文化を比較学習し、③英語の4スキルを学ぶ

◆授業内容・計画◆

Week 1 オリエンテーションと自己紹介(スピーキングとリスニング)

Week 2 Finland: 語彙を学びストーリーを知る

Week 3 Finland: 映像内容の把握とディスカッション

Week 4 Poland: 語彙を学びストーリーを知る

Week 5 Poland: 映像内容の把握とディスカッション

Week 6 Spain: 語彙を学びストーリーを知る

Week 7 Spain: 映像内容の把握とディスカッション

Week 8 中間試験

Week 9 Greece: 意語彙を学びストーリーを知る

Week 10 Greece: 映像内容の把握とディスカッション

Week 11 Kenya: 語彙を学びストーリーを知る

Week 12 Kenya: 映像内容の把握とディスカッション

Week 13 Morocco: 語彙を学びストーリーを知る

Week 14 Morocco: 映像内容の把握とディスカッション

Week 15 期末試験

◆準備学習の内容◆

宿題(音読、リーディング、リスニング、単語学習など)を最低、週2日(毎回30分)行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業態度、学期末テストなどを総合して評価する。提出物やテストに対しては、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

On Board for More World Adventures by Scott Berlin & Megumi Kobayashi (金星堂)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES251N		
科目名	総合英語E		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大和久 吏恵		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction & Orientation

Week 2: Unit 1 Scanning (1) キーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 3: Unit 1 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 4: Unit 2 Scanning (2) 類似語を探す、本文の内容を把握する

Week 5: Unit 2 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 6: Unit 3 Topic Sentence (1) トピックセンテンスを探す、本文の内容を把握する

Week 7: Unit 3 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 8: Unit 4 Topic Sentence (2) トピックセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 9: Unit 4 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 10: Unit 5 Supporting Sentences (1) サポートセンテンスを探す、本文の内容を把握する

Week 11: Unit 5 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 12: Unit 6 Supporting Sentences (2) サポートセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 13: Unit 6 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 14: Unit 7 Discourse Markers (1) ディスコースマーカー(談話標識)を探す、本文の内容を把握する

Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES326N		
科目名	英語上級(進学)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大和久 吏恵		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- Week 1: Introduction & Orientation
- Week 2: Unit 1 Scanning (1) キーワードを探す、本文の内容を把握する
- Week 3: Unit 1 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 4: Unit 2 Scanning (2) 類似語を探す、本文の内容を把握する
- Week 5: Unit 2 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 6: Unit 3 Topic Sentence (1) トピックセンテンスを探す、本文の内容を把握する
- Week 7: Unit 3 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 8: Unit 4 Topic Sentence (2) トピックセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する
- Week 9: Unit 4 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 10: Unit 5 Supporting Sentences (1) サポートイングセンテンスを探す、本文の内容を把握する
- Week 11: Unit 5 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 12: Unit 6 Supporting Sentences (2) サポートイングセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する
- Week 13: Unit 6 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 14: Unit 7 Discourse Markers (1) ディスコースマーカ―(談話標識)を探す、本文の内容を把握する
- Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES079N		
科目名	英語上級(講読・進学対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大和久 吏恵		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction & Orientation

Week 2: Unit 1 Scanning (1) キーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 3: Unit 1 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 4: Unit 2 Scanning (2) 類似語を探す、本文の内容を把握する

Week 5: Unit 2 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 6: Unit 3 Topic Sentence (1) トピックセンテンスを探す、本文の内容を把握する

Week 7: Unit 3 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 8: Unit 4 Topic Sentence (2) トピックセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 9: Unit 4 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 10: Unit 5 Supporting Sentences (1) サポートセンテンスを探す、本文の内容を把握する

Week 11: Unit 5 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 12: Unit 6 Supporting Sentences (2) サポートセンテンスからキーワードを探す、本文の内容を把握する

Week 13: Unit 6 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 14: Unit 7 Discourse Markers (1) ディスコースマーカー(談話標識)を探す、本文の内容を把握する

Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES252N		
科目名	総合英語F		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大和久 恵恵		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction & Orientation

Week 2: Unit 8 Discourse Markers (2) 接続詞を探す、本文の内容を把握する

Week 3: Unit 8 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 4: Unit 9 Time Order (1) 年や期間に注目する、本文の内容を把握する

Week 5: Unit 9 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 6: Unit 10 Time Order (2) 時間順を示す語を探す、本文の内容を把握する

Week 7: Unit 10 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 8: Unit 11 Cause and Effect (1) 原因や結果を示す語や表現を探す、本文の内容を把握する

Week 9: Unit 11 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 10: Unit 12 Cause and Effect (2) 原因や結果を示す語や表現を探してメモをとる、本文の内容を把握する

Week 11: Unit 12 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 12: Unit 13 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (1) 前後の語から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する

Week 13: Unit 13 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 14: Unit 14 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (2) 文法構造から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する

Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES327N		
科目名	英語上級(進学)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大和久 吏恵		
学年	1年	クラス	O3
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- Week 1: Introduction & Orientation
- Week 2: Unit 8 Discourse Markers (2) 接続詞を探す、本文の内容を把握する
- Week 3: Unit 8 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 4: Unit 9 Time Order (1) 年や期間に注目する、本文の内容を把握する
- Week 5: Unit 9 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 6: Unit 10 Time Order (2) 時間順を示す語を探す、本文の内容を把握する
- Week 7: Unit 10 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 8: Unit 11 Cause and Effect (1) 原因や結果を示す語や表現を探す、本文の内容を把握する
- Week 9: Unit 11 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 10: Unit 12 Cause and Effect (2) 原因や結果を示す語や表現を探してメモをとる、本文の内容を把握する
- Week 11: Unit 12 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 12: Unit 13 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (1) 前後の語から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する
- Week 13: Unit 13 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う
- Week 14: Unit 14 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (2) 文法構造から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する
- Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES080N		
科目名	英語上級(講読・進学対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大和久 吏恵		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学生がリーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

Week 1: Introduction & Orientation

Week 2: Unit 8 Discourse Markers (2) 接続詞を探す、本文の内容を把握する

Week 3: Unit 8 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 4: Unit 9 Time Order (1) 年や期間に注目する、本文の内容を把握する

Week 5: Unit 9 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 6: Unit 10 Time Order (2) 時間順を示す語を探す、本文の内容を把握する

Week 7: Unit 10 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 8: Unit 11 Cause and Effect (1) 原因や結果を示す語や表現を探す、本文の内容を把握する

Week 9: Unit 11 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 10: Unit 12 Cause and Effect (2) 原因や結果を示す語や表現を探してメモをとる、本文の内容を把握する

Week 11: Unit 12 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 12: Unit 13 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (1) 前後の語から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する

Week 13: Unit 13 本文を英語でまとめ、ディスカッションを行う

Week 14: Unit 14 Guessing the Meaning of Unfamiliar Words (2) 文法構造から知らない単語の意味を推測する、本文の内容を把握する

Week 15: まとめ・振り返り

* 英語でのリーディング力を育むために、適宜テキスト以外の資料も使用します。

◆準備学習の内容◆

課題(精読、単語学習、意見の発信など)を必ず行い、毎週2時間程度は積極的に英語を勉強すること。

◆成績評価の方法◆

課題の有無、意見の発信を総合して評価する。課題に関しては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Success with Reading, Book 2』, Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu ほか(成美堂)

【注意】

テキストをベースに授業を進めます。年間を通して使いますので、授業開始までに購入を済ませておいてください。使い方は授業内で説明します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

テキストおよび英語の辞書を毎回持参すること。

ナンバリング	CES253N		
科目名	総合英語G		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	O4
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。

- 1 ガイダンス、Unit 01 人物の動作と状態(Part 1)
- 2 表・用紙(Part 7)
- 3 Unit 02 疑問詞を使った疑問文(Part 2)
- 4 広告(Part 7)
- 5 Unit 03 日常場面での会話(Part 3)
- 6 品詞(Part 5)
- 7 Unit 04 アナウンス・ツアー(Part 4)、ここまでのまとめ
- 8 動詞(Part 5)
- 9 Unit 05 物の状態と位置(Part 1)
- 10 チャット(Part 7)
- 11 Unit 06 基本構文(依頼・提案・勧誘／申し出)と応答の決まり文句(Part 2)
- 12 手紙・Eメール(Part 7)
- 13 Unit 07 電話での会話(Part 3)
- 14 代名詞・関係代名詞(Part 5)
- 15 Unit 08 ラジオ放送・宣伝(Part 4)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張っ取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES328N		
科目名	英語中級(検定試験)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	O4
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

- <授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。
- 1 ガイダンス、Unit 01 人物の動作と状態 (Part 1)
 - 2 表・用紙 (Part 7)
 - 3 Unit 02 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)
 - 4 広告 (Part 7)
 - 5 Unit 03 日常場面での会話 (Part 3)
 - 6 品詞 (Part 5)
 - 7 Unit 04 アナウンス・ツアー (Part 4)、ここまでのまとめ
 - 8 動詞 (Part 5)
 - 9 Unit 05 物の状態と位置 (Part 1)
 - 10 チャット (Part 7)
 - 11 Unit 06 基本構文(依頼／提案・勧誘／申し出)と応答の決まり文句 (Part 2)
 - 12 手紙・Eメール (Part 7)
 - 13 Unit 07 電話での会話 (Part 3)
 - 14 代名詞・関係代名詞 (Part 5)
 - 15 Unit 08 ラジオ放送・宣伝 (Part 4)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張っ

ナンバリング	CES075N		
科目名	英語中級(検定試験対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。

- 1 ガイダンス、Unit 01 人物の動作と状態(Part 1)
- 2 表・用紙(Part 7)
- 3 Unit 02 疑問詞を使った疑問文(Part 2)
- 4 広告(Part 7)
- 5 Unit 03 日常場面での会話(Part 3)
- 6 品詞(Part 5)
- 7 Unit 04 アナウンス・ツアー(Part 4)、ここまでのまとめ
- 8 動詞(Part 5)
- 9 Unit 05 物の状態と位置(Part 1)
- 10 チャット(Part 7)
- 11 Unit 06 基本構文(依頼／提案・勧誘／申し出)と応答の決まり文句(Part 2)
- 12 手紙・Eメール(Part 7)
- 13 Unit 07 電話での会話(Part 3)
- 14 代名詞・関係代名詞(Part 5)
- 15 Unit 08 ラジオ放送・宣伝(Part 4)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES254N		
科目名	総合英語H		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。

- 1 ガイダンス、接続詞・前置詞(Part 5)
- 2 Unit 09 Yes/No疑問文(Part 2)
- 3 ダブルパッセージ(2つの文書)(Part 7)
- 4 Unit 10 オフィスでの会話 ①(Part 3)
- 5 Part 5の復習(Part 5)
- 6 Unit 11 留守番電話(Part 4)
- 7 トリプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)、ここまでのまとめ
- 8 Unit 12 オフィスでの会話 ②(Part 3)
- 9 Part 7の復習(Part 7)
- 10 Unit 13 Part 1とPart 2の復習(Part 1, Part 2)
- 11 時制・代名詞・語い問題(Part 6)
- 12 Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part 4)
- 13 つなぎ言葉・文の挿入(Part 6)
- 14 Unit 15 Part 3とPart 4の復習(Part 3, Part 4)
- 15 Part 6の復習(Part 6)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES329N		
科目名	英語中級(検定試験)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。

- 1 ガイダンス、接続詞・前置詞(Part 5)
- 2 Unit 09 Yes/No疑問文(Part 2)
- 3 ダブルパッセージ(2つの文書)(Part 7)
- 4 Unit 10 オフィスでの会話 ①(Part 3)
- 5 Part 5の復習(Part 5)
- 6 Unit 11 留守番電話(Part 4)
- 7 トリプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)、ここまでのまとめ
- 8 Unit 12 オフィスでの会話 ②(Part 3)
- 9 Part 7の復習(Part 7)
- 10 Unit 13 Part 1とPart 2の復習(Part 1, Part 2)
- 11 時制・代名詞・語い問題(Part 6)
- 12 Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part 4)
- 13 つなぎ言葉・文の挿入(Part 6)
- 14 Unit 15 Part 3とPart 4の復習(Part 3, Part 4)
- 15 Part 6の復習(Part 6)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES076N		
科目名	英語中級(検定試験対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	篠原 結城		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

TOEIC(R) Listening & Readingテスト(以下TOEIC)の出題形式や傾向を把握することができる。TOEICで求められる英語力を身につけることができる。解答方法を身につけることができる。学んだことをもとに、TOEICのスコアアップにつなげることができる。

◆授業内容・計画◆

TOEICは就職活動で必須の資格となりつつある。社会人になってからも、TOEICは学生時代にもっと取り組んでおきたかったものとしてよく挙げられる。昇進の要件として一定のスコアが求められることもある。さらには、突然英語が社内公用語になる企業もある。本授業ではTOEIC未受験者や、スコア400～500(大まかに英検準2～2級相当)を目指すTOEIC初級者を対象とし、出題形式や傾向を把握しながらスコアアップを目指す。

教材ではTOEICのPart 1からPart 7に15ユニットが分けられ、各ユニットはリスニングとリーディングのセットで構成、ユニットの進行がそのまま各パートの基本から応用へという流れになっている。15ユニットを学習することでTOEICのすべてのパートが学習でき、問題形式に慣れるとともに、TOEICで求められているスキルを効率的に磨くことができる。

・授業形態は演習形式で、各回の指名発表が中心となるアクティブラーニングで実施する。

<授業計画> ※進度は受講者に応じて前後する場合があります。

- 1 ガイダンス、接続詞・前置詞(Part 5)
- 2 Unit 09 Yes/No疑問文(Part 2)
- 3 ダブルパッセージ(2つの文書)(Part 7)
- 4 Unit 10 オフィスでの会話 ①(Part 3)
- 5 Part 5の復習(Part 5)
- 6 Unit 11 留守番電話(Part 4)
- 7 トリプルパッセージ(3つの文書)(Part 7)、ここまでのまとめ
- 8 Unit 12 オフィスでの会話 ②(Part 3)
- 9 Part 7の復習(Part 7)
- 10 Unit 13 Part 1とPart 2の復習(Part 1, Part 2)
- 11 時制・代名詞・語い問題(Part 6)
- 12 Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part 4)
- 13 つなぎ言葉・文の挿入(Part 6)
- 14 Unit 15 Part 3とPart 4の復習(Part 3, Part 4)
- 15 Part 6の復習(Part 6)、まとめ

◆準備学習の内容◆

わからない単語を調べておくなど教科書の予習や、理解が不十分であった箇所の復習を、最低でも毎週それぞれ30分ずつ行う。その他、授業外でも付属の学習補助データなどを活用し、積極的に受検準備のための学習を進めること。

◆成績評価の方法◆

定期試験(中間・期末)、小テスト、平常の授業への取り組み(指名発表など受講態度や取り組み姿勢、積極性等)から総合的に評価する。また、定期試験、小テストやコメントシートのフィードバックは適宜授業内で総評を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Mastery Drills for the TOEIC(R) L&R Test All in One【New Edition】／TOEIC(R) L&Rテスト マスタリードリル【全パート編】』早川 幸治(桐原書店)

◆参考図書◆

授業内で適宜指示します。

◆留意事項◆

辞書(電子辞書など)を毎回必ず持参すること。必要な予習・復習を欠かさないこと。各回の学習を大切に、頑張って取り組む姿勢を評価したい。

ナンバリング	CES033N		
科目名	ドイツ語文法初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では1年を通じて文法全体の約半分の内容を修得します。前期の「A」では、まず綴りと発音の関係をマスターしてドイツ語らしく発音できるようになり、動詞と名詞からなるごく平易な文を作るための知識を身に付け、実際に作文できるようになります。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 ガイダンス アルファベート
- 第2回 発音とあいさつ・数字
- 第3回 動詞の現在人称変化
- 第4回 出会いと自己紹介
- 第5回 名詞の性・動詞 haben
- 第6回 名詞の格変化
- 第7回 家族について尋ねる
- 第8回 不規則変化動詞
- 第9回 明日の予定を尋ねる
- 第10回 定冠詞類の格変化
- 第11回 不定冠詞類(所有冠詞・否定冠詞)の格変化
- 第12回 買い物に行く(1)
- 第13回 人称代名詞の格変化
- 第14回 複数形 買い物に行く(2)
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題がでます(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文は教科書付属のドイツ語音声を聞き、発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声を提出する場合があります。)地道な作業をルーティーンで行うことで次第にドイツ語が身につく、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。試験結果は解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典(初回ガイダンスで選び方を説明します。)

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES033N		
科目名	ドイツ語文法初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) 自分や身の回りの紹介ができる 2) 自分がよく知るジャンルについて、書かれた文章を理解できる 3) 学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4) 辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
2. 演奏者に必要なアルファベットの知識／Lektion 1: ドイツ語の発音
3. 私とあなたの世界／Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)
4. 第三者の登場／Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(2)
5. ティンパニは女性らしい？／Lektion 3: 名詞の性と格(1)
6. 主役は誰だ／Lektion 3: 名詞の性と格(2)
7. ある猫、その猫、うちの猫／Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(1)
8. チェロを持っているがピアノはない／Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(2)
9. それが彼女に彼をプレゼントする／Lektion 5: 人称代名詞(1)
10. 訳さない「それ」／Lektion 5: 人称代名詞(2)
11. 不規則らしさはどこにある？／Lektion 6: 不規則動詞・命令形(1)
12. 相手に応じた頼み方／Lektion 6: 不規則動詞・命令形(2)
13. まとめ
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ブロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1) 「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2) 欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3) 大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 4) 正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES033N		
科目名	ドイツ語文法初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。

第01回 ガイダンス

第02回 アルファベート・発音

第03回 動詞の現在人称変化1(基本型/d・t型/s・z型)

第04回 動詞の現在人称変化2(幹母音変化動詞)

第05回 動詞の現在人称変化3(sein/haben/werden)

第06回 文の種類と語順1(平叙文)

第07回 文の種類と語順2(疑問文/否定文)

第08回 名詞の数と性

第09回 冠詞

第10回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化1(格の種類)

第11回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化2(格の用法)

第12回 定冠詞類

第13回 不定冠詞類

第14回 人称代名詞

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。

課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES033N		
科目名	ドイツ語文法初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。前期は第1～6課を学びます。

- 第1回 授業の進め方、準備学習の方法、発音、自己紹介
- 第2回 第1課 動詞の現在人称変化
- 第3回 第2課 名詞の性と格、定冠詞と名詞の格変化
- 第4回 第2課 不定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
- 第5回 第3課 不規則動詞の現在人称変化、
- 第6回 第3課 疑問文、数字1～12
- 第7回 第1～3課の復習と確認テスト
- 第8回 第4課 前置詞の格支配
- 第9回 第4課 前置詞と定冠詞の融合形、国名の性と冠詞
- 第10回 第5課 定冠詞類・不定冠詞類と名詞の格変化
- 第11回 第5課 nichtとkeinの使い分け
- 第12回 第6課 人称代名詞、語順、da/dar＋前置詞
- 第13回 第6課 非人称のes、数字13～100
- 第14回 第4～6課の復習と確認テスト
- 第15回 第1～6課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)

- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES055N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内において作家であるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では1年を通じて文法全体の約半分の内容を修得します。前期の「A」では、まず綴りと発音の関係をマスターしてドイツ語らしく発音できるようになり、動詞と名詞からなるごく平易な文を作るための知識を身に着け、実際に作文できるようになります。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 ガイダンス アルファベート
- 第2回 発音とあいさつ・数字
- 第3回 動詞の現在人称変化
- 第4回 出会いと自己紹介
- 第5回 名詞の性・動詞 haben
- 第6回 名詞の格変化
- 第7回 家族について尋ねる
- 第8回 不規則変化動詞
- 第9回 明日の予定を尋ねる
- 第10回 定冠詞類の格変化
- 第11回 不定冠詞類(所有冠詞・否定冠詞)の格変化
- 第12回 買い物に行く(1)
- 第13回 人称代名詞の格変化
- 第14回 複数形 買い物に行く(2)
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題がでます(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文は教科書付属のドイツ語音声を聞き、発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声を提出する場合があります。)地道な作業をルーティーンで行うことで次第にドイツ語が身につき、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。試験結果は解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也 著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典(初回ガイダンスで選び方を説明します。)

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES055N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

授業目標 1)自分や身の回りの紹介ができる 2)自分がよく知るジャンルについて、書かれた文章を理解できる 3)学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
- 演奏者に必要なアルファベットの知識／Lektion 1: ドイツ語の発音
- 私とあなたの世界／Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)
- 第三者の登場／Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(2)
- ティンパニは女性らしい？／Lektion 3: 名詞の性と格(1)
- 主役は誰だ／Lektion 3: 名詞の性と格(2)
- ある猫、その猫、うちの猫／Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(1)
- チェロを持っているがピアノはない／Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(2)
- それが彼女に彼をプレゼントする／Lektion 5: 人称代名詞(1)
- 訳さない「それ」／Lektion 5: 人称代名詞(2)
- 不規則らしさはどこにある？／Lektion 6: 不規則動詞・命令形(1)
- 相手に応じた頼み方／Lektion 6: 不規則動詞・命令形(2)
- まとめ
- 学期末テストと総括
- まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『プロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES055N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 アルファベート・発音

- 第03回 動詞の現在人称変化1(基本型/d・t型/s・z型)
- 第04回 動詞の現在人称変化2(幹母音変化動詞)
- 第05回 動詞の現在人称変化3(sein/haben/werden)

- 第06回 文の種類と語順1(平叙文)

- 第07回 文の種類と語順2(疑問文/否定文)
- 第08回 名詞の数と性
- 第09回 冠詞

- 第10回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化1(格の種類)
- 第11回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化2(格の用法)
- 第12回 定冠詞類
- 第13回 不定冠詞類
- 第14回 人称代名詞

- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。
課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES055N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。前期は第1～6課を学びます。

- 第1回 授業の進め方、準備学習の方法、発音、自己紹介
- 第2回 第1課 動詞の現在人称変化
- 第3回 第2課 名詞の性と格、定冠詞と名詞の格変化
- 第4回 第2課 不定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
- 第5回 第3課 不規則動詞の現在人称変化、
- 第6回 第3課 疑問文、数字1～12
- 第7回 第1～3課の復習と確認テスト
- 第8回 第4課 前置詞の格支配
- 第9回 第4課 前置詞と定冠詞の融合形、国名の性と冠詞
- 第10回 第5課 定冠詞類・不定冠詞類と名詞の格変化
- 第11回 第5課 nichtとkeinの使い分け
- 第12回 第6課 人称代名詞、語順、da/dar＋前置詞
- 第13回 第6課 非人称のes、数字13～100
- 第14回 第4～6課の復習と確認テスト
- 第15回 第1～6課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。（目安1時間）
- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
 - ②自習方法：音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー－ 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES083N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内において作家であるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では1年を通じて文法全体の約半分の内容を修得します。前期の「A」では、まず綴りと発音の関係をマスターしてドイツ語らしく発音できるようになり、動詞と名詞からなるごく平易な文を作るための知識を身に付け、実際に作文できるようになります。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 ガイダンス アルファベート
- 第2回 発音とあいさつ・数字
- 第3回 動詞の現在人称変化
- 第4回 出会いと自己紹介
- 第5回 名詞の性・動詞 haben
- 第6回 名詞の格変化
- 第7回 家族について尋ねる
- 第8回 不規則変化動詞
- 第9回 明日の予定を尋ねる
- 第10回 定冠詞類の格変化
- 第11回 不定冠詞類(所有冠詞・否定冠詞)の格変化
- 第12回 買い物に行く(1)
- 第13回 人称代名詞の格変化
- 第14回 複数形 買い物に行く(2)
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題がでます(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文は教科書付属のドイツ語音声聞き、発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声を提出する場合があります。)地道な作業をルーティンで行うことで次第にドイツ語が身につく、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。試験結果は解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典(初回ガイダンスで選び方を説明します。)

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES083N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

授業目標 1)自分や身の回りの紹介ができる 2)自分がよく知るジャンルについて、書かれた文章を理解できる 3)学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
2. 演奏者に必要なアルファベットの知識/Lektion 1: ドイツ語の発音
3. 私とあなたの世界/Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)
4. 第三者の登場/Lektion 2: 人称代名詞と動詞の現在人称変化(2)
5. ティンパニは女性らしい?/Lektion 3: 名詞の性と格(1)
6. 主役は誰だ/Lektion 3: 名詞の性と格(2)
7. ある猫、その猫、うちの猫/Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(1)
8. チェロを持っているがピアノはない/Lektion 4: 定冠詞類と不定冠詞類(2)
9. それが彼女に彼をプレゼントする/Lektion 5: 人称代名詞(1)
10. 訳さない「それ」/Lektion 5: 人称代名詞(2)
11. 不規則らしさはどこにある?/Lektion 6: 不規則動詞・命令形(1)
12. 相手に応じた頼み方/Lektion 6: 不規則動詞・命令形(2)
13. まとめ
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『プロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 4)正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES083N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。

第01回 ガイダンス

第02回 アルファベート・発音

第03回 動詞の現在人称変化1(基本型/d・t型/s・z型)

第04回 動詞の現在人称変化2(幹母音変化動詞)

第05回 動詞の現在人称変化3(sein/haben/werden)

第06回 文の種類と語順1(平叙文)

第07回 文の種類と語順2(疑問文/否定文)

第08回 名詞の数と性

第09回 冠詞

第10回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化1(格の種類)

第11回 定冠詞・不定冠詞と名詞の格変化2(格の用法)

第12回 定冠詞類

第13回 不定冠詞類

第14回 人称代名詞

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。

課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES083N		
科目名	ドイツ語初級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。前期は第1～6課を学びます。

第1回 授業の進め方、準備学習の方法、発音、自己紹介
第2回 第1課 動詞の現在人称変化
第3回 第2課 名詞の性と格、定冠詞と名詞の格変化
第4回 第2課 不定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形
第5回 第3課 不規則動詞の現在人称変化、
第6回 第3課 疑問文、数字1～12
第7回 第1～3課の復習と確認テスト
第8回 第4課 前置詞の格支配
第9回 第4課 前置詞と定冠詞の融合形、国名の性と冠詞
第10回 第5課 定冠詞類・不定冠詞類と名詞の格変化
第11回 第5課 nichtとkeinの使い分け
第12回 第6課 人称代名詞、語順、da/dar＋前置詞
第13回 第6課 非人称のes、数字13～100
第14回 第4～6課の復習と確認テスト
第15回 第1～6課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)

- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習方法：音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES034N		
科目名	ドイツ語文法初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では、前期・後期を通して文法の約半分の内容を修得します。後期の「B」では、前置詞句や形容詞などの加わった文、助動詞の使い方、zu不定詞句や主文と副文などを学ぶことにより、現在形で簡単な会話や状況説明ができるようになります。およそ独検(ドイツ語技能検定試験)4級レベルに相当する実力を身に着けます。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 2格支配・3格支配・4格支配の前置詞
- 第2回 3・4格支配の前置詞 前置詞と定冠詞の融合形
- 第3回 週末の予定を尋ねる
- 第4回 形容詞の格変化
- 第5回 趣味について尋ねる
- 第6回 話法の助動詞
- 第7回 未来形
- 第8回 昼食を食べに行く
- 第9回 分離動詞・非分離動詞
- 第10回 従属の接続詞
- 第11回 駅の窓口で尋ねる
- 第12回 zu不定詞句
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 休暇の計画を尋ねる
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題がでます(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文はドイツ語音声聞きながら声に出して発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声提出する場合があります。)地道な作業をルーティンで行うことで次第にドイツ語が身につく、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。期末試験は最終授業日に行うため、正解はGoogle classroomに提示されますが試験そのものは返却されません。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES034N		
科目名	ドイツ語文法初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)相手に質問や頼み事ができる 2)どこに行っても何をしたら説明できる 3)学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス／Lektion 6までの復習
2. 大事なおかず／Lektion 7: 前置詞(1)
3. お茶とラクダ／Lektion 7: 前置詞(2)
4. オチは？／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(1)
5. ウソだ！／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(2)
6. 主人と家来／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(3)
7. もっと感情豊かに／Lektion 9: 話法の助動詞(1)
8. トイレとディズニーランド／Lektion 9: 話法の助動詞(2)
9. タとテ／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(1)
10. なりたくなかった／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(2)
11. 週末何した？／Lektion 11: 現在完了形・受動文(1)
12. おごりおごられ／Lektion 11: 現在完了形・受動文(2)
13. まとめ
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『プロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 4)正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES034N		
科目名	ドイツ語文法初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。前期開講科目「ドイツ語文法初級A(担当中村)」の続きです。

第01回 前置詞1(2格/3格/4格支配)
 第02回 前置詞2(3・4格支配)
 第03回 前置詞3(融合形・熟語)
 第04回 疑問代名詞
 第05回 分離動詞・非分離動詞
 第06回 再帰代名詞・再帰動詞
 第07回 非人称のes
 第08回 話法の助動詞
 第09回 未来形
 第10回 動詞の3基本形

第11回 過去形

第12回 現在完了形
 第13回 過去完了形
 第14回 未来完了形
 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。
 課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES034N		
科目名	ドイツ語文法初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性豊かな教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。後期は第7～9課、および第10、11課を抜粋で学びます。

第1回 前期の振り返り、第7課 話法の助動詞 種類と用法
第2回 第7課 話法の助動詞の現在人称変化
第3回 第7課 未来・推量の助動詞werden
第4回 第8課 分離動詞の特徴と練習
第5回 第8課 非分離動詞、接続詞
第6回 第8課 間接疑問文
第7回 第7、8課の復習と確認テスト
第8回 第9課 動詞の三基本形
第9回 第9課 現在完了
第10回 第9課 完了の助動詞habenとsein
第11回 第10課 動詞の過去人称変化
第12回 第10課 受動態
第13回 第11課 zu不定詞句
第14回 第9～11課の復習と確認テスト
第15回 第7～11課

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)

- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES056N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では、前期・後期を通して文法の約半分の内容を修得します。後期の「B」では、前置詞句や形容詞などの加わった文、助動詞の使い方、zu不定詞句や主文と副文などを学ぶことにより、現在形で簡単な会話や状況説明ができるようになります。およそ独検(ドイツ語技能検定試験)4級レベルに相当する実力を身に着けます。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 2格支配・3格支配・4格支配の前置詞
- 第2回 3・4格支配の前置詞 前置詞と定冠詞の融合形
- 第3回 週末の予定を尋ねる
- 第4回 形容詞の格変化
- 第5回 趣味について尋ねる
- 第6回 話法の助動詞
- 第7回 未来形
- 第8回 昼食を食べに行く
- 第9回 分離動詞・非分離動詞
- 第10回 従属の接続詞
- 第11回 駅の窓口で尋ねる
- 第12回 zu不定詞句
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 休暇の計画を尋ねる
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題ががです(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文はドイツ語音声聞きながら声に出して発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声提出する場合があります。)地道な作業をルーティーンで行うことで次第にドイツ語が身につく、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。期末試験は最終授業日に行うため、正解はGoogle classroomに提示されますが試験そのものは返却されません。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES056N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)相手に質問や頼み事ができる 2)どこに行って何をしたか説明できる 3)学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

- 1. ガイダンス／Lektion 6までの復習
- 2. 大事なおかず／Lektion 7: 前置詞(1)
- 3. お茶とラクダ／Lektion 7: 前置詞(2)
- 4. オチは？／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(1)
- 5. ウソだ！／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(2)
- 6. 主人と家来／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(3)
- 7. もっと感情豊かに／Lektion 9: 話法の助動詞(1)
- 8. トイレとディズニーランド／Lektion 9: 話法の助動詞(2)
- 9. タとテ／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(1)
- 10. なりたくなかった／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(2)
- 11. 週末何した？／Lektion 11: 現在完了形・受動文(1)
- 12. おごりおごられ／Lektion 11: 現在完了形・受動文(2)
- 13. まとめ
- 14. 学期末テストと総括
- 15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『プロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 4)正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES056N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。前期開講科目「ドイツ語初級(文法)A(担当中村)」の続きです。

- 第01回 前置詞1(2格/3格/4格支配)
- 第02回 前置詞2(3・4格支配)
- 第03回 前置詞3(融合形・熟語)
- 第04回 疑問代名詞
- 第05回 分離動詞・非分離動詞
- 第06回 再帰代名詞・再帰動詞
- 第07回 非人称のes
- 第08回 話法の助動詞
- 第09回 未来形
- 第10回 動詞の3基本形

第11回 過去形

- 第12回 現在完了形
- 第13回 過去完了形
- 第14回 未来完了形
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。
課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES056N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性豊かな教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。後期は第7～9課、および第10、11課を抜粋で学びます。

- 第1回 前期の振り返り、第7課 話法の助動詞 種類と用法
- 第2回 第7課 話法の助動詞の現在人称変化
- 第3回 第7課 未来・推量の助動詞werden
- 第4回 第8課 分離動詞の特徴と練習
- 第5回 第8課 非分離動詞、接続詞
- 第6回 第8課 間接疑問文
- 第7回 第7、8課の復習と確認テスト
- 第8回 第9課 動詞の三基本形
- 第9回 第9課 現在完了
- 第10回 第9課 完了の助動詞habenとsein
- 第11回 第10課 動詞の過去人称変化
- 第12回 第10課 受動態
- 第13回 第11課 zu不定詞句
- 第14回 第9～11課の復習と確認テスト
- 第15回 第7～11課

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES084N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

選択科目のドイツ語では、文法の一通りを「ドイツ語初級(文法)A・B」「ドイツ語中級(文法)A・B」の2年にわたるカリキュラムを通じて学びます。初年度の「ドイツ語初級(文法)A・B」では、前期・後期を通して文法の約半分の内容を修得します。後期の「B」では、前置詞句や形容詞などの加わった文、助動詞の使い方、zu不定詞句や主文と副文などを学ぶことにより、現在形で簡単な会話や状況説明ができるようになります。およそ独検(ドイツ語技能検定試験)4級レベルに相当する実力を身に着けます。

◆授業内容・計画◆

教科書の1課をおおよそ2～3回のペースで進めていきます。文法学習の後は聞き取りや読解練習も行い、理解を無理なく定着させ、日常語彙も増やしていきます。課題提出や授業外の連絡・質問の場としてGoogle classroomを利用します。

- 第1回 2格支配・3格支配・4格支配の前置詞
- 第2回 3・4格支配の前置詞 前置詞と定冠詞の融合形
- 第3回 週末の予定を尋ねる
- 第4回 形容詞の格変化
- 第5回 趣味について尋ねる
- 第6回 話法の助動詞
- 第7回 未来形
- 第8回 昼食を食べに行く
- 第9回 分離動詞・非分離動詞
- 第10回 従属の接続詞
- 第11回 駅の窓口で尋ねる
- 第12回 zu不定詞句
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 休暇の計画を尋ねる
- 第15回 総括と試験

◆準備学習の内容◆

毎回課題がでます(1時間程度)。ノートを一冊用意し練習問題は必ず全文を書き写し、作った文には訳を添えてください。また文はドイツ語音声聞きながら声に出して発音する習慣も身につけてください(課題の一つとして朗読音声提出する場合があります。)地道な作業をルーティンで行うことで次第にドイツ語が身につく、次のステップへと楽に進めるようになります。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みや小テスト、授業への参加姿勢、期末試験の成績を総合的に評価します。
期末試験は最終授業日に行うため、正解はGoogle classroomに提示されますが試験そのものは返却されません。

◆教科書(使用テキスト)◆

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』三訂版 上野成利/本田雅也著(白水社)

◆参考図書◆

独和辞典

◆留意事項◆

- 初めてドイツ語を学ぶ人はもちろん、ドイツ語既修者の復習用にも適したクラスです。
- 体系的な理解のためにはAとBをセットで、すなわち通年で履修することを推奨します。
- 公欠・病欠などで出席が難しい場合はその都度報告してください。学期末になってからのいきなりの相談には対応できません。

ナンバリング	CES084N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)相手に質問や頼み事ができる 2)どこに行って何をしたか説明できる 3)学習した文法事項を組み合わせ、作文できる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス／Lektion 6までの復習
2. 大事なおかず／Lektion 7: 前置詞(1)
3. お茶とラクダ／Lektion 7: 前置詞(2)
4. オチは？／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(1)
5. ウソだ！／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(2)
6. 主人と家来／Lektion 8: 分離動詞・接続詞(3)
7. もっと感情豊かに／Lektion 9: 話法の助動詞(1)
8. トイレとディズニーランド／Lektion 9: 話法の助動詞(2)
9. タとテ／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(1)
10. なりたくなかった／Lektion 10: 動詞の3基本形・過去形(2)
11. 週末何した？／Lektion 11: 現在完了形・受動文(1)
12. おごりおごられ／Lektion 11: 現在完了形・受動文(2)
13. まとめ
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約20分×週5回、単語練習やアプリで行う課題)。

◆成績評価の方法◆

毎週の小テスト、提出課題、授業での積極性、中間および学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『プロムナード やさしいドイツ語文法 三訂版』荻原耕平・山崎泰孝著(白水社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。
- 4)正当な理由のない欠席が授業数の3分の1以上で試験は受けられず単位は修得できません。尚、遅刻も2回で1回の欠席と見なされます。

ナンバリング	CES084N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	03
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツ語習得の基礎となる初級文法の解説および問題演習を行います。学習した文法事項を「読む・書く・聴く・話す」ことに応用できるようになるのが目標です。

◆授業内容・計画◆

文法事項の解説と問題演習を反復して行います。前期開講科目「ドイツ語初級(文法)A(担当中村)」の続きです。

第01回 前置詞1(2格/3格/4格支配)
第02回 前置詞2(3・4格支配)
第03回 前置詞3(融合形・熟語)
第04回 疑問代名詞
第05回 分離動詞・非分離動詞
第06回 再帰代名詞・再帰動詞
第07回 非人称のes
第08回 話法の助動詞
第09回 未来形
第10回 動詞の3基本形

第11回 過去形

第12回 現在完了形
第13回 過去完了形
第14回 未来完了形
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

教科書の該当箇所を予習(教科書に目を通し、単語の意味・性などの単語情報を調べ、文意・文構造を考え、練習問題を解き、理解できない点をチェック)しておいてください。目安毎週2時間。

◆成績評価の方法◆

課題と試験により総合的に評価します。
課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リヒトホーフ・ノイ』(朝日出版社)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES084N		
科目名	ドイツ語初級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	04
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単なあいさつと会話ができる。・簡単なテキストを理解し、短い文を自力で組み立てられる。

◆授業内容・計画◆

各課が簡単な会話文から始まる文法の教材を使用します。練習問題にも多くの日常表現が登場します。丁寧に勉強を進めれば、文法の力とドイツ語の理解力・発信力が身につきます。後期は第7～9課、および第10、11課を抜粋で学びます。

- 第1回 前期の振り返り、第7課 話法の助動詞 種類と用法
- 第2回 第7課 話法の助動詞の現在人称変化
- 第3回 第7課 未来・推量の助動詞werden
- 第4回 第8課 分離動詞の特徴と練習
- 第5回 第8課 非分離動詞、接続詞
- 第6回 第8課 間接疑問文
- 第7回 第7、8課の復習と確認テスト
- 第8回 第9課 動詞の三基本形
- 第9回 第9課 現在完了
- 第10回 第9課 完了の助動詞habenとsein
- 第11回 第10課 動詞の過去人称変化
- 第12回 第10課 受動態
- 第13回 第11課 zu不定詞句
- 第14回 第9～11課の復習と確認テスト
- 第15回 第7～11課

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①新しく学んだ文法や語彙が理解できているか、必ず確認しましょう。分からないことは、次の時間に質問しましょう。
- ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読し、新しい語彙は書いて覚えましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アイレ・ミット・ヴァイレー 会話ではじめるドイツ語文法』櫻井麻美(三修社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES259N		
科目名	ドイツ語文法中級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期授業への導入
第2回 前置詞の各支配

第3回 形容詞の付加語用法
第4回 分離動詞

第5回 定関係代名詞
第6回 話法の助動詞
第7回 過去形

第8回 habenを用いる現在完了形

第9回 seinを用いる現在完了形

第10回 過去完了形

第11回 zu不定詞

第12回 再帰表現

第13回 再帰代名詞
第14回 再帰動詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES334N		
科目名	ドイツ語中級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期授業への導入
第2回 前置詞の各支配

第3回 形容詞の付加語用法
第4回 分離動詞

第5回 定関係代名詞
第6回 話法の助動詞
第7回 過去形

第8回 habenを用いる現在完了形

第9回 seinを用いる現在完了形

第10回 過去完了形

第11回 zu不定詞

第12回 再帰表現

第13回 再帰代名詞
第14回 再帰動詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES089N		
科目名	ドイツ語中級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 前期授業への導入
第2回 前置詞の各支配

第3回 形容詞の付加語用法
第4回 分離動詞

第5回 定関係代名詞
第6回 話法の助動詞
第7回 過去形

第8回 habenを用いる現在完了形

第9回 seinを用いる現在完了形

第10回 過去完了形

第11回 zu不定詞

第12回 再帰表現

第13回 再帰代名詞
第14回 再帰動詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES260N		
科目名	ドイツ語文法中級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 後期授業への導入
第2回 不定関係代名詞

第3回 動作受動
第4回 状態受動

第5回 従属接続詞
第6回 接続法2式
第7回 非現実話法
第8回 婉曲話法

第9回 比較級と最上級

第10回 接続法1式
第11回 間接話法と要求話法
第12回 相関接続詞
第13回 現在分詞と過去分詞
第14回 冠飾句と関係代名詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES335N		
科目名	ドイツ語中級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 後期授業への導入
第2回 不定関係代名詞

第3回 動作受動
第4回 状態受動

第5回 従属接続詞
第6回 接続法2式
第7回 非現実話法
第8回 婉曲話法

第9回 比較級と最上級

第10回 接続法1式
第11回 間接話法と要求話法
第12回 相関接続詞
第13回 現在分詞と過去分詞
第14回 冠飾句と関係代名詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES090N		
科目名	ドイツ語中級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	長谷川 悦朗		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは脚本家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの目次の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

「初級」段階で学習した文法項目を復習するとともに「中級」段階に相当する文法項目を新たに習得してゆきます。適正な発音に習熟し基本的語彙を増強するとともに文法知識を基盤としたドイツ語運用能力を向上させます。

◆授業内容・計画◆

第1回 後期授業への導入
第2回 不定関係代名詞

第3回 動作受動
第4回 状態受動

第5回 従属接続詞
第6回 接続法2式
第7回 非現実話法
第8回 婉曲話法

第9回 比較級と最上級

第10回 接続法1式
第11回 間接話法と要求話法
第12回 相関接続詞
第13回 現在分詞と過去分詞
第14回 冠飾句と関係代名詞
第15回 総括と考査

◆準備学習の内容◆

復習として、授業で扱われた教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとにノートに整理するかPCにデータとして保存する。予習として、予告された教科書該当箇所から「単語」、「構文」、「文法」の各項目ごとに既習内容と未習内容を区別した後、後者に対して教科書に目印を付ける。そして、新出単語については独和辞書またはウェブサイトで品詞及び意味を調べる。目安毎週90分。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題遂行と期末試験に基づいて総合的に評価します。折り返し指導は授業時間内に実施します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『もっとつながるドイツ語みっとりーべ2』中村修／中川拓哉／大澤タカコ(朝日出版社)

◆参考図書◆

『気楽にドイツ語』長谷川悦朗(くもん出版)

◆留意事項◆

語学学習に自信のない学生も歓迎します。

ナンバリング	CES336N		
科目名	ドイツ語上級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

ドイツ語文法を1年間で体系的に総ざらいします。これまでに得た文法の知識を多くの練習問題によって確実に身につけます。読解や発信の力も付くため、大学院受験や留学の準備にもなります。

◆授業内容・計画◆

文法練習問題に丁寧かつ迅速に取り組む授業です。それにより、これまで学んだドイツ語文法の知識を体系化しつつ深め、中級から上級のレベルにステップアップさせます。この授業で使用する教科書の良いところは、見開きの左ページには文法のまとめや表があり、右ページ1ページ分が練習問題になっているため文法問題に取り組みやすい点です。また、文法説明は日本語で書かれていますが、練習問題の指示がドイツ語で書かれているので、会話クラスや留学時に会おうであろうドイツ語の文法用語や指示表現も自然と身につくでしょう。一人では取り組みづらい問題があっても、授業ではグループワークやピア・ラーニングを随時取り入れますので、楽しく学び合いながら理解が深まるでしょう。文法の知識は読解や発信のための基礎です。学習成果を発揮するためにも、学期末には身近なものに関する短いエッセイを書く練習をします。

- 授業計画(目安)
- 第1回 ガイダンス(詳細な授業計画をこの回に配布します)
 - 第2回 動詞の人称変化
 - 第3回 名詞の性と格変化・名詞の複数形・男性弱変化名詞
 - 第4回 不規則動詞・命令形
 - 第5回 前綴りのある動詞
 - 第6回 人称代名詞・再帰代名詞・所有冠詞
 - 第7回 話法の助動詞
 - 第8回 再帰代名詞
 - 第9回 形容詞の比較表現・形容詞語尾・序数
 - 第10回 前置詞・前置詞をとまなう熟語表現
 - 第11回 動詞の三基本形・完了形(1)現在完了形
 - 第12回 過去形・完了形(2)話法の助動詞の完了形
 - 第13回 ドイツ語エッセイの書き方演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 ふりかえりのディスカッション(ドイツ語で感想を述べる表現レッスン)

◆準備学習の内容◆

文法説明に目を通し、練習問題は必ず解いておくこと(必要時間目安 毎週最低1時間)。不明点を言葉で説明できるようにすること。自分が解ける問題でも、他の人から質問があったときに説明できるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、毎回の授業への積極的参加(質問やピア・ラーニングでの貢献)、学期末のエッセイ課題、以上を総合的に評価します。提出物には原則として次の回の授業時にはフィードバックを行います。エッセイ課題は全員分を文集としてまとめ、コメントを添えてフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 Kompakt-Kurs 1年間コース版』真岩啓子・大島尚子著(朝日出版社)
※同タイトル教科書がありますので入手時によく確認してください。本科目で使用するのはLektion 35までのコンパクト版です。
期末課題のドイツ語エッセイ集は、後日編集して自習教材として履修者に配信されます。

◆参考図書◆

『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)
万一、独和辞典をまだ持っていない場合は『クラウン独和辞典』(三省堂)を勧めますがその他の初級～中級用の辞書でも構いません。
上級クラスの皆さんには、小学館の『独和大辞典』(アプリ版あり)もお勧めしています。将来的にドイツ語圏への留学を考えている場合はLangenscheidtやDudenから出版されている学習者用独独辞典“Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache”も図書館で手にとってみましょう。

◆留意事項◆

この授業では必修ドイツ語を修了したレベル(初級文法をひと通り学んだ段階)からの受講を想定しています。文法の復習にもなりますので、学部3年生でも臆さずチャレンジしてください。1年間で文法項目を全て扱い、1冊の問題集を終えますので、通年(AB)で履修登録することを推奨します。中・上級文法の確実な習得という点では、後期の「ドイツ語文法上級B」が欠かせません。
公欠等の事情で期限内に課題に取り組めない場合は、事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	CES095N		
科目名	ドイツ語上級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した美術性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

ドイツ語文法を1年間で体系的に総ざらいします。これまでに得た文法の知識を多くの練習問題によって確実に身につけます。読解や発信の力も付くため、大学院受験や留学の準備にもなります。

◆授業内容・計画◆

文法練習問題に丁寧かつ迅速に取り組む授業です。それにより、これまで学んだドイツ語文法の知識を体系化しつつ深め、中級から上級のレベルにステップアップさせます。この授業で使用する教科書の良いところは、見開きの左ページには文法のまとめや表があり、右ページ1ページ分が練習問題になっているため文法問題に取り組みやすい点です。また、文法説明は日本語で書かれていますが、練習問題の指示がドイツ語で書かれているので、会話クラスや留学時に会おうであろうドイツ語の文法用語や指示表現も自然と身につくでしょう。一人では取り組みづらい問題があっても、授業ではグループワークやピア・ラーニングを随時取り入れますので、楽しく学び合いながら理解が深まるでしょう。文法の知識は読解や発信のための基礎です。学習成果を発揮するためにも、学期末には身近なものに関する短いエッセイを書く練習をします。

- 授業計画(目安)
- 第1回 ガイダンス(詳細な授業計画をこの回に配布します)
 - 第2回 動詞の人称変化
 - 第3回 名詞の性と格変化・名詞の複数形・男性弱変化名詞
 - 第4回 不規則動詞・命令形
 - 第5回 前綴りのある動詞
 - 第6回 人称代名詞・再帰代名詞・所有冠詞
 - 第7回 話法の助動詞
 - 第8回 再帰代名詞
 - 第9回 形容詞の比較表現・形容詞語尾・序数
 - 第10回 前置詞・前置詞をとまなう熟語表現
 - 第11回 動詞の三基本形・完了形(1)現在完了形
 - 第12回 過去形・完了形(2)話法の助動詞の完了形
 - 第13回 ドイツ語エッセイの書き方演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 ふりかえりのディスカッション(ドイツ語で感想を述べる表現レッスン)

◆準備学習の内容◆

文法説明に目を通し、練習問題は必ず解いておくこと(必要時間目安 毎週最低1時間)。不明点を言葉で説明できるようにすること。自分が解ける問題でも、他の人から質問があったときに説明できるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、毎回の授業への積極的参加(質問やピア・ラーニングでの貢献)、学期末のエッセイ課題、以上を総合的に評価します。提出物には原則として次の回の授業時にはフィードバックを行います。エッセイ課題は全員分を文集としてまとめ、コメントを添えてフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 Kompakt-Kurs 1年間コース版』眞岩啓子・大島尚子著(朝日出版社)
※同タイトル教科書がありますので入手時によく確認してください。本科目で使用するのはLektion 35までのコンパクト版です。
期末課題のドイツ語エッセイ集は、後日編集して自習教材として履修者に配信されます。

◆参考図書◆

『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)
万一、独和辞典をまだ持っていない場合は『クラウン独和辞典』(三省堂)を勧めますがその他の初級～中級用の辞書でも構いません。
上級クラスの皆さんには、小学館の『独和大辞典』(アプリ版あり)もお勧めしています。将来的にドイツ語圏への留学を考えている場合はLangenscheidtやDudenから出版されている学習者用独独辞典“Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache”も図書館で手にとってみましょう。

◆留意事項◆

この授業では必修ドイツ語を修了したレベル(初級文法をひと通り学んだ段階)からの受講を想定しています。文法の復習にもなりますので、学部3年生でも臆さずチャレンジしてください。1年間で文法項目を全て扱い、1冊の問題集を終えますので、通年(AB)で履修登録することを推奨します。中・上級文法の確実な習得という点では、後期の「ドイツ語文法上級B」が欠かせません。
公欠等の事情で期限内に課題に取り組めない場合は、事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	CES337N		
科目名	ドイツ語上級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や読解などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

前期に引き続き、ドイツ語文法を1年間で体系的に総ざらいします。これまでに得た文法の知識を多くの練習問題によって確実に身につけます。読解や発信の力も付くため、大学院受験や留学の準備にもなります。

◆授業内容・計画◆

前期の「ドイツ語文法上級A」に引き続き、文法練習問題に丁寧かつ迅速に取り組む授業です。これまでに学んだドイツ語文法の知識を体系化しつつ深め、中級から上級のレベルにステップアップさせます。後期に扱う文法項目は発展的な内容で充分身につけていないものも多いため、解説や演習をより丁寧に行います。授業ではグループワークやピア・ラーニングを随時取り入れますので、楽しく学び合いながら理解が深まるでしょう。文法の知識は読解や発信のための基礎です。今年度の学習成果を発揮するために、前期に学んだドイツ語エッセイ執筆の技術と今期さらに学んだ文法や語彙の知識を活かして日本の楽曲をドイツ語で曲紹介しましょう。ステップアップが確実に実感できます。この曲紹介ビデオ（「音楽の手紙」）を通じて、ドイツとのオンライン交流も体験できます。

- 授業計画(目安)
- 第1回 簡単なガイダンス（詳細な授業計画をこの回に配布）
 - 第2回 過去完了形・未来形・不定代名詞
 - 第3回 形容詞の用法・非人称のes
 - 第4回 前置詞句と結びつく動詞・zu不定詞
 - 第5回 関係文(1) 定関係代名詞
 - 第6回 関係文(2) 不定関係代名詞
 - 第7回 従属接続詞(1) 原因・理由・時を表す接続詞
 - 第8回 従属接続詞(2) 様態や目的を表す接続詞
 - 第9回 受動文(1) 形と用法
 - 第10回 受動文(2) さまざまな受動表現
 - 第11回 接続法(1) 形と用法
 - 第12回 接続法(2) 過去や未来の表現
 - 第13回 ドイツ語による曲紹介に関する演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 ふりかえり(ドイツとのオンライン交流：書面で感想を受けとる・ビデオ会議で鑑賞会を行い、感想を述べ合う)

◆準備学習の内容◆

文法説明に目を通し、練習問題は多くありますが必ず解いておくこと(必要時間目安 毎週最低1時間)。不明点を言葉で説明できるようにすること。自分が解ける問題でも、他の人から質問があったときに説明できるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、毎回の授業への積極的参加(質問やピア・ラーニングでの貢献)、学期末の楽曲紹介課題、以上を総合的に評価します。提出物には次の授業時までにはフィードバックを行います。期末の楽曲紹介ビデオは「音楽の手紙」(Musikalische Briefe)として編集し、ドイツからのコメントも添えてオンラインでフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 Kompakt-Kurs 1年間コース版』眞岩啓子・大島尚子著(朝日出版社)
※同タイトル教科書がありますので入手時によく確認してください。本科目で使用するのは、Lektion35までのコンパクト版です。
期末に制作するビデオ“Musikalische Briefe”は、後日自習教材としてインターネット経由で履修者に配信されます。

◆参考図書◆

『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)
万一、独和辞典をまだ持っていない場合は『クラウン独和辞典』(三省堂)を勧めますがその他の初級～中級用の辞書でも構いません。
上級クラスの皆さんには、小学館の『独和大辞典』(アプリ版あり)もお勧めしています。将来的にドイツ語圏への留学を考えている場合はLangenscheidtやDudenから出版されている学習者用独独辞典 “Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache”も図書館で手にとってみましょう。

◆留意事項◆

この授業では必修ドイツ語を修了したレベル(初級文法をひと通り学んだ段階)からの受講を想定しています。学部3年生でも臆さずチャレンジしてください。1年間で文法項目を全て扱い、1冊の問題集を終わめますので、通年(AB)で履修登録することを推奨します。中・上級文法の確実な習得という点では後期の本科目が特に重要です。
公欠等の事情で期限内に課題に取り組めない場合は、事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	CES096N		
科目名	ドイツ語上級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	宮谷 尚実		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や読解などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

前期に引き続き、ドイツ語文法を1年間で体系的に総ざらいします。これまでに得た文法の知識を多くの練習問題によって確実に身につけます。読解や発信の力も付くため、大学院受験や留学の準備にもなります。

◆授業内容・計画◆

前期の「ドイツ語文法上級A」に引き続き、文法練習問題に丁寧かつ迅速に取り組む授業です。これまでに学んだドイツ語文法の知識を体系化しつつ深め、中級から上級のレベルにステップアップさせます。後期に扱う文法項目は発展的な内容で充分身につけていないものも多いため、解説や演習をより丁寧に行います。授業ではグループワークやピア・ラーニングを随時取り入れますので、楽しく学び合いながら理解が深まるでしょう。文法の知識は読解や発信のための基礎です。今年度の学習成果を発揮するために、前期に学んだドイツ語エッセイ執筆の技術と今期さらに学んだ文法や語彙の知識を活かして日本の楽曲をドイツ語で曲紹介しましょう。ステップアップが確実に実感できます。この曲紹介ビデオ（「音楽の手紙」）を通じて、ドイツとのオンライン交流も体験できます。

- 授業計画(目安)
- 第1回 簡単なガイダンス（詳細な授業計画をこの回に配布）
 - 第2回 過去完了形・未来形・不定代名詞
 - 第3回 形容詞の用法・非人称のes
 - 第4回 前置詞句と結びつく動詞・zu不定詞
 - 第5回 関係文(1) 定関係代名詞
 - 第6回 関係文(2) 不定関係代名詞
 - 第7回 従属接続詞(1) 原因・理由・時を表す接続詞
 - 第8回 従属接続詞(2) 様態や目的を表す接続詞
 - 第9回 受動文(1) 形と用法
 - 第10回 受動文(2) さまざまな受動表現
 - 第11回 接続法(1) 形と用法
 - 第12回 接続法(2) 過去や未来の表現
 - 第13回 ドイツ語による曲紹介に関する演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 ふりかえり(ドイツとのオンライン交流：書面で感想を受けとる・ビデオ会議で鑑賞会を行い、感想を述べ合う)

◆準備学習の内容◆

文法説明に目を通し、練習問題は多くありますが必ず解いておくこと(必要時間目安 毎週最低1時間)。不明点を言葉で説明できるようにすること。自分が解ける問題でも、他の人から質問があったときに説明できるように準備すること。

◆成績評価の方法◆

課題への取り組み、毎回の授業への積極的参加(質問やピア・ラーニングでの貢献)、学期末の楽曲紹介課題、以上を総合的に評価します。提出物には次の授業時までにはフィードバックを行います。期末の楽曲紹介ビデオは「音楽の手紙」(Musikalische Briefe)として編集し、ドイツからのコメントも添えてオンラインでフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 Kompakt-Kurs 1年間コース版』眞岩啓子・大島尚子著(朝日出版社)
※同タイトル教科書がありますので入手時によく確認してください。本科目で使用するのは、Lektion35までのコンパクト版です。期末に制作するビデオ“Musikalische Briefe”は、後日自習教材としてインターネット経由で履修者に配信されます。

◆参考図書◆

『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)
万一、独和辞典をまだ持っていない場合は『クラウン独和辞典』(三省堂)を勧めますがその他の初級～中級用の辞書でも構いません。上級クラスの皆さんには、小学館の『独和大辞典』(アプリ版あり)もお勧めしています。将来的にドイツ語圏への留学を考えている場合はLangenscheidtやDudenから出版されている学習者用独独辞典“Wörterbuch Deutsch als Fremdsprache”も図書館で手にとってみましょう。

◆留意事項◆

この授業では必修ドイツ語を修了したレベル(初級文法をひと通り学んだ段階)からの受講を想定しています。学部3年生でも臆さずチャレンジしてください。1年間で文法項目を全て扱い、1冊の問題集を終えますので、通年(AB)で履修登録することを推奨します。中・上級文法の確実な習得という点では後期の本科目が特に重要です。公欠等の事情で期限内に課題に取り組めない場合は、事前に連絡・相談してください。

ナンバリング	CES037N		
科目名	ドイツ語講読初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。前期は、第1～4課を学びます。

第1回 授業の進め方、予習・復習の方法、発音、あいさつ表現

第2回 第1課 出会いと自己紹介、動詞の現在人称変化

第3回 第1課 語順、疑問詞

第4回 第2課 大学のキャンパス、名詞の性、冠詞

第5回 第2課 人称代名詞、複数形

第6回 第2課 メニューを読む

第7回 第1・2課の復習と確認テスト

第8回 第3課 私の家族、幹母音が変音する動詞の現在人称変化

第9回 第3課 命令形、冠詞類、否定文

第10回 第3課 レシピを読む

第11回 第4課 ウィーン旅行、話法の助動詞

第12回 第4課 前置詞と名詞の格

第13回 第4課 前置詞と話法の助動詞を含む文を読む

第14回 第3・4課の復習と確認テスト

第15回 第1～4課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)

①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。

②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読しましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnaу、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)

『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES059N		
科目名	ドイツ語初級(講読)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。前期は、第1～4課を学びます。

- 第1回 授業の進め方、予習・復習の方法、発音、あいさつ表現
第2回 第1課 出会いと自己紹介、動詞の現在人称変化
第3回 第1課 語順、疑問詞
- 第4回 第2課 大学のキャンパス、名詞の性、冠詞
第5回 第2課 人称代名詞、複数形
第6回 第2課 メニューを読む
第7回 第1・2課の復習と確認テスト
第8回 第3課 私の家族、幹母音が変音する動詞の現在人称変化
第9回 第3課 命令形、冠詞類、否定文
第10回 第3課 レシピを読む
第11回 第4課 ウィーン旅行、話法の助動詞
第12回 第4課 前置詞と名詞の格
第13回 第4課 前置詞と話法の助動詞を含む文を読む
第14回 第3・4課の復習と確認テスト
第15回 第1～4課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。
 - ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読しsましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnaу、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES085N		
科目名	ドイツ語初級(講読・検定対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。前期は、第1～4課を学びます。

- 第1回 授業の進め方、予習・復習の方法、発音、あいさつ表現
第2回 第1課 出会いと自己紹介、動詞の現在人称変化
第3回 第1課 語順、疑問詞
- 第4回 第2課 大学のキャンパス、名詞の性、冠詞
第5回 第2課 人称代名詞、複数形
第6回 第2課 メニューを読む
第7回 第1・2課の復習と確認テスト
第8回 第3課 私の家族、幹母音が変音する動詞の現在人称変化
第9回 第3課 命令形、冠詞類、否定文
第10回 第3課 レシピを読む
第11回 第4課 ウィーン旅行、話法の助動詞
第12回 第4課 前置詞と名詞の格
第13回 第4課 前置詞と話法の助動詞を含む文を読む
第14回 第3・4課の復習と確認テスト
第15回 第1～4課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。
 - ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読しsましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnau、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES038N		
科目名	ドイツ語講読初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。後期は、第5～7課、および第9課よりzu不定詞句を学びます。

第1回 前期の振り返り、第5課 複合動詞
第2回 第5課 接続詞
第3回 第5課 形容詞の格変化
第4回 第5課 時間の表現、接続詞を含む文を読む
第5回 第6課 動詞の三基本形、過去人称変化
第6回 第6課 現在完了、完了の助動詞habenとsein
第7回 第5課と第6課前半の復習と確認テスト
第8回 第6課 序数、日付の表現
第9回 第6課 日記を読む
第10回 第7課 受動態
第11回 第7課 形容詞の比較級と最上級
第12回 第7課 3つのwerdenの用法
第13回 第9課 zu不定詞句(p.98, § 1)
第14回 第6課後半と第7課の復習と確認テスト
第15回 第5～7課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)

- ①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。
- ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読しましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnaу、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES060N		
科目名	ドイツ語初級(講読)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。後期は、第5～7課、および第9課よりzu不定詞句を学びます。

- 第1回 前期の振り返り、第5課 複合動詞
- 第2回 第5課 接続詞
- 第3回 第5課 形容詞の格変化
- 第4回 第5課 時間の表現、接続詞を含む文を読む
- 第5回 第6課 動詞の三基本形、過去人称変化
- 第6回 第6課 現在完了、完了の助動詞habenとsein
- 第7回 第5課と第6課前半の復習と確認テスト
- 第8回 第6課 序数,日付の表現
- 第9回 第6課 日記を読む
- 第10回 第7課 受動態
- 第11回 第7課 形容詞の比較級と最上級
- 第12回 第7課 3つのwerdenの用法
- 第13回 第9課 zu不定詞句(p.98, § 1)
- 第14回 第6課後半と第7課の復習と確認テスト
- 第15回 第5～7課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。
 - ②自習方法:音声データを聞き、例文を音読しましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか〈Ver. 4〉』佐藤和弘、Heike Pinnaу、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES086N		
科目名	ドイツ語初級(講読・検定対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

・ドイツ語のしくみの基本を身につける。・簡単な会話やテキストを読める。・ドイツの日常生活で使われる語彙を知る。

◆授業内容・計画◆

ナナは音楽専攻の大学生で、現在ドイツに留学中です。学生寮でドイツ人学生や他の国からの留学生たちと交流します。後期は、第5～7課、および第9課よりzu不定詞句を学びます。

- 第1回 前期の振り返り、第5課 複合動詞
- 第2回 第5課 接続詞
- 第3回 第5課 形容詞の格変化
- 第4回 第5課 時間の表現、接続詞を含む文を読む
- 第5回 第6課 動詞の三基本形、過去人称変化
- 第6回 第6課 現在完了、完了の助動詞habenとsein
- 第7回 第5課と第6課前半の復習と確認テスト
- 第8回 第6課 序数、日付の表現
- 第9回 第6課 日記を読む
- 第10回 第7課 受動態
- 第11回 第7課 形容詞の比較級と最上級
- 第12回 第7課 3つのwerdenの用法
- 第13回 第9課 zu不定詞句 (p.98, § 1)
- 第14回 第6課後半と第7課の復習と確認テスト
- 第15回 第5～7課のまとめと練習

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。必ず復習をしてから次の授業に臨んでください。(目安1時間)
- ①単語帳を作って、語彙を増やしましょう。
 - ②自習方法: 音声データを聞き、例文を音読しましょう。理解できていない文法などに気づいたら、次の時間に質問しましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内に行う2回のテスト、および準備と復習を含む授業への取り組みを総合的に評価します。学習の成果について、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ドイツに行ってみませんか(Ver. 4)』佐藤和弘、Heike Pinnau、中村雅美(郁文堂)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

◆留意事項◆

初めて学ぶ外国語の授業では、毎回新しい内容が出てきます。必ず毎時間後に復習してください。

ナンバリング	CES267N		
科目名	ドイツ語講読中級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) 動詞を中心に文章を分析できる 2) 辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3) 原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4) 辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
2. 何者？どこにいる？ある？／Lektion 1: ich bin Yuta.
3. 誰が何を何する？／Lektion 2: Leibniz (1)
4. 「がのにを」の登場頻度とお口の経済学／Lektion 2: Leibniz (2)、応用編
5. 「それ」の性別は？／Lektion 3: Der Baumkuchen
6. 音がどう変わる？／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (1)
7. -en/-en Gruppe／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (2)、応用編
8. 私のハリボー、どのハリボー？このハリボー／Lektion 5: HARIBO
9. Wo ...?とWohin ...?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (1)
10. Brot? Gebäck?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (2)、応用編
11. なぜ黒い？／Lektion 7: Der Schwarzwald und seine Kultur
12. 分離・非分離の見分け／Lektion 8: Der Apfelstrudel (1)
13. Kuchen in Deutschland／Lektion 8: Der Apfelstrudel (2)、応用編
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声を聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『お菓子で学ぶドイツ語』平山茂樹・小野森郁子・藤由順子(朝日出版社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1) 「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2) 欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3) 大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES342N		
科目名	ドイツ語中級(講読)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) 動詞を中心に文章を分析できる 2) 辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3) 原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4) 辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
2. 何者？どこにいる？ある？／Lektion 1: ich bin Yuta.
3. 誰が何を何する？／Lektion 2: Leibniz (1)
4. 「がのにを」の登場頻度とお口の経済学／Lektion 2: Leibniz (2)、応用編
5. 「それ」の性別は？／Lektion 3: Der Baumkuchen
6. 音がどう変わる？／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (1)
7. -en/-en Gruppe／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (2)、応用編
8. 私のハリボー、どのハリボー？このハリボー／Lektion 5: HARIBO
9. Wo ...?とWohin ...?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (1)
10. Brot? Gebäck?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (2)、応用編
11. なぜ黒い？／Lektion 7: Der Schwarzwald und seine Kultur
12. 分離・非分離の見分け／Lektion 8: Der Apfelstrudel (1)
13. Kuchen in Deutschland／Lektion 8: Der Apfelstrudel (2)、応用編
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声を聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『お菓子で学ぶドイツ語』平山茂樹・小野森郁子・藤由順子(朝日出版社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1) 「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2) 欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3) 大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES091N		
科目名	ドイツ語中級(講読・検定対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)動詞を中心に文章を分析できる 2)辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3)原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス(道具と勉強法—アナログとデジタル)
2. 何者？どこにいる？ある？／Lektion 1: ich bin Yuta.
3. 誰が何を何する？／Lektion 2: Leibniz (1)
4. 「がのにを」の登場頻度とお口の経済学／Lektion 2: Lebniz (2)、応用編
5. 「それ」の性別は？／Lektion 3: Der Baumkuchen
6. 音がどう変わる？／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (1)
7. -en/-en Gruppe／Lektion 4: Rothenburg ob der Tauber und die Schneebälle (2)、応用編
8. 私のハリボー、どのハリボー？このハリボー／Lektion 5: HARIBO
9. Wo ...?とWohin ...?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (1)
10. Brot? Gebäck?／Lektion 6: Der Zwetschkuchen (2)、応用編
11. なぜ黒い？／Lektion 7: Der Schwarzwald und seine Kultur
12. 分離・非分離の見分け／Lektion 8: Der Apfelstrudel (1)
13. Kuchen in Deutschland／Lektion 8: Der Apfelstrudel (2)、応用編
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声を聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『お菓子で学ぶドイツ語』平山茂樹・小野森郁子・藤由順子(朝日出版社)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES268N		
科目名	ドイツ語講読中級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1) 動詞を中心に文章を分析できる 2) 辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3) 原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4) 辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス、Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
2. 目には目を、歯には歯を／Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
3. 両者の関係性は等しいか／Lektion 10: Die Prinzregententorte (1)
4. その老人は何歳ぐらい？／Lektion 10: Die Prinzregententorte (2)、応用編
5. 時制を仕分ける／Lektion 11: Das Dresdner Stollenfest
6. 現在完了を仕分ける／Lektion 12: Der Streuselkuchen (1)
7. 分離と非分離の違い／Lektion 12: Der Streuselkuchen (2)、応用編
8. 自分が自分に働きかける／Lektion 13: Der Zwieback (1)
9. 生地は混ぜられ、伸ばされる／Lektion 13: Der Zwieback (2)
10. 今から詳しく説明します／Lektion 14: Der Schokodöner (1)
11. 面白がれない人は面白くない／Lektion 14: Der Schokodöner (2)
12. 誰かがそう言っています／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (1)
13. 処世術と脳内の遊び／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (2)
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声を聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

「お菓子で学ぶドイツ語」(朝日出版社／ISBN978-4-255-25413-5)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1) 「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2) 欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3) 大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES343N		
科目名	ドイツ語中級(講読)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)動詞を中心に文章を分析できる 2)辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3)原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス、Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
2. 目には目を、歯には歯を／Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
3. 両者の関係性は等しいか／Lektion 10: Die Prinzregententorte (1)
4. その老人は何歳ぐらい？／Lektion 10: Die Prinzregententorte (2)、応用編
5. 時制を仕分ける／Lektion 11: Das Dresdner Stollenfest
6. 現在完了を仕分ける／Lektion 12: Der Streuselkuchen (1)
7. 分離と非分離の違い／Lektion 12: Der Streuselkuchen (2)、応用編
8. 自分が自分に働きかける／Lektion 13: Der Zwieback (1)
9. 生地は混ぜられ、伸ばされる／Lektion 13: Der Zwieback (2)
10. 今から詳しく説明します／Lektion 14: Der Schokodöner (1)
11. 面白がれない人は面白くない／Lektion 14: Der Schokodöner (2)
12. 誰かがそう言っています／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (1)
13. 処世術と脳内の遊び／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (2)
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声を聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

「お菓子で学ぶドイツ語」(朝日出版社／ISBN978-4-255-25413-5)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES092N		
科目名	ドイツ語中級(講読・検定対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	大浜 陽子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1)動詞を中心に文章を分析できる 2)辞書の用例と比較し、文脈に合った訳文を考えることができる 3)原文に登場する地名や固有名詞について正しい情報源を調べ、知識を深めることができる 4)辞書のひきかたをマスターする

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス、Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
2. 目には目を、歯には歯を／Lektion 9: Nürnberger Lebkuchen
3. 両者の関係性は等しいか／Lektion 10: Die Prinzregententorte (1)
4. その老人は何歳ぐらい？／Lektion 10: Die Prinzregententorte (2)、応用編
5. 時制を仕分ける／Lektion 11: Das Dresdner Stollenfest
6. 現在完了を仕分ける／Lektion 12: Der Streuselkuchen (1)
7. 分離と非分離の違い／Lektion 12: Der Streuselkuchen (2)、応用編
8. 自分が自分に働きかける／Lektion 13: Der Zwieback (1)
9. 生地は混ぜられ、伸ばされる／Lektion 13: Der Zwieback (2)
10. 今から詳しく説明します／Lektion 14: Der Schokodöner (1)
11. 面白がれない人は面白くない／Lektion 14: Der Schokodöner (2)
12. 誰かがそう言っています／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (1)
13. 処世術と脳内の遊び／Lektion 15: Der Maulwurfkuchen (2)
14. 学期末テストと総括
15. まとめとフィードバック

◆準備学習の内容◆

読む書く: 前回の授業内容を復習することが、毎回の授業に必要な準備です。復習の方法は教員が毎回の授業で具体的に指示します(約15分×週5回)。
 聞く話す: 先取り学習として、音声聞いて真似る練習をしてください。どの課題をどういった方法で練習するか、教員が毎回の授業で具体的に指示します(約5分×週5回)。
 毎週火曜の18時までに課題を提出してください。授業では提出された課題を中心に話し合います。

◆成績評価の方法◆

小テスト、提出課題、授業での積極性、学期末テストの結果から総合評価します。フィードバックは適宜授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

「お菓子で学ぶドイツ語」(朝日出版社／ISBN978-4-255-25413-5)

◆参考図書◆

紙の独和辞典が必要です。これから購入予定の方は、初回授業で紹介する3冊から比較検討し、自分に合うものを選んでください。

◆留意事項◆

- 1)「発見」「話し合い」「学び合い」を重視しています。積極的な授業参加が望まれます。
- 2)欠席する際は、必ず連絡をください。欠席した回の授業内容は、クラスメイトに教わることでフォローアップしてください。
- 3)大学主催の演奏会や教職関連の実習で欠席する場合、必ず公欠の届を提出してください。

ナンバリング	CES269N		
科目名	ドイツ語講読上級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、日本との共通点や違いについて理解を深めるとともに、読解のスキルを意識的に身に付けます。教科書は各課が「文法復習問題⇒読解テキスト⇒作文」という流れで、1課をおおよそ1～3回で進めていきます。並行して語彙力をつけるための単語小テストも行います。受講者の理解度や意欲により実際の進度は調整されます。

第1回 Lektion00 ガイダンス 発音とアクセント 数字

- 第2回 Lektion01 動詞の現在人称変化 語順 読解「自己紹介」
- 第3回 Lektion02 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞
- 第4回 Lektion02 読解「ドイツ語圏の地理」
- 第5回 Lektion03 不規則変化動詞 命令形 人称代名詞
- 第6回 Lektion03 読解「食文化とカフェ」
- 第7回 Lektion04 定冠詞類 不定冠詞類 前置詞(1)
- 第8回 Lektion04 読解「ドイツの産業と技術」
- 第9回 Lektion05 前置詞(2) 話法の助動詞
- 第10回 Lektion05 接続詞 読解「旅行」
- 第11回 Lektion05 読解「旅行」
- 第12回 Lektion06 分離・非分離動詞 再帰動詞 zu不定詞句
- 第13回 Lektion06 読解「ドイツの高等教育」
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声は何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	CES344N		
科目名	ドイツ語上級(講読)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性豊かな教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、日本との共通点や違いについて理解を深めるとともに、読解のスキルを意識的に身に付けます。教科書は各課が「文法復習問題⇒読解テキスト⇒作文」という流れで、1課をおおよそ1～3回で進めていきます。並行して語彙力をつけるための単語小テストも行います。受講者の理解度や意欲により実際の進度は調整されます。

第1回 Lektion00 ガイダンス 発音とアクセント 数字

- 第2回 Lektion01 動詞の現在人称変化 語順 読解「自己紹介」
- 第3回 Lektion02 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞
- 第4回 Lektion02 読解「ドイツ語圏の地理」
- 第5回 Lektion03 不規則変化動詞 命令形 人称代名詞
- 第6回 Lektion03 読解「食文化とカフェ」
- 第7回 Lektion04 定冠詞類 不定冠詞類 前置詞(1)
- 第8回 Lektion04 読解「ドイツの産業と技術」
- 第9回 Lektion05 前置詞(2) 話法の助動詞
- 第10回 Lektion05 接続詞 読解「旅行」
- 第11回 Lektion05 読解「旅行」
- 第12回 Lektion06 分離・非分離動詞 再帰動詞 zu不定詞句
- 第13回 Lektion06 読解「ドイツの高等教育」
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声を何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	GES097N		
科目名	ドイツ語上級(講読・進学対策)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	川口 眞理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、日本との共通点や違いについて理解を深めるとともに、読解のスキルを意識的に身に付けます。教科書は各課が「文法復習問題⇒読解テキスト⇒作文」という流れで、1課をおおよそ1～3回で進めていきます。並行して語彙力をつけるための単語小テストも行います。受講者の理解度や意欲により実際の進度は調整されます。

第1回 Lektion00 ガイダンス 発音とアクセント 数字

- 第2回 Lektion01 動詞の現在人称変化 語順 読解「自己紹介」
- 第3回 Lektion02 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞
- 第4回 Lektion02 読解「ドイツ語圏の地理」
- 第5回 Lektion03 不規則変化動詞 命令形 人称代名詞
- 第6回 Lektion03 読解「食文化とカフェ」
- 第7回 Lektion04 定冠詞類 不定冠詞類 前置詞(1)
- 第8回 Lektion04 読解「ドイツの産業と技術」
- 第9回 Lektion05 前置詞(2) 話法の助動詞
- 第10回 Lektion05 接続詞 読解「旅行」
- 第11回 Lektion05 読解「旅行」
- 第12回 Lektion06 分離・非分離動詞 再帰動詞 zu不定詞句
- 第13回 Lektion06 読解「ドイツの高等教育」
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声は何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	CES270N		
科目名	ドイツ語講読上級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	川口 真理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、ドイツ語圏と日本との共通点や違いについて関心を深めるとともに、より高度な読解のスキルを身に付け、読解の質と量、スピードを上げていきます。授業の流れは前期のAと同様ですが、後期は教科書外からも復習プリントを増やし、基礎文法力を万全なものとします。単語小テストも引き続き行い、語の派生の知識も増やしていきます。教科書を読み終わったあとは、ドイツの新聞・雑誌・文学の原典などから参加者の希望によりテキストを選び、1年の学習の総仕上げを行います。

第1回 Lektion07 動詞の三基本形 過去形 現在完了形

- 第2回 Lektion07 読解「歴史 ベルリン」
- 第3回 Lektion08 形容詞 序数
- 第4回 Lektion08 読解「哲学とフロイトの精神分析」
- 第5回 Lektion09 受動態
- 第6回 Lektion09 関係代名詞
- 第7回 Lektion09 読解「ドイツとスイスのサッカー」
- 第8回 Lektion10 接続法第Ⅱ式
- 第9回 Lektion10 接続法第Ⅰ式
- 第10回 Lektion10 読解「ドイツ文学ーカフカの『変身』」
- 第11回 自由テキスト(1)
- 第12回 自由テキスト(2)
- 第13回 自由テキスト(3)
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声は何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。
また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	CES345N		
科目名	ドイツ語上級(講読)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	川口 真理		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、ドイツ語圏と日本との共通点や違いについて関心を深めるとともに、より高度な読解のスキルを身に付け、読解の質と量、スピードを上げていきます。授業の流れは前期のAと同様ですが、後期は教科書外からも復習プリントを増やし、基礎文法力を万全なものとします。単語小テストも引き続き行い、語の派生の知識も増やしていきます。教科書を読み終わったあとは、ドイツの新聞・雑誌・文学の原典などから参加者の希望によりテキストを選び、1年の学習の総仕上げを行います。

第1回 Lektion07 動詞の三基本形 過去形 現在完了形

- 第2回 Lektion07 読解「歴史 ベルリン」
- 第3回 Lektion08 形容詞 序数
- 第4回 Lektion08 読解「哲学とフロイトの精神分析」
- 第5回 Lektion09 受動態
- 第6回 Lektion09 関係代名詞
- 第7回 Lektion09 読解「ドイツとスイスのサッカー」
- 第8回 Lektion10 接続法第Ⅱ式
- 第9回 Lektion10 接続法第Ⅰ式
- 第10回 Lektion10 読解「ドイツ文学ーカフカの『変身』」
- 第11回 自由テキスト(1)
- 第12回 自由テキスト(2)
- 第13回 自由テキスト(3)
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声を何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。
また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	CES098N		
科目名	ドイツ語上級(講読・進学対策)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	川口 真理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

大学院受験や留学をも見据えた読解力を身に着ける。具体的には読解に際し自らの文法力・語彙力を反射的に活用できるようになる。初見で時間をかけずにテキストの大意をつかみ、辞書を活用すれば正確に理解できるようになる。将来のドイツ語体験に生かせるドイツ語圏の社会・文化に関する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

ドイツ語文法を復習しつつドイツ語圏の社会や文化に関するテキストを読み、ドイツ語圏と日本との共通点や違いについて関心を深めるとともに、より高度な読解のスキルを身に付け、読解の質と量、スピードを上げていきます。授業の流れは前期のAと同様ですが、後期は教科書外からも復習プリントを増やし、基礎文法力を万全なものとしします。単語小テストも引き続き行い、語の派生の知識も増やしていきます。教科書を読み終わったあとは、ドイツの新聞・雑誌・文学の原典などから参加者の希望によりテキストを選び、1年の学習の総仕上げを行います。

第1回 Lektion07 動詞の三基本形 過去形 現在完了形

- 第2回 Lektion07 読解「歴史 ベルリン」
- 第3回 Lektion08 形容詞 序数
- 第4回 Lektion08 読解「哲学とフロイトの精神分析」
- 第5回 Lektion09 受動態
- 第6回 Lektion09 関係代名詞
- 第7回 Lektion09 読解「ドイツとスイスのサッカー」
- 第8回 Lektion10 接続法第Ⅱ式
- 第9回 Lektion10 接続法第Ⅰ式
- 第10回 Lektion10 読解「ドイツ文学ーカフカの『変身』」
- 第11回 自由テキスト(1)
- 第12回 自由テキスト(2)
- 第13回 自由テキスト(3)
- 第14回 復習と補足
- 第15回 まとめと理解の確認

◆準備学習の内容◆

丁寧な予習が必須です(毎回1～2時間)。文法問題はまずはこれまでの知識を元に取り組みましょう。授業で理解を確認しつつ弱点を補強します。読解テキストでは、①ドイツ語音声は何度も聴き音読練習する ②ノートに全文を数行置きに書き写す ③主語と動詞をマーキングし、まだ辞書は引かずにテキストの大意を考える ④未知の語彙を動詞から調べて情報をノートに書き込み、文の構造に留意しつつ(不明点は『必携ドイツ文法総まとめ』等を参照)、文を自分の言葉で訳してみる。⑤テキスト内容を理解した授業後にさらに音読練習をし、それを録音したデータをGoogle Classroomに提出する。
また並行して語彙力をつけるための小テストへの準備も行いましょう。

◆成績評価の方法◆

3分の2以上の出席を前提に「授業への積極性・小テスト・期末テスト」で評価します。期末テストは解説の上フィードバックされます。

◆教科書(使用テキスト)◆

『ミニマムドイツ語・レーゼン』熊谷哲也・大喜祐太(朝日出版社)

◆参考図書◆

『必携 ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧(白水社)。「文法の辞書」として手元にあると非常に役立つものです。他は授業中に指示します。授業には毎回辞書を持参してください。携帯を辞書代わりに使うことは認めません。

◆留意事項◆

- 大学院受験や留学などでドイツ語の読解力を必要とする4年生はもちろん、文法を一通り学び終えた3年生も歓迎です。
- 質問や課題提出、またオンライン授業時のツールとしてGoogle classroomを活用します。
- 介護実習や教育実習など、連続の欠席が分かっている場合は事前に相談してください。
- 読解力を付けるには時間がかかります。できるだけAとBをセットで、通年で受講することを推奨します。

ナンバリング	CES035N		
科目名	ドイツ語会話初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- ・ドイツ語で話すことを楽しむ。
- ・短い文を正確に組み立てる。
- ・場面ごとに必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公やその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず映像とCDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。前期の学習範囲は、第1～4課です。

- 第1回 自己紹介／第1課(1) テーマ: 知り合う
- 第2回 第1課(2) あいさつ、自己紹介
- 第3回 第1課(3) 出身地を尋ねる
- 第4回 第1課の確認と復習、第2課(1) テーマ: 家族の紹介
- 第5回 第2課(2) お元気ですか、
- 第6回 第2課(3) 親族名称、プロフィール
- 第7回 第2課の確認と復習、第3課(1) テーマ: 買い物
- 第8回 第3課(2) 食品・食材の名称
- 第9回 第3課(3) 値段を尋ねる
- 第10回 第3課(4) 買い物、食べ物好み
- 第11回 第3課の確認と復習、第4課(1) テーマ: 住まい
- 第12回 第4課(2) 部屋の名称、形容詞
- 第13回 第4課(3) 家具の名称、色の形容詞
- 第14回 第4課の確認と復習
- 第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

ドイツ語圏の講習会で、あるいはドイツ語圏から指導にいらした先生と話せるようにしたい人は、ぜひ履修してください。家での復習も含めてしっかり取り組みれば、短いドイツ語でのやり取りを自信を持って出来るようになります。

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。(目安毎週30分)

- (1) 学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
- (2) 教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。
- (3) 初心者から履修できます。その場合は、簡単な予習を組み合わせると効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言やスピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著(Hueber社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ベレ出版)
『すぐに使えるドイツ語会話スーパー・ビジュアル』正木晶子ほか(UNICOM)

◆留意事項◆

- (1) 授業に出席してドイツ語で話すことがもっとも重要です。全授業出席を目指してください。
- (2) 間違ってもいいので、大きな声ではっきりと話しましょう。学んだことは、次の時間までに必ず一度復習しましょう。
- (3) 初心者、なるべく「ドイツ語文法初級／初級(文法)AB」も並行して履修しましょう。
- (4) 万が一欠席した場合、どこまで進んだかをクラスメートまたは教員に確認し、必ず自分で学習してください。

ナンバリング	CES057N		
科目名	ドイツ語初級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- ・ドイツ語で話すことを楽しむ。
- ・短い文を正確に組み立てる。
- ・場面ごとに必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公やその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず映像とCDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。前期の学習範囲は、第1～4課です。

- 第1回 自己紹介／第1課(1) テーマ: 知り合う
- 第2回 第1課(2) あいさつ、自己紹介
- 第3回 第1課(3) 出身地を尋ねる
- 第4回 第1課の確認と復習、第2課(1) テーマ: 家族の紹介
- 第5回 第2課(2) お元気ですか、
- 第6回 第2課(3) 親族名称、プロフィール
- 第7回 第2課の確認と復習、第3課(1) テーマ: 買い物
- 第8回 第3課(2) 食品・食材の名称
- 第9回 第3課(3) 値段を尋ねる
- 第10回 第3課(4) 買い物、食べ物好み
- 第11回 第3課の確認と復習、第4課(1) テーマ: 住まい
- 第12回 第4課(2) 部屋の名称、形容詞
- 第13回 第4課(3) 家具の名称、色の形容詞
- 第14回 第4課の確認と復習
- 第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

ドイツ語圏の講習会で、あるいはドイツ語圏から指導にいらした先生と話せるようにしたい人は、ぜひ履修してください。家での復習も含めてしっかり取り組みれば、短いドイツ語でのやり取りを自信を持って出来るようになります。

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。(目安毎週30分)
- (1)学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
 - (2)教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。
 - (3)初心者から履修できます。その場合は、簡単な予習を組み合わせると効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言やスピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著(Hueber社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)
- 『すぐに使えるドイツ語会話スーパー・ビジュアル』正木晶子ほか(UNICOM)

◆留意事項◆

- (1)授業に出席してドイツ語で話すことがもっとも重要です。全授業出席を目指してください。
- (2)間違ってもいいので、大きな声ではっきりと話しましょう。学んだことは、次の時間までに必ず一度復習しましょう。
- (3)初心者は、なるべく「ドイツ語文法初級／初級(文法)AB」も並行して履修しましょう。
- (4)万が一欠席した場合、どこまで進んだかをクラスメートまたは教員に確認し、必ず自分で学習してください。

ナンバリング	CES087N		
科目名	ドイツ語初級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・ドイツ語で話すことを楽しむ。・短い文を正確に組み立てる。・場面ごとに必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公やその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず映像とCDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。前期の学習範囲は、第1～4課です。

第1回 自己紹介／第1課(1) テーマ: 知り合う

第2回 第1課(2) あいさつ、自己紹介

第3回 第1課(3) 出身地を尋ねる

第4回 第1課の確認と復習、第2課(1) テーマ: 家族の紹介

第5回 第2課(2) お元気ですか、

第6回 第2課(3) 親族名称、プロフィール

第7回 第2課の確認と復習、第3課(1) テーマ: 買い物

第8回 第3課(2) 食品・食材の名称

第9回 第3課(3) 値段を尋ねる

第10回 第3課(4) 買い物、食べ物の好み

第11回 第3課の確認と復習、第4課(1) テーマ: 住まい

第12回 第4課(2) 部屋の名称、形容詞

第13回 第4課(3) 家具の名称、色の形容詞

第14回 第4課の確認と復習

第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

ドイツ語圏の講習会で、あるいはドイツ語圏から指導にいらした先生と話せるようになりたい人は、ぜひ履修してください。家での復習も含めてしっかり取り組みれば、短いドイツ語でのやり取りを自信を持って出来るようになります。

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。(目安毎週30分)

- (1) 学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
- (2) 教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。
- (3) 初心者から履修できます。その場合は、簡単な予習を組み合わせると効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言やスピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著(Hueber社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)

『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)

『すぐに使えるドイツ語会話スーパー・ビジュアル』正木晶子ほか(UNICOM)

◆留意事項◆

- (1) 授業に出席してドイツ語で話すことがもっとも重要です。全授業出席を目指してください。
- (2) 間違ってもいいので、大きな声ではっきりと話しましょう。学んだことは、次の時間までに必ず一度復習しましょう。
- (3) 初心者は、なるべく「ドイツ語文法初級／初級(文法)AB」も並行して履修しましょう。
- (4) 万が一欠席した場合、どこまで進んだかをクラスメートまたは教員に確認し、必ず自分で学習してください。

ナンバリング	CES036N		
科目名	ドイツ語会話初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- ・簡単な文による少し長めの対話ができるようになる。
- ・身近な日常的場面で必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公とその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず写真・映像・CDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。後期の学習範囲は、第4課の復習および第5～7課です。

第1回 スピーチ「夏休みの出来事」、第4課の復習

- 第2回 第5課(1) テーマ: 一日の過ごし方
 第3回 第5課(2) 時刻表現
 第4回 第5課(3) 日常生活の行動を表す表現
 第5回 第5課(4) 時間の約束をする、確認と復習
 第6回 第6課(1) テーマ: 余暇
 第7回 第6課(2) 天候に関する表現
 第8回 第6課(3) 持ち物を確認する
 第9回 第6課(4) ピクニックの準備をする、確認と復習
 第10回 第7課(1) テーマ: 学ぶ楽しみ
 第11回 第7課(2) さまざまな趣味と特技
 第12回 第7課(3) 話法の助動詞を使った表現
 第13回 第7課(4) 現在完了で過去の出来事を話す
 第14回 第7課の確認と復習
 第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

単語だけのコミュニケーションを抜き出し、動詞をうまく使って、短い文単位での対話を目指します。家での復習も含めてしっかり取り組めば、ドイツ語での意思疎通も滑らかになり、簡単な日常会話が楽しめるようになります。

◆準備学習の内容◆

復習を重視します。(目安毎週30分)

- (1) 学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
- (2) 教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。語彙が増えると、会話はますます楽しくなります。
- (3) 簡単な予習を組み合わせると、さらに効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言、対話練習への参加、スピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果については授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著(Hueber社)

◆参考図書◆

『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ベレ出版)
 『すぐに使えるドイツ語会話スーパー・ビジュアル』正木晶子ほか(UNICOM)

◆留意事項◆

- (1) 授業に参加してドイツ語で話すことがもっとも重要です。ことばは音です。自宅学習では常に声に出して発音することを心がけましょう。
- (2) 週1回の練習だけではなかなか話せるようになりません。教科書後半の練習帳を積極的に活用しましょう。
- (3) 最後の第7課では、質疑応答を含むスピーチ発表を行います。

ナンバリング	CES058N		
科目名	ドイツ語初級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

- ・簡単な文による少し長めの対話ができるようになる。
- ・身近な日常的場面で必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公とその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず写真・映像・CDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。後期の学習範囲は、第4課の復習および第5～7課です。

第1回 スピーチ「夏休みの出来事」、第4課の復習

- 第2回 第5課(1) テーマ：一日の過ごし方
- 第3回 第5課(2) 時刻表現
- 第4回 第5課(3) 日常生活の行動を表す表現
- 第5回 第5課(4) 時間の約束をする、確認と復習
- 第6回 第6課(1) テーマ：余暇
- 第7回 第6課(2) 天候に関する表現
- 第8回 第6課(3) 持ち物を確認する
- 第9回 第6課(4) ピクニックの準備をする、確認と復習
- 第10回 第7課(1) テーマ：学ぶ楽しみ
- 第11回 第7課(2) さまざまな趣味と特技
- 第12回 第7課(3) 話法の助動詞を使った表現
- 第13回 第7課(4) 現在完了で過去の出来事を話す
- 第14回 第7課の確認と復習
- 第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

単語だけのコミュニケーションを抜け出し、動詞をうまく使って、短い文単位での対話を目指します。家での復習も含めてしっかり取り組みれば、ドイツ語での意思疎通も滑らかになり、簡単な日常会話が楽しめるようになります。

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。(目安毎週30分)
- (1)学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
 - (2)教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。語彙が増えると、会話はますます楽しくなります。
 - (3)簡単な予習を組み合わせると、さらに効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言、対話練習への参加、スピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果については授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著 (Hueber社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)
- 『すぐに使えるドイツ語会話スーパー・ビジュアル』正木晶子ほか(UNICOM)

◆留意事項◆

- (1)授業に参加してドイツ語で話すことがもっとも重要です。ことばは音です。自宅学習では常に声に出して発音することを心がけましょう。
- (2)週1回の練習だけではなかなか話せるようになりません。教科書後半の練習帳を積極的に活用しましょう。
- (3)最後の第7課では、質疑応答を含むスピーチ発表を行います。

ナンバリング	CES088N		
科目名	ドイツ語初級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	末松 淑美		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

・簡単な文による少し長めの対話ができるようになる。・身近な日常的場面で必要な語彙と表現を覚える。

◆授業内容・計画◆

ドイツで初学者向けに作られた会話教材を使います。主人公とその友人たちが繰り広げるさりげない日常会話をもとに、聞き取り・対話練習を行います。まず写真・映像・CDによるエピソードでテーマと必要語彙を学び、練習問題に進みます。後期の学習範囲は、第4課の復習および第5～7課です。

第1回 スピーチ「夏休みの出来事」、第4課の復習

- 第2回 第5課(1) テーマ: 一日の過ごし方
- 第3回 第5課(2) 時刻表現
- 第4回 第5課(3) 日常生活の行動を表す表現
- 第5回 第5課(4) 時間の約束をする、確認と復習
- 第6回 第6課(1) テーマ: 余暇
- 第7回 第6課(2) 天候に関する表現
- 第8回 第6課(3) 持ち物を確認する
- 第9回 第6課(4) ピクニックの準備をする、確認と復習
- 第10回 第7課(1) テーマ: 学ぶ楽しみ
- 第11回 第7課(2) さまざまな趣味と特技
- 第12回 第7課(3) 話法の助動詞を使った表現
- 第13回 第7課(4) 現在完了で過去の出来事を話す
- 第14回 第7課の確認と復習
- 第15回 まとめと評価(作文課題とスピーチ)

単語だけのコミュニケーションを抜け出し、動詞をうまく使って、短い文単位での対話を目指します。家での復習も含めてしっかり取り組めば、ドイツ語での意思疎通も滑らかになり、簡単な日常会話が楽しめるようになります。

◆準備学習の内容◆

- 復習を重視します。(目安毎週30分)
- (1)学んだ表現を必ず音読し、覚えましょう。ダウンロードした音源を繰り返し聴きましょう。
- (2)教科書の後半は練習帳になっています。該当する練習問題や学習語彙(Lernwortschatz)に各自で取り組みましょう。語彙が増えると、会話はますます楽しくなります。
- (3)簡単な予習を組み合わせると、さらに効果的です。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な取り組み、口頭での発言、対話練習への参加、スピーチ、各課ごとの確認テスト(筆記と聞き取り)などを通して、語学力を総合的に評価します。学習の成果については授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international NEU 1 – A1.1 (Kurs- und Arbeitsbuch)』D.Niebisch ほか著 (Hueber社)

◆参考図書◆

- 『ドイツ語のスタートライン』在間進(三修社)
- 『しっかり身につくドイツ語トレーニングブック』森泉(ペレ出版)
- 『すぐに使えるドイツ語会話スーパードビジュアル』正木晶子ほか (UNICOM)

◆留意事項◆

- (1)授業に参加してドイツ語で話すことがもっとも重要です。ことばは音です。自宅学習では常に声に出して発音することを心がけましょう。
- (2)週1回の練習だけではなかなか話せるようになりません。教科書後半の練習帳を積極的に活用しましょう。
- (3)最後の第7課では、質疑応答を含むスピーチ発表を行います。

ナンバリング	CES263N		
科目名	ドイツ語会話中級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学生は、簡単なプレゼンテーションやリスニングなどを通し、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得します。さらに、このコースでは、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

言葉の背景にある文化の違いについても、理解し易いように配慮していきます。

Sie können...

1. Berufe benennen und erfragen und über die berufliche Situation sprechen
2. private und berufliche Informationen über Vergangenheit und Gegenwart austauschen
3. von Ereignissen und Aktivitäten in der Vergangenheit berichten
4. Anzeigen verstehen und am Telefon Informationen erfragen
5. Abläufe im Alltag erklären
6. Aufforderungen verstehen und Anweisungen geben
7. über Erlaubtes und Verbotenes sprechen
8. eine Informationsbroschüre verstehen
9. Angebote verstehen, ein Buchungsformular ausfüllen und Gespräche an der Hotelrezeption verstehen
10. Körperteile benennen und über das Befinden sprechen
11. über das Befinden anderer sprechen
12. Anweisungen und Ratschläge verstehen und geben
13. eine Anfrage schreiben
14. Telefongespräche zu Terminvereinbarungen verstehen, einen Termin vereinbaren, ändern und absagen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

会話は“会得”してこそ価値が発揮されるものですから、予習、復習に努め、その都度習得していくことが求められます。（目安毎週45分）

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD

著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES338N		
科目名	ドイツ語中級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学生は、簡単なプレゼンテーションやリスニングなどを通し、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得します。さらに、このコースでは、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

言葉の背景にある文化の違いについても、理解し易いように配慮していきます。

Sie können...

1. Berufe benennen und erfragen und über die berufliche Situation sprechen
2. private und berufliche Informationen über Vergangenheit und Gegenwart austauschen
3. von Ereignissen und Aktivitäten in der Vergangenheit berichten
4. Anzeigen verstehen und am Telefon Informationen erfragen
5. Abläufe im Alltag erklären
6. Aufforderungen verstehen und Anweisungen geben
7. über Erlaubtes und Verbotenes sprechen
8. eine Informationsbroschüre verstehen
9. Angebote verstehen, ein Buchungsformular ausfüllen und Gespräche an der Hotelrezeption verstehen
10. Körperteile benennen und über das Befinden sprechen
11. über das Befinden anderer sprechen
12. Anweisungen und Ratschläge verstehen und geben
13. eine Anfrage schreiben
14. Telefongespräche zu Terminvereinbarungen verstehen, einen Termin vereinbaren, ändern und absagen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

会話は“会得”してこそ価値が発揮されるものですから、予習、復習に努め、その都度習得していくことが求められます。（目安毎週45分）

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。
授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50％＝授業への積極的な参加を含めた平常点
50％＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD
著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht
出版社: Hueber
ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES093N		
科目名	ドイツ語中級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学生は、簡単なプレゼンテーションやリスニングなどを通し、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得します。さらに、このコースでは、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

言葉の背景にある文化の違いについても、理解し易いように配慮していきます。

Sie können...

1. Berufe benennen und erfragen und über die berufliche Situation sprechen
2. private und berufliche Informationen über Vergangenheit und Gegenwart austauschen
3. von Ereignissen und Aktivitäten in der Vergangenheit berichten
4. Anzeigen verstehen und am Telefon Informationen erfragen
5. Abläufe im Alltag erklären
6. Aufforderungen verstehen und Anweisungen geben
7. über Erlaubtes und Verbotenes sprechen
8. eine Informationsbroschüre verstehen
9. Angebote verstehen, ein Buchungsformular ausfüllen und Gespräche an der Hotelrezeption verstehen
10. Körperteile benennen und über das Befinden sprechen
11. über das Befinden anderer sprechen
12. Anweisungen und Ratschläge verstehen und geben
13. eine Anfrage schreiben
14. Telefongespräche zu Terminvereinbarungen verstehen, einen Termin vereinbaren, ändern und absagen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

会話は“会得”してこそ価値が発揮されるものですから、予習、復習に努め、その都度習得していくことが求められます。（目安毎週45分）

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。
授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50％＝授業への積極的な参加を含めた平常点
50％＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD
著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht
出版社: Hueber
ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES264N		
科目名	ドイツ語会話中級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

このコースは前期に引き続き、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得するコースです。学生は、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

Sie können...

1. nach dem Weg fragen und den Weg beschreiben
2. Verkehrsmittel benennen und Ortsangaben machen
3. Orte und Richtungen angeben und Durchsagen verstehen
4. am Schalter um Auskunft bitten und Fahrplänen Informationen entnehmen
5. Zeitangaben verstehen und machen; Tagesabläufe beschreiben
6. zeitliche Bezüge nennen und um Serviceleistungen bitten
7. höfliche Bitten und Aufforderungen ausdrücken
8. Mailboxnachrichten verstehen und formulieren
9. Service-Anzeigen verstehen und Telefongespräche mit dem Reparaturservice führen
10. Kleidungsstücke benennen und Gefallen/Missfallen ausdrücken
11. Vorlieben und Bewertungen ausdrücken
12. Vorlieben erfragen und eine Auswahl treffen
13. um Hilfe/Rat fragen
14. das Datum erfragen; über Feste und Feiertage sprechen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。
授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD

著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES339N		
科目名	ドイツ語中級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

このコースは前期に引き続き、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得するコースです。学生は、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

- Sie können...
1. nach dem Weg fragen und den Weg beschreiben
 2. Verkehrsmittel benennen und Ortsangaben machen
 3. Orte und Richtungen angeben und Durchsagen verstehen
 4. am Schalter um Auskunft bitten und Fahrplänen Informationen entnehmen
 5. Zeitangaben verstehen und machen; Tagesabläufe beschreiben
 6. zeitliche Bezüge nennen und um Serviceleistungen bitten
 7. höfliche Bitten und Aufforderungen ausdrücken
 8. Mailboxnachrichten verstehen und formulieren
 9. Service-Anzeigen verstehen und Telefongespräche mit dem Reparaturservice führen
 10. Kleidungsstücke benennen und Gefallen/Missfallen ausdrücken
 11. Vorlieben und Bewertungen ausdrücken
 12. Vorlieben erfragen und eine Auswahl treffen
 13. um Hilfe/Rat fragen
 14. das Datum erfragen; über Feste und Feiertage sprechen
 15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)
復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。
授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点
50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD
著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht
出版社: Hueber
ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES094N		
科目名	ドイツ語中級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	S. ヘンゼル		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-301	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

このコースは前期に引き続き、基礎的なコミュニケーションの場面に必要な口頭表現を習得するコースです。学生は、ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」を重視した会話コースでより実践的なコミュニケーション能力を習得します。

◆授業内容・計画◆

Sie können...

1. nach dem Weg fragen und den Weg beschreiben
2. Verkehrsmittel benennen und Ortsangaben machen
3. Orte und Richtungen angeben und Durchsagen verstehen
4. am Schalter um Auskunft bitten und Fahrplänen Informationen entnehmen
5. Zeitangaben verstehen und machen; Tagesabläufe beschreiben
6. zeitliche Bezüge nennen und um Serviceleistungen bitten
7. höfliche Bitten und Aufforderungen ausdrücken
8. Mailboxnachrichten verstehen und formulieren
9. Service-Anzeigen verstehen und Telefongespräche mit dem Reparaturservice führen
10. Kleidungsstücke benennen und Gefallen/Missfallen ausdrücken
11. Vorlieben und Bewertungen ausdrücken
12. Vorlieben erfragen und eine Auswahl treffen
13. um Hilfe/Rat fragen
14. das Datum erfragen; über Feste und Feiertage sprechen
15. Zusammenfassung und Beurteilung

◆準備学習の内容◆

クラスで学んだ事の復習、ならびに宿題。(目安毎週45分)

復習時には大きな声を出して発音し、発音、リズム、イントネーションを自身で確認し、ドイツ語に親しめるよう習慣づけてください。
授業中は各自ノートを準備し、そこへ授業での重要な箇所等を書き留めることも必要です。

◆成績評価の方法◆

50%＝授業への積極的な参加を含めた平常点

50%＝授業時に中間・期末と2回行う試験を重視、小テストや授業中のドイツ語による発言も含め、語学力を総合的に評価
学習の成果について授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international Neu 2 Kursbuch + Arbeitsbuch + CD

著者: Monika Bovermann, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Angela Pude, Monika Reimann, Franz Specht

出版社: Hueber

ISBN: 9783196010824

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES265N		
科目名	ドイツ語会話上級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーと、およびグループの中で行います。

第一回 イン트로ダクション
 第二回 第1課 ドイツへの入国 導入
 第三回 第1課 ドイツへの入国 文法
 第四回 第1課 ドイツへの入国 パートナー会話
 第五回 第1課 ドイツへの入国 グループ練習
 第六回 第2課 ドイツの住居 導入
 第七回 第2課 ドイツの住居 文法
 第八回 第2課 ドイツの住居 パートナー会話
 第九回 第2課 ドイツの住居 グループ練習
 第十回 第3課 ドイツの飲食 導入
 第十一回 第3課 ドイツの飲食 文法
 第十二回 第3課 ドイツの飲食 パートナー会話
 第十三回 第3課 ドイツの飲食 グループ練習
 第十四回 テスト
 第十五回 まとめ
 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内での活動(50%)を総合的に評価します。
 学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international neu 3/A2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch』Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES340N		
科目名	ドイツ語上級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「はなす」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーおよびグループの中で行います。

- 第一回 イントロダクション
 - 第二回 第1課 ドイツへの入国 導入
 - 第三回 第1課 ドイツへの入国 文法
 - 第四回 第1課 ドイツへの入国 パートナー会話
 - 第五回 第1課 ドイツへの入国 グループ練習
 - 第六回 第2課 ドイツの住居 導入
 - 第七回 第2課 ドイツの住居 文法
 - 第八回 第2課 ドイツの住居 パートナー会話
 - 第九回 第2課 ドイツの住居 グループ練習
 - 第十回 第3課 ドイツの飲食 導入
 - 第十一回 第3課 ドイツの飲食 文法
 - 第十二回 第3課 ドイツの飲食 パートナー会話
 - 第十三回 第3課 ドイツの飲食 グループ練習
 - 第十四回 テスト
 - 第十五回 まとめ
- 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内での活動(50%)を総合的に評価します。
学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international neu 3/A2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch; Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES099N		
科目名	ドイツ語上級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「はなす」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーおよびグループの中で行います。

- 第一回 イントロダクション
 - 第二回 第1課 ドイツへの入国 導入
 - 第三回 第1課 ドイツへの入国 文法
 - 第四回 第1課 ドイツへの入国 パートナー会話
 - 第五回 第1課 ドイツへの入国 グループ練習
 - 第六回 第2課 ドイツの住居 導入
 - 第七回 第2課 ドイツの住居 文法
 - 第八回 第2課 ドイツの住居 パートナー会話
 - 第九回 第2課 ドイツの住居 グループ練習
 - 第十回 第3課 ドイツの飲食 導入
 - 第十一回 第3課 ドイツの飲食 文法
 - 第十二回 第3課 ドイツの飲食 パートナー会話
 - 第十三回 第3課 ドイツの飲食 グループ練習
 - 第十四回 テスト
 - 第十五回 まとめ
- 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内での活動(50%)を総合的に評価します。
学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international neu 3/A2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch; Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES266N		
科目名	ドイツ語会話上級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「話す」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につける

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーと、およびグループの中で行います。

第一回 イン트로ダクション
 第二回 第4課1 仕事の世界 導入
 第三回 第4課2 仕事の世界 文法
 第四回 第4課3 仕事の世界 パートナー会話
 第五回 第4課4 仕事の世界 グループ練習
 第六回 第5課1 スポーツと健康 導入
 第七回 第5課2 スポーツと健康 文法
 第八回 第5課3 スポーツと健康 パートナー会話
 第九回 第5課4 スポーツと健康 グループ練習
 第十回 第6課1 学校と職業訓練 導入
 第十一回 第6課2 学校と職業訓練 文法
 第十二回 第6課3 学校と職業訓練 パートナー会話
 第十三回 第6課4 学校と職業訓練 グループ練習
 第十四回 テスト
 第十五回 まとめ
 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内での活動(50%)を総合的に評価します。
 学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Schritte international neu 3/2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch』Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES341N		
科目名	ドイツ語上級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	1単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「はなす」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーおよびグループの中で行います。

- 第一回 イントロダクション
 - 第二回 第4課 仕事の世界 導入
 - 第三回 第4課 仕事の世界 文法
 - 第四回 第4課 仕事の世界 パートナー会話
 - 第五回 第4課 仕事の世界 グループ練習
 - 第六回 第5課 スポーツと健康 導入
 - 第七回 第5課 スポーツと健康 文法
 - 第八回 第5課 スポーツと健康 パートナー会話
 - 第九回 第5課 スポーツと健康 グループ練習
 - 第十回 第6課 学校と職業訓練 導入
 - 第十一回 第6課 学校と職業訓練 文法
 - 第十二回 第6課 学校と職業訓練 パートナー会話
 - 第十三回 第6課 学校と職業訓練 グループ練習
 - 第十四回 テスト
 - 第十五回 まとめ
- 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内の活動(50%)を総合的に評価します。
学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international neu 3/A2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch; Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES100N		
科目名	ドイツ語上級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	トーマス マイヤー		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-22	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

おもに「聞く」と「はなす」の練習を通して、ネイティブスピーカーの日常会話を理解し、会話する能力を身につけること

◆授業内容・計画◆

教科書に沿って授業を進めます。各課設定されているテーマを文法的に学んだ後、会話を練習します。会話は主にパートナーおよびグループの中で行います。

第一回 イン트로ダクション
 第二回 第4課 仕事の世界 導入
 第三回 第4課 仕事の世界 文法
 第四回 第4課 仕事の世界 パートナー会話
 第五回 第4課 仕事の世界 グループ練習
 第六回 第5課 スポーツと健康 導入
 第七回 第5課 スポーツと健康 文法
 第八回 第5課 スポーツと健康 パートナー会話
 第九回 第5課 スポーツと健康 グループ練習
 第十回 第6課 学校と職業訓練 導入
 第十一回 第6課 学校と職業訓練 文法
 第十二回 第6課 学校と職業訓練 パートナー会話
 第十三回 第6課 学校と職業訓練 グループ練習
 第十四回 テスト
 第十五回 まとめ
 一課終了ごとに単語の小テストを行います。

◆準備学習の内容◆

単語の反復練習、教科書のCDを使ったリスニング(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

テスト(50%)と授業内の活動(50%)を総合的に評価します。
 学習の成果については適宜授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

Schritte international neu 3/A2.1 Kursbuch + Arbeitsbuch; Silke Hilpert et al (Hueber Verlag)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CES271N		
科目名	言語と文化(ドイツ語)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツは連邦制の国であり、地方色がとても豊かです。本授業では、各州ごとにその歴史や特色を見ていき、ドイツに対する理解を深めます。また、ドイツに関する映像も視聴し、ドイツを感じてもらいます。

◆授業内容・計画◆

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 Schleswig-Holstein / Mecklenburg-Vorpommern
- 第03回 Hamburg
- 第04回 Niedersachsen
- 第05回 Bremen
- 第06回 Brandenburg
- 第07回 Berlin
- 第08回 Sachsen-Anhalt
- 第09回 Nordrhein-Westfalen
- 第10回 Hessen / Thüringen
- 第11回 Sachsen
- 第12回 Rheinland-Pfalz / Saarland
- 第13回 Baden-Württemberg
- 第14回 Bayern
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各回のテーマに関して、自分なりに調べて、簡潔にまとめておくこと。目安毎週1時間。

◆成績評価の方法◆

毎回のリアクションペーパーと最終回の授業内レポートにより成績評価を行います。課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES101N		
科目名	言語と文化(ドイツ語)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ドイツは連邦制の国であり、地方色がとても豊かです。本授業では、各州ごとにその歴史や特色を見ていき、ドイツに対する理解を深めます。また、ドイツに関する映像も視聴し、ドイツを感じてもらいます。

◆授業内容・計画◆

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 Schleswig-Holstein / Mecklenburg-Vorpommern
- 第03回 Hamburg
- 第04回 Niedersachsen
- 第05回 Bremen
- 第06回 Brandenburg
- 第07回 Berlin
- 第08回 Sachsen-Anhalt
- 第09回 Nordrhein-Westfalen
- 第10回 Hessen / Thüringen
- 第11回 Sachsen
- 第12回 Rheinland-Pfalz / Saarland
- 第13回 Baden-Württemberg
- 第14回 Bayern
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各回のテーマに関して、自分なりに調べて、簡潔にまとめておくこと。目安毎週1時間。

◆成績評価の方法◆

毎回のリアクションペーパーと最終回の授業内レポートにより成績評価を行います。課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES272N		
科目名	言語と文化(ドイツ語)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

各テーマごとに、ドイツについて概観し、ドイツに対する理解を深めていきます。併せてドイツに関する映像やドイツ映画を視聴し、ドイツを感じてもらいます。

◆授業内容・計画◆

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 地理と気候
- 第03回 食生活
- 第04回 言語
- 第05回 街並み・住まい
- 第06回 国民性
- 第07回 宗教
- 第08回 音楽・文学
- 第09回 祝日と休暇
- 第10回 教育制度
- 第11回 政治制度
- 第12回 歴史
- 第13回 EUとドイツ
- 第14回 在独外国人・移民・難民
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各回のテーマに関して、自分なりに調べて、簡潔にまとめておくこと。目安毎週1時間。

◆成績評価の方法◆

毎回のリアクションペーパーと最終回の授業内レポートにより成績評価を行います。課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES102N		
科目名	言語と文化(ドイツ語)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	中村 仁		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-27	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

各テーマごとに、ドイツについて概観し、ドイツに対する理解を深めていきます。併せてドイツに関する映像やドイツ映画を視聴し、ドイツを感じてもらいます。

◆授業内容・計画◆

第01回 ガイダンス
第02回 地理と気候
第03回 食生活
第04回 言語
第05回 街並み・住まい
第06回 国民性
第07回 宗教
第08回 音楽・文学
第09回 祝日と休暇
第10回 教育制度
第11回 政治制度

第12回 歴史
第13回 EUとドイツ
第14回 在独外国人・移民・難民
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

各回のテーマに関して、自分なりに調べて、簡潔にまとめておくこと。目安毎週1時間。

◆成績評価の方法◆

毎回のリアクションペーパーと最終回の授業内レポートにより成績評価を行います。課題は授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

詳細は初回の授業で説明するので、必ず出席してください。

ナンバリング	CES049N		
科目名	イタリア語初級A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス。挨拶、イタリア語のアルファベット。単語の意味と綴りを尋ねる、答える。綴りと発音の練習
- 挨拶。自己紹介、出身、年齢など (1) Io sono..., Io mi chiamo..., e tu?...; Come sta? Sono italiano... Sono di..., Quanti anni hai? Ho... anni、1-20までの数字
- 文法のまとめ (1)(essere, stare, avereの活用、前置詞di、動詞chiamarsiの単数形
- 文法のまとめ (2) 男性名詞と女性名詞、essere+名詞、国籍の形容詞と数性の一致)
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (1)
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (2)
- 文法のまとめ (-are動詞の活用、平文・否定文・疑問文の作り方。前置詞in, a, con; da solo/a)。イタリア文化。街づくり(via, piazza, chiesa など)
- グループで会話の練習。作文と発表の練習
- 喫茶店などで注文する。avereの用法、ho fame, ho sete、-ere動詞 (prendereなど)、イタリアの食文化と習慣
- 文法のまとめ (-ere動詞の活用、不定冠詞、単数と複数、数字)
- 会話と作文の練習: 日本の食文化について話しましょう!
- 人の外見(印象)について話すLui è magro, Lei è alta, ha i capelli biondi, porta gli occhiali... è simpatico/a,...
- 自分の外見について作文と発表。
- 文法のまとめ。冠詞、動詞、名詞、形容詞とその使いかた。文の作り方を確認する
- 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

参考書:『入門イタリア語の最初歩(改訂版)』ナンニーニ・アルダ、藤谷道夫(三修社2014)

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES049N		
科目名	イタリア語初級A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レパリアーティ		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス。挨拶、イタリア語のアルファベット。単語の意味と綴りを尋ねる、答える。綴りと発音の練習
- 挨拶。自己紹介、出身、年齢など(1) Io sono..., Io mi chiamo..., e tu?...; Come sta? Sono italiano... Sono di..., Quanti anni hai? Ho... anni、1-20までの数字
- 文法のまとめ (1)(essere, stare, avereの活用、前置詞di、動詞chiamarsiの単数形
- 文法のまとめ (2) 男性名詞と女性名詞、essere+名詞、国籍の形容詞と数性の一致
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (1)
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (2)
- 文法のまとめ (-are動詞の活用、平常文・否定文・疑問文の作り方。前置詞in, a, con; da solo/a)。イタリア文化。街づくり(via, piazza, chiesaなど)
- グループで会話の練習。作文と発表の練習
- 喫茶店などで注文する。avereの用法、ho fame, ho sete、-ere動詞 (prendereなど)、イタリアの食文化と習慣
- 文法のまとめ (-ere動詞の活用、不定冠詞、単数と複数、数字)
- 会話と作文の練習:日本の食文化について話しましょう
- 人の外見(印象)について話す (Lui è magro, Lei è alta, ha i capelli biondi, porta gli occhiali... è simpatico/a,...)
- 自分の外見について作文と発表
- 文法のまとめ。冠詞、動詞、名詞、形容詞とその使いかた。文の作り方を確認する
- 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表より、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント。

◆参考図書◆

参考書:希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES103N		
科目名	イタリア語初級A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天物性歌がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス。挨拶、イタリア語のアルファベット。単語の意味と綴りを尋ねる、答える。綴りと発音の練習
2. 挨拶。自己紹介、出身、年齢など (1) Io sono..., Io mi chiamo..., e tu?...; Come sta? Sono italiano... Sono di..., Quanti anni hai? Ho... anni、1-20までの数字
3. 文法のまとめ (1) (essere, stare, avereの活用、前置詞di、動詞chiamarsiの単数形)
4. 文法のまとめ (2) 男性名詞と女性名詞、essere+名詞、国籍の形容詞と数性の一致)
5. 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (1)
6. 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞 (abitareなど) 動詞fare (2)
7. 文法のまとめ (-are動詞の活用、平文・否定文・疑問文の作り方。前置詞in, a, con; da solo/a)。イタリア文化。街づくり(via, piazza, chiesaなど)
8. グループで会話の練習。作文と発表の練習
9. 喫茶店などで注文する。avereの用法、ho fame, ho sete、-ere動詞 (prendereなど)、イタリアの食文化と習慣
10. 文法のまとめ (-ere動詞の活用、不定冠詞、単数と複数、数字)
11. 会話と作文の練習：日本の食文化について話しましょう！
12. 人の外見(印象)について話す Lui è magro, Lei è alta, ha i capelli biondi, porta gli occhiali... è simpatico/a,...
13. 自分の外見について作文と発表。
14. 文法のまとめ。冠詞、動詞、名詞、形容詞とその使いかた。文の作り方を確認する
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

参考書：『入門イタリア語の最初歩(改訂版)』ナンニーニ・アルダ、藤谷道夫(三修社2014)

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES103N		
科目名	イタリア語初級A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス。挨拶、イタリア語のアルファベット。単語の意味と綴りを尋ねる、答える。綴りと発音の練習
- 挨拶。自己紹介、出身、年齢など(1) Io sono..., Io mi chiamo..., e tu?...; Come sta? Sono italiano... Sono di..., Quanti anni hai? Ho... anni、1-20までの数字
- 文法のまとめ(1)(essere, stare, avereの活用、前置詞di、動詞chiamarsiの単数形
- 文法のまとめ(2) 男性名詞と女性名詞、essere+名詞、国籍の形容詞と数性の一致
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞(abitareなど)動詞fare(1)
- 自分について話す。勉強、仕事、住まいなど。人を紹介する。-are動詞(abitareなど)動詞fare(2)
- 文法のまとめ(-are動詞の活用、平常文・否定文・疑問文の作り方。前置詞in, a, con; da solo/a)。イタリア文化。街づくり(via, piazza, chiesaなど)
- グループで会話の練習。作文と発表の練習
- 喫茶店などで注文する。avereの用法、ho fame, ho sete、-ere動詞(prendereなど)、イタリアの食文化と習慣
- 文法のまとめ(-ere動詞の活用、不定冠詞、単数と複数、数字)
- 会話と作文の練習：日本の食文化について話しましょう
- 人の外見(印象)について話す(Lui è magro, Lei è alta, ha i capelli biondi, porta gli occhiali... è simpatico/a,...)
- 自分の外見について作文と発表
- 文法のまとめ。冠詞、動詞、名詞、形容詞とその使いかた。文の作り方を確認する
- 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表より、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント。

◆参考図書◆

参考書：希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES050N		
科目名	イタリア語初級B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. Aの復習
2. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(1) -ire動詞(1), preferire, partire, mi piace
3. 文法のまとめ (-ire動詞、piacere の構文、fareの様々な用法)
4. 作文・発表の練習La mia settimana
5. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(2) 曜日・月・時間を表す表現、oggi, domani, non... mai、頻度を表す表現など
6. 文法のまとめ (-ire動詞(partire型とpreferire型) 疑問詞: Che cosa? Dove? Come? Quando? Con chi?)
7. 作文・発表の練習Che cosa fai nel tempo libero?
8. 時刻の表現 Che ora è? A che ora? 、100までの数字
9. 文法のまとめ (前置詞の意味・用法と復習、代名動詞「再帰動詞」現在の活用)
10. 自分の一日についての作文・発表の練習
11. 道案内、存在の知識がある(ない)、場所を尋ねる、答える。scusi/scusaなど
12. 文法の確認(定冠詞と不定冠詞の使い分け、存在の表現c'è /ci sono, 疑問詞chi, dove?、essereとesserci の違い、使い分け)
13. 作文・発表の練習 (自分の町の面白い場所をえらび、最寄り駅からの案内)
14. ABの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、小テスト(授業内フィードバック)、発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

必修イタリア語の履修生はそれぞれの教科書と配布プリントを参考に使ってください。イタリア語を選択科目として履修している学生は『入門イタリア語の最初歩(改訂版)』ナンニーニ・アルダ、藤谷道夫(三修社、2014年)を参考に使ってください。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人の数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES050N		
科目名	イタリア語初級B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. Aの復習
2. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(1) -ire動詞(1)、preferire、partire、mi piace。
3. 文法のまとめ (-ire動詞、piacere の構文、fareの様々な用法)
4. 作文・発表の練習 La mia settimana
5. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(2) 曜日・月・時間を表す表現、oggi、domani、non... mai、頻度を表す表現など
6. 文法のまとめ (-ire動詞(partire型とpreferire型)疑問詞: Che cosa? Dove? Come? Quando? Con chi?)。
7. 作文・発表の練習 (Che cosa fai nel tempo libero?)
8. 時刻の表現 Che ora è? A che ora? 、100までの数字
9. 文法のまとめ (前置詞の意味・用法と復習、代名動詞「再帰動詞」現在の活用)
10. 自分の一日についての作文・発表の練習
11. 道案内、存在の知識がある(ない)、場所を尋ねる、答える。scusi/scusaなど
12. 文法の確認(定冠詞と不定冠詞の使い分け、存在の表現c'è /ci sono、疑問詞chi、dove?、essereとesserci の違い、使い分け)
13. 作文・発表の練習 (自分の町の面白い場所をえらび、最寄り駅からの案内)
14. ABの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、小テスト(授業内フィードバック)、発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

参考書: 希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人の数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES104N		
科目名	イタリア語初級B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. Aの復習
2. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(1) -ire動詞(1), preferire, partire, mi piace
3. 文法のまとめ (-ire動詞, piacere の構文、fareの様々な用法)
4. 作文・発表の練習La mia settimana
5. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(2) 曜日・月・時間を表す表現、oggi, domani, non... mai、頻度を表す表現など
6. 文法のまとめ (-ire動詞(partire型とpreferire型) 疑問詞: Che cosa? Dove? Come? Quando? Con chi?)
7. 作文・発表の練習Che cosa fai nel tempo libero?
8. 時刻の表現 Che ora è? A che ora? 、100までの数字
9. 文法のまとめ (前置詞の意味・用法と復習、代名動詞「再帰動詞」現在の活用)
10. 自分の一日についての作文・発表の練習
11. 道案内、存在の知識がある(ない)、場所を尋ねる、答える。scusi/scusaなど
12. 文法の確認(定冠詞と不定冠詞の使い分け、存在の表現c'è /ci sono, 疑問詞chi, dove?, essereとesserci の違い、使い分け)
13. 作文・発表の練習 (自分の町の面白い場所をえらび、最寄り駅からの案内)
14. ABの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、小テスト(授業内フィードバック)、発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

必修イタリア語の履修生はそれぞれの教科書と配布プリントを参考に使ってください。イタリア語を選択科目として履修している学生は『入門イタリア語の最初歩(改訂版)』ナンニーニ・アルダ、藤谷道夫(三修社、2014年)を参考に使ってください。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES104N		
科目名	イタリア語初級B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年	クラス	02
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強したい学生のための授業です。様々な角度から初級イタリア語を学び、イタリア語を使う」ことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に見ていきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. Aの復習
2. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(1) -ire動詞(1)、preferire、partire、mi piace。
3. 文法のまとめ (-ire動詞、piacere の構文、fareの様々な用法)
4. 作文・発表の練習 La mia settimana
5. 興味やホビーについて話す。計画を立てる(2) 曜日・月・時間を表す表現、oggi、domani、non... mai、頻度を表す表現など
6. 文法のまとめ (-ire動詞(partire型とpreferire型) 疑問詞: Che cosa? Dove? Come? Quando? Con chi?)。
7. 作文・発表の練習 (Che cosa fai nel tempo libero?)
8. 時刻の表現 Che ora è? A che ora? 、100までの数字
9. 文法のまとめ (前置詞の意味・用法と復習、代名動詞「再帰動詞」現在の活用)
10. 自分の一日についての作文・発表の練習
11. 道案内、存在の知識がある(ない)、場所を尋ねる、答える。scusi/scusaなど
12. 文法の確認(定冠詞と不定冠詞の使い分け、存在の表現c'è /ci sono、疑問詞chi、dove?、essereとesserci の違い、使い分け)
13. 作文・発表の練習 (自分の町の面白い場所をえらび、最寄り駅からの案内)
14. ABの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴き、グループで状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、小テスト(授業内フィードバック)、発表により、総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

配布プリント

◆参考図書◆

参考書: 希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人の数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES312N		
科目名	イタリア語上級(文法)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や、既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

- 1. 2年生までの復習(1)
- 2. 2年生までの復習(2)
- 3. 条件法の意味と用法(1)
- 4. 条件法の意味と用法(2)
- 5. 条件法。まとめと確認
- 6. 名詞・形容詞の不規則変化(1)
- 7. 名詞・形容詞の不規則変化(2)
- 8. 名詞の前のquello bello buono grande の用法と意味
- 9. 6-8のまとめと確認
- 10. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(1) più/meno... di/cheの使い分け. -issimo, molto...のニュアンスの違い
- 11. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(2) migliore/ottimo などの不規則タイプ、bello belloなどのタイプ、da morireなど強調タイプ
- 12. 比較級と最上級の確認とまとめ
- 13. 以外の関係代名詞(cui,il quale, chi, quanto, ciò/colui cheなど)の用法
- 14. 関係代名詞のまとめと確認
- 15. 前期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

希望があれば、参考キストをお勧めします。

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていたため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES312N		
科目名	イタリア語上級(文法)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や、既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解できるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

1. 2年生までの復習(1)
2. 2年生までの復習(2)
3. 条件法の意味と用法(1)
4. 条件法の意味と用法(2)
5. 条件法。まとめと確認
6. 名詞・形容詞の不規則変化(1)
7. 名詞・形容詞の不規則変化(2)
8. 名詞の前のquello bello buono grande の用法と意味
9. 6-8のまとめと確認
10. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(1) più/meno... di/cheの使い分け. -issimo, molto...のニュアンスの違い
11. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(2) migliore/ottimo などの不規則タイプ、bello belloなどのタイプ、da morireなど強調タイプ
12. 比較級と最上級の確認とまとめ
13. 以外の関係代名詞(cui, il quale, chi, quanto, ciò/colui cheなど)の用法
14. 関係代名詞のまとめと確認
15. 前期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていくため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES111N		
科目名	イタリア語上級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や、既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

1. 2年生までの復習(1)
2. 2年生までの復習(2)
3. 条件法の意味と用法(1)
4. 条件法の意味と用法(2)
5. 条件法。まとめと確認
6. 名詞・形容詞の不規則変化(1)
7. 名詞・形容詞の不規則変化(2)
8. 名詞の前のquello bello buono grande の用法と意味
9. 6-8のまとめと確認
10. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(1) più/meno... di/cheの使い分け、-issimo, molto...のニュアンスの違い
11. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(2) migliore/ottimo などの不規則タイプ、bello belloなどのタイプ、da morireなど強調タイプ
12. 比較級と最上級の確認とまとめ
13. 以外の関係代名詞(cui, il quale, chi, quanto, ciò/colui cheなど)の用法
14. 関係代名詞のまとめと確認
15. 前期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていたため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES111N		
科目名	イタリア語上級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や、既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解できるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

1. 2年生までの復習(1)
2. 2年生までの復習(2)
3. 条件法の意味と用法(1)
4. 条件法の意味と用法(2)
5. 条件法。まとめと確認
6. 名詞・形容詞の不規則変化(1)
7. 名詞・形容詞の不規則変化(2)
8. 名詞の前のquello bello buono grande の用法と意味
9. 6-8のまとめと確認
10. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(1) più/meno... di/cheの使い分け、-issimo, molto...のニュアンスの違い
11. 比較級と最上級の様々な形とその名詞との一致(2) migliore/ottimo などの不規則タイプ、bello belloなどのタイプ、da morireなど強調タイプ
12. 比較級と最上級の確認とまとめ
13. 以外の関係代名詞(cui, il quale, chi, quanto, ciò/colui cheなど)の用法
14. 関係代名詞のまとめと確認
15. 前期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていくため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES313N		
科目名	イタリア語上級(文法)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

- ne/ciの用法と意味
- 直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致
- ne/ci・直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致のまとめと確認
- gerundio構文 (1)
- gerundio構文 (2), 同時進行形stare+gerundioの用法と意味
- gerundio構文・stare+gerundioのまとめと確認
- 接続法(1)接続法現在形
- 接続法(2)接続法過去形
- 非人称構文と不定詞(例:bisogna andare, è giusto fare...)
- 非人称構文と接続法 (例:bisogna che, è meglio che...)
- 接続法・非人称構文のまとめと確認
- 仮定文(現在・過去)
- 仮定文のまとめ
- 遠過去の用法
- 後期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていたため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES313N		
科目名	イタリア語上級(文法)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解できるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

- ne/ciの用法と意味
- 直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致
- ne/ci・直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致のまとめと確認
- gerundio構文 (1)
- gerundio構文 (2), 同時進行形stare+gerundioの用法と意味
- gerundio構文・stare+gerundioのまとめと確認
- 接続法(1)接続法現在形
- 接続法(2)接続法過去形
- 非人称構文と不定詞(例:bisogna andare, è giusto fare...)
- 非人称構文と接続法 (例:bisogna che, è meglio che...)
- 接続法・非人称構文のまとめと確認
- 仮定文(現在・過去)
- 仮定文のまとめ
- 遠過去の用法
- 後期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていくため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES112N		
科目名	イタリア語上級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した失物性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

1. ne/ciの用法と意味
2. 直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致
3. ne/ci・直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致のまとめと確認
4. gerundio構文 (1)
5. gerundio構文 (2), 同時進行形stare+gerundioの用法と意味
6. gerundio構文・stare+gerundioのまとめと確認
7. 接続法(1)接続法現在形
8. 接続法(2)接続法過去形
9. 非人称構文と不定詞(例: bisogna andare, è giusto fare...)
10. 非人称構文と接続法 (例: bisogna che, è meglio che...)
11. 接続法・非人称構文のまとめと確認
12. 仮定文(現在・過去)
13. 仮定文のまとめ
14. 遠過去の用法
15. 後期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていたため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES112N		
科目名	イタリア語上級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解できるようになることを目標としています。

◆授業内容・計画◆

1. ne/ciの用法と意味
2. 直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致
3. ne/ci・直接目的語代名詞のne; 直接目的語代名詞と過去分詞の一致のまとめと確認
4. gerundio構文 (1)
5. gerundio構文 (2), 同時進行形stare+gerundioの用法と意味
6. gerundio構文・stare+gerundioのまとめと確認
7. 接続法(1)接続法現在形
8. 接続法(2)接続法過去形
9. 非人称構文と不定詞(例: bisogna andare, è giusto fare...)
10. 非人称構文と接続法 (例: bisogna che, è meglio che...)
11. 接続法・非人称構文のまとめと確認
12. 仮定文(現在・過去)
13. 仮定文のまとめ
14. 遠過去の用法
15. 後期のまとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

授業内でフィードバックし、授業への参加態度、小テストなどで総合的に判断して、評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

2年生まで利用した教科書を参考にしますが、主に授業中に配布されるプリントを使用するため、失くさないように注意してください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ここに記載されている授業内容・計画などはあくまでも予定です。履修者の理解に合わせて進めていくため、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES283N		
科目名	言語と文化(イタリア語)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-26	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現代イタリアの文化を理解するためには、その背景にある伝統を知ることが有益です。このクラスでは、イタリアを中心とした西洋の文化が経てきた通過点の一つとして、中世からルネサンスへの転換に注目します。授業を通じて、古代にさかのぼる西洋文化の伝統に親しむと同時に、その伝統と現代に生きる我々とのつながりを確認していきましょう。また、この授業では、創作や表現、そして専門家とは何かということを常に問いかけます。皆さんも、音楽という専門分野とどのように向き合っていくのか、授業を通じて考えてみましょう。

◆授業内容・計画◆

- 1) イントロダクション
- 2) イタリア／ルネサンスとは
- 3) 美術からみるルネサンス①: モチーフの変化
- 4) 美術からみるルネサンス②: 写実性の回復
- 5) 美術・思想からみるルネサンス: 古典文化の復興とは
- 6) 思想からみるルネサンス①: ラテン語とは
- 7) 思想からみるルネサンス②: 人文学とは
- 8) 読書からみるルネサンス①: 「本との対話」というモチーフ
- 9) 読書からみるルネサンス②: 模倣とオリジナリティ
- 10) 読書の目的①: 「生き方」を学ぶ
- 11) 読書の目的②: 「書き方」を学ぶ
- 12) 人文学からみるルネサンス①: 人文主義者とは
- 13) 人文学からみるルネサンス②: 人文主義者が描き出す中世とルネサンス
- 14) 人文学からみるルネサンス③: 中世への挑戦
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業の予習は不要ですが、復習はしっかりと行ってください(目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(発言)、期末レポート(授業内)によって、総合的に判断します。フィードバックは授業内に行います。期末試験は配布プリントと自筆ノート(他の受講生のコピーは不可)の持ち込みを許可する予定です。そのためにも、授業にはしっかりと出席してください。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業は配布プリントと視覚教材を用いて行います。

◆参考図書◆

講義内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

上記シラバスはあくまでも予定であり、授業の進度や受講生の興味によって内容を変更する可能性があります。イタリア語やラテン語の知識は不要です。

ナンバリング	CES115N		
科目名	言語と文化(イタリア語)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-26	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴きや読解などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

現代イタリアの文化を理解するためには、その背景にある伝統を知ることが有益です。このクラスでは、イタリアを中心とした西洋の文化が経てきた通過点の一つとして、中世からルネサンスへの転換に注目します。授業を通じて、古代にさかのぼる西洋文化の伝統に親しむと同時に、その伝統と現代に生きる我々とのつながりを確認していきましょう。また、この授業では、創作や表現、そして専門家とは何かということを常に問いかけます。皆さんも、音楽という専門分野とどのように向き合っていくのか、授業を通じて考えてみましょう。

◆授業内容・計画◆

- 1) イントロダクション
- 2) イタリア／ルネサンスとは
- 3) 美術からみるルネサンス①: モチーフの変化
- 4) 美術からみるルネサンス②: 写実性の回復
- 5) 美術・思想からみるルネサンス: 古典文化の復興とは
- 6) 思想からみるルネサンス①: ラテン語とは
- 7) 思想からみるルネサンス②: 人文学とは
- 8) 読書からみるルネサンス①: 「本との対話」というモチーフ
- 9) 読書からみるルネサンス②: 模倣とオリジナリティ
- 10) 読書の目的①: 「生き方」を学ぶ
- 11) 読書の目的②: 「書き方」を学ぶ
- 12) 人文学からみるルネサンス①: 人文主義者とは
- 13) 人文学からみるルネサンス②: 人文主義者が描き出す中世とルネサンス
- 14) 人文学からみるルネサンス③: 中世への挑戦
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業の予習は不要ですが、復習はしっかりと行ってください(目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(発言)、期末レポート(授業内)によって、総合的に判断します。フィードバックは授業内に行います。期末試験は配布プリントと自筆ノート(他の受講生のコピーは不可)の持ち込みを許可する予定です。そのためにも、授業にはしっかりと出席してください。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業は配布プリントと視覚教材を用いて行います。

◆参考図書◆

講義内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

上記シラバスはあくまでも予定であり、授業の進度や受講生の興味によって内容を変更する可能性があります。イタリア語やラテン語の知識は不要です。

ナンバリング	CES284N		
科目名	言語と文化(イタリア語)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-26	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ルネサンスにおいて、読書や創作といった行為は本当に楽しいのか、そうした行為によってお金を稼げるのか、また、名声を獲得できるのかといった問題が論じられていました。この講義では、人文主義者の意見を参考にしながら、創作者／表現者と社会とのかかわりを考えていきます。古代にさかのぼる伝統に親しみながら、イタリアを中心とした西洋の文化と我々の考え方との間に存在する相違点を確認していきましょう。また、この授業では、創作や表現、そして専門家とは何かということを常に問いかけます。皆さんも、音楽という専門分野とどのように向き合っていくのか、授業を通じて考えてみましょう。

◆授業内容・計画◆

- 1) イントロダクション
- 2) 中世からルネサンスへ：禁欲性から現世的価値観へ
- 3) 読書の目的①:「生き方」を学ぶ
- 4) 読書の目的②:「書き方」を学ぶ
- 5) 支配的思想への挑戦：若者の意見
- 6) 快楽をめぐって①: 文人は息抜きできるのか
- 7) 快楽をめぐって②: 周囲からのプレッシャー、ライバルや批判者の存在
- 8) 金銭をめぐって①: 貧しさとはなにか
- 9) 金銭をめぐって②: 文人はお金を稼げるのか
- 10) 名誉をめぐって①: 名誉とはなにか
- 11) 名誉をめぐって②: 誰が名誉にふさわしいのか
- 12) ラテン語とイタリア語：誰のための言語か
- 13) 芸術家のアイデンティティーとは①: 自画像の系譜
- 14) 芸術家のアイデンティティーとは②: 職人から芸術家へ
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業の予習は不要ですが、復習はしっかりと行ってください(目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(出席)、期末レポート(授業内)によって、総合的に判断します。
フィードバックは授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業は配布プリントと視覚教材を用いて行います。

◆参考図書◆

講義内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

上記シラバスはあくまでも予定であり、授業の進度や受講生の興味によって内容を変更する可能性があります。イタリア語やラテン語の知識は不要です。

ナンバリング	CES116N		
科目名	言語と文化(イタリア語)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-26	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内国外において作家であるいは作家として活動した人物性歌がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

ルネサンスにおいて、読書や創作といった行為は本当に楽しいのか、そうした行為によってお金を稼げるのか、また、名声を獲得できるのかといった問題が論じられていました。この講義では、人文主義者の意見を参考にしながら、創作者／表現者と社会とのかかわりを考えていきます。古代にさかのぼる伝統に親しみながら、イタリアを中心とした西洋の文化と我々の考え方との間に存在する相違点を確認していきましょう。また、この授業では、創作や表現、そして専門家とは何かということを常に問いかけます。皆さんも、音楽という専門分野とどのように向き合っていくのか、授業を通じて考えてみましょう。

◆授業内容・計画◆

- 1) イントロダクション
- 2) 中世からルネサンスへ：禁欲性から現世的価値観へ
- 3) 読書の目的①：「生き方」を学ぶ
- 4) 読書の目的②：「書き方」を学ぶ
- 5) 支配的思想への挑戦：若者の意見
- 6) 快楽をめぐって①：文人は息抜きできるのか
- 7) 快楽をめぐって②：周囲からのプレッシャー、ライバルや批判者の存在
- 8) 金銭をめぐって①：貧しさとはなにか
- 9) 金銭をめぐって②：文人はお金を稼げるのか
- 10) 名誉をめぐって①：名誉とはなにか
- 11) 名誉をめぐって②：誰が名誉にふさわしいのか
- 12) ラテン語とイタリア語：誰のための言語か
- 13) 芸術家のアイデンティティーとは①：自画像の系譜
- 14) 芸術家のアイデンティティーとは②：職人から芸術家へ
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業の予習は不要ですが、復習はしっかりと行ってください(目安1時間)。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(出席)、期末レポート(授業内)によって、総合的に判断します。フィードバックは授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業は配布プリントと視覚教材を用いて行います。

◆参考図書◆

講義内で適宜紹介します。

◆留意事項◆

上記シラバスはあくまでも予定であり、授業の進度や受講生の興味によって内容を変更する可能性があります。イタリア語やラテン語の知識は不要です。

ナンバリング	CES314N		
科目名	イタリア語中級A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強を続けたい学生のための授業です。様々な角度からイタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に学習していきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンスと復習(内容・表現・語彙)
2. 文法の復習 potere, dovere, volere, andare, c’è/ci sono, ecc.
3. 作文と発表の練習. 自分の好きな街（Una città che ti piace. Che cosa c’è in questa città?）
4. 天気について話す。piove, è nuvoloso, c’è il sole, fa bel tempo, ecc.
5. 文法のまとめ、天候を表す非人称動詞(piove, nevica)、非人称動詞bisogna、現在の仮定Se...
6. 作文と発表の練習: もし雨だったら・・・(Se piove che facciamo?)
7. 招待を受け入れる・断る。招待するための表現など、Vuoi, Ti va..., Facciamo... Che bello! Certo! È una buona idea!、No, mi dispiace, Non posso...
8. 文法のまとめ(直接目的語・間接目的語代名詞の用法)
9. 作文と発表の練習。面白い場所などに先生を誘ってください (Invita il professore!)
10. 自分の日常生活について話す Che hai fatto ieri? Ho fatto..., sono andato/a..., 副詞 ieri, ~fa, ~scorso/aなど(1)
11. 自分の日常生活について話す Che hai fatto ieri? Ho fatto..., sono andato/a..., 副詞 ieri, ~fa, ~scorso/aなど(2)
12. 文法のまとめ(近過去[完了]の作り方、助動詞avere, essereの使い分け、副詞との組み合わせ)
13. 作文と発表の練習 Ieri... nel fine settimana... durante le vacanze...
14. Aの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴いて状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、単語を入れ替えて自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト及び期末テスト。そのほか随時課題を出し、授業内でフィードバックするとともに総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布します。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES105N		
科目名	イタリア語中級A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性豊かな教員が、聴き手や読者などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強を続けたい学生のための授業です。様々な角度からイタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に学習していきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンスと復習(内容・表現・語彙)
- 文法の復習 potere, dovere, volere, andare, c'è/ci sono, ecc.
- 作文と発表の練習 自分の好きな街 (Una città che ti piace. Che cosa c'è in questa città?)
- 天気について話す。piove, è nuvoloso, c'è il sole, fa bel tempo, ecc.
- 文法のまとめ、天候を表す非人称動詞(piove, nevica)、非人称動詞bisogna、現在の仮定Se...
- 作文と発表の練習: もし雨だったら・・・(Se piove che facciamo?)
- 招待を受け入れる・断る。招待するための表現など、Vuoi, Ti va..., Facciamo... Che bello! Certo! È una buona idea!, No, mi dispiace, Non posso...
- 文法のまとめ(直接目的語・間接目的語代名詞の用法)
- 作文と発表の練習。面白い場所などに先生を誘ってください (Invita il professore!)
- 自分の日常生活について話す Che hai fatto ieri? Ho fatto..., sono andato/a..., 副詞 ieri, ~fa, ~scorso/aなど(1)
- 自分の日常生活について話す Che hai fatto ieri? Ho fatto..., sono andato/a..., 副詞 ieri, ~fa, ~scorso/aなど(2)
- 文法のまとめ(近過去[完了]の作り方、助動詞avere, essereの使い分け、副詞との組み合わせ)
- 作文と発表の練習 Ieri... nel fine settimana... durante le vacanze...
- Aの復習
- 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴いて状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、単語を入れ替えて自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト及び期末テスト。そのほか随時課題を出し、授業内でフィードバックするとともに総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布します。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES315N		
科目名	イタリア語中級B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強を続けたい学生のための授業です。様々な角度からイタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に学習していきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

- Aの内容・表現・語彙・文法の復習
- 日常の買い物fare la spesa, vorrei un etto di..., un chilo di..., un litro di..., carne, pesce, verdura, frutta... レシピ preparare una ricetta: tagliare, mescolare, ecc.
- 文法のまとめ（集合名詞 frutta, genteなど、数量を表す直接目的語代名詞のne）
- 作文と発表の練習。得意料理は？Che cosa sai cucinare？
- 買い物する、好みを言う、助言する fare spese, un vestito, un regalo, è meglio, come mi sta...? 色、ニュアンスなど
- 文法のまとめ（比較級 meglio, peggio, meno caro, più grandeなど）
- 好きな洋服・ドレスなどの写真を使って、好きな理由を説明しましょう Questo vestito è...
- 家族について話す La famiglia
- 文法のまとめ（所有形容詞、冠詞の有無の意味 mio padre, il mio appartamento）
- 写真を見てどんな家族か想像をしてみましょう。
- 小さいとき… Quando ero piccolo/piccola... mi piaceva... non mi piaceva... facevo sempre... odiavo..., ecc.
- 文法のまとめ。描写に使う半過去（未完了）
- 作文と発表の練習。小さいときのことを話してみましょう（Quando ero piccolo/piccola...）
- ABの復習
- 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴いて状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、単語を入れ替えて自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト及び期末テスト。そのほか随時課題を出し、授業内でフィードバックするとともに総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布します。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES106N		
科目名	イタリア語中級B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	G. レバリアーティ		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業はイタリア語を必修外国語として履修している学生と選択外国語として勉強を続けたい学生のための授業です。様々な角度からイタリア語を学び、イタリア語を使うことを目的としています。音とイントネーションから、語彙と文法を総合的に学習していきます。日本語との違いを正しく把握し、単語・表現・文法の組み合わせを理解しながら、文章を読んだり、書いたり、話したりします。イタリア語と日本語から現れる文化の違いを楽しく発見していきます。

◆授業内容・計画◆

1. Aの内容・表現・語彙・文法の復習
2. 日常の買い物fare la spesa, vorrei un etto di..., un chilo di..., un litro di..., carne, pesce, verdura, frutta... レシピ preparare una ricetta: tagliare, mescolare, ecc.
3. 文法のまとめ（集合名詞 frutta, genteなど、数量を表す直接目的語代名詞のne）
4. 作文と発表の練習。得意料理は？ Che cosa sai cucinare?
5. 買い物する、好みを言う、助言する fare spese, un vestito, un regalo, è meglio, come mi sta...? 色、ニュアンスなど
6. 文法のまとめ（比較級 meglio, peggio, meno caro, più grandeなど）
7. 好きな洋服・ドレスなどの写真を使って、好きな理由を説明しましょう Questo vestito è...
8. 家族について話す La famiglia
9. 文法のまとめ（所有形容詞、冠詞の有無の意味 mio padre, il mio appartamento）
10. 写真を見てどんな家族か想像をしてみましょう。
11. 小さいとき... Quando ero piccolo/piccola... mi piaceva... non mi piaceva... facevo sempre... odiavo..., ecc.
12. 文法のまとめ。描写に使う半過去（未完了）
13. 作文と発表の練習。小さいときのことを話してみましょう（Quando ero piccolo/piccola...）
14. ABの復習
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業に積極的に参加して下さい。音声教材を聴いて状況と意味を考え、イタリア語の表現の仕方を学んでいきます。講読の場合、和訳を気にせず、イタリア語の「表現と意味」を理解するよう努めて下さい。質問はいつでも大歓迎です。授業中に配布されるプリントを失くさないように注意して下さい。復習の際、習った表現の意味を確認し、発音してみたり、単語を入れ替えて自分ヴァージョンを作ってみたりして下さい。復習時間の目安は毎日10分程度です。

◆成績評価の方法◆

小テスト及び期末テスト。そのほか随時課題を出し、授業内でフィードバックするとともに総合的に成績評価します。

◆教科書（使用テキスト）◆

プリントを配布します。

◆参考図書◆

希望があれば、参考テキストをお勧めします。

◆留意事項◆

授業の進度は、クラス人数、学習状況によって変わります。なるべく欠席をしないよう、授業に積極的に参加して下さい。なお、欠席が1/3を超えると単位取得ができません。また遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分注意して下さい。

ナンバリング	CES316N		
科目名	イタリア語上級(ライティング & スピーキング)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	金 4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業ではイタリア語の様々な言い回しを試し、表現力を豊かにすることを目指します。表現や構文、単語の意味に注意し、自分オリジナルのイタリア語を作り、文法的な構造だけでなく、単語そのものの意味のつなげ方をより深く考えていきます。その後、“自分だけの”イタリア語をほかのクラスメートに発表することによって、お互い新しいイタリア語を発見していき、少しずつ自分のイタリア語に自信を持つことができます。

◆授業内容・計画◆

1. 本コースの目的と内容説明。
2. イタリアのポップスを聞いて、簡単なストーリーを語る(1)
3. イタリアのポップスを聞いて、簡単なストーリーを語る(2)
4. 現在について話す。(例:今日の予定、週末の予定)(1)
5. 現在について話す。(例:今日の予定、週末の予定)(2)
6. 将来について話す。(例:5年後の自分、10年後の自分、将来の夢など)(1)
7. 将来について話す。(例:5年後の自分、10年後の自分、将来の夢など)(2)
8. 現在についての簡単な仮定を表す(例:Vorrei..., ma...)(1)
9. 現在についての簡単な仮定を表す(例:Vorrei..., ma...)(2)
10. お気に入りの写真について話す。思い出を語る(1)
11. お気に入りの写真について話す。思い出を語る(2)
12. 夏休みの予定について話す(1)
13. 夏休みの予定について話す(2)
14. 復習
15. まとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

随時行われる小テストを中心に、授業への参加態度、学習意欲などを総合的に判断して評価します。ただ出席しているだけでは単位は与えられません。学生の積極的な取り組みを期待します。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業内容は出席者の理解を確かめながら進めていきますので、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES107N		
科目名	イタリア語上級(ライティング & スピーキング)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-23	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業ではイタリア語の様々な言い回しを試し、表現力を豊かにすることを目指します。表現や構文、単語の意味に注意し、自分オリジナルのイタリア語を作り、文法的な構造だけでなく、単語そのものの意味のつなげ方をより深く考えていきます。その後、“自分だけの”イタリア語をほかのクラスメートに発表することによって、お互い新しいイタリア語を発見していき、少しずつ自分のイタリア語に自信を持つことができます。

◆授業内容・計画◆

1. 本コースの目的と内容説明。
2. イタリアのポップスを聞いて、簡単なストーリーを語る(1)
3. イタリアのポップスを聞いて、簡単なストーリーを語る(2)
4. 現在について話す。(例:今日の予定、週末の予定)(1)
5. 現在について話す。(例:今日の予定、週末の予定)(2)
6. 将来について話す。(例:5年後の自分、10年後の自分、将来の夢など)(1)
7. 将来について話す。(例:5年後の自分、10年後の自分、将来の夢など)(2)
8. 現在における簡単な仮定を表す(例:Vorrei..., ma...)(1)
9. 現在における簡単な仮定を表す(例:Vorrei..., ma...)(2)
10. お気に入りの写真について話す。思い出を語る(1)
11. お気に入りの写真について話す。思い出を語る(2)
12. 夏休みの予定について話す(1)
13. 夏休みの予定について話す(2)
14. 復習
15. まとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

随時行われる小テストを中心に、授業への参加態度、学習意欲などを総合的に判断して評価します。ただ出席しているだけでは単位は与えられません。学生の積極的な取り組みを期待します。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業内容は出席者の理解を確かめながら進めていきますので、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES317N		
科目名	イタリア語上級(ライティング & スピーキング)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業ではイタリア語の様々な言い回しを試し、表現力を豊かにすることを目指します。表現や構文、単語の意味に注意し、自分オリジナルのイタリア語を作り、文法的な構造だけでなく、単語そのものの意味のつなげ方をより深く考えていきます。その後、“自分だけの”イタリア語をほかのクラスメートに発表することによって、お互い新しいイタリア語を発見していき、少しずつ自分のイタリア語に自信が持つことができます。

◆授業内容・計画◆

1. Aで習ったことの確認。自分の夏休み(1)楽しかったこと、大変だったこと(話す練習)
2. 自分の夏休み(2)楽しかったこと、大変だったこと(書く練習)
3. 自分の得意なこと・苦手なこと(1)(話す練習)
4. 自分の得意なこと・苦手なこと(2)(書く練習)
5. イタリア人のイメージ、日本人のイメージ(1)(意見を述べる、反論する)
6. イタリア人のイメージ、日本人のイメージ(2)(書く練習)
7. 自分の理想の家(1)(描写する、理由を述べる)
8. 自分の理想の家(2)(書く練習)
9. 好きな人・嫌いな人(1)(理由を述べる、説明する)
10. 好きな人・嫌いな人(2)(書く練習)
11. Se fossi un extraterrestre...「もし自分が宇宙人だったら…」(1)(非現実を表す)
12. Se fossi un extraterrestre... (2)(非現実について書く)
13. 町の観光、展覧会、演奏会などに人を招待する(1)(勧める、説得する)
14. 町の観光、展覧会、演奏会などに人を招待する(2)(書く練習)
15. まとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

小テスト、授業への参加態度、学習意欲などを総合的に判断して評価します。ただ出席しているだけでは単位は与えられません。学生の積極的な取り組みを期待します。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業内容は出席者の理解を確かめながら進めていきますので、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES108N		
科目名	イタリア語上級(ライティング & スピーキング)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	D. レスタ		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-23	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業ではイタリア語の様々な言い回しを試し、表現力を豊かにすることを目指します。表現や構文、単語の意味に注意し、自分オリジナルのイタリア語を作り、文法的な構造だけでなく、単語そのものの意味のつなげ方をより深く考えていきます。その後、“自分だけの”イタリア語をほかのクラスメートに発表することによって、お互い新しいイタリア語を発見していき、少しずつ自分のイタリア語に自信が持つことができます。

◆授業内容・計画◆

1. Aで習ったことの確認。自分の夏休み(1)楽しかったこと、大変だったこと(話す練習)
2. 自分の夏休み(2)楽しかったこと、大変だったこと(書く練習)
3. 自分の得意なこと・苦手なこと(1)(話す練習)
4. 自分の得意なこと・苦手なこと(2)(書く練習)
5. イタリア人のイメージ、日本人のイメージ(1)(意見を述べる、反論する)
6. イタリア人のイメージ、日本人のイメージ(2)(書く練習)
7. 自分の理想の家(1)(描写する、理由を述べる)
8. 自分の理想の家(2)(書く練習)
9. 好きな人・嫌いな人(1)(理由を述べる、説明する)
10. 好きな人・嫌いな人(2)(書く練習)
11. Se fossi un extraterrestre...「もし自分が宇宙人だったら…」(1)(非現実を表す)
12. Se fossi un extraterrestre... (2)(非現実について書く)
13. 町の観光、展覧会、演奏会などに人を招待する(1)(勧める、説得する)
14. 町の観光、展覧会、演奏会などに人を招待する(2)(書く練習)
15. まとめと確認

◆準備学習の内容◆

予習は不要。毎日15分程度で復習をして習った内容を確認してください。理解が不十分な場合は、そのまま放置せず、次の授業で疑問点を解消できるようにしましょう。

◆成績評価の方法◆

小テスト、授業への参加態度、学習意欲などを総合的に判断して評価します。ただ出席しているだけでは単位は与えられません。学生の積極的な取り組みを期待します。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業内容は出席者の理解を確かめながら進めていきますので、多少変更になる場合もあります。

ナンバリング	CES318N		
科目名	イタリア語上級(作文・講読)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

イタリアの文化・生活などについての様々なテーマについて書かれた文章を読みながら、イタリアに対する理解も深めることを目標にしています。また、ある程度まとまった文章の読解を通じて、重要な文法事項や表現の確認と、複雑な構文の把握を目指します。作文も適宜行ない、「自分なりのイタリア語」で表現できるようになることも視野に入れています。

◆授業内容・計画◆

- ガイダンス:授業の内容と目的の説明。／イタリア語で自己紹介をしてみよう。
- テーマ1. イタリアのコーヒーについて。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
- テーマ1. イタリアのコーヒーについて。辞書を引き、重要な表現を考える。
- テーマ1. イタリアのコーヒーについて。作文と確認
- テーマ2. イタリア語の成り立ちと表現。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
- テーマ2. イタリア語の成り立ちと方言。辞書を引き、重要な表現を考える。
- テーマ2. イタリア語の成り立ちと方言。作文と確認。
- テーマ3. イタリアの映画と音楽。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
- テーマ3. イタリアの映画と音楽。辞書を引き、重要な表現を考える。
- テーマ3. イタリアの映画と音楽。作文と確認。
- テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
- テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。辞書を引き、重要な表現を考える。
- テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。作文と確認。
14. 重要な文法事項と表現の復習。
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業中に積極的に参加し、質問をたくさんしてください。授業中に一人で、あるいはグループで、辞書の引き方、表現や言い回しの解釈、文章の作り方を見ていくことによって、書き言葉の仕組みに親しんでいきます。この授業の目的は、きれいな日本語に翻訳するではなく、構文を把握した上で、自分のイタリア語で書き言葉のコミュニケーションがとれるようになることです。復習として、授業で扱った文章を自分で読み直し、わからないことは、次回の授業で質問するようにして下さい。本文中の表現を用いて、自分で文章を書いてみましょう。復習の時間は毎日10分程度。

◆成績評価の方法◆

テストまたは課題(授業内でフィードバックする)と、授業への積極的な参加、発言などにより、総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材はプリントを配布します。
伊和・和伊辞典を必ず持参してください。
また、必修イタリア語の教科書も参考にしてください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業計画はあくまでも目安であり、内容や進度は、受講者の関心、人数、学習状況によって多少変わることがあります。
なるべく欠席を避け、授業には積極的に参加してください。欠席が1/3を超えると単位取得はできませんので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES319N		
科目名	イタリア語演習上級A		
科目詳細	2019～2021年度入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

この授業では、主としてイタリアの言語・文学を(その背景となる歴史・文化を踏まえながら)扱います。ですから、詩的作品の講読やリスニング、分析を通して、言語・文学の知識を掘り下げたい学生を対象としたものです。既習のイタリア語文法と語彙・表現をベースとしながら、それらには収まりきらない歌曲やアリア等の歌詞(＝韻文)の特性を解説します。詩の韻律や音楽性、詩的言語の持つ力や深い意味に触れながら慣れ親しみ、市販の(あるいはネット上の)対訳に頼らずに読解ができるようになることを目標とします。グループワークなどを通じて、言葉と音楽との分かちがい関係についても探っていきます。普段のイタリア語の授業では触れることのできない範囲まで、芸術に対する造形をより深めていける貴重な機会です。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション: 詩ってどういうもの?
- 2.ペトラルカ①ヨーロッパ最大の抒情詩人について&時代背景(中世～ルネサンス)の理解
- 3.ペトラルカ②作品講読: リストが作曲した3つのソネット
- 4.ペトラルカ③作品講読: ピッツェッティが作曲した3つのソネット
- 5.ペトラルカ④グループワーク: マレンツィオやモンテヴェルディが作曲したソネット《西風が戻り》の読解と分析
- 6.ヴィヴァルディ《四季》の元になった4つのソネットを読みながら音楽との関係と時代背景(バロック)を考える
- 7.レオパルディ①イタリア人なら誰でも知っている、ペトラルカと並ぶ近代最大の詩人について&時代背景(古典主義～ロマン主義)の理解
- 8.レオパルディ②作品講読: 《月に寄す》ほか
- 9.レオパルディ③グループワーク: チマーラやカステルヌオーヴォ＝テデスコら多数の作曲家が作曲した短詩《無限》の読解と分析
- 10.パスコリとダンヌンツィオ①19世紀末～20世紀初頭の二大詩人について&作品講読: チマーラ作曲の《雪が舞う》ほか
- 11.パスコリとダンヌンツィオ②グループワーク: パスコリ作詩ザンドナーイ作曲の《みみずく》の読解と分析
- 12.グループワーク: 現代のカンツォーネを読んでみる
- 13.これまでに学んだ修辞技法や韻文特有の表現の復習
- 14.個人またはグループによる作品発表(作品の選択は自由)
- 15.確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

鴨川太郎・森田学編著『イタリア歌曲の詩と音楽の魅力』全音楽譜出版社
天野恵・鈴木信五・森田学『イタリアの詩歌』三修社
ペトラルカ『カンツォニエーレ』池田廉訳、名古屋大学出版会
古田耕史『ジャコモ・レオパルディ: ロマン主義的自然観と〈無限〉の詩学』

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES352N		
科目名	イタリア語上級(演習)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

この授業では、主としてイタリアの言語・文学を(その背景となる歴史・文化を踏まえながら)扱います。ですから、詩的作品の講読やリスニング、分析を通して、言語・文学の知識を掘り下げたい学生を対象としたものです。既習のイタリア語文法と語彙・表現をベースとしながら、それらには収まりきらない歌曲やアリア等の歌詞(＝韻文)の特性を解説します。詩の韻律や音楽性、詩的言語の持つ力や深い意味に触れながら慣れ親しみ、市販の(あるいはネット上の)対訳に頼らずに読解ができるようになることを目標とします。グループワークなどを通じて、言葉と音楽との分かちがい関係についても探っていきます。普段のイタリア語の授業では触れることのできない範囲まで、芸術に対する造形をより深めていける貴重な機会です。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション: 詩ってどういうもの？
- 2.ペトラルカ①ヨーロッパ最大の抒情詩人について&時代背景(中世～ルネサンス)の理解
- 3.ペトラルカ②作品講読: リストが作曲した3つのソネット
- 4.ペトラルカ③作品講読: ピッツェッティが作曲した3つのソネット
- 5.ペトラルカ④グループワーク: マレンツィオやモンテヴェルディが作曲したソネット《西風が戻り》の読解と分析
- 6.ヴィヴァルディ《四季》の元になった4つのソネットを読みながら音楽との関係と時代背景(バロック)を考える
- 7.レオパルディ①イタリア人なら誰でも知っている、ペトラルカと並ぶ近代最大の詩人について&時代背景(古典主義～ロマン主義)の理解
- 8.レオパルディ②作品講読: 《月に寄す》ほか
- 9.レオパルディ③グループワーク: チマーラやカステルヌオーヴォ＝テデスコら多数の作曲家が付曲した短詩《無限》の読解と分析
- 10.パスコリとダンヌンツィオ①19世紀末～20世紀初めの二大詩人について&作品講読: チマーラ作曲の《雪が舞う》ほか
- 11.パスコリとダンヌンツィオ②グループワーク: パスコリ作詩ザンドナイ作曲の《みみずく》の読解と分析
- 12.グループワーク: 現代のカンツォーネを読んでみる
- 13.これまでに学んだ修辞技法や韻文特有の表現の復習
- 14.個人またはグループによる作品発表(作品の選択は自由)
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

鴨川太郎・森田学編著『イタリア歌曲の詩と音楽の魅力』全音楽譜出版社
天野恵・鈴木信五・森田学『イタリアの詩歌』三修社
ペトラルカ『カンツォニエーレ』池田廉訳、名古屋大学出版会
古田耕史『ジャコモ・レオパルディ: ロマン主義的自然観と〈無限〉の詩学』

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES113N		
科目名	イタリア語上級(演習)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

この授業では、主としてイタリアの言語・文学を(その背景となる歴史・文化を踏まえながら)扱います。ですから、詩的作品の講読やリスニング、分析を通して、言語・文学の知識を掘り下げたい学生を対象としたものです。既習のイタリア語文法と語彙・表現をベースとしながら、それらには収まりきらない歌曲やアリア等の歌詞(＝韻文)の特性を解説します。詩の韻律や音楽性、詩的言語の持つ力や深い意味に触れながら慣れ親しみ、市販の(あるいはネット上の)対訳に頼らずに読解ができるようになることを目標とします。グループワークなどを通じて、言葉と音楽との分かちがい関係についても探っていきます。普段のイタリア語の授業では触れることのできない範囲まで、芸術に対する造形をより深めていける貴重な機会です。

◆授業内容・計画◆

- 1.イントロダクション: 詩ってどういうもの？
- 2.ペトラルカ①ヨーロッパ最大の抒情詩人について&時代背景(中世～ルネサンス)の理解
- 3.ペトラルカ②作品講読: リストが作曲した3つのソネット
- 4.ペトラルカ③作品講読: ピッツェッティが作曲した3つのソネット
- 5.ペトラルカ④グループワーク: マレンツィオやモンテヴェルディが作曲したソネット《西風が戻り》の読解と分析
- 6.ヴィヴァルディ《四季》の元になった4つのソネットを読みながら音楽との関係と時代背景(バロック)を考える
- 7.レオパルディ①イタリア人なら誰でも知っている、ペトラルカと並ぶ近代最大の詩人について&時代背景(古典主義～ロマン主義)の理解
- 8.レオパルディ②作品講読: 《月に寄す》ほか
- 9.レオパルディ③グループワーク: チマーラやカステルヌオーヴォ＝テデスコら多数の作曲家が付曲した短詩《無限》の読解と分析
- 10.パスコリとダンヌンツィオ①19世紀末～20世紀初めの二大詩人について&作品講読: チマーラ作曲の《雪が舞う》ほか
- 11.パスコリとダンヌンツィオ②グループワーク: パスコリ作詩ザンドナイ作曲の《みみずく》の読解と分析
- 12.グループワーク: 現代のカンツォーネを読んでみる
- 13.これまでに学んだ修辞技法や韻文特有の表現の復習
- 14.個人またはグループによる作品発表(作品の選択は自由)
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

鴨川太郎・森田学編著『イタリア歌曲の詩と音楽の魅力』全音楽譜出版社
天野恵・鈴木信五・森田学『イタリアの詩歌』三修社
ペトラルカ『カンツォニエーレ』池田廉訳、名古屋大学出版会
古田耕史『ジャコモ・レオパルディ: ロマン主義的自然観と〈無限〉の詩学』

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES354N		
科目名	イタリア語上級(作文・講読)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天竺桂歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

イタリアの文化・生活などについての様々なテーマについて書かれた文章を読みながら、イタリアに対する理解も深めることを目標にしています。また、ある程度まとまった文章の読解を通じて、重要な文法事項や表現の確認と、複雑な構文の把握を目指します。作文も適宜行ない、「自分なりのイタリア語」で表現できるようになることも視野に入れています。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス:授業の内容及び目的の説明。／イタリア語で自己紹介をしてみよう。
2. テーマ1. イタリアのコーヒーについて。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
3. テーマ1. イタリアのコーヒーについて。辞書を引き、重要な表現を考える。
4. テーマ1. イタリアのコーヒーについて。作文と確認
5. テーマ2. イタリア語の成り立ちと表現。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
6. テーマ2. イタリア語の成り立ちと方言。辞書を引き、重要な表現を考える。
7. テーマ2. イタリア語の成り立ちと方言。作文と確認。
8. テーマ3. イタリアの映画と音楽。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
9. テーマ3. イタリアの映画と音楽。辞書を引き、重要な表現を考える。
10. テーマ3. イタリアの映画と音楽。作文と確認。
11. テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
12. テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。辞書を引き、重要な表現を考える。
13. テーマ4. イタリアの伝統と祝祭。作文と確認。
14. 重要な文法事項と表現の復習。
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業中に積極的に参加し、質問をたくさんしてください。授業中に一人で、あるいはグループで、辞書の引き方、表現や言い回しの解釈、文章の作り方を見ていくことによって、書き言葉の仕組みに親しんでいきます。この授業の目的は、きれいな日本語に翻訳するではなく、構文を把握した上で、自分のイタリア語で書き言葉のコミュニケーションがとれるようになることです。復習として、授業で扱った文章を自分で読み直し、わからないことは、次回の授業で質問するようにして下さい。本文中の表現を用いて、自分で文章を書いてみましょう。復習の時間は毎日10分程度。

◆成績評価の方法◆

テストまたは課題(授業内でフィードバックする)と、授業への積極的な参加、発言などにより、総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材はプリントを配布します。
伊和・和伊辞典を必ず持参してください。
また、必修イタリア語の教科書も参考にしてください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業計画はあくまでも目安であり、内容や進度は、受講者の関心、人数、学習状況によって多少変わることがあります。
なるべく欠席を避け、授業には積極的に参加してください。欠席が1/3を超えると単位取得はできませんので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES320N		
科目名	イタリア語上級(作文・講読)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性豊かな教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

前期と同様、イタリアの文化・生活などについての様々なテーマについて書かれた文章を読みながら、イタリアに対する理解も深めることを目標にしています。また、ある程度まとまった文章の読解を通じて、重要な文法事項や表現の確認と、複雑な構文の把握を目指します。作文も適宜行ない、「自分なりのイタリア語」で表現できるようになることも視野に入れています。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス・授業の内容や目的の説明。／夏休みの出来事をイタリア語で書いてみよう。
2. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
3. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。辞書を引き、重要な表現を考える。
4. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。作文と確認
5. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
6. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。辞書を引き、重要な表現を考える。
7. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。作文と確認。
8. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
9. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。辞書を引き、重要な表現を考える。
10. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。作文と確認。
11. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
12. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。辞書を引き、重要な表現を考える。
13. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。作文と確認。
14. 重要な文法事項と表現の復習。
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業中に積極的に参加し、質問をたくさんしてください。授業中に一人で、あるいはグループで、辞書の引き方、表現や言い回しの解釈、文章の作り方を見ていくことによって、書き言葉の仕組みに親しんでいきます。この授業の目的は、きれいな日本語に翻訳するではなく、構文を把握した上で、自分のイタリア語で書き言葉のコミュニケーションがとれるようになることです。復習として、授業で扱った文章を自分で読み直し、わからないことは、次回の授業で質問するようにして下さい。本文中の表現を用いて、自分で文章を書いてみましょう。復習の時間は毎日10分程度。

◆成績評価の方法◆

テストまたは課題(授業内でフィードバックする)と、授業への積極的な参加、発言などにより、総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材はプリントを配布します。
伊和・和伊辞典を必ず持参してください。
また、必修イタリア語の教科書も参考にしてください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業計画はあくまでも目安であり、内容や進度は、受講者の関心、人数、学習状況によって多少変わることがあります。
なるべく欠席を避け、授業には積極的に参加してください。欠席が1/3を超えると単位取得はできませんので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES321N		
科目名	イタリア語演習上級B		
科目詳細	2019～2021年度入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業では、主としてオペラ台本を扱います。したがって、作品の講読や分析を通じてオペラ台本をより深く理解したい学生を対象としています。オペラ台本のセリフはすべて韻文(詩)で書かれているため、当然ながら日常会話の語彙・表現とは大きく異なります。前期と同様に、韻律や特有の詩的表現・技法を学びながら、有名なオペラ(とくにモーツァルトのダ・ポンテ三部作)の抜粋や、その他のアリアを取り上げ、音楽との関係を視野に入れつつ、文法と内容の両面から深く掘り下げて読んでみましょう。この授業を通して、受講生たちには「自主性」、「自律性」をもってオペラ台本に向き合い、対訳に頼らずに読む力を養ってもらいたいと考えています。有名作品であっても、他人の翻訳でわかったつもりになっていませんか。台本の言葉が自分の内側から自然と出てくるようになれば、歌唱も自然なものとはなりません。この授業は、台本の言葉を自分のものとして理解し表現することができるようになるための第一歩となるでしょう。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション:オペラ台本とは?／台本作者(詩人)メタスタジオとロレンツォ・ダ・ポンテについて
2. フィガロの結婚①作品の背景とドラマトゥルギー／フィガロのカヴァティーナの読解・分析
3. フィガロの結婚②ケルビーノのアリアおよびスザンナの重唱曲の読解・分析
4. フィガロの結婚③グループワーク:バジリオの重要なアリア(カットされることが多いが重要)の読解・分析
5. ドン・ジョヴァンニ①作品の背景とドラマトゥルギー／レポレツォのアリアの読解
6. ドン・ジョヴァンニ②女声3人のアリアの読解・分析
7. ドン・ジョヴァンニ③グループワーク:ジョヴァンニとツェルリーナの二重唱の読解・分析
8. コジ・ファン・トゥッテ①作品の背景とドラマトゥルギー
9. コジ・ファン・トゥッテ②男声3人のアリアの読解・分析
10. コジ・ファン・トゥッテ③グループワーク:女声3人のアリアの読解・分析
11. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析①(例:《ジャンニ・スキッキ》よりラウレッタのアリア:読解&ダンテ『神曲』との関係)
12. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析②(リクエストがなければ講師が用意します)
13. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析③(同上)
14. 個人またはグループによる小作品発表(作品の選択は自由)
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

モーツァルト／ダ・ポンテ『フィガロの結婚』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『ドン・ジョヴァンニ』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『コジ・ファン・トゥッテ』小瀬村幸子訳、音楽之友社

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES353N		
科目名	イタリア語上級(演習)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

この授業では、主としてオペラ台本を扱います。したがって、作品の講読や分析を通じてオペラ台本をより深く理解したい学生を対象としています。オペラ台本のセリフはすべて韻文(詩)で書かれているため、当然ながら日常会話の語彙・表現とは大きく異なります。前期と同様に、韻律や特有の詩的表現・技法を学びながら、有名なオペラ(とくにモーツァルトのダ・ポンテ三部作)の抜粋や、その他のアリアを取り上げ、音楽との関係を視野に入れつつ、文法と内容の両面から深く掘り下げて読んでみましょう。この授業を通して、受講生たちには「自主性」、「自律性」をもってオペラ台本に向き合い、対訳に頼らずに読む力を養ってもらいたいと考えています。有名作品であっても、他人の翻訳でわかったつもりになっていませんか。台本の言葉が自分の内側から自然と出てくるようになれば、歌唱も自然なものとはなりません。この授業は、台本の言葉を自分のものとして理解し表現することができるようになるための第一歩となるでしょう。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション:オペラ台本とは?／台本作者(詩人)メタスタジオとロレンツォ・ダ・ポンテについて
2. フィガロの結婚①作品の背景とドラマトウルギー／フィガロのカヴァティーナの読解・分析
3. フィガロの結婚②ケルビーノのアリアおよびスザンナの重唱曲の読解・分析
4. フィガロの結婚③グループワーク:バジーリオの重要なアリア(カットされることが多いが重要)の読解・分析
5. ドン・ジョヴァンニ①作品の背景とドラマトウルギー／レポレツォのアリアの読解
6. ドン・ジョヴァンニ②女声3人のアリアの読解・分析
7. ドン・ジョヴァンニ③グループワーク:ジョヴァンニとツェルリーナの二重唱の読解・分析
8. コジ・ファン・トゥッテ①作品の背景とドラマトウルギー
9. コジ・ファン・トゥッテ②男声3人のアリアの読解・分析
10. コジ・ファン・トゥッテ③グループワーク:女声3人のアリアの読解・分析
11. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析①(例:《ジャンニ・スキッキ》よりラウレッタのアリア:読解&ダンテ『神曲』との関係)
12. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析②(リクエストがなければ講師が用意します)
13. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析③(同上)
14. 個人またはグループによる小作品発表(作品の選択は自由)
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

モーツァルト／ダ・ポンテ『フィガロの結婚』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『ドン・ジョヴァンニ』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『コジ・ファン・トゥッテ』小瀬村幸子訳、音楽之友社

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES114N		
科目名	イタリア語上級(演習)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

この授業では、主としてオペラ台本を扱います。したがって、作品の講読や分析を通じてオペラ台本をより深く理解したい学生を対象としています。オペラ台本のセリフはすべて韻文(詩)で書かれているため、当然ながら日常会話の語彙・表現とは大きく異なります。前期と同様に、韻律や特有の詩的表現・技法を学びながら、有名なオペラ(とくにモーツァルトのダ・ポンテ三部作)の抜粋や、その他のアリアを取り上げ、音楽との関係を視野に入れつつ、文法と内容の両面から深く掘り下げて読んでみましょう。この授業を通して、受講生たちには「自主性」、「自律性」をもってオペラ台本に向き合い、対訳に頼らずに読む力を養ってもらいたいと考えています。有名作品であっても、他人の翻訳でわかったつもりになっていませんか。台本の言葉が自分の内側から自然と出てくるようになれば、歌唱も自然なものとはなりません。この授業は、台本の言葉を自分のものとして理解し表現することができるようになるための第一歩となるでしょう。

◆授業内容・計画◆

1. イントロダクション:オペラ台本とは?／台本作者(詩人)メタスタジオとロレンツォ・ダ・ポンテについて
2. フィガロの結婚①作品の背景とドラマトウルギー／フィガロのカヴァティーナの読解・分析
3. フィガロの結婚②ケルビーノのアリアおよびスザンナの重唱曲の読解・分析
4. フィガロの結婚③グループワーク:バジールオの重要なアリア(カットされることが多いが重要)の読解・分析
5. ドン・ジョヴァンニ①作品の背景とドラマトウルギー／レポレッロのアリアの読解
6. ドン・ジョヴァンニ②女声3人のアリアの読解・分析
7. ドン・ジョヴァンニ③グループワーク:ジョヴァンニとツェルリーナの二重唱の読解・分析
8. コジ・ファン・トゥッテ①作品の背景とドラマトウルギー
9. コジ・ファン・トゥッテ②男声3人のアリアの読解・分析
10. コジ・ファン・トゥッテ③グループワーク:女声3人のアリアの読解・分析
11. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析①(例:《ジャンニ・スキッキ》よりラウレッタのアリア:読解&ダンテ『神曲』との関係)
12. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析②(リクエストがなければ講師が用意します)
13. 受講生のリクエストによるアリアの読解・分析③(同上)
14. 個人またはグループによる小作品発表(作品の選択は自由)
15. 確認と評価

◆準備学習の内容◆

予習は義務ではありませんが、授業の理解をスムーズにするために、次に読むテキストに目を通しておくことをお勧めします。十分な出席や積極的なグループワークへの取り組みを期待します。質問はいつでも大歓迎です。必要な予習復習時間の目安は、毎週100分程度です。

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度と小テスト(授業内フィードバック)または発表により、総合的に判断して評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材(プリント、音源資料、映像資料等)は適宜配布・呈示します。
伊和辞典を必ず持参すること。授業中、伊和辞典の使い方も学びますが、持参の必要はありません。

◆参考図書◆

モーツァルト／ダ・ポンテ『フィガロの結婚』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『ドン・ジョヴァンニ』小瀬村幸子訳、音楽之友社
モーツァルト／ダ・ポンテ『コジ・ファン・トゥッテ』小瀬村幸子訳、音楽之友社

◆留意事項◆

シラバスの内容や授業進度は、受講者の関心や理解度に応じて、多少変わる場合があります。
選択科目なので、1学期のみの履修も可能です。
単位取得には2/3以上出席が必須条件です。遅刻は3回で欠席1回の扱いとしますので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES355N		
科目名	イタリア語上級(作文・講読)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	古田 耕史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴きや読解などの基本の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

前期と同様、イタリアの文化・生活などについての様々なテーマについて書かれた文章を読みながら、イタリアに対する理解も深めることを目標にしています。また、ある程度まとまった文章の読解を通じて、重要な文法事項や表現の確認と、複雑な構文の把握を目指します。作文も適宜行ない、「自分なりのイタリア語」で表現できるようになることも視野に入れています。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス・授業の内容や目的の説明。／夏休みの出来事をイタリア語で書いてみよう。
2. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
3. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。辞書を引き、重要な表現を考える。
4. テーマ1. 町の紹介文(ヴェネツィア)。作文と確認
5. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
6. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。辞書を引き、重要な表現を考える。
7. テーマ2. 昔話(昔々あるところに王様が)。作文と確認。
8. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
9. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。辞書を引き、重要な表現を考える。
10. テーマ3. 童話(ピノッキオ)。作文と確認。
11. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。発音の確認。全体的な意味と構文を考える。
12. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。辞書を引き、重要な表現を考える。
13. テーマ4. カンツォーネの読解と歌唱。作文と確認。
14. 重要な文法事項と表現の復習。
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

予習は不要ですが、授業中に積極的に参加し、質問をたくさんしてください。授業中に一人で、あるいはグループで、辞書の引き方、表現や言い回しの解釈、文章の作り方を見ていくことによって、書き言葉の仕組みに親しんでいきます。この授業の目的は、きれいな日本語に翻訳するではなく、構文を把握した上で、自分のイタリア語で書き言葉のコミュニケーションがとれるようになることです。復習として、授業で扱った文章を自分で読み直し、わからないことは、次回の授業で質問するようにして下さい。本文中の表現を用いて、自分で文章を書いてみましょう。復習の時間は毎日10分程度。

◆成績評価の方法◆

テストまたは課題(授業内でフィードバックする)と、授業への積極的な参加、発言などにより、総合的に判断します。

◆教科書(使用テキスト)◆

教材はプリントを配布します。
伊和・和伊辞典を必ず持参してください。
また、必修イタリア語の教科書も参考にしてください。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業計画はあくまでも目安であり、内容や進度は、受講者の関心、人数、学習状況によって多少変わることがあります。
なるべく欠席を避け、授業には積極的に参加してください。欠席が1/3を超えると単位取得はできませんので、十分に注意してください。

ナンバリング	CES043N		
科目名	フランス語文法初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期は入門として、フランス語の文法知識を初歩から学びます。目標は以下のとおりです。・まず発音と綴り字の規則を覚えること・綴りをしっかり覚えて書けるようにすること。・フランス語の特徴(名詞の性、語順など)に慣れること。・単語を覚え、語彙を増やしてゆくこと。・現在、近い未来、過去、疑問文、否定文などを理解し、使えるようになること。

◆授業内容・計画◆

初級文法の教科書を使用します。全体は1課から18課で、巻末に演習問題が付いた構成です。各課は見開き2ページで文法説明と練習問題からなります。授業は原則、1回1課のペースで進め、3課ごとに「まとめ」の小テストを行いながら、前期は9課まで進む予定です。

1. 導入(1) フランス語の文字、アルファベ、綴り字記号
2. フランス語の綴りの読み方
3. L.1 名詞の性と数、不定冠詞、部分冠詞
4. L.2 定冠詞、提示の表現
5. L.3 主語人称代名詞、規則動詞(-er動詞と-ir動詞)、疑問形
6. L.1 - L.3 の復習(小テスト、演習問題など)
7. L.4 ETREとAVOIRの直説法現在、否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
8. L.5 形容詞の位置と女性形(1)、名詞・形容詞の複数形
9. L.6 不規則動詞ALLER, VENIRの直説法現在、冠詞の縮約、形容詞の女性形(2)、疑問形容詞
10. L.4 - L.7 の復習(小テスト、演習問題など)
11. L.7 不規則動詞 FAIRE, PRENDRE ほか、命令形、所有形容詞
12. L.8 不規則動詞 PARTIR, VOULOIR ほか、形容詞・副詞の比較級、最上級
13. L.9 不規則動詞 VOIR, SAVOIR ほか、過去分詞、直説法複合過去
14. L.7 - L.8 の復習(小テスト、演習問題ほか)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間): 授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロードを利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。復習(毎週2時間): 授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『＜新版＞ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES061N		
科目名	フランス語初級(文法)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期は入門として、フランス語の文法知識を初歩から学びます。目標は以下のとおりです。・まず発音と綴り字の規則を覚えること・綴りをしっかり覚えて書けるようにすること・フランス語の特徴(名詞の性、語順など)に慣れること・単語を覚え、語彙を増やしてゆくこと・現在、近い未来、過去、疑問文、否定文などを理解し、使えるようになること。

◆授業内容・計画◆

初級文法の教科書を使用します。全体は1課から18課で、巻末に演習問題が付いた構成です。各課は見開き2ページで文法説明と練習問題からなります。授業は原則、1回1課のペースで進め、3課ごとに「まとめ」の小テストを行いながら、前期は9課まで進む予定です。

- 導入(1) フランス語の文字、アルファベ、綴り字記号
- フランス語の綴りの読み方
- L.1 名詞の性と数、不定冠詞、部分冠詞
- L.2 定冠詞、提示の表現
- L.3 主語人称代名詞、規則動詞(-er動詞と-ir動詞)、疑問形
- L.1 - L.3 の復習(小テスト、演習問題など)
- L.4 ETREとAVOIRの直説法現在、否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
- L.5 形容詞の位置と女性形(1)、名詞・形容詞の複数形
- L.6 不規則動詞ALLER, VENIRの直説法現在、冠詞の縮約、形容詞の女性形(2)、疑問形容詞
- L.4 - L.7 の復習(小テスト、演習問題など)
- L.7 不規則動詞 FAIRE, PRENDRE ほか、命令形、所有形容詞
- L.8 不規則動詞 PARTIR, VOULOIR ほか、形容詞・副詞の比較級、最上級
- L.9 不規則動詞 VOIR, SAVOIR ほか、過去分詞、直説法複合過去
- L.7 - L.8 の復習(小テスト、演習問題ほか)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間):授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロード利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。 復習(毎週2時間):授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『＜新版＞ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES117N		
科目名	フランス語初級(文法)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期は入門として、フランス語の文法知識を初歩から学びます。目標は以下のとおりです。・まず発音と綴り字の規則を覚えること・綴りをしっかり覚えて書けるようにすること。・フランス語の特徴(名詞の性、語順など)に慣れること。・単語を覚え、語彙を増やしてゆくこと。・現在、近い未来、過去、疑問文、否定文などを理解し、使えるようになること。

◆授業内容・計画◆

初級文法の教科書を使用します。全体は1課から18課で、巻末に演習問題が付いた構成です。各課は見開き2ページで文法説明と練習問題からなります。授業は原則、1回1課のペースで進め、3課ごとに「まとめ」の小テストを行いながら、前期は9課まで進む予定です。

1. 導入(1) フランス語の文字、アルファベ、綴り字記号
2. フランス語の綴りの読み方
3. L.1 名詞の性と数、不定冠詞、部分冠詞
4. L.2 定冠詞、提示の表現
5. L.3 主語人称代名詞、規則動詞(-er動詞と-ir動詞)、疑問形
6. L.1 - L.3 の復習(小テスト、演習問題など)
7. L.4 ETREとAVOIRの直説法現在、否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
8. L.5 形容詞の位置と女性形(1)、名詞・形容詞の複数形
9. L.6 不規則動詞ALLER, VENIRの直説法現在、冠詞の縮約、形容詞の女性形(2)、疑問形容詞
10. L.4 - L.7 の復習(小テスト、演習問題など)
11. L.7 不規則動詞 FAIRE, PRENDRE ほか、命令形、所有形容詞
12. L.8 不規則動詞 PARTIR, VOULOIR ほか、形容詞・副詞の比較級、最上級
13. L.9 不規則動詞 VOIR, SAVOIR ほか、過去分詞、直説法複合過去
14. L.7 - L.8 の復習(小テスト、演習問題ほか)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間): 授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロード利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。復習(毎週2時間): 授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『＜新版＞ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES044N		
科目名	フランス語文法初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	03
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期は前期に続いてフランス語の文法知識の基礎を学びます。目標は以下のとおりです。・発音と綴り字の関係を正確に捉えること。・綴りを正確に覚え書けるようになること。・フランス語の特徴(名詞の性や語順など)に慣れること。・現在だけでなく、過去や未来も含めた様々な内容の文を理解できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じ初級文法の教科書を使用します。後期は9課の復習から始め、まず文法のポイントを学び、CDや音源で、主な動詞の活用を練習した後、練習問題を行ってゆきます。

1. L.9 の復習

2. L. 10 関係代名詞、疑問代名詞
3. L. 11 人称代名詞、直接目的語と過去分詞の一致
4. L. 9 - L.11 の復習と確認
5. L.12 受動態、指示代名詞、強調構文
6. L. 13 代名動詞、非人称構文
7. L. 12 - L.13 の復習と確認
8. L. 14 直説法単純未来、前未来、中性代名詞
9. L. 15 直説法半過去、大過去、前置詞＋関係代名詞
10. L. 14 - L.15 の復習と確認
11. L. 16 条件法、現在分詞、ジェロンディフ
12. L. 17 直説法単純過去、直接話法と間接話法
13. L. 18 接続法、所有代名詞
14. L.16 - L.18 の復習と確認
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間): 授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロードを利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。復習(毎週2時間): 授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『<新版>ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES062N		
科目名	フランス語初級(文法)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期は前期に続いてフランス語の文法知識の基礎を学びます。目標は以下のとおりです。・発音と綴り字の関係を正確に捉えること。・綴りを正確に覚え書けるようになること。・フランス語の特徴(名詞の性や語順など)に慣れること。・現在だけでなく、過去や未来も含めた様々な内容の文を理解できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じ初級文法の教科書を使用します。後期は9課の復習から始め、まず文法のポイントを学び、CDや音源で、主な動詞の活用を練習した後、練習問題を行ってゆきます。

1. L.9 の復習
2. L. 10 関係代名詞、疑問代名詞
3. L. 11 人称代名詞、直接目的語と過去分詞の一致
4. L. 9 - L.11 の復習と確認
5. L.12 受動態、指示代名詞、強調構文
6. L. 13 代名動詞、非人称構文
7. L. 12 - L.13 の復習と確認
8. L. 14 直説法単純未来、前未来、中性代名詞
9. L. 15 直説法半過去、大過去、前置詞＋関係代名詞
10. L. 14 - L.15 の復習と確認
11. L. 16 条件法、現在分詞、ジェロンディフ
12. L. 17 直説法単純過去、直接話法と間接話法
13. L. 18 接続法、所有代名詞
14. L.16 - L.18 の復習と確認
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間):授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロードを利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。復習(毎週2時間):授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『＜新版＞ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES118N		
科目名	フランス語初級(文法)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期は前期に続いてフランス語の文法知識の基礎を学びます。目標は以下のとおりです。・発音と綴り字の関係を正確に捉えること。・綴りを正確に覚え書けるようになること。・フランス語の特徴(名詞の性や語順など)に慣れること。・現在だけでなく、過去や未来も含めた様々な内容の文を理解できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じ初級文法の教科書を使用します。後期は9課の復習から始め、まず文法のポイントを学び、CDや音源で、主な動詞の活用を練習した後、練習問題を行ってゆきます。

1. L.9 の復習
2. L. 10 関係代名詞、疑問代名詞
3. L. 11 人称代名詞、直接目的語と過去分詞の一致
4. L. 9 - L.11 の復習と確認
5. L.12 受動態、指示代名詞、強調構文
6. L. 13 代名動詞、非人称構文
7. L. 12 - L.13 の復習と確認
8. L. 14 直説法単純未来、前未来、中性代名詞
9. L. 15 直説法半過去、大過去、前置詞＋関係代名詞
10. L. 14 - L.15 の復習と確認
11. L. 16 条件法、現在分詞、ジェロンディフ
12. L. 17 直説法単純過去、直接話法と間接話法
13. L. 18 接続法、所有代名詞
14. L.16 - L.18 の復習と確認
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間):授業の前にあらかじめ文法説明に目を通し、知らない単語の意味や用例を辞書で確認しておく。その際、音声ダウンロードを利用して、例文や動詞の活用を発音しておくこと。語彙は普段から積極的に覚えること。復習(毎週2時間):授業で習った練習問題の答えを確認し、単語・動詞の活用、例文を覚える。課題がある場合は自宅で自習して提出すること。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、小テストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認、小テスト)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『<新版>ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES045N		
科目名	フランス語実践初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はフランス語の入門編として、フランス語の音に慣れ親しみながら、日常で実際に使える文を学んで行きます。目標は以下の通りです。・まず発音に耳を慣らし、声に出すこと。・次に綴り字と発音の規則を学ぶこと。・単語や表現を覚え、語彙を増やすこと。・短い文を暗記し、文字を見ずに言え、あるいは聞きとって書けるようになること。・学んだ表現や文を使って挨拶や自己紹介ができるようになること。

◆授業内容・計画◆

フランス語の音色に耳を慣らすために、CD付きのテキストを使用します。テキストはイントロダクションとして、アルファベと簡単な綴り字の読み方を学んだ後、1課から20課で構成されています。各課は見開き2ページという構成で、まず日常の一場面からなるディアローグと文法のポイントを確認し、それから聞き取りを中心とした練習問題を行います。授業は原則として1回に1課程度のペースで、前期はイントロダクションから10課まで進む予定です。

- 導入、アルファベ、綴り字の読み方
- L.1. 事物を提示する、入場券を買う / 名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞
- L.2. 気持ちなどを伝える、国籍を表す形容詞 / 動詞 ETREと主語人称代名詞、形容詞の性・数一致と位置
- L.3. 暑い、寒いなどを伝える / 部分冠詞、動詞AVOIR、否定文と否定の冠詞
- L.4. 肯定・否定疑問文に答える / -er動詞、疑問文ほか
- L.5 待ち合わせの場所を伝える / -ir動詞、指示形容詞、所有形容詞
- BILAN1 (まとめの問題)
- L.6 職業を伝える / 疑問代名詞
- L.7 元気であることを伝える / 縮約(1)、近接未来、疑問副詞
- L. 8 出身地を伝える / 縮約(2)、近接過去、指示代名詞
- L.9 自宅の行き方を伝える / 直接目的語・強勢形の人称代名詞、命令法
- L.10. 天候を伝える / 間接目的語の人称代名詞、非人称構文
- BILAN 2 (まとめの問題)
- 時刻、月、曜日の表現と綴り字の読み方(2)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間): CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通しておく。 復習(毎週2時間): 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認など)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き) 中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES063N		
科目名	フランス語初級(実践)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はフランス語の入門編として、フランス語の音に慣れ親しみながら、日常で実際に使える文を学んで行きます。目標は以下の通りです。・まず発音に耳を慣らし、声に出すこと。・次に綴り字と発音の規則を学ぶこと。・単語や表現を覚え、語彙を増やすこと。・短い文を暗記し、文字を見ずに言え、あるいは聞きとって書けるようになること。・学んだ表現や文を使って挨拶や自己紹介ができるようになること。

◆授業内容・計画◆

フランス語の音色に耳を慣らすために、CD付きのテキストを使用します。テキストはイントロダクションとして、アルファベと簡単な綴り字の読み方を学んだ後、1課から20課で構成されています。各課は見開き2ページという構成で、まず日常の一場面からなるディアローグと文法のポイントを確認し、それから聞き取りを中心とした練習問題を行います。授業は原則として1回に1課程度のペースで、前期はイントロダクションから10課まで進む予定です。

- 導入、アルファベ、綴り字の読み方
- L.1. 事物を提示する、入場券を買う / 名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞
- L.2. 気持ちなどを伝える、国籍を表す形容詞 / 動詞 ETREと主語人称代名詞、形容詞の性・数一致と位置
- L.3. 暑い、寒いなどを伝える / 部分冠詞、動詞AVOIR、否定文と否定の冠詞
- L.4. 肯定・否定疑問文に答える / -er動詞、疑問文ほか
- L.5 待ち合わせの場所を伝える / -ir動詞、指示形容詞、所有形容詞
- BILAN1 (まとめの問題)
- L.6 職業を伝える / 疑問代名詞
- L.7 元気であることを伝える / 縮約(1)、近接未来、疑問副詞
- L. 8 出身地を伝える / 縮約(2)、近接過去、指示代名詞
- L.9 自宅の行き方を伝える / 直接目的語・強勢形の人称代名詞、命令法
- L.10. 天候を伝える / 間接目的語の人称代名詞、非人称構文
- BILAN 2 (まとめの問題)
- 時刻、月、曜日の表現と綴り字の読み方(2)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間) : CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通しておく。 復習(毎週2時間) : 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声を聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き) 中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES119N		
科目名	フランス語初級(実践)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はフランス語の入門編として、フランス語の音に慣れ親しみながら、日常で実際に使える文を学んで行きます。目標は以下の通りです。・まず発音に耳を慣らし、声に出すこと。・次に綴り字と発音の規則を学ぶこと。・単語や表現を覚え、語彙を増やすこと。・短い文を暗記し、文字を見ずに言え、あるいは聞きとって書けるようになること。・学んだ表現や文を使って挨拶や自己紹介ができるようになること。

◆授業内容・計画◆

フランス語の音色に耳を慣らすために、CD付きのテキストを使用します。テキストはイントロダクションとして、アルファベと簡単な綴り字の読み方を学んだ後、1課から20課で構成されています。各課は見開き2ページという構成で、まず日常の一場面からなるディアローグと文法のポイントを確認し、それから聞き取りを中心とした練習問題を行います。授業は原則として1回に1課程度のペースで、前期はイントロダクションから10課まで進む予定です。

1. 導入、アルファベ、綴り字の読み方
2. L.1. 事物を提示する、入場券を買う / 名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞
3. L.2. 気持ちなどを伝える、国籍を表す形容詞 / 動詞 ETREと主語人称代名詞、形容詞の性・数一致と位置
4. L.3. 暑い、寒いなどを伝える / 部分冠詞、動詞AVOIR、否定文と否定の冠詞
5. L.4. 肯定・否定疑問文に答える / -er動詞、疑問文ほか
6. L.5 待ち合わせの場所を伝える / -ir動詞、指示形容詞、所有形容詞
7. BILAN1 (まとめの問題)
8. L.6 職業を伝える / 疑問代名詞
9. L.7 元気であることを伝える / 縮約(1)、近接未来、疑問副詞
10. L. 8 出身地を伝える / 縮約(2)、近接過去、指示代名詞
11. L.9 自宅の行き方を伝える / 直接目的語・強勢形の人称代名詞、命令法
12. L.10. 天候を伝える / 間接目的語の人称代名詞、非人称構文
13. BILAN 2 (まとめの問題)
14. 時刻、月、曜日の表現と綴り字の読み方(2)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間) : CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通しておく。 復習(毎週2時間) : 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声を聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き) 中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのものを初回に紹介します。) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES046N		
科目名	フランス語実践初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期はフランス語の基礎の後半に当たる部分を、会話文や聞き取りを中心に学びます。目標は以下のとおりです。
 ・綴り字と発音の規則を確実に把握すること・CDを活用して、フランス語のリズムや抑揚を耳と口に馴染ませること・単語や表現を覚えて語彙を増やすこと・短い文を覚え、口頭・筆記で再現できるようになること・覚えた表現を応用できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じテキストを使います。後期も、1課ごとに、まず文法の規則を学んだ後、ディアローグの表現で発音と構文を確認し、練習問題で使える表現を増やしてゆきます。

1. ガイダンス、L10 までの内容の復習
2. L.11 代名動詞、1日の流れを伝える
3. L.12 直説法複合過去(1)、夏休みにしたことを伝える
4. L.13 直説法複合過去(2)、日曜日にしたことを伝える
5. L.14 中性代名詞、兄弟の有無を伝える
6. L.15 比較級、最上級、季節を伝える
7. BILAN 3 と復習
8. L.16 直説法半過去、大過去、高校時代の活動を伝える
9. L.17 関係代名詞、生誕地などを尋ねる
10. L.18 直説法単純未来、受動態、卒業後の進路を伝える
11. L.19 条件法現在、仮定の事柄を伝える
12. L.19 ジェロンディフと現在分詞
13. L.20 接続法現在、要望を伝える
14. L.20 強調構文、BILAN 4
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間): CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通して置く。 復習(毎週2時間): 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き) 中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES064N		
科目名	フランス語初級(実践)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期はフランス語の基礎の後半に当たる部分を、会話文や聞き取りを中心に学びます。目標は以下のとおりです。・綴り字と発音の規則を確実に把握すること・CDを活用して、フランス語のリズムや抑揚を耳と口に馴染ませること・単語や表現を覚えて語彙を増やすこと・短い文を覚え、口頭・筆記で再現できるようになること。・覚えた表現を応用できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じテキストを使います。後期も、1課ごとに、まず文法の規則を学んだ後、ディアローグの表現で発音と構文を確認し、練習問題で使える表現を増やしてゆきます。

1. ガイダンス、L10 までの内容の復習
2. L.11 代名動詞、1日の流れを伝える
3. L.12 直説法複合過去(1)、夏休みにしたことを伝える
4. L.13 直説法複合過去(2)、日曜日にしたことを伝える
5. L.14 中性代名詞、兄弟の有無を伝える
6. L.15 比較級、最上級、季節を伝える
7. BILAN 3 と復習
8. L.16 直説法半過去、大過去、高校時代の活動を伝える
9. L.17 関係代名詞、生誕地などを尋ねる
10. L.18 直説法単純未来、受動態、卒業後の進路を伝える
11. L.19 条件法現在、仮定の事柄を伝える
12. L.19 ジェロンディフと現在分詞
13. L.20 接続法現在、要望を伝える
14. L.20 強調構文、BILAN 4
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間):CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通しておく。 復習(毎週2時間): 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声を聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き)中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典:仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書:各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES120N		
科目名	フランス語初級(実践)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

後期はフランス語の基礎の後半に当たる部分を、会話文や聞き取りを中心に学びます。目標は以下のとおりです。・綴り字と発音の規則を確実に把握すること・CDを活用して、フランス語のリズムや抑揚を耳と口に馴染ませること・単語や表現を覚えて語彙を増やすこと・短い文を覚え、口頭・筆記で再現できるようになること。・覚えた表現を応用できるようになること。

◆授業内容・計画◆

前期と同じテキストを使います。後期も、1課ごとに、まず文法の規則を学んだ後、ディアローグの表現で発音と構文を確認し、練習問題で使える表現を増やしてゆきます。

1. ガイダンス、L10 までの内容の復習
2. L.11 代名動詞、1日の流れを伝える
3. L.12 直説法複合過去(1)、夏休みにしたことを伝える
4. L.13 直説法複合過去(2)、日曜日にしたことを伝える
5. L.14 中性代名詞、兄弟の有無を伝える
6. L.15 比較級、最上級、季節を伝える
7. BILAN 3 と復習
8. L.16 直説法半過去、大過去、高校時代の活動を伝える
9. L.17 関係代名詞、生誕地などを尋ねる
10. L.18 直説法単純未来、受動態、卒業後の進路を伝える
11. L.19 条件法現在、仮定の事柄を伝える
12. L.19 ジェロンディフと現在分詞
13. L.20 接続法現在、要望を伝える
14. L.20 強調構文、BILAN 4
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間):CDを使ってフランス語の音をよく聞き、発音を確認し、新しく学ぶ単語と文の意味を辞書を使って調べる。文法の説明に目を通しておく。 復習(毎週2時間): 練習問題を確認し、学んだ単語や動詞の活用を復習し、短文を覚える。音声を聞いて、繰り返し発音する。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、ミニテストなど、50%)と期末テスト(50%)を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『フランス語の音色』(CD付き)中村敦子著(駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典:仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書:各自、自由に選んで使用して下さい。なお月刊「ふらんす」(白水社)やNHKフランス語講座のテキストはお薦めです。

◆留意事項◆

ラジオ・テレビのフランス語講座やテキストは積極的に活用して下さい。また映画、音楽、スポーツなどを通してフランス語に接する機会をできるだけ増やしましょう。

ナンバリング	CES289N		
科目名	フランス語実践中級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はテキストの前半部分を使って、初級文法の復習をしながら、聞き取りの練習を行います。目標は以下の通りです。・初級で学んだ文法の知識を定着させること・発音の規則を復習し文章を音読できるようになること・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、前期は、イントロダクションから 5課までを目安に進めてゆきます。

1. イントロダクション(挨拶、綴り字の読み方の復習)
2. 1-1 ディアローグ、不定冠詞、定冠詞、名詞の性と数
3. 1-2 ディアローグ、主語人称代名詞、ETRE、縮約
4. 2-1 ディアローグ、AVOIR、疑問文、形容詞、強勢形
5. 2-2 ディアローグ、否定文
6. 3-1 ディアローグ、第1群規則動詞、指示形容詞
7. 3-2 ディアローグ、第2群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
8. 4-1 ディアローグ、ALLER, VENIR, FAIRE, 非人称主語
9. 4-2 ディアローグ、PRENDRE, 命令法、時間
10. 5-1 ディアローグ、人称代名詞(直接目的語)、比較級
11. 5-2 ディアローグ、人称代名詞(間接目的語)、最上級
12. コミュニケーション 1(挨拶、自己紹介、性格、病気)
13. コミュニケーション 2(性格、病気、住所、値段、お礼)
14. コミュニケーション 3(場所、時間、意見、日付)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。また音源を聞いて、ディアローグの発音や聞き取り問題を準備する。 復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、課題など 50%)と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン(プリュス)―フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

一応、フランス語の既習者を対象としますが、実践A、文法A終了程度でも学習可能な内容です。個別の相談に応じますし、履修するメンバーに合わせて内容を調整することも可能です。

ナンバリング	CES348N		
科目名	フランス語中級(実践)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はテキストの前半部分を使って、初級文法の復習をしながら、聞き取りの練習を行います。目標は以下の通りです。・初級で学んだ文法の知識を定着させること・発音の規則を復習し文章を音読できるようになること・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、前期は、イントロダクションから 5課までを目安に進めてゆきます。

1. イントロダクション(挨拶、綴り字の読み方の復習)
2. 1-1 ディアローグ、不定冠詞、定冠詞、名詞の性と数
3. 1-2 ディアローグ、主語人称代名詞、ETRE、縮約
4. 2-1 ディアローグ、AVOIR、疑問文、形容詞、強勢形
5. 2-2 ディアローグ、否定文
6. 3-1 ディアローグ、第1群規則動詞、指示形容詞
7. 3-2 ディアローグ、第2群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
8. 4-1 ディアローグ、ALLER, VENIR , FAIRE, 非人称主語
9. 4-2 ディアローグ、PRENDRE, 命令法、時間
10. 5-1 ディアローグ、人称代名詞(直接目的語)、比較級
11. 5-2 ディアローグ、人称代名詞(間接目的語)、最上級
12. コミュニケーション 1 (挨拶、自己紹介、性格、病気)
13. コミュニケーション 2 (性格、病気、住所、値段、お礼)
14. コミュニケーション 3 (場所、時間、意見、日付)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。また音源を聞いて、ディアローグの発音や聞き取り問題を準備する。 復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、課題など 50%)と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン(プリュス)―フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

一応、フランス語の既習者を対象としますが、実践A、文法A終了程度でも学習可能な内容です。個別の相談に応じますし、履修するメンバーに合わせて内容を調整することも可能です。

ナンバリング	CES123N		
科目名	フランス語中級(実践)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期はテキストの前半部分を使って、初級文法の復習をしながら、聞き取りの練習を行います。目標は以下の通りです。・初級で学んだ文法の知識を定着させること・発音の規則を復習し文章を音読できるようになること・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、前期は、イントロダクションから 5課までを目安に進めてゆきます。

1. イントロダクション(挨拶、綴り字の読み方の復習)
2. 1-1 ディアローグ、不定冠詞、定冠詞、名詞の性と数
3. 1-2 ディアローグ、主語人称代名詞、ETRE、縮約
4. 2-1 ディアローグ、AVOIR、疑問文、形容詞、強勢形
5. 2-2 ディアローグ、否定文
6. 3-1 ディアローグ、第1群規則動詞、指示形容詞
7. 3-2 ディアローグ、第2群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞
8. 4-1 ディアローグ、ALLER, VENIR, FAIRE, 非人称主語
9. 4-2 ディアローグ、PRENDRE, 命令法、時間
10. 5-1 ディアローグ、人称代名詞(直接目的語)、比較級
11. 5-2 ディアローグ、人称代名詞(間接目的語)、最上級
12. コミュニケーション 1(挨拶、自己紹介、性格、病気)
13. コミュニケーション 2(性格、病気、住所、値段、お礼)
14. コミュニケーション 3(場所、時間、意見、日付)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。また音源を聞いて、ディアローグの発音や聞き取り問題を準備する。復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み、課題など 50%)と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン(プリュス)―フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞典: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

一応、フランス語の既習者を対象としますが、実践A、文法A終了程度でも学習可能な内容です。個別の相談に応じますし、履修するメンバーに合わせて内容を調整することも可能です。

ナンバリング	CES290N		
科目名	フランス語実践中級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

後期も前期と同じテキストを使って、引き続き初級文法の復習をしながら、聞き取り問題を行います。目標は以下の通りです。・初級文法の知識をさらに定着させること。・発音の規則を身につけ、文章を音読できるようになること。・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、後期は、6課から10課までを目安に進めてゆきます。

- 5課の復習
- 6-1 ディアローグ、代名動詞
- 6-2 ディアローグ、疑問形容詞、POUVOIR, VOULOIR, DEVOIR, IL FAUT
- 7-1 ディアローグ、複合過去①(助動詞 AVOIR)
- 7-2 ディアローグ、複合過去②(助動詞 ETRE)
- 8-1 ディアローグ、半過去、関係代名詞、強調構文
- 8-2 ディアローグ、受動態、接続詞 que
- 9-1 ディアローグ、単純未来
- 9-2 ディアローグ、ジェロンディフ、感嘆文、y, en
- 10-1 ディアローグ、条件法現在
- 10-2 ディアローグ、接続法現在
- コミュニケーション 1 (勧誘、質問、許可、過去のことを話す)
- コミュニケーション 2 (予定、理由、期待、意見を尋ねる)
- コミュニケーション 3 (成句、好き嫌い)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。また音源を聞いて、ディアローグの発音や聞き取り問題を準備する。復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組みや課題など)50%と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については、授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン(プリュス)―フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞書: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

中級フランス語A終了程度を想定していますが、初級(実践B、文法B)終了程度でも学習可能な内容です。

ナンバリング	CES349N		
科目名	フランス語中級(実践)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

後期も前期と同じテキストを使って、引き続き初級文法の復習をしながら、聞き取り問題を行います。目標は以下の通りです。・初級文法の知識をさらに定着させること。・発音の規則を身につけ、文章を音読できるようになること。・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること。

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、後期は、6課から10課までを目安に進めてゆきます。

- 5課の復習
- 6-1 ディアローグ、代名動詞
- 6-2 ディアローグ、疑問形容詞、POUVOIR, VOULOIR, DEVOIR, IL FAUT
- 7-1 ディアローグ、複合過去①(助動詞 AVOIR)
- 7-2 ディアローグ、複合過去②(助動詞 ETRE)
- 8-1 ディアローグ、半過去、関係代名詞、強調構文
- 8-2 ディアローグ、受動態、接続詞 que
- 9-1 ディアローグ、単純未来
- 9-2 ディアローグ、ジェロンディフ、感嘆文、y, en
- 10-1 ディアローグ、条件法現在
- 10-2 ディアローグ、接続法現在
- コミュニケーション 1 (勧誘、質問、許可、過去のことを話す)
- コミュニケーション 2 (予定、理由、期待、意見を尋ねる)
- コミュニケーション 3 (成句、好き嫌い)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。またCDあるは音源を聞いて、聞き取り問題を準備する。 復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組みや課題など)50%と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については、授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン<ブリュス>—フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 （駿河台出版社）

◆参考図書◆

辞書: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

中級フランス語A終了程度を想定していますが、初級(実践B、文法B)終了程度でも学習可能な内容です。

ナンバリング	CES124N		
科目名	フランス語中級(実践)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	稲村 真実		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

後期も前期と同じテキストを使って、引き続き初級文法の復習をしながら、聞き取り問題を行います。目標は以下の通りです。・初級文法の知識をさらに定着させること。・発音の規則を身につけ、文章を音読できるようになること。・実際の会話に役立つフレーズを覚え、使えるようになること。

◆授業内容・計画◆

テキストは10課の構成で、各課がさらにふたつのディアローグに分かれているので、1回で1ディアローグのペースで、後期は、6課から10課までを目安に進めてゆきます。

- 5課の復習
- 6-1 ディアローグ、代名動詞
- 6-2 ディアローグ、疑問形容詞、POUVOIR, VOULOIR, DEVOIR, IL FAUT
- 7-1 ディアローグ、複合過去①(助動詞 AVOIR)
- 7-2 ディアローグ、複合過去②(助動詞 ETRE)
- 8-1 ディアローグ、半過去、関係代名詞、強調構文
- 8-2 ディアローグ、受動態、接続詞 que
- 9-1 ディアローグ、単純未来
- 9-2 ディアローグ、ジェロンディフ、感嘆文、y, en
- 10-1 ディアローグ、条件法現在
- 10-2 ディアローグ、接続法現在
- コミュニケーション 1 (勧誘、質問、許可、過去のことを話す)
- コミュニケーション 2 (予定、理由、期待、意見を尋ねる)
- コミュニケーション 3 (成句、好き嫌い)
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予習(毎週2時間)辞書を用いて、語彙や表現を調べ、文の意味を確認する。またCDあるいは音源を聞いて、聞き取り問題を準備する。復習(毎週2時間)学んだ文を音源で確認し、覚える。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組みや課題など)50%と期末テスト50%を総合的に評価します。学習の成果(発音確認)については、授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アミカルマン<ブリュス>—フランス語・フランス文化への誘い』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

◆参考図書◆

辞書: 仏和辞典(中辞典レベルのもの) 参考書: 各自が使った初級のテキストや参考書など

◆留意事項◆

中級フランス語A終了程度を想定していますが、初級(実践B、文法B)終了程度でも学習可能な内容です。

ナンバリング	CES287N		
科目名	フランス語講読上級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語で書かれた散文を辞書を丁寧に引きながら、正確に日本語に翻訳出来るようになる。フランス語文法に対する理解を深める。文章表現を会話で運用出来るようになる。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力と留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

誰もが一度はどこかで見たことのあるルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』をフランス語訳で読む。アリス・リデルという少女に向けて書かれた本でありながら、様々な既知、言葉遊び、謎かけ、パズルなどの仕掛けが満載。数学者のマーティン・ガードナーが膨大な註を加えた英語版も参照しつつ、語学的な能力の向上もさることながら、注釈を参照しながら文学作品を読むという、研究の基礎も身に付けて欲しい。前期は『不思議の国のアリス』を読む

1. 導入、ルイス・キャロルの紹介。フランス語版序文の紹介。
2. マーティン・ガードナーの英語版紹介、英仏における『アリス』に対する関心の違い。
3. DANS LE TERRIER DU LAPIN
4. LA MARE AUX LARMES
5. LE LAPIN ENVOIE PIERRE ET PIERRES
6. UNE COURSE AU CAUCUS ET UNE LONGUE HISTOIRE
7. CONSEILS D'UNE CHENILLE
8. POIVRE ET COCHON
9. UN THE EXTRAVAGANT
10. LE TERRAIN DE CROQUET DE LA REINE
11. HISTOIRE DE LA SIMILI-TORTUE
12. LE QUADRILLE DES HOMARDS
13. QYU A VOLE LES TARTES
14. LA DEPOSITION D'ALICE
15. まとめと確認。

『アリス』に関してはジル・ドゥルーズの『意味の論理学』やレイモンド・スマリアンの『パズルランドのアリス』のように、ルイス・キャロルの触発された独自の著作も多く刊行されている。機会があればそれらも紹介したい。

◆準備学習の内容◆

フランス語の文章を辞書を引き、日本語にする、簡単なようで、日本語と作り方の違うフランス語は手強い相手と言ってよい。そのためには、難しくても直ぐに放り出さず、自分で納得がいくまで様々な可能性を検討しなくてはならない。文章内に出てきた語彙や表現を抜き出し、繰り返し学習して身に付けることで、その作業は飛躍的に能率がよくなる。一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、積極的な参加)と試験の成績から総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carroll, Les Aventures d'Alice au pays des merveilles – Ce qu'Alice trouva de l'autre côté du miroir, Gallimard, FOLIO, ISBN-13 978-2070466603

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES346N		
科目名	フランス語上級(講読)A		
科目詳細	2022～2024年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴き手や読者としての目まの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

フランス語で書かれた散文を辞書を丁寧に引きながら、正確に日本語に翻訳出来るようになる。フランス語文法に対する理解を深める。文章表現を会話で運用出来るようになる。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力と留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

誰もが一度はどこかで見たことのあるルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』をフランス語訳で読む。アリス・リデルという少女に向けて書かれた本でありながら、様々な既知、言葉遊び、謎かけ、パズルなどの仕掛けが満載。数学者のマーティン・ガードナーが膨大な註を加えた英語版も参照しつつ、語学的な能力の向上もさることながら、注釈を参照しながら文学作品を読むという、研究の基礎も身に付けて欲しい。前期は『不思議の国のアリス』を読む

1. 導入、ルイス・キャロルの紹介。フランス語版序文の紹介。
2. マーティン・ガードナーの英語版紹介、英仏における『アリス』に対する関心の違い。
3. DANS LE TERRUER DU LAPIN
4. LA MARE AUX LARMES
5. LE LAPIN ENVOIE PIERRE ET PIERRES
6. UNE COURSE AU CAUCUS ET UNE LONGUE HISTOIRE
7. CONSEILS D'UNE CHENILLE
8. POIVRE ET COCHON
9. UN THE EXTRAVAGANT
10. LE TERRAIN DE CROQUET DE LA REINE
11. HISTOIRE DE LA SIMILI-TORTUE
12. LE QUDADRILLE DES HOMARDS
13. QYU A VOLE LES TARTES
14. LA DEPOSITION D'ALICE
15. まとめと確認。

『アリス』に関してはジル・ドゥルーズの『意味の論理学』やレイモンド・スマリアンの『パズルランドのアリス』のように、ルイス・キャロルの触発された独自の著作も多く刊行されている。機会があればそれらも紹介したい。

◆準備学習の内容◆

フランス語の文章を辞書を引き、日本語にする、簡単なようで、日本語と作り方の違うフランス語は手強い相手と言ってよい。そのためには、難しくても直ぐに放り出さず、自分で納得がいくまで様々な可能性を検討しなくてはならない。文章内に出てきた語彙や表現を抜き出し、繰り返し学習して身に付けることで、その作業は飛躍的に能率がよくなる。一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、積極的な参加)と試験の成績から総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carrol, Les Aventures d’Alice au pays des merveilles – Ce qu’Alice trouva de l’autre côté du miroir, Gallimard, FOLIO, ISBN-13 978-2070466603

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES127N		
科目名	フランス語上級(講読)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴き手や読者としての目利きの実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

フランス語で書かれた散文を辞書を丁寧に引きながら、正確に日本語に翻訳出来るようになる。フランス語文法に対する理解を深める。文章表現を会話で運用出来るようになる。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力と留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

誰もが一度はどこかで見たことのあるルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』をフランス語訳で読む。アリス・リデルという少女に向けて書かれた本でありながら、様々な既知、言葉遊び、謎かけ、パズルなどの仕掛けが満載。数学者のマーティン・ガードナーが膨大な註を加えた英語版も参照しつつ、語学的な能力の向上もさることながら、注釈を参照しながら文学作品を読むという、研究の基礎も身に付けて欲しい。前期は『不思議の国のアリス』を読む

1. 導入、ルイス・キャロルの紹介。フランス語版序文の紹介。
2. マーティン・ガードナーの英語版紹介、英仏における『アリス』に対する関心の違い。
3. DANS LE TERRIER DU LAPIN
4. LA MARE AUX LARMES
5. LE LAPIN ENVOIE PIERRE ET PIERRES
6. UNE COURSE AU CAUCUS ET UNE LONGUE HISTOIRE
7. CONSEILS D'UNE CHENILLE
8. POIVRE ET COCHON
9. UN THE EXTRAORDINAIRE
10. LE TERRAIN DE CROQUET DE LA REINE
11. HISTOIRE DE LA SIMILI-TORTUE
12. LE QUADRILLE DES HOMARDS
13. QYU A VOLE LES TARTES
14. LA DEPOSITION D'ALICE
15. まとめと確認。

『アリス』に関してはジル・ドゥルーズの『意味の論理学』やレイモンド・スマリアンの『パズルランドのアリス』のように、ルイス・キャロルの触発された独自の著作も多く刊行されている。機会があればそれらも紹介したい。

◆準備学習の内容◆

フランス語の文章を辞書を引き、日本語にする、簡単なようで、日本語と作り方の違うフランス語は手強い相手と言ってよい。そのためには、難しくても直ぐに放り出さず、自分で納得がいくまで様々な可能性を検討しなくてはならない。文章内に出てきた語彙や表現を抜き出し、繰り返し学習して身に付けることで、その作業は飛躍的に能率がよくなる。一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、積極的な参加)と試験の成績から総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carrol, Les Aventures d'Alice au pays des merveilles – Ce qu'Alice trouva de l'autre côté du miroir, Gallimard, FOLIO, ISBN-13 978-2070466603

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CES288N		
科目名	フランス語講読上級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語文法に対する理解と運用能力を深める。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力、留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期よりの参加者は、物語の文章を読むことにはかなり慣れてきているはず。『アリス』について書かれた批評などに挑戦し、大学院入試に備える気構えでいて欲しい。後期は独立した作品である『鏡の国のアリス』を読むので、後期からのみの参加も歓迎する。

1. 『鏡の国のアリス』についての導入。
2. Raymond M. Smullyan, Alice in Puzzle-Landの紹介。
3. LA MAISON DU MIROIR
4. LE JARDIN DES FLEURS VIVANTES
5. INSECTES DU MIROIR
6. BONNETBLANC ET BLANC BONNET
7. LAINE ET EAU
8. LE GROS COCO
9. LE LION ET LA LICORNE
10. C'EST DE MON INVENTION
11. LA REINE ALICE
12. SECOUEMENT
13. REVEIL
14. QUI A REVE ?
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

フランス語散文の形式にも慣れてきたところで、一層正確に仏文を和訳できるよう、しっかり準備する。それでも一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、授業への積極的な参加)と試験の結果を総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carroll, Les Aventures d'Alice au pays des merveilles – Ce qu'Alice trouva de l'autre côté du miroir, Folio, Gallimard, ISBN-13 978-2070466603.

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

後期より選択する場合も、教科書は前期に入手しておくことが望ましい。

ナンバリング	CES347N		
科目名	フランス語上級(講読)B		
科目詳細	2022～2024年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	1単位
備考	国内において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴目や視覚などの目先の実践的な基力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

フランス語文法に対する理解と運用能力を深める。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力、留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期よりの参加者は、物語の文章を読むことにはかなり慣れてきているはず。『アリス』について書かれた批評などに挑戦し、大学院入試に備える気構えでいて欲しい。後期は独立した作品である『鏡の国のアリス』を読むので、後期からのみの参加も歓迎する。

- 『鏡の国のアリス』についての導入。
- Raymond M. Smullyan, Alice in Puzzle-Landの紹介。
- LA MAISON DU MIROIR
- LE JARDIN DES FLEURS VIVANTES
- INSECTES DU MIROIR
- BONNETBLANC ET BLANC BONNET
- LAINE ET EAU
- LE GROS COCO
- LE LION ET LA LICORNE
- C'EST DE MON INVENTION
- LA REINE ALICE
- SECOUEMENT
- REVEIL
- QUI A REVE ?
- まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

フランス語散文の形式にも慣れてきたところで、一層正確に仏文を和訳できるよう、しっかり準備する。それでも一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、授業への積極的な参加)と試験の結果を総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carroll, Les Aventures d’Alice au pays des merveilles – Ce qu’Alice trouva de l’autre côté du miroir, Folio, Gallimard, ISBN-13 978-2070466603.

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

後期より選択する場合も、教科書は前期に入手しておくことが望ましい。

ナンバリング	CES128N		
科目名	フランス語上級(講読)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	松岡 新一郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは翻訳家などとして活動した文藝性豊かな教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基盤力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

フランス語文法に対する理解と運用能力を深める。フランス文化について関心を持ち、自ら調べ自ら考えることが出来るようになる。大学院入試レベルの読解力、留学に備えた表現力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

前期よりの参加者は、物語の文章を読むことにはかなり慣れてきているはず。『アリス』について書かれた批評などに挑戦し、大学院入試に備える気構えでいて欲しい。後期は独立した作品である『鏡の国のアリス』を読むので、後期からのみの参加も歓迎する。

1. 『鏡の国のアリス』についての導入。
2. Raymond M. Smullyan, Alice in Puzzle-Landの紹介。
3. LA MAISON DU MIROIR
4. LE JARDIN DES FLEURS VIVANTES
5. INSECTES DU MIROIR
6. BONNETBLANC ET BLANC BONNET
7. LAINE ET EAU
8. LE GROS COCO
9. LE LION ET LA LICORNE
10. C'EST DE MON INVENTION
11. LA REINE ALICE
12. SECOUEMENT
13. REVEIL
14. QUI A REVE ?
15. まとめと確認。

◆準備学習の内容◆

フランス語散文の形式にも慣れてきたところで、一層正確に仏文を和訳できるよう、しっかり準備する。それでも一回の授業について、予習1時間、復習30分を確保されたい。

◆成績評価の方法◆

平常点(授業内の課題、授業への積極的な参加)と試験の結果を総合的に判断する。
授業内の質問について適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Lewis Carroll, Les Aventures d'Alice au pays des merveilles – Ce qu'Alice trouva de l'autre côté du miroir, Folio, Gallimard, ISBN-13 978-2070466603.

◆参考図書◆

授業内で随時指示する。

◆留意事項◆

後期より選択する場合も、教科書は前期に入手しておくことが望ましい。

ナンバリング	CES293N		
科目名	言語と文化(フランス語)A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	P. プロシュヌ		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

・映像や資料によりフランスの文化と社会のあり方について様々な角度から考察します。・日本文化との比較やグローバリズムなどの観点からも考えてみることで、より広い視野も養います。・フランス的思考・ものの考え方への理解を深めます。・映画/映像における「音楽」の意味・効果的な用いられ方について、美学的・心理学的考察を加えていきます。・映画/映像を通して、簡単な日常会話を覚えます。

◆授業内容・計画◆

・フランスの映画、フランスの文化に関心がある人なら誰でも歓迎します。
字幕で映画を観ているうちに簡単なフランス語に自然になれていくことでしょう。
・授業の2/3を映像に、1/3を問題の整理と異文化理解の時間に充てます。
時代背景や人間関係など、疑問に思ふことは質問したり、意見を述べるなど、
クラスでディスカッションしていきます。

<授業計画>

1:オリエンテーション

2:フランスの文化と映画

＊毎回の授業の進め方:簡単な作品説明／映画本編鑑賞／簡単な解説／コメント(自分の感想・考え)執筆

3:『コーラス』2004年作品 Les Choristes 施設の少年たちと中年の舎監(surveillant)先生(前半)

4:『コーラス』2004年作品 Les Choristes 施設の少年たちと中年の舎監(surveillant)先生(後半)

5:『青春期』1976年作品 F.トリュフォー監督 L' Argent de poche 地方都市の子供たちと家族(前半)

6:『青春期』1976年作品 F.トリュフォー監督 L' Argent de poche 地方都市の子供たちと家族(後半)

7:『サン・ジャックへの道』2005年作品 コリヌ・セロー監督 Saint-Jacques... La Mecque 三人の兄妹が巡礼しながら家族を見つめ直す(前半)

8:『サン・ジャックへの道』2005年作品 コリヌ・セロー監督 Saint-Jacques... La Mecque 三人の兄妹が巡礼しながら家族を見つめ直す(後半)

9:『めぐり逢う朝』1991年作品 Tous les matins du monde 17世紀の音楽家と家族・師弟関係・王宮(前半)

10:『めぐり逢う朝』1991年作品 Tous les matins du monde 17世紀の音楽家と家族・師弟関係・王宮(後半)

11:『大統領の料理人』2012年作品 Les Saveurs du palais 女性初の大統領専属料理人の奮闘(前半)

12:『大統領の料理人』2012年作品 Les Saveurs du palais 女性初の大統領専属料理人の奮闘(後半)

13:『アメリ』2002年作品 ジャン・ピエール・ジュネ監督 Le destin fabuleux d'Amelie Poulain モンマルトルの街で夢見がちに生きる若い女性の日常(前半)

14:『アメリ』2002年作品 ジャン・ピエール・ジュネ監督 Le destin fabuleux d'Amelie Poulain モンマルトルの街で夢見がちに生きる若い女性の日常(後半)

15:まとめと評価

＊映画を見ながら、疑問に思ったり、共感したり、興味がわかなかったり、違和感を覚えたり、ともかくなんでも自分で感じ、考えることを増やしていきましょう。

＊フランス文化やフランス映画についての知識を詰め込むことは避け、映画を見て自分が感じ考えることを言葉にしていって作業を積み重ねていきます。

◆準備学習の内容◆

映画はフランスで生まれた芸術のひとつです。19世紀から20世紀にかけて写真、そして映画が誕生し、画像・映像表現の分野が発展しました。映画は、さまざまな人間と世界を、映像・言葉・音楽・身振り／踊りで描く総合芸術です。今では自宅で簡単に再生して観られるようになりましたが、映画館や劇場でみんなで見えるものでした。簡単な映画の歴史にも思いを馳せてみましょう。各国で映画が何を題材に、どんなテーマで表現してきたか、なども振り返って考えてみましょう。自分の観た映画についても、いろいろ考えてみてください。

◆成績評価の方法◆

平常点(出席率、課題などへの取り組み)及び、期末に提出してもらうレポートをもとに評価を出します。随時課題を出し、それに対する評価を授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に使いません。

◆参考図書◆

『ゴダール映画史』(全2巻)、奥村昭夫訳(筑摩書房、初版1982年)

◆留意事項◆

・日本語での授業です。
・フランスの社会、文化、歴史などに関心がある人なら参加できます。
フランス語の響きが、目と耳に豊かな感覚世界を広げてくれることでしょう。

【対面授業の場合】

・時間の関係で、映画は大体2回で一本を観ることになります。
・映画を見て、なんでも自由に感じ考えることができ、それを言葉にできるように心がけてください。

ナンバリング	CES294N		
科目名	言語と文化(フランス語)B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	P. プロシエス		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-14	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

・映像や資料によりフランスの文化と社会のあり方について様々な角度から考察します。・日本文化との比較やグローバリズムなどの観点からも考えてみることで、より広い視野も養います。・フランスの思考・ものの考え方への理解を深めます。・映画/映像における「音楽」の意味・効果的な用いられ方について、美学的・心理学的考察を加えていきます。・映画/映像を通して、簡単な日常会話を覚えます。

◆授業内容・計画◆

・フランスの映画、フランスの文化に関心がある人なら誰でも歓迎します。
字幕で映画を観ているうちに簡単なフランス語に自然になれていくことでしょう。
・授業の2/3を映像に、1/3を問題の整理と異文化理解の時間に充てます。時代背景や人間関係など、疑問に思ふことは質問したり、意見を述べるなど、クラスでディスカッションしていきます。

＜授業計画＞

- オリエンテーション
- フランスの文化と映画
 - * 毎回の授業の進め方:簡単な作品説明／映画本編鑑賞／簡単な解説／コメント(自分の感想・考え)執筆
- 『女と男の危機』1992年作品 La Crise (前半)
 - 突然首になった企業コンサルタントの男は、同じ日に奥さんが出て行ったりとさんざんな目にあうが…
- 『女と男の危機』1992年作品 La Crise(後半)
- 『王妃マルゴ』1994年作品 La Reine Margot(前半)
 - 16世紀宗教戦争の時代の王族たちとフランスの行方は…
- 『王妃マルゴ』1994年作品 La Reine Margot(後半)
- 『DIVA』1981年作品 (前半)
 - 郵便配達員ジュールはオペラ歌手シンシア・ホーキンスのファンで、パリ公演にやってきた彼女のリサイタルを隠れて録音する。知らぬ間に闇組織の犯罪に巻き込まれ…
- 『DIVA』1981年作品(後半)
- 『王は踊る』2000年作品 Le Roi danse (前半)
 - 17世紀後半、ルイ14世と音楽家リュリ、そして役者・劇作家モリエールは…
- 『王は踊る』2000年作品 Le Roi danse (後半)
- 『死刑台のエレベーター』1958年作品 Ascenseur pour l' echafaud(前半)
 - 錯綜する恋愛感情にも焦点を当てながら、物語は思わぬ方向に進んでいく。
 - 映像やストーリーは勿論、マイルス・デイヴィスの音楽が圧巻。
- 『死刑台のエレベーター』1958年作品 Ascenseur pour l' echafaud(後半)
- 『シエルブルーの雨傘』1964年作品 ジャック・ドゥミ監督 Les Parapluies de Cherbourg(前半)
 - アルジェリア戦争を背景に、時代に翻弄されながらもたくましく生きる一人の女性の姿を描く。
- 『シエルブルーの雨傘』1964年作品 ジャック・ドゥミ監督 Les Parapluies de Cherbourg(後半)
- まとめと評価
 - * 映画を見ながら、疑問に思ったり、共感したり、興味がわかなかったり、違和感を覚えたり、ともかくなんでも自分で感じ、考えることを増やしていきましょう。
 - * フランス文化やフランス映画についての知識を詰め込むことは避け、映画を見て自分が感じ考えることを言葉にしていくな作業を積み重ねていきます。

◆準備学習の内容◆

映画はフランスで生まれた芸術のひとつです。19世紀から20世紀にかけて写真、そして映画が誕生し、画像・映像表現の分野が発展しました。映画は、さまざまな人間と世界を、映像・言葉・音楽・身振り／踊りで描く総合芸術です。今では自宅で簡単に再生して観られるようになりましたが、映画館や劇場でみんなで観るものでした。簡単な映画の歴史にも思いを馳せてみましょう。各国で映画が何を題材に、どんなテーマで表現してきたか、なども振り返って考えてみましょう。自分の観た映画についても、いろいろ考えてみてください。

◆成績評価の方法◆

平常点(出席率、課題などへの取り組み)及び、期末に提出してもらうレポートをもとに評価を出します。随時課題を出し、それに対する評価を授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に使いません。

◆参考図書◆

『ゴダール映画史』(全2巻)、奥村昭夫訳(筑摩書房、初版1982年)

◆留意事項◆

- ・時間の関係で、映画は大体2回で一本を観ることになります。
- ・映画を見て、なんでも自由に感じ考えることができ、それを言葉にできるように心がけてください。

ナンバリング	CES047N		
科目名	フランス語会話初級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語の言葉の発音を話す時、読む時には自由な感じ / 挨拶 / 自己紹介 / 国籍・職業 / 連絡先 について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランスでの日常生活に必要なフランス語会話・文法を教えるつもりです。
毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。
沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA,ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

1. 授業の紹介／勉強のリズム
仏語の母音字—子音字 Trapèze Vocalique
2. 前回の復習 alphabet
Leçon 0 – Découverte : 1-2-3-4-5-6-7, pp. 8-9
3. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 1-2-3-4-5, pp. 12-13 (Interaction Orale = IO)
4. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 14-15 (CE – EE)
5. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : ① Les prénoms masculins et féminins/L'accord du féminin/
La conjugaison des verbes en -er, 13-14-15, p. 16 (Grammaire)
② 16-17-18-19-20, p. 17 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 18-19
6. 前回の復習
Leçon 1の宿題の確認
Leçon 2 – Présentations : Les nationalités / Les professions (国籍・職業) 1-2-3-4-5, pp. 20-21 (IO)
7. 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 22-23 (CE – EE)
8. 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : ① Le masculin et le féminin/Être/La marque du pluriel, 13-14-15, p. 24 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 25 (CO – CE)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 26-27
9. 前回の復習
Leçon 2の宿題の確認
Leçon 3 – Coordonnées : Les chiffres 1-2-3-4-5, pp. 28-29 (IO)
10. 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 30-31 (CE – EE)
11. 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : ① L'usage des majuscules/Avoir, 13-14-15, p. 32 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 33 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 34-35
12. 前回の復習

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)授業中一緒に読んだ文書は家では自分でまた読まなければならない。授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かなければならない。
そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)
授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果:なし、授業への貢献度:60%(出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題結果:40%
学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaël Crépieux, CLE-International

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。我々のムスビです。
フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。
私もしますが、君達の方はやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。
逆ではない。つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。
この授業はフランス語の文法の講義ではない。文法は少しだけ勉強しますが、主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。
フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES065N		
科目名	フランス語初級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語の言葉の発音を話す時、読む時には自由な感じ / 挨拶 / 自己紹介 / 国籍・職業 / 連絡先 について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランス語の発音の基礎となる母音・子音の発音を学ぶ。毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA、ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

- 授業の紹介／勉強のリズム
仏語の母音字—子音字 Trapèze Vocalique
- 前回の復習 alphabet
Leçon 0 – Découverte : 1-2-3-4-5-6-7, pp. 8-9
- 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 1-2-3-4-5, pp. 12-13 (Interaction Orale = IO)
- 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 14-15 (CE – EE)
- 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : ① Les prénoms masculins et féminins/L'accord du féminin/
La conjugaison des verbes en -er, 13-14-15, p. 16 (Grammaire)
② 16-17-18-19-20, p. 17 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 18-19
- 前回の復習
Leçon 1の宿題の確認
Leçon 2 – Présentations : Les nationalités / Les professions (国籍/職業) 1-2-3-4-5, pp. 20-21 (IO)
- 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 22-23 (CE – EE)
- 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : ① Le masculin et le féminin/Être/La marque du pluriel, 13-14-15, p. 24 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 25 (CO – CE)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 26-27
- 前回の復習
Leçon 2の宿題の確認
Leçon 3 – Coordonnées : Les chiffres 1-2-3-4-5, pp. 28-29 (IO)
- 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 30-31 (CE – EE)
- 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : ① L'usage des majuscules/Avoir, 13-14-15, p. 32 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 33 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 34-35

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)授業中一緒に読んだ文書は家では自分で また読まなければならない。授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かなければならない。そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果:なし、授業への貢献度:60%(出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題:40% 学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaël Crépieux, (CLE-International)

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。我々のムスビです。フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。私もしますが、君達の方はやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。逆ではない。つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。この授業はフランス語の文法の講義ではない。文法は少しだけ勉強しますが、主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES121N		
科目名	フランス語初級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がめる教員が、聴音や歌唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

フランス語の言葉の発音を話す時、読む時には自由な感じ / 挨拶 / 自己紹介 / 国籍・職業 / 連絡先 について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランス人の日常生活に必要なフランス語会話・文法を教えるつもりです。
毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA,ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

1. 授業の紹介／勉強のリズム
仏語の母音字—子音字 Trapèze Vocalique
2. 前回の復習 alphabet
Leçon 0 – Découverte : 1-2-3-4-5-6-7, pp. 8-9
3. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 1-2-3-4-5, pp. 12-13 (Interaction Orale = IO)
4. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 14-15 (CE – EE)
5. 前回の復習
Leçon 1 – Contacts : ① Les prénoms masculins et féminins/L'accord du féminin/
La conjugaison des verbes en -er, 13-14-15, p. 16 (Grammaire)
② 16-17-18-19-20, p. 17 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 18-19
6. 前回の復習
Leçon 1の宿題の確認
Leçon 2 – Présentations : Les nationalités / Les professions (国籍・職業) 1-2-3-4-5, pp. 20-21 (IO)
7. 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 22-23 (CE – EE)
8. 前回の復習
Leçon 2 – Présentations : ① Le masculin et le féminin/Être/La marque du pluriel, 13-14-15, p. 24 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 25 (CO – CE)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 26-27
9. 前回の復習
Leçon 2の宿題の確認
Leçon 3 – Coordonnées : Les chiffres 1-2-3-4-5, pp. 28-29 (IO)
10. 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : 6-7-8-9-10-11-12, pp. 30-31 (CE – EE)
11. 前回の復習
Leçon 3 – Coordonnées : ① L'usage des majuscules/Avoir, 13-14-15, p. 32 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 33 (CO – EO)
宿題 : Exercices 1-8, pp. 34-35
12. 前回の復習

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)授業中一緒に読んだ文書は家では自分で また読まなければならない。授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かななければならない。
そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)
授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果:なし、授業への貢献度:60%(出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題:40%
学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaél Crépieux, (CLE-International)

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。我々のムスビです。
フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。
私もしますが、君達の方はやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。
逆ではない。つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。
この授業はフランス語の文法の講義ではない。文法は少しだけ勉強しますが、主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。
フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES048N		
科目名	フランス語会話初級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

好き嫌いの程度 / 暇の活動 / テレビ番組表の読み方 / 欲しい物 / ペット について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランスへの留学に必要なフランス語会話スキルを教えるつもりです。
毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA,ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

- 授業の紹介／勉強のリズム
夏休みについての軽い話し
Leçon 4 – Goûts : 1-2-3-4-5, pp. 42-43 (IO)
- 前回の復習
L.4 – Goûts : 6～12, pp. 44-45 (CE – EE)
- 前回の復習
L.4 – Goûts : ① Les connecteurs (et, mais, aussi)/La conjugaison des verbes en -er/
L'article défini (le, la, les) (定冠詞), 13-14-15, p. 46 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 47 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 48-49
- 前回の復習
L.4の宿題の確認
Leçon 5 – Loisirs : 1-2-3-4-5, pp. 50-51 (IO)
- 前回の復習
L.5 – Loisirs : Les activités préférées des Français, 6～12, pp. 52-53 (CE – EE)
- 前回の復習
L.5 – Loisirs : ① Verbe + verbe à l'infinitif/Aimer et vouloir au conditionnel/
L'article défini «le» ou l'adjectif démonstratif «ce», 13-14-15, p. 54 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 55 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 56-57
- 前回の復習
L.5の宿題の確認
Leçon 6 – Souhaits : 1-2-3-4-5, pp. 58-59 (IO)
- 前回の復習
L.6 – Souhaits : Les Français et les animaux domestiques, 6～12, pp. 60-61 (CE-EE)
- 前回の復習
L.6 – Souhaits : ① La réponse avec «si»/Exprimer la possession/Interroger sur la cause,
13-14-15, p. 62 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 63 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 64-65
- 前回の復習
L.6の宿題の確認
Exercice 2 : Un cadeau d'anniversaire, p. 66

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)
授業中一緒に読んだ文書は家では自分で また読まなければならない。
授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かなければならない。
そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)
授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果: なし、授業への貢献度: 60% (出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題結果: 40%
学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaël Crépieux、(CLE-International)

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。
フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。私はしません。
君達がやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。逆ではない。
つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。
この授業はフランス語の文法の講義ではない、文法は少しだけ勉強しますが、主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。

このクラスを履修したい方は、以下の基本事項を理解していることが必要です。

- (1) フランス語の動詞の現在形の活用ができる。
- (2) 数字がわかる。
- (3) 自己紹介ができる。
- (4) 名詞、形容詞がわかる。

フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES066N		
科目名	フランス語初級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		
	ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

好き嫌いの程度 / 暇の活動 / テレビ番組表の読み方 / 欲しい物 / ペット について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランスへの留学に必要なフランス語の基礎を教えるつもりです。
毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA,ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

- 授業の紹介／勉強のリズム
夏休みについての軽い話し
Leçon 4 – Goûts : 1-2-3-4-5, pp. 42-43 (IO)
- 前回の復習
L.4 – Goûts : 6～12, pp. 44-45 (CE – EE)
- 前回の復習
L.4 – Goûts : ① Les connecteurs (et, mais, aussi)/La conjugaison des verbes en -er/
L'article défini (le, la, les) (定冠詞), 13-14-15, p. 46 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 47 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 48-49
- 前回の復習
L.4の宿題の確認
Leçon 5 – Loisirs : 1-2-3-4-5, pp. 50-51 (IO)
- 前回の復習
L.5 – Loisirs : Les activités préférées des Français, 6～12, pp. 52-53 (CE – EE)
- 前回の復習
L.5 – Loisirs : ① Verbe + verbe à l'infinitif/Aimer et vouloir au conditionnel/
L'article défini «le» ou l'adjectif démonstratif «ce», 13-14-15, p. 54 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 55 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 56-57
- 前回の復習
L.5の宿題の確認
Leçon 6 – Souhaits : 1-2-3-4-5, pp. 58-59 (IO)
- 前回の復習
L.6 – Souhaits : Les Français et les animaux domestiques, 6～12, pp. 60-61 (CE-EE)
- 前回の復習
L.6 – Souhaits : ① La réponse avec «si»/Exprimer la possession/Interroger sur la cause,
13-14-15, p. 62 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 63 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 64-65
- 前回の復習
L.6の宿題の確認
Exercice 2 : Un cadeau d'anniversaire, p. 66

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)
授業中一緒に読んだ文書は家では自分で また読まなければならない。
授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かなければならない。
そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)
授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果: なし、授業への貢献度: 60% (出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題結果: 40%
学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaël Crépieux, (CLE-International)

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。
フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。私はしません。
君達がやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。逆ではない。
つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。
この授業はフランス語の文法の講義ではない、文法は少しだけ勉強しますが、主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。

このクラスを履修したい方は、以下の基本事項を理解していることが必要です。
(1) フランス語の動詞の現在形の活用ができる。
(2) 数字がわかる。
(3) 自己紹介ができる。
(4) 名詞、形容詞がわかる。

フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES122N		
科目名	フランス語初級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性歌がめる教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

好き嫌いの程度 / 暇の活動 / テレビ番組表の読み方 / 欲しい物 / ペット について話せる。

◆授業内容・計画◆

フランスでの日常生活に必要なフランス語会話*文法を教えるつもりです。
毎週、教科書を使って、テレビに映る練習します。発音の練習をして、短い作文を書いたりして、教科書を使って、フランス語の勉強をします。
沢山の色々な練習をします。発音、先生-生徒のQandA,ペアを組んで練習して、レコーディングを聞く等。

1. 授業の紹介／勉強のリズム
夏休みについての軽い話し
Leçon 4 – Goûts : 1-2-3-4-5, pp. 42-43 (IO)
2. 前回の復習

L.4 – Goûts : 6～12, pp. 44-45 (CE – EE)
3. 前回の復習
L.4 – Goûts : ① Les connecteurs (et, mais, aussi)/La conjugaison des verbes en -er/
L'article défini (le, la, les) (定冠詞), 13-14-15, p. 46 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 47 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 48-49
4. 前回の復習
L.4の宿題の確認
Leçon 5 – Loisirs : 1-2-3-4-5, pp. 50-51 (IO)
5. 前回の復習
L.5 – Loisirs : Les activités préférées des Français, 6～12, pp. 52-53 (CE – EE)
6. 前回の復習
L.5 – Loisirs : ① Verbe + verbe à l'infinifitv/Aimer et vouloir au conditionnel/
L'article défini <le> ou l'adjectif démonstratif <ce>, 13-14-15, p. 54 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 55 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 56-57
7. 前回の復習
L.5の宿題の確認
Leçon 6 – Souhairs : 1-2-3-4-5, pp. 58-59 (IO)
8. 前回の復習
L.6 – Souhairs : Les Français et les animaux domestiques, 6～12, pp. 60-61 (CE-EE)
9. 前回の復習
L.6 – Souhairs : ① La réponse avec <si>/Exprimer la possession/Interroger sur la cause,
13-14-15, p. 62 (G)
② 16-17-18-19-20, p. 63 (CO – EO)
宿題: Exercices, pp. 64-65
10. 前回の復習
L.6の宿題の確認

◆準備学習の内容◆

授業中勉強した内容は家では一所懸命復習しなければならない。(毎週合計60分)
授業中一緒に読んだ文書は家では自分で また読まなければならない。
授業中勉強した新しい語彙は家でルーズリーフに何回もまた書かなければならない。
そうすると少しずつ「手の記憶」をつくる。(漢字の勉強と似てる)
授業中のフランス語の勉強時間はたりない。個人の勉強は欠くことができない。

◆成績評価の方法◆

試験結果:なし、授業への貢献度:60%(出席だけではなくて、活動的な参加の意味です)、宿題結果:40%
学習の成果については授業内で適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『Interactions 1, 2e édition』, Gaél Crépeux, (CLE-International)

◆参考図書◆

教科書の音声ダウンロード

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。
フランス語を勉強するためには、自分の口でフランス語の音を発音しなければならない。私はしません。
君達がやります。そして、君達は私に勉強の結果をくれます。私はもらいます。逆ではない。
つまりこれは、積極的意欲を持って参加すべき授業になります。
この授業はフランス語の文法の講義ではない。文法は少しだけ勉強しますが、
主に一緒に勉強したフランス語を会話ではつかう授業です。演習—実習です。

- このクラスを履修したい方は、以下の基本事項を理解していることが必要です。
- (1)フランス語の動詞の現在形の活用ができる。
 - (2)数字がわかる。
 - (3)自己紹介ができる。
 - (4)名詞、形容詞がわかる。

フランス語で歌う方は是非この授業を選んで下さい！

ナンバリング	CES291N		
科目名	フランス語会話中級A		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語の会話を身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フランス語で話します。会話の中で自然に文法を学びフランス語の口語能力をしっかりと身につけます。その他、語彙など色々な勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

- 1- Présentation du cours / Présentation des étudiants
- 2- Présentation des étudiants (suite et fin)
Interactions 1 – Unité 2 : Envies
Préparation au DELF A, pp. 67-69
- 3- 前回の復習
Unité 3 : Endroits
Leçon 7 : Lieux
1-2, p. 72 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
4. 前回の復習
L7 : 3-4, p. 73 [dialogues]
5. 前回の復習
L7 : 6-7-8-9, p. 74 [phonétique ; analyse document écrit]
12, p. 75 [travail écrit]
6. 前回の復習
L7 : 13-14-15, p. 76 [grammaire]
16, p. 77 [phonétique]
7. 前回の復習
L7 : 17-18-19-20, p. 77 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
Exercices, pp. 78-79
8. Leçon 8 : Environnement
1-2, p. 80 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
9. 前回の復習
L8 : 3-4, p. 81 [dialogues]
10. 前回の復習
L8 : 6-7-8-9, p. 82 [phonétique ; analyse document écrit]
12, p. 83 [travail écrit]
11. 前回の復習
L8 : 13-14-15, p. 84 [grammaire]
16, p. 85 [phonétique]
12. 前回の復習
L8 : 17-18-19-20, p. 85 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
Exercices, pp. 86-87
13. Leçon 9 : Visites

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で読んで下さい。
2週間1.2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルは聞く。
と言うのは毎週30~60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(70%)
宿題は30%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépeux, Interactions 1 (2e édition), CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスは、初級ではありません。最低1年間は、文法その他を学んだことのある方のためのクラスです。
自己紹介ができることと、初級程度のフランス語がわかっていて日常生活について自分で語れることが、履修の条件です。

ナンバリング	CES350N		
科目名	フランス語中級(会話)A		
科目詳細	2022～2024年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語の会話力を身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フランス語で話します。会話の中で自然に文法を学びフランス語の口語能力をしっかりと身につけます。その他、語彙など色々な勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

- 1- Présentation du cours / Présentation des étudiants
- 2- Présentation des étudiants (suite et fin)
 - Interactions 1 – Unité 2 : Envies
 - Préparation au DELF A, pp. 67-69
- 3- 前回の復習
 - Unité 3 : Endroits
 - Leçon 7 : Lieux
 - 1-2, p. 72 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
- 4. 前回の復習
 - L7 : 3-4, p. 73 [dialogues]
- 5. 前回の復習
 - L7 : 6-7-8-9, p. 74 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 75 [travail écrit]
- 6. 前回の復習
 - L7 : 13-14-15, p. 76 [grammaire]
 - 16, p. 77 [phonétique]
- 7. 前回の復習
 - L7 : 17-18-19-20, p. 77 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
 - Exercices, pp. 78-79
- 8. Leçon 8 : Environnement
 - 1-2, p. 80 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
- 9. 前回の復習
 - L8 : 3-4, p. 81 [dialogues]
- 10. 前回の復習
 - L8 : 6-7-8-9, p. 82 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 83 [travail écrit]
- 11. 前回の復習
 - L8 : 13-14-15, p. 84 [grammaire]
 - 16, p. 85 [phonétique]
- 12. 前回の復習
 - L8 : 17-18-19-20, p. 85 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
 - Exercices, pp. 86-87
- 13. Leçon 9 : Visites
 - 1-2, p. 88 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で呼んで下さい。
2週間1,2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルも聞いて良い。

Vous préparez également à la maison les devoirs demandés quand il y en a.
と言うのは毎週30`60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(50%)
宿題は50%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépieux, Interactions 1 (2e édition), CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスは、初級ではありません。最低1年間は、文法その他を学んだことのある方のためのクラスです。
自己紹介ができることと、初級程度のフランス語がわかっていて日常生活について自分で語れることが、履修の条件です。

ナンバリング	CES125N		
科目名	フランス語中級(会話)A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内かつ海外において作家あるいは編纂家として活動した文藝作家が、読者や読者としての自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

フランス語の会話を身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フランス語で話します。会話の中で自然に文法を学びフランス語のコミュニケーション能力をしっかりと身につけていきます。その他、語彙など色々な勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

- 1- Présentation du cours / Présentation des étudiants
- 2- Présentation des étudiants (suite et fin)
 - Interactions 1 – Unité 2 : Envies
 - Préparation au DELF A, pp. 67-69
- 3- 前回の復習
 - Unité 3 : Endroits
 - Leçon 7 : Lieux
 - 1-2, p. 72 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
- 4. 前回の復習
 - L7 : 3-4, p. 73 [dialogues]
- 5. 前回の復習
 - L7 : 6-7-8-9, p. 74 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 75 [travail écrit]
- 6. 前回の復習
 - L7 : 13-14-15, p. 76 [grammaire]
 - 16, p. 77 [phonétique]
- 7. 前回の復習
 - L7 : 17-18-19-20, p. 77 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
 - Exercices, pp. 78-79
- 8. Leçon 8 : Environnement
 - 1-2, p. 80 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]
- 9. 前回の復習
 - L8 : 3-4, p. 81 [dialogues]
- 10. 前回の復習
 - L8 : 6-7-8-9, p. 82 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 83 [travail écrit]
- 11. 前回の復習
 - L8 : 13-14-15, p. 84 [grammaire]
 - 16, p. 85 [phonétique]
- 12. 前回の復習
 - L8 : 17-18-19-20, p. 85 [analyse document sonore, réutilisation dialogue]
 - Exercices, pp. 86-87
- 13. Leçon 9 : Visites
 - 1-2, p. 88 [phonétique ; dialogues, vocabulaire]

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で読んで下さい。
2週間1.2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルも聞いて良い。

Vous préparez également à la maison les devoirs demandés quand il y en a.
と言うのは毎週30~60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(50%)
宿題は50%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépieux, 「Interactions 1 (2e édition)」, CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

教科書の音声をインターネットでダウンロードする。

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスは、初級ではありません。最低1年間は、文法その他を学んだことのある方のためのクラスです。
自己紹介ができることと、初級程度のフランス語がわかっていて日常生活について自分で語れることが、履修の条件です。

ナンバリング	CES292N		
科目名	フランス語会話中級B		
科目詳細	2021年度以前入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

フランス語の会話力をさらに身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フロンハ語で話します。会話の中で自然に文法を学び、フロンハ語のコミュニケーション能力を身につけていきます。その際、言葉はとてつねに勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

Vous avez pris le rythme du cours, le second semestre poursuit le but de l’ acquisition d’ une certaine aisance à l’ oral, tout en consolidant les acquis précédents en français.
Nous continuons à procéder de la même manière qu’ au 1er semestre.

1. Reprise
 - Interactions 1 :
 - Unité 3, Endroits
 - Leçon 9 : Visites
 - 1-2-3-4, pp. 88-89 (Révisions)
2. 前回の復習
 - L9 : 6-7-8-9, pp. 90-91 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 91 [travail écrit]
3. 前回の復習
 - L9 : 13-14-15, p. 92 [grammaire]
 - 16, p. 93 [phonétique]
4. 前回の復習
 - L9 : 17-18, p. 93 [analyse document sonore]
 - Exercices, pp. 94-95
5. Projet [travail de groupes]
 - Préparation au DELF A1, p. 97
6. 前回の復習
 - Préparation au DELF A1, pp. 98-99
7. Unité 4, Rendez-vous
 - Leçon 10 : Activités
 - 1-2, p.102 [phonétique ; dialogue, vocabulaire]
8. 前回の復習
 - L10 : 3-4, p. 103 [dialogues]
9. 前回の復習
 - L10 : 6-7-8-9, pp. 104-105 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 105 [travail écrit]
10. 前回の復習
 - L10 : 13-14-15, p. 106 [grammaire]
 - 16, p. 107 [phonétique]
11. 前回の復習

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で呼んで下さい。
2週間1,2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルも聞いて良い。

Les devoirs se font à la maison, dans un cadre calme.
と言うのは毎週30`60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(50%)
宿題は50%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépieux, Interactions 1 (2e édition), CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスを履修したい方は、フランス語で日常生活について自分で語れる力をつけておく必要があります。このクラスは、最低1年半はフランス語を学んだことのあるひとのためのクラスです。後期から履修するひとは、どの程度のフランス語力が必要か、事前に教員に聞いておくといでしょう。

ナンバリング	CES351N		
科目名	フランス語中級(会話)B		
科目詳細	2022～2024年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

フランス語の会話力をさらに身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フランス語で話します。会話の中で自然に文法を学び、フランス語の口語能力をしっかりと身につけます。その他、語彙など色々な勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

Vous avez pris le rythme du cours, le second semestre poursuit le but de l’acquisition d’une certaine aisance à l’oral, tout en consolidant les acquis précédents en français.
Nous continuons à procéder de la même manière qu’au 1er semestre.

- 1. Reprise
Interactions 1 :
Unité 3, Endroits
Leçon 9 : Visites
1-2-3-4, pp. 88-89 (Révisions)
- 2. 前回の復習
L9 : 6-7-8-9, pp. 90-91 [phonétique ; analyse document écrit]
12, p. 91 [travail écrit]
- 3. 前回の復習
L9 : 13-14-15, p. 92 [grammaire]
16, p. 93 [phonétique]
- 4. 前回の復習
L9 : 17-18, p. 93 [analyse document sonore]
Exercices, pp. 94-95
- 5. Projet [travail de groupes]
Préparation au DELF A1, p. 97
- 6. 前回の復習
Préparation au DELF A1, pp. 98-99
- 7. Unité 4, Rendez-vous
Leçon 10 : Activités
1-2, p. 102 [phonétique ; dialogue, vocabulaire]
- 8. 前回の復習
L10 : 3-4, p. 103 [dialogues]
- 9. 前回の復習
L10 : 6-7-8-9, pp. 104-105 [phonétique ; analyse document écrit]
12, p. 105 [travail écrit]
- 10. 前回の復習
L10 : 13-14-15, p. 106 [grammaire]
16, p. 107 [phonétique]

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で呼んで下さい。
2週間1,2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルも聞いて良い。
Les devoirs se font à la maison, dans un cadre calme.
と言うのは毎週30～60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(50%)
宿題は50%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépieux, Interactions 1 (2e édition), CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

電子辞書

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスを履修したい方は、フランス語で日常生活について自分で語れる力をつけておく必要があります。このクラスは、最低1年半はフランス語を学んだことのあるひとのためのクラスです。後期から履修するひとは、どの程度のフランス語力が必要か、事前に教員に聞いておく
とよいでしょう。

ナンバリング	CES126N		
科目名	フランス語中級(会話)B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	X. ビュロー		
学年	1年	クラス	01
講義室	6-304～305	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内・海外において作家であるいは編纂家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や発音などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

フランス語の会話力をさらに身につけます。

◆授業内容・計画◆

毎週、フランス語で話します。会話の中で自然に文法を学び、フランス語の口語能力をしっかりと身につけます。その他、語彙など色々な勉強をします。このために積極的な授業参加が絶対必要です。

Vous avez pris le rythme du cours, le second semestre poursuit le but de l’ acquisition d’ une certaine aisance à l’ oral, tout en consolidant les acquis précédents en français.
Nous continuons à procéder de la même manière qu’ au 1er semestre.

- Reprise
 - Interactions 1 :
 - Unité 3, Endroits
 - Leçon 9 : Visites
 - 1-2-3-4, pp. 88-89 (Révisions)
- 前回の復習
 - L9 : 6-7-8-9, pp. 90-91 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 91 [travail écrit]
- 前回の復習
 - L9 : 13-14-15, p. 92 [grammaire]
 - 16, p. 93 [phonétique]
- 前回の復習
 - L9 : 17-18, p. 93 [analyse document sonore]
 - Exercices, pp. 94-95
- Projet [travail de groupes]
 - Préparation au DELF A1, p. 97
- 前回の復習
 - Préparation au DELF A1, pp. 98-99
- Unité 4, Rendez-vous
 - Leçon 10 : Activités
 - 1-2, p.102 [phonétique ; dialogue, vocabulaire]
- 前回の復習
 - L10 : 3-4, p. 103 [dialogues]
- 前回の復習
 - L10 : 6-7-8-9, pp. 104-105 [phonétique ; analyse document écrit]
 - 12, p. 105 [travail écrit]
- 前回の復習
 - L10 : 13-14-15, p. 106 [grammaire]
 - 16, p. 107 [phonétique]

◆準備学習の内容◆

一緒に勉強した内容はもう一回静かな環境で呼んで下さい。
2週間1,2度宿題を出します。
次の授業の音声ファイルも聞いて良い。
Les devoirs se font à la maison, dans un cadre calme.
と言うのは毎週30~60分間の準備学習は必要です。

◆成績評価の方法◆

クラス参加の度合い(平常点)は加味されます。(50%)
宿題は50%です。
課題に対するフィードバック方法はGoogle Classroomで提出したファイルにコメントをつけて返却する。又は口頭で行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

Gaël Crépieux, 「Interactions 1 (2e édition)」, CLE International, 2019 [ISBN : 978-209-038697-4]

◆参考図書◆

教科書の音声をインターネットでダウンロードする。

◆留意事項◆

Google Classroomの登録は必要です。Google Classroomは我々のムスビです。毎週使います。
このクラスを履修したい方は、フランス語で日常生活について自分で語れる力をつけておく必要があります。このクラスは、最低1年半はフランス語を学んだことのあるひとのためのクラスです。後期から履修するひとは、どの程度のフランス語力が必要か、事前に教員に聞いておくといでしょう。

ナンバリング	CES295N		
科目名	ラテン語A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長い歴史と伝統をもち、ヨーロッパの共通言語としての役割を果たす一方で、諸地域においてそれぞれの言語文化を芽生えさせる原動力となったラテン語は、西洋文化の真髄といえます。音大生にとってとりわけ重要な中世以降の教会ラテン語に慣れ親しみ、自分たちの歌っているラテン語の意味が解ることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、ラテン語とは？
- 第2回 発音とアクセント
- 第3回 名詞と形容詞1(1): 第1・第2変化名詞
- 第4回 名詞と形容詞1(2): 第1・第2変化形容詞
- 第5回 動詞1(1): 直説法・能動態・現在、不規則動詞sum
- 第6回 動詞1(2): 前回の復習、命令法・能動態
- 第7回 名詞と形容詞2: 第3～第5変化名詞、第3変化形容詞
- 第8回 名詞と形容詞の組み合わせ、ラテン語を読む(1)
- 第9回 習った動詞・名詞・形容詞のまとめと確認、ラテン語を読む(2)
- 第10回 動詞2(1): 直説法・能動態・未完了過去
- 第11回 動詞2(2): 直説法・能動態・未来
- 第12回 動詞2(3): 不規則動詞
- 第13回 習った動詞の時制のまとめと確認、ラテン語を読む(3)
- 第14回 ラテン語を読む(4)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

予習の必要はありませんが、学習した文法事項を整理して覚え、重要な語彙を書いたり発音したりして、必ず復習してください。(毎週、目安1時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を行います。その他、随時小テストを行いフィードバックするとともに、授業への参加態度、学習意欲を総合的に判断して成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『しっかり学ぶ初級ラテン語』 山下太郎 著(ペレ出版)+プリント

◆参考図書◆

ガイダンスにおいて紹介します。辞書は、可能ならば購入することをおすすめします。

◆留意事項◆

必ずラテン語A→Bの順序で履修してください。欠席せずに、積極的に授業に参加してください。なお、授業の進度と受講生の興味によって、内容を変更する可能性があります

ナンバリング	CES131N		
科目名	ラテン語A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴目や視覚などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

長い歴史と伝統をもち、ヨーロッパの共通言語としての役割を果たす一方で、諸地域においてそれぞれの言語文化を芽生えさせる原動力となったラテン語は、西洋文化の真髄といえます。音大生にとってとりわけ重要な中世以降の教会ラテン語に慣れ親しみ、自分たちの歌っているラテン語の意味が解ることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、ラテン語とは？
- 第2回 発音とアクセント
- 第3回 名詞と形容詞1(1): 第1・第2変化名詞
- 第4回 名詞と形容詞1(2): 第1・第2変化形容詞
- 第5回 動詞1(1): 直説法・能動態・現在、不規則動詞sum
- 第6回 動詞1(2): 前回の復習、命令法・能動態
- 第7回 名詞と形容詞2: 第3～第5変化名詞、第3変化形容詞
- 第8回 名詞と形容詞の組み合わせ、ラテン語を読む(1)
- 第9回 習った動詞・名詞・形容詞のまとめと確認、ラテン語を読む(2)
- 第10回 動詞2(1): 直説法・能動態・未完了過去
- 第11回 動詞2(2): 直説法・能動態・未来
- 第12回 動詞2(3): 不規則動詞
- 第13回 習った動詞の時制のまとめと確認、ラテン語を読む(3)
- 第14回 ラテン語を読む(4)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

予習の必要はありませんが、学習した文法事項を整理して覚え、重要な語彙を書いたり発音したりして、必ず復習してください。(毎週、目安1時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験を行います。その他、随時小テストを行いフィードバックするとともに、授業への参加態度、学習意欲を総合的に判断して成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

『しっかり学ぶ初級ラテン語』 山下太郎 著(ペレ出版)+プリント

◆参考図書◆

ガイダンスにおいて紹介します。辞書は、可能ならば購入することをおすすめします。

◆留意事項◆

必ずラテン語A→Bの順序で履修してください。欠席せずに、積極的に授業に参加してください。なお、授業の進度と受講生の興味によって、内容を変更する可能性があります

ナンバリング	CES296N		
科目名	ラテン語B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

長い歴史と伝統をもち、ヨーロッパの共通言語としての役割を果たす一方で、諸地域においてそれぞれの言語文化を芽生えさせる原動力となったラテン語は、西洋文化の真髄といえます。音大生にとってとりわけ重要な中世以降の教会ラテン語に慣れ親しみ、自分たちの歌っているラテン語の意味が解ることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、前期の復習(名詞、形容詞)
- 第2回 前期の復習(動詞)、ラテン語を読む(5)
- 第3回 代名詞1(1): 人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞、指示代名詞、疑問代名詞
- 第4回 代名詞1(2): 代名詞的形容詞、不定代名詞
- 第5回 動詞3(1): 直説法・能動態・完了
- 第6回 動詞3(2): 直説法・能動態・未来完了
- 第7回 動詞3(3): 直説法・能動態・過去完了
- 第8回 動詞の時制のまとめと確認、ラテン語を読む(6)
- 第9回 分詞・動名詞・動形容詞(1): 分詞
- 第10回 分詞・動名詞・動形容詞(2): 動名詞
- 第11回 分詞・動名詞・動形容詞(3): 動形容詞
- 第12回 動詞4(1): 直説法・受動態
- 第13回 動詞4(2): 形式受動態動詞、不定法
- 第14回 ラテン語を読む(7)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

予習の必要はありませんが、学習した文法事項を整理して覚え、重要な語彙を書いたり発音したりして、必ず復習してください。(毎週、目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(出席)、期末考査によって、総合的に判断します。
フィードバックは授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『しっかり学ぶ初級ラテン語』 山下太郎 著(ペレ出版)+プリント

◆参考図書◆

ガイダンスにおいて紹介します。辞書は、可能ならば購入することをおすすめします。

◆留意事項◆

必ずラテン語A→Bの順序で履修してください。欠席せずに、積極的に授業に参加してください。なお、授業の進度と受講生の興味によって、内容を変更する可能性があります

ナンバリング	CES132N		
科目名	ラテン語B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	横田 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天才性歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

長い歴史と伝統をもち、ヨーロッパの共通言語としての役割を果たす一方で、諸地域においてそれぞれの言語文化を芽生えさせる原動力となったラテン語は、西洋文化の真髄といえます。音大生にとってとりわけ重要な中世以降の教会ラテン語に慣れ親しみ、自分たちの歌っているラテン語の意味が解ることを目指します。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス、前期の復習(名詞、形容詞)
- 第2回 前期の復習(動詞)、ラテン語を読む(5)
- 第3回 代名詞1(1): 人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞、指示代名詞、疑問代名詞
- 第4回 代名詞1(2): 代名詞的形容詞、不定代名詞
- 第5回 動詞3(1): 直説法・能動態・完了
- 第6回 動詞3(2): 直説法・能動態・未来完了
- 第7回 動詞3(3): 直説法・能動態・過去完了
- 第8回 動詞の時制のまとめと確認、ラテン語を読む(6)
- 第9回 分詞・動名詞・動形容詞(1): 分詞
- 第10回 分詞・動名詞・動形容詞(2): 動名詞
- 第11回 分詞・動名詞・動形容詞(3): 動形容詞
- 第12回 動詞4(1): 直説法・受動態
- 第13回 動詞4(2): 形式受動態動詞、不定法
- 第14回 ラテン語を読む(7)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

予習の必要はありませんが、学習した文法事項を整理して覚え、重要な語彙を書いたり発音したりして、必ず復習してください。(毎週、目安1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への積極的な参加(出席)、期末考査によって、総合的に判断します。
フィードバックは授業内で行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

『しっかり学ぶ初級ラテン語』 山下太郎 著(ペレ出版)+プリント

◆参考図書◆

ガイダンスにおいて紹介します。辞書は、可能ならば購入することをおすすめします。

◆留意事項◆

必ずラテン語A→Bの順序で履修してください。欠席せずに、積極的に授業に参加してください。なお、授業の進度と受講生の興味によって、内容を変更する可能性があります

ナンバリング	CES297N		
科目名	中国語A		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	下田 誠		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業は初めて中国語を学ぶ学生が、一から学ぶためのクラスである。中国語は発音が難しいので、重点的に学習する。前期は中国語の発音に親しむとともに、簡単な日常会話についても学ぶ。会話の学習を通じて、中国の社会、生活及び音楽・文化についても理解を進める。

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション 発音編 声調について
第2回 発音編 第1課 単母音・複母音
第3回 発音編 第2課 子音(1)唇音・舌尖音・舌根音・舌面音
第4回 発音編 第2課 子音(2)そり舌音・歯音
第5回 発音編 第3課 鼻母音
第6回 発音編 第4課 簡単な挨拶と声調の変化、軽声、簡体字
第7回 本編 第5課 本文と文法の学習 人称代名詞／動詞述語文
第8回 本編 第5課 本文と文法の学習 名前の言い方

第9回 本編 第5課 ドリル・練習問題
第10回 本編 第6課 本文と文法の学習 指示代名詞／存在を表わす「有」と「在」
第11回 本編 第6課 本文と文法の学習 連体修飾語を導く「的」
第12回 本編 第6課 ドリル・練習問題
第13回 本編 第7課 本文と文法の学習 形容詞述語文
第14回 本編 第7課 本文と文法の学習 文末の「了」
第15回 まとめ・学習した表現で発表する

授業の中では、中国の生活や文化に親しむ話題もありませ、楽しみながら学習できるよう工夫する。

◆準備学習の内容◆

自宅での発音練習、CDを活用したヒアリング、ピンイン・簡体字の書き取り練習を要する。(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

- ・通常の授業における発音練習並びに発表、振り返りの取組みを評価する(成績の60%)
 - ・期末の発表の結果(成績の40%)
- 中国語の発音発表について授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

相原茂・蘇紅『誌上体験中国留学 初級中国語』朝日出版社、2024年

宮地楽器国立音大店等で上記教科書を購入するようお願いします。

◆参考図書◆

- 相原茂著『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年
木村英樹著『中国語はじめての一步〔新版〕』ちくま学芸文庫、2017年

この2書は自学自習として活用できます。

初学者向けの辞書をお勧めします。

- 松岡榮志主編『クラウン中日辞典(小型版)』三省堂、2004年
相原茂著『新装版 はじめての中国語学習辞典』朝日出版社、2021年
武信彰・山田眞一編『プログレッシブ中国語辞典 第2版』小学館、2013年
『デイリーコンサイズ中日・日中辞典 第3版 プレミアム版』三省堂、2019年
千葉謙悟・熊進監修『ページッククラウン中日・日中辞典(小型版)』三省堂、2019年

◆留意事項◆

中国語の学習経験に関わらず履修可能。恥ずかしがらず、声を出して練習すること。受講生には積極的な学習を期待する。

ナンバリング	CES356N		
科目名	中国語A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	下田 誠		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この授業は初めて中国語を学ぶ学生が、一から学ぶためのクラスである。中国語は発音が難しいので、重点的に学習する。前期は中国語の発音に親しむとともに、簡単な日常会話についても学ぶ。会話の学習を通じて、中国の社会、生活及び音楽・文化についても理解を進める。

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション 発音編 声調について
- 第2回 発音編 第1課 単母音・複母音
- 第3回 発音編 第2課 子音(1)唇音・舌尖音・舌根音・舌面音
- 第4回 発音編 第2課 子音(2)そり舌音・歯音
- 第5回 発音編 第3課 鼻母音
- 第6回 発音編 第4課 簡単な挨拶と声調の変化、軽声、簡体字
- 第7回 本編 第5課 本文と文法の学習 人称代名詞／動詞述語文
- 第8回 本編 第5課 本文と文法の学習 名前の言い方
- 第9回 本編 第5課 ドリル・練習問題
- 第10回 本編 第6課 本文と文法の学習 指示代名詞／存在を表わす「有」と「在」
- 第11回 本編 第6課 本文と文法の学習 連体修飾語を導く「的」
- 第12回 本編 第6課 ドリル・練習問題
- 第13回 本編 第7課 本文と文法の学習 形容詞述語文
- 第14回 本編 第7課 本文と文法の学習 文末の「了」
- 第15回 まとめ・学習した表現で発表する

授業の中では、中国の生活や文化に親しむ話題もありませ、楽しみながら学習できるよう工夫する。

◆準備学習の内容◆

自宅での発音練習、CDを活用したヒアリング、ピンイン・簡体字の書き取り練習を要する。(目安毎週30分)

◆成績評価の方法◆

- ・通常の授業における発音練習並びに発表、振り返りの取組みを評価する(成績の60%)
 - ・期末の発表の結果(成績の40%)
- 中国語の発音発表について授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

相原茂・蘇紅『誌上体験中国留学 初級中国語』朝日出版社、2024年

宮地楽器国立音大店等で上記教科書を購入するようお願いします。

◆参考図書◆

- 相原茂著『はじめての中国語』講談社現代新書、1990年
- 木村英樹著『中国語はじめての一步〔新版〕』ちくま学芸文庫、2017年

この2書は自学自習として活用できます。

初学者向けの辞書をお勧めします。

- 松岡榮志主編『クラウン中日辞典(小型版)』三省堂、2004年
- 相原茂著『新装版 はじめての中国語学習辞典』朝日出版社、2021年
- 武信彰・山田眞一編『プログレッシブ中国語辞典 第2版』小学館、2013年
- 『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版 プレミアム版』三省堂、2019年
- 千葉謙悟・熊進監修『ページッククラウン中日・日中辞典(小型版)』三省堂、2019年

◆留意事項◆

中国語の学習経験に関わらず履修可能。恥ずかしがらず、声を出して練習すること。受講生には積極的な学習を期待する。

ナンバリング	CES298N		
科目名	中国語B		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	下田 誠		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

後期の期間、学生は日常生活・旅行等さらに多様な場面について学習していく。前期に一通り把握した発音について、再確認の上、正確な発音での定着をはかり、さらに一歩進んだ文法事項についても学ぶことで、前期より長い文章についても文意を理解できるようにする。

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期学習内容の確認／本編 第7課 ドリル・練習問題／結果補語
- 第2回 本編 第8課 本文と文法の学習 様態補語
- 第3回 本編 第8課 本文と文法の学習 「有的…有的…」／年齢の尋ね方
- 第4回 本編 第8課 ドリル・練習問題
- 第5回 本編 第9課 本文と文法の学習 「喜欢」
- 第6回 本編 第9課 本文と文法の学習 連動文／量詞
- 第7回 本編 第9課 ドリル・練習問題
- 第8回 本編 第10課 本文と文法の学習 「会」「能」「可以」
- 第9回 本編 第10課 本文と文法の学習 動詞末の「了」／「都」「也」
- 第10回 本編 第10課 ドリル・練習問題
- 第11回 本編 第11課 本文と文法の学習 進行形
- 第12回 本編 第11課 本文と文法の学習 時間の言い方、時量補語
- 第13回 本編 第11課 ドリル・練習問題
- 第14回 学習した表現を活用したストーリーを作る
- 第15回 まとめ・学習した表現で発表する

授業の中では、中国の生活や文化に親しむ話題もありませ、楽しみながら学習できるよう工夫する。

◆準備学習の内容◆

自宅での発音練習、CDを活用したヒアリング、ピンイン・簡体字の書き取り練習を要する。（目安毎週30分）

◆成績評価の方法◆

- ・通常の授業における発音練習並びに発表、振り返りの取組みを評価する（成績の60％）
 - ・期末の発表の結果（成績の40％）
- 中国語の発音発表について授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

相原茂・蘇紅『誌上体験中国留学 初級中国語』朝日出版社、2024年

宮地楽器国立音大店等で上記教科書を購入するようお願いします。

◆参考図書◆

- 守屋宏則・李軼倫著『やさしくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』東方書店、2019年
- 相原茂著『中国語入門Q&A101 新版』大修館書店、2003年

この2書は自学自習として活用できます。

初学者向けの辞書をお勧めします。

- 松岡榮志主編『クラウン中日辞典(小型版)』三省堂、2004年
- 相原茂著『新装版 はじめての中国語学習辞典』朝日出版社、2021年
- 武信彰・山田眞一編『プログレッシブ中国語辞典 第2版』小学館、2013年
- 『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版 プレミアム版』三省堂、2019年
- 千葉謙悟・熊進監修『ベーシッククラウン中日・日中辞典(小型版)』三省堂、2019年

◆留意事項◆

受講生には積極的な学習を期待する。恥ずかしがらず、声を出して練習すること。
中国語は発音が難しく通年の学習が重要であり、中国語Aと併せて履修することが望ましい。Bから受講を開始する場合は、Aで学修する発音編と同等の力を備えていること。

ナンバリング	CES357N		
科目名	中国語B		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	下田 誠		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1.4.6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

後期の期間、学生は日常生活・旅行等さらに多様な場面について学習していく。前期に一通り把握した発音について、再確認の上、正確な発音での定着をはかり、さらに一歩進んだ文法事項についても学ぶことで、前期より長い文章についても文意を理解できるようにする。

◆授業内容・計画◆

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期学習内容の確認／本編 第7課 ドリル・練習問題／結果補語
- 第2回 本編 第8課 本文と文法の学習 様態補語
- 第3回 本編 第8課 本文と文法の学習 「有的…有的…」／年齢の尋ね方
- 第4回 本編 第8課 ドリル・練習問題
- 第5回 本編 第9課 本文と文法の学習 「喜欢」
- 第6回 本編 第9課 本文と文法の学習 連動文／量詞
- 第7回 本編 第9課 ドリル・練習問題
- 第8回 本編 第10課 本文と文法の学習 「会」「能」「可以」
- 第9回 本編 第10課 本文と文法の学習 動詞末の「了」／「都」「也」
- 第10回 本編 第10課 ドリル・練習問題
- 第11回 本編 第11課 本文と文法の学習 進行形
- 第12回 本編 第11課 本文と文法の学習 時間の言い方、時量補語
- 第13回 本編 第11課 ドリル・練習問題
- 第14回 学習した表現を活用したストーリーを作る
- 第15回 まとめ・学習した表現で発表する

授業の中では、中国の生活や文化に親しむ話題もありませ、楽しみながら学習できるよう工夫する。

◆準備学習の内容◆

自宅での発音練習、CDを活用したヒアリング、ピンイン・簡体字の書き取り練習を要する。（目安毎週30分）

◆成績評価の方法◆

- ・通常の授業における発音練習並びに発表、振り返りの取組みを評価する（成績の60％）
 - ・期末の発表の結果（成績の40％）
- 中国語の発音発表について授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

相原茂・蘇紅『誌上体験中国留学 初級中国語』朝日出版社、2024年

宮地楽器国立音大店等で上記教科書を購入するようお願いします。

◆参考図書◆

- 守屋宏則・李軼倫著『やさしくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』東方書店、2019年
- 相原茂著『中国語入門Q&A101 新版』大修館書店、2003年

この2書は自学自習として活用できます。

初学者向けの辞書をお勧めします。

- 松岡榮志主編『クラウン中日辞典(小型版)』三省堂、2004年
- 相原茂著『新装版 はじめての中国語学習辞典』朝日出版社、2021年
- 武信彰・山田眞一編『プログレッシブ中国語辞典 第2版』小学館、2013年
- 『デイリーコンサイス中日・日中辞典 第3版 プレミアム版』三省堂、2019年
- 千葉謙悟・熊進監修『ベーシッククラウン中日・日中辞典(小型版)』三省堂、2019年

◆留意事項◆

受講生には積極的な学習を期待する。恥ずかしがらず、声を出して練習すること。
中国語は発音が難しく通年の学習が重要であり、中国語Aと併せて履修することが望ましい。Bから受講を開始する場合は、Aで学修する発音編と同等の力を備えていること。

ナンバリング	CCP415N		
科目名	声楽実技A I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

歌唱に必要な発声、呼吸法を学び、個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指すことが出来る。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基礎としながら、1単位(45分)で個々の能力にあった歌曲、オペラ、オラトリオ等を学ぶことが出来る。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 課題とする声楽曲1(1)音の確認

第3回: 課題とする声楽曲1(2)発音、詩の背景

第4回: 課題とする声楽曲1(3)仕上げ

第5回: 課題とする声楽曲2(1)音の確認

第6回: 課題とする声楽曲2(2)発音、詩の背景

第7回: 課題とする声楽曲2(3)仕上げ

第8回: 課題とする声楽曲3(1)音の確認

第9回: 課題とする声楽曲3(2)発音、詩の背景

第10回: 課題とする声楽曲3(3)仕上げ

第11回: 課題とする声楽曲4(1)音の確認

第12回: 課題とする声楽曲4(2)発音、詩の背景

第13回: 課題とする声楽曲4(3)仕上げ

第14回: 課題とする声楽曲の表現追究

第15回: 声楽実技A1まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版

「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社

「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社

「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング			
科目名	声楽実技B I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽の基本となる呼吸法と発声を学び、コンコーネとイタリア歌曲を中心に歌う喜びと豊かな表現力を養う。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、イタリア歌曲の歌唱表現法、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲などの基本的な歌唱表現法を学ぶ。

第1回: ガイダンス
第2回: 課題とする歌曲1(1)音の確認
第3回: 課題とする歌曲1(2)発音、詩の背景
第4回: 課題とする歌曲1(3)仕上げ
第5回: 課題とする歌曲2(1)音の確認
第6回: 課題とする歌曲2(2)発音、詩の背景
第7回: 課題とする歌曲2(3)仕上げ
第8回: 課題とする歌曲3(1)音の確認
第9回: 課題とする歌曲3(2)発音、詩の背景
第10回: 課題とする歌曲3(3)仕上げ
第11回: 課題とする歌曲4(1)音の確認
第12回: 課題とする歌曲4(2)発音、詩の背景
第13回: 課題とする歌曲4(3)仕上げ
第14回: 課題とする歌曲の表現追究
第15回: 声楽実技B1のまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業の取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCP416N		
科目名	声楽実技AⅡ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技A1の学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基礎としながら、1単位(45分)で個々の能力にあった歌曲、オペラ、オラトリオ等を学ぶことができる。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする声楽曲5(1)音の確認
第3回:課題とする声楽曲5(2)発音、詩の背景
第4回:課題とする声楽曲5(3)仕上げ
第5回:課題とする声楽曲6(1)音の確認
第6回:課題とする声楽曲6(2)発音、詩の背景
第7回:課題とする声楽曲6(3)仕上げ
第8回:課題とする声楽曲7(1)音の確認
第9回:課題とする声楽曲7(2)発音、詩の背景
第10回:課題とする声楽曲7(3)仕上げ
第11回:課題とする声楽曲8(1)音の確認
第12回:課題とする声楽曲8(2)発音、詩の背景
第13回:課題とする声楽曲8(3)仕上げ
第14回:課題とする声楽曲5～8までのまとめ、試験曲を決定
第15回:声楽曲のさらなる表現追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。
試験曲:自由曲 1曲 5分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング			
科目名	声楽実技BⅡ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技B1の学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、イタリア歌曲の歌唱表現法、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲などの基本的な歌唱表現法を学ぶ。

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする歌曲5(1)音の確認
第3回:課題とする歌曲5(2)発音、詩の背景
第4回:課題とする歌曲5(3)仕上げ
第5回:課題とする歌曲6(1)音の確認
第6回:課題とする歌曲6(2)発音、詩の背景
第7回:課題とする歌曲6(3)仕上げ
第8回:課題とする歌曲7(1)音の確認
第9回:課題とする歌曲7(2)発音、詩の背景
第10回:課題とする歌曲7(3)仕上げ
第11回:課題とする歌曲8(1)音の確認
第12回:課題とする歌曲8(2)発音、詩の背景
第13回:課題とする歌曲8(3)仕上げ
第14回:課題とする歌曲のまとめ、試験曲決定
第15回:試験曲の表現追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。
試験曲:任意の歌曲 3分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	GCP418N		
科目名	声楽実技AⅢ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技AⅡの学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基礎としながら、1単位(45分)で個々の能力にあった歌曲、オペラ、オラトリオ等を学ぶことが出来る。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題とする声楽曲9(1)音の確認
- 第3回: 課題とする声楽曲9(2)発音、詩の背景
- 第4回: 課題とする声楽曲9(3)仕上げ
- 第5回: 課題とする声楽曲10(1)音の確認
- 第6回: 課題とする声楽曲10(2)発音、詩の背景
- 第7回: 課題とする声楽曲10(3)仕上げ
- 第8回: 課題とする声楽曲11(1)音の確認
- 第9回: 課題とする声楽曲11(2)発音、詩の背景
- 第10回: 課題とする声楽曲11(3)仕上げ
- 第11回: 課題とする声楽曲12(1)音の確認
- 第12回: 課題とする声楽曲12(2)発音、詩の背景
- 第13回: 課題とする声楽曲12(3)仕上げ
- 第14回: 課題とする声楽曲9～12までのまとめ
- 第15回: 声楽曲のさらなる表現追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

Ⅲは平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング			
科目名	声楽実技BⅢ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技BⅡの学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、歌曲の基本的な歌唱表現法を中心に学び、個々の能力にあったオペラ・オラトリオ等を学ぶこともできる。

第1回: ガイダンス
第2回: 課題とする声楽曲9(1)音の確認
第3回: 課題とする声楽曲9(2)発音、詩の背景
第4回: 課題とする声楽曲9(3)仕上げ
第5回: 課題とする声楽曲10(1)音の確認
第6回: 課題とする声楽曲10(2)発音、詩の背景
第7回: 課題とする声楽曲10(3)仕上げ
第8回: 課題とする声楽曲11(1)音の確認
第9回: 課題とする声楽曲11(2)発音、詩の背景
第10回: 課題とする声楽曲11(3)仕上げ
第11回: 課題とする声楽曲12(1)音の確認
第12回: 課題とする声楽曲12(2)発音、詩の背景
第13回: 課題とする声楽曲12(3)仕上げ
第14回: 課題とする声楽曲の表現追究
第15回: 声楽実技BⅢのまとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCP419N		
科目名	声楽実技AIV		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基礎としながら、1単位(45分)で個々の能力にあった歌曲、オペラ、オラトリオ等を学ぶことが出来る。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする声楽曲13(1)音の確認
第3回:課題とする声楽曲13(2)発音、詩の背景
第4回:課題とする声楽曲13(3)仕上げ
第5回:課題とする声楽曲14(1)音の確認
第6回:課題とする声楽曲14(2)発音、詩の背景
第7回:課題とする声楽曲14(3)仕上げ
第8回:課題とする声楽曲15(1)音の確認
第9回:課題とする声楽曲15(2)発音、詩の背景
第10回:課題とする声楽曲15(3)仕上げ
第11回:課題とする声楽曲16(1)音の確認
第12回:課題とする声楽曲16(2)発音、詩の背景
第13回:課題とする声楽曲16(3)仕上げ
第14回:課題とする声楽曲13～16までのまとめ、試験曲を決定
第15回:試験曲のさらなる表現追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。
試験曲:自由曲 1曲 6分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング			
科目名	声楽実技BⅣ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声楽実技BⅢの学びの上に立ち、歌唱に必要な呼吸法を学び個々の豊かな感性と表現力を育み、心に響く演奏を目指す。

◆授業内容・計画◆

発声、呼吸法を基本とし、歌曲の基本的な歌唱表現法を中心に学び、個々の能力にあったオペラ・オラトリオ等を学ぶこともできる。

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする声楽曲13(1)音の確認
第3回:課題とする声楽曲13(2)発音、詩の背景
第4回:課題とする声楽曲13(3)仕上げ
第5回:課題とする声楽曲14(1)音の確認
第6回:課題とする声楽曲14(2)発音、詩の背景
第7回:課題とする声楽曲14(3)仕上げ
第8回:課題とする声楽曲15(1)音の確認
第9回:課題とする声楽曲15(2)発音、詩の背景
第10回:課題とする声楽曲15(3)仕上げ
第11回:課題とする声楽曲16(1)音の確認
第12回:課題とする声楽曲16(2)発音、詩の背景
第13回:課題とする声楽曲16(3)仕上げ
第14回:課題とする声楽曲のまとめ、試験曲決定
第15回:試験曲の表現追究

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分は練習して前回のレッスンの復習と予習をする。)
・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

実技試験は複数の教員で採点する。
試験曲:自由曲 5分以内 暗譜
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

「イタリア声楽曲選曲」《国立音楽大学編》カワイ出版
「イタリア歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「ドイツ歌曲集」1、2 全音楽譜出版社
「日本歌曲集」1、2、3 全音楽譜出版社 その他

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCP443N		
科目名	ピアノ実技A I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目に必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲③の選曲
- 第11回 課題曲③の基礎知識の確認
- 第12回 課題曲③の多様な演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第14回 この Semester で学んだ曲の復習
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。
平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自の課題に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーを増やせるよう、日々の練習を重ねること。

ナンバリング	CCP465N		
科目名	オルガン実技 I		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(オルガン)専修以外の学生が、オルガンコースの必修科目を習得するために必要な技術、演奏解釈、表現法等を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

個々の能力に合った教材を用いながら、オルガンコースが求める資質を高め、レパートリーを拡大する。

第1回;能力に応じた作品を選び、作品の様式、奏法を学ぶ
第2回;表現力を学ぶ
第3回;仕上げに結びつける
第4回;任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回;表現力を学ぶ
第6回;表現の内容を更に発展させる
第7回;仕上げに結びつける
第8回;能力に応じ発表会の課題曲を選び、様式、奏法を学ぶ
第9回;表現力を学ぶ
第10回;表現の内容を更に発展させる
第11回;仕上げに結びつける
第12回;発表会へ向けて内容を掘り下げる
第13回;発表会へ向けて更に内容を磨く
第14回;発表会へ向けての表現力を磨く
第15回;ゼメスタのまとめとして、演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくこと。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。またレッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング			
科目名	ピアノ実技B I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目に必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲③の選曲
- 第11回 課題曲③の基礎知識の確認
- 第12回 課題曲③の多様な演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第14回 このセメスターで学んだ曲の復習
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。
平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーが増やせるよう、日々の練習を重ねること。

ナンバリング	CCP444N		
科目名	ピアノ実技AⅡ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目を修得するために必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 実技試験へ向けて課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の奏法、演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲②の演奏表現、技術的な問題の確認
- 第11回 課題曲②の演奏表現、技術のレベルアップ
- 第12回 課題曲②の暗譜の確認
- 第13回 課題曲②の演奏を録音し客観的に演奏を聴く
- 第14回 最後の仕上げ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

演奏試験で評価。

但し、アドヴァンスト・コースの鍵盤楽器ソリストコース、アンサンブル・ピアノ・コースの履修者は平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自の課題に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーを増やせるように日々練習を重ねること。

ナンバリング	CCP466N		
科目名	オルガン実技Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(オルガン)専修以外の学生が、オルガンコースの必修科目を習得するために必要な技術、演奏解釈、表現法等を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

個々の能力に合った教材を用いながら、オルガンコースが求める資質を高め、レパートリーを拡大する。

第1回;能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回;表現力を学ぶ
第3回;仕上げに結びつける
第4回;任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回;表現力を学ぶ
第6回;表現を更に発展させる
第7回;仕上げに結びつける
第8回;後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回;表現力を学ぶ
第10回;表現を更に発展させる
第11回;仕上げに結びつける
第12回;試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回;試験へ向けて更に内容を磨く
第14回;試験へ向けての表現力を磨く
第15回;ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくこと。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング			
科目名	ピアノ実技BⅡ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目を修得するために必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 実技試験へ向けて課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の奏法、演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲②の演奏表現、技術的な問題の確認
- 第11回 課題曲②の演奏表現、技術のレベルアップ
- 第12回 課題曲②の暗譜の確認
- 第13回 課題曲②の演奏を録音し客観的に演奏を聴く
- 第14回 最後の仕上げ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックすること。
演奏試験で評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーが増やせるよう、日々練習を重ねること。

ナンバリング	CCP447N		
科目名	ピアノ実技AⅢ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目を修得するために必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲③の選曲
- 第11回 課題曲③の基礎知識の確認
- 第12回 課題曲③の多様な演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第14回 このセメスターで学んだ曲の復習
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。
平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自の課題に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーが増やせるよう練習を重ねること。

ナンバリング	CCP467N		
科目名	オルガン実技Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(オルガン)専修以外の学生が、オルガンコースの必修科目を習得するために必要な技術、演奏解釈、表現法等を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

個々の能力に合った教材を用いながら、オルガンコースが求める資質を高め、レパートリーを拡大する。

第1回;能力に応じた作品を選び、作品の様式、奏法を学ぶ
第2回;表現力を学ぶ
第3回;仕上げに結びつける
第4回;任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回;表現力を学ぶ
第6回;表現の内容を更に発展させる
第7回;仕上げに結びつける
第8回;能力に応じ発表会の課題曲を選び、様式、奏法を学ぶ
第9回;表現力を学ぶ
第10回;表現の内容を更に発展させる
第11回;仕上げに結びつける
第12回;発表会へ向けて内容を掘り下げる
第13回;発表会へ向けて更に内容を磨く
第14回;発表会へ向けての表現力を磨く
第15回;ゼメスタのまとめとして、演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくこと。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング			
科目名	ピアノ実技BⅢ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目を修得するために必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲③の選曲
- 第11回 課題曲③の基礎知識の確認
- 第12回 課題曲③の多様な演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第14回 この Semester で学んだ曲の復習
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。
平常の授業への取り組みにより評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーを増やせるよう日々の練習を重ねること。

ナンバリング	CCP448N		
科目名	ピアノ実技AIV		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目に必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 実技試験へ向けて課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲②の演奏表現、技術的な問題の確認
- 第11回 課題曲②の演奏表現、技術のレベルアップ
- 第12回 課題曲②の暗譜の確認
- 第13回 課題曲②の演奏を録音し客観的に演奏を聴く
- 第14回 課題曲②の仕上げ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。

演奏試験で評価。

但し、アドヴァンスド・コースの鍵盤楽器ソリストコース、アンサンブル・ピアノ・コースの履修者は平常の授業への取り組みにより評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各自の課題に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーを増やすため日々の練習を重ねること。

ナンバリング	CCP468N		
科目名	オルガン実技Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(オルガン)専修以外の学生が、オルガンコースの必修科目を習得するために必要な技術、演奏解釈、表現法等を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

個々の能力に合った教材を用いながら、オルガンコースが求める資質を高め、レパートリーを拡大する。

第1回;能力に応じた任意の作品を選び、様式、奏法を学ぶ
第2回;表現力を学ぶ
第3回;仕上げに結びつける
第4回;任意の作品の様式、奏法を学ぶ
第5回;表現力を学ぶ
第6回;表現を更に発展させる
第7回;仕上げに結びつける
第8回;後期試験課題曲の様式、奏法を学ぶ
第9回;表現力を学ぶ
第10回;表現を更に発展させる
第11回;仕上げに結びつける
第12回;試験へ向けて内容を掘り下げる
第13回;試験へ向けて更に内容を磨く
第14回;試験へ向けての表現力を磨く
第15回;ゼメスタのまとめとして演奏会形式で発表を行う

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくこと。

◆成績評価の方法◆

レポート及び学期末試験。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに総合的に成績評価する。
実技試験は複数の教員で採点し、成績評価は点数で示す。また、レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング			
科目名	ピアノ実技BIV		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

鍵盤楽器(ピアノ)専修以外の学生が、履修するコースの必修科目に必要なピアノ技術、演奏解釈、表現法などを身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

個人レッスンにおいて、個々の能力に合った教材を用いながら演奏能力を高め、レパートリーを拡大する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲①の選曲
- 第3回 課題曲①の基礎知識の確認
- 第4回 課題曲①の多様な演奏表現の検討
- 第5回 課題曲①の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第6回 実技試験へ向けて課題曲②の選曲
- 第7回 課題曲②の基礎知識の確認
- 第8回 課題曲②の多様な演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②の演奏表現の工夫及び暗譜
- 第10回 課題曲②の演奏表現、技術的な問題の確認
- 第11回 課題曲②の演奏表現、技術のレベルアップ
- 第12回 課題曲②の暗譜の確認
- 第13回 課題曲②の演奏を録音し客観的に演奏を聴く
- 第14回 課題曲②の仕上げ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎日1時間以上の練習が望ましい。
- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

レッスン中に課題を常にフィードバックする。
演奏試験で評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

レパートリーを増やすために日々の練習を重ねること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技A(弦管打) I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

楽器の演奏に必要なウォーム・アップの方法、及び基礎訓練的な練習方法を習得する。基礎課程にふさわしい作品の演奏を通して、ソリスト、室内楽奏者、オーケストラ奏者等プロフェッショナルな音楽家として通用する音楽性と演奏技術の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の扱い方、練習方法
- 第3回 基本的な奏法
- 第4回 練習曲 I-①確認、課題曲 I-①確認
- 第5回 練習曲 I-①定着、課題曲 I-①表現の工夫
- 第6回 練習曲 I-②確認、課題曲 I-①仕上げの演奏
- 第7回 練習曲 I-②定着、課題曲 I-②確認
- 第8回 練習曲 I-③確認、課題曲 I-②表現の工夫
- 第9回 練習曲 I-③定着、課題曲 I-②仕上げの演奏
- 第10回 練習曲 I-④確認、課題曲 I-③確認
- 第11回 練習曲 I-④定着、課題曲 I-③表現の工夫
- 第12回 練習曲 I-⑤確認、課題曲 I-③仕上げの演奏
- 第13回 練習曲 I-⑤定着、課題曲 I-④確認
- 第14回 課題曲 I-④表現の工夫
- 第15回 演奏試験に向けた課題曲④のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に次を行って臨むこと。
日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各教員指定の練習曲や作品の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じてその都度紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回の授業でよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技A(弦管打)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コースでの学修に生かすため、弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の演奏技術と表現力を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 弦管打実技AⅡの目標と進め方の確認
- 第2回 弦管打実技AⅠの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲Ⅱ-①音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲Ⅱ-①楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲Ⅱ-①演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲Ⅱ-①仕上げ
- 第7回 課題曲Ⅱ-②(重奏)音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲Ⅱ-②(重奏)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲Ⅱ-②(重奏)互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲Ⅱ-②(重奏)仕上げ
- 第11回 課題曲Ⅱ-③(ソロ)音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲Ⅱ-③(ソロ)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲Ⅱ-③(ソロ)ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑥(ソロ)仕上げ
- 第15回 弦管打実技AⅡのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回によく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技A(弦管打)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コースでの学修に生かすため、弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の演奏技術と表現力を磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 弦管打実技AⅢの目標と進め方の確認
- 第2回 弦管打実技AⅡの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑦(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑦(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑦(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑦(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑧(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑧(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑧(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑧(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑨(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑨(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑨(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑨(ソロ) 仕上げ
- 第15回 弦管打実技AⅢのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回によく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技A(弦管打)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

コースでの学修に生かすため、弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の演奏技術と表現力を一層磨く。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 弦管打実技AⅣの目標と進め方の確認
- 第2回 弦管打実技AⅢの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑩(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑩(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑩(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑩(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑪(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑪(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑪(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑪(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑫(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑫(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑫(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑫(ソロ) 仕上げ
- 第15回 弦管打実技AⅣのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回によく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技B(弦管打) I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 楽器の扱い方と基本的な音の出し方
- 第3回 楽器の仕組みと練習の方法
- 第4回 課題曲①音の確認と課題発見
- 第5回 課題曲①まとまりのある演奏に向けた工夫
- 第6回 課題曲①仕上げ
- 第7回 課題曲②音の確認と課題発見
- 第8回 課題曲②演奏表現の検討
- 第9回 課題曲②演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲②仕上げ
- 第11回 課題曲③音の確認、演奏のポイント
- 第12回 課題曲③楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲③演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲③仕上げ
- 第15回 弦管打実技B I のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技B(弦管打)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、相手の音楽を聴きながら演奏する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 弦管打実技BⅠの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲④音の確認、演奏のポイント
- 第4回 課題曲④楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲④演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲④仕上げ
- 第7回 課題曲⑤(重奏)音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑤(重奏)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑤(重奏)互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑤(重奏)仕上げ
- 第11回 課題曲⑥(ソロ)音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑥(ソロ)楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑥(ソロ)ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑥(ソロ)仕上げ
- 第15回 弦管打実技BⅡのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技B(弦管打)Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、アンサンブルやピアノ伴奏のついたソロの演奏表現を工夫する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 弦管打実技BⅡの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑦(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑦(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑦(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑦(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑧(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑧(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑧(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑧(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑨(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑨(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑨(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑨(ソロ) 仕上げ
- 第15回 弦管打実技BⅢのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング			
科目名	弦管打実技B(弦管打)Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

弦楽器・管楽器・打楽器の演奏を通して、オーケストラ楽器の基本的な奏法、仕組み、扱い方を身に付け、曲にふさわしい音楽表現を工夫して、アンサンブルやピアノ伴奏のついたソロの演奏表現をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 弦管打実技BⅢの復習としての演奏と自己の演奏上の課題の確認
- 第3回 課題曲⑩(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第4回 課題曲⑩(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第5回 課題曲⑩(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第6回 課題曲⑩(重奏) 仕上げ
- 第7回 課題曲⑪(重奏) 音の確認と演奏のポイント
- 第8回 課題曲⑪(重奏) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第9回 課題曲⑪(重奏) 互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第10回 課題曲⑪(重奏) 仕上げ
- 第11回 課題曲⑫(ソロ) 音の確認と演奏のポイント
- 第12回 課題曲⑫(ソロ) 楽曲の背景と演奏表現の検討
- 第13回 課題曲⑫(ソロ) ピアノ伴奏者と互いに聴き合った演奏表現の工夫
- 第14回 課題曲⑫(ソロ) 仕上げ
- 第15回 弦管打実技BⅣのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

毎回の授業に下記を行って臨むこと。
 日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行った上で、課題曲の練習をする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各担当教員が指定した基礎練習のテキスト、教則本、履修する楽曲の楽譜(スコアとパート譜)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。楽器の特性や履修者の実態に応じて、担当教員により進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CCP689N		
科目名	弦楽器オーケストラプレイヤー演習 I		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オーケストラの入団試験に出題されるオーケストラの楽曲を個人レッスンで学び、入団試験対策するとともにオーケストラアンサンブル力の強化を図る。

◆授業内容・計画◆

目標としているオーケストラによって課題曲の傾向が違うのでオリエンテーションで担当教官と相談し課題曲を決める。また、オーケストラの入団試験は、オーケストラの楽曲(オーケストラスタディ)の他に定番の独奏曲の課題曲があるのでその曲もレッスンで学ぶ。

第1回目: ガイダンス
第2回目: モーツァルト交響曲第40番
第3回目: モーツァルト交響曲第40番
第4回目: シューベルト交響曲「未完成」
第5回目: ベートーヴェン交響曲第5番
第6回目: ベートーヴェン交響曲第5番
第7回目: ブラームス交響曲第1番
第8回目: ブラームス交響曲第1番
第9回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第10回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第11回目: シューマン交響曲第2番
第12回目: モーツァルト序曲
第13回目: ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第14回目: ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

個人レッスンの時点で、すでに課題曲をスムーズに演奏できているように練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

オーケストラの楽譜をライブラリーで借り準備すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCP690N		
科目名	弦楽器オーケストラプレイヤー演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オーケストラの入団試験に出題されるオーケストラの楽曲を個人レッスンで学び、入団試験対策するとともにオーケストラアンサンブル力の強化を図る。

◆授業内容・計画◆

目標としているオーケストラによって課題曲の傾向が違うのでオリエンテーションで担当教官と相談し課題曲を決める。また、オーケストラの入団試験は、オーケストラの楽曲(オーケストラスタディ)の他に定番の独奏曲の課題曲があるのでその曲もレッスンで学ぶ。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第41番
第3回目:モーツァルト交響曲第41番
第4回目:シューベルト交響曲第5番
第5回目:ベートーヴェン交響曲第9番
第6回目:ベートーヴェン交響曲第9番
第7回目:ブラームス交響曲第2番
第8回目:ブラームス交響曲第2番
第9回目:ブラームス交響曲第4番
第10回目:ブラームス交響曲第4番
第11回目:ドヴォルザーク交響曲第8番
第12回目:マーラー交響曲第1番
第13回目:マーラー交響曲第1番
第14回目:R.シュトラウス「ドン・ファン」
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

個人レッスンの時点で、すでに課題曲をスムーズに演奏できているように練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

オーケストラ楽譜をライブラリーで借りて準備すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCP691N		
科目名	弦楽器オーケストラプレイヤー演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オーケストラの入団試験に出題されるオーケストラの楽曲を個人レッスンで学び、入団試験対策するとともにオーケストラアンサンブル力の強化を図る。

◆授業内容・計画◆

目標としているオーケストラによって課題曲の傾向が違うのでオリエンテーションで担当教官と相談し課題曲を決める。また、オーケストラの入団試験は、オーケストラの楽曲(オーケストラスタディ)の他に定番の独奏曲の課題曲があるのでその曲もレッスンで学ぶ。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第39番
第3回目:モーツァルト交響曲第39番
第4回目:ベートーヴェン交響曲第6番
第5回目:ベートーヴェン交響曲第6番
第6回目:ブラームス交響曲第2番
第7回目:ブラームス交響曲第2番
第8回目:シューマン交響曲第2番
第9回目:シューマン交響曲第2番
第10回目:プロコフィエフ古典交響曲
第11回目:プロコフィエフ古典交響曲
第12回目:マーラー交響曲第9番
第13回目:マーラー交響曲第9番
第14回目:モーツァルトヴァイオリン協奏曲
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

個人レッスンの時点で、すでに課題曲をスムーズに演奏できているように練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

オーケストラ楽譜をライブラリーで借りて準備すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCP692N		
科目名	弦楽器オーケストラプレイヤー演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オーケストラの入団試験に出題されるオーケストラの楽曲を個人レッスンで学び、入団試験対策するとともにオーケストラアンサンブル力の強化を図る。

◆授業内容・計画◆

目標としているオーケストラによって課題曲の傾向が違うのでオリエンテーションで担当教官と相談し課題曲を決める。また、オーケストラの入団試験は、オーケストラの楽曲(オーケストラスタディ)の他に定番の独奏曲の課題曲があるのでその曲もレッスンで学ぶ。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第25番
第3回目:モーツァルト交響曲第25番
第4回目:ベートーヴェン交響曲第7番
第5回目:ベートーヴェン交響曲第7番
第6回目:モーツァルト オペラ序曲等
第7回目:ベートーヴェン序曲等
第8回目:ブルックナー交響曲第4番
第9回目:ブルックナー交響曲第7番
第10回目:ベルリオーズ幻想交響曲
第11回目:ベルリオーズ幻想交響曲
第12回目:R.コルサコフ「シェエラザード」
第13回目:R.コルサコフ「シェエラザード」
第14回目:モーツァルトヴァイオリン協奏曲
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

個人レッスンの時点で、すでに課題曲をスムーズに演奏できているように練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

オーケストラ楽譜をライブラリーで借りて準備すること。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS690N		
科目名	作曲実技 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲実技 I」では、創作の基礎研究を行う。

授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
- 第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
- 第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第11回 前期提出作品の完成
- 第12回 後期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第13回 後期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第14回 後期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第15回 まとめ(夏休み中に後期提出作品の作曲を進めておく)

提出作品は「自由な作品(未完成可)またはスケッチや構想プログラムなど創作過程が判る資料」とする。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取組みを総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS691N		
科目名	作曲実技Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

- (1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
(3)大きな編成による室内楽等規模の大きな作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲実技Ⅱ」では、「作曲実技Ⅰ」をふまえてさらに進んだ創作研究を継続する。
授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を説明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。
また、「作曲実技Ⅱ」では、担当教員の意向と学生の希望により、演奏審査会における演奏家とのリレーション、リハーサル、本番でのプログラム作成、舞台スタッフ、運営等を実際に経験することが出来る。

- 第1回 オリエンテーション
第2回 後期提出作品創作実習(1)基礎
第3回 後期提出作品創作実習(2)応用
第4回 後期提出作品創作実習(3)最終チェック
第5回 後期提出作品の完成・パート譜作成等
第6回 演奏審査会への準備
第7回 次作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
第8回 次作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
第9回 次作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
第10回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
第11回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
第12回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
第13回 次作品創作実習(1)基礎
第14回 次作品創作実習(2)応用
第15回 まとめ(春休み中に次作品の完成を目指す)

「作曲実技Ⅱ」の提出作品は「演奏者3～7名までの作品(全体の半数までは声も可。詳細は担当教員と相談のこと)」とする。ただし前期に完成作品を提出した場合、後期ではそれと異なる作品を提出、演奏しなければならない。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。

◆成績評価の方法◆

主に作品の提出により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS692N		
科目名	作曲実技Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲実技Ⅲ」では、「作曲実技Ⅰ～Ⅱ」をふまえさらに進んだ創作研究を行う。
授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第3回 前期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第4回 前期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第5回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
- 第6回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
- 第7回 前期提出作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
- 第8回 前期提出作品創作実習(1)基礎
- 第9回 前期提出作品創作実習(2)応用
- 第10回 前期提出作品創作実習(3)最終チェック
- 第11回 前期提出作品の完成
- 第12回 後期提出作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
- 第13回 後期提出作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
- 第14回 後期提出作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
- 第15回 まとめ(夏休み中に後期提出作品の作曲を進めておく)

提出作品は「自由な作品(未完成可)またはスケッチや構想プログラムなど創作過程が判る資料」とする。提出は7月初旬。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。

◆成績評価の方法◆

学期末の提出作品と、平常の授業への取組みを総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
- ・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
- ・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCS693N		
科目名	作曲実技Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

(1)現代における芸術音楽作品の創作を行うことができる。(2)幅広い音楽作品に触れ、創作のための方法論、技術等を学ぶことができる。
(3)大きな編成による室内楽等規模の大きな作品を創作することができる。

◆授業内容・計画◆

「作曲実技Ⅳ」では、「作曲実技Ⅰ～Ⅲ」をふまえさらに進んだ創作研究を継続する。
授業は担当教員ごとに、履修学生の希望や適正を考慮して個別に進められる。音楽作品の分析、楽器奏法、記譜法、構成法、音響構造と楽器編成による特性等を解明し、作品創作実習によってそれらを実作品に具現化する。
また、「作曲実技Ⅳ」では、担当教員の意向と学生の希望により、演奏審査会における演奏家とのリレーション、リハーサル、本番でのプログラム作成、舞台スタッフ、運営等を実際に経験することが出来る。

第1回 オリエンテーション
第2回 後期提出作品創作実習(1)基礎
第3回 後期提出作品創作実習(2)応用
第4回 後期提出作品創作実習(3)最終チェック
第5回 後期提出作品の完成・パート譜作成等
第6回 演奏審査会への準備
第7回 次作品のための楽曲研究(1)分析法・楽器奏法
第8回 次作品のための楽曲研究(2)記譜法・構成法
第9回 次作品のための楽曲研究(3)音響構造と楽器編成による特性等
第10回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(1)導入
第11回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(2)基礎
第12回 次作品の構想プログラム、スケッチ等の作成(3)応用
第13回 次作品創作実習(1)基礎
第14回 次作品創作実習(2)応用
第15回 まとめ(作品の仕上げ作業)

「作曲実技Ⅳ」の提出作品は「4～15名までの編成(詳細は担当教員と相談のこと)」とする。

◆準備学習の内容◆

作品完成に向け楽譜やスケッチ等を出来るだけ多く書いてくること。

◆成績評価の方法◆

主に作品の提出により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

・過去から最先端の音楽、絵画、文学、舞台作品、インスタレーション等に関して興味を持ち、広範な知識を得るようにすること。
・機会を見つけて、多くのコンサートや舞台の公演にふれること。
・可能な限り演奏の現場に立ち会い、参加して作品の演奏に際して生じる様々な問題点を体験すること。

ナンバリング	CCP601N		
科目名	ジャズ実技 I		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 楽器の仕組みと奏法の基礎
第3回 演奏姿勢と呼吸法
第4回 音作りの研究
第5回 トライアド: ナンバリングと視覚化
第6回 トライアド: 転回形とその視覚化
第7回 セブンス・コードとドミナント・モーション
第8回 コードトーンによるインプロヴィゼーション: Take the A Train
第9回 コードトーンによるインプロヴィゼーション: Blues
第10回 コードトーンによるインプロヴィゼーション: まとめ
第11回 スケールのナンバリングとハーモニック・リズムの理解
第12回 ドミナント・スケール
第13回 ドミナント・スケールによるフレーズの作成
第14回 サブドミナント・スケール
第15回 専門実技(ジャズ) I のまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な練習時間を費やすこと。
演奏する内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング	CCP602N		
科目名	ジャズ実技Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 奏法と呼吸法の確認
第3回 テトラコード:基本形
第4回 テトラコード:転回形
第5回 マイナー・テトラコード
第6回 テトラコードによるメロディーラインの作成
第7回 スイングビートにおける8分音符の演奏法
第8回 ビバップ・ラインの演奏法
第9回 ドミナント・ビバップ・スケール
第10回 ドミナント・ビバップ・スケールによるフレーズの作成
第11回 V7 - I :コードトーンとスケール
第12回 V7 - I :フレーズの作成
第13回 II m7 - V7 - I :コードトーンとスケール
第14回 II m7 - V7 - I :フレーズの作成
第15回 専門実技(ジャズ)Ⅱのまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な時間を費やすこと。
吹く内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング	CCP603N		
科目名	ジャズ実技Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 ジャズ専門実技ⅠⅡの復習と課題の確認
第3回 II m7 - V7 - I :スタンダードナンバーでの実践
第4回 II m7 - V7 - I :アイデアの発展
第5回 ハーモニクマイナー・パーフェクト5th・ピロウ
第6回 II m7b5 - V7b9 - I m:フレーズの作成
第7回 II m7b5 - V7b9 - I m:スタンダードナンバーでの実践
第8回 III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I :仕組み
第9回 III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I :フレーズの作成
第10回 #IV m7b5 - VII7b9 - III m7 - VI7b9 - II m7 - V7 - I
第11回 メジャー・ビバップ・スケール
第12回 メジャー・ビバップ・スケールによるフレーズの作成
第13回 ドミナントとメジャー・ビバップ・スケールの連結
第14回 その他のビバップ・スケール
第15回 専門実技(ジャズ)Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な練習時間を費やすこと。
演奏する内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング	CCP604N		
科目名	ジャズ実技Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(J)		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

・楽器奏法の基礎を学び、その訓練方法を習得する。・ジャズ・インプロヴィゼーションに必要な基礎的なテクニックを身につける。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 ジャズ専門実技Ⅲの復習と課題の確認
第3回 ガイドーン・ライン
第4回 ガイドーンのソロへの応用
第5回 ブルースの構造
第6回 ブルーススケールとペンタニック
第7回 ペンタニック・スケールの基礎
第8回 ペンタニック・ライン
第9回 コードとペンタニック
第10回 マイナー6th ペンタニック
第11回 ペンタニック on Blues
第12回 楽曲でのペンタニックの使用法
第13回 ボキャブラリーの習得とその発展の方法
第14回 トランスクリプトしたソロのアナライズ
第15回 専門実技(ジャズ)Ⅳのまとめ

◆準備学習の内容◆

奏法の研究に十分な時間を費やすこと。
吹く内容を歌えるようにすること。

◆成績評価の方法◆

課題の理解度とその実践力。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各専攻楽器により、教材、内容等の指定があります。第1回目ガイダンスでの指示に注意すること。

ナンバリング	VMS415N		
科目名	歌曲演習 I		
科目詳細	各言語共通シラバス		
担当教員	各担当者, 加納 悦子, 長島 剛子, 清水 華澄, 石上 朋美, 品田 昭子, 武内 朋子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

楽曲分析から歌曲の知識を深め、ディクシオン研究で習得した事を基盤に、詩の解釈と理解・言語の感性を磨き、豊かな歌唱表現ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

各国の歴史的背景を踏まえた文化や言語の特徴を学び、年代を追いながら歌曲作品の歌唱実践を行ってゆく。

同時に作曲家とその歌曲作品の詩人・詩についても考察する。

授業では、各学生が教師より指定された、あるいは自発的な選曲により歌唱表現をする形式をとる。

必要に応じて詩の朗読や解釈、作品の解説なども行う。

多くの歌曲を実際に歌唱し、またそれについて討議することにより、歌曲をより深く理解し歌唱技術や意欲を高められるようにする。

授業計画

- 第1回: ガイダンス(試聴会を含む)
- 第2回: 各国の言語の特徴(歴史的背景と成り立ち・文化)
- 第3回: 各国の言語の発語(音声学的見地と舞台語発音)
- 第4回: 各国のディクシオンに基づく発声時の工夫と考察
- 第5回: 詩の朗読、および歌唱に反映される技術の工夫
- 第6回: 各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
 - 1ー伊はベルカント時代、独は古典派、仏・日は近現代の初期作品
- 第7回: 各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
 - 2ー同上の作品群より
- 第8回: 各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
 - 3ー同上の作品群より
- 第9回: 1, 2, 3, の歌曲に求められる発音発声についての考察とまとめ
- 第10回: 各国における次期歌曲作品群からの歌唱実践と討議
 - 4ー伊はベルカント時代以降、独はロマン派、仏・日は近現代中期作品
- 第11回: 各国における歌曲の歌唱実践と討議
 - 5ー同上の作品群より
- 第12回: 各国における歌曲の歌唱実践と討議
 - 6ー同上の作品群より
- 第13回: 4, 5, 6, の歌曲に求められる発音発声についての考察とまとめ
- 第14回: 演奏試験での曲目の決定
- 第15回: 試験で演奏する歌曲の表現の追求と再考

◆準備学習の内容◆

歌曲作品(単語や歌詞の意味など)を前もって調べ、演奏を発表できる状態にすること。
目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、学習内容等を考慮し評価。
演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内で指示。各言語の辞書は必携。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

- ・基本的には同じディクシオン単位を習得した学生のみ受講可だが、日本歌曲は例外とする。(未習得者は、選んだ歌曲と同じディクシオンを必ず受講する事)
- ・作品研究とは違い一人一人が演習する事を目的としているので、なるべく多くの作品を実際に歌う事に力を注いで欲しい。

ナンバリング	VMS416N		
科目名	歌曲演習Ⅱ		
科目詳細	各言語共通シラバス		
担当教員	各担当者, 加納 悦子, 長島 剛子, 清水 華澄, 石上 朋美, 品田 昭子, 武内 朋子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

歌曲演習Ⅰに続き、各歌曲のさらに新しい時代の作品を多く取り上げ、歌唱実践しながら、より作品にふさわしい歌唱法を見出し、豊かな歌唱表現ができるようにする。

◆授業内容・計画◆

歌曲演習Ⅰに続き、年代を追いながら現代作品に至るまでの変遷と作風の変化を意識し、よりの確な表現法を身に付ける。
多くの歌曲作品に触れ、実際に歌唱することにより、さらに深い理解が出来るようにする。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
7－伊はヴェリズモ・オペラの時代、独はロマン派後期、仏・日は近現代中期作品
- 第3回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
8－同上の作品群より
- 第4回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
9－同上の作品群より
- 第5回:7, 8, 9、の歌曲に求められる発音発声についての考察とまとめ
- 第6回:近現代(伊・独)近現代後期(仏・日)における作曲家及び詩人達の作風についての考察
- 第7回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
10－伊・独・仏・日ともに近現代作品
- 第8回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
11－同上の作品群より
- 第9回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
12－同上の作品群より
- 第10回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
13－同上の作品群より
- 第11回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
14－同上の作品群より
- 第12回:各国における歌曲作品群からの歌唱実践と討議
15－同上の作品群より
- 第13回:10～15までの作品群に求められる歌唱法の考察とまとめ
- 第14回:演奏試験での曲目の選出
- 第15回:演奏試験での表現の追求と再考

◆準備学習の内容◆

歌曲作品(単語や歌詞の意味など)を前もって調べ、演奏する曲を十分に練習しておくこと。
目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

最終試験。平常の授業への取り組み方、学習内容等を考慮し評価。
演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業内にて提示。各言語の辞書は必携。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の授業計画は通年の内容全般の表示であるため、必ずしもその回ごとの内容ではない。

ナンバリング	VMS417N		
科目名	オペラ演習 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	成田 博之, 松原 有奈, 大沼 徹		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オペラの歌唱・演技表現の基礎を学び、モーツァルトを中心とするオペラ作品のアンサンブル演習を通して、オペラの基本的舞台表現法の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品から重唱曲を取り上げ、歌い演ずることを通して、オペラの歌唱・演技表現の基礎を学ぶ。「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」の中から選曲し、基礎的な表現法を身につける。
個々の声種・声質と希望する役柄を確認し、曲目やシーンを決めた後、音楽稽古、立ち稽古、通し稽古と進行させていく。日本語訳詞を使う場合もある。

- 1) オリエンテーション・声聞き
- 2) 演目、配役、役割分担決め
- 3) 音楽稽古1(楽譜読み)
- 4) 音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 5) 音楽稽古3(暗譜稽古)
- 6) 舞台設定計画、暗譜確認
- 7) 演出プラン説明、立ち稽古準備
- 8) 立ち稽古1(大まかな動きをつける)
- 9) 立ち稽古2(動きながら歌うことに慣れる)
- 10) 立ち稽古3(歌と演技の表現を連動させる)
- 11) 荒通し稽古
- 12) 通し稽古
- 13) 返し稽古(表現の再確認)
- 14) 授業内発表会
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

課題とされた演目、役柄に関して調べ、演奏する曲を十分に練習して授業に備えること。(目安毎日30分)
また、授業前には必ず日本語訳をしてくること。(辞書を使って自らの言葉になるよう考えること。目安90分)

◆成績評価の方法◆

随時演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「オペラ重唱名曲集1, 2, 3」(全音楽譜出版社)、ほか、適宜指示する。

◆参考図書◆

一般的なオペラ解説書、各オペラの対訳など。

◆留意事項◆

オペラの重唱曲やシーンの授業であるから、欠席の無いように留意すること。また、譜読みや暗譜など、授業に対する準備を十分に行うこと。
立ち稽古に入ってから稽古着に関しては授業中に指示する。

ナンバリング	VMS418N		
科目名	オペラ演習Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	成田 博之, 松原 有奈, 大沼 徹		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オペラ演習Ⅰでの学習を発展させ、重唱曲などのアンサンブル演習を通して、総合芸術と言われるオペラの舞台表現法の習得を目指す。

◆授業内容・計画◆

オペラ演習Ⅰの経験から、個々に相応しい演目を実習する。モーツァルトのオペラ作品をはじめ、バロックオペラやロマン派オペラまで、様々なオペラの場面を、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通してオペラの表現法を学ぶ。
レチタティーヴォ・セッコも含めたシーンを題材として取り上げ、舞台表現法を身につける。
個々の声種・声質と希望する役柄を確認し、シーンを決めた後、音楽稽古、立ち稽古、通し稽古、発表会へと進行させていく。

- 1) オリエンテーション
- 2) 演目、配役、役割分担決め
- 3) 音楽稽古1(楽譜読み)
- 4) 音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 5) 音楽稽古3(暗譜稽古)
- 6) 舞台設定計画、暗譜確認
- 7) 演出プラン説明、立ち稽古準備
- 8) 立ち稽古1(大まかな動きをつける)
- 9) 立ち稽古2(動きながら歌うことに慣れる)
- 10) 立ち稽古3(歌と演技の表現を連動させる)
- 11) 荒通し稽古
- 12) 通し稽古
- 13) 返し稽古(表現や進行の再確認)
- 14) 発表会
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

課題とされた演目、役柄に関して調べ、演奏する曲を十分に練習して授業に備えること。(目安毎日30分)
また、授業前には必ず日本語訳をしてくること。(辞書を使って自らの言葉になるよう考えること。目安90分)。

◆成績評価の方法◆

随時演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「オペラ重唱名曲集1, 2, 3」(全音楽譜出版社)、ほか、適宜指示する。

◆参考図書◆

一般的なオペラ解説書、各オペラの対訳など。

◆留意事項◆

オペラの重唱曲やシーンの授業であるから、欠席の無いように留意すること。また、譜読みや暗譜など、授業に対する準備を十分に行うこと。
立ち稽古に入ってから稽古着に関しては授業中に指示する。

ナンバリング	VMS419N		
科目名	アンサンブル(歌曲・オラトリオ)演習 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	加納 悦子, 黒田 博		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

歌唱力向上を目標に努力する中で、重唱においてはお互いの声質やハーモニーも認識し合い、より良いバランス感覚を身に付け、声楽アンサンブルが生み出す響きの美しさ、音楽の楽しさを体得できる。

◆授業内容・計画◆

ルネッサンス、バロックから古典派、ロマン派における世俗作品、宗教作品の重唱曲を履修学生の声種などを考慮した上で選曲し、小規模な重唱曲からオラトリオのソリストアンサンブル、合唱曲の様々なアンサンブルの形態を体験する。曲目に関してはクラス編成時の声などのバランスで適宜変更する場合がある。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: ルネサンス期の重唱曲(1) 音の確認

第3回: ルネサンス期の重唱曲(2) 詩の理解

第4回: ルネサンス期の重唱曲(3) 音楽表現

第5回: バロック時代の重唱曲(1) 音の確認

第6回: バロック時代の重唱曲(2) 詩の理解

第7回: バロック時代の重唱曲(3) 音楽表現

第8回: 古典派の宗教曲(1) 音の確認

第9回: 古典派の宗教曲(2) 歌詞の理解

第10回: 古典派の宗教曲(3) 音楽表現

第11回: モーツァルトの重唱曲(1) 音の確認

第12回: モーツァルトの重唱曲(2) 詩の理解

第13回: モーツァルトの重唱曲(3) 音楽表現

第14回: ルネッサンスから古典派作品のまとめ

第15回: アンサンブル演習 I のまとめ

第15回: 授業内発表会

◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取りをして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復習と準備を1日20分ほど練習することが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業内評価

随時演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ラテン語、イタリア語、ドイツ語の発音、学力の向上に務める事。

ナンバリング	VMS420N		
科目名	アンサンブル(歌曲・オラトリオ)演習Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	加納 悦子, 黒田 博		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

歌唱力向上を目標に努力する中で、重唱においてはお互いの声質やハーモニーも認識し合い、より良いバランス感覚を身に付け、声楽アンサンブルが生み出す響きの美しさ、音楽の楽しさを体得できる。

◆授業内容・計画◆

ロマン派におけるオラトリオ等の宗教作品や歌曲の重唱曲を授業参加者の声種などを考慮した上で選曲し、小規模な重唱曲からオラトリオのソリストアンサンブル、合唱曲まで様々なアンサンブルの形態を体験する。曲目、授業の進行計画は適宜変更する場合がある。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: イタリアロマン派の重唱曲(1)音の確認、詩の理解
- 第3回: イタリアロマン派の重唱曲(2)音楽的なまとめ
- 第4回: メンデルスゾーンの重唱曲(1)音の確認
- 第5回: メンデルスゾーンの重唱曲(2)詩の理解
- 第6回: メンデルスゾーンの重唱曲(3)音楽表現
- 第7回: シューマンの重唱曲(1)音の確認
- 第8回: シューマンの重唱曲(2)詩の理解
- 第9回: シューマンの重唱曲(3)音楽表現
- 第10回: ブラームスの重唱曲(1)音の確認
- 第11回: ブラームスの重唱曲(2)詩の理解
- 第12回: ブラームスの重唱曲(3)音楽表現
- 第13回: フランスの重唱曲(1)音の確認、詩の理解
- 第14回: フランスの重唱曲(2)音楽的なまとめ
- 第15回: アンサンブル演習Ⅱのまとめ、発表会(公開)

◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取りをして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復習と準備を1日20分ほど練習することが望ましい。

◆成績評価の方法◆

随時演習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ラテン語、イタリア語、ドイツ語の発音、学力の向上に務める事。

ナンバリング	CCS429N		
科目名	ピアノ指導研究 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	堀江 志磨, 濱尾 夕美, 山内 のり子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

導入期および様々なレベルのスクーリング生への指導実習を通して適切な指導のあり方を探究し、現場でただちに生かせる実践的なスキルを身につけると同時に、質の高いピアノ指導者としての能力を習得する。

◆授業内容・計画◆

- ・各学生が毎週家庭に赴いて指導実習(レッスン)を担当するスクーリング生(各学生が1名のスクーリング生を2年間指導する。幼稚園年長児～中学1年生が対象)を大学で指導し、教員と5名の学生とのディスカッション形式によって進める。
- ・円滑な指導実習のため毎回、指導計画表を作成し、レッスンの目標を明確にするとともに、反省点・達成度を確認し、次回につなげる。
- ・3,4年合同で特別講師の授業を受ける。
- ・指導実習の成果として、スクーリング生によるミニコンサートを学内施設にて開催し、その企画、運営に携わる。

- 第1回 3,4年合同授業①生徒の指導実習報告と教材発表
第2回 クラス授業①今後の指導実習の目標と計画
第3回 スクーリング授業①生徒の能力の把握
第4回 3,4年合同授業②特別講師による講義
「レポート作成について」
第5回 クラス授業②指導状況や課題点のディスカッション
第6回 スクーリング授業②ソルフェージュ指導法
第7回 クラス授業③生徒課題曲の指導ポイントと演奏
第8回 スクーリング授業③テクニック指導法
第9回 クラス授業④指導実習経過報告と改善点
第10回 スクーリング授業④3年合同リハーサル
第11回 クラス授業⑤子供のための小品の初見演奏
第12回 スクーリング授業⑤ミニコンサートに向けての仕上げ
第13回 スクーリング生によるミニコンサート
第14回 3,4年合同授業③指導経過報告と発表会準備および講師演奏連弾曲のペア決め
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指導実習(レッスン)に備えて指導計画表を作成し、目標をもって臨む。
- ・指導実習(レッスン)後、反省点や改善点及び指導成果などを指導計画表に書いて担当教員に提出し、次回に向けてのアドバイスを受ける。
- ・指導計画表を参考にスクーリングで指導する内容とポイントをしっかりとつかんでおく。
- ・各行事の企画、運営を学生で話し合い、協力して、円滑に実施できるように準備する。
- ・これらの課題を準備するため、週2時間程度の時間が必要である。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。指導計画表を随時提出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各自の指導実習で使用する楽譜を事前に提出すること。

ナンバリング	CCS430N		
科目名	ピアノ指導研究Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	堀江 志磨, 濱尾 夕美, 山内 のり子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

導入期および様々なレベルのスクーリング生への指導実習を通して適切な指導のあり方を探究し、現場でただちに生かせる実践的なスキルを身につけると同時に、質の高いピアノ指導者をめざす。

◆授業内容・計画◆

- ・各学生が毎週家庭に赴いて指導実習(レッスン)を担当するスクーリング生(各学生が1名のスクーリング生を2年間指導する。幼稚園年長児～中学1年生が対象)を大学で指導し、教員と5名の学生とのディスカッション形式によって進める。
- ・円滑な指導実習のため毎回、指導計画表を作成し、レッスンの目標を明確にするとともに、反省点・達成度を確認し、次回につなげる。
- ・3,4年合同で特別講師の授業を受ける。
- ・指導実習の成果として、スクーリング生によるピアノ発表会を本学小ホールにて開催し、その企画、運営に携わる。
- ・発表会の講師演奏に向けて、アンサンブル実習(連弾)を行なう。

- 第1回 スクーリング授業①夏休み課題曲の指導
第2回 3, 4年合同授業①特別講師による講義
「幼児期・児童期の行動特性と指導法について」
第3回 クラス授業①アンサンブル実習(連弾)①作品の解釈と呼吸の合わせ方
第4回 スクーリング授業②発表会課題曲決め
第5回 クラス授業②アンサンブル実習(連弾)②バランスの取り方と響きの追求
第6回 スクーリング授業③発表会課題曲指導
第7回 クラス授業③アンサンブル実習(連弾)③表現法
第8回 スクーリング授業④3年スクーリング生合同リハーサル
第9回 クラス授業④3年合同リハーサル 連弾演奏発表
第10回 スクーリング授業⑤発表会課題曲仕上げ
第11回 クラス授業⑤アンサンブル実習(連弾)④互いに聴きあいコメント
第12回 クラス授業⑥アンサンブル実習(連弾)⑤仕上げ
第13回 スクーリング生による発表会(講堂小ホール)連弾演奏発表
第14回 3,4年合同授業②4年生のレポート発表聴講および発表会の反省
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指導実習(レッスン)に備えて指導計画表を作成し、目標をもって臨む。
- ・指導実習(レッスン)後、反省点や改善点及び指導成果などを指導計画表に書いて担当教員に提出し、次回に向けてのアドバイスを受ける。
- ・指導計画表を参考にスクーリングで指導する内容とポイントをしっかりとつかんでおく。
- ・スクーリング生による発表会の企画、運営を学生で話し合い、協力して、円滑に実施できるように準備する。
- ・連弾曲を研究し、練習する。
- ・これらの課題を準備するため、週2時間程度の時間が必要である。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。指導計画表を随時提出し、フィードバックするとともに、連弾演奏も含め総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各自の指導実習で使用する楽譜を事前に提出すること。

ナンバリング	CCS431N		
科目名	ピアノ指導研究Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	近藤 伸子, 沢田 千秋, 進藤 郁子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前年度のスクーリング生への指導実習による経験を生かして、より適切な指導のあり方を探究し、現場でただちに生かせる実践的なスキルを身につけると同時に、質の高いピアノ指導者としての能力を習得する。

◆授業内容・計画◆

- ・各学生が毎週家庭に赴いて指導実習(レッスン)を担当するスクーリング生(各学生が1名のスクーリング生を2年間指導する。幼稚園年長児～中学1年生が対象)を大学で指導し、教員と4名または5名の学生とのディスカッション形式によって進める。
- ・円滑な指導実習のため毎回、指導計画表を作成し、レッスンの目標を明確にするとともに、反省点・達成度を確認し、次回につなげる。
- ・3,4年合同で特別講師の授業を受ける。
- ・指導実習の成果として、スクーリング生によるミニコンサートを学内施設にて開催し、その企画、運営に携わる。
- ・修了レポートのテーマを決めて、章立てをする。

第1回 3,4年合同授業①生徒の指導実習報告と教材発表およびレポート研究テーマ発表

第2回 クラス授業①指導実習2年目の目標と計画

第3回 スクーリング授業①生徒の能力の把握と教材見直し

第4回 3,4年合同授業②特別ゲストによる講義
「レポート作成について」

第5回 クラス授業②指導状況や課題点のディスカッション

第6回 スクーリング授業②ミニコンサート課題曲決め

第7回 クラス授業③生徒課題曲の指導ポイントと演奏

第8回 スクーリング授業③ミニコンサート課題曲の指導

第9回 クラス授業④レポート研究テーマと章立て

第10回 スクーリング授業④リハーサル

第11回 クラス授業⑤レポート内容と参考文献

第12回 スクーリング授業⑤ミニコンサートに向けての仕上げ

第13回 スクーリング生によるミニコンサート

第14回 3,4年合同授業③発表会準備

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指導実習(レッスン)に備えて指導計画表を作成し、目標をもって臨む。
- ・指導実習(レッスン)後、反省点や改善点及び指導成果などを指導計画表に書いて担当教員に提出し、次回に向けてのアドバイスを受ける。
- ・指導計画表を参考にスクーリングで指導する内容とポイントをしっかりとつかんでおく。
- ・各行事の企画、運営を学生で話し合い、協力して、円滑に実施できるように準備する。
- ・コース修了レポートの研究テーマと筋立てを決め、作成を進める。
- ・これらの課題を準備するため、週2時間程度の時間が必要である。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。指導計画表を随時提出し、フィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各自の指導実習で使用する楽譜を事前に提出すること。

ナンバリング	CCS432N		
科目名	ピアノ指導研究Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	近藤 伸子, 沢田 千秋, 進藤 郁子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

これまでのスクーリング生への指導実習による経験を生かして、より適切な指導のあり方を探究し、現場でただちに生かせる実践的なスキルを身につけると同時に、質の高いピアノ指導者をめざす。

◆授業内容・計画◆

- ・各学生が毎週家庭に赴いて指導実習(レッスン)を担当するスクーリング生(各学生が1名のスクーリング生を2年間指導する。幼稚園年長児～中学1年生が対象)を大学で指導し、教員と4名または5名の学生とのディスカッション形式によって進める。
- ・円滑な指導実習のため毎回、指導案を作成し、レッスンの目標を明確にするとともに、反省点・達成度を確認し、次回につなげる。
- ・3,4年合同授業で、特別講師の授業を受ける。
- ・指導実習の成果として、スクーリング生によるピアノ発表会を本学小ホールにて開催し、その企画、運営に携わる。
- ・2年間の指導研究のまとめとして、レポートを作成する。

- 第1回 スクーリング授業①夏休み課題曲の指導
 第2回 3,4年合同授業①特別講師による講義
 「幼児期・児童期の行動特性と指導法について」
 第3回 クラス授業①レポート作成(ディスカッション)
 第4回 スクーリング授業②発表会課題曲決め
 第5回 クラス授業②レポート作成(中間発表, ディスカッション)
 第6回 スクーリング授業③発表会課題曲指導
 第7回 クラス授業③レポート作成仕上げ
 第8回 スクーリング授業④4年スクーリング生合同リハーサル
 第9回 クラス授業④レポート発表
 第10回 スクーリング授業⑤発表会課題曲仕上げ
 第11回 クラス授業⑤課題曲の表現法と演奏
 第12回 クラス授業⑥指導実習2年間の感想
 第13回 スクーリング生による発表会(講堂小ホール)4年講師演奏(合唱)
 第14回 3,4年合同授業②レポート発表、スクーリング生による発表会の反省
 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指導実習(レッスン)に備えて指導計画表を作成し、目標をもって臨む。
- ・指導実習(レッスン)後、反省点や改善点及び指導成果などを指導計画表に書き、担当教員に提出し、次回に向けてのアドバイスを受ける。
- ・指導計画表を参考にスクーリングで指導する内容とポイントをしっかりとつかんでおく。
- ・各行事の企画、運営を学生で話し合い、協力して、円滑に実施できるように準備する。
- ・修了レポートの作成とプレゼンテーションの練習。
- ・これらの課題を準備するため、週2時間程度の時間が必要である。

◆成績評価の方法◆

指導計画表の随時提出、修了レポート提出、平常の授業への取り組みについてフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

各自の指導実習で使用する楽譜を事前に提出すること。

ナンバリング	CCL461N		
科目名	オルガン研究 I		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-A	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オルガンは、鍵盤楽器であると同時に管楽器であることを理解し、その構造及び歴史についての基礎的知識を得る。オルガン作品の様式別(時代、地域)に奏法及びレジストレーションの知識を得る。

◆授業内容・計画◆

オルガンの構造を学び、その変遷をたどると共に、CDによるヨーロッパ各地の歴史的オルガンの紹介と、楽器と作品との関連性を研究する。イタリアのオルガン作品、フランス古典作品を取り上げ、実際の演奏を踏まえながら、演奏スタイル、レジストレーションを学ぶ。

第1回;CDと映像によるイタリアの楽器とオルガン作品の紹介

第2回;イタリアバロックのオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 前半

第3回;イタリアバロックのオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 後半

第4回;G.フレスコバルディの作品の中から「トッカータ」の演奏スタイルを学ぶ

第5回;G.フレスコバルディの作品の中から「カンツォーナ」の演奏スタイルを学ぶ

第6回;G.フレスコバルディの作品の中から「エレヴァツィオーネ」の演奏スタイルを学ぶ

第7回;CDと映像によるフランス古典(バロック期)楽器とオルガン作品の紹介

第8回;フランス古典のオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 前半

第9回;フランス古典のオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 後半

第10回;L. N. クレランポーの作品の演奏スタイルを学ぶ

第11回;F.クーブランの作品の演奏スタイルを学ぶ 前半

第12回;F.クーブランの作品の演奏スタイルを学ぶ 後半

第13回;N. de. グリニの作品の演奏スタイルを学ぶ 前半

第14回;N. de. グリニの作品の演奏スタイルを学ぶ 後半

第15回;まとめと評価

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)

音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

授業内(授業最終日)に筆記試験を行い評価する。

レポート提出無。

授業内の課題に対しては適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	CCL462N		
科目名	オルガン研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	SPC-A	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オルガン研究IIに引き続き、オルガン作品の様式別(時代・地域)に、奏法及びレジストレーションの知識を得る。

◆授業内容・計画◆

楽器の変遷をたどると共に、CDによるヨーロッパ各地の歴史的オルガンの紹介と、楽器と作品の関連性を研究する。ドイツバロックの作品を取り上げ、実際の演奏も踏まえながら、オルガンストップの音響と特性、レジストレーションについて学ぶ。

第1回;CDと映像によるドイツのバロック(前後の時代も含む)楽器とオルガン作品の紹介
第2回;北ドイツオルガン楽派(D.ブクステフーデ)前半
第3回;北ドイツオルガン楽派(D.ブクステフーデ)後半
第4回;北ドイツオルガン楽派(S.シャイト、H.シャイデマン)
第5回;北ドイツオルガン楽派(N.ブルーンズ 他)
第6回;J.S.バッハの作品から「前奏曲とフーガ」前半
第7回;J.S.バッハの作品から「前奏曲とフーガ」後半
第8回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:オルゲルビュイライン
第9回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:ライブツィヒ・コラール
第10回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:クラヴィア・ユーブンゲ
第11回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:シュプラー・コラール 他
第12回;南ドイツのオルガン作品(J.J.フローベルガー)
第13回;南ドイツのオルガン作品(G.ムファット)
第14回;南ドイツのオルガン作品(J.パツヘルベル)
第15回;まとめと評価

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

授業内(授業最終日)に筆記試験を行い評価する。
レポート提出無。
授業内の課題に対しては適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

「オルガンの芸術」(道和書院2019)

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	CCL463N		
科目名	オルガン研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	SPC-A	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オルガンは、鍵盤楽器であると同時に管楽器であることを理解し、その構造及び歴史についての基礎的知識を得る。オルガン作品の様式別(時代、地域)に奏法及びレジストレーションの知識を得る。

◆授業内容・計画◆

オルガンの構造を学び、その変遷をたどると共に、CDによるヨーロッパ各地の歴史的オルガンの紹介と、楽器と作品との関連性を研究する。イタリアのオルガン作品、フランス古典作品を取り上げ、実際の演奏を踏まえながら、演奏スタイル、レジストレーションを学ぶ。

第1回;CDと映像によるイタリアの楽器とオルガン作品の紹介

第2回;イタリアバロックのオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 前半

第3回;イタリアバロックのオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 後半

第4回;G.フレスコバルディの作品の中から「トッカータ」の演奏スタイルを学ぶ

第5回;G.フレスコバルディの作品の中から「カンツォーナ」の演奏スタイルを学ぶ

第6回;G.フレスコバルディの作品の中から「エレヴァツィオーネ」の演奏スタイルを学ぶ

第7回;CDと映像によるフランス古典(バロック期)楽器とオルガン作品の紹介

第8回;フランス古典のオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 前半

第9回;フランス古典のオルガン作品を取り上げ、レジストレーションに触れながら、その奏法を学ぶ 後半

第10回;L. N. クレランボーの作品の演奏スタイルを学ぶ

第11回;F.クーブランの作品の演奏スタイルを学ぶ 前半

第12回;F.クーブランの作品の演奏スタイルを学ぶ 後半

第13回;N. de. グリニの作品の演奏スタイルを学ぶ 前半

第14回;N. de. グリニの作品の演奏スタイルを学ぶ 後半

第15回;まとめと評価

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)

音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

授業内(授業最終日)に筆記試験を行い評価する。

レポート提出無。

授業内の課題に対しては適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	CCL464N		
科目名	オルガン研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	青田 絹江		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	SPC-A	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オルガン研究IIに引き続き、オルガン作品の様式別(時代・地域)に、奏法及びレジストレーションの知識を得る。

◆授業内容・計画◆

楽器の変遷をたどると共に、CDによるヨーロッパ各地の歴史的オルガンの紹介と、楽器と作品の関連性を研究する。ドイツバロックの作品を取り上げ、実際の演奏も踏まえながら、オルガンストップの音響と特性、レジストレーションについて学ぶ。

第1回;CDと映像によるドイツのバロック(前後の時代も含む)楽器とオルガン作品の紹介
第2回;北ドイツオルガン楽派(D.ブクステフーデ)前半
第3回;北ドイツオルガン楽派(D.ブクステフーデ)後半
第4回;北ドイツオルガン楽派(S.シャイト、H.シャイデマン)
第5回;北ドイツオルガン楽派(N.ブルーンズ 他)
第6回;J.S.バッハの作品から「前奏曲とフーガ」前半
第7回;J.S.バッハの作品から「前奏曲とフーガ」後半
第8回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:オルゲルビュイライン
第9回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:ライブツィヒ・コラール
第10回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:クラヴィア・ユーブンゲ
第11回;J.S.バッハのオルガン作品から「コラール」:シュプラー・コラール 他
第12回;南ドイツのオルガン作品(J.J.フローベルガー)
第13回;南ドイツのオルガン作品(G.ムファット)
第14回;南ドイツのオルガン作品(J.パツヘルベル)
第15回;まとめと評価

◆準備学習の内容◆

作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
宿題とされた課題を解決するために、毎日一定時間実技練習をして授業にそなえること。(練習の目安時間120分以上)
音楽用語などは授業前には必ず辞書で日本語訳を調べてくること。

◆成績評価の方法◆

授業内(授業最終日)に筆記試験を行い評価する。
レポート提出無。
授業内の課題に対しては適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。授業内に必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

「オルガンの芸術」(道和書院2019)

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	KBS428N		
科目名	電子オルガン・アンサンブルⅠ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時間		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

独奏作品とは異なる視点からより立体的な音楽構造についての洞察力を養う。各パートごとの役割を踏まえた作品分析により、作曲者の意図するところをより深く読み解く。他者の響きとの融合を踏まえた音楽作りを学ぶ。

◆授業内容・計画◆

普段ソロで演奏することの多い電子オルガンだが、アンサンブルをすることにより、他者の音をよく聴き、各々の役割を尊重しつつ音でのコミュニケーションを図る。
演奏形態は二人一組が望ましい。

- 次の中から題材を選択し、編曲・演奏に臨む。
- 1) 管弦楽作品や吹奏楽作品等のトランスクリプション
 - 2) ピアノ作品(ソロや二台ピアノ等)を管弦楽等を想定し編曲
 - 3) ビッグバンド作品等のトランスクリプションやスタンダード作品の編曲
 - 4) 電子オルガンアンサンブルのための自作品

個々のパートは各々が自分で編曲する。
自作品は一人が作曲しパート分けする場合もある。
選曲のジャンルは問わない。
通年、各グループ1曲以上の作品を完成させ、電子オルガン学内演奏会のためのオーディション合格を目指す。
原則として二名一組でグループ分けするが、特別な場合に限り三名一組等の例外もある。

15回の授業計画

- 1) ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2) 予めグループで選曲したいいくつかの候補曲の音源を聴き、または作品の構想を話し合い、題材を決定する。
パート分けを考慮したアンサンブル作編曲の留意点を学ぶ。
- 3) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (1-1)パートの分け方 声部構成に沿って
- 4) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (1-2)パートの分け方 音色構成に沿って
- 5) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (2-1)取るべき音 声部構成の視点から
- 6) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (2-2)取るべき音 音色構成の視点から
- 7) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (3-1)取れない音の工夫 音色としての補填
- 8) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (3-2)取れない音の工夫 エフェクトの活用
- 9) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (4-1)トゥッティの分け方 声部構成に沿って
- 10) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (4-2)トゥッティの分け方 音色構成に沿って
- 11) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (5-1)パーカッションの扱い KBPの活用
- 12) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (5-2)パーカッションの扱い リズムパターンの活用
- 13) これまでの取組みの確認 (6-1) 楽譜の確認と修正
- 14) これまでの取組みの確認 (6-2) レジストレーションの確認と修正
- 15) まとめと後期に向けた準備事項の確認

◆準備学習の内容◆

グループで相談し、色々な音源を聴きながら選曲する。
分担するパートを決め、各々が予め自分で編曲する。
編曲・レジストレーション作成・演奏練習等、毎回30～60分は予習の時間を確保し授業に臨むことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みにより評価する。
編曲・演奏内容については適宜フィードバックする。試験の演奏については講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定

◆参考図書◆

使用するスコア・参考音源等は各自で用意

◆留意事項◆

欠席や編曲・練習の遅れはグループ全体の進度に関わるため、準備を万全にして授業に臨むこと。

ナンバリング	KBS429N		
科目名	電子オルガン・アンサンブルⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

独奏作品とは異なる視点からより立体的な音楽構造についての洞察力を養う。各パートごとの役割を踏まえた作品分析により、作曲者の意図するところをより深く読み解く。アンサンブルを通して自分の音の役割りを分析・研究することで、音で対話することを習得する。

◆授業内容・計画◆

ケーションを図る。
演奏形態は二人一組が望ましい。

- 次の中から題材を選択し、編曲・演奏に臨む。
- 1)管弦楽作品や吹奏楽作品等のトランスクリプション
 - 2)ピアノ作品(ソロや二台ピアノ等)を管弦楽等を想定し編曲
 - 3)ビッグバンド作品等のトランスクリプションやスタンダード作品の編曲
 - 4)電子オルガンアンサンブルのための自作品

個々のパートは各々が自分で編曲する。
自作品は一人が作曲しパート分けする場合もある。
選曲のジャンルは問わない。
通年、各グループ1曲以上の作品を完成させ、電子オルガン学内演奏会のためのオーディション合格を目指す。
原則として二名一組でグループ分けするが、特別な場合に限り三名一組等の例外もある。

15回の授業計画

- 1) ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2) 前期より取り組んできた曲の音源を聴き直し、または作品の構想を再確認し、目指すべき演奏表現について、また技術的な課題についての考察。
- 3) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (1-1) テンポを落としパート間の関係性を緻密に確認 楽譜の面から
- 4) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (1-2) テンポを落としパート間の関係性を緻密に確認 レジストレーションの面から
- 5) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (2-1) パート間の関係性を演奏中に聴きながら機敏な判断力の向上 楽譜の面から
- 6) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (2-2) パート間の関係性を演奏中に聴きながら機敏な判断力の向上 レジストレーションの面から
- 7) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (3-1) 実際のテンポによる演奏における技術的な課題の確認と修正 楽譜の面から
- 8) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (3-2) 実際のテンポによる演奏における技術的な課題の確認と修正 レジストレーションの面から
- 9) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-1) 作曲者の意図の再確認 編曲の面から 個々の場面について
- 10) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-2) 作曲者の意図の再確認 編曲の面から 全体の構成を考慮して
- 11) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-3) 作曲者の意図の再確認 表現の面から 個々の場面について
- 12) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-4) 作曲者の意図の再確認 表現の面から 全体の構成を考慮して
- 13) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (5-1) 最終的な演奏表現の確認 個々の場面について
- 14) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (5-2) 最終的な演奏表現の確認 全体の構成を考慮して
- 15) 授業内演奏試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

グループで相談し、色々な音源を聴きながら選曲する。
分担するパートを決め、各々が予め自分で編曲する。
編曲・レジストレーション作成・演奏練習等、毎回30～60分は予習の時間を確保し授業に臨むことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みにより評価する。
編曲・演奏内容については適宜フィードバックする。試験の演奏については講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定

◆参考図書◆

使用するスコア・参考音源等は各自で用意

◆留意事項◆

欠席や編曲・練習の遅れはグループ全体の進度に関わるため、準備を万全にして授業に臨むこと。

ナンバリング	KBS430N		
科目名	電子オルガン・アンサンブルⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

独奏作品とは異なる視点からより立体的な音楽構造についての洞察力を養う。各パートごとの役割を踏まえた作品分析により、作曲者の意図するところをより深く読み解く。より高度なアンサンブル作編曲を通して作品分析力を向上させ独奏作品への取組みにも反映させる。

◆授業内容・計画◆

普段ソロで演奏することの多い電子オルガンだが、アンサンブルをすることにより、他者の音をよく聴き、各々の役割を尊重しつつ音でのコミュニケーションを図る。
演奏形態は二人一組が望ましい。

- 次の中から題材を選択し、編曲・演奏に臨む。
- 1) 管弦楽作品や吹奏楽作品等のトランスクリプション
 - 2) ピアノ作品(ソロや二台ピアノ等)を管弦楽等を想定し編曲
 - 3) ビッグバンド作品等のトランスクリプションやスタンダード作品の編曲
 - 4) 電子オルガンアンサンブルのための自作品

個々のパートは各々が自分で編曲する。
自作品は一人が作曲しパート分けする場合もある。
選曲のジャンルは問わない。
通年、各グループ1曲以上の作品を完成させ、電子オルガン学内演奏会のためのオーディション合格を目指す。
原則として二名一組でグループ分けするが、特別な場合に限り三名一組等の例外もある。

15回の授業計画

- 1) ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2) 予めグループで選曲したいいくつかの候補曲の音源を聴き、または作品の構想を話し合い、題材を決定する。
パート分けを考慮したアンサンブル作編曲の留意点を学ぶ。
- 3) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (1-1)パートの分け方 声部構成に沿って
- 4) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (1-2)パートの分け方 音色構成に沿って
- 5) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (2-1)取るべき音 声部構成の視点から
- 6) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (2-2)取るべき音 音色構成の視点から
- 7) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (3-1)取れない音の工夫 音色としての補填
- 8) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (3-2)取れない音の工夫 エフェクトの活用
- 9) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (4-1)トゥッツィの分け方 声部構成に沿って
- 10) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (4-2)トゥッツィの分け方 音色構成に沿って
- 11) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (5-1)パーカッションの扱い KBPの活用
- 12) 作編曲の過程や手法を実際に音を出しながら確認 (5-2)パーカッションの扱い リズムパターンの活用
- 13) これまでの取組みの確認 (6-1) 楽譜の確認と修正
- 14) これまでの取組みの確認 (6-2) レジストレーションの確認と修正
- 15) まとめと後期に向けた準備事項の確認

◆準備学習の内容◆

グループで相談し、色々な音源を聴きながら選曲する。
分担するパートを決め、各々が予め自分で編曲する。
編曲・レジストレーション作成・演奏練習等、毎回30～60分は予習の時間を確保し授業に臨むことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みにより評価する。
編曲・演奏内容については適宜フィードバックする。試験の演奏については講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定

◆参考図書◆

使用するスコア・参考音源等は各自で用意

◆留意事項◆

欠席や編曲・練習の遅れはグループ全体の進度に関わるため、準備を万全にして授業に臨むこと。

ナンバリング	KBS431N		
科目名	電子オルガン・アンサンブルⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	渡辺 睦樹		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

独奏作品とは異なる視点からより立体的な音楽構造についての洞察力を養う。各パートごとの役割を踏まえた作品分析により、作曲者の意図するところをより深く読み解く。より立体的な音楽体験を通して今後の作編曲についての視野を広げていく。

◆授業内容・計画◆

ニヶーションを図る。
演奏形態は二人一組が望ましい。

- 次の中から題材を選択し、編曲・演奏に臨む。
- 1) 管弦楽作品や吹奏楽作品等のトランスクリプション
 - 2) ピアノ作品(ソロや二台ピアノ等)を管弦楽等を想定し編曲
 - 3) ビッグバンド作品等のトランスクリプションやスタンダード作品の編曲
 - 4) 電子オルガンアンサンブルのための自作品

個々のパートは各々が自分で編曲する。
自作品は一人が作曲しパート分けする場合もある。
選曲のジャンルは問わない。
通年、各グループ1曲以上の作品を完成させ、電子オルガン学内演奏会のためのオーディション合格を目指す。
原則として二名一組でグループ分けするが、特別な場合に限り三名一組等の例外もある。

15回の授業計画

- 1) ガイダンス 授業目標と授業内容についての概説
- 2) 前期より取り組んできた曲の音源を聴き直し、または作品の構想を再確認し、目指すべき演奏表現について、また技術的な課題についての考察。
- 3) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (1-1) テンポを落としパート間の関係性を緻密に確認 楽譜の面から
- 4) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (1-2) テンポを落としパート間の関係性を緻密に確認 レジストレーションの面から
- 5) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (2-1) パート間の関係性を演奏中に聴きながら機敏な判断力の向上 楽譜の面から
- 6) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (2-2) パート間の関係性を演奏中に聴きながら機敏な判断力の向上 レジストレーションの面から
- 7) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (3-1) 実際のテンポによる演奏における技術的な課題の確認と修正 楽譜の面から
- 8) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (3-2) 実際のテンポによる演奏における技術的な課題の確認と修正 レジストレーションの面から
- 9) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-1) 作曲者の意図の再確認 編曲の面から 個々の場面について
- 10) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-2) 作曲者の意図の再確認 編曲の面から 全体の構成を考慮して
- 11) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-3) 作曲者の意図の再確認 表現の面から 個々の場面について
- 12) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (4-4) 作曲者の意図の再確認 表現の面から 全体の構成を考慮して
- 13) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (5-1) 最終的な演奏表現の確認 個々の場面について
- 14) 詳細な確認と技術面・表現面を中心とした練習 (5-2) 最終的な演奏表現の確認 全体の構成を考慮して
- 15) 授業内演奏試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

グループで相談し、色々な音源を聴きながら選曲する。
分担するパートを決め、各々が予め自分で編曲する。
編曲・レジストレーション作成・演奏練習等、毎回30～60分は予習の時間を確保し授業に臨むことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みにより評価する。
編曲・演奏内容については適宜フィードバックする。試験の演奏については講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指定

◆参考図書◆

使用するスコア・参考音源等は各自で用意

◆留意事項◆

欠席や編曲・練習の遅れはグループ全体の進度に関わるため、準備を万全にして授業に臨むこと。

ナンバリング	SWS485N		
科目名	オーケストラ・スタディⅠ		
科目詳細	弦		
担当教員	青木 高志		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

1,2年生で学んだオーケストラ演奏に対する姿勢、および技術をさらに深めるため、多くの代表的楽曲を使用する。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第40番
第3回目:モーツァルト交響曲第40番
第4回目:シューベルト交響曲「未完成」
第5回目:シューベルト交響曲「未完成」
第6回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第7回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第8回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第9回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第10回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第11回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第12回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第13回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第14回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏,参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生は、ヴィオラを交代で担当することがある。

ナンバリング	SWS485N		
科目名	オーケストラ・スタディⅠ		
科目詳細	木管・金管・打楽器		
担当教員	幸西 秀彦, 岸良 開城, 菅井 春恵		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

基本となる古典的なオーケストラ・レパートリーを習得する。オーケストラ奏者としてのマナーや習慣も学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲1 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲1 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲1 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲2 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲2 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲2 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲3 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲3 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲3 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲4 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲4 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲4 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲4 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

※各回の進行は目安であり、取り扱う課題曲の難易度や内容等授業の様子を見て柔軟に進める

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業への出席
授業への取り組み方
オーケストラ・レパートリーの習熟度
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業で採り上げる課題楽曲のスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS485N		
科目名	オーケストラ・スタディⅠ		
科目詳細	管楽器・打楽器クラス共通シラバス		
担当教員	高橋 聖純, 大和田 智彦, 井手 詩朗, 井川 明彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

基本となる古典的なオーケストラ・レパートリーを習得する。オーケストラ奏者としてのマナーや習慣も学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲1 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲1 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲1 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲2 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲2 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲2 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲3 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲3 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲3 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲4 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲4 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲4 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲4 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

※各回の進行は目安であり、取り扱う課題曲の難易度や内容等授業の様子を見て柔軟に進める

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業への出席
 授業への取り組み方
 オーケストラ・レパートリーの習熟度
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業で採り上げる課題楽曲のスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS485N		
科目名	オーケストラ・スタディⅠ		
科目詳細	弦楽器クラス		
担当教員	青木 高志		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

1,2年生で学んだオーケストラ演奏に対する姿勢、および技術をさらに深めるため、多くの代表的楽曲を使用する。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第40番
第3回目:モーツァルト交響曲第40番
第4回目:シューベルト交響曲「未完成」
第5回目:シューベルト交響曲「未完成」
第6回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第7回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第8回目:ベートーヴェン交響曲第5番
第9回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第10回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第11回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第12回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第13回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第14回目:ドヴォルザーク交響曲第9番「新世界」
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生は、ヴィオラを交代で担当することがある。

ナンバリング	SWS486N		
科目名	オーケストラ・スタディⅡ		
科目詳細	弦		
担当教員	青木 高志		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

前期に続き、オーケストラ作品の中から代表的楽曲を取り上げ、アンサンブル能力・演奏技術・作品への理解度を高める。

第1回目: ガイダンス
第2回目: モーツァルト交響曲第41番
第3回目: モーツァルト交響曲第41番
第4回目: シューベルト交響曲第5番
第5回目: シューベルト交響曲第5番
第6回目: ベートーヴェン交響曲第7番
第7回目: ベートーヴェン交響曲第7番
第8回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第9回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第10回目: ドヴォルザーク交響曲第8番
第11回目: ドヴォルザーク交響曲第8番
第12回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第13回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第14回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生は、ヴィオラを交代で担当することがある。

ナンバリング	SWS486N		
科目名	オーケストラ・スタディⅡ		
科目詳細	木管・金管・打楽器		
担当教員	幸西 秀彦, 岸良 開城, 菅井 春恵		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラ・スタディⅠのレパートリーから近現代作曲家までの作品に取り組み、さらにオーケストラ曲の経験を積み理解を深める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲5 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲5 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲5 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲6 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲6 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲6 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲7 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲7 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲7 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲8 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲8 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲8 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲8 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

※各回の進行は目安であり、取り扱う課題曲の難易度や内容等授業の様子を見て柔軟に進める

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業で採り上げる楽曲のスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS486N		
科目名	オーケストラ・スタディⅡ		
科目詳細	管楽器・打楽器クラス共通シラバス		
担当教員	高橋 聖純, 大和田 智彦, 井手 詩朗, 井川 明彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1, 4, 6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラ・スタディⅠのレパートリーから近現代作曲家までの作品に取り組み、さらにオーケストラ曲の経験を積み理解を深める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲5 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲5 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲5 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲6 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲6 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲6 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲7 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲7 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲7 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲8 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲8 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲8 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲8 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

※各回の進行は目安であり、取り扱う課題曲の難易度や内容等授業の様子を見て柔軟に進める

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

各授業で採り上げる楽曲のスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS486N		
科目名	オーケストラ・スタディⅡ		
科目詳細	弦楽器シラバス		
担当教員	青木 高志		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

前期に続き、オーケストラ作品の中から代表的楽曲を取り上げ、アンサンブル能力・演奏技術・作品への理解度を高める。

第1回目:ガイダンス
第2回目:モーツァルト交響曲第41番
第3回目:モーツァルト交響曲第41番
第4回目:シューベルト交響曲第5番
第5回目:シューベルト交響曲第5番
第6回目:ベートーヴェン交響曲第7番
第7回目:ベートーヴェン交響曲第7番
第8回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第9回目:ベートーヴェン交響曲第3番
第10回目:ドヴォルザーク交響曲第8番
第11回目:ドヴォルザーク交響曲第8番
第12回目:ベートーヴェン交響曲第9番
第13回目:ベートーヴェン交響曲第9番
第14回目:ベートーヴェン交響曲第9番
第15回目:まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生は、ヴィオラを交代で担当することがある。

ナンバリング	SWS487N		
科目名	オーケストラ・スタディⅢ		
科目詳細	弦		
担当教員	篠原 英和		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

オーケストラの代表的楽曲に加え、さらに難易度の高い楽曲を取り入れ、さらなるオーケストラ演奏の習熟を図る。

第1回目: ガイダンス
第2回目: モーツァルト序曲等
第3回目: モーツァルト序曲等
第4回目: モーツァルト交響曲第40番
第5回目: モーツァルト交響曲第40番
第6回目: ベートーヴェン交響曲第1番
第7回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第8回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第9回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第10回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第11回目: シューマン交響曲第2番
第12回目: シューマン交響曲第2番
第13回目: ブラームス交響曲第1番
第14回目: ブラームス交響曲第1番
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生はヴィオラを交代で受け持つことがある。

ナンバリング	SWS487N		
科目名	オーケストラ・スタディⅢ		
科目詳細	木管・金管・打楽器		
担当教員	高橋 聖純, 井手 詩朗, 井川 明彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラのレパートリーで古典から近現代作曲家までの作品に取り組み、通常のオーケストラ授業では踏み込めない各楽器の可能性や問題点を研究する。奏者としてのマナーや習慣も学ぶ。オーケストラ曲の経験を積み将来オーケストラプレイヤーとして活動していくための基礎とする。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 課題曲1 分奏(木管・金管・打楽器)
第3回 課題曲1 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第4回 課題曲1 合奏 仕上げ
第5回 課題曲2 分奏(木管・金管・打楽器)
第6回 課題曲2 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第7回 課題曲2 合奏 仕上げ
第8回 課題曲3 分奏(木管・金管・打楽器)
第9回 課題曲3 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第10回 課題曲3 合奏 仕上げ
第11回 課題曲4 分奏(木管・金管・打楽器)
第12回 課題曲4 合奏 各楽器の表現の工夫
第13回 課題曲4 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第14回 課題曲4 合奏 仕上げ
第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で採り上げる楽曲のパート譜とスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

オーケストラスタディーの授業には、そこで取り上げられる楽曲の各自パートを充分予習し授業に出席すること。

ナンバリング	SWS487N		
科目名	オーケストラ・スタディⅢ		
科目詳細	管楽器・打楽器クラス共通シラバス		
担当教員	高橋 聖純, 大和田 智彦, 井手 詩朗, 井川 明彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラのレパートリーで古典から近現代作曲家までの作品に取り組み、通常のオーケストラ授業では踏み込めない各楽器の可能性や問題点を研究する。奏者としてのマナーや習慣も学ぶ。オーケストラ曲の経験を積み将来オーケストラプレイヤーとして活動していくための基礎とする。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 課題曲1 分奏(木管・金管・打楽器)
第3回 課題曲1 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第4回 課題曲1 合奏 仕上げ
第5回 課題曲2 分奏(木管・金管・打楽器)
第6回 課題曲2 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第7回 課題曲2 合奏 仕上げ
第8回 課題曲3 分奏(木管・金管・打楽器)
第9回 課題曲3 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第10回 課題曲3 合奏 仕上げ
第11回 課題曲4 分奏(木管・金管・打楽器)
第12回 課題曲4 合奏 各楽器の表現の工夫
第13回 課題曲4 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
第14回 課題曲4 合奏 仕上げ
第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で採り上げる楽曲のパート譜とスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

オーケストラスタディーの授業には、そこで取り上げられる楽曲の各自パートを充分予習し授業に出席すること。

ナンバリング	SWS487N		
科目名	オーケストラ・スタディⅢ		
科目詳細	弦楽器クラス		
担当教員	篠原 英和		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

オーケストラの代表的楽曲に加え、さらに難易度の高い楽曲を取り入れ、さらなるオーケストラ演奏の習熟を図る。

第1回目: ガイダンス
第2回目: モーツァルト序曲等
第3回目: モーツァルト序曲等
第4回目: モーツァルト交響曲第40番
第5回目: モーツァルト交響曲第40番
第6回目: ベートーヴェン交響曲第1番
第7回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第8回目: ベートーヴェン交響曲第3番
第9回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第10回目: ベートーヴェン交響曲第9番
第11回目: シューマン交響曲第2番
第12回目: シューマン交響曲第2番
第13回目: ブラームス交響曲第1番
第14回目: ブラームス交響曲第1番
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生はヴィオラを交代で受け持つことがある。

ナンバリング	SWS488N		
科目名	オーケストラ・スタディⅣ		
科目詳細	弦		
担当教員	篠原 英和		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

オーケストラ楽曲の中でもさらに難易度の高い作品に取り組むことにより、卒業後、プロオーケストラのオーディションにも対応出来る技術と対策を身につける。

第1回目: ガイダンス
第2回目: ロッシーニ序曲等
第3回目: ロッシーニ序曲等
第4回目: モーツァルト交響曲第41番
第5回目: モーツァルト交響曲第41番
第6回目: ブラームス交響曲第4番
第7回目: ブラームス交響曲第4番
第8回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第9回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第10回目: ブルックナー交響曲第9番
第11回目: ブルックナー交響曲第9番
第12回目: R.シュトラウス「ドン・ファン」
第13回目: R.シュトラウス「ドン・ファン」
第14回目: R.シュトラウス「ばらの騎士」より
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生はヴィオラを交代で受け持つことがある。

ナンバリング	SWS488N		
科目名	オーケストラ・スタディⅣ		
科目詳細	木管・金管・打楽器		
担当教員	高橋 聖純, 井川 明彦, 井手 詩朗, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラ・スタディⅢで習得したオーケストラ演奏技術をさらに研究し、将来プロフェッショナルなオーケストラプレーヤーとして活動していくための高度な演奏技術を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲5 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲5 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲5 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲6 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲6 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲6 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲7 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲7 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲7 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲8 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲8 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲8 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲8 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で採り上げる楽曲のパート譜とスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

オーケストラスタディの授業には、そこで取り上げられる楽曲の各自パートを充分予習し授業に出席すること。

ナンバリング	SWS488N		
科目名	オーケストラ・スタディⅣ		
科目詳細	管楽器・打楽器クラス共通シラバス		
担当教員	高橋 聖純, 大和田 智彦, 井手 詩朗, 井川 明彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラ・スタディⅢで習得したオーケストラ演奏技術をさらに研究し、将来プロフェッショナルなオーケストラプレーヤーとして活動していくための高度な演奏技術を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲5 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第3回 課題曲5 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第4回 課題曲5 合奏 仕上げ
- 第5回 課題曲6 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第6回 課題曲6 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第7回 課題曲6 合奏 仕上げ
- 第8回 課題曲7 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第9回 課題曲7 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第10回 課題曲7 合奏 仕上げ
- 第11回 課題曲8 分奏(木管・金管・打楽器)
- 第12回 課題曲8 合奏 各楽器の表現の工夫
- 第13回 課題曲8 合奏 各楽器間のアンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲8 合奏 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

授業で演奏するパートのみならず、自分の担当する楽器の他のパートについてもしっかり練習し、移調楽器の場合は移調読みの練習もきちんとしておく。特にソロのフレーズが出てくるパートは音楽性、音量、速度など色々なパターンを演奏できるように準備をしておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で採り上げる楽曲のパート譜とスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

オーケストラスタディの授業には、そこで取り上げられる楽曲の各自パートを充分予習し授業に出席すること。

ナンバリング	SWS488N		
科目名	オーケストラ・スタディⅣ		
科目詳細	弦楽器クラス		
担当教員	篠原 英和		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

オーケストラの代表的かつ基本となる楽曲を弦楽器のみで演奏することにより、アンサンブル能力や楽曲に対する知識を深める。

◆授業内容・計画◆

オーケストラ楽曲の中でもさらに難易度の高い作品に取り組むことにより、卒業後、プロオーケストラのオーディションにも対応出来る技術と対策を身につける。

第1回目: ガイダンス
第2回目: ロッシーニ序曲等
第3回目: ロッシーニ序曲等
第4回目: モーツァルト交響曲第41番
第5回目: モーツァルト交響曲第41番
第6回目: ブラームス交響曲第4番
第7回目: ブラームス交響曲第4番
第8回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第9回目: メンデルスゾーン交響曲第4番
第10回目: ブルックナー交響曲第9番
第11回目: ブルックナー交響曲第9番
第12回目: R.シュトラウス「ドン・ファン」
第13回目: R.シュトラウス「ドン・ファン」
第14回目: R.シュトラウス「ばらの騎士」より
第15回目: まとめ

◆準備学習の内容◆

各自、演奏曲目を事前に練習し授業に望むこと

◆成績評価の方法◆

授業内での演奏、参加姿勢等を鑑み、授業内で評価する。
また、さらにレベルを高めるために、随時フィードバックをする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ヴァイオリン専攻の学生はヴィオラを交代で受け持つことがある。

ナンバリング			
科目名	管弦楽特別演習Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦, 栗田 博文		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

管弦楽Ⅰ～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハープを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハープは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 ガイダンス
- 2 前期学内演奏会への導入
- 3 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②技術的演習
- 7 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 8 前期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 9 前期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 10 前期学内演奏会
- 11 オーケストラコンサートへの導入
- 12 オーケストラコンサート全体リハーサル①
- 13 管打分奏、弦分奏
- 14 Aオーケストラ前期定期演奏会鑑賞
- 15 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
 授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出来る人と出来ない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
 ・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
 ・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
 尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴァイオラ を担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	CCS927N		
科目名	管弦楽特別演習A		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦, 幸西 秀彦, 高橋 聖純, 青木 高志, 永峰 高志, 松井 直之, 工藤 俊幸, 平子 ひさえ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。
週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- 1 ガイダンス
- 2 音楽鑑賞教室への導入
- 3 全体リハーサル①
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②
- 7 音楽鑑賞教室への仕上げ
- 8 音楽鑑賞教室への総練習
- 9 音楽鑑賞教室Aゲネプロ
- 10 音楽鑑賞教室A演奏会
- 11 音楽鑑賞教室Bゲネプロ
- 12 音楽鑑賞教室B演奏会
- 13 音楽鑑賞教室Cゲネプロ
- 14 音楽鑑賞教室C演奏会
- 15 音楽鑑賞教室Dゲネプロ
- 16 佐藤財団演奏会ゲネプロ
- 17 佐藤財団演奏会
- 18 前期定期演奏会への導入
- 19 全体リハーサル①譜読み
- 20 全体リハーサル②曲想確認
- 21 管打分奏、弦分奏①譜読みの確認前半
- 22 管打分奏、弦分奏②譜読みの確認後半
- 23 全体リハーサル③指揮の見方の演習
- 24 全体リハーサル④アンサンブルの確認
- 25 前期定期演奏会への仕上げ①技術的
- 26 前期定期演奏会への仕上げ②音楽的
- 27 前期定期演奏会への総練習①歴史的観点から曲想をとらえる。
- 28 前期定期演奏会への総練習②精神的観点から表現力を身につける。
- 29 前期定期演奏会への総練習③上記すべての観点を確認する。
- 30 前期定期演奏会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠出席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング			
科目名	管弦楽特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

管弦楽I～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハーブを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハーブは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 オーケストラコンサート全体リハーサル②
- 2 オーケストラコンサート の仕上げ
- 3 オーケストラコンサートゲネプロ
- 4 オーケストラコンサート
- 5 後期学内演奏会への導入
- 6 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 7 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 8 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 9 全体リハーサル②技術的演習
- 10 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 11 全体リハーサル④歴史的観点から楽曲をとらえる。
- 12 後期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 13 後期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 14 後期学内演奏会、後期のまとめ
- 15 Aオーケストラ後期定期演奏会鑑賞

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
 授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
 ・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
 ・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
 尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラ を担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生 ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	CCS928N		
科目名	管弦楽特別演習B		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦, 幸西 秀彦, 高橋 聖純, 青木 高志, 永峰 高志, 松井 直之, 平子 ひさえ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。
週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- オペラへの導入
- オーケストラ全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- オーケストラ分奏①譜読み前半
- オーケストラ分奏②譜読み後半
- オーケストラ全体リハーサル②全曲のイメージ確認
- 歌入りリハーサル①歌手とのアンサンブル演習
- 歌入りリハーサル②歌手とのアンサンブル確認
- 舞台稽古①オーケストラビットでの奏法の会得
- 舞台稽古②オーケストラビットでのステージとのアンサンブル演習
- 総練習
- オペラゲネプロ①演習
- オペラゲネプロ②確認
- オペラ公演①1日目
- オペラ公演②2日目
- 後期定期演奏会への導入
- 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる前半
- 全体リハーサル②全曲のイメージをとらえる後半
- 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 全体リハーサル③全曲のイメージ確認
- 全体リハーサル④指揮の見方の演習
- 後期定期演奏会への仕上げ①アンサンブルの確認
- 後期定期演奏会への仕上げ②技術的
- 後期定期演奏会への総練習①音楽的
- 後期定期演奏会への総練習②歴史的観点から曲想をとらえる。
- 後期定期演奏会への総練習③精神的観点から表現力を身につける。
- 後期定期演奏会
- 現代音楽作品研究への導入
- 現代音楽作品研究
- まとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠出席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング			
科目名	管弦楽特別演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦, 栗田 博文		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

管弦楽I～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハープを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハープは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 ガイダンス
- 2 前期学内演奏会への導入
- 3 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②技術的演習
- 7 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 8 前期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 9 前期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 10 前期学内演奏会
- 11 オーケストラコンサートの導入
- 12 オーケストラコンサート全体リハーサル①
- 13 管打分奏、弦分奏
- 14 Aオーケストラ前期定期演奏会鑑賞
- 15 前期のまとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出来る人と出来ない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴァイオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	CCS929N		
科目名	管弦楽特別演習C		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦, 幸西 秀彦, 高橋 聖純, 青木 高志, 永峰 高志, 松井 直之, 工藤 俊幸, 平子 ひさえ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- 1 ガイダンス
- 2 音楽鑑賞教室への導入
- 3 全体リハーサル①
- 4 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 5 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 6 全体リハーサル②
- 7 音楽鑑賞教室への仕上げ
- 8 音楽鑑賞教室への総練習
- 9 音楽鑑賞教室Aゲネプロ
- 10 音楽鑑賞教室A演奏会
- 11 音楽鑑賞教室Bゲネプロ
- 12 音楽鑑賞教室B演奏会
- 13 音楽鑑賞教室Cゲネプロ
- 14 音楽鑑賞教室C演奏会
- 15 音楽鑑賞教室Dゲネプロ
- 16 佐藤財団演奏会ゲネプロ
- 17 佐藤財団演奏会
- 18 前期定期演奏会への導入
- 19 全体リハーサル①譜読み
- 20 全体リハーサル②曲想確認
- 21 管打分奏、弦分奏①譜読みの確認前半
- 22 管打分奏、弦分奏②譜読みの確認後半
- 23 全体リハーサル③指揮の見方の演習
- 24 全体リハーサル④アンサンブルの確認
- 25 前期定期演奏会への仕上げ①技術的
- 26 前期定期演奏会への仕上げ②音楽的
- 27 前期定期演奏会への総練習①歴史的観点から曲想をとらえる。
- 28 前期定期演奏会への総練習②精神的観点から表現力を身につける。
- 29 前期定期演奏会への総練習③上記すべての観点を確認する。
- 30 前期定期演奏会

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠率による可否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング			
科目名	管弦楽特別演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	青木 高志, 大和田 智彦, 岸良 開城, 幸西 秀彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

管弦楽I～Ⅳは、オーケストラ演奏における初心者或いは経験の少ない1S、2S合同のオーケストラ実習授業である。オーケストラは多様な楽器編成による膨大なレパートリーを持つ。指揮者によるコントロール、多人数でのアンサンブルといった条件下で自己の演奏力を発揮するには多くの経験を必要とする。この授業ではオーケストラの知識、慣習、奏法、アンサンブル、指揮者とのコンタクトなどの基本学習と、共同体の一員としての自覚と社会性、責任感を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

演奏会を目標として練習授業が行われ、ハープを除く弦楽器履修生は原則として全演奏会、管打楽器及びハープは指名された演奏会に出演する。練習授業は指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。練習成果の発表の場として、前期・後期それぞれに「学内演奏会」、その中間には一般の方々を対象に気軽にクラシック音楽に触れていただくことを目的とした「オーケストラコンサート」がある。

- 1 オーケストラコンサート全体リハーサル②
- 2 オーケストラコンサートへの仕上げ
- 3 オーケストラコンサートゲネプロ
- 4 オーケストラコンサート
- 5 後期学内演奏会への導入
- 6 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 7 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 8 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 9 全体リハーサル②技術的演習
- 10 全体リハーサル③アンサンブルの確認
- 11 全体リハーサル④歴史的観点から楽曲をとらえる。
- 12 後期学内演奏会への仕上げ 精神的観点から表現力を身につける。
- 13 後期学内演奏会への総練習 上記すべての確認
- 14 後期学内演奏会、後期のまとめ
- 15 Aオーケストラ後期定期演奏会鑑賞

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演と、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出来る人と出来ない人が生じる。したがって単に出欠席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン専修の履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・全履修生は、「国立音大オーケストラ定期演奏会」の聴講をする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	CCS930N		
科目名	管弦楽特別演習D		
科目詳細			
担当教員	井川 明彦,幸西 秀彦,高橋 聖純,青木 高志,永峰 高志,松井 直之,平子 ひさえ		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火3,火4,金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

管弦楽A,B,C,Dは、既にオーケストラの基礎的な経験を積んだ3S,4S合同のオーケストラ実習授業である。音楽大学の標榜(表紙)とも言える管弦楽を研究し発表することで、演奏能力及び演奏家としての人間性、社会性を習得することを目標とする。

◆授業内容・計画◆

定められた演奏会を目標としての練習授業が、指揮者及び担当教員による集団指導で行われる。
週2回(計8時限)の通常授業に加え、必要に応じ演奏会前の臨時練習が行われる。主な演奏会は、前後期各1回の定期演奏会、入学式の演奏、小平、立川市内の中学生等を対象とした音楽鑑賞教室、大学院オペラ等である。

- 1 オペラへの導入
- 2 オーケストラ全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる。
- 3 オーケストラ分奏①譜読み前半
- 4 オーケストラ分奏②譜読み後半
- 5 オーケストラ全体リハーサル②全曲のイメージ確認
- 6 歌入りリハーサル①歌手とのアンサンブル演習
- 7 歌入りリハーサル②歌手とのアンサンブル確認
- 8 舞台稽古①オーケストラビットでの奏法の会得
- 9 舞台稽古②オーケストラビットでのステージとのアンサンブル演習
- 10 総練習
- 11 オペラゲネプロ①演習
- 12 オペラゲネプロ②確認
- 13 オペラ公演①1日目
- 14 オペラ公演②2日目
- 15 後期定期演奏会への導入
- 16 全体リハーサル①全曲のイメージをとらえる前半
- 17 全体リハーサル②全曲のイメージをとらえる後半
- 18 管打分奏、弦分奏①譜読み前半
- 19 管打分奏、弦分奏②譜読み後半
- 20 全体リハーサル③全曲のイメージ確認
- 21 全体リハーサル④指揮の見方の演習
- 22 後期定期演奏会への仕上げ①アンサンブルの確認
- 23 後期定期演奏会への仕上げ②技術的
- 24 後期定期演奏会への総練習①音楽的
- 25 後期定期演奏会への総練習②歴史的観点から曲想をとらえる。
- 26 後期定期演奏会への総練習③精神的観点から表現力を身につける。
- 27 後期定期演奏会
- 28 現代音楽作品研究への導入
- 29 現代音楽作品研究
- 30 まとめ

◆準備学習の内容◆

予め発表された曲目を、合奏に耐えられるレベルまで各自練習して授業に臨む。

◆成績評価の方法◆

演奏会への出演、授業への取り組みにより評価する。
授業内容にあるように、この授業ではプログラムごとに出られる人と出られない人が生じる。したがって単に出欠出席率による合否判定はなされない。また、以下の項目に該当する履修生には原則として単位の認定がなされない。
・演奏会に出演すべき履修生が出演できなかった場合。
・演奏会に出演しない履修生が指定された演奏会を聴講しなかった場合。
尚、履修生の授業への取り組み姿勢によっては演奏会に出演出来ない場合がある。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で取り上げる曲目は、それぞれの演奏会の目的に沿ったもので、管弦楽学習としての有効性、演奏の難易度、楽器編成などを考慮し選択される。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

- ・ヴァイオリン科履修生は、担当教官の指示により、ヴィオラを担当する事がある。
- ・人員の不足するパートには演奏補助員が加わる事がある。
- ・必要に応じて臨時練習を行うことがある。
- ・出演しない履修生も定期演奏会の聴講を義務とする。
- ・オーケストラの編成上、常に履修生全員が演奏参加できるとは限らない。
- ・オーケストラの演奏は編成の一人が欠けても大きな支障を生ずるので各自責任感を持って参加する事。

ナンバリング	SWS489N		
科目名	室内楽A		
科目詳細	弦楽四重奏		
担当教員	青木 高志, 漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

弦楽四重奏の実習を通して、アンサンブルの基礎を習得する。

◆授業内容・計画◆

- (1) 音楽表現における語法・文法の基礎的部分を経験する。
 - (2) その時々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
 - (3) 音程・テンポ・リズム・表現を他の奏者と共有すること。
 - (4) 他のパートを聴く＝歌いながら弾くことを習慣づける。
- 上記は個別に習得するものではなく、相互に関連するものなので、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として学ぶ。
- (5) これらをハイドン、モーツァルト、ベートヴェンの初期の作品を通じて学習する。
 - (6) 演奏の進捗に従い一定の成果を見たのち、次曲を選定する。

1. ガイダンス
2. 楽曲① 譜読み
3. 楽曲① 工夫
4. 楽曲① まとめ
5. 楽曲② 譜読み
6. 楽曲② 工夫
7. 楽曲② まとめ
8. 楽曲③ 譜読み
9. 楽曲③ 工夫
10. 楽曲③ まとめ
11. 発表会に向けて曲決定
12. 発表会に向けて 工夫
13. 発表会に向けて まとめ
14. 発表会 試験
15. ふりかえり

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

発表会試験と共に日常の学習状況を成績に反映させる。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて指示

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS489N		
科目名	室内楽A		
科目詳細	木管五重奏		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、室内楽Aのまとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜(スコアが用意出来る場合はスコアも)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

「必ず」木管五重奏を組んだ上で履修登録をするように。この事は厳守で。
そしてメンバー全員が
1年間木管五重奏をやり通せる覚悟があるか 意志確認をしてから登録をお願いします。

[ただし]
2025年度3年生は、ダブルリードの学生が少ないため(ファゴットがいない)4月頭に担当教員(坪井隆明)に相談しに来てください。

尚
楽曲の難易度により各課題曲に必要な回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画を立てること。

ナンバリング	SWS489N		
科目名	室内楽A		
科目詳細	サクソス四重奏		
担当教員	田中 靖人		
学年	1年,3年	クラス	03
講義室	N-027	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの各楽器の基本的な奏法をマスターする。アンサンブルにおいては、個性と融合をテーマに、ソリスティックな演奏と美しいハーモニーの響きを表現する柔軟性を養う。

◆授業内容・計画◆

J.B.サンジュレー:サクソフォン四重奏曲第1番作品53を課題として、サクソフォンが誕生した1840年代から約10年後に作曲された最古のこの作品を通じて、シンプルで美しいメロディをハーモニーの進行を感じながら美しく響かせ、音楽的に表現することを学ぶ。
音楽の形式についても学ぶ。

- (1)ガイダンス
- (2)第1楽章を演奏する。
- (3)第2楽章を演奏する。
- (4)第3楽章を演奏する。
- (5)第4楽章を演奏する。
- (6)全楽章を通して演奏する。

F.et M. ジャンジャン:サクソフォン四重奏曲を課題として、アンサンブルの中でそれぞれがソリスティックに表現しながら、音楽をより立体的に作ることを学ぶ。

- (7)第1楽章を演奏する。
- (8)第2楽章を演奏する。
- (9)第3楽章を演奏する。
- (10)第4楽章を演奏する。
- (11)全楽章を通して演奏する。

A.グラズノフ:サクソフォーン四重奏曲の第2楽章を課題とし、ハーモニーを美しく響かせることに加えて、テクニカルな場面での緻密なアンサンブルを学ぶ。

- (12)ハーモニーについて理解しながら演奏する。
- (13)テクニカルな場面のアンサンブルの仕組みを理解しながら演奏する。
- (14)全体を通して演奏する。
- (15)研究発表を行う。

◆準備学習の内容◆

個人の練習およびアンサンブルのリハーサルの時間を作って、レッスンの復讐と予習を円滑に行う。
作曲家、作品についても調べる。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および研究発表での演奏内容により評価する。
楽器技術の向上、音楽的な表現のアイデアなどは、授業中にも感想を述べて評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ソプラノ、テナー、バリトンなどの特殊管のマウスピース、リードは、各自が自分のものを持つことが望ましい。

ナンバリング	SWS489N		
科目名	室内楽A		
科目詳細	金管五重奏		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年,3年	クラス	O4
講義室	3-207	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管五重奏および金管を含む室内楽曲の基本的なレパートリーを修得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲1 楽譜の確認
- 第3回 課題曲1 アンサンブルの工夫
- 第4回 課題曲1 仕上げ
- 第5回 課題曲2 楽譜の確認
- 第6回 課題曲2 アンサンブルの工夫
- 第7回 課題曲2 仕上げ
- 第8回 課題曲3 楽譜の確認
- 第9回 課題曲3 アンサンブルの工夫
- 第10回 課題曲3 仕上げ
- 第11回 課題曲4 楽譜の確認
- 第12回 課題曲4 アンサンブルの工夫
- 第13回 課題曲4 アンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲4 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

課題曲のアンサンブル練習を事前にする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した課題楽曲の楽譜(スコアとパート譜)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS489N		
科目名	室内楽A		
科目詳細	ピアノを含む室内楽		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	05
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割を理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏できる。

◆授業内容・計画◆

ピアノと弦楽器による室内楽作品について実習する。
履修者の希望を考慮して受講曲を決定し、ピアノと弦楽器の教員それぞれの立場からのレッスンを受講する。

- 第1回 ガイダンスと曲の選定
- 第2回 各楽器の特性
- 第3回 作品研究①分析
- 第4回 作品研究②作品の背景の理解
- 第5回 作品研究③歴史的考察
- 第6回 作品研究④各パートの研究
- 第7回 演奏研究①アインザッツの揃え方
- 第8回 演奏研究②バランスの調整
- 第9回 演奏研究③音楽解釈
- 第10回 演奏研究④全体の調和
- 第11回 演奏研究⑤細部の微調整
- 第12回 仕上げに向けて①自分たちの演奏を客観的に聴く
- 第13回 仕上げに向けて②より緻密なアンサンブルのための討議
- 第14回 演奏発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する作品を良く理解して練習すること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

初回までに、ピアノを含む室内楽のレパートリーについてあらかじめ調べるとともに、演奏したい曲を検討しておくこと。
各回、ピアノの教員、またはヴァイオリンの教員が担当する。

ナンバリング	SWS490N		
科目名	室内楽B		
科目詳細	弦楽四重奏		
担当教員	青木 高志, 漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

前期に引き続き基礎を学び、さらに発展の可能性を探る。

◆授業内容・計画◆

1. 前期で学習した基礎を踏まえ、それぞれをより深く身につけることを目指す。
 2. 音楽表現における語法・文法の発展的部分を経験する。
 3. その時々の語法(表現)に応じたアンサンブル技術の必要性を、演奏を通じて体感する。
 4. 音程・テンポ・リズム・表現を他の奏者と共有すること。
 5. 他のパートを聴く＝歌いながら弾くことを習慣づける。
- 上記は個別に習得するものではなく、相互に関連するものなので、これらを常に留意の上演奏することをアンサンブルの第一歩として修得する。
6. 自己の表現と他者の主張を一つの音楽としてまとめられるようになることを目指す。
 7. 引き続きハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの作品を中心に、授業の進度に一定の成果を見たのち、次曲を選定する。

1. ガイダンス
2. 楽曲① 譜読み
3. 楽曲① 工夫
4. 楽曲① まとめ
5. 楽曲② 譜読み
6. 楽曲② 工夫
7. 楽曲② まとめ
8. 楽曲③ 譜読み
9. 楽曲③ 工夫
10. 楽曲③ まとめ
11. 発表会に向けて曲決定
12. 発表会に向けて 工夫
13. 発表会に向けて まとめ
14. 発表会 試験
15. ふりかえり

◆準備学習の内容◆

授業前に、演奏する曲を十分に練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

発表会試験と共に日常の学習状況を成績に反映させる。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内にて指示

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	SWS490N		
科目名	室内楽B		
科目詳細	木管五重奏		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、室内楽Bのまとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜(スコアが用意出来る場合はスコアも)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

「必ず」木管五重奏を組んだ上で履修するように。この事は厳守で。
そしてメンバー全員が
1年間木管五重奏をやり通せる覚悟があるか 意志確認をしてから登録をお願いします。

[ただし]
2025年度3年生はダブルリード学生が少ない(ファゴットがいない)ため、4月頭に担当教員(坪井隆明)に相談に来てください。

尚
楽曲の難易度により各課題曲に必要な回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画を立てること。

ナンバリング	SWS490N		
科目名	室内楽B		
科目詳細	サクソス四重奏		
担当教員	田中 靖人		
学年	1年,3年	クラス	O3
講義室	N-027	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

作品のスタイルを研究し、前期からのテーマである個性と融合をより具体的に表現する。

◆授業内容・計画◆

C.パスカル:サクソフォン四重奏曲を課題とし、前期に学んだハーモニーより複雑な響きを理解する。

作品のスタイルを研究したことをメンバーで共有し、具体的に表現することを学ぶ。

- (1) 第1楽章を演奏し、前半部を細かく練習する。
- (2) 第1楽章の後半部を演奏し、細かく練習する。
- (3) 第2楽章を演奏し、細かく練習する。
- (4) 第3楽章を演奏し、前半部を細かく練習する。
- (5) 第3楽章の後半部を演奏し、細かく練習する。
- (6) 第4楽章を演奏し、前半部を細かく練習する。
- (7) 第4楽章の後半部を演奏し、細かく練習する。
- (8) 全体を通して演奏する。

A.デザンクロ:サクソフォン四重奏曲を課題とし、これまで学んだソリスティックな表現、ハーモニーの美しい響き、テクニカルな場面での緻密なアンサンブルを総合的に捉え、より音楽的に表現することを学ぶ。

- (9) 第1楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (10) 第1楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (11) 第2楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (12) 第2楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (13) 第3楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (14) 第3楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (15) 全体を通して演奏する。

◆準備学習の内容◆

前期より難しい作品に取り組むので、アンサンブルのリハーサルはさらに細かなリハーサルが必要となりますが、作品のスタイル(例えばワルツ、スケルツァンドなど)を理解するために様々な作品を聴く。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および研究発表での演奏内容により評価する。
楽器の技術向上、音楽的な表現に変化がある時には授業内でも評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ソプラノ、テナー、バリトンなどの特殊管のマウスピース、リードは、各自が自分のものを持つことが望ましい。

ナンバリング	SWS490N		
科目名	室内楽B		
科目詳細	金管五重奏		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年,3年	クラス	O4
講義室	3-207	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管五重奏および金管を含む室内楽曲の基本的なレパートリーを修得する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲5 楽譜の確認
- 第3回 課題曲5 アンサンブルの工夫
- 第4回 課題曲5 仕上げ
- 第5回 課題曲6 楽譜の確認
- 第6回 課題曲6 アンサンブルの工夫
- 第7回 課題曲6 仕上げ
- 第8回 課題曲7 楽譜の確認
- 第9回 課題曲7 アンサンブルの工夫
- 第10回 課題曲7 仕上げ
- 第11回 課題曲8 楽譜の確認
- 第12回 課題曲8 アンサンブルの工夫
- 第13回 課題曲8 アンサンブルとソロ演奏の確認
- 第14回 課題曲8 仕上げ
- 第15回 まとめの演奏

◆準備学習の内容◆

課題曲のアンサンブル練習を事前にする。
 スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
 作曲者及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した課題楽曲の楽譜(スコアとパート譜)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS490N		
科目名	室内楽B		
科目詳細	ピアノを含む室内楽		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,3年	クラス	05
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割をより深く理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏できる。

◆授業内容・計画◆

ピアノと弦楽器による室内楽作品について実習する。
履修者の希望を考慮して受講曲を決定し、ピアノと弦楽器の教員それぞれの立場からのレッスンを受講する。

- 第1回 ガイダンスと曲の選定
- 第2回 各楽器の特性
- 第3回 作品研究①分析
- 第4回 作品研究②作品の背景の理解
- 第5回 作品研究③歴史的考察
- 第6回 作品研究④各パートの研究
- 第7回 演奏研究①アインザッツの揃え方
- 第8回 演奏研究②バランスの調整
- 第9回 演奏研究③音楽解釈
- 第10回 演奏研究④全体の調和
- 第11回 演奏研究⑤細部の微調整
- 第12回 仕上げに向けて①自分たちの演奏を客観的に聴く
- 第13回 仕上げに向けて②より緻密なアンサンブルのための討議
- 第14回 演奏発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する作品を良く理解して練習すること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

各回、ピアノの教員、またはヴァイオリンの教員が担当する。

ナンバリング	SWS491N		
科目名	室内楽C		
科目詳細	弦楽四重奏		
担当教員	青木 高志, 漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アンサンブルにおける音程やタイミングの合わせ方
- 第3回 課題曲①譜面、音の確認。
- 第4回 課題曲①楽曲分析と表現方法の研究。
- 第5回 課題曲①表現方法の向上。
- 第6回 課題曲①仕上げ
- 第7回 課題曲②譜面、音の確認。
- 第8回 課題曲②楽曲分析と表現方法の研究
- 第9回 課題曲②表現方法の向上。
- 第10回 課題曲②仕上げ
- 第11回 課題曲③譜面、音の確認。
- 第12回 課題曲③楽曲分析と表現方法の研究。
- 第13回 課題曲③表現方法の向上。
- 第14回 課題曲③仕上げ。
- 第15回 室内楽Ⅲのまとめ。

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜(スコアが用意出来る場合はスコアも)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽曲の難易度により各課題曲に必要な回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画を立てること。

ナンバリング	SWS491N		
科目名	室内楽C		
科目詳細	木管五重奏		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、室内楽Cのまとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲のアンサンブル練習を事前にする。
スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した課題楽曲の楽譜(スコアとパート譜)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

「必ず」木管五重奏を組んだ上で履修するように。この事は厳守で。
そしてメンバー全員が
1年間木管五重奏をやり通せる覚悟があるか 意志確認をしてから登録をお願いします。

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS491N		
科目名	室内楽C		
科目詳細	サクソ四重奏		
担当教員	田中 靖人		
学年	1年,4年	クラス	03
講義室	N-027	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

サクソフォンのレパートリーを幅広く学び、様々なスタイルの音楽を理解する。

◆授業内容・計画◆

A. グラズノフ: サクソフォン四重奏曲第2楽章カンツォーナ ヴァリエを課題とし、ソリストティックな表現、ハーモニーの美しい響き、緻密なアンサンブルを学ぶ。

- (1) ガイダンス
- (2) 主題、第1変奏、第2変奏を演奏し、細部を練習する。
- (3) 前回の復習をする。
- (4) 第3変奏を演奏、細部を練習する。
- (5) 前回の復習をする。
- (6) 第4変奏を演奏、細部を練習する。
- (7) 前回の復習をする。
- (8) 全体を通して演奏する。

A. デザンクロ: サクソフォン四重奏曲を課題とし、これまで学んだソリストティックな表現、ハーモニーの美しい響き、テクニカルな場面での緻密なアンサンブルを総合的に捉え、より音楽的に表現することを学ぶ。

- (9) 第1楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (10) 第1楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (11) 第2楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (12) 第2楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (13) 第3楽章を演奏し、アンサンブルの難しいところを練習する。
- (14) 第3楽章を演奏し、前回の復習をする。
- (15) 全体を通して演奏する。

◆準備学習の内容◆

シンプルなハーモニーを美しく響かせるリハーサルを丁寧にリハーサルを重ねる。
ハーモニーの構成音や進行を理解しておく。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および研究発表での演奏内容により評価する。
楽器技術、音楽的表現の向上を感じた授業ではその都度評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ソプラノ、テナー、バリトンなどの特殊管のマウスピース、リードは、各自が自分専用のものを持つことが望ましい。

ナンバリング	SWS491N		
科目名	室内楽C		
科目詳細	金管五重奏		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年,4年	クラス	O4
講義室	3-207	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管五重奏にこだわらない様々な編成の室内楽に取り組み、アンサンブル力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 アンサンブルにおける音程やタイミングの合わせ方
第3回 課題曲①譜面、音の確認。
第4回 課題曲①楽曲分析と表現方法の研究。
第5回 課題曲①表現方法の向上。
第6回 課題曲①仕上げ
第7回 課題曲②譜面、音の確認。
第8回 課題曲②楽曲分析と表現方法の研究
第9回 課題曲②表現方法の向上。
第10回 課題曲②仕上げ
第11回 課題曲③譜面、音の確認。
第12回 課題曲③楽曲分析と表現方法の研究。
第13回 課題曲③表現方法の向上。
第14回 課題曲③仕上げ。
第15回 室内楽Aのまとめ。

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽曲の難易度により各課題曲に必要な授業回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画をたてること。

ナンバリング	SWS491N		
科目名	室内楽C		
科目詳細	ピアノを含む室内楽		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	05
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割を理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏できる。

◆授業内容・計画◆

ピアノと弦楽器による室内楽作品について実習する。
履修者の希望を考慮して受講曲を決定し、ピアノと弦楽器の教員それぞれの立場からのレッスンを受講する。

- 第1回 ガイダンスと曲の選定
- 第2回 各楽器の特性
- 第3回 作品研究①分析
- 第4回 作品研究②作品の背景の理解
- 第5回 作品研究③歴史的考察
- 第6回 作品研究④各パートの研究
- 第7回 演奏研究①アインザッツの揃え方
- 第8回 演奏研究②バランスの調整
- 第9回 演奏研究③音楽解釈
- 第10回 演奏研究④全体の調和
- 第11回 演奏研究⑤細部の微調整
- 第12回 仕上げに向けて①自分たちの演奏を客観的に聴く
- 第13回 仕上げに向けて②より緻密なアンサンブルのための討議
- 第14回 演奏発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する作品を良く理解して練習すること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

初回までに、ピアノを含む室内楽のレパートリーについてあらかじめ調べるとともに、演奏したい曲を検討しておくこと。
各回、ピアノの教員、またはヴァイオリンの教員が担当する。

ナンバリング	SWS492N		
科目名	室内楽D		
科目詳細	弦楽四重奏		
担当教員	青木 高志, 漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-225	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 室内楽Ⅲの内容、結果を踏まえた上での後期履修曲の検討、選定。
- 第3回 課題曲①譜面、音の確認。
- 第4回 課題曲①楽曲分析と表現方法の研究。
- 第5回 課題曲①表現方法の向上。
- 第6回 課題曲①仕上げ
- 第7回 課題曲②譜面、音の確認。
- 第8回 課題曲②楽曲分析と表現方法の研究
- 第9回 課題曲②表現方法の向上。
- 第10回 課題曲②仕上げ
- 第11回 課題曲③譜面、音の確認。
- 第12回 課題曲③楽曲分析と表現方法の研究。
- 第13回 課題曲③表現方法の向上。
- 第14回 課題曲③仕上げ。
- 第15回 室内楽Ⅳのまとめ。

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜(スコアが用意出来る場合はスコアも)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽曲の難易度により各課題曲に必要な回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画を立てること。

ナンバリング	SWS492N		
科目名	室内楽D		
科目詳細	木管五重奏		
担当教員	坪井 隆明		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

室内楽の演奏を通して楽曲に対する理解力を高め、アンサンブル力を養う。

◆授業内容・計画◆

第1回ガイダンス
第2回課題の選曲
第3回課題一曲目の譜読み、
第4回課題一曲目の楽曲分析
第5回課題一曲目の表現法研究
第6回課題一曲目の仕上げ
第7回課題二曲目の譜読み
第8回課題二曲目の楽曲分析
第9回課題二曲目の表現法研究
第10回課題二曲目の仕上げ
第11回課題三曲目の譜読み
第12回課題三曲目の楽曲分析
第13回課題三曲目の表現法研究
第14回課題三曲目の仕上げ
第15回課題曲三曲の通し演奏、室内楽Dのまとめ

◆準備学習の内容◆

課題曲のアンサンブル練習を事前にする。
スコア・リーディングを行い、自己のパートの役割を理解して練習する。
作曲家及びその時代背景等、作品に対する知識を得るとともに、参考音源を聴いておく。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、表現力や演奏技術の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した課題楽曲の楽譜(スコアとパート譜)

◆参考図書◆

◆留意事項◆

「必ず」木管五重奏を組んだ上で履修するように。この事は厳守で。
そしてメンバー全員が
1年間木管五重奏をやり通せる覚悟があるか 意志確認をしてから登録をお願いします。

授業では課題楽曲の解釈、各楽器のアンサンブルに取り組むため、各パートは必ず予習し譜読みを済ませてから出席する。

ナンバリング	SWS492N		
科目名	室内楽D		
科目詳細	サクソス四重奏		
担当教員	田中 靖人		
学年	1年,4年	クラス	03
講義室	N-027	開講学期	後期
曜日・時間	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

作品のスタイルを深く理解し、幅広い表現力を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

G.ピエルネ: 民謡風ロンドによる序奏と変奏を課題とし、柔軟な表現とより緻密なアンサンブルを学ぶ。

- (1) 序奏部を演奏する。
- (2) 変奏部を演奏する
- (3) 変奏部を演奏する。
- (4) 難しいところを抜粋して演奏する。
- (5) 全体を通して演奏する。

J.リュエフ: サクソフォン四重奏のためのコンセールを課題とし、フランスの伝統的な楽曲形式であるコンセールを学ぶ。
ソリストィックな表現と融合したアンサンブルのまとめとして取り組む。

- (6) 第1楽章、第2楽章を演奏する。
- (7) 第2楽章、第3楽章を演奏する。
- (8) 第3楽章、第4楽章を演奏する。
- (9) 第4楽章、第5楽章を演奏する。
- (10) 第5楽章、第6楽章を演奏する。
- (11) 第6楽章、難しいところを抜粋して演奏する。
- (12) 全体の難しいところを抜粋して演奏する。
- (13) 全体を通して演奏する。
- (14) 後期に演奏した2曲を抜粋して復習する。
- (15) 研究発表

◆準備学習の内容◆

作品の形式、スタイルを研究する。
イメージした音やニュアンスを具体的に表現する。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、および研究発表での演奏内容により評価する。
授業において楽器技術、音楽的表現に変化がある場合はその都度評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ソプラノ、テナー、バリトンなどの特殊管のマウスピース、リードは、各自が自分のものを持つことが望ましい。

ナンバリング	SWS492N		
科目名	室内楽D		
科目詳細	金管五重奏		
担当教員	井川 明彦		
学年	1年,4年	クラス	O4
講義室	3-207	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

金管五重奏にこだわらない様々な編成の室内楽に取り組み、アンサンブル力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 室内楽Aの内容、結果を踏まえた上での後期履修曲の検討、選定。
第3回 課題曲①譜面、音の確認。
第4回 課題曲①楽曲分析と表現方法の研究。
第5回 課題曲①表現方法の向上。
第6回 課題曲①仕上げ
第7回 課題曲②譜面、音の確認。
第8回 課題曲②楽曲分析と表現方法の研究
第9回 課題曲②表現方法の向上。
第10回 課題曲②仕上げ
第11回 課題曲③譜面、音の確認。
第12回 課題曲③楽曲分析と表現方法の研究。
第13回 課題曲③表現方法の向上。
第14回 課題曲③仕上げ。
第15回 室内楽Bのまとめ。

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みを行い課題曲に於ける各々の技術的課題を解決しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業に対する取り組み姿勢、アンサンブル力の向上により総合的に評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が指定した楽曲の楽譜(スコアが用意出来る場合はスコアも)。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

楽曲の難易度により各課題曲に必要な回数は異なる事が想定される。担当教員と相談の上で計画を立てること。

ナンバリング	SWS492N		
科目名	室内楽D		
科目詳細	ピアノを含む室内楽		
担当教員	漆原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	05
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割をより深く理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏できる。

◆授業内容・計画◆

ピアノと弦楽器による室内楽作品について実習する。
履修者の希望を考慮して受講曲を決定し、ピアノと弦楽器の教員それぞれの立場からのレッスンを受講する。

- 第1回 ガイダンスと曲の選定
- 第2回 各楽器の特性
- 第3回 作品研究①分析
- 第4回 作品研究②作品の背景の理解
- 第5回 作品研究③歴史的考察
- 第6回 作品研究④各パートの研究
- 第7回 演奏研究①アインザッツの揃え方
- 第8回 演奏研究②バランスの調整
- 第9回 演奏研究③音楽解釈
- 第10回 演奏研究④全体の調和
- 第11回 演奏研究⑤細部の微調整
- 第12回 仕上げに向けて①自分たちの演奏を客観的に聴く
- 第13回 仕上げに向けて②より緻密なアンサンブルのための討議
- 第14回 演奏発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

演奏する作品を良く理解して練習すること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて指示する

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

各回、ピアノの教員、またはヴァイオリンの教員が担当する。

ナンバリング	CCS401N		
科目名	レパートリー研究 I		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践をふまえ、自分にあったレパートリーを認識する。

◆授業内容・計画◆

まず自分の今の状態(声種、発声法、ディクシオン等)を自己認識したうえで、オペラへのアプローチの仕方の基礎を学ぶ。そして、モーツァルトのオペラアリア(Recitativo secco, Recitativo accompagnatoを含む)を数曲学ぶ。
I の授業のほとんどは、台本講読に重きをおいた授業を展開する。

- 第1回 発声法
- 第2回 楽曲に対するアプローチの仕方
- 第3回 台本の読み方
- 第4回 レチタティーヴォ・セッコの勉強の仕方Ⅰ(発声法をふまえた台本からのアプローチ)
- 第5回 レチタティーヴォ・セッコの勉強の仕方Ⅱ(同一音によるアプローチ)
- 第6回 レチタティーヴォ・セッコの勉強の仕方Ⅲ(音の高低・長短を含む最終的なアプローチ)
- 第7回 レチタティーヴォ・アッコンパニャートの勉強の仕方Ⅰ(発声法をふまえた台本からのアプローチ)
- 第8回 レチタティーヴォ・アッコンパニャートの勉強の仕方Ⅱ(オーケストレーションからのアプローチ)
- 第9回 レチタティーヴォ・アッコンパニャートの勉強の仕方Ⅲ(呼吸法も含めた最終的なアプローチ)
- 第10回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱Ⅰ(原作・台本からのアプローチ)
- 第11回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱Ⅱ(発声・発語からのアプローチ)
- 第12回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱Ⅲ(オーケストレーションからのアプローチ)
- 第13回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱Ⅳ(演劇的視点からのアプローチ)
- 第14回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱Ⅴ(オペラの実践を踏まえた最終的総括)
- 第15回 自身のレパートリーの確認

◆準備学習の内容◆

モーツァルトのアリア、重唱を選び、単語の意味調べをしておくこと。
(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み方、前期試演会での発表により成績評価するものとする。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

楽曲、及びオペラの役柄の選択においては、随時、声楽の担当教員と相談をし実力にあったものを選ぶ事。

ナンバリング	CCS402N		
科目名	レパートリー研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践をふまえ、1つの役柄をいろんな角度から模索する。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラの作品の役柄の中から、レパートリーをひとつ選び、アリア、重唱など、全曲アプローチに向けて範囲を拡げていく。Ⅰにおいて得た台本講読法を生かして、舞台における発語の仕方、そして発声を考えながらひとつの役をレパートリーにする体験を得る。

- 第1回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(6)(オペラ全曲に対しての総合的アプローチ)
- 第2回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(7)(アリアに対する台本講読)
- 第3回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(8)(アリアに対する発声法)
- 第4回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(9)(アリアに対しての総合的アプローチ)
- 第5回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(10)(重唱に対する台本講読)
- 第6回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(11)(重唱に対する発声法)
- 第7回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(12)(重唱におけるアンサンブルへのアプローチ)
- 第8回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(13)(モーツァルトのオペラのオーケストレーションについて)
- 第9回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(14)(モーツァルトのオペラの和声について)
- 第10回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(15)(言葉と音楽の融合について)
- 第11回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(16)(オペラにおける総合的表現へのアプローチ)
- 第12回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(17)(全曲アプローチⅠ 全曲における俯瞰法)
- 第13回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(18)(全曲アプローチⅡ 序曲を含むオーケストレーションの最終チェック)
- 第14回 モーツァルトのオペラアリア及び重唱(19)(全曲アプローチⅢ レパートリー最終チェック)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

台本研究をしておくこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、及びレポート提出により、評価をする。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

楽曲、及びオペラの役柄においては、随時声楽の担当教員と相談をし、実力にあったものを選ぶ事。

ナンバリング	CCS403N		
科目名	レパートリー研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践をふまえ、新しい演目の役柄を、自分のレパートリーに加える。

◆授業内容・計画◆

自分の今の状態(発声、ディクシオン等)を常にチェックしながら、バロックから近代まで、幅広い時代の作品(イタリア語中心)の役柄を選択し、レパートリーとして学ぶ。

I、IIにおいて得た学習方法を用いてできるだけ多くの範囲が学習できるように努力する。

第1回 バロックオペラ(1)バロックオペラのスタイル
 第2回 バロックオペラ(2)通奏低音について
 第3回 バロックオペラ(3)ヴァリエーションについて
 第4回 イタリアオペラ(1)イタリア語ディクシオン
 第5回 イタリアオペラ(2)イタリアオペラのスタイル
 第6回 イタリアオペラ(3)イタリアオペラの歴史
 第7回 ドイツオペラ(1)ドイツ語ディクシオン
 第8回 ドイツオペラ(2)ドイツオペラのスタイル
 第9回 ドイツオペラ(3)ドイツオペラの歴史
 第10回 フランスオペラ(1)フランス語ディクシオン
 第11回 フランスオペラ(2)フランスオペラのスタイル
 第12回 フランスオペラ(3)フランスオペラの歴史
 第13回 英米オペラ(1)英語ディクシオン
 第14回 英米オペラ(2)英米オペラのスタイル
 第15回 英米オペラ(3)英米オペラの歴史

◆準備学習の内容◆

イタリアオペラよりアリア、重唱を選び、研究しておくこと。
 (1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方、レポート提出により、評価をする。
 その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

楽曲、及びオペラの役柄においては随時、声楽の担当教員と相談し、実力にあったものを選ぶ事。

ナンバリング	CCS404N		
科目名	レパートリー研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践をふまえ、選択したレパートリーをさらに深く掘り下げて探求し、役柄に対して自分なりのアプローチを模索する。

◆授業内容・計画◆

1つのオペラをできるだけ、全曲アプローチできるようにする。
俯瞰、均衡、想像力を用いながら、オペラへのアプローチを総合的に体験する。

- 第1回 バロックオペラ(4)カッチーニの作品
- 第2回 バロックオペラ(5)モンテヴェルディの作品
- 第3回 バロックオペラ(6)ヘンデルの作品
- 第4回 イタリアオペラ(4)ベッリーニ、ドニゼッティの作品
- 第5回 イタリアオペラ(5)ロッシーニの作品
- 第6回 イタリアオペラ(6)ヴェルディの作品
- 第7回 ドイツオペラ(4)ベートーヴェン、ウェーバーの作品
- 第8回 ドイツオペラ(5)ワーグナーの作品
- 第9回 ドイツオペラ(6)リヒャルト・シュトラウスの作品
- 第10回 フランスオペラ(4)ビゼーの作品
- 第11回 フランスオペラ(5)マスネの作品
- 第12回 フランスオペラ(6)グノーの作品
- 第13回 英米オペラ(4)ブリテンの作品
- 第14回 英米オペラ(5)メロッティの作品
- 第15回 英米オペラ(6)バーバーの作品

◆準備学習の内容◆

一つのオペラの役柄を選び台本研究をしておくこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み方、レポート提出により、評価をする。
その他、随時課題を出しフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

楽曲、及びオペラの役柄においては、随時声楽の担当教員と相談をし、実力にあったものを選ぶ事。

ナンバリング	CCS405N		
科目名	オペラ特別演習 I		
科目詳細			
担当教員	澤畑 恵美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

歌唱能力の向上を目的とし、オペラ歌手となるための基本的な知識や能力を身につけることが出来る。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を通して、基本的なレチタティーボの歌い方、アリアやアンサンブル音楽(多重唱は含まず)の楽しさを演技つきで学ぶ。

- ①発表会に向けて、声を聞き、演目を決める
- ②音楽稽古(レチタティーボを中心に指導)
- ③音楽稽古(アンサンブルを中心に指導)
- ④音楽稽古(全体の音楽の流れを指導)
- ⑤音楽稽古(レチタティーボをより細かく指導)
- ⑥音楽稽古(アンサンブルをより細かく指導)
- ⑦音楽稽古(そろそろ暗譜稽古に入る)と同時にアリアも練習に入る
- ⑧暗譜が出来た曲目から、演技指導を始める
- ⑨演技の基本的なテクニックや、キャラクターの演じ方などを指導する
- ⑩演技がついた稽古が始まる
- ⑪特にアンサンブルは、皆の協力なくしては成立しないので、授業以外の自主練により、授業の進み具合が変動する
- ⑫本番に向けて、今一度音楽の仕上げをする
- ⑬全体の仕上がりをチェックし、まだ改善出来るところは、細かく指導する
- ⑭通し稽古とダメ出し
- ⑮GPとオペラ・スタジオにおいて、公開の発表会を行う。

- * 授業は授業担当教員(声楽)による指導の他、指揮者、伴奏ピアニストも参加して進めて行く。
- * 演技について、授業内に演出家の先生の特別講座を設ける(1回)

◆準備学習の内容◆

授業を円滑に進める為には、譜読みの予習・復習は必須である。暗譜の期限も守ること。そして何より大事なのは学生間のコミュニケーションである。それこそがオペラの基本だからである。個人的な練習(30～60分)に加え、アンサンブルの自主練(週に2回以上)も必須。

◆成績評価の方法◆

発表会により評価する。毎授業、各回の課題に対して、指導ののち、フィードバックし、授業への取り組み方、課題の理解度等によって授業内評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演習課題に関しては、個々の声楽担当教員の理解を得た上で演習に臨む事。

ナンバリング	CCS406N		
科目名	オペラ特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	澤畑 恵美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

歌唱能力の向上を目的とし、オペラ歌手となるための基本的な知識や能力を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

モーツァルトのオペラ作品を通して、前期より身につけたレチタティーボや歌唱力をさらに高め、アリアやアンサンブル音楽(多重唱を含む)の楽しさを演技つきで学ぶ。

- ①発表会に向けて、演目を決める(助演を頼む場合もある)
- ②音楽稽古(レチタティーボを中心に指導)
- ③音楽稽古(アンサンブルを中心に指導)
- ④音楽稽古(全体の音楽の流れを指導)
- ⑤音楽稽古(レチタティーボをより細かく指導)
- ⑥音楽稽古(アンサンブルをより細かく指導)
- ⑦音楽稽古(そろそろ暗譜稽古に入る)と同時にアリアも練習に入る
- ⑧暗譜が出来た曲目から、演技指導を始める
- ⑨前期で身につけた基本的な演技のテクニックをさらに研究し、より良いキャラクターが演じられるように指導する
- ⑩演技がついた稽古が始まる
- ⑪特にアンサンブルは、皆の協力なくしては成立しないので、授業以外の自主練により、授業の進み具合が変動する
- ⑫本番に向けて今一度音楽の仕上げをする
- ⑬全体の仕上がりをチェックし、まだ改善出来るところは、細かく指導する
- ⑭通し稽古とダメ出し
- ⑮GPとオペラ・スタジオにおいて、公開の発表会を行い、修了とする

- * 授業は授業担当教員(声楽)の指導の他、指揮者、伴奏ピアニストが参加し進めて行く。
- * 演出家の先生による特別講座:オペラの解釈、キャラクターの捉え方、舞台上での実践的な演技指導を受ける(1回)

◆準備学習の内容◆

授業を円滑に進める為には、譜読みの予習・復習は必須である。暗譜の期限も守ること。そして、もっとも大事なものは学生間のコミュニケーションである。それこそがオペラの基本だからである。個人的な練習(30～60分)に加えアンサンブルの自主練(週に2回以上)も必須。

◆成績評価の方法◆

毎授業、各回の課題に対して、指導ののち、フィードバックする。授業への取り組み方、課題の理解度等によって授業内評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演習課題に関しては、個々の声楽担当教員の理解を得た上で演習に臨む事。

ナンバリング	CCS407N		
科目名	オペラ特別演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	福井 敬		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラ特別演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したものを踏まえ、より幅広い時代、作曲家のオペラ作品を知り、研究するために、個々の声質や“人(にん)”に合った役柄のオペラを選び、“アリア”“アンサンブル”“レチタティーヴォ”等の要素を取り上げながら舞台上での演唱法を研究する。演奏の他にも、総合芸術とも呼ばれるオペラを上演するために必要な様々な要素を学習し、自分が演奏する一本のオペラのために多くの人々や物事が関わっていることを理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション／呼吸とは？
 - 2)音楽稽古／ディクシオン、作品研究
 - 3)音楽稽古／アリアとアンサンブル
 - 4)立ち稽古／身体表現について
 - 5)立ち稽古／各演目のドラマにそって
 - 6)立ち稽古／通し稽古
 - 7)中間試演会
 - 8)講評／演目の選択
 - 9)音楽稽古／ディクシオン、作品研究 基礎
 - 10)音楽稽古／ディクシオン、作品研究
 - 11)立ち稽古／オペラ制作の流れ
 - 12)立ち稽古／個々の役柄にそって
 - 13)立ち稽古／より具体的な役柄の把握
 - 14)通し稽古
 - 15)まとめ／試演会
- また、研究している作品に対しての、ディクシオン、コレペティ、作品研究等必要な部分は「レパートリー研究Ⅲ」の授業と連携して行っていく。

◆準備学習の内容◆

各々の作品の譜読み。作品全体の内容、時代背景、作曲家について把握しておく。他、授業内で指示する。目安1時間。

◆成績評価の方法◆

演習中に課題を常にフィードバックし、授業への取り組み方、課題の理解度等によって授業内評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演習課題に関しては、個々の声楽担当教員の理解を得た上で演習に臨む事。

ナンバリング	CCS408N		
科目名	オペラ特別演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	福井 敬		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラを演唱するために必要な知識と能力のさらなる向上、特に舞台上における歌唱、演技など、舞台表現技術の高度なレベルでの習得を目指す。コース最終ステージとして、オペラ特別演習Ⅰ～Ⅲで習得したものを踏まえたうえで、個々が将来オペラ歌手として可能と感ずる役柄や作品を探り、チャレンジして試演会の舞台において表現しきってみる。

◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション／演技とは？
- 2)音楽稽古／ディクシオン、作品研究 基礎
- 3)音楽稽古／ディクシオン、作品研究
- 4)立ち稽古／各演目のドラマにそって
- 5)立ち稽古／更なる役柄の把握
- 6)立ち稽古／通し稽古
- 7)中間試演会
- 8)講評／演目の選択
- 9)音楽稽古／ディクシオン、作品研究 基礎
- 10)音楽稽古／ディクシオン、作品研究
- 11)立ち稽古／舞台マナーについて
- 12)立ち稽古／個々の役柄にそって
- 13)立ち稽古／更なる役柄の把握
- 14)通し稽古
- 15)まとめ／修了演奏

◆準備学習の内容◆

各々の作品の譜読み。作品全体の内容、時代背景、作曲家等について把握しておく。他、授業内で指示する。目安1時間。

◆成績評価の方法◆

演習中に課題を常にフィードバックし、実技試験、試演会、平常の授業への取り組み等により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

演習課題に関しては、個々の声楽担当教員の理解を得た上で演習に臨む事。

ナンバリング	VMS421N		
科目名	身体表現A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	堀田 麻子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

舞台に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシック・バレエの肉体訓練法をもとに獲得していく。

◆授業内容・計画◆

クラシック・バレエの肉体訓練法をもとに、しなやかで強い肉体を育成するとともに、身体に対する意識を高める。
バレエレッスンは、フロアーレッスン、バーレッスン、センターレッスンによって構成される。
身体表現Aではフロアーレッスン、バーレッスンを中心に行う。フロアーレッスンではストレッチングで柔軟性と身体を支える筋力を、バーレッスンではバレエの基本ポジションを学びながら、各自の身体的特徴を意識し、必要な場合は矯正する。
左右対称の動きをすることで身体の中心を意識し体幹を鍛えていく。
床からまっすぐに立ち、柔軟で強い身体が必要であり、その先に高いパフォーマンス力が生まれる。
以下15の項目の習得を目指す。身体的習得のため毎回同じことを繰り返さなければならない。
日常生活においても姿勢に気を付けなければならない。

基礎クラスではゆっくりとシンプルな動きを行い、身体に覚えさせていく。
他のクラスでは徐々にテンポを上げ、リズムカルに優雅に動けるようにしていく。

- 第1 ストレッチ、トレーニング、手、足のポジション（オリエンテーションを含む）
- 第2 第1+バー・ブリエ（膝を曲げる動き1.2. 4.5番ポジション）、ボールドブラ（上半身の動き）
- 第3 第1～第2+1番タンジュ、5番タンジュ（床を滑らせて足を前。横。後ろに出す）
- 第4 第1～第3+1番デガジェ、5番デガジェ（タンジュを通り少し床から離れる）、パッセ（片足を膝の位置に持ってくる動き）
- 第5 第1～第4+ロンデジャンプ・アテール（片足で半円を描く動き）
- 第6 第1～第5+フォンジュ（片足ブリエから足を伸ばす動き）
- 第7 第1～第6+シャンジュマン（両足ジャンプ）、パデシャ（片足で飛び越す動き）
- 第8 第1～第7+アダジオ。アラベスク（足を後ろに上げる動き）、ピケ（片足ブリエから立つ動き）
- 第9 第1～第8+グランバットマン（足を大きく振り上げる動き）
- 第10 第1～第9+センター・ボールドブラ・バランセ（3拍子に合わせ足を踏む）
- 第11 第1～第10+小さいジャンプ（シャンジュマンなど）
- 第12 第1～第11+大きいジャンプ（パデシャ、アラベスクジャンプなど）
- 第13 第1～第12+ターン
- 第14 第1～第13+ボルカ、ワルツなど踊りに有益と思われるステップの習得
- 第15 まとめ

◆準備学習の内容◆

ストレッチなど、各自が自習できる日々行うべき身体運動がある。この授業にも重要であるし、日々の生活にもたいせつなものである。目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

毎回のレッスンを通して随時課題を出し、フィードバックすると共に、身体の変化や理解度で評価する

◆教科書（使用テキスト）◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

持ち物 バレエシューズ（踵のある靴は不可）
Tシャツとスウェットなどストレッチのある動きやすい服装（上は身体のラインが見えるもの、足を開いたり上げたりする為スカート、ワイドパンツは不可）
髪が顔にかかる場合はゴムやピンでまとめる

後期は前期の応用となる為、前期と後期を受講するのが望ましい

ナンバリング	VMS422N		
科目名	身体表現B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	堀田 麻子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

舞台表現において演技者に必要な身体と身体に対する意識を、完成されたクラシック・バレエの肉体訓練法をもとに獲得していく。

◆授業内容・計画◆

身体表現Bでの内容目的は身体表現Aとほぼ同じであるが、前期の応用となる。バーレッスン、センターレッスンを中心に行う。センターレッスンではバーから離れてバランスや移動の訓練をし、特に上半身の動きを意識して行う。この訓練を通して「視覚ではなく感覚」を意識化したい。さらにいくつかのステップを組み合わせ、1つ1つの＜動き＞ではなく、1曲のバリエーションをく踊る＞ことが出来る様になって欲しい。足の裏でしっかり床を押し、お腹を引き上げて腰を高い位置で保ち、背中を使い胸。手・頭を動かすことが重要である。身体のアライメントを整えることで、高いパフォーマンス力を身につけていく。

基礎クラスでは流れを作りながら動いていく。
他のクラスではターンや大きなジャンプなど難しいステップにも挑戦していく。

いずれも音楽に乗って滑らかにく踊れる＞ようになっていって欲しい。

- 第1回 フロアー、バー、センターレッスン アームス、ブリエ、タンジュの確認
第2回 フロアー、バー、センターレッスン バットマン・タンジュの確認、復習
第3回 フロアー、バー、センターレッスン デガジェ、パッセの確認、復習
第4回 フロアー、バー、センターレッスン ロンデジャンプ・アテール、アンレールの確認、復習
- 第5回 フロアー、バー、センターレッスン フォンジュ、アラベスクの確認、復習
第6回 フロアー、バー、センターレッスン グランバットマンの確認、復習
- 第7回 フロアー、バー、センターレッスン シャンジュマン、パデシャの確認 復習
第8回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるアダジオ バランセ 発展
第9回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるタンジュ、パッセ 発展
第10回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるシャンジュマン 発展
第11回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるパデシャ 発展
第12回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるグラン・ワルツ 発展
第13回 フロアー、バー、センターレッスン センターレッスンにおけるピケターン 発展
第14回 フロアー、バー、センターレッスン ステップの組み合わせ
第15回 フロアー、バー、センターレッスン まとめ

◆準備学習の内容◆

ストレッチなど、各自が自習できる日々行うべき身体運動がある。この授業にも重要であるし、日々の生活にもたいせつなものである。 目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時課題しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

持ち物はバレエシューズ(かかとのある靴は不可)
Tシャツやスウェットなどストレッチのある動きやすい服装(上は身体のラインが見えるもの、下は足を開いたり上げたりする為、スカートやワイドパンツ、ジーンズは不可)
髪が顔にかかる場合はゴムやピンでまとめる。

後期は前期の応用となるため、前期と後期を受講することが望ましい。

ナンバリング	CCS413N		
科目名	身体表現C		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

舞台芸術において、演者が観客に【伝える】ための身体的・感情的表現とは何かを理解し、修得する。

◆授業内容・計画◆

～表現することの難しさを実感すると共に楽しさを知る、実技訓練の講座（基礎実践編）～

- ・観客に見せる／観客に魅せる…2つの「みせる」姿勢・動作をつくる。
- ・舞台上での居方（＝外部から観察される姿・形）を意識することを覚える。
- ・舞台上での居方を、自ら舞台に存在しつつ理解する感覚を覚える。
- ・舞台上での居方「観られる・観せる」のインタラクティブな感覚を学ぶ。
- ・＜シアターゲーム＞を中心に、反応できる肉体・感覚の柔軟性を養う。
- ・基本的感情（喜・怒・哀・楽）表現から応用を考える。
- ・【再現芸術】としての『オペラ』の理解の仕方を学ぶ。

【授業計画】＊ 習得状況に応じて変更有り

- ①ガイダンスおよびシアターゲーム（手のトレーニング）＆思考の柔軟化
- ②思考の柔軟化＆記憶トレーニング
- ③オーラルトレーニング（滑舌）
- ④反応トレーニングVol.1（じゃんけんゲーム、他己紹介、円卓ゲーム）
- ⑤からだの柔軟化
- ⑥真似るトレーニングVol.1（鏡、鏡ウオーク）
- ⑦真似るトレーニングVol.2（カタカナ伝言、皿回し）
- ⑧反応トレーニングVol.2（ボール投げ歩き）
- ⑨伝えるトレーニングVol.1（ドライブ、リモコンドライブ）
- ⑩からだ（動き）と思考の一体化
- ⑪発想を伝える、アクティブラーニング
- ⑫理想的な立ち方＆歩き方（自己流→あおり歩き、日本と西洋の流儀の違い）
- ⑬伝えるトレーニングVol.2（ステイタス）
- ⑭復習
- ⑮まとめ・試験

＊この授業の応用編として続く、後期「身体表現D」を継続履修することが望ましい。

◆準備学習の内容◆

前回授業の習得を自宅フォローすること。（目安60分）

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、前期終了時に授業内で試験を実施。
総合的に成績評価する。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

動きやすい服装（トレーニングウェア）・靴（底の薄いもの）にて参加すること。
筆記具必携。
出席重視。全出席が望ましい。

ナンバリング	CCS414N		
科目名	身体表現D		
科目詳細			
担当教員	高岸 未朝		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

舞台芸術において、演者が観客に【伝える】ための身体的・感情的表現とは何かを理解し、修得する。

◆授業内容・計画◆

～表現することの難しさを実感すると共に楽しさを知る、実技訓練の講座(応用実践編)～

*この授業は、基礎編としての前期「身体表現C」から継続履修する事が望ましい。

- ・前期に習得したことを更に専門的、実践的に掘り下げ、プロフェッショナルな表現者となることを目指す。
- ・＜シアターゲーム＞＜インプロ(即興)＞を中心に、反応できる肉体・感覚の柔軟性を更に一段階upさせる。
- ・応用的感情表現の獲得をめざす。
- ・様々な＜エチュード＞により表現のHow-toを学ぶ。
ex.リアクション、ステイタスジャッジなど。
- ・各人の表現における不得手を克服する方法を考える。
- ・歌うことと演技することの境界線を自認し、双方の相乗効果として昇華させる。
- ・＜エアオペラ＞で実践的にオペラ演技として応用する術を修得する。

【授業計画】* 習得状況に応じて変更有り

- ①立ち座りの基本習得および各人へのコンサルティング
- ②内容表現と感情表現の違い
- ③色表現、アクティブラーニング
- ④色マイムリレー
- ⑤職業マイムリレー
- ⑥エチュード
- ⑦読み合わせVol.1(エアオペラ課題スコア、説明&読解)
- ⑧読み合わせVol.2(相手役とのコンビネーション)
- ⑨立ち稽古Vol.1(課題スコアを音楽と共に～)
- ⑩立ち稽古Vol.2(舞台設定を考える)
- ⑪立ち稽古Vol.3(グループ毎のアイディア、ブレインストーミング)
- ⑫表現とは・記号論としての演技
- ⑬立ち稽古Vol.4(パターンワークの比較)
- ⑭立ち稽古Vol.5(ダメだし、チェック)
- ⑮まとめ、試演会＝テスト

◆準備学習の内容◆

前回授業の課題習得を自宅フォローをすること。
課題スコアの事前自習および暗譜。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

授業中に課題を常にフィードバックし、後期終了時に授業内で試験を実施。
総合的に成績評価する。。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

なし

◆留意事項◆

動きやすい服装(トレーニングウェア)・靴(底の薄いもの)にて参加すること。
筆記具必携。
全出席が望ましい。

ナンバリング	CCS409N		
科目名	声楽特別演習 I		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

声楽曲を歌うために必要な技術はもちろんの事、詩の解釈、言語への豊かな感性を磨き、演奏家となるための基本的知識や能力を養い、豊富なレパートリーを蓄積できる。

◆授業内容・計画◆

イタリア・ドイツ・フランス・日本等、様々な原語による声楽曲を深く追究しながら学ぶことが出来る。45分の個人レッスンで各々の声種・声質に適した曲を選び、詩を理解、研究すると同時に作曲家の作風や演奏スタイルも学び、コンサート歌手としての実践力を養うことが出来る。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 課題とする声楽曲1に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回: 課題とする声楽曲1の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回: 課題とする声楽曲1の仕上げ
- 第5回: 課題とする声楽曲2に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回: 課題とする声楽曲2の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回: 課題とする声楽曲2の仕上げ
- 第8回: 課題とする声楽曲3に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回: 課題とする声楽曲3の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回: 課題とする声楽曲3の仕上げ
- 第11回: 課題とする声楽曲4に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回: 課題とする声楽曲4の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回: 課題とする声楽曲4の仕上げ
- 第14回: 声楽曲1、2、3、4のまとめ
- 第15回: まとめ、表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

I: 平常の授業に取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCS410N		
科目名	声楽特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

声楽特別演習Ⅰの学びの上に立ち、声楽曲を歌うために必要な技術はもちろんの事、詩の解釈、言語への豊かな感性を磨き、演奏家となるための基本的知識や能力を養い豊富なレパートリーを蓄積させる。

◆授業内容・計画◆

イタリア・ドイツ・フランス・日本等、様々な原語による声楽曲を深く追究しながら学ぶことが出来る。45分の個人レッスンで各々の声種・声質に適した曲を選び、詩を理解、研究すると同時に作曲家の作風や演奏スタイルも学び、コンサート歌手としての実践力を養うことが出来る。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲5に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする声楽曲5の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回:課題とする声楽曲5の仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲6に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回:課題とする声楽曲6の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回:課題とする声楽曲6の仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲7に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回:課題とする声楽曲7の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回:課題とする声楽曲7の仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲8に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回:課題とする声楽曲8の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする声楽曲8の仕上げ
- 第14回:声楽曲5、6、7、8のまとめ
- 第15回:まとめ、表現の追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

オペラ: 平常授業の取り組みにより評価する。
 歌曲: 合同発表会 単位認定
 レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCS411N		
科目名	声楽特別演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

声楽特別演習Ⅰ～Ⅱの学びの上に立ち、声楽曲を歌うために必要な技術はもちろんの事、詩の解釈、言語への豊かな感性を磨き、演奏家となるための基本的知識や能力を養い豊富なレパートリーを蓄積させる。

◆授業内容・計画◆

イタリア・ドイツ・フランス・日本等、様々な原語による声楽曲を深く追究しながら学ぶことが出来る。45分の個人レッスンで各々の声種・声質に適した曲を選び、詩を理解、研究すると同時に作曲家の作風や演奏スタイルも学び、コンサート歌手としての実践力を養うことが出来る。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:課題とする声楽曲9に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第3回:課題とする声楽曲9の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第4回:課題とする声楽曲9の仕上げ
- 第5回:課題とする声楽曲10に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第6回:課題とする声楽曲10の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第7回:課題とする声楽曲10の仕上げ
- 第8回:課題とする声楽曲11に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第9回:課題とする声楽曲11の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第10回:課題とする声楽曲11の仕上げ
- 第11回:課題とする声楽曲12に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
- 第12回:課題とする声楽曲12の多様な歌唱表現の検討と工夫
- 第13回:課題とする声楽曲12の仕上げ
- 第14回:声楽曲9、10、11、12のまとめ
- 第15回:まとめ、表現のさらなる追究

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCS412N		
科目名	声楽特別演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(V)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

声楽特別演習Ⅲの学びの上に立ち、声楽曲を歌うために必要な技術はもちろんの事、詩の解釈、言語への豊かな感性を磨き、演奏家となるための基本的知識や能力を養い豊富なレパートリーを蓄積させる。

◆授業内容・計画◆

イタリア・ドイツ・フランス・日本等、様々な原語による声楽曲を深く追究しながら学ぶことが出来る。45分の個人レッスンで各々の声種・声質に適した曲を選び、詩を理解、研究すると同時に作曲家の作風や演奏スタイルも学び、コンサート歌手としての実践力を養うことが出来る。

授業計画

第1回:ガイダンス
第2回:課題とする声楽曲13に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第3回:課題とする声楽曲13の多様な歌唱表現の検討と工夫
第4回:課題とする声楽曲13の仕上げ
第5回:課題とする声楽曲14に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第6回:課題とする声楽曲14の多様な歌唱表現の検討と工夫
第7回:課題とする声楽曲14の仕上げ
第8回:課題とする声楽曲15に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第9回:課題とする声楽曲15の多様な歌唱表現の検討と工夫
第10回:課題とする声楽曲15の仕上げ
第11回:課題とする声楽曲16に求められる発声法と呼吸法、発音、作品の背景
第12回:課題とする声楽曲16の多様な歌唱表現の検討と工夫
第13回:課題とする声楽曲16の仕上げ
第14回:声楽曲13、14、15、16のまとめ
第15回:まとめ、表現のさらなる追究

◆準備学習の内容◆

・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。(1日最低30分～1時間は練習して、前回のレッスンの復習と予習をする。)
・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

オペラ: 平常授業への取り組みにより評価する
歌曲: 修了試験。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

個々に応じた楽譜を用いる。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

上記の第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修学生に応じて担当教員の進め方が異なるため、第1回のガイダンスでよく確認すること。

ナンバリング	CCS679N		
科目名	ミュージカル演習 I		
科目詳細	複数教員担当※休講情報注意		
担当教員	中西 聡, 本島 阿佐子, 相馬 杏奈, 寺崎 秀臣, 若林 裕治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	水3,水4,水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージカル作品のシーンのアンサンブル演習を通して、ミュージカルの音楽・演技表現の基礎を学び、表現方法を習得する。協働活動を通じてコミュニケーション力を養う。

◆授業内容・計画◆

ミュージカル作品から個々の声質やキャラクターに合ったシーンを決め、アンサンブル曲を通して歌唱・演技の基礎を学ぶ。

- 1) オリエンテーション・声聞き
- 2) 演目、配役、役割分担決め
- 3) 音楽稽古1(楽譜読み)
- 4) 音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 5) 音楽稽古3(暗譜稽古)
- 6) 舞台設定計画、暗譜確認
- 7) ステージングの説明
- 8) 立ち稽古1(ミザンセース、振付の確認)
- 9) 立ち稽古2(アンサンブルの役割確認)
- 10) 立ち稽古3(歌と演技に表現をつける)
- 11) 荒通し稽古
- 12) 通し稽古
- 13) 返し稽古(表現、進行の確認)
- 14) 授業内発表
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

課題の曲は意味調べ、ミュージカルの演目全体について、自分の役について等、十分に準備してくること(目安毎日30分)

◆成績評価の方法◆

演習の中で随時課題を出し、フィードバックするとともに、発表も合わせて総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

シーンを学ぶため、アンサンブルのメンバーに迷惑がかからないよう欠席はしないこと。譜読み、暗譜は授業に支障がないよう十分準備すること。ジャズダンスと連携して舞台を作るので、踊りの振り付けも確自で練習して取得しておくこと。動きやすい稽古着とダンスに適したシューズで参加すること(ミュージカルシーンのキャラクターに近い稽古着をアレンジすることが望ましい)。履修生のレベル及び人数に応じて授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	CCS680N		
科目名	ミュージカル演習Ⅱ		
科目詳細	複数教員担当※休講情報注意		
担当教員	中西 聡, 本島 阿佐子, 相馬 杏奈, 寺崎 秀臣, 若林 裕治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	水3,水4,水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージカル演習Ⅰでの学習を発展させ、アンサンブル演習を通して舞台表現方法や協働作業によるコミュニケーション力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション
- 2)音楽稽古1(楽譜読み)
- 3)音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 4)音楽稽古3(暗譜稽古)
- 5)舞台設定計画、暗譜確認
- 6)ステージングの説明
- 7)立ち稽古1(ミザンセース、振付の確認)
- 8)立ち稽古2(アンサンブルの役割確認)
- 9)立ち稽古3(歌と演技に表現をつける)
- 10)荒通し稽古
- 11)通し稽古
- 12)返し稽古(表現、進行の確認)
- 13)授業内発表
- 14)まとめと評価
- 15)発表

◆準備学習の内容◆

課題の曲は意味調べ、ミュージカルの演目全体について、自分の役について等、十分に準備してくること(目安毎日30分)。

◆成績評価の方法◆

演習の中で随時課題を出し、フィードバックするとともに、発表も合わせて総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

シーンを学ぶため、アンサンブルのメンバーに迷惑がかからないよう欠席はしないこと。譜読み、暗譜は授業に支障がないよう十分準備すること。ジャズダンスと連携して舞台を作るので、踊りの振り付けも確自で練習して取得しておくこと。動きやすい稽古着とダンスに適したシューズで参加すること(ミュージカルシーンのキャラクターに近い稽古着をアレンジすることが望ましい)。履修生のレベル及び人数に応じて授業内容を変更することがある。

ナンバリング	CCS681N		
科目名	ミュージカル演習Ⅲ		
科目詳細	複数教員担当※休講情報注意		
担当教員	中西 聡, 本島 阿佐子, 相馬 杏奈, 寺崎 秀臣, 若林 裕治		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	月3,月4,水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

修了発表会、公演に向けて、ミュージカルの音楽・演技表現・芝居の基礎要素をより深めて学び、チーム全体で力を合わせて舞台を作り上げる。

◆授業内容・計画◆

- 1) オリエンテーション
- 2) 演目、配役、役割分担決め、
- 3) 音楽稽古1(楽譜読み)
- 4) 音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 5) 音楽稽古3(暗譜稽古)
- 6) 舞台設定計画、暗譜確認
- 7) ステージングの説明
- 8) 立ち稽古1(ミザンセース、振付の確認)
- 9) 立ち稽古2(アンサンブルの役割確認)
- 10) 立ち稽古3(歌と演技に表現をつける)
- 11) 荒通し稽古
- 12) 通し稽古
- 13) 返し稽古(表現、進行の確認)
- 14) 授業内発表
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

台詞や振り付け、音楽の実技練習をして授業に備えること。歌詞の意味はしっかり調べてくること。アンサンブルの場面はメンバーと自主練習をしておくこと。目安1日30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
授業中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブル授業なので、メンバーに迷惑のかからないよう、欠席はしないこと。担当箇所の音楽、振り付け、芝居をしっかりと準備してくる事。動きやすい稽古着とダンスに適したシューズで参加すること(ミュージカルシーンのキャラクターに近い稽古着をアレンジすることが望ましい)。履修生のレベルに応じて授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	CCS682N		
科目名	ミュージカル演習Ⅳ		
科目詳細	複数教員担当※休講情報注意		
担当教員	中西 聡, 本島 阿佐子, 相馬 杏奈, 寺崎 秀臣, 若林 裕治		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	月3,月4,水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

修了発表会、公演に向けて、ミュージカルの音楽・演技表現・芝居の基礎要素をより深めて学び、チーム全体で力を合わせて舞台を作り上げ、コース2年間の集大成とする。

◆授業内容・計画◆

- 1)オリエンテーション
- 2)演出の説明、演目、配役、役割分担決め
- 3)音楽稽古1(ソロ稽古)
- 4)音楽稽古2(アンサンブル稽古)
- 5)音楽稽古3(暗譜稽古)
- 6)舞台設定計画、暗譜確認
- 7)ステージングの説明
- 8)立ち稽古1(ミザンセース、振付の確認)
- 9)立ち稽古2(アンサンブルの役割確認)
- 10)立ち稽古3(ソロとアンサンブル確認)
- 11)立ち稽古4(歌と演技、ダンスに表現をつける)
- 12)荒通し稽古
- 13)通し稽古
- 14)返し稽古(表現、進行の確認)
- 15)修了発表会

◆準備学習の内容◆

台詞や振り付け、音楽の実技練習をして授業に備えること。歌詞の意味はしっかり調べてくること。アンサンブルの場面はメンバーと自主練習をしておくこと。目安1日30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

授業内評価。演習の中で随時課題を出し、フィードバックするとともに、発表も合わせて総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

シーンを学ぶため、アンサンブルのメンバーに迷惑がかからないよう欠席はしないこと。譜読み、暗譜は授業に支障がないよう十分準備すること。ジャズダンスと連携して舞台を作るので、踊りの振り付けも確自で練習して取得しておくこと。動きやすい稽古着とダンスに適したシューズで参加すること(ミュージカルシーンのキャラクターに近い稽古着をアレンジすることが望ましい)。露修正のレベルに応じて内容を変更することがある。

ナンバリング	CCL685N		
科目名	ミュージカル講座		
科目詳細			
担当教員	中西 聡		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージカルは実演家と、数多くのスタッフからなる総合芸術である。それぞれの役割分担を理解することで、俯瞰した視点からミュージカルを捉えることが出来る。また公演を開催するにあたり、実演家・スタッフが身につけておくべき企画・制作の専門的知識、法制度、作品を広く認知されるための宣伝方法等を複合的に学び、社会で実践できる能力を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス／ミュージカルの今
2. 著作者の権利、実演家の権利について（「著作権」「著作隣接権」の歴史）
3. 権利ビジネスを考察する（グランドライツ＝上演権とは スモールライツ＝音楽的著作権とは）
4. ブロードウェイ／ウエストエンド（ロンドン）のライセンスビジネスの現状
5. 舞台が円滑に遂行する為の役割分担
6. 演出家、プロデューサー、舞台監督、演出助手について
7. 音楽監督、指揮者、歌唱指導について
8. セルフプロデュース、アーティスト・マネージメントについて／オーディションで求められる人材とは
9. 劇場の種類と歩み／舞台専門用語解説と使い方
10. 公演企画の『5W1H』（公演を形成する6つの視点/企画立案から公演終了まで）
11. 予算・票券・顧客（ファン/サポーター）管理の基礎
12. 時代に即した発信方法（広報・宣伝）を考察する
13. 公演形式（ビジネスモデル）の新たな潮流を思考する
14. 具体的な作品事例をディスカッション（企画力・宣伝方法・ビジネスモデルを評価・考察）
15. まとめ・質疑応答

◆準備学習の内容◆

授業では、ミュージカル、演劇に関わる時事にもふれて行く為、新聞、テレビ、インターネットのニュース等で社会の動きを捉えて欲しい。授業内で取り上げる内容について、予習と復習にそれぞれ60分程度、資料調査、文献調査などを行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的取組と課題レポートにより評価する

◆教科書（使用テキスト）◆

必要に応じてプリント配付、あるいは授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

積極的な授業参加。疑問点、質問を遠慮なくすること。履修生のレベル、人数に応じ、授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	VML001N		
科目名	ミュージカル概論		
科目詳細			
担当教員	中西 聡		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

授業では、ミュージカルの黎明期から現在に至るまで、その時代ごとの代表作品、芸術家を取り上げ紹介、解説する。ミュージカルは毎年新作が生み出され、時代とともに変遷を繰り返して来た。成立、歴史的な流れ、作品が生まれた社会的背景を知ることにより、ミュージカルの魅力をより深く理解することが出来る。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス／ミュージカルとは何か
2. ミュージカルの誕生・成立から黎明期まで
3. 初期のミュージカル界を牽引した5大作曲家（アーヴィング・バーリン、ジェローム・カーン、ジョージ・ガーシュイン、リチャード・ロジャース、コール・ポーター）
4. 世界大恐慌が与えたミュージカルへの影響～社会風刺とコメディ（『エニシングゴーズ』、『アニー』、『キス・ミー、ケイト』）
5. 名作の時代①（ロジャース&ハマースタインコンビ『サウンド・オブ・ミュージック』、『南太平洋』、『王様と私』、『回転木馬』他）
6. 名作の時代②（『マイ・フェア・レディ』、『ウエスト・サイド・ストーリー』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』、『ラ・マンチャの男』他）
7. ブロードウェイ・ミュージカルの新たな作風『キャバレー』、『シカゴ』、『コーラスライン』、『リトル・ナイト・ミュージック』他）
8. ロンドン・ミュージカル（『レ・ミゼラブル』、『オペラ座の怪人』、『ミス・サイゴン』）の席捲
9. ブロードウェイミュージカルの復活（『ディズニー作品』）～ウィーン・ミュージカルの潮流（『エリザベト』、『モーツァルト！』）
10. 映画原作から舞台公演へ『プロデューサーズ』、『サタデー・ナイト・フィーバー』、『フットルース』、『ヘアスプレー』、『ムーラン・ルージュ』他
11. 日本の演劇 近代まで
12. 日本の演劇 近代以降
13. 日本のミュージカルの歴史①（東宝「マイ・フェア・レディ」から「レ・ミゼラブル」「ミス・サイゴン」まで）
14. 日本のミュージカルの歴史②（劇団四季「キャッツ」～ディズニー作品まで）
15. 日本のミュージカルの現状と将来／まとめ・質疑応答

◆準備学習の内容◆

授業内で取り上げる作品や芸術家については、予習と復習に、それぞれ60分程度、資料調査、文献調査などを行い、より一層の理解を深めて欲しい。

◆成績評価の方法◆

授業への積極的取組と課題レポートにより評価する

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリント配付、あるいは授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

積極的な授業参加。疑問点、質問を遠慮なくすること。履修生のレベル、人数に応じ、授業内容を変更する場合がある。

ナンバリング	VMS425N		
科目名	演劇 I		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	中西 聡		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演劇は多様な文化や歴史を反映するものである。異なる背景や視点を理解することで、広い視野を持つことができる。演技を通じて自分の感情や考えを効果的に表現できるようにする。演劇は集団活動であるため、相手との信頼関係を築くことが重要である。演劇を通じて他者との協力やコミュニケーション能力の向上をはかる。演技についてのフィードバックを通じて、自らのパフォーマンスを客観的に分析し、改善のための思考力を養う。舞台芸術の実践的なスキルを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 戯曲(作品)の構造・テーマの分析
3. 登場人物の分析
4. 演出意図の説明
5. テーブル稽古①(読み合わせをしながら全役の台詞を体験する)
6. テーブル稽古②(読み合わせをしながらシーンを考察する)
7. テーブル稽古②(キャラクターのバックストーリーの考察及び動機付けを行い人物像を構築する)
8. テーブル稽古③(時代考証、その土地ならではの背景を考察する)
9. 荒立ち稽古①(考察した時代・土地の背景、設定したキャラクターに従い、自由に演じてみる)
10. 荒立ち稽古②(ミザンセースを決めていく)
11. 荒立ち稽古③(与えられたミザンセースに基づき、演じる)
12. 立稽古①(シーンごとにステージング)
13. 立稽古②(シーンごとにステージングとその反復)
14. 立稽古③(シーンごとにステージングと確認・反復)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた配役の人物像・バックストーリーを自分なりに考えてくること。与えられた台詞を覚えてくる事(15分～30分程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスをを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

ミュージカルの台本、ストレートプレイの戯曲など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数、男女比に応じて授業内容などを変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー(ダンスシューズであればヒールも可)。

ナンバリング	VMS426N		
科目名	演劇Ⅱ		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	中西 聡		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期で決めたミザンセーンを基本にして、演じる役をさらに掘り下げて、作品理解を深める。演技を通じて自分の感情や考えを、さらに効果的に表現できるようにする。演劇は集団活動であるため、相手との信頼関係を築くことが重要である。演劇を通じて他者との協力やコミュニケーション能力の向上をさらにはかる

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 立稽古①（思い出し稽古）
3. 立稽古②（思い出し稽古とその反復）
4. 立稽古③（思い出し稽古と確認・反復）
5. 作品の時代・土地背景を考慮の上、自分の演じる役柄に相応しい衣裳を考察する
6. 衣裳パレード
7. 衣裳を着けて稽古①
8. 衣裳を着けて稽古②（反復稽古）
9. 衣裳を着けて稽古③（確認・反復稽古）
10. ブロック固め①
11. ブロック固め②（反復稽古）
12. ブロック固め③（確認・反復稽古）
13. 通し稽古
14. 授業内発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

立ち稽古には台詞を暗記しておくこと。（15分～30分程度）。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

ミュージカルの台本、ストレートプレイの戯曲など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数、男女比に応じて授業内容などを変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー（ダンスシューズであればヒールも可）。

ナンバリング	CCS689N		
科目名	演劇Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	中西 聡		
学年	1年・4年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	金 1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演劇は多様な文化や歴史を反映するものである。異なる背景や視点を理解することで、広い視野を持つことができる。演技を通じて自分の感情や考えを効果的に表現できるようにする。演劇は集団活動であるため、相手との信頼関係を築くことが重要である。演劇を通じて他者との協力やコミュニケーション能力の向上をはかる。演技についてのフィードバックを通じて、自らのパフォーマンスを客観的に分析し、改善のための思考力を養う。舞台芸術の実践的なスキルを身につける。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 戯曲（作品）の構造・テーマの分析
3. 登場人物の分析
4. 演出意図の説明
5. テーブル稽古①（読み合わせをしながら全役の台詞を体験する）
6. テーブル稽古②（読み合わせをしながらシーンを考察する）
7. テーブル稽古②（キャラクターのバックストーリーの考察及び動機付けを行い人物像を構築する）
8. テーブル稽古③（時代考証、その土地ならではの背景を考察する）
9. 荒立ち稽古①（考察した時代・土地の背景、設定したキャラクターに従い、自由に演じてみる）
10. 荒立ち稽古②（ミザンセースを決めていく）
11. 荒立ち稽古③（与えられたミザンセースに基づき、演じる）
12. 立稽古①（シーンごとにステージング）
13. 立稽古②（シーンごとにステージングとその反復）
14. 立稽古③（シーンごとにステージングと確認・反復）
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

与えられた配役の人物像・バックストーリーを自分なりに考えてくること。与えられた台詞を覚えること（15分～30分程度）。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスをを行う。授業内評価。

◆教科書（使用テキスト）◆

ミュージカルの台本、ストレートプレイの戯曲など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数、男女比に応じて授業内容を変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー（ダンスシューズであればヒールも可）。

ナンバリング	CCS694N		
科目名	演劇Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	中西 聡		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	金 1	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期で決めたミザンセーンを基本にして、演じる役をさらに掘り下げて、作品理解を深める。演技を通じて自分の感情や考えを、さらに効果的に表現できるようにする。演劇は集団活動であるため、相手との信頼関係を築くことが重要である。演劇を通じて他者との協力やコミュニケーション能力の向上をさらにはかる。

◆授業内容・計画◆

1. オリエンテーション
2. 立稽古①（思い出し稽古）
3. 立稽古②（思い出し稽古とその反復）
4. 立稽古③（思い出し稽古と確認・反復）
5. 作品の時代・土地背景を考慮の上、自分の演じる役柄に相応しい衣裳を考察する
6. 衣裳パレード
7. 衣裳を着けて稽古①
8. 衣裳を着けて稽古②（反復稽古）
9. 衣裳を着けて稽古③（確認・反復稽古）
10. ブロック固め①
11. ブロック固め②（反復稽古）
12. ブロック固め③（確認・反復稽古）
13. 通し稽古
14. 授業内発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

立ち稽古には台詞を暗記しておくこと。（15分～30分程度）。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

ミュージカルの台本、ストレートプレイの戯曲など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数に応じて授業内容を変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー（ダンスシューズであればヒールも可）。

ナンバリング	CCS685N		
科目名	ジャズダンスA I		
科目詳細			
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ジャズダンスに必要な柔軟性、筋力を養い、基礎ステップを習得する

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ストレッチ ①床
3. ストレッチ ②バーを使用
4. 基本姿勢、立ち姿について
5. アイソレーション ①首、肩
6. アイソレーション ②胸、腰
7. アームスの使い方について
8. 筋力トレーニング
9. プリエについて
10. タンジュについて
11. ジャズウォーク、リズムステップ
12. ステップコンビネーション ①前半
13. ステップコンビネーション ②後半
14. ステップコンビネーション ③発表
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	CCS686N		
科目名	ジャズダンスAⅡ		
科目詳細			
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ジャズダンスに必要な基礎体力を身につけると同時に、自己の心身を解放し、表現する喜びを体感する。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス・前期の復習
- 2.ウォーミングアップ復習
- 3.体幹トレーニングとリズムステップ
- 4.ターン ①片足で立つ
- 5.ターン ②シングルターン
- 6.ターン ③ピケパッセ
- 7.バットマン
- 8.シェネ(シングル)
- 9.4～8復習、応用コンビネーション
- 10.振付 ①前半
- 11.振付 ②後半
- 12.振付 ③前半後半復習
- 13.振付 ④ステージング
- 14.振付発表
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	CCS687N		
科目名	ジャズダンスB I		
科目詳細			
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

柔軟性と筋力の向上。基礎テクニックの強化。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.バーストレッチ復習
- 3.アイソレーション復習
- 4.プリエ、タンジュ、アームス復習
- 5.ターン ①ダブル
- 6.ターン ②ピケターン
- 7.ターン ③アンデダン
- 8.シェネ(ダブル)
- 9.バットマン応用
- 10.5～9復習
- 11.応用コンビネーション
- 12.振付 ①前半
- 13.振付 ②後半
- 14.振付復習～発表
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	CCS688N		
科目名	ジャズダンスBⅡ		
科目詳細			
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

課題振付を通して自己表現力を磨き、舞台の上で個性を発揮できる事を目指す。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期の復習
- 2.テクニック応用(ターン)
- 3.テクニック応用(シェネ)
- 4.テクニック応用(バットマン)
- 5.テクニック応用(ジャンプ)
- 6.コンビネーション応用①前半
- 7.コンビネーション応用②後半
- 8.コンビネーション応用③前半後半復習
- 9.コンビネーション応用④発表
- 10.(修了発表会に向けての)作品練習①
- 11.(修了発表会に向けての)作品練習②
- 12.(修了発表会に向けての)作品練習③
- 13.(修了発表会に向けての)仕上げ
- 14.作品発表(実技試験)
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	VMS021N		
科目名	シアターダンス I		
科目詳細	抽選科目 26名		
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,2年,3年	クラス	O1
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ショーダンスに必要な柔軟性、筋力を養い、基礎ステップを習得する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ストレッチ
3. アイソレーション ①首、肩
4. アイソレーション ②胸、腰
5. プリエ、アームスの使い方
6. ボディーロール
7. 筋力トレーニング
8. ジャズウォーク
9. 基礎ステップ ①スローテンポ
10. 基礎ステップ ②アップテンポ
11. 振付 ①前半
12. 振付 ②後半
13. 振付 ③ステージング
14. 発表
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	VMS022N		
科目名	シアターダンスⅡ		
科目詳細	抽選科目 26名		
担当教員	相馬 杏奈		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ショーダンスのスキルを身につけると共に、ダンスを用いて自己表現力、アピール力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期復習
- 2.ウォーミングアップ復習
- 3.ターンについて
- 4.シェネについて
- 5.バットマンについて
- 6.3-5を用いたコンビネーション①前半
- 7.3-5を用いたコンビネーション②後半
- 8.リズムステップ①
- 9.リズムステップ②
- 10.ミュージカルナンバーを使った振付①前半
- 11.ミュージカルナンバーを使った振付②後半
- 12.ミュージカルナンバーを使った振付③ステージング
- 13.ミュージカルナンバーを使った振付④仕上げ
- 14.発表
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

- ・授業で毎回行うストレッチ、筋力トレーニングを継続して行う。(毎日目安30分)
- ・授業前にステップや振付を確認し復習してくること。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、随時課題を授業内でフィードバックするとともに、実技発表などで総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

動きやすい服装、ジャズダンスシューズを用意する。(初回授業で説明)

ナンバリング	VMS019N		
科目名	基礎演劇 I		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	中西 聡		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ワークショップ・シーンスタディを通じ「演技」からのアプローチにより演劇の基礎を学ぶ。ミュージカルやストレートプレイの戯曲を用いて、登場人物の設定、台詞の読み合わせ、立稽古を経験し、ドラマシーンを演じ発表する。

◆授業内容・計画◆

- ① オリエンテーション
- ② 多種多様な演技方法について(スタニスラフスキー・システム/メソッド演技法/インプロなど)
- ③ 演劇コミュニケーションの本質を理解する①(「演劇」のリアルと「現実」のリアル)
- ④ 演劇コミュニケーションの本質を理解する②(身体の動き・働きを理解する)
- ⑤ 演劇コミュニケーションの本質を理解する③(自分・相手・観客とのイメージの共有)
- ⑥ 自意識のコントロール／戯曲の中での「与えられた状況」
- ⑦ 「魔法のもし」／「目的」と「障害」
- ⑧ 「行動」／「感覚の記憶」／「感情の記憶」
- ⑨ 意識を分散し力を抜く
- ⑩ 観客の想像力を誘導する(間の取り方)
- ⑪ 戯曲を使ったシーンスタディ①(登場人物の人生を考える)
- ⑫ 戯曲を使ったシーンスタディ②(ミザンセーンを与えて動きを付けて演じる)
- ⑬ 戯曲を使ったシーンスタディ③(シーンごとにステージング)
- ⑭ オムニバスのドラマシーンを仕上げ発表する
- ⑮ まとめ 質疑応答

◆準備学習の内容◆

与えられた台詞を覚えてくること(15分～30分程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスをを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講生の人数、男女比に応じて、適切なストレートプレイやミュージカルの台本など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数に応じて授業内容を変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー(ダンスシューズであればヒール也可)。

ナンバリング	VMS020N		
科目名	基礎演劇Ⅱ		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	中西 聡		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	金2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ワークショップ・シーンスタディを通じ「戯曲」からのアプローチにより演劇の基礎を学ぶ。ミュージカルやストレートプレイの戯曲を用いて、登場人物の設定、台詞の読み合わせ、立稽古を経験し、ドラマシーンを演じ発表する。さらに自ら簡単な戯曲を書き、物語を創作することで演劇を重層的に理解する。

◆授業内容・計画◆

- ① オリエンテーション
- ② 戯曲からのアプローチによるリアルな台詞とは何か
- ③ 演劇の起こる場所・背景
- ④ 「思考」「感情」「言動」の流れから作者(戯曲)の意図を理解する
- ⑤ 自分でプロットを考える
- ⑥ 自分でエピソードを考える
- ⑦ 『起』『承』『転』『結』を用いて物語を創作する
- ⑧ 創作した物語を演じる①(配役を決める)
- ⑨ 創作した物語を演じる②(読み合わせを行う)
- ⑩ 創作した物語を演じる③(ミザンセーンを与えて動きを付けて演じる)
- ⑪ 創作した物語を演じる④(シーンごとのステージング前半)
- ⑫ 創作した物語を演じる⑤(シーンごとのステージング後半)
- ⑬ 創作した物語を演じる⑥(通し)
- ⑭ 授業内発表
- ⑮ まとめ・質疑応答

◆準備学習の内容◆

物語を創作するにあたり、時事にも敏感であって欲しい。新聞、テレビ、インターネット等のニュースで社会の動きを捉えて欲しい。シーンごとのステージング(立ち稽古)には台詞を暗記しておくことが望ましい(15分～30分程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスをを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講生の人数、男女比に応じて、適切なストレートプレイやミュージカルの台本など。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数に応じて授業内容を変更する場合がある。動きやすい服装。ダンスシューズまたはスニーカー(ダンスシューズであればヒールも可)。

ナンバリング	VMS423N		
科目名	リズムヴォーカル I		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	塩谷 哲		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現在のミュージカルやエンターテインメント業界は、クラシック、ジャズ、クロスオーバー、ラテン、ロック、ポップスなど様々なジャンルの音楽の構成によって制作されている。その音楽の多様性を少しでも理解する為に、4beat、8beat、16beatなどの基本的なリズムのグルーヴと、それぞれのジャンルの基礎的歌唱法を体験学習する。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス
- 2) リズムの感じ方と実践1 (8beat)
- 3) リズムの感じ方と実践2 (16beat)
- 4) リズムの感じ方と実践3 (Basic Latin Rhythm)
- 5) リズムの感じ方と実践4 (4beat)
- 6) スタンダード・ジャズ(バラード)歌唱① 譜読み・ディクシオン『When You Wish Upon A Star』etc.
- 7) スタンダード・ジャズ歌唱② 基礎歌唱
- 8) スタンダード・ジャズ歌唱実践① グルーヴ(ノリ)表現
- 9) スタンダード・ジャズ歌唱実践② 簡単なフェイク法
- 10) スタンダード・ジャズ(スイング)歌唱① 譜読み・ディクシオン『I Got Rhythm』etc.
- 11) スタンダード・ジャズ歌唱② 基礎歌唱
- 12) スタンダード・ジャズ歌唱実践① グルーヴ(ノリ)表現
- 13) スタンダード・ジャズ歌唱実践② 簡単なフェイク法
- 14) 授業内発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

事前に渡された音源、譜面を予習して来ること(15分～30分程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスをを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数に応じて授業内容、課題曲を変更する場合がある。

ナンバリング	VMS424N		
科目名	リズムヴォーカルⅡ		
科目詳細	抽選科目 12名		
担当教員	塩谷 哲		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-142	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

現在のミュージカルやエンターテインメント業界は、クラシック、ジャズ、クロスオーバー、ラテン、ロック、ポップスなど様々なジャンルの音楽の構成によって制作されている。その音楽の多様性を理解するために、4beat、8beat、16beatなどの基本的なリズムのグルーヴと、それぞれのジャンルの基礎的歌唱法を体験学習する。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス
- 2) ポップス歌唱① 譜読み・ディクシオン『Yesterday Once More』『Yesterday』etc.
- 3) ポップス歌唱② 基礎歌唱
- 4) ポップス歌唱実践① グルーヴ(ノリ)表現
- 5) ポップス歌唱実践② 簡単なフェイク法
- 6) ミュージカル歌唱① 譜読み・ディクシオン『Memory』etc.
- 7) ミュージカル歌唱② 基礎歌唱
- 8) ミュージカル歌唱実践① フレーズの表現
- 9) ミュージカル歌唱実践② 演劇的歌唱
- 10) クラシカルクロスオーバー歌唱① 譜読み・ディクシオン『Time To Say Good By』etc.
- 11) クラシカルクロスオーバー歌唱② 基礎歌唱
- 12) クラシカルクロスオーバー歌唱実践① フレージングとリズムの融合
- 13) クラシカルクロスオーバー歌唱実践② ディクシオンとリズムの関係
- 14) 授業内発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

事前に渡された音源、譜面を予習して来ること(15分～30分程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内で随時個別にフィードバックしながら適宜アドバイスを行う。授業内評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

履修生のレベル及び人数に応じて授業内容、課題曲を変更する場合がある。

ナンバリング	VML423N		
科目名	歌曲作品研究A		
科目詳細	1セメスターに1科目のみ履修		
担当教員	加納 悦子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月 3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

ドイツ歌曲における詩と音楽の世界を学ぶ。詩をよく理解し、楽譜を読み込んで解釈する。それらを踏まえ、どうやって表現するのかを研究する。本授業では、後期ロマン派から20世紀以降の歌曲作品を多く課題として取り上げる。

◆授業内容・計画◆

シューベルト、シューマン、ブラームス、マーラー、ヴォルフ、シュトラウスと20世紀以降の作曲家の歌曲作品を取り上げる。詩の朗読や解釈を行い、歌唱とピアノの結びつきを理解し、それぞれの歌曲の表現について演習しながら考える。

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:シューベルトの歌曲
- 第3回:シューマンの歌曲
- 第4回:ブラームスの歌曲
- 第5回:マーラーの歌曲
- 第6回:フーゴー・ヴォルフの歌曲
- 第7回:リヒャルト・シュトラウスの歌曲
- 第8回: 19世紀末から20世紀の歌曲(1)プフィッツナー、ツェムリンスキー、レーガー
- 第9回: 19世紀末から20世紀の歌曲(2)シュレーカー、マルクス、ヒンデミット
- 第10回: シェーンベルクの歌曲
- 第11回: ベルクの歌曲
- 第12回: ウェーベルンの歌曲
- 第13回: 20世紀の歌曲(1) ウルマン、アイスラー、コルンゴルト、ロイター、マルクス、ヒンデミット
- 第14回: 20世紀の歌曲(2) ウルマン、アイスラー、コルンゴルト、ロイター、マルクス、ヒンデミット
- 第15回: まとめと授業内発表

◆準備学習の内容◆

歌詞の意味は事前に調べておく。
取り上げる曲の演習ができるように準備しておく。
演習曲はピアニストと歌い手で1時間以上の予習をすること。

◆成績評価の方法◆

授業への積極性、演奏を総合して評価する。
受講生には毎回の演習の際に講評をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

楽譜や資料については指示、あるいは配布する。
ドイツ語の辞書を用意し、意味を調べられるようにしておくこと。

◆参考図書◆

参考書籍などについては、その都度紹介する。

◆留意事項◆

ドイツ・リート の歴史をたどりながら、演習を通して作品への理解を深め、リート演奏への取り組み方を考えていく授業です。演習は声楽とピアノの受講生がデュオを組んで取り組みます。

< 歌詞の理解がないと有意義な演習になりません。>
声楽の受講生については、ドイツ語の基礎語学力があるものとして授業を進めます。ドイツ語ディクショ ンもIVまで履修済みであることが望ましい。
ピアノの受講生も歌詞の読み方や意味について十分な予習をしてくること。

< リート演奏に真摯に取り組み、高い意識を持ってください。>
声楽は様々な時代の作品に順応できる能力が求められます。ソリストコース以外の学生は、普段からドイツ歌曲の勉強をしている、あるいは歌曲演習の授業で既にドイツ歌曲をある程度勉強済みの人が受講することが推奨される。また、20世紀の歌曲作品の演奏も多く取り入れるので、未知の作品に対しても興味を持って取り組む姿勢が求められる。
ピアノは、声楽との共演を通じて、詩の言葉をピアノで音にしてい くことに興味をもって臨むこと。

ナンバリング	VML424N		
科目名	歌曲作品研究B		
科目詳細	1セメスターに1科目のみ履修		
担当教員	悦田 比呂子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

フランス歌曲の流れを追いながら、フランス芸術歌曲のレパートリー、演奏法について学ぶことができる。作曲家や詩人についても深く研究し、フランス歌曲への理解を深める事ができる。

◆授業内容・計画◆

- 1) ガイダンス
- 2) フォーレの歌曲 1曲目 詩の背景と解釈、演習
- 3) フォーレの歌曲 2曲目 詩の背景と解釈、演習
- 4) フォーレの歌曲 3曲目 詩の背景と解釈、演習
- 5) ドビュッシーの歌曲 1曲目 詩の背景と解釈、演習
- 6) ドビュッシーの歌曲 2曲目 詩の背景と解釈、演習
- 7) アーンの歌曲 1曲目 詩の背景と解釈、演習
- 8) アーンの歌曲 2曲目 詩の背景と解釈、演習
- 9) ショーソンの歌曲 1曲目 詩の背景と解釈、演習
- 10) ショーソンの歌曲 2曲目 詩の背景と解釈、演習
- 11) デュパルクの歌曲 1曲目 詩の背景と解釈、演習
- 12) デュパルクの歌曲 2曲目 詩の背景と解釈、演習
- 13) ブーランク、6人組の歌曲、詩の背景と解釈、演習
- 14) まとめ
- 15) 授業内発表会

毎回必ず演習を入れながら、歌唱とピアノの結びつきを理解し、それぞれの歌曲の表現について考える。詩人、作曲家について調べ、発表する。

◆準備学習の内容◆

作品については、歌詞の意味を調べ、発音記号を調べて読んでみる。取り上げる曲の演習ができるよう準備しておくこと。目安時間は30分～1時間。未習熟者でも恐れることなく、果敢に取り組んで貰いたい。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方。学期末に発表会を計画しています。受講者には全員出席してもらいます。授業内では常に課題をフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示します。

◆参考図書◆

それぞれの作曲家や詩人の伝記などに目を通しておくことは大切です。

◆留意事項◆

フランス歌曲を演奏したことがなくとも、フランス音楽に興味のある人は躊躇せず受講して下さい。演奏の準備は大変だとは思いますが、新しい分野に挑戦することは素晴らしいことです。演奏向上のため意欲をもって受講してください。

ナンバリング	VML425N		
科目名	歌曲作品研究C		
科目詳細	1セメスターに1科目のみ履修		
担当教員	彌勒 忠史		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

声楽学習者の必須レパートリーである”イタリア古典歌曲”を、本来のイタリア語バロック声楽作品として、演習を交えながら学ぶ。詩形や舞曲、文化のおよび宗教的背景などの視点から楽曲を分析することにより、バロック声楽作品についての知識や演奏法を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.はじめに～”イタリア古典歌曲”とは何か？バロック声楽作品は初学者のものか？～
- 2.ジュリオ・カッチーニ 1
- 3.ジュリオ・カッチーニ 2
- 4.クラウディオ・モンテヴェルディ 1
- 5.クラウディオ・モンテヴェルディ 2
- 6.ジローラモ・フレスコバルディ 1
- 7.ジローラモ・フレスコバルディ 2
- 8.タルクイニオ・メールラ 1
- 9.タルクイニオ・メールラ 2
- 10.ジョヴァンニ・フェリーチェ・サンチェス
- 11.バルバラ・ストロツツィ
- 12.フランチェスコ・ガスパリーニ
- 13.アレッシンドロ・スカララッティ
- 14.ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデル
- 15.まとめ～授業内発表会

◆準備学習の内容◆

歌詞の意味は事前に調べておくこと。
楽譜は事前に配布するので、演習の準備をしておくこと。
楽譜については、本来通奏低音で書かれているものも、なるべくリアリゼーション済みのものを配布するが、自身でもバス旋律と和声の分析を試みること。
演習曲は伴奏者と歌い手での予習をしておくこと。
準備学習の時間は、個人差があると思うが、概ね1時間ほど必要。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みと、最終日の発表演奏と理解度チェックによって、総合的に評価する。受講生には各回演習時に、講評をフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

楽譜については、一回前の授業までに必ず配布する。
イタリア語辞書は、伊和・和伊中辞典(小学館)レベルのものが望ましい。同内容のアプリ・電子辞書が、書籍版に比べると、かなり廉価で販売されているので、それらの利用も検討すると良い。

◆参考図書◆

彌勒忠史「歌うギリシャ神話 オペラ・歌曲がもっと楽しくなる教養講座」2017 アルテスパブリッシング ISBN 978-4-86559-156-9 C1073
彌勒忠史「裏声歌手のモンテヴェルディ偏愛主義 演奏・演出の現場から見た《オルフェオ》《ウリッセ》《ポッペア》《ヴェスプロ》」2018 アルテスパブリッシング ISBN 978-4-86559-187-3 C1073
濱田芳通「歌の心を究むべし 古楽とクラシックのミッシングリンクを求めて」2017 アルテスパブリッシング ISBN 978-4-86559-168-2 C1073
ロバート・トフト「ルネサンス・初期バロックの歌唱法 イギリス・イタリアの演奏習慣を探る」2020 道と書院 ISBN 978-4810530056
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法 当時の演奏習慣を知り、正しい解釈をするために」2005 音楽之友社 ISBN 9784276140301 等

◆留意事項◆

イタリア語バロック声楽作品は、いわゆる”イタリア古典歌曲”として、声楽主専攻、副専攻を問わず、音楽大学学生が必ず学習するレパートリーですが、それらは多くの場合、19世紀のアレンジによって紹介されているものです。つまり、例えば、ロッシーニの作品を現代のヒップホップに編曲して楽しんでいるようなものです。本来の楽曲の魅力を知るためにも、ぜひ受講してみてください。

ナンバリング	VML426N		
科目名	歌曲作品研究D		
科目詳細	1 Semesterに1科目のみ履修		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

イタリア語の詩を歌詞とする声楽曲をどのように解釈して、どのように演奏するのかということを作品研究を通して学びます。詩人のアプローチ、作曲者のアプローチ、そしてそれを踏まえた演奏者のアプローチを体験し、演奏への基礎固めを行います。

◆授業内容・計画◆

バロック・アリア(イタリア古典)から、近代の芸術歌曲にいたるイタリア語の歌詞を持つ声楽曲を扱います。どの曲を取り上げるかは初回に行うアンケートを参考にして決定します。歌曲ソリスト・コース在籍者には詩の朗読、詩と音楽の考察を行った上での歌唱を、アンサンブル・ピアノ・コース在籍者には詩の朗読、詩と音楽の考察を行った上での伴奏を義務づけます。時間に余裕がある場合には、希望者にも実演の機会が与えられます。

- 1)オリエンテーション
- 2)バロック・アリア(イタリア古典)(1)ヘンデル以外の作曲家のアプローチ
- 3)バロック・アリア(イタリア古典)(2)ヘンデルへのアプローチ
- 4)トスティ(1)作品全体のアプローチ
- 5)トスティ(2)ダンヌンツィオの詩に付けられた曲へのアプローチ
- 6)ベッリーニ
- 7)ドニゼッティ
- 8)ドナウディ
- 9)ヴェルディ
- 10)レスピーギ(1)初期歌曲
- 11)レスピーギ(2)チクルス作品
- 12)その他近代歌曲(1)ヴォルフ、フェラーリの作品
- 13)その他近代歌曲(2)ザンドナイの作品
- 14)その他近代歌曲(3)ピッツェッティの作品
- 15)まとめ

◆準備学習の内容◆

シラバスにある作曲家の作品を1曲準備しておくこと。
 その際には必ず音取り、単語の意味を調べる、日本語訳をしてくること。
 詩の内容を理解してくること。目安時間は30分～1時間。

◆成績評価の方法◆

原則、必修コース在籍者は演奏で評価します。それ以外の受講者にはレポートを課しますが、演奏を行った学生にはその成果も評価対象とします。また、平常の授業の取り組み方も参考にします。
 授業内では常に課題をフィードバックするとともに、総合的に成績評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

イタリア語の最低限の知識があるものとして授業を進めます。語学を学べば学ぶほど、歌の魅力は増しますので、イタリア語の力をアップさせましょう。

ナンバリング	CCS939N		
科目名	アンサンブル(歌曲・オラトリオ)特別演習 I		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

各々の歌唱力の向上を目標にしつつ、重唱を用いてお互いの声質やハーモニーを認識し1つの音楽を作り出す力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

ルネッサンス、バロックから古典派、ロマン派における世俗作品、宗教作品の重唱曲を履修学生の声種などを考慮したうえで選曲し、小規模な重唱曲からオラトリオのソリストアンサンブルの形態を体験する。曲目に関してはクラス編成時に声などのバランスにより適宜変更する場合がある。

授業計画

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: メンデルスゾーン、2重唱曲(1)音の確認
- 第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(2)詩の理解
- 第3回: メンデルスゾーン、2重唱曲(3)音楽表現
- 第4回: メンデルスゾーン、3重唱曲(4)(1)～(3)のまとめ
- 第5回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(1)音の確認
- 第6回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(2)詩の確認
- 第7回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(3)音楽表現
- 第8回: バッハ、h-mollミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ
- 第9回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(1)音の確認
- 第10回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(2)詩の理解
- 第11回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(3)音楽表現
- 第12回: ロッシーニ、小荘厳ミサ、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ
- 第13回: メンデルスゾーン、バッハ、ロッシーニ、2重唱(1)授業内発表に向けての確認
- 第14回: アンサンブル演習 I のまとめ
- 第15回: 授業内発表及び後期課題の発表

◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取りをして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復讐と準備を1日30分ごと練習することが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業内評価。
随時演習課題を出しフィードバックすると共に、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で提示する。

◆留意事項◆

歌曲ソリストコース以外の履修を認めない。

ナンバリング	CCS940N		
科目名	アンサンブル(歌曲・オラトリオ)特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	久保田 真澄		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-135	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

各々の歌唱力の向上を目標にしつつ、重唱を用いてお互いの声質やハーモニーを認識し1つの音楽を作り出す力を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

ルネッサンス、バロックから古典派、ロマン派における世俗作品、宗教作品の重唱曲を履修学生の声種などを考慮した上で選曲し、小規模な重唱からオラトリオのソリストアンサンブルそ様々な形態を体験する。曲目に関してはクラス編成時の声のバランスなどにより変更する場合がある。

授業計画

第1回:ヘンデル、2重唱曲(1)音の確認
第2回:ヘンデル、2重唱曲(2)詩の理解
第3回:ヘンデル、2重唱曲(3)音楽表現
第4回:ヘンデル、2重唱曲(4)(1)～(3)のまとめ
第5回:ハイドン、天地創造、2重唱(1)音の確認
第6回:ハイドン、天地創造、2重唱(2)詩の理解
第7回:ハイドン、天地創造、2重唱(3)音楽表現
第8回:ハイドン、天地創造、2重唱(4)(1)～(3)のまとめ
第9回:モーツァルト、レクイエム、重唱(1)音の確認
第10回:モーツァルト、レクイエム、重唱(2)詩の理解重症
第11回:モーツァルト、レクイエム、重唱(3)音楽表現
第12回:モーツァルト、レクイエム、重唱(4)(1)～(3)のまとめ
第13回:ヘンデル、ハイドン、モーツァルト、重唱(1)成果発表に向けての確認
第14回:アンサンブル演習Ⅱについてのまとめ
第15回:成果発表

◆準備学習の内容◆

新曲に関しては音取をして、歌詞の意味調べをし、内容を理解しておく。授業の復讐と準備を1日30分ほど練習することが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業内評価
随時練習課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業時に提示、プリントを配布

◆参考図書◆

授業内で支持する。

◆留意事項◆

歌曲ソリストコース以外の履修は認めない。

ナンバリング	CCL435N		
科目名	作曲家と作品分析Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	新納 洋介		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ショパンから現代までの作曲家による楽曲を取り上げ、時代、地域、民族による作品の特性、それぞれの作曲家の作風、作品の個性、特徴などを学び、それらを楽譜から読み取り、解釈し、分析する能力を養う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ショパンの作品 ～ マズルカ、ノクターン
- 第2回 シューマンの作品
- 第3回 クララ・ヴィークの作品
- 第4回 ブラームスの作品 ～ 6つの小品 作品118
- 第5回 リストの作品
- 第6回 ムソルグスキーの作品 ～ 展覧会の絵
- 第7回 チャイコフスキーの作品 ～ 四季
- 第8回 スクリャービンの作品
- 第9回 ラフマニノフの作品 ～ 前奏曲集 作品23
- 第10回 プロコフィエフの作品
- 第11回 シェーンベルクの作品
- 第12回 ベルクの作品
- 第13回 ブゾーニの作品
- 第14回 ガーシュインの作品
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

予習としては、次回に取り上げる作曲家を告知するので、その作曲家のいずれかの作品を、自分で弾いてみるか、文献で当たっておくこと。また復習としては、取り上げた作品を実際に演奏してみること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

レポート提出は無し。
随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

取り上げる作品を聴き、予習復習をすることが望ましい。

ナンバリング	CCL436N		
科目名	作曲家と作品分析Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	新納 洋介		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ショパンから現代までの作曲家による楽曲を取り上げ、時代、地域、民族による作品の特性、それぞれの作曲家の作風、作品の個性、特徴などを学び、それらを楽譜から読み取り、解釈し、分析する能力を養う。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 フィールドの作品 ～ ノクターン
- 第2回 サン＝サーンスの作品
- 第3回 フォーレの作品 ～ 即興曲、ノクターン、舟歌
- 第4回 ドビュッシーの作品 ～ 前奏曲
- 第5回 ラヴェルの作品
- 第6回 プーランクの作品
- 第7回 メシヤンの作品
- 第8回 ドヴォルザークの作品
- 第9回 グリーグの作品 ～ 抒情小曲集
- 第10回 アルベニス作品 ～ イベリア
- 第11回 グラナドスの作品 ～ ゴイエスカス
- 第12回 バルトークの作品
- 第13回 現代日本の作曲家の作品 ～1945年以前～
- 第14回 現代日本の作曲家の作品 ～戦後から現代～
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

予習としては、次回に取り上げる作曲家を告知するので、その作曲家のいずれかの作品を、自分で弾いてみるか、文献で当たっておくこと。また復習としては、取り上げた作品を実際に演奏してみること。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

レポート提出は無し。
随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

取り上げる作品を聴き、予習復習をすることが望ましい。

ナンバリング	CCS437N		
科目名	現代音楽入門Ⅰ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	篠田 昌伸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-325	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)20世紀以降に作曲された作品についての確かな読譜ができるようになる。(2)様々な奏法や記譜法を知る。(2)作品解釈の様々な可能性について考え、深く考察した上での演奏ができるようになる。(3)作曲家の意図や考え方、作曲様式に関する知識を得、演奏に反映することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス(学生の状態の把握と授業の説明)
第2回 課題曲1曲目-1 伝統主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第3回 課題曲1曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第4回 課題曲1曲目-3 上記楽曲の演奏のポイント音楽表現の工夫
第5回 課題曲1曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第6回 課題曲2曲目-1 前衛主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第7回 課題曲2曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第8回 課題曲2曲目-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第9回 課題曲2曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第10回 課題曲3曲目-1 実験主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第11回 課題曲3曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第12回 課題曲3曲目-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第13回 課題曲3曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第14回 「現代音楽入門Ⅰ」のまとめの演奏 リハーサル
第15回 「現代音楽入門Ⅰ」のまとめの演奏 発表

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる作品について、十分に予習、練習をしておくこと。また作曲者や作品の知識を得ておくこと。(目安週100~120分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価し、フィードバックすることにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する、或いは、必要に応じて指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CCS443N		
科目名	現代音楽入門		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)20世紀以降に作曲された作品についての確かな読譜ができるようになる。(2)様々な奏法や記譜法を知る。(2)作品解釈の様々な可能性について考え、深く考察した上での演奏ができるようになる。(3)作曲家の意図や考え方、作曲様式に関する知識を得、演奏に反映することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス(学生の状態の把握と授業の説明)
第2回 課題曲1曲目-1 伝統主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第3回 課題曲1曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第4回 課題曲1曲目-3 上記楽曲の演奏のポイント音楽表現の工夫
第5回 課題曲1曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第6回 課題曲2曲目-1 前衛主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第7回 課題曲2曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第8回 課題曲2曲目-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第9回 課題曲2曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第10回 課題曲3曲目-1 実験主義的な楽曲(学生有能力、興味を考慮に入れて複数のタイプの楽曲を選ぶ)の読譜
第11回 課題曲3曲目-2 上記楽曲の様式研究と解釈の可能性
第12回 課題曲3曲目-3 上記楽曲の演奏のポイントと音楽表現の工夫
第13回 課題曲3曲目-4 上記楽曲の音楽表現の深化
第14回 「現代音楽入門Ⅰ」のまとめの演奏 リハーサル
第15回 「現代音楽入門Ⅰ」のまとめの演奏 発表

◆準備学習の内容◆

授業前に、取り上げる作品について、十分に予習、練習をしておくこと。また作曲者や作品の知識を得ておくこと。(目安週100~120分)

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みの状況、学期末に行なうまとめの演奏を評価し、フィードバックすることにより、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

担当教員が準備する、或いは、必要に応じて指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	CCS439N		
科目名	ピアノ特別演習 I		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソリストに相応しい、より高度な技術の確立と豊かな表現力を伴った音楽性を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

- ・ソリストとして可能な限り幅広いジャンルの作品を学び、レパートリーの拡大をめざす。
- ・国内外からの招聘教授等のレッスンを積極的に受講、聴講し、様々な角度からアドバイスを受ける事により、自身の音楽の内面をより深く追求する。

第1回:1年間の学習計画を立てる
第2回:選び取られた作品の時代背景について考える
第3回:構造的、和声的な分析を試みる
第4回:様式についての考察を深める
第5回:タッチの種類についての学修を深める
第6回:脱力の方法論についてより深める
第7回:表現について、基本的な構築を見極める
第8回:表現について、まとめ方について考察する
第9回:表現について、個性とスタンダードな解釈の差異を考察する
第10回:記憶の方法について考察する
第11回:演奏するときの精神的なコントロールについて考察する
第12回:プログラミングの質について学修する
第13回:レパートリーの構築について学修、計画する
第14回:表現の洗練、タッチの錬磨、などについて学修する
第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (毎日90分以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する
課題については適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回自発的な態度で授業に臨むように

ナンバリング	CCS440N		
科目名	ピアノ特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

Iを受けて、ソリストに相応しい、さらに高度な技術の確立と豊かな表現力を伴った音楽性を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

- ・ソリストとして可能な限り幅広いジャンルの作品を学び、レパートリーの拡大をめざす。
- ・国内外からの招聘教授等のレッスンを積極的に受講、聴講し、様々な角度からアドバイスを受ける事により、自身の音楽の内面をより深く追求する。

第1回:第2セメスターの学習計画を立てる
 第2回:選び取られた作品の時代背景について考える
 第3回:構造的、和声的な分析を試みる
 第4回:様式についての考察を深める
 第5回:タッチの種類についての学修を深める
 第6回:脱力の方法論についてより深める
 第7回:表現について、基本的な構築を見極める
 第8回:表現について、まとめ方について考察する
 第9回:表現について、個性とスタンダードな解釈の差異を考察する
 第10回:記憶の方法について考察する
 第11回:演奏するときの精神的なコントロールについて考察する
 第12回:プログラミングの質について学修する
 第13回:レパートリーの構築について学修、計画する
 第14回:表現の洗練、タッチの錬磨、などについて学修する
 第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (毎日90分以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと演奏発表による評価
 課題については適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

毎回自発的な態度で授業に取り組んでほしい

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS441N		
科目名	ピアノ特別演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

I、IIで体験し習得した事をさらに研ぎ、コース終了後、社会での活動に対応出来る力を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

- ・ソリストとして可能な限り幅広いジャンルの作品を学び、レパートリーの拡大をめざす。
- ・国内外からの招聘教授等のレッスンを積極的に受講、聴講し、様々な角度からアドバイスを受ける事により、自身の音楽の内面をより深く追求する。

- 第1回: 1年間の学習計画を立てる
 第2回: 選び取られた作品の時代背景についてより深く考える
 第3回: 構造的、和声的な分析を詳細に試みる
 第4回: 様式についての徹底的な考察を深める
 第5回: タッチの種類についての学修をさらに深める
 第6回: 脱力の方法論について複雑なケースに至るまで深める
 第7回: 表現について、堅固な構築を見極める
 第8回: 表現について、芸術的なまとめ方について考察する
 第9回: 表現について、個性的な解釈の本質について考察する
 第10回: 記憶の方法についてより深く考察する
 第11回: 演奏するときの精神的なコントロールについて实际的に考察する
 第12回: プログラミングの質についてさらに学修する
 第13回: レパートリーの構築についてさらに学修、計画する
 第14回: 表現の洗練、タッチの錬磨、などについて徹底的に学修する
 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
 - ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
- (毎日90分以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する
 課題については適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

常に自発的な態度で授業に臨んでほしい

ナンバリング	CCS442N		
科目名	ピアノ特別演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(P)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

Ⅲまでで体験し習得した事をさらに磨き、コース終了後、社会での活動に対応出来る力を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

- ・ソリストとして可能な限り幅広いジャンルの作品を学び、レパートリーの拡大をめざす。
- ・国内外からの招聘教授等のレッスンを積極的に受講、聴講し、様々な角度からアドバイスを受ける事により、自身の音楽の内面をより深く追求する。

第1回: 第4セメスターの学習計画を立てる
 第2回: 選び取られた作品の時代背景についてさらに深く考える
 第3回: 構造的、和声的な分析を深める
 第4回: 様式についての考察をさらに深める
 第5回: タッチの種類についての学修をより広範に行う
 第6回: 脱力の方法論について徹底的に学習する
 第7回: 表現について、基本的な構築を見極める
 第8回: 表現について、まとめ方についてより深く考察する
 第9回: 表現について、個性とスタンダードな解釈の差異を考察し、芸術的な解釈について考察を深める
 第10回: 記憶の方法についてより深く考察する
 第11回: 演奏するときの精神的なコントロールについて実際の経験も交えながら考察する
 第12回: プログラミングの質についてより深く学修する
 第13回: レパートリーの構築について徹底的に学修する
 第14回: 表現の洗練、タッチの錬磨、などについてより深く学修する
 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回のレッスンによく準備をして臨むこと。
- ・作品に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。
(毎日90分以上)

◆成績評価の方法◆

演奏試験による評価
 課題については適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

常に自発的な態度で授業に臨んでほしい

ナンバリング	CCS453N		
科目名	アンサンブルレッスンⅠ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	河原 忠之, 奈良 希愛		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

共演ピアニストとして必要な演奏技術と表現力とはどういうものかを理解することができる。

◆授業内容・計画◆

個々の学生のこれまでのアンサンブルの経験を踏まえつつ、それぞれの演奏に関する課題を鑑みて、を丁寧に指導する。
緻密なアンサンブル、その表現の可能性を様々な視点からとらえ、実践的な表現法を学ぶ。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の学生の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

- 1) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との違い
- 2) 共演対象としての器楽と声楽の相違
- 3) 声楽曲の伴奏における留意事項
- 4) 弦楽器とピアノの作品
- 5) 管楽器とピアノの作品
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整と舞台での振舞い
- 14) 授業内演奏発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みにより、そこに求められている音楽(様式、語法、音色等)を自ら表現できるよう準備する(目安毎日60分以上)。また授業内での意見交換がスムーズに行えるよう、自分の考えを言語化できるように努めること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、使用する楽譜の出版社はよく調べ見て選ぶこと

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブル奏者としての実力をつけるため、自主的・継続的なソルフェージュの訓練(移調楽器の認識、クレ読み、初見試奏)を行うことが望ましい。

ナンバリング	CCS454N		
科目名	アンサンブルレッスンⅡ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	河原 忠之, 奈良 希愛		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

共演ピアニストとして必要な演奏技術と表現力を演奏に生かすことができる。

◆授業内容・計画◆

アンサンブルレッスンⅠで学んだことを更に研究し、レパートリーの拡大をはかる。
個々の学生が抱えている問題点を丁寧に指導する。
緻密なアンサンブル、その表現の可能性を様々な視点からとらえ、実践的な表現法を学ぶ。
後半は12月の研究発表会に向けての準備をする。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の学生の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

- 1) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との違い
- 2) 共演対象としての器楽と声楽の相違
- 3) 声楽曲の伴奏における留意事項
- 4) 弦楽器とピアノの作品
- 5) 管楽器とピアノの作品
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整、ホールでの音作りに関して
- 14) 研究発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みにより、そこに求められている音楽(様式、語法、音色等)を自ら表現できるよう準備する(目安毎日60分以上)。また授業内での意見交換がスムーズに行えるよう、自分の考えを言語化できるように努めること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、使用する楽譜の出版社はよく調べ見て選ぶこと

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブル奏者としての実力をつけるため、自主的・継続的なソルフェージュの訓練(移調楽器の認識、クレ読み、初見試奏)を行うことが望ましい。

ナンバリング	CCS455N		
科目名	アンサンブルレッスンⅢ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	菊地 真美, 山田 剛史, 田中 悠一郎		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

共演ピアニストとして必要な質の高い演奏技術と表現力を演奏に生かすことができる。

◆授業内容・計画◆

アンサンブルピアニストとして信頼される技術、音楽的知識、センスを更に磨く。個々の学生が抱えている問題点を丁寧に指導する。

〈授業スケジュール〉

下記事項を確認しながら、各回とも個々の学生の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。

- 1) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との違い
- 2) 共演対象としての器楽と声楽の相違
- 3) 声楽曲の伴奏における留意事項
- 4) 弦楽器とピアノの作品
- 5) 管楽器とピアノの作品
- 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
- 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
- 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
- 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
- 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
- 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
- 12) 共演者との音響バランス
- 13) 本番に向けての調整、舞台での振舞い
- 14) 授業内演奏発表
- 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みにより、そこに求められている音楽(様式、語法、音色等)を自ら表現できるよう準備する(目安毎日60分以上)。また授業内での意見交換がスムーズに行えるよう、自分の考えを言語化できるように努めること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、使用する楽譜の出版社はよく調べ見て選ぶこと

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブル奏者としての実力をつけるため、自主的・継続的なソルフェージュの訓練(移調楽器の認識、クレ読み、初見試奏)を行うことが望ましい。

ナンバリング	CCS456N		
科目名	アンサンブルレッスンⅣ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	菊地 真美, 山田 剛史, 田中 悠一郎		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

共演ピアニストとして必要な質の高い演奏技術と表現力を用いて、自発的に演奏することができる。

◆授業内容・計画◆

12月に行われるコース修了演奏へ向けての準備と仕上げ。
 完成度の高いアンサンブル、作品への深い理解、確かな技術の習得を目指す。
 〈授業スケジュール〉
 下記事項を確認しながら、各回とも個々の学生の選択曲によるアンサンブルレッスンを行う。
 1) アンサンブルにおいて考慮すべきピアノと他楽器との違い
 2) 共演対象としての器楽と声楽の相違
 3) 共演、伴奏における留意事項
 4) 弦楽器とピアノの作品
 5) 管楽器とピアノの作品
 6) 様式、テンポ、用語や記号など譜読みの実際
 7) 音色や装飾音、アーティキュレーションなどの考察
 8) 楽曲にふさわしい表現のための演奏技術
 9) 共演者との楽曲解釈のすり合わせと、ピアノの役割
 10) 共演者とのコミュニケーションの取り方
 11) 合図の出し方、見方、呼吸の合わせ方
 12) 共演者との音響バランス
 13) 本番に向けての調整、ホールでの音作りに関して
 14) 修了演奏
 15) まとめ

◆準備学習の内容◆

入念な譜読みにより、そこに求められている音楽(様式、語法、音色等)を自ら表現できるよう準備する(目安毎日60分以上)。また授業内での意見交換がスムーズに行えるよう、自分の考えを言語化できるように努めること。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特にないが、使用する楽譜の出版社はよく調べ見て選ぶこと

◆参考図書◆

◆留意事項◆

アンサンブル奏者としての実力をつけるため、自主的・継続的なソルフェージュの訓練(移調楽器の認識、クレ読み、初見試奏)を行うことが望ましい。

ナンバリング	CCS457N		
科目名	アンサンブル演習Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	岡本 知也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-112	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アンサンブル・ピアニストとして、器楽と声楽、それぞれとのアンサンブルで留意すべき点を考える。自分の楽器(ピアノ)はもとより、共演する他の楽器、声楽の特性を踏まえて、アンサンブルの基礎的な技法と作法を身につける。

◆授業内容・計画◆

アンサンブル・ピアノコース1年目の全員が履修する授業。設定された課題曲から予め準備をした曲を、授業内で助演の方(ソプラノ、ヴァイオリン、フルート)と演奏する。授業は、助演の方とのリハーサルを実践していくワークショップとして進めていく。
楽曲の背景を踏まえて、楽譜からできるだけ作曲家の意図を読み取り、スタイルに沿った演奏を目指すのは言うまでもなく、各パートの役割、共演相手や会場に応じてのバランスのとおり方等に留意しながら、アンサンブルの基礎を実践で学ぶ。また、リハーサルの進め方、共演者とのやり取りについて、他者との協働というアンサンブルならではの状況における、より良い方法、避けるべき方法についても考えたい。

[授業計画]

- 第1回 ガイダンス、アンサンブルピアノに求められるもの
- 第2回 弦楽器との共演1 弦楽器について知る(前半)
- 第3回 弦楽器との共演2 弦楽器について知る(後半)
- 第4回 弦楽器との共演3 フレージング、バランスを考える(前半)
- 第5回 弦楽器との共演4 フレージング、バランスを考える(後半)
- 第6回 弦楽器との共演5 まとめ
- 第7回 声楽との共演1 言葉について考える
- 第8回 声楽との共演2 ピアノパートの役割について考える
- 第9回 声楽との共演3 バランスを考える
- 第10回 声楽との共演4 まとめ
- 第11回 管楽器との共演1 管楽器について知る(前半)
- 第12回 管楽器との共演2 管楽器について知る(後半)
- 第13回 管楽器との共演3 呼吸について考える(前半)
- 第14回 管楽器との共演4 呼吸について考える(後半)
- 第15回 管楽器との共演5 まとめ、及び後期に向けての計画

なお、授業計画は助演の方のスケジュールを踏まえ決定していくので、必ずしも上記の通りとは限らない。

◆準備学習の内容◆

演奏する曲の内容や背景について良く理解して演奏に結びつけることができるように、また共演者の求めている音楽を直ぐに察知して反応できるように、そして共演者へ自身の演奏で意思表示ができるように、スコアを深く読みとった上でピアノパートを準備してくる事。共演者のパートについても、少なくとも一度は譜読みとして弾いてみることを推奨する。
ピアノソロの一般的なレパートリーではあまり出会わない作曲家の作品を扱うこともあるが、そのスタイルを把握するために、その作曲家の他の楽曲に触れることも推奨する。

目安1日1時間～1時間半。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

自身が使用する楽譜はもちろん、授業で扱う曲の楽譜は演奏しない曲も用意すること。
課題曲のうち、特に使用する版を指定する場合はその都度アナウンスをします。

◆参考図書◆

- 『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)
- 『ホールへの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

◆留意事項◆

実際のリハーサルの過程、演奏を通して実践的に学んでいくことがこのクラスの中心となるので、すべての授業に対して準備をしっかり行うこと。授業内で取り上げる曲目は前年度3月半ばまでに通知をするので、初回からしっかりと準備を期待したい。楽曲全体をしっかりと把握して、体に入れ込んでおくことで、助演の方との共演という貴重な機会をより有意義な実践にできるよう、多面的な視点から準備を深めて授業に臨むこと。

ナンバリング	CCS458N		
科目名	アンサンブル演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	岡本 知也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-112	開講学期	後期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期で培ったことを踏まえて更にさまざまな作品に取り組み、演奏表現技術を向上させてレパートリーを拡大する。

◆授業内容・計画◆

前期同様に声楽曲及び器楽曲の作品を題材として、後期の第9回までは引き続き助演の方々と課題曲をとり上げる。それぞれの状況に応じた、バランス、ペダリング、プレス、テンポ等々の技術的な問題の解決方法、声楽曲に於いては歌詞と音楽の関係を理解して、そこに求められているピアノパートの表現法を研究する。

第10回目の授業からは、アンサンブル・コース研究発表会に向けてそれぞれの共演者と共にリハーサルスケジュールを組んで進めていく。各自で依頼した共演者とリハーサルをした上で、授業では公開レッスン形式でディスカッションを交えながら、曲、演奏への理解を深める。

- 第1回 管楽器 様々な管楽器の特徴を考える
- 第2回 管楽器 テンポ感をとらえる
- 第3回 管楽器 バランス
- 第4回 歌曲 言語の役目
- 第5回 歌曲 発音について考える
- 第6回 歌曲 バランス
- 第7回 弦楽器 共演について考える
- 第8回 弦楽器 アインザッツなどの弦の特色を考える
- 第9回 弦楽器 バランス
- 第10回 研究発表会の準備 ① 其々選択した曲目
- 第11回 研究発表会の準備 ② 曲の形式の理解
- 第12回 研究発表会の準備 ③ 詩の内容を理解する
- 第13回 研究発表会の準備 ④ 共演者と音楽を深める
- 第14回 研究発表会の準備 ⑤ 表現の精度を高める
- 第15回 研究発表会

◆準備学習の内容◆

演奏する曲の内容、背景について良く理解して演奏に結びつけることができるように、また共演者の求めている音楽を直ぐに察知して反応できるように、そして共演者へ自身の演奏で意思表示ができるように、スコアを深く読みとった上でピアノパートを準備してくる事。共演者のパートについても、少なくとも一度は譜読みとして弾いてみることを推奨する。
ピアノソロの一般的なレパートリーではあまり出会わない作曲家の作品を扱うこともあるが、そのスタイルを把握するために、その作曲家の他の楽曲に触れることも推奨する。

第10回の授業以降は研究発表会に向けた内容にシフトするので、授業内での取り組みが有意義なものとなるよう、予め自身の練習、共演者とのリハーサルを始めておくことが望ましい。

目安1日1時間～1時間半。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

自身が使用する楽譜はもちろん、授業で扱う曲の楽譜は演奏しない曲も用意すること。
第9回までに扱う課題曲のうち、特に使用する版を指定する場合はその都度アナウンスをします。

◆参考図書◆

『Aをください ピアニストと室内楽の幸福な関係』 練木繁夫著(春秋社)
『ホールの響きと音楽演奏』 ユルゲン・メイヤー著 日高孝之訳(市ヶ谷出版社)

◆留意事項◆

実際のリハーサルの過程、演奏を通して実践的に学んでいくことが中心となるので、すべての授業に対して準備をしっかり行うこと。授業内で取り上げる曲目は夏季休暇中に通知をするので、後期も初回からしっかりとした準備を期待したい。楽曲全体をしっかりと把握しておくことで、助演の方との共演という貴重な機会をより有意義な実践にできるよう、多面的な視点から準備を深めて授業に臨むこと。

ナンバリング	CCS459N		
科目名	アンサンブル演習Ⅲ		
科目詳細	(オムニバス形式休講情報注意)		
担当教員	河原 忠之, 田中 悠一郎, 山田 剛史		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-112	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ピアノ以外の楽器、特に弦楽器や管楽器、そして声楽とのアンサンブルに必要な知識や技術、心構えを会得し、求められるピアノの役割を考慮して演奏する事ができる。アンサンブルの際に生じる問題点を自ら解決する事ができる。

◆授業内容・計画◆

良いアンサンブルには、それぞれの楽曲におけるピアノの役割を適切に把握する能力、それを確かに表現しうる技術、そして音質や音色の問題を含む全体のバランスを聞き分け調整できる耳が不可欠である。また奏者同士のコミュニケーションをいかに取るかというのもとても重要である。授業では、クラリネットとピアノ、そして声楽とピアノの作品を取り上げ、助演の力を借りながら実際に音にしていく過程ではどのような点に配慮すべきなのかを探索する。

<授業スケジュール>

- 第一回 ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第5番作品24「春」第一楽章
- 第二回 ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第5番作品24「春」第二、三楽章
- 第三回 ドイツ歌曲(シューベルト)作品
- 第四回 フランス歌曲(フォーレ)作品
- 第五回 ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第5番作品24「春」第四楽章
- 第六回 ブラームス クラリネットソナタ 作品120より第一、二楽章
- 第七回 ドイツ歌曲(シューマン)作品
- 第八回 フランス歌曲(ドビュッシー)作品
- 第九回 シューマン 幻想小曲集 作品73
- 第十回 演奏発表に向けた準備、仕上げ
- 第十一回 イタリア歌曲(トスティ)作品
- 第十二回 日本歌曲(山田耕柞、中田喜直)作品
- 第十三回 演奏発表(器楽)
- 第十四回 演奏発表(声楽)

◆準備学習の内容◆

曲を理解し、自分のパートはもちろんのこと全体を把握しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

クラリネット、及び声楽には演奏助手が共演する。貴重な機会を生かせるよう、しっかり準備をして授業に臨んでほしい。授業スケジュールは、状況に応じて変更する場合がある。

ナンバリング	CCS460N		
科目名	アンサンブル演習Ⅳ		
科目詳細	(オムニバス形式休講情報注意)		
担当教員	河原 忠之, 田中 悠一郎, 山田 剛史		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-112	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ピアノ以外の楽器、特に弦楽器や管楽器、そして声楽とのアンサンブルに必要な知識や技術、心構えを会得し、求められるピアノの役割を考慮して演奏する事ができる。アンサンブルの際に生じる問題点を自ら解決する事ができる。

◆授業内容・計画◆

最終的にはコース修了演奏を視野に入れながら、より緻密なアンサンブルのための表現方法を実践的に学ぶ。

- 第一回 ストラヴィンスキー 組曲「兵士の物語」(クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための)より第一曲
- 第二回 ストラヴィンスキー 組曲「兵士の物語」(クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための)より第二曲
- 第三回 ドイツ歌曲(ブラームス)へのアプローチ
- 第四回 フランス歌曲(デュパルク)へのアプローチ
- 第五回 ハチャトゥリアン クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための三重奏曲より第一楽章
- 第六回 ハチャトゥリアン クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための三重奏曲より第二楽章
- 第七回 ドイツ歌曲(ヴォルフ)へのアプローチ
- 第八回 フランス歌曲(アーン)へのアプローチ
- 第九回 各自が希望する器楽とピアノのための二重奏作品について研究する
- 第十回 学生同士が互いの演奏を客観的に聴き合い議論を深める
- 第十一回 イタリア、スペイン歌曲(レスピーギ、トゥリーナ)へのアプローチ
- 第十二回 日本歌曲(團伊玖磨、木下牧子)へのアプローチ
- 第十三回 コース修了演奏会に向けた準備、仕上げ
- 第十四回 コース修了演奏会に向けた準備、及び演奏発表

◆準備学習の内容◆

演奏する楽曲のイメージをしっかりと持ち、事前リハーサルをしっかりとしておく事。
自分のパートだけでなく全体を把握しておく事。
(目安 毎日1時間以上)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。常に課題に対しフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

リハーサルなど、しっかり準備をして授業に臨んでほしい。授業スケジュールは、状況に応じて変更する場合がある。

ナンバリング	SWL493N		
科目名	管楽器作品研究		
科目詳細			
担当教員	菊池 奏絵		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

それぞれの管楽器の音色、特性を知る。作品のバックグラウンドを探り、実際の演奏に生かす力をつける。

◆授業内容・計画◆

現在使われている楽器の他、歴史的管楽器についても見て行きたい。楽器の変遷、作品を知り、時代の背景、価値観、演奏法などを知る。また、管楽器とのアンサンブルにまつわる鍵盤楽器の奏法についても知識を深めるため、現代ピアノのほかチェンバロ、フォルテピアノを使つてのアンサンブルも試みてみたい。

中間発表では、興味を持った作曲家の管楽器作品の研究、管楽器の専攻生には自分の楽器についてのプレゼンテーションなどをしてもらう。最終回には、各自のテーマに沿った管楽器を含んだコンサートを想定し、具体的に曲目、解説を書いてもらいプログラムを作成、一部演奏発表を行う。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ルネサンス、バロック時代の管楽器とその作品について
- 第3回 古典派以降の管楽器とその作品について
- 第4回 管楽器作品における鍵盤楽器の歴史的演奏法を知る
- 第5回 バロック時代の作品の演奏法
- 第6回 プログラム案作成
- 第7回 中間発表
- 第8回 古典派の作品の演奏法
- 第9回 ロマン派、近代以降の作品について
- 第10回 プログラム案発表
- 第11回 アンサンブル実践
- 第12回 発表の曲決め
- 第13回 アンサンブル仕上げ
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内容に関連する事柄について、図書館などで調べてくる事。
演奏する事になったものを1時間以上練習してくる事。

◆成績評価の方法◆

調べて来た事、考えてきた事柄について授業内でフィードバックし、平常の授業の取り組みにより評価。そのほか演奏、またはレポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

遅刻しない事。遅刻しても来ること。

ナンバリング	SWL494N		
科目名	弦楽器作品研究		
科目詳細			
担当教員	大西 律子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	SPC-A	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

鍵盤楽器と弦楽器との親密なアンサンブルの為に、バロック時代や古典派やロマン派などの作品を研究しながら、お互いの楽器の特性を理解し合う。

◆授業内容・計画◆

鍵盤楽器と弦楽器との組み合わせでアンサンブルのグループを作る。
J.S.Bach「ヴァイオリンと鍵盤楽器の為の6つのソナタ」、
J.Haydn「ピアノ三重奏曲」、
W.A.Mozart「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」「ピアノ三重奏曲」「ピアノ四重奏曲」、
L.v.Beethoven「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」「ピアノ三重奏曲」、
F.Schubert「ヴァイオリンとピアノの為のソナチネ」「ピアノ三重奏曲」、「ピアノ五重奏曲」、
F.Mendelssohn「ピアノ三重奏曲」、
R.Schumann「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」、
J.Brahms「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」、
等の中から数曲を取り上げる予定。
具体的な曲目は、受講生の専攻楽器と希望によって選曲し、全員が最低1曲ずつ演奏曲を決める。
各自の選んだ作品について調べ、曲目解説を書く。
毎回いくつかのグループに演奏してもらいながら、各作品について(演奏しないグループも含め)全員で考え、理解を深めていきたい。
作曲された当時の音を探る手掛かりになるように、チェンバロやフォルテピアノに触れる機会も設ける。
期末には演奏発表会を行う。

- 第1回 顔合わせ、アンサンブルのグループ分け、選曲相談、曲目解説執筆準備
- 第2回 楽器学資料館での見学と試奏
- 第3回 実演と研究(1) 第1楽章 第1グループ
- 第4回 実演と研究(2) 第1楽章 第2グループ
- 第5回 実演と研究(3) 第1楽章、第2楽章 第1グループ
- 第6回 実演と研究(4) 第1楽章、第2楽章 第2グループ
- 第7回 実演と研究(5) 第2楽章、第3楽章 第1グループ
- 第8回 実演と研究(6) 第2楽章、第3楽章 第2グループ
- 第9回 実演と研究(7) 第3楽章、第4楽章 第1グループ
- 第10回 実演と研究(8) 第3楽章、第4楽章 第2グループ
- 第11回 実演と研究の仕上げ(1) 全楽章 第1グループ
- 第12回 実演と研究の仕上げ(2) 全楽章 第2グループ
- 第13回 実演と研究の仕上げ(3) G.P.
- 第14回 演奏発表会
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

各自の選んだ作品について調べ、曲目解説を書いて提出する。
各グループごとに合わせる練習をし、教員と他の受講生のためにスコアを用意して、授業に参加する。

◆成績評価の方法◆

普段の授業への取り組みの積極性、提出物、期末の発表会での演奏などを合わせて評価する。
提出物にはチェックを入れて返却する。
演奏発表会後に講評の時間を設け、今後の課題を提示する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

- ・「バロック音楽」 アントニー・バートン編 角倉 一朗訳 音楽之友社
- ・「バロックのヴァイオリン奏法」 フランチェスコ・ジェミニアーニ著 サイモン・モリス解説 内田智雄訳 シンフォニア社
- ・「バイオリン奏法」 レオポルド・モーツァルト著 久保田慶一訳 全音楽譜出版社

◆留意事項◆

勉強したい曲を積極的に提案して欲しい。

ナンバリング	CCS469N		
科目名	弦管打特別演習 I		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソリストにふさわしい高度な技術を身に付け、幅広いジャンルの作品を学び、曲にふさわしく豊かな表現力を伴った演奏をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 自己の課題の確認と目標設定
※招聘教授による公開レッスン、マスタークラスなどを積極的に受講、聴講するとともに、コンクールや演奏会などの発表の機会を踏まえる。
- 第2回 それまでのレパートリーの演奏
- 第3回 履修曲 I -①曲の特徴をふまえた演奏
- 第4回 履修曲 I -①音楽表現の工夫・改善
- 第5回 履修曲 I -①仕上げ
- 第6回 履修曲 I -②曲の特徴をふまえた演奏
- 第7回 履修曲 I -②音楽表現の工夫・改善
- 第8回 履修曲 I -②仕上げ
- 第9回 履修曲 I -③曲の特徴をふまえた演奏
- 第10回 履修曲 I -③音楽表現の工夫・改善
- 第11回 履修曲 I -③仕上げ
- 第12回 履修曲 I -④曲の特徴をふまえた演奏
- 第13回 履修曲 I -④音楽表現の工夫・改善
- 第14回 履修曲 I -④仕上げ
- 第15回 特別レッスン I のまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行ったうえで、履修作品をよく練習をして毎回のレッスンに臨むこと。
作品の参考音源の比較聴取や、スコア・リーディングなどを行って楽曲分析するとともに、楽曲の背景等をよく調べて演奏に生かすこと。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み状況と技能や表現力の向上により授業内で評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏する作品の楽譜を用いる。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回～第15回は、一例である。楽器や履修者の特性により異なるので、担当教員と第1回に進め方や課題を確認すること。

ナンバリング	CCS470N		
科目名	弦管打特別演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソリストにふさわしい高度な技術を高め、幅広いジャンルの作品を学び、曲にふさわしく豊かな表現力を伴った演奏をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 自己の課題の確認と目標設定
※招聘教授による公開レッスン、マスタークラスなどを積極的に受講、聴講するとともに、コンクールや演奏会などの発表の機会を踏まえる。
- 第2回 特別レッスンⅠまでのレパートリーの演奏
- 第3回 履修曲Ⅱ-①曲の特徴をふまえた演奏
- 第4回 履修曲Ⅱ-①音楽表現の工夫・改善
- 第5回 履修曲Ⅱ-①仕上げ
- 第6回 履修曲Ⅱ-②曲の特徴をふまえた演奏
- 第7回 履修曲Ⅱ-②音楽表現の工夫・改善
- 第8回 履修曲Ⅱ-②仕上げ
- 第9回 履修曲Ⅱ-③曲の特徴をふまえた演奏
- 第10回 履修曲Ⅱ-③音楽表現の工夫・改善
- 第11回 履修曲Ⅱ-③仕上げ
- 第12回 履修曲Ⅱ-④曲の特徴をふまえた演奏
- 第13回 履修曲Ⅱ-④音楽表現の工夫・改善
- 第14回 履修曲Ⅱ-④演奏発表に向けて一層の工夫・改善
- 第15回 履修曲Ⅱ-④演奏発表に向けて豊かな表現力を伴った演奏

◆準備学習の内容◆

日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行ったうえで、履修作品をよく練習をして毎回のレッスンに臨むこと。
作品の参考音源の比較聴取や、スコア・リーディングなどを行って楽曲分析するとともに、楽曲の背景等をよく調べて演奏に生かすこと。

◆成績評価の方法◆

演奏発表により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏する作品の楽譜を用いる。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回～第15回は、一例である。楽器や履修者の特性により異なるので、担当教員と第1回に進め方や課題を確認すること。

ナンバリング	CCS471N		
科目名	弦管打特別演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソリストにふさわしい高度な技術を磨き、幅広いジャンルの作品を学び、曲にふさわしく豊かな表現力を伴った演奏をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 自己の課題の確認と目標設定
※招聘教授による公開レッスン、マスタークラスなどを積極的に受講、聴講するとともに、コンクールや演奏会などの発表の機会を踏まえる。
- 第2回 特別レッスンⅡまでのレパートリーの演奏
- 第3回 履修曲Ⅲ-①曲の特徴をふまえた演奏
- 第4回 履修曲Ⅲ-①音楽表現の工夫・改善
- 第5回 履修曲Ⅲ-①仕上げ
- 第6回 履修曲Ⅲ-②曲の特徴をふまえた演奏
- 第7回 履修曲Ⅲ-②音楽表現の工夫・改善
- 第8回 履修曲Ⅲ-②仕上げ
- 第9回 履修曲Ⅲ-③曲の特徴をふまえた演奏
- 第10回 履修曲Ⅲ-③音楽表現の工夫・改善
- 第11回 履修曲Ⅲ-③仕上げ
- 第12回 履修曲Ⅲ-④曲の特徴をふまえた演奏
- 第13回 履修曲Ⅲ-④音楽表現の工夫・改善
- 第14回 履修曲Ⅲ-④仕上げ
- 第15回 特別レッスンⅢのまとめの演奏

◆準備学習の内容◆

日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行ったうえで、履修作品をよく練習をして毎回のレッスンに臨むこと。
作品の参考音源の比較聴取や、スコア・リーディングなどを行って楽曲分析するとともに、楽曲の背景等をよく調べて演奏に生かすこと。

◆成績評価の方法◆

レッスンへの取り組み状況と技能や表現力の向上により授業内で評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏する作品の楽譜を用いる。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回～第15回は、一例である。楽器や履修者の特性により異なるので、担当教員と第1回に進め方や課題を確認すること。

ナンバリング	CCS472N		
科目名	弦管打特別演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	(S)		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソリストにふさわしい高度な技術を一層磨き、幅広いジャンルの作品を学び、曲にふさわしく豊かな表現力を伴った演奏をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 自己の課題の確認と目標設定
※招聘教授による公開レッスン、マスタークラスなどを積極的に受講、聴講するとともに、コンクールや演奏会などの発表の機会を踏まえる。
- 第2回 特別レッスンⅢまでのレパートリーの演奏
- 第3回 履修曲Ⅳ-①曲の特徴をふまえた演奏
- 第4回 履修曲Ⅳ-①音楽表現の工夫・改善
- 第5回 履修曲Ⅳ-①仕上げ
- 第6回 履修曲Ⅳ-②曲の特徴をふまえた演奏
- 第7回 履修曲Ⅳ-②音楽表現の工夫・改善
- 第8回 履修曲Ⅳ-②仕上げ
- 第9回 履修曲Ⅳ-③曲の特徴をふまえた演奏
- 第10回 履修曲Ⅳ-③音楽表現の工夫・改善
- 第11回 履修曲Ⅳ-③仕上げ
- 第12回 履修曲Ⅳ-④曲の特徴をふまえた演奏
- 第13回 履修曲Ⅳ-④音楽表現の工夫・改善
- 第14回 履修曲Ⅳ-④演奏試験に向けて一層の工夫・改善
- 第15回 履修曲Ⅳ-④演奏試験に向けて豊かな表現力を伴った演奏

◆準備学習の内容◆

日々のスケール、エチュード等、基本練習を十分に行ったうえで、履修作品をよく練習をして毎回のレッスンに臨むこと。
作品の参考音源の比較聴取や、スコア・リーディングなどを行って楽曲分析するとともに、楽曲の背景等をよく調べて演奏に生かすこと。

◆成績評価の方法◆

演奏試験により評価する。
レッスン中に課題を常にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

演奏する作品の楽譜を用いる。

◆参考図書◆

必要に応じて授業内で紹介する。

◆留意事項◆

上記第1回～第15回は、一例である。楽器や履修者の特性により異なるので、担当教員と第1回に進め方や課題を確認すること。

ナンバリング	CCS601N		
科目名	指揮法／指揮伴奏法研究Ⅰ		
科目詳細	指揮者とコレペティートル合同授業		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

指揮という行為を通して音楽を学ぶ

◆授業内容・計画◆

- 1、ガイダンス
- 2、基本動作1 遅いもの
- 3、基本動作2 速いもの
- 4、一拍子1 binaire
- 5、一拍子2 ternaire
- 6、二拍子1 binaire
- 7、二拍子2 ternaire
- 8、三拍子1 binaire
- 9、三拍子2 ternaire
- 10、四拍子1 binaire
- 11、四拍子2 ternaire
- 12、既習拍子の総合1 binaire
- 13、既習拍子の総合2 ternaire
- 14、応用1 binaire
- 15、応用2 ternaire

◆準備学習の内容◆

各段階で指定される作品の楽譜を購入して各自研究すること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
授業内の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

受講生の属性、能力に応じてその都度指定する。

◆留意事項◆

指揮は自分で振ることよりも、練習、演奏会の見学で学ぶ部分が多いので、学内外のそのような機会に積極的に参加することが望ましい。

ナンバリング	CCS602N		
科目名	指揮法／指揮伴奏法研究Ⅱ		
科目詳細	指揮者とコレペティートル合同授業		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

I で習得したことを敷衍し実際への応用ができる

◆授業内容・計画◆

- 1、古典派の作品1 モーツァルト 歌劇
- 2、古典派の作品2 モーツァルト 交響曲
- 3、古典派の作品3 ベートーベン 前期
- 4、古典派の作品4 ベートーベン 後期
- 5、ロマン派の作品1 シューマン 前期
- 6、ロマン派の作品2 シューマン 後期
- 7、ロマン派の作品3 ブラームス 前期
- 8、ロマン派の作品4 ブラームス 後期
- 9、近代の作品1 リヒャルトシュトラウス
- 10、近代の作品2 ドビュッシー
- 11、近代の作品3 ラヴェル
- 12、近代の作品4 ショスタコーヴィチ
- 13、現代の作品1 メシアン
- 14、現代の作品2 プーレーズ
- 15、現代の作品3 リゲティ・シュトックハウゼン

◆準備学習の内容◆

履修生と相談の上、扱う作品を決定するが、その楽譜を勉強しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
授業内の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

興味のある履修者は前期に引き続き、学内外における練習、本番の見学を勧奨する。

ナンバリング	CCS603N		
科目名	指揮法／指揮伴奏法研究Ⅲ		
科目詳細	指揮者とコレペティートル合同授業		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

既習内容を敷衍し、指揮という身体活動と音自体の身振りを関連させる

◆授業内容・計画◆

- 1、変拍子の基礎、等価
- 2、変拍子の基礎、異価
- 3、変拍子の基礎、混合
- 4、実作品の変拍子、等価
- 5、実作品の変拍子、異価
- 6、実作品の変拍子、混合
- 7、実作品を通して技術の再確認
- 8、変拍子の応用、合理音価
- 9、変拍子の応用、非合理音価
- 10、変拍子の応用、混合
- 11、結合された拍子、単純拍子
- 12、結合された拍子、複合拍子
- 13、結合された拍子、混合
- 14、技術の再確認
- 15、まとめ

◆準備学習の内容◆

履修学生の属性、能力に応じてその都度指示するので学修しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業の取り組みにより評価する。
授業内の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

指揮に対する興味、知識が深まるにつれて、学内外の練習、演奏会への積極的関わりが望ましい。

ナンバリング	CCS604N		
科目名	指揮法／指揮伴奏法研究Ⅳ		
科目詳細	指揮者とコレペティートル合同授業		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-121	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

身体表現と音楽の表情の関係性を探る

◆授業内容・計画◆

I～Ⅲで学習したことをより発展的に深める

- 1、古典派の作品1 モーツァルト 歌劇
- 2、古典派の作品2 モーツァルト 交響曲
- 3、古典派の作品3 ベートーベン 前期
- 4、古典派の作品4 ベートーベン 後期
- 5、ロマン派の作品1 シューマン 前期
- 6、ロマン派の作品2 シューマン 後期
- 7、ロマン派の作品3 ブラームス 前期
- 8、ロマン派の作品4 ブラームス 後期
- 9、近代の作品1 リヒャルトシュトラウス
- 10、近代の作品2 ドビュッシー
- 11、近代の作品3 ラヴェル
- 12、近代の作品4 ショスタコーヴィチ
- 13、現代の作品1 メシアン
- 14、現代の作品2 プーレーズ
- 15、現代の作品3 リゲティ・シュトックハウゼン

◆準備学習の内容◆

楽譜を入手して勉強すること

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。
授業内の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

学内外の様々な公演の練習、公演を見学することを強く推奨する。

ナンバリング	CCL686N		
科目名	オーケストラ作品特別研究Ⅰ		
科目詳細	指揮者必修		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)弦楽合奏、管楽合奏等のアンサンブルを指揮してリハーサルを行い、楽曲をまとめることができる。
- (2)指揮をする楽曲の楽譜を分析し理解することにより、リハーサルと本番の演奏を準備することができる。

◆授業内容・計画◆

様々な様式と編成による室内楽、小規模管弦楽作品を題材に、作品分析と演奏解釈、指揮法をレッスン形式で学ぶ。また、実際の演奏家を相手に学んだ楽曲を試演する年3回程度のセッションでは、指揮法の実際や練習の進め方などを学んでいく。取り上げる課題曲については、履修学生の能力や適正を考慮しつつその都度決定される。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題曲Aの作品分析
- 第3回 課題曲Aの読譜
- 第4回 課題曲A第1部の指揮レッスン
- 第5回 課題曲A第2部の指揮レッスン
- 第6回 課題曲A第3部の指揮レッスン
- 第7回 課題曲Aのアンサンブルによる「セッション(1)」
- 第8回 課題曲Bの作品分析
- 第9回 課題曲Bの読譜
- 第10回 課題曲B第1部の指揮レッスン
- 第11回 課題曲B第2部の指揮レッスン
- 第12回 課題曲B第3部の指揮レッスン
- 第13回 課題曲B第4部の指揮レッスン
- 第14回 課題曲Bのアンサンブルによる「セッション(2)」
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・課題曲の作曲家と作品について知識を得ておくこと。
- ・課題曲のスコアに指揮に必要な書き込みをしておくこと(授業にて説明)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、学期中に行われる指揮セッション。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な楽譜については、各自購入。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

- ・可能な限り機会をみつけて、オーケストラのリハーサルとコンサートを見学すること。

ナンバリング	CCL687N		
科目名	声楽作品特別研究 I		
科目詳細	コレペティートル必修 2024年度以前入学生		
担当教員	林 達也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文学的テキストと音楽的内容を理解し、楽曲分析・演奏解釈ができる

◆授業内容・計画◆

声楽作品とオーケストラ作品の研究と演奏実践。
モーツァルトの代表的オペラの研究と、ドイツ・フランス・イタリア歌曲の演奏解釈を行う。
VTRと録音を用いて、劇の進行に沿ってスコアと照らし合わせながら研究を進めていく。
前期:ドイツ・フランス・イタリア歌曲の研究およびモーツァルトの代表的オペラの研究

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 西洋のオペラの歴史について、コレペティートルの職能について。
リート伴奏とオペラ伴奏の相違点
- 第3回 モンテベルディのオルフェオについての概論と作品分析。
- 第4回 グルックのオルフェオ①(作品研究)ウィーン版とパリ、ベルリオーズ版との比較研究。
- 第5回 グルックのオルフェオ②(総譜奏法)
- 第6回 モーツァルトのオペラについて(概論)
- 第7回 魔笛①(第一幕)
- 第8回 魔笛②(第二幕から最後まで)
- 第9回 ドン・ジョバンニ①(第一幕)
- 第10回 ドン・ジョバンニ②(第二幕から)
- 第11回 フィガロの結婚①(第一幕)
- 第12回 フィガロの結婚②(第二幕から)
- 第13回 コシファントウツテについて概論と音楽 ①(第一幕)
- 第14回 ② (第二幕以降)の作品分析
- 第15回 その他のオペラ作品 イドメネオと後宮からの誘拐について(概説)

◆準備学習の内容◆

準備学習: 歌曲またはオペラなどの声楽伴奏の経験
予習: 各回で授業で取り上げられる作曲家と作品について前もって辞典を参考に調べておくこと。かつオペラのストーリーの流れを調べておく、主なアリアの日本語訳しておくこと。(60分)
復習: スコアを用意し、授業で学んだ作品の箇所をピアノで弾けるようにする。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ヴォーカルまたはオーケストラスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

指示されたヴォーカルスコアを図書館を利用するなどして、用意すること。

ナンバリング	CCL694N		
科目名	声楽作品特別研究A I		
科目詳細	コレペティートル必修 2025年度以降入学生		
担当教員	林 達也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文学的テキストと音楽的内容を理解し、楽曲分析・演奏解釈ができる

◆授業内容・計画◆

声楽作品とオーケストラ作品の研究と演奏実践。
モーツァルトの代表的オペラの研究と、ドイツ・フランス・イタリア歌曲の演奏解釈を行う。
VTRと録音を用いて、劇の進行に沿ってスコアと照らし合わせながら研究を進めていく。
前期:ドイツ・フランス・イタリア歌曲の研究およびモーツァルトの代表的オペラの研究

第1回 ガイダンス
第2回 西洋のオペラの歴史について、コレペティートルの職能について。
リート伴奏とオペラ伴奏の相違点
第3回 モンテベルディのオルフェオについての概論と作品分析。
第4回 グルックのオルフェオ①(作品研究)ウィーン版とパリ、ベルリオーズ版との比較研究。
第5回 グルックのオルフェオ②(総譜奏法)
第6回 モーツァルトのオペラについて(概論)
第7回 魔笛①(第一幕)
第8回 魔笛②(第二幕から最後まで)
第9回 ドン・ジョバンニ①(第一幕)
第10回 ドン・ジョバンニ②(第二幕から)
第11回 フィガロの結婚①(第一幕)
第12回 フィガロの結婚②(第二幕から)
第13回 コシファントウツテについて概論と音楽 ①(第一幕)
第14回 ② (第二幕以降)の作品分析
第15回 その他のオペラ作品 イドメネオと後宮からの誘拐について(概説)

◆準備学習の内容◆

準備学習: 歌曲またはオペラなどの声楽伴奏の経験
予習: 各回で授業で取り上げられる作曲家と作品について前もって辞典を参考に調べておくこと。かつオペラのストーリーの流れを調べておく、主なアリアの日本語訳しておくこと。(60分)
復習: スコアを用意し、授業で学んだ作品の箇所をピアノで弾けるようにする。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ヴォーカルまたはオーケストラスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

指示されたヴォーカルスコアを図書館を利用するなどして、用意すること。

ナンバリング	CCL688N		
科目名	オーケストラ作品特別研究Ⅱ		
科目詳細	指揮者必修		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)オーケストラ等を指揮してリハーサルを行い、楽曲をまとめることができる。
- (2)指揮をする楽曲の楽譜を分析し理解することにより、リハーサルと本番の演奏を準備することができる。

◆授業内容・計画◆

様々な様式と編成による室内楽、小規模管弦楽作品を題材に、作品分析と演奏解釈、指揮法をレッスン形式で学ぶ。また、実際の演奏家を相手に学んだ楽曲を試演する年3回程度のセッションでは、指揮法の実際や練習の進め方などを学んでいく。取り上げる課題については、履修学生の能力や適正を考慮しつつその都度決定される。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題曲C第1～2楽章の作品分析
- 第3回 課題曲C第1～2楽章の読譜
- 第4回 課題曲C第1楽章第1部の指揮レッスン
- 第5回 課題曲C第1楽章第2部の指揮レッスン
- 第6回 課題曲C第2楽章第1部の指揮レッスン
- 第7回 課題曲C第2楽章第2部の指揮レッスン
- 第8回 課題曲C第3～4楽章の作品分析
- 第9回 課題曲C第3～4楽章の読譜
- 第10回 課題曲C第3楽章第1部の指揮レッスン
- 第11回 課題曲C第3楽章第2部の指揮レッスン
- 第12回 課題曲C第4楽章第1部の指揮レッスン
- 第13回 課題曲C第4楽章第2部の指揮レッスン
- 第14回 課題曲Cのオーケストラによる「セッション(3)」
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・課題曲の作曲家と作品について知識を得ておくこと。
- ・課題曲のスコアに指揮に必要な書き込みをしておくこと(授業にて説明)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、学期中に行われる指揮セッション。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な楽譜については、各自購入。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

- ・可能な限り機会をみつけて、オーケストラのリハーサルとコンサートを見学すること。

ナンバリング	CCL689N		
科目名	声楽作品特別研究Ⅱ		
科目詳細	コレペティートル必修 2024年度以前入学生		
担当教員	林 達也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文学的テキストと音楽的内容を理解し、楽曲分析・演奏解釈ができる

◆授業内容・計画◆

声楽作品とオーケストラ作品の研究と演奏実践。
イタリアおよびフランスの近代オペラの研究を行う。
VTRと録音を用いて、劇の進行に沿ってスコアと照らし合わせながら研究を進めていく。
後期:イタリアおよびドイツ、ロシア、フランス近代のオペラ研究を行う。特に、ヴェルディ、ワーグナー、プッチーニ、ムソルグスキー、ビゼーなどを中心に取り上げる。

第1回 ヨーロッパの近代オペラについてとその演奏法(概論)。ヴェリズモオペラについて。
第2回 ドニゼッティのオペラ 愛の妙薬とランメルモールのルチアについて(概論)
第3回 ヴェルディの生涯と全オペラについて(概論)
第4回 椿姫(トラヴィータ)①基礎
第5回 椿姫(トラヴィータ)②応用
第6回 リゴレットとアイダ、及びファルスタッフについて。
第7回 ロッシーニのオペラ(セヴィーリアの理髪師)の研究
第8回 フランスオペラの歴史について。グノー、マスネ、ビゼー、ドビュッシーのオペラ(概論)
第9回 ビゼーのカルメン①(第一幕～第二幕)の研究。
第10回 カルメン②(第三幕～第四幕)の研究。
第11回 ムソルグスキーのオペラ『ボリスゴドノフ』(概論)
第12回 プッチーニの全オペラについて。(概論)
第13回 ラ・ボエーム
第14回 トスカ
第15回 蝶々夫人

◆準備学習の内容◆

準備学習:授業の前に、オペラ伴奏の経験を出来るだけ多くするようにする。
予習:毎回授業で取り上げられる作品について作曲家と作品について音楽辞書を読んで下調べをする。かつ、劇のストーリーの流れと主要なアリアの日本語訳をしておくこと。(60分)
復習:授業で学んだ箇所をスコアを用いて、分析しながらピアノで弾く。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ヴォーカルまたはオーケストラスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

指示されたヴォーカルスコアを、図書館を利用するなどして、用意すること。

ナンバリング	CCL695N		
科目名	声楽作品特別研究AⅡ		
科目詳細	コレペティートル必修 2025年度以降入学生		
担当教員	林 達也		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-11	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

文学的テキストと音楽的内容を理解し、楽曲分析・演奏解釈ができる

◆授業内容・計画◆

声楽作品とオーケストラ作品の研究と演奏実践。
イタリアおよびフランスの近代オペラの研究を行う。
VTRと録音を用いて、劇の進行に沿ってスコアと照らし合わせながら研究を進めていく。
後期:イタリアおよびドイツ、ロシア、フランス近代のオペラ研究を行う。特に、ヴェルディ、ワーグナー、プッチーニ、ムソルグスキー、ビゼーなどを中心に取り上げる。

第1回 ヨーロッパの近代オペラについてとその演奏法(概論)。ヴェリズモオペラについて。
第2回 ドニゼッティのオペラ 愛の妙薬とランメルモールのルチアについて(概論)
第3回 ヴェルディの生涯と全オペラについて(概論)
第4回 椿姫(トラヴィータ)①基礎
第5回 椿姫(トラヴィータ)②応用
第6回 リゴレットとアイダ、及びファルスタッフについて。
第7回 ロッシーニのオペラ(セヴィーリアの理髪師)の研究
第8回 フランスオペラの歴史について。グノー、マスネ、ビゼー、ドビュッシーのオペラ(概論)
第9回 ビゼーのカルメン①(第一幕～第二幕)の研究。
第10回 カルメン②(第三幕～第四幕)の研究。
第11回 ムソルグスキーのオペラ『ボリスゴドノフ』(概論)
第12回 プッチーニの全オペラについて。(概論)
第13回 ラ・ボエーム
第14回 トスカ
第15回 蝶々夫人

◆準備学習の内容◆

準備学習:授業の前に、オペラ伴奏の経験を出来るだけ多くするようにする。
予習:毎回授業で取り上げられる作品について作曲家と作品について音楽辞書を読んで下調べをする。かつ、劇のストーリーの流れと主要なアリアの日本語訳をしておくこと。(60分)
復習:授業で学んだ箇所をスコアを用いて、分析しながらピアノで弾く。(70分)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み及び期末実技試験その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

ヴォーカルまたはオーケストラスコア

◆参考図書◆

◆留意事項◆

指示されたヴォーカルスコアを、図書館を利用するなどして、用意すること。

ナンバリング	CCL690N		
科目名	オーケストラ作品特別研究Ⅲ		
科目詳細	指揮者必修		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)弦楽合奏、管楽合奏等のアンサンブルを指揮してリハーサルを行い、楽曲をまとめることができる。
- (2)指揮をする楽曲の楽譜を分析し理解することにより、リハーサルと本番の演奏を準備することができる。

◆授業内容・計画◆

大規模な声楽作品、管弦楽作品を題材に、作品分析と演奏解釈、指揮法をレッスン形式で学ぶ。また、実際の演奏家を相手に学んだ楽曲を試演する年3回程度のセッションでは、指揮法の実際や練習の進め方などを学んでいく。取り上げる課題曲については、履修学生の能力や適正を考慮しつつその都度決定される。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題曲Dの作品分析
- 第3回 課題曲Dの読譜
- 第4回 課題曲D第1部の指揮レッスン
- 第5回 課題曲D第2部の指揮レッスン
- 第6回 課題曲D第3部の指揮レッスン
- 第7回 課題曲Dのアンサンブルによる「セッション(1)」
- 第8回 課題曲Eの作品分析
- 第9回 課題曲Eの読譜
- 第10回 課題曲E第1部の指揮レッスン
- 第11回 課題曲E第2部の指揮レッスン
- 第12回 課題曲E第3部の指揮レッスン
- 第13回 課題曲E第4部の指揮レッスン
- 第14回 課題曲Eのアンサンブルによる「セッション(2)」
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・課題曲の作曲家と作品について知識を得ておくこと。
- ・課題曲のスコアに指揮に必要な書き込みをしておくこと(授業にて説明)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取組みと、学期中に行われる指揮セッション。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な楽譜については、各自購入。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

- ・可能な限り機会をみつけて、オーケストラのリハーサルとコンサートを見学すること。

ナンバリング	CCL691N		
科目名	声楽作品特別研究Ⅲ		
科目詳細	コレペティートル必修		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践を踏まえ、オペラ1曲全曲アプローチできるようにする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究
- 第2回 作曲家研究
- 第3回 作品研究
- 第4回 レチタティーヴォ奏法
- 第5回 オーケストラ作品のピアノ奏法
- 第6回 指揮の見方
- 第7回 コレペティ実践(モーツァルトのオペラ)
- 第8回 コレペティ実践(ベルカントオペラ)
- 第9回 コレペティ実践(ヴェルディのオペラ)
- 第10回 コレペティ実践(プッチーニのオペラ)
- 第11回 コレペティ実践(ドイツ語オペラ)
- 第12回 コレペティ実践(フランス語オペラ)
- 第13回 コレペティ実践(英米オペラ作品)
- 第14回 コレペティ実践(邦楽オペラ作品)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回予習をしっかりとすること。個人で1日1時間は練習して、できれば歌手と練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み方、実習の成果により、評価する。
毎回課題を出し、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

クラス生全員で協力して、課題曲決めなどを行うこと。

ナンバリング	CCL696N		
科目名	声楽作品特別研究B I		
科目詳細	コレペティートル必修		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

オペラにおける総合的実践を踏まえ、オペラ1曲全曲アプローチできるようにする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 台本研究
- 第2回 作曲家研究
- 第3回 作品研究
- 第4回 レチタティーヴォ奏法
- 第5回 オーケストラ作品のピアノ奏法
- 第6回 指揮の見方
- 第7回 コレペティ実践(モーツァルトのオペラ)
- 第8回 コレペティ実践(ベルカントオペラ)
- 第9回 コレペティ実践(ヴェルディのオペラ)
- 第10回 コレペティ実践(プッチーニのオペラ)
- 第11回 コレペティ実践(ドイツ語オペラ)
- 第12回 コレペティ実践(フランス語オペラ)
- 第13回 コレペティ実践(英米オペラ作品)
- 第14回 コレペティ実践(邦楽オペラ作品)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回予習をしっかりとすること。個人で1日1時間は練習して、できれば歌手と練習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み方、実習の成果により、評価する。
毎回課題を出し、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

クラス生全員で協力して、課題曲決めなどを行うこと。

ナンバリング	CCL692N		
科目名	オーケストラ作品特別研究Ⅳ		
科目詳細	指揮者必修		
担当教員	工藤 俊幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- (1)オーケストラ等を指揮してリハーサルを行い、楽曲をまとめることができる。
- (2)指揮をする楽曲の楽譜を分析し理解することにより、リハーサルと本番の演奏を準備することができる。

◆授業内容・計画◆

大規模な声楽作品、管弦楽作品を題材に、作品分析と演奏解釈、指揮法をレッスン形式で学ぶ。また、実際の演奏家を相手に学んだ楽曲を試演する年3回程度のセッションでは、指揮法の実際や練習の進め方などを学んでいく。取り上げる課題曲については、履修学生の能力や適性を考慮しつつその都度決定される。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題曲F第1～2楽章の作品分析
- 第3回 課題曲F第1～2楽章の読譜
- 第4回 課題曲F第1楽章第1部の指揮レッスン
- 第5回 課題曲F第1楽章第2部の指揮レッスン
- 第6回 課題曲F第2楽章第1部の指揮レッスン
- 第7回 課題曲F第2楽章第2部の指揮レッスン
- 第8回 課題曲F第3～4楽章の作品分析
- 第9回 課題曲F第3～4楽章の読譜
- 第10回 課題曲F第3楽章第1部の指揮レッスン
- 第11回 課題曲F第3楽章第2部の指揮レッスン
- 第12回 課題曲F第4楽章第1部の指揮レッスン
- 第13回 課題曲F第4楽章第2部の指揮レッスン
- 第14回 課題曲Fのオーケストラによる「セッション(3)」
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・課題曲を指揮するための練習を十分にしておくこと。
- ・課題曲の作曲家と作品について知識を得ておくこと。
- ・課題曲のスコアに指揮に必要な書き込みをしておくこと(授業にて説明)。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みと、学期中に行われる指揮セッション。その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要な楽譜については、各自購入。

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

- ・可能な限り機会をみつけて、オーケストラのリハーサルとコンサートを見学すること。

ナンバリング	CCL693N		
科目名	声楽作品特別研究Ⅳ		
科目詳細	コレペティートル必修		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1つのオペラ作品の実践と発表を通し力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 修了演目作品台本研究(台本を分担し各自訳して教員がフィードバックする)
第2回 修了演目作品作曲家研究(作曲家と作品の関係を調べて提出、教員はフィードバックする)
第3回 コレペティション① 個人稽古(ディクシオン、音程等チェック)
第4回 コレペティション② 個人稽古(発声、ニュアンス、音楽性のチェック)
第5回 コレペティション③ アンサンブル稽古(少人数での稽古)
第6回 コレペティション④ アンサンブル稽古(多人数での稽古)
第7回 指揮者による音楽稽古①(テンポ、振り方を確認してバランスの良いアンサンブルを心掛ける)
第8回 指揮者による音楽稽古②(ニュアンス、音楽性を確認しながら歌手の事も気に掛ける)
第9回 演出家による立ち稽古①(コンセプト、粗立ち)
第10回 演出家による立ち稽古②(キャラクター説明、動き)
第11回 演出家による立ち稽古③(総合的演技、細かいところの流れ)
第12回 通し稽古(幕ごとに通して見ることで問題を教員とチェックして教員はフィードバックする)
第13回 H P(幕ごとに、教員、演出家とチェックして、教員はフィードバックする)
第14回 GP(本番と同様に公演を行い最終チェックを教員、演出家とチェックしてフィードバック)
第15回 修了試験

◆準備学習の内容◆

稽古予定を作成して、歌手との連絡も含め、オペラの裏方も経験すること。
最低でも1週間に1回、歌手との合わせをすること。

◆成績評価の方法◆

平常授業の取り組み方、また成果発表により評価をする。その他、課題を出し、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

コレペティ生全員で、よく打ち合わせをすること。

ナンバリング	CCL697N		
科目名	声楽作品特別研究BⅡ		
科目詳細	コレペティートル必修		
担当教員	河原 忠之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

1つのオペラ作品の実践と発表を通し力を高める。

◆授業内容・計画◆

第1回 修了演目作品台本研究(台本を分担し各自訳して教員がフィードバックする)
第2回 修了演目作品作曲家研究(作曲家と作品の関係を調べて提出、教員はフィードバックする)
第3回 コレペティション① 個人稽古(ディクシオン、音程等チェック)
第4回 コレペティション② 個人稽古(発声、ニュアンス、音楽性のチェック)
第5回 コレペティション③ アンサンブル稽古(少人数での稽古)
第6回 コレペティション④ アンサンブル稽古(多人数での稽古)
第7回 指揮者による音楽稽古①(テンポ、振り方を確認してバランスの良いアンサンブルを心掛ける)
第8回 指揮者による音楽稽古②(ニュアンス、音楽性を確認しながら歌手の事も気に掛ける)
第9回 演出家による立ち稽古①(コンセプト、粗立ち)
第10回 演出家による立ち稽古②(キャラクター説明、動き)
第11回 演出家による立ち稽古③(総合的演技、細かいところの流れ)
第12回 通し稽古(幕ごとに通して見ることで問題を教員とチェックして教員はフィードバックする)
第13回 H P(幕ごとに、教員、演出家とチェックして、教員はフィードバックする)
第14回 GP(本番と同様に公演を行い最終チェックを教員、演出家とチェックしてフィードバック)
第15回 修了試験

◆準備学習の内容◆

稽古予定を作成して、歌手との連絡も含め、オペラの裏方も経験すること。
最低でも1週間に1回、歌手との合わせをすること。

◆成績評価の方法◆

平常授業の取り組み方、また成果発表により評価をする。その他、課題を出し、フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

コレペティ生全員で、よく打ち合わせをすること。

ナンバリング	CEP507N		
科目名	西洋古楽演奏研究(リコーダー)Ⅰ		
科目詳細	上級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

バロック時代のソロ曲を中心に、年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回
ガイダンス
- 第2回
音楽における修辞フィグーラの理解(1)
R. カー / イタリア風グラウンドによるディヴィジョン(前半)
- 第3回
音楽における修辞フィグーラの理解(2)
R. カー / イタリア風グラウンドによるディヴィジョン(後半)
- 第4回
音楽における修辞フィグーラの理解(3)
R. カー / イタリア風グラウンドによるディヴィジョン 課題曲の仕上げ
- 第5回
音楽における修辞フィグーラの理解(4)
B. マルチェッロ / ソナタ第2番二短調 第一楽章
- 第6回
音楽における修辞フィグーラの理解(5)
B. マルチェッロ / ソナタ第2番二短調 第二楽章
- 第7回
音楽における修辞フィグーラの理解(6)
B. マルチェッロ / ソナタ第2番二短調 第三楽章
- 第8回
音楽における修辞フィグーラの理解(7)
B. マルチェッロ / ソナタ第2番二短調 第四楽章
- 第9回
音楽における修辞フィグーラの理解(8)
B. マルチェッロ / ソナタ第2番二短調 課題曲の仕上げ
- 第10回
1700年代のドイツの作曲家の作品(1)
G. F. ヘンデルのソナタ 第一楽章
- 第11回
1700年代のドイツの作曲家の作品(2)
G. F. ヘンデルのソナタ 第二楽章
- 第12回
1700年代のドイツの作曲家の作品(3)
G. F. ヘンデルのソナタ 第三楽章の装飾
- 第13回

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みの姿勢、曲の内容の理解、運指、息づかい、タンギング等のテクニック、発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP508N		
科目名	西洋古楽演奏研究(リコーダー)Ⅱ		
科目詳細	上級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

バロック時代のソロ曲を中心に、年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回
1700年代のイタリアの作曲家の作品(1)
F. バルサンティやF. マンチーニのソナタ 第一楽章

第2回
1700年代のイタリアの作曲家の作品(2)
F. バルサンティやF. マンチーニのソナタ 第二楽章

第3回
1700年代のイタリアの作曲家の作品(3)
F. バルサンティやF. マンチーニのソナタ 第三楽章

第4回
1700年代のイタリアの作曲家の作品(4)
F. バルサンティやF. マンチーニのソナタ 第四楽章

第5回
1700年代のイタリアの作曲家の作品(5)
F. バルサンティやF. マンチーニのソナタ 課題曲の仕上げ

第6回
1700年代のフランスの作曲家の作品(1)
J. M. オトテールの無伴奏プレリュード

第7回
1700年代のフランスの作曲家の作品(2)
J. M. オトテールの無伴奏プレリュード 課題曲の仕上げ

第8回
1700年代のフランスの作曲家の作品(3)
J. M. オトテールの組曲 アルマンド・クーラント・サラバンド

第9回
1700年代のフランスの作曲家の作品(4)
J. M. オトテールの組曲 ガヴォット・ジグ・その他の舞曲

第10回
1700年代のフランスの作曲家の作品(5)
課題曲の仕上げ

第11回
1700年代のヴァイオリン曲のリコーダー編曲の作品(1)
A. コレツリのソナタ 第一楽章・第二楽章

第12回
1700年代のヴァイオリン曲のリコーダー編曲の作品(2)
A. コレツリのソナタ 緩徐楽章の装飾

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みの姿勢、曲の内容の理解、運指、息づかい、タンギング等のテクニック、発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP509N		
科目名	西洋古楽演奏研究(リコーダー)Ⅲ		
科目詳細	上級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

中世からルネサンス時代のソロ曲を中心に、年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

第1回
ガイダンス
第2回 中世の音楽(1)
中世の音楽の時代背景、形式について学習する
第3回 中世の音楽(2)
中世の音楽の調、音律について学習する
第4回 中世の音楽(3)
チッコニア等の作品
第5回 中世の音楽(4)
課題曲の仕上げ
第6回 ルネサンス前期の音楽(1)
ルネサンスの音楽の時代背景、形式について学習する
第7回 ルネサンス前期の音楽(2)
ジョスカン・デ・プレ等の?作品
第8回 ルネサンス前期の音楽(3)
課題曲の仕上げ
第9回 ルネサンス後期の音楽(1)
T. モーリーのファンタジア
第10回 ルネサンス後期の音楽(2)
課題曲の仕上げ
第11回 ルネサンス後期の音楽(3)
C. ギボンズのファンタジア
第12回 ルネサンス後期の音楽(4)
課題曲の仕上げ
第13回 ルネサンス後期の音楽(5)
W. バードのファンタジア
第14回 ルネサンス後期の音楽(6)
課題曲の仕上げ
第15回
まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みの姿勢、曲の内容の理解、運指、息づかい、タンギング等のテクニック、発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP510N		
科目名	西洋古楽演奏研究(リコーダー)Ⅳ		
科目詳細	上級		
担当教員	向江 昭雅		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

バロック時代のソロ曲を中心に、年代や地域による演奏様式、演奏習慣を理解し、楽譜からそこに書かれた音楽を読みとり、それを実際に表現するための演奏技術や表現法を身につけ演奏することを目指す。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 1600年代のイタリアの作品(1)
1600年代のイタリア音楽の時代背景、形式について学習する
- 第2回 1600年代のイタリアの作品(2)
ロニョー二等のディミニューション
- 第3回 1600年代のイタリアの作品(3)
課題曲の仕上げ
- 第4回 1600年代のイタリアの作品(4)
ビッキ等のカンツォン
- 第5回 1600年代のイタリアの作品(5)
課題曲の仕上げ
- 第6回 1600年代のイタリアの作品(6)
カステッロ等のソナタ(前半)
- 第7回 1600年代のイタリアの作品(7)
カステッロ等のソナタ(後半)
- 第8回 1600年代のイタリアの作品(8)
課題曲の仕上げ
- 第9回 後期バロックのソロ作品(1)
テレマンのファンタジア(前半)
- 第10回 後期バロックのソロ作品(2)
テレマンのファンタジア(後半)
- 第11回 後期バロックのソロ作品(3)
テレマンのファンタジア 課題曲の仕上げ
- 第12回 後期バロックのソロ作品(4)
J. S. バッハの無伴奏パルティータ(前半)
- 第13回 後期バロックのソロ作品(5)
J. S. バッハの無伴奏パルティータ(後半)
- 第14回 後期バロックのソロ作品(6)
J. S. バッハの無伴奏パルティータ 課題曲の仕上げ
- 第15回
まとめと評価

◆準備学習の内容◆

基礎練習や授業で扱う楽曲の十分な練習。課題曲の時代背景や作曲家について調べる。

◆成績評価の方法◆

毎回の課題への取り組みの姿勢、曲の内容の理解、運指、息づかい、タンギング等のテクニック、発表演奏を適宜講評し総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

受講者の人数や技量に応じて、その都度指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

グループ式の個人レッスンおよび合奏レッスン。
楽器所有者以外は学校から貸し出す。履修者のレベルにより課題曲を変更することもある。

ナンバリング	CEP511N		
科目名	西洋古楽演奏研究(ヴィオラ・ダ・ガンバ)Ⅰ		
科目詳細	上級		
担当教員	坪田 一子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソロ楽器としてのヴィオラ・ダ・ガンバのレパートリーをルネサンスからバロック時代まで学び、より高度な技術を身につけられるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 D.オルティス<レセルカーダ>
第2回 オスティナート・パス上の曲
第3回 T.ヒューム リラ・ウェイの音楽 タブラチュアについて
第4回 G.フレスコバルディ<カンツォン>
第5回 第3回、第4回の仕上げ
第6回 C.シンブソンのディヴィジョン
第7回 第6回の仕上げ
第8回 C.F.アーベルのソナタ

第9回 通奏低音について
第10回 第8回、第9回の仕上げ
第11回 G.F.テレマンのソナタ
第12回 通奏低音
第13回 トリオ・ソナタ

第14回 第11、12、13回の仕上げ

第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

基礎練習を含めた毎日の練習が必須。

◆成績評価の方法◆

学習意欲、学期末試験の結果を評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど指示。

◆参考図書◆

ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳「ヴィオール概論」(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

課題曲は履修者のレベルに合わせて調整する場合がある。

ナンバリング	CCP631N		
科目名	西洋古楽アンサンブルA		
科目詳細	西洋古楽アンサンブル入門Ⅰと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

西洋古楽コース1年目の学生を対象とし、バロック期の作品を中心とした古楽アンサンブルの基礎を学ぶ。

◆授業内容・計画◆

各自の専攻楽器・声種がバロック期にどのようなレパートリーを持ち、またどのような奏法・演奏習慣があったのかをよく理解し、作曲家の残した楽譜に近い資料とそうでない楽譜を比較しながら演奏法を研究してゆく。

- 第1回 ガイダンス、「古楽」とは
- 第2回 通奏低音をはじめとする楽譜の問題
- 第3回 「古楽器」と「現代楽器」に注目して
- 第4回 「演奏習慣」の問題とは
- 第5回 アンサンブルの曲決め
- 第6回 アンサンブルレッスン(1)(各自の曲について)楽譜の研究 前半
- 第7回 アンサンブルレッスン(2)(各自の曲について)楽譜の研究 後半
- 第8回 アンサンブルレッスン(3)(各自の曲について)作曲者の時代の演奏習慣を意識して
- 第9回 アンサンブルレッスン(4)(各自の曲について)テンポ・拍節・リズムの研究
- 第10回 アンサンブルレッスン(5)(各自の曲について)音型、ハーモニー、通奏低音の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(6)(各自の曲について)相手の音をよく聴く・バランス
- 第12回 アンサンブルレッスン(7)(各自の曲について)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

アンサンブルレッスン(1)～(7)では、自分たちの組以外のレッスンを聴くことから多くのことを学べるので、必ず自分の組以外の楽譜も手元にあるように留意すること(classroom等を利用する予定である)。

◆準備学習の内容◆

アンサンブルごとに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と前期末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほか、試験時の演奏について最終回に3名の教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

履修者の人数や専攻のバランスによっては、学期の途中で授業計画を変更する場合がある。

ナンバリング	CEP512N		
科目名	西洋古楽演奏研究(ヴィオラ・ダ・ガンバ)Ⅱ		
科目詳細	上級		
担当教員	坪田 一子		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソロ楽器としてのヴィオラ・ダ・ガンバのレパートリーをバロック時代まで学び、より高度な技術を身につけ、曲を表現出来るようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 M.マレの「ヴィオール組曲 第4巻」より
第2回 <メヌエツト><ガボツト> など

第3回 <ジーク><カプリス> など
第4回 <アルマンド><プレリュード> など
第5回 第1、2、3、4回の仕上げ
第6回 G.F.テレマン <バリ四重奏>より
第7回 他の楽器との発音の違いを確かめ、どのようにすれば調和するか工夫する

第8回 通奏低音とオブリガート・パートの役割の違いを考える
第9回 第6、7、8回の仕上げ
第10回 J.S.バッハ<ソナタ>
第11回 撥弦楽器であるチェンバロとの対話
第12回 第10、11回の仕上げ
第13回 修了試験の曲目を決め、対策をたてる
第14回 第13回の仕上げ
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

基礎練習を含めた毎日の練習を必ずする。

◆成績評価の方法◆

学習意欲。修了試験の結果を評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど指示。

◆参考図書◆

「ヴィオール概論」ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

課題曲は履修者のレベルに合わせて調整する場合がある。

ナンバリング	CCP632N		
科目名	西洋古楽アンサンブルB		
科目詳細	西洋古楽アンサンブル入門Ⅱと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

西洋古楽コース1年目の学生を対象とし、バロック期の作品を中心とした古楽アンサンブルの基礎を確実なものとしていく。

◆授業内容・計画◆

前期(「西洋古楽アンサンブルA」)に引き続き、西洋古楽アンサンブルの基礎を確実なものとしていく。作曲者の声によく耳を傾け、また共演者の音をよく聴くことができるようになることを目指す。そのためにも、自分の専攻を超えていろいろな楽器のしくみや表現、演奏習慣を理解するように各自が努めたい。

- 第1回 ガイダンス、よりよいアンサンブルに向けて
- 第2回 古楽アンサンブルの基礎技術①～調律法、ピッチの問題の基礎を理解する～
- 第3回 古楽アンサンブルの基礎技術②～拍感、ダンスからくるリズム感について～
- 第4回 アンサンブルの曲決め
- 第5回 アンサンブルレッスン(1)楽譜の研究
- 第6回 アンサンブルレッスン(2)調律法、ピッチを意識した演奏の研究
- 第7回 アンサンブルレッスン(3)拍感、リズムを意識した演奏の研究
- 第8回 アンサンブルレッスン(4)和声、通奏低音を意識した演奏の研究
- 第9回 アンサンブルレッスン(5)相手の音をよく聴く
- 第10回 アンサンブルレッスン(6)様式感、形式感を意識した演奏の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(7)同時代の理論書を参考にした演奏の研究
- 第12回 アンサンブルレッスン(8)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

アンサンブルレッスン(1)～(8)では、自分たちの組以外のレッスンを聴くことから多くのことを学べるので、必ず自分の組以外の楽譜も手元にあるように留意すること(classroom等を利用する予定である)。

◆準備学習の内容◆

アンサンブルことに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と学年末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほか、試験時の演奏について最終回に教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

履修者の人数や専攻のバランスによっては、学期の途中で授業計画を変更する場合がある。

ナンバリング	CEP513N		
科目名	西洋古楽演奏研究(ヴィオラ・ダ・ガンバ)Ⅲ		
科目詳細	上級		
担当教員	坪田 一子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソロ楽器としてのヴィオラ・ダ・ガンバのレパートリーをルネサンスからバロック時代まで学び、より高度な技術を身につけられるようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 D.オルティス<レセルカーダ>
第2回 オスティナート・バス上の曲
第3回 T.ヒューム リラ・ウェイの音楽 タブラチュアについて
第4回 G.フレスコバルディ<カンツォン>
第5回 第3回、第4回の仕上げ
第6回 C.シンブソンのディヴィジョン
第7回 第6回の仕上げ
第8回 C.F.アーベルのソナタ

第9回 通奏低音について
第10回 第8回、第9回の仕上げ
第11回 G.F.テレマンのソナタ
第12回 通奏低音
第13回 トリオ・ソナタ

第14回 第11、12、13回の仕上げ

第15回 まとめと講評

◆準備学習の内容◆

基礎練習を含めた毎日の練習が必須。

◆成績評価の方法◆

学習意欲、学期末試験の結果を評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど指示。

◆参考図書◆

「ヴィオール概論」ジャン・ルソー著 関根敏子・神戸愉樹美共訳(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

課題曲は履修者のレベルに合わせて調整する場合がある。

ナンバリング	CCP633N		
科目名	西洋古楽アンサンブルC		
科目詳細	西洋古楽アンサンブル入門Ⅰと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	N-028	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

西洋古楽コース2年目の学生を対象とし、バロック期の作品を中心とした古楽アンサンブルの基礎を学び、コース修了試験に備える。

◆授業内容・計画◆

各自の専攻楽器・声種がバロック期にどのようなレパートリーを持ち、またどのような奏法・演奏習慣があったのかをよく理解し、作曲家の残した楽譜に近い資料とそうでない楽譜を比較しながら演奏法を研究してゆく。

- 第1回 ガイダンス、「古楽」とは
- 第2回 各自のレパートリー研究その1(教員からのガイダンス)
- 第3回 各自のレパートリー研究その2(学生の調査報告)
- 第4回 各自のレパートリー研究その3(まとめ)
- 第5回 アンサンブルの曲決め
- 第6回 アンサンブルレッスン(1)(各自の曲について)楽譜の研究 前半
- 第7回 アンサンブルレッスン(2)(各自の曲について)楽譜の研究 後半
- 第8回 アンサンブルレッスン(3)(各自の曲について)作曲者の時代の演奏習慣を意識して
- 第9回 アンサンブルレッスン(4)(各自の曲について)テンポ・拍節・リズムの研究
- 第10回 アンサンブルレッスン(5)(各自の曲について)音型、ハーモニー、通奏低音の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(6)(各自の曲について)相手の音をよく聴く・バランス
- 第12回 アンサンブルレッスン(7)(各自の曲について)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

アンサンブルレッスン(1)～(7)では、ほかの組のレッスンを聴くことから多くのことを学べるので、必ず自分の組以外の楽譜も手元にあるように留意すること(classroom等を利用する予定である)。

◆準備学習の内容◆

アンサンブルごとに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と前期末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほか、試験時の演奏について最終回に教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

履修者の人数や専攻のバランスによっては、学期の途中で授業計画を変更する場合がある。

ナンバリング	CEP514N		
科目名	西洋古楽演奏研究(ヴィオラ・ダ・ガンバ)Ⅳ		
科目詳細	上級		
担当教員	坪田 一子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ソロ楽器としてのヴィオラ・ダ・ガンバのレパートリーをバロック時代まで学び、より高度な技術を身につけ、曲を表現出来るようにする。

◆授業内容・計画◆

第1回 M.マレの「ヴィオール組曲 第4巻」より
第2回 <メヌエット><ガボット> など

第3回 <ジグ><カプリス> など
第4回 <アルマンド><プレリュード> など
第5回 第1、2、3、4回の仕上げ
第6回 G.F.テレマン <バリ四重奏>より
第7回 他の楽器との発音の違いを確かめ、どのようにすれば調和するか工夫する

第8回 通奏低音とオブリガート・パートの役割の違いを考える
第9回 第6、7、8回の仕上げ
第10回 J.S.バッハ<ソナタ>
第11回 撥弦楽器であるチェンバロとの対話
第12回 第10、11回の仕上げ
第13回 修了試験の曲目を決め、対策をたてる
第14回 第13回の仕上げ
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

基礎練習を含めた毎日の練習を必ずする。

◆成績評価の方法◆

学習意欲。修了試験の結果を評価する。
レッスン中の課題については適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

そのつど指示。

◆参考図書◆

「ヴィオール概論」ジャン・ルソー著関根敏子・神戸愉樹美共訳(アカデミア・ミュージック)

◆留意事項◆

課題曲は履修者のレベルに合わせて調整する場合がある。

ナンバリング	CCP634N		
科目名	西洋古楽アンサンブルD		
科目詳細	西洋古楽アンサンブル入門Ⅱと合同		
担当教員	大塚 直哉, 大西 律子, 菊池 奏絵		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-028	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

西洋古楽コース2年目の学生を対象とし、バロック期の作品を中心とした古楽アンサンブルの基礎を確実なものとしていく。

◆授業内容・計画◆

前期(「西洋古楽アンサンブルC」)に引き続き、西洋古楽アンサンブルの基礎を確実なものとしていく。作曲者の声によく耳を傾け、また共演者の音をよく聴くことができるようになることを目指す。そのために、自分の専攻を超えていろいろな楽器のしくみや表現、演奏習慣を理解するように各自が努めたい。また、1月に行われる予定の西洋古楽コース発表会(修了認定)に向けて、各自のレパートリーをしっかりと作っていききたい。

- 第1回 ガイダンス、よりよいアンサンブルに向けて
- 第2回 当時の文献にある奏法の研究①国ごとの違いに注目して
- 第3回 当時の文献にある奏法の研究②装飾法など
- 第4回 アンサンブルの曲決め
- 第5回 アンサンブルレッスン(1)楽譜の研究
- 第6回 アンサンブルレッスン(2)調律法、ピッチを意識した演奏の研究
- 第7回 アンサンブルレッスン(3)拍感、リズムを意識した演奏の研究
- 第8回 アンサンブルレッスン(4)和声、通奏低音を意識した演奏の研究
- 第9回 アンサンブルレッスン(5)相手の音をよく聴く
- 第10回 アンサンブルレッスン(6)様式感、形式感を意識した演奏の研究
- 第11回 アンサンブルレッスン(7)同時代の理論書を参考にした演奏の研究
- 第12回 アンサンブルレッスン(8)仕上げ
- 第13回 発表会(1)前半の組
- 第14回 発表会(2)後半の組
- 第15回 講評とまとめ

アンサンブルレッスン(1)～(8)では、ほかの組のレッスンを聴くことから多くのことを学べるので、必ず自分の組以外の楽譜も手元にあるように留意すること(classroom等を利用する予定である)。

◆準備学習の内容◆

アンサンブルごとに、よく事前の合わせをしてからレッスンに臨むこと。また、どのような背景を持つ作品なのか、自分たちが使っている楽譜はどのような素性のものなのか、などについて事前に調べておくことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)と学年末の発表会での演奏を合わせて評価する。また、毎回のレッスンでの各組の演奏へのコメントのほか、試験時の演奏について最終回に教員から学生各自へ講評する時間を設ける。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

大崎滋生「音楽演奏の社会史」
橋本英二「バロックから初期古典派までの音楽の奏法」
バートン(角倉訳)「バロック音楽」
ほか

◆留意事項◆

履修者の人数や専攻のバランス、進度によっては、学期の途中で授業計画を変更する場合がある。

ナンバリング	CEP515N		
科目名	西洋古楽演奏研究(チェンバロ)Ⅰ		
科目詳細	上級		
担当教員	大塚 直哉		
学年	3年	クラス	01
講義室	N-005	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

チェンバロ演奏の中でも、特にアンサンブルにおいて重要な「通奏低音奏法」に焦点をあて、理解を深める。

◆授業内容・計画◆

チェンバロ演奏の中でも、重要な「通奏低音奏法」に習熟することを目指す。「数字付き低音」を正しく読み取る能力に加え、作品のさまざまな様式を生かす奏法についても研究していきたい。五線紙上で声部進行・配置等を確認することと、鍵盤上で様々な奏法を工夫することの両者を繰り返ししていく予定なので、各自、五線紙を持参すること。(なお、受講生の専攻・到達度によっては、並行してチェンバロのソロ作品のレッスンを取り入れる場合もある。)

- ①ガイダンス
- ②数字付き低音の基礎の確認(1)基礎的数字
- ③数字付き低音の基礎の確認(2)倚音を伴う数字
- ④テレマンの作品(※選曲についてはガイダンス時に相談する)(1)基本の確認
- ⑤テレマンの作品(2)異なる配置を試してみる
- ⑥テレマンの作品(3)テレマン自身の通奏低音教科書を参照して
- ⑦テレマンの作品(4)仕上げ
- ⑧コレッリの作品(1)基本の確認
- ⑨コレッリの作品(2)異なる配置を試してみる
- ⑩コレッリの作品(3)コレッリの同時代者が残したリアリゼーションの研究
- ⑪コレッリの作品(4)仕上げ
- ⑫試験にむけての復習レッスン
- ⑬数字付き低音の試験
- ⑭ミニコンサート
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

チェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。また、数字付き低音が苦手なものは、よく予習・復習を行う時間を確保すること。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)に前期末ミニコンサートや数字付き低音の試験での成果を合わせて評価する。学生各自の演奏に対して、毎回のレッスンでのアドバイスのほか、特にミニコンサート(第14回)終了後に、まとまった時間を取って講評を行うことでフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

大塚直哉編「クラヴィス」(現代ギター社)

◆参考図書◆

久保田彰「図解チェンバロメンテナンス」(東京コレgium)
横田誠三「鍵盤調律法」

◆留意事項◆

原則として、「西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅰ～Ⅳ」を履修済みの学生を対象としているが、実力のあるものには飛び級を認めることがある。飛び級を希望する者は4月に行われる「西洋古楽表現(チェンバロ)」のガイダンスに参加し申し出ること。また、「西洋古楽コース生」は、「西洋古楽表現(チェンバロ)」が既修かどうかに関わらず、この科目を履修することができる。ただし、「西洋古楽表現(チェンバロ)」との同時履修は不可とする。

ナンバリング	CEP516N		
科目名	西洋古楽演奏研究(チェンバロ)Ⅱ		
科目詳細	上級		
担当教員	大塚 直哉		
学年	3年	クラス	O1
講義室	N-005	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

チェンバロ演奏の中でも、特にアンサンブルにおいて重要な「通奏低音奏法」に焦点をあて、理解を深める。

◆授業内容・計画◆

チェンバロ演奏の中でも、重要な「通奏低音奏法」に習熟することを目指す。「数字付き低音」を正しく読み取る能力に加え、作品のさまざまな様式を生かす奏法についても研究していきたい。五線紙上で声部進行・配置等を確認することと、鍵盤上で様々な奏法を工夫することの両者を繰り返し行って予定なので、各自、五線紙を持参すること。(なお、受講生の専攻・到達度によっては、並行してチェンバロのソロ作品のレッスンを取り入れる場合もある。)

- ①ガイダンス
- ②フランスの作品(F.クーブランなど)(1)基本の確認
- ③フランスの作品(2)異なる配置を試してみる
- ④フランスの作品(3)同時代の理論書を比較しながら
- ⑤フランスの作品(4)仕上げ
- ⑥モンテヴェルディの作品(1)基本の確認
- ⑦モンテヴェルディの作品(2)異なる配置を試してみる
- ⑧モンテヴェルディの作品(3)同時代の理論書を比較しながら
- ⑨モンテヴェルディの作品(4)仕上げ
- ⑩ヘンデルの作品(1)基本の確認
- ⑪ヘンデルの作品(2)異なる配置を試してみる
- ⑫ヘンデルの作品(3)仕上げ
- ⑬数字付き低音の試験
- ⑭ミニコンサート
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

チェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。また、演奏会や録音で様々なアンサンブルを鑑賞したり、バロックダンスを体験する機会を求めるなど、作品の理解を深めるために積極的に取り組みたい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)に学年末ミニコンサートや数字付き低音の試験での成果を合わせて評価する。学生各自の演奏に対して、毎回のレッスンでのアドバイスのほか、特にミニコンサート(第14回)終了後に、まとまった時間を取って講評を行うことでフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

大塚直哉編「クラヴィス」(現代ギター社)

◆参考図書◆

久保田彰「図解チェンバロメンテナンス」(東京コレgium)

横田誠三「鍵盤調律法」

大塚直哉「ブリュ・バロック」(学研プラス)

◆留意事項◆

原則として、「西洋古楽表現(チェンバロ)Ⅰ～Ⅳ」を履修済みの学生を対象としているが、実力のあるものには飛び級しての履修を認めることがある。それを希望する者は4月に行われる「西洋古楽表現(チェンバロ)」のガイダンスに参加し申し出ること。また、「西洋古楽コース生」は、「西洋古楽表現(チェンバロ)」が既修かどうかに関わらず、この科目を履修することができる。ただし、「西洋古楽表現(チェンバロ)」との同時履修は不可とする。

ナンバリング	CEP517N		
科目名	西洋古楽演奏研究(チェンバロ)Ⅲ		
科目詳細	上級		
担当教員	大塚 直哉		
学年	4年	クラス	01
講義室	N-005	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

チェンバロ演奏の中でも、特にアンサンブルにおいて重要な「通奏低音奏法」に焦点をあて、理解を深める。

◆授業内容・計画◆

チェンバロ演奏の中でも、重要な「通奏低音奏法」に習熟することを目指す。「数字付き低音」を正しく読み取る能力に加え、作品のさまざまな様式を生かす奏法についても研究していきたい。五線紙上で声部進行・配置等を確認することと、鍵盤上で様々な奏法を工夫することの両者を繰り返していく予定なので、各自、五線紙を持参すること。(なお、受講生の専攻・到達度によっては、並行してチェンバロのソロ作品のレッスンを取り入れる場合もある。)

- ①ガイダンス
- ②数字付き低音を通して作品をよりよく理解するとは～数字のついていない作品に数字を振ってみる(アンサンブル作品、ソロ作品)(1)概説
- ③数字付き低音を通して作品をよりよく理解するとは～数字のついていない作品に数字を振ってみる(アンサンブル作品、ソロ作品)(2)各自の発表
- ④レチタティーヴォを含む18世紀の作品(A.スカルラッティなど)(1)基本の確認
- ⑤レチタティーヴォを含む18世紀の作品(2)歌詞を発音しながら弾いてみる
- ⑥レチタティーヴォを含む18世紀の作品(3)当時の理論書を参照しながら
- ⑦レチタティーヴォを含む18世紀の作品(4)仕上げ
- ⑧対位法のおさらい
- ⑨初期イタリアの作品(1)基本の確認
- ⑩初期イタリアの作品(2)当時の理論書を参照しながら
- ⑪初期イタリアの作品(3)作品の様式を生かすために
- ⑫初期イタリアの作品(4)仕上げ
- ⑬数字付き低音の試験
- ⑭ミニコンサート
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

チェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。チェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。また、演奏会や録音で様々なアンサンブルを鑑賞したり、バロックダンスを体験する機会を求めるなど、作品の理解を深めるために積極的に取り組みたい。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)に前期末ミニコンサートや数字付き低音の試験での成果を合わせて評価する。学生各自の演奏に対して、毎回のレッスンでのアドバイスのほか、特にミニコンサート(第14回)終了後に、まとまった時間を取って講評を行うことでフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

「鍵盤調律法」横田誠三(横田ハーブシコード工房)

◆留意事項◆

ナンバリング	CEP518N		
科目名	西洋古楽演奏研究(チェンバロ)Ⅳ		
科目詳細	上級		
担当教員	大塚 直哉		
学年	4年	クラス	01
講義室	N-005	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

チェンバロ演奏の中でも、特にアンサンブルにおいて重要な「通奏低音奏法」に焦点をあて、理解を深める。

◆授業内容・計画◆

チェンバロ演奏の中でも、重要な「通奏低音奏法」に習熟することを目指す。「数字付き低音」を正しく読み取る能力に加え、作品のさまざまな様式を生かす奏法についても研究していきたい。五線紙上で声部進行・配置等を確認することと、鍵盤上で様々な奏法を工夫することの両者を繰り返していく予定なので、各自、五線紙を持参すること。(なお、受講生の専攻・到達度によっては、並行してチェンバロのソロ作品のレッスンを取り入れる場合もある。)

- ①ガイダンス
- ②フランスの作品(※Ⅱのクラスで取り上げなかった作曲家を選択すること)(1)基本の確認
- ③フランスの作品(2)当時の理論書を参照しながら
- ④フランスの作品(3)作品の様式を意識して
- ⑤フランスの作品(4)仕上げ
- ⑥J.S.バッハの作品(1)基本の確認
- ⑦J.S.バッハの作品(2)当時の理論書を参照しながら
- ⑧J.S.バッハの作品(3)作品の様式を意識して
- ⑨J.S.バッハの作品(4)仕上げ
- ⑩自由曲(※各自で自由に選択した作品に取り組む。西洋古楽コース生は自分が修了試験で取り組む作品の中から取り上げる)(1)基本の確認
- ⑪自由曲(2)作品の様式を意識して
- ⑫自由曲(3)仕上げ
- ⑬数字付き低音の試験
- ⑭ミニコンサート
- ⑮まとめ

◆準備学習の内容◆

チェンバロでの十分な練習時間を確保して授業に臨むこと。

◆成績評価の方法◆

授業への参加の積極度(平常点)に学年末ミニコンサートや数字付き低音の試験での成果を合わせて評価する。学生各自の演奏に対して、毎回のレッスンでのアドバイスのほか、特にミニコンサート(第14回)終了後に、まとまった時間を取って講評を行うことでフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

適宜指示する

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCP639N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(雅楽)Ⅰ		
科目詳細	上級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 真美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

雅楽唐楽の盤渉調曲を実習して今までに学んだ調との違いを味わう。舞楽吹きの演奏法を学ぶ。古代歌謡の御神楽から其駒を学ぶ。暗譜を重視して練習することにより、他の楽器を聴きつつ合奏を楽しめるようになる。

◆授業内容・計画◆

笙と打ちものは宮田まゆみが担当する。
希望により舞楽の舞を体験・実習できる。

履修曲：

盤渉調 音取、越天楽、千秋楽、白柱、青海波
双調調子 春庭楽、太食調音取 還城楽 ほか

1. 中級の復習 太食調/合歓塩 平調/林歌 雙調/胡飲酒破 壹越調/酒胡子 など合奏
2. 盤渉調音取 越天楽
3. 盤渉調音取 千秋楽
4. 盤渉調音取 越天楽 千秋楽 合奏
5. 盤渉調音取 白柱
6. 盤渉調音取 青海波
7. 盤渉調音取 白柱 青海波 合奏
8. 双調調子 春庭楽(舞楽吹)
9. 太食調音取 還城楽(早只拍子)
10. 双調調子 春庭楽、太食調音取 還城楽 合奏
11. 神楽歌 其駒、双調調子 春庭楽、太食調音取 還城楽 合奏
12. 前期に習得した曲の合奏(1)盤渉調音取 越天楽 千秋楽 白柱 青海波
13. 前期履修曲の演奏法確認、コース演奏会課題曲の相談
14. 前期に習得した曲の合奏(2)双調調子 春庭楽、太食調音取 還城楽

15. まとめ

コースのⅠとⅢ、ⅡとⅣは合同の授業なので、毎年度の授業において、一年交代で、コースⅠ・Ⅱの履修曲あるいはコースⅢ・Ⅳの履修曲のどちらかに重点をおいて授業を進める。コースⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの2年間の履修を通して全課題曲を習得する。
2025年度はⅠ、Ⅱを履修。Ⅲ、Ⅳは2026年度に履修予定。
授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間程度)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視。実習時には適宜フィードバックを行う。
前期末に実技試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
『雅楽 時空を超えた遥かな調べ』鳥居本幸代著(春秋社)
『新版 雅楽入門』増本伎共子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。
上達のためには良い演奏を聴くことが大切なので、機会を見つけて生の雅楽演奏を聴くことを勧める。

ナンバリング	CCP640N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(雅楽)Ⅱ		
科目詳細	上級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

雅楽唐楽の杏越調、黄鐘調曲を学習し、管楽器合奏に絃楽器や打楽器を加えた合奏体験を積み、雅楽の知識と経験を豊かにする。暗譜を重視して練習ことにより、他の楽器を聴きつつ合奏を楽しめるようになる。雅楽初級・中級をすでに履修、またはそれと同程度の知識と技術を有する学生を対象とする。

◆授業内容・計画◆

雅楽初級・中級をすでに履修、またはそれと同程度の知識と技術を有する学生を対象とする。笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導する。希望により舞楽の舞を体験・実習できる。

履修曲: 壹越調音取 迦陵頻急 蘭陵王、黄鐘調音取 越天楽 鳥急、コース演奏会課題曲 ほか

1. 前期に習得した曲の復習 合奏、コース演奏会課題曲の相談
 2. 壹越調音取 迦陵頻急
 3. 壹越調音取 蘭陵王
 4. 壹越調音取 迦陵頻急 蘭陵王 合奏
 5. コース演奏会課題曲の唱歌と分奏
 6. 黄鐘調音取 越天楽 鳥急
 6. 黄鐘調音取 越天楽 鳥急 合奏
 7. コース演奏会課題曲合奏(1)管・絃・打の配役決定
 8. コース演奏会課題曲分奏と副楽器試奏
 10. コース演奏会課題曲合奏(2)管・絃・打の総合奏
 11. コース演奏会課題曲合奏(3)通し稽古
 12. 後期に習得した曲の合奏(1)壹越調音取 迦陵頻急 蘭陵王
 13. 後期履修曲の演奏法確認
 14. 後期に習得した曲の合奏(2)黄鐘調音取 越天楽 鳥急
 15. まとめ
- 余裕のある時に以下の曲を随時履修 催馬楽/伊勢海

コースのⅠとⅢ、ⅡとⅣは合同の授業なので、毎年度の授業において、一年交代で、コースⅠ・Ⅱの履修曲あるいはコースⅢ・Ⅳの履修曲のどちらかに重点を置いて授業を進める。コースⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの2年間の履修を通して全課題曲を習得する。
2025年度はⅠ、Ⅱを履修。Ⅲ、Ⅳは2026年度に履修予定。
授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間以上)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視。実習時には適宜フィードバックを行う。
後期末に実技試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

楽譜プリントを配付する。

◆参考図書◆

- 『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
- 『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
- 『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
- 『雅楽 時空を超えた遥かな調べ』鳥居本幸代著(春秋社)
- 『新版 雅楽入門』増本伎共子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。
上達のためには良い演奏を聴くことが大切なので、機会を見つけて生の雅楽演奏を聴くことを勧める。

ナンバリング	CCP641N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(雅楽)Ⅲ		
科目詳細	上級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

雅楽初級・中級、日本伝統音楽演奏研究(雅楽Ⅰ・Ⅱ)では、雅楽の渡来楽舞のうち左方の唐楽を中心に学んだが、Ⅲでは右方高麗楽曲も学び、雅楽を多角的に体験する。唐楽曲の中でも中曲サイズの曲に挑戦する。フリーリズムの「序」を学び、合奏する楽しさ、難しさを経験する。

◆授業内容・計画◆

笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導する。
希望により舞楽の舞を体験・実習できる。

履修曲:壹越調音取 胡飲酒序・破 春鶯囀颯踏・入破、平調調子 萬歳楽、納曽利破・急

- 既に履修した曲の復習 合奏
- 壹越調音取 胡飲酒序
- 壹越調音取 胡飲酒破
- 壹越調音取 胡飲酒序・破 合奏
- 壹越調音取 春鶯囀颯踏
- 壹越調音取 春鶯囀入破
- 壹越調音取 春鶯囀颯踏・入破 合奏
- 平調調子 萬歳楽(舞楽吹)
- 平調調子 萬歳楽 合奏
- 高麗壹越調 納曽利破・急合奏(1)管楽器を中心に
- 高麗壹越調 納曽利破・急合奏(1)打楽器も加えて
- 前期に履修した曲の合奏 壹越調音取 胡飲酒序・破 春鶯囀颯踏・入破
- 前期履修曲の演奏法確認、コース演奏会課題曲の相談
- 前期に履修した曲の合奏 平調調子 萬歳楽、納曽利破・急
- まとめ

コースのⅠとⅢ、ⅡとⅣは合同の授業なので、毎年度の授業において、一年交代で、コースⅠ・Ⅱの履修曲あるいはコースⅢ・Ⅳの履修曲のどちらかに重点をおいて授業を進める。コースⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの2年間の履修を通して全課題曲を習得する。
2025年度はⅠ、Ⅱを履修。Ⅲ、Ⅳは2026年度に履修予定。

授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。
「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間以上)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視。実習時には適宜フィードバックを行う。
前期末に実技試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ―見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
『雅楽 時空を超えた遙かな調べ』鳥居本幸代著(春秋社)
『新版 雅楽入門』増本伎共子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。
上達のためには良い演奏を聴くことが大切なので、機会を見つけて生の雅楽演奏を聴くことを勧める。

ナンバリング	CCP642N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(雅楽)Ⅳ		
科目詳細	上級雅楽		
担当教員	中村 仁美, 宮田 まゆみ, 越後 眞美		
学年		クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

コース演奏会での演奏発表を目標にして、お互いの音を聞きあって息の合った合奏ができるようにする。雅楽の唐楽・高麗楽だけでなく、国風歌舞の神楽歌も学ぶ。

◆授業内容・計画◆

笙と打楽器は宮田まゆみ招聘教授が指導する。
希望により舞を体験・実習できる。

履修曲:黄鐘調音取 西王楽破 拾翠楽、盤渉調音取 輪台 竹林楽、其駒、コース演奏会課題曲 ほか

1. 前期に習得した曲の復習 合奏 胡飲酒 春鶯囀 萬歳楽 納曾利の中から数曲、コース演奏会課題曲について相談
 2. 黄鐘調音取 西王楽破
 3. 黄鐘調音取 拾翠楽
 4. 黄鐘調音取 西王楽破 拾翠楽 合奏
 7. コース演奏会課題曲唱歌と分奏
 5. 盤渉調音取 輪台 竹林楽
 6. 盤渉調音取 輪台 竹林楽 合奏
 8. コース演奏会課題曲分奏と副楽器試奏
 9. コース演奏会課題曲合奏(1)管・絃・打の配役決定
 10. コース演奏会課題曲合奏(2)管・絃・打の総合奏
 11. コース演奏会課題曲合奏(3)通し稽古
 12. 神楽歌 其駒、後期に習得した曲の合奏(1)黄鐘調音取 西王楽破 拾翠楽
 13. 後期履修曲の演奏法確認
 14. 後期に習得した曲の合奏(2)盤渉調音取 輪台 竹林楽など
 15. まとめ
- 余裕のある時に以下の曲を随時履修 盤渉調/蘇莫者破

コースのⅠとⅢ、ⅡとⅣは合同の授業なので、毎年度の授業において、一年交代で、コースⅠ・Ⅱの履修曲あるいはコースⅢ・Ⅳの履修曲のどちらかに重点を置いて授業を進める。
コースⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの2年間の履修を通して全課題曲を習得する。
2025年度はⅠ、Ⅱを履修。Ⅲ、Ⅳは2026年度に履修予定。

授業各回はそれ以前に習得した曲の復習を適宜挿入する。「合奏」と記されている以外は各管楽器の分奏とする。

◆準備学習の内容◆

履修中の曲の、唱歌(しょうが)の練習と暗記、楽器練習を行うこと。(週3時間以上)
特に唱歌は、楽器の準備をする時間が取れないときでも日常的に手軽に行える上、歌うことで楽器演奏が飛躍的に上達するので必ず行なう。

◆成績評価の方法◆

習得への積極性を重視。実習時には適宜フィードバックを行う。
後期末に実技試験を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で、資料や楽譜を配付する。

◆参考図書◆

『マンガでわかる雅楽』遠藤徹監修(誠文堂新光社)
『雅楽のひみつ一見かた、楽しみかたがわかる本 伝統の和楽器超入門』日本雅楽会監修(メイツ出版)
『雅楽を知る事典』遠藤徹著(東京堂出版)
『雅楽 時空を超えた遥かな調べ』鳥居本幸代著(春秋社)
『新版 雅楽入門』増本伎共子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

前期・後期続けて履修すること。

ナンバリング	CCP643N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(三味線)Ⅰ		
科目詳細	上級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級・中級で習得したことをさらに拡大し、技術・知識をより深める。
 曲目は年度により、適切な曲を選択する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
 第2回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方 音の確認と演奏上のポイント
 第3回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方 音程の確認と向上
 第4回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方 スムーズなスクイ・ハジキを習得したうえで、テンポアップをはかる
 第5回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方 楽曲の背景と仕上げ
- 第6回 課題曲「越後獅子」(1・2ページ)音の確認と演奏上のポイント
 第7回 課題曲「越後獅子」(3・4ページ)音の確認と演奏上のポイント
 第8回 課題曲「越後獅子」(5・6ページ)音の確認と演奏上のポイント
 第9回 課題曲「越後獅子」(7・8ページ)音の確認と演奏上のポイント
 第10回 課題曲「越後獅子」(9ページ)音の確認と演奏上のポイント
 第11回 課題曲「越後獅子」第6回目からの課題曲全体を通して
 第12回 課題曲「越後獅子」楽曲の解説と理解
 第13回 課題曲「越後獅子」少人数に分けて個々のレベルアップをはかる
 第14回 課題曲「越後獅子」総合演奏発表
 第15回 14回に渡った演奏研究Ⅰのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業前に演奏する曲を、十分に復習・予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内で適宜講評を行い、実技試験により表現力や技術力を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
 履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CCP644N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(三味線)Ⅱ		
科目詳細	上級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演奏研究Ⅰで習得したことをさらに拡大し、秋のコース演奏会に向け、技術・知識をより深める。
曲目は年度により、適切な曲を選択する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 課題曲「越後獅子」替手(副旋律) 第1回目 音の確認
第3回 課題曲「越後獅子」替手(副旋律) 第2回目 演奏上のポイント
第4回 課題曲「越後獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる音の確認と演奏上のポイント
第5回 課題曲「越後獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる実際の演奏上の留意点
第6回 課題曲「越後獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる曲への理解力の向上
第7回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第1回目 楽曲への理解
第8回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第2回目 暗譜能力向上のための助言・指導
第9回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第3回目 暗譜のための実技と展開
第10回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第4回目 実演時における留意点の指導
第11回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第5回目 課題曲全体を通しての演奏と課題点を探る
第12回 課題曲「越後獅子」暗譜習得のための第6回目 相互演奏による楽曲の理解と演奏の向上
第13回 課題曲「越後獅子」コース演奏会の評価と反省点
第14回 課題曲「越後獅子」囃子入りでの演奏
第15回 14回に渡った演奏研究Ⅱのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業前に演奏する曲を、十分に復習・予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内で適宜講評を行い、秋に行われるコース演奏会における演奏技術・表現力等によって評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CCP645N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(三味線)Ⅲ		
科目詳細	上級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演奏研究Ⅰ・Ⅱで習得したことをさらに拡大し、技術・知識をより深める。
曲目は年度により、適切な曲を選択する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
第2回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方替手 音の確認と演奏上のポイント
第3回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方替手 音程の確認と向上
第4回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方替手 スムーズなスクイ・ハジキを習得したうえで、テンポアップをはかる
第5回 課題曲「娘道成寺」よりチンチリレン合方替手 楽曲の背景と仕上げ
- 第6回 課題曲「勝三郎連獅子」(1・2ページ)音の確認と演奏上のポイント
第7回 課題曲「勝三郎連獅子」(3・4ページ)音の確認と演奏上のポイント
第8回 課題曲「勝三郎連獅子」(5・6ページ)音の確認と演奏上のポイント
第9回 課題曲「勝三郎連獅子」(7・8ページ)音の確認と演奏上のポイント
第10回 課題曲「勝三郎連獅子」(9・10ページ)音の確認と演奏上のポイント
第11回 課題曲「勝三郎連獅子」第6回目からの課題曲全体を通して
第12回 課題曲「勝三郎連獅子」楽曲の解説と理解
第13回 課題曲「勝三郎連獅子」少人数に分けて個々のレベルアップをはかる
第14回 課題曲「勝三郎連獅子」総合演奏発表
第15回 14回に渡った演奏研究Ⅲのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業前に演奏する曲を、十分に復習・予習しておくこと。

◆成績評価の方法◆

授業中適宜講評を行い、実技試験により表現力や技術力を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。
その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CCP646N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(三味線)Ⅳ		
科目詳細	上級三味線		
担当教員	今藤 長龍郎		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

演奏研究Ⅲで習得したことをさらに拡大し、秋のコース演奏会に向け、技術・知識をより深める。
曲目は年度により、適切な曲を選択する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題曲「勝三郎連獅子」替手(副旋律) 第1回目 音の確認
- 第3回 課題曲「勝三郎連獅子」替手(副旋律) 第2回目 演奏上のポイント
- 第4回 課題曲「勝三郎連獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる音の確認と演奏上のポイント
- 第5回 課題曲「勝三郎連獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる実際の演奏上の留意点
- 第6回 課題曲「勝三郎連獅子」替手(副旋律) 本手(主旋律)との組み合わせによる曲への理解力の向上
- 第7回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第1回目 楽曲への理解
- 第8回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第2回目 暗譜能力向上のための助言・指導
- 第9回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第3回目 暗譜のための実技と展開
- 第10回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第4回目 実演時における留意点の指導
- 第11回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第5回目 課題曲全体を通しての演奏と課題点を探る
- 第12回 課題曲「勝三郎連獅子」暗譜習得のための第6回目 相互演奏による楽曲の理解と演奏の向上
- 第13回 課題曲「勝三郎連獅子」コース演奏会の評価と反省点
- 第14回 課題曲「勝三郎連獅子」囃子入りでの演奏
- 第15回 14回に渡った演奏研究Ⅳのまとめ

◆準備学習の内容◆

授業時、スムーズに進行できるよう、復習・予習を行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業中適宜講評を行い、秋に行われるコース演奏会における演奏技術・表現力等によって評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

使用時には講師が適宜準備する。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

上記第1回から第15回の授業内容及び計画は一例である。
履修者のレベルに応じて課題曲・進め方等は異なる場合がある。
その点に関しては、第1回目のガイダンスでよく確認をすること。

ナンバリング	CCP647N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(箏)Ⅰ		
科目詳細	上級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

初級・中級で得た知識と演奏技術をさらに高め、洋楽と邦楽の共通点や相違点を認識して柔軟になることで、箏を用いてより幅広い音楽表現を習得する。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。学生の希望を考慮した楽曲を取り入れることもある。

- 1.中島雅楽之都「中空六段」(初段・二段)
- 2.中島雅楽之都「中空六段」(三段・四段)
- 3.中島雅楽之都「中空六段」(五段・六段)
- 4.中島雅楽之都「中空六段」(全曲)
- 5.中島雅楽之都「中空六段」(全曲仕上げ)
- 6.八橋検校「六段の調」・「中空六段」(合奏)
- 7.八橋検校「六段の調」・「中空六段」(合奏仕上げ)
- 8.藤永検校「八千代獅子」(前歌)
- 9.藤永検校「八千代獅子」(初段)
- 10.藤永検校「八千代獅子」(二段かかり・二段)
- 11.藤永検校「八千代獅子」(三段かかり・三段)
- 12.藤永検校「八千代獅子」(後歌)
- 13.藤永検校「八千代獅子」(全曲)
- 14.藤永検校「八千代獅子」(全曲仕上げ)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習・復習が必須。
自習用楽器は大学から1年間借りる事が可能。(有料)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みを評価し、適宜講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

出版されている楽譜は購入すること。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

4月のガイダンスに必ず出席すること。
前期・後期引き続き履修すること。

ナンバリング	CCP648N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(箏)Ⅱ		
科目詳細	上級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

I で得た演奏技術を基に、12月に開催する日本伝統音楽コースの演奏会に照準を合わせ演奏の質を高める。また、自ら楽曲分析をし、どのように演奏すべきかアンサンブル指導の体験をして貰う。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。学生の希望を考慮した楽曲を取り入れることもある。

1. 沢井忠夫「螺鈿」(一章)
2. 沢井忠夫「螺鈿」(一章)
3. 沢井忠夫「螺鈿」(二章)
4. 沢井忠夫「螺鈿」(二章)
5. 沢井忠夫「螺鈿」(全章)
6. 藤井凡大「二つの個性」(一章)
7. 藤井凡大「二つの個性」(一章)
8. 藤井凡大「二つの個性」(二章)
9. 藤井凡大「二つの個性」(二章)
10. 藤井凡大「二つの個性」(三章)
11. 藤井凡大「二つの個性」(三章)
12. 藤井凡大「二つの個性」(全章)
13. 藤井凡大「二つの個性」(全章)
14. まとめ

◆準備学習の内容◆

予習・復習が必須。
自習用楽器は大学から1年間借りる事が可能。(有料)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みを評価し、適宜講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

出版されている楽譜は購入すること

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

コース演奏会には必ず出演のこと。

ナンバリング	CCP649N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(箏)Ⅲ		
科目詳細	上級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	前期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

IとIIで得た知識と演奏技術を用いて、さらに踏み込んだ音楽表現を習得する。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。学生の希望を考慮した楽曲を取り入れることもある。

- 1.吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き・波の部)
- 2.吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き・波の部)
- 3.吉沢検校「千鳥の曲」(千鳥の部前半)
- 4.吉沢検校「千鳥の曲」(千鳥の部前半)
- 5.吉沢検校「千鳥の曲」(千鳥の部後半)
- 6.吉沢検校「千鳥の曲」(千鳥の部後半)
- 7.吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き・波の部・千鳥の部)
- 8.吉沢検校「千鳥の曲」(前弾き・波の部・千鳥の部)
- 9.沢井比河流「OKOTO」(一章)
- 10.沢井比河流「OKOTO」(一章)
- 11.沢井比河流「OKOTO」(二章)
- 12.沢井比河流「OKOTO」(二章)
- 13.沢井比河流「OKOTO」(一章・二章)
- 14.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習・復習が必須。
自習用楽器は大学から1年間借りる事が可能。(有料)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みを評価し、適宜講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

出版されている楽譜は購入すること。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

4月のガイダンスに必ず出席すること。
前期・後期引き続き履修すること。

ナンバリング	CCP650N		
科目名	日本伝統音楽演奏研究(箏)Ⅳ		
科目詳細	上級箏		
担当教員	花岡 操聖		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	三弄筵	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

I～Ⅲで学んだ集大成として、12月に開催する日本伝統音楽コースの演奏会に照準を合わせ、演奏の質を高める。また、楽曲分析と同時に曲解説を自らの言葉で発信出来る様にする。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更する。学生の希望を考慮した楽曲を取り入れることもある。

- 1.吉沢検校「千鳥の曲」(替手前半)
- 2.吉沢検校「千鳥の曲」(替手中間部)
- 3.吉沢検校「千鳥の曲」(替手後半)
- 4.吉沢検校「千鳥の曲」(替手全曲)
- 5.光崎検校「五段砧」(本手初段)
- 6.光崎検校「五段砧」(本手二段)
- 7.光崎検校「五段砧」(本手三段)
8. 光崎検校「五段砧」(本手四段)
9. 光崎検校「五段砧」(本手五段)
- 10.光崎検校「五段砧」(本手前歌)
- 11.光崎検校「五段砧」(本手三段獅子)
- 12.光崎検校「五段砧」(本手全曲)
- 13.光崎検校「五段砧」(合奏)
- 14.まとめ

◆準備学習の内容◆

予習・復習が必須。
自習用楽器は大学から1年間借りる事が可能。(有料)

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みを評価し、適宜講評する。

◆教科書(使用テキスト)◆

出版されている楽譜は購入すること。

◆参考図書◆

特になし。

◆留意事項◆

コース演奏会には必ず出演のこと。

ナンバリング	MMS430N		
科目名	マネージメント実習 I		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	火1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や		

◆授業目標◆

アーツマネージメントに関し、基本的な考え方を学び、それがどのように実践されているかを知って、概要が理解できるようになる。

◆授業内容・計画◆

インターンシップを体験することを前提に、そのために必要となる基本的な知識を、事前学習、外部講師による特別講義を通して学ぶ。また、インターンシップ先に関する事前調査や、音楽プログラムに関し、学生に発表を課する。

○各回の予定

- 第1回 アーツマネージメントとは何か
- 第2回 アーツマネージメントの実際と音楽界の動向
- 第3回 音楽機関・会社の管理と運営(1)ホールAの関係者をゲストに迎えて
- 第4回 音楽機関・会社の管理と運営(2)ホールBの関係者をゲストに迎えて
- 第5回 音楽機関・会社の管理と運営(3)演奏団体Cの関係者をゲストに迎えて
- 第6回 音楽機関・会社の管理と運営(4)演奏団体Dの関係者をゲストに迎えて
- 第7回 音楽関連業界の実際
- 第8回 ホール実習に向けて
- 第9回 ホール実習
- 第10回 ディスカッション
- 第11回 音楽プログラムに関する調査(1)基本的な考え方
- 第12回 音楽プログラムに関する調査(2)発案と調査
- 第13回 インターンシップに関する諸知識と心得
- 第14回 「実習Ⅱ」の履修に向けて
- 第15回 まとめ

*「音楽機関・会社の管理と運営」については、特別講義となる予定であり、内容は外部講師の先生方に依頼することとなる。

◆準備学習の内容◆

外部講師の来訪などにあたっては、当該講師の所属機関などについて十分な情報収集をしておくこと。また、音楽のみならず、エンターテインメント業界での出来事や業界の動向などに、日頃から注意を払っておくこと。

◆成績評価の方法◆

ディスカッションへの参加姿勢、発表内容、インターンシップへの取り組み(発表内容については、その場で評価とコメントを行う)。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

必要に応じて指示する。

◆留意事項◆

外部講師の都合などにより、予定が大幅に入れ替わる場合もあるので注意すること。また、所定の時間外に授業が組まれる可能性があるので、柔軟に対応できるよう心懸けて欲しい。
インターンシップについては、夏休み中を含めて性格の異なる2つの機関を体験する方向で調整する予定。

ナンバリング	MMS431N		
科目名	マネージメント実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	中田 朱美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

前期の実習Ⅰで学んだことをさらに発展させて、コンサートを企画・立案する際に必要となるプログラミングの力を養う。

◆授業内容・計画◆

コンサートのプログラミングには、楽曲、テーマや時事性、聴衆の需要などにかんする多角的な知識や情報収集力、企画目的とのバランスが求められる。これは一朝一夕に望めるものではないが、大切なのは、独善に陥らず、現実的でありながらも魅力的な企画をめざして「模索する方法」を知っておくことである。

この授業では、まず現在の演奏会状況にかんする情報収集の方法を確認した後、目的の異なる演奏会を複数取り上げ、企画趣旨、プログラミングの意図、効果などについて調査、検討する。その後、これらを基にゼミ形式で議論を重ねながら、実際にプログラムを立案、発表する。

第1回 導入

(1) 情報収集

第2回 資料収集と活用1:紙媒体資料

第3回 資料収集と活用2:ウェブ情報

(2) 調査と立案

第4回 コンサートの概観1:子供のための演奏会

第5回 企画の立案と議論1(企画条件の選定と考案)

第6回 企画発表と質疑応答1

第7回 企画改稿の発表と質疑応答1

第8回 コンサートの概観2:オーケストラの演奏会

第9回 企画の立案と議論2(企画条件の選定と考案)

第10回 企画発表と質疑応答2

第11回 企画改稿の発表と質疑応答2

第12回 コンサートの概観3:室内楽の演奏会

第13回 企画の立案と議論3(企画条件の選定と考案)

第14回 企画発表と質疑応答3

第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業ごとに各自の課題があるため、積極的かつ誠実にこなすことが求められる(週約1～2時間の準備を想定した課題を出題する)。

◆成績評価の方法◆

発表の内容とディスカッションへの参加度(4割)、期末のレポート課題(6割)を総合して評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

お互いに建設的な意見を交換しあうなど、自発的な取り組みを期待する。

ナンバリング	MMS432N		
科目名	マネージメント実習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創		

◆授業目標◆

実践的な力をつける。魅力的な企画の立案やプレゼンテーションの方法、IT活用を視野に入れた効果的な情報伝達方法などの力を向上する。実際のコンサートを想定した進行表を作成できる。すぐれた作品とは何か、すばらしい演奏とは何か、マネージメントを行う対象の価値をどのように提示するか、そしてそれをいかに伝達するかについて、実習を通して、自分なりの価値観や方法論を構築できる。

◆授業内容・計画◆

- 実践的なマネージメントの手法を実習する。
1. マネージメントの基本
 2. 効果的なマネージメントとは さまざまなビジネス・モデル IT活用も視野に入れて
 3. プランニング実習(1)アイデアの出し方
 4. プランニング実習(2)グループワーク
 5. プランニング実習(3)フレームワークを利用する
 6. プランニング実習(4)ヴィジュアルを連動させる
 7. プレゼンテーション(1) 音楽を伝える(1)プレゼンテーション基礎
 8. プレゼンテーション(2) 音楽を伝える(2)プレゼンテーション検討
 9. プレゼンテーション(3) 音楽イベントを実現する(1)プレゼンテーション展開
 10. プレゼンテーション(4) 音楽イベントを実現する(2)プレゼンテーション応用
 11. コンサートの進行 進行表検討
 12. 助成金獲得の方法
 13. 助成金獲得のためのプレゼンテーション
 14. 効果的なプレゼンテーションとは
 15. まとめ

◆準備学習の内容◆

さまざまプレゼンテーションから学び、効果的なプレゼンテーションについて吟味する。自己のプレゼンテーションの際には、事前練習を十分に行う。
説得力のある企画を創案するために、信頼できる資料等の裏づけを獲得しておく。
多様なビジネス・モデルを参照し、実践につなげる。
ITの有効活用を吟味する。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、プレゼンテーションなどの総合評価。
プレゼンテーションにはフィードバックを行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

アンジェラ・マイルズ・ビーチング(箕ロー美訳)『BEYOND TALENT 音楽家を成功に導く12章』水曜社、2008年。フィリップ・コトラー他(大坂祐子訳)『コトラーのH2Hマーケティング「人間中心マーケティング」の理論と実践』角川書店、2021年。洋書は、手に取りやすい邦訳を挙げた。必要に応じて原典を参照すること。ほかに適宜授業で紹介する。

◆留意事項◆

時間や締め切りの厳守など、実際のマネージメントにおける常識を踏まえること。アトラクティブなディスカッション、プレゼンテーションを実現するために、情報収集やさまざまな経験の蓄積を心がけてほしい。

ナンバリング	MMS433N		
科目名	マネージメント実習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	塚田 花恵		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

2年間のアート・マネジメントの学びの総括として、受講生が演奏会（パフォーマンス）を企画・プロデュースし、学年末に実施することをめざす。

◆授業内容・計画◆

これまでの外部でのインターンシップなどでの経験・知見を活かしながら、企画実施までの過程を体験する。

以下に示す内容は、企画の内容によって異なってくる可能性があるが、大まかな流れを記す。

なお、受講者以外の関係者との打ち合わせも予定されているため、授業時限以外の実施もあり得る。また、1回で確定せずに継続することもあり、前後の回の内容が並行して進行することもあるので、柔軟な取り組みが必要となる。

各回の内容・計画（予定）

- 第1回：今期のスケジュール設定、役割分担
- 第2回：修了演奏会会場関係者との打ち合わせ
- 第3回：演奏センターとの打ち合わせ
- 第4回：出演者、プログラム解説執筆者との顔合わせ・打ち合わせ
- 第5回：フライヤー・デザインの検討、プログラム冊子構成案作成
- 第6回：実施スケジュール確定
- 第7回：広報計画作成、広報活動確認、フライヤー案確定
- 第8回：ライブラリー作業
- 第9回：会場関係作業
- 第10回：練習スケジュール作成
- 第11回：プログラム冊子構成
- 第12回：プログラム冊子確定
- 第13回：進行台本作成
- 第14回：最終確認
- 第15回：本番

◆準備学習の内容◆

受講者全員で協力しつつ、それぞれの持ち分に応じて適切に役割分担をし、円滑に準備が進められるように心がけること。インターンシップとは異なった形で授業参加者以外の人びと（演奏者、学内各部署担当職員等）と接触することになるため、一般社会におけるのと同じような人間関係への配慮が求められる。

◆成績評価の方法◆

- ・ディスカッションへの参加、演奏会実施までの各段階への関与や作業といった平常点で評価する。
- ・毎回、総括と講評を行う。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

『クラシックコンサート制作の基礎知識』（ヤマハミュージックメディア、2013年）、その他については適宜指示する。

◆留意事項◆

専攻の卒業試験などと時期的に重なるため、受講生のみならず、演奏者との調整にも困難な場面も起こり得るが、そのような突発的な出来事も含めての現場を学内で体験する機会ととらえ、前向きに柔軟に対応できる力が求められる。受講生だけでなく、演奏者や関係部署とのコミュニケーションが円滑にもてるようにふだん以上に心がけること。

ナンバリング	CRS417N		
科目名	ワークショップB I		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

(1)現代を代表する作曲家の作品や創作姿勢に触れ、自らの創作のアイデンティティーを考え、実践することができる。(2)様々な楽器の可能性を知り、それらを用いた新たな表現を実践することができる。(3)音楽家としてどう生きるべきか考えるとともに、音楽だけにとどまらず、文化や社会についての広い視野を持つことができる。

◆授業内容・計画◆

ゲスト音楽家や芸術家による講義や実演と、学生を交えての実践(履修学生作品の作品試演、学生によるゲスト作曲家作品の実演等)が適宜組み合わせられ、また、学生自身のプレゼンテーションも行われる。
 全ての講義について、コース履修生以外でも自由に聴講が認められ、作曲専修のClassroomにて情報を告知する。原則的に、新1号館合唱スタジオ(N-128)、水曜5限を予定しているが、様々な事情により曜限や会場の変更があるので、必ずClassroomの情報を確認すること。

以下に、2024年度の「ワークショップA I」の内容を、一例として示す。

- 1) ガイダンス
- 2) 学生プレゼンテーション(1)
- 3) 木ノ脇道元(フルート奏者、作曲家)vol.1
- 4) 石川泰子(本学ライブラリアン)パート譜作成についての注意事項
- 5) 学生プレゼンテーション(2)
- 6) 井上郷子(ピアニスト)
- 7) 波立裕矢(作曲家)
- 8) 学生プレゼンテーション(3)
- 9) 大田智美(アコーディオン奏者)vol.1
- 10) Ian Pace(ピアニスト)通訳:津田宗明 vol.1
- 11) Ian Pace(ピアニスト)通訳:津田宗明 vol.2
- 12) 石井佑輔(作曲家・ピアニスト)
- 13) 学生プレゼンテーション(4)
- 14) 木ノ脇道元(フルート奏者)vol.2
- 15) 木ノ脇道元(フルート奏者)vol.3 学生試作品試演

作曲家、演奏家、学生プレゼンテーションなどの割合は、本年度も上の例に準ずるものとする。

以下は、いま現在(2025年2月)決定している、来講予定のゲストの一部である。

- ・ensemble eins(韓国演奏団体)
- ・strings&noise(オーストリア演奏団体)
- ・井上郷子(ピアニスト)
- ・Michael Murphy(カナダ、打楽器奏者)
- ・ハッスルコピーより

今後の情報は、先述のとおり、作曲専修のClassroomにて更新する。

◆準備学習の内容◆

演奏者のゲストをむかえる際には、その演奏者について、また該当楽器の構造を調べ、楽譜を見たり音源を聴いたり、予習をしてのぞむこと。作曲家のゲストをむかえる際には、その作曲家の作品にできるだけ接しておくこと。それぞれ質問事項を各自必ず準備し、ゲストとの対話ができる好機を有効に使いましょう。とくに、試作品試演の機会はないが、できるだけ楽譜を提出すること。2回目の来講が設定されている場合は、1回目の後に内容をよく反芻し、聞きそびれたこと、触発されて思いついたこと等を整理し、2回目に備えましょう。

◆成績評価の方法◆

本講義のために提出された小品、学生による上演機会がある場合はその演奏や作品の内容、学生プレゼンテーションを担当した場合はその内容、及び、一連の授業における受講姿勢等による総合評価。授業中、随時作品などへのフィードバックが行われる。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時案内する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

このワークショップの内容は毎年異なるものとし、人選については、2年以上、4年までのサイクルで、なるべく重複のないような配慮をします。したがって、正規の履修生だけでなく、当該学年ではない学生も含め、できるだけ多くの学生の聴講を推奨します。もしも4年間で、すべてのゲストの聴講を実現したら、その経験は一生涯、創作家としての糧となることでしょう。

ナンバリング	CRS418N		
科目名	ワークショップBⅡ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

（１）現代を代表する作曲家の作品や創作姿勢に触れ、自らの創作のアイデンティティーを考え、実践することができる。（２）様々な楽器の可能性を知り、それらを用いた新たな表現を実践することができる。（３）音楽家としてどう生きるべきか考えるとともに、音楽だけにとどまらず、文化や社会についての広い視野を持つことができる。

◆授業内容・計画◆

ゲスト音楽家や芸術家による講義や実演と、学生を交えての実践（履修学生作品の作品試演、学生によるゲスト作曲家作品の実演等）が適宜組み合わせられ、また、学生自身のプレゼンテーションも行われる。
全ての講義について、コース履修生以外でも自由に聴講が認められ、作曲専修のClassroomにて情報を告知する。原則的に、新1号館合唱スタジオ（N-128）、水曜5限を予定しているが、様々な事情により曜限や会場の変更があるので、必ずClassroomの情報を確認すること。

以下に、2024年度「ワークショップAⅡ」の内容を、一例として示す。

- 1) ガイダンス
 - 2) 「聴き伝わるもの」リハーサル(1)
 - 3) 「聴き伝わるもの」リハーサル(2)
 - 4) 大田智美(アコーディオン奏者) vol.2 学生試作品試演
 - 5) 関美奈子(作編曲家 / JASRAC理事) 自身のキャリアと音楽制作について
 - 6) 中川日出鷹(ファゴット奏者)
 - 7) 板倉康明＊(クラリネット奏者・指揮者・作曲家) なぜ私は作曲するのか？音楽家の仕事として
 - 8) ジャン＝ルイ・アゴベ(作曲家) 通訳: 板倉康明 時空内における音の分節化
 - 9) 桑原ゆう＊(作曲家)
 - 10) 杉山洋一(作曲家)
 - 11) 12) 13) 木ノ脇道元(フルート奏者)、中川日出鷹(ファゴット奏者)、大田智美(アコーディオン奏者) 成果発表会
 - 14) 今村央子＊(作曲家)
 - 15) A. アドラー(作曲家)
- ＊ 本学創作科目会教員による講義

作曲家、演奏家、学生プレゼンテーションなどの割合は、本年度も上の例に準ずるものとする。

以下は、いま現在(2025年2月)決定している、来講予定のゲストの一部である。

- ・淡座(ヴァイオリン・チェロ・三味線のアンサンブル)
- ・池田雅延(文芸編集者)
- ・ハッスルコピーより

今後の情報は、先述のとおり、作曲専修のClassroomにて更新する。

◆準備学習の内容◆

演奏者のゲストをむかえる際には、その演奏者について、また該当楽器の構造を調べ、楽譜を見たり音源を聴いたり、予習をしてのぞむこと。
作曲家のゲストをむかえる際には、その作曲家の作品にできるだけ接しておくこと。それぞれ質問事項を各自必ず準備し、ゲストとの対話ができる好機を有効に使いましょう。とくに、試作品試演の機会のはのがさず、できるだけ楽譜を提出すること。2回目の来講が設定されている場合は、1回目の後に内容をよく反芻し、聞きそびれたこと、触発されて思いついたこと等を整理し、2回目に備えましょう。

◆成績評価の方法◆

本講義のために提出された小品、学生による上演機会がある場合はその演奏や作品の内容、学生プレゼンテーションを担当した場合はその内容、及び、一連の授業における受講姿勢等による総合評価。授業中、随時作品などへのフィードバックが行われる。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時案内する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

このワークショップの内容は、毎年異なるものとし、人選については、2年以上、4年までのサイクルで、なるべく重複のないような配慮をします。したがって、正規の履修生だけでなく、当該学年ではない学生も含め、できるだけ多くの学生の聴講を推奨します。もしも4年間で、すべてのゲストの聴講を実現したら、その経験は一生涯、作家としての糧となることでしょう。

ナンバリング	CCS609N		
科目名	現代音楽ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

書法、奏法、思想等、様々な観点で現代の音楽作品を研究し、自らの創作を通じて新しい音楽の可能性を提示することができる。

◆授業内容・計画◆

現代の、主に芸術音楽をめぐる様々なトピックについて研究し、その成果を自らの視点で発展させ、創作に応用する。
また、いずれのトピックにおいても、「楽譜」をより良く書くこと、もしくは、より良く読むことを意識し、その力を鍛える。

授業の進行については、下記のような流れを基本とするが、受講者の段階、興味の方向性、そのとき創作している内容に応じて、随時変更する。
(受講者の興味がある作曲家や作品についてプレゼンテーションを行なってもらい、それについてディスカッションすることを主たる内容とする。)

- 1) ガイダンス、および「現代音楽」とはなにか
- 2) 「ピッチクラス」について研究する。
- 3) 「ピッチクラス」について研究した成果を創作に応用する。
- 4) 「音列」について研究する。
- 5) 「音列」について研究した成果を創作に応用する。
- 6) 「様々なパラメータの管理」について研究する。
- 7) 「様々なパラメータの管理」について研究した成果を創作に応用する。
- 8) 「音群作法」について研究する。
- 9) 「音群作法」について研究した成果を創作に応用する。
- 10) 「旋法」について研究する。
- 11) 「旋法」について研究した成果を創作に応用する。
- 12) 「微分音」について研究する。
- 13) 「微分音」について研究した成果を創作に応用する。
- 14) これまでの研究成果を総合して創作に応用する。
- 15) まとめ(可能であれば創作品の試演を行う)

◆準備学習の内容◆

各トピックに関連する作品を事前に聴いたり、スコアを読んだりしておくとい。

◆成績評価の方法◆

毎回の受講態度、試作品の内容による。その他、授業内で随時行うプレゼンテーションやディスカッションの内容で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS610N		
科目名	現代音楽ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

書法、奏法、思想等、様々な観点で現代の音楽作品を研究し、自らの創作を通じて新しい音楽の可能性を提示することができる。

◆授業内容・計画◆

現代の、主に芸術音楽をめぐる様々なトピックについて研究し、その成果を自らの視点で発展させ、創作に応用する。
また、いずれのトピックにおいても、「楽譜」をより良く書くこと、もしくは、より良く読むことを意識し、その力を鍛える。

授業の進行については、下記のような流れを基本とするが、受講者の段階、興味の方向性、そのとき創作している内容に応じて、随時変更する。
(受講者の興味がある作曲家や作品についてプレゼンテーションを行なってもらい、それについてディスカッションすることを主たる内容とする。)

- 1) 夏休みに研究した内容、触れた作品などについて。
- 2) 「複調・多層性」について研究する。
- 3) 「複調・多層性」について研究した成果を創作に応用する。
- 4) 「特殊奏法・ヴィルトゥオジティ」について研究する。
- 5) 「特殊奏法・ヴィルトゥオジティ」について研究した成果を創作に応用する。
- 6) 「特殊楽器・創作楽器」について研究する。
- 7) 「特殊楽器・創作楽器」について研究した成果を創作に応用する。
- 8) 「音色による構造」について研究する。
- 9) 「音色による構造」について研究した成果を創作に応用する。
- 10) 「スペクトル楽派」について研究する。
- 11) 「スペクトル楽派」について研究した成果を創作に応用する。
- 12) 「反復書法」について研究する。
- 13) 「反復書法」について研究した成果を創作に応用する。
- 14) これまでの研究成果を総合して創作に応用する。
- 15) まとめ(可能であれば創作品の試演を行う)

◆準備学習の内容◆

各トピックに関連する作品を事前に聴いたり、スコアを読んだりしておくとい。

◆成績評価の方法◆

毎回の受講態度、試作品の内容による。その他、授業内で随時行うプレゼンテーションやディスカッションの内容で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS611N		
科目名	現代音楽ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	4年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

書法、奏法、思想等、様々な観点で現代の音楽作品を研究し、自らの創作を通じて新しい音楽の可能性を提示することができる。

◆授業内容・計画◆

現代の、主に芸術音楽をめぐる様々なトピックについて研究し、その成果を自らの視点で発展させ、創作に応用する。
また、いずれのトピックにおいても、「楽譜」をより良く書くこと、もしくは、より良く読むことを意識し、その力を鍛える。

授業の進行については、下記のような流れを基本とするが、受講者の段階、興味の方向性、そのとき創作している内容に応じて、随時変更する。
(受講者の興味がある作曲家や作品についてプレゼンテーションを行なってもらい、それについてディスカッションすることを主たる内容とする。)

- 1) ガイダンス、および「現代音楽」とはなにか。
- 2) 「ピッチクラス」について研究する。
- 3) 「ピッチクラス」について研究した成果を創作に応用する。
- 4) 「音列」について研究する。
- 5) 「音列」について研究した成果を創作に応用する。
- 6) 「様々なパラメータの管理」について研究する。
- 7) 「様々なパラメータの管理」について研究した成果を創作に応用する。
- 8) 「音群作法」について研究する。
- 9) 「音群作法」について研究した成果を創作に応用する。
- 10) 「旋法」について研究する。
- 11) 「旋法」について研究した成果を創作に応用する。
- 12) 「微分音」について研究する。
- 13) 「微分音」について研究した成果を創作に応用する。
- 14) これまでの研究成果を総合して創作に応用する。
- 15) まとめ(可能であれば創作品の試演を行う)

◆準備学習の内容◆

各トピックに関連する作品を事前に聴いたり、スコアを読んだりしておくとい。

◆成績評価の方法◆

毎回の受講態度、試作品の内容による。その他、授業内で随時行うプレゼンテーションやディスカッションの内容で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS612N		
科目名	現代音楽ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	桑原 ゆう		
学年	4年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

書法、奏法、思想等、様々な観点で現代の音楽作品を研究し、自らの創作を通じて新しい音楽の可能性を提示することができる。

◆授業内容・計画◆

現代の、主に芸術音楽をめぐる様々なトピックについて研究し、その成果を自らの視点で発展させ、創作に応用する。
また、いずれのトピックにおいても、「楽譜」をより良く書くこと、もしくは、より良く読むことを意識し、その力を鍛える。

授業の進行については、下記のような流れを基本とするが、受講者の段階、興味の方向性、そのとき創作している内容に応じて、随時変更する。
(受講者の興味がある作曲家や作品についてプレゼンテーションを行なってもらい、それについてディスカッションすることを主たる内容とする。)

- 1) 夏休みに研究した内容、もしくは触れた作品などについて。
- 2) 「複調・多層性」について研究する。
- 3) 「複調・多層性」について研究した成果を創作に応用する。
- 4) 「特殊奏法・ヴィルトゥオジティ」について研究する。
- 5) 「特殊奏法・ヴィルトゥオジティ」について研究した成果を創作に応用する。
- 6) 「特殊楽器・創作楽器」について研究する。
- 7) 「特殊楽器・創作楽器」について研究した成果を創作に応用する。
- 8) 「音色による構造」について研究する。
- 9) 「音色による構造」について研究した成果を創作に応用する。
- 10) 「スペクトル楽派」について研究する。
- 11) 「スペクトル楽派」について研究した成果を創作に応用する。
- 12) 「反復書法」について研究する。
- 13) 「反復書法」について研究した成果を創作に応用する。
- 14) これまでの研究成果を総合して創作に応用する。
- 15) まとめ(可能であれば創作品の試演を行う)

◆準備学習の内容◆

各トピックに関連する作品を事前に聴いたり、スコアを読んだりしておくとい。

◆成績評価の方法◆

毎回の受講態度、試作品の内容による。その他、授業内で随時行うプレゼンテーションやディスカッションの内容で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度配布する。あるいは、Classroomで共有する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS421N		
科目名	声楽・合唱曲創作実習Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	上田 真樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

声は、人が最初に手にする楽器であり、「うた」は音楽の根源です。音楽をする者にとって「うた」を知ることは大切であり、特に作曲をする者にとっては、声を使った作品を書くことや母語のテキストを伴う作品を書くことは必要なことと考えます。日本歌曲作品や合唱作品を分析し、自ら創作することによって、各自の音楽活動に活かすことを目標とします。

◆授業内容・計画◆

まず、「うた」の歴史を概観したのち、ヨーロッパ言語と日本語を比較し、日本語の特性を知った上で、西洋音楽の語法で日本歌曲を書くことについて考えます。何人かの作曲家に焦点を当て、その作品を分析することにより、また、同じ詩による異なる作曲家の作品を分析することによって、詩の解釈と音楽との関わりについての理解を深めます。そして実際に日本語のテキストによる作品を書くことによって、各自が「うた」と向き合います。

各々の作品は実際に音にする機会を設け、「歌い手」の生きた声を聞き、今後の創作活動に活かします。

前期のⅡにおいては、各自が実際に日本語による歌曲作品を書き、書法や作曲上の注意点などを具体的に学びます。

基本的には、創作する側の視点での講義・演習ですが、作曲科学生に限らず歌曲創作に興味のある学生、また合唱指揮者・合唱指導者を志す学生等の参加も歓迎します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 概論(1)人とうた
- 第3回 概論(2)言葉と音楽
- 第4回 概論(3)日本語と音楽
- 第5回 分析および発表(1)明治洋楽受容期
- 第6回 分析および発表(2)唱歌、童謡
- 第7回 分析および発表(3)軍歌、歌謡曲、政治とうた
- 第8回 分析および発表(4)音楽教育と合唱
- 第9回 分析および発表(5)芸術歌曲
- 第10回 分析および発表(6)作曲家の作品と特徴
- 第11回 分析および発表(7)音楽の表記の仕方
- 第12回 分析および発表(8)創作と分析Ⅰ
- 第13回 分析および発表(9)創作と分析Ⅱ
- 第14回 分析および発表(10)創作と分析Ⅲ
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

発表の担当者は、分析や創作、あるいは演奏を行う。
そのための準備、練習を授業時間外で行うことがある。

◆成績評価の方法◆

提出作品、発表の内容、および平常点その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CRS422N		
科目名	声楽・合唱曲創作実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	上田 真樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

「声楽・合唱創作実習Ⅱ」での学習や経験を活かし、各自が実際に分析や創作することを通して、人にとって最も身近な楽器である声について、また「うた」についての理解を深めることを目標とします。

◆授業内容・計画◆

古今東西様々な「声をあつかった作品」をとりあげ、人の声がどのように扱われているか考察します。
後期Ⅱでは、各自が合唱作品を作曲し、書いた作品を実際に音にする機会を設け、作曲者自らも演奏に加わることによって、歌い手の生理的な感覚なども学びます。また、実際に様々な編成に編曲することによって、合唱における女声・男声・混声など異なる編成による音楽の幅や響きの違いや、書法上の注意点などを学びます。

基本的には、創作する側の視点での講義・演習ですが、作曲科学生に限らず歌曲創作に興味のある学生、また合唱指揮者・合唱指導者を志す学生等の参加も歓迎します。

- 第1回 概論
- 第2回 創作および分析(1)作品発表
- 第3回 創作および分析(2)作品についての考察
- 第4回 創作および分析(3)書法について
- 第5回 創作および分析(4)合唱作品における日本語について
- 第6回 創作および分析(5)作品についての意見交換
- 第7回 分析および編曲、創作(1)様々な合唱作品について
- 第8回 分析および編曲、創作(2)混声四部合唱
- 第9回 分析および編曲、創作(3)女声三部合唱
- 第10回 分析および編曲、創作(4)男声四部合唱
- 第11回 分析および編曲、創作(5)児童合唱、混声三部合唱
- 第12回 分析および編曲、創作(6)無伴奏合唱の編曲
- 第13回 分析および編曲、創作(7)ポップス作品の合唱編曲
- 第14回 分析および編曲、創作(8)創作と発表
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

発表の担当者は、分析や創作、あるいは演奏を行う。
そのための準備、練習を授業時間外で行うことがある。

◆成績評価の方法◆

提出作品、発表の内容、および平常点その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS613N		
科目名	創作実習 I		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-309	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

分析と実習を通じて、古典的な作曲技法を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

授業計画はおおむね次の通りです。

第1回: ガイダンス
第2回: 小楽節・大楽節
第3回: 二部形式 メヌエット 主部
第4回: 二部形式 メヌエット トリオ
第5回: 三部形式の緩徐楽章楽曲 その1「主部」
第6回: 三部形式の緩徐楽章楽曲 その2「中間部」
第7回: 三部形式の緩徐楽章楽曲 その3 まとめ
第8回: 展開部の無いソナタ形式 その1 第1主題の領域
第9回: 展開部の無いソナタ形式 その2 第2主題の領域
第10回: 展開部の無いソナタ形式 その3 再現部
第11回: 古典派の変奏曲 その1「装飾的変奏の技法」
第12回: 古典派の変奏曲 その2「性格の変奏の技法」
第13回: 古典派の変奏曲 その3「調とテンポの変奏の技法」
第14回: 古典派の変奏曲 その4 まとめ
第15回: 今期のまとめ

◆準備学習の内容◆

可能な限り、作品を事前に作曲して持参すること。

◆成績評価の方法◆

平常点および提出物(セメスターごとに1曲)による。
授業中、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS613N		
科目名	創作実習 I		
科目詳細			
担当教員	近藤 岳		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- 1)様々な時代の、様式の違いを理解する。
- 2)様々な作曲家のスタイルで曲を書き、発表する。
- 3)分析能力を養う。

◆授業内容・計画◆

- ・古典派を中心に学ぶ。
- ・多くの作品を聴き、分析する。
- ・時代様式の理解と、それぞれの作曲家の特徴を理解する。
- ・特定の作曲家と同じスタイルによって創作を行う。

- 1)ガイダンス/授業の説明など
- 2)変奏曲を作る その1 主題の作成
- 3)変奏曲を作る その2 装飾変奏について
- 4)変奏曲を作る その3 バロック時代における変奏について
- 5)変奏曲を作る その4 性格変奏について
- 6)変奏曲を作る その5
- 7)作品試演と作品分析 ① ピアノ・ソロ作品
- 8)複合三部形式を作る その1 リート形式について
- 9)複合三部形式を作る その2 メヌエット形式について
- 10)複合三部形式を作る その3 第1楽節
- 11)複合三部形式を作る その4 第2楽節
- 12)複合三部形式を作る その5 第2楽節(転調)
- 13)複合三部形式を作る その6 トリオ
- 14)作品試演と作品分析 ② 二重奏作品
- 15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

各自、与えられた曲の分析は積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

提出作品により評価する。
授業で作曲した作品について、随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

新総合音楽講座4 楽式 ヤマハミュージックメディア

◆参考図書◆

授業内に指示する。

◆留意事項◆

指定された楽譜は各自必ず用意しておくこと。必ず1曲以上の作品を提出すること。創作する曲の楽器編成は、適宜相談の上決める。

ナンバリング	CCS614N		
科目名	創作実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	市川 景之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-309	開講学期	後期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

I で学んだ基礎形式に基づき、ロンド形式とソナタ形式の創作を試みる。

◆授業内容・計画◆

創作実習Ⅰに引き続き、古典の基礎形式の応用を習得する。
概ね次の様に展開する予定。

- 1:小ロンド形式① 主題群の作成
- 2:小ロンド形式② 主題群を繋ぐ技法
- 3:小ロンド形式③ まとめと仕上げ
- 4:大ロンド形式① 主題群の作成
- 5:大ロンド形式② 主題群を繋ぐ技法
- 6:大ロンド形式③ まとめと仕上げ
- 7:ソナタ形式① 主題群の作成
- 8:ソナタ形式② 提示部 第1主題の領域を中心に
- 9:ソナタ形式③ 提示部 第2主題の領域を中心に
- 10:ソナタ形式④ 展開部 導入
- 11:ソナタ形式⑤ 展開部 中心部と再現の準備
- 12:ソナタ形式⑥ 再現部 第1主題の領域を中心に
- 13:ソナタ形式⑦再現部 第2主題の領域を中心に
- 14:ソナタ形式⑧再現部 終末展開部
- 15:全体のまとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、創作を進めて授業に参加すること。

◆成績評価の方法◆

提出作品の成績と平常点による総合評価
授業中それぞれの見解や作品についてフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリント配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS614N		
科目名	創作実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	近藤 岳		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

- 1)様々な時代の、様式の違いを理解する。
- 2)様々な作曲家のスタイルで曲を書き、発表する。
- 3)分析能力を養う。

◆授業内容・計画◆

- ・ソナタ形式で曲を作る。
- ・古典派、ロマン派を中心に学ぶ。
- ・多くの作品を聴き、分析する。
- ・時代様式の理解と、それぞれの作曲家の特徴を理解する。
- ・特定の作曲家と同じスタイルによって創作を行う。

- 1) 動機の作成
- 2) 動機の作成と考察
- 3) 第1主題の作成
- 4) 第1主題の確保と推移、転調
- 5) 転調と第2主題の作成
- 6) 提示部結尾の作成
- 7) 提示部結尾の作成と展開部の研究
- 8) 作品分析
- 9) 展開部の作成 その1 展開する素材の考察
- 10) 展開部の作成 その2 転調の推移
- 11) 展開部の作成 その3 保続音
- 12) 再現部の作成 その1 第1主題から第2主題へ
- 13) 再現部の作成 その2 終尾
- 14) 作品試演
- 15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

提出作品の創作に参考となる楽曲は、各自、曲を聴き分析をすること。また曲の創作は毎日一定時間行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

提出作品によって評価する。その他、平常の授業への取り組みにより評価する。
授業中、作品について随時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

新総合音楽講座4 楽式 ヤマハミュージックメディア

◆参考図書◆

授業内に指示する。

◆留意事項◆

指定された楽譜は各自必ず用意しておくこと。必ず1曲以上の作品を提出すること。創作する曲の楽器編成は、適宜相談の上決める。

ナンバリング	CCS615N		
科目名	創作実習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●ロマン派の音楽様式による二重奏から四重奏くらいまでの編成で、作品を創作できるようにする。(ソナタ形式による) ●様々な作曲家の音楽語法、その特長を分析・把握し、様式感を踏まえた上で創作できるようにする。●和声や音楽形式の変遷を俯瞰し、主にロマン派の作曲家達がどのように自らの音楽語法を探究したのか、その様式を創作実践を通して研究できるようにする。●創作実習Ⅱで書いた作品より、規模の大きなものに取り組めるようにする。

◆授業内容・計画◆

授業は、取り組んでいる作品に対するレッスンや、各自がロマン派の作曲家の作品を持ち寄り、分析(アナリーゼ)をする。それぞれの作曲家がどのような創意工夫をし、それらが個々の作曲家の独自性へどのように結びついているか考察することにより、自らが作曲する際に役立ててほしい。また試演をして音を確認する機会を設けたい。

1. ガイダンス
2. 主題動機の創作①「第1主題の創作」
3. 主題動機の創作②「第2主題の創作」
4. 作曲家・作品アナリーゼ(1)
5. 提示部について①「2つの主題と調の関係性、確保、経過句について」
6. 提示部について②「様々な転調～第1主題から第2主題への進め方」
7. 提示部から展開部へ「コデッタ(小結尾)」
8. 作曲家・作品アナリーゼ(2)
9. 展開部について①「第1主題と第2主題の特徴を考える」
10. 展開部について②「主題動機の展開～遠隔調への転調」
11. 展開部について③「主題動機の展開～クライマックスの形成」
12. 再現部について①「再現部について～第1主題から第2主題における推移」
13. 再現部について②「第2主題の再現からコーダ(結尾)へ」
14. 試演
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中の楽曲分析、各自の創作内容について、その準備を積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業での取り組み、および提出作品による。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

楽譜、資料、参考文献等はその都度指示し、併せて資料プリント配布も行う。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS615N		
科目名	創作実習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	2-25	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●ロマン派の音楽様式による二重奏から四重奏くらいまでの編成で、作品を創作できるようにする。(ソナタ形式による) ●様々な作曲家の音楽語法、その特長を分析・把握し、様式感を踏まえた上で創作できるようにする。●和声や音楽形式の変遷を俯瞰し、主にロマン派の作曲家達がどのように自らの音楽語法を探究したのか、その様式を創作実践を通して研究できるようにする。●創作実習Ⅱで書いた作品より、規模の大きなものに取り組めるようにする。

◆授業内容・計画◆

授業は、取り組んでいる作品に対するレッスンや、各自がロマン派の作曲家の作品を持ち寄り、分析(アナリーゼ)をする。それぞれの作曲家がどのような創意工夫をし、それらが個々の作曲家の独自性へどのように結びついているか考察することにより、自らが作曲する際に役立ててほしい。また試演をして音を確認する機会を設けたい。

1. ガイダンス
2. 主題動機の創作①「第1主題の創作」
3. 主題動機の創作②「第2主題の創作」
4. 作曲家・作品アナリーゼ(1)
5. 提示部について①「2つの主題と調の関係性、確保、経過句について」
6. 提示部について②「様々な転調～第1主題から第2主題への進め方」
7. 提示部から展開部へ「コデッタ(小結尾)」
8. 作曲家・作品アナリーゼ(2)
9. 展開部について①「第1主題と第2主題の特徴を考える」
10. 展開部について②「主題動機の展開～遠隔調への転調」
11. 展開部について③「主題動機の展開～クライマックスの形成」
12. 再現部について①「再現部について～第1主題から第2主題における推移」
13. 再現部について②「第2主題の再現からコーダ(結尾)へ」
14. 試演
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中の楽曲分析、各自の創作内容について、その準備を積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業での取り組み、および提出作品による。
その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

楽譜、資料、参考文献等はその都度指示し、併せて資料プリント配布も行う。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS616N		
科目名	創作実習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	渡辺 俊哉		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●フランス近代の音楽を研究し、成果を得られるようにする。 ●様々な作曲家の固有な音楽語法や各時代の様式を把握し、自らの創作に活かせるようにする。●新ウィーン楽派の作曲家を研究し、その様式で作品を創作できるようにする。

◆授業内容・計画◆

授業は、前半と後半に分けられる。前半はフランス近代の音楽の研究と実践を行う。フランス近代の音楽のスタイルで小品の創作と、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェルの作品分析が中心となる。後半は新ウィーン楽派の作曲家を研究し、その様式で作曲することを試みる。また創作した作品の試演は、2回予定している。

1. ガイダンス
2. フランス近代音楽の研究と実践 ① フォーレの様式の研究
3. フランス近代音楽の研究と実践 ② ドビュッシーの様式の研究
4. フランス近代音楽の研究と実践 ③ ラヴェルの様式の研究
5. 作品分析の発表 ①
6. 小品の創作 ①「主題の作成」
7. 小品の創作 ②「主題の和声付け」
8. 作品試演 ①
9. A.シェーンベルク の研究
10. A.ベルクの研究
11. A.ヴェーベルンの研究
12. 作品分析の発表 ②
13. 無調あるいは12音技法による創作 ①
14. 無調あるいは12音技法による創作 ②
15. 作品試演 ②、まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中の楽曲分析、各自の創作内容について、その準備を積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、試演、レポート等。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

楽譜、資料、参考文献等はその都度指示し、併せて資料プリント配布も行う。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS616N		
科目名	創作実習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	林 達也		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	2-25	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

●古典派、ロマン派、近現代の音楽様式によるピアノ作品、または二重奏作品を創作する(ソナタ形式、または任意の形式による)。●様々な作曲家の音楽語法、その特長を分析・把握し、様式感を踏まえた上で創作する。●和声や音楽形式の変遷を俯瞰し、各時代の作曲家達がどのように自らの音楽語法を探究したのか、その様式を創作実践を通して研究する。

◆授業内容・計画◆

授業は、毎回指定する作曲家の作品分析(アナリーゼ)を軸に、各自の創作作品について推敲するための時間を入れ込みながら進めていく。履修者全員でその都度活発なディスカッション、音出しを織り交ぜながら、「なぜ? どうして? どうする?」を共有し、各自の音楽探究に役立てる。

1. ガイダンス
2. 主題動機の創作①「2つの主題…その性格と魅力」
3. 主題動機の創作②「第1主題、第2主題(副主題)の関係性」
4. 作曲家・作品アナリーゼ(1)
5. 提示部について①「2つの主題と調の関係性、確保、経過句について」
6. 提示部について②「主題の性格をどう印象付けるか?」
7. 提示部から展開部へ「小結尾(コデッタ)」
8. 作曲家・作品アナリーゼ(2)
9. 展開部について①「どう展開するのか? 2つの主題性格から導かれる様々な可能性」
10. 展開部について②「主題動機の展開、和声と転調が生み出すもの」
11. 展開部について③「主題動機の展開、クライマックスの形成」
12. 再現部について①「再現部、または変化を伴う再現部について」
13. 再現部について②「第2主題の再現について、コーダ(結尾)へ向けて」
14. 再現部について③「コーダについて」 および試演
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

授業中の楽曲分析、各自の創作内容について、その準備を積極的に行うこと。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みと、試演、レポート等。その他、授業内で随時行う小テストや提出物で評価し、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度指示する。

◆参考図書◆

楽譜、資料、参考文献等はその都度指示し、併せて資料プリント配布も行う。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS621N		
科目名	実用音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

劇場映画における「音楽」の役割を考察し、ポストプロダクションにおける映画音楽製作のプロセスと理論を学び理解する。

◆授業内容・計画◆

映画音楽制作過程で重要な「スポットティング(映像のどこから、どこまで、どのような音楽をどのように付けるかを決める作業)」に焦点をあて、基本的な技法、プリスコア・セッションを考察します。

1. 映画音楽の種類
2. ソースミュージックの分析
3. 映画音楽制作
4. サウンドトラック
5. ミュージックキューと転調
6. 映画音楽の理論的配置
7. 劇場用アメリカ映画 タイミングシート作り
8. 劇場用アメリカ映画の分析(1)「音楽の目的」に焦点をおいて考察
9. 劇場用アメリカ映画の分析(2)「音楽の開始、終止」に焦点をおいて考察
10. 作品分析課題の実施
11. スポットティング
12. 選曲による音楽づけ
13. 選曲作品の分析
14. 選曲作品の分析発表
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎週、課題として課される課題を実習し、次回、授業に持参する。

◆成績評価の方法◆

映画音楽分析課題提出、及び授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「映画音楽の技法」音楽之友社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

分析課題が多く、非常に負担が大きい授業です。
単位取得には、ただ授業を聴講するだけでなく、分析課題の提出が必要です。

ナンバリング	CCS622N		
科目名	実用音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

サウンドトラックの模擬制作を通じて映画音楽作曲技術を周辺から学び理解する。

◆授業内容・計画◆

1. スポットティング
2. 設定の音楽
3. 登場人物の心理
4. ライトモチーフと心理曲の違い
5. ショートキューの作曲
6. シーンをくるむ音楽
7. 動的に心理を描く
8. セリフ裏の音楽 UnderDialogue
9. 観客に感動を与える
10. Music Effect
11. 雰囲気を作る音楽
12. 人柄を描く
13. 連続的変化する心理
14. 迫力と恐怖
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

課題を必ず完成、提出すること。

◆成績評価の方法◆

作品研究課題提出、及び平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「映画音楽の技法」音楽之友社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回、作曲課題があり、非常に負担の多い授業です。

ナンバリング	CCS623N		
科目名	実用音楽研究Ⅲ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	大久保 悟		
学年	1年,4年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	金 2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

①ゲーム業界とそこでの仕事はどんなものか知る。②ゲームの歴史と表現の変化について学ぶ。③実際にゲームにおけるインタラクティブな音表現を実装して学習。④それらを経て学生自身が何を学習して、どこに進めば良いのか？を考える。

◆授業内容・計画◆

1. ゲーム業界を取り巻く状況と就活について
2. ゲーム業界の組織構造とサウンド職種について
3. ゲーム機とゲームサウンドの歴史
4. サウンドデザイン(動画にMAを行う)パート1
5. サウンドデザイン(動画にMAを行う)パート2
6. ゲームエンジンの紹介、ゲームサウンドのデータ構造
7. Wwise/インタラクティブとは何ぞや
8. Wwise/効果音実装事例
9. Wwise/インタラクティブミュージック
10. Wwise/インタラクティブミキシング
11. Unreal Engine5/実習:3D空間への音源配置
12. Unreal Engine5/ゲームに音を入れていってみる1
13. Unreal Engine5/ゲームに音を入れていってみる2
14. その他/デバッグと調整
15. 予備日

前半はゲームというメディアの特性や歴史を座学で学び、後半では実技を含めて実装の実践的なテクニックを学びます。テーマは「インタラクティブ」。音楽に限らず効果音や音声編集など総合的に学習します。最終的にはゲームエンジン(Unreal Engine5)に音を実装するか、もしくはオーディオミドルウェア(Wwise)でのインタラクティブサウンドの実装を行います。昨年との違いですが、第4回と5回にMA(サウンドデザイン)の講座を設けている点になります。

◆準備学習の内容◆

AudioKinetic社のWwiseのインストールと、EpicGames社のUnreal Engineのインストール。
あとは何かゲームを遊んで自分なりにゲームサウンドはどんなものか考えておいて頂けると有難いです。

◆成績評価の方法◆

WWISEもしくはUnreal Engineに実装を行いキャプチャー動画と説明資料のセットで作品を提出してもらおうと考えています。

評価ポイント

1. 自分なりのやりたい表現を見出しているか？授業の内容をなぞっただけのものでない事。
2. 表現にインタラクティブ性を持っているか？
3. 手が込んだ実装になっているか？
4. 独創性があるか？

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし(講師がパワーポイントや資料を用意します)

◆参考図書◆

都度AudioKineticやEpicGamesの公式ドキュメントを参照するかもしれません。

◆留意事項◆

機材の状況や学生のレベルを見て柔軟に内容を変化させたいと思います。

ナンバリング	CCS624N		
科目名	実用音楽研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	6-010	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージカルの音楽制作を通じて、作曲技法を学ぶ

◆授業内容・計画◆

- 1.「オリエンテーション」
- 2.「既成のミュージカル作品の分析」前半
- 3.「既成のミュージカル作品の分析」後半
- 4.「登場人物の心理考察」
- 5.「ミュージカル音楽制作の基礎」前半
- 6.「ミュージカル音楽制作の基礎」後半
- 7.「ミュージカル音楽制作実習」前半
- 8.「ミュージカル音楽制作実習」後半
- 9.「ミュージカルのオーケストレーション」前半
- 10.「ミュージカルのオーケストレーション」後半
- 11.「キメの作り方」
- 12.「録音実習」前半
- 13.「録音実習」後半
- 14.「制作したミュージカル曲の発表」
- 15.「授業内試験」とまとめ

◆準備学習の内容◆

課題を必ず完成、提出すること。

◆成績評価の方法◆

作品研究課題提出、及び平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS634N		
科目名	ミュージカル・シアター・ライティング		
科目詳細			
担当教員	富貴 晴美		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	N-227	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージカルの音楽制作を通じて、作曲技法を学ぶ

◆授業内容・計画◆

- 1.「オリエンテーション」
- 2.「既成のミュージカル作品の分析」前半
- 3.「既成のミュージカル作品の分析」後半
- 4.「登場人物の心理考察」
- 5.「ミュージカル音楽制作の基礎」前半
- 6.「ミュージカル音楽制作の基礎」後半
- 7.「ミュージカル音楽制作実習」前半
- 8.「ミュージカル音楽制作実習」後半
- 9.「ミュージカルのオーケストレーション」前半
- 10.「ミュージカルのオーケストレーション」後半
- 11.「キメの作り方」
- 12.「録音実習」前半
- 13.「録音実習」後半
- 14.「制作したミュージカル曲の発表」
- 15.「授業内試験」とまとめ

◆準備学習の内容◆

課題を必ず完成、提出すること。

◆成績評価の方法◆

作品研究課題提出、及び平常の授業への取り組み、その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS629N		
科目名	DAW演習A		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

Digital Audio recordingを通して、音の物理的現象を科学的に理解できるようになる。

◆授業内容・計画◆

1. 振幅と周波数
2. MIDI信号とオーディオ信号
3. Pro Tools基本操作 MIDIレコーディング
4. レコーディング設備
5. マイクの種類
6. ステレオとモノラル
7. 波形の編集
8. EQ
9. ディレイとリバーブ
10. コンプレッサー・リミッター
11. ドラムレコーディング
12. テンポ同期とコンダクタートラック
13. プロダクション実習
14. ミックスダウンとマスタリング
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

コンピュータを使用して実習を伴った課題を実施する。必ず前回までの内容を復習する。

◆成績評価の方法◆

実習への取り組み方と授業に取り組む姿勢

なお、実習における提出課題はコメントを付けたり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

◆留意事項◆

この授業では、Pro Toolsを使用して実習するためのコンピュータ(Mac推奨)が必要です。

ナンバリング	CCS630N		
科目名	DAW演習B		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ミュージック・シンセシスを通して、音の物理的現象を科学的に理解できる事を目標にする。

◆授業内容・計画◆

1. シンセシスの歴史
2. パワーとラウドネス
3. シンセシス
4. オシレーターと波形
5. エンヴェロープジェネレータ
6. FFT
7. キックを作る
8. ノイズ
9. フィルター
10. スネアを作る
11. マスキング
12. モジュレーション/LFO
13. 位相とフェーザー
14. リングモジュレーター
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

コンピュータを使用した実習を伴った課題を必ず実施する。必ず前回までの内容を復習する。

◆成績評価の方法◆

実習実施と、授業に取り組む姿勢を総合的に評価。
なお、実習における提出課題はコメントを付けたり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布されるハンドアウト

◆参考図書◆

◆留意事項◆

授業にコンピュータを持参して、実習することが望ましい。

ナンバリング	MML401N		
科目名	音楽情報を発信するⅢ		
科目詳細	音楽情報・社会コースのみⅦセメで履修。		
担当教員	前島 美保		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

フリーペーパーの作成に向けて、(1)アイデアを出し、議論を通して練り上げることができる。(2)企画案に沿って取材や調査を適切に行うことができる。(3)想定される読者層に応じて適切に原稿を書くことができる。(4)校正・レイアウトなどの編集作業を適切に行うことができる。

◆授業内容・計画◆

フリーペーパーの企画から内容決定、取材、原稿執筆、編集などを自分たちで行い、版下を作成します(印刷と製本は業者に依頼します)。授業ではディスカッションや原稿の読み合わせ、構成など全員での作業を中心に行います。授業はほぼ次のような内容で進められます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 雑誌の性格決め、企画案作り
- 第3回 企画決定、役割分担
- 第4回 テーマに沿った取材
- 第5回 コンセプトに即した調査
- 第6回 キーワードを決める
- 第7回 原稿作成
- 第8回 原稿読み合せ
- 第9回 修正原稿作成、確認
- 第10回 表紙イラスト、写真など準備、レイアウト決め
- 第11回 編集プランニング
- 第12回 編集の現場作業
- 第13回 校正および校閲
- 第14回 版下完成
- 第15回 総括

◆準備学習の内容◆

企画、取材、執筆、編集の各段階に応じてそれぞれ自宅での作業が必要になります。全体の進行スケジュールを妨げないよう、毎回の準備作業を進めておいてください。

◆成績評価の方法◆

フリーペーパーの内容(グループ評価)を基準とし、個々の文章の内容(個別評価)、作業への参加状況を加味して評価します。そして冊子化された成果に基づいてフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

すべての雑誌やフリーペーパーなどが参考になります。積極的に目を通しておいてください。

◆留意事項◆

共同作業ですので、協調性と責任感をもって授業に参加してください。
パソコンの文書作成ソフト、画像編集ソフトなどの操作にある程度慣れておいてください。
編集には根気が必要です。最後まで責任を持って仕上げるよう努めてください。

ナンバリング	MML402N		
科目名	音楽情報を発信するⅣ		
科目詳細	音楽情報・社会コースのみⅧセメで履修。		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽の情報発信の現状を理解し、動画や音、文章などによって発信する手段について学び、自らウェブサイトを構築することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

計算機の発展に伴って近年活発に進んだ情報化社会において、音楽の様々な情報がコンピュータとインターネットで扱われるようになった。商用サーバを用いたウェブページの作成方法を実践的に学ぶ。

- 1.ガイダンス 現代の情報発信
- 2.Webページの検索と作成イメージの作成
- 3.Wordpressのアカウント作成とログイン
- 4.Wordpressの基本設定
- 5.Webサイトのデザインの設定
- 6.コンテンツ制作(1)投稿と固定ページ
- 7.コンテンツ制作(2)アクセスページ
- 8.レイアウト
- 9.プラグイン
- 10.CSSとWebページ制作の計画
- 11.Webページ制作の実施
- 12.プレゼンテーション1 発表
- 13.プレゼンテーション2 討論
- 14.最終提出物の作成と評価
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

普段からインターネットのウェブページなどを見て、どのような構成のウェブページが効果的に発信できるのかについて普段から考える習慣を身につけておくこと(目安 毎回30分)。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み状況、実装したシステムの状況、プレゼンテーションの状況および討論に基づいて、総合的に評価する。ウェブページの制作内容については適宜フィードバックを行なう。

◆教科書(使用テキスト)◆

佐々木恵著、リブワークス編、「1日で基本が身につく! WordPress 超入門 改訂2版」、技術評論社(2022)ISBN:978-4-297-12695-7 C3055 1800+Tax

◆参考図書◆

講義内で適宜指示する。

◆留意事項◆

パソコンの利用が必要となるので、普段から利用を心掛けてほしい。また共同作業となるので、協力して前向きに取り組んでほしい。2020～2024年度の授業で作成したコンテンツは、以下においてあるので、受講前によくみておくこと。

<https://www.kunitachi-mmj.jp/main/>

ナンバリング	MML011N		
科目名	音楽情報を集める I		
科目詳細			
担当教員	宮澤 淳一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	6-306～307	開講学期	前期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的		

◆授業目標◆

音楽に関わる情報を批判的に集める能力を養い、みずからテーマを立てて、結果の公表に足りるリサーチができるようになる。

◆授業内容・計画◆

実践を重視する。概括的なテーマとヒントを与え、音楽情報を集める行為(リサーチ)を進める中で、各自(個々人あるいは個々のグループ)が具体的なテーマを絞り込んでレポート作成できるように訓練する。さまざまなメディアを扱うコツを教えつつ、こまめなフィードバックを繰り返しながら指導を進める。十分な成果の見込める場合は、図書館での展示等の公表も考える。

第1回: ガイダンス

第2回: 図書館での発展的な実習とリサーチへの着手(まずは1冊の本を選ぶ)

第3回: リサーチのほどき(その1) 1冊目の本について報告する(テーゼは何かを述べる)

第4回: " (その2) 2冊目の本について報告する(テーゼは何かを述べる)

第5回: " (その3) あなた自身のテーマ選びの相談をする

第6回: " (その4) 本格的なリサーチの予備報告(図書館での実地研修を兼ねる)

第7回: 「みくみくワークショップ」(その1) 配付資料に基づき、サイテーションについての講義と実習

第8回: " (その2) サイテーションに関する講義と実習(続き)

第9回: 本格的なリサーチ(その1) 途中経過の報告と検討(図書館での実地研修を兼ねる)

第10回: " (その2) 途中経過の正式発表

第11回: " (その3) 仮にまとめた文章の検討(調査の妥当性も検討)

第12回: " (その4) 再度まとめた文章の検討

第13回: " (その5) 再度まとめた文章の検討

第14回: " (その6) 各自の発表と討議(レポートの提出へ)

第15回: まとめと補遺(最終レポートの講評を含める)

◆準備学習の内容◆

オンラインのスプレッドシート(Google)への書き込みを経過報告に活用し、準備学習および事後学習に含めます。フレックスタイムの学習環境ですので、大いに活用してください。この際、パソコンやタブレット等の大学の勉強のための使い方に大いに慣れてください。

◆成績評価の方法◆

各段階での発表の到達度と最終的なレポートの出来に応じて評価します(スプレッドシート上でのコメントを中心に、逐次のフィードバックを進め、レポートへの講評も行ないます)。「指示待ち」ではない積極的な学生には加点をします。

◆教科書(使用テキスト)◆

ウインジェル『改訂新版 音楽の文章術——論文・レポートの執筆から文献表記法まで』宮澤淳一、小倉真理訳(春秋社、2014年)。
宮澤淳一「研究発表の手続きと音楽著作権」、久保田慶一他『音大生のための音楽著作権入門』(国立音楽大学、2020年)所収(抜き刷り)。

◆参考図書◆

久保田慶一『改訂版 音楽の文章セミナー——プログラム・ノートから論文まで』(音楽之友社、2016年)。その他、適宜指示をします。

◆留意事項◆

実習等でやむをえず欠席をする人は必ず事前に届け出てください。ハンドアウトはオンラインで配付する場合がありますので、インターネットが不自由なく使えて、またプリントのできる環境を整えることが望ましいです(難しい場合は対応するので教えてください)。

ナンバリング	MML012N		
科目名	音楽情報を集めるⅡ		
科目詳細			
担当教員	早稲田 みな子		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽研究における情報収集の方法を学ぶ。西洋芸術音楽、ポピュラー音楽、日本音楽、音楽民族学、音楽社会学等、音楽研究の様々な分野に関連するテーマに即して適切な情報収集を行ない、研究に役立つように情報を整理し効果的に利用できるようにする。

◆授業内容・計画◆

各自研究テーマを定め、テーマにそった情報収集を様々な手法で実践し、その結果を文献表の形で整理する。それらの情報にもとづき、研究発表とレポート作成を行う。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 事典・辞典類を調べる
- 第3回 単行本を調べる
- 第4回 図書館ガイダンス1:資料検索の方法を学ぶ
- 第5回 論文・記事を調べる
- 第6回 英語の資料を調べる
- 第7回 文献表の作成
- 第8回 研究テーマにもとづく情報整理とディスカッション(前半)
- 第9回 研究テーマにもとづく情報整理とディスカッション(後半)
- 第10回 図書館ガイダンス2:貴重資料を閲覧する
- 第11回 フィールドワークの手法
- 第12回 研究発表1:Aグループ
- 第13回 研究発表2:Bグループ
- 第14回 研究発表3:Cグループ
- 第15回 まとめ

図書館ガイダンスの日程は未定です。決定次第、授業内でお知らせします。
授業の内容や順番は、進捗状況により変更されることもあります。

◆準備学習の内容◆

随時出される課題に取り組み提出する。フィードバックにもとづき必要に応じて再提出する。
確実に課題を積み上げていくことで、最後の発表が充実したものになるはず。準備学習に必要な時間は、週1.5時間程度。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み(40%)
課題、発表、発表にもとづくレポート(60%)
課題はClassroomを通じて、発表は授業内で、レポートは個別にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に定めない。

◆参考図書◆

『改訂版 音楽の文章セミナー——プログラム・ノートから論文まで』久保田慶一(音楽之友社、2016年)
『音楽の文章術——論文・レポートの執筆から文献表記法まで』ウィンジェル、リチャード 著、宮澤淳一、小倉真理 訳(春秋社、2014年)
『「文化系」学生のレポート・卒論術』渡辺潤、宮入恭平(青弓社、2013年)

◆留意事項◆

各自の研究テーマにそって情報収集を実践してもらう授業です。興味のある事柄に関連する具体的な研究テーマを早めに考えておきましょう。
通常の授業はPC教室で行いますが、自分のパソコンを使用したい場合は持参してください。授業内容に応じて、授業時間中に図書館に移動することもあります。
質問・相談は、メールやClassroomで随時受け付けます。

ナンバリング	MML411N		
科目名	音楽情報の編集・加工 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽情報を適切に収集し、それを受け手や媒体にふさわしい形で文章化することができる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を発信する言語技術を徹底的に磨きます。良い模範をたくさん見てから自ら実践しましょう。宿題にする作文練習が4回あります。なお、ほぼ毎回の授業で校閲練習があります。

- 第1回 編集とは何か
- 第2回 タイトル研究: わかりやすくキャッチーな題とは
- 第3回 目次研究: 一目見て内容がわかる目次とは
- 第4回 作文練習①: 推しのグルメ
- 第5回 書き出しのコツ
- 第6回 良い文章・悪い文章(説明文)
- 第7回 良い文章・悪い文章(雑誌記事)
- 第8回 作文練習②: 依頼の手紙
- 第9回 校正の仕事
- 第10回 チラシ・ポスターのコツ
- 第11回 作文練習③: 四コマ漫画を説明する
- 第12回 本の装丁のこと
- 第13回 作文練習④: オペラのあらすじ
- 第14回 第13回の成果を議論する
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業のネタ集めをしたり、宿題の作文をしたりします。その取り組みには3時間程度を要します。

◆成績評価の方法◆

授業内の発表や課題の成果を評価対象とします。課題については適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

松岡正剛『知の編集工学』朝日新聞社、2001年
 牟田都子『文にあたる』亜紀書房、2022年
 ほかは適宜、授業で紹介します。

◆留意事項◆

積極的に授業に臨むことを期待します。

ナンバリング	MML429N		
科目名	音楽情報の編集・加工A		
科目詳細			
担当教員	瀬尾 文子		
学年	3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽情報を適切に収集し、それを受け手や媒体にふさわしい形で文章化することができる。

◆授業内容・計画◆

音楽情報を発信する言語技術を徹底的に磨きます。良い模範をたくさん見てから自ら実践しましょう。宿題にする作文練習が4回あります。なお、ほぼ毎回の授業で校閲練習があります。

- 第1回 編集とは何か
- 第2回 タイトル研究: わかりやすくキャッチーな題とは
- 第3回 目次研究: 一目見て内容がわかる目次とは
- 第4回 作文練習①: 推しのグルメ
- 第5回 書き出しのコツ
- 第6回 良い文章・悪い文章(説明文)
- 第7回 良い文章・悪い文章(雑誌記事)
- 第8回 作文練習②: 依頼の手紙
- 第9回 校正の仕事
- 第10回 チラシ・ポスターのコツ
- 第11回 作文練習③: 四コマ漫画を説明する
- 第12回 本の装丁のこと
- 第13回 作文練習④: オペラのあらすじ
- 第14回 第13回の成果を議論する
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業のネタ集めをしたり、宿題の作文をしたりします。その取り組みには3時間程度を要します。

◆成績評価の方法◆

授業内の発表や課題の成果を評価対象とします。課題については適宜フィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

松岡正剛『知の編集工学』朝日新聞社、2001年
 牟田都子『文にあたる』亜紀書房、2022年
 ほかは適宜、授業で紹介します。

◆留意事項◆

積極的に授業に臨むことを期待します。

ナンバリング	MML412N		
科目名	音楽情報の編集・加工Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽情報を編集加工する技術を体得するために、近年急速に利用が進んでいる生成AIを使って音楽情報を編集し加工する技術を身につける。特に、画像／映像／文章／音・音楽の生成AIを経験し、自らが対象とする音楽に対する解説動画を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス SNSおよびオンラインシステムの利用
2. Canvaの導入
3. Canvaの基本操作-テンプレートの利用
4. Canvaの基本操作-画像の挿入
5. Canvaを使った動画作成の基礎
6. Canvaを使った動画作成の応用
7. 自主制作課題 1
8. 動画作成ソフト Vrewの導入
9. Vrewによる音声入力
10. Vrewによる自動生成
11. 制作1 構築
12. 制作2 品質チェックと改修
13. SNSでの公開
14. 最終発表とフィードバック
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業は前半は教科書に沿って進め、後半は参考とするウェブサイトなどを使って進める。教科書の内容をよく読み、予習をしてから授業に取り組む必要がある(目安 授業前に1.5時間)。また毎回の授業の後に内容を自らのネット環境やパソコン使用環境にて復習し体得する必要がある(目安1.5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業の実施状況、最終発表会の内容、討論の内容、および授業への取り組みを総合的に評価する。制作物に対する評価は適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

一般社団法人日本パソコンインストラクター養成協会(著)、「Canvaの使い方: 画像と動画編集 (JPITA) Kindle版, またはペーパーバック」(Kindle版はKindle unlimitedなら無料, ペーパーバックなら¥1980)

◆参考図書◆

講義内で適宜指示する。

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroom上で提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	MML430N		
科目名	音楽情報の編集・加工B		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽情報を編集加工する技術を体得するために、近年急速に利用が進んでいる生成AIを使って音楽情報を編集し加工する技術を身につける。特に、画像／映像／文章／音・音楽の生成AIを経験し、自らが対象とする音楽に対する解説動画を作成する。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス SNSおよびオンラインシステムの利用
2. Canvaの導入
3. Canvaの基本操作-テンプレートの利用
4. Canvaの基本操作-画像の挿入
5. Canvaを使った動画作成の基礎
6. Canvaを使った動画作成の応用
7. 自主制作課題 1
8. 動画作成ソフト Vrewの導入
9. Vrewによる音声入力
10. Vrewによる自動生成
11. 制作1 構築
12. 制作2 品質チェックと改修
13. SNSでの公開
14. 最終発表とフィードバック
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

授業は前半は教科書に沿って進め、後半は参考とするウェブサイトなどを使って進める。教科書の内容をよく読み、予習をしてから授業に取り組む必要がある(目安 授業前に1. 5時間)。また毎回の授業の後に内容を自らのネット環境やパソコン使用環境にて復習し体得する必要がある(目安1. 5時間)。

◆成績評価の方法◆

授業の実施状況、最終発表会の内容、討論の内容、および授業への取り組みを総合的に評価する。制作物に対する評価は適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

一般社団法人日本パソコンインストラクター養成協会(著)、「Canvaの使い方: 画像と動画編集 (JPITA) Kindle版、またはペーパーバック」(Kindle版はKindle unlimitedなら無料、ペーパーバックなら¥1980)

◆参考図書◆

講義内で適宜指示する。

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須となる。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明する。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroom上で提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	MML005N		
科目名	音楽情報を発信する I		
科目詳細			
担当教員	神部 智		
学年	2年	クラス	O1
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

音楽に関する情報収集から情報の発信までのプロセスを理解し、実践できるようにする。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 情報の収集
3. 情報の整理と研究のまとめ方
4. 研究成果の発信方法について
5. 研究テーマのシミュレーション
6. 情報発信の具体例(1)プログラムノート
7. 情報発信の具体例(2)演奏会評
8. 情報発信の具体例(3)音楽エッセイ
9. 情報発信の具体例(4)各種論文
10. 学生による情報の発信(1)プログラムノート
11. 学生による情報の発信(2)演奏会評
12. 学生による情報の発信(3)音楽エッセイ
13. 学生による情報の発信(4)小論文
14. 学生による情報の発信(5)学術論文
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

音楽情報の発信(アウトプット)に向け、各課題に応じた文献や音源等を調査・検証(インプット)しておくこと。予習・復習の目安:2時間/週

◆成績評価の方法◆

研究成果の発表及び平常の授業への取り組みにより評価する。課題等については、授業内でフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業で必要な資料等を配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

特になし。

ナンバリング	MML006N		
科目名	音楽情報を発信するⅡ		
科目詳細			
担当教員	中田 朱美		
学年	2年	クラス	01
講義室	5-317	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独		

◆授業目標◆

情報発信の一つのステップとして、情報を精査し、機会にふさわしい形で文章をまとめ、持論を展開することができるようになる。

◆授業内容・計画◆

ウェブページや雑誌のコラムを書くスキルを実践的に学びます。銘々にメディアとシチュエーションを自由に想定した上で、特定の読者に向けた文章を丁寧に仕上げます。情報の発信に不可欠な、インプットとアウトプット、推敲をくり返ししながら、持論を練り上げるステップをたどります。(以下は予定)

- 第1回 導入、ガイダンス:メディアとシチュエーション、目的とテーマを考える
- 第2回 情報の収集方法を確認する
- 第3回 資料一覧と概要の発表
- 第4回 トピックを絞り込む
- 第5回 情報を整理し、発見をまとめる①
- 第6回 情報を整理し、発見をまとめる②ディスカッション
- 第7回 発見を文章にまとめる(持論の草稿)①
- 第8回 発見を文章にまとめる(持論の草稿)②ディスカッション
- 第9回 論の展開を考える①
- 第10回 論の展開を考える②ディスカッション
- 第11回 参照・引用を経ながら持論をまとめる(推敲)①発表者A、B、C
- 第12回 参照・引用を経ながら持論をまとめる(推敲)②発表者D、E、F
- 第13回 参照・引用を経ながら持論をまとめる(推敲)③発表者G、H、I
- 第14回 参照・引用を経ながら持論をまとめる(推敲)④発表者J、K、L
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

情報収集、文章作成、レイアウト整備やデザインなど、各回の課題に沿って準備しましょう(週1～2時間程度)。

◆成績評価の方法◆

授業内での発表や課題の成果、ディスカッションへの取り組みを総合的に評価します。課題には授業内やGoogle Classroomでフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

久保田慶一『改訂版 音楽の文章セミナー:プログラム・ノートから論文まで』音楽之友社、2016年。
 リチャード J. ウィンジェル『改訂新版 音楽の文章術:論文・レポートの執筆から文献表記法まで』宮澤淳一、小倉眞理訳、春秋社、2014年。
 このほかの資料は適宜、授業で紹介します。

◆留意事項◆

積極的な参加を期待します。

ナンバリング	CMS419N		
科目名	コンピュータ音響実習A I		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

PA機器の扱い方と基礎的なPA技術を習得する

◆授業内容・計画◆

音響技術の基本を復習した後、舞台音響技術の基礎を修得する。
デジタルミキサー操作、およびDANTE設定などを習得する。
また実際の音と物理的数値との関係を測定機器を交えて体感し、
音や音楽の捉え方、扱い方を実用していくことを学ぶ。

- 1 音響学の復習
- 2 舞台音響技術の歴史
- 3 舞台音響としての音響技術
- 4 舞台音響機材の構成
- 5 舞台音響に適した調整卓の基本使用法
- 6 音響プランについて
- 7 ネットワークオーディオの活用
- 8 調整卓のコントロールシステムについて
- 9 舞台・劇場への対応
- 10 機材の配置
- 11 システムプロセッサについて
- 12 音場調整
- 13 ステージモニターシステムについて
- 14 作品に対応すること
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、
授業内で指示する事を遵守のこと。
授業内でコンサートに参加する可能性があります、別途事前に連絡します。

◆準備学習の内容◆

授業で触れた事を元に、スタジオに常設している卓などに触れ、操作に慣れること

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

舞台技術の共通基礎 (劇場等演出空間運用基準協議会)
ホールの響きと音楽演奏(ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳、市ヶ谷出版社刊)
ハンドブック・オブ・サウンド・システム・デザイン(ジョン・アーグル著、鈴木中訳、プロサウンド編集部監修)

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ音響実習AⅡ も併せて履修すること

ナンバリング	CMS420N		
科目名	コンピュータ音響実習AⅡ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	時間外	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

高度なPA技術を習得する

◆授業内容・計画◆

舞台音響に適したスピーカーシステム、ミキサー、調整機器などを用いて実践的な舞台音響技術を修得する。
現場におけるマイクロフォンの的確な選択と使用法、ミキシング、イコライジング、音場補正などについて学ぶ。

- 1 舞台音響としての技術
- 2 舞台の製作に関わること
- 3 舞台音響システムの構築
- 4 舞台音響に適したマイク、スピーカー
- 5 舞台音響システムの調整
- 6 演目・音楽に対しての関わり方、プランニング
- 7 選定した機材を確認する
- 8 音響学を活用した音響調整
- 9 その他現場での実務
- 10 実際の演目での実習-1 準備
- 11 実際の演目での実習-2 施工
- 12 実際の演目での実習-3 調整
- 13 実際の演目での実習-4 運用
- 14 実際の演目での実習-5 撤収
- 15 まとめ

グループワーク主体になりますので、個人行動は慎む事。
機材などの取扱を誤ると事故・怪我に通じますので、授業内で指示する事を遵守のこと。
授業内でコンサートに参加する可能性があります、別途事前に連絡します。

◆準備学習の内容◆

授業で触れた事を元に、スタジオに常設している機材を扱い、各種機材の特性などを習得すること

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、及び実習により評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

舞台技術の共通基礎（劇場等演出空間運用基準協議会）
ホールの響きと音楽演奏（ユルゲン・メイヤー著、日高孝之訳、市ヶ谷出版社刊）

◆留意事項◆

履修条件:コンピュータ音響実習AⅠも併せて履修すること

ナンバリング	CMS421N		
科目名	コンピュータ音響実習B I		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-227	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音楽作品を作り上げるための収録技術および知識を得る。

◆授業内容・計画◆

今までに学んだことを元に、また新たな技術を取り入れて、自身の制作に知識と理論を活かす事ができることを目的とする。

- 1 音響学の復習
- 2 録音に際して(アナログ・デジタル)
- 3 録音機器に関して(アナログ・デジタル)
- 4 録音手法の再確認 ワンポイント・マルチマイク、マイクロフォンアレンジ
- 5 最新の録音・再生技術について(イマージングオーディオなどについて)
- 6 作品制作に関する考察 目的から手法を考える
- 7 音響効果、MAについて
- 8 録音実習-1 声
- 9 録音実習-2 単音楽器
- 10 録音実習-3 アンサンブル
- 11 録音実習-4 その他
- 12 録音実習-5 授業内で立案(単音)
- 13 録音実習-6 授業内で立案(複数音)
- 14 録音実習-7 授業内で立案(その他)
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

日頃から、常に音に関心を持ち、多くの作品を試聴して、各自の研究のテーマや授業に役立てるように心がける。
疑問があれば、積極的に質問する。

◆成績評価の方法◆

制作物の提出、授業態度の総合評価。授業中、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

サウンドレコーディング技術概論/日本音楽スタジオ協会
サウンド・クリエイターのための、デジタル・オーディオの全知識 / 株式会社ステレオサウンド

◆留意事項◆

授業内容によっては、講義日程を調整し、3～4コマ連続してスタジオなどで実習を行う場合がありますので、その場合は事前に連絡します。
実習中心の授業になるので、内容に変更がある場合があります。
履修条件:コンピュータ音響実習BII も併せて履修すること

ナンバリング	CMS422N		
科目名	コンピュータ音響実習BⅡ		
科目詳細			
担当教員	片桐 健順		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-227	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだことをもとに、音楽家あるいは教育家として、社会参加しようとする態度をもつ		

◆授業目標◆

音楽作品を作り上げるための音響技術および知識を得る

◆授業内容・計画◆

改めて制作の目的を問い、手法や技法を見つめ直し、より良い制作物が出来ることを目的とする。

- 1 録音実習-8 目的別録音 ホール録音の場合
- 2 録音実習-9 目的別録音 スタジオ録音の場合
- 3 録音実習-10 目的別録音 記録録音の場合
- 4 編集について 編集の高度な手法
- 5 トラックダウンについて
- 6 マスタリングについて
- 7 聴取機器について(スピーカー、ヘッドフォン、イヤフォン)
- 8 編集実習-1 編集
- 9 編集実習-2 整音
- 10 編集実習-3 ダイナミクス調整
- 11 編集実習-4 エフェクト付加
- 12 編集実習-5 ステムミックス
- 13 編集実習-6 トラックダウン
- 14 編集実習-7 マスタリング
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

日頃から、常に音に関心を持ち、多くの作品を試聴して、各自の研究のテーマや授業に役立てるように心がける。
疑問があれば、積極的に質問する

◆成績評価の方法◆

制作物の提出、授業態度の総合評価。授業中、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で適宜配布

◆参考図書◆

サウンドレコーディング技術概論/日本音楽スタジオ協会
サウンド・クリエイターのための、デジタル・オーディオの全知識 / 株式会社ステレオサウンド

◆留意事項◆

授業内容によっては、講義日程を調整し、3～4コマ連続してスタジオなどで実習を行う場合がありますので、その場合は事前に連絡します。
実習中心の授業になるので、内容に変更がある場合があります。
履修条件:コンピュータ音響実習BI も併せて履修すること

ナンバリング	CCL651N		
科目名	音楽療法臨床研究Ⅰ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	三宅 博子, 岡崎 香奈		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

音楽療法士コースの学生は、大学で行なわれる関連の授業を受けるだけでなく、臨床現場に赴いてセッションを見学し（許されればセッションに参加し）、学ぶ必要がある。本授業では、音楽療法の基本的な領域における見学・実習を基にセッションの実際を学び、音楽療法に関する理解を深めるとともに、音楽療法士に必要な技術や心得、倫理等を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. 児童領域、高齢者領域、精神科領域について、一人の学生がそれぞれ4回程度実践現場の見学・実習を行う。
2. 毎回の見学・実習の報告書を作成する。
3. 報告書に基づいて実習を報告し、＜対象について＞＜音楽療法の意義＞＜音楽の使われかた＞＜音楽の効果＞＜対象者に対する療法士の働きかけ＞＜対象者の反応の捉えかた＞＜配慮すべき事柄＞＜音楽療法士の倫理＞等について学び合う。

- (1)オリエンテーション(見学・実習の心得・注意点、施設に関する説明)
- (2)見学・実習スケジュールの作成
- (3)見学・実習の報告と討論(児童関連施設A)
- (4)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設A)
- (5)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設A)
- (6)見学・実習の報告と討論(その他の施設A)
- (7)見学・実習の報告と討論(児童関連施設B)
- (8)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設B)
- (9)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設B)
- (10)見学・実習の報告と討論(その他の施設B)
- (11)見学・実習の報告と討論(児童関連施設C)
- (12)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設C)
- (13)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設C)
- (14)見学・実習の報告と討論(その他の施設C)
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

毎回、実践現場の見学報告書を作成する。(目安:3時間)

◆成績評価の方法◆

見学・実習に関する報告書の作成とそのプレゼンテーション内容、および毎回の授業への取り組みにより評価する。適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特設しない

◆参考図書◆

特設しない

必要に応じて参考図書や資料を配付する

◆留意事項◆

見学・実習に際しては、マナーを守りながら真摯に取り組む授業では活発な討論を期待する

ナンバリング	CCL652N		
科目名	音楽療法臨床研究Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	三宅 博子, 岡崎 香奈		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

音楽療法士コースの学生は、大学で行なわれる関連の授業を受けるだけでなく、臨床現場に赴いてセッションを見学し(許されればセッションに参加し)、学ぶ必要がある。本授業では、音楽療法の基本的な領域(前期とは異なる場所)における見学・実習を基にセッションの実際を学び、音楽療法に関する理解を深めるとともに、音楽療法士に必要な技術や心得、倫理等を身につける。

◆授業内容・計画◆

1. 児童領域、高齢者領域、精神科領域について、一人の学生がそれぞれ4回程度実践現場の見学・実習を行う(前期とは異なる場所)。
2. 毎回の見学・実習の報告書を作成する。
3. 報告書に基づいて実習を報告し、＜対象について＞＜音楽療法の意義＞＜音楽の使われかた＞＜音楽の効果＞＜対象者に対するセラピストの働きかけ＞＜対象者の反応の捉えかた＞＜配慮すべき事柄＞＜音楽療法士の倫理＞等について学び合う。

- (1)オリエンテーション(見学・実習の心得・注意点の確認、施設に関する説明)
- (2)見学・実習の報告と討論(児童関連施設D)
- (3)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設D)
- (4)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設D)
- (5)見学・実習の報告と討論(その他の施設D)
- (6)見学・実習の報告と討論(児童関連施設E)
- (7)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設E)
- (8)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設E)
- (9)見学・実習の報告と討論(その他の施設E)
- (10)見学・実習の報告と討論(児童関連施設F)
- (11)見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設F)
- (12)見学・実習の報告と討論(精神科関連施設F)
- (13)見学・実習の報告と討論(その他の施設F)
- (14)見学・実習に関する総合討論
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

毎回、実践現場の見学報告書を作成する。(目安:3時間)

◆成績評価の方法◆

見学・実習に関する報告書の作成とそのプレゼンテーション内容、および毎回の授業への取り組みにより評価する。適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特設しない

◆参考図書◆

特設しない

必要に応じて、参考図書や資料等を配付する

◆留意事項◆

見学・実習に際しては、マナーを守りながら真摯に取り組む授業では活発な討論を期待する

ナンバリング	CCL653N		
科目名	音楽療法臨床研究Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	三宅 博子, 岡崎 香奈		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

児童、高齢者、精神科、一般医療いずれかの臨床現場で、単なる見学ではなく、1年をとおしてセッションに参加させていただくか、学生自身がセッションを運営するなどして、実際の治療プロセスを体験する。そのなかで臨床現場の厳しさや難しさを知るとともに、対象者の査定、治療目標の設定、治療計画の立案、セッションの実施、記録、評価などについて学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. 児童領域、高齢者領域、精神科領域、一般医療領域のいずれかにおいて、実際の治療プロセスに参加させていただく。
2. その体験をもとに、毎回報告書を作成する。
3. 授業では、上記の内容を報告し、「対象者の見方」、「音楽療法の目的と意味」、「音楽の使われ方」、「音楽療法士の関わり方」、「対象者の反応」、「記録の取り方」、「音楽療法の評価法」、「その他の配慮事項」などについて、互いに討論しながら学んでいく。

- (1)オリエンテーション(実習の心得・注意点の確認、施設に関する説明)
- (2)実習スケジュールの作成
- (3)実習の報告と討論(児童関連施設A)
- (4)実習の報告と討論(高齢者関連施設A)
- (5)実習の報告と討論(精神科関連施設A)
- (6)実習の報告と討論(その他の施設A)
- (7)実習の報告と討論(児童関連施設B)
- (8)実習の報告と討論(高齢者関連施設B)
- (9)実習の報告と討論(精神科関連施設B)
- (10)実習の報告と討論(その他の施設B)
- (11)実習の報告と討論(児童関連施設C)
- (12)実習の報告と討論(高齢者関連施設C)
- (13)実習の報告と討論(精神科関連施設C)
- (14)実習の報告と討論(その他の施設C)
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

毎回、臨床現場の実習報告書を作成する。(目安:3時間)

◆成績評価の方法◆

見学・実習に関する報告書の作成とそのプレゼンテーション内容、および毎回の授業への取り組みにより評価する。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に設定しない

◆参考図書◆

必要に応じてその都度呈示する

◆留意事項◆

見学・実習に際しては、マナーを守りながら真摯に取り組む
授業では活発な討論を期待する

ナンバリング	CCL654N		
科目名	音楽療法臨床研究Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	三宅 博子, 岡崎 香奈		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	4単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

前期に引き続き、児童領域、高齢者領域、精神科領域のいずれかの現場で、セッションに参加させていただくか、学生自身がセッションを運営するなどして、実際の治療プロセスを体験する。そのなかで臨床現場の厳しさや難しさを知るとともに、対象者の査定、治療目標の設定、治療計画の立案、セッションの実施、記録、評価などについて学ぶ。

◆授業内容・計画◆

前期に引き続き、

1. 児童領域、高齢者領域、精神科領域、一般医療領域のいずれかにおいて、実際の治療プロセスに参加させていただく。
2. その体験をもとに、毎回報告書を作成する。
3. 授業では、上記の内容を報告し、「対象者の見方」、「音楽療法の目的と意味」、「音楽の使われ方」、「音楽療法士の関わり方」、「対象者の反応」、「記録の取り方」、「音楽療法の評価法」、「その他の配慮事項」などについて、互いに討論しながら学んでいく。

- (1) オリエンテーション(見学・実習の心得・注意点の確認、施設に関する説明)
- (2) 見学・実習の報告と討論(児童関連施設D)
- (3) 見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設D)
- (4) 見学・実習の報告と討論(精神科関連施設D)
- (5) 見学・実習の報告と討論(その他の施設D)
- (6) 見学・実習の報告と討論(児童関連施設E)
- (7) 見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設E)
- (8) 見学・実習の報告と討論(精神科関連施設E)
- (9) 見学・実習の報告と討論(その他の施設E)
- (10) 見学・実習の報告と討論(児童関連施設F)
- (11) 見学・実習の報告と討論(高齢者関連施設F)
- (12) 見学・実習の報告と討論(精神科関連施設F)
- (13) 見学・実習の報告と討論(その他の施設F)
- (14) 見学・実習に関する総合討論
- (15) まとめと評価

◆準備学習の内容◆

毎回、臨床現場の実習報告書を作成する。(目安:3時間)

◆成績評価の方法◆

見学・実習に関する報告書の作成とそのプレゼンテーション内容、および毎回の授業への取り組みにより評価する。適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に設定しない

◆参考図書◆

必要に応じてその都度呈示する

◆留意事項◆

見学・実習に際しては、マナーを守りながら真摯に取り組む授業では活発な討論を期待する

ナンバリング	CCL659N		
科目名	吹奏楽指導研究 I		
科目詳細			
担当教員	大浦 智弘		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	N-226	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

学校教育現場やアマチュア・バンドにおける吹奏楽合奏指導に活用できる基礎的な指揮の技術やスコア・リーディングの学習を通じて音楽的な知識を学び、受講生による合奏の模擬リハーサルを通じて実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 吹奏楽を指揮・指導するための基礎的な技術、表現方法を習得する。
2. 移調楽器について視唱／視奏を実践しながら学び、スコア・リーディングを習得する。
3. 楽曲分析を行うことで吹奏楽で扱われる楽譜のスコア・リーディングのための基礎的な知識を学ぶ。

受講生は実際の指導現場を想定して、指揮する側と演奏する側／指導を受ける側の双方の立場に立って相互評価し、交代で指揮／演奏することでフィード・バックする。

- 第1回：概説（指揮・指導をするということとスコアリーディングについて）
 第2回：課題曲1Aのスコア・リーディング
 第3回：課題曲1A（旋律）による指揮演習①：単純拍子の指揮法
 第4回：課題曲1B（コラール）のスコア・リーディング（和声の分析）
 第5回：課題曲1Bによる指揮演習②：legato/staccato等の指揮の基本的な表現テクニック
 第6回：課題曲2A（旋律）のスコア・リーディングと指揮演習③：複合拍子の指揮法
 第7回：課題曲2B（コラール）のスコア・リーディングと指揮演習④：6拍子の指揮法（1）
 第8回：課題曲2Bによる指揮演習⑤：6拍子の指揮法（2）
 第9回：課題曲3A（旋律）のスコア・リーディングと指揮演習⑥
 第10回：課題曲3B（コラール）のスコア・リーディングと指揮演習⑦：アインザッツと終始のフェルマータの指揮法
 第11回：課題曲4A（旋律）のスコア・リーディングと指揮演習⑧：アウフタクトの指揮法（1）
 第12回：課題曲4B（コラール）のスコア・リーディングと指揮演習⑨：アウフタクトの指揮法（2）
 第13回：課題曲4Bによる指揮演習⑩：基本的な指揮法の習得
 第14回：課題曲4Bによる指揮演習⑪：基本的な指揮法の表現への応用
 第15回：実技試験と総括

◆準備学習の内容◆

事前に課題曲を予習する。基本的には受講生が指揮するほか、ピアノや管打楽器を演奏して指導を受ける側の立場も体験するので、各自課題曲の譜読みや練習を充分に行う。（1時間程度）

◆成績評価の方法◆

授業内で実施する指揮の実技試験や平常時の提出課題への取り組み、出席状況により総合的に評価する。実技試験は教員による5項目の評価のほか、受講生同士による相互チェックも行いフィードバックする。提出課題は教員が確認・採点し返却する。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業時に配布の資料

◆参考図書◆

『新版 学ぼう指揮法 Step by step わらべうたからシンフォニーまで』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『ブルクミュラーで指揮法入門』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『エッセンシャル・ディクショナリー 楽器の音域・音質・奏法』トム・ゲルー & デイヴ・ブラック著（ヤマハミュージックメディア）

◆留意事項◆

授業で配布の楽譜や資料、指揮棒、筆記用具を各自持参する。演奏担当時には各自任意の楽器を持参する。常に授業の内容・課題曲だけでなく、自分が取り組んでいる楽曲や活動、今後の進路に反映・応用できるか思考する。

ナンバリング	CCL660N		
科目名	吹奏楽指導研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	大浦 智弘		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-226	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

学校教育現場やアマチュア・バンドにおける吹奏楽合奏指導に活用できる実践的な指揮の技術や幅広い知識を学習し、受講生による合奏の模擬リハーサルを通じて応用・実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 吹奏楽を指揮・指導するための基礎的な技術、表現方法を応用する。
2. 移調楽器について視唱／視奏しながら学び、より実践的なスコア・リーディングを習得する。
3. スコア・リーディングを通じての楽曲分析を実際の演奏指導に応用するための知識を習得する。

受講生は実際の指導現場を想定して、指揮する側と演奏する側／指導を受ける側の双方の立場に立って相互評価し、交代で指揮／演奏することでフィード・バックする。

- 第1回：概説（楽曲分析・応用編）と課題曲1のスコア・リーディング
第2回：課題曲1による指揮演習①：変拍子の指揮法（1）
第3回：課題曲1による指揮演習②
第4回：課題曲2のスコア・リーディング
第5回：課題曲2による指揮演習③：混合拍子の指揮法
第6回：課題曲2による指揮演習④
第7回：課題曲3によるスコアの補完とスコア・リーディング
第8回：課題曲3による指揮演習⑤：変拍子の指揮法（2）
第9回：課題曲3による指揮演習⑥：フェルマータの指揮法
第10回：課題曲4のスコア・リーディングと指揮演習⑦：基本テクニックの整理
第11回：課題曲4のスコア・リーディングと指揮演習⑧：基本テクニックの表現への応用
第12回：課題曲4による指揮演習⑨：実践
第13回：課題曲4による指揮演習⑩：実践
第14回：実技試験
第15回：総括

◆準備学習の内容◆

事前に課題曲を予習する。基本的には受講生が指揮するほか、ピアノや管打楽器を演奏して指導を受ける側の立場も体験するので、各自課題曲の譜読みや練習を充分に行う。（1時間程度）

◆成績評価の方法◆

授業内で実施する指揮の実技試験や平常時の提出課題への取り組み、出席状況により総合的に評価する。実技試験は教員による5項目の評価のほか、受講生同士による相互チェックも行いフィードバックする。提出課題は教員が確認・採点し返却する。

◆教科書（使用テキスト）◆

授業時に配布の資料

◆参考図書◆

『新版 学ぼう指揮法 Step by step わらべうたからシンフォニーまで』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『ブルクミュラーで指揮法入門』山本訓久著（アルテスパブリッシング）、『エッセンシャル・ディクショナリー 楽器の音域・音質・奏法』トム・ゲルー&デイヴ・ブラック著（ヤマハミュージックメディア）

◆留意事項◆

授業で配布の楽譜や資料、指揮棒、筆記用具を各自持参する。演奏担当時には各自任意の楽器を持参する。常に授業の内容・課題曲だけでなく、自分が取り組んでいる楽曲や活動、今後の進路に反映・応用できるか思考する。

ナンバリング	CCL661N		
科目名	吹奏楽課題研究Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	中橋 愛生		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	2-21	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

吹奏楽指導の現場において必要となる作編曲に関する基礎的な知識および技術を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1)ガイダンス:スケジュールの確認／「吹奏楽」とは
- 2)基礎知識1:ミリタリーバンド様式
- 3)基礎知識2:現代日本の吹奏楽
- 4)基礎知識3:ハルモニウムジーク、管楽オーケストラ
- 5)基礎知識4:ウインドアンサンブル様式
- 6)基礎知識5:ブラスバンドとその周辺
- 7)ポップス概論
- 8)マーチの諸相
- 9)教育用の吹奏楽作品
- 10)小編成へのリデュース
- 11)編成の決定
- 12)フレキシブルアンサンブル
- 13)楽曲制作のプランニング
- 14)学生による課題創作に関する計画プレゼンテーション
- 15)まとめと評価

なお、教育実習期間中の学生の出席状況により、授業内容や順番の変更、一部割愛、後期予定内容との入れ替えの可能性もある。

◆準備学習の内容◆

自分なりの考え・目的意識を持って関連する文献や楽譜を調べたり、音源や映像を視聴したり、質の高い作品創作に努めたりし、授業に臨むこと。(各回の内容に応じて各種資料を参照したり、創作の事前準備を行なうこと。目安90分。)

◆成績評価の方法◆

授業中に課題についての質疑応答によってフィードバックするとともに、最終的に作成する課題楽曲についてのプレゼンテーションと、それに関する教員および学生間によるディスカッションを行ない、それによって評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』佐伯茂樹著(河出書房新社)

◆参考図書◆

『バンドのための編曲法』フランク・エリクソン 著、伊藤康英 訳(東亜音楽社)
『コンテンポラリー・アレンジャー』ドン・セベスキー 著、林雅彦ほか 訳(ATN)
『コンプリート・アレンジャー』サミー・ネスティコ 著、三上クニ 訳(ATN)
『新版吹奏楽講座5 編曲の基本と応用』(音楽之友社)

◆留意事項◆

基本的にレジュメ以外の資料等のハンドアウトは紙媒体での配布は行わず、全てGoogle Classroomにて授業前日の正午にデータにて配信する。
教室のモニターにも投影するが、自分で自在に閲覧できるようにノートPCやタブレット端末を持参するのが望ましい(必須ではない)。
また、必要に応じて各自でプリントアウトして持参すること。

最終的に「吹奏楽課題研究Ⅱ」で作成することとなる課題楽曲の提出に向け、長期的な計画を持って自主的に授業外での作業・学習を心掛けること。

ナンバリング	CCL662N		
科目名	吹奏楽課題研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	中橋 愛生		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	2-21	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

吹奏楽指導の現場において必要となる、実際的な各種の作編曲能力を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1) アマチュアを想定した楽器運用法1(総論)
- 2) アマチュアを想定した楽器運用法2(木管楽器)
- 3) アマチュアを想定した楽器運用法3(金管楽器)
- 4) アマチュアを想定した楽器運用法4(打楽器)
- 5) アマチュアを想定した楽器運用法5(編入楽器)
- 6) 吹奏楽のオーケストレーション1(垂直的考察)
- 7) 吹奏楽のオーケストレーション2(水平的考察)
- 8) 管弦楽作品の吹奏楽編曲(トランスクリプション)
- 9) ピアノ曲などからの編曲(アレンジメント)
- 10) 団体歌などの編曲(実践例考察)
- 11) レッスン形式による創作実習1(初動確認とアドバイス)
- 12) ノーテーション考察とパート譜の作成法
- 13) レッスン形式による創作実習2(制作途上での修正点確認)
- 14) レッスン形式による創作実習3(仕上げ)
- 15) まとめと評価

なお、教育実習期間中の学生の出席状況により、授業内容や順番の変更、一部割愛、前期予定内容との入れ替えの可能性もある。

◆準備学習の内容◆

各授業に関連する出来る限り多くの楽曲例に触れておくこと。(各回の内容に応じて各種資料を参照したり、創作の事前準備を行なうこと。目安90分。)

授業後は作品の完成を目指して創作を進めておくこと。(創作に要する時間の目安は合計で40時間。)

◆成績評価の方法◆

作品提出と、その制作過程におけるプレゼンテーション等の内容による。

いずれも随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』佐伯茂樹著(河出書房新社)

◆参考図書◆

『バンドのための編曲法』フランク・エリクソン 著、伊藤康英 訳(東亜音楽社)

『コンテンツポラリィ・アレンジャー』ドン・セベスキー 著、林雅彦ほか 訳(ATN)

『コンプリート・アレンジャー』サミー・ネスティコ 著、三上クニ 訳(ATN)

『新版吹奏楽講座5 編曲の基本と応用』(音楽之友社)

◆留意事項◆

基本的にレジュメ以外の資料等のハンドアウトは紙媒体での配布は行わず、全てGoogle Classroomにて授業前日の正午にデータにて配信する。

教室のモニターにも投影するが、自分で自在に閲覧できるようにノートPCやタブレット端末を持参するのが望ましい(必須ではない)。

また、必要に応じて各自でプリントアウトして持参すること。

最終的に提出する課題楽曲のため、長期的な計画を持って自主的に授業外での作業・学習を心掛けること。

課題楽曲の作成のためにPCおよび何らかの楽譜作成ソフト(フリーソフト可)を所持していることが望ましい(必須ではない)。

ナンバリング	CCL663N		
科目名	学校教育指導研究Ⅰ		
科目詳細			
担当教員	浅田 裕		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

学校の音楽科教育におけるさまざまな教材を研究・作成し、実践的な指導力を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 教材研究の意義
 - 第2回 学校教育指導研究Ⅰの進め方とグループ決定
 - 第3回 研究テーマ決定
 - 第4回 多様な教材研究①(身の回りの具体物)
 - 第5回 多様な教材研究②(篠笛)
 - 第6回 多様な教材研究③(曲種に応じた発声)
 - 第7回 多様な教材研究④(映画音楽)
 - 第8回 多様な教材研究⑤(ポピュラー音楽)
 - 第9回 テーマに基づいた教材開発と研究授業の実施①(Aグループ)
 - 第10回 テーマに基づいた教材開発と研究授業の実施②(Bグループ)
 - 第11回 テーマに基づいた教材開発と研究授業の実施③(Cグループ)
 - 第12回 テーマに基づいた教材開発と研究授業の実施④(Dグループ)
 - 第13回 テーマに基づいた教材開発と研究授業の実施⑤(研究協議を受けた改善授業)
 - 第14回 学校教育指導研究Ⅰの成果と課題の把握
 - 第15回 クラス内研究発表会
- ※第9回～第13回は、グループ別の研究に基づいて、研究授業と研究協議を行う。
 ※履修者の人数によって、進め方の変更がある。

◆準備学習の内容◆

- 第1回～第8回 学習指導要領の解説を熟読して、さまざまな教材をどのように扱うか考える。(各回1時間の予習)
- 第9回～第13回 テーマに関する教材研究を綿密に行う。また、学習指導案の作成が音楽科教育法と異なる部分があるため、違いを理解して作成できるようにする。
- 第14回 多様な課題に対して音楽の授業プランを考えられるよう準備する。
- 第15回 研究成果がよく伝わるようプレゼンテーションの工夫をする。(第9回～第15回まで各回2時間の予習)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況、提出物、試験によって評価する。
 なお、提出物及び筆答試験はコメントを付けたり採点したりして返却し、成果と課題がつかめるようにする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- 音楽科教育法で使用しているテキスト
- 『中学校学習指導要領解説音楽編』(平成29年版)
- 『高等学校学習指導要領解説芸術編』(平成30年版)
- 『評価規準参考資料』
- 『中学校の音楽教科書』令和3年版(2社、計8冊)

◆参考図書◆

- 『文部科学省編 教育用音楽用語』(教育芸術社)
- 『プロの演奏でつくる!「日本・アジアの伝統音楽」授業プラン』横井雅子、酒井美恵子(明治図書)
- 『小学校音楽「魔法の5分間」アクティビティ』阪井恵、酒井美恵子(明治図書)
- 『音楽授業のユニバーサルデザイン はじめの一步』阪井恵、酒井美恵子(明治図書)
- 『評価事例&ワークシート例が満載! 中学校音楽新3観点の学習評価完全ガイドブック』大熊信彦、酒井美恵子(明治図書)
- 『6色発声トレーニング』木島タロー(日本音楽レ・クリエーション指導協会)

(その他随時紹介する)

◆留意事項◆

GoogleClassroomを使用する。

ナンバリング	CCL664N		
科目名	学校教育指導研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

学習指導要領の趣旨や音楽科教育の今日的な課題踏まえて研究テーマを設定し、題材の指導計画を作成するとともに、その一部を実践して成果や改善点などを見いだす。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音楽科の学習指導要領・学習評価
- 第3回 音楽科の授業構成の基本的な考え方
- 第4回 教材研究及び授業づくりの方法
- 第5回 研究研究テーマと授業研究の進め方
- 第6回 研究テーマの発見
- 第7回 研究テーマの追究
- 第8回 題材指導計画の作成
- 第9回 題材指導計画の相互検討
- 第10回 授業展開の工夫とワークシートの作成
- 第11回 模擬授業の実施と振り返り例 ①「音楽文化についての理解を深める授業」②「リズムを生かした授業」
- 第12回 模擬授業の実施と振り返り例 ③「日本語でことば遊びやつくり歌を行う授業」④「音楽観を広げる授業」
- 第13回 模擬授業の実施と振り返り例 ⑤「日本の伝統的歌唱を体験する授業」⑥「生徒の協働を促す授業」
- 第14回 模擬授業の実施と振り返り例 ⑦「我が国の伝統音楽の理解を深める授業」「諸外国の音楽のよさを楽しむ授業」
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- 1 授業計画に沿って逐次、教材研究、題材指導計画、ワークシート、研究の概要を作成し、googleClassroomに提出すること。
- 2 学習指導要領(小学校音楽科、中学校音楽科、高等学校芸術科音楽)及び学習評価の方法について十分理解して授業に臨むこと。目安1～2時間程度。

◆成績評価の方法◆

研究テーマの追究、題材指導計画(ワークシート、教材研究を含む)提出 50%、
 模擬授業のパフォーマンス20%、授業への出席、授業での発言や参加姿勢 評価の30%
 いずれも随時フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

「音楽科教育法」に準じる。

◆参考図書◆

『新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』教育芸術社
 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校音楽』東洋館出版社
 『学びがグリーンと充実する！小学校音楽授業プラン＆ワークシート 高学年』明治図書
 『中学校音楽科教師のための授業づくりスキルコンプリートガイド』明治図書など

◆留意事項◆

- ・学校音楽教育及び授業について、幅広く深く考え、関係資料や文献などに目を通す習慣をもつこと。
- ・授業においては、積極的に発言し、疑問を解消するとともに、課題意識をもつようにすること。
- ・資料のやりとりは、基本GoogleClassroomを通じて行うこと。

ナンバリング	CCL665N		
科目名	学校教育課題研究 I		
科目詳細			
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

小中高の音楽科教育などについての個々のテーマに基づいた授業づくりを行い、その検討を進める

◆授業内容・計画◆

- 第1回 授業の進め方と意義
- 第2回 模擬授業のテーマ検討
- 第3回 模擬授業の計画
- 第4回 模擬授業の実践①学生A, B
- 第5回 模擬授業の実践②学生C, D
- 第6回 模擬授業の実践③学生E, F
- 第7回 模擬授業の実践④学生G, H
- 第8回 模擬授業の検討①学生A, B
- 第9回 模擬授業の検討②学生C, D
- 第10回 模擬授業の検討③学生E, F
- 第11回 模擬授業の検討④学生G, H
- 第12回 関連教材演習①学生A, B, C
- 第13回 関連教材演習②学生D, E, F
- 第14回 関連教材演習③学生G, H
- 第15回 まとめ

※受講人数、教育実習期間、図書館の使用状況などを考慮し順番が入れ替わることがある。

◆準備学習の内容◆

模擬授業の担当の際は、テーマに関する事例を検索、収集、精読し指導計画を立て準備を行う。2～3時間の準備を必要とするが、各人のスケジュールによって準備時間を配分して構わない(毎週の平均準備時間の目安は1時間前後)。

◆成績評価の方法◆

授業への参加状況、提出物等、レポート発表、ディスカッションなどから、総合的に成績評価する。発表・演習の内容・評価に関しては、毎回の授業の際にフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

とくに定めない。

◆参考図書◆

授業内で個々のテーマに応じて随時紹介する。

◆留意事項◆

受講者の興味応じた内容を探求し、よりよい授業づくりにつなげる。

ナンバリング	CCL666N		
科目名	学校教育課題研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	瀧川 淳		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	月 4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽科教育の実践について理解を深め、個々のテーマに基づく授業づくりを行う。

◆授業内容・計画◆

第1回 専門ゼミⅣの進め方、担当日の分担
第2回 模擬授業①学生A, Bのテーマ
第3回 模擬授業②学生C, Dのテーマ
第4回 模擬授業③学生E, Fのテーマ
第5回 模擬授業④学生G, Hのテーマ
第6回 音楽科の授業づくりについて
第7回 模擬授業の検討①学生A, B, C, D
第8回 模擬授業の検討①学生E, F, G, H
第9回 模擬授業の検討②学生A, B, C, D
第10回 模擬授業の検討②学生E, F, G, H
第11回 模擬授業の検討③学生A, B, C, D
第12回 模擬授業の検討③学生E, F, G, H
第13回 模擬授業の検討④学生A, B, C, D
第14回 音楽科における音楽の学びとは
第15回 授業づくりのまとめ

※教育実習などを考慮し、順番が入れ替わることがある。

◆準備学習の内容◆

自分の研究テーマに基づいて、模擬授業のための資料収集、精読、指導案づくり、授業の準備を行う。そのための毎週の平均準備時間の目安は、1時間前後である。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み及び卒業研究その他、レポート発表やディスカッションの内容など、総合的に成績評価する。発表・記述の内容・評価に関しては、毎回の授業でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

とくに定めない。

◆参考図書◆

授業内で個々のテーマに応じて随時紹介する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS667N		
科目名	身体表現研究 I		
科目詳細			
担当教員	中明 佳代		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽の中の音、リズム、フレーズ、ニュアンスなど様々な情報を感じ取る五感の覚醒、そしてそれらを表現できる身体づくりを学び、ダルクローズの提唱する「身体は楽器」を自ら実感することを目指す。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 身体を感じる
3. 五感と想像力(1)聴覚
4. 五感と想像力(2)視覚
5. 身体の動きを探る(1)導入
6. 身体の動きを探る(2)動きと音
7. 呼吸と力のコントロール(1)緊張と弛緩
8. 呼吸と力のコントロール(2)音楽の要素
9. 空間認識を高める(1)自分と空間の関係
10. 空間認識を高める(2)他者と自分の関係
11. 他者との身体表現(1)導入
12. 他者との身体表現(2)応用
13. 音楽を動く(1)導入
14. 音楽を動く(2)応用
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行うこと。グループによる課題の場合は、必要に応じてグループごとに自主練習を行い、授業に備えること。(目安:必要に応じて1時間以上)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてフィードバックするとともに、実技、課題、定期試験を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で提示する。

◆留意事項◆

全身運動ができる服装で参加すること(裸足で参加すること)。

ナンバリング	CCS668N		
科目名	身体表現研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	中明 佳代		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

Iに引き続き表現豊かで音楽的な身体づくりを目指す。音楽を様々な観点から見つめ、音と動きの関係をさらに深く探求し、プラスチックアニメにも取り組んでいく。

◆授業内容・計画◆

- 1.身体をほぐす
- 2.様々な音楽の要素と身体表現(1)リズム、フレーズ
- 3.様々な音楽の要素と身体表現(2)ニュアンス
- 4.動きに音楽を付ける(1)デュオ
- 5.動きに音楽を付ける(2)グループ
- 6.身体の動きに音楽をつける(1)声
- 7.身体の動きに音楽をつける(2)打楽器
- 8.身体の動きに音楽をつける(3)ピアノ
- 9.音楽作品を動く(1)ピアノ曲
- 10.音楽作品を動く(2)室内楽、オーケストラ
- 11.作品鑑賞
- 12.プラスチックアニメ(1)選曲
- 13.プラスチックアニメ(2)分析
- 14.プラスチックアニメ(3)作品作り
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

次週の課題について各自事前に準備を行うこと。グループによる課題の場合は、必要に応じてグループごとに自主練習を行い、授業に備えること。(目安:必要に応じて1時間以上)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてフィードバックするとともに、実技、課題、定期試験を総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じてプリントを配布する。

◆参考図書◆

授業内で提示する。

◆留意事項◆

全身運動ができる服装で参加すること(裸足で参加すること)。

ナンバリング	CCS671N		
科目名	リトミック課題研究 I		
科目詳細			
担当教員	清水 あずみ		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

リトミックは、スイスの音楽教育家・作曲家であったエミール・ジャック＝ダルクローズ(1865～1950)によって創案された音楽(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)を融合した音楽教育である。ダルクローズの思想と方法論を文献講読を通して理論的に、また自らの体験を通して実践的に学ぶ。リトミック指導において必要なピアノ即興スキルの向上を目指す。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス ダルクローズ・リトミックについて
2. リトミック実践(1)聴覚と筋肉運動感覚
3. リトミック実践(2)リトミック・ゲーム
4. リトミック実践(3)コミュニケーション
5. リトミックの活動事例(1)幼児のレッスン
6. リトミックの活動事例(2)児童のレッスン
7. ダルクローズ・ソルフェージュ(1)導入
8. ダルクローズ・ソルフェージュ(2)展開
9. 指導のための即興(1)動きの即興
10. 指導のための即興(2)空間移動を伴った動きの即興①歩く
11. 指導のための即興(3)空間移動を伴った動きの即興②走る
12. 指導のための即興(4)空間移動を伴った動きの即興③スキップ
13. 指導のための即興(5)イメージ即興
14. 指導のための即興(6)歌いながら即興
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

ピアノ即興の課題は、自主的、積極的に取り組み、十分に練習しておくこと。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについて、その都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポート、定期試験などを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時紹介する。

◆参考図書◆

『リズム・音楽・教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著(開成出版)
『リトミック・芸術と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著(全音楽譜出版社)
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドゥレスパー著(ドレミ楽譜出版社)
『リズム・インサイド』ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア著(ふくろう出版)
『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ヴァージニア・ホッジ・ミード著(ふくろう出版)
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン他著(全音楽譜出版社)
『リトミックでつくる楽しい音楽授業』井上恵理、酒井美恵子著(明治図書)
『“体を楽器”にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著(明治図書)
『窓際のトットちゃん』黒柳徹子著(講談社)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること。

ナンバリング	CCS672N		
科目名	リトミック課題研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	佐藤 温子		
学年	1年,3年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

リトミック課題研究Iで学んだことをさらに深める。ダルクローズの方法論を文献講読、実践例の検証、ディスカッションなどを通して学ぶとともに、自らの活動の実践(模擬授業)を行う。

◆授業内容・計画◆

1. 前期の振り返り、課題の発表(1)プレゼンテーション
2. 課題の発表(2)ディスカッション
3. リトミック指導について(1)音楽的要素
4. リトミック指導について(2)身体的要素・空間的要素
5. リトミック指導について(3)社会的要素
6. 模擬授業とディスカッション(1)拍
7. 模擬授業とディスカッション(2)テンポ
8. 模擬授業とディスカッション(3)ダイナミクス
9. 模擬授業とディスカッション(4)ニュアンス
10. 模擬授業とディスカッション(5)拍子
11. 模擬授業とディスカッション(6)6/8拍子
12. 模擬授業とディスカッション(7)音価
13. 模擬授業とディスカッション(8)リズムパターン
14. 模擬授業とディスカッション(9)フレーズ
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

ピアノ即興の課題は、自主的、積極的に取り組み、十分に練習しておくこと。(目安1時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについて、その都度フィードバックするとともに、課題の発表、レポート、定期試験などを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時紹介する。

◆参考図書◆

『リズム・音楽・教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著(開成出版)
『リトミック・芸術と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著(全音楽譜出版社)
『ダルクローズのリトミック』エリザベス・バンドウレスパー著(ドレミ楽譜出版社)
『ダルクローズ・リトミックによる リズムと動き』エルザ・フィンドレイ(全音楽譜出版社)
『リズム・インサイド』ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア著(ふくろう出版)
『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』ヴァージニア・ホッジ・ミード著(ふくろう出版)
『エミール・ジャック＝ダルクローズ』フランク・マルタン他著(全音楽譜出版社)
『リトミックでつくる楽しい音楽授業』井上恵理、酒井美恵子著(明治図書)
『“体を楽器”にした音楽表現 リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック77選』神原雅之編著(明治図書)
『窓際のトットちゃん』黒柳徹子著(講談社)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること。

ナンバリング	CCS669N		
科目名	リトミック指導研究 I		
科目詳細			
担当教員	中明 佳代		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽の感性を高め、情緒豊かな人間を育てるダルクローズ・リトミックの指導法について学んでいく。リトミックの目的、指導内容、指導案、指導方法について、文献や実際の映像、ディスカッション等を通して検証、考察する。また、様々な年齢を対象にした模擬授業を積極的に行い、実際の指導に必要な能力や技術を身につけていく。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス
- 2.ダルクローズ・リトミックに関するディスカッション
- 3.リトミックの指導法に関するディスカッション
- 4.動きのためのピアノ即興と指導例の検証(1)歩行
- 5.動きのためのピアノ即興と指導例の検証(2)基礎リズム
- 6.動きのためのピアノ即興と指導例の検証(3)音階
- 7.動きのためのピアノ即興と指導例の検証(4)リズムパターン
- 8.指導案作り
- 9.模擬授業 ディスカッション(1)基礎リズム
- 10.模擬授業 ディスカッション(2)リズムパターン
- 11.模擬授業 ディスカッション(3)拍子
- 12.模擬授業 ディスカッション(4)フレーズ
- 13.模擬授業 ディスカッション(5)アナクルシス・クルシス・メタクルシス
- 14.模擬授業 ディスカッション(6)ニュアンス
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

文献講読、課題発表、模擬授業などの準備をしてくること。(目安:毎週30分～1時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてフィードバックするとともに、課題発表、模擬授業、レポート、定期試験などの内容から総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時紹介する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること。

ナンバリング	CCS670N		
科目名	リトミック指導研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	中明 佳代		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

前期に引き続き、ダルクローズ・リトミックの指導法についてより深く学んでいく。ダルクローズの文献講読やディスカッションを通してリトミックの知識をさらに深め、模擬授業を通して実践的な力を身につける。また各自が卒業後のリトミックとの関わり方を考え、それに必要な課題をそれぞれ見つけ、探求していく。

◆授業内容・計画◆

- 1.ダルクローズの文献講読とディスカッション(1)ダルクローズ・リトミック
- 2.ダルクローズの文献講読とディスカッション(1)ダルクローズ・ソルフェージュ
- 3.指導のためのピアノ即興(1)スキップ・ギャロップ
- 4.指導のためのピアノ即興(2)拍子
- 5.指導のためのピアノ即興(3)バイナリービート・ターナリービート
- 6.模擬授業 ディスカッション(1)ターナリービート
- 7.模擬授業 ディスカッション(2)補足リズム
- 8.模擬授業 ディスカッション(3)休符
- 9.模擬授業 ディスカッション(4)ニュアンス
- 10.模擬授業 ディスカッション(5)ダイナミクス
- 11.模擬授業 ディスカッション(6)ダルクローズ・ソルフェージュ
- 12.模擬授業 ディスカッション(7)フレーズ
- 13.模擬授業 ディスカッション(8)シンコペーション
- 14.模擬授業 ディスカッション(9)ハーモニー
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

文献講読、課題発表、模擬授業などの準備をしてくること。(目安:毎週30分～1時間)

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組みについてフィードバックするとともに、課題発表、模擬授業、レポート、定期試験などの内容から総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で随時紹介する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること。

ナンバリング	CCS673N		
科目名	リトミック課題研究Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	佐藤 温子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽を感じる自分の心と体を育てる。そのために、ダルクローズの独自のアプローチである「プラスチックアニメ」の方法を学び、研究、実践する。また、ソロ、デュオ、グループでの即興音楽・即興身体表現を通し、コミュニケーション能力と表現力を高める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「自分」を表現する
- 第3回 音楽に身を委ねる
- 第4回 即興音楽表現と即興身体表現
- 第5回 連想イメージ(絵・言葉・形)からの身体表現
- 第6回 関連文献の購読と考察
- 第7回 「時間」「空間」「エネルギー」を意識した動き
- 第8回 視覚表現・身体表現の参考作品鑑賞
- 第9回 プラスティックアニメの作品鑑賞と分析
- 第10回 身体表現作品創作 ①レパートリー研究
- 第11回 身体表現作品創作 ②分析
- 第12回 身体表現作品創作 ③構成
- 第13回 身体表現作品創作 ④空間の使い方
- 第14回 身体表現作品創作 ⑤時間の使い方
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

関連領域の資料や文献を積極的に購読すること。
 作品創作に関しては、積極的に準備・練習すること。(目安 4～5時間/週)
 様々な音楽を聴き、分析し、レパートリーを広げること。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み状況についてその都度フィードバックするとともに、課題発表会から総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リズム・音楽・教育』 E・J ダルクローズ著 (開成出版社)、その他随時プリントを配布

◆参考図書◆

『ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業』 バージニア・ホッジミード著 (ふくろう出版)
 『リズム・インサイド』 ジュリア・ブラック、ステファン・ムーア著 (ふくろう出版)
 『即興演奏ってどうやるの』 野村誠、片岡祐介 著 (あおぞら音楽社)

◆留意事項◆

全身運動ができる服装で参加すること。

ナンバリング	CCS674N		
科目名	リトミック課題研究Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	佐藤 温子		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3-B07	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

課題研究Ⅲに引き続き、即興を含めたプラスチックアニメの実践、研究をし、深めていく。課題Ⅳでは、照明を活用する空間での舞台発表を設定して、音楽作品を光や色との関連で考えていく力と感性も育てる。また、舞台スタッフのマネージメント、発表会のプログラム制作や、展示発表など、会の企画・運営に関する経験をし、統括能力の高め、表現する事を多角的に学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期の振り返りと後期の計画、課題の共通理解
- 第2回 演奏発表会に向けた舞台製作(演出・照明・衣装)導入
- 第3回 演奏発表会に向けた舞台製作(演出・照明・衣装)展開
- 第4回 発表後の振り返り
- 第5回 複数人で行うピアノ即興(対話・模倣)
- 第6回 シグナルによる動き、シグナルによる即興演奏
- 第7回 無声映像に即興演奏を加える
- 第8回 舞台照明について
- 第9回 舞台発表の時間構成、空間構成の可能性
- 第10回 発表に向けての作品創作 ①企画・構成
- 第11回 発表に向けての作品創作 ②レパートリー研究
- 第12回 発表に向けての作品創作 ③中間分析
- 第13回 発表に向けての作品創作 ④展開
- 第14回 発表に向けての作品創作 ⑤まとめ
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

関連領域の資料や文献を積極的に購読すること。
 作品創作に関しては、積極的に準備・練習すること。(目安 4～5時間/週)
 様々な音楽を聴き、分析し、レパートリーを広げること。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み状況についてその都度フィードバックするとともに、課題発表会から総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リズム・音楽・教育』E・J ダルクローズ著 (開成出版社)、その他随時プリントを配布

◆参考図書◆

課題研究Ⅲを参照

◆留意事項◆

全身運動ができる服装で参加すること

ナンバリング	CCL675N		
科目名	幼児音楽指導研究 I		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

幼児は遊びや生活の中で様々な音楽表現を育んでいる。幼児が音楽の魅力を感じるには、自分もやってみたいと幼児が思うような活動のモデルを提示することが大切であり、そのためには指導者自身の豊かな表現力が求められる。本授業では、幼児の音楽的能力の発達を理解した上で、幼児の音楽表現活動への適切な指導方法および援助について実践を通して学ぶ。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス
2. 子どもと音楽1(乳児の音楽的発達のみちすじ)
3. 子どもと音楽2(幼児の音楽的発達のみちすじ)
4. 音楽表現の活動1(乳児のうた)
5. 音楽表現の活動2(幼児のうた)
6. 音楽表現の活動3(乳児のリトミック)
7. 音楽表現の活動3(幼児のリトミック)
8. 幼児の音楽活動に関する課題研究
9. 課題発表およびグループディスカッション
10. 音楽表現の活動5(3歳児を対象とした楽器遊び)
11. 音楽表現の活動6(4歳児を対象とした合奏)
12. 音楽表現の活動7(5歳児を対象とした合奏)
13. 音楽表現活動の指導計画1(乳児を対象に)
14. 音楽表現活動の指導計画2(幼児を対象に)
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

事前学習(2時間):シラバスや授業内の指示を参考にして、教科書や参考図書の予読、資料の準備、課題曲の予習等を行う。
 事後学習(2時間):各回の授業のポイントや適宜配布する参考資料の内容、教員によるアドバイス等を踏まえ、復習を行う。

◆成績評価の方法◆

学習意欲、受講態度、提出課題の状況、発表の内容等を総合的に判断して評価する。
 授業内のディスカッションやコメントシートについては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

1コマ1コマの授業を大切に、遅刻、欠席のないように心掛けて下さい。

ナンバリング	CCL676N		
科目名	幼児音楽指導研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	火2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

「幼児音楽指導研究Ⅰ」における学びを踏まえ、子どもとの音楽表現活動における実践力・指導力を更に高めていく。また、これまでの幼児音楽指導者コースのオリジナルオペレッタ作品の分析や実演を通して自らの音楽表現力をより豊かなものにする。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.幼児にとっての劇遊びとは
- 3.絵本と音楽
- 4.2022年度幼児音楽指導者コース修了作品の視聴と分析:ともだちや
- 5.2023年度幼児音楽指導者コース修了作品の視聴と分析:きつねのもちよりパーティ
- 6.2024年度幼児音楽指導者コース修了作品の視聴と分析:ゆうこのきゃべつぼうし
- 7.オペレッタ制作①:役割分担、台本朗読
- 8.オペレッタ制作②:楽曲振り付け
- 9.オペレッタ制作③:楽曲の役割分担
- 10.オペレッタ制作④:衣装制作
- 11.オペレッタ制作⑤:小道具制作
- 12.オペレッタ制作⑥:通し稽古1(前半部分)
- 13.オペレッタ制作⑦:通し稽古2(後半部分)
- 14.オペレッタ制作⑧:通し稽古3(全体)
- 15.まとめと振り返り

◆準備学習の内容◆

事前学習(1時間):シラバスや授業内の指示を参考にして、予読、資料の準備、課題曲の予習等を行う。
事後学習(1時間):各回の授業のポイントや適宜配布する参考資料の内容、教員によるアドバイス等を踏まえ、復習を行う。

◆成績評価の方法◆

学習意欲、受講態度、提出課題の状況、発表の内容等を総合的に判断して評価する。
授業内のディスカッションやコメントシートについては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で適宜指示する。

◆留意事項◆

1コマ1コマの授業とその積み重ねを大切にし、遅刻、欠席のないように心掛けて下さい。

ナンバリング	CCL677N		
科目名	幼児音楽課題研究 I		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年4年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

絵本をモチーフにしたオリジナルのオペレッタ創作を通して、幼児音楽指導者に求められる表現技術や音楽活動を展開できる実践力を高める。

◆授業内容・計画◆

2月に国立音楽大学附属幼稚園と「幼教Day」での上演を予定している。

1. ガイダンス
2. 絵本の選定
3. 絵本を基にした台本作成
4. 役割分担の決定1(配役)
5. 役割分担の決定2(楽器演奏、小道具、衣装)
6. 創作オペレッタ作品DVD視聴1(絵本を基にしたもの)
7. 創作オペレッタ作品DVD視聴2(昔話を基にしたもの)
8. ディスカッション～オペレッタを通して幼児に伝えたいことは何か～
9. 作曲活動1(劇中歌)
- 10 作曲活動2(効果音・ジングル)
- 11 作曲活動3(テーマ曲)
- 12 グループ内発表
- 13 本読み1(前半)
- 14 本読み2(後半)
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業前に各自十分な準備をしてのぞむこと。(準備学習時間は1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への参加、意欲、関心、態度と作品の仕上がり等、総合的に評価する。
授業内での討論や取り組みに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。

ナンバリング	CCL678N		
科目名	幼児音楽課題研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,4年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

絵本をモチーフにしたオリジナルのオペレッタ創作を通して、幼児音楽指導者に求められる様々な表現技術等を高める。将来幼児教育現場で幼児のオペレッタを演出できる力を養う。

◆授業内容・計画◆

コース修了条件は以下の通りである。

- (1) 授業に積極的に参加し、オペレッタ創作活動をおこなう。その際自分のコース内での役割を果たす。
- (2) 「課題研究レポート」の提出が必須である。

様式は次の通りである。

共同研究として、A4版(40文字×35行、5枚以上)、併せてレジュメ(40文字×35行、コース生の人数と同じページ分)を提出すること。
提出時期は12月中旬を予定している。(詳細は後日連絡)

1. ガイダンス
2. 台本朗読
3. 本読み1(前半)
4. 本読み2(後半)
5. 劇中の楽曲振り付け
6. 衣装制作
7. 小道具制作
8. 中間発表
9. 通し稽古1(前半)
- 10 通し稽古2(後半)
- 11「課題研究レポート」の作成について
- 12「要旨」作成について
- 13 通し稽古3(音楽を中心に)
- 14 通し稽古4(動き、言葉を中心に)
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業前に各自十分な準備をしてのぞむこと。(目安時間は1時間)

◆成績評価の方法◆

授業への参加、意欲、関心、態度と作品の仕上がり等、総合的に評価する。
授業内での討論や取り組みに関して適時フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

遅刻、欠席は大幅な減点とする。

ナンバリング	ECL419N		
科目名	幼児教育研究		
科目詳細			
担当教員	葛西 健治		
学年	2年	クラス	02
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

唱歌、童謡、戦後の子どもの歌など、新旧様々な子どもの歌について音楽的・声楽的観点から理解を深め、子どもとの音楽表現活動の展開、またその指導の根拠となる基礎的な知識・技能・態度を身に付ける。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション
- 2.大人の歌と子どもの歌(比較考察)1:クラシック作品を例に
- 3.大人の歌と子どもの歌(比較考察)2:ポピュラー作品を例に
- 4.子どもの歌の音楽表現1:わらべうた
- 5.子どもの歌の音楽表現2:唱歌、童謡
- 6.子どもの歌の音楽表現3:戦後の子どもの歌
- 7.子どもの歌の歌唱指導1:歌詞の特徴とその理解
- 8.子どもの歌の歌唱指導2:発語法、発声法
- 9.子どもの歌の伴奏法・弾き歌い1:テンポ、デュナーミク、アーティキュレーション
- 10.子どもの歌の伴奏法・弾き歌い2:適切なプレスとフレージング
- 11.子どもの歌の伴奏法・弾き歌い3:歌詞送り(ブロンプト)
- 12.レパートリー研究1:エディションの比較と楽譜の選択(原典、簡易伴奏、詩の扱い)
- 13.レパートリー研究2:文献検索(調査研究)
- 14.レパートリー研究3:発表とグループディスカッション
- 15.まとめと振り返り(グループワーク、グループディスカッション)

◆準備学習の内容◆

事前学習(2時間):シラバスや授業内の指示を参考にして、教科書や参考図書の予読、資料の準備、課題曲の予習等を行う。
事後学習(2時間):各回の授業のポイントや適宜配布する参考資料の内容、教員によるアドバイス等を踏まえ、復習を行う。

◆成績評価の方法◆

学習意欲、受講態度、提出課題の状況、発表の内容等を総合的に判断して評価する。
授業内のグループディスカッションやコメントシートについては、適宜フィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて授業内で指示する。

◆参考図書◆

- 『声の力 歌・語り・子ども』 河合隼雄、阪田寛夫、谷川俊太郎、池田直樹 (岩波書店)
- 『声の世界を旅する』 増野亜子 (音楽之友社)
- 『文化としての日本のうた』 佐野靖(編著)、杉本和寛(編著) (東洋館出版社)
- 『自分の歌をさがす―西洋の音楽と日本の歌』 秋岡陽 (フェリス学院大学)
- 『はじまりは、歌だった「つながり」の進化生物学』 岡ノ谷 一夫 (朝日出版社)
- 『音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む ～ブリチュワからカピチュウ、おっけーぐるぐるまで～』 川原繁人 (朝日出版社)
- 『音楽を学ぶということ―これから音楽を教える・学ぶ人のために』 今川恭子(監修) (教育芸術社)
- 『わたしたちに音楽がある理由(わけ)―音楽性の学際的研究』 今川恭子(編著) (音楽之友社)
- 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌:唱歌童謡140年の歩み』 全国大学音楽教育学会(編著) (音楽之友社)
- 『改訂 ポケットいっぱい!のうた 実践!子どものうた 簡単に弾ける144選』 鈴木恵津子(監修・編著) (教育芸術社)

◆留意事項◆

子どもの歌に対するそれぞれの思いや課題意識を共有しながら、お互いに学びを深めていく場にしたいと考えています。
1コマ1コマの授業とその積み重ねを大切に、遅刻、欠席のないように心掛けて下さい。

ナンバリング	JZL435N		
科目名	スタイル分析 I		
科目詳細			
担当教員	熊谷ヤスマサ		
学年	3年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ビバップ以降、それぞれのスタイルの構造と仕組みを実践(再現)を伴いながら丹念に辿ることでモダンジャズ以降の音楽への理解を深める。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジャズ誕生からビバップ以前まで(1)ラグタイムとブルース
- 第3回 ジャズ誕生からビバップ以前まで(2)ニューオーリンズ・ジャズからスイング・ジャズまで
- 第4回 ビバップの誕生と発展
- 第5回 ビバップ実践(1.チャーリー・パーカーに焦点を当て)
- 第6回 ビバップ実践(2.その他の名曲を追う)
- 第7回 ビバップ実践(3.オリジナル曲の作成と実践)
- 第8回 セロニアス・モンクの研究
- 第9回 セロニアス・モンクの作品の実践
- 第10回 ジャズ・メッセンジャーズの音楽(1.前期)
- 第11回 ジャズ・メッセンジャーズの音楽(2.中期)
- 第12回 ジャズ・メッセンジャーズの音楽(3.後期)
- 第13回 クール・ジャズ(1.レニー・トリスターノとその弟子たち)
- 第14回 クール・ジャズ(2.実践と作曲)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

必要に応じ、音源をトランスクリプトし授業に備え練習を積んでおくこと。

◆成績評価の方法◆

前期は平常の授業への取り組みにより評価する。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

実演を伴うので専攻楽器を持参のこと。

ナンバリング	JZL436N		
科目名	スタイル分析Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	熊谷ヤスマサ		
学年	3年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

モダンジャズの歴史上、長きに渡りその中心人物として活躍したマイルス・デイビスの音楽を実践を伴いながら研究する。また音楽史に与えたジャズの影響や音楽が社会に果たせる役割などについても考察を巡らせつつジャズスタイル史をたどる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 マイルス・デイビスの音楽 ジャズの歴史との関わり
- 第3回 マイルス・デイビスの音楽「カインド・オブ・ブルー」より(1)作品研究
- 第4回 マイルス・デイビスの音楽「カインド・オブ・ブルー」より(2)実践
- 第5回 マイルス・デイビスの音楽「マイルストーン」より(1)作品研究
- 第6回 マイルス・デイビスの音楽「マイルストーン」より(2)実践
- 第7回 マイルス・デイビスの音楽「セブン・ステップス・トゥー・ヘブン」以降(1)作品研究
- 第8回 マイルス・デイビスの音楽「セブン・ステップス・トゥー・ヘブン」以降(2)実践
- 第9回 新主流派の音楽(1)ハービー・ハンコック、ウェイン・ショーター
- 第10回 新主流派の音楽(2)ジョー・ヘンダーソン、ボビー・ハッチャーソン
- 第11回 ジョン・コルトレーンとソニー・ロリンズ
- 第12回 フュージョン・ミュージック
- 第13回 ジャズ・ボーカル
- 第14回 フリー・ジャズ
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

必要に応じ、音源をトランスクリプトし授業に備え練習を積んでおくこと。

◆成績評価の方法◆

授業内のアンサンブルにおける実践力とレポート提出。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

実演を伴うので専攻楽器を持参のこと。

ナンバリング	JZL437N		
科目名	スタイル分析Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	佐津間 純		
学年	4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で		

◆授業目標◆

“一流の音楽家は素敵なレパートリーを沢山知っている”という考えをもとに…誰もが取り上げるスタンダードナンバーから少しマニアックな楽曲まで様々な名曲を取り上げ、その曲の”仕組み”やその曲を演奏している名プレイヤーの”演奏方法”を分析し、そこで得たさまざまなアイディアを自身の音楽に生かす習慣をつける。この授業を通して馴染みのある曲についてはさらに理解を深め、知らない曲や馴染みの薄い曲については知る機会とする。音楽の探究(深掘り)方法を身につける。

◆授業内容・計画◆

出来るだけ譜面を使わずに授業を行います。基本的には授業2回分で1シリーズとし、2,3曲のレパートリーを覚えていくことを目指します。1回目(前編)で曲のメロディーやハーモニーを分析、その曲のさまざまなバージョンの演奏を聴きます。それを踏まえて2回目(後編)には覚えて授業に臨んでください。1回目がリハーサルで翌週のギグ(2回目)にはそのレパートリーを覚えて臨むという感じで取り組んでみてはどうでしょうか？

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Introduction of Duke Ellington's Music Take the A trainなど (1.紹介&解説)
- 第3回 Introduction of Duke Ellington's Music Take the A trainなど (2.実践)
- 第4回 It could happen to youなど (1.紹介&解説)
- 第5回 It could happen to youなど (2.実践)
- 第6回 The days of wine and rosesなど (1.紹介&解説)
- 第7回 The days of wine and rosesなど (2.実践)
- 第8回 How high the moonなど (1.紹介&解説)
- 第9回 How high the moonなど (2.実践)
- 第10回 All the things you areなど (1.紹介&解説)
- 第11回 All the things you areなど (2.実践)
- 第12回 ブルースについて (1.紹介&解説)
- 第13回 ブルースについて (2.実践)
- 第14回 ファイナル
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業中に紹介する音源を聴いておくこと。特に歌モノと言われるようなスタンダードに関しては歌手の録音も聴いてみる。馴染みのない曲も出来るだけ譜面を使わずにその場で覚えてもらいながら授業を行う予定です。日頃から譜面に頼らずに覚えて演奏する習慣をつけること。自分はどんな音楽が好きか？どんな音楽家になりたいか？ということをいつも考えて生活してみること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みとファイナルの成果により評価する。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

実演を伴うので専攻楽器を持参のこと。

ナンバリング	JZL438N		
科目名	スタイル分析Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	佐津間 純		
学年	4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

“一流の音楽家は素敵なレパートリーを沢山知っている”という考えをもとに…誰もが取り上げるスタンダードナンバーから少しマニアックな楽曲まで様々な名曲を取り上げ、その曲の”仕組み”やその曲を演奏している名プレイヤーの”演奏方法”を分析し、そこで得たさまざまなアイデアを自身の音楽に生かす習慣をつける。この授業を通して馴染みのある曲についてはさらに理解を深め、知らない曲や馴染みの薄い曲については知る機会とする。音楽の探究(深掘り)方法を身につける。

◆授業内容・計画◆

出来るだけ譜面を使わずに授業を行います。ジャズスタイル分析Ⅲ同様、基本的には授業2回分で1シリーズとし、2,3曲のレパートリーを覚えていくことを目指します。1回目(前編)で曲のメロディーやハーモニーを分析、その曲のさまざまなバージョンの演奏を聴きます。それを踏まえて2回目(後編)には覚えて授業に臨んでください。1回目がリハーサルで翌週のギグ(2回目)にはそのレパートリーを覚えて臨むという感じで取り組んでみてはどうでしょうか？ジャズスタイル分析Ⅲを踏まえてジャズスタイル分析Ⅳでは受講生の皆さんにも自身が好きな曲や挑戦したい曲などを提案してもらい授業内でプレゼンしてもらい、皆でその曲に取り組みたいと考えています。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 リズムチェンジについて (1.紹介&解説)
- 第3回 リズムチェンジについて (2.実践)
- 第4回 Body and soulなど (1.紹介&解説)
- 第5回 Body and soulなど (2.実践)
- 第6回 Like Someone In Loveなど (1.紹介&解説)
- 第7回 Like Someone In Loveなど (2.実践)
- 第8回 In a sentimental moodなど (1.紹介&解説)
- 第9回 In a sentimental moodなど (2.実践)
- 第10回 I'll remember Aprilなど (1.紹介&解説)
- 第11回 I'll remember Aprilなど (2.実践)
- 第12回 In a mellow toneなど (1.紹介&解説)
- 第13回 In a mellow toneなど (2.実践)
- 第14回 ファイナル
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

授業中に紹介する音源を聴いておくこと。特に歌モノと言われるようなスタンダードに関しては歌手の録音も聴いてみる。馴染みのない曲も出来るだけ譜面を使わずにその場で覚えてもらいながら授業を行う予定です。日頃から譜面に頼らずに覚えて演奏する習慣をつけること。自分ではどんな音楽が好きか？どんな音楽家になりたいか？ということをもいつも考えて生活していただくこと。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みとファイナルの成果により評価する。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

実演を伴うので専攻楽器を持参のこと。

ナンバリング	JZS439N		
科目名	ジャズ特別演習A		
科目詳細			
担当教員	岡崎 好朗		
学年	3年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ演奏に必要なアンサンブル能力を高める為に必要な、リズムやハーモニーの知識を深め習得する。実際にアンサンブル演奏をする事によって、様々な演奏状況に対応できる能力を高める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック①アーティキュレーション
3. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック②ペイシング
4. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック③リズムックディスプレイメント
5. ジャズコードプログレッションとスケール①Major Key Diatonic ChordとScaleについて
6. ジャズコードプログレッションとスケール②Minor Key Diatonic ChordとScaleについて
7. ジャズコードプログレッションとスケール③Modal Interchange Chordとスケールについて
8. ジャズコードプログレッションとスケール④Diminished Chordとスケールについて
9. ジャズコードプログレッションとスケール⑤Non Diatonic Chordとスケールについて
10. ジャズリズムの考察①1920～1940年代のジャズリズム
11. ジャズリズムの考察②1940～1960年代のジャズリズム
12. ジャズリズムの考察③1970年代以降のジャズリズムと主なラテンリズム
13. 学生による研究発表①オリジナルコンポジション
14. 学生による研究発表②オリジナルアレンジメント
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

講座を受ける前に予め授業で使用する楽曲を学んでおく事。研究発表は、音源や資料等を精査し参考にし、使用される譜面は予め用意する事。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み。研究発表の内容等は授業中に課題を適宜与える。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

随時配布

◆留意事項◆

時間厳守。リズムセクションに関しては、欠席の際は可能な限り代替人員を手配する事。

ナンバリング	JZS440N		
科目名	ジャズ特別演習B		
科目詳細			
担当教員	岡崎 好朗		
学年	3年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ演奏に必要なアンサンブル能力を高める為に必要な、リズムやハーモニーの知識を深め習得する。実際にアンサンブル演奏をする事によって、様々な演奏状況に対応できる能力を高める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック①アーティキュレーション
3. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック②ペイシング
4. ジャズアンサンブル演奏におけるテクニック③リズムックディスプレイメント
5. ジャズコードプログレッションとスケール①Major Key Diatonic ChordとScaleについて
6. ジャズコードプログレッションとスケール②Minor Key Diatonic ChordとScaleについて
7. ジャズコードプログレッションとスケール③Modal Interchange Chordとスケールについて
8. ジャズコードプログレッションとスケール④Diminished Chordとスケールについて
9. ジャズコードプログレッションとスケール⑤Non Diatonic Chordとスケールについて
10. ジャズリズムの考察①1920～1940年代のジャズリズム
11. ジャズリズムの考察②1940～1960年代のジャズリズム
12. ジャズリズムの考察③1970年代以降のジャズリズムと主なラテンリズム
13. 学生による研究発表①オリジナルコンポジション
14. 学生による研究発表②オリジナルアレンジメント
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

講座を受ける前に予め授業で使用する楽曲を学んでおく事。研究発表は、音源や資料等を精査し参考にし、使用される譜面は予め用意する事。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み。研究発表の内容等は授業中に課題を適宜与える。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配布

◆参考図書◆

随時配布

◆留意事項◆

時間厳守。リズムセクションに関しては、欠席の際は可能な限り代替人員を手配する事。

ナンバリング	JZS441N		
科目名	ジャズ・ワークショップ I		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ関係の様々な場で活動する方々から講義を受けることにより、広い視野に立ち音楽家としての生き方を考察することができる。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス
第2回 ブルースとは？
第3回 学生による研究発表(1)ドラムス奏者の研究
第4回 学生による研究発表(2)ベース奏者の研究
第5回 アフリカン・アメリカンの歴史とジャズの誕生
第6回 ジャズを生んだ人々(1)アフリカからの奴隷貿易
第7回 ジャズを生んだ人々(2)ニューオーリンズ・ジャズ以降
第8回 学生による研究発表(3)ピアノ奏者の研究
第9回 映画音楽とミュージカル・ナンバー
第10回 言語と音楽との関わり
第11回 変拍子の練習法
第12回 変拍子の実習
第13回 ブラジル音楽概論(1)サンバ、ショーロからボサノバの誕生
第14回 ブラジル音楽概論(2)MPBの音楽
第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

講座を受ける前にあらかじめ予備知識を学んでおくこと。
研究発表においては、個々でテーマを決め、音源、映像、その他資料の収集をする。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み
研究発表の内容
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配付

◆参考図書◆

随時紹介

◆留意事項◆

時間厳守

ナンバリング	JZS442N		
科目名	ジャズ・ワークショップⅡ		
科目詳細			
担当教員	池田 篤		
学年	4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

ジャズ関係の様々な場で活動する方々から講義を受けることにより、広い視野に立ち音楽家としての生き方を考察することができる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本のジャズ史(1)戦前から戦後直後
- 第3回 日本のジャズ史(2)1960年代から現代
- 第4回 学生による研究発表(1)トランペット奏者の研究
- 第5回 学生による研究発表(2)サクソフォン奏者の研究
- 第6回 海外で活動する音楽家としての生き方
- 第7回 リズム・セクションの考察
- 第8回 フロント楽器奏者はリズム・セクションとどう関わるか
- 第9回 学生による研究発表(3)トロンボーン奏者の研究
- 第10回 サクソフォンの歴史と発展
- 第11回 ジャズ・ギターの歴史と発展
- 第12回 ジャズ・ドラムスの歴史と発展
- 第13回 ジャズの多様性とその発展
- 第14回 音楽と人生(ディスカッション)
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

講座を受ける前にあらかじめ予備知識を学んでおくこと。
研究発表においては、個々でテーマを決め、音源、映像、その他の資料の収集をする。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み
研究発表の内容
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時配付

◆参考図書◆

随時紹介

◆留意事項◆

時間厳守

ナンバリング	JZS443N		
科目名	作曲編曲A		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	3年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学んだこ		

◆授業目標◆

ジャズのコンボスタイルにおいて、リズムセクション、4管、6管までの編曲法を習得する。作曲においては、メロディー、ハーモニーの展開の方法や、リズムを使っのバリエーションも習得する。ビッグバンドの作・編曲をする為の基礎となる知識をこの授業で習得する事がこの授業の最終目標である。

◆授業内容・計画◆

授業は以下の様に分類して行う。

またこのクラスは授業内容の充実の為に個別に授業をする回を設けます。

- 第1回: 4管のアレンジの基本(楽器選択方法)
- 第2回: 4管のボーシングについて
- 第3回: 4管のボーシングについて(クイズ含)
- 第4回: 4管アレンジの実践(各学生の実践における問題点を全員で共有する)
- 第5回: 4管のアレンジの応用
- 第6回: リズムセクションの使い方、書き方
- 第7回: 4管アレンジの実践(個別授業方式)
- 第8回: 4管アレンジの実践(個別授業方式)
- 第9回: 6管のアレンジの基本
- 第10回: 6管アレンジの実践(個別授業方式)
- 第11回: 6管アレンジの実践(個別授業方式)
- 第12回: 6管アレンジの実践(個別授業方式)
- 第13回: 6管のアレンジの応用/質疑応答
- 第14回: 6管アレンジの総復習
- 第15回: 6管アレンジの発表(クラス内)

◆準備学習の内容◆

作曲と編曲にフォーカスをしながら色々なジャズコンボの演奏を聞いておくと、この授業を受けた時に色々な質問が出せます。1年という限られた期間で作・編曲の基礎を学習する為には、自分が学習したい事を可能な限り具体的な質問としてクラスに持って来る事が重要。

◆成績評価の方法◆

それぞれの課題の結果で評価。
授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

課題別にプリント作成

◆参考図書◆

◆留意事項◆

ジャズという音楽は殆どが即興で演奏されますが、それは何をやっても良いという事ではなく、音楽の基本的な流れはクラシックもジャズも変わりません。ジャズの作・編曲法を学習する事で、即興演奏する時の自分のボキャブラリーが膨らみます。また作・編曲法を学ぶことで、音楽をもっと大きなビジョンで捉える事ができます。最終的には、自分の聞こえた音だけを書く事が大切ですが、その自分の音楽を表現するための「てにをは」をこのクラスで学習して欲しい。

ナンバリング	JZS444N		
科目名	作編曲B		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	3年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

トランペット4本、トロンボーン4本(バス・トロンボーン1本含む)、サキソフォン(アルト2本、テナー2本、バリトン1本)、ピアノ、ベース、ドラムス各1名ずつの編成によるビッグバンド形式でのアレンジ実践。前期で行った、4管、6管編成も含め、リード楽器ではダブリングを、金管楽器ではミュートを使った音色、またそのコンビネーションを用いての音色、更にカラーカプリングを用いてなどの編曲法を習得する。ピアノ、ギターなどのコード楽器を演奏する学生だけでなく、全ての管楽器、ベース、そしてドラムス専攻の学生も対象で、これはアレンジャーになる為だけでなく、音楽をより大きな視野を持って演奏することが出来るようにする為の必要不可欠の授業です。

◆授業内容・計画◆

授業は以下の様に分類して行う。

またこのクラスは授業内容の充実の為に個別に授業をする回を設ける。第6回目の授業で実在するビッグバンドのアレンジされた曲を選択し、それを分析。そしてその分析したスタイルに従って別の楽曲(オリジナル可)をビッグバンドの形式で編曲する。

- 第1回： ビッグバンドアレンジの基本
- 第2回： 管楽器全体のボイスिंगについて
- 第3回： ミュートの使い方、木管とのコンビネーション
- 第4回： 倍音を用いたボイスिंगの作り方
- 第5回： ビッグバンドのアレンジの応用
- 第6回： 実在のビッグバンド作品を選択し、その作品を具体的に分析してフォーマットを作成する。
(このフォーマットに基づいて各々のアレンジを書き上げる)
- 第7回： アレンジの実践(個別授業方式)①
- 第8回： アレンジの実践(個別授業方式)②
- 第9回： 課題①によるビッグバンドアレンジ(個別授業方式)
- 第10回： アレンジの実践(個別授業方式)③
- 第11回： アレンジの実践(個別授業方式)④
- 第12回： アレンジの実践(個別授業方式)⑤
- 第13回： 課題②によるビッグバンドアレンジ(個別授業方式)
- 第14回： 発表会(ビッグバンド・アンサンブル授業内にて)
- 第15回： 発表会(ビッグバンド・アンサンブル授業内にて)

◆準備学習の内容◆

前期と同様、作・編曲というポイントにフォーカスをおいて色々な音楽を聴いておく事。後期では、楽器のコンビネーションとその音色にフォーカスを当てて聞く事。ビッグバンドでは、エリントン、ギル・エバンス、サド・メル・ビッグバンド等、ボイスिंगだけでなく、オーケストレーションという部分に重きをおいたバンドを聞く事が望ましい。

◆成績評価の方法◆

それぞれの課題においての評価、また最終日に発表するビッグバンドアレンジの作品を持って評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

最近ではコンピューターを用いて作・編曲される事が多いが、実際に本物の楽器で音を出してみるとコンピューターで作曲する時の様には行かないという難しさ、そしてその楽しさを学習して欲しい。特に管楽器に関しては、吹く人間のそれぞれの能力や肺活量、強いては生身の人間の生理的な感性まで考慮して書く事も非常に大切であるという事を学習するのがアレンジの授業では最も大切な事の一つ。

後期では、音色にフォーカスをあてた編曲法に重点をおくので、楽器のコンビネーションとその音色を如何に自分のボキャブラリーとして行くかが大きな課題です。また作曲においては、ハーモニーの展開にフォーカスを置きます。この授業で学ぶ事はあくまでも基礎であり、管楽器の数が増えるに従って編曲のポイントが変わって行くという事を学習して欲しい。

ナンバリング	JZS445N		
科目名	作編曲C		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	前期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的技能を身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

弦楽器を使用した楽曲の作編曲法を身につける

◆授業内容・計画◆

1. 弦楽器と用法の研究
2. 弦楽器奏法の研究
3. 弦楽種重奏の編成規模とサウンド
4. 弦楽種重奏の為のスタイル研究
5. シンプルな弦楽種重奏 編曲課題と実習と添削(基本事項確認)
6. シンプルな弦楽種重奏 編曲課題と実習と添削2(スコア提出)
7. リズム・セクションとのコンビネーション(ベース)
8. リズム・セクションとのコンビネーション2(ドラムス)
9. リズム・セクションとのコンビネーション3(ピアノ)
10. リズム・セクション録音
11. リズム・セクションTD
12. 弦楽四重奏録音
13. 弦楽四重奏TD
14. 弦楽四重奏視聴会
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、課される課題を実施し、提出する。

◆成績評価の方法◆

課題の実施状況、授業に対する学習姿勢を総合的に成績評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布されるハンドアウト

◆参考図書◆

◆留意事項◆

課題提出は、コンピュータによる浄書を行い、常に実音化しながら学習することが望ましい。

ナンバリング	JZS446N		
科目名	作編曲D		
科目詳細			
担当教員	栗山 和樹		
学年	3年	クラス	01
講義室	6-020	開講学期	後期
曜日・時限	金4	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面的・批判的に理解し、考えることができる/4. 音楽の基本的な実践的スキルを身につけ、個性的な表現や独創的な創作ができる/5. 音楽に関する研究や調査の結果を、文章や制作物の形で表現できる/6. 大学で学		

◆授業目標◆

作編曲A,B 及びC で学んだ編曲技術を更に発展させ、ストリングス中心にした編曲を習得する。

◆授業内容・計画◆

- 1.ストリングスの基本
- 2.非和声音の扱い
- 3.潤色
- 4.和声骨格
- 5.ストリングスアレンジ
- 6.添削
- 7.ハーブの用法
- 8.プラスコンビネーションとハーブ
- 9.ボーカル曲のアレンジ(ハーブ)
- 10.ボーカル曲のアレンジ(カルテット)
- 11.ボーカル曲のアレンジ(ストリングス)
- 12.フレンチ・ホルン概論、用法研究
- 13.フレンチ・ホルンを含む編成規模とサウンド
- 14.ダブルリードの用法
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回、課される課題を実施し、提出すること。

◆成績評価の方法◆

課題提出と、授業への取り組む姿勢を総合的に成績評価する。授業中に課題を適宜フィードバックする

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する

◆参考図書◆

◆留意事項◆

課題提出には、コンピュータによる浄書により、常に実音化しながら学ぶことが望ましい。

ナンバリング	CCL657N		
科目名	コミュニティ音楽課題研究 I		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	木2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽の理論と実践について理解する。(2)コミュニティ音楽リーダー、指導者として必要な能力をさらに深める。(3)音楽ワークショップを企画・運営するための個人としての、グループとしての活動・協同の在り方を探求する。(4)研究課題を確認し、卒業研究につなげていくための基本的な内容を理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1 オリエンテーション 授業内容と課題の確認
- 2 リズムや簡単なふしを使った音楽あそび
- 3 幼児対象の音楽遊び 言葉を使ったアプローチ
- 4 幼児対象の音楽遊び 身体を使ったアプローチ
- 5 小学校低学年対象の音楽遊び 教科書掲載歌唱教材を使って
- 6 小学校低学年対象の音楽遊び 鑑賞と関わらせて
- 7 小学校高学年対象の音楽遊び 教科書掲載歌唱教材を使って
- 8 小学校高学年対象の音楽遊び 鑑賞と関わらせて
- 9 養護施設などのワークショップについてのアイデア交流
- 10 音楽ワークショップのプランニング
- 11 音楽ワークショップのコンテンツづくり 楽しい歌唱・器楽
- 12 音楽ワークショップのコンテンツづくり 即興表現、鑑賞など
- 13 音楽ワークショップの実践ー歌唱、器楽を中心に
- 14 音楽ワークショップの実践ー即興表現、鑑賞を中心に
- 15 まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の研究課題に則って、文献や関連資料を収集・整理しておくこと。課題発表に関しては、個人、グループの場合共にしっかりと準備をして臨むこと。(目安4～5時間/週)

◆成績評価の方法◆

課題研究への取組とレポートについて随時フィードバックし、これらの内容と成果により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料等を配布する。

◆参考図書◆

『短時間でパッとできる 音楽あそび大事典』明治図書。

◆留意事項◆

各自が自分の得意とする音楽分野や専門性を踏まえた上で授業に参加し、自らの研究課題を探求していくこと。各自が、個人またはグループでのコミュニティ音楽活動のボランティアを行いながら、そこでの活動内容や課題を卒業研究にフィードバックしていくことを望む。なお、音楽活動は複数学年で実施する場合もある。

ナンバリング	CCL658N		
科目名	コミュニティ音楽課題研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	津田 正之		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	月2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽リーダー、指導者として必要な能力を充実させる。(2)音楽ワークショップを企画・運営するための個人としての、グループとしての活動・協同の在り方を理解する。(3)研究報告を完成させる。(4)卒業研究発表会を企画し遂行する。

◆授業内容・計画◆

- 1 オリエンテーション
- 2 施設や主催者との企画・相談(オンラインも含む)
- 3 音楽ワークショップ1の企画立案ー全体計画
- 4 音楽ワークショップ1の企画立案ー役割を分担して進める1
- 5 音楽ワークショップ1の企画立案ー役割を分担して進める2
- 6 音楽ワークショップ1の実施 (6～7の2コマ分で実施する)
- 7 音楽ワークショップ1の実施
- 8 音楽ワークショップ1の振り返り
- 9 音楽ワークショップ2の企画立案
- 10 音楽ワークショップ2の企画立案ー役割を分担して進める1
- 11 音楽ワークショップ2の企画立案ー役割を分担して進める2
- 12 ワークショップ2の振り返り、全体のまとめ
- 13 研究報告の作成1
- 14 研究報告の作成2
- 15 研究発表・まとめ

◆準備学習の内容◆

各自の音楽ワークショップの役割をもとに、しっかりと計画を立てて準備をする。研究報告についても、役割を分担し、授業後の時間も確保して準備をして臨むこと。(目安4～5時間/週)

◆成績評価の方法◆

課題への取組について随時フィードバックし、これらの内容と成果により総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料などを配布する。

◆参考図書◆

随時、紹介する。

◆留意事項◆

。様々な課題に対して計画性をもって授業に臨むこと。3年生と共同して実施する場合もある。今年度の音楽ワークショップは、長野の養護施設、長野の県民ホールでの子ども向けのイベントを計画している。

ナンバリング	CCL655N		
科目名	コミュニティ音楽研究 I		
科目詳細			
担当教員	赤羽 美希		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-027	開講学期	前期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)日本のコミュニティ音楽を取り巻く状況について理解する。(2)コミュニティ音楽リーダー、指導者となるために必要な知識、技術を身につける。(3)批評的に事象や物事について考察する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション:コミュニティ音楽、コミュニティ音楽家とは
- 2.日本におけるコミュニティ音楽の現状と課題
- 3.ワークショップとは
- 4.ワークショップの導入活動(1)実習
- 5.ワークショップの導入活動(2)グループ1による発表とディスカッション
- 6.ワークショップの導入活動(3)グループ2による発表とディスカッション
- 7.楽器活動の導入、楽器を用いた音楽ゲーム(1)実習
- 8.楽器を用いた音楽ゲーム(2)創作
- 9.楽器を用いた音楽ゲーム(3)発表とディスカッション
- 10.合奏(1)即興的な要素を含む合奏
- 11.合奏(2)簡単なルールを用いた合奏
- 12.合奏(3)子どものうたを用いた合奏
- 13.合奏(4)パターンを用いた合奏
- 14.合奏(5)(1)～(4)の要素を組み合わせた合奏
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

教員が事前に各学生にファシリテーター役を割り当てて、実習してもらうことがある。教科書や配布された資料を事前によく読み、実習できるようにしておくこと。また、発表に際しては、十分に準備をして臨むこと。そのため、一定の時間が必要である。事前学習の目安1～3時間。発表の後、自身で実践を振り返り、改善点についてまとめておくこと。事後学習の目安1時間。

◆成績評価の方法◆

課題の発表に対し授業内でフィードバックするとともに、これらの内容や成果及び平常の授業への取り組みにより、総合的に判断評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『かんたん！ わくわく！ 楽器あそびと合奏の本』赤羽美希(ヤマハエンターテインメントホールディングス)

◆参考図書◆

『たのしい楽器あそびと合奏の本』赤羽美希(ヤマハエンターテインメントホールディングス)
『心ふれあうセッション ネット帳 for Kids』音楽之友社編(音楽之友社)
『静かな森の大きな木』生野里花・二俣泉編(春秋社)
『音楽ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著(あおぞら音楽社)
『即興演奏ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著(あおぞら音楽社)
『統合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音遊び』下川英子著(音楽之友社)

◆留意事項◆

学生の興味関心に沿って授業を進める。各自が自らの興味のある音楽分野や専門性を踏まえた上で、授業に取り組むこと。授業の中でグループワークを行うので、協力し、積極的に参加すること。授業を通して、自らのコミュニティ音楽に対する考え方や自身の実践の進め方について模索し、深めていってほしい。

ナンバリング	CCL656N		
科目名	コミュニティ音楽研究Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	赤羽 美希		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-027	開講学期	後期
曜日・時限	水2	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

(1)コミュニティ音楽リーダー、指導者となるために必要な知識、技術を身につける。(2)ワークショップを企画・運営するための基本的な事項を理解し、実践できるようになる。(3)批評的に事象や物事について考察する力を身につける。

◆授業内容・計画◆

- 1.オリエンテーション、世界各地の民族音楽的要素を取り入れた合奏
- 2.器楽アレンジ(1)グループ1による発表とディスカッション
- 3.器楽アレンジ(2)グループ2による発表とディスカッション
- 4.グループ創作
- 5.即興演奏(1)枠のある即興演奏
- 6.即興演奏(2)鍵盤を用いた即興演奏
- 7.サウundscape(1)音の出る地図作り
- 8.サウundscape(2)環境音を用いた音楽創作
- 9.ワークショップ実習(1)企画
- 10.ワークショップ実習(2)グループ1による発表とディスカッション
- 11.ワークショップ実習(3)グループ2による発表とディスカッション
- 12.コミュニティ音楽活動実習(1)企画
- 13.コミュニティ音楽活動実習(2)導入活動の実践とディスカッション
- 14.コミュニティ音楽活動実習(3)メイン活動の実践とディスカッション
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

発表に際しては、十分に準備をして臨むこと。そのため、一定の時間が必要である。事前学習の目安1～3時間。発表の後は、自身で実践を振り返り、改善点についてまとめておくこと。事後学習の目安1時間。

◆成績評価の方法◆

課題の発表に対し授業内でフィードバックするとともに、これらの内容や成果及び平常の授業への取り組みにより、総合的に判断評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『かんたん！ わくわく！ 楽器あそびと合奏の本』赤羽美希(ヤマハエンターテインメントホールディングス)

◆参考図書◆

- 『たのしい楽器あそびと合奏の本』赤羽美希(ヤマハエンターテインメントホールディングス)
- 『心ふれあうセッション ネットワーク for Kids』音楽之友社編(音楽之友社)
- 『静かな森の大きな木』生野里花・二俣泉編(春秋社)
- 『音楽ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著(あおぞら音楽社)
- 『即興演奏ってどうやるの』野村誠・片岡祐介著(あおぞら音楽社)
- 『統合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音遊び』下川英子著(音楽之友社)
- 『かんたん！ ワクワク！ 楽器あそびと合奏の本(伴奏CD付き)』(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)(2024年3月出版予定)

◆留意事項◆

学生の興味関心に沿って授業を進める。各自が自らの興味のある音楽分野や専門性を踏まえた上で、授業に取り組むこと。授業の中でグループワークを行うので、協力し、積極的に参加すること。授業を通して、自らのコミュニティ音楽に対する考え方や自身の実践の進め方について模索し、深めていってほしい。

ナンバリング	CCP651N		
科目名	鍵盤楽器調律実習 I		
科目詳細			
担当教員	水落 裕幸		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	前期
曜日・時限	土1,土2,土3,土4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アップライトピアノの調律（1台・全音域）を理解する。ピアノの音やハーモニーを楽しむ。

◆授業内容・計画◆

- 1.アップライトピアノの仕組みと各部名称、ケースの解体、調律の基本動作、工具解説
- 2.中音部ユニゾン調律（基本動作）、鍵盤・ハンマーアクションの仕組みと各部名称
- 3.中音部ユニゾン調律（音域拡大）
- 4.中音部ユニゾン調律（音域拡大と精度向上）
- 5.中音部ユニゾン調律（精度向上）
- 6.中音部ユニゾン調律、中音部オクターブ調律（基本動作）
- 7.中音部ユニゾン調律、中音部オクターブ調律（音域拡大）
- 8.中音部ユニゾン＆オクターブ調律（精度向上）
- 9.中音部ユニゾン＆オクターブ調律（精度向上）
- 10.低音・次高音部オクターブ＆ユニゾン調律（基本動作）、中音部ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
- 11.低音・次高音部オクターブ＆ユニゾン調律（音域拡大）、中音部ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
- 12.低音・次高音部オクターブ＆ユニゾン調律（精度向上）、中音部ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
- 13.低音・次高音部オクターブ＆ユニゾン調律（時間配分）、中音部ユニゾン調律（拾い直しの手順）
- 14.中音・低音・次高音部オクターブ＆ユニゾン調律（精度向上と時間配分・まとめ）
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習復習は不要
（予習復習に励むと調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級を目指すことも可能）

◆成績評価の方法◆

前期期末実技試験：音域を限定、1～2時間
期末試験では、1・2 限で調律を行い、終了後直ちに低音域・中音域・高音域の各ユニゾンと低音側・高音側の各オクターブの5項目について採点。
3・4 限では各自への講評をもとに調律の見直しを行います。
毎回の実習ではその日の調律の結果について講評を行い、見直しと次週以降の課題について伝えます。
各自それぞれのペースでスキルアップして行きます。

◆教科書（使用テキスト）◆

必要に応じて各授業内でプリントを配布します。

◆参考図書◆

ピアノの探求（アーサー・A、リブリッツ著、伊藤牧子訳）、ピアノ構成論（中谷孝男）；授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

1台で210～230本以上の弦を合わせるピアノの調律は、その1本ごとに高い精度が要求されるため最初は簡単ではありません。
まずは1音1音じっくり中音域のユニゾン・オクターブ調律、次に12平均律音階をつくる調律に取り組み、徐々に音域を拡張し、精度を上げ、スムーズな調律を目指して下さい。
音階の成り立ちについての理解と実践について確実に習得することを目指して下さい。
ピアノの音・音階・ハーモニーを楽しみながら、調律のスキルアップをし各自の音楽観も追求して深めて下さい。
温度や湿度がピアノの調律に与える影響についても考察します。
概論Ⅰ、Ⅱの授業内容への十分な理解も必要とされます。
「調律コース」受講生は在学中にピアノ調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級の受験も可能となります。
実習授業で必要になる専門工具（チューニングハンマーなど）は実習の都度貸与します。

ナンバリング	CCP652N		
科目名	鍵盤楽器調律実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	水落 裕幸		
学年	1年,3年	クラス	O1
講義室	調律棟2-211	開講学期	後期
曜日・時限	土1,土2,土3,土4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

アップライトピアノの調律（1台・全音域）を理解する。ピアノの音やハーモニーを楽しむ。

◆授業内容・計画◆

1. 前期実習の復習、中音・低音・次高音部オクターブ&ユニゾン調律
2. 中音部割振調律（完全4度と完全5度の基本）、低音・次高音部オクターブ&ユニゾン調律
3. 中音部割振調律（12音平均律）、低・中・高音部オクターブ&ユニゾン調律（音域拡大）
4. 中音部割振調律（ピッチ設定）、低・中・高音部オクターブ&ユニゾン調律（音域拡大）
5. 中音部割振調律（AからFまで）、低・中・高音部オクターブ&ユニゾン調律（精度向上）
6. 中音部割振調律（AからCisまで）、最低音・最高音部オクターブ&ユニゾン調律（音域拡大）
7. 中音部割振調律（AからEまで）、最低音・最高音部オクターブ&ユニゾン調律（音域拡大）
8. 中音部割振調律（長3度の理解）、最低音・最高音部オクターブ&ユニゾン調律（精度向上）
9. 中音部割振調律（長3度の検査）、最低音・最高音部オクターブ&ユニゾン調律（精度向上）
10. 中音部割振調律（精度向上）、全音域オクターブ&ユニゾン調律（音域拡大と精度向上）
11. 中音部割振調律（精度向上）、全音域オクターブ&ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
12. 中音部割振調律（時間配分）、全音域オクターブ&ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
13. 中音部割振調律（時間配分）、全音域オクターブ&ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
14. 調律全行程の時間配分と精度（まとめ）
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習復習は不要
（予習復習に励むと調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級を目指すことも可能）

◆成績評価の方法◆

後期期末実技試験；音域を限定、1時間30分～2時間
期末試験では、1・2 限で調律を行い、終了後直ちに低音域・中音域・高音域の各ユニゾンと低音側・高音側の各オクターブの5項目について採点。3・4 限では各自への講評をもとに調律の見直しを行います。
毎回の実習ではその日の調律の結果について講評を行い、見直しと次週以降の課題について伝えます。
各自それぞれのペースでスキルアップして行きます。

◆教科書（使用テキスト）◆

必要に応じて各授業内でプリントを配布します。

◆参考図書◆

ピアノの探求（アーサー・A、リブリッツ著、伊藤牧子訳）、ピアノ構成論（中谷孝男）；授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

1台で210～230本以上の弦を合わせる調律は、その1本ごとに高い精度が要求されます。
まずは1音1音じっくり中音域のユニゾン・オクターブ調律、次に12平均律音階をつくる調律に取り組み、徐々に音域を拡張し、スムーズな調律を目指して下さい。
音階の成り立ちについての理解と実践について確実に習得することを目指してください。
ピアノの音・音階・ハーモニーを楽しみながら、調律のスキルアップをしながら、各自の音楽観を追求して深めて下さい。
温度や湿度がピアノに与える影響についても考察します。
概論Ⅰ、Ⅱの授業内容への十分な理解も必要とされます。
「調律コース」受講生は在学中にピアノ調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級の受験も可能となります。
実習授業で必要になる専門工具（チューニングハンマーなど）は実習の都度貸与します。

ナンバリング	CCP653N		
科目名	鍵盤楽器調律実習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	水落 裕幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	前期
曜日・時限	土1,土2,土3,土4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アップライトピアノの調律（1台・全音域）を理解する。ピアノの音やハーモニーを楽しむ。

◆授業内容・計画◆

1. 全音域オクターブ&ユニゾン調律（動作・作業手順の再確認）
2. 割振調律（手順の復習）、全音域オクターブ&ユニゾン調律（精度向上）
3. 平均律音階理論の再確認、全音域オクターブ&ユニゾン調律（調律の保持と精度）
4. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（オクターブと4度・5度のハーモニー）
5. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（オクターブと長3度・長10度のハーモニー）
6. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（連続長3度と連続長10度）
7. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（低音オクターブ、短3度・長6度のハーモニー）
8. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（調律の保持と時間配分）
9. 割振調律・全音域オクターブ&ユニゾン調律（精度向上と時間配分）
- 10.1台目（全行程調律）、2台目（全音域オクターブ&ユニゾン）の時間配分
- 11.1台目（全行程調律）、2台目（全音域オクターブ&ユニゾン）の時間配分と精度向上
- 12.1台目（全行程調律）、2台目（全音域オクターブ&ユニゾン）の割振調律の精度向上
- 13.1台目・2台目（全行程調律）目標時間と時間配分
- 14.1台目・2台目（全行程調律）目標時間の短縮
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習復習は不要（予習復習に励むと調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級を目指すことも可能）

◆成績評価の方法◆

前期期末実技試験：1台全音域、1時間30分～3時間
 期末試験では、1・2限で調律を行います。終了後直ちに、割振り・ユニゾン（全音域）と低音域・中音域・高音域の各オクターブの5項目について採点。3・4限では各自への講評をもとに調律の見直しを行います。
 毎回の実習ではその日の調律の結果について講評を行い、見直しと次週以降の課題について伝えます。
 各自それぞれのペースでスキルアップして行きます。

◆教科書（使用テキスト）◆

必要に応じて各授業内でプリントを配布します。

◆参考図書◆

ピアノの探求（アーサー・A、リブリッツ著、伊藤牧子訳）、ピアノ構成論（中谷孝男）；授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

2年目の調律実習では、前年の最初の実習から積み重ねてきたことを精度と時間配分に留意しながら、より確実な調律を行うことを心掛けてください。
 調律の精度と時間短縮には相反する部分があります。
 また同じ作業の繰り返し、自身の進歩について実感しにくい状況につながることも少なくありません。
 精度が向上し時間も短縮出来るようになると、身体的にも精神的にも余裕が生まれ、
 それによってより確実に自身の歩みを振り返ることが出来るようになります。
 僅かな歩みでも信じて向かって行くこと、継続して行くことが重要です。
 ピアノの音・音階・ハーモニーを楽しみながら、調律のスキルアップをしながら、
 各自の音楽観を追求し深めて下さい。
 温度や湿度がピアノの調律に与える影響についても考察します。
 「調律コース」受講生はピアノ調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級の受験も可能となります。
 実習授業で必要になる専門工具（チューニングハンマーなど）は実習の都度貸与します。

ナンバリング	CCP654N		
科目名	鍵盤楽器調律実習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	水落 裕幸		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	後期
曜日・時限	土1,土2,土3,土4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

アップライトピアノの調律（1台・全音域）を理解する。ピアノの音やハーモニーを楽しむ。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期実習の復習（動作・作業手順の再確認）
- 2.2台全行程調律、調律の精度向上と時間配分
- 3.2台全行程調律、割振調律（中音の平均律音程）をきれいに保ち調律をまとめる
- 4.2台全行程調律、割振調律（中音の平均律音程）をきれいに保ち全音域に展開する
- 5.2台全行程調律、オクターブ調律において補完の4度5度のハーモニーを整え精度向上を目指す
- 6.2台全行程調律、最低音オクターブ調律において補完の短3度長6度のハーモニーを整え精度向上を目指す
- 7.2台全行程調律、（連続）4度、（連続）5度のハーモニーを整え精度向上を目指す
- 8.2台全行程調律、（連続）長3度、（連続）長10度のハーモニーを整え精度向上を目指す
- 9.2台全行程調律、オクターブ、2オクターブ、3オクターブのハーモニーを整え精度向上を目指す
- 10.2台全行程調律、ピアノのインハーモニシティについて理解する
- 11.2台全行程調律、精度向上と時間配分
- 12.2台全行程調律、精度向上と時間配分
- 13.2台全行程調律、目標時間を設定し精度向上を目指す
- 14.2台全行程調律、目標時間を設定し精度向上を目指す
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習復習は不要
（予習復習に励むと調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級を目指すことも可能）

◆成績評価の方法◆

後期期末実技試験；1台全音域、1時間30分～3時間
期末試験では、1・2 限で調律を行います。終了後直ちに、割振り・ユニゾン（全音域）と低音域・中音域・高音域の各オクターブの5 項目について採点。3・4 限では各自への講評をもとに調律の見直しを行います。
各週の実習ではその日の調律の結果について講評を行い、見直しと次週以降の課題について伝えます。
各自それぞれのペースでスキルアップします。

◆教科書（使用テキスト）◆

必要に応じて各授業内でプリントを配布します。

◆参考図書◆

ピアノの探求（アーサー・A、リブリッツ著、伊藤牧子訳）、ピアノ構成論（中谷孝男）；授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

2年目の調律実習の後期では、今まで積み重ねてきたことを精度と時間配分に留意しながらより確実な調律を行うことを心掛けてください。
調律の精度と時間短縮には相反する部分があります。
また同じ作業の繰り返しですが、自身の進歩について実感しにくい状況につながることも少なくありません。
精度が向上し時間も短縮出来るようになると、身体的にも精神的にも余裕が生まれ、それによってより確実に自身の歩みを振り返ることが出来るようになります。
僅かな歩みでも信じて向かって行くこと、継続して行くことが重要です。
ピアノの音・音階・ハーモニーを楽しみながら、調律のスキルアップをしながら、各自の音楽観を追求し深めて下さい。
温度や湿度がピアノの調律に与える影響についても考察します。
後期の後半では、調律の仕上がりによっては、グランドピアノの調律も行います。
「調律コース」受講生は調律師の国家資格、ピアノ調律技能師検定3級の受験も可能となります。
実習授業で必要になる専門工具（チューニングハンマーなど）は実習の都度貸与します。

ナンバリング	CCP655N		
科目名	鍵盤楽器整調実習 I		
科目詳細			
担当教員	伊藤 牧子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	前期
曜日・時限	金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

アップライトピアノの整調を理解する。

◆授業内容・計画◆

1. ピアノの歴史、構造、各部の名称と役割について
2. 整調の目的と項目、アクションの動きとエスケープメントメカニズム、ピアノの管理について
3. 構造確認、外装取り外し、グランドピアノとの比較、整調工具について
4. 外装及びアッセンブリ解体、ねじ締め、ハンマー弦合わせ、ジャック、バックチェック合わせ
5. 鍵盤調整、1次ロストモーション調整、ピアノの発達史、クリーニング
6. 打弦距離工具作成と調整、てこについて
7. 鍵盤高さ、深さ調整、2次ロストモーション調整
8. レットオフ調整、木材の種類と特性
9. ハンマーストップ調整
10. ダンパー調整(総上げ)、弦振動について
11. ダンパースプーンのかかり調整、ペダル調整
12. ブライドルワイヤー、ジャックストップレール調整
13. 整調で起こりうる不具合の原因と対策
14. 整調項目の整理、総点検
15. 前期期末試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

主要各部の名称と、アクションの動きを理解する。各整調項目の手順と工具類の適切な使い方を体得する。さらにピアノのタッチや音色への影響を理解する。

◆成績評価の方法◆

前期期末試験 ピアノの構造と各部の目的、整調項目の目的と手順について

ピアノの各部の名称とアクションの動きと各整調項目を理解する。全体の整調項目を一連の作業として確認する。

前半で筆記→実技試験を行い、終了後直ちに各整調項目について採点する。後半で各自への講評を元に見直しを行い、自発的な反復学習に役立てる。

◆教科書(使用テキスト)◆

アーサー・A. リブリッツ著/伊藤牧子訳「ピアノの探究」(定価8000円)※教科書は授業内で販売する、各種プリント

◆参考図書◆

中谷孝男「ピアノ構成論」、福島琢郎「ピアノの構造、調律、修理」、ジョン・ポール・ウィリアムズ「ピアノ図鑑」、アーサー・A. リブリッツ「PIANO SERVICING ,TUNING,REBUILDING、M・チェイピン、R・ブレイター「スタインウェイピアノがでるきまで」、PIANO NOMENCLATUR、竹内友三郎「ピアノの構造調律概説」、楽器の事典ピアノ(東京音楽社)、

◆留意事項◆

各整調項目について、実際のピアノやモデルで前回までの内容を復習しながら基礎となる手順と注意事項を学ぶ。ピアノの歴史と構造の変遷を通して、整調の目的、タッチや音への影響を考えていく。主要構造や部品は実物カットピアノや英語でも学習。整調工具は貸与。一部工具は自作し、木工材料や工具に慣れ親しむ。

ナンバリング	CCP656N		
科目名	鍵盤楽器整調実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	伊藤 牧子		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	後期
曜日・時限	金3,金4	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

アップライトピアノの整調を理解する。

◆授業内容・計画◆

1. アクション変遷、ダブルエスケープメントについて、海外ブランドと特徴
2. 国産ピアノの歴史と構造、ヤマハ初代1003号機見学～ハイブリッドピアノ
3. 各部ねじ締め、ハンマー弦合わせ、ジャック、バックチェック合わせ
4. 鍵盤調整と動きの確認、鍵盤のつくりと寸法
5. 鍵盤高さ、深さ調整によるはたらきの確認
6. ロストモーションによるはたらきの確認、各部材料の特性
7. 打弦距離、打弦点と倍音
8. レットオフ調整とはたらきについて
9. バックチェック調整、音波の性質について
10. ペダル調整、ダンパー調整
11. ダンパースプーン調整によるタッチ確認
12. グランドピアノとの比較、ピアノの経年変化
13. 整調音域の拡大、ハンマーヘッドの特性と整音
14. 整調項目の整理、総点検
15. 後期期末試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

アクションの正しいはたらきを確認しながら、整調の各項目を振り返る。各部の材料特性とアクションの動きが、ピアノのタッチや音にどのような関わっているか理解を深めていく。一連の整調手順の順序を守り、正しいはたらきで全ての行程を把握する。

◆成績評価の方法◆

後期期末試験:実技試験 中音域30分、筆記試験 1時間

期末試験では、各整調項目と一連の整調順序を正しいはたらきを理解しているか、またタッチや音への影響を理解しているか調べる。前半で試験を行い修了後、直ちに各整調項目について採点。後半では各自への講評を元に見直しを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

アーサー・A. リブリッツ著/伊藤牧子訳「ピアノの探究」定価8000円 ※教科書は授業内で販売する、各種プリント

◆参考図書◆

中谷孝男「ピアノ構成論」、福島琢郎「ピアノの構造、調律、修理」、ジョン・ポール・ウィリアムズ「ピアノ図鑑」、アーサー・A. リブリッツ「PIANO SERVICING ,TUNING,REBUILDING、M・チェイピン、R・プレイトー「スタインウェイピアノができるまで」、PIANO NOMENCLATUR、竹内友三郎「ピアノの構造調律概説」、楽器の事典ピアノ(東京音楽社)

◆留意事項◆

各整調項目について、実際のピアノで復習しながら、基礎となる手順について反復学習を積み上げていく。各部の材料特性、アクションの働きを念頭に、アップライトピアノの整調目的とタッチや音への影響を理解する。また、グランドピアノにおけるダブルエスケートメントシステムを理解する。楽器学資料館国産第1号ピアノを見学し、日本のピアノの発展を実感する。整調工具は貸与。一部工具は自作し、木工材料や工具に慣れ親しむ。

ナンバリング	CCP657N		
科目名	鍵盤楽器修理実習 I		
科目詳細			
担当教員	進藤 華奈		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	前期
曜日・時限	木2,木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ピアノ各部品の役割や仕組みを理解し、適切な修理、交換を行う。また、反復学習に努めることで精度を上げていくことを目標とする。併せてピアノの構造とその管理についての理解も深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.アクション部品の名称と仕組み、工具の扱い方と留意点
- 2.アクション部品の素材と各アッセンブリーの取り付け、取り外し
- 3.ハンマーバットアッセンブリーの修理(ハンマーバットフレンジセンターピン交換)
- 4.ウィッペンアッセンブリーの修理(ウィッペンフレンジセンターピン交換)
- 5.ウィッペンアッセンブリーの修理(ジャックフレンジセンターピン交換)
- 6.ダンパーレバーアッセンブリーの交換修理(ダンパーレバーフレンジセンターピン交換)
- 7.鍵盤ブッシングクロス貼替準備作業(膠仕込み)、素材や膠使用について
- 8.鍵盤バランスブッシングクロス、フロントブッシングクロス貼替修理
- 9.鍵盤ブッシングクロス貼替後の鍵盤調整、修正
- 10.ピアノ弦の特徴と断弦修理の準備と工具の扱い
- 11.高音部断弦修理(基本動作と弦の扱い)
- 12.高音部断弦修理(張弦作業)
- 13.ハンマーバットアッセンブリーの交換修理(ハンマーバットフレンジコード交換)
- 14.各フレンジセンターピン修理交換復習
- 15.実技試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

修理を行うにおいては、整調実習での学習内容と密接な関わりがありますので、アクション部品の名称とその役割、調整方法についての理解に努めてください。

◆成績評価の方法◆

期末実技試験:アクションセンターピンの交換修理
採点後には、個別に精度の確認と講評を行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて配布します。

◆参考図書◆

『ピアノ構成論』 中谷孝男 (国立音楽大学)
『ピアノ制作技術論』 ウォルヘンデン (国立音楽大学)

◆留意事項◆

修理実習では様々な種類の修理の中から、実際に機会の多いものを行います。
工具の取り扱いに充分注意し、精度が得られるよう確認しながら進めていきます。
限られた回数での実習の為、欠席や遅刻などで経験できない修理が出てしまう可能性がありますので、体調管理などに気をつけてください。
修理用工具は貸与します。

ナンバリング	CCP658N		
科目名	鍵盤楽器修理実習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	進藤 華奈		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	調律棟2-211	開講学期	後期
曜日・時限	木2,木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

鍵盤楽器修理実習Ⅰでの修理を基本に、整調実習の復習も進めながら修理後の調整を習得する。構造への理解を深めるとともに楽器の故障の原因や適切な管理について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1.断弦修理の手順復習
- 2.断弦修理の検証、修正
- 3.ハンマーバットアッセンブリー、ダンパー アッセンブリーの修理
- 4.ウィップンアッセンブリーの修理
- 5.鍵盤ブッシングクロスの交換
- 6.鍵盤ブッシングクロス貼替後の調整と修正
- 7.ペダルの仕組み、解体
- 8.白鍵材の貼替修理(上面材取り外し、接着)
- 9.白鍵材の貼替修理(上面材成形)
- 10.白鍵材の貼替修理(面取り加工)
- 11.白鍵材の貼替修理(研磨、仕上げ)
- 12.断弦修理の復習
- 13.ピアノ解体修理の工程と方法
- 14.各フレンジセンターピン修理交換復習
- 15.実技試験とまとめ

◆準備学習の内容◆

修理、調整の作業精度をより高めるために、修理実習Ⅰでの内容とともに整調実習の内容を含めて、それぞれの工程を復習、確認してください。

◆成績評価の方法◆

期末試験:アクションセンターピン交換修理の実技試験
(後期に関しては、ハンマーバットフレンジのみセンターピン交換は2つになります)
採点後には、個別に精度の確認と講評を行います。

◆教科書(使用テキスト)◆

必要に応じて配布します。

◆参考図書◆

『ピアノ構成論』 中谷孝男 (国立音楽大学)
『ピアノ製作技術論』 ウォルヘンデン (国立音楽大学)

◆留意事項◆

修理する工程で、どのように精度が出ているかその都度検証しながら進めていきます。
繰り返し取り組みながら自身の指先の動きや工具の角度などを意識し、丁寧に取り組むようにしてください。
修理使用工具は貸与します。

ナンバリング	CEL901N		
科目名	鍵盤楽器概論Ⅰ		
科目詳細	2024年度以前入学生		
担当教員	太田 垣 至		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

ピアノの調律や調整技術を学ぶために必要な鍵盤楽器に関する基礎知識(歴史、構造、材料、楽器の維持管理など)を学ぶ。また鍵盤楽器に関する様々な専門職について知り、楽器製作・修復の実際の仕事を見るなどして見識を深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.鍵盤楽器の仕事－調律師、技術者の実際、鍵盤楽器に関わるいろいろな仕事
- 2.日本の鍵盤楽器の歴史と現状、未来
- 3.鍵盤楽器の歴史(1)クラヴィコード、チェンバロ
- 4.鍵盤楽器の歴史(2)ピアノの誕生
- 5.鍵盤楽器の歴史(3)ウイーン式ピアノ
- 6.鍵盤楽器の歴史(4)イギリス式ピアノ
- 7.鍵盤楽器の歴史(5)シングルエスケープメント、ダブルエスケープメント
- 8.鍵盤楽器の歴史(6)モダンピアノ
- 9.作曲家とピアノ
- 10.製作の実際(フォルテピアノやクラヴィコードの実際の製作過程を見て製作の基本を知る)
- 11.修復と修理の違い(モダンピアノの修理マニュアルとオリジナル楽器の修復過程を比較し、修理と修復について考える)
- 12.木材について(ピアノに使う木材の樹種の特徴、加工方法を知る)
- 13.ピアノに使われる材料について(革、フェルト、クロスなどの材料の特徴、使われ方、素材の歴史や製造法を知る)
- 14.調律、整調の実際
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で随時配布する資料を予習、復習してください。

◆成績評価の方法◆

学期末レポート。その他、随時レポート課題を出し成績評価します。授業内で講評しフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

「THE PIANOFORTE」R.E.M HARDING ;授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

ナンバリング	CEL903N		
科目名	鍵盤楽器概論A		
科目詳細	2025年度以降入学生		
担当教員	太田 垣 至		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	3-114	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内国外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

ピアノの調律や調整技術を学ぶために必要な鍵盤楽器に関する基礎知識(歴史、構造、材料、楽器の維持管理など)を学ぶ。また鍵盤楽器に関する様々な専門職について知り、楽器製作・修復の実際の仕事を見るなどして見識を深める。

◆授業内容・計画◆

- 1.鍵盤楽器の仕事－調律師、技術者の実際、鍵盤楽器に関わるいろいろな仕事
- 2.日本の鍵盤楽器の歴史と現状、未来
- 3.鍵盤楽器の歴史(1)クラヴィコード、チェンバロ
- 4.鍵盤楽器の歴史(2)ピアノの誕生
- 5.鍵盤楽器の歴史(3)ウイーン式ピアノ
- 6.鍵盤楽器の歴史(4)イギリス式ピアノ
- 7.鍵盤楽器の歴史(5)シングルエスケープメント、ダブルエスケープメント
- 8.鍵盤楽器の歴史(6)モダンピアノ
- 9.作曲家とピアノ
- 10.製作の実際(フォルテピアノやクラヴィコードの実際の製作過程を見て製作の基本を知る)
- 11.修復と修理の違い(モダンピアノの修理マニュアルとオリジナル楽器の修復過程を比較し、修理と修復について考える)
- 12.木材について(ピアノに使う木材の樹種の特色、加工方法を知る)
- 13.ピアノに使われる材料について(革、フェルト、クロスなどの材料の特色、使われ方、素材の歴史や製造法を知る)
- 14.調律、整調の実際
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で随時配布する資料を予習、復習してください。

◆成績評価の方法◆

学期末レポート。その他、随時レポート課題を出し成績評価します。授業内で講評しフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし

◆参考図書◆

「THE PIANOFORTE」R.E.M HARDING ;授業内で随時紹介します。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS695N		
科目名	ジャズ応用演習 I		
科目詳細			
担当教員	金子 健, 池田 篤		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-001	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連 : 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかをアンサンブルを中心として理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] シヤスを演奏するとは
ジャズ演奏法の基礎
- [2] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (1)
“Now’s The Time”
- [3] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (2)
“Blue Monk”
- [4] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (3)
“Sandu”
- [5] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (1)
“I Got Rhythm”
- [6] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (2)
“Oleo”
- [7] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (3)
“Rhythm-a-ning”
- [8] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (1)
“Autumn Leaves”
- [9] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (2)
“Bye Bye Black Bird”
- [10] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (3)
“But Not For Me”
- [11] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (4)
“There Will Never Be Another You”
- [12] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (5)
“Just Friends”
- [13] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (6)

◆準備学習の内容◆

積極的にジャズの音源、演奏に触れること

◆成績評価の方法◆

最終授業にアンサンブル公開試験を行い、平常点と試験により評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

ジャズ入門A及びBを履修することが望ましい

ナンバリング	CCS696N		
科目名	ジャズ応用演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	金子 健, 池田 篤		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	N-001	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかをアンサンブルを中心として理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (1)
Duke Ellingtonの作品より
- [2] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (2)
Billy Strayhornの作品より
- [3] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (3)
Charlie Parkerの作品より
- [4] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (4)
Tadd Dameronの作品より
- [5] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (5)
Miles Davisの作品より
- [6] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (6)
Benny Golsonの作品より
- [7] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (1)
- [8] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (2)
- [9] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (3)
- [10] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (4)
- [11] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (4)
- [12] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (5)
- [13] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (6)
- [14] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (7)
- [15] ジャズアンサンブル研究発表

◆準備学習の内容◆

積極的にジャズの音源、演奏に触れること

◆成績評価の方法◆

最終授業にアンサンブル公開試験を行い、平常点と試験により評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

ジャズ入門A及びBを履修することが望ましい

ナンバリング	CCS697N		
科目名	ジャズ応用演習Ⅲ		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかをアンサンブルを中心として理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] ジャズを演奏するとは
ジャズ演奏法の基礎
- [2] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (1)
“Now’s The Time”
- [3] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (2)
“Blue Monk”
- [4] ブルース
ブルースの演奏法と実践 (3)
“Sandu”
- [5] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (1)
“I Got Rhythm”
- [6] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (2)
“Oleo”
- [7] リズム・チェンジ
リズム・チェンジの演奏法と実践 (3)
“Rhythm-a-ning”
- [8] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (1)
“Autumn Leaves”
- [9] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (2)
“Bye Bye Black Bird”
- [10] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (3)
“But Not For Me”
- [11] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (4)
“There Will Never Be Another You”
- [12] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (5)
“Just Friends”
- [13] ジャズ・インタープリテーション
ソングライターの楽曲より (6)

◆準備学習の内容◆

積極的にジャズの音源、演奏に触れること

◆成績評価の方法◆

最終授業にアンサンブル公開試験を行い、平常点と試験により評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

ジャズ入門A及びBを履修することが望ましい

ナンバリング	CCS698N		
科目名	ジャズ応用演習Ⅳ		
科目詳細			
担当教員	塩谷 哲		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	3別-A	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

ジャズの演奏法そしてインプロヴィゼーションを学び、身につけるためには、三つの大切な事柄があります。それは、ジャズを聴くこと、練習すること、そして実践することです。この授業では、ジャズを演奏するための最低限必要な知識や方法を総合的に学び、何を聴くか、何を練習するか、そしてどのように実践するかをアンサンブルを中心として理解し体験することを目的とします。

◆授業内容・計画◆

- [1] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (1)
Duke Ellingtonの作品より
- [2] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (2)
Billy Strayhornの作品より
- [3] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (3)
Charlie Parkerの作品より
- [4] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (4)
Tadd Dameronの作品より
- [5] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (5)
Miles Davisの作品より
- [6] ジャズ・アンサンブル
ジャズ・オリジナル楽曲より (6)
Benny Golsonの作品より
- [7] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (1)
- [8] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (2)
- [9] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (3)
- [10] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (4)
- [11] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (4)
- [12] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (5)
- [13] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (6)
- [14] ジャズ・アンサンブル
編曲と実践 (7)
- [15] ジャズアンサンブル研究発表

◆準備学習の内容◆

積極的にジャズの音源、演奏に触れること

◆成績評価の方法◆

最終授業にアンサンブル公開試験を行い、平常点と試験により評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布

◆参考図書◆

授業内で指示

◆留意事項◆

ジャズ入門A及びBを履修することが望ましい

ナンバリング	CCS935N		
科目名	音楽データサイエンス研究ゼミⅠ		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	前期
曜日・時限	木1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

この講義を通して音楽データサイエンスの基礎を習得する。特に音や音楽をAI・データサイエンスで扱う基礎について学ぶ。

◆授業内容・計画◆

- 1.はじめに データサイエンスに必要な事項
- 2.プログラミングの基礎 Pythonの導入
- 3.音響信号の取得
- 4.音響信号の可視化1 時間波形とRMS
- 5.音響信号の可視化2 スペクトルとスペクトログラム
- 6.音響信号の可視化3 スペクトル重心
- 7.音響信号の可視化4 zero-crossing
- 8.音響信号の可視化5 contrast, flatness, rolloff
- 9.音響信号の可視化6 chroma
- 10.音響信号の可視化7 tempo, tempogram
- 11.データの可視化1 平均, 分散
- 12.データの可視化2 様々なグラフ
- 13.応用課題:自己データの分析と解釈
- 14.全体討論
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、かつ事前に配布された動画等の資料を視聴し、理解を深める。また、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

小久保 奈都弥(著),「データ分析者のためのPythonデータビジュアライゼーション入門 コードと連動してわかる可視化手法」, 翔泳社, (2020)
ISBN-13:978-4798163970 ¥2400+TAX

◆参考図書◆

授業中に適宜指示する

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	CCS936N		
科目名	音楽データサイエンス研究ゼミⅡ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	金3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

本科目では「(演奏、創作、体験の共有など)さまざまな音楽活動に対する人工知能(AI)の活用」を主題として、人工知能が音楽の世界をどのように変容させるかを議論する。授業においては調査と演習、プロトタイプ制作実習を通じて知見とスキルを積み重ね、人工知能の存在を前提とした希望ある音楽社会のあり方を提案できるようになることを目指す。個別の目標は以下の通り。(1) 音楽データ・AIの利活用を取り巻く実情を調査し、情報収集のスキルを高める。(2) 技術演習を通じて、自身の音楽活動への活用可能性を探る。(3) 企画案に対するプロトタイプを制作して具現化し、効果的なプレゼンテーションを行う。

◆授業内容・計画◆

授業内容は、各トピックに関する講義とディスカッション、調査、技術実習など多岐にわたる。最終的にAIの音楽的活用について企画・提案し、制作したプロトタイプを用いて口頭プレゼンテーション発表を行う。

- [概論]
- 1) AIが音楽にもたらした変化(計算機の処理性能の向上、知的活動とAI)
- 2) 様々な領域での活用(サービス、研究への利活用事例)
- [音楽・アートとAIを取り巻く実態調査]
- 3) 音楽の知識表現(音声・音楽データの構造、音楽データの視覚表現、オープンデータ)
- 4) 音楽AI研究の最新動向(高度AI技術による芸術表現)
- 5) 調査レポート発表とグループディスカッション
- [技術演習体験]
- 6) 楽譜データの生成処理(自動アルゴリズム作曲法)
- 7) 時系列音声データの処理(歌声合成・スタイルトランスファー)
- 8) 解析・音源分離(解析による特徴抽出)
- 9) 推薦エンジン(データ集計によるパーソナライゼーション)
- 10) 創作・演奏・学習支援
- 11) 音楽外AIテクノロジーの利用(画像解析、言語・身体情報の可聴化)
- [AIアートの諸問題]
- 12) 倫理的問題(セキュリティ、個人情報、フェイク、表現への責任と尊厳)
- 13) 美学的・哲学的問題(作家性・創造性・フレーム問題)
- [プロトタイピング制作実習]
- 14) プロトタイプの制作
- 15) プレゼンテーション発表と講評(利活用の将来像)

◆準備学習の内容◆

データ・AI利活用事例の学習については反転学習方式を予定しており、動画視聴や調査など毎週1時間程度のインプット作業を行うことを推奨する。
また最終課題の遂行にあたっては日々の積み重ねが重要となり、資料作成や制作作業などアウトプット作業を1時間程度行うことを推奨する。

◆成績評価の方法◆

提出課題およびプレゼンテーション発表について多角的に評価し、授業内での講評により学生へのフィードバックを行う。
その他、授業内実習やディスカッションへの取り組みも総合的に考慮して評価を決定する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で指示する。

◆参考図書◆

授業内で指示する。

◆留意事項◆

ナンバリング	CCS937N		
科目名	音楽データサイエンス研究ゼミⅢ		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽データサイエンスの応用を習得するために、音楽信号の分析と可視化の応用を学ぶ、

◆授業内容・計画◆

1.はじめに

2.機械学習1 ナイーブベイズ

3.機械学習2 決定木

4.機械学習3 SVM

5.機械学習4 ランダムフォレスト

6.ディープラーニングによる学習1 CNNの構築

7.ディープラーニングによる学習2 CNNの評価

8.ディープラーニングによる学習3 RNNの構築

9.ディープラーニングによる学習4 RNNの評価

10.時系列データに対する分析1 LSTMの構築

11.時系列データに対する分析1 LSTMの評価

12.自己課題の設定と実施

13.自己課題の実施と評価

14.全体討論

15.まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、かつ事前に配布された動画等の資料を視聴し、理解を深める。また、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

Sebastian Raschka (著), Vahid Mirjalili (著), 株式会社クイープ (著), 福島 真太郎 (著), 「[第3版]Python機械学習プログラミング 達人データサイエンティストによる理論と実践 impress top gearシリーズ」, インプレス (2020/10/22). ASIN : B08LYWFPQ9 ￥4400

◆参考図書◆

hima2b4著,「Pythonでデータを視覚化する」,シーアンドアール研究所(2023). ￥2680+TAX

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	CCS938N		
科目名	音楽データサイエンス研究ゼミⅣ		
科目詳細			
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水1	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

音楽データサイエンスゼミの集大成として、音楽DSに関する統合システムを提案、実装し、評価する。

◆授業内容・計画◆

- 1.はじめに 音楽DS統合システムにむけて
2. GUIの構築 Tkinterの稼働
3. GUIの構築 Tkinterの実装
4. 推薦システムの開発1 仕組みの理解
5. 推薦システムの開発2 仮実装
6. 推薦システムの開発3 稼働と評価
7. データスクレイピング1 仕組みの理解
8. データスクレイピング2 実装
9. 応用課題の選定1 発案と試作
- 10.応用課題の選定2 評価と決定
- 11.応用課題の実装1 方針決定
- 12.応用課題の実装2 実装
- 13.応用課題の発表と評価
- 14.全体討論
- 15.まとめ

◆準備学習の内容◆

次の授業までに授業計画を参考にキーワードを理解し、かつ事前に配布された動画等の資料を視聴し、理解を深める。また、適宜インターネットを用いた検索などを用いた予習が望ましい(目安2時間)。

◆成績評価の方法◆

授業中に課されたレポートに対するフィードバックと授業内試験、および授業への取り組みを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

辛島信芳(著),「Pythonをおぼえた人がGUIアプリケーション開発をするためのtkinter速習入門: 標準ライブラリでGUI作成」, Kindle版(2019) ¥780+TAX
 風間 正弘(著), 飯塚 洸二郎(著), 松村 優也(著),「推薦システム実践入門 ―仕事で使える導入ガイド」, オライリージャパン(2022) ISBN-13:978-4873119663 ¥3200+TAX

◆参考図書◆

キーラン・ヒーリー(著), 瓜生 真也(翻訳), 江口 哲史(翻訳), 三村 喬生(翻訳),「実践Data Scienceシリーズ データ分析のためのデータ可視化入門」, 講談社(2021) ISBN-13:978-4065164044 ¥3200+TAX

◆留意事項◆

本授業ではパソコンが必須である。教室のパソコンが使えるものの、パソコンを自分で準備することを強く薦める。WindowsまたはMacのどちらでも構わないが、授業ではWindowsを用いて説明するため、Macを使っている人は自分で問題解決をする必要がある。演習の結果はインターネット上のGoogle Classroomで提出するため、パソコンの基本的な操作を習得しておく必要がある。

ナンバリング	TTS001N		
科目名	合唱 I		
科目詳細	女声合唱【2鍵女】		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年,2年	クラス	O1
講義室	N-127	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

汲めど尽きない合唱音楽の魅力を体現するために、自ら進んでアンサンブルし、調和を求め、ハーモニーを深める。音楽を構築し演奏するために、演奏技術の修練と深い知識を求める。この授業での実体験を通して、演奏家としても音楽教育者としてのグローバルな視野を培うことを目的とし、音楽の本質的な楽しみを実感しながら学びを深める。世界各国から届けられた歌のルーツ、原点についても思考を巡らせ、豊かな音楽に対する感性を培う。

◆授業内容・計画◆

- 1.本授業におけるガイダンス 選曲をすること、教材を選ぶということ、合唱におけるパートを編成すること 合唱音楽のルーツとは「さあ歌おう！美しい合唱曲を！！」
- 2.効果的なウオーミングアップの研究1:美しい宗教曲を歌おう① AVE MARIAとは、聖母賛歌とは
- 3.効果的なウオーミングアップの研究2:美しい宗教曲を歌おう② AVE VERUM CORPUSとは、モテットとは
- 4.効果的な発声練習の考察1:美しい宗教曲を歌おう③ マリア讃歌とは 詩編とは
- 5.効果的な発声練習の考察2:美しい宗教曲を歌おう④ ミサ曲とは
- 6.効果的な発声練習の考察3: 日本抒情歌を歌おう①世代を超えて歌い継がれる愛唱歌
- 7.効果的なアンサンブルの考察1: 日本抒情歌を歌おう②四季を感じる愛唱歌
- 8.効果的なアンサンブルの考察2: 日本抒情歌を歌おう③アレンジの魅力を味わおう
- 9.合唱を指揮すること1: 合唱曲のレパートリーを広げよう①
- 10.合唱を指揮すること2: 合唱曲のレパートリーを広げよう②
- 11.作品の魅力に触れよう1: 詩人、作曲家人物、テキストへの理解を深めるために
- 12.作品の魅力に触れよう2: 演奏表現を深めるために
- 13.プログラムビルディングの考察①12月の演奏会に向けて
- 14.プログラムビルディングの考察②コンサートの選曲、コンサートのマネージメント
- 15.前期まとめ

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、など主体的に調べ、深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となると思われる。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。授業で取り扱う様々な様式の作品の楽曲分析、楽曲解説をレポートとし提出する。試験は実施しないが、都度の授業で、合唱指揮、合唱指導、合唱伴奏の実践、アンサンブル発表を行い、それらへの取り組み、成熟度を評価対象とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リーダーシャッツIV』女声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 (カワイ出版)・『アヴェ・マリア曲集』 女声合唱版 金澤正剛校訂監修 (カワイ出版)・女声合唱による『日本抒情歌曲集』林光編曲 (全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。使用教材は4冊を併用しながら、その関連性の中で学びを深めていきたいと考えてシラバスとしての毎授業の柱を構築している。古今東西という大きな振れ幅がある音楽には時代や国境の垣根は無いので、シラバスの柱が横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい

ナンバリング	TTS001N		
科目名	合唱 I		
科目詳細	混声合唱【2SJCJCD療情、2鍵男】		
担当教員	木島 タロー		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

合唱の表現と指導方法を身につける。芸術活動としてのみならず、幅広い世代の人々が実生活の中で楽しみ学びを深めることができるコーラスを学び、アンサンブル能力を深める。

◆授業内容・計画◆

1. シンプルな楽曲
2. 歴史①西洋宗教楽曲などの学修
3. 基礎①リズムについて
4. 基礎②発声について
5. 理論①和声構造について
6. 歴史②黒人霊歌の学修
7. 基礎③発音について
8. 歴史③パワーコーラス型合唱の学修
9. 理論②伴奏形とのコンビネーション
10. 実践①英語楽曲学修
11. 実践②日本語楽曲学修
12. 実践③アップビートの楽曲
13. 実践④スローな楽曲
14. 実践⑤ステージでの魅せ方
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

教材楽曲について、原則として毎曲暗譜を必要とする。楽曲言語の発音について日々の練習を必要とする。また、発声訓練を日々行うことが強く推奨される。以上の合計に、目安として1日に15分、週に4日以上。

◆成績評価の方法◆

平常の授業、出席率、提出課題(レポート)への取り組み状況により評価する。
課題については、授業内および Classroom などを用いた通信で随時フィードバックする。教職の資格に関わる科目であるため、出席不正については厳正に対処する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書(使用テキスト)について、学修の進捗を見て、500円から1000円以下程度のピース1点の導入(その時点で発注/各自購入)を検討する可能性がある。

◆参考図書◆

『6色発声トレーニング』木島タロー著(日本音楽レ・クリエーション指導協会)
『歌って生き抜け 命のコーラス ～宗教ファジー日本はゴスペルから何を継ぐのか～』木島タロー著(ギャラクシーブックス)

◆留意事項◆

授業内で配布される資料をまとめるためのファイルを持つこと。見開きA3か、A4の資料が中心になる。書き込みができる形でのファイリングを推奨。色ペンも推奨される。
一度配布された楽譜は必ず毎授業に持参しなくてはならない。
なお、タブレットを使用する学生には、PDFでの配布も可能。
スマホで楽譜資料を見ることは、画面が小さく実用的でないため認めない。
授業内容については学習の進捗により変化する可能性がある。

ナンバリング	TTS002N		
科目名	合唱Ⅱ		
科目詳細	女声合唱【2鍵女】		
担当教員	藤原 規生		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	N-127	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

合唱音楽における多様性、アカデミックさ、精神性、大衆性、社会性を、12月の演奏会での主体的な実践を通して学びを深める。コンサートでのステージ構成の構築、コンサートに向けてのプロセス全てを体現することで、演奏家としても音楽教育者としてのグローバルな視野を培うこと、そのための技術向上を目的とする。

◆授業内容・計画◆

- 1.前期のレパートリーを深めよう 12月のコンサートに向けて選曲 プログラムビルディング
- 2.コンサートへの実践・総合演習① 指揮者、伴奏者の役割 効果的な指導法
- 3.コンサートへの実践・総合演習② 響きのある発声法とは ホールや聖堂を意識した発声法とは
- 4.コンサートへの実践・総合演習③ 歌うこと 語ること 発語すること
- 5.コンサートを成功させるとは！ コンサートマネジメント 集客への意識を高めよう
- 6.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察① 音楽的アプローチ
- 7.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察② 伝わる、伝える演奏とは
- 8.効果的な演奏に仕上げていくためのリハーサルビルディングの考察③ 演奏者の喜び
- 9.リーダーシャッツ 歌の宝物 幅広いレパートリーはまさに音楽という宝物
- 10.コンサートのリハーサルを高めよう①作品ごとの様式を意識した演奏を
- 11.コンサートのリハーサルを高めよう②アンサンブルの充実を
- 12.コンサートのリハーサルを高めよう③合唱音楽の可能性と多様性、そして楽しみ
- 13.コンサートでの実践は宝物：舞台空間という不思議
- 14.人の声の美しさ、人の心の美しさ それが合唱の温かさ、エネルギー
- 15.前期後期の総括

◆準備学習の内容◆

合唱という授業にはハーモニーを創り上げる、アンサンブルを楽しむ、という目的が主眼にあるので、少しの時間の積み重ねでの音楽的な予習復習がより効果をあげていく。(1日10分程度の練習を重ねること)また取り扱う作品は古今東西の名作品ばかり。音楽史的な背景、言語の多様性、声楽作品の形態について、など主体的に調べ、深めることは、演奏家として、音楽教育者としての大きな礎となると思われる。併せて指揮者、伴奏者としての役割、在り方についても思考を巡らせ創意工夫したい。

◆成績評価の方法◆

「合唱」は一人では成り立つことのできない。人と人の交わり、アンサンブル、調和が大切であることは言うまでもない。故に授業、演奏会等の行事に参加し、共にハーモニーを奏でる積極性、主体性、協調性を重視する。その意味においても授業への参加意欲、そこに向ける個人の準備、その取り組みを評価する。課題については授業内、Classroomで適宜フィードバックする。授業で取り扱う様々な様式の作品の楽曲分析、楽曲解説をレポートとし提出する。試験は実施しないが、都度の授業で、合唱指揮、合唱指導、合唱伴奏の実践、アンサンブル発表を行い、それらへの取り組み、成熟度を評価対象とする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『リーダーシャッツⅣ』女声合唱/名曲篇 JCDA日本合唱指揮者協会篇 (カワイ出版) ・ 『アヴェ・マリア曲集』 女声合唱版 金澤正剛校訂 監修 (カワイ出版)・女声合唱による『日本抒情歌曲集』林光編曲 (全音楽譜出版社)

◆参考図書◆

『宗教音楽対訳集成』(国書刊行会)、『ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック』(ショパン社)等

◆留意事項◆

本授業では合唱音楽の魅力を体感し、その神髄に触れることも目的としている。幅広い作品群を取り上げ、横断的にかつ有機的に絡み合いながら授業を展開していくことを理解することで、音楽する無上の喜びを味わってほしい。12月の演奏会に向けて前期以上に指揮者、ピアニスト、アンサンブルトレーナー、アンサンブルメンバーなどその役割を担うことで、深い学びと演奏体験を充実させることを望んでいる。

ナンバリング	TTS002N		
科目名	合唱Ⅱ		
科目詳細	混声合唱【2SJCD療情、2鍵男】		
担当教員	木島 タロー		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木5	単位数	1単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を		

◆授業目標◆

合唱の表現力と指導能力を磨く。楽曲の求める表現を的確、迅速に理解し、必要な練習を自ら行うことができる能力を身につける。コーラス以外の様々な演奏や音楽活動に適用できるリズムやピッチに関するアンサンブルのセンスを養う。

◆授業内容・計画◆

1. 基礎①ビブラートの活用法
2. 基礎②楽曲内での発声の切り替え
3. 実践①複雑な楽曲の学修・音構成
4. 実践②複雑な楽曲の学修・ニュアンス
5. 基礎③身体表現との関わりについて
6. 歴史①黒人霊歌
7. 歴史②ポピュラー音楽
8. 実践③教育現場向け音楽の実践
9. 伴奏形とのコンビネーション
10. 実践④ステージでの表現
11. 実践⑤歴史的な表現方法
12. 実践⑥感情表現の手法
13. 実践⑦微細な表現
14. ディスカッション
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

教材楽曲について、原則として毎曲暗譜を必要とする。楽曲言語の発音について日々の練習を必要とする。また、発声訓練を日々行うことが強く推奨される。以上の合計に、目安として1日に20分以上。

◆成績評価の方法◆

平常の授業、出席率、提出課題(レポート)への取り組み状況により評価する。
課題については、授業内およびClassroomなどを用いた通信で随時フィードバックする。
教職に関わる科目であるため、出席不正については厳正に対処する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書(使用テキスト)について、学修の進捗を見て、500円から1000円以下程度のピース1点の導入(その時点で発注/各自購入)を検討する可能性がある。

◆参考図書◆

『6色発声トレーニング』木島タロー著(日本音楽レ・クリエーション指導協会)
『歌って生き抜け 命のコーラス ～宗教ファジー日本はゴスペルから何を継ぐのか～』木島タロー著(ギャラクシーブックス)

◆留意事項◆

授業内で配布される資料をまとめるためのファイルを持つこと。見開きA3か、A4の資料が中心になる。書き込みができる形でのファイリングを推奨。色ペンも推奨される。
一度配布された楽譜は必ず毎授業に持参しなくてはならない。
なお、タブレットを使用する学生には、PDFでの配布も可能。
スマホで楽譜資料を見ることは、画面が小さく実用的でないため認めない。
授業内容については学習の進捗により変化する可能性がある。

ナンバリング	TTS003N		
科目名	教科研究(合奏)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	松浦 孝成		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

リコーダーの基本奏法を学ぶ。リコーダー合奏を通して、協力しひとつの音楽を作り上げる過程を体験し楽しむことができる。リコーダーのために作曲・編曲された作品を演奏し、リコーダー音楽の多様性、可能性そして楽しさを知ることができる。

◆授業内容・計画◆

1.カイタンス
アルトリコーダーを使って基本的奏法1.息・舌(タンギング)・指 中音域を使って練習
2.アルトリコーダーを使って基本的奏法2.中・低音域 曲「カノン」ほか スタッカートの練習 曲「聖者の行進」ほか
3.アルトリコーダーを使って基本的奏法3.中・低音域 曲「バス・ダンス」ほか スラーの練習 曲「アメイジング・グレイス」ほか
4.アルトリコーダーを使って基本的奏法4.高音域・全音域 曲「春の日の花と輝く」、「四季より春」ほか
リコーダーの歴史の講義
5.アルトリコーダーでやさしいアンサンブル(最低音、派生音も使った曲の練習) 曲「皇帝より2楽章」ほか
6.これまでに練習してきた曲を少人数のグループに分かれて発表し、お互いの演奏を聴く
7.講師によるリコーダー・ミニコンサート～大小8種類のリコーダーの紹介と演奏～
リコーダーの種類の講義
ソプラノ、アルトリコーダーを使った簡単なアンサンブル 曲「ビギナーズ・ビギン」、「マーチ」ほか
上記の曲でテナー、バスリコーダーも使ってみる。

8～13は、グループに分かれて重奏(3重奏以上) と、クラス全員でリコーダーオーケストラの授業をおこなう。
◆重奏では、各パートの役割りの確認、ハーモニー作りの実践
◆リコーダーオーケストラでは、多くの皆さんにとって初めての響きを体験。リコーダーオーケストラのシステムと作り方の学習
※アルトリコーダーは各自の楽器を、その他の楽器は大学の楽器を使用する。

8.重奏のパート分けと選曲
リコーダーオーケストラの練習1 曲「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」
9.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
リコーダーオーケストラの練習2 オーケストラの作り方(レジストレーションについて)
10.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
リコーダーオーケストラの練習3 曲「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」、「リコーダーオーケストラのための作品」
11～13.グループに分かれて14回目の発表に向けて選曲した曲の練習
14回目の発表に向けて、「ルネサンス時代の舞曲」、「ディヴァージョンズ」、「リコーダーオーケストラ曲の練習」
14.アンサンブルの発表会(重奏とリコーダーオーケストラ)
15.まとめ

・8回以降の重奏の参考曲(学生と相談して選曲)
ルネサンス作品
C.deセルミジ:生命の春にある限り(4声)
J.ダウランド:今こそ別れ(4声)
M.ブレトリウス編:「舞曲集」より(4声)

バロック作品

◆準備学習の内容◆

テキスト、プリントの曲を練習(復習、予習)しておくこと。特に次の授業の曲は練習してくること。
アンサンブルの実習に入ってから、責任を持ってパート練習をしておく。
毎日20分、リコーダーの練習をしましょう。
参考図書(CD)、YouTubeなどで、さまざまなリコーダーアンサンブルの曲を聴いてみること。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み方を評価する。
6回目の発表でコメントしてフィードバックする。
14回目のアンサンブルの発表会を授業内実技試験として評価する。
提出された課題に対しては、基本的に次の回の講義までにコメントしてフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー 楽器を知ってじょうずに吹こう!』松浦孝成(KYODO-MUSIC)
その他随時プリントを配布

◆参考図書◆

『リコーダーが上手くなる方法』渡辺清美(自由現代社)
『アルトリコーダー教本』吉澤実(全音楽譜出版社)
CD『スーパーリコーダーカルテットVol.1、Vol.2、Vol.3』スーパーリコーダーカルテット(ナミ・レコード)

◆留意事項◆

アルトリコーダー(樹脂製で可)とテキストを用意すること。
アルトリコーダー推奨楽器 メーカー:アウロス 型番509BW(E)

ナンバリング	TTS004N		
科目名	教科研究(指揮法)		
科目詳細			
担当教員	長谷川 正規		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

指揮の基本的な技術を修得し、指揮によって演奏表現ができるようになる。教育現場等において、音楽的意図をもって合唱や合奏を指揮できるようになる。

◆授業内容・計画◆

指揮の基本的な技術について、全員あるいは一人ずつ指揮しながら修得していく。適宜、指揮者として準備すべきこと、実際の現場で起こる諸問題についても取り上げる。

基本的にはピアノを指揮する形で進めるが、状況が許せば受講者による合唱やアンサンブルなどの指揮も行う。

必要に応じてテキストに掲載されている以外の作品も課題として設定する。

1. はじめに～「指揮法」と「指揮者に必要なこと」、交響曲第5番冒頭／ベートーヴェン

2. 平均運動としゃくい

3. 曲の始め方と終わり方、3拍子と4拍子、歌唱作品の指揮

4. 叩き、縦の2拍子と横の2拍子

5. 引掛けと撥ね上げ、ピアノ作品の指揮(ブルクミュラーを中心に)

6. 合唱作品の指揮

7. 6つ振り(8分の6拍子)

8. 混合拍子の図形の考え方

9. 混合拍子の指揮(ミクロコスモスを用いて)

10. フェルマータの取り扱い

11. 3拍子の1つ振り、ワルツ等について

12. アンサンブル作品の指揮(様々な技術を総合的に用いて)

13. オーケストラ作品の指揮①(3拍子や4拍子を分割して振る)

14. オーケストラ作品の指揮②(実践で起こる諸問題について)

15. オーケストラ作品の指揮③(リハーサルのテクニックについて)、まとめ

◆準備学習の内容◆

事前に教科書(使用テキスト)をよく読み、楽譜、手の動かし方、楽曲分析について予習すること。毎日1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業における取り組みや指揮実践により総合的に評価する。授業内の随時と、まとめの際にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

新版『学ぼう指揮法 Step by Step』 山本 訓久 (アルテスパブリッシング)

◆参考図書◆

『ブルクミュラーで指揮法入門』 山本 訓久 (アルテスパブリッシング)、改定新版『指揮法教程』 斎藤 秀雄 (音楽之友社)、『完本 指揮法入門』 高階 正光 (音楽之友社)、改定新版『実践的指揮法』 小松 一彦 (音楽之友社)、『斎藤秀雄講義録』 斎藤 秀雄 (白水社)、『指揮者は何を考えているか 解釈、テクニック、舞台裏の闘い』 ジョン・マウチェリ(松村 哲哉訳) (白水社)

◆留意事項◆

教科書(使用テキスト)、指揮棒、楽譜に書きこむための筆記用具(4Bの黒鉛筆、赤青鉛筆)を各自で必ず用意すること。指揮棒の種類等は自由だが、持ちなれない者には320-360mm程度の長すぎないものを勧める。

ナンバリング	TTS004N		
科目名	教科研究(指揮法)		
科目詳細			
担当教員	長谷川 正規		
学年	1年,2年	クラス	02
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

指揮の基本的な技術を修得し、指揮によって演奏表現ができるようになる。教育現場等において、音楽的意図をもって合唱や合奏を指揮できるようになる。

◆授業内容・計画◆

指揮の基本的な技術について、全員あるいは一人ずつ指揮しながら修得していく。適宜、指揮者として準備すべきこと、実際の現場で起こる諸問題についても取り上げる。

基本的にはピアノを指揮する形で進めるが、状況が許せば受講者による合唱やアンサンブルなどの指揮も行う。

必要に応じてテキストに掲載されている以外の作品も課題として設定する。

1. はじめに～「指揮法」と「指揮者に必要なこと」、交響曲第5番冒頭／ベートーヴェン

2. 平均運動としゃくい

3. 曲の始め方と終わり方、3拍子と4拍子、歌唱作品の指揮

4. 叩き、縦の2拍子と横の2拍子

5. 引掛けと撥ね上げ、ピアノ作品の指揮(ブルクミュラーを中心に)

6. 合唱作品の指揮

7. 6つ振り(8分の6拍子)

8. 混合拍子の図形の考え方

9. 混合拍子の指揮(ミクロコスモスを用いて)

10. フェルマータの取り扱い

11. 3拍子の1つ振り、ワルツ等について

12. アンサンブル作品の指揮(様々な技術を総合的に用いて)

13. オーケストラ作品の指揮①(3拍子や4拍子を分割して振る)

14. オーケストラ作品の指揮②(実践で起こる諸問題について)

15. オーケストラ作品の指揮③(リハーサルのテクニックについて)、まとめ

◆準備学習の内容◆

事前に教科書(使用テキスト)をよく読み、楽譜、手の動かし方、楽曲分析について予習すること。毎日1時間程度。

◆成績評価の方法◆

授業における取り組みや指揮実践により総合的に評価する。授業内の随時と、まとめの際にフィードバックを行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

新版『学ぼう指揮法 Step by Step』 山本 訓久 (アルテスパブリッシング)

◆参考図書◆

『ブルグミュラーで指揮法入門』 山本 訓久 (アルテスパブリッシング)、改定新版『指揮法教程』 斎藤 秀雄 (音楽之友社)、『完本 指揮法入門』 高階 正光 (音楽之友社)、改定新版『実践的指揮法』 小松 一彦 (音楽之友社)、『斎藤秀雄講義録』 斎藤 秀雄 (白水社)、『指揮者は何を考えているか 解釈、テクニック、舞台裏の闘い』 ジョン・マウチェリ(松村 哲哉訳) (白水社)

◆留意事項◆

教科書(使用テキスト)、指揮棒、楽譜に書きこむための筆記用具(4Bの黒鉛筆、赤青鉛筆)を各自で必ず用意すること。指揮棒の種類等は自由だが、持ちなれない者には320-360mm程度の長すぎないものを勧める。

ナンバリング	TTS004N		
科目名	教科研究(指揮法)		
科目詳細			
担当教員	大浦 智弘		
学年	1年,2年	クラス	03
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

学校教育現場、特に中学校の音楽科や高等学校の芸術科音楽の授業における合唱・合奏指導に活用できる基礎的な指揮の技術や実用的な知識を学習し、受講生による合唱・合奏のアンサンブルのリハーサルや試演会・実技試験での発表を通じて実践する。

◆授業内容・計画◆

1. 指揮者の役割について学び、メンターとして指揮・指導するための基礎的な技術、表現方法を習得する。
 2. スコアの読み方から楽曲分析、演奏解釈の可能性を研究し、リハーサル運営方法を習得する。
- 以上の内容について、受講生はピアノを含めたアンサンブル(合唱・合奏)を指揮しながら演習する。

第1回:概説(指揮者の役割、指揮法テクニック、基本的な拍子の図形の描き方、楽譜の読み方等について)
* 第2回からは基本的な拍子の指揮法と音楽表現のためのテクニックについて学び、シンプルな課題曲に取り組む。
第2回:演習①単純拍子(2拍子・4拍子)の指揮と楽曲の始め方
第3回:演習②単純拍子(3拍子)の指揮と楽曲の始め方
第4回:演習③legato/staccato等の基本的な音楽表現
第5回:演習④cresc./decresc.等の基本的な音楽表現
第6回:演習⑤複合拍子(6/8拍子・9/8拍子・12/8拍子)の指揮
第7回:演習⑥混合拍子(5拍子・7拍子等)の指揮
第8回:概説(移調楽器を含めたスコアの読み方、楽曲分析からの指揮への反映・応用について)
* 第8回からは基本を元に複合的なキャラクターの課題曲に取り組む。
第9回:演習⑦アウフタクトの指揮
第10回:演習⑧変拍子(楽曲の途中での拍子の変更)の指揮
第11回:演習⑨フェルマータのある楽曲の指揮
第12回:演習⑩楽曲の締め括り方
第13回:実践I)実技試験【Group A】
第14回:実践II)実技試験【Group B】
第15回:筆記試験と総括

◆準備学習の内容◆

事前に課題曲を予習する。基本的には受講生が指揮するほか、合唱あるいはピアノや楽器を演奏して指導を受ける側の立場も体験するので、各自課題曲の譜読みや練習を充分に行う。(1時間程度)

◆成績評価の方法◆

実際の指導現場を想定しながら、レッスン中に指揮する側と演奏する側／指導を受ける側の双方の立場に立ってフィード・バックする。試験と筆記試験の成績、出席と授業内での演習への取り組み姿勢より総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で配布する資料

◆参考図書◆

『新版・学ぼう指揮法Step by Step わらべうたからシンフォニーまで』『ブルクミュラーで指揮法入門』山本訓久著(アルテスパブリッシング)、『名指揮者があなたに伝えたいこと 100のリーダー・シップ』千蔵八郎著(春秋社)

◆留意事項◆

教科書、授業で配布の楽譜や資料、指揮棒、筆記用具を各自持参する。演奏担当時には各自任意の楽器を持参する。常に授業の内容・課題曲だけでなく、自分が取り組んでいる楽曲や活動、今後の進路に反映・応用できるか思考する。

ナンバリング	TTL007N		
科目名	教職概論		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	布村 育子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した美術性豊かな教員が、絵画や彫刻などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

教職の意義・役割・職務内容・求められる資質能力・服務・研修の在り方等を十分理解する。個人的な観点からのみ教師を捉えるのではなく、教員の服務内容を踏まえて、組織の中の教員という視点を持ちながら、その役割を理解する。学びの過程で、教職に就こうとする自らの適性を判断し、課題を見つけ克服する姿勢を身に付ける。※教員免許法で定められた「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

第1回授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
第2回学校制度の誕生と教員養成
第3回第二次世界大戦後の教育改革と教員の再教育
第4回第三の教育改革と新しい教員の職務
第5回多面的な教師像の理解
第6回教員の服務と処分① ―法制度との関係から理解する
第7回教員の服務と処分② ―事例から考察する
第8回教員のライフコースと力量形成① ―教員養成と教員採用
第9回教員のライフコースと力量形成② ―研修の意義
第10回教員の職務① ―チームとしての学校と教員の役割・校務分掌の意義
第11回教員の職務② ―保護者との連携・学校と地域との連携
第12回新しい課題への対応① ―生徒指導に関する課題
第13回新しい課題への対応② ―学習指導に関する課題
第14回今後教員に必要な資質能力とはなにか・テスト
第15回まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:シラバスに示した各項目について、参考文献を活用して情報を得ておく(60分)。
復習:講義内容を通して習得した知識を定着させるとともに、関連する事項について、各授業時に紹介する参考文献等で確認する(60分)。

◆成績評価の方法◆

授業への取組姿勢・課題提出状況・第14回に行うテストの結果を踏まえ、総合的に判断する。
授業内に提出した課題等については次時に講評する。優秀な課題等は、授業内で発表する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業時に授業者の作成プリント及び資料を配布する。

◆参考図書◆

初回のガイダンス授業及び各回の授業時に紹介する。

◆留意事項◆

授業では、教育法規(教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、学校保健安全法、地方公務員法、教育公務員特例法)や文部科学省の教育に関する施策を参照する。文部科学省のweb site等を閲覧し、授業に必要な情報を収集できるようにしておくこと。

ナンバリング	TTL008N		
科目名	教育原理		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	布村 育子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

教育の目的・方法・内容に関する基礎知識を、教育思想や理論体系と関連付けながら体系的に習得し、身につけた知識から、現在の教育活動を考察できるようになる。授業終了時には、身に付けた知識をもとに、これからの教育の課題を考察できるようになる。※教員免許法で定められた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
- 第2回 教育思想史と教育方法① —古代ギリシャの教育
- 第3回 教育思想史と教育方法② —中世の教育
- 第4回 教育思想史と教育方法③ —近代の教育
- 第5回 教育思想史と教育方法④ —現代の教育
- 第6回 日本の教育と教育思想① —学校制度成立以前の教育
- 第7回 日本の教育と教育思想② —明治・大正期の教育
- 第8回 日本の教育と教育思想③ —戦前・戦後・現代の教育
- 第9回 現代の教育課題① —教育の中の人権思想
- 第10回 現代の教育課題② —子供の発達とその多様性
- 第11回 現代の教育課題③ —学校外で行われる教育の意義
- 第12回 教育実践の基礎理論と多様な取組① —学習指導
- 第13回 教育実践の基礎理論と多様な取組② —生徒指導
- 第14回 教職課程における教育原理の位置づけ・テスト
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:シラバスに示した各項目について、参考文献を活用して情報を得ておく(60分)。
復習:講義内容を通して習得した知識を定着させるとともに、関連する事項について、各授業時に紹介する参考文献等で確認する(60分)。

◆成績評価の方法◆

授業への取組姿勢・課題提出状況・第14回に行うテストの結果を踏まえ、総合的に判断する。
授業内に提出した課題等については次時に講評する。優秀な課題等は、授業内で発表する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業時に授業者の作成プリント及び資料を配布する。

◆参考図書◆

初回のガイダンス授業及び各回の授業時に紹介する。

◆留意事項◆

教育を自分の体験以外から考察できるように、日頃から様々な「教育」に目を向けてください。

ナンバリング	TTL009N		
科目名	教育心理		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	武田 明典		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連: 1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

・学校現場で活用できる実践的な教育心理学の基本技法・理論の理解を深めることを目標とする。初期は、教育心理学の概論、自己理解のための心理検査の体験、そして、人格・発達について学習；中期は、知能・学習面の諸理論を習得；末期は、学校現場における教育心理学の活用について、ストレスマネジメント教育のDVD視聴や具体的事例検討のディスカッションを行う。

◆授業内容・計画◆

・講義は、テキストや配布資料に基づき進行し、そのほか、DVD視聴、性格検査等の個人ワーク、及びテーマに基づきディスカッション等のグループワークを導入。また、受講者が内省的に考えていく過程が大切であるので、課題に対するリアクションペーパーを実施。詳細シラバスは、初回授業時に配布。

第1回：オリエンテーション—教育心理とは(1章)—
第2回：性格(4章)
第3回：心理アセスメント(14章)
第4回：発達1(2章)
第5回：発達2(3章)
第6回：適応・不適応(5章)
第7回：認知(6章)
第8回：学習理論と動機づけ(7章)
第9回：教授法(8章)；アクティブラーニング(コラム2)
第10回：教育評価(9章；プリント2枚)；研究法(10章)
第11回：グループダイナミクス(11章)
第12回：心理教育(13章；プリント；ストレスマネジメントのDVD)

第13回：特別支援教育・発達障害の理解(12章；プリント；DVD)
第14回：学校における諸問題に対する事例検討(15章)
第15回：全体のまとめ；質疑応答

◆準備学習の内容◆

・テキスト、および、PDF配布資料に基づき授業を行うので、授業回に該当するテキスト章を授業前に速読。また、授業後はテキストや配布物を復習。

◆成績評価の方法◆

グループディスカッション参加状況10%、リアクションペーパー20%、期末試験70%

◆教科書(使用テキスト)◆

武田明典 編著 『教師と学生が知っておくべき教育心理学』(北樹出版)

◆参考図書◆

各授業時に関連する書籍や心理テスト類を回覧・紹介する。

◆留意事項◆

- 1) 教職科目は特に出席重視のため、毎回出席(公欠など事前連絡が可能な場合は、口頭あるいは以下メールへ連絡)。
- 2) テキストは第2回目授業までには手配(初回用の第1章は、PDF資料に掲示)。
- 3) 初回授業でグーグルクラスを提示するので、速やかにメンバー登録。
- 4) 質問がある方は、遠慮なく授業開始前後に教卓へ、それ以外は、メール(a-takeda@kanda.kuis.ac.jp)へ。

ナンバリング	TTL010N		
科目名	教育社会学		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	渡部 晃正		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心をもち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多面		

◆授業目標◆

①子どもを取り巻く問題(学校を巡る近年の様々な状況の変化)を探り、多角的に捉えながら分析することができる。②子どもの発達に関する今日的課題・指導上の課題に目を向け、探求し、自ら主体的に考えることができる。③近年の教育政策の動向を理解している。④諸外国の教育の動向を理解している。⑤学校安全について理解している。⑥教育が時代や社会に規定されると同時に、時代や社会を規定していくことを理解している。※教員免許法で定められた「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス…授業の目的と内容、進め方、成績評価の方法等について説明します
 2. 世界的な教育への関心の高まり…諸外国の教育事情・教育改革について概観します
 3. 教育社会学とは？…教育社会学の学問的性格について学び、理解します
 4. 子どもの発達と教育…人間発達における教育の意味について考えます
 5. 子どもの発達と社会化…“社会化”の考え方について学び、理解します
 6. 家庭における子どもの教育(1)…家庭教育の意義と役割そして今日的課題について考えます
 7. 家庭における子どもの教育(2)…家庭教育に関するグループ・ディスカッションをおこないます
 8. 学校における子どもの教育(1)…学校教育の意義と役割そして今日的課題について考えます
 9. 学校における子どもの教育(2)…いじめ問題に関するグループ・ディスカッションをおこないます
 10. 学校における子どもの教育(3)…不登校問題に関するグループ・ディスカッションをおこないます
 11. 学校を巡る近年の状況(1)…学校の安全について考えます
 12. 学校を巡る近年の状況(2)…学校の安全に関するグループ・ディスカッションをおこないます
 13. 地域における子どもの教育(1)…地域の教育力について考えます
 14. 地域における子どもの教育(2)…学校と地域との連携・協働について考えます
 15. 全体の振り返りとまとめ
- 定期試験

◆準備学習の内容◆

事前に配布されるプリントと「予習課題」を読み、予習をおこないます(各回1～2時間程度)。とくに、グループ・ディスカッション前には、設定された課題に対して自分の考え・意見をまとめる必要があります(各回2時間程度)。また、授業後には、課題としてGoogle Classroom《授業》を使ってコメント入力をおこないます(各回1～2時間程度)。グループ・ディスカッション後には、“振り返りと気づき”をもとに、同じくGoogle Classroom《授業》を使ってコメント入力をおこないます(各回1時間程度)。

◆成績評価の方法◆

期末試験の得点[40%]、グループ・ディスカッションへの参加貢献(発言内容・回数、コメントの適切さなどを勘案)[20%]、Google Classroom《授業》に入力(提出)された各回の課題の内容[40%]により成績評価が決まります。なお、グループ・ディスカッションのグループ報告に対してフィードバックをおこないます。また、各回の課題に対するフィードバックもしていきます。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。教科書は使用せず、各回、プリント・資料等を配布します。

◆参考図書◆

『学習指導要領』、『教育小六法』など。他の参考資料については、適宜、授業のなかで紹介します。

◆留意事項◆

この授業では、Google Classroomを利用しますので、操作方法に慣れるようにしてください。課題の提出には“締め切り日時”が設定されますので、必ず、それを守るようにしましょう。また、授業中にオンライン・アンケートやコメント入力を実施することがありますので、ノートPC、タブレット、スマホ等の学内無線LANに接続できる端末を持参してください。

ナンバリング	TTL011N		
科目名	教育課程概説		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	布村 育子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

学習指導要領の意義とその内容について理解する。学校における教育課程の位置付けやその機能的役割について例を挙げて説明できる。カリキュラム・マネジメントに必要な基本的な知識を習得する。※教員免許法で定められた「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス 授業の進め方と方法
2. 教育課程の思想
3. 学習指導要領の性格と意義
4. 学習指導要領の構成(領域)と教育課程の根拠法令
5. 学習指導要領の改訂とその背景(1)－1958年改訂まで
6. 学習指導要領の改訂とその背景(2)－1989年改訂まで
7. 学習指導要領の改訂とその背景(3)－2003年一部改正まで
8. 学習指導要領の改訂とその背景(4)－2015年一部改正まで
9. 現行学習指導要領とカリキュラム・マネジメントの意義
10. カリキュラム・マネジメントの構築に向けて(1)－総則と特別の教科「道徳」の位置づけ
11. カリキュラム・マネジメントの構築に向けて(2)－総合的な学習(探究)の時間と特別活動の位置づけ
12. カリキュラム・マネジメントの構築に向けて(3)－教育評価の理論と構造
13. カリキュラム・マネジメントの構築に向けて(4)－教育評価の実際と指導要録
14. 教育課程をめぐる論点整理－社会に開かれた教育課程にむけて・テスト
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習:シラバスに示した各項目について、参考文献を活用して情報を得ておく(60分)。
復習:講義内容を通して習得した知識を定着させるとともに、関連する事項について、各授業時に紹介する参考文献等で確認する(60分)。

◆成績評価の方法◆

授業への取組姿勢・課題提出状況・第14回に行うテストの結果を踏まえ、総合的に判断する。
授業内に提出した課題等については次時に講評する。優秀な課題等は、授業内で発表する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業時に作成プリント及び資料を配布する。
『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』(Web版を活用してもよい)
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』(Web版を活用してもよい)

◆参考図書◆

初回のガイダンス授業及び各回の授業時に紹介する。

◆留意事項◆

文部科学省のweb siteを閲覧し、授業に必要な情報を収集できるようにしておくこと。

ナンバリング	TTL012N		
科目名	音楽科教育法 I		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習指導の基礎的な方法を学ぶ。※教育職員免許法で定められた「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 1.音楽科教育の意義
- 2.音楽科教育法 I ～IVの概要
- 3.音楽教育と音楽科教育
- 4.我が国の音楽科教育
- 5.中学校学習指導要領（音楽）の目標及び内容と全体構造の理解
- 6.高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の目標及び内容と全体構造の理解
- 7.指導計画の作成と取扱いの理解
- 8.表現分野の指導上の留意点の理解
- 9.鑑賞分野の指導上の留意点の理解
- 10.観点別学習状況の評価についての理解
- 11.歌唱における教材研究
- 12.器楽における教材研究
- 13.創作における教材研究
- 14.鑑賞における教材研究
- 15.音楽科教育法 I のまとめ

◆準備学習の内容◆

授業で扱う内容に対応するテキストや学習指導要領解説、評価規準作成のための参考資料、中学校の教科書等を予習する。（目安1時間。）

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況及び試験・提出物等その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書（使用テキスト）◆

- 1 「新版 中学校・高等学校教員養成課程音楽科教育法」（教育芸術社）2019年11月
- 2 「中学校学習指導要領解説」（教育芸術社）
- 3 「高等学校学習指導要領解説」（教育図書）
- 4 「中学校音楽科教科書」令和7年度版（教育出版、教育芸術社の各4冊、計8冊）

◆参考図書◆

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校音楽）』（東洋館出版社、2020）他、随時紹介する。

◆留意事項◆

音楽科教育法 I の単位を修得しないとⅡを履修できない。4年生で教育実習に行けなくなるのため、確実に修得すること。

ナンバリング	TTL013N		
科目名	音楽科教育法Ⅱ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基礎的な実践力を身に付ける。※教員免許法で定められた「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンス/生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性の理解
 - 2.授業の実際①(学習指導要領との関連の理解)
 - 3.授業の実際②(情報通信技術の効果的な活用法の理解)
 - 4.授業の実際③(教材の効果的な活用法の理解)
 - 5.授業の実際④(各活動の指導と評価の実践例)
 - 6.学習指導案の作成①(題材名、設定理由、目標)
 - 7.学習指導案の作成②(教材、評価規準と評価方法、題材の指導計画)
 - 8.学習指導案の作成③(本時の目標、本時の展開)
 - 9.模擬授業①鑑賞(学生による模擬授業1、2グループと教師による指導・助言)
 - 10.模擬授業②鑑賞(学生による模擬授業3、4グループと教師による指導・助言)
 - 11.模擬授業③鑑賞(学生による模擬授業5、6グループと教師による指導・助言)
 - 12.模擬授業④歌唱(学生による模擬授業7、8グループと教師による指導・助言)
 - 13.模擬授業⑤歌唱(学生による模擬授業9、10グループと教師による指導・助言)
 - 14.模擬授業⑥歌唱(学生による模擬授業11、、12グループと教師による指導・助言)
 - 15.音楽科教育法Ⅱのまとめ(個人作成の学習指導案提出)
- ※順番等が入れ替わることがある。

◆準備学習の内容◆

授業で扱う内容に対応するテキストや学習指導要領解説、評価規準作成のための参考資料、中学校の教科書等を予習するとともに、模擬授業についてはグループ内で十分に協議し、適切な学習指導案を作成して臨むこと。(目安1時間。グループ発表前は2時間。)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況及び試験・提出物等その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

音楽科教育法Ⅰに同じ。

◆参考図書◆

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校音楽)』(東洋館出版社、2020)他、随時紹介する。

◆留意事項◆

音楽科教育法Ⅱの単位を修得しないとⅢを履修できない。4年生で教育実習に行けなくなるのため、確実に修得すること。

ナンバリング	TTL401N		
科目名	音楽科教育法Ⅲ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

音楽科の学習指導の基本を踏まえた学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践と反省によって、具体的な展開の技術や評価方法を身に付ける。また、年間指導計画とその作成の基本を理解する。※教員免許法で定められた「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:学校における指導計画の意義
 - 第2回:指導と評価のあり方(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第3回:評価方法の工夫(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第4回:情報機器及び教材の活用の工夫(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第5回:学習活動の工夫(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第6回:学習形態の工夫(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第7回:学習指導案の作成と改善(多様な実践研究から学ぶ)
 - 第8回:模擬授業の実践①(教師によるモデル授業)
 - 第9回:模擬授業の実践②器楽分野(学生による研究成果のグループ発表(ABCグループ)と相互評価、教師の助言)
 - 第10回:模擬授業の実践③器楽分野(学生による研究成果のグループ発表(DEFグループ)と相互評価、教師の助言)
 - 第11回:模擬授業の実践④創作分野(学生による研究成果のグループ発表(ABCグループ)と相互評価、教師の助言)
 - 第12回:模擬授業の実践⑤創作領域(学生による研究成果のグループ発表(DEFグループ)と相互評価、教師の助言)
 - 第13回:年間指導計画の作成の基本
 - 第14回:基本を生かした年間指導計画の作成
 - 第15回:まとめと今後の課題(個人作成の学習指導案の提出)
- ※順番等が入れ替わることがある

◆準備学習の内容◆

授業で扱う内容に対応するテキストや『学習指導要領解説』、『評価規準参考資料』、中学校の教科書等を予習するとともに、模擬授業については、グループ内でよく協議して、適切な学習指導案を作成して臨むこと。(目安1時間。グループ発表前は2時間)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況及び試験に代わる個人作成の学習指導案、提出物等その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

- 1『新版 中学校・高等学校教員養成課程音楽科教育法』(教育芸術社).2019年11月.
 - 2『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編』(教育芸術社).
 - 3『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説芸術編』(教育図書株式会社).
 - 4『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校音楽】』(東洋館出版社).
 - 5『中学校の音楽科教科書』令和7年度版(2社、計8冊)
- ※いずれも音楽科教育法Ⅰ及びⅡで購入済みである。

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

音楽科教育法Ⅱの単位が取得済みであること。

ナンバリング	TTL402N		
科目名	音楽科教育法Ⅳ		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	各担当者		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

年間指導計画を完成させるとともに、一通り音楽科の授業が理解、実践できることを前提に、さらに教育上のねらいや目的をもった授業や、多様な教材と学習活動、教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習指導の改善と工夫について研究・学習し、授業実践力を高める。※教員免許法で定められた「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回: ガイダンス/年間指導計画の作成と工夫
 - 第2回: 年間指導計画の作成と改善
 - 第3回: 学習指導案作成の工夫と改善
 - 第4回: 生徒の主体的な学習活動と授業展開
 - 第5回: 対話的な学習活動と授業展開
 - 第6回: 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫
 - 第7回: 教材の活用と多様な学習活動や形態の工夫
 - 第8回: 情報通信技術の効果的な活用①(音源、映像)
 - 第9回: 情報通信技術の効果的な活用②(コンピュータ、電子黒板とタブレット)
 - 第10回: それまでの学修を踏まえた模擬授業の実践①歌唱分野(学生による研究成果のペア発表と相互評価、教師の助言)
 - 第11回: それまでの学修を踏まえた模擬授業の実践②器楽分野(学生による研究成果のペア発表と相互評価、教師の助言)
 - 第12回: それまでの学修を踏まえた模擬授業の実践③創作分野(学生による研究成果のペア発表と相互評価、教師の助言)
 - 第13回: それまでの学修を踏まえた: 模擬授業の実践④鑑賞領域(学生による研究成果のペア発表と相互評価、教師の助言)
 - 第14回: 音楽科教育の研究と教員の研修
 - 第15回: 音楽科教育法のまとめと課題(個人作成の学習指導案の提出)
- ※順番等が入れ替わることがある。

◆準備学習の内容◆

授業で扱う内容に対応するテキストや『学習指導要領解説』、『評価規準参考資料』、中学校の教科書等を予習するとともに、模擬授業については、グループ内でよく協議して、適切な学習指導案を作成して臨むこと。(目安1時間。グループ発表前は2時間)

◆成績評価の方法◆

授業中の学習状況及び試験に代わる個人作成の学習指導案、提出物等その他、随時課題を出しフィードバックするとともに、総合的に成績評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

音楽科教育法Ⅲと同じ

◆参考図書◆

随時紹介する。

◆留意事項◆

音楽科教育法Ⅳを取得できないと4年生で教育実習に行けなくなるので、確実に取得すること。

ナンバリング	TTL014N		
科目名	道徳指導論		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	神山 直子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目先の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解する。「特別の教科 道徳(以下、「道徳科」という。)」の教材研究や学習指導案の作成、授業の実際等を通して、実践的な指導力を身に付ける。
※教員免許法で定められた「道徳の理論及び指導法」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション 道徳の授業のイメージ
- 第2回 道徳教育と道徳の時間から道徳科へ
- 第3回 道徳教育及び道徳の時間に関する経緯(1)「道徳の時間の特設」
- 第4回 道徳教育及び道徳の時間に関する経緯(2)「心のノート」
- 第5回 道徳科授業の実際(1)小学校
- 第6回 道徳科授業の実際(2)中学校
- 第7回 社会の問題に目を向ける
- 第8回 道徳性とは何か
- 第9回 道徳科の内容と方法
- 第10回 多面的・多角的に考える
- 第11回 道徳教育と人権教育
- 第12回 道徳科の学習指導案
- 第13回 学習指導の多様な展開「教師の範読」
- 第14回 学修のまとめと授業内レポート
- 第15回 まとめと評価(随時提出を求める課題の提出をもって1回分の授業に相当する学修とする。)

◆準備学習の内容◆

- ・授業で提示された課題を追究するために自身の経験等を振り返り、考えたことや分かったことをノート等にまとめる。(目安60分)
- ・授業等で学んだことをノート等にまとめ、教育実践等の場面で役立てることができるようにする。(目安60分)

◆成績評価の方法◆

- ・提出課題(70%)と第14回の「授業内レポート」(30%)を総合的に判断し成績評価する。
- ・classroomに提出された課題を評価し、随時、授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』(文部科学省)
『新しい道徳3』(東京書籍)
第1回の授業の際にテキストを配布する。

◆参考図書◆

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説道徳編』(文部科学省)

◆留意事項◆

状況に応じて、学修の順序や内容を変更することがある。その場合は、随時周知する。

ナンバリング	TTL018N		
科目名	特別活動・総合的な学習の時間指導法		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	鈴木 樹		
学年	2年	クラス	01
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

1. 特別活動の目標、活動や内容、指導方法を理解する。2. 特別活動の「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点や「チームとしての学校」、家庭・地域住民との連携について理解する。3. 総合的な学習(探究)の時間の意義や目標、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。4. 総合的な学習(探究)の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。5. 特別活動、総合的な学習(探究)の時間の評価の基本事項を理解する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 【講義】特別活動、総合的な学習(探究)の時間とは何か、教育課程上の位置付け、授業時数
- 第2回 【講義】特別活動の目標、総合的な学習(探究)の時間の目標
- 第3回 【講義】学級活動・ホームルーム活動の特質、学級活動・ホームルーム活動(1)の指導
- 第4回 【講義】学級活動・ホームルーム活動(1)の指導の実際
- 第5回 【講義】学級活動・ホームルーム活動(2)の指導、合意形成と意思決定
- 第6回 【講義・演習】学級活動・ホームルーム活動(3)の指導、キャリア教育の要としての特別活動、学級経営と学級活動
- 第7回 【講義】児童会活動・生徒会活動の特質、クラブ活動
- 第8回 【講義】学校行事の特質
- 第9回 【講義・演習】特別活動と音楽教育
- 第10回 【講義】特別活動における家庭・地域住民との連携、特別活動の評価
- 第11回 【講義】総合的な学習(探究)の時間の意義、目標、目標と内容の設定
- 第12回 【講義】総合的な学習(探究)の時間の探究の過程、考えるための技法
- 第13回 【講義】総合的な学習(探究)の時間における体験活動と探究的な学習の過程、情報教育とプログラミング的思考、国際理解教育
- 第14回 【講義・演習】総合的な学習(探究)の時間の構想の発表
- 第15回 【講義】総合的な学習(探究)の時間の評価

◆準備学習の内容◆

学習指導要領および学習指導要領の該当箇所を読む。その回と関連した自分の体験した特別活動・総合的な学習の時間の実践を思い出す。発表の回については、発表の準備を行うこと。

◆成績評価の方法◆

試験(70%)、提出物(10%)、発表(10%)、受講状況(10%)。発表がなくなった場合は、試験(80%)とする。
試験は、授業時間では行わず、自宅や空き時間に解くもの(試験形式のレポート)とする。
提出物については、毎回の感想の提出と1、2回程度ポイントの高い提出物(学級活動・ホームルーム活動計画など)を課すので、とくに後者については必ず提出すること。これについては大きな間違いがない限り、点数化せず、提出の有無によって評価を行う。

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントを配布する。

◆参考図書◆

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編』、『高等学校学習指導要領(平成30年告示) 総合的な探究の時間編』 ※以上は、書店で購入できるほか、文部科学省のホームページで閲覧できる。
国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校編)特別活動』、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校編)総合的な学習の時間』、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)特別活動』、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)総合的な探究の時間』
国立教育政策研究所『特別活動指導資料 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)』 ※以上は、書店で購入できるほか、国立教育政策研究所ホームページ「指導資料・事例集」で閲覧できる。
国立教育政策研究所『学校文化を創る特別活動(高等学校編 ホームルーム活動のすすめ』 ※この資料は、国立教育政策研究所ホームページ「指導資料・事例集」で閲覧できる。
林尚示編著、鈴木樹・佐野泉著『特別活動-改訂二版:総合的な学習(探究)の時間とともに』(教育のための教育学シリーズ9)、学文社、2022年
田村学・黒上晴夫『考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業』(教育技術MOOK)、2013年

◆留意事項◆

欠席が多い場合は単位認定しないので、注意してください。
自分の小・中・高等学校時代の特別活動を思い出してください。
人数その他の様子を見て、簡単な唱歌などを指導する模擬授業を行うかもしれません。

ナンバリング	TTL019N		
科目名	生徒指導・進路指導		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	布村 育子, 山本 智子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する		

◆授業目標◆

生徒指導の内容と意義とを踏まえて、集団指導と個別指導の機能的役割を理解し、それぞれの場面における適切な指導方法を例を挙げて説明できる。進路指導(キャリア教育の基礎的な事項を含む)の内容と意義とを理解し、生徒集団全体に対するガイダンスと、個別指導におけるカウンセリングの機能を理解し、それぞれの場面における適切な指導方法を例を挙げて説明できる。※教員免許法で定められた「生徒指導の理論及び方法」「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

1. 授業ガイダンス・生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義と役割
2. 教育課程における生徒指導の位置づけと概要
3. チームとしての学校が目指す生徒指導－他専門職との連携の実際
4. 生徒指導における集団指導と個別指導(教育相談を含む)の機能及び役割
5. 学級・学年・学校における生徒指導の進め方(1)－各教科・特別活動・総合的な学習の時間との関連を理解する
6. 学級・学年・学校における生徒指導の進め方(2)－特別の教科道徳及び道徳教育との関連を理解する
7. 生徒指導に関連する法制度の理解－懲戒と体罰・近年の通知文書等の確認と理解
8. 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の考察(1)－不登校・長期欠席
9. 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の考察(2)－いじめ・暴力行為・その他問題行動
10. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけと概要
11. 進路指導・キャリア教育における集団指導－ガイダンスの機能と役割
12. 進路指導・キャリア教育における個別指導(1) キャリア・カウンセリングの意義と内容
13. 進路指導・キャリア教育における個別指導(2) キャリアパスの形成とポートフォリオの活用
14. これからの学校教育における生徒指導と進路指導・テスト
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

予習: シラバスに示した各項目について、参考文献を活用して情報を得ておく(60分)。
復習: 講義内容を通して習得した知識を定着させるとともに、関連する事項について、各授業時に紹介する参考文献等で確認する(60分)。

◆成績評価の方法◆

授業への取組姿勢、課題提出状況、第14回に行うテストの結果を踏まえ、総合的に判断する。
授業内に提出した課題等については次時に講評する。優秀な課題等は、授業内で発表する。

◆教科書(使用テキスト)◆

各回の授業時にプリント及び資料を配布する。
『生徒指導提要(令和4年改訂版)』文部科学省編(Web版を活用してもよい)

◆参考図書◆

初回のガイダンス授業及び各回の授業時に紹介する。

◆留意事項◆

生徒指導・進路指導に関するニュース等に積極的に触れるようにしておくこと。

ナンバリング	TTL403N		
科目名	教育相談		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	杉山 雅宏		
学年	3年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した人物性歌がある教員が、聴き手や読者としての自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

教師は学校教育現場における様々な問題・課題に対応する力をつけることが求められている。この授業では教育相談の意義を明確化し、いじめ、不登校を始めとする様々な問題の理解を深められるよう解説する。教育相談におけるカウンセリングの技法について説明し、体験学習（ペア・ワーク）を行う。様々な課題解決のための校内連携、地域連携の在り方について事例を通して解説する。具体的な到達目標は以下の通りです。1)教育相談の意義と課題を理解している。2)不適応や問題行動の背景を理解している。3)カウンセリングの基礎的な技法を理解している。組織的な取り組みや連携の必要性を理解している。

◆授業内容・計画◆

- 1.教育相談の意義と課題
- 2.学校教育におけるカウンセリング
- 3.教育相談の基盤となるカウンセリングの基礎知識
- 4.教育相談の基盤となるカウンセリングの技法
- 5.不適応、問題行動の背景の理解
- 6.不登校の理解と対応
- 7.いじめの理解と対応
- 8.暴力行為・非行の理解と対応
- 9.虐待の現状と課題(学校としての対応)
- 10.発達障がい理解と対応
- 11.精神疾患についての基礎知識(心理的支援を含む)
- 12.保護者の理解と対応
- 13.性別違和の理解と対応
- 14.校内連携・地域連携について
15. まとめ(フィードバック)

◆準備学習の内容◆

不登校やいじめの問題等、学校現場では様々な未解決課題が山積しています。事前学習では講義で扱うテーマについて、簡単な課題を事前にお知らせしますので、各自調べ学習を進めてください(90分)。事後学習では、テーマに即した学校現場における事例を提供します。ご自身が教師になったとして事例にどう向き合うのかを各自まとめるようにしてください(90分)。

◆成績評価の方法◆

毎回提出していただくコメントシート(平常の授業への取り組み)70%・最終レポート(30%)
事前課題についてのコメントは講義時に皆さんにフィードバックします。
事後学習課題については、コメントシートを返却します。また質問には、必ずお応えします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『学校心理学からみる 生徒指導・教育相談』杉山雅宏著(青山社)

◆参考図書◆

『学校教育心理学 教育現場をよりよくするために』杉山雅宏著(青山社)

◆留意事項◆

教師・カウンセラーとして子どもたちの様々な声を聴かせていただきました。子どもの行動の裏側にある心の声に耳を傾ける基本姿勢を一緒に学びましょう。

ナンバリング	TTL404N		
科目名	教育実習A		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	浅田 裕, 津田 正之, 瀧川 淳		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	5単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

充実した教育実習を行うための十分な事前学習を行い、適切に抱負を述べることができる。教育実習の意義、教職への理解、教科等の指導、生徒指導等について十分な理解と必要な準備を行って実習に臨むことができる。実習の経験を踏まえ、自己の課題を整理して述べるができる。※教員免許法で定められた「教育実習」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 教育実習の心構え①『教育実習録』の書き方、教育実習の評価、教育実習で学ぶ事柄
- 第2回 教育実習の心構え②教育実習体験談、提出課題、教育実習レポートの書き方、言葉遣いの注意、礼状の書き方
- 第3回 班編成と模擬授業スケジュール、教育実習の抱負、授業観察の方法
- 第4回 模擬授業①歌唱指導と検討会
- 第5回 模擬授業②器楽指導と検討会
- 第6回 模擬授業③創作指導と検討会
- 第7回 模擬授業④鑑賞指導と検討会
- 第8回 模擬授業⑤道徳と模擬検討会
- 第9回 教育実習の報告と協議①教科指導
- 第10回 教育実習の報告と協議②生徒指導
- 第11回 教育実習の報告と協議③学校行事
- 第12回 教育実習の報告と協議④学級経営及び教職員との連携
- 第13回 教育実習の報告と協議⑤実習全般
- 第14回 まとめ
- 第15回 教育実習の成果と課題

◆準備学習の内容◆

- 1 教育実習に備え、音楽科教育法Ⅰ～Ⅳで学んだことを生かして、パソコンにより学習指導案、ワークシート等の作成を行うこと。(目安 合計4時間)
- 2 「教育実習の抱負」を発表するために原稿を作成すること。(目安60分)
- 3 「教育実習レポート」を作成すること。(目安120分)
- 4 実習校で使用する教材の内容をよく調べ、必要に応じて歌唱や伴奏の練習をしておくこと。(実習前 目安毎日平均60分)

◆成績評価の方法◆

実習校からの成績、模擬授業、教育実習の報告発表、教育実習レポート、教育実習録の記録等を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『教育実習録』(国立音楽大学)※第1回の授業時に必ず持参すること。
『中学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説芸術編』文部科学省

◆参考図書◆

『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省(ぎょうせい)
『生徒指導提要(令和4年改訂版)』文部科学省編(Web上のファイルを活用してもよい)

◆留意事項◆

- 1 随時ライブキャンパスの「教員連絡」や教務課からの連絡に注意を払い、実習に関する情報に漏れのないよう、注意深く取り組むこと。特に、@kunitachi.ac.jpのメールアドレスをチェックし、携帯やスマホでも閲覧できるようにしておくこと。
- 2 教育実習期間と同様、事故や体調不良等による欠席はすみやかに連絡すること。授業時の連絡はメールで、教育実習期間中は実習校および教務課へ電話で連絡すること。
- 3 「教育実習録」への記入は原則ボールペン等によるものとする(実習校の指示に従うこと)。実習後速やかに教務課に提出すること。

ナンバリング	TTL405N		
科目名	教育実習B		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	津田 正之, 瀧川 淳, 浅田 裕		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限		単位数	3単位
備考	国内において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として指導する		

◆授業目標◆

充実した教育実習を行うための十分な事前学習を行い、適切に抱負を述べることができる。教育実習の意義、教職への理解、教科等の指導、生徒指導等について十分な理解と必要な準備を行って実習に臨むことができる。実習の経験を踏まえ、自己の課題を整理して述べるができる。※教員免許法で定められた「教育実習」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 教育実習の心構え①『教育実習録』の書き方、教育実習の評価、教育実習で学ぶ事柄
- 第2回 教育実習の心構え②教育実習体験談、提出課題、教育実習レポートの書き方、言葉遣いの注意、礼状の書き方
- 第3回 班編成と模擬授業スケジュール、教育実習の抱負、授業観察の方法
- 第4回 模擬授業①歌唱指導と検討会
- 第5回 模擬授業②器楽指導と検討会
- 第6回 模擬授業③創作指導と検討会
- 第7回 模擬授業④鑑賞指導と検討会
- 第8回 模擬授業⑤道徳と模擬検討会
- 第9回 教育実習の報告と協議①教科指導
- 第10回 教育実習の報告と協議②生徒指導
- 第11回 教育実習の報告と協議③学校行事
- 第12回 教育実習の報告と協議④学級経営及び教職員との連携
- 第13回 教育実習の報告と協議⑤実習全般
- 第14回 まとめ
- 第15回 教育実習の成果と課題

◆準備学習の内容◆

- 1 教育実習に備え、音楽科教育法Ⅰ～Ⅳで学んだことを生かして、パソコンにより学習指導案、ワークシート等の作成を行うこと。(目安 合計4時間)
- 2 「教育実習の抱負」を発表するために原稿を作成すること。(目安60分)
- 3 「教育実習レポート」を作成すること。(目安120分)
- 4 実習校で使用する教材の内容をよく調べ、必要に応じて歌唱や伴奏の練習をしておくこと。(実習前 目安毎日平均60分)

◆成績評価の方法◆

実習校からの成績、模擬授業、教育実習の報告発表、教育実習レポート、教育実習録の記録等を総合して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『教育実習録』(国立音楽大学)※第1回の授業時に必ず持参すること。
『中学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説芸術編』文部科学省

◆参考図書◆

『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省(ぎょうせい)
『生徒指導提要(令和4年改訂版)』文部科学省編(Web上のファイルを活用してもよい)

◆留意事項◆

- 1 随時ライブキャンパスの「教員連絡」や教務課からの連絡に注意を払い、実習に関する情報に漏れのないよう、注意深く取り組むこと。特に、@kunitachi.ac.jpのメールアドレスをチェックし、携帯やスマホでも閲覧できるようにしておくこと。
- 2 教育実習期間と同様、事故や体調不良等による欠席はすみやかに連絡すること。授業時の連絡はメールで、教育実習期間は実習校および教務課へ電話で連絡すること。
- 3 「教育実習録」への記入は原則ボールペン等によるものとする(実習校の指示に従うこと)。実習後速やかに教務課に提出すること。

ナンバリング	TTL406N		
科目名	教職実践演習(中・高)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	布村 育子, 津田 正之, 浅田 裕, 山本 智子		
学年	4年	クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

学校教育の現状を理解し、諸課題を認識するとともに、教育実習の振り返りや履修カルテに基づく教職科目履修状況の振り返りにより、自己理解を深め、自身の課題とその解決について主体的に取り組むことをねらいとし、そのため生徒指導、教科等指導についてグループ事例研究を行い発表する。外部講師による授業も組み入れ、求められる音楽科教師の資質能力を理解し、その向上を図る。※教育職員免許法施行規則で定められた「教育実践に関する科目」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 オリエンテーション、自己の教職課程履修における現時点での課題把握
 - 第2回 資質(1)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項の理解と振り返り
 - 第3回 資質(2)社会性や対人関係能力に関する事項の理解と振り返り
 - 第4回 資質(3)児童生徒理解や学級経営等に関する事項の理解と振り返り
 - 第5回 資質(4)教科等に関する事項の理解と振り返り
 - 第6回 自己の教職課程履修における課題把握の深化
 - 第7回 自身の課題に応じて作成するレポートのテーマ決定
 - 第8回 テーマに沿った調査・研究①調査方法と構成
 - 第9回 テーマに沿った調査・研究②レポート完成
 - 第10回 外部講師の先生による特別授業①(4講義から自己の課題に応じて選択する。)
 - 第11回 外部講師の先生による特別授業②(4講義から自己の課題に応じて選択する。)
 - 第12回 事例研究発表会①(グループでの生徒指導等研究)
 - 第13回 事例研究発表会②(グループでの教科等研究)
 - 第14回 教職実践演習のまとめ(個人作成の事例研究レポート作成・提出)
 - 第15回 教職実践演習のまとめ(理想の教師像レポート作成・提出)
- ※クラスによって順番が異なることがある。

◆準備学習の内容◆

- 1 履修カルテ及び教育実習録等の記入を完了すること。(履修カルテ:30分、教育実習録:実習終了日30分程度)
- 2 授業で扱う事例は、教育実習やボランティア活動等において実際に経験したことなどの中から決定するので、生徒指導・教科指導等で取り上げたいことをそれぞれ複数考えておくこと。(1時間程度)
- 3 レポート作成に当たっては信頼できる参考文献等を複数用いこれまでの教職科目での学修の成果及び本授業での学びを十分に生かして作成すること(6時間程度)

◆成績評価の方法◆

- 1 履修カルテの記載状況
- 2 事例研究の発表資料及び発表内容・方法等
- 3 レポート「事例研究のまとめ」
- 4 レポート「私の目指す教師像」
- 5 日常の取り組み状況 などから総合的に判断する。また、提出物には都度フィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

- 1 「教職実践演習テキスト」(国立音楽大学)
- ※授業内で配布するので、購入する必要はない。

◆参考図書◆

授業内で、必要に応じて、逐次紹介する。

◆留意事項◆

第10回、第11回の外部講師による授業①、②については、4課題の講義から2課題以上を選択し学修する。なお、2024年度は11月に実施した。2025年度は外部講師の先生と相談の上決定次第、周知する。

ナンバリング	TTL017N		
科目名	教育方法論		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	荒巻 恵子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

これからの社会を担う生徒たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに、生徒に情報通信能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。(2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付いている。(3)情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。(4)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。(5)生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法が身に付いている。※教員免許法で定められた「教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

第1回:ガイダンス、「義務教育」概念の基本的転換と教育方法

第2回:「子ども中心」と「学問中心」の教育方法

第3回:主体的・対話的で深い学びの実現と教育方法

第4回:多様性社会に向けた教育方法

第5回:教育目標と教育評価

(2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。

第6回:教育対話の基本と指導技術

第7回:個別最適な学びと協働的な学びにおける指導技術

(3)情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。

第8回:学習形態の違いと学習効果／eラーニングとは何か

第9回:情報社会における法(著作権法・個人情報保護法)

第10回:子どもの発達と教材・教具、情報通信技術の活用

(4)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。

第11回:デジタルコンテンツを活用した授業を考える①

第12回:デジタルコンテンツを活用した授業を考える②

(5)生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける

第13回:情報社会の光と影、情報モラル

第14回:情報社会における健康生活／ネット依存症

第15回:教育方法論のまとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習の内容

- ・受講生自身が受けてきた学校教育課程の中で、情報通信技術を活用した授業の実際を思い出し、記述しながら、それらを相対化客体化しながら、教育方法の理論と実際を考えます。
- ・小グループでの話し合いが毎回行われるため、日ごろから教育に関連した資料や文献を読むことや、話し合いのテーマのための調べ学習の準備学習が30分程度課されます。

◆成績評価の方法◆

- ・毎回の授業内レポート(30%)第10回のオンライン授業前に返却します。
- ・中間での成果物の発表(30%)評価については授業内講義で取り上げます。
- ・期末での最終レポート課題 2000文字程度(40%)オンライン授業時にオンライン上に提出いただき、最終課題の評価後の返却はありません。

◆教科書(使用テキスト)◆

・『インクルージョンとは何か?』(日本標準)(配布)

◆参考図書◆

- ・『新しい時代の教育課程』田中 耕治ほか(第4版 有斐閣)
- ・『新しい時代の教育方法』田中 耕治ほか(改訂版 有斐閣)
- ・『教育方法論』佐藤学(岩波書店)
- ・『教師をめざす学生のための教育情報リテラシー15日間(パート3)』教育情報テキスト研究チーム、荒巻恵子ほか(現代図書)

◆留意事項◆

オンライン授業があります。授業内の指示に従ってください。

ナンバリング	TTL021N		
科目名	教育方法論(ICT活用含む)		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	荒巻 恵子		
学年	2年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作家あるいは編纂家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する		

◆授業目標◆

これからの社会を担う生徒たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに、生徒に情報通信能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。(2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付いている。(3)情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。(4)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。(5)生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法が身に付いている。※教員免許法で定められた「教育の方法及び技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

第1回:ガイダンス、「義務教育」概念の基本的転換と教育方法

第2回:「子ども中心」と「学問中心」の教育方法

第3回:主体的・対話的で深い学びの実現と教育方法

第4回:多様性社会に向けた教育方法

第5回:教育目標と教育評価

(2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。

第6回:教育対話の基本と指導技術

第7回:個別最適な学びと協働的な学びにおける指導技術

(3)情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。

第8回:学習形態の違いと学習効果／eラーニングとは何か

第9回:情報社会における法(著作権法・個人情報保護法)

第10回:子どもの発達と教材・教具、情報通信技術の活用

(4)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。

第11回:デジタルコンテンツを活用した授業を考える①

第12回:デジタルコンテンツを活用した授業を考える②

(5)生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける

第13回:情報社会の光と影、情報モラル

第14回:情報社会における健康生活／ネット依存症

第15回:教育方法論のまとめ

◆準備学習の内容◆

準備学習の内容

- ・受講生自身が受けてきた学校教育課程の中で、情報通信技術を活用した授業の実際を思い出し、記述しながら、それらを相対化客体化しながら、教育方法の理論と実際を考えます。
- ・毎回、小グループによる話し合いがあるため、日ごろから教育課題への資料や文献に触れること、テーマによっては事前に調べ学習による準備学習30分程度課されます。

◆成績評価の方法◆

- ・毎回の授業内レポート(30%)第10回のオンライン授業前に返却します。
- ・中間での成果物の発表(30%)評価については授業内講義で取り上げます。
- ・期末での最終レポート課題 2000文字程度(40%)オンライン授業時にオンライン上に提出いただき、最終課題の評価後の返却はありません。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・『インクルージョンとは何か?』(日本標準)(配布)

◆参考図書◆

- ・『新しい時代の教育課程』田中 耕治ほか(第4版 有斐閣)
- ・『新しい時代の教育方法』田中 耕治ほか(改訂版 有斐閣)
- ・『教育方法論』佐藤学(岩波書店)
- ・『教師をめざす学生のための教育情報リテラシー15日間(パート3)』教育情報テキスト研究チーム、荒巻恵子ほか(現代図書)

◆留意事項◆

オンライン授業があります。授業内の指示に従ってください。

ナンバリング	TTL020N		
科目名	特別支援教育		
科目詳細	全クラス共通シラバス		
担当教員	山本 智子		
学年	1年	クラス	
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した天竺桂歌がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として 指導する		

◆授業目標◆

特別な支援を必要とする生徒の学習上または生活上の困難について説明できる。 個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について説明できる。※教員免許法で定められた「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応した科目である。

◆授業内容・計画◆

授業内容

- 特別な支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達を学習する。
- 特別な支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法を学習する。
- 特別な教育的ニーズのある生徒の学習上または生活上の困難とその対応を学習する。

授業計画

- 第1回:ガイダンス
- 第2回:特別支援教育の基礎1:背景、考え方、制度、条件整備
- 第3回:特別支援教育の基礎2:対象になる生徒、就学の過程
- 第4回:特別支援教育の基礎3:教育課程、個別計画
- 第5回:特別支援教育の基礎4:訪問教育、相談支援
- 第6回:特別支援教育の基礎5:歴史
- 第7回:特別支援学校1:教育目標、方針、内容、配慮事項
- 第8回:特別支援学校2:教育課程、個別計画、交流・共同学習、自立活動、コーディネーター、センター的機能
- 第9回:障害の種別に応じた教育1:視覚障害、聴覚障害、言語障害
- 第10回:障害の種別に応じた教育2:知的障害
- 第11回:障害の種別に応じた教育3:肢体不自由
- 第12回:障害の種別に応じた教育4:病弱・身体虚弱、重複障害
- 第13回:障害の種別に応じた教育5:発達障害
- 第14回:障害のある子どものアセスメント:検査、教育方法
- 第15回:まとめと評価

◆準備学習の内容◆

復習を中心に学習に取り組んで下さい。主体的な学習を支援するために課題を課すことがあります。(目安2時間)

◆成績評価の方法◆

学期末試験(50%)、課題(30%)、平常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価します。
課題を課した場合、授業内でフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

『特別支援教育 講義ノート』山本智子(開成出版)

◆参考図書◆

- 文部科学省『特別支援学校学習指導要領等(平成29年4月公示・平成31年2月公示)』Web Page.
- 「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所」Web Page.
- 『特別支援教育の基礎・基本』独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(ジ・アース教育新社)2020.
- 『インクルーシブ教育ハンドブック』ラニ・フロリアン原著 倉石一郎他翻訳・監修(北大路書房)2023.
- 『発達障害白書2025年版』日本発達障害連盟編(明石書店)2024.
- 『医療福祉マネジメント概論』山本智子(北樹出版)2024.
- 『特別支援教育[特集]自立活動の指導の充実』文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集(東洋館出版社)2024・9.
- その他参考図書について必要に応じて授業内で案内します。

◆留意事項◆

特別支援教育の学習は、特別な支援を必要とする子どもの理解から始まります。ボランティアやインターンシップ等を通して、病気や障害のある子ども、外国にルーツのある子ども、経済的な支援を必要とする子ども等と定期的に交流する機会をもって下さい。

ナンバリング	CTL001N		
科目名	博物館概論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	濱崎 好治		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは作家として活動した美術家がある教員が、絵画や彫刻などの美術の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

博物館の多様なジャンルと世界を探ります。歴史、役割、具体的な活動の事例から課題までを理解する。

◆授業内容・計画◆

- 1.博物館のイメージ、設立の趣旨と種類
- 2.学芸員の役割、数、採用、美術館の役割と展示室
- 3.収蔵品と保存科学・バックヤード・災害対策
- 4.企業ミュージアムとその役割 有形文化財と無形文化財、複製物
- 5.独立行政法人、収蔵品、体系的なコレクション
- 6.博物館の事例 民族、歴史、美術
- 7.公募展、新聞社主催の企画展
- 8.博物館・美術館の建築物、写真、映画フィルムの保存
- 9.大学博物館のあり方
- 10.博物館の関係法令、文化財の登録、保存
- 11.複製と価値、複製画
- 12.収蔵品のデータベース、デジタルアーカイブ
- 13.教育普及の仕事、美術館のワークショップ
- 14.子どものための美術館
- 15.博物館概論のまとめと今後の課題

◆準備学習の内容◆

博物館、美術館のホームページを見て、設立の目的、ミッションについて調べて下さい。

◆成績評価の方法◆

授業に取り組む姿勢、レポートの提出、授業内でのコメント、レポート等への講評によりフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

オンラインの場合はパワーポイントの教材を配信します。

◆参考図書◆

随時、参考文献、URLを紹介していきます。

◆留意事項◆

音楽を専門とし、さらに美術(西洋美術・日本美術・現代美術)を学ぶ学芸員はそれほど多くはいません。好奇心を高め、幅広い分野で調査、研究、収集、保存、修復、公開する役割を果たし、地域や学校と連携しながら活動を広げていくことが学芸員の仕事です。知的好奇心を高め、博物館、美術館のホームページを見るようにして下さい。

ナンバリング	CTL002N		
科目名	博物館経営論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内国外において作品をめぐるいは輪画家などとして活動した美術作家がある教員が、絵画や彫刻などの自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

ミュージアムの形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、ミュージアム・マネージメント(博物館経営)に関する基礎的能力を養う。ミュージアム・マネージメントの方法論を習得する。

◆授業内容・計画◆

ミュージアム・マネージメントは、どのように行われるべきなのか。まず、これまでのミュージアム・マネージメントを検討し、次に、実際のミュージアム・マネージメントを鑑みることで、ミュージアム・マネージメントの定義や制度、必要な方法論を学ぶ。そして、ミュージアム・マネージメントの柱とも言える展覧会マネージメントにおいて、いかなる企画立案と実際の運営が求められているか、考察する。また、マーケティングの方法などの役割についても取りあげる。さらに、ミュージアムにおけるネットワークの構築として、地域住民や他機関との連携などについても解説する。最新の情報を盛り込みながら進める。

1. ミュージアム・マネージメントとは 歴史をめぐって
2. ミュージアムの経営基盤(1) 行財政制度 文化政策の視点も交えて
3. ミュージアムの経営基盤(2) 危機管理
4. ミュージアムの経営基盤(3) 施設 建築
5. ミュージアムの経営基盤(4) 組織 学芸員人事
6. ミュージアム・マネージメント(1) さまざまな展覧会をめぐって(1)
7. ミュージアム・マネージメント(2) さまざまな展覧会をめぐって(2)
8. ミュージアム・マネージメント(3) イベント ミュージアム・コンサート
9. ミュージアム・マネージメント(4) アミューズメントの側面
10. ミュージアム・マネージメント(5) 企業ミュージアム
11. 普及活動(1) 大学ミュージアム
12. 普及活動(2) モバイル・ミュージアム
13. 普及活動(3) ギャラリー・トークとハンズ・オン
14. ネットワークの構築 他機関(行政・大学等)との連携、市民参加の形態(友の会、ボランティア等)、博物館相互の連携など。
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

本講義の準備学習として、参考図書などの関連する文献を読み、ミュージアム・マネージメントに関する理念や方法等についての予備知識を、事前に身につけておくことが望ましい。ミュージアムに足を向け、ミュージアム・マネージメントについての自己の見解を明らかにしておく。

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組み、レポートなどについて適宜講評しつつ総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。

◆参考図書◆

佐藤道信『美術のアイデンティティー』吉川弘文館、2007年。松宮秀治『ミュージアムの思想』白水社、2009年。石田佐恵子他『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房、2013年。金子伸二・杉浦幸子編『ミューゼオロジーの展開』武蔵野美術大学出版局、2016年。他に、授業の中で必要に応じて紹介する。

◆留意事項◆

資格取得のために必要な知識と実践力を身につけるために、日々研鑽を積み、毎回の授業では積極的に学習してほしい。

ナンバリング	CTL003N		
科目名	博物館資料論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	佐々木 優		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した美術性豊かな教員が、絵画や彫刻などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

博物館資料の分類や収集・保存・管理・活用の仕方を学び、その意義や方法、重要性を理解し、基本的な考え方や知識を習得することができる。本講義では、博物館実習に向けた実践的な能力を身につけることができる。そのため、博物館資料各分野における基礎的な術語や概略・歴史等について説明できるようなり、博物館資料への意見を述べられるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 1.シラバスの確認:博物館資料論では何を学ぶのか
- 2.展示における資料とは何か
- 3.博物館資料と修復
- 4.博物館資料としての歴史資料
- 5.博物館資料としての民俗資料
- 6.博物館資料としての考古資料
- 7.博物館資料としての絵画資料
- 8.博物館資料としての浮世絵資料
- 9.博物館資料としての写真資料
- 10.博物館資料としての楽器資料
- 11.地域博物館と博物館資料
- 12.博物館資料の収集と資料化への過程
- 13.博物館資料とデータベース
- 14.博物館資料の活用
15. まとめ:博物館資料とは何か

◆準備学習の内容◆

各回の講義内容は授業計画の通りだが、時間の関係で前後する場合がある。
講義参加にあたっては、事前に配布する教材に目を通しておくことを期待する。事前・事後あわせて各回あたり約4時間程度の自己学習を想定している。

◆成績評価の方法◆

期末レポートおよび講義ごとのリアクションペーパーの提出(文字数自由)によって総合的に評価する。
必要があれば翌週の授業にてリアクションペーパーのフィードバックを行う。
レポートおよびリアクションペーパーにおいては、自ら課題を発見し、意見を論理的に述べられているかを重視する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを使用する。

◆参考図書◆

伊藤寿朗『市民のなかの博物館』(吉川弘文館、1993年) 君塚仁彦・名児耶明編『現代に生きる博物館』(有斐閣、2012年)等。そのほか、図書館の学芸員課程コーナーに配架される資料を積極的に活用することを期待する。

◆留意事項◆

- ・博物館資料の特質を学ぶため博物館見学を行う場合がある。見学場所等の詳細は講義内で通知する。
- ・資料の配布・課題提出等にはGoogle class roomを活用する予定である。

ナンバリング	CTL401N		
科目名	博物館資料保存論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	佐々木 優		
学年	1年3年	クラス	01
講義室	5-302	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは作家として活動した美術作家がある教員が、絵画や彫刻などの美術の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

博物館の資料保存および保存環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で維持・保存していくための知識を養う。また、一定の基本的な知識を身につけることができるため、博物館資料およびその保存環境に関して自分なりの意見を持てるようになる。

◆授業内容・計画◆

- 1.シラバスの確認:博物館資料論では何を学ぶのか
- 2.保存環境整備の重要性
- 3.温湿度管理の基礎知識
- 4.光と照明①博物館資料にとっての光とはどういうものか
- 5.光と照明②光による劣化とその対策
- 6.文化財の生物被害:虫害とカビを中心に
- 7.伝統的保存方法(曝涼)と資料点検
- 8.文化財IPMと博物館資料管理①理念
- 9.文化財IPMと博物館資料管理②博物館での実践例
- 10.資料の現状把握と劣化調査方法
- 11.資料の梱包方法を考える
- 12.博物館におけるリスクマネジメントを学ぶ:防災・防犯の視点から
- 13.博物館資料と災害:資料レスキューを中心に
- 14.エコミュージアムについて
- 15.学期のまとめ:博物館資料保存論の意義を理解する

◆準備学習の内容◆

各回の講義内容は授業計画の通りだが、時間の関係で前後する場合がある。
講義参加にあたっては、事前に配布する教材に目を通しておくことを期待する。事前・事後あわせて各回あたり約4時間程度の自己学習を想定している。

◆成績評価の方法◆

期末レポートおよび講義ごとのリアクションペーパーの提出(文字数自由)によって総合的に評価する。
必要があれば翌週の授業にてリアクションペーパーのフィードバックを行う。
レポートおよびリアクションペーパーにおいては、自ら課題を発見し、論理的に意見が述べられているかを重視する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。適宜プリントを使用する。

◆参考図書◆

東京文化財研究所編『文化財保存の環境』(中央公論美術出版、2011年)等。そのほか、図書館の学芸員課程コーナーに配架される資料を積極的に活用することを期待する。

◆留意事項◆

- ・博物館資料の特質を学ぶため博物館見学を行う場合がある。見学場所等の詳細は講義内で通知する。
- ・資料の配布・課題提出等にはGoogle class roomを活用する予定である。

ナンバリング	CTL402N		
科目名	博物館展示論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	濱崎 好治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-208	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	2単位
備考	国内国外において作家あるいは作家として活動した実物性豊かな教員が、絵画や彫刻などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

展示とは、見る人の興味を引きつけ、感動を与え、展示物と展示空間の意味を理解してもらう技術です。博物館、美術館における展示の種類と展示技法に関する具体的な事例を示します。資料と作品等の最適な展示方法の基礎知識を身につけます。展示に反映させるコンセプトとメッセージ性について考え、企画展の組立て方を理解します。

◆授業内容・計画◆

- 1.博物館及び美術館、野外等で展示する目的と評価
- 2.現地保存と移築保存
- 3.野外展示される彫刻
- 4.負の遺産、国内外の戦争の展示
- 5.展示の目的、設備と維持管理、展示の事例
- 6.展示場所、展示の種類、期間、展示動線
- 7.身近な生活の再現展示、企画の立て方
- 8.収蔵品のデジタル化と展示
- 9.デジタル技術を使った見せ方
- 10.海外の展示の事例
- 11.国内の展示の事例
- 12.地域の美術館、博物館の展示
- 13.体験型の展示とび美術館以外での展示
- 14.デジタル技術の可能性、対話型鑑賞
- 14.展示の計画と広報活動
- 15まとめ、企画展の事例

◆準備学習の内容◆

企画展のチラシを集めて下さい。

◆成績評価の方法◆

授業に取り組む姿勢、レポートの提出、授業内でのコメント、レポート等への講評によりフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

オンライン授業の場合はパワーポイントの教材を配信します。

◆参考図書◆

参考文献、URLを紹介していきます。

◆留意事項◆

実物の展示、複製物、映像やVR等、デジタル技術を使った展示の演出効果に興味を持って下さい。日頃から展覧会を見て下さい。どのように展示されているか、配置や照明等を観察して下さい。

ナンバリング	CTL004N		
科目名	博物館教育論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	池尻 豪介		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは作家として活動した美術経験がある教員が、各自や他者としての自らの実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

博物館教育に関する知識や方法を、様々な具体的実践事例の紹介を通じて習得し、博物館教育の現代的意義や課題について考え、博物館活動を推進する資質、能力を育成することを目標とします。

◆授業内容・計画◆

- 1.ガイダンスー博物館教育とはなにか
- 2.広報物からみる博物館の教育活動(教材を用いたワーク)
- 3.地域社会と博物館教育
- 4.学校教育と博物館教育
- 5.来館者の裾野を広げる取り組み①様々な来館者層
- 6.フィールドワーク① 世田谷美術館の施設見学
- 7.フィールドワーク② 世田谷美術館の展覧会見学
- 8.フィールドワーク③ 世田谷美術館の鑑賞プログラム体験
- 9.フィールドワーク④ 世田谷美術館の施設の特徴を活かしたプログラム体験
- 10.美術館とボランティア
- 11.動物園の仕事
- 12.地域自然をあつかう博物館
- 13.来館者の裾野を広げる取り組み②アクセスプログラム
- 14.現代社会と博物館教育
- 15.まとめ・相互討論

◆準備学習の内容◆

準備学習として、社会教育・生涯学習関連の本を読み進めておくことが望ましい。また本講義では、博物館におけるさまざまな教育活動を取り上げるため、講義と並行して、各自、興味のある博物館・美術館等に足を運び、教育普及活動に関する資料収集や、実際に活動に参加してみるなどの取り組みを行うことが望ましい。

◆成績評価の方法◆

講義およびフィールドワークへの参加姿勢、その際に作成してもらう小レポートの内容を適宜講評し、最終の筆記試験の成績を加味して総合的に評価します。

◆教科書(使用テキスト)◆

君塚仁彦・名児耶明『現代に生きる博物館』有斐閣、2012年

◆参考図書◆

寺島洋子他『博物館教育論』、放送大学教育振興会、2012年

◆留意事項◆

本授業は、学芸員資格取得のための法令科目であるため参加姿勢を特に重視します。集中講義期間中の1日を世田谷美術館におけるフィールドワークにあてますので、自主的かつ積極的な学習姿勢が望まれます。

ナンバリング	CTL005N		
科目名	博物館情報・メディア論		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	河原 啓子		
学年	1年,2年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考	国内において作家あるいは漫画家などとして活動した美術性豊かな教員が、絵画や彫刻などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

ミュージアムにおける情報の意義と活用方法、および情報発信の課題等について理解し、ミュージアムの情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。ミュージアムをメディアとして認識し、情報の授受に関する知識を増大させる。

◆授業内容・計画◆

本講義は、メディアそのものについての理解を深め、ミュージアムがどのようなメディアなのかを考える。次に、ミュージアムにおける映像、インターネットなどのメディアの活用法やITの利用について吟味する。ミュージアムが情報の集積体であることを、情報論およびメディア論の観点から学び、具体的な情報化と意義、活用について理解する。さまざまなミュージアムの事例を提示し、コンテンツにも目を向け解説する。マス・メディアとミュージアムとの関わりについても解説する。最新の情報を盛り込みながら進める。

- 1.メディアとしてのミュージアム 国際博物館会議(ICOM)の博物館概念の変遷を参照しながら
- 2.日本におけるメディアとしてのミュージアム 見世物、御開帳などを考慮しながら
- 3.マス・メディア社会のミュージアム 情報伝達システムと複製技術の連動 ミュージアム・グッズも検討
- 4.展示は何を伝えるか(1)欧米のミュージアム フロアプランを検討
- 5.展示は何を伝えるか(2)日本のミュージアム
- 6.コミュニケーション・メディアとしてのミュージアム 展示プランニングの実践を交えて。
- 7.ミュージアムにおける情報化(1)カタログ、機関紙
- 8.ミュージアムにおける情報化(2)映像 インターネット IT
- 9.ミュージアムにおける情報化(3)デジタル・アーカイブ
- 10.コンテンツの形成(1)コンテンツ・ビジネスの可能性
- 11.コンテンツの形成(2)コレクションの意義と活用 国公立、私立、行政ミュージアムなど。
- 12.メディア・イベントの展覧会(1)マス・メディアが主催する展覧会の系譜
- 13.メディア・イベントの展覧会(2)メディア・イベントの意義
14. マス・メディア社会のミュージアム
15. まとめと評価

◆準備学習の内容◆

本講義の準備学習として、参考図書などの関連する文献を読み、予備知識を事前に身につけておくことが望ましい。実際に、ミュージアムに足を向け、考察を深化させてほしい。

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組み、発表について適宜講評しつつ、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教科書は使用しない。必要に応じて、プリントを配布する。

◆参考図書◆

佐藤道信『美術のアイデンティティー』吉川弘文館、2007年。松宮秀治『ミュージアムの思想』白水社、2009年。石田佐恵子他『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルヴァ書房、2013年。金子伸二・杉浦幸子編『ミュゼオロジーの展開』武蔵野美術大学出版局、2016年。他に、授業の中で必要に応じて紹介する。

◆留意事項◆

資格取得のために必要な知識と実践力を身につけるために、日々研鑽を積み、毎回の授業では積極的に学習してほしい。

ナンバリング	CTL403N		
科目名	博物館実習 I		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	濱崎 好治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内国外において作家あるいは作家として活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

博物館の現場、実務を紹介し、学芸員の仕事に必要な基礎的な知識を身につけます。オンライン授業の場合は教材を配信します。

◆授業内容・計画◆

- 1.博物館実習の意義 博物館、美術館の説明
実習する事前準備・自己紹介など。
 - 2.博物館、美術館を調べる方法と事例 学芸員の倫理、服務、規定等の解説
 - 3.博物館、美術館の新しい活動の事例 見学実習：見学
 - 4.展示の工夫を調べる 見学実習：見学
 - 5.海外の美術館の活動 見学実習：(バックヤード見学)
 - 6.博物館の収蔵庫とコレクション 見学実習の報告
 - 7.動物園・水族館の展示と役割 実務実習の計画
 - 8.展覧会とチラシ、解説 実務実習での下調べ
 - 9.展覧会の事例 実務実習：楽器学資料館バックヤード見学
 - 10テーマパーク型のミュージアム 実務実習：楽器学資料館における実習①展示室ガイド研修
 - 11大学博物館の展示と活動 実務実習：楽器学資料館における実習②展示室ガイドテキスト作成.
 - 12絵画作品の解説事例 実務実習：楽器学資料館における実習③展示室ガイド実習 前半
 - 13楽器、音楽の博物館の事例 実務実習：楽器学資料館における実習④展示室ガイド実習 後半
 - 14ネットで調べた展覧会 実務実習：楽器学資料館における実習⑤展示解説の整備
 - 15まとめ
- オンラインでの授業の場合は、実務実習はネットの教材で行います。

◆準備学習の内容◆

自然史、科学館、美術館、歴史博物館等、特徴の異なるタイプの博物館に行って、常設展、企画展を鑑賞することは、教養、美的感性を養うことになります。<https://www.museum.or.jp/> インターネットミュージアムにアクセスして、まだ知らない博物館、美術館のコレクションや活動を調べて下さい。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、レポートで評価します。レポートはフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

オンライン授業の場合は、パワーポイントの教材を配信します。

◆参考図書◆

参考文献、URLを紹介していきます。

◆留意事項◆

学芸員の実務は、コミュニケーション能力が求められます。日頃から、やり方や手順をノートに書くようにして下さい。

ナンバリング	CTL404N		
科目名	博物館実習Ⅱ		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	濱崎 好治		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-207	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考	国内外において作家あるいは編纂家などとして活動した実務経験がある教員が、聴目や視覚などの本来の実践的な基礎力の養成を目的として指導する。		

◆授業目標◆

多様な博物館、美術館等の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力を養います。

◆授業内容・計画◆

- 1.講義—対話型鑑賞について
- 2.言葉の習得と記憶
- 3.ギャラリートークの事例
- 4.収蔵品の搬入・受け入れ手続き
- 5.収蔵品の取扱い方の
- 6.作品の評価(西洋美術の歴史と技法と評価)
- 7.2次資料の作成・ドキュメンテーション
- 8.解説の方法・絵画の主題と構図
- 9.デジタル化作業の事例(実物とデジタル画像の活用)
- 10.資料管理と情報処理の事例

11.国内外の展示の事例(企画の立て方)

12.参加型の展示の事例

13.デジタル技術と展示の事例

14.学び方、目的と目標、デジタル教科書

◆準備学習の内容◆

授業内容・計画の数字は予定です。順序を入れ替えることもあります。

◆成績評価の方法◆

実習の取り込み、展示企画の作成等の提出物により評価します。授業内でのコメントや展示企画の作成物等への講評によりフィードバックします。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、資料等を配布。オンライン授業の場合は、パワーポイントの画像で講義します。

◆参考図書◆

参考文献、URLを紹介していきます。

◆留意事項◆

博物館、美術館等の広範囲な活動に興味をもって、展示、イベント、ワークショップのアイディアを出して下さい。

ナンバリング	CTL405N		
科目名	博物館実習Ⅲ		
科目詳細	学芸員必修		
担当教員	三浦 雅展		
学年	1年,4年	クラス	01
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	土2	単位数	1単位
備考	国内国外において作家あるいは作家として活動した実務経験がある教員が、絵画や彫塑などの目録の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。		

◆授業目標◆

見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通し、多様な館種の実体や学芸員の業務を理解し、実践的な能力を身につけることができる。

◆授業内容・計画◆

館園実習として、学外博物館において実務実習を行なうための準備と実習本体により構成される。実習内容を「学外実習報告会」にて発表するための報告書の執筆指導、および発表会での発表を含む。

- 第1回 ガイダンス:オリエンテーションおよび実習事前指導①
- 第2回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習1日目
- 第3回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習2日目
- 第4回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習3日目
- 第5回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習4日目
- 第6回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習5日目
- 第7回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習6日目
- 第8回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習7日目
- 第9回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習8日目
- 第10回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習9日目
- 第11回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習10日目
- 第12回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習11日目
- 第13回 各受講生の受け入れ先の博物館における実務実習12日目
- 第14回 実習報告:館務体験の報告と、それに基づくグループディスカッション
- 第15回 博物館実習会での発表、年報に掲載する報告書の提出と総括

※体験日数は各施設により異なる。

◆準備学習の内容◆

これまで学んできたことを踏まえた実地研修であり、既に習得したことを復習した上で、館園実習を行なう施設について各自が十二分に調査および研究し、実習に備える必要がある。

◆成績評価の方法◆

館園実習に関する実習日誌とレポートの提出、最終報告会前の年報用報告書の執筆指導、および博物館実習報告会での発表とグループディスカッションによって総合的に評価する。
適宜授業内でフィードバックする。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

授業内容に沿って、必要に応じて紹介する。

◆留意事項◆

館園実習は一般の利用者が訪れる場をお借りして行なうものであり、受講生にとっては実習であっても、利用者にとっては館園関係者と見なされることを常に意識し、良識ある行動と言動をとれるよう、心がけてほしい。

ナンバリング			
科目名	教科研究（邦楽歌唱・和楽器）		
科目詳細			
担当教員	花岡 操聖		
学年		クラス	
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連：1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

邦楽が学校教育のカリキュラムに取り入れられるようになり、重要視されている。これは教育現場に立つ教員にとっても、邦楽に対する知識や経験が必要不可欠となっているという事である。邦楽に初めて接する小・中学生や高校生に対して、歴史や奏法を正しく指導する力を持ち、楽器の取扱方や箏において最も重要な調絃方法を修得。また、邦楽歌唱を取り組むことにより、日本語を美しく発する伝統的な歌い方を実践。箏を通して日本の音階に親しむことにより、邦楽全体を身近に感じ興味を持つことを目指す。

◆授業内容・計画◆

履修生の習熟度等に応じて、適宜授業内容を変更することがあります。

- 1.ガイダンス(全員)
- 2.講師による模範演奏
- 3.箏:「さくら」
歌:「万歳」楽曲解説・楽譜の読み方
- 4.箏:調絃の取り方(平調子)
歌:「万歳」(P1～2)
- 5.箏:右手を中心とした基本奏法
歌:「万歳」(P3～4)
- 6.箏:左手を用いた基本奏法
歌:「万歳」(P5～6)
- 7.箏:両手を用いた基本奏法
歌:「万歳」(P7～8)
- 8.箏:『日本のわらべうたによる十二月曲集』より「かごめかごめ」
歌:「万歳」(P9～10)
- 9.箏:『日本のわらべうたによる十二月曲集』より「ゆきやこんこ」
歌:「万歳」(P11～13)
- 10.箏:「六段の調」初段
歌:「万歳」仕上げ
- 11.「六段の調」初段
歌:「新娘道成寺」冒頭
- 12.箏:「六段の調」仕上げ
歌:「新娘道成寺」冒頭仕上げ
- 13.箏:「かごめかごめ」「ゆきやこんこ」仕上げ
歌:「万歳」仕上げ
- 14.演奏発表(全員)
- 15.まとめと評価

◆準備学習の内容◆

毎日の復習(30分)を必須とする。

◆成績評価の方法◆

授業への取り組みを評価し、適宜講評する。
最終日の演奏発表の内容により加点の可能性あり(減点無し)

◆教科書(使用テキスト)◆

プリントにて配布

◆参考図書◆

特になし

◆留意事項◆

- ・箏爪の購入
※初日授業時までには売店にて、必ず購入すること。
- ※貸し借りはせず、必ず個人所有のこと。
- ・短期間で箏の知識と実技を修得する事が目標なので、欠席・遅刻・早退厳禁。(実技レッスンも認めません)

ナンバリング			
科目名	教科研究(邦楽歌唱・和楽器)		
科目詳細			
担当教員	山田 寛		
学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	集中	単位数	2単位
備考	国内外において作曲家あるいは編曲家などとして活動した実務経験がある教員が、聴音や視唱などの音楽の実践的な基礎力の養成を目的として、指導する。 ディプロマポリシーとの関連:1,4,6 1. 現代・過去の音楽、文化、社会に対して多面的な関心を持ち、生涯にわたって、自主的かつ自律的に学修することができる/2. 音楽のみならず文化や社会について幅広い知識を身につけている/3. 音楽の世界を多		

◆授業目標◆

日本音楽を理解することは、日本音楽固有の様式を知ることである。そのためには、いわゆる西洋音楽との違いを体験することが最も近道であるとする。特に日本音楽の場合は、演奏体験によってその魅力の気付きを得ることが多いので、長唄と長唄囃子における能管を通して日本音楽の様式を考えることができる。実際、舞台で使われている楽器の生音を身近に聞き、楽器の特性を知ることができる。音楽教育に日本古来の音楽を取り上げるにあたり、何が大切かを考えることができる。

◆授業内容・計画◆

- ①長唄とは何か。能管とはどのような楽器か。
- ②使用する譜面の説明と長唄「供奴」の解説
- ③「供奴」実習唄「仕て来いな～見はぐるまいぞや合点だ迄・能管の構え方、音の出し方
- ④「供奴」実習唄「振って消しやるな～出しやしよない迄・能管手組の話と狂言羯鼓
- ⑤「供奴」実習唄「ひびやあかがり～駆けつける迄・能管晒しと唐楽
- ⑥三味線の解説と篠笛と能管の違い
- ⑦「供奴」実習唄「おんらが～お草履取ってそれさこれさ迄・能管ヲロシ～「伊達に着なしたやつこらさ迄
- ⑧歌舞伎舞踊「供奴」の映像観賞と歌舞伎について
- ⑨「供奴」実習唄「小気味よいよい～華麗な出で立ち迄・能管岩戸～「かかさぬ正直迄
- ⑩「供奴」実習唄「見染め～石突き迄・能管「正道者(片車切)～「息をきってぞ(半上げ)迄
- ⑪「供奴」実習唄「こりゃこりゃ～行き過ぎる迄・能管「隠れないない(アバレ)～「出で立ち迄
- ⑫音楽教育における日本伝統音楽を考える(実践授業の映像観賞)
- ⑬「供奴」実習唄「おはもじ～「したぶしに迄・能管「こりゃこりゃ(狂言羯鼓)～段切迄
- ⑭「供奴」実習唄「あままよ～「露の化粧の初桜迄・能管通し稽古
- ⑮まとめとしてプロフェッショナル演奏家との共演と演奏家の実演観賞

◆準備学習の内容◆

その日に学習した唄の歌詞を二回音読することと能管の唱歌を二度口ずさむ。目安15分
手本として演奏された音を録音し、一度聴く。目安15分

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みをもとに、適宜講評しつつ総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

- ・プラスチック能管
- ・『教材・長唄囃子 能管』著者:福原寛
- ・長唄のテキストは当日配付

◆参考図書◆

『日本音楽ことはじめ』山田隆著(有限会社日音)

◆留意事項◆